

千歳市

オ ル イ カ 2 遺 跡 (2)

一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 17 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

オルイカ2遺跡
(2)

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書
第221集

平成17年度

千歳市

オ ル イ カ 2 遺 跡 (2)

一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 17 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 . 平地住居跡 8 [USD - 8]



2 . 平地住居跡 8 の炉 1 [fp 1]



3 . 同焼土部分



4 . 同断面



5 . 平地住居跡 8 の炉 2 [fp 2]

口絵 2



1 . 平地住居跡 9 [USD - 9]



2 . 平地住居跡 9 の炉 1 [fp 1]



3 . 古銭出土状況



4 . 柱穴 [ph 4]



5 . 柱穴 [ph 8]



6 . 柱穴 [ph17]



7 . 柱穴 [ph21]



1 . 焼土断面〔UFP - 33〕



2 . 骨片出土状況〔UFP - 33〕



3 . 焼土断面〔UFP - 34〕



4 . 骨片出土状況〔UFP - 34〕



5 . カワシンジュガイ集中〔UKS - 4〕

口絵 4



1 . 焼土群 4 [UFP - 6 ~ 8]



2 . 骨片出土状況 [UFP - 6]



3 . 鉄製品出土状況 [UFP - 9]



4 . 漆製品片出土状況 [UFP - 14]



5 . 骨片出土状況 [UFP - 7]



1 . 竪穴住居跡 6 調査状況 [LPD - 6]



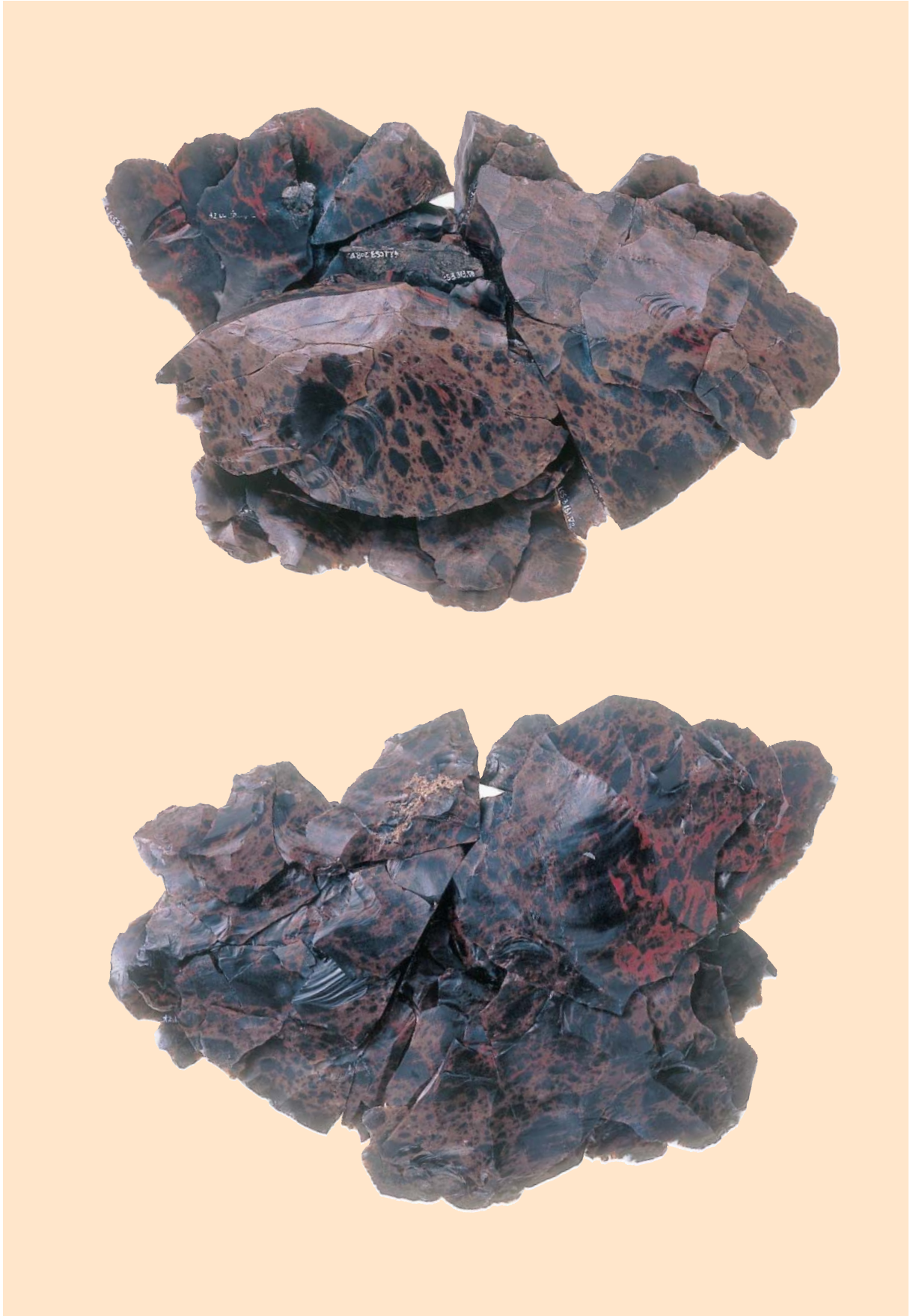
2 . 焼土列 1



1 . 旧石器ブロック検出〔LCS - 2・4〕



2 . 旧石器ブロック検出〔LCS - 3〕



1 . 旧石器接合資料 (母岩13・接合46)

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部が行う国道337号新千歳空港関連工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成16(2004)年度に発掘調査を実施した千歳市オリイカ2遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。当遺跡は、平成14(2002)年度にも当財団が発掘調査を行い、報告書を刊行している(北埋調報189集『千歳市オリイカ2遺跡』)。本書は、その第2回目となる発掘調査の報告書である。
2. 調査は、第1調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、Ⅶ章を除いて三浦正人、阿部明義、広田良成が行い、編集は阿部(Ⅵ章は広田)が行った。文責者について、文末に丸括弧「()」で氏名を記してある。
4. 整理作業の担当は、遺構が調査担当の調査員、土器・土製品が阿部、石器・石製品が広田、フローテーション試料・自然遺物その他が阿部である。旧石器遺物の整理作業に際しては第1調査部第3調査課鈴木宏行・直江康雄の助言・協力を得た。鉄製品の保存処理は、第1調査部第1調査課田口尚が担当した。なお、千歳市チブニー1遺跡、オリイカ1遺跡の保存処理後の鉄製品について、第2調査部第2調査課富永勝也が記述している(Ⅱ章)。
5. 現場の写真撮影は各遺構担当調査員が行った。遺物の写真撮影は、菊池慈人が行った。
6. 自然科学的手法による分析・鑑定について、以下の各機関・各氏に依頼・委託した。
放射性炭素¹⁴C年代測定・炭化材樹種同定：(株)パレオ・ラボ
植物種子同定：札幌国際大学 椿坂恭代氏
黒曜石原産地分析・黒曜石水和層分析：(有)遺物分析研究所
なお、植物種子同定の一次分類は清水和子が行った。
7. 動物遺存体の同定は佐藤寿子が行った。同定にあたって、第1調査部第2調査課土肥研晶の協力を得た。
8. 石器などの石材鑑定は、広田が行った。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および人々の指導、ご協力をいただいた(順不同・敬称略)。
北海道教育庁生涯学習部文化課、
北海道開拓記念館 平川善祥・山田悟郎・小林幸雄・小林孝二・右代啓視・鈴木琢也、
千歳市 大谷敏三、千歳市教育委員会 田村俊之・豊田宏良・松田淳子、
恵庭市教育委員会 上屋真一・松谷純一・森秀之・長町章弘、
札幌市教育委員会 上野秀一・仙庭伸久・出穂雅実、
平取町教育委員会 森岡健治・長田佳宏、厚真町教育委員会 乾哲也・小野哲也・奈良智法、
今金町教育委員会 寺崎康史・宮本雅通、帯広百年記念館 北澤実・山原敏朗・熊林佑允、
北海道大学 高倉純・加藤博文・赤井文人・松田宏介、
札幌大学 木村英明・山田和史・斉藤譲一、札幌国際大学 椿坂恭代・長崎潤一、
(財)岩手県文化振興財団埋蔵文化財センター 米田寛、
(財)山形県埋蔵文化財センター 水戸部秀樹、
東京大学 山田哲、帝京大学 阿部朝衛、明治大学 金成太郎、岡山大学 稲田孝司、
東京国立博物館 金子浩昌、(財)北海道北方博物館交流協会 野村崇、
大沼忠春、和泉田毅、井川嘉博、中沢祐一

記号等の説明

1. 遺構は以下の記号の組み合わせによって表記し、原則として発掘調査順に番号および記号を付した。なお、遺構の記号は北埋調報188集『オルイカ1遺跡』で提唱された記号にならった。

層界	「U」：樽前c火山灰より上層の遺構	「L」：樽前c火山灰より下層の遺構
遺構	「SD」(surface dwelling)：平地住居	「PD」(pit dwelling)：竪穴住居
	「SB」(surface building)：建物	「SL」：杭列
	「PI」(pit)：土坑	「TP」(trap pit)：Tピット
	「PH」(post hole)：柱穴	「D」(ditch)：溝
	「FP」(fire place)：焼土	

住居等の遺構内で確認された遺構(付属遺構)は小文字で表記する。

例：樽前cより上層の平地住居8の柱穴15.....「USD8 - ph15」

遺物集中等	「CP」(concentration of potsherds)：土器集中
	「CS」(concentration of stones)：石器集中
	「FC」(concentration of flakes and chips)：フレイクチップ集中
	「S」：(stone) 礫集中
	「N」：粘土集中

2. 遺構図にはグリッド線に従って、方位記号を付したのものがある。方位は真北を示す。発掘区の基線(北東-南西、Iライン)は真北に対して東偏36度40分、磁北に対して東偏45度30分である。レベルは標高(単位m)を示す。
3. 遺構の規模は、「確認面での長軸×短軸/厚さ(深さ)」の順で記した。一部破壊されているものや不明確なものについては、現存長を「()」で、不明のものは「-」で示した。
4. 掲載した遺構図等の縮尺は原則的に以下のとおりとし、スケールを付した。また変則的なものについても随時スケールを入れている。

遺構実測図	1：40および1：100 (IV章は1：50)	骨片ほか出土状況図	1：4
土器実測図・拓影図	1：3	剥片石器実測図	1：2
土製品・石製品	1：2	磨製石器・礫石器実測図	1：3
鉄製品	1：2		

5. 遺物写真の縮尺は原則的に以下のとおりである。

土器	1：3	剥片石器	1：2	磨製石器・礫石器	1：3
土製品・石製品	1：2	鉄製品	1：2		

6. 出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に略記号やシンボルマークで示した。

7. 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。

A+B	: AとBが同量混じる。	A>B	: AにBが少量混じる。
A B	: AにBが微量混じる。	A B	: AとBはほぼ等しい。

8. 土層の色調には『新版標準土色帖』(小山・竹原1967)を使用し、カラーチャートの番号を付したのものがある。また、土層の記述には下記の記号・略称を用いた場合がある。

Ta - a	: 樽前a降下軽石堆積物	Ta - c	: 樽前c降下軽石堆積物
Ta - d	: 樽前d降下軽石堆積物	En - a	: 恵庭a降下軽石堆積物
En - a・L	: 恵庭a降下軽石堆積物風化ローム		
En - a・P	: 恵庭a降下軽石堆積物(軽石)		

VI章．旧石器の調査とその遺物	233
1．概要	
2．遺物分布とブロック・石器群 (1) 概要 (2) 石材別・器種別分布状況	
(3) ブロック2～4 [LCS - 2～4] 出土の石器	
(4) ブロック [LCS - 1～4] (5) ブロック外の石器	
(6) 母岩別接合資料	
VII章．自然科学的手法による分析・鑑定	325
1．放射性炭素年代測定 (パレオ・ラボ)	
2．千歳市オリカ2 遺跡出土炭化材の樹種同定 (パレオ・ラボ)	
3．オリカ2 遺跡から出土した炭化植物種子について (吉崎昌一氏・椿坂恭代氏)	
4．オリカ2 遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の原産地分析・水和層測定 (遺物分析研究所)	
VIII章．まとめ	381
1．アイヌ文化期の遺構と遺物について	
2．縄文時代の遺構と遺物について	
3．旧石器時代の遺物について	
 引用・参考文献	395
 写真図版	397
・現地調査状況	
・出土遺物	
 報告書抄録	493

挿図目次

図 I - 1	遺跡の位置	2	図 V - 1	縄文時代の遺構位置図	115
図 I - 2	新千歳空港関連道路建設計画図	3	図 V - 2	竪穴住居跡 2〔LPD - 2〕	117
図 I - 3	Ⅲ層遺構位置図	8	図 V - 3	竪穴住居跡 2 出土の遺物	118
図 I - 4	V ~ VII層遺構位置図	9	図 V - 4	竪穴住居跡 3〔LPD - 3〕	121
図 II - 1	遺跡周辺の地形図	12	図 V - 5	竪穴住居跡 3 出土の遺物	122
図 II - 2	北海道假製五万分の一図「漁」の一部	13	図 V - 6	竪穴住居跡 4〔LPD - 4〕	124
図 II - 3	調査区周辺の現況図	13	図 V - 7	竪穴住居跡 4 出土の遺物	125
図 II - 4	カワシンジュガイに関する記録	14	図 V - 8	竪穴住居跡 5〔LPD - 5〕	127
図 II - 5	周辺の遺跡	18	図 V - 9	竪穴住居跡 5 出土の遺物	128
図 II - 6	チブニー 1 遺跡出土鉄製品	21	図 V - 10	竪穴住居跡 6〔LPD - 6〕(1)	132
図 II - 7	オルイカ 1 遺跡出土鉄製品	22	図 V - 11	竪穴住居跡 6〔LPD - 6〕(2)	133
図 III - 1	発掘区設定図	23	図 V - 12	竪穴住居跡 6〔LPD - 6〕(3)	134
図 III - 2	基本土層(H - 154区)	27	図 V - 13	竪穴住居跡 6 出土の遺物	135
図 III - 3	調査区北壁土層断面図	28	図 V - 14	竪穴住居跡 7〔LPD - 7〕	137
図 III - 4	S ライン土層断面図	29	図 V - 15	土坑(1)〔LPI - 5 ~ 8・10〕	145
図 III - 5	W ライン土層断面図	30	図 V - 16	土坑(2)〔LPI - 9・11~19〕	146
図 III - 6	低地部土層断面図	31	図 V - 17	土坑(3)〔LPI - 20~22・25〕	147
図 IV - 1	アイヌ文化期の遺構位置図	37	図 V - 18	土坑(4)〔LPI - 23・24・26・27〕	148
図 IV - 2	平地住居跡 5〔USD - 5〕(1)	40	図 V - 19	土坑出土の遺物	148
図 IV - 3	平地住居跡 5〔USD - 5〕(2)	41	図 V - 20	Tピット 9〔LTP - 9〕	151
図 IV - 4	平地住居跡 8〔USD - 8〕(1)	44	図 V - 21	Tピット 10〔LTP - 10〕	152
図 IV - 5	平地住居跡 8〔USD - 8〕(2)	45	図 V - 22	Tピット 11〔LTP - 11〕	153
図 IV - 6	平地住居跡 8〔USD - 8〕(3)	46	図 V - 23	Tピット出土の遺物	154
図 IV - 7	平地住居跡 9〔USD - 9〕(1)	49	図 V - 24	V・VI層焼土全体図(1)	156
図 IV - 8	平地住居跡 9〔USD - 9〕(2)	50	図 V - 25	V・VI層焼土全体図(2)	157
図 IV - 9	建物跡 4・5〔USB - 4・5〕	53	図 V - 26	焼土列 1(1)	158
図 IV - 10	柱穴〔UPH - 17~30〕	55	図 V - 27	焼土列 1(2)	159
図 IV - 11	焼土群 2(1)	59	図 V - 28	焼土列 2	162
図 IV - 12	焼土群 2(2)	60	図 V - 29	V層焼土群 1	164
図 IV - 13	焼土群 2(3)	61	図 V - 30	V・VI層焼土(1)〔LFP - 19~53〕	167
図 IV - 14	焼土群 3	63	図 V - 31	V・VI層焼土(2) 〔LFP - 65~120・134 焼土列除く〕	168
図 IV - 15	焼土群 4	65	図 V - 32	V・VI層焼土(3)〔LFP - 121~133〕, Ⅲ層焼土〔UFP - 31〕	169
図 IV - 16	その他の焼土〔UFP〕	67	図 V - 33	焼土出土の遺物	173
図 IV - 17	カワシンジュガイ集中 1〔UKS - 1〕	68	図 V - 34	土器集中(1)〔UCP - 2・3〕	176
図 IV - 18	鉄製品(1)平地住居跡 5	71	図 V - 35	土器集中(2)〔LCP - 3~6〕	177
図 IV - 19	鉄製品(2)平地住居跡 8・9	72	図 V - 36	土器集中出土の遺物(1)	178
図 IV - 20	鉄製品(3)焼土群 2~4	73	図 V - 37	土器集中出土の遺物(2)	179
図 IV - 21	鉄製品(4)包含層・平成 14 年度分①	74	図 V - 38	フレイク・チップ集中〔LFC - 5~11〕	182
図 IV - 22	鉄製品(5)平成 14 年度分②	75	図 V - 39	礫集中〔LS - 1〕粘土集中〔LN - 1・2〕	184
図 IV - 23	平地住居跡 5 出土の石器	79	図 V - 40	包含層土器分布図(1)	186
図 IV - 24	平地住居跡 8 出土の石器等	80	図 V - 41	包含層土器分布図(2)	187
図 IV - 25	平地住居跡 9 ほか出土の石器等 〔USD - 9、UFP - 4・6・8、Ⅲ層〕	81	図 V - 42	包含層土器分布図(3)	188
図 IV - 26	Ⅲ層炭化材出土状況例	83	図 V - 43	包含層土器分布図(4)	189
図 IV - 27	骨角器・動物遺存体	112	図 V - 44	包含層土器分布図(5)	190
図 IV - 28	溝〔UD - 1〕	114	図 V - 45	包含層土器分布図(6)	191
			図 V - 46	Ⅲ層出土の土器(1)	193
			図 V - 47	Ⅲ層出土の土器(2)	194
			図 V - 48	Ⅲ層出土の土器(3)	195
			図 V - 49	V・VI層出土の土器(1)	198
			図 V - 50	V・VI層出土の土器(2)	199

図 V - 51	V・VI層出土の土器 ⁽³⁾	200	図 VI - 33	LCS - 3 の接合分布図	274
図 V - 52	V・VI層出土の土器 ⁽⁴⁾	201	図 VI - 34	LCS - 3 の石材別分布図 ⁽¹⁾	275
図 V - 53	V・VI層出土の土器 ⁽⁵⁾	202	図 VI - 35	LCS - 3 の石材別分布図 ⁽²⁾	276
図 V - 54	V・VI層出土の土器 ⁽⁶⁾	203	図 VI - 36	LCS - 3 の石材別分布図 ⁽³⁾	277
図 V - 55	V・VI層出土の土製品	205	図 VI - 37	LCS - 4 の分布図 ⁽¹⁾ ・遺物	278
図 V - 56	包含層出土石器分布図 ⁽¹⁾	206	図 VI - 38	LCS - 4 の分布図 ⁽²⁾	279
図 V - 57	包含層出土石器分布図 ⁽²⁾	207	図 VI - 39	LCS - 4 の接合分布図	281
図 V - 58	包含層出土石器分布図 ⁽³⁾	208	図 VI - 40	LCS - 4 の石材別分布図 ⁽¹⁾	282
図 V - 59	包含層出土石器分布図 ⁽⁴⁾	209	図 VI - 41	LCS - 4 の石材別分布図 ⁽²⁾	283
図 V - 60	包含層出土石器分布図 ⁽⁵⁾	210	図 VI - 42	LCS - 4 の石材別分布図 ⁽³⁾	284
図 V - 61	包含層出土石器分布図 ⁽⁶⁾	211	図 VI - 43	LCS - 1 の分布図 ⁽¹⁾ ・遺物	286
図 V - 62	III層出土の石器	213	図 VI - 44	LCS - 1 の分布図 ⁽²⁾	287
図 V - 63	V・VI層出土の石器 ⁽¹⁾	216	図 VI - 45	LCS - 1 の接合分布図	288
図 V - 64	V・VI層出土の石器 ⁽²⁾	217	図 VI - 46	LCS - 1 の石材別分布図 ⁽¹⁾	289
図 V - 65	V・VI層出土の石器 ⁽³⁾	218	図 VI - 47	LCS - 1 の石材別分布図 ⁽²⁾	290
図 V - 66	V・VI層出土の石器 ⁽⁴⁾	219	図 VI - 48	ブロック外出土の石器	291
図 VI - 1	遺物分布図	233	図 VI - 49	母岩13・接合46 ⁽¹⁾	294
図 VI - 2	VII層調査範囲図・グリッド別遺物点数	237	図 VI - 50	母岩13・接合46 ⁽²⁾ 、接合48 ⁽¹⁾	295
図 VI - 3	遺物分布図(2年分)・石器ブロック設定図	238	図 VI - 51	母岩13・接合46 ⁽³⁾	296
図 VI - 4	全接合分布図・折れ面接合分布図	239	図 VI - 52	母岩13・接合46 ⁽⁴⁾	297
図 VI - 5	石材別分布図 ⁽¹⁾	240	図 VI - 53	母岩13・接合46 ⁽⁵⁾ 、接合48 ⁽²⁾	298
図 VI - 6	石材別分布図 ⁽²⁾	241	図 VI - 54	母岩1 ⁽¹⁾ ・接合12、接合14、接合13、 接合17	299
図 VI - 7	石材別分布図 ⁽³⁾	243	図 VI - 55	母岩1 ⁽²⁾	300
図 VI - 8	石材別分布図 ⁽⁴⁾ ・被熱石器分布図	244	図 VI - 56	母岩1 ⁽³⁾	301
図 VI - 9	器種別分布図 ⁽¹⁾	246	図 VI - 57	母岩1 ⁽⁴⁾	302
図 VI - 10	器種別分布図 ⁽²⁾	247	図 VI - 58	母岩9・接合7、接合6、接合15	303
図 VI - 11	器種別分布図 ⁽³⁾	248	図 VI - 59	母岩16・接合10、母岩17・接合9	304
図 VI - 12	器種別分布図 ⁽⁴⁾	249	図 VI - 60	母岩21・接合56	306
図 VI - 13	器種別分布図 ⁽⁵⁾	250	図 VI - 61	母岩5・接合5	307
図 VI - 14	器種別分布図 ⁽⁶⁾	251	図 VI - 62	母岩15・接合11	309
図 VI - 15	器種別分布図 ⁽⁷⁾	252	図 VI - 63	母岩11 ⁽¹⁾ ・接合21、接合22、接合36、 接合37	310
図 VI - 16	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽¹⁾ 細石刃	254	図 VI - 64	母岩11 ⁽²⁾	311
図 VI - 17	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽²⁾ 細石刃	255	図 VI - 65	母岩2・接合18、接合19	312
図 VI - 18	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽³⁾ 細石刃核	256	図 VI - 66	母岩12・接合34、接合27	314
図 VI - 19	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁴⁾ 細石刃核	257	図 VI - 67	母岩10、母岩4	315
図 VI - 20	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁵⁾ 細石刃核削片	259	図 VI - 68	母岩18・接合32、母岩19・接合33	316
図 VI - 21	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁶⁾ 細石刃核削片 彫器削片	260	図 VI - 69	母岩20・接合38	317
図 VI - 22	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁷⁾ 彫器・搔器・ 両面調整石器	261	図 VII - 1	年代測定試料採取位置	327
図 VI - 23	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁸⁾ 削器	263	図 VII - 2	暦年代較正結果 ⁽¹⁾	334
図 VI - 24	LCS - 2 ~ 4 の石器 ⁽⁹⁾ 石核	264	図 VII - 3	暦年代較正結果 ⁽²⁾	335
図 VI - 25	LCS - 2 の分布図 ⁽¹⁾ ・遺物	266	図 VII - 4	暦年代較正結果 ⁽³⁾	336
図 VI - 26	LCS - 2 の分布図 ⁽²⁾	267	図 VII - 5	暦年代較正結果 ⁽⁴⁾	337
図 VI - 27	LCS - 2 の接合分布図	268	図 VII - 6	炭化材樹種同定試料採取地点	344
図 VI - 28	LCS - 2 の石材別分布図 ⁽¹⁾	269	図 VII - 7	種子同定試料採取地点 ⁽¹⁾	356
図 VI - 29	LCS - 2 の石材別分布図 ⁽²⁾	270	図 VII - 8	種子同定試料採取地点 ⁽²⁾	357
図 VI - 30	LCS - 2 の石材別分布図 ⁽³⁾	271	図 VII - 9	黒曜石原産地	372
図 VI - 31	LCS - 3 の分布図 ⁽¹⁾ ・遺物	272	図 VII - 10	水和層干渉波スペクトル ⁽¹⁾	378
図 VI - 32	LCS - 3 の分布図 ⁽²⁾	273	図 VII - 11	水和層干渉波スペクトル ⁽²⁾	379

図Ⅷ - 1	オリイカ 2 遺跡平地住居跡集成383
図Ⅷ - 2	ブロック別石器組成図 ⁽¹⁾392
図Ⅷ - 3	ブロック別石器組成図 ⁽²⁾393

表目次

表Ⅰ - 1	遺構一覧(2カ年計) 7
表Ⅰ - 2	出土遺物一覧(2カ年計) 7
表Ⅰ - 3	遺物集計集(平成16年度調査) 10
表Ⅱ - 1	周辺の遺跡一覧 ⁽¹⁾ 19
表Ⅱ - 2	周辺の遺跡一覧 ⁽²⁾ 20
表Ⅱ - 3	保存処理後鉄製品一覧 20
表Ⅳ - 1	平地住居跡 5 柱穴一覧 39
表Ⅳ - 2	平地住居跡 8 柱穴一覧 43
表Ⅳ - 3	平地住居跡 9 柱穴一覧 48
表Ⅳ - 4	建物跡 4・5 柱穴一覧 52
表Ⅳ - 5	単独柱穴一覧 54
表Ⅳ - 6	焼土群 2 一覧 58
表Ⅳ - 7	焼土群 3 一覧 62
表Ⅳ - 8	焼土群 4 一覧 64
表Ⅳ - 9	Ⅲ層その他の焼土一覧 66
表Ⅳ - 10	金属製品一覧 ⁽¹⁾ 76
表Ⅳ - 11	金属製品一覧 ⁽²⁾ 77
表Ⅳ - 12	アイヌ文化期 掲載石器一覧 ⁽¹⁾ 82
表Ⅳ - 13	アイヌ文化期 掲載石器一覧 ⁽²⁾ 83
表Ⅳ - 14	動物遺存体(手取り)同定結果 ⁽¹⁾ 85
表Ⅳ - 15	動物遺存体(手取り)同定結果 ⁽²⁾ 86
表Ⅳ - 16	動物遺存体(手取り)同定結果 ⁽³⁾ 87
表Ⅳ - 17	動物遺存体(手取り)同定結果 ⁽⁴⁾ 88
表Ⅳ - 18	動物遺存体(手取り)同定結果 ⁽⁵⁾ 89
表Ⅳ - 19	動物遺存体(手取り)同定一覧 ⁽¹⁾ 90
表Ⅳ - 20	動物遺存体(手取り)同定一覧 ⁽²⁾ 91
表Ⅳ - 21	フローテーション結果 ⁽¹⁾ 94
表Ⅳ - 22	フローテーション結果 ⁽²⁾ 96
表Ⅳ - 23	フローテーション結果 ⁽³⁾ 98
表Ⅳ - 24	フローテーション結果 ⁽⁴⁾100
表Ⅳ - 25	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽¹⁾	...102
表Ⅳ - 26	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽²⁾	...103
表Ⅳ - 27	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽³⁾	...104
表Ⅳ - 28	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽⁴⁾	...105
表Ⅳ - 29	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽⁵⁾	...106
表Ⅳ - 30	フローテーション回収動物遺存体詳細 ⁽⁶⁾	...107
表Ⅳ - 31	動物遺存体(フローテーション回収)	
	同定一覧 ⁽¹⁾108
表Ⅳ - 32	動物遺存体(フローテーション回収)	
	同定一覧 ⁽²⁾109
表Ⅳ - 33	動物遺存体(フローテーション回収)	
	同定一覧 ⁽³⁾110
表Ⅳ - 34	フローテーションほか検出掲載遺物	
	一覧111
表Ⅳ - 35	アイヌ文化期遺物集計表113
表Ⅴ - 1	焼土列 1 一覧160

表 V - 2	焼土列 2 一覧	163	表 VII - 15	常呂川(中ノ島~北見大橋)の河床から採取した37個の黒曜石円礫の分類結果	375
表 V - 3	V層焼土群 1 一覧	165	表 VII - 16	オリイカ 2 遺跡出土黒曜石製石器・剥片の元素比分析結果	375
表 V - 4	V層その他の焼土一覧(1)	170	表 VII - 17	オリイカ 2 遺跡出土黒曜石製遺物産地同定結果	376
表 V - 5	V層その他の焼土一覧(2)	171	表 VII - 18	オリイカ 2 遺跡出土黒曜石製遺物の水和層年代測定結果	377
表 V - 6	V層その他の焼土一覧(3)	172	表 VIII - 1	オリイカ 2 遺跡平地住居跡・建物跡一覧	382
表 V - 7	フローテーション結果(V・VI層)	220	表 VIII - 2	アイヌ文化期平地住居跡検出例(炉あり)	386
表 V - 8	遺構規模一覧	221	表 VIII - 3	ブロック別石器組成	391
表 V - 9	遺構出土掲載土器一覧(1)	222	表 VIII - 4	ブロック別石材組成	391
表 V - 10	遺構出土掲載土器一覧(2)	223	表 VIII - 5	石器器種別石材組成	391
表 V - 11	遺構出土掲載土製品一覧	223			
表 V - 12	縄文時代遺構出土掲載石器一覧	224			
表 V - 13	包含層出土掲載土器一覧(1)	225			
表 V - 14	包含層出土掲載土器一覧(2)	226			
表 V - 15	包含層出土掲載土器一覧(3)	227			
表 V - 16	包含層出土掲載土製品一覧	228			
表 V - 17	包含層出土掲載石器等一覧(1)	229			
表 V - 18	包含層出土掲載石器等一覧(2)	230			
表 V - 19	土器等集計表	231			
表 V - 20	石器等集計表	232			
表 VI - 1	旧石器遺物点数・重量一覧	235			
表 VI - 2	旧石器遺物石質別一覧	236			
表 VI - 3	原礫面残存・被熱石器点数一覧	242			
表 VI - 4	旧石器母岩別資料一覧	292			
表 VI - 5	掲載旧石器一覧(1)	319			
表 VI - 6	掲載旧石器一覧(2)	320			
表 VI - 7	掲載旧石器一覧(3)	321			
表 VI - 8	掲載旧石器接合資料一覧(1)	321			
表 VI - 9	掲載旧石器接合資料一覧(2)	322			
表 VI - 10	掲載旧石器接合資料一覧(3)	323			
表 VI - 11	掲載旧石器接合資料一覧(4)	324			
表 VII - 1	測定試料および処理(1)	328			
表 VII - 2	放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果(1)	329			
表 VII - 3	測定試料および処理(2)	330			
表 VII - 4	放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果(2)	331			
表 VII - 5	測定試料および処理(3)	332			
表 VII - 6	放射線炭素年代測定及び暦年代較正の結果(3)	333			
表 VII - 7	年代測定結果の参考表	338			
表 VII - 8	オリイカ 2 遺跡出土炭化材樹種同定結果	343			
表 VII - 9	炭化種子同定試料一覧(1)	358			
表 VII - 10	炭化種子同定試料一覧(2)	359			
表 VII - 11	炭化種子同定試料一覧(3)	360			
表 VII - 12	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)	373			
表 VII - 13	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)	374			
表 VII - 14	湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果	375			

写真图版目次

- 图版1 Ⅲ層調査状況
 1 調査区全景 W
 2 A地区Ⅲ層25%調査 S
 3 C地区Ⅲ層25%調査 S

- 图版2 USD - 5(1)
 1 遺物出土状況 S
 2 fp3・4検出状況 N
 3 ks1検出状況 E
 4 刀子出土状況 N
 5 火皿出土状況 N

- 图版3 USD - 5(2)
 1 漆製品片出土状況 N
 2 ph16断面 S
 3 ph20・21・22断面 S
 4 完掘 SE

- 图版4 USD - 8(1)
 1 全景 NE
 2 fp1断面 E
 3 ph23断面 S

- 图版5 USD - 8(2)
 1 fp2検出状況 E
 2 fp3検出状況 S
 3 ks1検出状況 S
 4 鹿角出土状況 S
 5 遺物出土状況 N

- 图版6 USD - 8(3)
 1 ph1断面 E
 2 ph2断面 E
 3 ph3断面 E
 4 ph4断面 E
 5 ph9断面 N
 6 ph11断面 N
 7 ph12~16断面 E
 8 ph16~22断面 N
 9 ph16~23断面 N
 10 ph25断面 N
 11 ph29断面 N
 12 ph32・33断面 N

- 图版7 USD - 9(1)
 1 全景 SW
 2 fp1断面 S
 3 fp2検出状況 SE
 4 ks1検出状況 E
 5 骨片出土状況 NE

- 图版8 USD - 9(2)
 1 礫出土状況 SE
 2 古銭出土状況 N
 3 ph1断面 W
 4 ph4断面断面 S
 5 ph6断面 N
 6 ph8断面 NW
 7 ph13断面 S
 8 ph14断面 N
 9 ph17断面 NW
 10 ph21断面 W
 11 北側柱穴列完掘 W

- 12 東側柱穴列完掘 S
 图版9 USB - 4
 1 検出状況 SW
 2 ph1断面 S
 3 ph3断面 S
 4 ph5断面 S
 5 ph6断面 S
 6 ph7断面 S
 7 ph8断面 SE
 8 完掘 S

- 图版10 USB - 5
 1 検出状況 W
 2 ph2断面 S
 3 ph5断面 S
 4 ph6断面 S
 5 ph7断面 S
 6 ph9・10・14断面 S
 7 完掘 W

- 图版11 UPH
 1 UPH - 17・18断面 SE
 2 UPH - 20断面 W
 3 UPH - 21断面 W
 4 UPH - 22断面 SW
 5 UPH - 26断面 W
 6 UPH - 27断面 W
 7 UPH - 28断面 SW
 8 UPH - 29断面 NW

- 图版12 焼土群2(1)
 1 調査状況 NW
 2 UFP - 2検出状況 NE
 3 UFP - 3検出状況 N
 4 UFP - 10検出状況 SE
 5 UFP - 11検出状況 SE

- 图版13 焼土群2(2)
 1 UFP - 12検出状況 E
 2 UFP - 13検出状況 E
 3 UFP - 19検出状況 E
 4 UFP - 20検出状況 SE
 5 UFP - 23検出状況 E
 6 UFP - 24検出状況 SE
 7 UFP - 21・25・27検出状況 SE
 8 UFP - 30検出状況 N

- 图版14 焼土群2(3)
 1 UFP - 33断面 E
 2 UFP - 33骨片出土状況 S
 3 UFP - 33底面骨片出土状況 NE
 4 UFP - 34検出状況 W
 5 UFP - 34断面 E
 6 UFP - 34骨片出土状況 E

- 图版15 焼土群2(4)
 1 UKS - 3検出状況 N
 2 UKS - 4検出状況 N

- 图版16 焼土群3
 1 UFP - 9検出状況 NW
 2 UFP - 9鉄製品 NE
 3 UFP - 14検出状況 E
 4 UFP - 14漆製品片 SE
 5 UFP - 15検出状況 E
 6 USK - 2検出状況 E

- 図版17 焼土群 4(1)**
 1 UFP - 6・7・8 検出状況 S
 2 UFP - 6 検出状況 E
 3 UFP - 6 断面 W
 4 UFP - 6 骨片出土状況 SE
- 図版18 焼土群 4(2)**
 1 UFP - 7 検出状況 N
 2 UFP - 7 カワシンジュガイ・漆製品片 N
 3 UFP - 7 骨片出土状況 E
 4 UFP - 8 断面 NW
 5 UFP - 8 古銭出土状況 E
 6 UFP - 8 骨片出土状況 N
- 図版19 UFP**
 1 UFP - 1 断面 SW
 2 UFP - 4 断面 S
 3 UFP - 5 断面 S
 4 UFP - 16・17 検出状況 S
 5 UFP - 18 検出状況 E
 6 UFP - 28 検出状況 E
 7 UFP - 31 検出状況 N
- 図版20 Ⅲ層の遺構**
 1 UKS - 1 検出状況 W
 2 UCP - 2 検出状況 NE
 3 アイヌ文化期遺構検出状況 NE
- 図版21 V層調査状況**
 1 V層上面検出状況 W
 2 A地区V層25%調査 SW
 3 C地区V層25%調査 S
- 図版22 LPD - 2**
 1 床面遺物出土状況 NE
 2 土層断面 SW
 3 fp 1 断面 NW
 4 完掘 NE
- 図版23 LPD - 3**
 1 遺物出土状況 NW
 2 土層断面 SW
 3 fp 1 断面 SW
 4 土器出土状況 N
- 図版24 LPD - 4**
 1 遺物出土状況 NE
 2 土層断面 W
 3 fp 1 断面 S
 4 三角形土製品出土状況 SE
- 図版25 LPD - 5(1)**
 1 確認面検出状況 N
 2 床面検出状況(後はLPD - 2) N
- 図版26 LPD - 5(2)**
 1 土層断面 S
 2 土層断面 W
 3 fp 1 検出状況 N
 4 ph 4 断面 W
 5 三角形土製品出土状況 E
 6 完掘 E
- 図版27 LPD - 6(1)**
 1 調査状況 NW
 2 確認面検出状況 E
 3 完掘 S
- 図版28 LPD - 6(2)**
 1 土層断面 S
- 2 土層断面 E
 3 fp 1 断面 NE
 4 fp 8 断面 W
 5 fp 10 断面 W
 6 ph 16 断面 W
 7 ph 19 断面 SW
- 図版29 LPD - 7**
 1 遺物出土状況 NW
 2 土層断面 S
 3 fp 1 断面 W
 4 ph 1 断面 SW
- 図版30 LPI(1)**
 1 LPI - 5 土層断面 W
 2 LPI - 5 土器出土状況 SW
 3 LPI - 6 完掘 NE
 4 LPI - 7 完掘 W
 5 LPI - 8 土層断面 SW
 6 LPI - 9 土層断面 SE
- 図版31 LPI(2)・LTP**
 1 LPI - 20 坑底検出状況 SW
 2 LPI - 22 土層断面 NW
 3 LTP - 9 完掘 SE
 4 LTP - 10 完掘 NW
 5 LTP - 11 完掘 S
- 図版32 V層焼土群 1・焼土列 1(1)**
 1 V層焼土群 1 (LFP 1 ~ 13) S
 2 V層焼土群 1 (LFP 14 ~ 18) SW
 3 焼土列 1 検出状況 N
- 図版33 焼土列 1(2)**
 1 LFP - 60 ~ 64 断面 S
 2 LFP - 73 断面 S
 3 LFP - 74 断面 SE
 4 LFP - 75 断面 S
 5 LFP - 76 断面 SE
 6 LFP - 77 ~ 81 検出状況 W
- 図版34 焼土列 2**
 1 LFP - 102 断面 S
 2 LFP - 103 断面 NE
 3 LFP - 104 断面 NW
 4 LFP - 105 断面 SW
 5 LFP - 106 断面 NW
 6 LFP - 114 断面 SE
 7 LFP - 116 断面 W
 8 LFP - 117 断面 W
- 図版35 LFP**
 1 LFP - 23 断面 W
 2 LFP - 28 断面 W
 3 LFP - 29 断面 W
 4 LFP - 49 断面 W
 5 LFP - 83 断面 W
 6 LFP - 86 断面 W
 7 LFP - 91 断面 W
 8 LFP - 97 ~ 100 断面 W
- 図版36 V層の遺構**
 1 LCP - 3 検出状況 S
 2 LCP - 4 検出状況 NW
 3 LCP - 5 検出状況 N
 4 LFC - 5 検出状況 E
 5 LFC - 6 検出状況 E

- 6 LFC - 10検出状況 N
7 LS - 1断面 E
8 LN - 1断面 SE
- 図版37 V層遺物出土状況**
1 遺物出土状況 E
2 石槍出土状況 E
3 土製品出土状況 SW
4 玉出土状況 W
- 図版38 LCS - 2(1)**
1 遺物出土状況 SW
2 細石刃核出土状況 N
3 細石刃核出土状況 N
4 細石刃出土状況 E
5 細石刃出土状況 W
- 図版39 LCS - 2(2)**
1 調査状況 N
2 細石刃出土状況 E
3 削器出土状況 E
4 搔器出土状況 E
5 剥片出土状況 E
- 図版40 LCS - 3(1)**
1 遺物出土状況 NE
2 細石刃核出土状況 E
3 細石刃核出土状況 E
4 細石刃出土状況 S
5 削片出土状況 W
- 図版41 LCS - 3(2)**
1 調査状況 E
2 削器出土状況 W
3 削器出土状況 W
4 彫器出土状況 NE
5 両面調整石器出土状況 SE
- 図版42 LCS - 4(1)**
1 LCS - 2・4検出状況 S
2 LCS - 4検出状況 NW
- 図版43 LCS - 4(2)**
1 細石刃核出土状況 SE
2 細石刃核出土状況 NW
3 細石刃核出土状況 NE
4 細石刃核出土状況 SE
5 細石刃核出土状況 SW
- 図版44 LCS - 4(3)**
1 石核出土状況 NE
2 削片出土状況 W
3 削片出土状況 NW
4 削片出土状況 S
5 細石刃出土状況 E
6 搔器出土状況 SE
7 削器出土状況 NW
8 両面調整石器出土状況 N
- 図版45 土層**
1 A地区Wライン土層断面 SE
2 A地区低位部土層断面 SE
3 C地区北壁土層断面 E
- 図版46 VII層検出状況**
1 A地区VII層検出状況 SW
2 A地区VII層検出状況 NW
3 C地区VII層検出状況 S
- 図版47 鉄製品(1)**
1 USD - 5
- 図版48 鉄製品(2)**
1 USD - 8
- 図版49 鉄製品(3)**
1 焼土群2
2 焼土群3
3 焼土群4
- 図版50 鉄製品(4)**
1 包含層
2 平成14年調査分
- 図版51 遺構出土の石器(1)**
1 USD - 5
- 図版52 遺構出土の石器(2)**
1 USD - 8
- 図版53 遺構出土の石器(3)**
1 USD - 9
2 UFP - 8
3 UFP - 4
4 UFP - 6
5 III層出土のガラス玉
- 図版54 動物遺存体(1)**
1 カワシンジュガイ(現生)
2 カワシンジュガイ(殻残存・USP - 33ほか)
3 カワシンジュガイ殻皮(焼土群2出土)
- 図版55 動物遺存体(2)**
1 カワシンジュガイ殻皮(UKS - 4出土)
2 カワシンジュガイ殻皮(UKS - 4出土)
- 図版56 動物遺存体(3)**
- 図版57 動物遺存体(4)**
- 図版58 動物遺存体(5)**
- 図版59 復元土器(1)**
1 LPI - 5(1)
2 LPI - 2(1)
3 LCP - 3(2)
4 LCP - 5(6)
5 III層(17)
- 図版60 復元土器(2)**
1 III層(15)
2 V・VI層(40)
3 V・VI層(122)
4 V・VI層(123)
5 V・VI層(125)
6 V・VI層(124)
- 図版61 遺構出土の土器(1)**
1 LPD - 2
2 LPD - 3
- 図版62 遺構出土の土器(2)**
1 LPD - 4
2 LPD - 5
- 図版63 遺構出土の土器(3)**
1 LPD - 6
- 図版64 遺構出土の土器(4)**
1 LPI - 6
2 LTP - 8
3 LTP - 9
4 LTP - 10
5 LCP - 4
6 LCP - 6
- 図版65 遺構出土の土器(5)**

- 1 焼土列 1
2 焼土列 2
3 焼土群 1
4 LFP
- 図版66 包含層出土の土器(1)**
1 Ⅲ層(1)
- 図版67 包含層出土の土器(2)**
1 Ⅲ層(2)
- 図版68 包含層出土の土器(3)**
1 V・Ⅵ層(1)
- 図版69 包含層出土の土器(4)**
1 V・Ⅵ層(2)
- 図版70 包含層出土の土器(5)**
1 V・Ⅵ層(3)
- 図版71 包含層出土の土器(6)**
1 V・Ⅵ層(4)
- 図版72 包含層出土の土器(7)**
1 V・Ⅵ層(5)
- 図版73 遺構出土の土製品**
1 LPD - 2
2 LPD - 3
3 LPD - 4
4 LPD - 5
5 LPD - 6
6 LFP - 62
7 LFP - 69
8 LFP - 71
- 図版74 包含層出土の土製品(1)**
1 V・Ⅵ層(1)
- 図版75 包含層出土の土製品(2)**
1 V・Ⅵ層(2)
- 図版76 遺構出土の石器(4)**
1 LPD - 2(1)
2 LPD - 2(2)
3 LPD - 3
4 LPD - 4
5 LPD - 5
6 LPD - 6
7 LPD - 7
- 図版77 遺構出土の石器(5)**
1 LPI - 13
2 LPI - 20
3 LTP - 9
4 LTP - 10
5 LCP - 6
6 LFP - 6
7 LFP - 69
8 LFP - 74
9 LFC - 5
10 LFC - 6
11 LS - 1
- 図版78 包含層出土の石器(1)**
1 Ⅲ層出土の石鏃・両面調整石器・石錐・スクレイパー・玉
2 V層出土の石鏃・石槍・石錐
- 図版79 包含層出土の石器(2)**
1 V層出土のつまみ付ナイフ
2 V層出土のスクレイパー
- 図版80 包含層出土の石器(3)**
1 V層出土の石斧・研磨石材・玉・たたき石
- 図版81 包含層出土の石器(4)**
1 V層出土のたたき石・すり石・砥石
- 図版82 旧石器(1)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(1)細石刃
- 図版83 旧石器(2)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(2)細石刃
- 図版84 旧石器(3)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(3)細石刃核
- 図版85 旧石器(4)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(4)細石刃核・細石刃削片
- 図版86 旧石器(5)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(5)細石刃核削片彫器削片
- 図版87 旧石器(6)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(6)彫器・搔器・両面調整石器
- 図版88 旧石器(7)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(7)削器
- 図版89 旧石器(8)**
1 LCS 2 ~ 4 の石器(8)石核
2 石器ブロック外の石器
- 図版90 旧石器(9)**
1 母岩13・接合46
- 図版91 旧石器(10)**
1 母岩1・接合12
2 母岩1・接合14
3 母岩1・接合13
4 母岩1・接合17
- 図版92 旧石器(11)**
1 母岩9・接合7
2 母岩9・接合6
3 母岩9・接合15
4 母岩16・接合10
5 母岩17・接合9
- 図版93 旧石器(12)**
1 母岩21・接合56
2 母岩5・接合5
3 母岩15・接合11
- 図版94 旧石器(13)**
1 母岩11・接合21
2 母岩11・接合22
3 母岩11・接合36
4 母岩11・接合37
- 図版95 旧石器(14)**
1 母岩2・接合18
2 母岩2・接合19
3 母岩12・接合34
4 母岩12・非接合資料
5 母岩12・接合27
6 母岩18・接合32
- 図版96 旧石器(15)**
1 母岩18・接合33
2 母岩19・接合38

- I 調査の概要
- II 遺跡の立地と周辺の遺跡
- III 調査の方法

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名：一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：オルイカ2遺跡（北海道教育委員会登録番号 A - 03 - 280）

所在地：千歳市中央1196・2535・2536

調査面積：5,500m²

調査期間：平成16年4月1日～平成17年12月15日

（現地調査 平成16年5月6日～10月31日）

2. 調査体制

理事長	森重 楯一	第4調査課長	三浦 正人（発掘担当者）
専務理事	宮崎 勝	主 任	菊池 慈人
常務理事	佐藤 俊和	主 任	阿部 明義（発掘担当者）
第1調査部長	千葉 英一	主 任	広田 良成（発掘担当者）

3. 調査に至る経緯

この調査の原因である一般国道337号新千歳空港関連工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環である。道央圏連絡道路（一般国道337号）は道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である（図I-2）。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・中樹林道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの6区間に分けられている。「新千歳空港関連」事業は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間で、平成元年度に事業化された。このうち新千歳空港から千歳市街地への2.5kmのほか、昭和55年度に事業化された当別バイパス（当別町 - 小樽市）23.8kmが平成15年度までに部分供用され、平成17年3月26日には石狩川を渡河する美原大橋を含む美原バイパス3.9kmが2車線で暫定供用されている。

平成2（1990）年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を経由して北海道教育委員会あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた北海道教育委員会は平成3年6月、路線内の遺跡所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓（のちのオルイカ1遺跡）・キウス5遺跡と未登録の仮称祝梅砂丘遺跡（のちの柏台1遺跡）・仮称キウス7～10遺跡の12箇所、対象面積299,000m²、全計画路



図 I - 1 遺跡の位置

(この図は国土地理院発行5万分の1「恵庭」「千歳」「追分」「早来」を使用し縮小したものである。)

線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月北海道教育委員会から札幌開発建設部へ回答された。

平成7(1995)年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から北海道教育委員会に提出された。ここで事業名が一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8年4月1日から平成12年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護については現状保存は困難なため範囲確認調査(試掘)を希望する旨協議された。

平成7年11月と平成8年5月、北海道教育委員会は当事業地内で初の範囲確認調査を千歳市柏台地区の仮称祝梅砂丘遺跡とした包蔵地で実施した。その結果、地表下約4mにある恵庭a降下軽石層(En-a)直下の風成堆積物中から、旧石器時代の遺物である黒曜石製剥片石器類が検出された。範囲や工法など遺跡の取り扱いについて協議が行われ、工事前の発掘調査を実施することとなった。柏台1遺跡として登載されたこの遺跡は、平成9(1997)・10年に(財)北海道埋蔵文化財センターが越田賢一郎・福井淳一を担当者として6,300㎡の発掘調査を実施、En-a直下に広がる疎林樹木痕とEn-a下位の火山灰質シルト層から約32,000点の旧石器時代遺物を検出した。遺物は15カ所の集中域に分かれ、13カ所で炉跡、琥珀玉も1点確認できた。(北埋調報138集)

その後、用地買収の遅延などにより、事業地内の埋蔵文化財関係調査は途絶えていた。以降の範囲確認調査は以下のとおりである(平成17年3月現在)。

平成12(2000)年6月 仮称チブニー川左岸遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス8)実施。4,800㎡について調査必要と判断。チブニー1遺跡と呼称。

平成13年5月 チブニー川の右岸(平成3年所在確認調査:仮称キウス9)の一部実施。2,500㎡について調査必要と判断。チブニー2遺跡と呼称。

平成13年9月 キウス9遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス10)南半部実施。

平成13年10月 キウス13号周堤墓と周辺を試掘。周堤墓とされていた部分は耕作等の削平による高まりの残存と判明したため、遺物の得られた範囲をもってオリイカ1遺跡と名称変更し、3,900㎡の調査必要区域を設定した。

平成13年9月・10月 オリイカ1遺跡の北東400mにあるオリイカ2遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス7)実施。9月は確認調査範囲の中央を通る市道祝梅第2道路の北側、11月は南側が対象。樽前c降下軽石層より上位の焼骨片の多量検出と縄文期の土器石器から、アイヌ文化期の集落跡と縄文期の遺物包含地と目される約9,000㎡について調査が必要と判断。

平成14年6月 オリイカ1遺跡の現オリイカ川右岸確認調査未了地について実施。1,600㎡の調査必要範囲が確定。

平成14年7~8月・10月 キウス5遺跡で実施。旧河川部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲が確定した。

平成14年10月 チブニー2遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス9)の北半部実施。

平成15年10月 チブニー2遺跡の確認調査未了地(市道協和中央線の両側)実施。遺物の出土等により遺構確認を含めて約15,000㎡の追加確定。

平成16年10月 祝梅川山田遺跡の一部実施。

同 キウス9遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス10)北半部(キウス川左岸部未了)実施。擦文期の竪穴と思われる凹みや擦文土器・縄文土器石器を確認。16,500㎡については調査が必要と判断。

以上の範囲確認調査から発掘調査が必要と判断された遺跡は、平成13年度から(財)北海道埋蔵文化財

センターが、札幌開発建設部札幌新道建設事務所（平成16年度から千歳道路事務所）の工事計画に則って以下のごとく発掘調査を実施している（平成16年度現在）

- 平成13年度 チブニー1遺跡 4,360^m² 担当者：佐川俊一・笠原興 主に縄文後・晩期・擦文期・アイヌ期の土器・石器・鉄製品 報告書：北埋調報173集
- 同 チブニー2遺跡 450^m² 担当者：山中文雄 主に縄文晩期の遺物 報告書：北埋調報173集
- 平成14年度 オルイカ1遺跡 5,460^m² 担当者：佐川俊一・末光正卓 縄文後期の住居跡・後期晩期の土器石器・アイヌ期の平地住居跡など 報告書：北埋調報188集
- 同 オルイカ2遺跡 3,230^m² 担当者：和泉田毅・阿部明義 旧石器ブロック・縄文中期晩期の土器石器・アイヌ期の平地住居跡（集落）など 報告書：北埋調報189集
- 平成15年度 オルイカ1遺跡 1,600^m² 担当者：菊池慈人・末光正卓 主に縄文後期の遺物 報告書：北埋調報206集
- 同 チブニー2遺跡 2,000^m² 担当者：皆川洋一・広田良成 縄文中期の住居跡と遺物・擦文期の墓と鉄製品・アイヌ期の平地住居跡と鉄製品・青磁碗など 報告書：北埋調報207集
- 同 キウス5遺跡 5,000^m² 担当者：三浦正人 縄文中期の住居跡と遺物・旧河川部で縄文期と近世の木製品・低位部に近世の畑跡 報告書：未報告・調査年報16参照
- 平成16年度 オルイカ2遺跡 5,500^m² 担当者：阿部明義・広田良成 当報告書
- 同 チブニー2遺跡 14,700^m² 13,400^m²に変更 担当者：皆川洋一・菊池慈人 主に縄文晩期の遺物 報告書：未報告・平成17年度刊行予定・調査年報17参照
- 同 キウス5遺跡 1,056^m² 担当者：皆川洋一・菊池慈人 主に縄文晩期・擦文期の遺物 報告書：未報告・調査年報17参照

これらのうち、オルイカ2遺跡の調査に至る経緯について詳述する。オルイカ2遺跡は千歳市中央地区の南西部に位置し、現国道337号と計画新道が交差接触するすぐ北東側にある。そのため道路切り替えなどの工事が複雑に絡む近辺になることから、工事の優先度はオルイカ1遺跡地区に次いで高いと言えた。平成13年度の範囲確認調査で約9,000^m²の調査範囲が確定。平成14年度は調査範囲の中央を通る市道祝梅第2道路のカルバート工事を優先するため、これに関わる600^m²を含んだ5,100^m²の調査が予定されたが、併行して予定されたオルイカ1遺跡には範囲確認未了部分があり、オルイカ2遺跡の進行度には未定部分があった。平成14年5月からの発掘調査は、優先度が高いオルイカ1遺跡を調査体制全体で取り組み事態の進展を待った。しかし、状況の打開ができないまま6月上旬にはオルイカ2遺跡の調査準備を開始、下旬には併行して調査を開始した。調査の進行につれ、予想より広い範囲でのアイヌ期平地住居の展開や旧石器の発見があり、14年度は結果的に調査面積3,230^m²とし、残りは次年度以降の扱いとなった。範囲中央部を調査したため、残りは南北に分断された形状になった。14年度調査の報告書は『千歳市オルイカ2遺跡 北埋調報189』として刊行した。

オルイカ2遺跡の確定調査範囲の残り5,500^m²は、工事工程上1年置いた平成16年度に調査する運びとなった。その調査報告が本書である。なお、16年度はチブニー2遺跡も併行して発掘調査を行った。14年度調査時の体験から、堆肥製造の悪臭が漂うオルイカ2遺跡への事務所や作業員棟設置は避け、チブニー2遺跡付近の本部から作業員輸送をして調査に対応した。

また、南長沼用水を挟んだ北側には、範囲確認調査の未了部分がまだ存在することを書き添えておく。
(三浦 正人)

4. 調査結果の概要

平成14年度に3,230㎡、今年度に5,500㎡を調査した。その結果、特にアイヌ文化期の住居群（コタン）の跡であることが確認された。また、札滑型細石刃核を含む白滝産黒曜石の旧石器時代のブロックが検出され、原産地から遠く離れた「消費地遺跡」としての様相が明らかになった。

アイヌ文化期の遺構と遺物

チセ跡9軒、建物跡5棟、灰送り場などが明瞭に検出された。なお、墓域は検出されなかった。

平地住居（チセ）跡は母屋のみのもものと納屋（セム）がつくものがある。基本的に長方形である。

長軸：東西方向を基本としつつも、必ずしも各々正方位ではない。

規模：母屋は東西4～5m・南北3～4mほどのものが多いが、最大東西7.6m・南北7.0mのものがある。納屋（兼出入口）は2～3m程度である。

炉：母屋の中央西寄りにある。灰と焼土が20cm程度の厚みをもって重なっている。

主体は東西方向に長軸をもつ楕円形だが、長方形に灰や焼土が広がるものは、丸太などの木枠で囲んだ炉と考えられる。焼土縁辺部には、食生活や儀礼に伴って刺したと考えられる無数の小さな棒状の穴が確認できるものがある。

柱穴：各チセ跡から10～30本検出されている。直径6～8cm、深さ30～40cm程度のものが多いが、最大規模のチセの柱穴は直径10～15cm、深さ50～70cmに及ぶ。全体的に住居の中心側に内傾している。先端がとがっており打ち込んでいることがわかる。また壁を構成するもの以外に、寝床や棚、灯明台などにあたると考えられる補助的な柱穴も検出されている。

遺物：小礫（錘石や火打石と考えられる）が散在し、刀子などの鉄製品、銅製品、ガラス玉のほか、火皿、漆器の塗膜やカワシンジュガイ（殻皮のみ）などが出土している。また、「神窓」（ロルンプヤル）にあたる東側の柱穴の外から出土した鹿の頭蓋骨や角は、屋外での儀礼をうかがわせる。

建物跡は、倉庫（ブ）、小熊の檻（ヘペレセツ）、便所（アシシル）などにあたる。

柱穴：9本組みのもの〔建物跡1・4〕は、やや太く（10～15cm）深い（50～70cm）。

それ以外は細く（6～9cm）やや浅い（20～40cm）。また、やや不規則な配置である。

杭列は、平地住居跡2の北側および南側に4～5本の柱穴が直列するものである。

灰送り場には、灰集中箇所や焼土が密集している。主にチセ跡の西側に位置する。大木の根がはった跡があり、そのような場所が選ばれたと考えられる。灰集中は10～20cm程度の厚みがあり、多量の魚骨・貝・炭化物などを含んでいる。また鉄片、火打石片や古銭なども出土している。カワシンジュガイ集中は、10cm前後の長楕円形の二枚貝（殻皮のみが残る）が折り重なるようにまとまって出土したものである。

縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡は2ヵ年で7軒検出された。縄文中期半ばの土器が伴い、径3m程度の小型のものがほとんどであるが、長軸8mに及ぶ長楕円形の浅い掘り込みの住居跡が1軒検出された。

Tピットはやや小型で間隔が狭いものが8基、1.5m以上の深さの大型で間隔の広いものが3基それぞれ列をなして検出された。

焼土は217ヵ所検出されたが、「焼土列」と「焼土群」にまとまるものが多い。

焼土列：15～20cmの厚さで赤褐色に強く被熱している焼土が2列直列し、端部が閉じる。2ヵ所のまとまりを検出した。縄文中期半ばの土器が伴う。

焼土群：薄く弱く被熱している不整形な焼土が密集したもの。2ヵ所のまとまりを検出した。

遺物は、集中箇所などから出土した黒曜石のフレイクが全出土遺物点数の6割を占めている。一方、出土土器の主体時期は中期半ば（萩ヶ岡3式）で、晩期後葉（タンネトウL式）が続き、早期後半の土器もやや多数出土している。特徴的な遺物として、縄文時代晩期では、平成14年度の調査で黒曜石の原石や漆器（塗膜のみ）など特殊な遺物が単独で出土した。黒曜石原石は長さ約35cm、重さ2.5kg前後の角柱状のものが2本並んで出土した。縄文中期では、北海道南部～東北地方に多く見られる三角形土製品が竪穴住居跡などから多数出土した。

旧石器時代の遺物

2ヵ年の調査で4ヵ所のブロックが検出された。すべて札滑型細石刃核を含む細石刃石器群である。

出土範囲・層位の特徴：規模は12～24mとばらつきがあるが、平面的には各々おおむね楕円形でまとまっている。層位的には、縄文時代の遺物包含層である黒色土層からローム層にかけて出土している。大型の石器も上位から出土している。これらは風倒木や凍上現象等の自然の営力によるものと考えられる。

石材の特徴：白滝産とみられる茶色味の強い黒曜石が主体である。白滝産以外とみられる黒曜石は細石刃の一部に十勝三股産、置戸産と判定されたものがある。彫器や搔器は、黒曜石製もあるが頁岩製や珪岩製が多い。

主な石器の内容：各ブロックにそれぞれ特徴があるものの、石器組成に大きな差はない。

〔細石刃・細石刃核〕札滑型細石刃核が11点出土した。細石刃核は各ブロックから出土しており、最大のもので長さ15cm、細石刃剥離面が7cmを超えるものがある。細石刃は460点出土した。なお今回の調査で、細石刃核の製作工程を示す接合資料もある。

〔彫器・搔器・削器〕彫器や搔器は各ブロックから少数ずつ出土している。これらの製作跡を示す剥片類はほとんど出土せず、製品のまま遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。削器は黒曜石の大型の調整剥片を素材としているものが多い。

〔剥片類〕微細な剥片が多く出土している。これらは石器の二次加工の産物とみられる。このほか、やや大型の調整剥片が多数見られ、一部接合した。原石からある程度加工した素材を遺跡内に持ち込み、両面調整体などの石器を製作していたことがうかがえる。

このほか、両面調整石器、石核などが出土している。

（阿部明義）

表 I - 1 遺構一覧（2ヵ年計）

		H14	H16	計	備考
アイヌ文化期	平地住居跡	6	5	9	両年度にまたぐ遺構あり
	うち 炉・灰集中	8	7	15	
	建物跡	3	2	5	
	杭列	4		4	
	柱穴（単独）	16	14	30	
	焼土・灰集中	13	34	47	灰送り場複数
	カワシージュガイ集中		7	7	
縄文時代	竪穴住居跡	1	6	7	
	土坑	4	23	27	
	Tピット	8	3	11	
	焼土	83	134	217	焼土列あり
	土器集中	3	5	8	
	礫集中		1	1	
	フレイク集中	4	7	11	
旧石器時代	旧石器ブロック	1	3	4	細石刃石器群

表 I - 2 出土遺物一覧（2ヵ年計）

		H14	H16	計
土器	縄文早期	454	5842	6296
	縄文前期	1	465	466
	縄文中期	5106	10421	15527
	縄文後期	969	1365	2334
	縄文晩期	4016	7633	11649
	続縄文期	8	34	42
	不明	32	205	237
土製品	三角形ほか	54	96	150
土器等合計		10640	26061	36701
石器	定形の石器	299	882	1181
	フレイク等	6849	55423	62272
	礫等	496	1396	1892
	旧石器	784	2279	3033
石製品	玉類	6	4	10
石器・礫等合計		8434	59984	68388
金属製品	鉄製品	22	59	83
	銅製品ほか	2	6	8
ガラス製品	玉	3	5	8
その他	漆器（塗膜）、カワシージュガイ殻皮、骨角器、獣・魚骨等、炭化材、種子、ベンガラ塊、粘土塊、石炭など			

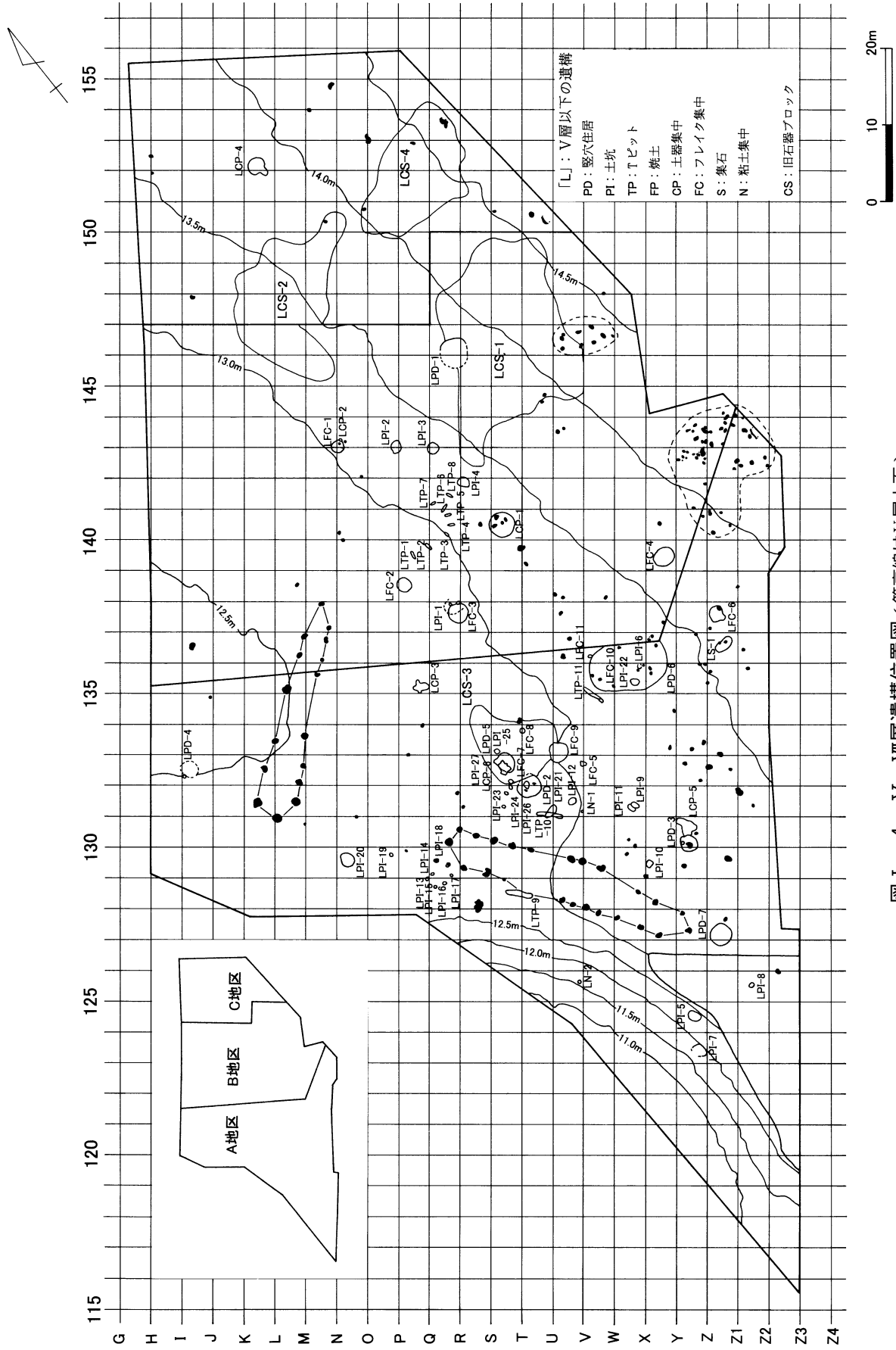


図 I - 4 V ~ VII層遺構位置図 (等高線はV層上面)

表 I - 3 遺物集計表 (平成16年度調査)

		遺構	包含層	計
土器	I a	1	11	12
	I b	57	1672	1729
	I b - 1	88	1472	1560
	I b - 2		8	8
	I b - 3	11	541	552
	I b - 4	27	1954	1981
	II a - 1	328	137	465
	III a		32	32
	III b	44	610	654
	III b - 1	2683	5999	8682
	III b - 3	555	498	1053
	IV a	9	1348	1357
	IV b	1	7	8
	V c	946	6687	7633
VI		34	34	
不明	181	24	205	
計	4931	21034	25965	
土製品	三角形土製品	31	33	64
	土器片再生円盤	4	8	12
	ミニチュア		1	1
	焼成粘土塊	5	14	19
	計	40	56	96
金属製品	鉄製品	44	15	59
	銅製品	3		3
	古銭	2		2
	銀製品	1		1
	計	50	15	65
ガラス製品	玉	4	1	5
漆製品	塗膜	27	3	30
骨製品	骨角器	2		2
自然遺物	骨	147	7	154
	カワシンジュガイ	184	31	215
	貝	20		20
	種子	11	4	15
	炭化材	109	4	113
	石炭		1	1
	ベンガラ塊	1	4	5
	その他・不明	3	5	8
計	475	56	531	

		遺構	包含層	計
石器等	石鏃	23	155	178
	石槍	5	13	18
	石錐	1	18	19
	つまみ付きナイフ	1	27	28
	スクレイパー	14	63	77
	両面調整石器	35	56	91
	石斧	26	329	355
	すり石	2	18	20
	たたき石	6	29	35
	石皿	3	30	33
	火皿	1		1
	砥石	3	34	37
	石核	3	23	26
	R フレイク	41	146	187
	U フレイク	7	24	31
	フレイク	44391	10814	55205
	火打石	13		13
	棒状礫	27		27
	焼礫	19	80	99
	礫	324	902	1226
軽石	3	1	4	
原石		1	1	
計	44948	12763	57711	
石製品	玉		4	4
			ブロック外	
旧石器	細石刃	334	19	353
	細石刃核	8		8
	細石刃核削片	12	1	13
	両面調整石器	3		3
	彫器	9	3	12
	彫器削片	7		7
	搔器	9	4	13
	削器	26	3	29
	石刃		7	7
	石核	2	1	3
	石斧		1	1
	尖頭器		2	2
	二次加工痕ある剥片	24	6	30
	剥片	1660	139	1799
計	2094	186	2280	

土器等 26061
 石器等 59995
 その他人工遺物 102

合計 86158

II 遺跡の立地と周辺の遺跡

1. 遺跡の立地と環境

(1) 位置と地名の由来

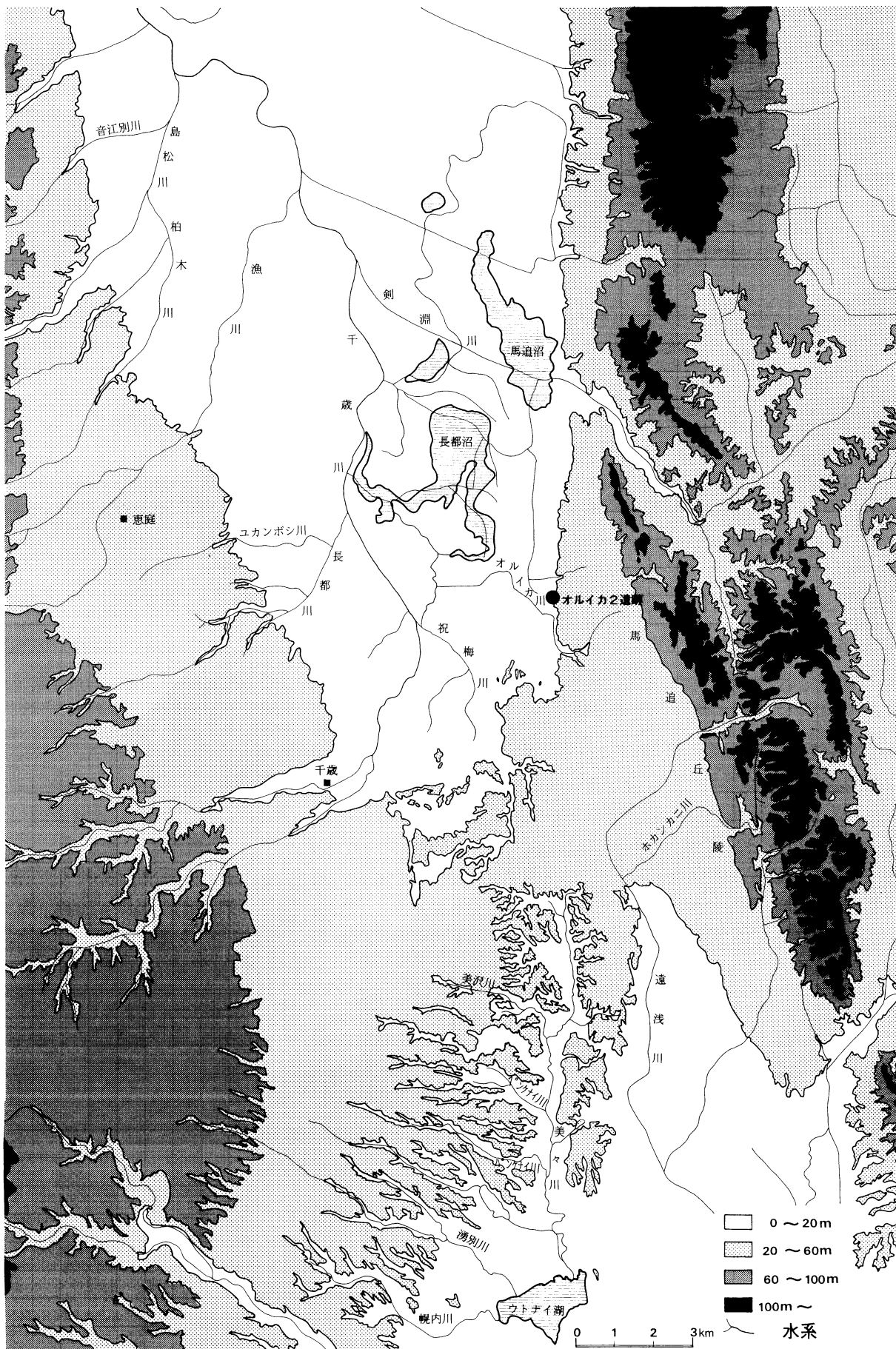
オリカ2遺跡は、千歳市街地の北東約6km、「中央」地区に所在する。また北海道横断自動車道千歳東I.C.からは南に約2km、同時に調査を行ったオリカ1遺跡からは北東へ約400mの距離にある。遺跡は国道337号線沿線付近の馬追丘陵側に、南北約180m・東西約100mの範囲に広がっている。「オリカ」とは、『北海道蝦夷語地名解』（永田方正1891）によれば、アイヌ語の「o - ruika 川尻・橋」の意であるとされる。地名由来のオリカ川は、馬追丘陵南端部付近の裾部を水源とし、陸上自衛隊駐屯地内の緩斜面を南・西に開析し、オリカ2遺跡から約300m南側で南東から北西に向かって流れている。その先は、明治29（1896）年に発行された北海道仮製五万分の一図「長都」などによると、かつては現在の国道337号と交差した後国道と併行して北流し（現在の第十五号排水川）丸子山の西側を流れ、チプエ（チプニ川）・キウシ（キウス川）などの流れを集め、イカベツ（イカベツ川）を通してオサツトーに注いでいた。現在は排水路整備が進み、国道337号との交差付近（オリカ1遺跡付近）から西方の第十四号排水川に向かって流れている。

(2) 遺跡周辺の地形・環境

日本海と太平洋を結ぶ標高25m以下の石狩低地帯の東側には、北海道中央部を南北に走る夕張山地があり、その西側には馬追丘陵がある。この丘陵は千歳市、空知地方の長沼町・由仁町、胆振地方の追分町・早来町にまたがって、南北に緩やかに広がっている。標高273mの馬追山を最高地点とし、標高150m前後、延長約30kmにおよぶ丘陵である。馬追丘陵の西側は、現在は水田や畑地として利用されているが、戦前までは長都沼（オサツトー）、馬追沼（マオイトー）など大小の沼があり、支笏湖を水源とする千歳川や夕張山地から流れ出る夕張川、剣淵川などが流入するため氾濫が繰り返される低地であった。しかし昭和26（1951）年～昭和44（1969）年の国営灌漑排水事業により、長都沼・馬追沼一帯を埋め立て、川の切り替えなどを行い耕地が造成され、現在は旧河道・小河谷・自然堤防・氾濫原などの微地形が広がる。また遺跡の南、現在の陸上自衛隊駐屯地の西側縁辺部には、内陸古砂丘である千歳古砂丘が2km以上にわたって断続的に広がっており、さらに祝梅川・メボシ川の流域・新千歳空港付近に広がる。かつて遺跡の北西約500mにあった丸子山も古砂丘の一部である。

オリカ2遺跡の現地表面の標高は12～15mで、西へ向かって低くなる緩斜面となっている。樽前山起源の降下軽石層が厚く堆積し、その上部に土壌が幾分発達している。道路用地となる以前には、北東側は宅地の周りに広葉樹林が広がっており、南西側は畑地および荒地（湿地）になっていた。現在でも遺跡周辺には、広葉樹林や針葉樹林がところどころに残っている。明治43（1910）年「陸地測量部」発行の『漁（いざり）』（図II-2）によれば、オリカ2遺跡付近は「潤葉樹林」が広がり、一部がオリカ川河畔の湿地帯になっている様子がみられる。また遺跡の西側には、馬追丘陵に沿って直線的に南北に伸びる道路がある。これは1891年に完成した由仁と千歳を結ぶ「由仁道路（ゆにどうろ）」の一部で、現在の国道337号線の一部にあたる。

遺跡の西方には平坦な地形が広がっており、遠くに樽前山・恵庭岳・札幌岳・無意根山・手稲山など標高1000m～1500mの山々がある。



図Ⅱ - 1 遺跡周辺の地形図

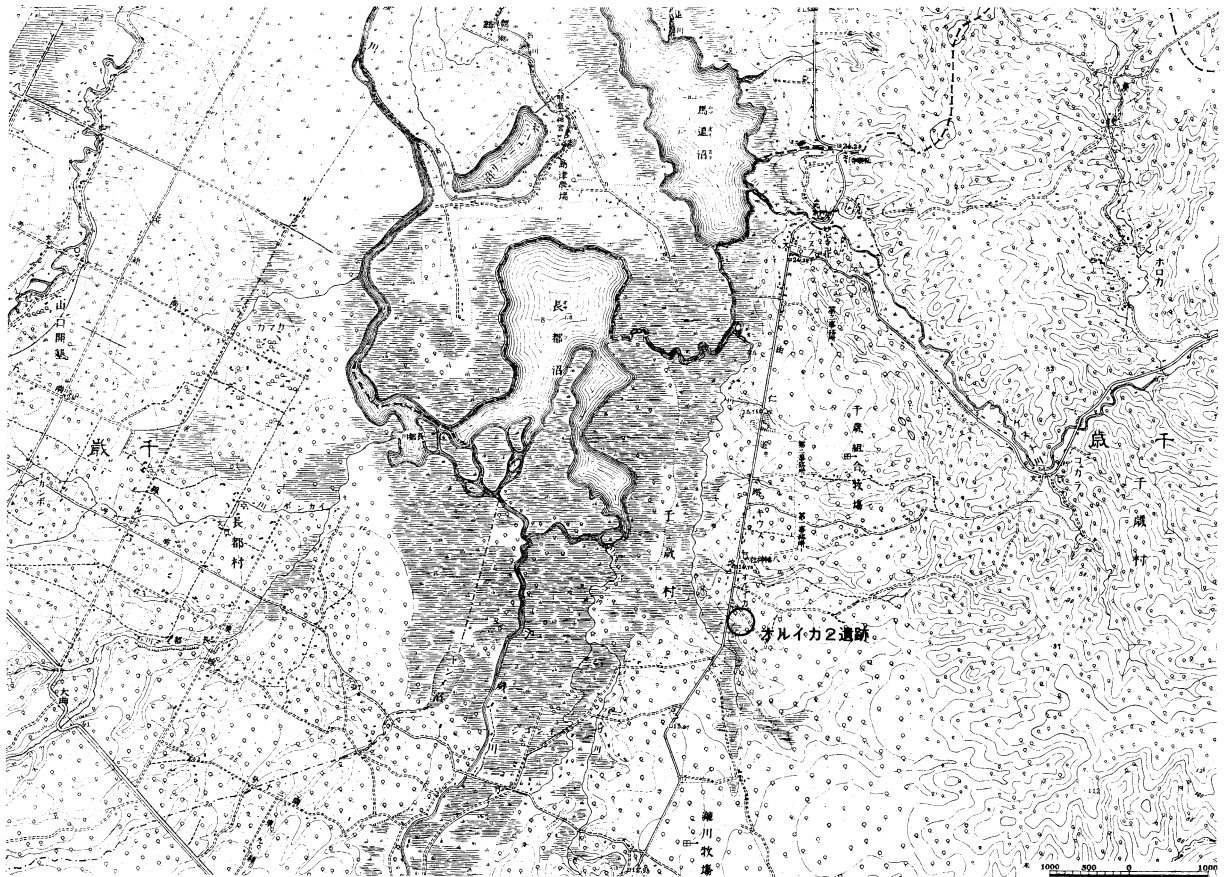


図 II - 2 北海道假製五万分の一図「漁」の一部 (1910年発行)

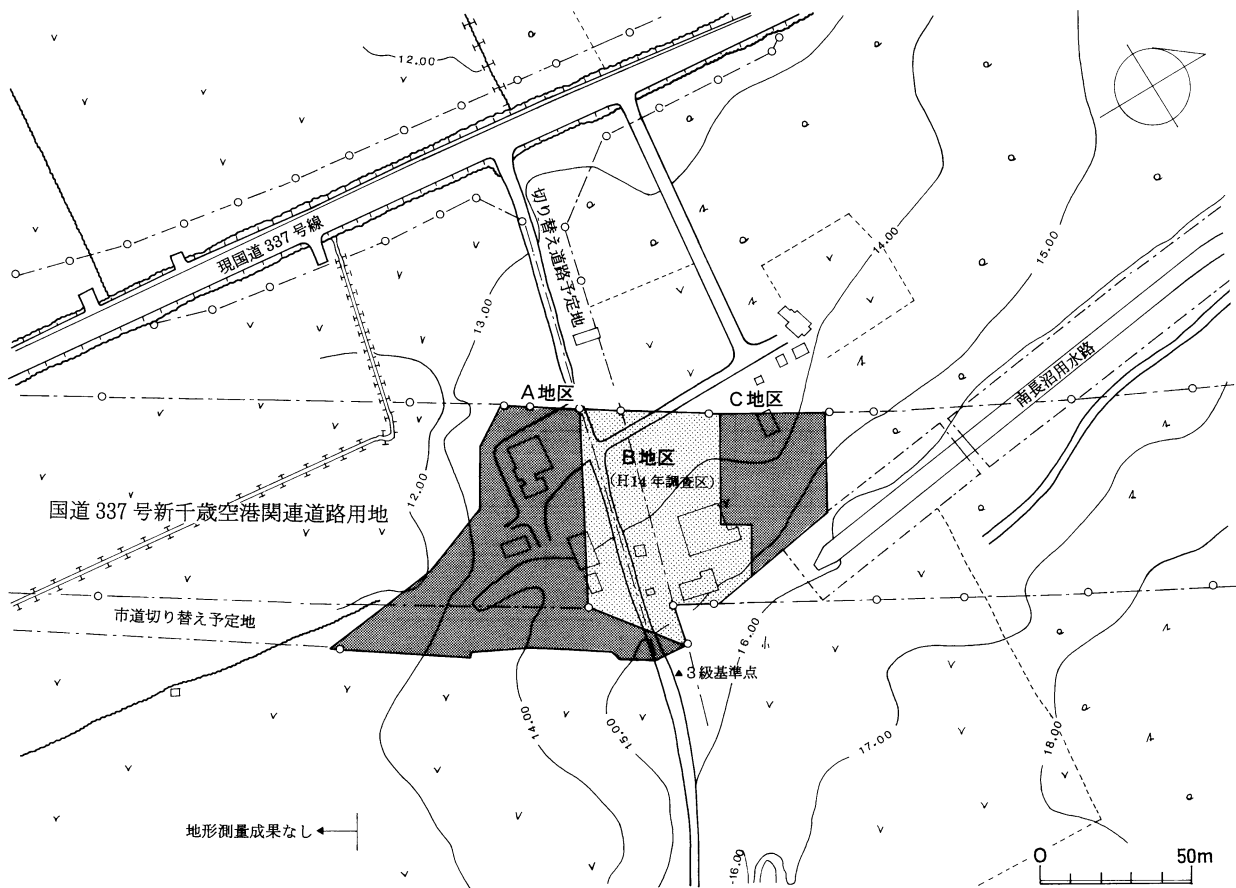


図 II - 3 調査区周辺の現況図

(3) カワシンジュガイについて

カワシンジュガイの特徴

カワシンジュガイはイシガイ目カワシンジュガイ科に属する淡水産の二枚貝である。貝殻の長さは10cm前後で、幅は約4cmに対して厚さが約6cmある。形は長楕円形で、殻の外側表面は黒褐色～黒色であるが殻の内側は青みがかった真珠光沢が強い。

氷河期にシベリア方面から日本列島に分布を広げた後の遺存種であり、日本が分布の南限になっている。カワシンジュガイという名前の由来は、昔、類似する貝から真珠を採取していたのでこの名がついたとされている。

生息環境は、夏季でも水温が20℃以上にならないような河川上流の渓流部を好む。流速は比較的早いほうがよい。砂礫底や礫底に体を半分以上うずめて、プランクトンなどを捕食して生活している。幼生はイワナやヤマメなどのサケ科魚類のエラやヒレに付着して、これらとともに移動している。成長が遅くて寿命が長く、100年生きるといわれている。

カワシンジュガイは現在、河川改修などによる生息場所の消失、生活排水の流入などによる水質の悪化、流量の減少、水温の上昇などさまざまな原因により急速に個体数を減じている。日本列島では北海道・岩手県・栃木県・長野県・福井県・広島県・山口県などに局所的に分布するにまで減少しており、環境省により絶滅危惧Ⅱ種（VU）に指定されている。

千歳川でも、以前は上流～中流域にかけていたところでカワシンジュガイが棲息していたが、現在では上～中流域の一部で見られるのみである。それでも全国的には最も多くのカワシンジュガイが見られる河川の一つとなっている。

カワシンジュガイの利用

カワシンジュガイは縄文時代の遺跡からも出土している。オリイカ2遺跡の周辺では、約2km北にあるキウス4遺跡の泥炭湿地および盛土遺構から殻皮が多数出土している。後者は縄文時代後期後半に人為的に形成されたもので、カワシンジュガイも利用されていたことが窺える。

アイヌ文化期について、梅川4遺跡では平地住居跡などの建物跡の周辺からカワシンジュガイ集中が多数検出されている。これらの周囲は不規則なくぼみがある場所が多く、大木の根元に置かれた可能性がある。また末広遺跡ではカワシンジュガイ集中が33カ所検出されている。

アイヌ文化期に関する記録（『蝦夷生計図説』）には、穀物の穂積み具としてカワシンジュガイの殻が利用されていたことが描かれている。しかしカワシンジュガイは身近に得られる貝であり、食用として多量に採取されたことのほかにも利用されたことが考えられる。（阿部）



図Ⅱ - 4 カワシンジュガイに関する記録（『蝦夷生計図説』）

2. 周辺の遺跡

オルイカ2遺跡周辺の遺跡を地形図(図II-5)と一覧表(表II-1・2)を用いて記す。

図II-5は、大正5・6(1916・1917)年に陸地測量部が測図した5万分の1地形図『漁』と平成13(2001)年の国土地理院発行の5万分の1地形図『長都』・『千歳』、および千歳市教育委員会の埋蔵文化財包蔵地分布図を利用して作成した、オルイカ2遺跡周辺の遺跡分布図である。これらの遺跡の時代・時期の特色は、発掘調査等によりその内容が比較的明らかなものをもとに記述すると次のようになる。(括弧内の数字は遺跡登載番号。)

<旧石器時代>

オルイカ2遺跡の北西約500mにある丸子山遺跡(68)で恵庭a降下軽石層の上・下から遺物が出土している。下層は約2万年前と推定できる石器群で、黒曜石製のスクレイパーのほかには定形的なものに乏しい。上層はオシヨロッコ型細石刃核を伴う石器群で、黒曜石と頁岩を素材とする。また、キウス5遺跡(93)C地区・キウス7遺跡(265)でも細石刃期石器群が出土している。オルイカ1遺跡の南にある祝梅下層(三角山地点)遺跡(44)では道内で最も古い石器群の一つと考えられているナイフ形石器が恵庭a降下軽石層の下から出土している。メボシ川2遺跡(53)では、オシヨロッコ型細石刃核を伴う石器群と峠下型細石刃核を伴う石器群がそれぞれ別のブロックから出土している。柏台1遺跡(274)では、恵庭a降下軽石層の下から蘭越型細石刃核を伴うブロックが検出されたほか、礫群・炉跡が検出され、コハク玉、石製品、顔料の原材なども出土した。さらに、埋没林が広域に検出された。

<縄文時代早期>

キウス5遺跡A地区から遺物が多量に出土している。前半のものは、暁式土器、貝殻条痕文土器である。後半のものは、東釧路Ⅲ式土器、コッタロ式土器が多い。住居跡は、暁式期のものがキウス川上流の段丘上で、東釧路Ⅲ式期・コッタロ式期のものが下流の段丘上で検出されている。また、キウス7遺跡でもコッタロ式期の住居跡・土坑墓が見ついている。早期後半は、キウス4遺跡(92)で東釧路Ⅲ式～東釧路Ⅳ式期の遺物が出土しており、西側のA地区では住居跡が検出されている。キウス川流域以外では、梅川4遺跡(59)・ケネフチ6遺跡(261)・オサットー1遺跡(269)・チブニー2遺跡(278)などで早期後半の遺物が出土している。

<縄文時代前期>

キウス5遺跡B地区には、キウス川旧河道沿いの斜面上に綱文式期の集落跡があり、石鎌・石錐・つまみ付きナイフ・石斧などが副葬された土坑墓も検出された。キウス4遺跡西側のA地区でも綱文式期の集落跡が見ついている。ほかに花積下層式・静内中野式に相当する時期の土器・木製品も出土している。その他イカベツ2遺跡(107)などで綱文土器が出土している。

<縄文時代中期>

丸子山遺跡で、天神山式期あるいは萩ヶ岡2・3式期の環壕が見ついている。また同遺跡では北筒式期の住居跡が検出された。キウス5遺跡では、B地区に北筒式期の集落、C地区に柏木川式期の集落が確認されている。キウス4遺跡・キウス7遺跡・祝梅川山田遺跡(49)でも柏木川式期の住居跡が検出されている。

<縄文時代後期>

前葉は余市式・タブコ式の住居跡や土坑が、キウス4遺跡・キウス5遺跡A地区・キウス7遺跡・丸子山遺跡で見ついている。キウス7遺跡・オルイカ1遺跡(88)からは、余市式・タブコ

式の土器囲い炉を伴う住居跡が検出されている。またキウス4遺跡Q地区では、入江式とタブコブ式が共伴して出土する土坑が検出された。中葉の手稲式期・鮎澗式期は、キウス5遺跡A地区やキウス7遺跡で住居跡・埋甕などが確認されている。キウス4遺跡(千歳市教委調査)では、手稲式期の壺形土器が埋納された土坑が検出された。後葉の堂林式期には周堤墓が多数構築された。国指定史跡キウス周堤墓群をはじめキウス4遺跡、丸子山遺跡などで計32基が検出されている。キウス4遺跡では、周堤墓のほか、同時期の住居跡・掘立柱建物跡、南北の盛土遺構、道跡、水場遺構などが確認されており、大量の遺物が出土している。また、キウス1遺跡(89)でも、住居跡や盛土と考えられる遺構が検出されており、キウス周堤墓群に対応する集落の存在が想定される。

<縄文時代晩期>

キウス5遺跡A地区・キウス7遺跡で、タンネットウL式期の土坑墓が多数確認されている。キウス5遺跡A地区では、石鏃が覆土中に撒かれた土坑墓や、多量の炭化材や割られた矢柄研磨器が出土した火葬墓、大洞A式相当の壺が置かれた火葬墓など多様な葬制が見られる。梅川3遺跡(58)では、竪穴住居跡のほか、坑底にベンガラが撒かれた土坑墓が検出されている。そのほか祝梅三角山D遺跡(45)・祝梅川山田遺跡・チブニー1遺跡(277)・チブニー2遺跡(278)などの遺跡から晩期の土器が出土している。またオリイカ1遺跡で道跡が検出されている。

<続縄文時代>

全体的に検出例が少ない。キウス5遺跡・キウス7遺跡で、大狩部式期の住居跡や後北C₂-D式期の土坑などが検出されている。キウス4遺跡では旧河道から恵山式土器と木製品が出土した。また丸子山遺跡でも恵山系の土器が少量出土している。末広遺跡(37)では、後北C₂-D式期の竪穴住居跡や土坑墓が検出された。

<擦文時代>

丸子山遺跡では、8世紀頃と推定される住居跡や建物跡・土坑などが確認された。キウス5遺跡A地区では、坑外から鍬先の出土した墓坑が検出された。キウス5遺跡C地区には、中央部に炉のある平地住居があり、その南側の山林中には擦文時代の住居跡と考えられる凹みが複数見られ、土器片が散在している。末広遺跡では100軒を超える竪穴住居や鍛冶遺構と判断される竪穴のほか、土坑墓なども検出された。白頭山・苫小牧降下火山灰(B-Tm)の降灰期に近い時期の遺構も多く含まれている。このほか、祝梅の遺跡群(46~55)、梅川の遺跡群(56~59)、トメト川の遺跡群(38~40)、アンカリトーの遺跡群(62~67)など、擦文文化に関する遺跡は非常に多い。

<アイヌ文化期>

平地住居跡や建物跡の検出例が近年増えている。末広遺跡では、平地式建物跡14棟・土坑墓30基・カワシンジュガイの集積33ヵ所・焼土319ヵ所など多くの遺構が検出された。梅川4遺跡でも、規模は小さいものの同様の遺構群が検出されている。またトメト川3遺跡(40)では、平地住居跡・建物跡のほか、屋外灰集中箇所が多数検出された。鍋・刀子などの鉄製品のほか、火皿・唐津製播鉢なども出土している。オサットー1遺跡では、内耳鉄鍋・斧・刀子・キセルなどの副葬された墓坑が見つかっている。チブニー1遺跡では骨片を多量に含む焼土と集石が検出された。またチブニー2遺跡では、平地式住居跡から青磁碗、鉄鍋などが出土している。キウス5遺跡には太刀の副葬された墓坑がある。キウス7遺跡では沢づたいの道跡と柱跡群が検出され、ガラス玉も出土している。キウス4遺跡では旧河道より曲げ物の側板をはじめ多数の木製品が出土した。また千歳川河畔(根志越3遺跡・241)とママチ川河畔(198)から丸木舟が出土している。チャシは釜加(2)・ケネフチ(102)にあり、後者は面崖式で一条の堀を有する。

以上のように時期別に概観した遺跡を、人々の生活範囲という平面でとらえてみる。オリイカ2遺跡付近の遺跡分布は、①ケネフチ川流域、②キウス川流域、③丸子山古砂丘付近、④祝梅川流域、⑤トメト川流域（千歳川対岸）に大別できる。このうち、最近の発掘調査により遺跡の状況が比較的明らかなのは②・③・④の地域であり、①は不明な部分が多い。

旧石器時代は、④および③といった古砂丘が分布する地域にその中心があったようであるが、②の付近まで活動の範囲が及んでいた形跡が見られる。

縄文時代早期は、前半②のうちキウス川上流に中心があり、後半から末葉にかけて次第に下流へ拡大していくようである。前期前半は、②のキウス川右岸の段丘上に2ヵ所集落が確認されており、このころから小規模な集落が何ヵ所かに分かれて存在するようになったらしい。中期中葉から後葉にかけて③では環壕が掘られた後に集落が営まれ、③・④・⑤でも同時期の集落が見られる。後期前葉から中葉は、②の各地で集落が成立する。後葉になると、②・③の地域で周堤墓が構築される。特に②では、キウス川下流（キウス4遺跡）から北側のモウシ川の川筋（キウス周堤墓群・キウス1遺跡）へ中心が移動していくようである。晩期前葉から中葉にかけては、オリイカ付近で人々の活動の痕跡は未だ確認されていない。晩期後葉には、②のキウス川段丘上や④の地域に墓域が見られるが、集落跡などは確認されていない。

続縄文時代は、③および④の地域で住居跡・墓坑などが確認されており、この付近に活動範囲があったものと見られるが、他の時期に比較して活動の痕跡が少ない。

擦文時代には、④の地域に多数の竪穴群・土坑墓群があり、この付近が中心であったとみられる。そのほか③で8世紀ごろの集落が確認されたほか、②のキウス川段丘上にも集落が存在していたと考えられる。

アイヌ文化期では、中世・近世が明確に区別できるものは少ないが、全体的には人々の生活範囲は広く①・②・③・④・⑤の各地に及ぶようになる。特に④の地域での活動が目立つ。⑤の釜加や①のケネフチでは、チャシが営まれるようになる。

現在では、古くから④の地域の西側に千歳市街地が形成され、④の地域は新興住宅地が増えてきている。（阿部）

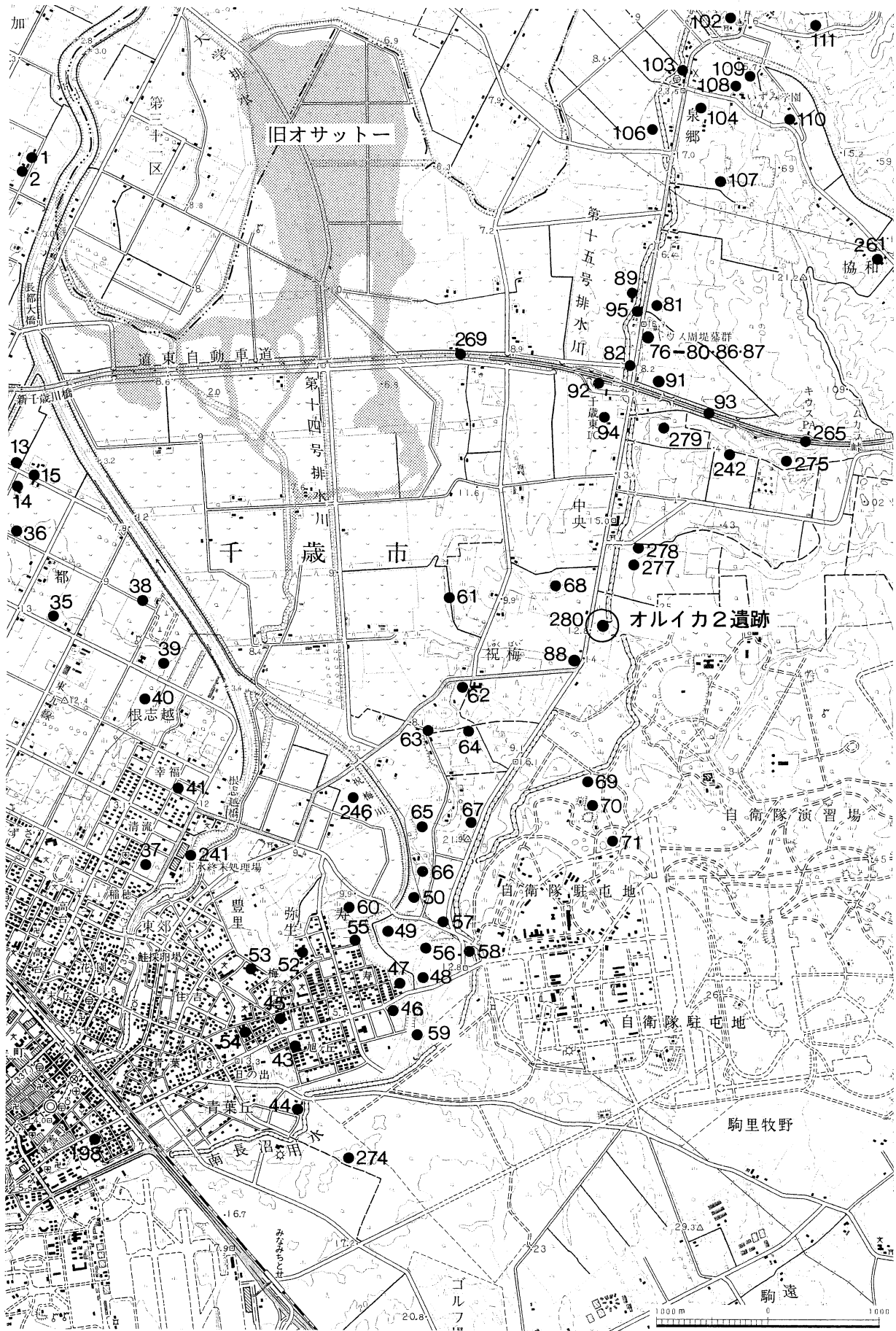


図 II - 5 周辺の遺跡

表II - 1 周辺の遺跡一覧(1)

No	遺跡名	種別	時期	発掘調査歴等
1	カリンバ-	集落跡	擦文	釜加のチャシ跡に接する南側緩斜面に数個の竪穴があったという。『千歳遺跡』p116~124
2	釜加のチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	1965年調査、大場利夫・石川徹『千歳遺跡』p116~124(旧称:釜加)
13	オサツ1	集落跡	擦文、アイヌ	保安林内に16軒の竪穴。(旧称、都5遺跡)
14	オサツ2	集落跡	旧石器、縄文、擦文、アイヌ	1992~1994年(財)道埋文調査。1997~1999年千歳市教委調査。細石刃核を含むブロック、縄文中期・擦文の竪穴住居。続縄文・アイヌの土坑墓、木製品。(旧称:都6遺跡)
15	オサツ3	集落跡	擦文	保安林内に竪穴。(旧称:都4遺跡)
35	都	遺物包含地	縄文晩期、アイヌ	タンネットウL式土器。
36	都のチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	円形塚。1966年調査、『千歳遺跡』p124~128。『北海道のチャシ』7。(旧称:都1)
37	未広	集落跡	縄文中・後期、続縄文、擦文、アイヌ	1968石川徹、1979~1981・1984・1992千歳市教委発掘調査。縄文中期・後期・擦文竪穴住居、アイヌ期住居跡、縄文後期焼土遺構、周堤墓、アイヌ期墓坑、擦文鍛冶工房跡。No.42、根志越2遺跡と合体。(旧称:根志越C)
38	トメト川1	集落跡	擦文	竪穴2軒確認。
39	トメト川2	集落跡	続縄文、擦文	段丘縁に沿って竪穴13軒が並ぶ。(旧称、根志越F)
40	トメト川3	集落跡	擦文、アイヌ	2002千歳市教委調査。(旧称、根志越E)
41	根志越1	集落跡	擦文	かつて19軒の竪穴が見られたが、現在は、草地化されている。消滅。
43	祝梅上層	遺物包含地	旧石器	1972・1973吉崎昌一調査。細石刃核を含むブロック。
44	祝梅下層	遺物包含地	旧石器	「三角山地点」1973吉崎昌一調査。ナイフ形石器ほか。
45	祝梅三角山D	集落跡	縄文中・晩期、続縄文、擦文、アイヌ	1977千歳市教委発掘調査。擦文期竪穴住居5軒。
46	祝梅川	集落跡	縄文晩期、続縄文、擦文、アイヌ	『千歳市における埋蔵文化財(上)』 ²⁶ 。アイヌ期カワシンジウガイあり。
47	祝梅川矢島	遺物包含地	縄文前~晩期、続縄文、擦文	タンネットウL式が主体。
48	祝梅川小野	遺物包含地	縄文前~晩期	一部En-aのローム面まで削平されている。
49	祝梅川山田	遺物包含地	縄文中~晩期、続縄文、擦文	内耳鉄鍋。1990千歳市教委発掘調査。竪穴住居2軒。
50	祝梅川上田	遺物包含地	擦文	
52	メボシ川1	遺物包含地	縄文中~晩期、擦文	消滅。(旧称:祝梅S)
53	メボシ川2	集落跡	旧石器、縄文早~晩期	1981千歳市教委発掘調査。細石刃核を含むブロックほか。
54	メボシ川3	集落跡	擦文	
55	祝梅竪穴	集落跡	擦文、アイヌ	1973石川徹、発掘調査。竪穴住居4軒。鉄製品、古銭(正隆元寶)出土。
56	梅川1	遺物包含地	擦文	
57	梅川2	遺物包含地	縄文中~晩期、擦文	(旧称:祝梅H)
58	梅川3	集落跡	縄文後~晩期、擦文、アイヌ	1985千歳市教委発掘調査。竪穴住居16軒、墓10基(アイヌ期3基含む)。
59	梅川4	墳墓	縄文早~晩期、続縄文、擦文、アイヌ	1999~2000千歳市教委発掘調査。アイヌ期土坑墓、住居跡、カワシンジウガイ集積ほか。(旧称:祝梅A)
60	メムセ	集落跡	擦文	竪穴住居跡が1軒みられたという。
61	アンカリト-1	遺物包含地	縄文晩期	En-aの上面付近まで削平されている。
62	アンカリト-2	集落跡	縄文前~後・晩期、続縄文、擦文	竪穴住居跡が1軒みられた。
63	アンカリト-3	墳墓	縄文晩期、続縄文、擦文	鉄製品出土。
64	アンカリト-4	遺物包含地	縄文後期	
65	アンカリト-5	集落跡	縄文中~晩期、続縄文、擦文	航空写真判読で9個の竪穴マ-ク観察。
66	アンカリト-6	集落跡	縄文中、続縄文、擦文	無名沢を挟んで北に2軒、南に4軒の竪穴がみられる。
67	アンカリト-7	遺物包含地	擦文	
68	丸子山	集落跡	旧石器、縄文、擦文	1990~1993千歳市教委発掘調査。細石刃核を含む旧石器ブロック、環壕集落、周堤墓、擦文期の竪穴。消滅(旧称:丸子山)
69	K基地1	集落跡	擦文	南長沼用水南側に竪穴住居があったという。
70	K基地2	遺物包含地	縄文後~晩期、擦文	動物形土製品が出土したという。
71	ピクニックエリア	集落跡	擦文	オルイカ川湧水地周辺。数軒の竪穴がみられたという。
76	キウス1号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1964大場利夫・石川徹、調査。土坑墓5基、立石あり。1979国指定史跡
77	キウス2号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1965大場利夫・石川徹、調査。配石のある土坑墓あり。土偶出土。1979国指定史跡
78	キウス3号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1979国指定史跡
79	キウス4号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1965大場利夫 外周部調査。西側に開口部をもつ。1979国指定史跡
80	キウス5号環状土籬	周堤墓	縄文後期	西側に開口部をもつ。1979国指定史跡
81	キウス6号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1979国指定史跡
82	キウス7号環状土籬	周堤墓	縄文後期	1950頃 河野広道・近藤義男踏査。
83	キウス8号環状土籬	周堤墓	縄文後期	全壊?1987道教委試掘確認により1988登載抹消。
84	キウス9号環状土籬	周堤墓	縄文後期	全壊?1987道教委試掘確認により1988登載抹消。
85	キウス10号環状土籬	周堤墓	縄文後期	全壊?1987道教委試掘確認により1988登載抹消。
86	キウス11号環状土籬	周堤墓	縄文後期	北側が削平されている。1979国指定史跡
87	キウス12号環状土籬	周堤墓	縄文後期	2号・5号周堤墓に覆われている部分が大きい。1979国指定史跡
88	オルイカ1	集落跡	縄文中~後・晩期、アイヌ	2002・2003 ²⁷ 道埋文センター調査。(旧称:キウス13号環状土籬)
89	キウス1	集落跡	縄文後~晩期、続縄文	マウンド状の遺構2カ所があったという。1964大場利夫・石川徹、発掘調査。住居跡1軒。
90	キウス2	周堤墓	縄文後期	航空写真によるソイルマ-ク
91	キウス3	遺物包含地	縄文後期	
92	キウス4	周堤墓・集落跡	縄文早~前・後期、擦文	1993、1995~1998 ²⁸ 道埋文センター調査。1995千歳市教委調査。縄文早~前・中・後期住居跡、周堤墓、盛土遺構、水場遺構。木製品。
93	キウス5	集落跡・墓 低湿部ほか	縄文早~晩期、続縄文 擦文、アイヌ	1994~1998・2003・2004 ²⁹ 道埋文センター、1997千歳市教委調査。各期住居跡・土坑、Tピットほか。縄文中期以降の柵列。近世の燻跡。木製品。
94	キウス川	遺物包含地	縄文後期	
95	中央目黒	遺物包含地	縄文後~晩期	モウシ川右岸段丘
102	ケネフチのチャン	チャシ跡	アイヌ	1935原田二郎・近藤義男踏査。泉郷神社境内。面崖式。
103	トブシナイ1	遺物包含地	アイヌ	舟釘状鉄製品
104	トブシナイ2	遺物包含地	縄文中~後期	
106	イカベツ1	遺物包含地	続縄文	後北C式

表Ⅱ - 2 周辺の遺跡一覧(2)

No	遺跡名	種別	時期	発掘調査歴等
107	イカベツ2	遺物包含地	縄文前・後・晩期、擦文	綱文、堂林、タンネットウシ式
108	ケネフチ1	遺物包含地	縄文早期	中茶路式
109	ケネフチ2	遺物包含地	縄文後期	
110	ケネフチ3	遺物包含地	縄文早・晩期、擦文	
111	ケネフチ4	遺物包含地	縄文中期	
198	ママチ川丸木舟	遺物包含地	アイヌ	丸木舟 (長さ約7.3m、幅約0.5m)
241	根志越3	遺物包含地	アイヌ	丸木舟 (長さ約7m、幅約0.6m)
242	キウス6	遺物包含地	縄文晩期	
246	アンカリト - 8	遺物包含地	縄文晩期	タンネットウシ式
261	ケネフチ6	集落跡	縄文早期、擦文	コッタロ、中茶路、東釧路式。竪穴住居1軒。
265	キウス7	集落跡・墓ほか	旧石器、縄文早・中・後・晩期、続縄文、擦文、アイヌ	1993～1998年(財)道埋文センター調査。細石刃核を含むブロック、縄文早・中・後期住居跡、縄文早・後期～続縄文土坑、Tピット、アイヌ期道跡ほか。
269	オサツト - 1	遺物包含地・墓	縄文早・中・後・晩期、アイヌ	1993(財)道埋文センター調査。アイヌ期墓2基。
274	柏台1	遺物包含地	旧石器	1997・1998(財)道埋文センター調査。細石刃核を含むブロック、炉跡、礫群、コハク玉、赤色顔料関連遺物。
275	キウス8	遺物包含地	縄文中・晩期	一部開削。
277	チブニ - 1	遺物包含地	縄文後・晩期、擦文、アイヌ	2001(財)道埋文センター調査。土坑、Tピット。アイヌ期焼土・集石。
278	チブニ - 2	遺物包含地	縄文早・中～晩期、擦文、アイヌ	2001・2003～2005(財)道埋文センター調査。
279	キウス9	遺物包含地	縄文早・前・後・晩、擦文、アイヌ	2005(財)道埋文センター調査。
280	オルイカ2	集落跡	旧石器・縄文早・中・晩期、アイヌ	2002・2004(財)道埋文センター調査。当報告。

周辺遺跡出土の鉄製品

保存処理前の状態で図化し報告した鉄製品について、保存処理が終了したものを改めて実測・トレースして掲載した。なお、保存処理は(株)ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石文化財保存処理センターに委託したものである。

①チブニ - 1 遺跡 (北理調報173集 図Ⅳ - 30)

1は刀子で茎部に目釘孔がみられる。2は刀子の刃部片で、錆び瘤と小礫が付着した部分からは、金属が脆くなっていた為、接合は困難であった。先端部の湾曲は木椀等を削り抜く為に、専用の道具として加工されたものであろうか。3は目釘孔で折れた刀子の茎部である。4～6は接合した、一文字湯口の鍋片である。

②オルイカ1 遺跡 (北理調報188集 図Ⅳ - 10)

1は刀子。2は釘で断面形態は方形を呈していた。3は鉄素材。4は先端部が欠損した魚突鉤先。5は鉄斧で刃部に樋は刻まれていない。 (富永勝也)

表Ⅱ - 3 保存処理後鉄製品一覧

遺跡名	挿図番号	掲載番号	写真図版番号	遺構 / 調査区	遺物番号	出土層位	遺物名	点数	大きさ				備考
									長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	1	図版55	J - 43区	-	Ⅲ層	刀子	1	24.3	2.8		(111.4)	
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	2	図版55	L - 40区	-	Ⅲ層	刀子片	1		2.4		(32.5)	
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	3	図版55	L - 43区	-	Ⅲ層	刀子片	1	6.8	1.8		(40.6)	茎部
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	4	図版56	L - 39区	-	Ⅲ層	鍋片	1				(51.7)	5・6と接合
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	4	図版56	L - 39区	-	Ⅲ層	鍋片	1				(51.7)	接合
チブニ - 1	図Ⅳ - 30	5	図版56	L - 39区	-	Ⅲ層	鍋片	1				(51.7)	接合
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	6	図版56	L - 39区	-	Ⅲ層	鍋片	1				(51.7)	接合
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	-	-	L - 39区	-	Ⅲ層	鍋片	1					未掲載
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	-	-	S - 44区	-	Ⅲ層	鍋片	1					未掲載
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	-	-	R - 46区	-	Ⅲ層	釘片	2					未掲載
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	-	-	I - 37区	-	Ⅲ層	不明鉄片	1					未掲載
チブニ - 1	図Ⅳ - 29	-	-	N - 40区	-	Ⅲ層	不明鉄片	2					未掲載
オルイカ1	図Ⅳ - 10	1	図版25	USD - 1	1	Ⅲ層	刀子	1	10.1	1.9	0.4	15.2	
オルイカ1	図Ⅳ - 10	2	図版25	USD - 1	2	Ⅲ層	釘	2	7.0	0.6	0.4	3.9	
オルイカ1	図Ⅳ - 10	3	図版25	USD - 1	3	Ⅲ層	不明鉄片	1	2.5	2.6	0.3	7.9	
オルイカ1	図Ⅳ - 10	4	図版25	P - 35区	1	Ⅲ層	鉤状	1	12.6	6.4	1.3	64.9	
オルイカ1	図Ⅳ - 10	5	図版25	S - 39区	1	Ⅲ層	斧	2	16.9	5.1	2.6	1120.0	

()の重量はエスカルとRP剤を含む梱包重量

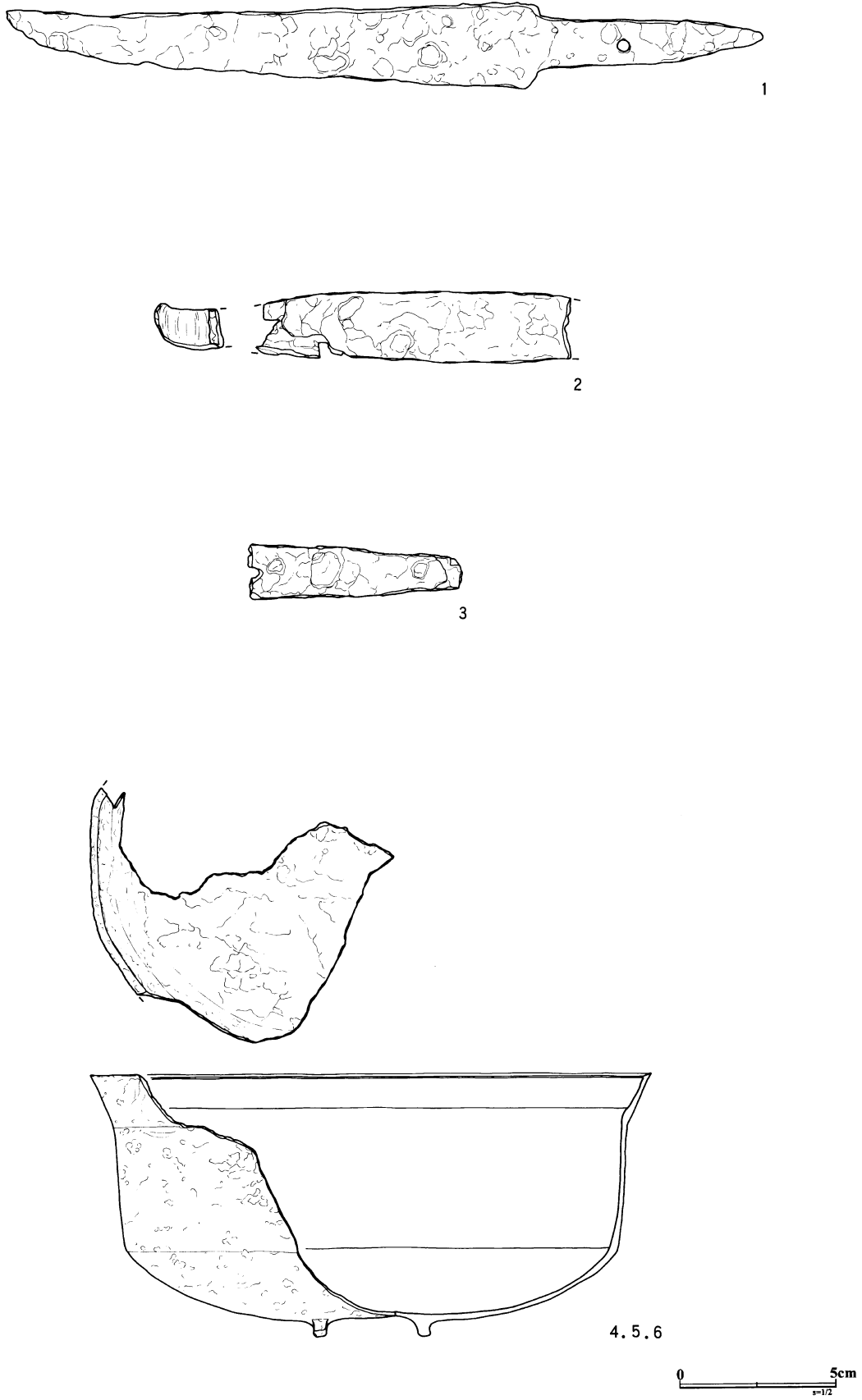
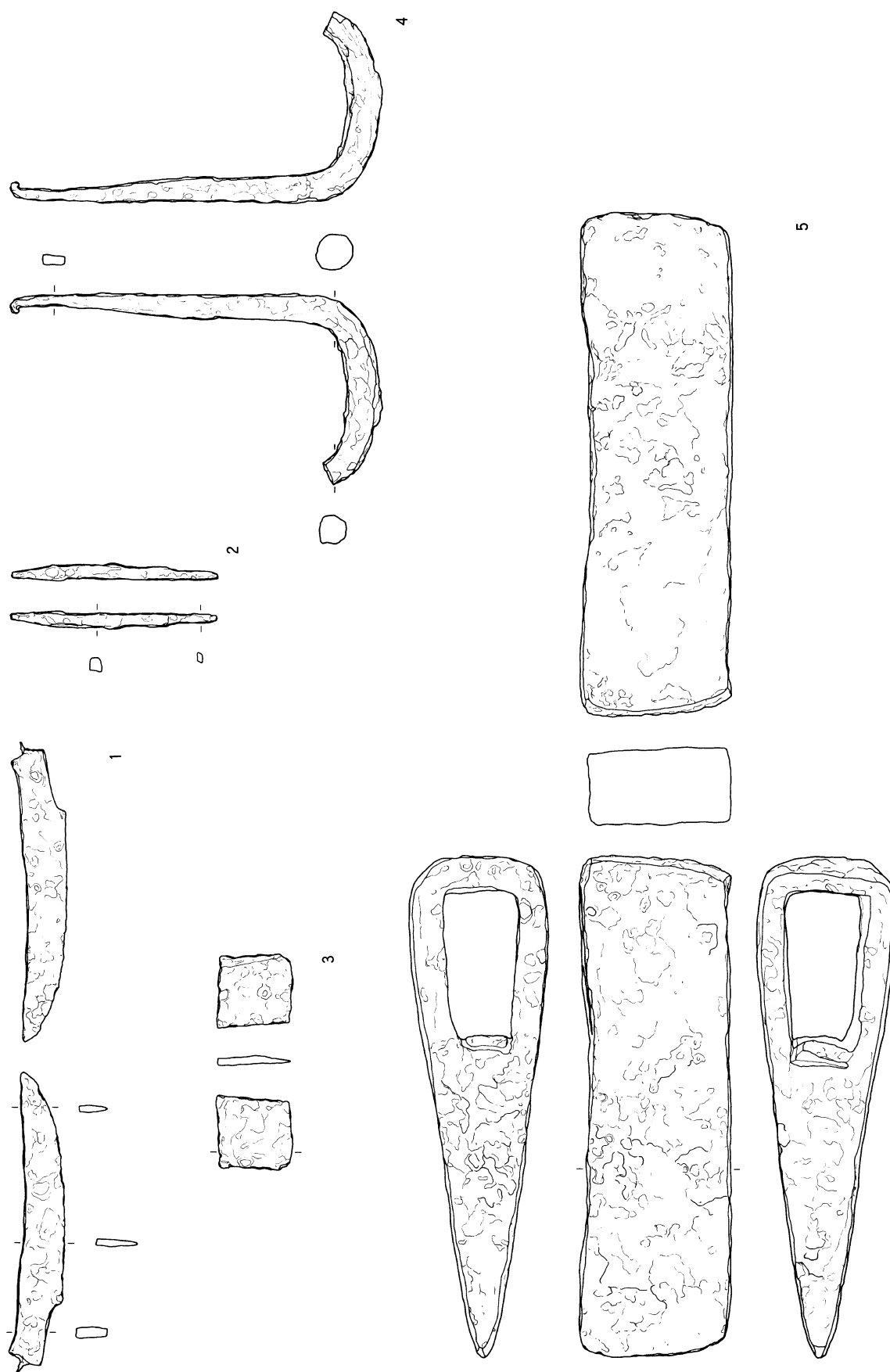


図 II - 6 チブニー 1 遺跡出土鉄製品



図Ⅱ-7 オルイカ1遺跡出土鉄製品(保存処理後)

Ⅲ 調査の方法

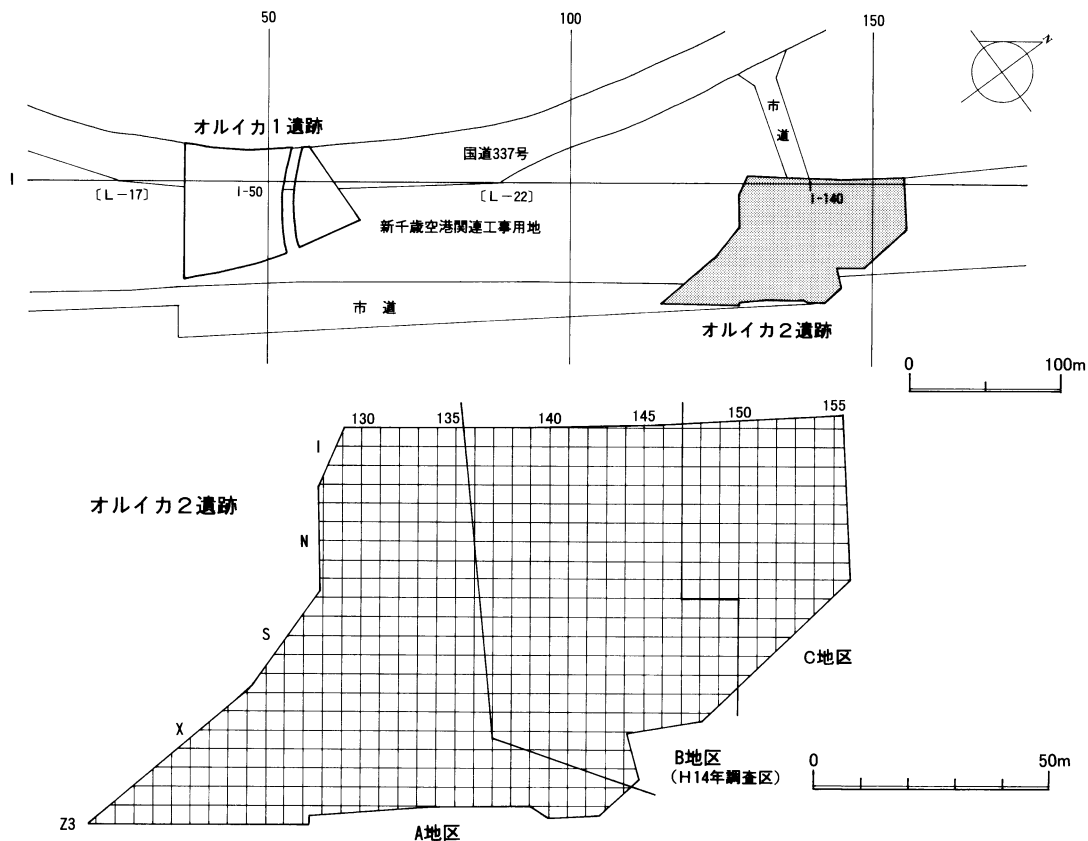
1. 調査の方法と経過

(1) 発掘区の設定

現地調査の基本図は、札幌開発建設部の一般国道337号新千歳空港関連工事の用地平面図1/1000分の1を使用した。基軸線は、平成14年に調査したオリイカ1遺跡の設定を踏襲した。現337号の切り替え道路予定地の幅杭L-17とL-22を結んだ線をIラインとし、北東-南西方向の基線とした。北西-南東方向の基線は、L-17においてIラインに直行する線を25ラインとした。オリイカ2遺跡の発掘区の設定にあたっては、幅杭L-17からL-22方向にIラインを延長し、L-17から460mの地点をI-140として基準点を定めた。Iラインから4m毎に平行する線をH・G・F.....(北西側)、J・K・L.....(南東側)とアルファベットを付した。またこれに直行する線は140ラインを基準に、4m毎に平行する線を139・138・137...(南西側)、141・142・143.....(北東側)と数字を付した。それぞれの交点上に杭を打ち、4m×4mグリッドに区画された西端の杭を発掘区の呼称とした。各グリッドの表示はアルファベットと数字の組み合わせでK-132、S-149などと呼称した。

基準杭の座標値の成果は以下に記した(世界測地系)。座標系は平面直角座標系第12系である。

道路用地内幅杭	L-17	X = -126 643 7971m	Y = -44 309 0314m
道路用地内幅杭	L-22	X = -126 441 4212m	Y = -44 158 3475m
調査区内基準杭	I-140	X = -126 274 8396m	Y = -44 034 3145m H = 12 900m
調査区外仮 B.M.	H	H = 13 800m	



図Ⅲ - 1 発掘区設定図

(2) 発掘調査の方法と経過

調査にあたっては、平成14年度の調査結果に基づき、特にアイヌ文化期の遺構・遺物、旧石器時代の遺構・遺物の検出に重点を置くこととした。

人力による発掘調査の前に、旧道の切り替えが行われた。そして表土および Ta - a 降下軽石層を調査区全域にわたって重機で除去した。Ta - a の直下からはすでに焼土が現れ始めた。

発掘調査では、まず上位の黒色土層（Ⅲ層）の調査を行った。Ⅲ層～Ⅳ層（Ta - c）では、遺構・遺物の濃淡を早期に把握するため25%調査を行った。ただし A 地区中央部から南東側にかけては、Ⅲ層上面において焼土や灰の集中箇所、鉄片・カワシンジュガイなどの遺物が多数現れ、25%調査の範囲から外し、並行して遺構調査を行った。特に平地住居の炉と考えられる大型の焼土（灰）周辺や、単独でも柱穴の可能性のある遺構について、周辺の柱穴の検出に努めた。また焼土や灰集中についてはサブトレンチを入れ土層の堆積状況を細かく観察し、魚骨などの細かな遺物を各層ごとにていねいに取り上げた。このほか、一部の炉の平面・断面や柱穴の断面について、剥ぎ取り作業や石膏による型取り作業を行い保存した。

下位のⅤ層（黒色土層）～Ⅵ層（漸移層）についても25%調査を行い、遺構確認を行いながら順次掘り下げた。一発掘区に対してⅤ - 1層・Ⅴ - 2層・Ⅵ層の少なくとも3回に分けて掘り下げた。発見された遺構については、その都度調査を行った。特に各所で発見される小型の焼土は、ある程度まとめて測量を行った。旧石器の遺物集中範囲ではⅤ層上面から旧石器時代の遺物が出土したため、それらの遺物を残しながら一回3cm程度を移植ごとで掘り下げた。

Ⅶ層（ローム層）では、旧石器が発見された範囲とその周辺について調査を行った。他の部分にも広がる可能性があるため、調査区の縦横に範囲を広げ、調査区の約1/3を調査した。なお旧石器ブロックが3カ所確認された C 地区については、調査区の大部分を対象とし、Ⅷ層（軽石層）の上位部分まで掘り下げた（詳細はⅥ章）。また、期間等の都合上、遺物集中域を含めて微小遺物検出のための土壌水洗は行っていない。

A 地区の低地部はⅢ層およびⅤ層が厚く堆積しており、常に湧水があるため排水溝を兼ねたトレンチを設け、ポンプで排水しながらスコップなどを用いて各層の掘削を行った。

調査区全体の土層観察は C 地区の北西壁（Hライン付近）を利用し、Ⅷ層（En - a 軽石層）に達するまでトレンチを入れた。調査区北角（H - 154区）についてはさらに掘り下げ、基本土層の作図を行った。また調査区中央の土層（Sライン）も随時記録した。さらに低地部の土層断面（WラインおよびZライン付近）を作成した。

遺物の取り上げ

遺物は、遺構や遺物集中、旧石器と見られる石器群、特殊な遺物については出土地点を測定してとりあげた（「点あげ」）。旧石器時代の石器に関しては指先より小さいものに関しても、できる限り出土地点を計測した。出土地点の計測は電子機器を使用せず全て人力で行った。

まとめて出土した遺物（一括出土遺物）は、出土状況を実測した。それ以外の包含層出土の土器・石器などは層位別・発掘区別ごとにまとめてとりあげた（「グリッドあげ」）。またそれぞれ遺物種類ごとに分け、特に石器については剥片石器群と磨製・礫石器群に分けてそれぞれ袋に入れて回収した。

フローテーション

平地住居跡の炉およびⅢ層で検出された焼土（灰）のほぼすべてと、Ⅴ層で検出された大型の焼土のうち数カ所、そして遺構の坑底等の土壌を採取し、フローテーション法により微細遺物を分離し採

集した。現場ではコンテナや網籠に広げて、棚を利用した簡易乾燥室において十分乾燥させた。その後乾燥重量・体積を記録し、フローテーションマシンを用いて残渣・浮遊物を回収した。なお浮遊物の回収には2種類のフルイ（フルイ目2.00mm、0.425mm）を用いて分別採取し、残渣とともに回収した（IV章 - 7・V章 - 8）。再び十分に乾燥させ、仮収納した。（阿部・広田）

(3) 整理作業の方法と経過

出土遺物は、まず現地で水洗・分類・遺物注記・遺物台帳作成などを行った。また土壌はフローテーション法により水洗した。注記は土器等のうち小片を除くすべての破片のほか、磨製石器片・礫石器片の一部、旧石器とみられる遺物ほぼすべてに行った。

その後の整理作業は、江別市の北海道埋蔵文化財センター整理作業棟で行った。遺構図面の作成、出土遺物の整理、遺物の写真撮影、表作成、原稿執筆を行い、報告書編集作業を行った。

遺物注記内容

「遺跡名」・「発掘区」または「遺構名」・「層位」・「遺物番号（点上げ）」

例；（遺構） オ2・LPD2・フク1・19

（包含層） オ2・R132・V2

土器の整理

出土土器の整理作業は、まず水洗・注記・分類・遺物台帳作成などの一次整理を現場作業と並行して行った。そして遺構・包含層別に仮収納し、発掘作業終了時に江別のセンターに搬送した。

二次整理ではまず接合・復元作業を行い、80件あまりの接合データ（層位や発掘区をまたぐもの）が得られ、10個体の土器を復元した。また190点について拓本作業を行い、15点について器形を図上復元した。復元された土器を実測し、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。

（阿部）

石器等の整理

土器と同じく一次整理は現地で現場作業と並行し、二次整理は江別のセンターで行った。

〔縄文時代以降の石器等〕

一次整理は現場での取上げ後、水洗・乾燥作業を経て、器種・残存状況・石材の分類作業を行った。

その後、遺物台帳、遺物カードを作成し、遺構・包含層別に仮収納後、江別のセンターに搬送した。

二次整理は石器等の分類の見直し、接合、集計作業を行った。並行して報告書掲載用石器の選び出し・実測・トレースを行った。報告書掲載石器等については図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。

〔旧石器時代の石器等〕

一次整理では、水洗・乾燥後、微小なものを除いた全ての石器について注記作業を行った。注記内容は土器と同じである。その後、器種・残存状況・石材の分類作業を行った。

分類後に遺物台帳、遺物カードを作成し、遺構・包含層別に仮収納後、江別のセンターに搬送した。

二次整理では、まず遺物の重量計測、打点・自然面・被熱の有無などの属性観察をし、遺物台帳に記入した。打点・自然面・被熱などは「有」または「無」の簡単な観察だけである。被熱は肉眼観察により、表面が光沢を失い、くもりガラスのような状態のものや表面がざらざらになり透明度がほとんどないものを「有」とした。

その後実測・接合作業を行った。接合作業は、定形的な石器類については折れ面接合を、次に同一母岩の石器類や剥片を探すようにした。特に細石刃に関しては細石刃同士や同一母岩の細石刃核との

接合に努めた。剥片類は、まず同一のブロック内で、後述する5種類の黒曜石ごとに作業を進めた。その中でさらに同一母岩と考えられるものを集めて接合作業を行った。

接合作業の実際は、折れ面接合の場合は瞬間接着剤を使用した。剥離面接合の場合は、両面テープで仮止めしながら作業を進め、必要に応じて瞬間接着剤を使用した。ただし、実測、写真撮影段階では全て瞬間接着剤で接合し、最終的な収納時もこの状態で収納している。

ある程度接合作業が進行した状態で、剥離工程を記録したカードを作成し、接合番号をつけた。接合番号は、剥離面接合が「1」から、折れ面接合は「1001」からとした。従って剥離面接合資料に折れ面接合が含まれている場合は、一個体の接合資料で複数の接合番号があることがある。さらにこれらの接合作業で得られた接合資料やその他の石器のうち特徴的で同一母岩とみなせる資料を集め、母岩別資料として「1」から番号を付けた。資料の呼称は、「母岩別資料」を略して「母岩」、「接合資料」を略して「接合」とし、母岩別資料の場合は「母岩4・接合10」、剥離面接合のみの場合は「接合7」、折れ面接合のみの場合は「接合1006」のように表示した。

その後、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。(広田)

金属製品の整理

鉄製品・銅製品は第1調査部第1調査課田口尚が担当した。X線撮影・錆落とし等の事前処理を行い、観察カードを作成した。そして保存処理前に実測および写真撮影を行った。その後脱塩・エタノール含浸等の保存処理が進行中である。

微細遺物の整理

フローテーションで得られた微細遺物の選別・同定作業は、まず肉眼による残渣の選別を全ての試料にわたって行った。残渣選別試料のうち肉眼では同定困難なものや浮遊物については、実体顕微鏡を用いて微細遺物の選別および同定作業を行った。(IV章-7)。動物遺存体の同定作業は、第1調査部第2調査課土肥研晶の助言を得ながら、佐藤寿子が分類・同定を行った。炭化種子は清水和子が一次分類を行った後、札幌国際大学椿坂恭代氏に同定を依頼した(VII章-3)。また、選別で得られた骨角器・自然遺物などの一部について実測を行った。

報告書作成作業の後、記録類の整理、遺物の収納作業を行った。遺物は掲載・未掲載別に遺物種類ごとに分けてコンテナに収納した。写真フィルム・図面とともに北海道立埋蔵文化財センターに収蔵してある(平成17年12月現在)。(阿部)

2. 土層の区分

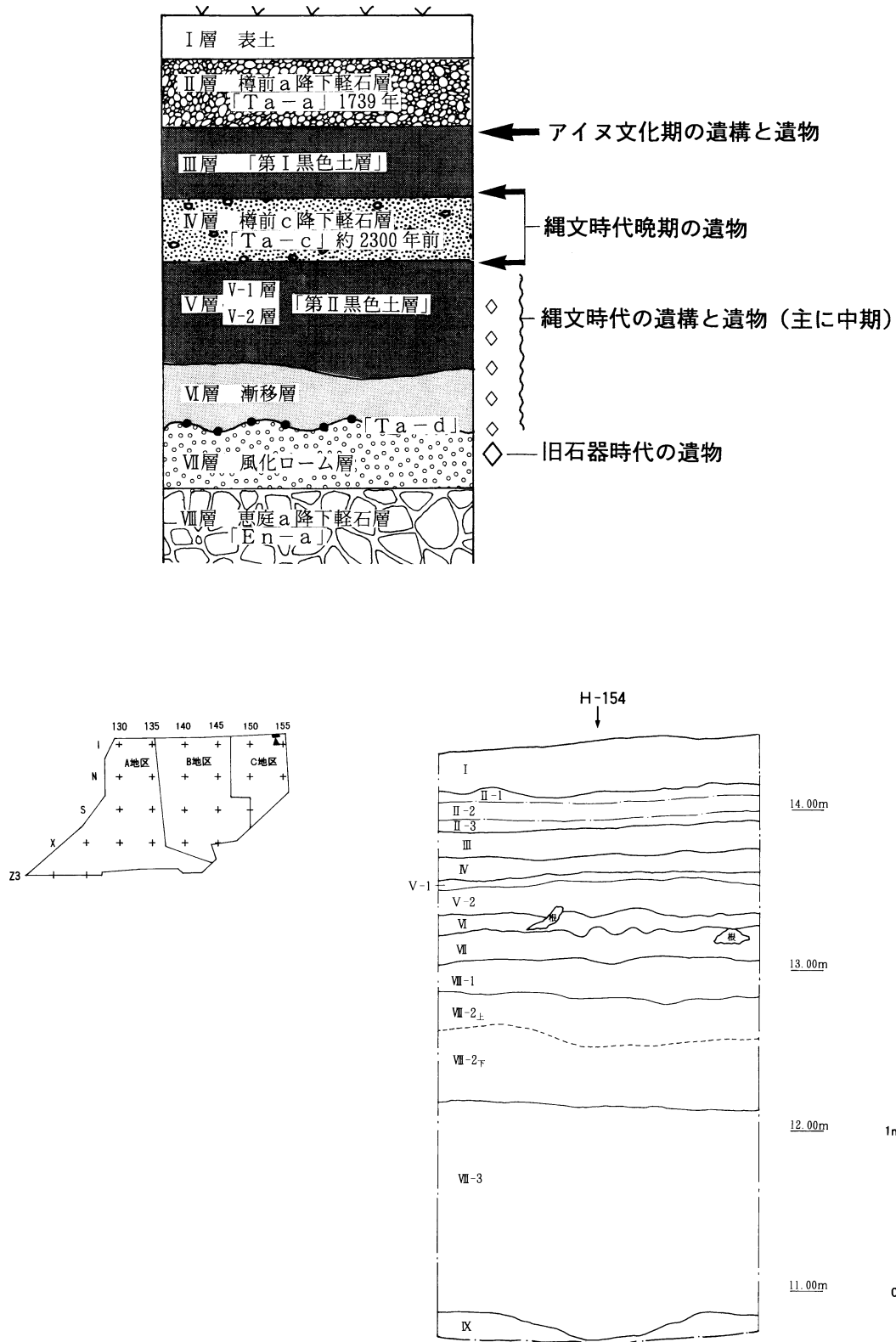
オリイカ2遺跡全体の基本土層をH-154区の状況(図III-3)を中心に記載する。なお、調査区を横断する土層断面を図III-4~7に示した。風倒木や根などの攪乱部が多く見られる。

I層：現表土。耕作土や道路下の盛土など。

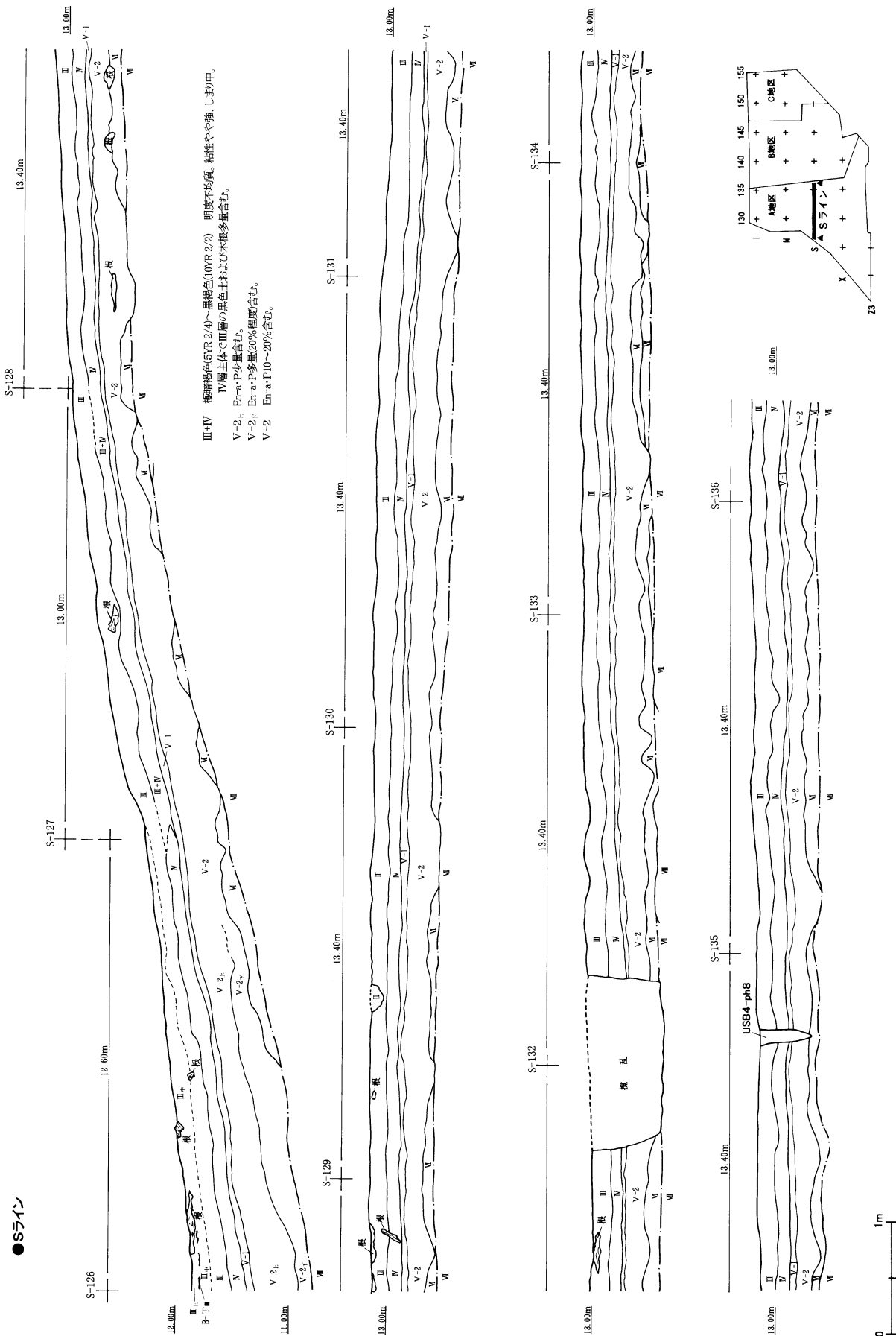
II層：樽前a降下軽石層(Ta-a)。1739年降下。砂質のテフラを主体とする。複数のフォールユニットからなり、オリイカ2遺跡では大きくは3枚、細かくは10枚以上に分かれる。

II-1：にぶい黄橙~灰白色(10YR 7/2~7/1) 径0.5~4mmの粗い粒子。しまりなくすぐに崩れる。上位の粒子がやや大きく、下位がやや細かい。

II-2：4枚のにぶい黄橙(10YR 5/3)色のバンドと3枚の灰白色(10YR 7/1)の砂質テフラ



図III - 2 基本土層 (H - 154区)



図III-4 Sライン土層断面図

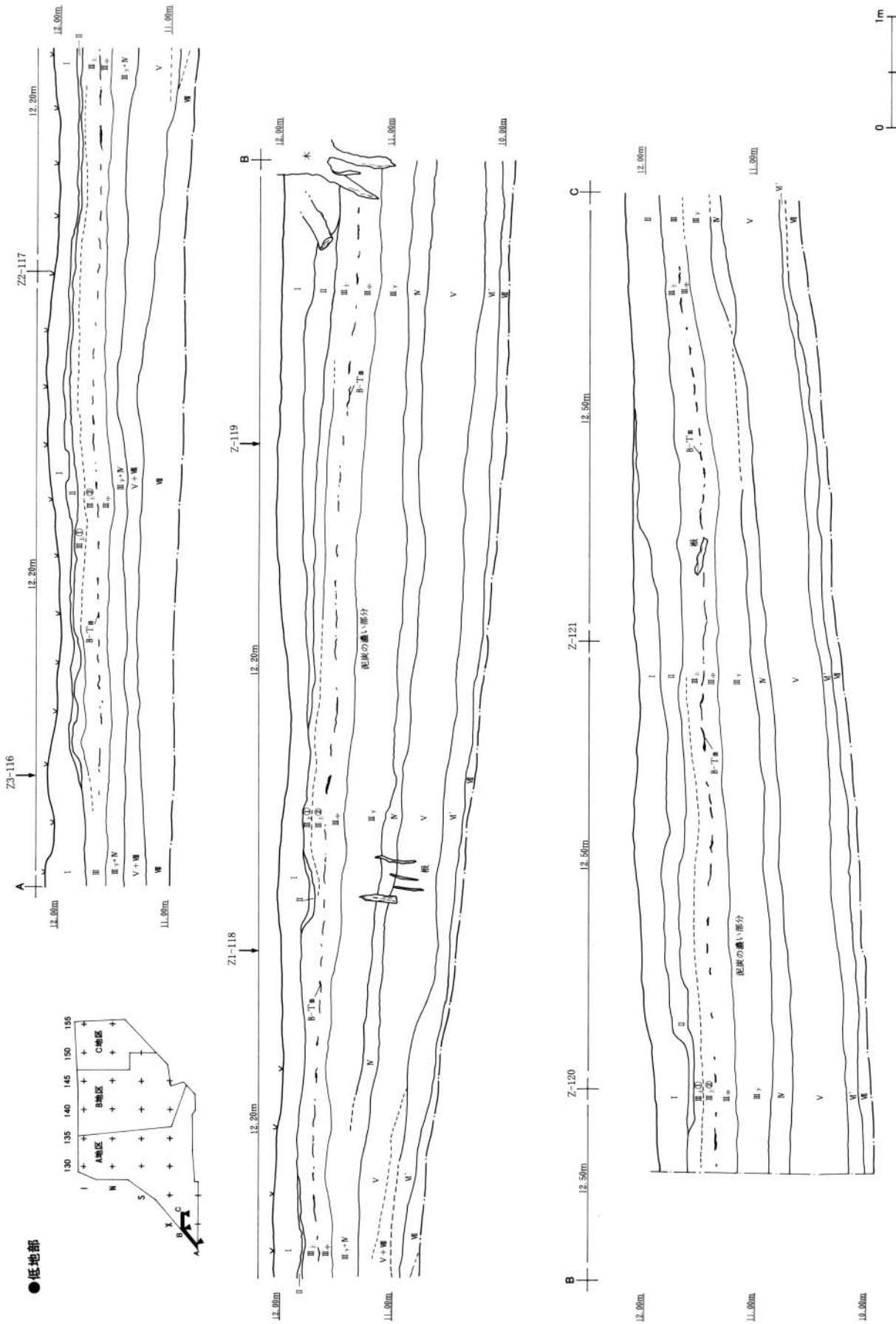


図 III - 6 低地部土層断面

との互層。前者は径0.2~0.5mm程度で均質的な薄層、後者はやや径が大きく不均質な薄層である。しまりはやや弱い。

II - 3 : 褐灰色~灰白色 (10YR 6/1 ~ 7/1) 径0.5~2mmのやや粗い粒子が均質的に含まれる。上位の粒子がやや大きく、下位がやや細かい。しまりは弱い。III層との層界は全体的には平坦だが、細かく波状になっている。

III層 : 黒色 (10YR 1.7/1) 土。新千歳空港関連調査の「第一黒色土層 (I B層)」に相当する。層厚は10~20cmほどで、調査区全域に分布する。下端層界は漸遷的でやや不明瞭である。樽前c降下軽石 (Ta - c) が20%前後と多く含まれ、密で均質的である。しまりは中程度で粘性はやや強い。なお低地部では層厚が最大80cmに達し、泥炭や Ta - cの含有度によって細分している (図III - 5・6)。また B - Tm 火山灰 (10世紀中頃降下) が斑点状にわずかに確認される。

IV層 : 樽前c降下軽石・スコリア層 (Ta - c・2,300~2,500年前降下)。褐色~暗褐色 (10YR 4/4 ~ 3/3)。径0.2~2mm、層厚は10~15cmほどで、下端層界は明瞭である。密で褐色を呈する部分とその上下に黒色土をやや多く含む暗褐色の部分があり、密な部分は場所によって濃淡がある。調査区全域におおむね均質的に分布しているが、III層と混在する部分がある。

V層 : 黒色土。新千歳空港関連調査の「第二黒色土層 (II B層)」に相当する。粘性に富む。層厚は30~40cmで調査区全域に分布している。Ta - cの混在程度で V - 1・V - 2層に分けている。低地部ではVI層以下が流水等により削られた後に厚く堆積した黒色土が観察される。

V - 1層 : 黒色 (10YR 1.7/1 ~ 2/1) 土に Ta - cを20~50%と多量に含む。層厚5~10cm程度。粒子が細かく密で均質的。しまりは中程度で粘性はやや強い。根を多く含む。

V - 2層 : 黒色~黒褐色 (10YR 1.7/1 ~ 2/2) 粘質土。しまりはやや弱く、粘性は強い。粒子が細かく密だが、下位はやや不均質で安定しない。層界が波状になるところも多い。

VI層 : 暗褐色~褐色 (10YR 3/4 ~ 4/6) 土。V層とVII層の漸移層。層界は漸遷している。層厚10~15cmだが不安定である。調査区全域に分布しているが、低地部は明瞭には見られない。しまりは中程度で、粘性は強い。黒色土やロームのほか En - aを10~20%程度含み、不均質である。

またVI層とVII層の境界付近で、赤橙色 (5YR 5/8) のスコリアとみられる粒子が散在するのが確認される。樽前d降下スコリア (Ta - d) とみられる。

VII層 : 黄褐色 (10YR 5/6 ~ 5/8) ローム層。恵庭a降下軽石 (En - a) が風化作用によってローム化した層。層厚は15~30cmで、調査区全域に分布する。VIII層との層界はやや明瞭。しまりやや強く、粘性に富む。En - aを20~50%含み、やや密で均質的である。

VIII層 : 恵庭a降下軽石層 (En - a・15,000~17,000年前降下)。2m以上の層厚があり、調査区全域に分布している。上部は人力で掘削するのに労を要するほど非常に硬くしまっている。

VIII - 1 : 明黄褐色~黄褐色 (10YR 6/8 ~ 5/8) 下端層界やや明瞭。極めてしまり強く硬い。硬質ローム+径5~30mmの軽石をやや不均質に含む。下部は粒径が小さく非常に密である。

VIII - 2 : 黄橙色~明黄褐色 (10YR 7/8 ~ 6/8) 上部は密で硬質、下部はやや粗で不均質。下端層界はやや不明瞭である。軽石の表面が鉄分により赤色化している部分がある。

VIII - 3 : 黄褐色 (10YR 5/6 ~ 5/8) しまりは強い。径2~5mmの軽石>径10~30mmの軽石。均質的であるが、すき間が多く粗である。径1mm程度の砂を多く含み、最下部は薄層をなす。

IX層 : 褐色~にぶい褐色 (7.5YR 4/4 ~ 5/4) シルト質粘土 均質的。しまり中~やや強。

(阿部)

3. 遺構・遺物の分類

(1) 遺構の種類

オリカ2遺跡では下記の遺構が検出された。遺構の記号の付け方については、平成14年調査のオリカ1遺跡で提唱された記号にならった(北埋調報188『千歳市オリカ1遺跡』)。「記号等の説明」で記載したが、ここで再度掲載する。記号は下記の略記号の頭に層界によって「U」「L」を付して、発見順に1・2・3……と番号を付した。前回調査からの連番としている(焼土除く)。

層界 「U」：樽前c火山灰より上層の遺構

「L」：樽前c火山灰より下層の遺構

遺構

竪穴住居跡 記号：「PD」(pit dwelling)

……掘り込みが認められ、焼土(炉)や柱穴が検出される円形や楕円形、方形の大型の遺構。

平地住居跡 記号：「SD」(surface dwelling)

……掘り込みがなく、焼土(炉)や柱穴が検出され、柱穴が方形や台形状に配置される遺構。

建物跡 記号：「SB」(surface building) ……炉が確認されず柱穴が規則的に配置されるもの

土坑 記号：「PI」(pit) ……用途不明の大型の穴

Tピット 記号：「TP」(trap pit) ……いわゆる「落とし穴」

杭列 記号：「SL」(surface line) ……3本以上の柱穴が直線状に並ぶもの

柱穴 記号：「PH」(post hole)

焼土 記号：「FP」(fire place)

住居等の遺構内で確認された遺構(付属遺構)は小文字で表記する。

例：樽前cより上層の平地住居跡8の柱穴15番

…… 「USD 8 - ph15」

遺構に準じるもの(遺物集中等)

土器集中 記号：「CP」(concentration of potsherds)

石器集中 記号：「CS」(concentration of stones)

フレイク集中 記号：「FC」(concentration of flakes and chips)

礫集中 記号：「S」(stone)

カワシンジュガイ集中 記号：「KS」(日本語から)

(2) 遺物の分類

a-1. 土器

分類規準は、過年度に当センターが行った千歳市周辺の発掘調査によるものとした。

I群 縄文時代早期に属する土器群。

a類：貝殻腹縁文・条痕文のある土器群。わずかに出土している。

b類：撚糸文・絡条体圧痕文・短縄文などが施される土器群。

b-1類：東釧路Ⅱ式・Ⅲ式に相当するもの。

b-2類：コッタロ式に相当するもの。

b-3類：中茶路式に相当するもの。

b-4類：東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

a 類：いわゆる縄文尖底土器。網文土器・静内中野式に相当するもの。

b 類：円筒下層式・植苗式・大麻V式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群。

a 類：円筒上層式・萩ヶ岡1・2式に相当するもの。

b 類：円筒土器に後続する土器群。

b - 1 類：天神山式（萩ヶ岡3式）に相当するもの。

b - 2 類：柏木川式に相当するもの。

b - 3 類：北筒Ⅱ式（トコロ6類）に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群。

a 類：初頭～前葉の土器。余市式・タブコブ式・入江式に属するもの。

b 類：中葉の土器。ウサクマイC式・手稲式・鯨潤式に属するもの。

c 類：後葉の土器。堂林式・「三ツ谷式」・御殿山式に属するもの。今回の調査では出土していない。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群。

a 類：大洞B・BC式に属するもの。今回の調査では出土していない。

b 類：大洞C1・C2式に属するもの。今回の調査では出土していない。

c 類：大洞A・A'式・タンネットウL式に属するもの。

Ⅵ群 続縄文時代に属する土器群。

Ⅶ群 擦文時代に属する土器群。

a - 2 . 土製品

三角形土製品 縄文土器片を再利用して、周縁部または上面を調整して三角錐形に加工した土製品。大きさは2～4cm程度である。縄文時代中期から後期前葉にかけて、東北地方～北海道南部～石狩低地帯に分布する。

土器片再生円盤 縄文土器片を再利用して円形に調整した後、周縁部をすった土製品。大きさは4～6cm程度である。縄文時代早期～後期まで各時期に出現する。

その他の土製品 土偶の一部と考えられる土製品が出土している。また製品ではないが、焼成粘土塊が少数出土している。

(阿部)

b - 1 . 石器・石製品など(縄文時代以降)

前回の報告書で使用した分類を基本的に踏襲したが、一部改変している。石器の製作技術や加工痕・使用痕、石材等から「Ⅰ剥片石器群」、「Ⅱ磨製石器群」、「Ⅲ礫石器群」、「Ⅳ石製品」に分類した。

Ⅰ 剥片石器群：剥離加工により製作されたもの。石材は黒曜石、頁岩が多い。

石鏃 R フレイク

石槍またはナイフ U フレイク

両面調整石器 石核

石錐 フレイク

つまみ付きナイフ 火打石

スクレイパー

Ⅱ 磨製石器群：主に研磨調整により製作されたもの。石材は緑色泥岩、泥岩、蛇紋岩等が多い。

石斧

研磨石材

Ⅲ 礫石器群：加工痕・使用痕が認められるもの。加工痕や使用痕のないものも便宜的にここに含める。石材は砂岩や安山岩が多い。

・加工痕・使用痕のあるもの

たたき石

すり石

台石・石皿

砥石

火皿

・加工痕・使用痕はないが、石器として使われたと考えられるもの

棒状礫

焼け礫

礫

軽石

Ⅳ 石製品：装飾品等で実用的な道具ではないと考えられるもの

玉

b - 2 . 旧石器

当センターで調査している「白滝遺跡群」の器種分類を基本的に踏襲しているが、一部改変した部分もある。

尖頭器（「PT」 Point）

素材の両面を加工し、尖頭部を作り出した石器。

両面調整石器（「BF」 Biface）

素材の両面を加工したもので細石刃核、尖頭器、斧型石器以外の石器。

細石刃（「MB」 Micro Blade）

細石刃核より剥離されたと考えられ、長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜があり、幅が約1cm以下の石器。

細石刃核（「MC」 Micro Core）

細石刃を剥離したと考えられる石器。

削片（「SP」 Spall）

彫器削片（「BSP」 Burin Spall）：彫器の彫刀面作出・再生時に剥離されたと考えられる削片。

細石刃核削片（「MSP」 Micro Core Spall）：削片系細石刃核の打面作出時に剥離されたと考えられる削片。

彫器（「BU」 Burin）

素材の端部に一条から数条の槌状剥離を施した石器。

搔器（「ES」 End Scraper）

素材の端部に連続的な二次加工を施した石器。

削器（「SS」 Side Scraper）

素材の側縁に連続的な二次加工を施した石器。

石刃（「BL」 Blade）

長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜がある石器。

二次加工ある剥片（「RF」 Retouched Flake）

素材に二次加工を施したもので、定形石器に分類されない石器。

剥片(「FK」Flake)

石核・石刃核・細石刃核・石器(ツール)から剥離されたもので石刃、細石刃、削片以外の石器。

石核(「CO」Core)

剥片を剥離したと考えられるもので、石刃核、細石刃核以外の石器。

斧形石器(「AX」Axe)

両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作り出した石器。

b - 3 . 石器等の石材について

石材は整理段階では略号を使用している。

Obs 黒曜石(Obsidian)

Sa 砂岩(Sandstone)

Sh 頁岩(Shale)

Mud 泥岩(Mudstone)

Che チャート(Chert)

And 安山岩(Andesite)

Aga めのう(Agate)

Tu 凝灰岩(Tuff)

Sl 粘板岩(Slate)

Gr.Mud 緑色泥岩(Green Mudstone)

Pum 軽石(Pumice)

Schi 片岩(Schist)

Per かんらん岩(Peridotite)

Gn 片麻岩(Gneiss)

Ser 蛇紋岩(Serpentinite)

b - 4 . 黒曜石(Obs)の細分について

Obs 1 黒色のもの(透明な部分のあるもの含む)

Obs 2 気泡が多く、光沢のにぶい、いわゆる梨肌のもの(今回は出土していない)

Obs 3 黒色を主体に茶色の混じるもの

Obs 4 茶色を主体に黒色の混じるもの

Obs 5 黒色を主体に紫色に近い茶色の混じるもの、網目状の様子がみられるものもある

Obs 6 黒色に透明な縞が混じるもの

Obs 7 流紋岩の粒が入るもの

Obs 8 流紋岩の粒が縞状にみられるもの

Obs 9 緑がかって見えるもの

Obs 10 分類できないもの(焼けているもの・小片等)

b - 5 . 残存状況の分類について

は「完形」、「準完形」、「半形」、「片」に分類した。

「完形」: 全体の90%程度以上で、ほぼ完形のと考えられるもの

「準完形」: 「完形」と「半形」の中間ぐらいで、やや完形に近いと考えられるもの

「半形」: 全体の50%程度と考えられるもの

「片」: 全体の50%以下と考えられるもの

礫に関しては、割れていないものを「完形」、割れているものを「半形」とし、二種類にした。

(広田)

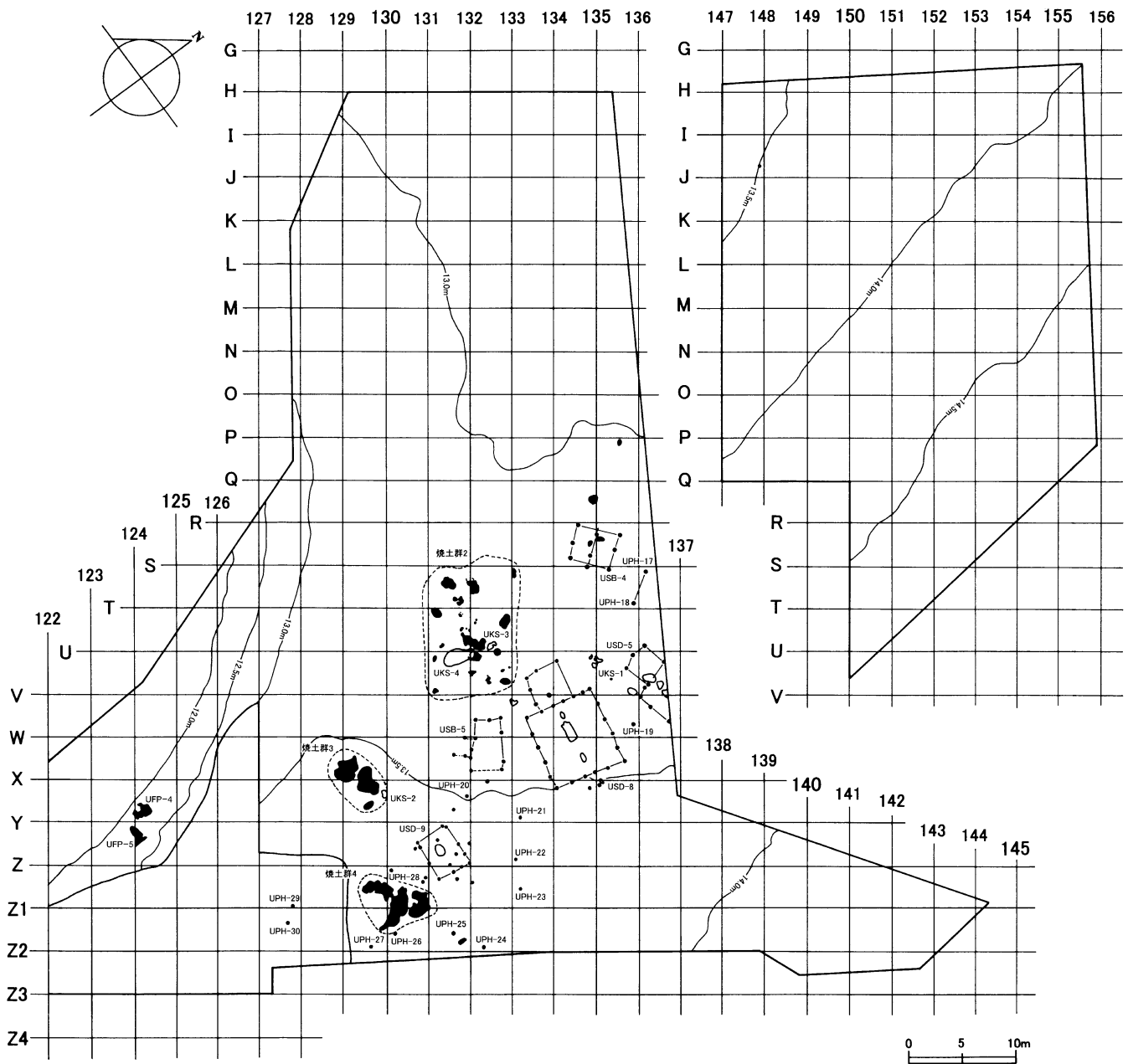
IV アイヌ文化期の遺構とその遺物

IV アイヌ文化期の遺構とその遺物

1. 概要 (図IV - 1)

Ⅲ層上面では、調査開始当初から灰を多く含む焼土が検出され、カワシンジュガイ（殻皮）や鉄製品などの遺物が出土した。包含層の25%調査や、特に遺構が想定されるA地区の中央部～南部などの調査を行う中で、アイヌ文化期の遺構の検出に努めて調査を進めた。

調査の結果、柱穴が合計103基と焼土が合計41カ所、カワシンジュガイの集中域を7カ所検出した。柱穴や焼土の組み合わせにより、調査中に建物跡などの遺構を確認した。その結果、平地住居跡3軒（うち炉8カ所・柱穴65基・カワシンジュガイ集中3カ所）・建物跡2棟（柱穴24基）を認定した。



図IV - 1 アイヌ文化期の遺構位置図

また、「送り場」の可能性のある焼土や灰などの密集域がみられ、3カ所の焼土群（焼土25カ所・カワシンジュガイ集中3カ所）としてまとめた。残りの単独柱穴は14基、焼土が8カ所、カワシンジュガイ集中が1カ所となった。

平地住居跡はアイヌ文化期の「チセ」である。20cm程度の厚みをもった炉があり、灰と焼土が重なっている。炉の上部には、炭化材に混じって多量の魚骨や植物種子を含むものがある。建物跡は、倉庫など住居以外の目的で用いられたと考えられるものをさしている。

遺物は金属製品65点（破片で135点、古銭2点）、礫274点、ガラス玉5点などが出土している。鉄製品は刀子や釘状のもの、鎌などが出土している。礫は棒状礫が多い。チャートや珪岩などの石材が用いられている礫やフレイクは火打石である可能性が高い。その他、漆（塗膜）・骨片・カワシンジュガイ（殻皮）などが多量出土している。またフローテーション作業により多量の炭化種子が得られている。（阿部）

2. 平地住居跡（図Ⅳ-2～8、表Ⅳ-1～3、図版2～8）

(1) 平地住居跡5〔USD-5〕

位置：T-136、U-135～137、V-136・137 標高13.4～13.5m

規模：〔全体〕7.5×4.3m 〔主体部〕4.7×4.3m

長軸方向：N-78°-E

確認・調査：平成14年の調査（B地区）で炉2カ所と柱穴14基が検出され、調査区境より西側（A地区）に平地住居跡の範囲が続くことが確認視されていた。そのため、その延長上にあたる範囲を精査した。Ⅲ層上面では、調査開始後すぐに灰を主体とする焼土が現れた。その周辺において平成14年に検出した柱穴列の延長線上をたよりに、ピンポールなどによりⅢ層上面から柱穴の確認作業を行った。その結果、平地住居跡（付属施設含む）の南側・西側にあたる柱穴を新たに計9基検出した。

付属遺構：焼土計4カ所および柱穴計23基を確認した。焼土は住居跡の長軸中央部に直列し、母屋から納屋にまたがっているものもある。

〔炉〕USD5-fp1：規模 1.22m×0.72m/0.15m 被熱層 Ⅲ層上面～下位

平成14年調査で検出。母屋の中央付近に位置する大型の地床炉。①上位は炭化物を多く含む灰混じり黒色土、②中央部は灰が非常に密に厚く堆積し、③下位は明度の高い赤褐色の焼土が堆積する。

USD5-fp2：規模 0.92m×0.61m/0.11m 被熱層 Ⅲ層上面～下位

平成14年調査で検出した地床炉である。fp1の東側、壁寄りに位置する。上面レベルはfp1より若干fp2の方が高い。上位は炭化物を多く含む黒色土で、中央部以下は灰と焼土が混じりあっている。

USD5-fp3：規模 0.77m×0.62m/0.04m 被熱層 Ⅲ層上面

平成14年調査で調査区境に一部確認されていたもので、今回の調査でその境界部にわずかに確認できた。母屋の西寄りに位置する。全体的に薄い。灰を主体としているが、上面は被熱した部分や炭化物を多量に含む薄層がある。灰を捨てた場所と考えられる。

USD5-fp4：規模 1.16m×0.81m/0.06m 被熱層 Ⅲ層上面～下位

母屋から納屋にあたる範囲にまたがった位置にある。長軸方向が他の焼土と異なっている。全体的に薄い層である。上位は炭化物を多く含む黒褐色土で、中央部以下は灰を主体に焼土が混じりあっている。鉄片や礫のほか、比較的残存状態の良い魚骨が多量に出土している。炉というよりは灰や生活残渣を捨てた場所と考えられ、平地住居跡の廃絶後に形成された可能性がある。

〔柱穴〕USD 5 - ph 1 ~ 23

Ⅲ層で6基、Ⅳ層で16基、Ⅴ層で1基の柱穴を検出した。径7~9cm、Ⅲ層上面からの深さが30~40cmのものが多く、先端が尖っている柱穴が多い。柱穴のうち母屋を直接構成するのはph 1~3・7・8・11・13・15・17~19の11基で、納屋（兼出入口）を構成するのはph 13・16・20・21・23の5基である。母屋の西側の柱穴がやや太く深い。また、他の平地住居跡に比較して納屋（兼出入口）の柱穴がやや太い。ph・10・12・14は住居の内側、ph 4・5・6・9・22は外側にあたるが、いずれも住居跡に関連した柱穴と考えられる。なおph 1・2、ph 3・4、ph 5・6はそれぞれ隣接して検出され、ph 14はfp 2の下から、ph 15はfp 4の下から検出された。一部の柱穴が傾斜しているが、方向や位置関係に大きな特徴はない。

〔カワシンジュガイ集中〕USD 5 - ks 1 : 規模 0.76m x 0.50m

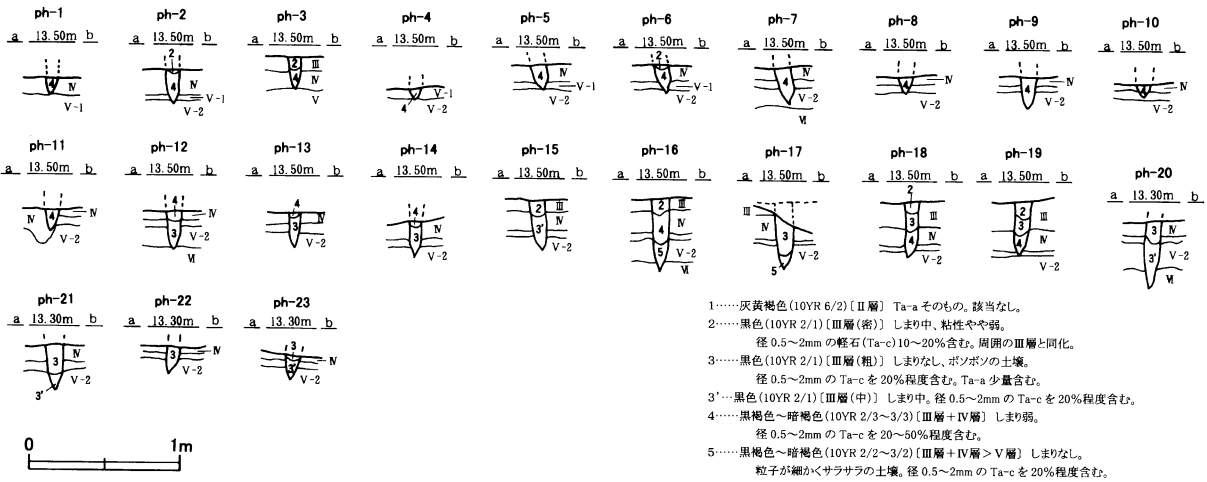
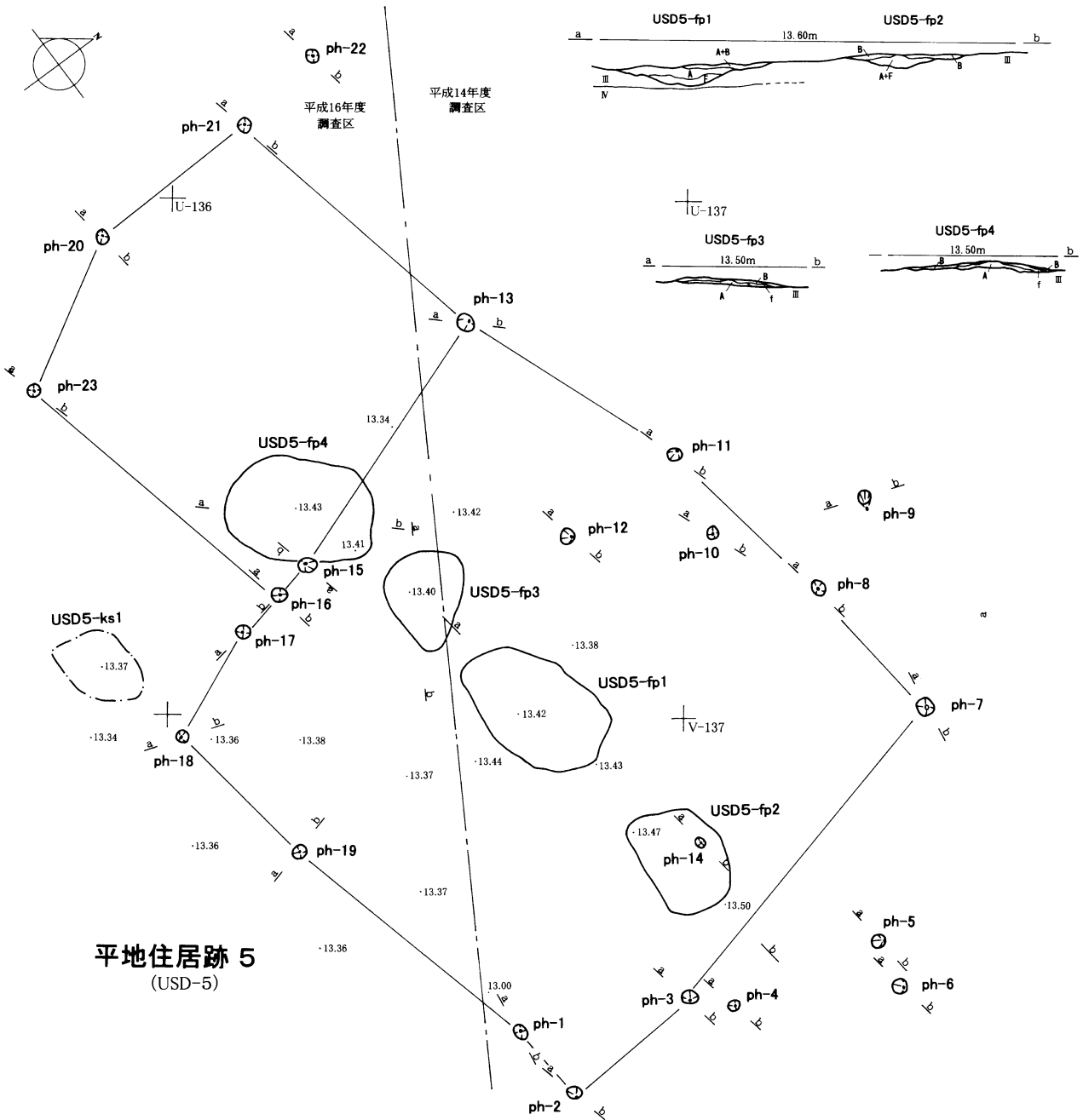
住居跡の南西側、出入口付近にあたる位置から、カワシンジュガイの殻皮の小片がややまとまって出土した。他のカワシンジュガイ集中に比較して密度が小さい。

遺物出土状況：鉄製品16点（破片38点）・火皿1点・棒状礫33点・礫22点・火打石片15点・骨角器1点のほか、漆器の塗膜やカワシンジュガイ（殻皮）が多数出土している。これらの遺物は、母屋の南~南西側にあたる範囲から多く出土している。鉄製品は他の遺構に比較して多く、刀子・鉄鍋片・釘・針・鉄鏃がある（Ⅳ章-6）。焼土内の遺物は手取りおよびフローテーションにより回収し、魚骨片や微小な貝、植物種子が得られている。またチャートの小破片が多量に出土している。（Ⅳ章-7）
時期：検出層位および遺構の構成から、1739年以前の近世アイヌ文化期とみられる。

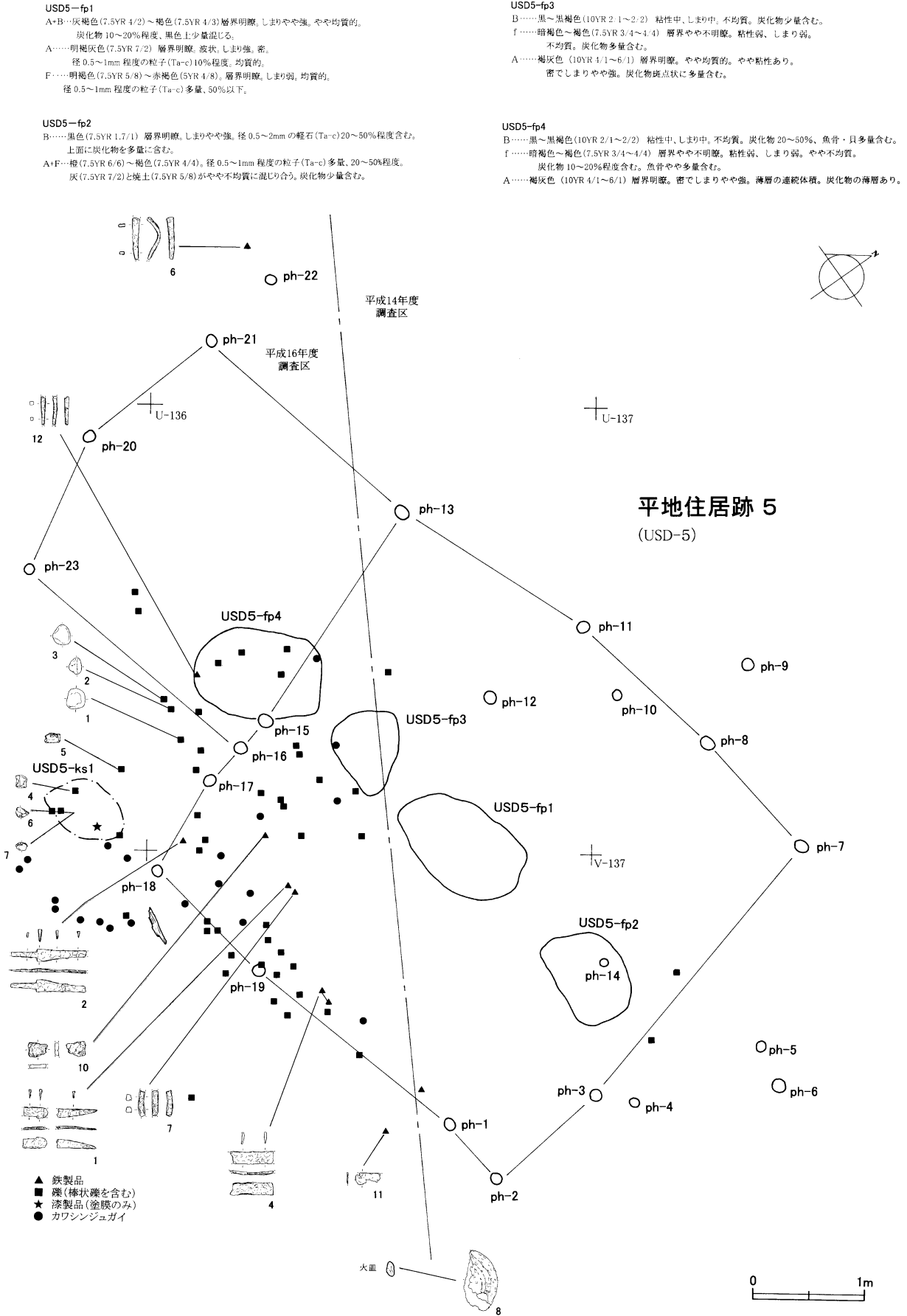
表Ⅳ-1 平地住居跡5 柱穴一覧

	発掘区	検出層位	径 (cm)		深さ (cm)		傾き (度)	備 考
			検出面	中間	確認長	推定		
USD 5 - ph 1	V - 136	Ⅳ層上面	7	7	10	24	0	H14年調査
USD 5 - ph 2	V - 136	Ⅳ層上面	8	7	21	31	1	H14年調査
USD 5 - ph 3	V - 137	Ⅲ層上位	7	7	22	34	0	H14年調査
USD 5 - ph 4	V - 137	V - 1層上面	7	6	6	26	0	H14年調査・付属柱穴
USD 5 - ph 5	V - 137	Ⅳ層上面	9	8	16	26	12	H14年調査・付属柱穴
USD 5 - ph 6	V - 137	Ⅳ層上面	9	8	18	26	13	H14年調査・付属柱穴
USD 5 - ph 7	U - 137	Ⅳ層上面	9	7	27	37	10	H14年調査
USD 5 - ph 8	U - 137	Ⅳ層	8	7	10	22	0	H14年調査
USD 5 - ph 9	U - 137	Ⅳ層	8	6	21	33	0	H14年調査・付属柱穴？
USD 5 - ph10	U - 137	Ⅳ層	10	7	8	20	0	H14年調査・付属柱穴
USD 5 - ph11	U - 136	Ⅳ層	10	7	14	26	0	H14年調査・下位攪乱
USD 5 - ph12	U - 136	Ⅳ層	8	6	24	36	1	H14年調査・付属柱穴
USD 5 - ph13	U - 136	Ⅳ層	8	6	23	35	0	H14年調査
USD 5 - ph14	V - 137	Ⅳ層上面	7	6	24	36	0	H14年調査・fp 2 下
USD 5 - ph15	U - 136	Ⅲ層上位	10	9	32	34	6	fp 4 下
USD 5 - ph16	U - 136	Ⅲ層上位	12	10	48	50	0	
USD 5 - ph17	U - 136	Ⅳ層上面	12	11	36	46	0	
USD 5 - ph18	V - 136	Ⅲ層上位	10	8	34	34	0	
USD 5 - ph19	V - 136	Ⅲ層上位	10	9	35	35	2	覆土上位に棒状礫
USD 5 - ph20	U - 135	Ⅲ層	10	9	44	56	5	セム
USD 5 - ph21	T - 136	Ⅳ層上面	12	9	27	39	3	セム
USD 5 - ph22	T - 136	Ⅳ層	8	7	19	36	2	付属柱穴？
USD 5 - ph23	U - 135	Ⅳ層	10	9	16	34	0	セム

上記はすべてⅢ層の遺構。深さの推定長はⅢ層を12cmとして算出。傾きは垂直方向に対する建物内側への角度。



図IV - 2 平地住居跡5〔USD - 5〕(1)



図Ⅳ - 3 平地住居跡 5〔USD - 5〕(2)

(2) 平地住居跡8〔USD-8〕

位置：U-133・134、V-133・134・135、W-133・134・135、X-133・134・135

標高13.2～13.5m付近

規模：〔全体〕11.0×7.0m〔主体部〕7.6×7.0m〔付属施設〕3.6×3.5m

長軸方向：N-79°-W

確認・調査：Ta-a除去後Ⅲ層上面を精査したところ、炉の可能性のある暗灰色の楕円形のまとまりが現れた。その周囲にカワシンジュガイ（殻皮）や棒状の礫などが出土し始めていた。さらに精査を進め少し掘り下げたところ、棒状の礫などの遺物が明瞭に現れた。また周囲と比較して非常にやわらかい土壌が数カ所確認された。ピンポールを刺すと50cm以上の柱穴状の穴であることがわかった。柱穴の検出面は黒色土中であるため、確認作業は炉から3～4mほど離れた位置で検出された数カ所の柱穴を掘りどころとして列になる位置を中心にピンポールを刺す方法で行った。また著しく土壌のやわらかい円形の部分や歩行中にくぼむ部分、水分を含ませた後に先行して乾燥する円形の部分なども柱穴調査の対象とした。炉の周辺に、方形に列する柱穴状の落ち込みを確認した。またその西側にも付属施設を構成するとみられる柱穴状の落ち込みを確認した。それぞれ半截した結果、断面の形状などから、その後Ⅳ層上面で検出したものを含めて35基を柱穴と判断した。

灰や焼土のまとまりは4カ所確認され、半截して断面を観察した。その結果2カ所を炉と判断し、残りの2カ所は灰や焼土が捨てられたものと考えた。灰や焼土の土壌はすべて採取しフローテーション作業を行った。なお、主体となる炉（fp1）の平面のうち南半分と断面、そして柱穴のうち4基（ph8・11・21・29）について土層の剥ぎ取りを行った。

以上の結果から、炉と周囲の柱穴によって構成される平地住居跡と認定した。付属施設（出入口をかねた納屋と考えられる）を含めて、遺跡内で最大規模である。

付属遺構：焼土4カ所および柱穴35基を確認した。また炉内の棒状の穴を多数検出している。

〔炉〕USD8-fp1：規模 1.68(+0.18)m×0.82m/0.21m 被熱層 Ⅲ層～Ⅳ層

平地住居跡の主体部の中央より西側に位置する。平面形は隅丸長方形で、各辺とも直線になっている。ただし西側は上面の灰が長方形からはみ出している。木杵があったことも考えられその痕跡の検出に努めたが、確認できなかった。断面は大きく3層に分けられる。①上面付近は灰や焼土・炭化物・黒色土が混じる層、②中位は純度の高い灰層、③下位は黒色土やTa-cが強く被熱した焼土、となっており、特に灰層・焼土層がそれぞれ約10cmの厚さがある。灰層は上位が細かく、下位がやや粗い粒子である。焼土層は椀状にくぼんでおり、灰や焼土などを掻き出していたことが考えられる。

灰層を取り除くと、楕円形の焼土の周囲および焼土内に径1～3cmの灰の落ち込みが多数検出された。半截すると、棒状のものを刺した跡であることが確認された。4カ所を例示した（ph36～39）。

USD8-fp2：規模 0.95m×0.42m/0.10m 被熱層 Ⅲ層

平地住居跡の主体部の中央より東側に位置する。平面形は長楕円形で、上面は炭化材片が多くみられる。断面はレンズ状を呈し赤褐色に強く被熱している。最下層はやや黒ずんだ薄層がある。最下面から長さ1.15m（途中部分的に欠損あり）・径約2cmの炭化材が出土しており、焚き付け材と考えられる。材はブドウ科と同定された（Ⅶ章2）。

USD8-fp3：規模 0.46m×0.41m/0.02m 被熱層 Ⅲ層上位

平地住居跡の付属施設内に位置し、住居の出入口と母屋への出入り口の間に相当する。平面形は不整形で、灰・焼土・炭化材片が混在している。被熱している部分があるものの層厚が薄く、炉ではなく灰や焼土が投棄されたものと思われる。

USD 8 - fp 4 : 規模 0.61m × 0.43m / 0.04m 被熱層 III層上位

平地住居跡の主体部の西寄りに位置する。平面形は不整形で断面も不整形で薄い。上面は炭化物・黒色土・焼土が混在し、中位は灰が主体となっているが焼土や黒色土が混じっている。最下層はやや被熱している部分が見られる。位置や断面から見て、炉ではなく灰や焼土が投棄されたものと考えられる。

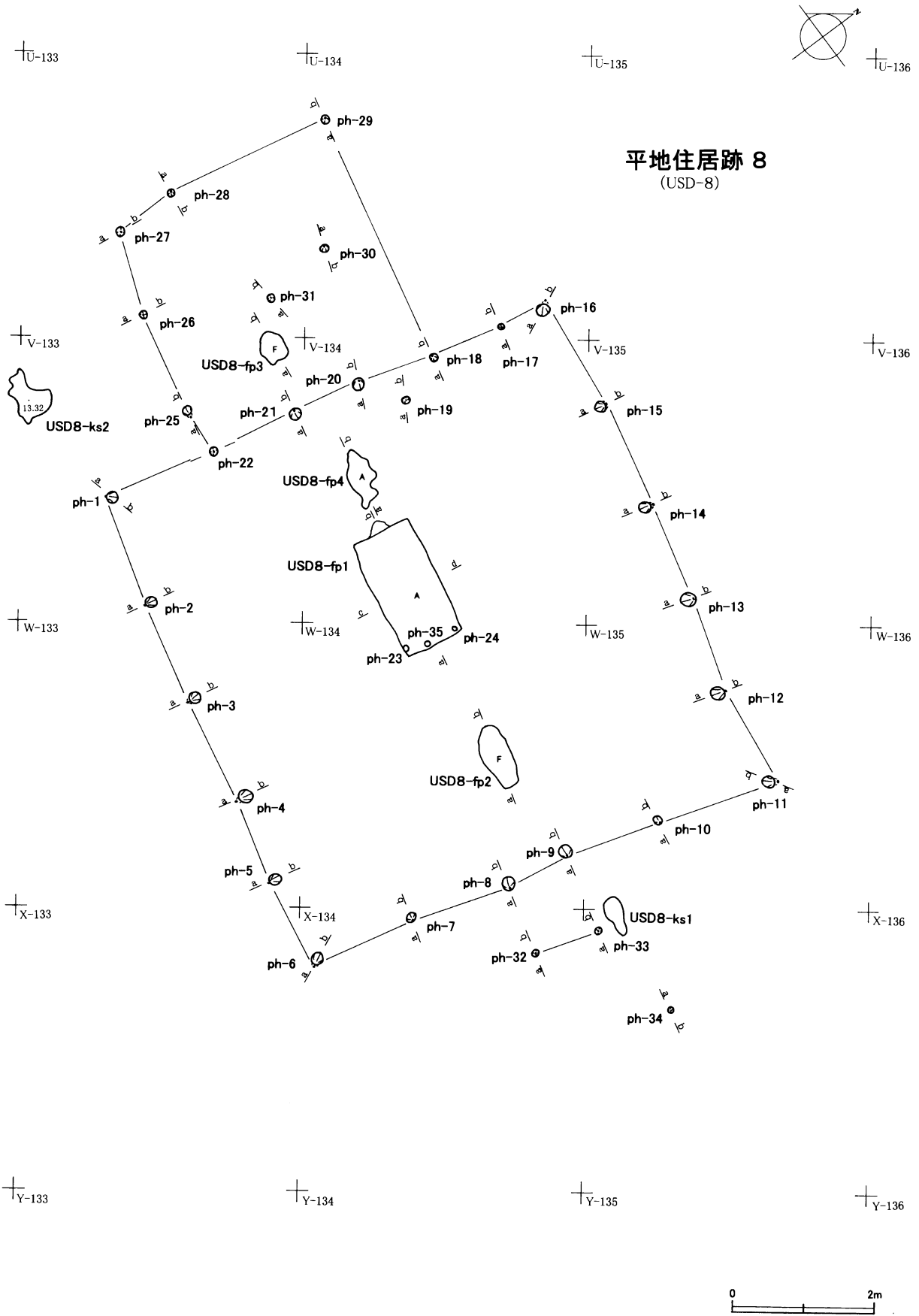
〔柱穴〕USD 8 - ph 1 ~ 35・36~39

III層で27基、IV層で5基の柱穴を検出した。またfp1の隅に3基の柱穴状ピットとfp1の灰層下から多数の棒状ピットを検出し、明瞭な4基について図示した(ph36~39)。

表IV - 2 平地住居跡 8 柱穴一覧

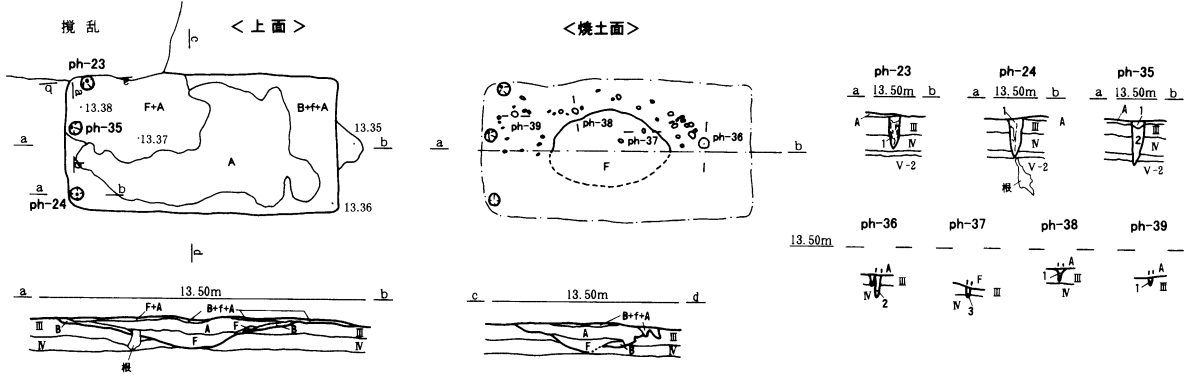
	発掘区	検出層位	径 (cm)		深さ (cm)		傾き (度)	備 考
			検出面	中間	確認長	推定		
USD 8 - ph 1	V - 133	III層上位	15	12	58	60	7	
USD 8 - ph 2	V - 133	III層上位	14	13	71	71	10	
USD 8 - ph 3	W - 133	III層上位	16	13	77	77	8	
USD 8 - ph 4	W - 133	III層上位	19	13	68	68	12	
USD 8 - ph 5	W - 133	III層上位	15	13	65	68	9	
USD 8 - ph 6	X - 134	III層上位	16	11	58	60	14	
USD 8 - ph 7	X - 134	III層上位	12	10	40	42	10	
USD 8 - ph 8	W - 134	III層上位	16	12	61	61	6	
USD 8 - ph 9	W - 134	III層上位	18	13	66	68	3	覆土にカワシンジュガイ
USD 8 - ph10	W - 135	IV層上面	10	8	27	40	12	
USD 8 - ph11	W - 135	III層上位	17	11	50	50	21	
USD 8 - ph12	W - 135	III層上位	20	13	61	61	11	
USD 8 - ph13	V - 135	III層上位	19	12	62	62	8	
USD 8 - ph14	V - 135	III層上位	16	12	64	64	13	
USD 8 - ph15	V - 135	III層上位	17	11	68	68	9	
USD 8 - ph16	U - 134	III層上位	16	12	76	76	10	
USD 8 - ph17	U - 134	III層上位	9	7	15	15	0	付属柱穴
USD 8 - ph18	V - 134	III層上位	10	7	45	45	5	
USD 8 - ph19	V - 134	III層上位	9	7	37	37	2	付属柱穴
USD 8 - ph20	V - 134	III層上位	15	11	64	66	3	
USD 8 - ph21	V - 133	III層上位	15	12	73	73	4	
USD 8 - ph22	V - 133	IV層上面	10	10	56	68	4	
USD 8 - ph23	W - 134	fp 1 上面	7	6	21	21	0	炉の隅・樹皮残る
USD 8 - ph24	W - 134	fp 1 上面	8	7	24	24	1	炉の隅・樹皮残る
USD 8 - ph25	V - 133	III層上位	9	7	40	40	14	セム
USD 8 - ph26	U - 133	III層上位	8	7	21	23	0	セム
USD 8 - ph27	U - 133	III層上位	10	9	42	44	1	セム
USD 8 - ph28	U - 133	IV層上面	8	7	25	37	1	セム
USD 8 - ph29	U - 134	III層上位	10	8	51	51	3	セム
USD 8 - ph30	U - 134	III層下位	8	7	27	36	4	付属柱穴
USD 8 - ph31	U - 133	IV層上面	6	6	9	21	0	付属柱穴・覆土にカワシンジュガイ
USD 8 - ph32	X - 134	III層上位	10	8	33	38	1	付属柱穴
USD 8 - ph33	X - 135	III層上位	8	7	30	32	0	付属柱穴
USD 8 - ph34	X - 135	IV層上面	6	5	37	50	1	付属柱穴
USD 8 - ph35	W - 134	fp 1 上面	8	6	30	30	0	炉の隅
USD 8 - ph36	V - 134	fp 1 灰層下	3	2	14	18	0	炉内、棒状の穴
USD 8 - ph37	V - 134	fp 1 焼土上面	2	2	6	18	1	炉内、棒状の穴
USD 8 - ph38	V - 134	fp 1 灰層下	3	1	8	12	0	炉内、棒状の穴
USD 8 - ph39	W - 134	fp 1 灰層下	1	1	4	8	0	炉内、棒状の穴

上記はすべてIII層の遺構。深さの推定長はIII層を12cmとして算出。傾きは垂直方向に対する建物内側への角度。



図IV - 4 平地住居跡 8 [USD - 8] (1)

USD8-fp1



USD8-fp1

B+f+A…にぶい赤褐色(5YR 4/4)、層界明瞭、しまりやや弱、均質的。粒子細かい。
 灰が主体で焼土粒(7.5YR 6/8)少量含む。上部を中心に炭化物多量含む。
 F+A…褐色～明褐色(7.5YR 4/4～5/8)。しまり中。不均質。焼土主体。
 上部に炭化材片多量含む。
 A…灰白色～にぶい黄褐色(10YR 7/1～7/2)層界明瞭。灰層。非常に緻密でしまっている。
 純度高く均質的。上半粒子非常に細かい。
 F…明赤褐色(5YR 5/8)層界明瞭。しまりやや弱。純度高く均質的。径0.5～1mm程度のTa-c。
 B(下)…黒色(N 1.5/0)層界やや明瞭。粘性やや弱、しまり弱。III層よりさらに黒色味強い。

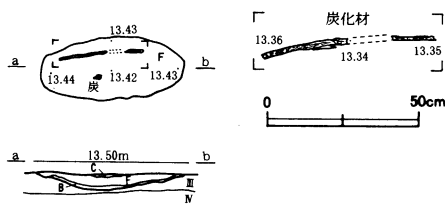
USD8-ph23・24

1…黒色(10YR 2/1)〔III層(粗)〕しまりなし、ポツポツの土壤。Ta-cを20%程度含む。
 樹皮が主に柱穴壁面に多く残存している。

USD8-ph35～39

1…灰白色(10YR 7/1)〔USD8-fp1〕しまり中。粒子細かく、密。炭化物少量含む。
 2…褐灰色(10YR 6/1)〔USD8-fp1〕しまり弱。粒子細かい。炭化物少量含む。黒色土少量含む。
 3…にぶい赤褐色(5YR 5/4)〔USD8-fp1〕灰混じり焼土。しまりやや弱。
 粒子やや細かい。やや均質的。

USD8-fp2



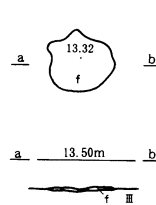
USD8-fp2

炭…極暗褐色(7.5YR 2/3)。炭化物を多量含む黒色土。粘性中、しまり中。不均質。
 F…明赤褐色(5YR 5/8)層界明瞭。しまり弱。均質的。径0.5～2mmのTa-c。炭化物少量含む。
 B…黒色(N 1.5/0)層界やや明瞭。粘性やや弱、しまり弱。III層よりさらに黒色味強い。

USD8-fp3

f…褐色(7.5YR 4/4)層界明瞭。均質的。上面に炭化物やや多量含む。

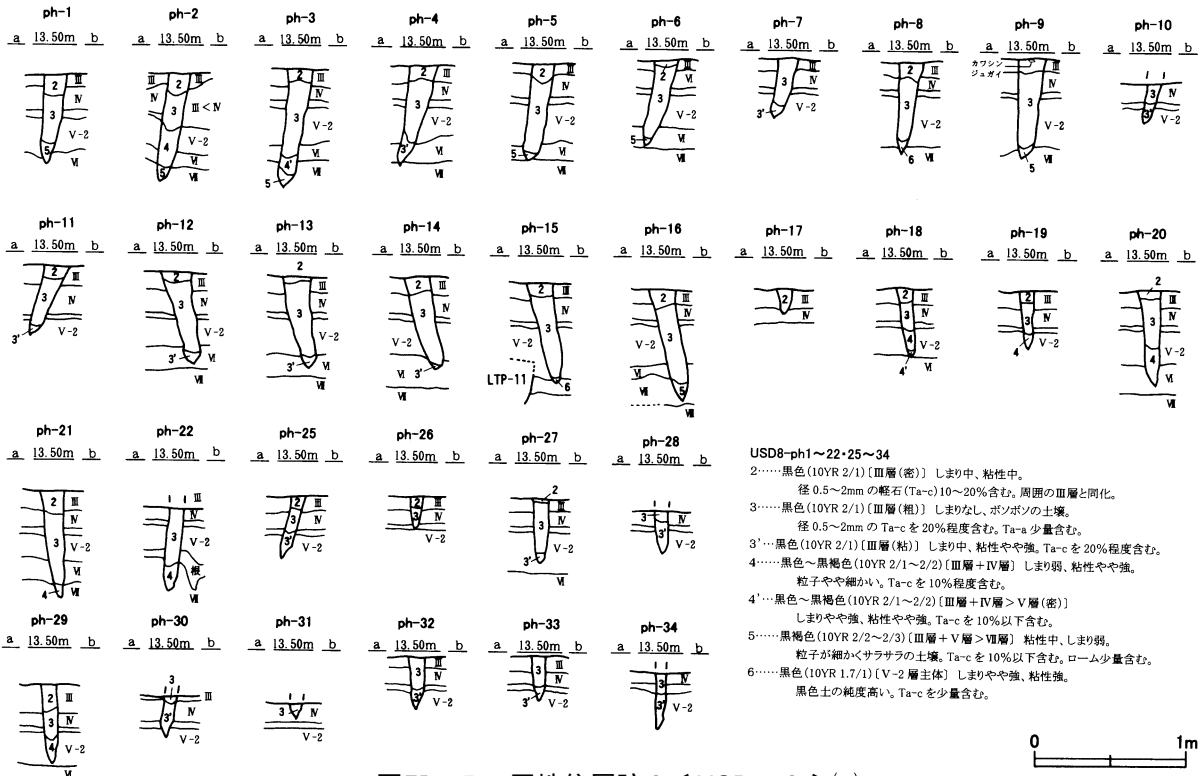
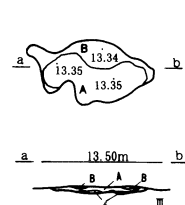
USD8-fp3



USD8-fp4

B…黒褐色(7.5YR 3/1)粘性中、しまり中。不均質。焼土粒・炭化物やや多量含む。
 A…褐灰色(10YR 6/1)。層界明瞭。しまりやや強。やや均質的。炭化物・黒色土少量含む。
 f…明褐色(7.5YR 5/8)層界明瞭。しまりやや強。均質的。

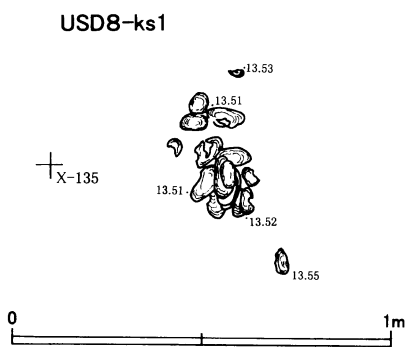
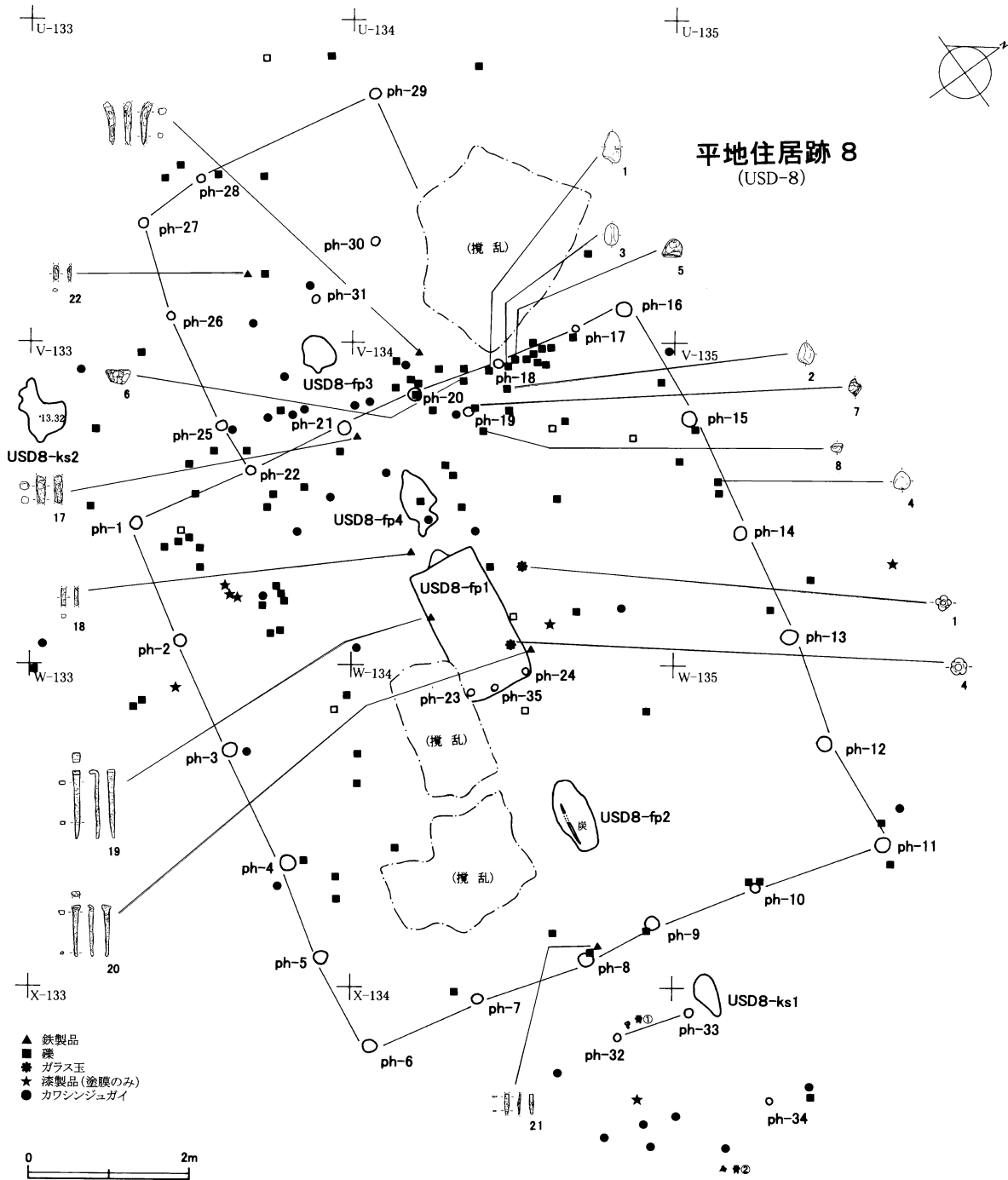
USD8-fp4



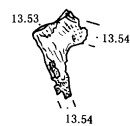
USD8-ph1～22・25～34

2…黒色(10YR 2/1)〔III層(密)〕しまり中、粘性中。
 径0.5～2mmの軽石(Ta-c)10～20%含む。周囲のIII層と同化。
 3…黒色(10YR 2/1)〔III層(粗)〕しまりなし、ポツポツの土壤。
 径0.5～2mmのTa-cを20%程度含む。Ta-a少量含む。
 3'…黒色(10YR 2/1)〔III層(粘)〕しまり中、粘性やや強。Ta-cを20%程度含む。
 4…黒色～黒褐色(10YR 2/1～2/2)〔III層+IV層〕しまり弱。粘性やや強。
 粒子やや細かい。Ta-cを10%程度含む。
 4'…黒色～黒褐色(10YR 2/1～2/2)〔III層+IV層>V層(密)〕
 しまりやや強。粘性やや強。Ta-cを10%以下含む。
 5…黒褐色(10YR 2/2～2/3)〔III層+V層>VII層〕粘性中、しまり弱。
 粒子が細かくサラサラの土壤。Ta-cを10%以下含む。ローム少量含む。
 6…黒色(10YR 1.7/1)〔V-2層主体〕しまりやや強、粘性強。
 黒色土の純度高い。Ta-cを少量含む。

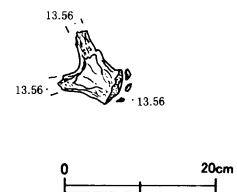
図Ⅳ - 5 平地住居跡8〔USD - 8〕(2)



骨①



骨②



図IV - 6 平地住居跡 8 [USD - 8] (3)

柱穴のうち主体部(母屋)を直接構成するものは20基(ph1~18・20・22)である。ただしph17は径が小さく浅い柱穴であり補助的なものである。主体部の柱穴は、検出面の径が15~20cm、柱穴の中間径が12cm前後のものが多い。また柱穴の深さは差があるものの60~70cmのものが多く、先端がとがっておりかなり深く打ち込まれていることがわかる。住居の内側に傾斜した柱穴が多く見られ、特に南側の列(ph1~6)および北側の列(ph11~16)は10°前後の傾きがある。特に四隅の柱穴は顕著で、最大21°を測る。「外ふんばり」で上部構造を支えていたものと考えられる。柱穴の覆土は、しまりのないボソボソとした土壌がほとんどで、空洞のあるものもある。別棟の施設(出入口を兼ねた納屋)と考えられる柱穴は7基(うち2基は母屋との接続部)確認した(ph25~29と母屋のph18・22)。柱穴の径は8cm前後、深さは30~40cm程度である。1基(ph25)を除いて傾斜はほとんどない。

このほか、ph19・30・31は平地住居跡の内側に、ph32~34は外側東にある補助的な柱穴である。特にph32・33は「神窓」の外側に隣接するものである。またph23・24・35は炉fp1の東隅にあり、特にph23・24は樹皮や木質の一部が残存していた。

〔カワシンジュガイ集中〕USD8-ks1:規模 0.6m×0.3m

住居跡の東側、「神窓」の外側にあたる位置から、カワシンジュガイの殻皮が左右あわせて十数枚まとまって出土した。残存状態は比較的良好である。

USD8-ks2:規模 0.8m×0.5m

住居跡の南西側、出入り口の外にあたる位置から、カワシンジュガイの殻皮の小片がややまとまって出土した。密度は小さく、残存状態はあまり良好でない。

遺物出土状況:全体で127点の遺物と、炉を中心に骨や貝などの自然遺物が多量出土している。遺物の内容は、火打石8点・砥石1点・棒状礫53点・焼礫1点・礫44点・石製玉類1点・ガラス玉3点・鉄製品12点・漆の塗膜少量である。棒状礫をはじめ、多くの遺物が住居跡の北~西側から出土している。ガラス玉や鉄製品は炉付近からの出土が多い。自然遺物はカワシンジュガイの殻皮が住居跡の西側に散在し炉からサケ科魚骨・貝片等が出土するほか、特記事項として住居跡の東側「神窓」の外にあたる位置から鹿角(基部)が残っていた点があげられる。

時期:検出層位および遺構の構成から、1739年以前の近世アイヌ文化期とみられる。(阿部)

(3) 平地住居跡9〔USD-9〕

位置:Y-130・131・132、Z-131・132 標高13.5~13.7m付近

規模:〔全体〕4.0×3.3m 長軸方向:N-86°-W

確認・調査:Ⅲ層上面で、にぶい黄褐色の整った楕円形プランを確認し、灰集中が検出された。周辺を精査したところ、灰集中の外側に明瞭な焼土が検出された。また、ほぼ同じレベルから柱穴と考えられる小さな丸い黒色土の範囲が数ヶ所検出され、周辺からカワシンジュガイの殻皮、棒状礫や鉄製品等が確認されたため、平地住居跡を想定した。遺物の取上げ後、約3cmずつⅢ層の掘り下げを行い、Ⅳ層上面でプランの確認を改めて行ったところ、灰集中(焼土)を取り囲む様に小さな柱穴様の落ち込みが並んで検出された。半截し断面観察を行い、土層や断面形状から21基を柱穴と判断した。

以上の結果から、灰を伴う焼土と周囲の柱穴によって構成される平地式住居跡と認定した。なお、このUSD-9は前回の調査のUSD-3と並んで最も小規模な平地住居跡である。

付属遺構:焼土1カ所および柱穴22基を確認した。

〔炉〕USD9-fp1:規模 0.87m×0.65m/0.13m 被熱層 Ⅲ層上面~Ⅲ層下部

断面がレンズ状に厚く堆積した地床炉。住居の中央よりやや西側に位置する。上位は灰と黒色土を主

体とした層(A+B)、中央部は灰と焼土が厚く堆積し(A+F①・②)、周囲には焼土と黒色土を主体とする層(F+B)がある。最下部には明度の高い赤褐色の焼土(F)が厚く堆積する。焼土の被熱層はⅢ層の下部である。堆積のあり方は他の平地住居と類似するが、この地床炉は比較的小形である。
USD 9 - fp 2 : 規模 0.18m × 0.1m / 被熱層 Ⅲ層上面

住居の南西隅やや外側に位置する。規模や位置から考えて、炉ではなく投げこまれた焼土である可能性が高い。にぶい橙色を呈する。薄く、焼土の層界も明瞭である。

〔柱穴〕USD 9 - ph 1 ~ 22

Ⅲ層で19基、Ⅳ層で2基の計21基の柱穴を検出した。ph11は調査の結果、木の根痕と判断したため欠番である。径は5~10cmまであり、5~7cmのものが主体である。覆土は黒色土主体でしまりの弱いふかふかの土層が特徴的である。断面形は先端が細く、尖り気味のものが多い。このうち住居の上屋を構成するとみられる柱穴は11基(ph 1~10・19)である。柱穴の並びはほぼ全周にわたって確認されたが、東側は隅の柱穴以外検出できなかった。また、東側の両隅は柱穴2本が近接している。柱穴は全体的に住居中央に向かってやや傾斜し、他の住居同様「外ふんばり」で上部構造を支えていたと考えられる。ただし、ほぼ垂直のものも少数認められる。深さは生活面と考えられるⅢ層上面からは最も浅いもので22cm、最も深いものは45cmを測り、全体的には30cm前後のものが多い。

遺物出土状況：鉄製品20点(8個体)、銅銭1点、火打石5点、棒状礫3点、礫72点、骨角器1点が出土した。鉄製品は、刀子・平釘・角釘・環状鉄製品・不明がある(Ⅳ章-6)。礫は住居の西壁際付近にあたる場所から多く出土し、小型で長楕円形を呈しているものが多い。またフローテーションにより、魚骨片や微小な貝、植物種子が多量に得られている(Ⅳ章-7)。特に焼土上面に魚骨が多く、椎骨のつながった状態で残存していたサケ科とみられる魚骨もみられた。

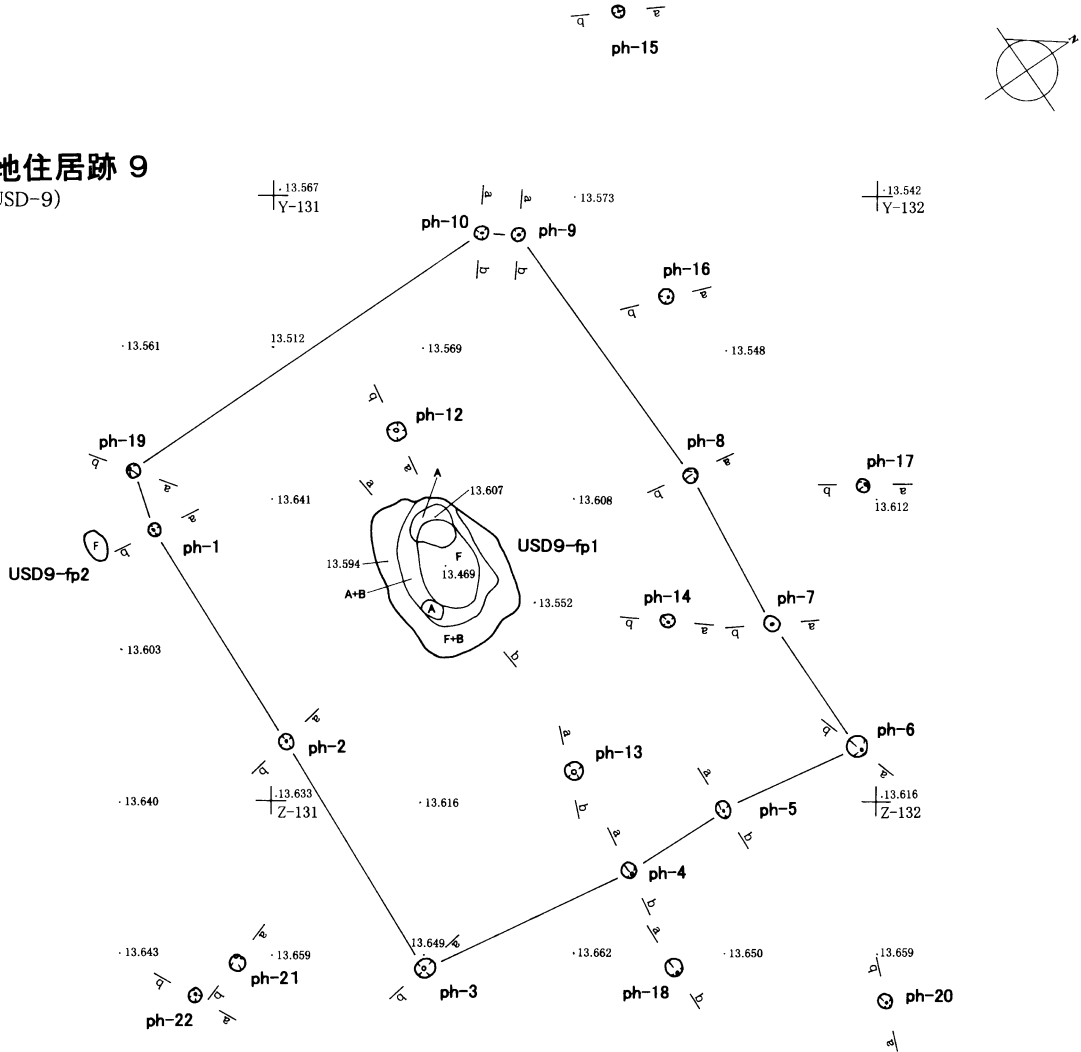
時期：検出層位および遺構の構成から、1739年以前の近世アイヌ文化期とみられる。(広田)

表Ⅳ-3 平地住居跡9柱穴一覧

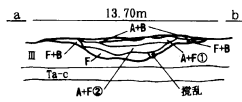
	発掘区	検出層位	径 (cm)		深さ (cm)		傾き (度)	備考
			検出面	中間	確認長	推定		
USD 9 - ph 1	Y - 130	Ⅲ層中位	6.3	5.5	30.0	35.0	8	
USD 9 - ph 2	Y - 131	Ⅲ層中位	7.8	5.0	25.0	30.0	-5	やや外側に傾く
USD 9 - ph 3	Z - 131	Ⅳ層上面	10.5	8.8	12.5	24.5		浅いため傾き不明
USD 9 - ph 4	Z - 131	Ⅲ層中位	8.8	6.3	31.3	24.5	3	
USD 9 - ph 5	Z - 131	Ⅲ層中位	10.0	7.5	17.5	23.3	0	
USD 9 - ph 6	Y - 131	Ⅲ層下位	11.3	8.8	30.0	42.0	3	
USD 9 - ph 7	Y - 131	Ⅲ層下位	6.3	6.3	12.5	22.0	1	
USD 9 - ph 8	Y - 131	Ⅲ層下位	8.8	8.8	22.5	32.0	1	
USD 9 - ph 9	Y - 131	Ⅲ層中位	8.3	5.0	21.3	27.0	2	
USD 9 - ph 10	Y - 131	Ⅲ層中位	8.0	7.5	25.0	32.0	2	
USD 9 - ph 12	Y - 131	Ⅳ層上面	10.0	10.0	18.3	30.3	0	
USD 9 - ph 13	Y - 131	Ⅲ層下位	10.0	6.0	18.8	29.5		先端やや湾曲
USD 9 - ph 14	Y - 131	Ⅲ層中位	7.5	5.0	28.8	35.8	0	
USD 9 - ph 15	X - 131	Ⅲ層下位	7.5	5.8	19.0	27.5		先端やや湾曲
USD 9 - ph 16	Y - 131	Ⅲ層下位	8.0	5.0	17.5	28.3	0	
USD 9 - ph 17	Y - 131	Ⅲ層中位	7.5	5.8	30.0	32.0	0	
USD 9 - ph 18	Z - 131	Ⅲ層下位	10.0	7.0	26.3	37.0	7	
USD 9 - ph 19	Y - 130	Ⅲ層下位	7.5	6.5	22.5	31.3	3	
USD 9 - ph 20	Z - 132	Ⅲ層中位	8.0	7.0	40.0	45.3	0	先端やや湾曲
USD 9 - ph 21	Z - 130	Ⅲ層中位	8.8	6.3	25.0	32.5	1	
USD 9 - ph 22	Z - 130	Ⅲ層中位	7.5	5.0	28.0	32.5	0	

上記はすべてⅢ層の遺構。深さの推定長はⅢ層を12cmとして算出。傾きは垂直方向に対する建物内側への角度。

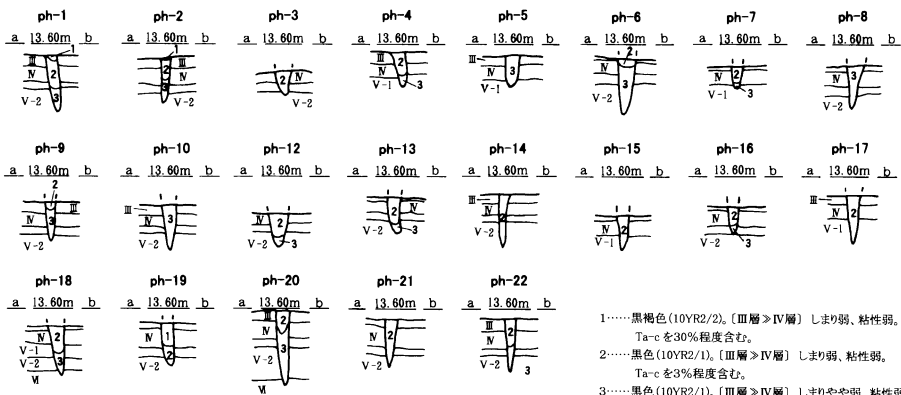
平地住居跡 9
(USD-9)



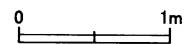
USD9-fp1
 A+B…にぶい黄褐色(10YR4/3)。層界明瞭。密でしり強。灰が主体で黒色土とその被熱部がほぼ均質的に混ざる。炭化物3%、骨片5%含む。
 A+F①…にぶい橙色(7.5YR7/4)。層界上明瞭、下やや不明瞭。密でしり強。均質的。焼土30%含む。炭化物1%、骨片1%含む。
 A+F②…にぶい橙色(7.5YR6/4)。層界上やや不明瞭、下明瞭。密だが径やや大きい。しり強。焼土30%含む。やや不均質で、焼土がブロック状に混ざる部分あり。炭化物約1%含む。
 F+B…褐色(7.5YR4/4)。層界明瞭。焼土にやや黒色土混ざる。やや粗く径2mm程度の粒子からなる。しり強。
 F…赤褐色(5YR4/6)。焼土層。層界明瞭。やや粗く径3mm程度の粒子からなる。しり強。



USD9-fp2
 F…鈍い橙色(YR6/4)。セクション図なし。層界明瞭。焼土ブロック主体で黒色土が混ざる密で均質的。

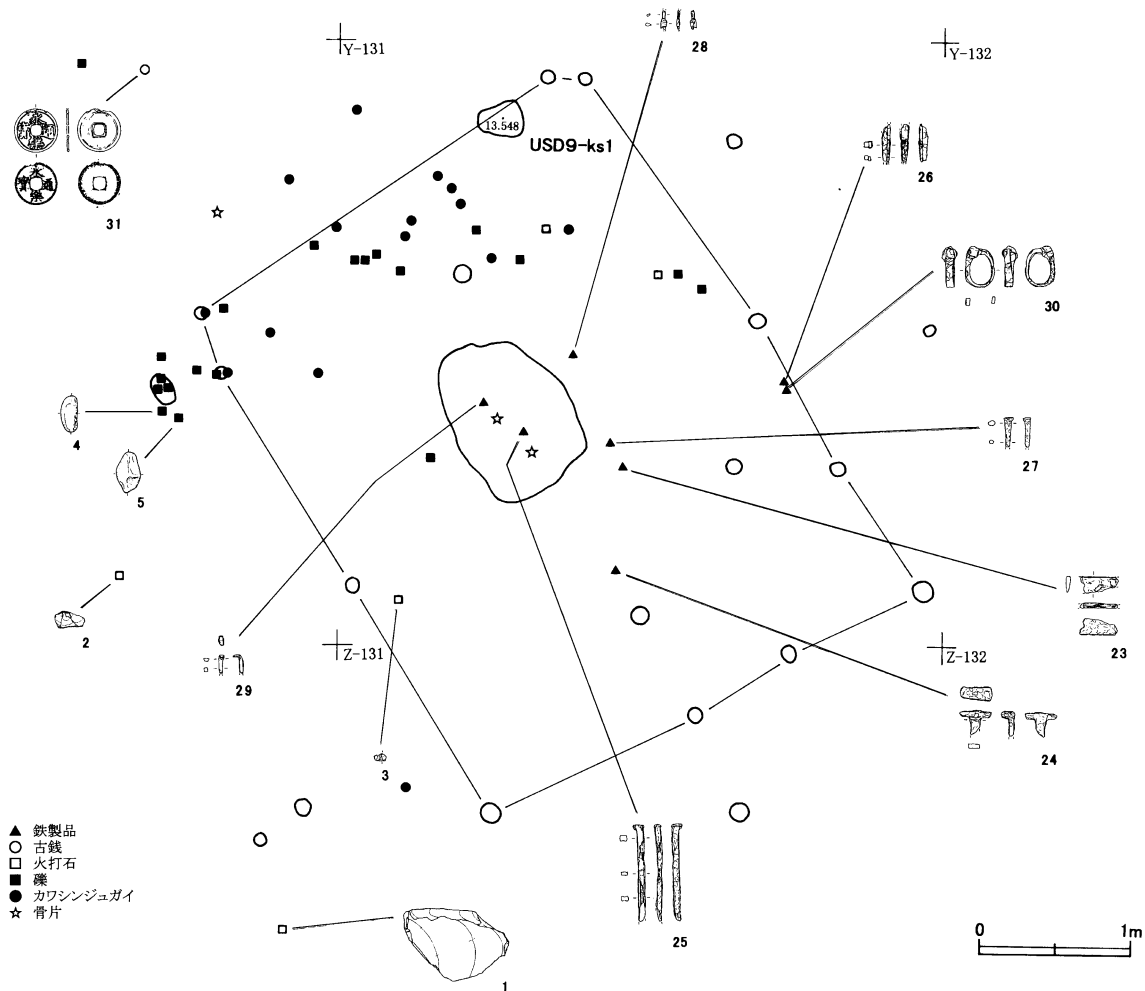
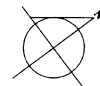


- 1…黒褐色(10YR2/2)。【III層>IV層】しり弱、粘性弱。Ta-cを30%程度含む。
- 2…黒色(10YR2/1)。【III層>IV層】しり弱、粘性弱。Ta-cを3%程度含む。
- 3…黒色(10YR2/1)。【III層>IV層】しりやや弱、粘性弱。Ta-cを1%程度含む。



図IV - 7 平地住居跡9〔USD - 9〕(1)

平地住居跡 9
(USD-9)



図IV - 8 平地住居跡9 [USD - 9] (2)

3. 建物跡 (図IV-9、表IV-4、図版9・10)

(1) 建物跡4 [USB-4]

位置：R-134・135 S-135 標高13.1m付近

規模：〔全体〕4.0×3.3m 長軸方向：N-49°-E

確認・調査：平地住居跡4および5(USD-4・5)の西側に位置する。Ⅲ層上面を精査中、焼土(UFP-16~18)が検出され、その周囲から非常にやわらかい土壌の小円形部分が10数ヵ所確認された。それぞれ半截したところ、先端がとがり直線状に延びる柱穴状ピットが6基確認できた。さらに周囲を掘り下げ、Ⅲ層下位で2基・Ⅳ層上面で1基を確認し、計9基の柱穴を検出した。正方形に近い田の字状の配列となったが、南西側のph1-4-7と北東側のph3-6-9は直線上に並びほぼ平行するものの、中央の列ph2-5-8はやや不均等である。柱間距離はそれぞれ以下のとおりである。

南西-北東	〔ph1-2-3〕	2.0m、2.0m	〔ph1-3〕	3.9m
	〔ph4-5-6〕	2.1m、2.3m	〔ph4-6〕	3.8m
	〔ph7-8-9〕	1.8m、1.9m	〔ph7-9〕	3.7m
北東-南西	〔ph1-4-7〕	1.7m、1.5m	〔ph1-7〕	3.2m
	〔ph2-5-7〕	2.1m、1.0m	〔ph2-7〕	3.1m
	〔ph3-6-9〕	1.4m、1.9m	〔ph3-9〕	3.3m

柱間距離は1.5~2.0mが多い。また柱穴の径は、検出面が13~17cm・中間が10~14cmでかなり太い。柱穴の深さは44~68cmで60cm前後のものが多く(表IV-4) En-a軽石層まで達しているものも多い。一部わずかに傾斜している柱穴があるが、ほぼ直立している。柱穴の覆土は平地住居跡と同様に、しまりのないボソボソとした土壌がほとんどで、空洞のあるものもある。

遺物出土状況：周囲のⅢ層上面からカワシンジュガイの殻皮が出土しているが、建物跡と直接的に属する遺物は確認できなかった。

時期・性格：柱穴群は、Ⅲ層上面付近からの掘り込みをもつ、1739年以前の近世アイヌ文化期の建物跡と考えられる。また柱穴が太く深く打ち込まれて直立し、平面形が正方形に近い形をとり中央付近にも柱穴があることから、高床の倉庫(あるいは小熊を飼育する檻)であったと考えられる。

建物跡内のⅢ層上面付近で検出された焼土は、すぐ隣に太い大型の柱穴があることや長軸方向が若干異なることから、建物跡4とは異なる時期のものと考えられる。

(2) 建物跡5 [USB-5]

位置：V-132 W-131・132 X-132 標高13.3~13.4m付近

規模：〔全体〕4.8×3.4m 長軸方向：N-53°-W

確認・調査：平地住居跡8(USD-8)の南側、平地住居跡9(USD-9)の北側に位置する。平地住居跡周辺のⅢ層~Ⅳ層包含層調査中に、小さな丸い黒色部を多数検出した。それぞれ半截し断面を観察し、蛇行するものや曲線になるものなど根穴と思われるものをはずした結果、Ⅲ層下位で1基・Ⅳ層上面で11基・Ⅴ層上面で3基を柱穴と認定した。配列はやや不規則な長方形に近い平面形である。ph8・13・14・15は長方形のラインから外れるが、この建物跡に付属するものと考えられる。

主体部の柱穴距離は以下のとおりで、やや不規則である。

北側	〔ph3-4-5-6-7〕	1.3m、1.2m、1.5m、0.9m	〔ph3-7〕	4.8m
----	---------------	---------------------	---------	------

南側 [ph 1 - 12 - 11 - 10 - 9] 1.8m、1.0m、0.8m、1.1m [ph 1 - 9] 4.7m
 西側 [ph 1 - 2 - 3] 1.2m、1.2m [ph 1 - 3] 2.3m
 東側 [ph 9 - 8 - 7] 1.8m、1.9m [ph 9 - 7] 3.0m

柱穴の径は検出面で8～10cm程度、中間で6～8cmのものが多く、細い柱が用いられていた。深さは掘り下げたⅢ層の厚さ(12cm相当)を加えて、35～45cm程度と推定されるものが多い。ph 6・9は傾斜が10°以上あるが、それ以外はほぼ直立する。先端はとがっており、覆土はしまりのないボソボソとした土壌がほとんどである。

遺物出土状況：周囲のⅢ層からカワシンジュガイの殻皮が出土しているが、建物跡と直接的に属する遺物は確認できなかった。

時期・性格：柱穴群は、Ⅲ層上面付近からの掘り込みをもつ、1739年以前の近世アイヌ文化期の建物跡と考えられる。配置や深さにばらつきがあることから、仮小屋のような簡易的に使用した掘立柱建物跡であるものと思われる。ただし、上屋構造がない柱穴列とも考えられ、屋外の儀礼の場(幣場)の可能性もあることも考えられる。

(阿部)

表Ⅳ - 4 建物跡4・5 柱穴一覧

	発掘区	検出層位	径 (cm)		深さ (cm)		傾き (度)	備考
			検出面	中間	確認長	推定		
USB 4 - ph 1	R - 134	Ⅳ層上面	17	13	55	67	0	
USB 4 - ph 2	R - 134・135	Ⅲ層上位	15	13	64	64	0	
USB 4 - ph 3	R - 135	Ⅲ層上位	14	11	52	54	4	
USB 4 - ph 4	R - 134	Ⅲ層上位	12	10	42	44	0	
USB 4 - ph 5	R - 134	Ⅲ層上位	16	14	67	67	1	
USB 4 - ph 6	R - 135	Ⅲ層下位	15	13	48	56	1	
USB 4 - ph 7	R - 134	Ⅲ層上位	13	12	68	68	1	
USB 4 - ph 8	R - 134	Ⅲ層上位	13	11	46	46	0	
USB 4 - ph 9	S - 135	Ⅲ層下位	13	10	38	47	3	
USB 5 - ph 1	V - 132	Ⅲ層下位	10	8	30	40	0	
USB 5 - ph 2	V - 132	Ⅳ層上面	9	8	30	42	1	
USB 5 - ph 3	V - 132	Ⅳ層上面	8	7	8	20	0	
USB 5 - ph 4	V - 132	V - 1層上面	6	6	19	41	0	
USB 5 - ph 5	W - 132	Ⅳ層上面	11	10	34	46	0	
USB 5 - ph 6	W - 132	Ⅳ層上面	8	8	28	40	11	
USB 5 - ph 7	W - 132	Ⅳ層上面	12	8	40	52	1	
USB 5 - ph 8	X - 132	Ⅳ層上面	9	8	44	56	2	付属柱穴?
USB 5 - ph 9	W - 131	Ⅳ層上面	9	8	35	47	12	
USB 5 - ph10	W - 131・132	Ⅳ層上面	7	6	17	29	0	
USB 5 - ph11	W - 132	V - 1層上面	6	6	15	37	0	
USB 5 - ph12	W - 132	Ⅳ層上面	8	6	24	36	1	
USB 5 - ph13	W - 131	V - 1層上面	6	6	14	36	4	付属柱穴
USB 5 - ph14	W - 131	Ⅳ層上面	8	6	24	36	0	付属柱穴
USB 5 - ph15	W - 131	Ⅳ層上面	8	6	24	36	0	付属柱穴

上記はすべてⅢ層の遺構。深さの推定長はⅢ層を12cmとして算出。傾きは垂直方向に対する建物内側への角度。

4. 柱穴 (図IV - 10、表IV - 5、図版11)

平地住居跡や建物跡などから離れた地点で確認した、14基の柱穴を掲載する。Ⅲ層で2基、Ⅳ層上面で10基、Ⅴ層上面で2基を検出した。径は7cm前後、深さは40～50cm程度のものが多い。柱穴の形態や覆土が平地住居跡・建物跡の柱穴と同様で、全てⅢ層から掘り込まれたと考えられ、1739年以前の近世アイヌ文化期のものとみられる。

UPH - 17・18 平地住居跡4 (USD - 4) と建物跡4 (USB - 4) のほぼ中間にある。2基の柱穴距離は2.9mで、径・深さとも近似しており2基の組み合わせの構造物があった可能性がある。

UPH - 19 平地住居跡5 (USD - 5) と平地住居跡8 (USD - 8) のほぼ中間から単独で検出された。径は比較的大きく、先端はとがり直立する。周辺に検出できなかった柱穴がある可能性もあるが、用途は不明である。

UPH - 20 平地住居跡9 (USD - 9) と建物跡5 (USB - 5) の間から検出された。径はやや小さいが、深さが50cmを超える(Ⅲ層相当分を加えた数値)。建物跡5のph6.7・8と列を成すようにも見えることから、何らかの関係がある可能性がある。

UPH - 21・22・23 平地住居跡8 (USD - 8) の南東側、平地住居跡9 (USD - 9) の北東側に列を成すように3基の柱穴が検出された。径は7cm前後、深さは50cm前後、5°程度の傾きがある。柱穴間距離はUPH - 21～22が3.8m、UPH - 22～23が2.6mである。

UPH - 24・25・26・27 焼土群4の東側～南側から検出された。UPH - 26は径がやや大きい。UPH - 27は深さが推定57cmを測る。UPH - 24～25間は3.1m、UPH - 26～27間は2.6mの距離である。これらは調査区外から続く平地住居跡などの遺構の一部の可能性もある。

UPH - 28 平地住居跡9の南側、焼土群4付近から単独で検出した。径が小さい割に深い。焼土群4側にやや傾いている。

UPH - 29・30 Ⅴ層上面で検出されたが、覆土はⅢ～Ⅳ層の土壌である。UPH - 29と30の柱穴間距離は1.6mで、2基の組み合わせの構造物があった可能性がある。

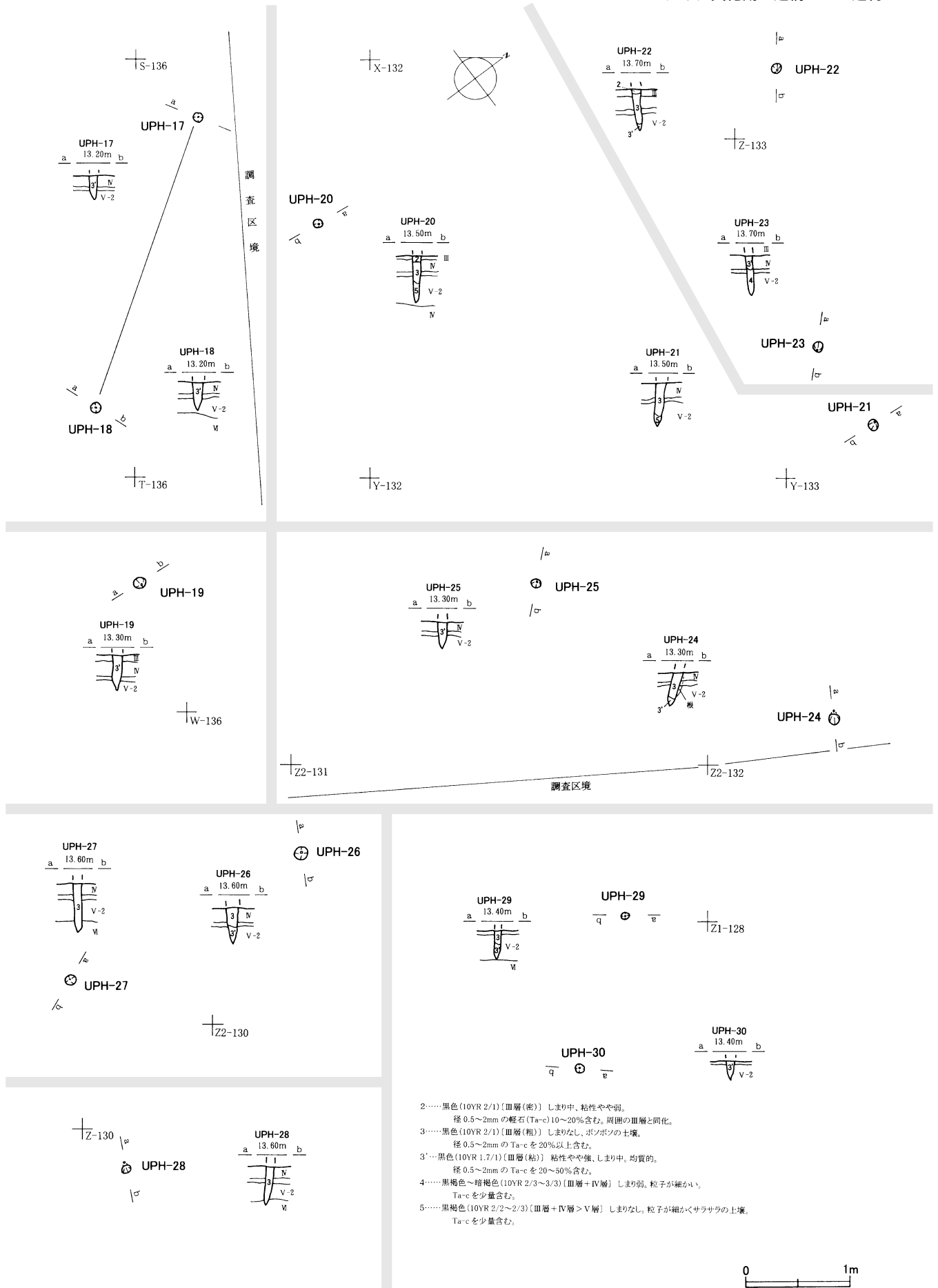
(阿部)

表IV - 5 単独柱穴一覧

	発掘区	検出層位	径 (cm)		深さ (cm)		傾き (度)	備考
			検出面	中間	確認長	推定		
UPH - 17	S - 136	Ⅳ層上面	8	8	22	34	0	USD - 5 と USB - 4 の間
UPH - 18	S - 136	Ⅳ層上面	9	8	27	39	0	USD - 5 と USB - 4 の間
UPH - 19	V - 135	Ⅲ層中位	10	8	34	41	0	USD - 5 と USD - 8 の間
UPH - 20	X - 131	Ⅲ層下位	8	7	45	53	1	USD - 9 と USB - 5 の間
UPH - 21	X - 133	Ⅳ層上面	9	8	41	53	5	樹皮あり
UPH - 22	Y - 133	Ⅳ層上面	8	7	41	45	5	
UPH - 23	Z - 133	Ⅳ層上面	7	6	39	51	4	
UPH - 24	Z1 - 132	Ⅳ層上面	8	8	31	43	14	焼土群4の東
UPH - 25	Z1 - 131	Ⅳ層上面	9	7	26	38	0	焼土群4の東
UPH - 26	Z1 - 130	Ⅳ層上面	13	9	34	46	1	
UPH - 27	Z1 - 129	Ⅳ層上面	7	7	45	57	0	
UPH - 28	Z - 130	Ⅳ層上面	7	6	36	48	4	
UPH - 29	Z - 127	Ⅴ層上面	6	6	26	48	2	
UPH - 30	Z1 - 127	Ⅴ層上面	8	6	17	39	0	

上記はすべてⅢ層の遺構。深さの推定長はⅢ層を12cmとして算出。傾きは垂直方向に対する角度。

IV アイヌ文化期の遺構とその遺物



図IV - 10 柱穴〔UPH - 17~30〕

5. 焼土・灰集中 (図Ⅳ-11~17、表Ⅳ-6~9、図版12~20、口絵3・4)

平地住居の炉を除き、アイヌ文化期のものと考えられる焼土や灰集中などが32カ所検出された。検出面はTa-a(1739年降灰)直下のⅢ層上面ないし、Ⅲ層上面から3cmほど掘り下げた面である。焼土の名称は前回の調査では、層位や時期に関わらず全て「FP」の記号をつけたが、今回はⅢ層で検出した焼土は「UFP」、Ⅴ・Ⅵ層で検出した焼土は「LFP」とし、さらに検出した順番に数字を1から付けて調査を行った。UFP-32は焼土や灰集中ではなく、UKS-4に伴う炭化物の集中で、サンプル採取の都合上名称をつけたものである。また、UFP-31は縄文~続縄文時代の焼土と考えられるためⅤ章で報告している。

32カ所の焼土・灰集中の中で比較的近接して、分布・遺物の出土状況からほぼ同時期の焼土のまとまりと考えられるものは、周辺から出土した貝集中を含めて「焼土群」とした。今回の調査では焼土群は3カ所検出された。また前回の調査では焼土群としなかったが、FP-5・6を改めて今回焼土群1とした。

分布は、A地区では調査区南東側の平坦面に多く、アイヌ文化期の他の遺構・遺物の分布とほぼ重なる。A地区のほとんどの焼土・灰集中は平坦面に位置するが、UFP-4・5のみ斜面に位置する。また、焼土群2~4は平地住居跡や建物跡の付近に分布し、これらに関連する可能性が高い。C地区では1カ所(UFP-29)のみ検出された。

規模は長軸約0.2m~4.5m、短軸約0.1~1.9mの範囲にある。規模からは長軸が1mを越える大形、0.4~0.8m程度の中形、0.4m以下の小形の大きく三つに分けられる。厚さは1~3cmが主体で、焼土群2のUFP-24・33・34は灰が主体で厚みがある。平面形は不整が多く、その中でも不整楕円を呈するものが主体となっている。

被熱層と堆積物から、①灰が主体のもの(灰集中)②灰と焼土が主体のもの、③焼土が主体のもの、の三種類に分けられる。①の灰集中は5カ所検出されている(UFP-1・20・29・33・34)。灰が比較的狭い範囲に密で均質的に堆積し、いずれも焼土を伴わない。UFP-33・34は焼土群2の中にあり、灰の平面形や堆積状況は平地住居の炉と似ている。②の灰と焼土が主体のものは9カ所検出されている(UFP-3~11)。UFP-4・5以外は、焼土群の中に位置している。灰より焼土の広がりが顕著で、薄い堆積のものが多い。③の焼土が主体のものは17カ所検出されている(UFP-2・12~19・21~23・25~28・30)。被熱の強い赤褐色の焼土と、被熱の弱い黒色~暗褐色の焼土に大きく分けられ、UFP-12・14を除き小~中形のものが多い。

土層断面の観察結果から、その場で生成された焼土と、他から持ち込まれた焼土・灰集中に大きく分かれる。その場で生成された焼土としてUFP-16~18・28があり、いずれも焼土群を形成するものではない。他のものは、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。

遺物は全体的に少量であるが、金属製品、古銭、ガラス玉、火打石、礫、漆器の塗膜などや、骨片・貝などの自然遺物が出土している。分布をみると、焼土群付近からの出土が多い。焼土及び灰集中から多量の微細遺物が検出されたため、基本的に全ての焼土、灰集中の土壌を採集し、フローテーション処理を行った。その結果骨片や植物種子、礫片などが検出された。自然遺物は全般的に灰集中の残存状況が良好で、焼土及び周辺出土の自然遺物は小片が多い。漆器の塗膜は、木質部は残存せず漆の塗膜部分の小片が検出された。

時期は、層位的には1739年降灰の樽前a降下軽石層直下のⅢ層上面ないし、3cm程度掘り下げた面が生活面と考えられるため、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。また、焼土・灰集中か

ら検出された炭化物、炭化種子等による放射性炭素年代測定の較正暦年代では15世紀後半～19世紀というややばらつきのある結果が出ている（Ⅶ章 - 1）。

性格は、焼土群に関してはそれぞれ平地住居跡の西側で検出されているため、平地住居に伴う灰や焼土、カワシンジュ貝等の捨て場（送り場）の可能性が高い。

（広田）

（1）焼土群 2

分布：A地区の中央よりやや南東側、標高約13.2～13.3mのほぼ平坦面に位置している。焼土・灰集中はS～T-131・132区の約12m×8mの範囲で密に分布していた。焼土群の中では最も規模が大きいものであるが、現代の攪乱や木の根により部分的に壊されている。付近の遺構としては東側にUSD-8、南東側にUSB-5がある。この焼土群に含まれる焼土・灰集中はUFP-2、3、10～13、19～27、30、32、33、34の19カ所である。また、UFP-34の北東と南側でカワシンジュガイの集中（UKS-3・4）が検出されている。また、ここには含めていないが焼土群2の東側に位置するUSD-8ks-1も焼土群2と一体をなす可能性が高い。検出面はⅢ層上面ないし、Ⅲ層を3cm程掘り下げた面である。灰集中であるUFP-33、34はⅢ層上面でやや盛り上がっている状態で検出された。

規模・堆積主体：長軸約0.3～2.6m、短軸は約0.1～1.2mの範囲にある。焼土の厚さは1～3cm程度のもが多いが、灰集中は5～10cmと厚いものが多い。平面形は不整の楕円形、不整形が多い。

堆積主体が灰のものはUFP-20・33・34の3カ所である。UFP-33、34は長軸が1mを越え、厚みがある大形の灰集中で、調査当初は平地住居跡の炉を想定していたが、トレンチ調査の結果、単独の灰集中であることが判明した。ただし、UFP-33の南東側にごく薄い焼土の広がり（f）が認められた。UFP-34は大きな灰集中1カ所（A1）と小さな灰集中3カ所（A2～4）からなり、一部現代の攪乱及び木の根で壊されている。灰と焼土が主体のものはUFP-3、10、11、24の4カ所である。その中では焼土と灰が混ざって層をなしているもの（UFP-10）と焼土層と灰層が分かれるもの（UFP-3、11、24）に分けられる。焼土が主体のものはUFP-2、12、13、19、21～23、25～27、30の10カ所である。その中では比較的良好に焼けた焼土（UFP-21、27、30）とごく薄い焼土（UFP-2、12、13、19、22、23、25、26）に分けられる。土層断面の観察結果では焼土・灰集中はいずれもその場で形成されたものではなく、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。

遺物出土状況：人工的な遺物として、鉄製品22点（11個体）、銅製品4点（3個体）、銀製品（1点）、火打石9点、ガラス玉1点、ガラス製品2点、棒状礫5点、礫48点（内軽石17点）、漆器の塗膜等、自然遺物としてカワシンジュガイ、骨片、炭化物が出土している。量的にはカワシンジュガイ、骨片の出土量が多い。分布は焼土・灰集中の分布範囲とほぼ重なるが、出土量は全体的に少ない。出土状況は、焼土・灰集中の中からと、周辺からの二つに大きく分けられる。人工遺物は焼土・灰集中の範囲外からの出土が多く、自然遺物はカワシンジュガイの集中を除き、焼土・灰集中内から多く出土している。大形の灰集中であるUFP-33・34からの出土が多く、特にUFP-34中位の灰と黒色土が混ざった層（A+B層）からは骨片が集中的に検出された。

鉄製品は22点中6点（3個体）が焼土・灰集中から出土している（UFP-11・13）。銅製品は4点中1点（1個体）がUFP-10から出土している。銀製品1点はUFP-34から出土している。火打石はUKS-3から1点出土している。ガラス製品はUFP-21から1点（ガラス玉）、UFP-34から2点（ガラス製品）出土している。

カワシンジュガイ集中〔UKS - 3・4〕

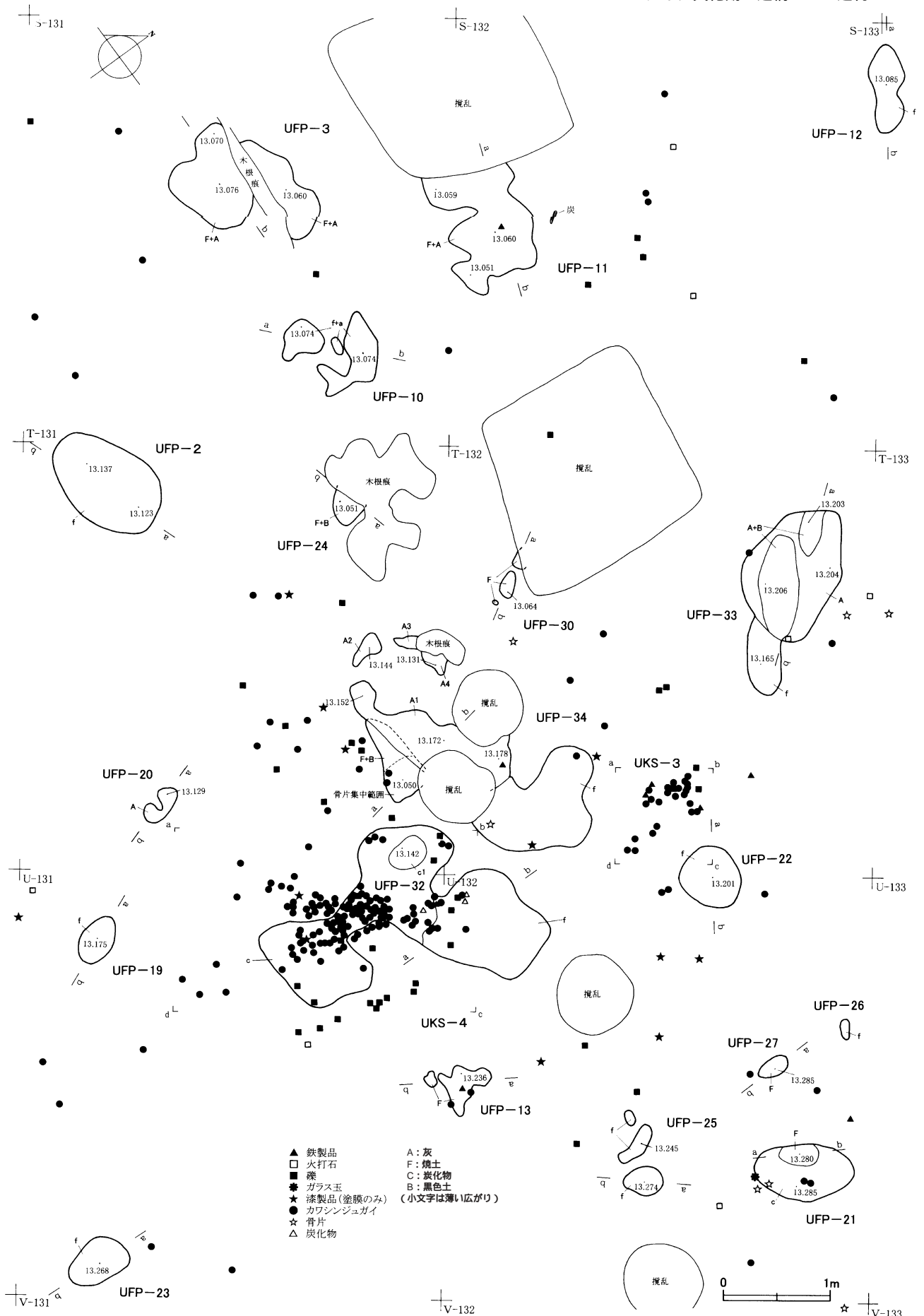
UKS - 3はUFP - 34の北東側で、南北約0.9m、東西約0.5mの範囲で22枚検出されている。北側に多く分布し南側はやや散漫である。UKS - 4はUFP - 32の南東側で、南北約2.8m、東西約1.6mの範囲で約100枚検出されている。分布は中心付近に密に折り重なっており、周辺部は散漫である。カワシンジュガイは、UKS - 3・4共に内側を上にして出土するものがほとんどである。大きさは10cm前後のものが多く、殻皮のみ残り殻自体はほとんど残存していない。

(広田)

表Ⅳ - 6 焼土群2 一覧

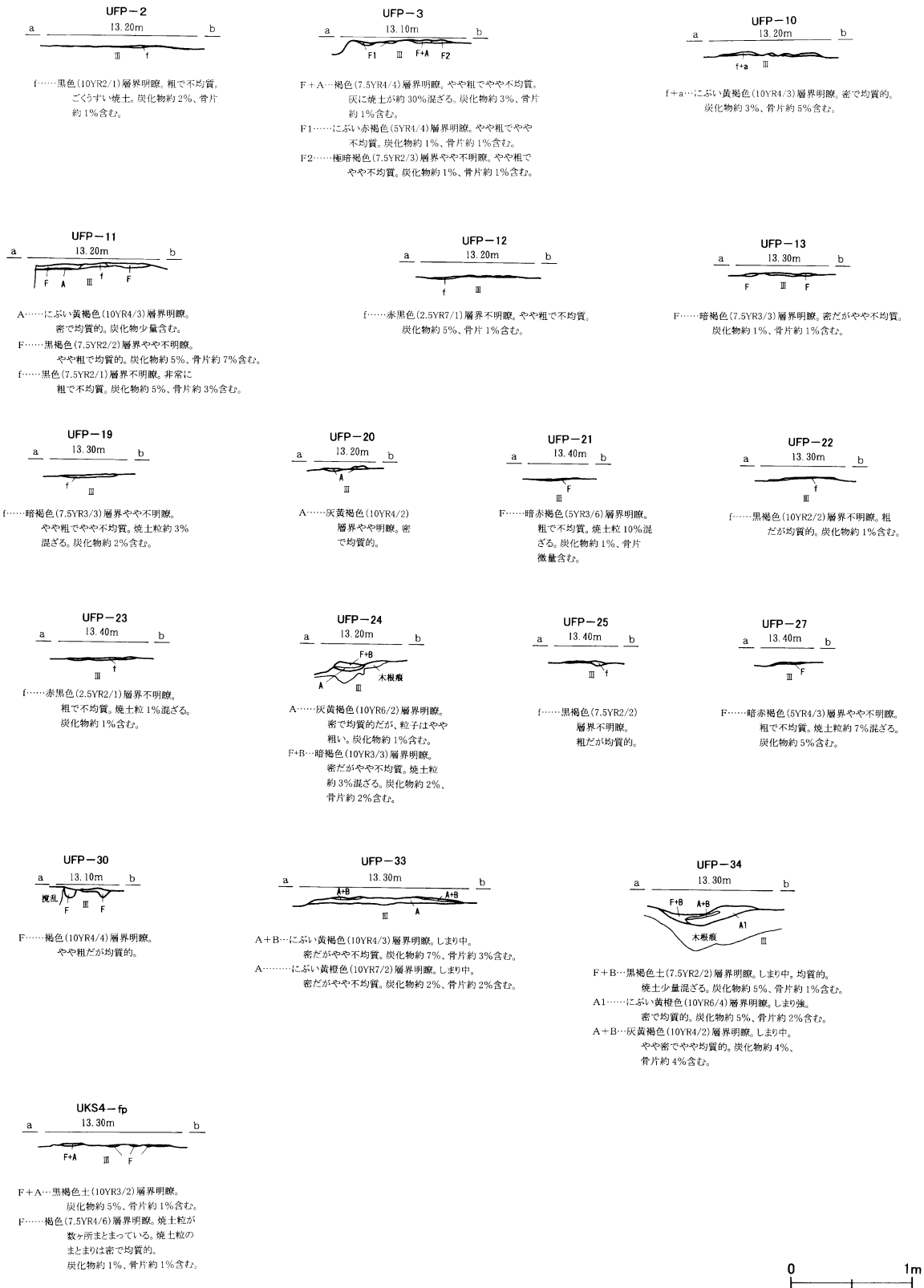
	発掘区	検出層位	規模 (cm)			平面形	層界	堆積主体	備考
			長径	短径	厚さ				
UFP - 2	T - 131	Ⅲ層上位	115	75	2	不整楕円形	明瞭	弱い焼土	
UFP - 3	S - 131	Ⅲ層上位	145	83	2	不整形	明瞭	焼土 > 灰	
UFP - 10	S - 131	Ⅲ層上位	65	48	2	不整形	明瞭	弱い焼土 + 灰	3カ所に分かれる
UFP - 11	S - 132	Ⅲ層上位	(118)	(80)	3	不整形	やや不明瞭	焼土 > 灰	攪乱で一部壊される
UFP - 12	S - 132・133	Ⅲ層上位	82	35	1	不整楕円形	不明瞭	弱い焼土	
UFP - 13	U - 131・132	Ⅲ層上位	44	42	2	不整形	明瞭	焼土	2カ所に分かれる
UFP - 19	U - 131	Ⅲ層上位	48	30	2	不整楕円形	不明瞭	弱い焼土	
UFP - 20	T - 131	Ⅲ層上位	40	20	2	双円形	やや明瞭	灰	
UFP - 21	U - 132	Ⅲ層上位	93	54	1	ほぼ楕円形	明瞭	焼土	
UFP - 22	T・U - 132	Ⅲ層上位	61	55	1	不整円形	不明瞭	弱い焼土	
UFP - 23	U - 131	Ⅲ層上位	60	53	2	不整楕円形	不明瞭	弱い焼土	
UFP - 24	U - 131	Ⅲ層上位	(29)	(29)	7	不整楕円形?	明瞭	焼土、灰	木根跡に一部壊される
UFP - 25	U - 132	Ⅲ層上位	38	26	3	不整楕円形	不明瞭	弱い焼土	3カ所に分かれる
UFP - 26	U - 132	Ⅲ層上位	19	8		不整楕円形	不明瞭	弱い焼土	ごく薄いためセクションなし
UFP - 27	U - 132	Ⅲ層上位	30	16	1	不整楕円形	やや不明瞭	焼土	小さな焼土
UFP - 30	T - 132	Ⅲ層上位	25	13	7	不整楕円形	明瞭	焼土	3カ所に分かれる
UFP - 32	T - 131	Ⅲ層上位	36	25		不整楕円形		炭化物	UKS - 4に伴う
UFP - 33	T - 132	Ⅲ層上位	183	86	5	不整楕円形	明瞭	灰、弱い焼土	厚い灰集中
UFP - 34	T - 131・132	Ⅲ層上位	260	115	10	不整形	明瞭	灰	厚い灰集中、3カ所に分かれる

IV アイヌ文化期の遺構とその遺物



図IV - 11 焼土群2(1)

平成17年度 千歳市オリイカ2遺跡(2)



図IV - 12 焼土群2(2)



図IV - 13 焼土群 2(3)

(2) 焼土群 3

分布：A地区の中央より南側、標高約13.5～13.6mのほぼ平坦面に位置している。焼土・灰集中はW・X-128・129区の約4m×3mの範囲に分布していた。焼土群の中では中規模である。付近の遺構としては東側にUSD-9、北側にUSB-5がある。この焼土群に含まれる焼土・灰集中はUFP-9、14、15の3カ所である。また、UFP-9の東側に近接してカワシンジュガイの集中(UKS-2)が検出されている。Ⅲ層上面で焼土や灰の薄い広がりを確認し、3cm程掘り下げた面で明瞭に検出された。

規模・堆積主体：UFP-9・14は長軸2.6m、短軸1.5mを越える大形で、UFP-15は長軸約0.8m、短軸約0.4mの小形である。厚さは2～3cmと薄い。平面形は、UFP-9・14は不整形で、UFP-15は不整の楕円形である。

UFP-9は焼土と灰が主体で、比較的良好に焼けた焼土(F)の範囲が広い。灰は少量で、焼土と混ざった範囲(F+A)が部分的に検出されている。UFP-14・15は焼土が主体である。UFP-14・15の焼土は比較的良好に焼けている部分(F)は小範囲で、うすい焼土の部分(f)が大きく広がる。UFP-15のうすい焼土は黒色土に焼土粒が混ざる程度である。土層断面の観察結果では焼土・灰集中はいずれもその場で形成されたものではなく、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。

遺物出土状況：人工遺物は、鉄製品5点(2個体)と漆器の塗膜が出土している。自然遺物はカワシンジュガイ、骨片、炭化物が出土している。遺物の分布はカワシンジュガイの集中(UKS-2)以外は、UFP-9・14から少量出土しているだけで、周辺からの出土はほとんどない。

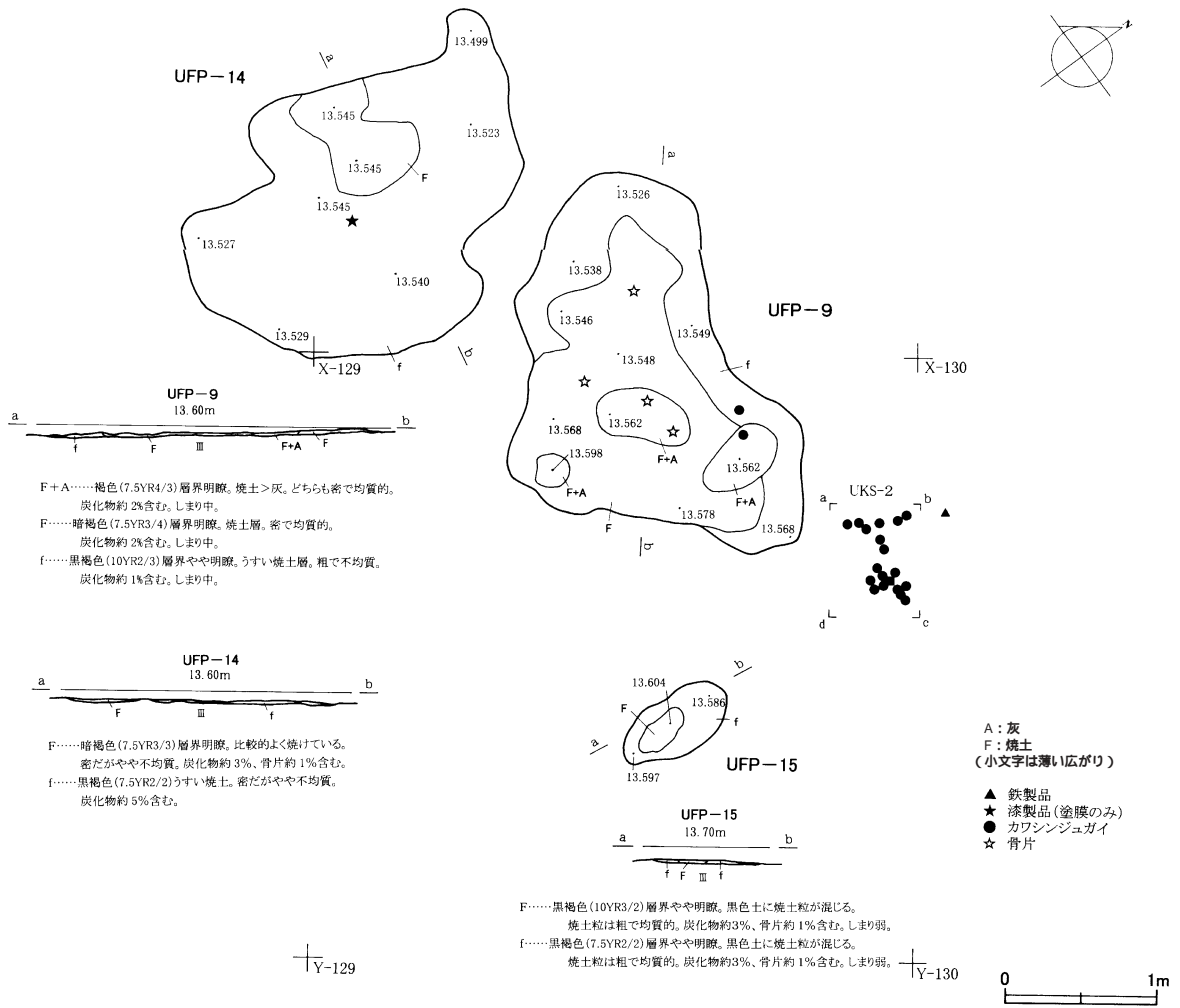
カワシンジュガイ集中〔UKS-2〕

UKS-3はUFP-9の東側で、南北約0.6m、東西約0.7mの範囲で18枚検出されている。分布は全体的に散漫である。カワシンジュガイは内側が上になるものがほとんどで、一部重なった状態で検出された。大きさは10cm前後のものが多く、殻皮のみ残り殻自体はほとんど残存していない。

(広田)

表Ⅳ-7 焼土群 3 一覧

	発掘区	検出層位	規模 (cm)			平面形	層界	堆積主体	備考
			長径	短径	厚さ				
UFP-9	X-129	Ⅲ層上位	275	162	3	不整形	明瞭	焼土>灰	
UFP-14	W・X-128・129	Ⅲ層上位	263	192	3	不整形	明瞭	焼土	
UFP-15	X-129	Ⅲ層上位	78	38	2	不整楕円形	やや明瞭	焼土	



図IV - 14 焼土群3

(3) 焼土群 4

分布：A地区の中央より南東側、標高約13.6~13.7mのほぼ平坦面に位置している。焼土・灰集中はW・X-128・129区の約4m×3mの範囲に分布していた。焼土群の中では中規模である。付近の遺構としては北側にUSD-9、東側に単独の灰集中であるUFP-1、周辺にUPH-25~28がある。この焼土群に含まれる焼土・灰集中はUFP-6~8の3カ所である。Ⅲ層上面で焼土や灰の薄い広がりを確認し、3cm程掘り下げた面で明瞭に検出された。

規模・堆積主体：UFP-6~8は長軸2.5~4.5m、短軸1.2~1.7mの大形の焼土である。厚さはUFP-6・7が約2cmで、UFP-8が約6cmとやや厚く堆積している。平面形はいずれも不整形で、全体的に木の根による攪乱が認められており、元々は大きく一つだった可能性がある。

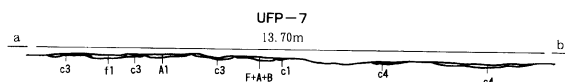
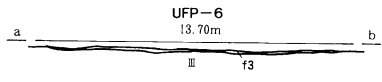
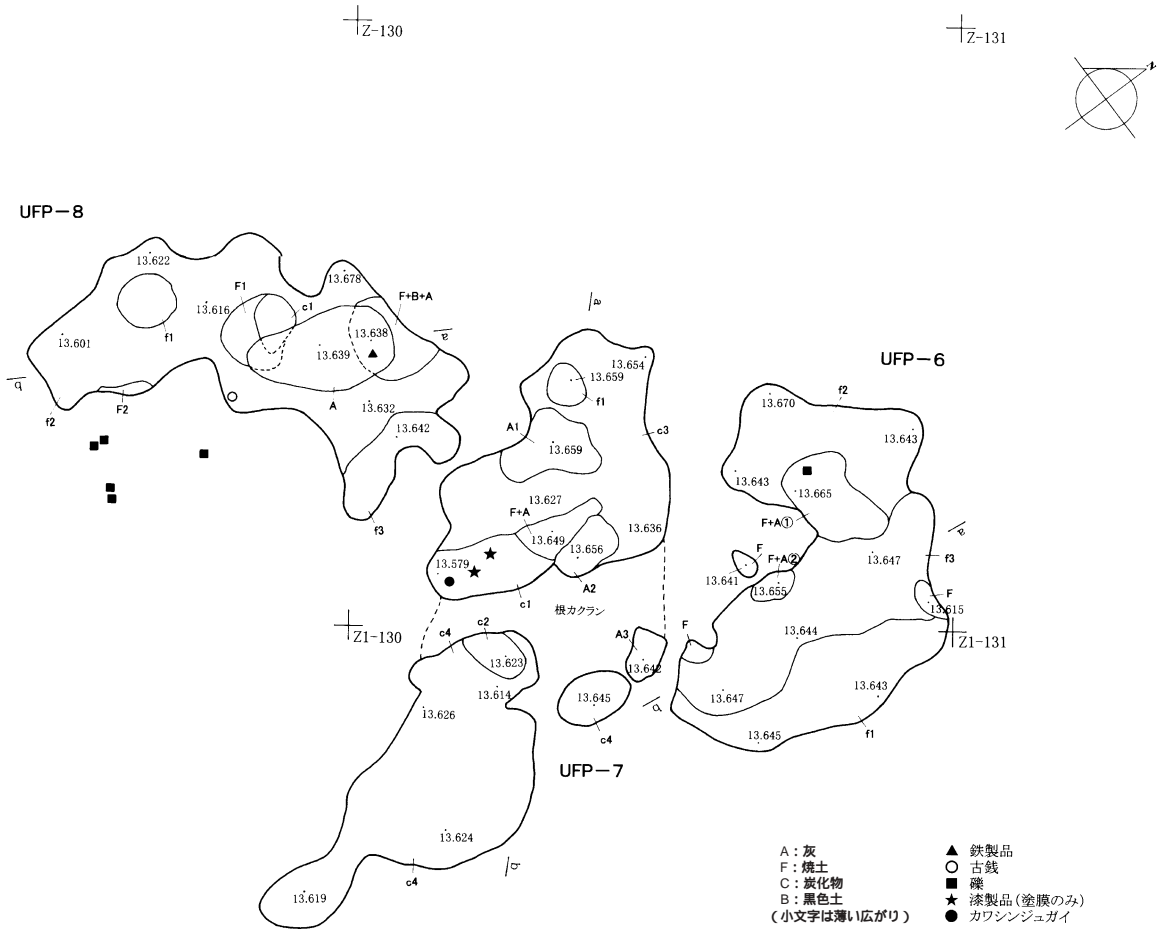
いずれも焼土と灰が主体であるが、焼土が多く灰は少ない。UFP-6は弱い焼土の範囲(f1~3)が広く、焼土と灰の混ざった部分(F+A)よく焼けた焼土の部分(F)が小範囲で分布する。UFP-7は薄い炭化物が広がる部分(c1~4)が最も多く、灰の部分(F1・2)焼土と灰の混ざった部分(F+A)うすい焼土の部分(f1)は小範囲で分布する。UFP-8は弱い焼土の範囲(f1~3)が広く、灰の部分(A)よく焼けた焼土の部分(F1)灰と焼土と黒色土が混ざる部分(F+B+A)は小範囲で分布する。灰(A)と灰と焼土と黒色土(F+B+A)と焼土の部分(F1)は重なっているため、何回かに分けて捨てられている可能性が高い。土層断面の観察結果では焼土・灰集中はいずれもその場で形成されたものではなく、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。

遺物出土状況：人工遺物は、鉄製品1点、銅銭1点、礫6点(内棒状礫1点)、漆器の塗膜が出土している。自然遺物はカワシンジュガイ、骨片、炭化物が出土している。分布は、焼土・灰集中内からは鉄製品、漆器の塗膜、カワシンジュガイ、礫が出土し、UFP-8の南側から礫がややまとまって出土している。

(広田)

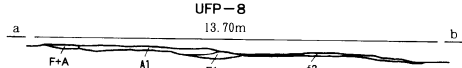
表Ⅳ-8 焼土群 4 一覧

	発掘区	検出層位	規模 (cm)			平面形	層界	堆積主体	備考
			長径	短径	厚さ				
UFP-6	Z-130・131	Ⅲ層上位	250	167	2	不整形	明瞭	焼土>灰	木根跡に一部壊される
UFP-7	Z-130	Ⅲ層上位	452	117	2	不整形	明瞭	焼土>灰	木根跡に一部壊される
UFP-8	Z-129・130	Ⅲ層上位	293	133	6	不整形	明瞭	焼土>灰	木根跡に一部壊される

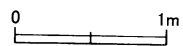


- F+A①…灰黄褐色(10YR6/2)層界明瞭。密で均質的。炭化物約3%、骨片約3%含む。
- F+A②…暗褐色(10YR2/1)層界明瞭。粗で不均質。灰に焼土粒と黒色土が混ざる。炭化物約2%含む。
- F…黒色(10YR2/1)層界明瞭。やや粗で不均質。焼土粒約2%混ざる。炭化物約7%、骨片約1%含む。
- f1…黒色(10YR2/1)層界不明瞭。粗で不均質。うすく焼けている。炭化物約2%含む。
- f2…黒色(10YR2/1)層界不明瞭。粗で不均質。ごくうすく焼けている。炭化物ごく少量含む。
- f3…黒色(10YR2/1)層界不明瞭。やや粗で不均質。焼土粒約4%混ざる。炭化物約2%含む。

- A1…にぶい黄褐色(10YR6/4)層界明瞭。密で均質的。炭化物約5%含む。骨片多く含む。
- A2…にぶい黄褐色(10YR6/3)層界明瞭。密で均質的。炭化物約3%含む。骨片多く含む。
- A3…黒褐色(10YR3/2)層界不明瞭。粗で不均質。黒色土が混ざる。
- F+A+B…黒褐色(10YR3/2)層界明瞭。やや粗で不均質。焼土粒+灰。
- f1…黒褐色(7.5YR2/2)層界不明瞭。やや粗で不均質。焼土粒約15%混ざる。炭化物約2%含む。
- c1…黒褐色(10YR2/2)やや密で均質的。炭化物約5%含む。
- c2…黒褐色(7.5YR2/2)粗で均質的。炭化物約1%含む。
- c3…黒色(10YR2/1)粗で不均質。炭化物約1%含む。
- c4…黒色(10YR2/1)やや粗で不均質。炭化物約1%含む。



- A…灰黄色(10YR5/2)層界明瞭。密で均質的。炭化物約1%、骨片含む。
- F+B+A…黒褐色(10YR2/2)層界明瞭。密で均質的。焼土と黒色土が主体で灰が少量混ざる。炭化物約1%含む。骨片含む。
- F1…暗褐色(7.5YR3/3)層界明瞭。やや粗で均質的。焼土粒約5%混ざる。炭化物約2%含む。
- F2…暗褐色(7.5YR3/3)層界明瞭。比較的密で均質的。焼土粒約3%混ざる。炭化物約4%含む。
- f1…黒褐色(7.5YR2/2)層界明瞭。やや粗で不均質。焼土粒約2%混ざる。炭化物約2%含む。
- f2…黒色(10YR2/1)焼土粒1%混ざる。炭化物約2%含む。
- f3…暗褐色(7.5YR3/3)比較的密で均質的。ごくうすい焼土。



図IV - 15 焼土群4

(4) その他の焼土

焼土群に属さない単独の焼土あるいは灰の集中域を掲載する。すべてⅢ層上面あるいは上位から検出されており、1739年以前のアイヌ文化期に形成されたものとみられる。

UFP - 1 調査区南東部、焼土群4からやや離れた位置にある。灰と黒色土を主体とし、炭化物を多く含む。焼土群同様、灰などが投棄された範囲と考えられる。

UFP - 4・5 平坦部から低地への斜面上に位置する。それぞれ長径が1.5mを超える大きさであるが、不整形で厚さがほとんどない。灰を主体としており、炭化材片をやや多く含み、一部被熱した部分が見られる。平坦地側から低地側に灰や焼土などが投棄されたものと思われる。UFP - 4は溝跡UD - 1の一部を削られている。

UFP - 16・17 建物跡4 (USB - 4)の内側、中央よりやや西側にある。UFP - 16は明赤褐色で厚みがある焼土で、UFP - 17は炭化物を多く含みやや不明瞭なうすい焼土である。建物跡との関係については、前述(Ⅳ章3)の通り建物跡4が高床式の建物と考えられ、この焼土は建物跡とは異なる時期のものと考えられる。

UFP - 18 建物跡4 (USB - 4)の北西側にある。中規模で明度が高いが厚さはあまりない。中央部から明度が漸遷しており、その場で焼成されたものと思われる。

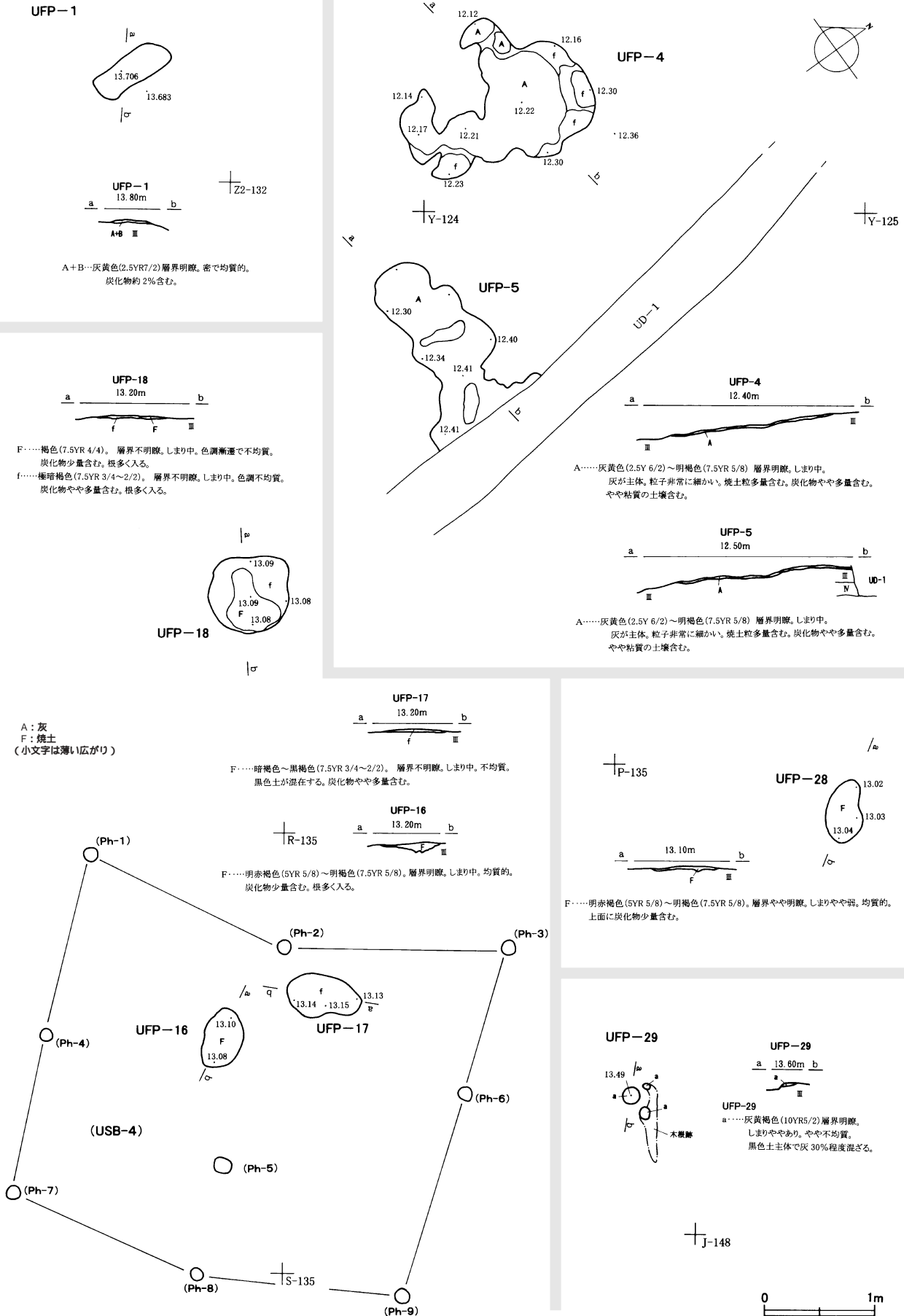
UFP - 28 Ⅲ層包含層調査中検出した、小型の焼土。周辺に遺構はない。断面形状がやや波状の部分があるが周縁は漸遷しており、その場で焼成されたものと考えられる。

UFP - 29 C地区のⅢ層で唯一検出された。B地区(平成14年度調査)の建物跡3 (USB - 3)の東側にあたる。黒色土が主体で灰がまじる。やや太目の木根跡があり、木の根元に灰などが投棄されたことが考えられる。

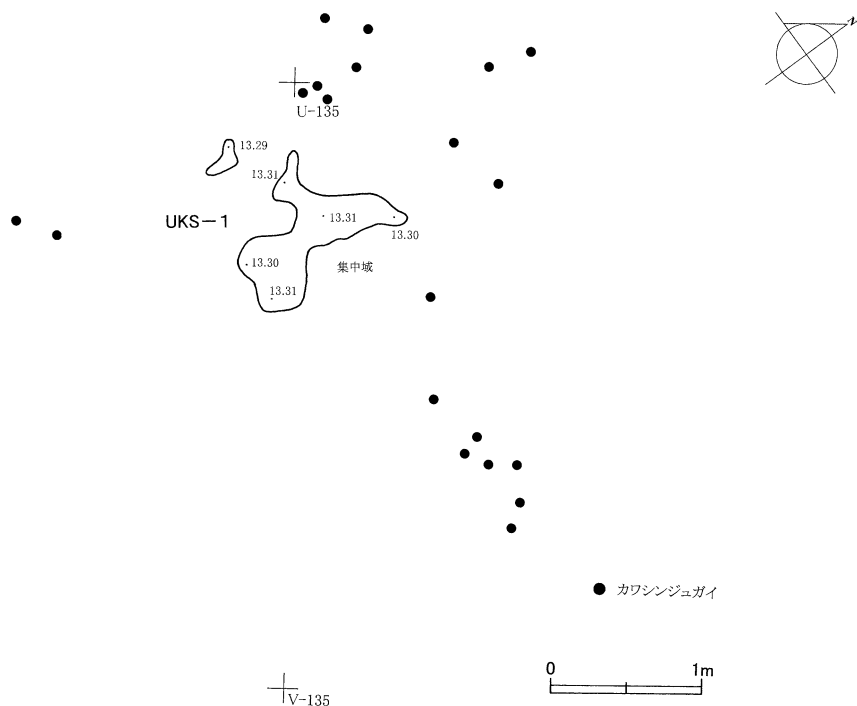
(阿部)

表Ⅳ - 9 Ⅲ層その他の焼土一覧

	発掘区	検出層位	規模 (cm)			平面形	層界	堆積主体	備考
			長径	短径	厚さ				
UFP - 1	Z1 - 131	Ⅲ層上面	75	40	2	ほぼ楕円形	明瞭	灰	焼土群4付近
UFP - 4	X - 124	Ⅲ層上面	175	142	1	不整形	明瞭	灰主体	低地部
UFP - 5	X - 124	Ⅲ層上面	(164)	115	2	不整形	明瞭	灰主体	低地部
UFP - 16	R - 134	Ⅲ層上位	56	38	8	ほぼ楕円形	明瞭	焼土	USB - 4重複
UFP - 17	R - 135	Ⅲ層上位	68	39	2	不整楕円形	不明瞭	焼土主体	USB - 4重複
UFP - 18	Q - 134	Ⅲ層上位	80	74	2	不整形	不明瞭	焼土	
UFP - 28	U - 135	Ⅲ層上位	59	36	4	不整楕円形	やや明瞭	焼土	
UFP - 29	I - 147	Ⅲ層上位	15	15	3	不整形	やや明瞭	灰	3ヵ所に分かれる、C地区



図IV - 16 その他の焼土〔UFP〕



図IV - 17 カワシンジュガイ集中1〔UKS - 1〕

(5) カワシンジュガイ集中

カワシンジュガイの殻や殻皮が集中して出土した地点は、8カ所確認された。そのうち4カ所は平地住居跡に直接関わるものとして掲載し(USD 5 - ks 1・USD 8 - ks 1・USD 8 - ks 2・USD 9 - ks 1)、3カ所は焼土群の範囲にある(UKS - 2・3・4)。ここではそれ以外の集中域を掲載する。

カワシンジュガイ集中1〔UKS - 1〕

位置：U - 134・135 標高13.3m付近

規模：〔密集域〕1.2m×1.1m 〔最大範囲〕4.5m×3.5m

平地住居跡5(USD - 5)の西側に位置する。平地住居跡から点在して分布し、住居跡の出入口から約4m離れた位置に左殻・右殻合わせて二十枚以上のカワシンジュガイの殻皮がまとまって出土した。殻皮の残存状態はあまり良くなく、小片で残存したものが多い。(阿部)

6. アイヌ文化期の出土遺物 (図IV - 18~26、表IV - 10~13・35、図版47~53)

(1) 金属製品

平地住居跡・焼土群・包含層Ⅲ層から、鉄製品59点・銅製品6点(古銭2点含む)・銀製品1点が出土した。小片や現代遺物を除き、ほぼすべてを掲載した。

平地住居跡5 (USD - 5) 出土の金属製品

14点掲載した。1~11は平地住居内または周辺から、12~14は炉 USD 5 - fp 4 から出土した。

1~3・5は刀子または刀子と考えられるもの。1・2は残存状況の良い刀子。1は切先方の2点が接合し、もう1点は接合しなかった。変形してやや反っている。内部は空洞である。2は切先と柄の端部の一部のみが欠損している。3は端部が反っているが、棟部と刃部が明瞭である。5は刀子とみられる小片。4は形状が刀子に類似しているが、構造が異なり、変形してややゆがみがある。

6~8は角棒状の鉄製品。6は断面長方形で、内側がややくぼんでいる。残存部中央付近が大きく屈曲し先端は徐々に細くなっている。マレットの可能性もある。7はやや曲がっている。8は和釘。完形で残存している。2寸5分以上の角釘。木質がわずかに付着していた。

9は針状の鉄製品。径が小さいものの内部は空洞である。10は鉄鍋片と考えられる鍛造品の鉄片。厚みがあり、重量感がある。11は平板状の鉄片。何らかの鉄製品から剥落したものと考えられる。

12・13は角棒状の鉄製品。12は内部が空洞であるが、13は空洞でなく重量感がある。14は鉄鏃。平坦で、基部のかえしは鋭利である。柄との装着部は欠損している。

平地住居跡8 (USD - 8) 出土の金属製品

8点掲載した。15~18・20~22は平地住居内または周辺から、19は炉 USD 8 - fp 1 の上面から出土したものである。

15は鉄鍋片と考えられる鍛造品の鉄片。厚みがあり、重量感がある。内部が著しく劣化している。

16~22は釘などの角棒状の鉄製品。16は残存部上方が屈曲しており、下部は徐々に細くなっている。マレットとみられる。17・18は角釘。内部は空洞である。腐食が著しく進んでおりサビが多い。19・20は頭部の残存状況が良好な和釘である。20は頭部のつくり出しが行われている。19は2寸5分、20は2寸釘である。21・22は平釘とみられるもの。21は断面長方形で端部が細くなっており、釘の先端部とみられる。22は残存状況が良くない。

平地住居跡9 (USD - 9) 出土の金属製品

9点掲載した。23~28・30・31は平地住居内または周辺から、29は炉 USD 9 - fp 1 から出土した。23は刀子片。棟部や刃部が確認できるものの、残存状況はあまりよくない。

24~29は釘などの角棒状の鉄製品。24は大型で平坦な頭部を有する釘。25は頭巻きの和釘。先端部が欠損しており、3寸以上の長さがある。26は2本の棒状鉄製品が繊維でまきつけられたもの。鉄製品の一方は角棒状の釘で、もう一方はやや平坦であり刀子の茎と考えられる。残存部の中央付近に撚糸の痕跡が観察される。27は角釘。上端にわずかに平坦な頭部がみられる。28は残存部が少なく不明である。29は角釘と思われる。灰層から出土したため全体に灰が付着し白くなっていた。

30は楕円形を呈する環状の鉄製品。刀装具とみられる。瘤状の突起物がみられるが、腐食が著しく明瞭にはわからない。

31は銅銭。明銭としては最も多出する永楽通宝(始鑄1403年)である。一部欠損しているものの、おおむね良好に残存していた。穿は方形で径6mmである。郭の内側は磨り減って丸みがあり、紐などによる摩擦痕とみられる。

焼土群2出土の金属製品

16点掲載した。34・37はUFP - 11、46はUFP - 10から出土し、それ以外はUFP - 33・34などの焼土・灰集中の周辺から出土した。鉄製品は小片が多いが、銅製品や銀製品など多様な金属製品が出土している。

32・33は刀子。32はほぼ完形であるが、刃部が若干欠損している。茎尻に丸みがある。33は刀子の茎と考えられるもの。34～39は釘などの角棒状の鉄製品。34は先端部がとがっており、釘と思われる。35は腐食が著しい。36は中央部が大きく屈曲しているが、頭部と先端部の残存状況から和釘とみられる。屈曲していなければ1寸5分の釘になる。40・41は同一個体で鍛造品の破片である。42は先端が鋭利な鉄片であるが、全形は不明である。

43～46は銅製品。43・44は装飾品あるいは装飾的な留め金具と考えられる。緑青がわずかに付着する。径2mmほどの孔が穿たれている。43はスぺード形の部分の中央に径5mmほどのハート形の透かしがある。45は薄く湾曲する銅片。幅に変化がある。外面側に光沢がある。刀剣類に巻かれていたものの可能性がある。46も刀剣類の金具かもしれない。外面に割れ口を含め緑青が付着している。小片ながら重量感がある。47は環状の銀製品。装飾品の一部と考えられる。一端に切断痕がある。

焼土群3出土の金属製品

2点掲載した。48・49ともUFP - 9から出土している。48は小片で全形が不明である。49は和釘。中央部がやや曲がっており、先端がわずかに欠損している。3寸以上の長さがある。

焼土群4出土の金属製品

2点掲載した。50・51ともUFP - 8から出土している。50は針とみられる。51は銅銭。北宋銭の中ではやや多出する元豊通宝（始鑄1078年）であり、文字は行書体である。穿は径6.0mmの方形である。緑青が多く付着している。やや厚みがあり、重量感がある。

包含層出土の金属製品

14点掲載した。52は焼土群2から南西側に離れた位置で出土した鎌である。ほぼ完形であるが薄く脆弱であり、樹脂等による接合で復元した。柄に木質の一部が残存していた。

53は刀子。切先と柄尻が欠損しているが、残存部分の状況は良いようである。区部付近に金具または木質の一部が付着しており、柄にも木質の一部が残存している。内部に空洞がある。54・55は釘の先端と思われ、周囲に木質が残存している。56～59は鉄製品の小片や剥片。56には外面に樹皮とみられるものが巻かれてあり、黄褐色の付着物がある。

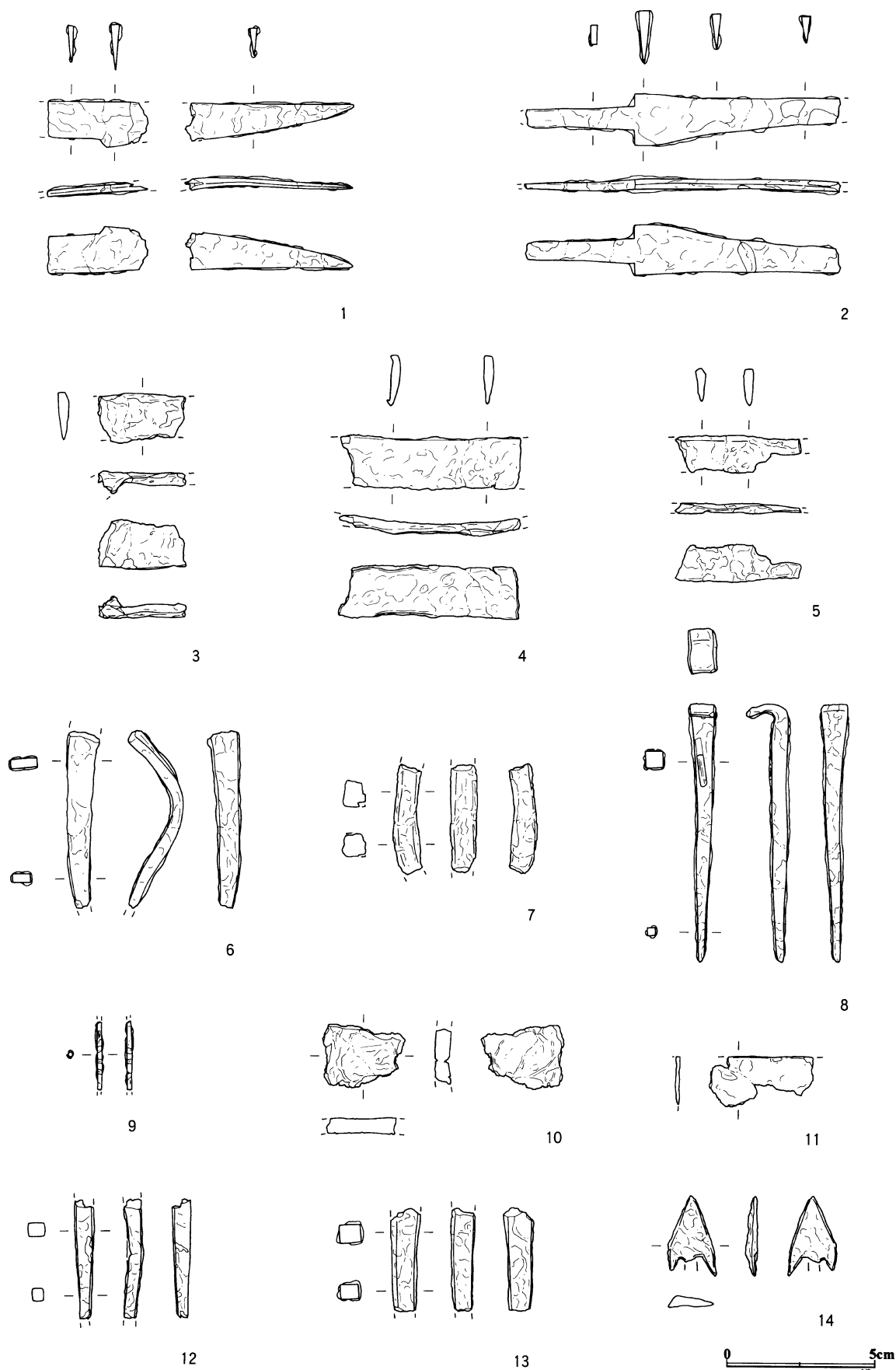
平成14年度調査で出土した金属製品

未掲載であった銅製品1点・鉄製品1点と、保存処理前に図示していた13点の鉄製品を保存処理後の状態で再掲載した。再掲載の金属製品の内容については、北埋調報189集『千歳市オリイカ2遺跡』p.44に記載してある。

60は平地住居跡2の炉（USD 2 - fp 1）周辺から出土した銅製品。全体的に緑青に覆われているように観察される。小片との接点があり、小片および大型破片それぞれに径1mm程度の小さな孔が穿たれている。短軸断面がうねるように曲がっており、刀剣類に巻きつけられていたものの可能性がある。61は角棒状の鉄製品。FP - 2から出土した。

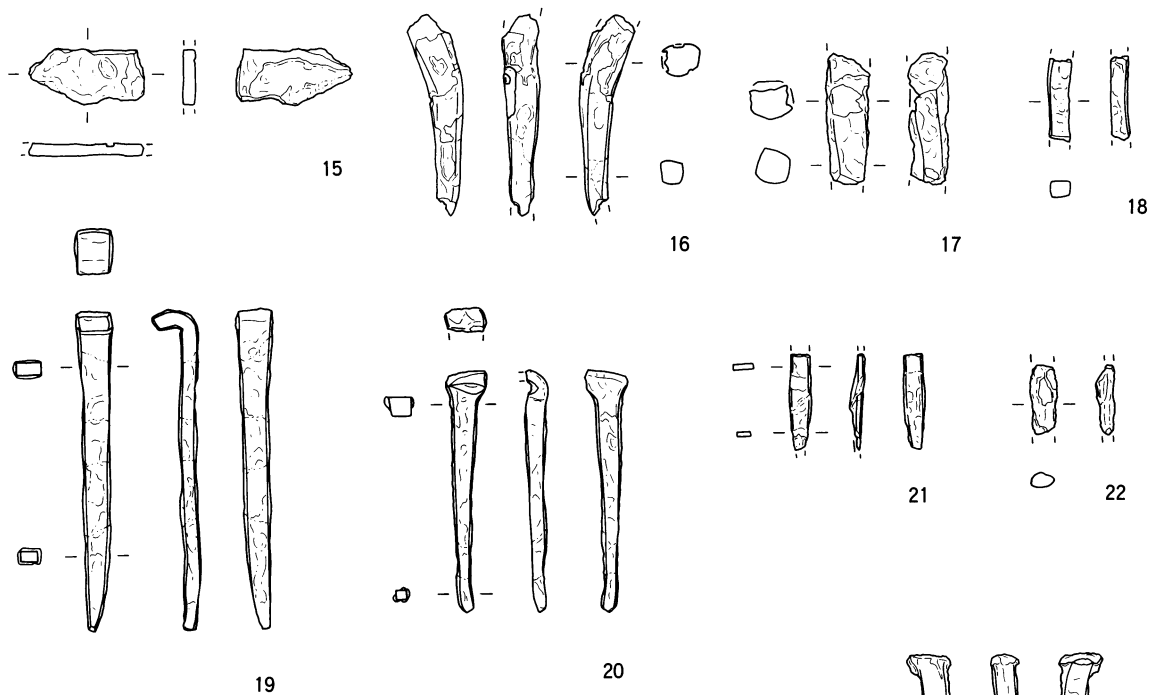
（阿部）

USD-5

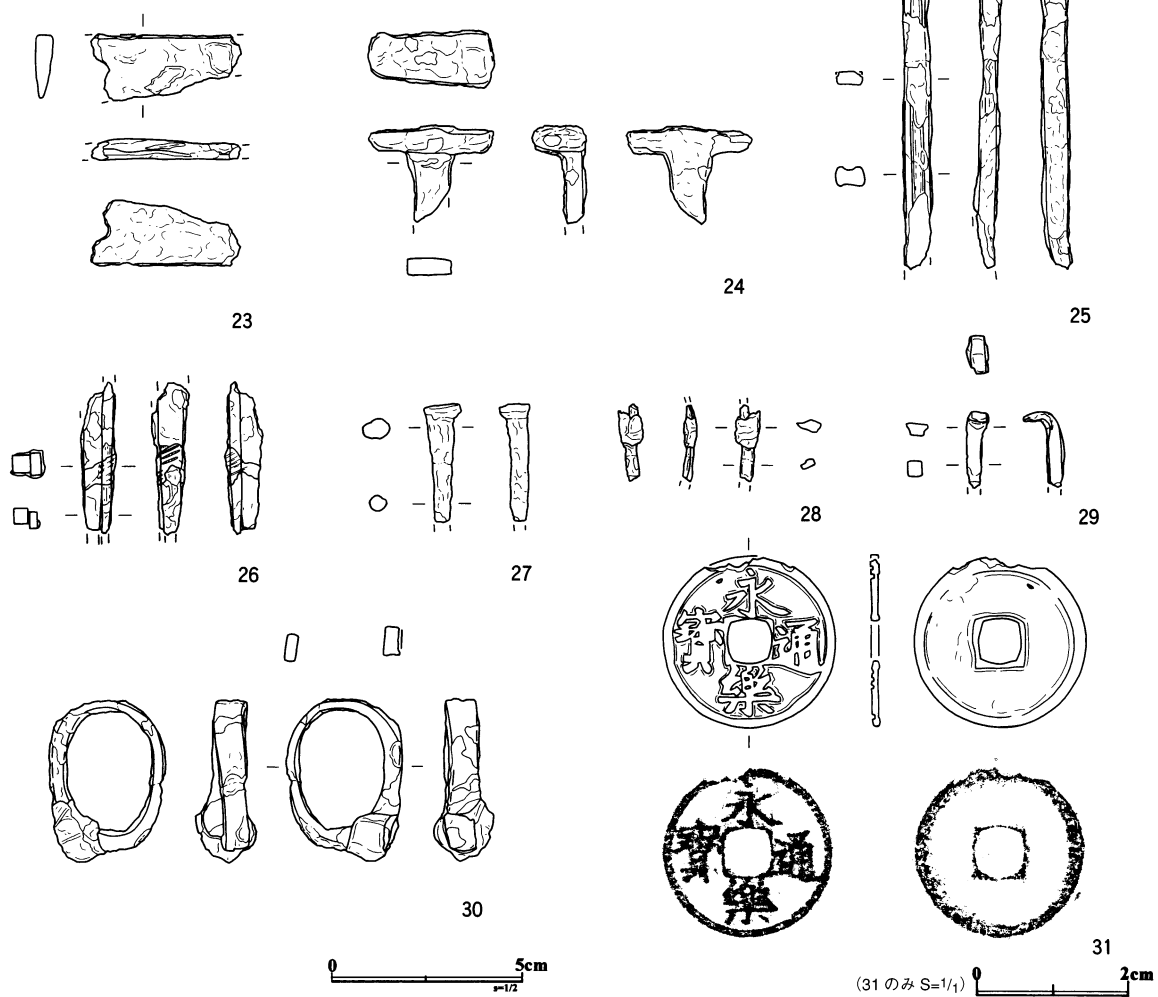


図IV - 18 鉄製品(1) 平地住居跡5

USD-8

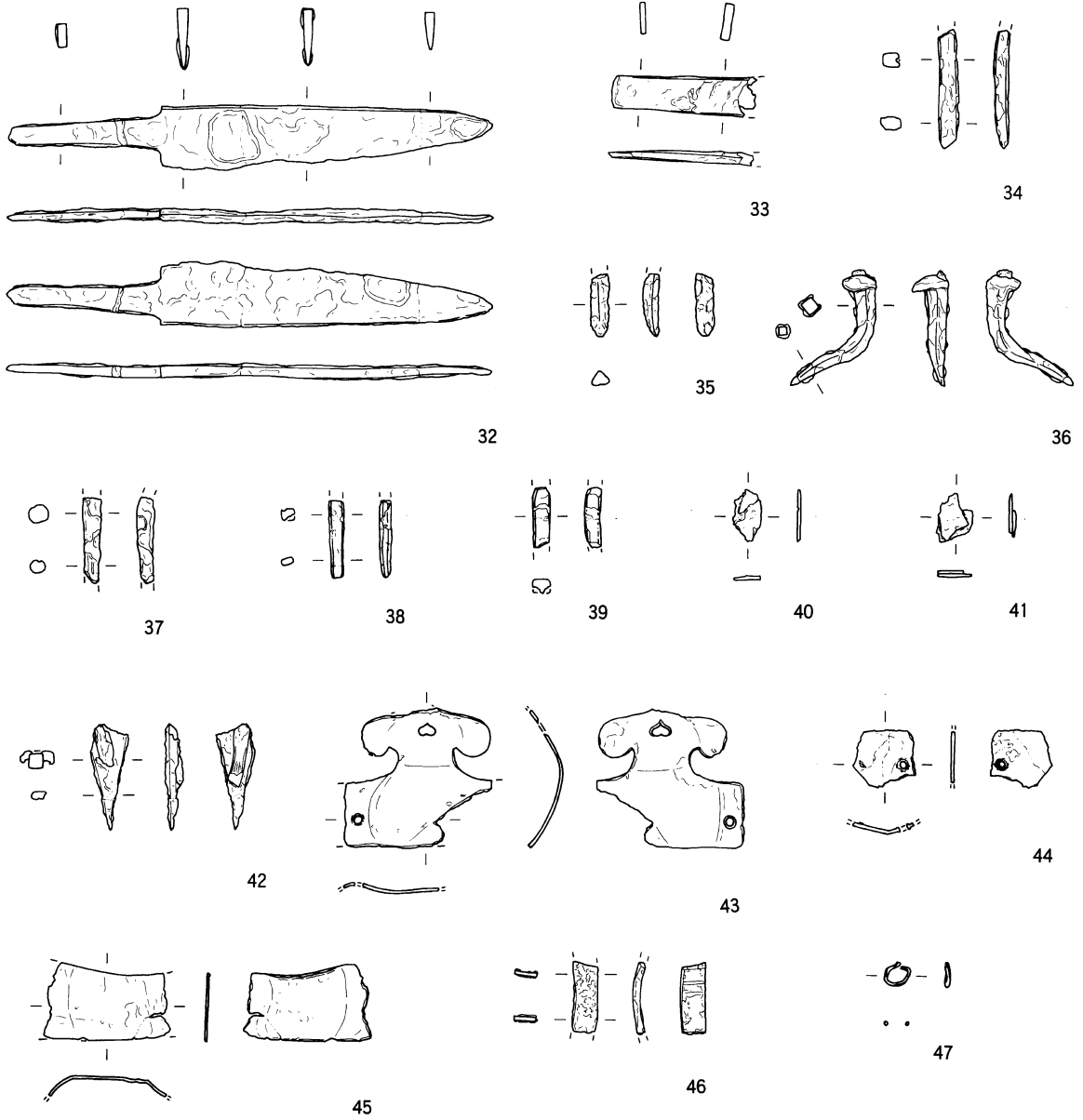


USD-9

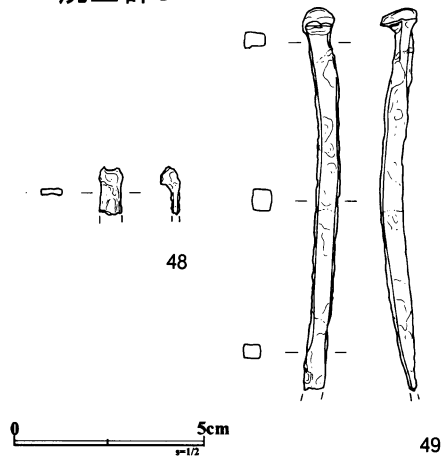


図IV-19 鉄製品(2) 平地住居跡8・9

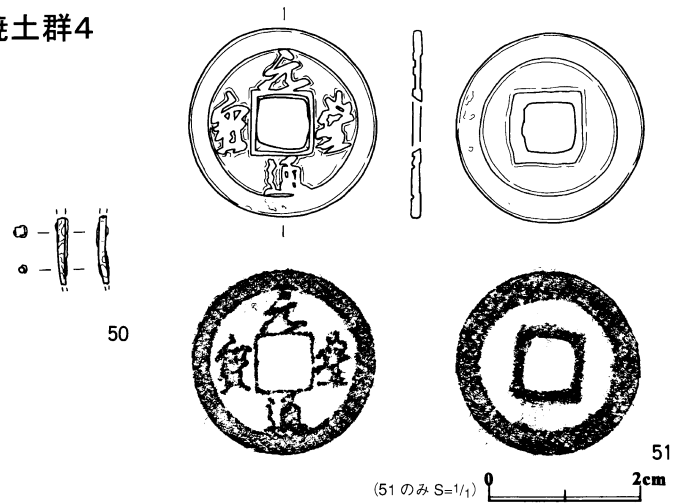
焼土群2



焼土群3

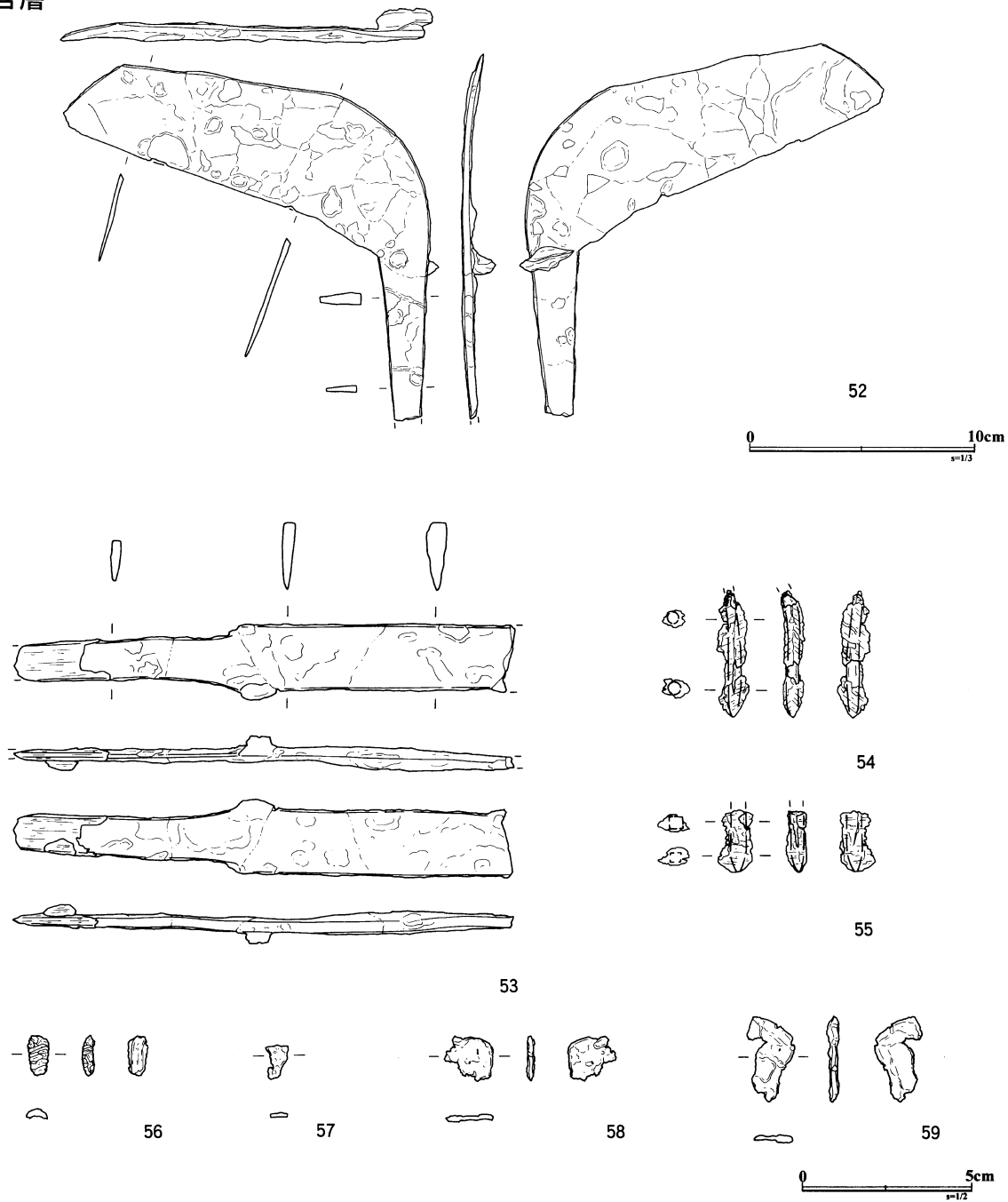


焼土群4

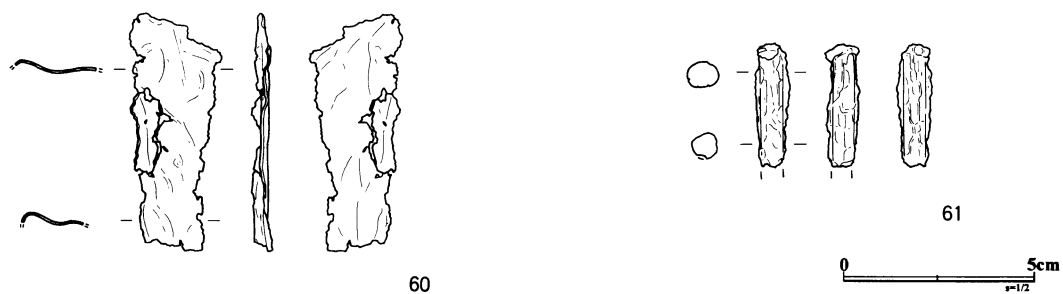


図IV - 20 鉄製品(3) 焼土群

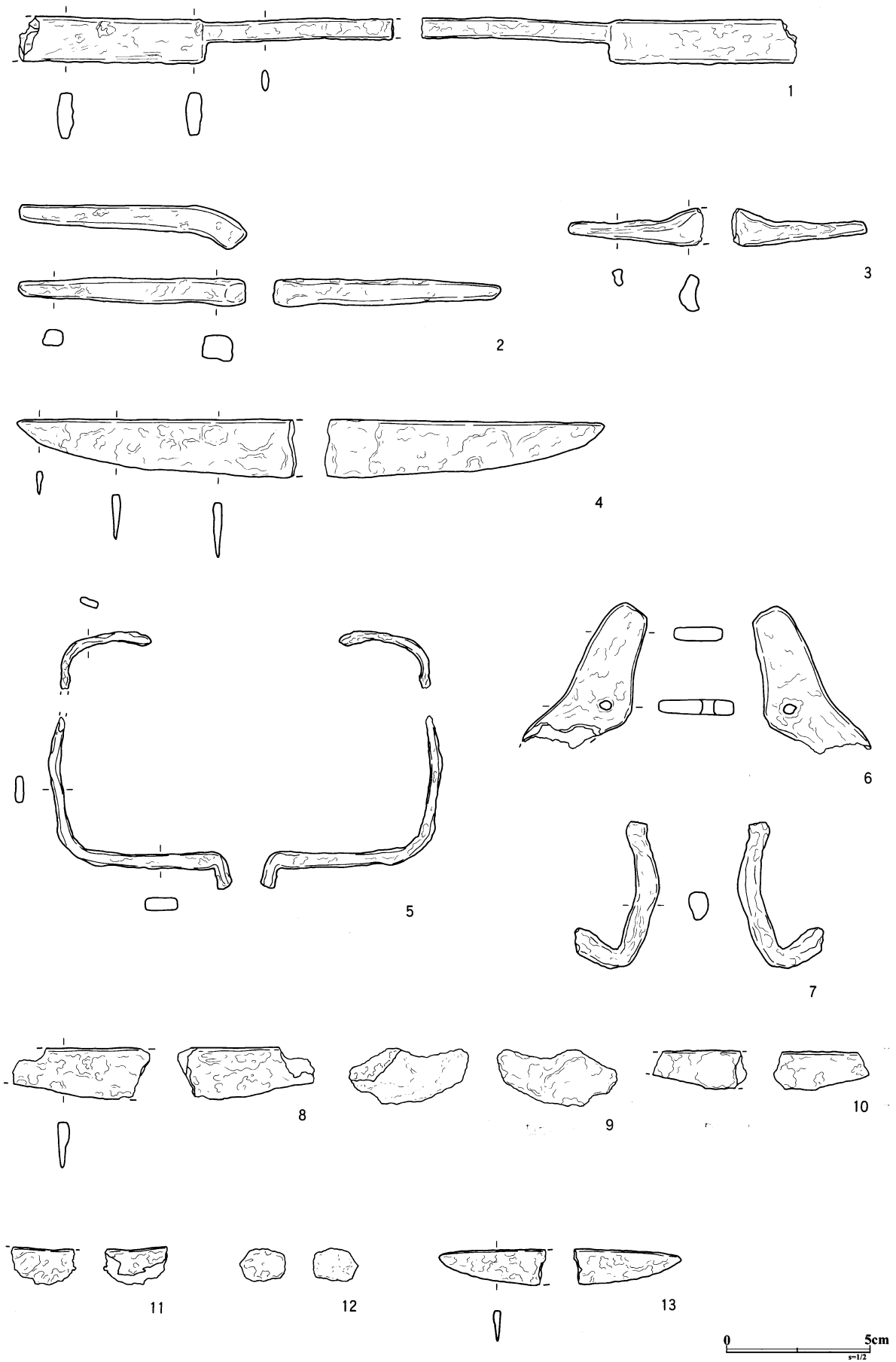
包含層



平成14年度調査分



図IV - 21 鉄製品(4) 包含層・平成14年度分①



図IV - 22 鉄製品(5) 平成14年度分②

表Ⅳ - 10 金属製品一覧(1)

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	種別	分類	破片	大きさ(現存・cm)			重さ (g)	整理 番号	備考
									長さ	幅	厚さ			
図Ⅳ - 18	1	図版47	USD - 5		21	鉄製品	刀子	6	9.10	1.60	0.70	4.30	Fe - 1	
図Ⅳ - 18	2	図版47	USD - 5		22	鉄製品	刀子	4	10.70	1.75	0.60	5.90	Fe - 2	
図Ⅳ - 18	3	図版47	USD - 5		26	鉄製品	刀子	2	2.95	1.70	0.75	2.30	Fe - 6	
図Ⅳ - 18	4	図版47	USD - 5		84・85	鉄製品	不明	3	6.10	1.80	0.65	7.90	Fe - 10・11	接合
図Ⅳ - 18	5	図版47	USD - 5		25	鉄製品	刀子	2	4.30	1.30	0.35	2.80	Fe - 5	
図Ⅳ - 18	6	図版47	USD - 5		79	鉄製品	平釘?	2	6.00	1.10	1.85	7.50	Fe - 9	釘?マレク?
図Ⅳ - 18	7	図版47	USD - 5		75	鉄製品	角釘	2	3.70	1.00	1.00	6.80	Fe - 8	
図Ⅳ - 18	8	図版47	USD - 5		24	鉄製品	角釘	5	8.75	1.00	1.50	12.40	Fe - 4	
図Ⅳ - 18	9	図版47	USD - 5		27	鉄製品	針	4	2.30	0.30	0.30	0.20	Fe - 7	
図Ⅳ - 18	10	図版47	USD - 5		23	鉄製品	鉄鍋	2	2.80	2.15	0.60	8.20	Fe - 3	
図Ⅳ - 18	11	図版47	USD - 5		86	鉄製品	剥片	2	3.50	1.70	0.15	1.90	Fe - 12	
図Ⅳ - 18	12	図版47	USD 5 - fp 4	上面	1	鉄製品	角棒状	1	4.05	0.65	0.65	1.40	Fe - 13	釘?
図Ⅳ - 18	13	図版47	USD 5 - fp 4	焼土		鉄製品	角棒状	1	3.50	1.00	0.85	9.70	Fe - 14	釘?
図Ⅳ - 18	14	図版47	USD 5 - fp 4	灰+焼土		鉄製品	鉄鏃	1	2.70	1.70	0.40	1.80	Fe - 15	フローテーション
図Ⅳ - 19	15	図版48	USD - 8			鉄製品	鉄鍋	5	3.05	1.50	0.35	1.90	Fe - 22	
図Ⅳ - 19	16	図版48	USD - 8		6	鉄製品	マレク?	3	5.30	1.50	1.00	4.70	Fe - 19	
図Ⅳ - 19	17	図版48	USD - 8		7	鉄製品	角釘	1	3.45	1.15	1.10	3.90	Fe - 20	
図Ⅳ - 19	18	図版48	USD - 8		3	鉄製品	角釘	1	2.25	0.65	0.50	0.80	Fe - 16	
図Ⅳ - 19	19	図版48	USD 8 - fp 1	上面	1	鉄製品	平釘?	5	8.45	1.00	1.20	4.90	Fe - 23	
図Ⅳ - 19	20	図版48	USD - 8		5	鉄製品	角釘	3	6.35	1.10	6.00	2.70	Fe - 18	
図Ⅳ - 19	21	図版48	USD - 8		4	鉄製品	平釘	2	2.50	0.60	0.40	0.60	Fe - 17	
図Ⅳ - 19	22	図版48	USD - 8		151	鉄製品	平釘	1	1.80	0.75	0.50	0.80	Fe - 21	
図Ⅳ - 19	23	図版48	USD - 9		2	鉄製品	刀子	1	3.95	1.75	0.55	4.70	Fe - 25	
図Ⅳ - 19	24	図版48	USD - 9		1	鉄製品	平釘	5	2.60	3.30	1.45	3.90	Fe - 24	
図Ⅳ - 19	25	図版48	USD - 9		38	鉄製品	角釘	3	10.20	1.15	0.85	8.50	Fe - 30	
図Ⅳ - 19	26	図版48	USD - 9		5	鉄製品	角釘・刀子	2	4.00	1.00	1.00	2.60	Fe - 28	擦糸付着
図Ⅳ - 19	27	図版48	USD - 9		3	鉄製品	角釘	3	3.10	1.00	0.80	2.10	Fe - 26	
図Ⅳ - 19	28	図版48	USD - 9		19	鉄製品	不明	2	2.00	0.65	0.35	0.30	Fe - 29	
図Ⅳ - 19	29	図版48	USD 9 - fp 1	灰	1	鉄製品	角釘	1	2.00	0.60	0.10	2.20	Fe - 51	
図Ⅳ - 19	30	図版48	USD - 9		4	鉄製品	環状	3	4.25	3.05	1.60	5.20	Fe - 27	刀装具
図Ⅳ - 19	31	図版48	USD - 9		37	銅製品	古銭(永楽通宝)	1	2.25	2.25	0.10	1.30	Cu - 5	
図Ⅳ - 20	32	図版49	UFP - 13		1	鉄製品	刀子	4	13.75	1.90	0.50	14.60	Fe - 42	焼土群 2
図Ⅳ - 20	33	図版49	焼土群 2		49	鉄製品	刀子	4	4.10	1.15	0.35	1.50	Fe - 34	
図Ⅳ - 20	34	図版49	UFP - 11		1	鉄製品	角釘	4	3.35	0.60	0.45	1.30	Fe - 53	焼土群 2
図Ⅳ - 20	35	図版49	焼土群 2		52	鉄製品	角棒状	1	1.75	5.50	4.50	1.00	Fe - 36	
図Ⅳ - 20	36	図版49	焼土群 2		70	鉄製品	釘	1	3.30	2.45	1.05	2.60	Fe - 37	
図Ⅳ - 20	37	図版49	UFP - 11	上面		鉄製品	角棒状	1	2.40	0.55	0.50	1.20	Fe - 41	フローテーション・焼土群2
図Ⅳ - 20	38	図版49	焼土群 2		73	鉄製品	角棒状	2	2.20	0.45	0.35	0.30	Fe - 38	
図Ⅳ - 20	39	図版49	焼土群 2		47	鉄製品	角棒状	2	1.70	0.50	0.45	0.50	Fe - 33	
図Ⅳ - 20	40	図版49	焼土群 2		30	鉄製品	鍛造剥片	2	1.45	0.80	0.20	0.30	Fe - 31	
図Ⅳ - 20	41	図版49	焼土群 2		31	鉄製品	鍛造剥片	1	1.40	1.05	0.20	0.30	Fe - 32	
図Ⅳ - 20	42	図版49	焼土群 2		50	鉄製品	不明	3	3.00	1.10	0.50	1.50	Fe - 35	
図Ⅳ - 20	43	図版49	焼土群 2		69	銅製品	留め金具?	1	4.20	3.95	0.95	5.50	Cu - 2	
図Ⅳ - 20	44	図版49	焼土群 2		68	銅製品	留め金具?	1	1.75	1.65	0.30	1.00	Cu - 1	
図Ⅳ - 20	45	図版49	焼土群 2		74	銅製品	刀装具?	2	3.60	2.20	0.60	2.30	Cu - 3	
図Ⅳ - 20	46	図版49	UFP - 10	上面		銅製品	刀装具?	1	2.05	0.70	0.35	1.80	Cu - 4	フローテーション・焼土群2
図Ⅳ - 20	47	図版49	UFP - 34		1	銀製品?	環状	1	0.75	0.65	0.15	0.15	Ag - 1	
図Ⅳ - 20	48	図版49	UFP - 9			鉄製品	不明	1	1.25	0.65	0.50	0.50	Fe - 52	フローテーション・焼土群3
図Ⅳ - 20	49	図版49	UFP - 9	上面	2	鉄製品	角釘	4	10.10	1.00	1.00	5.80	Fe - 40	焼土群 3
図Ⅳ - 20	50	図版49	UFP - 8		7	鉄製品	針	1	1.80	0.30	0.30	0.40	Fe - 39	焼土群 4
図Ⅳ - 20	51	図版49	UFP - 8		1	銅製品	古銭(元豊通宝)	1	2.47	2.47	0.10	2.80	Cu - 6	焼土群 4
図Ⅳ - 21	52	図版50	(S - 129)	Ⅲ		鉄製品	鎌	1	16.5	16.3	4.5		Fe - 50	
図Ⅳ - 21	53	図版50	(H - 147)	Ⅲ	1	鉄製品	刀子	4	14.90	2.30	1.05	23.00	Fe - 54	
図Ⅳ - 21	54	図版50	(R - 132)	I		鉄製品	釘	1	3.75	1.00	0.70	1.50	Fe - 43	木質あり

表IV - 11 金属製品一覧(2)

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構/ 発掘区	層位	遺物 番号	種別	分類	破片	大きさ(現存・cm)			重さ (g)	整理 番号	備考
									長さ	幅	厚さ			
図IV - 21	55	図版50	(R - 132)	Ⅲ		鉄製品	釘	2	1.85	1.05	0.60	0.90	Fe - 44	木質あり
図IV - 21	56	図版50	(S - 136)	Ⅲ		鉄製品	不明	1	1.15	0.65	0.35	0.10	Fe - 45③	
図IV - 21	57	図版50	(S - 136)	Ⅲ		鉄製品	不明	1	1.00	0.65	0.15	0.10	Fe - 45④	
図IV - 21	58	図版50	(S - 136)	Ⅲ		鉄製品	不明	1	1.45	1.35	0.25	0.30	Fe - 45②	
図IV - 21	59	図版50	(S - 136)	Ⅲ		鉄製品	不明	1	2.50	1.40	0.35	0.60	Fe - 45①	
平成14年度調査『千歳市オルレカ2遺跡』(新掲載)														
図IV - 21	60	図版50	USD - 2		57	銅製品	刀装具?	2	6.3	2.5	0.1			未報告
図IV - 21	61	図版50	FP - 2	灰+焼土		鉄製品	角棒状	1	3.3	0.9	0.8			未報告
平成14年度調査『千歳市オルレカ2遺跡』(再掲載)														
図IV - 22	1		USD - 1			鉄製品	刀子	4	13.2	1.7	0.6	14.4		保存処理済
図IV - 22	2		USD - 2			鉄製品	軸	1	8.0	1.0	1.1	17.9		保存処理済
図IV - 22	3		USD - 2			鉄製品	不明品	2	4.7	1.3	0.7	2.4		保存処理済・茎部?
図IV - 22	4		USD - 2			鉄製品	刀子	3	9.8	2.1	0.3	11.6		保存処理済
図IV - 22	5		USD - 2			鉄製品	鉤状	3	6.4	6.0	1.2	21.6		保存処理済
図IV - 22	6		USD - 5			鉄製品	不明品(茎部)	1	5.1	4.2	0.5	10.3		保存処理済
図IV - 22	7		USD - 7			鉄製品	鉤状	2	5.1	3.0	1.0	8.1		保存処理済
図IV - 22	8 ~ 13		(J - 136)	Ⅲ		鉄製品	刀子	6	-	2.0	0.4	10.4		保存処理済

(2) 石器等

石器等はいずれもアイヌ文化期の遺構及びその周辺から出土している。遺構周辺から出土しているも、石鏃など明らかに縄文時代に属すると考えられるものはⅦ章に掲載している。棒状礫を含む礫が大半を占め、次いで火打石が多い。1点のみだが、火皿の破片がUSD - 5から出土している。また、ガラス玉が遺構から4点、包含層から1点出土している。

USD - 5

1～7は火打石。石材は全てチャートである。1～3は打ち欠きのない未使用のものである。小形で丸みを帯び、白色を呈する。4～7は打ち欠きが認められるもの。4～6は赤色を呈する。4・5はfp4出土で比較的大形のもので、全面に打ち欠きが認められる。剥離は、火打金で叩くための下準備のために打ち欠いたものと、火打金で発火させる時に叩いてできた二種類に分かれる。6・7は小形のため、火打金で叩いた際に生じた剥片と考えられる。6の裏面は自然面である。7は白色を呈する。8は火皿。軽石製で約2/3を欠失する。元々の平面形は楕円形の可能性が高い。裏面は中央付近に小形の窪みが作られているが、それ以外はよく研磨され平滑に作られている。9～21は棒状礫である。いわゆるおもり石と考えられ、長さ約5～7cm、幅約2～4cm、厚さ約1～2cmの楕円体に近い形状のものが多い。石材はほとんどのものが砂岩である。また、11・17には赤色付着物が少量認められる。9～15は比較的水平で形も整っているもの。16はやや厚みがある。17～19は横断面形がやや角張り、方形に近い。20・21はやや不整形のもの。

USD - 8

1～8は火打石。石材は全てチャートである。1～4は打ち欠きのない未使用のものである。全体的に小形で丸みを帯びる。1は幅に比べてやや長い。1・3・4は白色で、1は部分的に褐色が混じる。2は暗緑色を呈する。5～8は打ち欠きが認められるもの。5は灰色の混じる灰白色、6・7は赤色、8は褐色の混じる白色である。5・6は比較的大形のもので、各面に大きな打ち欠きが認められる。5は自然面をやや大きく残している。6は右側面に自然面を残す。7・8は小形で、発火する

際に生じた剥片と考えられる。8の裏面は自然面である。9～25は棒状礫。長さ約5～8cm、幅約2～4cm、厚さ約1～2cmの楕円体に近い形状のものが多い。石材は砂岩が多く、泥岩、軽石も少数ある。15にはわずかに赤色付着物が、20には礫の両端に黒色付着物が認められる。9～16は比較的扁平で形が整っているもの。9は軽石製である。17～19はやや厚みがあるもの。20～22は横断面形が方形に近い。23・24は横断面形が三角形に近いもの。25はやや不整形のものである。26～28はガラス玉である。いずれも緑色を呈するがやや曇っている。蜜柑玉で、深い筋引きにより5房を構成する。房の大きさは全体的に不揃いである。26はfp1上面から出土したもの。大きい3房と小さな2房に分かれる。27はfp1の灰から出土したもの。表面が風化して灰白色を呈する部分がある。房の大きさはばらつきがある。比較的扁平で、他のものより孔が大きく径が約4mmある。28は他の2点よりやや濃い緑色である。大きな3房、やや小さい1房と小さな1房からなる。

USD - 9

1～3は火打石。石材は全てチャートである。1の色調はやや緑がかった白色で、大きな礫を荒割りしたものである。自然面を残し、裏面には数ヶ所叩いた跡が認められ、さらに分割しようとした意図が伺われる。発火のために叩いた時に生じる細かな剥離は認められないため、未使用品と考えられる。2・3は赤色を呈する。2は一部自然面を残すが各面に打ち欠きが認められる。3は小形で、発火する際に生じた剥片と考えられる。

UFP - 4

6は火打石。石材はチャートだが、質は良くない。各面に打ち欠きが認められる。

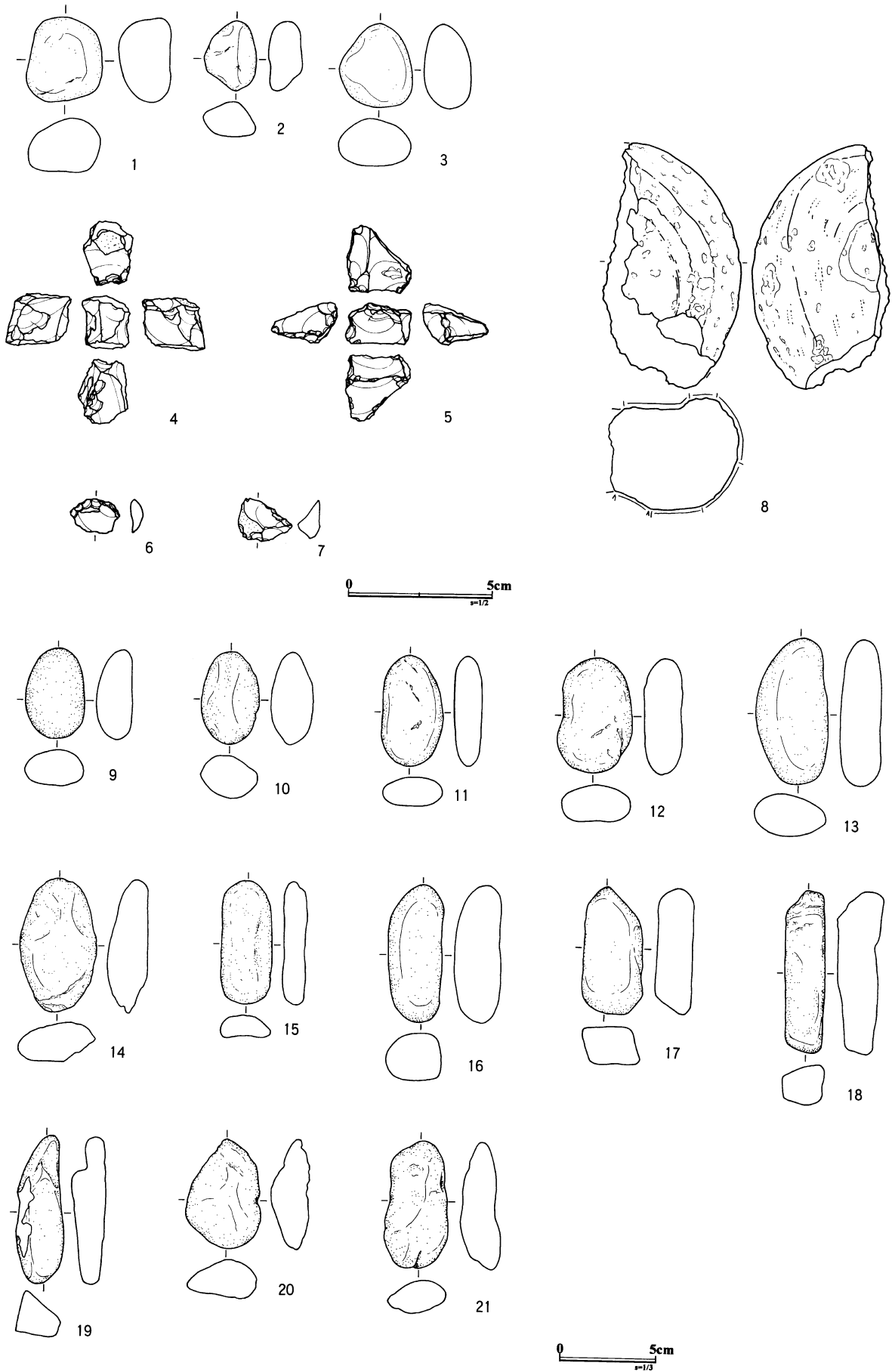
UFP - 8

8～10は礫。8・9の石質は安山岩で、10は砂岩である。形状はやや不整である。

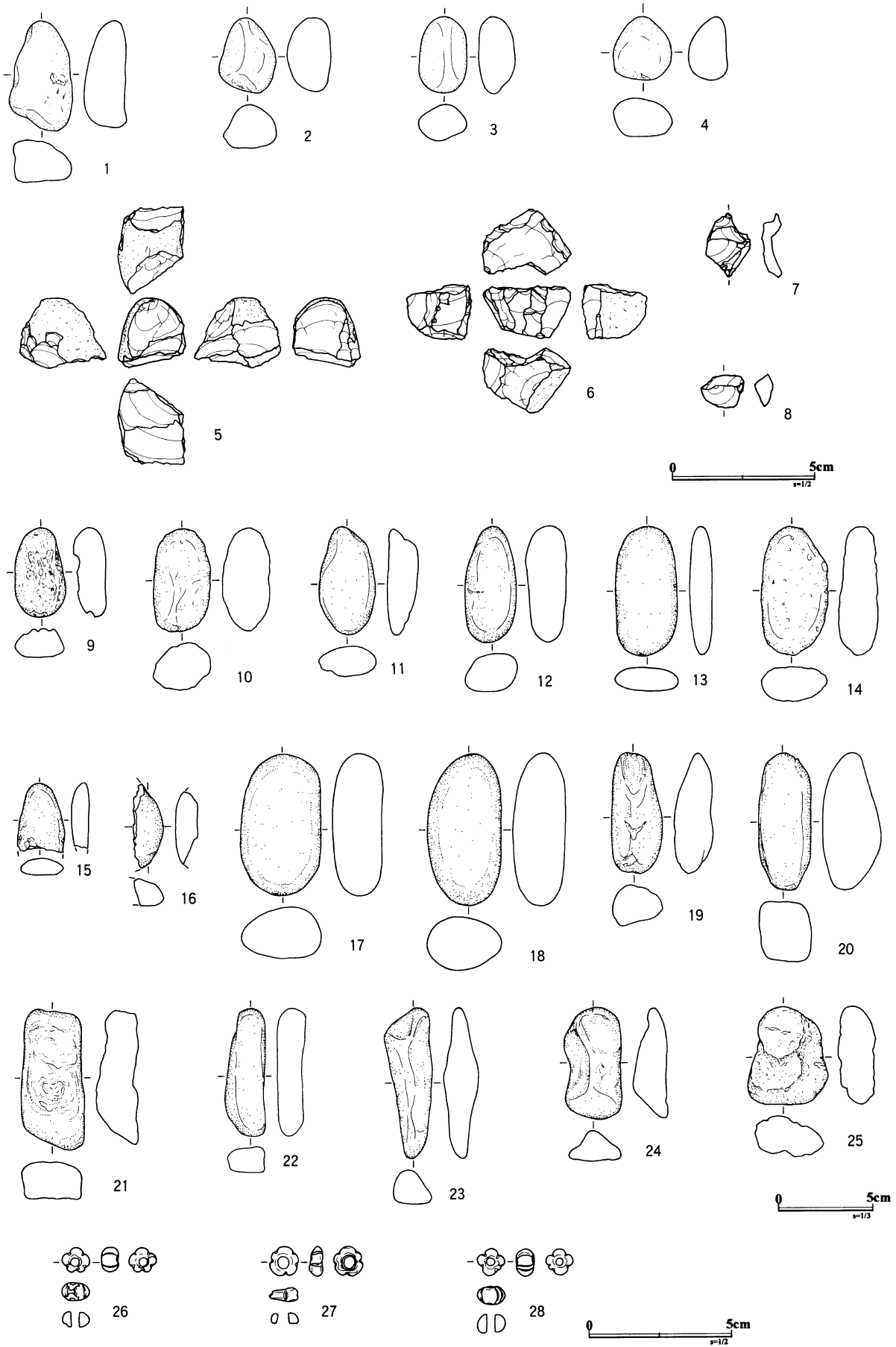
Ⅲ層出土の石器等

11はQ-135区から出土したガラス玉。USD-8出土のものと同様の緑色を呈する蜜柑玉で、深い筋引きにより5房を構成する。房の大きさはやや不揃いである。孔の径は約3mmである。

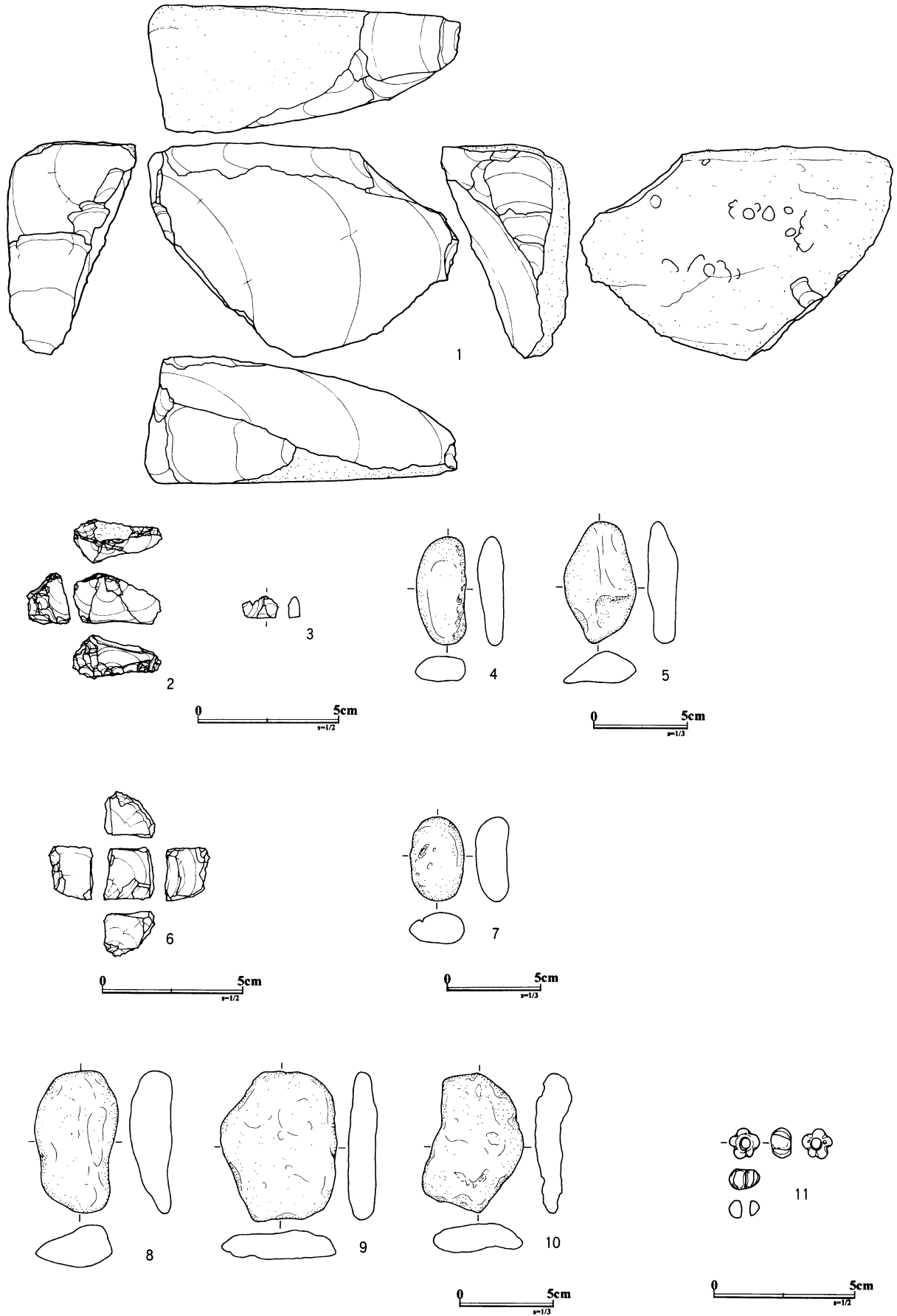
(広田)



図IV - 23 平地住居跡 5 出土の石器



図IV - 24 平地住居跡 8 出土の石器等



図IV - 25 平地住居跡9ほか出土の石器等〔USD - 9、UFP - 4・6・8、Ⅲ層〕

表Ⅳ - 12 アイヌ文化期掲載石器等一覧(1)

挿図番号	掲載番号	図版番号	遺構名・発掘区	取上げNo	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存状態	備考
図Ⅳ - 23	1	51	USD - 5	59	Ⅲ	火打石	チャート	3.0	2.7	1.9	23.1	完形	
図Ⅳ - 23	2	51	USD - 5	71	Ⅲ	火打石	チャート	2.4	1.8	1.2	7.0	完形	
図Ⅳ - 23	3	51	USD - 5	76	Ⅲ	火打石	チャート	2.9	2.6	1.7	17.7	完形	
図Ⅳ - 23	4	51	USD 5 - fp4		焼土	火打石	チャート	1.8	1.7	2.3	8.3	片	
図Ⅳ - 23	5	51	USD 5 - fp4	5	上面	火打石	チャート	1.4	2.3	2.3	6.4	片	
図Ⅳ - 23	6	51	USD - 5	55	Ⅲ	火打石	チャート	1.2	1.7	0.4	0.9	片	
図Ⅳ - 23	7	51	USD - 5	39	Ⅲ	火打石	チャート	1.5	1.9	0.8	1.7	片	
図Ⅳ - 23	8	51	USD - 5	80	Ⅲ	火皿	軽石	(12.7)	(7.2)	5.8	273.9	片	
図Ⅳ - 23	9	51	USD - 5	37	Ⅲ	棒状礫	砂岩	4.7	3.1	1.9	40.1	完形	
図Ⅳ - 23	10	51	USD - 5	48	Ⅲ	棒状礫	砂岩	4.8	3.0	2.2	43.0	完形	
図Ⅳ - 23	11	51	USD - 5	34	Ⅲ	棒状礫	砂岩	5.8	3.2	1.5	42.0	完形	赤色範囲あり
図Ⅳ - 23	12	51	USD 5 - fp4	2	上面	棒状礫	砂岩	6.0	3.9	2.0	71.4	完形	
図Ⅳ - 23	13	51	USD - 5	30	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.6	3.8	2.2	93.2	完形	
図Ⅳ - 23	14	51	USD - 5	42	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.0	4.0	2.1	71.5	完形	
図Ⅳ - 23	15	51	USD - 5	29	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.4	2.7	1.2	32.5	完形	
図Ⅳ - 23	16	51	USD - 5	45	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.2	2.9	2.4	81.8	完形	
図Ⅳ - 23	17	51	USD - 5	46	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.7	3.2	2.0	73.3	完形	赤色範囲あり
図Ⅳ - 23	18	51	USD - 5	65	Ⅲ	棒状礫	砂岩	8.5	2.1	2.4	69.3	完形	
図Ⅳ - 23	19	51	USD 5 - fp4	3	上面	棒状礫	砂岩	7.7	2.5	2.3	47.9	完形	
図Ⅳ - 23	20	51	USD - 5	66	Ⅲ	棒状礫	砂岩	5.7	3.9	2.0	49.7	完形	
図Ⅳ - 23	21	51	USD - 5	63	Ⅲ	棒状礫	泥岩	6.7	3.4	2.1	62.8	完形	
図Ⅳ - 24	1	52	USD - 8	91	Ⅲ	火打石	チャート	3.9	2.3	1.6	19.0	完形	
図Ⅳ - 24	2	52	USD - 8	21	Ⅲ	火打石	チャート	2.7	2.0	1.6	10.7	片	
図Ⅳ - 24	3	52	USD - 8	17	Ⅲ	火打石	チャート	2.7	1.7	1.3	9.0	完形	
図Ⅳ - 24	4	52	USD - 8	84	Ⅲ	火打石	チャート	(3.7)	2.5	0.9	(10.5)	完形	
図Ⅳ - 24	5	52	USD - 8		Ⅲ	火打石	チャート	2.5	2.4	3.1	19.2	片	
図Ⅳ - 24	6	52	USD - 8	81	Ⅲ	火打石	チャート	1.9	3.1	2.3	13.6	片	
図Ⅳ - 24	7	52	USD - 8	55	Ⅲ	火打石	チャート	2.3	1.6	0.7	2.0	片	
図Ⅳ - 24	8	52	USD - 8	93	Ⅲ	火打石	チャート	1.2	1.5	0.8	1.2	片	
図Ⅳ - 24	9	52	USD - 8	57	Ⅲ	棒状礫	軽石	4.7	2.7	1.7	7.7	完形	
図Ⅳ - 24	10	52	USD - 8	59	Ⅲ	棒状礫	かんらん岩	5.4	3.0	2.5	65.9	完形	
図Ⅳ - 24	11	52	USD - 8	63	Ⅲ	棒状礫	チャート	5.7	3.0	1.7	43.1	完形	
図Ⅳ - 24	12	52	USD - 8	9	Ⅲ	棒状礫	泥岩	6.1	2.7	2.1	54.6	完形	
図Ⅳ - 24	13	52	USD - 8	155	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.8	3.3	1.2	43.3	完形	
図Ⅳ - 24	14	52	USD - 8	11	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.8	3.5	2.1	60.8	完形	
図Ⅳ - 24	15	52	USD - 8	84	Ⅲ	礫	砂岩?	2.3	2.1	1.4	9.2	片	赤色範囲あり
図Ⅳ - 24	16	52	USD - 8	31	Ⅲ	棒状礫	泥岩	(4.4)	(1.6)	(1.4)	(8.3)	完形	
図Ⅳ - 24	17	52	USD - 8	86	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.5	4.3	2.7	133.0	完形	
図Ⅳ - 24	18	52	USD - 8	75	Ⅲ	棒状礫	砂岩	8.0	3.9	2.8	125.7	完形	
図Ⅳ - 24	19	52	USD - 8	65	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.4	2.7	2.1	46.5	完形	
図Ⅳ - 24	20	52	USD - 8	66	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.2	2.8	3.1	99.1	完形	両端黒色
図Ⅳ - 24	21	52	USD - 8	95	Ⅲ	棒状礫	砂岩	7.4	3.4	2.2	95.0	片	
図Ⅳ - 24	22	52	USD - 8	71	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.8	2.2	1.5	33.7	完形	
図Ⅳ - 24	23	52	USD - 8	25	Ⅲ	棒状礫	泥岩	8.0	2.5	1.8	28.6	完形	
図Ⅳ - 24	24	52	USD - 8	85	Ⅲ	棒状礫	砂岩	5.9	3.0	1.8	36.8	完形	
図Ⅳ - 24	25	52	USD - 8	61	Ⅲ	棒状礫	チャート	5.2	4.3	2.0	61.5	完形	
図Ⅳ - 24	26	52	USD 8 - fp1	-	上面	玉	ガラス	0.9	1.0	0.6	0.9	完形	
図Ⅳ - 24	27	52	USD 8 - fp1	4	灰	玉	ガラス	1.1	1.0	0.5	0.7	完形	
図Ⅳ - 24	28	52	USD - 8	1	Ⅲ	玉	ガラス	1.0	1.0	0.6	0.8	完形	
図Ⅳ - 25	1	53	USD - 9	22	Ⅲ	火打石	チャート	7.6	11.2	4.6	395.0	片	

表Ⅳ - 13 アイヌ文化期掲載石器等一覧(2)

挿図番号	掲載番号	図版番号	遺構名・発掘区	取上げNo	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存状態	備考
図Ⅳ - 25	2	53	USD - 9	9	Ⅲ	火打石	チャート	1.8	3.2	1.6	7.4	片	
図Ⅳ - 25	3	53	USD - 9	8	Ⅲ	火打石	チャート	0.8	1.3	0.4	0.4	片	
図Ⅳ - 25	4	53	USD - 9	49	Ⅲ	棒状礫	砂岩	5.8	2.7	1.4	33.2	完形	
図Ⅳ - 25	5	53	USD - 9	42	Ⅲ	棒状礫	砂岩	6.5	3.8	1.7	43.2	完形	
図Ⅳ - 25	6	53	UFP - 4		Ⅲ	火打石	チャート	1.9	1.8	1.6	6.3	片	
図Ⅳ - 25	7	53	UFP - 6	1	Ⅲ	棒状礫	砂岩	4.5	2.9	1.7	35.5	完形	
図Ⅳ - 25	8	53	UFP - 8	2	Ⅲ	礫	安山岩	7.7	4.4	2.5	98.0	完形	
図Ⅳ - 25	9	53	UFP - 8	3	Ⅲ	礫	安山岩	8.1	6.2	1.5	85.1	完形	
図Ⅳ - 25	10	53	UFP - 8	6	Ⅲ	礫	砂岩?	7.5	5.4	2.0	63.8	完形	
図Ⅳ - 25	11	53	Q - 135		Ⅲ	玉	ガラス	1.1	1.1	0.7	1.1	完形	

(3) その他の遺物

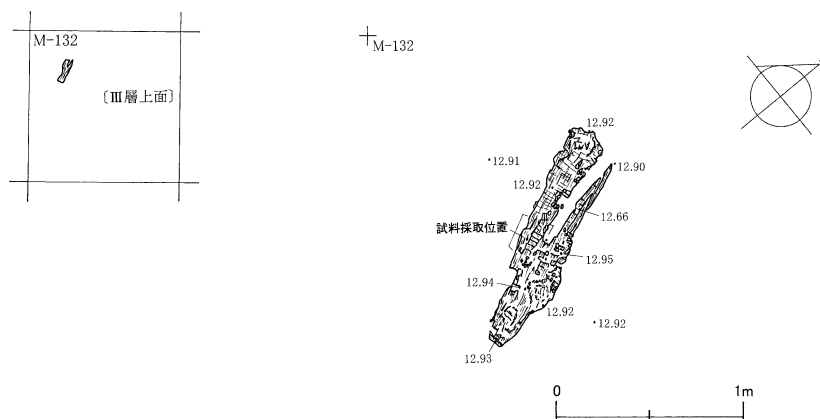
アイヌ文化期の遺構および包含層からは、金属製品・石器等のほかに、漆器の塗膜や自然遺物が出土している。

このうち漆器の塗膜は、ベンガラ漆塗りの極小片が散在するもので、木胎の一部が薄く残存しているものも見られた。平地住居跡5・8の炉周辺のほか、焼土群2・3・4の一部の焼土付近(UFP - 7・14・34)などで出土している。ただし極微量で各々0.1gにも満たない状況である。

自然遺物のうち、炭化材(物)は多くの焼土で出土している。特に焼土群2のUFP - 33・34、焼土群3のUFP - 9、平地住居跡8の炉USD 8 - fp 2などで多量に出土している。また平地住居跡8の柱穴USD 8 - ph23・24には、柱の樹皮が残存していた。包含層では、Ⅲ層上面に材の形状を保った状態で検出されるものが多い(図Ⅳ - 27)。しかしTa - a直下であり、平地住居跡などの遺構と直接的な関係を示すものは確認できなかった。

骨・貝などの動物遺存体や植物種子については、次項に掲載する。

(阿部)



図Ⅳ - 26 Ⅲ層炭化材出土状況例

7. フローテーション法等による微細遺物の調査 (図Ⅳ - 27、表Ⅳ - 14~34、図版54~58)

アイヌ文化期の遺構や包含層からは、骨・貝などの動物遺存体や植物種子などの微細な遺物が多量出土している。それらの遺物について、手取り回収分(動物遺存体)とフローテーション回収分それぞれ掲載する。

(1) 手取り回収の動物遺存体

回収資料

平地住居跡の炉や焼土群の中の灰や焼土中では、肉眼でも多量の骨片・貝などの自然遺物が確認された。これら多量の骨片を可能な限り形状を保って取り上げることとした。

手取り回収した骨片は約350g、貝は約470gであるが、個々の破片の重量が極めて軽く、多量に上っている。特に焼土群2からの回収量が多く、全体の約6割を占める。骨片はUFP - 33・34で200gを量り、全体の約6割を占める。貝はUKS - 3・4が多く、全体の5割を超える。

同定結果の掲載方法

以下の構成によった。

- ①手取り回収 - 骨 - 資料別(遺構・層位別)同定結果表..... 3ページ(表Ⅳ - 15~17)
- ②手取り回収 - 貝 - 資料別(遺構・層位別)同定結果表..... 2ページ(表Ⅳ - 18・19)
- ③手取り回収動物遺存体 分類別同定一覧表..... 2ページ(表Ⅳ - 20・21)

資料番号(「骨番号」)は、同一遺構・同一層位のものでできる限りまとめた。

同定結果の概要

動物遺存体は平地住居跡の炉および焼土群の各焼土の上位~中位、黒色混じりの灰層や密で純粋な灰層から多量に検出されている。種類は哺乳類・鳥類・魚類・甲殻類・貝類など多様であり、出土量も非常に多い。哺乳類はシカが最も多く、角や四肢骨の一部が検出されている。

魚類は圧倒的にサケ科の骨片が多い。その部位は全体にわたっているが、特に椎骨・顎骨・歯が同定しやすいため多数確認できた。ただし平成14年度の資料と比較して、椎骨の残存状況が良くないものが多く、頭部の各部位がより多く検出された。なお、写真図版56の15番に掲載したサケ科の擬鎖骨には、解体時の切痕と見られる跡がある。またサケ科と同様にコイ科の魚類も多い。ウグイとみられるものが多く含まれている。

甲殻類ではクモガニ科の指節の一部も含まれていた。

貝類ではカワシンジュガイが多く見られた。「カワシンジュガイ集中」箇所が7ヵ所検出され、特にUKS - 4は176gと全体の約4割を占めている。全体として殻皮のみの出土例がほとんどであるが、UFP - 33では灰層の中から殻全体が残存していた個体が出土した。またエゾバイ科をはじめエゾタマキビガイやタマキガイ科の貝など、淡水産以外の貝もふくまれていた。そのほか、マイマイとみられる微小貝が多量に検出された。

(阿部)

表Ⅳ - 14 動物遺存体 (手取り) 同定結果(1) - 骨 -

骨番号	遺構	層位	取上 番号	分類1	分類2	部 位	備 考
B - 000	USD 5 - fp 4			哺乳類	シカ	角	けずり片
					不明	四肢骨	
				魚類	サケ科	椎骨、歯骨(歯付)r、胸鰭条基部 r、尾舌骨	
					コイ科	尾骨	
					不明	鰓蓋骨類、鰓条、棘	
B - 001	USD 5 - fp 4	灰	6	哺乳類	シカ	角	骨角器 1点
B - 002	USD 9 - fp 1	灰	3	哺乳類	不明	四肢骨	骨角器? or 未製品 1点
B - 003	USD - 5		81	哺乳類	不明	不明	
B - 004	USD - 8		149	哺乳類	シカ	角	切痕有
B - 005	USD - 8		150	哺乳類	シカ	角	平たい部分
B - 006	USD 8 - fp 1			哺乳類	不明	四肢骨	
B - 007	USD 8 - fp 1	灰		哺乳類	不明	四肢骨	けずり片
				魚類	サケ科	椎骨、歯骨(歯付)r、間鰓蓋骨 l、胸鰭条基部	
					コイ科	間鰓蓋骨 r、	
					不明	鰓蓋骨類、射出骨? 不明、	
B - 008	USD - 9		36	哺乳類	シカ	角	
B - 009	USD 9 - fp 1	灰	2	哺乳類	不明	四肢骨	
B - 010	USD 9 - fp 1	A + B		哺乳類	海棲獣	不明	
				魚類	サケ科	椎骨、胸鰭条基部 l	
					コイ科	椎骨、鰓蓋骨類	
					不明	不明	
B - 011	USD 9 - fp 1	A + B		哺乳類	不明	四肢骨	骨角器 1点
				魚類	サケ科	歯	
					小型の魚類	椎骨	
					不明	不明	
B - 012	USD 9 - fp 1	A + F ^①		哺乳類	海棲獣	不明	
					不明	四肢骨、肋骨近位端突起部	
				魚類	不明	不明	
B - 013	USD 9 - fp 1	A		哺乳類	海棲獣	不明	
				魚類	サケ科	歯、椎骨	
					不明	不明	
B - 014	USD 9 - fp 1	A		哺乳類	不明	四肢骨	
				魚類	サケ科	歯(歯骨など付)、椎骨、射出骨 l、主上顎骨 l、肩甲骨 l r、 基後頭骨?、上耳骨?	
					コイ科	椎骨、間鰓蓋骨 l、	
					不明	不明	
B - 015	焼土群 2	Ⅲ	36	哺乳類	不明	不明	
B - 016	焼土群 2	Ⅲ	37	哺乳類	不明	下顎骨?	
B - 017	焼土群 2	Ⅲ	38	哺乳類	シカ	中手骨 r 近位端	
B - 018	焼土群 2	Ⅲ	39	哺乳類	シカ	中手骨骨体部	
B - 019	焼土群 2	Ⅲ		哺乳類	不明	不明	
				魚類	コイ科?	基後頭骨	
					不明	鰓蓋骨類、不明	
B - 020	焼土群 2	Ⅲ	54	哺乳類	シカ?	四肢骨	
B - 021	焼土群 2	Ⅲ	78	哺乳類	シカ?	四肢骨骨体部	
B - 022	焼土群 2	Ⅲ	79	哺乳類	シカ?	四肢骨	
				魚類	サケ科	椎骨	
B - 023	UFP - 2	f		哺乳類	不明	四肢骨	
B - 024	UFP - 3	F + A		哺乳類	不明	四肢骨	
				魚類	サケ科	椎骨	
B - 025	UFP - 3	F 1		哺乳類?	不明	四肢骨?	
B - 026	UFP - 6	F + A		哺乳類	イヌ科?	肩甲骨?	
					小中獣	椎骨?、肩甲骨?	
					不明	不明	
				魚類	サケ科	椎骨	
					コイ科	基後頭骨	
					不明	不明	
B - 027	UFP - 6	F + A ^①		哺乳類	イヌ科	肩甲骨 r、	ネズミの歯跡有
					キツネ	踵骨 r	
				魚類	サケ科	歯、椎骨、射出骨、	
					コイ科	椎骨	
					不明	椎骨、棘など	
B - 028	UFP - 7	A 1	1	魚類	サケ科	椎骨、烏口骨 l	
					不明	不明	
B - 029	UFP - 7	A 1		魚類	サケ科	歯骨、椎骨、鰓条、鰓蓋骨類	
					不明	鰓の骨、棘など	
					不明	不明	
B - 030	UFP - 7	A 2		魚類	サケ科	歯(歯骨付き)、椎骨、尾骨、レ r	
					不明	尾骨、棘など、不明	
					不明	不明	
B - 031	UFP - 7	F 4		魚類	サケ科	椎骨	
					不明	不明	
B - 032	UFP - 8	A 1		魚類	サケ科	前上顎骨(歯付) l	
B - 033	UFP - 8	A 1		哺乳類	不明	肋骨?	
				魚類	サケ科	鰓条	
					コイ科	椎骨	
					不明	棘など	

表Ⅳ - 15 動物遺存体(手取り)同定結果(2) - 骨 -

骨番号	遺構	層位	取上 番号	分類1	分類2	部 位	備 考	
B - 034	UFP - 8	A 1		魚類	サケ科	歯、椎骨		
					不明	鯰条、棘など		
B - 035	UFP - 9	F + A	3	哺乳類	シカ	脛骨近位1		
					不明	不明		
B - 036	UFP - 9	F	4	哺乳類	不明	四肢骨		
B - 037	UFP - 9	F + A	9	哺乳類	不明	四肢骨		
B - 038	UFP - 9	F	11	哺乳類	海棲獣	不明		
					不明	不明		
B - 039	UFP - 11	上面		魚類	サケ科	歯、椎骨		
					コイ科	椎骨		
					不明	不明		
B - 040	UFP - 11	F		哺乳類	不明	不明		
					魚類	サケ科	椎骨	
B - 041	UFP - 13	上面		魚類	サケ科	椎骨		
					不明	不明		
B - 042	UFP - 13	F		哺乳類	不明	不明		
					魚類	サケ科	歯	
B - 043	UFP - 15	F		魚類	サケ科	歯、椎骨		
					不明	不明		
B - 044	UFP - 21	c	2	哺乳類	不明	不明		
B - 045	UFP - 21	周辺	4	哺乳類	シカ	角?		
B - 046	UFP - 21	周辺		哺乳類	シカ	角?		
B - 047	UFP - 22	f		不明	不明	不明		
B - 048	UFP - 24	F + B		魚類	サケ科	椎骨		
					不明	不明		
B - 049	UFP - 24	A		魚類	サケ科	歯、椎骨、後擬鎖骨1、基鱗骨、鯰条、		
					コイ科	椎骨		
					不明	不明		
B - 050	UFP - 26	f		哺乳類	不明	四肢骨		
					魚類	サケ科	椎骨	
B - 051	UFP - 33	A		甲殻類	クモガニ科	殻		
					魚類	サケ科	歯、椎骨、烏口骨、尾神経骨、後擬鎖骨?、レr、鯰条r、尾骨	
						コイ科	椎骨、主上顎骨1、基後頭骨、上側頭骨1、上耳骨1、蝶耳骨1、擬鎖骨1、方骨r、主鰓蓋骨r、前鰓蓋骨1r、間鰓蓋骨1、下鰓蓋骨、擬鎖骨r、口蓋骨r、下位下舌骨1、角骨1r、方骨r、烏口骨1、基鱗骨1r、肩甲骨1、射出骨、尾骨、頭部の骨?	
不明	不明	椎骨、不明						
B - 052	UFP - 33	A		不明	不明	不明		
B - 053	UFP - 33	上面		哺乳類	シカ	掌骨r		
					魚類	サケ科	椎骨	
						コイ科	椎骨、基後頭骨、舟上骨1	
不明	不明	不明						
B - 054	UFP - 33	A + B		魚類	サケ科	椎骨		
					コイ科	椎骨、最後の椎骨、尾椎、内翼状骨1、基後頭骨、後擬鎖骨		
					不明	椎骨、不明		
不明	不明	不明						
B - 055	UFP - 33	A		哺乳類	シカ	未萌出歯		
					鳥類?	不明	四肢骨	
					甲殻類	クモガニ科	殻、指節	
					魚類	サケ科	歯、椎骨、基後頭骨、烏口骨1、中烏口骨1r、方骨r、鰓蓋骨類、後擬鎖骨、射出骨、尾骨、不明	
コイ科	咽頭骨(咽頭歯付)r、椎骨、第1番目の椎骨、第2番目の椎骨、第3番目の椎骨、第1番目の横突起r、第4番目の横突起1、最後の椎骨、第2番目の神経棘、基後頭骨、主上顎骨1r、歯骨1r、前上顎骨r、角骨1r、方骨1、頭頂骨1、上側頭骨1、上耳骨1r、前耳骨1、外後頭骨1、上シ骨、主鰓蓋骨1r、前鰓蓋骨1r、間鰓蓋骨1、下鰓蓋骨1r、後翼状骨1、内翼状骨1、肩甲骨1r、烏口骨1r、中烏口骨r、擬鎖骨1r、上擬鎖骨1r、後擬鎖骨、三脚骨1r、基鱗骨1r、上舌骨1、角舌骨1、尾舌骨、舌顎骨1r、口蓋骨r、上鰓骨、尾骨、射出骨、前頭骨?、近担鱗骨							
不明	不明	椎骨、胸鱗骨、第1番目の胸鱗骨基部、近担鱗骨、棘など、不明						
B - 056	UFP - 33	底面		哺乳類	シカ	未萌出歯		
					シカ?	仙骨?		
					小型獣	椎骨		
					中型獣	肋骨		

表Ⅳ - 16 動物遺存体 (手取り) 同定結果(3) - 骨 -

骨番号	遺構	層位	取上 番号	分類1	分類2	部 位	備 考
				不明	椎骨椎頭 or 椎か?		
				甲殻類	クモガニ科?	球状のもの	
				魚類	サケ科	歯、歯骨(歯付)r、歯骨 or 角骨、椎骨、肩甲骨 l r、鰓蓋骨類、烏口骨 l r、中烏口骨 r、擬鎖骨 r、後擬鎖骨、角骨 r、舌顎骨、尾骨、射出骨、第1番目の尾神経骨	
					コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、第2番目の椎骨、第2番目の神経棘、第4番目の横突起 l、最後の椎骨、前上顎骨 l r、歯骨 r、基後頭骨、上後頭骨、上シ骨、前頭骨 l r、上側頭骨 l r、後側頭骨 l r、前耳骨 l、蝶耳骨 r、副蝶形骨、翼蝶形骨 r、後翼条骨 l、頭部の骨、三脚骨 l r、擬鎖骨 l r、上擬鎖骨 l、後擬鎖骨、主鰓蓋骨 l r、前鰓蓋骨 l r、間鰓蓋骨 l r、下鰓蓋骨、内翼状骨 l r、舌顎骨 l r、肩甲骨 l r、烏口骨 l r、中烏口骨 r、口蓋骨 r、角骨 r、方骨 r、尾舌骨、下尾骨、上舌骨 l r、角舌骨 l r、基鱗骨 l r、射出骨 r、尾骨、間舌骨?	
				不明	鰓蓋骨類、担鰓骨、近担鰓骨、胸鰭棘基部、棘など、不明		
B - 057	UFP - 34	A 1		哺乳類	シカ	角	切痕有
					不明	不明	切痕あるもの有
				魚類	サケ科	椎骨、鰓条、角舌骨?	
					コイ科	歯骨 l、間鰓蓋骨 l、角骨 l、口蓋骨 r、尾骨、後翼状骨? or 頭の骨?、吻骨?	
				不明	鰓蓋骨類、棘など、不明		
B - 058	UFP - 34	A 2		魚類	サケ科	歯、椎骨、鰓蓋骨類	
					コイ科	椎骨	
				不明	不明		
B - 059	UFP - 34	A 3		魚類	サケ科	椎骨	
				不明	不明		
B - 060	UFP - 34	A 4		魚類	サケ科	椎骨、烏口骨 l、鰓条 l	
				不明	尾骨、不明		
B - 061	UFP - 34	F + B		哺乳類	シカ	中足骨?	
					中型獣	四肢骨骨体部	
				不明	不明		けずり片有
					海棲獣	不明	
				魚類	サケ科	歯、歯骨(歯付) l r、歯骨 or 主上顎骨、前上顎骨 l、椎骨、間鰓蓋骨 r、鰓蓋骨類、擬鎖骨類、角骨 l、肩甲骨 l r、烏口骨 l、中烏口骨 l r、基鱗骨、胸鰭条および基部 r(第1番目有)、鰓条、第1番目の尾神経骨、射出骨、レ、尾骨、尾骨類	
					コイ科	椎骨、第4番目の横突起 r、上側頭骨 r、主上顎骨 l、肩甲骨?、尾骨	
				不明	歯骨?、鰓蓋骨類、胸鰭条基部、棘など、不明		
B - 062	UFP - 34	A + B		哺乳類	不明	白い球状のもの	
				魚類	サケ科	歯、椎骨、基後頭骨、基鱗骨、烏口骨 l、尾骨、レ	
				魚類	不明	第1番目の胸鰭条基部、棘など、不明	
B - 063	UFP - 34	A 1		甲殻類	クモガニ科	殻	
				魚類	サケ科	椎骨	
					コイ科	椎骨、尾舌骨	
				不明	棘など		
B - 064	UFP - 34	A + B		哺乳類	不明	不明	
					海棲獣	不明	
				魚類	サケ科	歯、椎骨、前上顎骨 r、肩甲骨 r、射出骨 l、尾骨、不明	
				不明	不明	鰓蓋骨類、棘など、不明	
B - 065	UKS - 3	Ⅲ		魚類	サケ科	歯、椎骨	
				不明	不明		
B - 066	UKS - 3	Ⅲ		魚類?	不明	不明	
B - 067	UKS - 4	Ⅲ		哺乳類	不明	四肢骨	
				魚類	サケ科	椎骨、角骨 l	
				不明	不明	椎骨、不明	
B - 068	UKS - 4	Ⅲ		哺乳類	シカ	角?	骨角器 1点
					不明	不明	
				魚類	サケ科	椎骨	
				不明	不明	棘など	
B - 069	UKS - 4	Ⅲ		哺乳類	シカ	角?	
				魚類	不明	不明	
B - 070	UKS - 4	Ⅲ		哺乳類	シカ	角	
					不明	四肢骨	
				魚類	サケ科	椎骨	
				不明	不明		
B - 071	(L - 133区)	I		哺乳類	ウサギ	下顎骨(歯有) r	
B - 074	(T - 135区)	Ⅲ		哺乳類	シカ	角	
B - 075	(X - 124区)	Ⅲ		哺乳類?	不明	不明	装飾品?骨角器 1点

表Ⅳ - 17 動物遺存体(手取り)同定結果(4) 貝

貝番号	遺構	層位	取上番号	分類	細分類	部位	備考
sh - 001 ~ 019	USD - 5		101 ~ 119	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 020	USD 5 - fp 4	焼土		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 021	USD 5 - ks 1		1	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 022	USD - 8		65	巻貝綱	不明	軸部	
sh - 023 ~ 053	USD - 8		101 ~ 131	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 054	USD - 8			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 055	USD 8 - fp 1	上面		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 056	USD 8 - ks 1			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 057	USD 8 - ks 2			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 058	USD 8 - ph31	覆土		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 059 ~ 074	USD - 9		23 ~ 35・39・40 ・44	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 075	USD - 9			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻(殻皮付)	
sh - 076	USD 9 - fp 1	A + B		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 077	USD 9 - fp 1	A		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 078 ~ 095	焼土群 2 (北東側)	Ⅲ	1・2・4・7・9・12 ・18・20・24・25 ・27・35・41・43 ・44・48・51・52	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 096	焼土群 2 (北東側)	Ⅲ		巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 097 ~ 137	焼土群 2 (南西側)	Ⅲ	1 ~ 5・7・9 ~ 13 ・15 ~ 18・20・ 21・23 ~ 25・31 ・34 ~ 36・40・ 41・43・50・56・ 58・61・63・65 ~ 67・71・80・ 93 ~ 96	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 138	UFP - 6	F + A①		巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 139	UFP - 7	上面		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 140	UFP - 7	f 1		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 141	UFP - 7	A 1		巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 142	UFP - 7	A 1		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 143	UFP - 7	A 2		二枚貝綱	カワシンジュガイ タマキガイ科	殻	
sh - 144 ~ 146	UFP - 9	f、F + A	1・5・6	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 147	UFP - 11	F		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
sh - 148	UFP - 21	c		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 149	UFP - 33	A		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
				巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 150	UFP - 33	A		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
				巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 151	UFP - 33	A		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
				不明	不明	不明	
sh - 152	UFP - 33	A		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
				不明	不明	不明	
				巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 153	UFP - 33	底面		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
				巻貝綱	マイマイ	殻	
					エゾタマキビ	殻上部	オ - 22と接合
sh - 154	UFP - 34	F + B		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
				巻貝綱	マイマイ	殻	
				不明	不明	不明	
sh - 155	UFP - 34	A 1		巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 156	UFP - 34	A 1		巻貝綱	マイマイ	殻	
sh - 157	UFP - 34	A + B		巻貝綱	エゾバイ科	殻	やや大型
sh - 158	UFP - 34	A 2		巻貝綱	マイマイ	殻	

表IV - 18 動物遺存体(手取り)同定結果(5) 貝

貝番号	遺構	層位	取上番号	分類	細分類	部位	備考
sh - 159	UFP - 34	A 3		不明	不明	不明	
sh - 160	UFP - 34	上面		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
				不明	不明	不明	
sh - 161 ~ 182	UKS - 1	Ⅲ	1 ~ 22	二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 183	UKS - 2	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 184	UKS - 3	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 185	UKS - 3	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	残存状況良好
sh - 186	UKS - 4	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	残存状況良好、多量 (70g 以上)
sh - 187	UKS - 4	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 188	UKS - 4	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
sh - 189	UKS - 4	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 190	(L - 133区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 191	(O - 135区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 192	(Q - 131区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 193	(R - 129区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 194	(R - 130区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 195	(R - 131区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 196	(S - 128区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 197	(S - 129区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 198	(T - 129区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 199	(T - 131区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 200	(T - 132区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 201	(T - 132区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 202	(T - 133区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 203	(T - 135区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 204	(T - 135区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 205	(T - 136区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 206	(V - 128区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 207	(V - 129区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 208	(V - 130区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 209	(V - 131区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 210	(V - 132区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 211	(W - 132区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 212	(W - 136区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 213	(Y - 131区)	Ⅲ		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
sh - 215	(Z2 - 129区)	I		二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	

表Ⅳ - 19 手取り動物遺存体同定一覧(1)

分類	細分類	左右	部位 1	部位 2	試料番号	備考
二枚貝綱 Bivalia	二枚貝類		殻		Sh - 152	
	タマキガイ科 Glycymeridae		殻		Sh - 143	
	カワシンジュガイ科 Margaritiferidae		殻、殻皮		Sh - 75 - 77 ,142 ,143 ,147 , 149 - 154 ,160 ,188	
巻貝綱 Gastropoda	エゾタマキビ Littorina squalida		殻		Sh - 153	オ2 - 221と接合
	エソバイ科 Buccinidae		殻		Sh - 157	
	マイマイ		殻		Sh - 96 ,138 ,141 ,149 ,150 ,152 - 156 ,158	
	巻貝類		殻		Sh - 22	
貝類	不明		殻		Sh - 151 ,154 ,159 ,160 ,200	
甲殻類 Area	クモガニ科 MIERS		指節		B - 51 ,55 ,56 ? ,63	
硬骨魚綱 Osteichthyes	(小型)魚類		椎骨		B - 11	
	コイ科 Cyprinidae	l,r	歯骨		B - 55 ,56 ,57	
		l,r	前上顎骨		B - 55 ,56	
		l,r	主上顎骨		B - 51 ,55 ,61	
		r	咽頭骨		B - 55	歯付き有
			咽頭歯		B - 55	
		l	頭頂骨		B - 55	
		l,r	上側頭骨		B - 51 ,55 ,56 ,61 ,	
		l,r	後側頭骨		B - 56 ,	
		l	基後頭骨		B - 19 ,26 ,51 ,53 ,54 ,55 ,56 ,	
			上後頭骨		B - 56 ,	
		l,r	上耳骨		B - 51 ,55 ,	
		l	前耳骨		B - 55 ,56 ,	
		l,r	蝶耳骨		B - 51 ,56 ,	
			副蝶形骨		B - 56	
		r	翼蝶形骨		B - 56	
		l	外後頭骨		B - 55 ,56	
			上シ骨		B - 55 ,56	
		r,l	前頭骨		B - 55 ? ,56	
			頭部の骨		B - 51 ? ,56	
		r,l	前鰓蓋骨		B - 51 ,55 ,56	
		r,l	主鰓蓋骨		B - 51 ,55 ,56	
		r,l	間鰓蓋骨		B - 7 ,14 ,51 ,55 - 57	
		r,l	下鰓蓋骨		B - 51 ,55 ,56	
			鰓蓋骨類		B - 10	
			上鰓骨		B - 55	
		r,l	内翼状骨		B - 54 ,56	
		l	後翼状骨		B - 55 ,56	
			後翼状骨? or 頭の骨?		B - 57	
		l	舟上骨		B - 53	
		r	口蓋骨		B - 51 ,55 ,56 ,57	
			吻骨?		B - 57	
		r,l	舌顎骨		B - 55 ,56	
		r,l	上舌骨		B - 55 ,56	
		l	下位下舌骨		B - 51	
		l,r	角舌骨		B - 55 ,56	
			間舌骨?		B - 56	
			尾舌骨		B - 55 ,56 ,63	
		l,r	角骨		B - 51 ,55 ,56 ,57	
		l,r	方骨		B - 51 ,55 ,56	
			椎骨(腰椎、尾椎)		B - 10 ,14 ,27 ,33 ,39 ,49 ,51 ,53 ,54 ,55 ,56 ,58 , 61 ,63	第1番目の椎骨 : B - 55 ,56 第2番目の椎骨 : B - 55 ,56 第3番目の椎骨 : B - 55 最後の椎骨 : B - 54 ,55 ,56
		r	第1番目の横突起		B - 55	
		l,r	第4番目の横突起		B - 55 ,56 ,61	
			第2番目の神経棘		B - 55 ,56	
		l,r	基鱗骨		B - 51 ,55 ,56	
			近担鱗骨		B - 55	
		l,r	上擬鎖骨		B - 55 ,56	
			後擬鎖骨		B - 53 ,54 ,55 ,56	
	l,r	擬鎖骨		B - 51 ,55 ,56		
	l,r	三脚骨		B - 55 ,56		
	l,r	肩甲骨		B - 51 ,55 ,56 ,61 ?		
	l,r	烏口骨		B - 51 ,55 ,56		
	r	中烏口骨		B - 55 ,56		
	r	射出骨		B - 51 ,55 ,56		
		上(下)尾骨		B - 0 ,51 ,55 ,56 ,57 ,61		
		主上顎骨 or 歯骨		B - 61		
		歯骨 or 角骨		B - 56		
	r,l	歯骨		B - 0 ,7 ,29 ,30 ,56 ,61	歯付き有	
		歯(顎骨付)		B - 14 ,30		
		歯		B - 11 ,13 ,27 ,34 ,39 ,42 ,43 ,49 ,51 ,55 ,56 ,58 , 61 ,62 ,64 ,65		

(2) フローテーション法による自然遺物の回収と調査

目的と採取試料

アイヌ文化期の動物・植物利用の様相の一端を探るため、肉眼観察でも骨片や炭化物が確認できる平地住居跡5・8・9の炉や焼土群2・3・4を構成する焼土すべての土壌を層位別に採取した。また焼土群以外の焼土の大部分の土壌も採取した。試料は197サンプルにおよび、土壌は約300ℓ・約230kgに達した。

同定結果の掲載方法

以下の構成によった。

- ①フローテーション回収遺物一覧表……見開き2ページ単位×4(表Ⅳ-21~24)
左ページ:試料の属性・基本重量データ・回収遺物重量など
右ページ:主な動物遺存体・主な植物遺存体
- ②フローテーション回収動物遺存体試料別(遺構・層位別)詳細……6ページ(表Ⅳ-25~30)
①の右ページのうち、枠内に掲載困難な試料について記載
- ③フローテーション回収動物遺存体 分類別同定一覧表……3ページ(表Ⅳ-31~33)

試料番号(「骨番号」)は、同一遺構・同一層位のものをしてできる限りまとめた。①について、動物遺存体は枠内に記載できるものにとどめ、それ以外は②に記載した。

選別・同定結果

選別・同定の結果を表Ⅳ-21~24に示した。人工遺物について、①石器のフレイクがわずかに検出されたが、これらは木の根などにより混入したものが含まれているものと思われる。そして②鉄片が多くのサンプルから検出された。特にUSD5-fp4(オ2-041~047)の試料からはやや多量に検出され、細かい釘状の鉄製品などがみられた。USD5-fp4(オ2-044)・USD8-fp1(オ2-052)・UKS-4(オ2-237)から銅片が検出され、それぞれの遺構で出土した銅片との関連があるものとみられる。③微細な礫片が回収された。特に透明部分が含まれる剥片状の小さな礫片が多く検出されている。火打石平地住居跡8・9、焼土群3などから出土した礫(手取り)の一部に白色半透明の頁岩が含まれており欠損状態などから火打石と考えられ、検出された礫片はそのような礫が他の道具によって打ち欠かれたチップの可能性が想定される。また上記の鉄片の一部もこのことに関連がある可能性がある。そのほか、④漆の塗膜片がUSD-5・8・9の各平地住居跡の炉の試料、焼土群2のUFP-34の試料などから少量検出されている。

自然遺物について、動物遺存体は平地住居跡の炉および焼土群の各焼土の上位~中位、黒色混じりの灰層や密で純粋な灰層から多量に検出されている。種類は哺乳類・鳥類・魚類・甲殻類・貝類など多様であり、検出量も非常に多い。哺乳類はシカが最も多く、角や四肢骨の一部が検出されている。鳥類は少ないが検出された。科まで細分できたものはなかった。魚類は圧倒的にサケ科の骨片が多い。その部位は全体にわたっているが、特に椎骨・顎骨・歯が同定しやすいため多数確認できた。ただし平成14年度の試料と比較して、椎骨の残存状況が良くないものが多く、頭部の各部位がより多く検出された。またコイ科の魚類も多い。ウグイとみられるものが多く含まれている。さらに甲殻類ではクモガニ科の指節やチシマフジツボの一部も含まれていた。貝類ではカワシンジュガイが多く見られた。殻皮のみの検出例が多い。

またマイマイとみられる微小貝が多量に検出された。これらは平地住居跡5・8・9の炉や、平地住居跡から排出されたと考えられる焼土群2・3・4の各焼土から検出されており、穀類などを求めて入り込んだ可能性がある。

植物種子は、栽培植物ではイネ・アワ・ヒエ属・アサ・シソ、野生植物ではカヤツリグサ科・アカザ属・タデ科・ヒシ属など、木本類ではマタタビ属・ニワトコ属・キハダ属・ブドウ科の種子など多様な植物がみられる。

イネは平地住居跡8の炉 USD 8 - fp 1、焼土群2の UFP - 3・UFP - 34・UKS - 4などで検出された。ほぼすべてのイネが脱穀された玄米の状態で検出されている。ヒエ属は特に平地住居跡8の炉 USD 8 - fp 1 から多量出土している。残存状況が良くなく、強度の熱を受けているものと見られている。このほかの特徴はⅦ章 - 3を参照されたい。

遺構・層位別にみると、種子の種類・量が最も多いのは、平地住居跡の炉や焼土群のうち多量の灰が堆積する焼土（灰集中）である。また炉の中でも上面および灰層中が多く、焼土層などにはあまり多く含まれていない。

フローテーションによって検出された人工遺物および主な自然遺物について、手取りで上げた動物遺存体を含めて図Ⅳ - 27に示した。

（阿部）

表Ⅳ - 21 フローテーション結果(1)

試料番号	遺構	層位	乾燥重量 (g)	体積 (L)	残渣重量 (g)	浮遊物 (g)	鉄 (g)	フレイク (g)	火打石 片(g)	礫 (g)	骨・貝 (g)	炭化物 (g)	種子	漆膜	備考
オ2-041	USD5-fp3		2,700	3.9	374.3	37.7	0.0				13.5	9.3	+		
オ2-042	USD5-fp4	上面	2,920	4.8	190.0	125.0	0.3				6.2	51.2	+	+	
オ2-043	USD5-fp4	黒(上)	2,340	3.9	329.7	89.0	0.2		0.1	0.5	19.6	26.6	+		
オ2-044	USD5-fp4	灰+焼土	4,680	7.8	294.8	226.1	0.5		0.6	2.9	45.5	58.6	+	+	銅0.1g
オ2-045	USD5-fp4	焼土	2,000	3.1	249.5	21.7	0.0	0.1	0.1		0.7	5.8	+		
オ2-046	USD5-fp4	灰	600	1.1	71.5	19.1			0.0		23.9	7.4	+		
オ2-047	USD5-fp4	黒(下)	3,500	5.2	333.2	58.3	0.0		0.1		2.7	13.9	+		
オ2-048	USD8-fp1	(周辺東)	5,100	7.0	794.9	39.3				0.2	0.0	1.9	+		
オ2-049	USD8-fp1	(周辺南)	2,440	3.0	389.0	6.0				0.5	0.0	0.2	+		
オ2-050	USD8-fp1	(周辺西)	6,120	8.1	890.8	39.6					0.0	3.4	+		
オ2-051	USD8-fp1	(周辺北)	7,080	8.3	772.9	51.5						0.7	+		
オ2-052	USD8-fp1	上面	38,810	53.9	2,303.6	492.0	0.3		5.9	2.1	72.5	139.1	+	+	銅
オ2-053	USD8-fp1	灰+黒	300	0.5	16.7	2.5					0.2	0.7	+		
オ2-054	USD8-fp1	灰+焼土	1,090	1.8	79.0	12.4	0.1			0.0	3.3	3.3	+	+	
オ2-055	USD8-fp1	灰	51,520	59.8	2,855.9	178.3	0.3	0.0	1.0	1.2	72.2	50.7	+	+	
オ2-056	USD8-fp1	焼土	15,100	13.9	4,366.5	14.1		0.0	1.6	3.8	0.2	0.6	+		
オ2-057	USD8-fp1	黒(下)	9,440	11.5	1,328.6	41.4					5.2	5.9	+		
オ2-058	USD8-fp2	(周辺)	2,620	3.6	444.1	5.1					0.0		+	+	
オ2-059	USD8-fp2	上面	270	0.4	52.7	1.7					0.0	0.7	+		
オ2-060	USD8-fp2	焼土	9,840	11.1	1,884.8	41.7			0.2	0.8	0.6	5.0	+		
オ2-061	USD8-fp2	黒(下)	3,500	4.0	704.9	14.3		0.0			0.0	2.6	+		
オ2-062	USD8-fp3	(周辺)	2,100	3.9	233.7	28.6				0.1	0.2	3.0	+		
オ2-063	USD8-fp3	上面	5,100	7.2	404.8	95.8				0.1	1.2	29.5	+		
オ2-064	USD8-fp3	焼土	1,200	1.0	167.0	17.7		0.0		0.9	0.0	0.9	+		
オ2-065	USD8-fp3		700	1.0	79.6	11.9					3.2	4.4	+		
オ2-066	USD8-fp4	上面	300	0.5	12.0	1.4					0.5	0.4	+		
オ2-067	USD8-fp4	灰+黒	310	0.5	23.9	4.4					0.9	1.2	+		
オ2-068	USD8-fp4	灰	940	0.9	113.8	7.6					0.3	1.9	+		
オ2-069	USD8-fp4		1,030	1.4	112.9	9.2					1.1	1.5	+		
オ2-070	USD8-ph35	覆土(灰)	430	0.7	78.6	1.8				1.0	0.8	0.6	+		
オ2-071	USD9-fp1	(トレンチ)	9,660	12.3	752.3	51.9	1.1	0.0			27.9	12.0	+		
オ2-072	USD9-fp1	上面	5,260	7.3	439.9	24.5	0.1		0.0		2.9	4.2	+		
オ2-073	USD9-fp1	(周辺)	17,520	21.2	1,492.4	110.5	0.3		0.7	0.0	7.9	19.6	+	+	
オ2-074	USD9-fp1	F+B	4,850	6.7	500.6	20.2			0.1		5.2	3.0	+		
オ2-075	USD9-fp1	A+B	1,700	2.7	90.3	10.5					5.4	2.0	+		
オ2-076	USD9-fp1	A+F	230	0.4	40.6	0.4					0.0	0.2			
オ2-077	USD9-fp1	A	320	0.5	26.8	1.1					0.5	0.2	+		
オ2-078	USD9-fp1	A	2,600	3.1	249.5	8.4		0.0		0.9	17.1	0.2		+	
オ2-079	USD9-fp1	A1	2,290	3.8	25.0	2.9			0.1		7.3	0.2	+		
オ2-080	USD9-fp1	A2	8,230	9.8	816.8	9.4	0.1	0.0	0.3	0.2	53.8				
オ2-081	USD9-fp1	F+B	1,300	1.8	168.3	4.5					0.9	0.0	+		
オ2-082	USD9-fp1	F	6,700	7.8	1,442.9	4.5				0.2	0.9	0.1			
オ2-083	USD9-fp1	上面	2,500	3.0	269.9	9.2	0.0				1.3	1.3	+		
オ2-084	USD9-fp2	F	70	0.1	9.2	0.1					0.0	0.1	+		
オ2-085	UFP-1	炭	900	1.1	137.3	6.7				0.1		0.7	+		
オ2-086	UFP-1	焼土	7,300	7.8	846.5	116.1			0.1		0.2	3.3	+		
オ2-087	UFP-1	A+B	1,020	1.2	121.2	4.9						0.4	+		
オ2-088	UFP-2	上面	11,820	15.4	976.0	158.0					0.5	11.5	+		
オ2-089	UFP-2	f	4,200	5.0	352.8	40.8					0.2	7.1	+		
オ2-090	UFP-2	f	900	1.3	83.8	6.3					0.0	1.0	+		
オ2-091	UFP-3	(トレンチ)	1,900	2.6	292.2	9.1					0.0	1.2	+		
オ2-092	UFP-3	上面	15,040	20.4	1,678.8	178.2			0.0	3.1	0.6	7.8	+	+	
オ2-093	UFP-3	F+A	1,120	1.0	52.8	17.4					0.0	6.4	+		

Ⅳ アイヌ文化期の遺構とその遺物

試料番号	動物遺存体	詳細別掲	主な植物遺存体	備考
オ2-041	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、タラノキ、サクラ、ケシ科、カヤツリグサ科、ホタルイ属	
オ2-042	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		アワ、ヒエ属、アサ、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科、スモモ、クルミ属	
オ2-043	海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、アサ、マタタビ、ニフトコ、カヤツリグサ科、スモモ、コナラ属	
オ2-044	シカ(角) 哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類		アワ、ヒエ属、タラノキ、キイチゴ属、マタタビ属、カヤツリグサ科、クルミ属	
オ2-045	小型の脊椎動物、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		イネ、ヒエ属、タラノキ属、ホオノキ、スモモ	
オ2-046	シカ(角) 哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類		ヒエ属、タラノキ属、コナラ、サクラ属、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2-047	哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、タラノキ属、カヤツリグサ科、クルミ属	
オ2-048			アカザ属、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-049			アカザ属、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-050			ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-051			アカザ属、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-052	ヤチネズミ、小型の哺乳類、海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、メカジキ、小型魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、アワ、ヒエ属、タデ科、アカザ属、タラノキ属、ニフトコ、ヒシ属、カヤツリグサ科	
オ2-053	サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨)、魚類、マイマイ		ヒエ属、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2-054	シカ(角) 哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		アワ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2-055	シカ、哺乳類、クモガニ、サケ科、コイ科、ウグイ、小型魚類、魚類、カワシンジュガイ、二枚貝、マイマイ		イネ、アワ、ヒエ属、アカザ、タデ科、マタタビ属、タラノキ属、ニフトコ、チョウセンゴミシ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2-056	シカ(角)、クモガニ(殻)、サケ科(椎骨)、コイ科、魚類、マイマイ		アワ、ヒエ属、タラノキ属	
オ2-057	シカ、哺乳類、鳥類、クモガニ、サケ科、コイ科、小型魚類、魚類		イネ科、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2-058	魚類		アカザ、タラノキ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-059	サケ科(椎骨) 魚類		タラノキ属、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-060	哺乳類、サケ科(歯・椎骨) 魚類		アワ、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-061	魚類		タラノキ属、ニフトコ	
オ2-062	哺乳類、サケ科(椎骨) 魚類、カワシンジュガイ		アカザ、マタタビ、タラノキ、キハダ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2-063	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨) 魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、エノコログサ属、アカザ、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2-064	サケ科(椎骨) 魚類		タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2-065	シカ(中手骨?) 哺乳類(四肢骨)、サケ科(椎骨)、コイ科(角骨)		タラノキ属、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2-066	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨) 魚類		ヒエ属、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2-067	サケ科(歯・椎骨・角骨?) 魚類		ヒエ属、タラノキ、キハダ、ニフトコ、カヤツリグサ科	骨角器 1点
オ2-068	サケ科(歯・椎骨) 魚類、マイマイ		アワ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ、キハダ	
オ2-069	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		イネ科、タラノキ属、キハダ、カヤツリグサ科	
オ2-070	哺乳類、サケ科、魚類、マイマイ		ヒエ属	
オ2-071	シカ(角) 齧歯目、海棲獣、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		イネ科、マタタビ、タラノキ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2-072	哺乳類、海棲獣、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-073	タヌキ、海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、サクラ属	
オ2-074	海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		アワ、ヒエ属、タラノキ属、ニフトコ	
オ2-075	海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、マイマイ		イネ科、タラノキ属	
オ2-076	サケ科(歯・椎骨) 魚類			
オ2-077	サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨) 魚類		イネ科、タラノキ属	
オ2-078	海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、マイマイ			
オ2-079	海棲獣、哺乳類、サケ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、タラノキ属	
オ2-080	哺乳類、クモガニ、チシマフジツボ、サケ科、コイ科、カワシンジュガイ、マイマイ			骨角器?
オ2-081	サケ科(歯・椎骨) 魚類		アワ、ヒエ属	骨角器
オ2-082	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨) 魚類、マイマイ			
オ2-083	海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、タラノキ属	
オ2-084	サケ科(椎骨)、マイマイ		アカザ属、ニフトコ	
オ2-085			タラノキ属、ニフトコ	
オ2-086	哺乳類、サケ科(椎骨) 魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、タデ科、タラノキ属、ニフトコ、冬芽	
オ2-087			マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、ケシ科	
オ2-088	哺乳類、サケ科(椎骨) 魚類、カワシンジュガイ		イネ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、サクラ、冬芽、カヤツリグサ科	
オ2-089	シカ(角) 哺乳類、サケ科(椎骨) 魚類		ヒエ属、タラノキ属、ニフトコ、カヤツリグサ科、マタタビ、サクラ	
オ2-090	サケ科(椎骨) 魚類、カワシンジュガイ		タラノキ属、ニフトコ、カヤツリグサ科	
オ2-091	サケ科(椎骨) 魚類		イネ科、ニフトコ、タラノキ属	
オ2-092	シカ(歯) 哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨) 魚類、マイマイ		ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ブドウ、スモモ、カヤツリグサ科	
オ2-093	サケ科(歯・椎骨) 魚類		ヒエ属、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、ブドウ、冬芽	

表Ⅳ - 22 フローテーション結果(2)

試料番号	遺構	層位	乾燥重量 (g)	体積 (L)	残渣重量 (g)	浮遊物 (g)	鉄 (g)	フレイク (g)	火打石 片(g)	礫 (g)	骨・貝 (g)	炭化物 (g)	種子	漆膜	備考
オ2-094	UFP-3	F1	2,590	2.5	336.1	28.6					0.0	5.6	+		
オ2-095	UFP-3	F2	2,590	2.5	271.8	34.4				0.1	0.0	6.9	+		
オ2-096	UFP-4	(トレンチ)	1,120	2.5	15.0	9.0					1.1	2.6	+		
オ2-097	UFP-4	灰	8,290	10.4	164.9	88.6			0.1		6.9	6.6	+		銅0.2g
オ2-098	UFP-5	(トレンチ)	1,660	2.0	53.7	10.7			0.0		0.6	3.4	+		
オ2-099	UFP-5	灰	6,340	8.0	198.8	39.8			0.0		1.7	15.4	+		
オ2-100	UFP-6	(トレンチ)	3,540	3.8	329.4	24.9					0.3	4.6	+		
オ2-101	UFP-6	上面	15,800	18.0	1,816.3	148.2	0.0		0.1	0.0	4.4	27.2	+		
オ2-102	UFP-6	F+A	5,210	5.5	523.2	45.6	0.0		0.0		4.6	7.1	+		
オ2-103	UFP-6	F+A①	3,170	4.0	562.3	8.9			0.1	0.3	1.3	1.1	+		
オ2-104	UFP-6	F1	450	0.7	46.0	2.9					0.1	0.4	+		
オ2-105	UFP-6	F2	1,540	2.0	130.4	11.3		0.1			0.4	1.2	+		
オ2-106	UFP-6	f2	10,280	11.5	1,256.1	69.5			0.0		0.6	3.5	+		
オ2-107	UFP-6	F5	19,680	23.0	2,380.1	155.1			0.5	0.9	0.8	3.2	+		
オ2-108	UFP-6	上面	18,550	23.1	1,696.5	187.4	0.1	0.0	0.4	0.2	8.2	41.0	+		
オ2-109	UFP-7	上面	18,260	20.2	2,285.6	159.5				1.9	10.1	30.4	+		
オ2-110	UFP-7	f	2,060	2.0	284.7	9.9						1.2	+		トレンチ
オ2-111	UFP-7	F+A	1,800	1.5	235.2	3.8					0.3	0.3	+		トレンチ
オ2-112	UFP-7	F+A	470	0.7	81.4	1.4					0.0	0.2	+		
オ2-113	UFP-7	c1	5,440	7.0	475.1	25.1					0.0	6.1	+		
オ2-114	UFP-7	f1	320	0.5	38.9	1.2					0.0	0.1	+		
オ2-115	UFP-7	c3	16,030	17.9	2,488.6	84.7			0.0	2.1	0.1	0.7	+		
オ2-116	UFP-7	c2	1,920	2.0	214.4	13.0						1.5	+		
オ2-117	UFP-7	c4	6,760	8.4	1,007.7	41.8			0.0	0.1		0.2	+		
オ2-118	UFP-7	c4	26,070	33.0	3,818.5	263.4				0.8	0.0	41.1	+		
オ2-119	UFP-7	A1	990	1.5	96.5	9.5				0.0	3.0	1.0	+		
オ2-120	UFP-7	A1	620	0.9	97.1	3.1					0.2	0.1	+		
オ2-121	UFP-7	A1炭	60	0.1	6.2	4.7					0.3	2.5	+		
オ2-122	UFP-7	A2	1,740	3.0	159.9	8.9	0.0				2.6	1.8	+		
オ2-123	UFP-7	A3	1,200	1.2	165.7	7.9						0.3	+		
オ2-124	UFP-7	A	770	0.7	146.0	2.1					0.0	0.1	+		
オ2-125	UFP-7	A	180	0.2	8.9	0.2					2.9	0.7	+		トレンチ
オ2-126	UFP-7	A	290	0.5	48.2	0.8					0.1	0.1	+		
オ2-127	UFP-7	上面	19,980	25.5	2,116.0	193.1		0.0		0.7	7.8	34.3	+	+	
オ2-128	UFP-8	上面	7,500	8.0	1,044.3	35.9					3.1	7.1	+		
オ2-129	UFP-8	A	210	0.3	24.9	2.7					0.1	1.1	+		トレンチ
オ2-130	UFP-8	F	1,150	0.8	192.3	8.0					0.2	4.1	+		トレンチ
オ2-131	UFP-8	F1	4,150	4.9	610.9	73.9				0.2	0.0	31.5	+		
オ2-132	UFP-8	f1	1,920	2.8	224.5	10.1				0.0	0.0	0.9	+		
オ2-133	UFP-8	f2	9,620	11.4	1,139.7	71.9				0.5	0.0	2.4	+		
オ2-134	UFP-8	f3	3,780	3.7	450.2	35.0					0.0	0.2	+		
オ2-135	UFP-8	F2	1,120	1.0	190.1	3.9					0.0		+		
オ2-136	UFP-8	F1+A	290	0.3	32.7	2.3					0.5	1.2	+		トレンチ
オ2-137	UFP-8	F1+A	1,830	2.7	184.3	10.4			0.2		1.1	1.9	+		
オ2-138	UFP-8	F1+A	4,320	5.5	515.3	38.0			0.0		0.4	5.7	+		
オ2-139	UFP-8	A	470	0.3	29.6	2.7					2.6	0.8	+		トレンチ
オ2-140	UFP-8	A	3,200	3.7	917.6	25.9			0.0		7.5	9.0	+		
オ2-141	UFP-8	c1	3,240	3.1	539.9	21.9					0.5	4.8	+		トレンチ
オ2-142	UFP-8	c1	250	0.6	32.4	6.9						2.9	+		
オ2-143	UFP-8	上面	19,030	23.5	2,362.4	128.5	0.2	0.0	0.2	0.3	3.2	20.2	+		

Ⅳ アイヌ文化期の遺構とその遺物

試料番号	動物遺存体	詳細別掲	主な植物遺存体	備考
オ2 - 094	サケ科(椎骨)魚類		ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、冬芽	
オ2 - 095	哺乳類、サケ科(椎骨)魚類(椎骨ほか)		ササ属、ヒエ属、タラノキ属、ニフトコ、サクラ、カヤツリグサ科	
オ2 - 096	シカ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		イネ科、マタタビ、タラノキ属	
オ2 - 097	シカ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		アワ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、チョウセンゴミシ	
オ2 - 098	サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、ブドウ	
オ2 - 099	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、二枚貝		アワ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ、ニフトコ、クルミ属、冬芽	
オ2 - 100	哺乳類、鳥類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		アカザ、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 101	クマネズミ、哺乳類、鳥類、サケ科、コイ科、魚類 カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、ササ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、 ブドウ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 102	シカ、中型獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、マタタビ、タラノキ属	
オ2 - 103	サケ科(椎骨)、コイ科(椎骨)魚類、マイマイ		タラノキ属	
オ2 - 104	サケ科(椎骨)魚類(椎骨ほか)		ヒエ属、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 105	哺乳類(肋骨)サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)魚類		タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 106	哺乳類、サケ科(椎骨)コイ科(椎骨・方骨?)魚類、マイマイ		イネ科、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、サクラ、	
オ2 - 107	ネズミ(切歯)サケ科(椎骨)コイ科(椎骨・前上顎骨?) 魚類、マイマイ		ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、冬芽	
オ2 - 108	ネズミ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、 ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 109	哺乳類、鳥類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、エノコログサ属、アカザ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、 カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 110			アカザ、タラノキ属、ニフトコ、不明	トレンチ
オ2 - 111	サケ科(歯・椎骨)魚類、カワシンジュガイ		イネ科、タラノキ属、ニフトコ	トレンチ
オ2 - 112	サケ科(椎骨)魚類		タラノキ属	
オ2 - 113	サケ科(歯・椎骨)		マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 114	サケ科(椎骨)魚類		タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 115	サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ	
オ2 - 116			アカザ、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 117			タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 118			ヒエ属、アカザ、ケシ科、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、ホオノキ、冬芽	
オ2 - 119	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 120	サケ科(椎骨)コイ科(1番目の椎骨)魚類、マイマイ		タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 121	サケ科(椎骨・後擬鎖骨?)コイ科、魚類、マイマイ		タラノキ属	
オ2 - 122	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		マタタビ、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 123			タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 124			タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 125	サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、マイマイ		イネ科、アカザ属、タラノキ属	トレンチ
オ2 - 126	サケ科(椎骨・血管棘 or 肋骨基部)魚類、マイマイ		タラノキ属	
オ2 - 127	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、 カヤツリグサ科	
オ2 - 128	哺乳類(肋骨)サケ科(椎骨)コイ科(椎骨・方骨)魚類、マイマイ		ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニフトコ、冬芽	
オ2 - 129	サケ科(椎骨・血管棘 or 肋骨基部)コイ科、魚類、マイマイ		タラノキ属、ニフトコ	トレンチ
オ2 - 130	魚類(椎骨ほか)			トレンチ
オ2 - 131	哺乳類、魚類		タラノキ属	
オ2 - 132	サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 133	サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 134	サケ科(椎骨)魚類		タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 135			ヒエ属、ケシ科、タラノキ属、冬芽	
オ2 - 136	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、マイマイ		イネ科、タラノキ属	トレンチ
オ2 - 137	サケ科(椎骨)コイ科(椎骨・角舌骨1)魚類、マイマイ		マタタビ、タラノキ属、ニフトコ	
オ2 - 138	サケ科(椎骨)魚類、マイマイ		タラノキ属	
オ2 - 139	シカ、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、タラノキ属	トレンチ
オ2 - 140	哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		アワ、ヒエ属、タラノキ属	骨角器
オ2 - 141	サケ科(椎骨)魚類、マイマイ		タラノキ属	トレンチ
オ2 - 142			ヒエ属、タラノキ属	
オ2 - 143	哺乳類(肋骨ほか)サケ科(歯・椎骨) コイ科(椎骨・方骨)魚類、マイマイ		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニフトコ、ブドウ、 カヤツリグサ科	

表Ⅳ - 23 フローテーション結果(3)

試料番号	遺構	層位	乾燥重量 (g)	体積 (L)	残渣重量 (g)	浮遊物 (g)	鉄 (g)	フレイク (g)	火打石 片(g)	礫 (g)	骨・貝 (g)	炭化物 (g)	種子	漆膜	備考
オ2-144	UFP-9	(トレンチ)	3,600	5.5	250.6	26.0					1.6	4.1	+		
オ2-145	UFP-9	上面	14,680	16.1	992.0	136.4			0.4	0.0	5.7	17.0	+		
オ2-146	UFP-9	f	40,510	54.2	3,394.9	161.0			0.0	0.5	0.5	1.7	+		
オ2-147	UFP-9	F	52,360	62.6	11,946.9	319.2	0.0		0.3	0.7	10.4	26.6	+		
オ2-148	UFP-9	F+A	8,780	9.5	439.2	43.9	0.1			1.2	10.0	8.5	+		
オ2-149	UFP-9	F+A	430	0.7	24.8	3.3	0.0				0.0	0.8	+		
オ2-150	UFP-9	上面	26,020	32.9	1,576.1	120.2	0.0		0.8	1.4	6.7	16.6	+		
オ2-151	UFP-10	(トレンチ)	500	0.8	73.8	3.2					0.0	0.3	+		
オ2-152	UFP-10	上面	26,430	32.5	3,633.7	258.2		0.1	0.1	0.9	0.3	16.6	+		
オ2-153	UFP-11	(トレンチ)	4,670	5.9	403.1	21.0		0.0			0.7	2.5	+		ベンガラ0.0g
オ2-154	UFP-11	上面	20,230	26.8	1,854.7	154.7		0.0	0.0		1.9	12.9	+		石炭0.1g
オ2-155	UFP-11	F	5,770	5.9	638.8	28.1		0.0			1.4	5.4	+		
オ2-156	UFP-11	F	4,830	6.0	493.3	22.2		0.0			0.6	3.2	+		
オ2-157	UFP-11	F+A	3,360	3.8	348.4	17.6	0.0	0.0			0.3	3.5	+		石炭0.0g
オ2-158	UFP-12	(トレンチ)	450	0.5	42.0	1.6						0.1	+		
オ2-159	UFP-12	上面	9,850	13.1	1,148.0	114.1	0.0	0.0		0.8	0.0	1.1	+		
オ2-160	UFP-12	f	1,770	1.4	98.9	3.9						0.1	+		
オ2-161	UFP-13	(トレンチ)	470	0.7	39.4	2.4					0.0	0.1	+		
オ2-162	UFP-13	上面	6,490	9.7	706.5	20.1				0.2	0.1	0.8	+		
オ2-163	UFP-13	F	1,300	2.0	126.1	9.6					0.2	0.1	+		
オ2-164	UFP-13	F	30	0.1	2.0	0.0					0.0	0.1	+		
オ2-165	UFP-14	上面	40,870	46.3	3,064.9	250.5	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	27.1	+	+	
オ2-166	UFP-14	F	5,650	5.7	349.2	32.3				0.2	0.2	4.3	+		
オ2-167	UFP-14	f	29,480	37.5	2,066.3	120.9				1.0	0.2	7.0	+		
オ2-168	UFP-14	f	2,250	2.8	144.7	8.2				0.8	0.2	0.3	+		
オ2-169	UFP-14	(トレンチ)	1,830	1.9	150.2	9.2					0.4	1.7	+		
オ2-170	UFP-15	(トレンチ)	1,190	1.9	114.7	5.9					0.0	1.0	+		
オ2-171	UFP-15	上面	2,330	2.5	215.6	6.7					0.0	0.8	+		(トレンチ)
オ2-172	UFP-15	F	2,350	3.9	255.3	22.5		0.1			0.3	4.3	+		
オ2-173	UFP-15	f1	2,920	4.3	288.8	16.1					0.0	1.8	+		
オ2-174	UFP-15	炭	1,290	1.7	143.5	1.1				3.2			+		
オ2-175	UFP-16	上面	600	0.9	117.3	3.8		0.0			0.0	0.3	+		
オ2-176	UFP-16	焼土	5,540	6.3	826.3	35.8	0.0			0.2	1.2	2.7	+		
オ2-177	UFP-17	上面	1,260	1.0	204.6	3.9						0.1	+		
オ2-178	UFP-17	焼土	410	0.6	87.9	1.0				1.2		0.2	+		
オ2-179	UFP-18	上面	1,550	1.3	181.2	23.3					0.3	5.3	+		
オ2-180	UFP-18	焼土	320	0.6	39.6	2.0					1.9	0.4	+		
オ2-181	UFP-19	(トレンチ)	750	1.3	73.1	2.1						0.1	+		
オ2-182	UFP-19	上面	5,100	5.2	389.3	11.0		0.0				0.3	+		
オ2-183	UFP-19	f	1,350	2.1	126.5	2.8					0.0	0.0	+		
オ2-184	UFP-20	(トレンチ)	400	0.7	35.5	0.5							+		
オ2-185	UFP-20	上面	5,160	6.8	386.0	8.9				0.1		0.5	+		
オ2-186	UFP-20	A	30	0.1	2.0	0.0							+		
オ2-187	UFP-21	(トレンチ)	170	0.3	32.4	0.2							+		
オ2-188	UFP-21	上面	8,290	8.8	1,259.2	36.5	0.2	0.1			0.1	2.6	+		
オ2-189	UFP-22	(トレンチ)	2,060	2.4	369.3	2.5				0.2	0.0	0.2	+		
オ2-190	UFP-22	上面	2,330	2.4	404.2	4.6						0.3	+		
オ2-191	UFP-22	f	1,990	2.5	287.7	4.7						0.1	+		
オ2-192	UFP-23	(トレンチ)	400	0.7	131.9	1.6						0.1	+		
オ2-193	UFP-23	上面	7,510	8.1	1,088.8	17.0		0.0		0.0	0.2	0.8	+		
オ2-194	UFP-23	f	400	0.5	39.3	1.0						0.2	+		
オ2-195	UFP-24	上面	20	0.1	4.0	0.6					0.0	0.2	+		

Ⅳ アイヌ文化期の遺構とその遺物

試料番号	動物遺存体	詳細別掲	主な植物遺存体	備考
オ2 - 144	哺乳類(肋骨)、海棲獣、サケ科(歯・椎骨・尾舌骨)魚類、カワシンジュガイ		マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 145	哺乳類(肋骨ほか)、海棲獣、サケ科(歯・前上顎骨?・椎骨)コイ科(咽頭歯・椎骨)魚類、カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、キハダ、タラノキ、ニワトコ、ブドウ、ホオノキ、スモモ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 146	哺乳類、海棲獣、サケ科(椎骨)魚類		アカザ属、マタタビ、タラノキ、キハダ、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 147	哺乳類、海棲獣、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ		アカザ、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ブドウ、キイチゴ属、カヤツリグサ科	骨角器
オ2 - 148	イヌ科、ネズミ?、齧歯目、海棲獣、サケ科、コイ科、魚類、マイマイ		ヒエ属、ササ属、タラノキ属、ニワトコ、ホオノキ、冬芽	
オ2 - 149	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		タラノキ属、キハダ、ブドウ	
オ2 - 150	シカ、中小獣、海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 151	サケ科(歯・椎骨)魚類、マイマイ		イネ科、タラノキ	
オ2 - 152	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ホオノキ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 153	哺乳類(肋骨?)、サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 154	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)コイ科(咽頭歯・椎骨・肩甲骨)魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、サクラ、カヤツリグサ科	
オ2 - 155	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類(椎骨ほか)		アワ、ヒエ属、タラノキ属、スモモ、冬芽	
オ2 - 156	サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類(椎骨ほか)		イネ科、タラノキ属、ニワトコ、サクラ、マメ科、カヤツリグサ科	
オ2 - 157	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、タラノキ属、ホオノキ、冬芽	
オ2 - 158			タラノキ属	
オ2 - 159	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)魚類		マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、サクラ、カヤツリグサ科	
オ2 - 160			タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 161			イネ科、タラノキ属	
オ2 - 162	サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、アカザ属、ケシ科、タラノキ属、ニワトコ、クルミ属	
オ2 - 163	サケ科(歯・椎骨)魚類		ササ属、タラノキ属	
オ2 - 164	サケ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ			
オ2 - 165	海棲獣、哺乳類(肋骨)サケ科(椎骨)コイ科(椎骨・擬鎖骨)魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		アワ、ヒエ属、アカザ属、ケシ科、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ホオノキ、サクラ、ブドウ、クルミ	
オ2 - 166	海棲獣、哺乳類(肋骨)サケ科(歯・椎骨)魚類		タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 167	海棲獣、サケ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、クルミ属	
オ2 - 168	サケ科(歯・椎骨)魚類		マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 169	サケ科(歯・椎骨・胸膈茶基部)コイ科(椎骨・角骨)魚類		タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 170	サケ科(歯・椎骨)魚類		タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 171	サケ科(歯・椎骨)魚類、カワシンジュガイ		イネ科、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ	
オ2 - 172	サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、タラノキ属、キハダ、サクラ	
オ2 - 173	サケ科(歯・椎骨)魚類(椎骨)		タラノキ属、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 174			タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 175	サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類		アワ、ヒエ属、アカザ属、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 176	サケ科(歯・椎骨)コイ科(椎骨)魚類		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 177			アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 178			アカザ属、タラノキ属	
オ2 - 179	哺乳類、サケ科(椎骨)コイ科(椎骨)魚類		アワ、ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、キイチゴ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 180	哺乳類(四肢骨)、サケ科(椎骨)魚類		イネ科、タラノキ属	
オ2 - 181			タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 182			アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 183	魚類		ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 184			タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 185			アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 186			タラノキ属	
オ2 - 187			タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 188	サケ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		アカザ属、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科、クルミ属	
オ2 - 189	サケ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ		イネ科、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 190	カワシンジュガイ		タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 191			イネ科、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 192	カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ片	
オ2 - 193	カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、タデ科、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ブドウ、冬芽	
オ2 - 194			アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ	
オ2 - 195	サケ科(椎骨)魚類、カワシンジュガイ		ニワトコ	

表Ⅳ - 24 フローテーション結果(4)

試料番号	遺構	層位	乾燥重量 (g)	体積 (L)	残渣重量 (g)	浮遊物 (g)	鉄 (g)	フレイク (g)	火打石 片(g)	礫 (g)	骨・貝 (g)	炭化物 (g)	種子	漆膜	備考
オ2-196	UFP-24	F+B	270	0.5	10.2	3.1					0.3	0.8	+		
オ2-197	UFP-24	A	260	0.5	19.5	2.6					1.0	0.4	+		
オ2-198	UFP-24	A	1,130	1.5	157.0	12.0				0.7	2.1	2.9	+		
オ2-199	UFP-25	(トレンチ)	1,030	1.7	199.8	1.8							+		
オ2-200	UFP-25	上面	13,230	16.2	1,584.5	57.1	0.0	0.0			0.0	1.4	+		
オ2-201	UFP-25	f	690	1.0	86.8	0.4							+		
オ2-202	UFP-26	(トレンチ)	350	0.6	86.7	2.3						0.1	+		
オ2-203	UFP-26	上面	6,330	7.1	1,185.5	46.6		0.0			0.0	1.1	+		
オ2-204	UFP-27	上面	2,780	2.9	485.6	13.0		0.1			0.0	1.5	+		
オ2-205	UFP-28	焼土	1,950	1.9	179.6	14.6						0.2	+		
オ2-206	UFP-29	上面	1,420	1.8	213.3	4.0						0.1	+		
オ2-207	UFP-29	1層	1,440	2.3	138.2	4.0			0.1			0.1	+		
オ2-208	UFP-29		410	0.7	38.8	0.7							+		
オ2-209	UFP-30	(トレンチ)	190	0.3	28.5	0.2						0.0	+		
オ2-210	UFP-30	上面	1,160	1.7	264.3	3.1							+		
オ2-211	UFP-31	(トレンチ)	940	1.4	204.3	3.3						0.1	+		
オ2-212	UFP-31	焼土	3,350	4.3	497.1	84.4				0.2	0.0	53.1	+		
オ2-213	UFP-33	(周辺)	5,260	6.6	602.9	37.5					0.1	0.5	+		
オ2-214	UFP-33	(トレンチ)	30	0.0	0.6	0.0					0.0		+		
オ2-215	UFP-33	上面	15,240	21.5	1,908.5	125.2	0.0	0.1		0.5	5.6	21.5	+		
オ2-216	UFP-33	(周辺)	6,480	9.3	616.7	80.4	0.0		0.0		5.1	18.5	+	+	
オ2-217	UFP-33	A	2,280	4.0	18.4	17.1	0.0				6.9	2.8	+		灰
オ2-218	UFP-33	A	7,870	12.6	108.6	64.2		0.0	0.0	0.0	26.0	21.6	+		
オ2-219	UFP-33	A	3,180	5.0	168.5	26.7	0.0		0.3		7.3	7.8	+		トレンチ
オ2-220	UFP-33	炭	5,350	6.0	440.5	29.5		0.0			0.0	1.6	+		
オ2-221	UFP-33	底面	9,840	12.0	941.7	96.1				0.5	10.9	11.4	+		
オ2-222	UFP-33	上面	1,330	2.3	184.4	2.7		0.0			0.0	0.3	+		
オ2-223	UFP-34	(周辺)	1,740	1.7	150.6	5.6					0.0	0.8	+		
オ2-224	UFP-34	上面	13,140	17.4	1,746.9	91.0	0.0	0.0			5.9	11.8	+	+	
オ2-225	UFP-34	F+B	16,840	22.1	1,920.5	151.9	0.0		0.8	0.6	15.1	24.6	+	+	
オ2-226	UFP-34	F+B	14,890	19.4	674.7	92.4	0.0	0.0	0.0	0.9	32.7	22.0	+	+	
オ2-227	UFP-34	A+B	5,620	9.4	626.1	66.4	0.1		0.2	0.6	11.6	19.6	+	+	
オ2-228	UFP-34	A1	9,640	12.4	1,291.0	72.7	0.0	0.0			3.7	8.0	+		植物系繊維
オ2-229	UFP-34	A2	770	1.0	100.4	1.9					0.3	0.2	+		
オ2-230	UFP-34	A3	60	0.1	0.9	0.1					0.0	0.0	+		
オ2-231	UFP-34	A4	510	0.7	83.9	3.0		0.0			0.3	0.4	+		
オ2-232	UFP-34	上面	8,660	11.5	841.5	49.1	0.0		0.0	0.1	7.3	6.3	+		
オ2-233	UKS-3	Ⅲ	20,020	25.7	3,171.5	126.8	0.0	0.0			2.5	21.1	+	+	
オ2-234	UKS-4	上面	5,370	6.0	715.8	15.5				0.5	0.1	1.3	+		木片?0.0g
オ2-235	UKS-4	Ⅲ	4,950	7.6	1,016.4	33.7			0.0	0.3	1.4	6.0	+		
オ2-236	UKS-4	Ⅲ	1,270	1.8	198.8	8.0		0.0			0.2	1.4	+		
オ2-237	UKS-4	Ⅲ	131,250	166.0	14,655.6	1343.9	0.1	0.1	1.5	1.2	9.5	172.0	+	+	銅0.3g

Ⅳ アイヌ文化期の遺構とその遺物

試料番号	動物遺存体	詳細別掲	主な植物遺存体	備考
オ2 - 196	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(1番目の椎骨)、魚類		アワ、ヒエ属、アカザ属、タラノキ属、クルミ属	
オ2 - 197	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨)、魚類、マイマイ		タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 198	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 199			アカザ属、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 200	サケ科(椎骨)、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		シソ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、冬芽、カヤツリグサ科	
オ2 - 201			アカザ属、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 202			イネ科、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 203	哺乳類、サケ科(椎骨)、魚類		アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、カヤツリグサ科、クルミ属	
オ2 - 204	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、魚類、カワシンジュガイ		アカザ、マタタビ属、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 205			マタタビ属、タラノキ、ニワトコ	
オ2 - 206			タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 207			マタタビ、タラノキ属	
オ2 - 208			マタタビ、タラノキ属	
オ2 - 209			タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 210			タラノキ属	
オ2 - 211			タラノキ属	
オ2 - 212			タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 213	サケ科(椎骨)、コイ科(椎骨・上鰓骨)、魚類、カワシンジュガイ		アカザ属、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 214	サケ科(椎骨)、コイ科(椎骨)、魚類		タラノキ属	
オ2 - 215	クモガニ、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		ヒエ属、ササ属、シソ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ハリギリ属、ホオノキ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 216	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		アワ、ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ、ニワトコ、カヤツリグサ科、ブドウ	
オ2 - 217	クモガニ、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ科、タラノキ属	灰
オ2 - 218	ヒト(歯)、シカ、哺乳類、クモガニ、サケ科、コイ科、魚類		ヒエ属、タラノキ属、キハダ、カヤツリグサ科	
オ2 - 219	ヤチネズミ、クモガニ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類		イネ科、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 220	サケ科(椎骨)、魚類(椎骨)、マイマイ		アカザ属、タラノキ属、ウルシ属、キハダ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 221	シカ、ネズミ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、エゾタマキビ		ヒエ属、アカザ属、タラノキ属、ウルシ属、ニワトコ、サクラ、カヤツリグサ科	
オ2 - 222	サケ科(椎骨)、魚類		アカザ属、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 223	哺乳類、カワシンジュガイ		アカザ属、マタタビ、タラノキ、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 224	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ハリギリ属、スモモ、カヤツリグサ科、クルミ属、冬芽	
オ2 - 225	クマネズミ、小型哺乳類、哺乳類、サケ科、コイ科、小型の魚類、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、アワ、ヒエ属、アカザ属、タデ科、マタタビ、タラノキ、キハダ、ニワトコ、ブドウ、ホオノキ、スモモ、カヤツリグサ科、冬芽	
オ2 - 226	シカ、海棲獣、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、アワ、ヒエ属、タラノキ属、キハダ、ニワトコ	
オ2 - 227	ネズミ?・シカ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、アワ、ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 228	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ、タマキガイ科		ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 229	サケ科(椎骨)、小型の魚類(椎骨)、魚類(椎骨ほか)、マイマイ		ヒエ属、タラノキ属、ニワトコ	
オ2 - 230	サケ科(椎骨)、コイ科(椎骨)、魚類(歯ほか)		ヒエ属、ブドウ	
オ2 - 231	サケ科(歯・椎骨)、コイ科(椎骨・下位下舌骨1)、魚類、マイマイ		ヒエ属、マタタビ、タラノキ属、カヤツリグサ科	
オ2 - 232	哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		イネ、ヒエ属、アカザ属、タラノキ属、ニワトコ、ブドウ、カヤツリグサ科	
オ2 - 233	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、コイ科(咽頭歯・椎骨)、魚類、カワシンジュガイ、マイマイ		アワ、ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、キハダ、ニワトコ、ブドウ、ホオノキ、カヤツリグサ科、クルミ属	鈎針針先骨角器
オ2 - 234	シカ(角)、サケ科(歯・椎骨)、魚類		ヒエ属、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科、冬芽	骨角器
オ2 - 235	哺乳類、サケ科(歯・椎骨)、魚類(椎骨ほか)、カワシンジュガイ		イネ科、タラノキ属、キハダ、カヤツリグサ科	
オ2 - 236	哺乳類(骨端)、サケ科(椎骨)、コイ科(肩甲骨)、魚類、カワシンジュガイ		ヒエ属、タラノキ属、ニワトコ、カヤツリグサ科	
オ2 - 237	シカ、哺乳類、サケ科、コイ科、魚類、カワシンジュガイ		イネ、アワ、ヒエ属、アカザ属、マタタビ、タラノキ属、ニワトコ、ウルシ属、チョウセンゴミシ、スモモ、サクラ、カヤツリグサ科、クルミ属、冬芽	

表Ⅳ - 25 フローテーション回収動物遺存体詳細(1)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考
オ2 - 041	USD 5 - fp 3		哺乳類	不明	四肢骨	けずり片、切痕有
			魚類	サケ科	椎骨、基鰭骨、第1番目の尾神経骨、肩甲骨1、前鰓蓋骨? 射出骨、中烏口骨	
				コイ科	咽頭骨、椎骨、第4番目の横突起1、	
				不明	棘など、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 042	USD 5 - fp 4	上面	哺乳類			骨角器? 3点
			哺乳類	不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、神経棘 or 血管棘、肋骨基部	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、角骨1、舌顎骨1	
				不明	椎骨、担鰭骨基部、鰭条基部、不明	
			不明	不明	歯、不明	
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
オ2 - 043	USD 5 - fp 4	黒(上)	哺乳類	海棲獣	不明	骨針3点、骨角器3点、
			哺乳類	不明	肋骨、四肢骨、不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、尾骨、射出骨1r	
				コイ科	椎骨、方骨1r	
				不明	咽頭歯、棘など、不明	
			不明	不明	顎骨	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 044	USD 5 - fp 4	灰+焼土	哺乳類	シカ	角	骨角器3点 けずり片
			哺乳類	不明	肋骨、頭蓋骨? or 椎頭?、不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、神経棘基部、肋骨 or 血管棘基部、肩甲骨1r、角骨、基鰭骨、下尾骨、眼下骨?	
				コイ科	椎骨、中烏口骨r、基鰭骨、擬顎骨1、角骨r、第1番目の椎骨、舌顎骨?	
				小型の魚類	最後の椎骨?	
				不明	椎骨、第1番目の椎骨 or 最後の椎骨、主鰓蓋骨?、不明	
			魚類?	不明	歯	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			オ2 - 045	USD 5 - fp 4	焼土	
哺乳類	不明	不明				
哺乳類?	小型の脊椎動物	椎骨?				
魚類	サケ科	歯、椎骨				
	コイ科	椎骨、歯骨1、				
	不明	胸鰭条基部、不明				
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮				
オ2 - 046	USD 5 - fp 4	灰	哺乳類	シカ	角	骨針1点 けずり片有、切痕有 けずり片有
			哺乳類	不明	四肢骨	
			魚類	サケ科	歯(歯骨 or 上顎骨付) 椎骨、基鰭骨1r、烏口骨1、鰭条、尾骨、第1番目の胸鰭条基部、第1番目の尾神経骨	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、角舌骨1	
				やや小型魚類	椎骨	
				不明	棘など、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			不明	不明	殻	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			オ2 - 047	USD 5 - fp 4	黒(下)	
魚類	サケ科	椎骨、肋骨 or 血管棘基部、基舌骨				
	コイ科	咽頭歯、椎骨				
	やや小型魚類	椎骨				
	不明	鰓蓋骨類、不明				
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 052	USD 8 - fp 1	上面	哺乳類	ヤチネズミ	臼歯	骨針1点
			哺乳類	小型の哺乳類	大腿骨 or 上腕骨遠位端、指骨 or 大腿骨 or 上腕骨遠位端	
			哺乳類	海棲獣	不明	
			哺乳類	不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、基鰭骨、肩甲骨、中烏口骨1r、射出骨、鰓条、鰓蓋骨類、第1番目の尾神経骨、し、	
				コイ科	咽頭歯、咽頭骨、椎骨、基後頭骨、角骨1r、方骨1、主鰓蓋骨r、間鰓蓋骨r、角舌骨1、舌顎骨、基鰭骨、射出骨、擬顎骨?r	
				メカジキ	口吻	
				小型魚類	椎骨	
				不明	椎骨、鰓蓋骨類、尾舌骨、棘など、鰓の骨、不明	
			不明	不明	歯、焼骨?	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			不明	不明	殻	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 054	USD 8 - fp 1	灰+焼土	哺乳類	シカ	角	
			哺乳類	不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、前鰓蓋骨	
			不明	不明	椎骨、不明	
不明	不明	歯				

表Ⅳ - 26 フローテーション回収動物遺存体詳細(2)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考			
オ 2 - 055	USD 8 - fp 1	灰	哺乳類	シカ	角、中手(足)骨(2 or 5)近位端	骨角器 1 点、			
			哺乳類	不明	肋骨、四肢骨、不明	切痕有、けずり片			
			哺乳類?	不明	椎骨椎頭 or 椎か、肋軟骨?				
			鳥類	烏口骨	遠位端 l				
			甲殻類	クモガニ	殻、指節				
			魚類	サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付)、舌顎骨 l、椎骨、肩甲骨 r、烏口骨 r、中烏口骨 l、後擬鎖骨 l r、射出骨、第 1 番目の胸鰭条基部、上(下)尾骨、第 1 番目の尾神経骨、尾上骨、角骨?、眼下骨?、レ				
				コイ科	椎骨、第 1 番目の椎骨、第 2 番目の神経棘、第 3 番目の神経棘、歯骨 l r、主上顎骨 l、前上顎骨、内翼状骨、後翼状骨 l、擬鎖骨 l、角骨 l r、方骨 l、肩甲骨、基鰭骨、舌顎骨 l、尾舌骨、角舌骨 r、下位下舌骨、烏口骨、口蓋骨、下尾骨、尾骨				
				ウグイ	星状耳石				
			小型魚類	椎骨、角骨 l、不明					
			不明	不明	耳石、鰓の骨、椎骨、鰓蓋骨類、棘、担鰭骨基部、歯、不明				
			不明	不明	不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
			不明	不明	殻				
			巻貝綱	マイマイ	殻	マイマイ多い			
			オ 2 - 056	USD 8 - fp 1	焼土	哺乳類	シカ	角	
甲殻類	クモガニ?	殻							
魚類	サケ科	椎骨							
	コイ科	主上顎骨、基鰭骨							
不明	不明	椎骨、鰭条基部、不明							
不明	不明	不明							
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ 2 - 057	USD 8 - fp 1	黒(下)				哺乳類	シカ	角	けずり片有
						不明	不明	肩甲骨 or 幸骨、不明、	
						鳥類	不明	骨体部	
			甲殻類	クモガニ	殻				
魚類	サケ科	歯、椎骨、中烏口骨 l							
	コイ科	椎骨、第 3 番目の椎骨、前鰓蓋骨、下鰓蓋骨?、肩甲骨 r、方骨 l r、口蓋骨、上舌骨、角舌骨 l、射出骨、烏口骨、下尾骨、							
	小型魚類	椎骨、基鰭骨、射出骨							
不明	不明	棘など、不明							
不明	不明	不明	中実の細長い骨						
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮							
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ 2 - 069	USD 8 - fp 4		哺乳類	不明	不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨				
				コイ科	椎骨				
			不明	不明	主鰓蓋骨、鰓蓋骨類、不明				
オ 2 - 070	USD 8 - ph35	覆土(灰)	哺乳類	不明	不明				
			魚類	サケ科	椎骨、中烏口骨 l				
				不明	不明				
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ 2 - 071	USD 9 - fp 1	(トレンチ)	哺乳類	シカ	角				
			齧歯目	切歯					
				海棲獣	不明				
				サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付)、椎骨、肩甲骨 l、尾舌骨				
			魚類	コイ科	椎骨				
				不明	歯、椎骨、不明				
不明	不明	不明							
オ 2 - 072	USD 9 - fp 1	上面	哺乳類	不明	不明				
			海棲獣	不明					
				サケ科	歯、椎骨、尾舌骨、方骨 l				
				コイ科	椎骨				
			不明	不明	不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
不明	不明	殻							
オ 2 - 073	USD 9 - fp 1	(周辺)	哺乳類	タヌキ	上腕骨遠位 r				
			海棲獣	不明					
				不明	不明				
				サケ科	歯、椎骨				
			魚類	コイ科	椎骨、角舌骨、咽頭骨				
				不明	鰭条(ブツブツのある)、不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
不明	不明	殻							
オ 2 - 074	USD 9 - fp 1	F+B	哺乳類?	不明	不明				
			哺乳類	海棲獣	不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、第 1 番目の胸鰭条基部 l r				
				コイ科	椎骨				
不明	不明	椎骨、不明							
オ 2 - 075	USD 9 - fp 1	A+B	哺乳類	海棲獣	不明				
			不明	不明					
			魚類	サケ科	歯、椎骨、第 1 番目の胸鰭条基部 l、方骨、射出骨				
				コイ科	椎骨				
				小型の魚類	椎骨				
			不明	不明	鰭条基部、不明				
不明	不明	不明							

表Ⅳ - 27 フローテーション回収動物遺存体詳細(3)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考
			二枚貝綱	不明	殻	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			不明	不明	殻	
オ2 - 078	USD9 - fp1	A	哺乳類	不明	肋軟骨?	
				海棲獣	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、胸鰭条基部、肩甲骨1r、	
				コイ科	椎骨、主上顎骨r、	
				不明	耳石?、不明	
			不明	不明	不明	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 079	USD9 - fp1	A1	哺乳類	海棲獣	不明	
				不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				不明	椎骨、不明	
			不明	不明	歯、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			不明	不明	殻	
オ2 - 080	USD9 - fp1	A2	哺乳類			骨針?、切痕有る骨端
			哺乳類	不明	肋軟骨	
			哺乳類?	不明	不明	
			甲殻類	クモガニ	殻	
			魚類	サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付有) 歯骨1、椎骨、第1番目の椎骨、基 鰭骨、胸鰭条基部1r、肩甲骨1r、射出骨、方骨r、第1番目の 尾神経骨、尾骨、	
				コイ科	椎骨	
				不明	椎骨、不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
				不明	殻	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			甲殻類	チシマフジツボ	殻	
オ2 - 083	USD9 - fp1	上面	哺乳類	海棲獣	不明	
				不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、咽頭歯	
				不明	不明	
			不明	不明	歯	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 096	UFP - 4	(トレンチ)	哺乳類	シカ	第1下顎切歯r	
				不明	四肢骨	
			魚類	サケ科	椎骨	
				コイ科	椎骨	
				不明	不明	
オ2 - 097	UFP - 4	灰	哺乳類	シカ	歯、中足骨背面部、中手(足)骨骨体部	骨角器?
				不明	指骨近位端?、四肢骨	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨	
				不明	不明	
オ2 - 100	UFP - 6	(トレンチ)	哺乳類	不明	肋骨?	
			鳥類	不明	橈骨骨体部1	オ2 - 109と接合
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨	
				不明	不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
オ2 - 101	UFP - 6	上面	哺乳類	ネズミ?	大白歯	旧オ2 - 57と同じ
				不明	肋骨、不明	
			鳥類	不明	四肢骨	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、角骨1、方骨r	
				不明	鰓条、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 102	UFP - 6	F+A	哺乳類	シカ	角?	
				中型獣	椎骨	ネズミの歯跡有
				不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、咽頭骨、主上顎骨1、	
				不明	椎骨、不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 108	UFP - 6	上面	哺乳類	ネズミ	基節骨	
				不明	肋骨、不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	咽頭骨、咽頭歯、椎骨、方骨1r	
				不明	不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	

表Ⅳ - 28 フローテーション回収動物遺存体詳細(4)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考			
オ2 - 109	UFP - 7	上面	哺乳類	不明	不明				
			鳥類	不明	橈骨遠位端1	オ2 - 100と接合			
			魚類	サケ科	歯、椎骨、レ、鰓蓋骨類、				
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨				
			不明	不明	不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 119	UFP - 7	A1	哺乳類	不明	不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、不明				
				コイ科	椎骨、頭部の骨?				
				不明	椎骨、不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
			哺乳類	不明	肋骨、不明	けずり片有			
オ2 - 122	UFP - 7	A2	魚類	サケ科	歯、椎骨、外後頭骨1				
			コイ科	椎骨					
			不明	不明					
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
			オ2 - 125	UFP - 7	A	魚類	サケ科	椎骨、血管棘 or 肋骨基部、神経棘、鰓条、レ	
							コイ科	椎骨	
小型の魚類	椎骨								
不明	不明								
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ2 - 127	UFP - 7	上面	哺乳類	不明	不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、鰓蓋骨類				
				コイ科	椎骨、咽頭歯				
				中型の魚類	椎骨				
				不明	鰓蓋骨類、棘など、不明				
			不明	不明	不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮				
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ2 - 136	UFP - 8	F1 + A	哺乳類	不明	肋骨?、不明、骨端部有				
			魚類	サケ科	椎骨、血管棘 or 肋骨基部				
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨				
				不明	不明				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 139	UFP - 8	A	哺乳類	シカ	角				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、血管棘 or 肋骨基部				
				コイ科	椎骨、上擬鎖骨、尾舌骨				
				小型の魚類	椎骨				
				不明	不明				
			不明	不明	不明				
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻				
巻貝綱	マイマイ	殻							
オ2 - 140	UFP - 8	A				骨角器 2点			
			哺乳類	不明	肋骨、不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、射出骨				
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、方骨 r、咽頭骨、				
				小型の魚類?	歯骨?				
				不明	椎骨?、不明				
			不明	不明	不明				
オ2 - 147	UFP - 9	F	哺乳類	シカ	角	骨角器 7点			
			哺乳類	不明	四肢骨、椎骨椎頭、不明				
			哺乳類?	海棲獣	不明				
			不明	不明	不明				
			魚類	サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付) 椎骨、血管棘 or 肋骨基部				
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、主鰓蓋骨、方骨 r、咽頭骨				
				小型の魚類	鰓蓋骨				
不明	不明	椎骨、不明							
不明	不明	鳥口骨?、歯							
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮							
オ2 - 148	UFP - 9	F + A	哺乳類	イヌ科	副手根骨1				
				ネズミ?	末節骨				
				齧歯目	踵骨1				
				海棲獣	不明				
				不明	四肢骨、不明				
			魚類	サケ科	歯、椎骨、血管棘 or 肋骨基部				
				コイ科	咽頭骨、咽頭歯、椎骨、第1番目の椎骨、口蓋骨1				
				小型の魚類	椎骨				
				不明	椎骨、第1番目の胸鰭棘基部、不明				
			巻貝綱	マイマイ	殻				
			オ2 - 149	UFP - 9	F + A	哺乳類	不明	不明	
魚類	サケ科	歯、椎骨							
	コイ科	椎骨							
	不明	椎骨?、不明							
不明	不明	不明							
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮							
オ2 - 150	UFP - 9	上面	哺乳類	シカ	中手(足)骨骨体部				
			中獣	肋骨、中節骨?近位端(骨端の外れたもの)					
			海棲獣	不明					
			不明	不明					
			不明	不明					

表Ⅳ - 29 フローテーション回収動物遺存体詳細(5)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考
オ2 - 198	UFP - 24	A	魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	咽頭歯、咽頭骨、椎骨、第1番目の椎骨	
				不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			哺乳類	不明	不明	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、鱭条、不明	
コイ科	椎骨、後擬鎖骨、射出骨					
不明	不明	不明				
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻				
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 215	UFP - 33	上面	甲殻類	クモガニ	指節	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	咽頭歯、椎骨、第1番目の椎骨、第4番目の横突起r、三脚骨l、角舌骨r、中鳥口骨r、基鱭骨、尾骨	
				不明	椎骨、棘など、不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 216	UFP - 33	(周辺)	哺乳類	不明	四肢骨	けずり片有
			魚類	サケ科	歯、椎骨、	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、方骨r、角舌骨、基鱭骨l、射出骨、上鰓骨	
				不明	棘など、鱭条?、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
オ2 - 217	UFP - 33	A	甲殻類	クモガニ	殻	
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、三脚骨l、射出骨l、上鰓骨	
				小型の魚類	椎骨	
			不明	不明	椎骨、不明	
			魚類? or 2枚貝	不明	方骨? or 椎貝?	同じ物を貝と分類済みも有
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ2 - 218	UFP - 33	A	哺乳類	ヒト	下顎切歯	永久歯の歯根が消滅したものか? 乳歯にしては咬合面の磨耗が激しい
				シカ	未萌出歯	胎児位?
				不明	不明	
			甲殻類	クモガニ	指節、殻	
			魚類	サケ科	歯、椎骨、第1番目の胸鱭棘基部、第1番目の尾神経棘、尾骨?、不明	
				コイ科	咽頭骨、咽頭歯、椎骨、第1番目の椎骨、第2番目の神経棘、第3番目の神経棘、第4番目の横突起、第5番目の椎骨、前上顎骨、角骨l、方骨l r、肩甲骨r、鳥口骨l、三脚骨、上舌骨、射出骨l r、後擬鎖骨?	
				小型の魚類	椎骨	
				非常に小型の魚類	不明	
				不明	椎骨、耳石、不明	
			不明	不明	歯、哺乳類の歯? or 貝、不明	
			魚類? or 2枚貝	不明	方骨? or 椎貝?	同じ物を貝と分類済みも有
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			不明	不明	殻?	2枚貝の椎貝?
			巻貝綱	マイマイ	殻	
不明	不明	不明	非常に小さな白玉、その他			
オ2 - 219	UFP - 33	A	哺乳類	ネズミ?	白歯?	
			甲殻類	クモガニ	指節、殻	
			不明	不明		
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	咽頭骨、咽頭歯、椎骨、腹椎、尾椎、第1番目の椎骨、角骨r、口蓋骨、中鳥口骨r、上位下舌骨、基鱭骨、吻骨?	
				不明	不明	
不明	不明	耳石?、不明				
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮				
巻貝綱	マイマイ	殻				
不明	不明	不明	非常に小さな白玉			
オ2 - 221	UFP - 33	底面	哺乳類	シカ	未萌出歯	
			ネズミ?	切歯		
			哺乳類?	不明		
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨、第1番目の椎骨、口蓋骨、射出骨、後擬鎖骨、肩甲骨l、方骨r、主上顎骨r、上位下舌骨l、下位下舌骨l、後側頭骨r、近担鱭骨、	
				不明	椎骨、尾骨、耳骨?、鳥口骨?、頭部の骨?、不明	
			魚類? or 2枚貝	不明	方骨? or 椎貝?	同じ物を貝と分類済みも有
			不明	不明	不明	
二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮				
不明	不明	殻				
巻貝綱	マイマイ	殻				
エゾタマキビ	殻	Sh - 153と接合				

表Ⅳ - 30 フローテーション回収動物遺存体詳細(6)

試料番号	遺構	層位	分類	動物遺存体	部位	備考
			不明	不明	不明	非常に小さな白玉、その他
オ 2 - 224	UFP - 34	上面	哺乳類	不明	不明	けずり片有
			魚類	サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付) 椎骨	
				コイ科	咽頭歯、椎骨、第 1 番目の椎骨、主鰓蓋骨 r、尾骨	
				不明	椎骨、不明	
			不明	不明	歯	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ 2 - 225	UFP - 34	F + B	哺乳類	クマネズミ	下顎骨 r、大白歯 r、切歯 r、	同一個体
			魚類	小型哺乳類	不明	
				不明	製品か?、不明	けずり片有、切痕有
				サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付) 椎骨、射出骨、鰓蓋骨類、基鱗骨 r?、頭の骨、	
				コイ科	椎骨、基後頭骨	
			小型の魚類	椎骨		
			不明	椎骨、耳石??、不明		
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			不明	不明	殻	2点、1点軸唇部
不明	不明	角				
オ 2 - 226	UFP - 34	F + B	哺乳類	シカ	角	
			魚類	海棲獣	不明	
				不明	四肢骨、不明	加工痕有、けずり片有
				サケ科	歯、椎骨、鰓糸、第 1 番目の尾神経骨、尾骨、射出骨 1、舌顎骨?、不明	
				コイ科	椎骨、第 1 番目の椎骨、最後の椎骨、主上顎骨、肩甲骨 1、鰓蓋骨?、射出骨 1	
			不明	椎骨、近担鰭骨、方骨 r、烏口骨、尾骨、鰓の骨、基舌骨?、不明		
			不明	不明	顎骨、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
			不明	不明	殻	表面に真珠光沢がある貝、その他
不明	不明	殻	骨角器 1点、			
オ 2 - 227	UFP - 34	A + B	哺乳類	ネズミ?	椎骨	
			魚類	シカ	未萌出歯?	
				小型の哺乳類	大腿骨遠位端(骨端のはずれた物)、手(足)根骨、椎骨、尾椎	けずり片有、切痕有
				不明	四肢骨、不明	
				サケ科	歯、椎骨	
			コイ科	椎骨、第 2 番目の椎骨、基後頭骨、		
			小型の魚類	椎骨、角骨		
			不明	椎骨、不明		
			不明	不明	歯、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
巻貝綱	マイマイ	殻				
オ 2 - 228	UFP - 34	A 1	哺乳類	不明	四肢骨	切痕有、けずり片
			魚類	サケ科	歯、椎骨	
				コイ科	椎骨	
				不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻皮	
			タマキガイ科	殻		
巻貝綱	マイマイ	殻				
不明	不明	殻				
オ 2 - 232	UFP - 34	上面	哺乳類	不明	不明	切痕有、けずり片有
			魚類	サケ科	歯、椎骨、胸鰭条基部 r(第 1 番目有)、尾骨	
				コイ科	椎骨、咽頭歯、最後から 2 番目の尾椎、主上顎骨 r、	
				不明	不明	
			不明	不明	不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	
			巻貝綱	マイマイ	殻	
不明	不明	不明	非常に小さな白玉、その他			
オ 2 - 237	UKS - 4	Ⅲ	哺乳類	シカ	角?	
			魚類	不明	肋骨、四肢骨、不明	切痕あるもの有
				サケ科	歯(歯骨 or 主上顎骨付) 椎骨	
				コイ科	椎骨	
				不明	棘など、不明	
			二枚貝綱	カワシンジュガイ	殻、殻皮	

表Ⅳ - 31 動物遺存体 (フローテーション回収) 同定一覧(1)

分類	細分類	左右	部位 1	部位 2	試料番号	備考
二枚貝綱 Bivalvia	二枚貝類		殻		46 52 55 ,71 75 80 99 218 221	
	タマキガイ科 Glycymeridae		殻		228	
	カワシンジュガイ科 Margaritiferidae		殻、殻皮		41 ~ 47 52 55 57 62 63 71 ~ 73 79 80 83 86 88 90 ,100 ~ 102 ,108 ,109 ,111 ,115 ,119 ,122 ,127 ,139 , 140 ,144 ,145 ,147 ,149 ,150 ,152 ,154 ,157 , 162 ,164 ,165 ,167 ,171 ,188 ~ 190 ,192 ,193 ,195 ,198 200 204 213 215 ~ 219 221 223 ~ 228 232 233 235 ~ 237	
巻貝綱 Gastropoda	エゾタマキビ Littorina squalida		殻		221	Sh - 153と接合
	マイマイ		殻		41 43 44 46 47 52 53 55 ~ 57 68 70 71 73 75 78 ~ 80 82 ~ 84 92 ,101 ~ 103 ,106 ~ 109 ,115 ,119 ~ 122 ,125 ~ 129 ,136 ~ 141 ,143 ,148 ,151 ,152 ,165 ,188 ,197 ,198 , 200 215 ~ 221 224 ~ 229 231 ~ 233	
	巻貝類		殻		225	
貝類	不明		殻		53 ,72 ~ 75 79 97 ,119 ,122 ,138 ,140 ,143 ,145 , 203 218 219 221 226 228 232	
甲殻類 Area	クモガニ科 MIERS		指節		55 56 57 80 215 217 ~ 219	
	チシマフジツボ Balanus cariosus		殻		80	
	甲殻類		殻		219	
(小型)魚類	メカジキ Xiphias gladius ウグイ Tribolodon hakonensis		歯骨?		140	
			鰓蓋骨		147	
		l	角骨		55 227	
			基鱗骨		57	
			椎骨		44 46 47 52 55 57 75 ,125 ,139 ,148 , 155 217 218 225 227 229	
			射出骨		57	
		不明		55 218		
		口吻		52		
		星状耳石		55		
	コイ科 Cyprinidae	r,l	歯骨		45 55	
		r	前上顎骨		55 ,107 ? 218	
		r,l	主上顎骨		55 56 78 ,102 221 226 232	
			咽頭骨		41 52 73 ,102 ,108 ,147 ,148 ,150 218 219	
			咽頭歯		47 52 83 ,108 ,127 ,145 ,148 ,150 ,154 , 215 218 219 224 232 233	
			咽鰓骨		140	
			上鰓骨		213 216 217	
		r	後側頭骨		221	
			基後頭骨		52 225 227	
			頭部の骨		119 ?	
			前鰓蓋骨		54 57	
		r	主鰓蓋骨		52 ,147 224	
		r	間鰓蓋骨		52	
			下鰓蓋骨		57 ?	
			鰓蓋骨類		226 ?	
			内翼状骨		55	
		l	後翼状骨		55	
		l,	口蓋骨		55 57 ,148 219 221	
			吻骨?		219	
		l	舌顎骨		42 44 ? 52 55	
			上舌骨		57 218	
		l	上位下舌骨		219 221	
		l	下位下舌骨		55 221 231	
		r,l	角舌骨		46 52 55 57 73 ,137 215 216	
			尾舌骨		55 ,139	
		r,l	角骨		42 44 52 55 65 ,101 ,169 218 219	
		r,l	方骨		43 52 55 57 ,101 ,106 ? ,108 ,128 ,140 , 143 ,147 216 218 221	
		椎骨 (腹椎、尾椎)		41 ~ 47 52 ~ 55 57 63 66 69 71 ~ 75 77 78 80 82 83 92 96 ~ 103 ,105 ~ 109 ,115 ,119 ,122 ,125 ,127 ,128 ,132 ,133 , 136 ,137 ,139 ,140 ,143 ,145 ,147 ~ 150 , 153 ~ 157 ,162 ,165 ,169 ,172 ,175 ,176 ,179 , 197 ,198 213 ~ 219 221 224 ~ 228 230 , 232 233 237	第 1 番目 : 42 44 46 55 ,100 ,101 ,109 ,120 ,136 , 137 ,140 ,147 ,148 ,150 ,196 ? 215 21 6 218 219 221 224 226 231 237 第 2 番目 : 157 227 第 3 番目 : 57 第 5 番目 : 218 最後の椎骨 : 226	
	r,l	第 4 番目の横突起		41 215 218		
		第 2 番目の神経棘		55 218		
		第 3 番目の神経棘		55 218		
	r,l	基鱗骨		44 52 55 56 215 216 219		
		近担鰭骨		221		
		上擬鰭骨		139		
		後擬鰭骨		198 218 ? 221		

表Ⅳ - 32 動物遺存体 (フローテーション回収) 同定一覧(2)

分類	細分類	左右	部位 1	部位 2	試料番号	備考	
硬骨魚綱 Osteichthyes		r,l	擬鎖骨		44 52 ? 55 ,165		
		l	三脚骨		215 217 218		
		r,l	肩甲骨		55 57 ,154 218 221 226 236		
		l	烏口骨		55 57 218		
		r	中烏口骨		44 215 219		
		r,l	射出骨		52 57 ,198 216 ~ 218 221 226		
			上(下)尾骨		55 57 215 224		
		サケ科 Salmonidae	l	歯骨		80	
				歯(顎骨付)		46 55 71 80 ,147 224 225 237	
				歯		42 ~ 45 52 ~ 54 57 60 63 66 ~ 69 72 ~ 79 81 ~ 83 92 93 97 ~ 102 ,108 ,109 ,111 ,119 ,122 ,127 ,139 ,140 , 143 ~ 145 ,148 ~ 157 ,159 ,163 ,164 ,166 , 168 ~ 173 ,175 ,176 ,196 ~ 198 204 215 ~ 219 221 226 ~ 228 231 ~ 235	
			前上顎骨?		145		
	l		外後頭骨		122		
			頭の骨		225		
			眼下骨?		44 55		
			前鰓蓋骨?		41		
			鰓蓋骨類		52 ,109 ,127 225		
			鰓条		52 ,198 226		
	r,l		方骨		72 ,75 80		
			角骨		44 55 ? 67 ?		
	l		舌顎骨		55 226 ?		
	r,l		基鱗骨		41 44 46 52 80 225 ?		
	r,l		後擬鎖骨		55 ,127 ?		
			第 1 番目の椎骨		80		
			椎骨(腰椎、尾椎) 神経棘基部 血管棘基部 or 肋骨		41 ~ 47 52 ~ 57 59 60 62 ~ 84 86 88 ~ 109 ,111 ~ 115 ,119 ~ 122 ,125 ~ 129 ,132 ~ 134 ,136 ~ 141 ,143 ~ 157 ,159 ,162 ~ 173 ,175 ,176 ,179 ,180 ,188 ,189 ,195 ~ 198 200 203 204 213 ~ 222 224 ~ 237		
			基舌骨		47		
			尾舌骨		71 ,72 ,144		
	r,l		肩甲骨		41 44 52 55 71 78 80		
	r,l	烏口骨		46 55			
	r,l	中烏口骨		41 52 55 57 70			
	r,l	胸鱗条基部		46 55 74 75 78 80 ,169 218 232			
		鱗条		46 ,198			
	r,l	射出骨		41 43 52 55 75 80 ,140 225 226			
		尾上骨		55			
		第 1 番目の尾神経骨		41 46 52 55 80 218 226			
		レ		52 55 ,109 ,125			
		尾骨		43 44 46 55 80 218 ? 226 232			
		不明		119 ,198 218 226			
	魚類			歯		44 ? 55 71 213 ?	
				咽頭歯		43	
				鰓の骨		52 ? 55 226 ?	
				耳石		55 78 ? 218 221 ? 225 ?	
				頭の骨?		221	
				基舌骨?		226	
				尾舌骨		52 213 ?	
				烏口骨		221 ? 226	
				主鰓蓋骨		44 ? 69	
				鰓蓋骨類		47 52 55 69 ,127	
				鰓条		101 216 ?	
				椎骨		42 44 52 54 ~ 56 71 74 79 80 92 95 ,102 ,104 ,119 , 127 ,129 ,130 ,140 ? ,147 ,148 ,149 ? ,155 , 156 ,173 215 217 218 220 221 224 ~ 227 229 231 235	
		r	方骨		226		
		担鰭骨		42 55 226			
		鰭条基部(第1番目含)		42 45 56 ,75 ,148			
		鰭条		73			
		尾骨		221 226			
		棘など		41 43 46 52 55 57 ,127 215 216 237			
		不明		41 ~ 47 52 ~ 64 66 ~ 83 86 88 ~ 109 ,111 , 112 ,114 ,115 ,119 ~ 122 ,125 ~ 134 ,136 ~ 141 ,143 ~ 157 ,159 ,162 ~ 172 ,173 ,175 , 176 ,179 ,180 ,183 ,188 ,189 ,195 ~ 198 200 , 203 204 213 ~ 217 219 ~ 222 224 225 , 227 ~ 237 250			
鳥綱 Aves		鳥類	l	烏口骨	遠位端	55	
	l		橈骨 四肢骨	遠位端、骨体部	100 ,109 57 ,101	接合	
哺乳綱 Mammalia	クマネズミ Rattus rattus	r,	大白歯		101 225	オ 2 - 225は同一遺存体	
		r	切歯		225		
	r	下顎骨		225			
	ヤチネズミ Eothenomys andersoni ネズミ		白歯		52 219 ?		
		切歯		107 221 ?			

表Ⅳ - 33 動物遺存体 (フローテーション回収) 同定一覧(3)

分類	細分類	左右	部位 1	部位 2	試料番号	備考		
			基節骨		108			
			末節骨?		148			
			椎骨?		227			
	齧歯目			切歯		71		
		l		踵骨		148		
	(小型獣)			大腿骨	遠位端	227	骨端の外れたもの	
				大腿骨 or 上腕骨	遠位端	52		
				指骨 or 大腿骨 or 上腕骨	遠位端	52		
				手(足)根骨		227		
				椎骨(尾椎)		227		
				不明		225		
				肋骨		150		
	(中中型獣)			中節骨?	近位端	150	骨端の外れたもの	
	(中型獣)			椎骨		102		
	タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	r		上腕骨	遠位	73	ネズミの嚙跡有	
	イヌ科 Canidae	l		副手根骨		148		
	シカ科 Cervidae			歯		92, 97		
		r		第1下顎切歯		96		
				未萌出歯		218, 221, 227?		
				角		44, 46, 54, 57, 71, 89, 102?, 139, 226, 237?	けずり片有、切痕有るもの有	
				中手骨?		65		
				中足骨	背面部	97		
				中手(足)骨	骨体部	97, 150		
			中手(足)骨(2 or 5)	近位端	55			
	海棲獣			不明		43, 52, 71 ~ 75, 78, 79, 83, 144 ~ 148, 150, 165 ~ 167, 180, 226		
	哺乳類			頭蓋骨? or 椎頭?		44		
				肩甲骨 or 幸骨		57, 92		
				指骨	近位端	97?		
				四肢骨		41, 43, 46, 55, 65, 96, 97, 147, 148, 180, 216, 226 ~ 228, 237	けずり片有、切痕有るもの有	
				肋骨		43, 44, 55, 100?, 101, 105, 108, 122, 128, 136?, 140, 143 ~ 145, 153?, 165, 166, 237		
				肋軟骨		55?, 78?, 80		
				椎骨	椎頭 or 椎か	55?, 147		
				不明		42 ~ 45, 47, 52, 54, 55, 57, 60, 62, 63, 66, 69, 70, 72, 73, 74?, 75, 79, 80?, 82?, 83, 86, 88, 89, 92, 95, 99, 101, 102, 106, 108, 109, 119, 122, 127, 131, 136, 140, 143, 145 ~ 150, 152 ~ 155, 157, 159, 179, 196 ~ 198, 203, 204, 218, 221?, 223 ~ 225, 227, 232, 233, 235 ~ 237		
				下顎切歯		218	永久歯の歯根が消滅したものか? 咬合面の摩滅が激しい	
		ヒト Homo Japiens			椎骨?		45	
	不明	小型の脊椎動物		椎骨?		45		
		魚類 or 二枚貝の稚貝		殻?		217, 218, 221		
		哺乳類の歯 or 貝			歯 or 貝		218	
					耳石?		219	
		不明			歯		42, 52, 54, 79, 83, 109, 147, 218, 224, 227, 230	
					顎骨		43, 226	
					烏口骨?		147	
					橈骨?		52	
					不明		42, 44, 55, 56, 57, 68, 71, 75, 78 ~ 80, 98, 100, 102, 103, 108, 127, 128, 140, 143, 149, 152 ~ 154, 159, 215, 217 ~ 219, 221, 226, 227, 232, 235	
		骨角器					42, 43, 45?, 46, 52, 55, 67, 80?, 81?, 97?, 140, 147, 226, 233, 234, 237	

(3) フローテーションなどにより検出された遺物

フローテーションおよび手取りで回収された骨角器や主な自然遺物を掲載する。前者は図示可能なものすべて、後者は特徴のある一部のものとどめた。

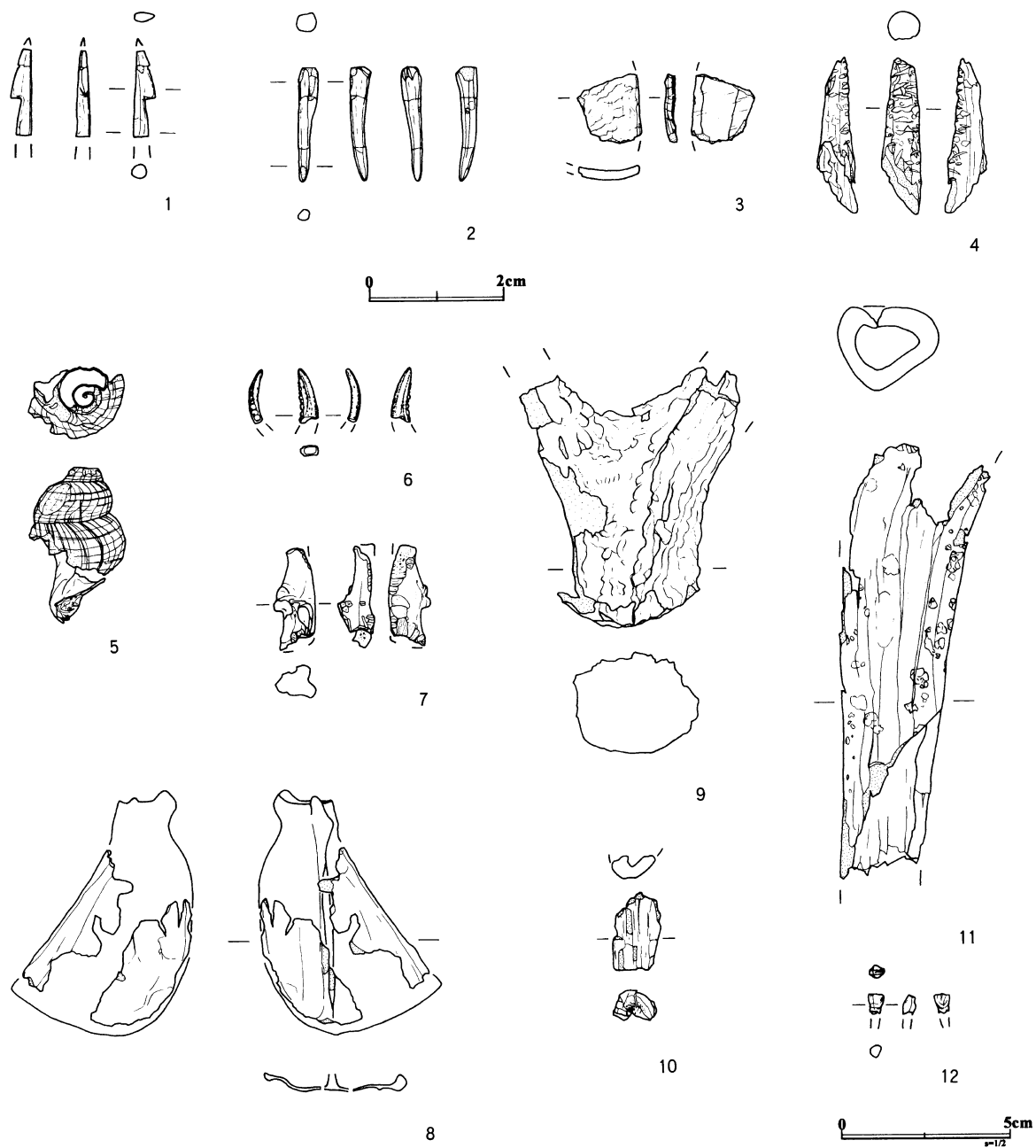
1～4は骨角器や骨角製品である。1はカワシンジユガイ集中 UKS - 3 付近から出土した。釣り針の針先と考えられる。先端はわずかに欠損しているが、かえしは明瞭に見られる。2は平地住居跡8の炉の上面から出土した骨針である。上端の頭部がよく調整され、側面も一部削られている。下端はとがっている。3はA地区南部の斜面にある UFP - 4 の周辺から出土した骨角製品。硬質で微細なひび割れがあり、被熱しているものと考えられる。わずかに湾曲し、内面に切断後磨りこんだ跡が観察される。11のような、動物の四肢骨が用いられているものと思われる。また内面全面に赤彩されており、内面の一部および側円には黒色の物質も塗布されている。用途は不明である。4は平地住居跡5の炉中の灰層から出土した、鹿角が加工された骨角製品。先端は欠損し下端は切断痕が明瞭である。表面に横位の刻み列を設けている。組み合わせ式の骨角製品と考えられる。

5～12は焼土群などから出土した自然遺物の例である。5は残存状況の良いエゾバイ科。6はクモガニの指節。鋏の上部分以外の部位は確認できなかった。7・8はイヌ科。7はキツネの踵骨で、ネズミと思われる歯形があり、縦横から齧っている様子がうかがえる。8はキツネまたはタヌキの肩甲骨とみられる。9・10は鹿骨。9は平地住居跡8の東側、「神窓」の外にあたる位置から出土したものである。10は切断痕がある。11はシカと思われる脛骨。臼歯とみられる歯型が複数残っており、ヒトまたは何らかの動物が噛んだ跡と推定される。12はヒトの下顎切歯。乳幼児の脱落歯または成人の歯根部がなくなったもののいずれかとみられる。

(阿部)

表IV - 34 フローテーションほか検出掲載遺物一覧

挿図番号	掲載番号	写真図版	試料番号	遺構	層位	点数	種別	分類	部位	大きさ (cm)			重さ (g)	備考
										長さ	幅	厚さ		
図IV - 27	1	図版58	オ2 - 233	UKS - 3		1	骨角器	釣り針	針先	1.3	0.3	0.2	0.0	
図IV - 27	2	図版58	オ2 - 052	USD8 - fp1	上面	1	骨角器	骨針		1.7	0.3	0.3	0.0	
図IV - 27	3	図版58	B - 075	(X - 124区)	III	1	骨角製品			2.1	1.9	0.3	1.0	
図IV - 27	4	図版58	B - 001	USD5 - fp4	灰	1	骨角製品			4.6	1.2	1.2	2.1	
図IV - 27	5	図版56	Sh - 157	UFP - 34	3	1	自然遺物	エゾバイ科		4.6	2.9	2.4	2.7	
図IV - 27	6	図版56	B - 055	UFP - 33	2	1	自然遺物	クモガニ	指節	1.7	0.6	0.3	0.1	
図IV - 27	7	図版58	B - 027	UFP - 6	F + A①	1	自然遺物	キツネ	踵骨	3.0	1.3	1.1	0.8	
図IV - 27	8	図版58	B - 027	UFP - 6	F + A①	1	自然遺物	イヌ科	肩甲骨	5.3	5.2	0.4	0.8	
図IV - 27	9	図版58	B - 004	USD - 8		1	自然遺物	シカ	角	7.8	6.6	3.0	31.4	
図IV - 27	10	図版58	B - 008	USD - 9		1	自然遺物	シカ	角	2.3	1.5	1.3	1.7	切痕あり
図IV - 27	11	図版58	B - 035	UFP - 9	F + A	1	自然遺物	シカ	脛骨	13.9	4.3	2.6	20.0	
図IV - 27	12	図版58	オ2 - 218	UFP - 33	A	1	自然遺物	ヒト	切歯	0.6	0.5	0.4	0.1	小児



図IV - 27 骨角器・動物遺存体

付・溝 (UD - 1) (図IV - 28)

位置 : U - 125・126、V・W - 125、X - 124・125、Y - 123・124、Z - 122・123、Z1 - 121

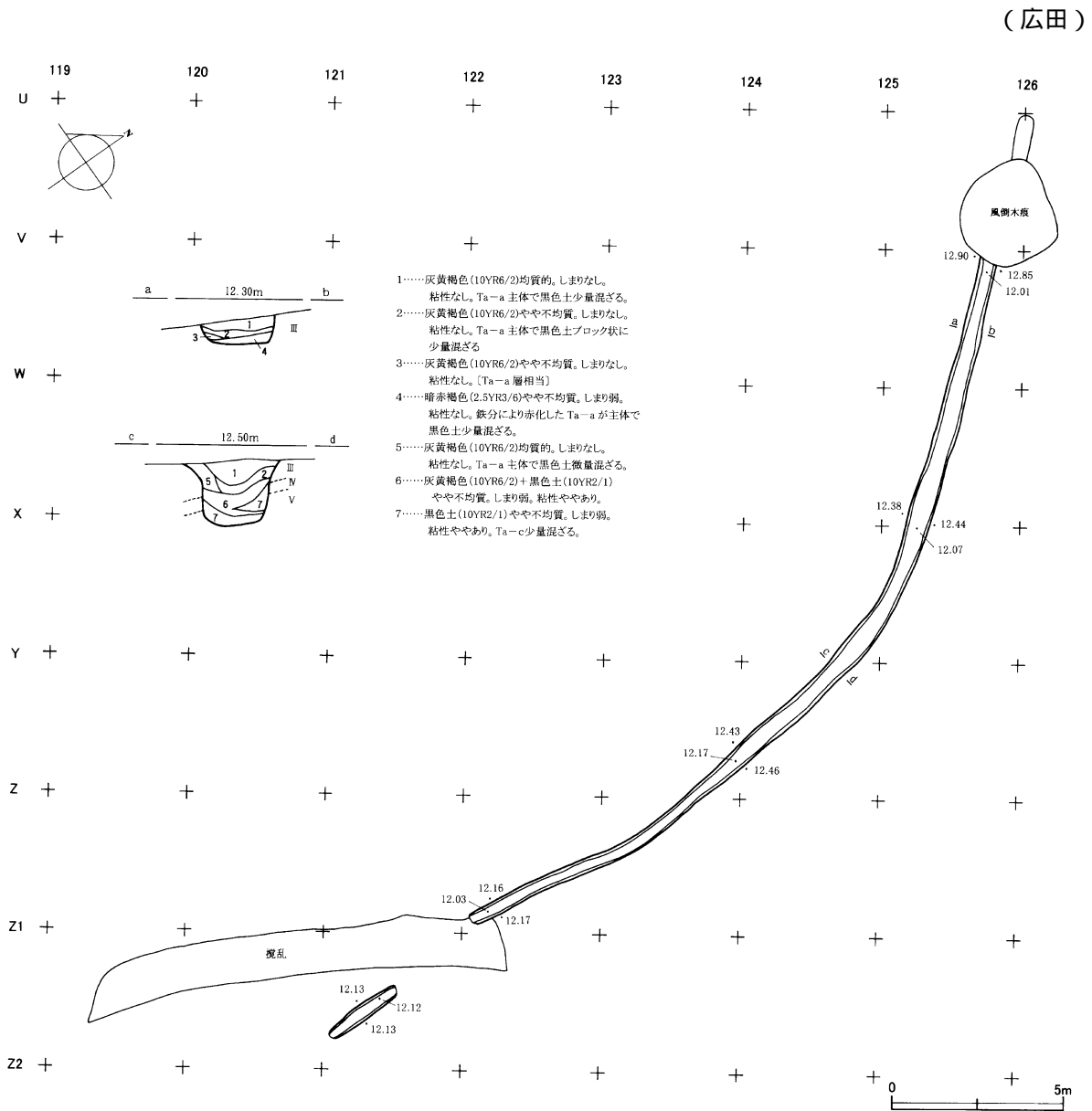
標高 : 12.1 ~ 12.9m付近

確認・調査・土層 : III層上面の調査区南西側の斜面部において、溝状に Ta - a の広がりを確認した。そのため、土層観察用のベルトを4ヶ所設定した後、掘り下げを行い、溝跡であることが判明した。斜面にほぼ平行しており、北側は風倒木痕、南側は削平により部分的に壊されている。覆土は Ta - a 主体で黒色土が少量混ざる。

底面・壁 : 溝の幅は0.6~0.7m、深さは最大で0.4mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 : 遺物は出土していない。

時期 : Ta - a 降下 (1739年) 以降。



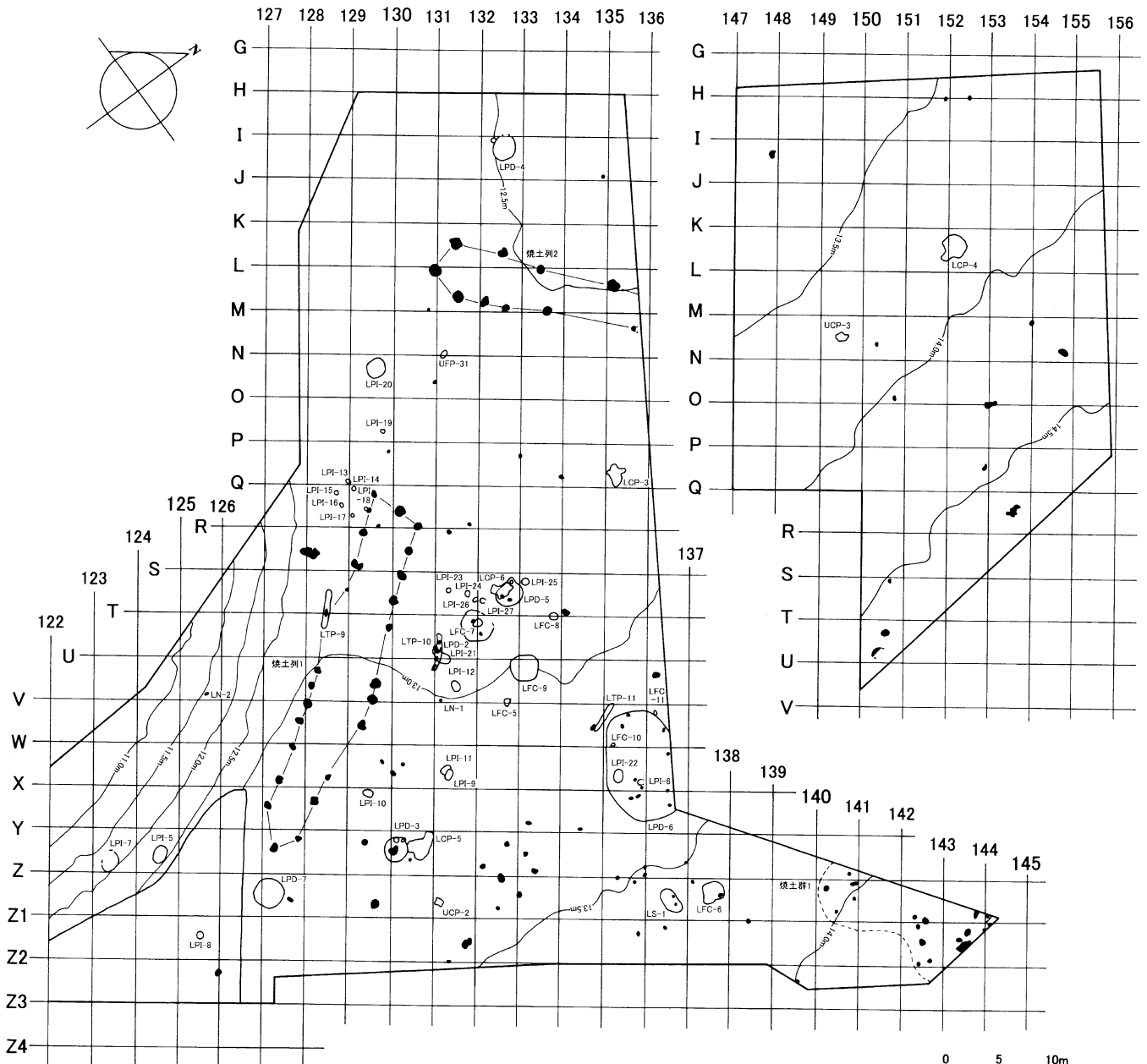
図IV - 28 溝 [UD - 1]

V 縄文時代の遺構とその遺物

V 縄文時代の遺構とその遺物

1. 概要 (図V-1)

縄文時代の遺構は、A地区とC地区合わせて、竪穴住居跡6軒、土坑23基、Tピット3基、焼土134カ所、土器集中6カ所、フレイク集中7カ所、集石1カ所、粘土集中2カ所が検出されている。その内、焼土に関しては列状に配置されたもの(焼土列)が2カ所、近接した場所での焼土の集中(焼土群)が1カ所認められる。縄文時代の遺構の多くはV層で検出されたが、Ⅲ層で焼土1カ所(UFP-32)と土器集中2カ所(UCP-2・3)が検出されている。V層で検出された遺構の時期は縄文時代中期が主体で、竪穴住居跡、土坑、焼土、フレイク集中の多くはこの時期のものである。また、早期の土坑、焼土も少数認められた。Ⅲ層で検出された焼土と土器集中の時期は縄文時代晩期である。



図V-1 縄文時代の遺構位置図

遺構の多くはA地区に分布し、C地区の遺構は焼土13カ所と土器集中2カ所のみである。A地区の遺構は標高13m前後の平坦面に多く分布し、特に中央付近で竪穴住居跡、土坑、フレイク集中等が密に検出された。また、調査区北西側と南西側の斜面部は遺構の分布が比較的希薄である。

遺構出土の遺物は土器約4,971点、石器等約44,818点の計約49,789点出土している。竪穴住居や土坑、Tピットに伴うと考えられる遺物は少量で、大部分は覆土中から出土している。土器はⅢ群b-1類が最も多い。石器等は道具類が非常に少なく、約44,818点中、44,391点がフレイクである。フレイクはフレイク集中(LFC)出土のものが約7割を占めている。(広田)

2. 竪穴住居跡 (図V-2~14、表V-8~11、図版22~29・61~63)

(1) 竪穴住居跡2〔LPD-2〕

位置：S-131・132 T-131・132 標高12.70m付近の平坦面上に位置する

規模：3.02m / 2.51m × (1.96m) / (1.73m) × 0.40m

平面形：楕円形 床面積：(4.7) m²

確認・調査・土層：S・T-132区にかかる現代の攪乱を除去した所、その南側の断面で覆土状の土の落ち込みと焼土を確認した。遺構を想定して、V-2層上面で精査を行ったところ、円形の黒色土の広がりを検出した。広がりの中央付近を通るようにトレンチを設け、調査を行った結果、床面を検出し竪穴住居跡であることが判明した。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを十字に設定し、Ⅵ・Ⅶ層を含む黒褐色土を掘り下げた。北側は攪乱により壊されている。遺物は約3cm以下の小形の土器、石器等は覆土一括で取上げ、3cm以上の大形の場合は地点計測を行った後、取上げた。床面直上~床面にかけて出土した遺物は原則的に地点計測を行っている。また、覆土中から焼土を2カ所(LFP-51・52)検出したが、本遺構廃棄後の埋没過程で投げ込まれたものと考えられる。

覆土は一部乱れているが、自然堆積と考えられる。12層からなり、ほとんどがV層を主体とした暗褐色~黒色の土層で、9層のみⅦ層を主体としている。また、南東側に堆積する6・10・11層は炭化物を少量含む。

床面：Ⅶ層をわずかに掘り込んで構築されている。形状はほぼ平坦で、やや硬質である。

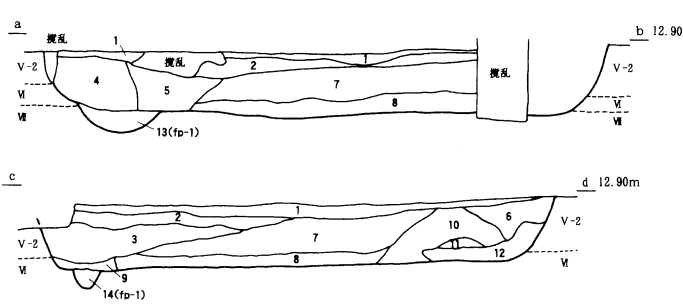
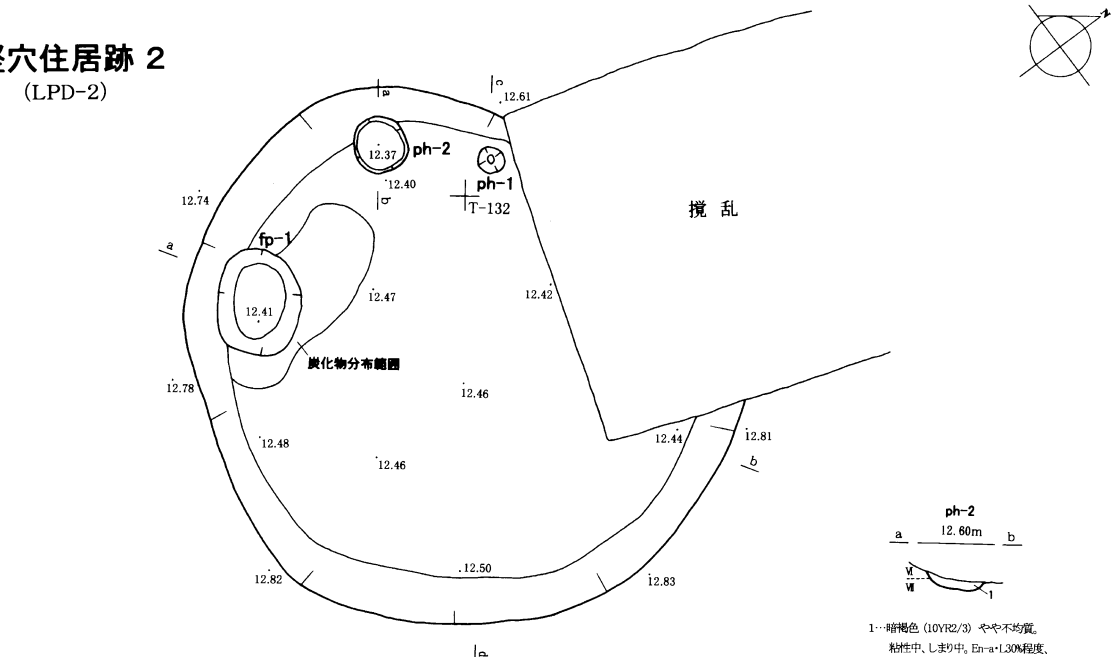
壁：立ち上がりはややゆるやかに傾斜する。壁高は約40cmである。

付属構築物：〔炉跡〕床面南西部の壁際の約60cm × 40cmの範囲で、深さ約10cmの掘り込みをもつ不整楕円形の落ち込み(fp-1)が検出されている。覆土に焼土、炭化物を含むが、底面の被熱は認められないため、炉かどうかは不明である。また、周辺にはうすい炭化物の広がりが検出されている。

〔付属ピット〕小形のピットが2個検出されている。床面北西部の壁際に位置する。平面形は不整の円形で、深さは6~10cmと浅い。性格は不明だが、規模や位置から考えると柱穴の可能性もある。

遺物出土状況：出土遺物数は、土器等366点、石器等2,748点の計3,114点である。土器の内訳は、Ⅲ群b-1類350点、Ⅰ群b類6点、石器等は、石鏃3点、石槍1点、両面調整石器5点、石錐1点、スクレイパー4点、Rフレイク9点、Uフレイク2点、フレイク2,696点、石核2点、磨製石斧2点、たたき石1点、焼け礫2点、礫18点、軽石1点である。土製品は三角形土製品が7点、その他の土製品が3点の計10点出土している。また、旧石器時代のものと考えられるフレイクが1点出土している。土器ではⅢ群b-1類、石器ではフレイクが多く、どちらも98%以上を占める。剥片石器の石材はほぼ全て黒曜石で、fp1から頁岩製のフレイクが1点出土している。黒曜石は黒曜石7・8が主体で、黒曜石1・6が少量ある。

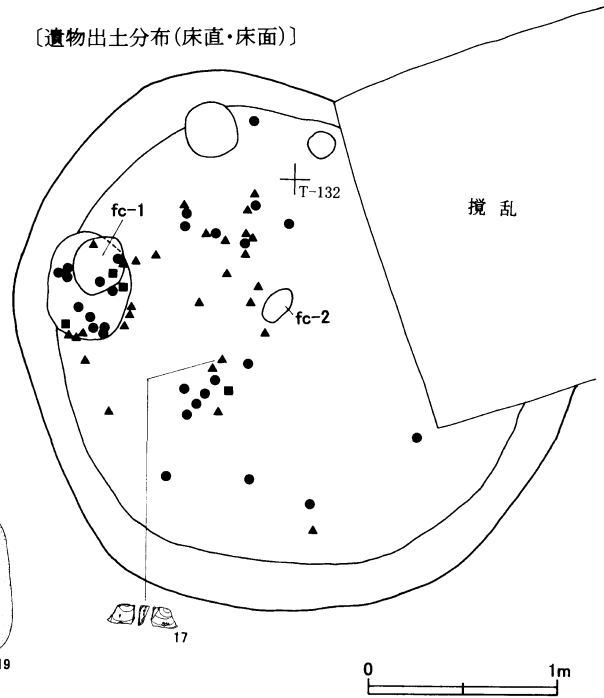
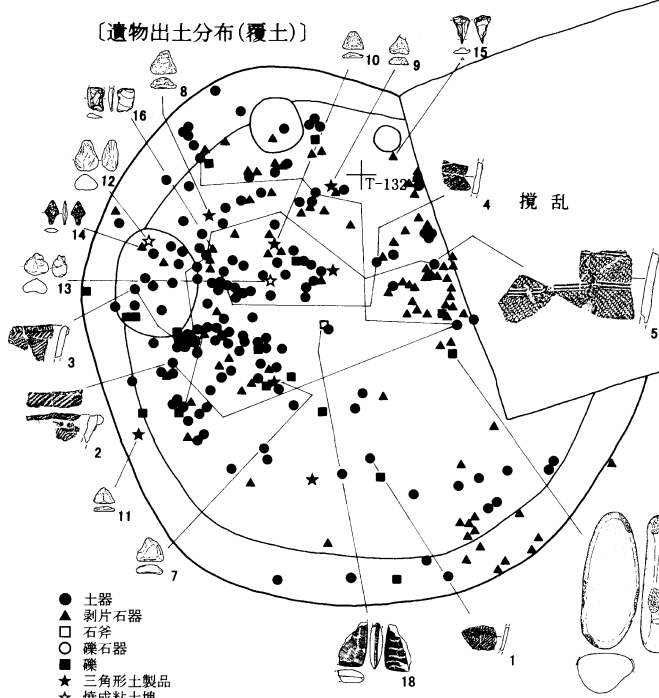
竪穴住居跡 2
(LPD-2)



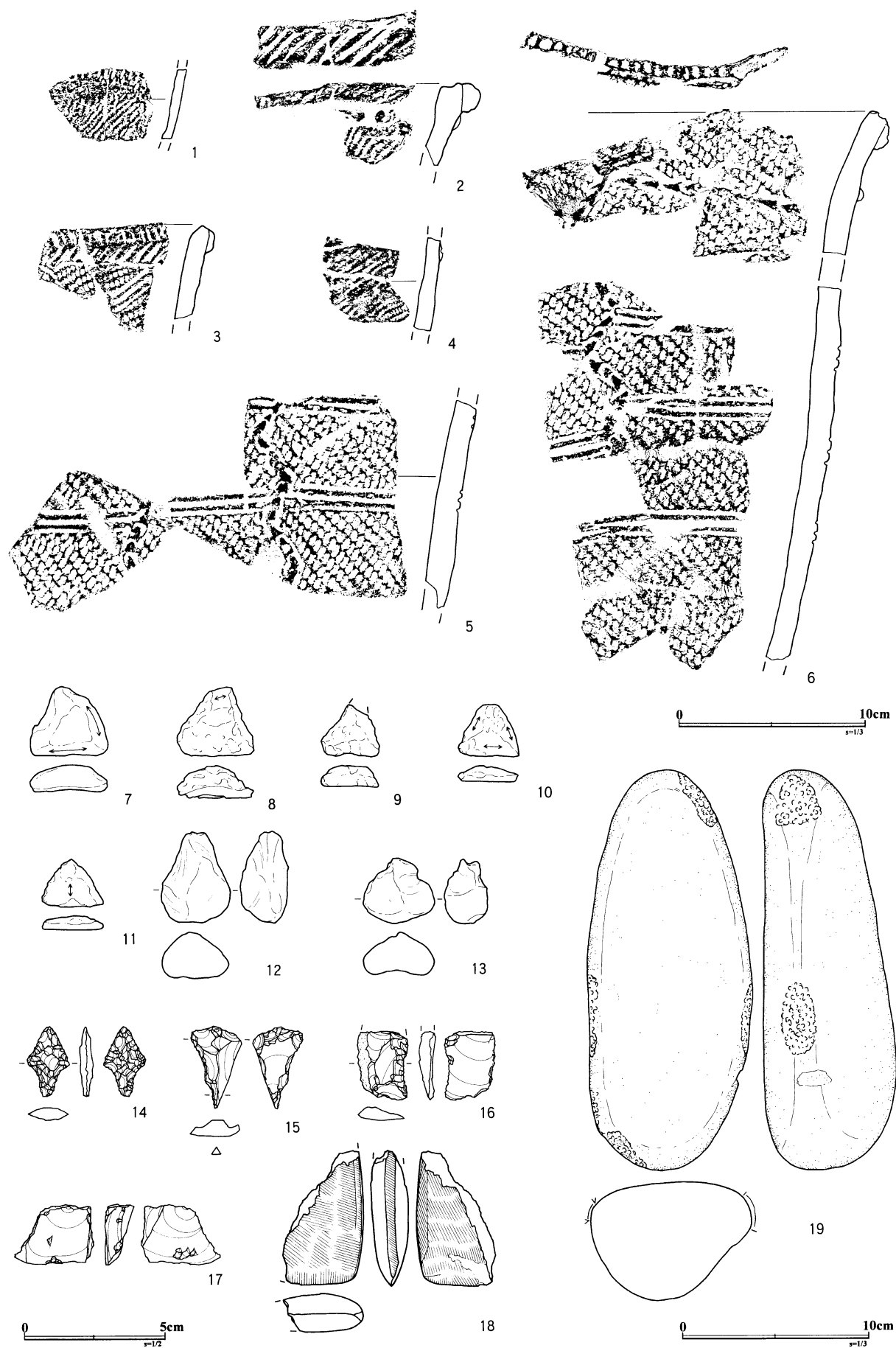
- 1…黒色 (10YR2/1) 粘性中、しまり中、Ta-c 少量含む。 [V-2層相当]
- 2…黒色 (10YR2/1) 粘性中、しまり中、En-a-L 少量含む。 [V-2層相当]
- 3…黒褐色 (10YR2/3) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P10%程度含む。
- 4…黒色 (10YR2/1) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量含む。
- 5…暗褐色 (10YR3/3) 粘性中、しまり中、En-a-L40%、En-a-P少量含む。 [VI層相当]
- 6…黒褐色 (10YR2/3) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量含む、炭化物2%程度含む。
- 7…黒褐色 (10YR2/2) 粘性中、しまり中、En-a-L40%、En-a-P少量含む。
- 8…黒褐色 (10YR2/3) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P20%程度含む。
- 9…褐色 (10YR4/4) 不均質、粘性やや強、しまりやや強、En-a-L50%程度含む。
- 10…暗褐色 (10YR3/3) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量、炭化物1%程度含む。
- 11…暗褐色 (10YR3/3) 粘性中、しまり中、En-a-L35%、En-a-P少量、炭化物1%程度含む。
- 12…黒褐色 (10YR2/2) 粘性中、しまり中、En-a-L20%、En-a-P10%程度含む。
- 13(fp-1)…暗褐色 (10YR3/3) 粘性中、しまり中、En-a-L10%程度、En-a-P微量含む、焼土粒5%、炭化物2%程度含む。
- 14(ph-1)…黒褐色 (10YR3/2) 粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P10%程度含む。

〔遺物出土分布(覆土)〕

〔遺物出土分布(床直・床面)〕



図V-2 竪穴住居跡2〔LPD-2〕



図V - 3 竪穴住居跡2出土の遺物

床面および床面直上出土の遺物は、土器は54点で、内訳はⅠ群b類3点、Ⅲ群b-1類51点である。石器は1650点で、内訳は石鏃1点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、石核1点、フレイク1643点、焼け礫1点、礫2点出土している。分布は覆土、床面共に西側がやや密である。また、fp-1にほぼ重なってフレイク集中(fc-1)が検出されている。フレイクは床面のfc-1出土のものがほとんどである。

掲載遺物：〔土器等〕 1は縄文早期、2～6は縄文中期に属し、7～13は土製品である。

1はⅠ群b類。短縄文押捺がみられる。住居跡覆土に混入したものとみられる。2・4はⅢ群b類の同一個体。明黄褐色を呈する。肥厚する口唇部分に斜方向に刻みが施されており、剥離していた肥厚帯が接合している。北筒式と思われる。3・5・6は天神山式で、うち5・6は同一個体。3・5・6とも、半截竹管状施文具により刻み・沈線・押引文が施されている。6の隆帯は鋸歯状に垂下し、それぞれ屈曲点から平行沈線が施されている。口唇上は刻みと1本の沈線がめぐっている。なお、5・6は周辺の発掘区や30mほど低地側に離れた発掘区のほか、焼土列2のLFP-61・70から出土した破片とも接合している。各片とも色調に若干の差がある。

7～11は三角形土製品。Ⅲ群b類の土器片が用いられている。三辺を斜方向に磨りこんでいる。7・8は土器片の表面が残存している。12・13は焼成粘土塊。一端は引きちぎったような跡がみられる。

〔石器〕17は床面出土で、他は覆土出土である。14～17は剥片石器である。石材は黒曜石7ないし8で、赤井川産の黒曜石と考えられる。14はほぼ三角形の有茎石鏃である。左右はやや非対称で断面形はやや厚みのあるレンズ状を呈する。15は石錐。主要剥離面を背面に大きく残している。主に左側縁に二次加工が施され、尖端部を作り出している。16はスクレイパー。上部を欠失している。表面左側縁に礫面を残し、円礫から剥がした縦長剥片を素材としている。右側縁に連続した調整を加え、鋭角な刃部を作り出している。17は石核。上部と左側面に礫面を残す。作業面は表・裏・右側面で、表・裏面の打面は上で、側面の打面は横である。

18は磨製石斧。基部から刃部にかけて大きく欠失している。両刃で全面に丁寧な研磨が施される。鎬は不明瞭である。石材は蛇紋岩ないしロジン岩と考えられる。

19はたたき石。やや大形の棒状の礫の両端部及び側面に部分的な敲打痕が観察される。

重複・新旧関係：他遺構と重複していない。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式(Ⅲ群b-1類土器)の時期と考えられる。

本遺構は北側が一部攪乱により削平されているが、竪穴住居と考えられる。また、南西壁際で焼土、炭化物を含む落ち込み(fp-1)が検出されているが、炉かどうかは不明である。柱穴の可能性のあるピットが壁際に近接して2個(ph-1・2)検出されているが、柱穴全体の配置、上屋構造等は不明である。また、覆土中から投げ込まれたと考えられる焼土が2カ所(LFP-51・52)検出されている。性格は、覆土から床面にあるフレイク集中(fc-1)から多量のフレイクが出土しているため、居住の場であると共に石器の加工の場だったと考えられる。(広田)

(2) 竪穴住居跡3〔LPD-3〕

位置：Y-129・130 標高13.0m付近の平坦面上に位置する

規模：2.39m / 1.79m × 2.02m / 1.47m × 0.24m

平面形：不整円形 床面積：2.2m²

確認・調査・土層：Y-130区のⅥ層上面で周辺を含めて精査を行ったところ、円形の黒色及び暗褐色土の広がりを確認した。遺構を想定して、まとまりの中央付近を通るようにトレンチを設け、調査

を行った結果、床面を検出し、竪穴住居跡であることが判明した。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを十字に設定し、Ⅵ・Ⅶ層を含む黒褐色土の覆土を掘り下げた。遺構の主体部分のある Y - 130区はⅥ層上面まで掘り下げたため、床面近くで検出したが、Y - 130区はⅤ - 2層中位から調査を行った。遺物は約3cm以下の小形の土器、石器等は覆土一括で取上げ、3cm以上の大形のものは地点計測を行った後、取上げた。床面直上～床面にかけて出土した遺物は原則的に地点計測を行っている。また、覆土中から焼土を1ヵ所(LFP - 25)検出したが、本遺構廃棄後の埋没過程で投げ込まれたものと考えられる。

覆土は自然堆積と考えられる。10層からなり、Ⅴ層を主体とした上位の黒色～黒褐色の土層(1～4層)とⅦ層を主体とした暗褐色の土層(5～10層)からなる。また7層のみ炭化物を少量含む。床面：Ⅶ層をわずかに掘り込んで構築されているが、東側はほぼⅦ層上面が床面となる。形状は平坦で、やや軟質である。

壁：立ち上がりは全体的にゆるやかに傾斜する。壁高は最大24cmである。

付属構築物：〔炉跡〕床面北西部の壁際で約50cm×46cmの範囲で、深さ約10cmの掘り込みをもつ不整形の落ち込みが検出されている。覆土に焼土、炭化物を含むが、底面の被熱は認められないため、確実に炉かどうかは不明である。また、床面東部で広い範囲で炭化物が薄く検出されている。

〔付属ピット〕やや大形のピットが1個(ph - 4)小形のピットが3個(ph - 1～3)計4個検出されている。いずれも北側にあり、ph - 1・2は竪穴外に位置し、ph - 4は竪穴外に張り出す。平面形は不整形で、深さはph - 1・3が20cmを越え、ph - 2・4は約10cmとやや浅い。性格は規模、位置から考えるとph - 1～3は柱穴の可能性が高い。また、ph - 4の性格は不明である。

遺物出土状況：出土遺物数は、土器374点、石器など4,406点の計4,780点である。土器の内訳は、Ⅲ群b - 1類369点、Ⅰ群b類4点、Ⅴ群c類1点、石器等は、石鏃3点、両面調整石器3点、スクレイパー1点、Rフレイク6点、フレイク4,380点、磨製石斧1点、礫6点である。土製品は三角形土製品が5点出土している。また、旧石器時代のものと考えられるフレイクが1点出土している。剥片石器の石材はほぼ全て黒曜石で、覆土から凝灰岩?製のフレイクが1点出土している。黒曜石は黒曜石7・8が主体で、黒曜石1が少量ある。また、覆土7層からⅢ群b - 1類土器がややまとまって出土している。

床面および床面直上出土の遺物は、土器は25点で、内訳はⅠ群b - 4類1点、Ⅲ群b - 1類24点である。石器等は41点で、内訳は両面調整石器1点、スクレイパー1点、Rフレイク4点、フレイク34点、礫1点である。土製品は三角形土製品が3点出土している。分布は、覆土は西側、床面は北側と南側がやや密である。また、北側で覆土から床面にかけてフレイク集中(fc - 1)が検出されており、土壌ごと取上げて水洗選別したものも含めて、フレイクが4,163点出土している。

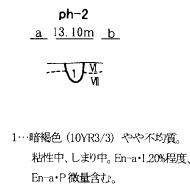
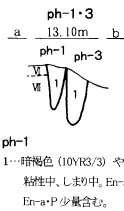
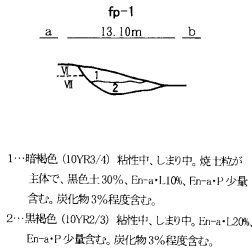
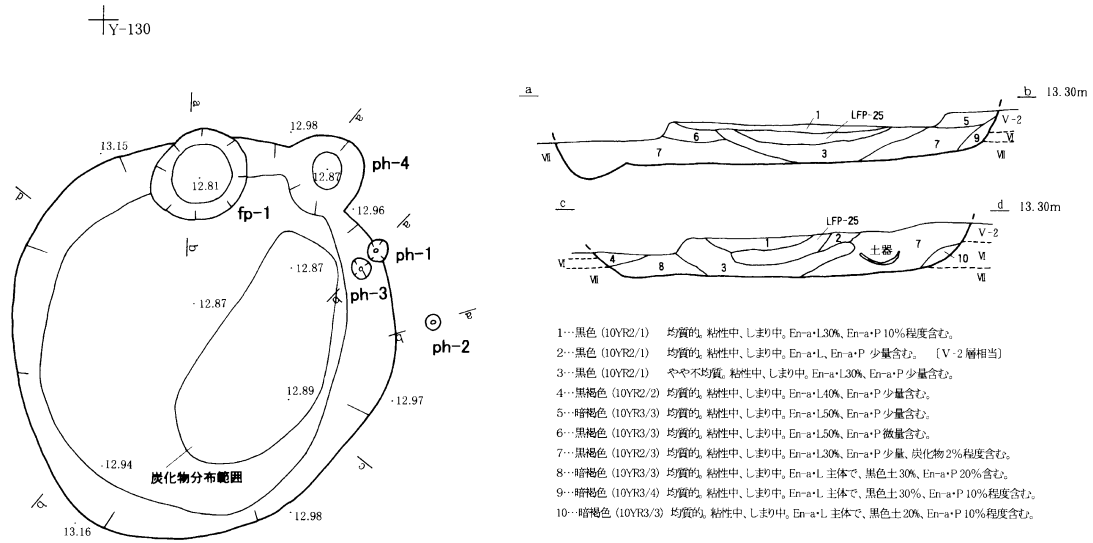
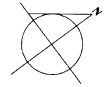
掲載遺物：〔土器等〕 1～3は縄文中期に属し、4～8は土製品である。

1はⅢ群b - 1類天神山式。炉の周辺から出土した大型破片である。表面は明褐色で強く被熱しているようにみられ、ざらついている。胴部くびれの部分が細かく剥離している。4単位の波状口縁の深鉢で、口縁部の器壁が厚い。肥厚する口唇上や口縁～胴部の隆帯上に半截竹管状施文具により刻み(沈線)が連続して施されている。2・3は半截竹管状施文具により隆帯上に押引文が施されている。

4～8は三角形土製品。Ⅲ群b類の土器片が用いられている。すべて三角錐状に三辺を斜方向に磨りこんでいる。4・7は特に丁寧に磨りこまれている。

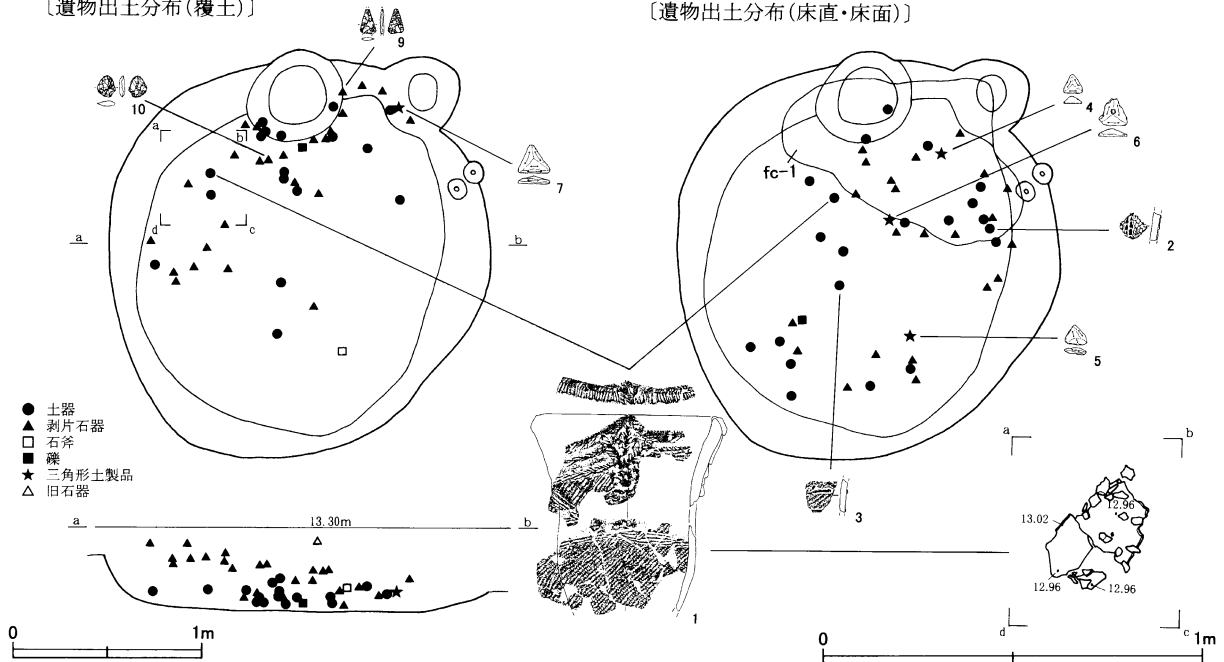
〔石器〕図示したのは2点でどちらも覆土出土である。9は石鏃である。先端部と基部を欠失するため形態は不明だが木葉形ないし菱形の可能性がある。10は両面調整石器。形状、二次加工は石鏃に

竪穴住居跡 3
(LPD-3)

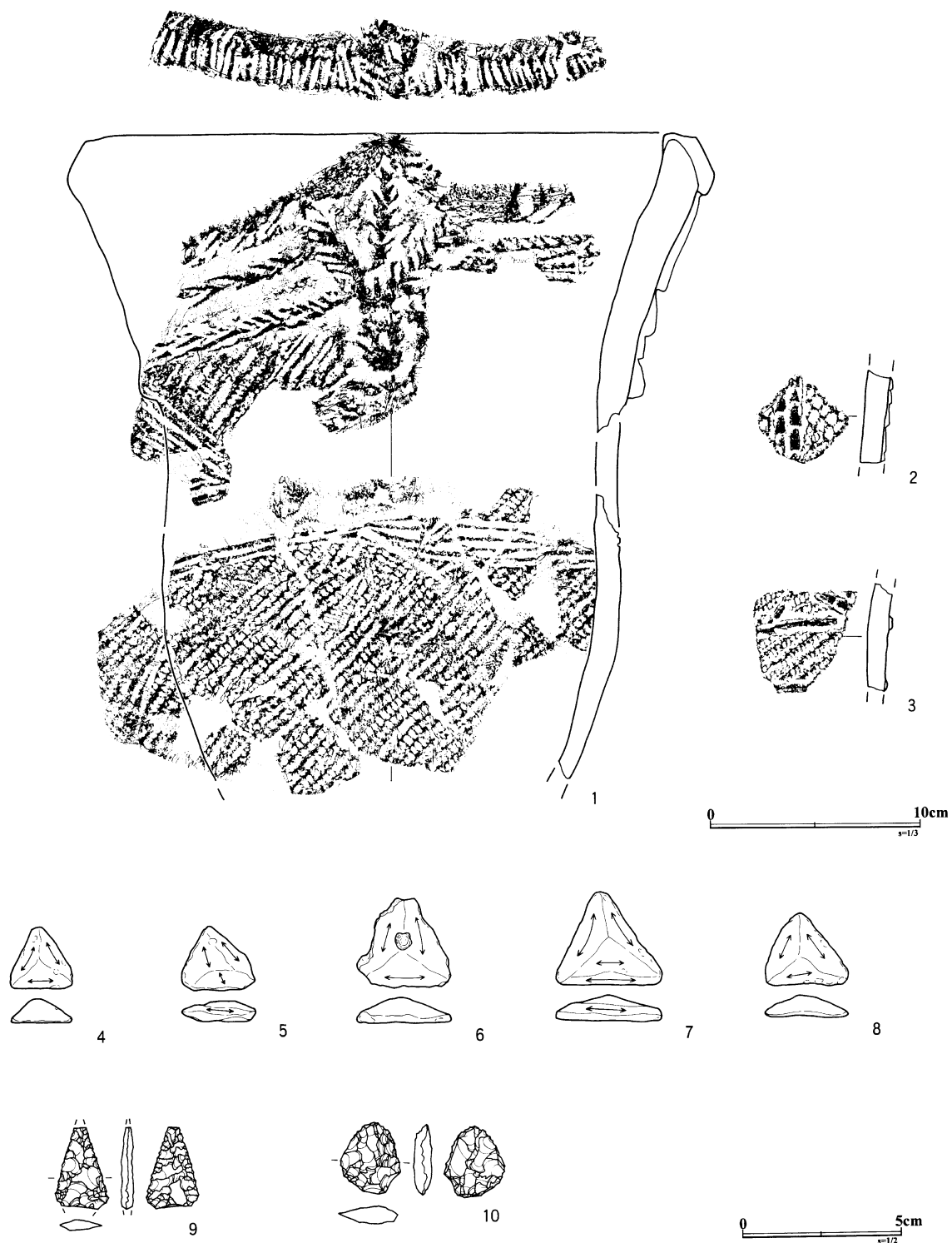


〔遺物出土分布(覆土)〕

〔遺物出土分布(床直・床面)〕



図V-4 竪穴住居跡3〔LPD-3〕



図V - 5 竪穴住居跡3出土の遺物

似ており、石鏃未製品の可能性がある。表面右側縁に大きな剥離面を残す。石材は黒曜石7で、赤井川産の黒曜石と考えられる。

重複・新旧関係：他遺構と重複していない。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式（Ⅲ群b-1類土器）の時期と考えられる。

本遺構は小形で浅い竪穴住居と考えられる。また、北西壁付近で焼土、炭化物を含む落ち込み（fp-1）が検出されているが、炉かどうかは不明である。柱穴の可能性があるピットが壁～壁外に近接して3個（ph-1～3）検出されているが、柱穴全体の配置、上屋構造等は不明である。また、覆土中から投げ込まれたと考えられる焼土が1ヵ所検出されている。性格は、覆土から床面にかけて検出されたフレイク集中（fc-1）から多量のフレイクが出土しているため、居住の場であると共に石器の加工の場だったと考えられる。（広田）

(3) 竪穴住居跡4〔LPD-4〕

位置：H・I-132 標高12.20m付近の平坦面上に位置する

規模： m / (2.18m) × m / (2.07m) × 0.05m

平面形：不整形円形？ 床面積： m²

確認・調査・土層：I-132区のⅥ層下位でⅢ群b-1類土器がややまとまって確認されたため、周辺の精査を行ったところ、わずかに黒褐色土の広がりを確認した。遺構を想定して、まとまりの中央付近を通るようにトレンチ調査を行ったところ、明瞭な床面は確認できなかったものの遺物及び炭化物の広がりを検出したため遺構と判断した。その後、トレンチ沿いに土層観察用のベルトを十字に設定し、Ⅵ・Ⅶ層を含む黒褐色土を掘り下げ、精査を行ったところ、西側で焼土の広がりを確認したため、竪穴住居と判断した。ほぼ床面で確認したため、床面の範囲及び壁は明瞭に確認することはできなかった。遺物は約3cm以下の小形の土器、石器等は覆土一括で取上げ、3cm以上の大形のものには地点計測を行った後、取上げた。床面直上～床面にかけて出土した遺物は原則的に地点計測を行っている。

覆土は自然堆積と考えられる。竪穴の覆土は1層のみで、Ⅴ層の土が主体でⅦ層の土が混ざる土層である。

床面：Ⅵ層中位が床面となる。全体的に平坦だが、やや凹凸が認められ、比較的軟質である。

壁：床面付近で検出したため立ち上がりの形状ほかは不明である。

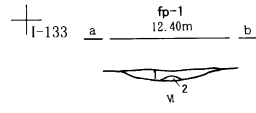
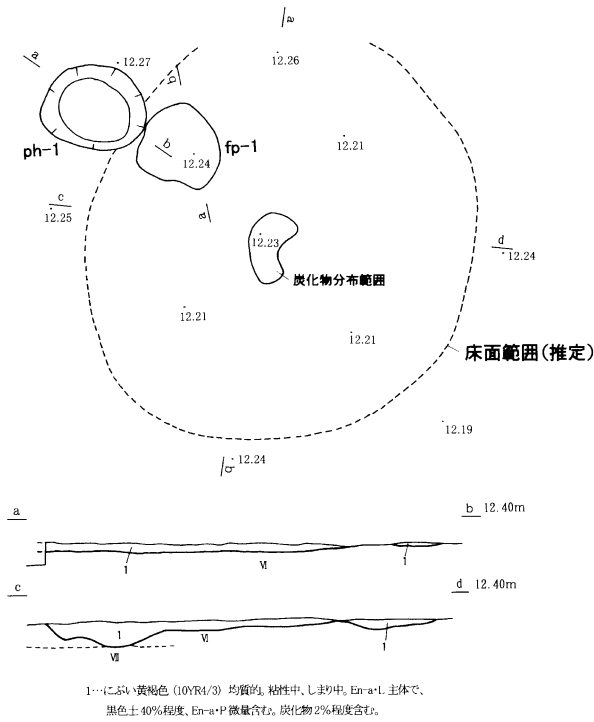
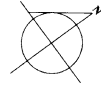
付属構築物：〔炉跡〕床面西部の壁際で約44cm×42cmの範囲で、焼土、炭化物の混ざった黒褐色土の広がりが検出された。下部で薄く被熱した赤褐色の範囲が確認されており、炉跡の可能性がある。また、床面ほぼ中央で薄い炭化物の広がりが検出された。

〔付属ピット〕やや大形のピットが1個（ph-1）西側で検出されている。fp-1に近接し、床面の範囲外に位置すると考えられる。平面形は不整形円形で、規模は長軸54cm、短軸44cmで深さは約22cmである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。性格は不明である。

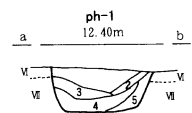
遺物出土状況：出土遺物数は、土器415点、石器等635点の計1,050点である。土器の内訳は、Ⅲ群b-1類409点、Ⅰ群b類5点、Ⅲ群b類1点である。石器等は、石鏃2点、スクレイパー1点、Rフレイク4点、Uフレイク1点、フレイク607点、礫11点である。土製品は三角形土製品が9点出土している。土器ではⅢ群b-1類、石器ではフレイクが多く、どちらも95%以上を占める。剥片石器の石材は黒曜石7・8が主体で、黒曜石1・10が少量ある。

床面および床面直上出土の遺物は、土器は223点で、内訳はⅠ群b類2点、Ⅲ群b類1点、Ⅲ群b-1類220点である。石器等は186点で、内訳は石鏃2点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレ

竖穴住居跡 4
(LPD-4)



- 1...黒褐色 (10YR2/3) 焼土粒2%、炭化物1%程度含む。
- 2...赤褐色 (2.5YR3/6) VI層がわずく被覆。

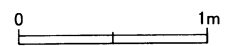
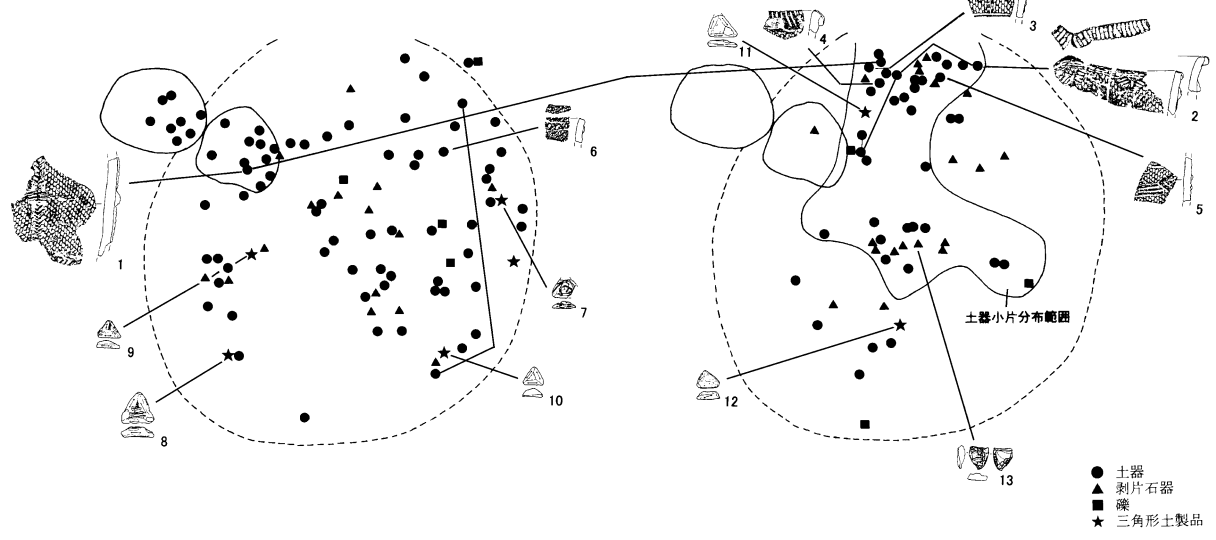


- 1...黒褐色 (10YR2/3) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L30%程度含む。
- 2...暗褐色 (10YR3/4) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L20%程度、En-a-P微量含む。
- 3...暗褐色 (10YR3/3) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L30%程度、En-a-P微量含む。
- 4...褐色 (10YR4/4) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L主体で、黒色土30%、En-a-P10%程度含む。
- 5...褐色 (10YR4/4) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L主体で、黒色土20%程度、En-a-P微量含む。

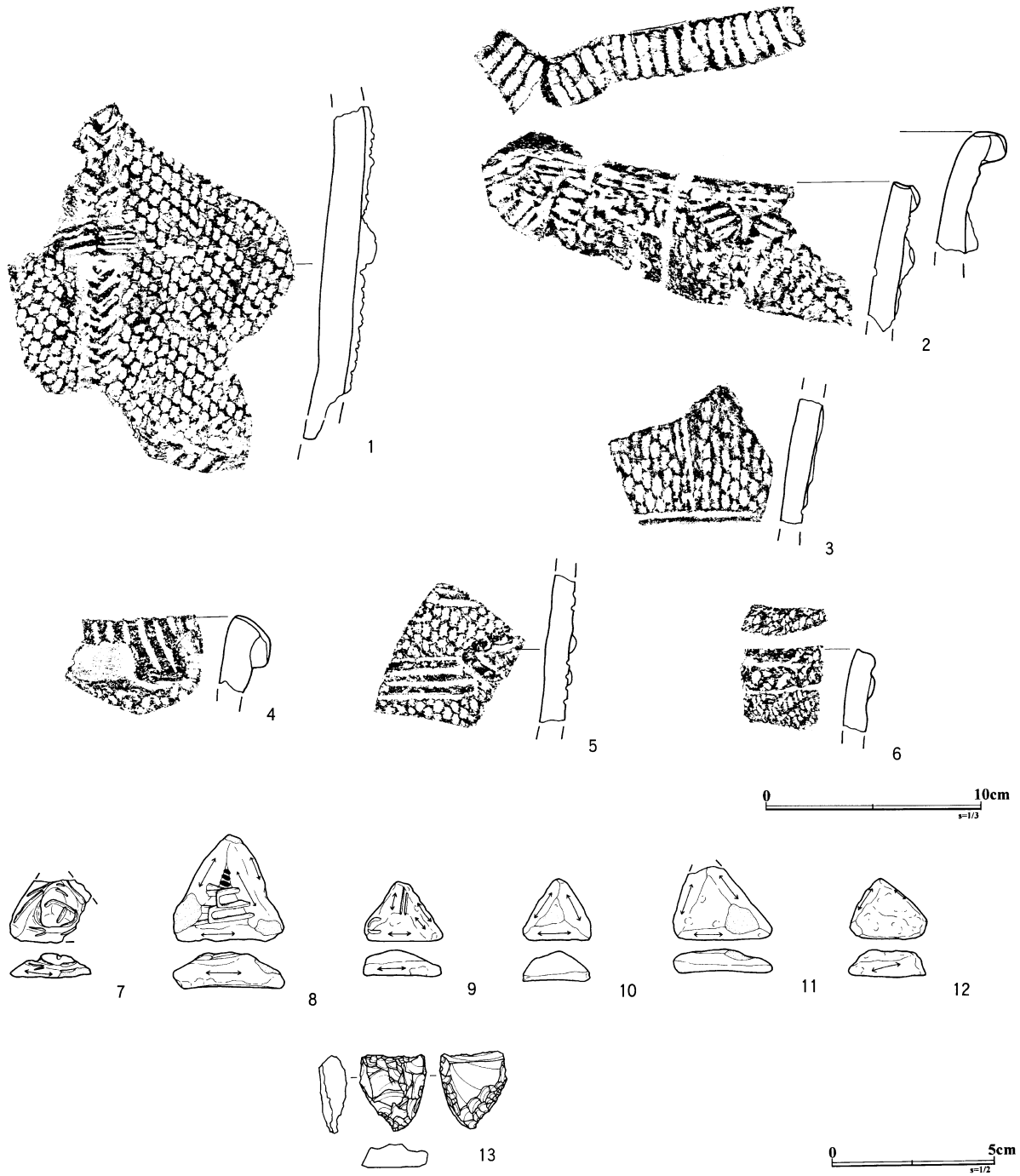
1...にぶい黄褐色 (10YR4/3) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L主体で、黒色土40%程度、En-a-P微量含む。炭化物2%程度含む。

〔遺物出土分布(覆土)〕

〔遺物出土分布(床直・床面)〕



図V - 6 竖穴住居跡 4〔LPD - 4〕



図V - 7 竪穴住居跡4出土の遺物

イク174点、礫6点である。土製品は三角形土製品が2点出土している。分布は、覆土は北東側、床面は北西部から南東側にかけてやや密である。また、床面で中央から北西側にかけて細かい土器片の集中が検出されている。

掲載遺物：〔土器等〕 1～6は縄文中期に属し、7～12は土製品である。

1～5はⅢ群b-1類天神山式。地文はすべて複節LRL縄文、文様は半截竹管状施文具で刻み・沈線・押引文が施されている。2・3は同一個体。床面に散在していたもの。肥厚する隆帯に刻み（沈線）を密に施している。5は半截竹管状施文具により刻み・沈線・押引文が施されているもので、隆帯は鋸歯状に垂下し、それぞれ屈曲点から平行沈線が施されている。6は太い帯状の隆帯が貼り付けられ、その上に縄端圧痕がある。Ⅲ群b-2類柏木川式に属するものであろう。

7～12は三角形土製品。Ⅲ群b類の土器片が用いられている。三角錐状に三辺を斜方向に磨りこんでいる。7は渦巻状に沈線がえがかれている。8・9は表面に文様（押引文）が残っている。10～12は表面も一部磨られている。

〔石器〕図示したのは1点のみである。13は床面出土のスクレイパー。主に裏面の縁辺部に二次加工が施され、裏面右側縁の下部に鋭角の刃部が作り出される。石材は黒曜石8で、赤井川産の黒曜石と考えられる。

重複・新旧関係：他遺構と重複していない。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式（Ⅲ群b-1類土器）の時期と考えられる。

本遺構は小形で浅い竪穴住居と考えられる。西壁際で炉と考えられる焼土（fp-1）が検出されているが、被熱は弱い。ピットが壁外で1個（ph-1）検出されているが、性格は不明である。

（広田）

（4） 竪穴住居跡5〔LPD-5〕

位置：S-132・133 標高12.60m付近の平坦面上に位置する

規模：2.55m / 2.23m × (2.18m) / 2.01m × 0.29m

平面形：不整楕円形 床面積：3.1m²

確認・調査・土層：S-132区のV-2層上面で周辺を含めて精査を行ったところ、円形の黒色及び黒褐色土の広がりを確認した。遺構を想定して、まとまりの中央付近を通るようにトレンチを設け、調査を行った結果、床面と焼土を検出し、竪穴住居跡であることが判明した。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを十字に設定し、Ⅵ・Ⅶ層を含む黒褐色土の覆土を掘り下げた。遺物は約3cm以下の小形の土器、石器等は覆土一括で取上げ、3cm以上の大形のは地点計測を行った後、取上げた。床面直上～床面にかけて出土した遺物は原則的に地点計測を行っている。また、覆土中から焼土を2カ所（LFP-46・47）検出したが、本遺構廃棄後の埋没過程で投げ込まれたものと考えられる。

覆土は一部乱れており、自然堆積ではない可能性もある。8層からなり、V層を主体とした黒色～黒褐色の土層である。また6・7層は炭化物を少量含む。

床面：Ⅶ層を掘り込んで構築されている。形状は平坦で、やや硬質である。

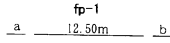
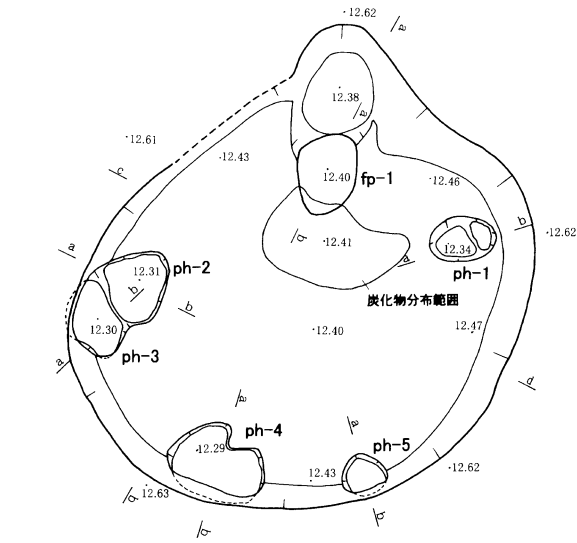
壁：立ち上がりは全体的にやや急だが、北側は比較的ゆるやかな傾斜である。壁高は最大29cmを測る。

付属構築物：〔炉跡〕床面北西部の壁際で約44cm×34cmの範囲で、深さ約8cmの掘り込みをもつ不整楕円形の落ち込みが検出されている。覆土に焼土、炭化物を含むが、底面の被熱は認められないため、炉かどうかは不明である。また、床面中央よりやや北西側で炭化物が薄く検出されている。

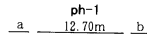
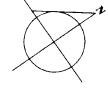
〔付属ピット〕ピットが5個（ph-1～5）検出されている。また、ピット番号は付けていないが、

竪穴住居跡 5
(LPD-5)

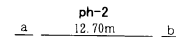
S-133



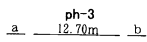
1…暗褐色 (7.5)R3/4 極土粒20%、炭化物3%程度含む。



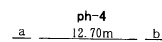
1…褐色 (10YR4/4) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L 主体で黒色土20%程度、En-a-P 微量含む。



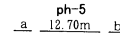
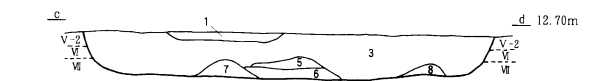
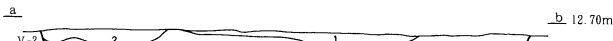
1…黒褐色 (10YR2/2) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L20%程度、En-a-P 微量含む。



1…暗褐色 (10YR3/3) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L20%程度、En-a-P 微量含む。



1…黒色 (10YR2/1) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L 少量、En-a-P 微量含む。

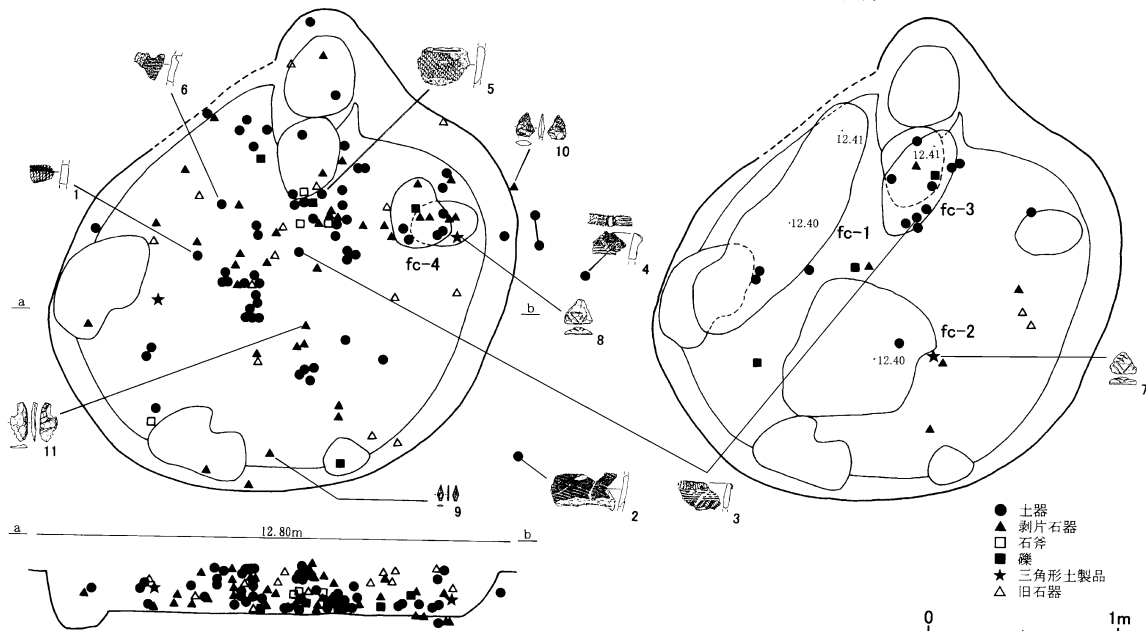


1…黒褐色 (10YR2/2) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L 10%、En-a-P10%程度含む。

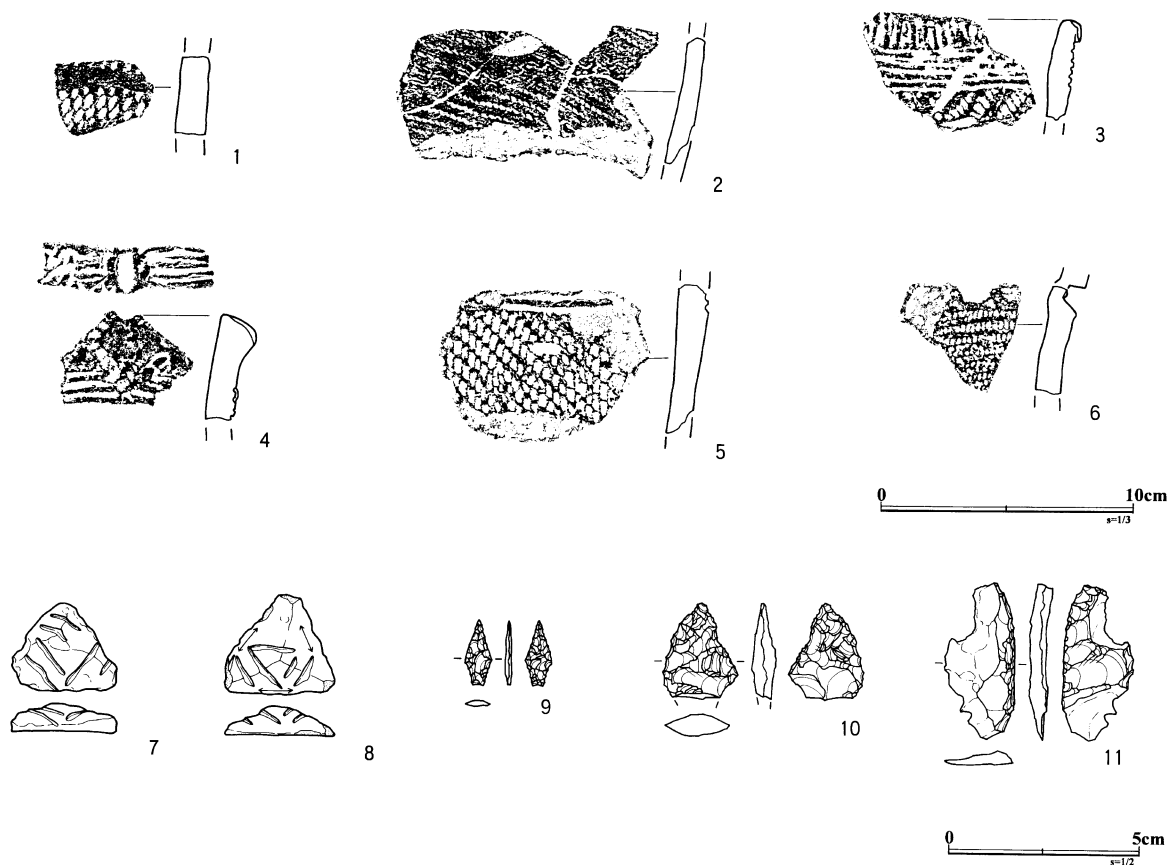
- 1…黒色 (10YR2/1) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L 微量含む。〔V-2層相当〕
- 2…黒褐色 (10YR2/2) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L20%程度含む。
- 3…黒褐色 (10YR2/2) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L20%程度含む。(2よりやや明るい)
- 4…黒褐色 (10YR2/2) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量含む。(2と4の間の明るさ)
- 5…暗褐色 (10YR3/3) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量含む。
- 6…黒褐色 (10YR2/3) 均質的、粘性中、しまり中、En-a-L20%、En-a-P少量含む。下部に炭化物少量含む。
- 7…黒色 (10YR2/1) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L10%、En-a-P少量含む。下部に炭化物少量含む。
- 8…暗褐色 (10YR3/4) やや不均質、粘性中、しまり中、En-a-L30%、En-a-P少量含む。

〔遺物出土分布(覆土)〕

〔遺物出土分布(床直・床面)〕



図V - 8 竪穴住居跡5〔LPD - 5〕



図V - 9 竪穴住居跡5出土の遺物

北西壁部分に竪穴外に張り出す、ごく浅い落ち込みが検出されている。平面形は ph - 2 ~ 4 が不整形で、ph - 1 が不整楕円形である。深さは ph - 2 が 8 cm とやや浅く、他は 10 ~ 14 cm を測る。ph - 1 は段状の構造で西側がやや深くなっている。ph - 2・3 は接しており、一個の可能性もある。ph - 4・5 は壁側がややオーバーハングしている。性格は平面形が不整形で、浅いものが多いため判断が難しいが、配置から考えると柱穴の可能性もある。

遺物出土状況：出土遺物数は、土器 315 点、石器など 2,069 点の計 2,384 点である。土器の内訳は、Ⅲ群 b - 1 類 282 点、Ⅲ群 b - 3 類 19 点、Ⅰ群 b - 4 類 11 点、Ⅰ群 b - 1 類 1 点、Ⅲ群 b 類 1 点、Ⅰ群 b 類 1 点である。石器等は、石鏃 5 点、両面調整石器 3 点、スクレイパー 3 点、R フレイク 8 点、U フレイク 1 点、フレイク 2,031 点、磨製石斧 4 点、礫 9 点である。土製品は三角形土製品が 3 点、不明 2 点が出土している。また、旧石器時代のもと考えられる細石刃やフレイクが 38 点出土している。剥片石器の石材はほぼ全て黒曜石で、頁岩製のスクレイパー 1 点と少量のフレイクが出土している。黒曜石は黒曜石 7・8 が主体で、黒曜石 1、10 が少量ある。黒曜石 3・4 は全て旧石器時代の石器である。

床面および床面直上出土の遺物は、土器は 37 点で、内訳はⅢ群 b - 1 類 35 点、Ⅲ群 b - 3 類 1 点、不明 1 点である。石器等は 438 点で、内訳は石鏃 4 点、R フレイク 1 点、フレイク 429 点、礫 3 点である。土製品は三角形土製品が 1 点出土している。分布は、覆土ではあまり偏らず全体的に出土している。床面もあまり偏りは認められないが、fc - 3 周辺がやや多い。また、フレイク集中が、覆土の北側で 1 ヲ所 (fc - 4)、床面中央から南西側にかけて 3 ヲ所 (fc - 1 ~ 3) の計 4 ヲ所確認されている。比較的密度は薄く、土壌ごと取上げて水洗選別したものも含めて、フレイク、石鏃、R フレイクが計 206 点出土している。

掲載遺物：〔土器等〕 1・2 は縄文早期、3 ~ 6 は縄文中期に属し、7・8 は土製品である。

1 は東釧路Ⅲ式、2 は東釧路Ⅳ式。ともに住居跡覆土に混入したものとみられる。3 ~ 5 は天神山式。3・4 は肥厚する口唇上に刻み（沈線）が施されている。4 は波状口縁波頂部にくぼみを設けている。6 は口唇部が欠損しているが、深い円形刺突がある。北筒式とみられる。

7・8 は三角形土製品。Ⅲ群 b 類の土器片が用いられている。すべて三角錐状に三辺を斜方向に磨りこみ、稜に直交する 2 本組みの沈線が施されている。この加工がある三角形土製品が複数出土した遺構は当竪穴住居跡のみである。

〔石器〕剥片石器 3 点を図示した。9 はほぼ五角形の石鏃。丁寧な二次加工により小形で薄身に作られている。基部はやや浅く内湾する。10 は両面調整石器。下部を欠失する。形状や加工から石鏃の未製品の可能性もある。11 はスクレイパー。被熱のため多くの部分を欠失している。右側縁に細かい二次加工により刃部が作り出されている。石材は 9・10 が黒曜石 7 で、赤井川産と考えられる。11 は頁岩である。

重複・新旧関係：旧石器時代の石器集中 (LCS - 3) の一部を壊して作られている。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式 (Ⅲ群 b - 1 類土器) の時期と考えられる。

本遺構は小形の竪穴住居と考えられる。北西壁付近で焼土、炭化物を含む落ち込み (fp - 1) が検出されているが、炉かどうかは不明である。ピットが壁際に 5 個 (ph - 1 ~ 5) 検出されており、配置から考えると柱穴の可能性もある。北西壁には浅い落ち込みを伴う張り出し部分が認められる。また、覆土中から投げ込まれたと考えられる焼土が 2 ヲ所 (LFP - 46・47) 検出されている。性格は、床面にあるフレイク集中 (fc - 1 ~ 5) からフレイクが出土しているため、居住の場であると共に石器の加工の場であった可能性がある。 (広田)

(5) 竪穴住居跡6〔LPD - 6〕

位置：V - 135・136 W - 135・136 X - 135・136 標高13.0m付近の平坦面上に位置する

規模：8.08m / 7.82m × 5.25m / 5.05m × 0.39m

平面形：不整楕円形 床面積：(32.5) m²

確認・調査・土層：W - 136区の25%調査を行ったところ、Ⅶ層上面で焼土やⅢ群b - 1類土器がややまとまって検出された。そのため、V - 2層上面で周辺の精査を行ったところ、円形の黒色及び黒褐色土の大形の広がりを確認した。遺構を想定して、まとまりの中央付近を通るようにトレンチを設け、調査を行った結果、床面と焼土を検出し、竪穴住居跡であることが判明した。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを十字に設定し、Ⅵ・Ⅶ層を含む黒褐色土の覆土を掘り下げた。北東側の壁付近はわずかに平成14年度の調査区にかかっている。遺物は約3cm以下の小形の土器、石器等は覆土一括で取上げ、3cm以上の大形の場合は地点計測を行った後、取上げた。床面直上～床面にかけて出土した遺物は原則的に地点計測を行っている。また、覆土中から焼土を10ヵ所(LFP - 86～94・120)検出したが、多くのものは本遺構廃棄後の埋没過程で投げ込まれたものと考えられる。また、LFP - 120は縄文時代早期の焼土と考えられる。

覆土は自然堆積と考えられる。14層からなり、多くはV層を主体とした黒色～黒褐色の土層で、13層はⅦ層を主体とする土層である。覆土中に炭化物、焼土粒はほとんど認められなかった。

床面：Ⅶ層上面で大部分が構築されているが、東側はⅦ層を10cm程掘り込んでいる。形状は平坦で、やや硬質である。

壁：立ち上がりの傾斜は全体的にやや急角度である。壁高は規模と比べてやや浅いが、最大39cmを測る。

付属構築物：〔炉跡〕床面から炉跡と考えられる焼土が10ヵ所(fp - 1・3～10・12)検出されている。fp - 2・11は当初本遺構に伴う焼土と考えていたが、調査の結果別の時期であることが判明したため、欠番となっている。炉は床面中央のやや外側に分布している。平面形は不整の円形、楕円形が多いが、fp - 1のみ不整形である。規模は約15～70cmと幅があるが、30cm前後のものが最も多い。長軸の最大はfp - 1の70cm、最小はfp - 5で15cmを測る。炉は全て掘り込みのない地床炉である。全体的に被熱の著しいものが多いが、fp - 4・5・12の被熱はやや弱い。

〔付属ピット〕ピットが29個(ph - 1～29)検出されている。分布は床面全体に認められるが、南西側がやや少ない。平面形はやや不整の円形、楕円形である。深さはばらつきがあるが、20cm以上の深いもの(ph - 6・14・16・19・26)、10～20cm程度のもの(ph - 3・4・8・20・23・24・25・27・28)、10cm以下のもの(ph - 1・2・5・7・9・10・11～13・15・17・18・21・22)に分けることができる。壁の立ち上がりの傾斜は急角度のものとやや緩やかなものに分けられ、深いものは急角度で、浅いものは緩やかに立ち上がる傾向がある。また、ph - 16は立ち上がりが南側に傾いている。形状から考えると多くのピットは柱穴の可能性が高いが、規則的な配置は認められず、上屋構造は不明である。

遺物出土状況：出土遺物数は、土器453点、石器等2,610点の計3,063点である。土器の内訳は、Ⅲ群b - 1類404点、Ⅲ群b - 3類18点、Ⅰ群b類9点、Ⅳ群a類9点、Ⅲ群b類8点、Ⅰ群b - 1類2点、Ⅰ群a類1点、Ⅳ群b類1点、不明1点である。石器等は、石鏃2点、石槍1点、面調整石器2点、スクレイパー1点、Rフレイク7点、Uフレイク2点、石核1点、フレイク2,540点、磨製石斧12点、すり石1点、焼礫3点、軽石1点、礫31点である。土製品は三角形土製品が2点、その他の土製品が2点出土している。また、旧石器時代のものと考えられるフレイクが2点出土している。

剥片石器の石材は黒曜石が多いが、頁岩製の R フレイク 2 点、フレイク 1 点、泥岩製のフレイク 1 点、珪岩製のスクレイパーが 1 点出土している。黒曜石は黒曜石 7・8 が主体で、黒曜石 1、10 が少量認められる。黒曜石 3 は旧石器時代の石器のみである。

床面および床面直上出土の遺物は、土器は 57 点で、内訳はⅢ群 b - 1 類 56 点、Ⅲ群 b 類 1 点である。石器等は 1013 点で、内訳は R フレイク 1 点、フレイク 1,002 点、石斧 2 点、すり石 6 点、礫 1 点である。土製品は焼成粘土塊が 1 点出土している。

分布は、覆土では中央付近から北東側にかけてが少なく、周辺が多い。遺物の種類ごとの偏りは特に認められない。床面直上、床面も中央付近から北東側にかけてが少なく、西側がやや多い。また、フレイク集中が覆土下部で 1 ヲ所 (LFC - 10)、床面北西部の壁際で 1 ヲ所 (fc - 1) 確認されている。床面の fc - 1 は、土壌ごと取上げて水洗選別したものも含めて、R フレイク 1 点、フレイク 938 点が出土している。

掲載遺物：〔土器等〕 1 は縄文早期、2 ~ 11 は縄文中期、12 は縄文後期に属し、13 ~ 15 は土製品である。

1 は I 群 b 類。組紐圧痕がみられる。住居跡覆土に混入したものとみられる。2 ~ 8 はⅢ群 b - 1 類天神山式。2 は肥厚する口唇が丸みを帯びている。逆に 3 は口唇が角形で、波状口縁波頂部に小さなくぼみを設けている。竪穴住居跡 5 出土の 4 に類似する。4・5 とともに半截竹管状施文具が用いられている。5 ~ 8 は幅広の隆帯上に刻み (沈線) が施されている。地文は 5・7 が LR、6・8 が RLR で、いずれもはじめの撚りが R である。7 の口唇部は断面三角形に鋭く肥厚している。9 ~ 11 は北筒式と思われる。10 は内面口縁付近を少しくぼませている。やや小型で深い円形刺突がある。11 はやや大型の円形刺突がある。内面口縁付近にも LR 縄文が施されている。12 はⅣ群 b 類ウサクマイ C 式に属する。角形口唇上にも LR 縄文が施されている。口唇下に 1 条の平行沈線、その下に鋸歯状沈線がやや密にえがかれている。

13 ~ 15 は三角形土製品。Ⅲ群 b 類の土器片が用いられている。三辺を斜方向に磨りこんでいる。13 は稜に直交する沈線が連続して施され、丁寧に仕上げられている。14 は断面の斜方向へのすり込みが弱く、土器片の表面が大きく残存している。15 はやや成形が粗雑で、土器表面の押引文が残っている。

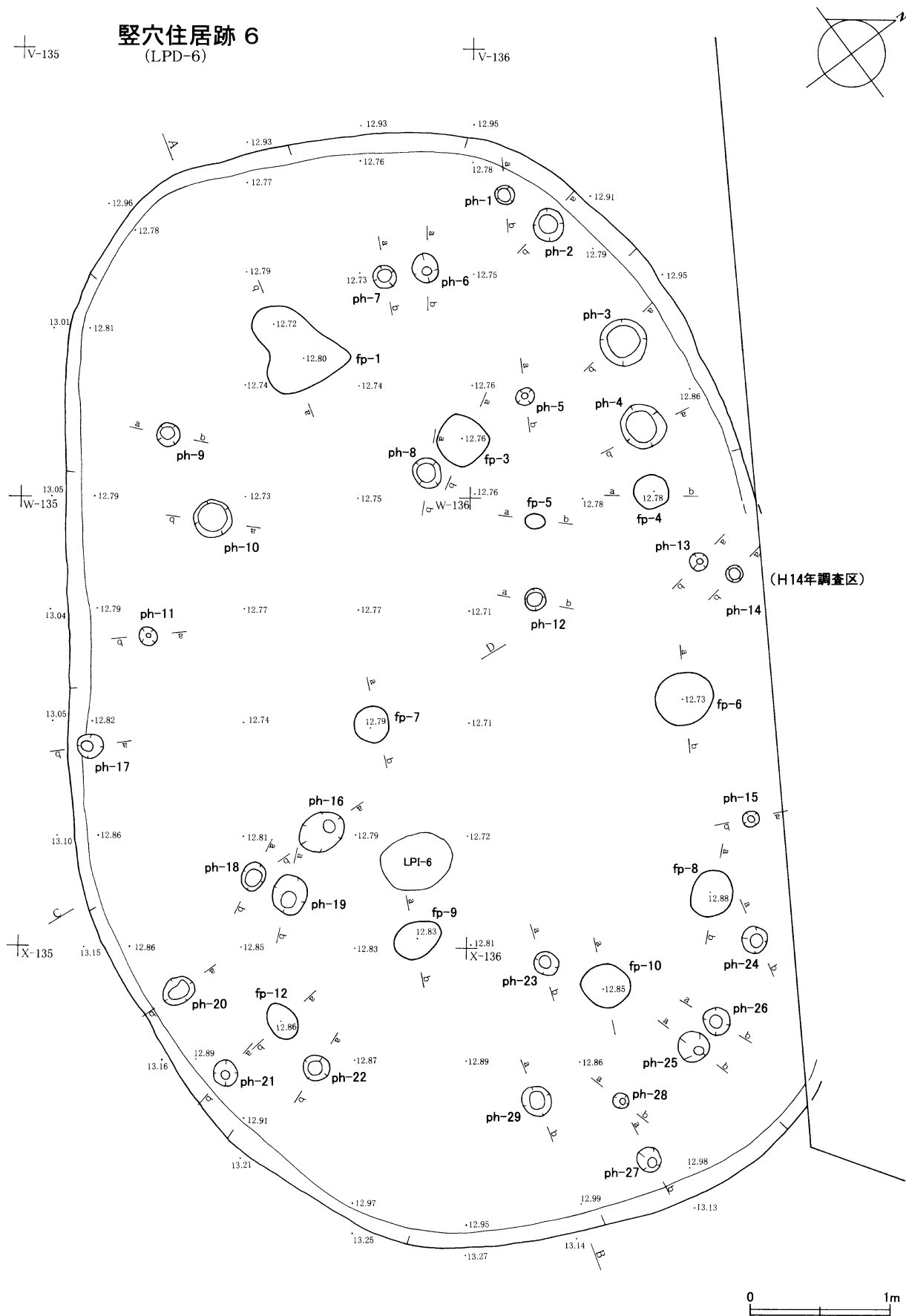
〔石器〕剥片石器 3 点を図示した。16 は柳葉形の石鏃。小形の薄い縦長剥片を素材とし、周縁部のみ二次加工を施している。17 は石槍。左右はやや非対称で、基部が太く菱形に近い形状である。素材面を残さず全面に二次加工が施される。18 はスクレイパー。厚みのある縦長剥片を素材とし、両側縁に急角度の刃部を作り出している。石材は 16 が黒曜石 7、17 が黒曜石 8 でどちらも赤井川産と考えられる。18 の石材は珪岩である。

重複・新旧関係：LPI - 6 より古く、LPI - 22 より新しい。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式 (Ⅲ群 b - 1 類土器) の時期と考えられる。

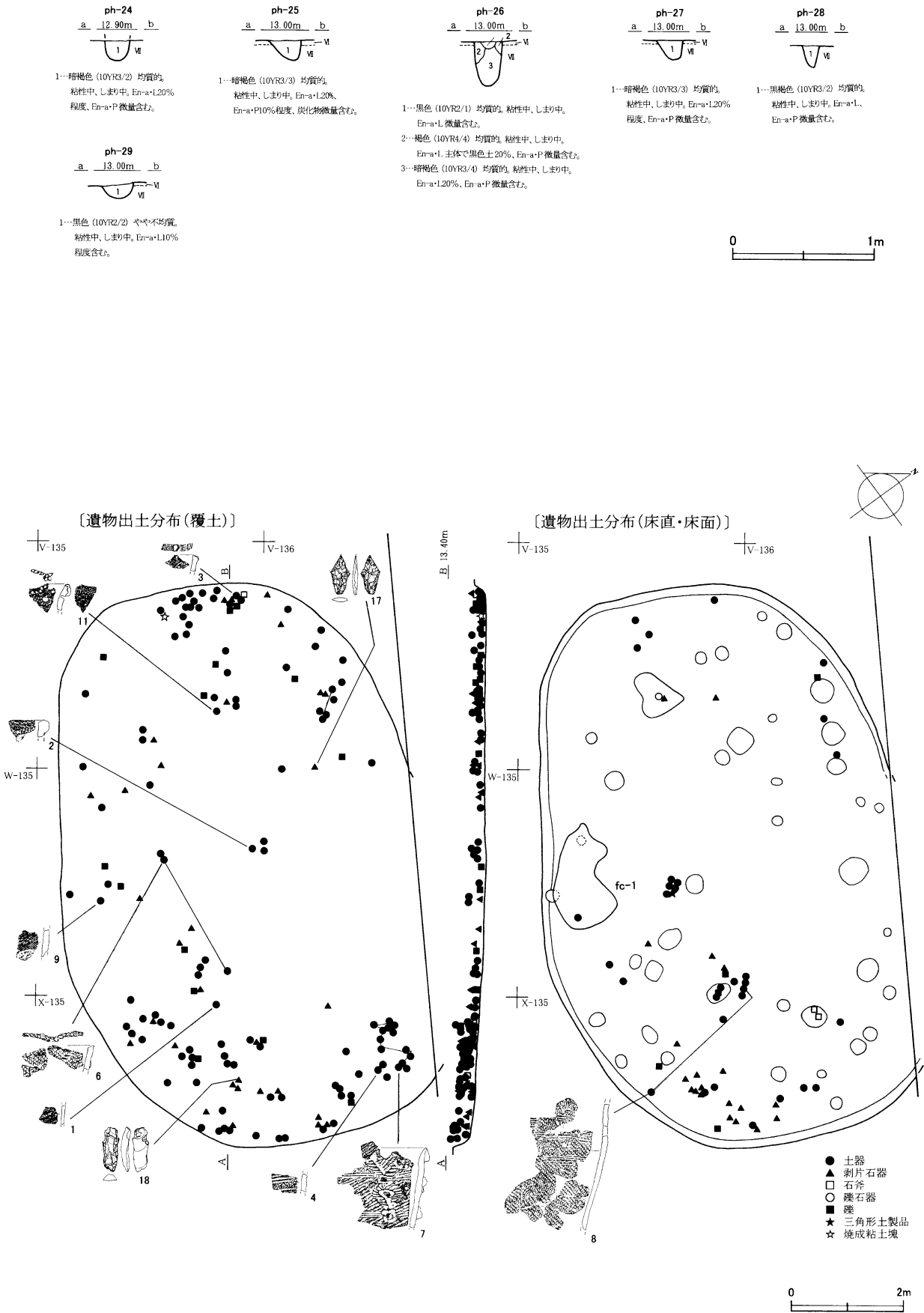
本遺構は大形の竪穴住居である。竪穴の規模は最大だが、掘り込みは比較的浅い。炉と考えられる焼土が床面中央やや外側から 10 ヲ所検出されているが、規則的な配置はあまり認められない。柱穴と考えられるピットが 29 個確認できたが、配置は不規則で上屋構造は不明である。覆土中から床面付近にかけて焼土が 10 ヲ所検出されているが、本遺構に伴うものではない。性格は、床面にあるフレイク集中 (fc - 1) の存在から、居住の場であると共に石器の加工の場であった可能性が考えられる。

(広田)

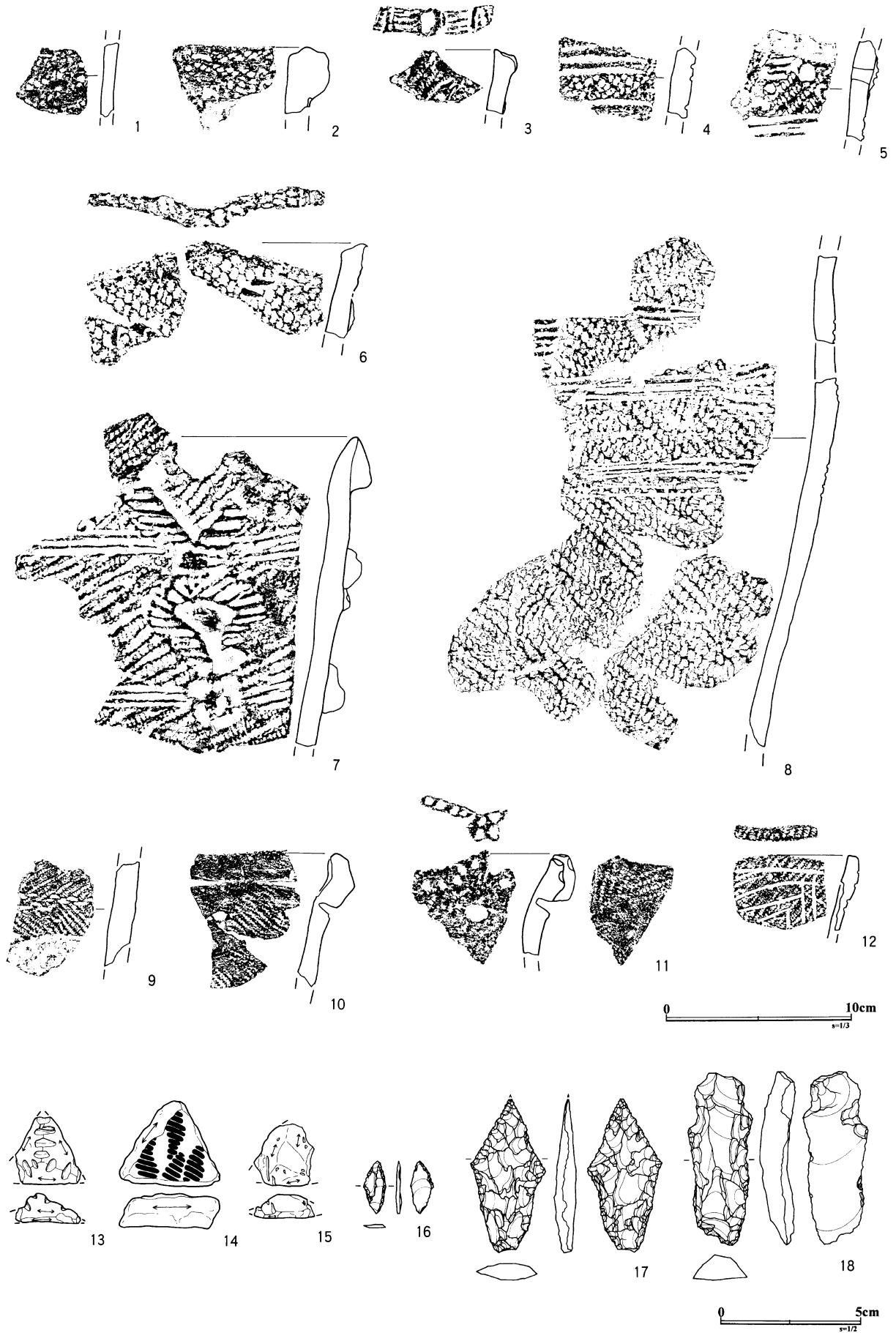


図V - 10 堅穴住居跡 6 [LPD - 6] (1)

平成17年度 千歳市オリイカ2遺跡(2)



図V - 12 竪穴住居跡6〔LPD - 6〕(3)



図V - 13 竪穴住居跡 6 出土の遺物

(6) 竪穴住居跡7〔LPD - 7〕

位置：Z - 126・127 標高13.1m付近の平坦面上に位置する

規模：2.82m / 2.48m × 2.65m / 2.36m × 0.31m

平面形：ほぼ円形 床面積：4.4m²

確認・調査・土層：V層包含層調査中VI層付近まで掘り下げたところ、ほぼ円形の黒色土の落ち込みを確認した。十字状に細いトレンチを設定して掘り下げ土層を観察した結果、黒色土とローム層の明瞭な境界が現れ、遺構と判断した。黒色土を掘り下げたところ、遺構内に柱穴は検出されなかったが炉とみられる赤褐色のまとまりを検出し、V層から掘り込んだ竪穴住居跡と認定した。

土層は、①V層に相当する黒色土が中央部のほとんどと壁面側の上位を占め、②VI～VII層に相当する褐色土や黒色土が混在する層が壁側の中位～下位、③炭化物やフレイクチップを多量に含むやや軟質の黒褐色土が南半の最下層に広がる。

床面：VII層を掘り込んで構築している。ほぼ平坦であるが、北側に向かってやや高まっている。軽石を多く含み、やや硬質である。

壁：立ち上がりは南側がやや急で北側がややゆるやかな傾斜である。西側および東側は木根などによりやや判別しにくい状況であった。壁高は約20cmである。

付属構築物：〔炉〕LPD7 - fp1 規模：0.40m × 0.36m × 0.02m

床面中央よりわずかに南西側にほぼ円形の地床炉がある。赤褐色を呈し、強く被熱している。上面および周囲の覆土からやや大型の炭化材片が多く出土している。

〔付属柱穴〕LPD7 - ph1～5

竪穴住居内からは検出されなかった。住居外から柱穴状小ピットが5個検出された。全周囲をめぐる状況ではないが、北西側に2基・南側に2基・東側に1基確認できた。柱穴の覆土はややしまりのある黒色土である。径は15～20cm、深さは5～8cmで浅い。住居跡壁面から50～80cm離れており、住居側に大きく傾いているように観察される。

遺物出土状況：土器・石器等の総数は652点である。この内訳は土器14点、石器等638点である。石器等のうち620点はフレイク・チップである。また旧石器の可能性のある遺物が剥片など13点出土している。床面からは遺物は出土していない。しかし炭化材片を多く含む覆土最下層からフレイク・チップが576点、Rフレイクが1点、細石刃など旧石器遺物が4点出土しており、大部分が土壌水洗により得られた遺物である。覆土の上位からは土器14点、石器等62点が出土している。土器はI群b-1～b-2類が12点、I群b-4類が1点、III群b-1類が1点である。石器等はスクレイパー1点、Rフレイク2点、Uフレイク1点、フレイク50点のほか、細石刃など旧石器遺物が8点出土している。また炉付近の覆土から炭化材片がやや多く出土している。

掲載遺物：〔石器〕剥片石器1点を図示した。1はスクレイパー。縦長剥片を素材とし、表面には礫面を大きく残す。表面左側縁中央部付近に二次加工が施され、やや内湾する刃部が作り出されている。石材は黒曜石8で赤井川産と考えられる。

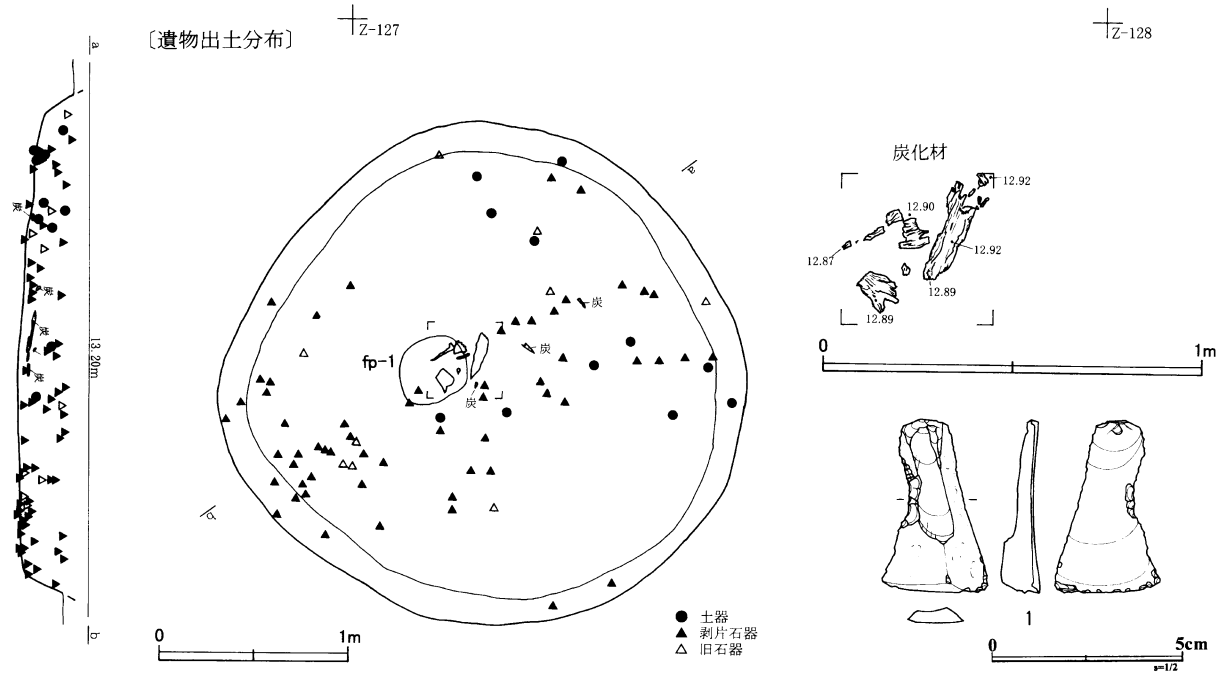
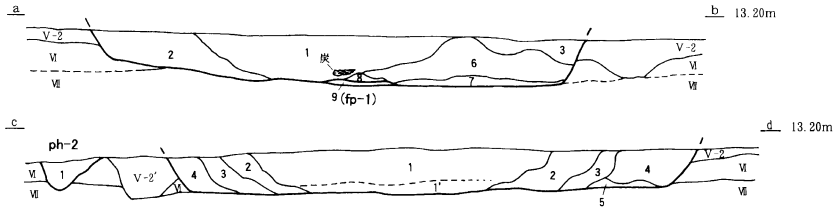
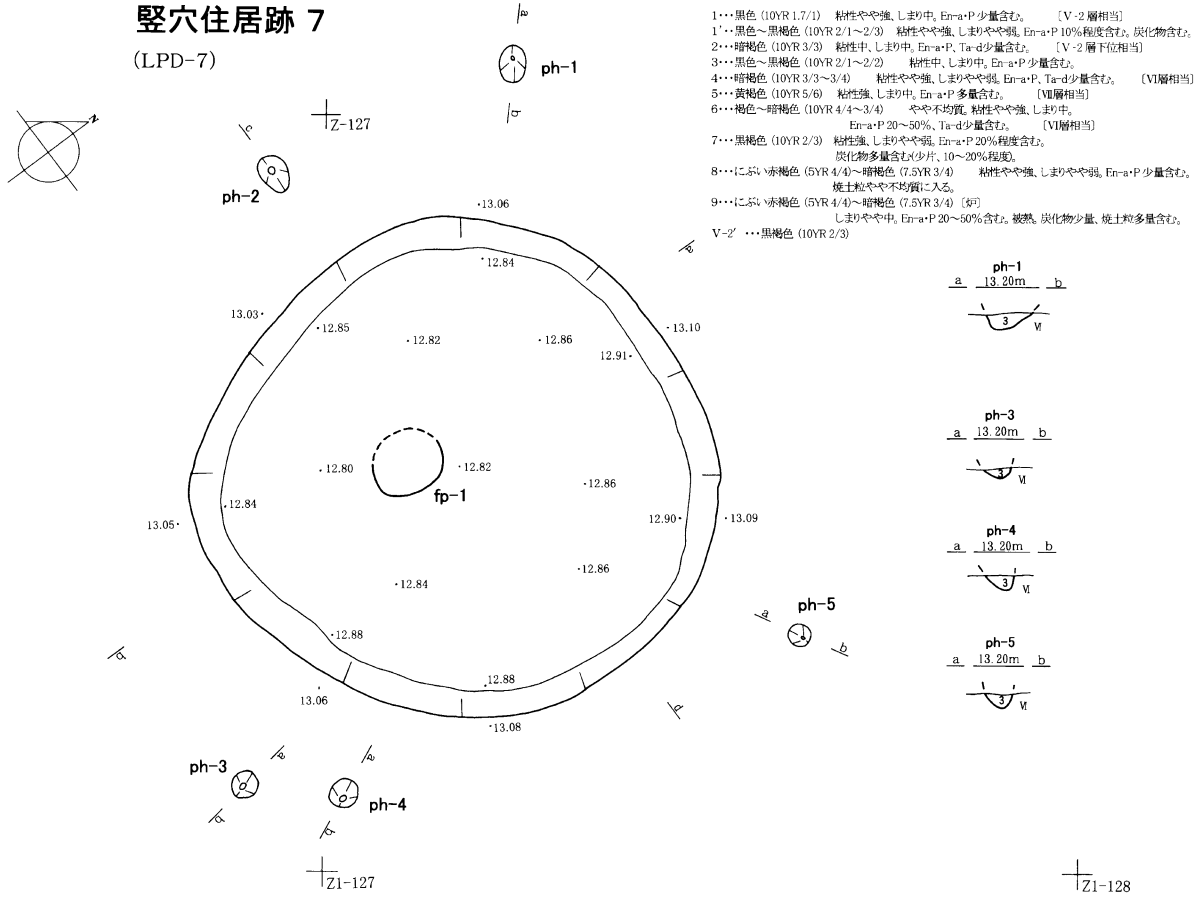
重複・新旧関係：他遺構と重複していない。

時期：出土土器が少なく、床面からも出土していないため明確には判断できないが、他の住居跡と検出面や形態が類似することから、III群b-1類土器を伴う縄文時代中期のものと思われる。なお、炉付近の覆土2層から出土した炭化材の¹⁴C年代測定の結果、4,145 ± 35yrB.P.(同位体補正值)の数値が得られた(Ⅶ章-1)。

(阿部)

竪穴住居跡 7

(LPD-7)



図V - 14 竪穴住居跡 7〔LPD - 7〕

3. 土坑 (図V - 15~19、表V - 8・9、図版30・59・64)

(1) 土坑5〔LPI - 5〕

位置：Y - 124 標高12.2m~12.5m

規模： / 1.67m × (1.26m) / 1.04m × 0.14m

平面形：不整楕円形？ 長軸方向：N - 26° - W

確認・調査・土層：A地区南西側の斜面部であるY - 124区のⅥ層調査中、土器のまとまりを検出したため、土器の検出面で精査を行った結果、黒色土の楕円形の広がりを確認した。遺構を想定して、広がりの長軸から南側の黒色土を掘り下げたところ、坑底面を検出し、フレイク等の遺物も検出したことから土坑と判断した。確認面がⅥ層だったため、掘り込みは浅いが、掘り込み面はV - 2層と考えられる。北東側の土坑の外側からピットが2個検出されている。規模は確認面で20cm程度、深さは10~14cmを測る。また、西側覆土中に薄い小さな焼土が検出された。

覆土は1層で、V層を主体とした黒色~黒褐色の土層で、Ⅶ層が少量混ざる。覆土中に炭化物が少量認められた。

坑底・壁：坑底面はⅦ層中に構築されている。全体に浅い皿状である。斜面部に構築されているため、西側ほぼ半分の壁は確認できなかった。

遺物出土状況：出土遺物数土器55点、石器など23点の計78点である。土器の内訳はⅢ群b - 1類53点、Ⅰ群b - 1類1点、Ⅰ群b - 4類1点、石器等の内訳は、石鏃1点、フレイク21点、礫1点である。剥片石器の石材は全て黒曜石である。黒曜石は黒曜石1が主体で、黒曜石7、8が少量認められる。坑底面および坑底面直上出土からは、Ⅲ群b - 1類土器49点、フレイク12点が出土している。分布は北側がやや多い。

掲載遺物：〔土器〕1はⅢ群b - 1類天神山式。口縁部から底部付近までのうち半個体分がまとめて出土していたもので、残り半分は欠損していた。遺跡内で唯一復元できた天神山式土器である。4単位の波状口縁で口縁部はやや外反する。胴部のふくらみは弱い。肥厚する口唇上に絡条体圧痕を連続して施し、胴部は地文RLRに半截竹管状施文具で平行沈線をえがいている。隆帯上は押し文がていねいに施されている。全体的に赤褐色~黒褐色を呈し、内面調整はていねいである。

時期・性格：床面出土の遺物から、縄文時代中期天神山式(Ⅲ群b - 1類土器)の時期と考えられる。覆土が浅かったため自然堆積かどうかは不明であるが、坑底付近の土器の出土状況や、フレイクの存在から土坑墓の可能性がある。

(2) 土坑6〔LPI - 6〕

位置：W - 135 標高 -

規模：0.65 / (0.53) m × (0.51m) / 0.28m × 0.23m

平面形：不整楕円形？ 長軸方向：N - 17° - W

確認・調査・土層：A地区東側に位置するLPD - 6のトレンチ調査中、土層断面で黒色土の落ち込みを検出したため、周辺の精査を行った結果、黒色土の半楕円形の広がりを確認した。遺構を想定して、黒色土を掘り下げたところ、坑底面を検出し土坑と判断した。確認面がLPD - 6の床面だったため、掘り込み面は不明だが、土層観察からはLPD - 6の覆土を切っておりLPD - 6より新しい土坑である。北側約半分をトレンチで壊したため、正確な規模は不明だが、確認面で70cm程度、深さは24cmを測る。

覆土は2層からなる。どちらもV層を主体とした黒色～黒褐色の土層で、VII層が少量混ざる。

坑底・壁：坑底面はLPD - 6の覆土中に構築されている。断面は碗型の形状で、壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：出土遺物点数はⅢ群b - 1類土器3点、フレイク6点、礫2点の計11点で、全て覆土出土である。石器の石材は全て黒曜石である。黒曜石は黒曜石1・7が見られる。

掲載遺物：〔土器〕2はⅢ群b - 1類天神山式の深鉢胴下部。複節RLR縄文と半截竹管状施文具による平行沈線がみられる。

重複：LPD - 6より新しい。

時期・性格：覆土出土の遺物から、縄文時代中期天神山式（Ⅲ群b - 1類土器）の時期の可能性がある。また、性格は不明。（広田）

(3) 土坑7〔LPI - 7〕

位置：Z - 123 標高12.0m～12.3m、調査区の南部、平坦地から低地部への斜面際

規模：1.88m / 1.68m × 1.18m / 0.96m × 0.33m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 3° W

確認・調査・土層：包含層調査中、VII層上面において黒褐色土の範囲を検出した。土層観察用の土手を設定し掘り下げ、平坦面を検出し土坑と判断した。覆土は鉄分集積部を多く含む黒色土が主体となっている。

坑底・壁：坑底はやや低地側に傾斜するもののおおむね平坦である。壁は、北側の平坦地側は床面との境界が明瞭であるが、南側は低地側に開いている。流水などにより開析されたものと考えられる。

なお、床面北側隅に径34cm × 28cm、深さ20cmほどの小土坑がある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期・性格：土坑5（LPI - 5）と立地・形状が類似することから、Ⅲ群b - 1類土器を伴う縄文時代中期のものとみられる。用途は不明である。

(4) 土坑8〔LPI - 8〕

位置：Z 1 - 125 標高12.9m～13.0m

規模：0.60m / 0.51m × 0.59m / 0.50m × 0.16m

平面形：ほぼ円形

確認・調査・土層：VII層上面付近で黒色土の落ち込みを検出した。半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。覆土はほぼ一層の黒色土である。自然堆積土とみられる。掘り込み面はV層下位～VI層と思われる。

坑底・壁：坑底は軽石を多く含みやや硬質なVII層中にあり、おおむね平坦であるが若干の凹凸がある。壁の立ち上がりは急で、垂直に近い。

遺物出土状況：覆土中からI群b類土器片9点、フレイク3点、礫2点が出土している。

掲載遺物：〔土器〕3・4はI群b - 1類。短縄文が施されている。4の底部はやや張り出している。組紐圧痕が一部観察される。

時期・性格：出土遺物から、I群b - 1類土器を伴う縄文時代早期のものとみられる。用途は不明である。

(5) 土坑9〔LPI - 9〕

位置：W - 131 標高12.8m～12.9m

規模：1.01m / 0.75m × 0.61m / 0.46m × 0.37m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 30° W

確認・調査・土層：Ⅶ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。覆土は①黒褐色土②黒色土③暗褐色土④褐色土と椀状あるいはレンズ状にきれいに堆積しており、自然堆積土である。掘り込み面はⅤ層下位～Ⅵ層とみられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層中に達し堅く、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群b - 1類土器片が1点、フレイク2点、礫3点、軽石1点が出土した。また炭化材片がわずかに出土している。

重複：西側の一部が土坑11(LPI - 11)と重複しており、土坑9の方が新しい。

時期・性格：縄文時代早期または中期のいずれかと考えられるが、明確な根拠に乏しい。形状・規模から土坑墓の可能性のあるものの、用途は不明である。

(6) 土坑10〔LPI - 10〕

位置：X - 129 標高12.9m付近

規模：1.60m / 1.43m × 1.26m / 0.97m × 0.20m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 70° E

確認・調査・土層：Ⅶ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。覆土は①黒色土②黒褐色土③暗褐色土と椀状あるいはレンズ状にきれいに堆積しており、自然堆積土である。掘り込み面はⅤ層下位～Ⅵ層とみられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層中に達し堅く、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりはやや急で、坑口部に向かってやや緩やかな傾斜になっている。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期・性格：縄文時代早期または中期のいずれかと考えられるが、明確な根拠に乏しい。形状・規模から土坑墓の可能性のあるものの、用途は不明である。

(7) 土坑11〔LPI - 11〕

位置：W - 131 標高12.8m付近

規模：1.04m / (0.92m) × 0.62m / 0.53m × 0.16m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 15° W

確認・調査・土層：土坑9を精査中、隣接した位置からⅦ層上面において黒色土の落ち込みを検出した。半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。覆土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土で、自然堆積土と考えられる。掘り込み面はⅤ層下位～Ⅵ層とみられる。

坑底・壁：坑底はⅦ層下位で、北側はほぼ平坦であるが南側は木根により攪乱を受けている。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

重複：東側の一部が土坑9(LPI - 9)と重複しており、土坑11の方が古い。

時期・性格：時期不明である。形状・規模から土坑墓の可能性のあるものの、用途は不明である。

(阿部)

(8) 土坑12〔LPI - 12〕

位置：U - 131 標高12.60m

規模：0.89m / 0.67m × 0.68m / 0.43m × 0.19m

平面形：不整楕円形状 長軸方向；

確認・調査・土層：A地区ほぼ中央部の平坦面、U - 131区のⅦ層上面付近で黒色土の楕円形の広がりを出した。周辺の精査後、短軸方向で半截した結果、坑底と壁の立ち上がりを確認した。確認面はⅦ層上面だが、本来の掘りこみ面はⅤ層と考えられる。覆土は3層からなり、Ⅴ層を主体とした黒褐色ないし暗褐色の土層（1・2層）と、Ⅶ層を主体とした黄褐色の土層（3層）に分かれる。

坑底・壁：坑底はⅦ層を20cm程度掘り込んでいる構築されている。坑底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期・性格：遺物が出土していないため正確な時期は不明だが、検出層位から縄文時代と考えられる。性格は不明である。

(広田)

(9) 土坑13～18〔LPI - 13～18〕

位置：P - 128 Q - 128・129 標高12.4m～12.5m

規模：LPI - 13 0.46m / 0.33m × 0.40m / 0.34m × 0.16m

LPI - 14 0.42m / 0.31m × 0.41m / 0.27m × 0.08m

LPI - 15 0.41m / 0.31m × 0.36m / 0.22m × 0.13m

LPI - 16 0.51m / 0.40m × 0.38m / 0.27m × 0.12m

LPI - 17 0.32m / 0.22m × 0.31m / 0.21m × 0.11m

LPI - 18 0.34m / 0.22m × 0.29m / 0.17m × 0.18m

平面形：ほぼ円形

確認・調査・土層：包含層調査中、Ⅶ層上面において約4m × 3mの範囲から、小型で円形の黒色土の落ち込みを複数検出した。それぞれ半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを出し、一部の根穴と考えられるものを除き土坑と判断した。土坑間距離はやや不規則ながら、3基ずつ2列あるいは2基一組が3カ所の小型土坑群の様相を呈している。覆土はすべて黒色土が主体となっている。掘り込み面はⅥ層付近と考えられる。

坑底・壁：坑底はⅦ層下位～Ⅷ層で、底面はやや凹凸があるものが多い。壁の立ち上がりは土坑16（LPI - 16）を除いてやや急である。

遺物出土状況：土坑13（LPI - 13）の坑口部から石鏃が1点出土した。そのほかの土坑から遺物は出土しなかった。

掲載遺物：〔石器〕5は石鏃である。小形で薄く、形状は五角形に近い。石材は黒曜石7で、赤井川産と考えられる。

時期・性格：時期不明である。用途は不明である。

(10) 土坑19〔LPI - 19〕

位置：O - 129 標高12.5m付近

規模：0.51m / 0.37m × 0.41m / 0.32m × 0.13m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 5° E

確認・調査・土層：包含層調査中、Ⅶ層上面において小型で円形の黒色土の落ち込みを検出した。半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。黒色土が主体となっている。掘り込み面はⅥ層付近と考えられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層上位で、わずかに東側が深くなっている。壁の立ち上がりは、東側がやや急で西側がやや緩やかである。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

時期・性格：縄文時代早期または中期のいずれかと考えられるが、明確な根拠に乏しい。時期不明である。土坑13～18と形態・規模が類似しており同様のものと考えられるが、用途は不明である。

(11) 土坑20〔LPI - 20〕

位置：M - 129 標高12.6m付近、調査区西部の平坦地

規模：1.91m / 1.76m × 1.70m / 1.57m × 0.18m

平面形：ほぼ円形 長軸方向：N - 23° W

確認・調査・土層：包含層調査中、Ⅵ層において黒色土の範囲を検出した。土層観察用の土手を設定し掘り下げ、平坦面と壁面を検出し土坑と判断した。覆土は壁面付近に暗褐色土や黒褐色土が堆積し、その上位に黒色土が堆積している。いずれも自然堆積と考えられる。また北西側の覆土最下層から焼土ブロックが2カ所検出された。暗赤褐色に被熱したやや軟質な土壌である。

坑底・壁：坑底はⅦ層上面付近にあり、やや軟質なローム面である。ほぼ平坦である。壁は北側がやや急に立ち上がり、西～南側はやや緩やかである。

遺物出土状況：覆土からⅠ群b類土器1点とつまみ付きナイフ1点が出土している。また炭化材片が焼土周辺から少量出土している。

掲載遺物：〔石器〕6はつまみ付きナイフである。小形で表面周辺部と裏面右側縁部に細かい連続した二次加工を施している。石材は頁岩である。

時期・性格：Ⅰ群b類土器を伴う縄文時代早期のものと思われる。なお焼土周辺出土の炭化材の¹⁴C年代測定の結果、6225±40の数値が得られた(Ⅶ章-1)。形状や焼土の存在から住居跡の可能性があるが、規模がやや小さく柱穴が検出されていないことから、住居跡の認定は難しいと思われる。やや大型の土坑としておく。

(12) 土坑21〔LPI - 21〕

位置：T - 131 U - 131 標高12.5m付近

規模：(0.99)m / (0.91m) × 0.90m / 0.80m × 0.09m

平面形：ほぼ楕円形 長軸方向：N - 56° E

確認・調査・土層：包含層調査においてⅥ層まで掘り下げたところ、長楕円形の黒色土と楕円形の黒褐色土が重複して確認された。長楕円形部分を調査したところTピット(LTP - 10)であることが確認された。その後、残りの楕円形部分を半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。覆土は黒褐色～暗褐色土で、自然堆積土と考えられる。掘り込み面はⅤ層下位

とみられる。

坑底・壁：坑底はⅦ層で、若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。壁の立ち上がりはゆるやかである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

重複：西側がTピット10(LTP-10)と重複しており、土坑21の方が古い。

時期・性格：縄文時代早期または中期のいずれかと考えられるが、明確な根拠に乏しい。時期不明である。形状・規模から土坑墓の可能性のあるものの、用途は不明である。(阿部)

(13) 土坑22〔LPI-22〕

位置：W-135 標高12.7m～12.8m

規模：1.07m / 0.91m × 0.80m / 0.60m × 0.30m

平面形：不整楕円形 長軸方向：N - ° - E

確認・調査・土層：A地区北東側にあるLPD-6のトレンチ調査中に、別の土坑と考えられる落ち込みを検出したため、周辺の精査を行ったところ、黒色土の楕円形の広がりを検出した。土層観察の結果LPD-6より古いことが判明した。確認面はLPD-6の床面であり、本来の掘りこみ面はLPD-6により削平されているがⅤ層と考えられる。覆土は4層からなり、Ⅴ層を主体とした黒色～暗褐色の土層である。

坑底・壁：坑底はⅦ層を40cm程度掘り込んで構築されている。坑底面はほぼ平坦で、壁は比較的急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：石器が29点出土している。石器は全てフレイクで、覆土から28点、坑底から1点出土している。黒曜石は黒曜石7、8が主体で黒曜石1が1点出土している。

重複：LPD-6より古い。

時期・性格：出土遺物がフレイクのみのため正確な時期は不明だが、切り合い関係から縄文時代中期以前と考えられる。性格は不明である。

(14) 土坑25〔LPI-25〕

位置：S-133 標高12.50～12.60m

規模：0.59m / 0.46m × 0.59m / 0.42m × 0.18m

平面形：不整円形

確認・調査・土層：A地区ほぼ中央部の平坦面、S-133区のⅥ層上面で黒色土の円形の広がりを検出した。周辺の精査後、半截した結果、坑底と壁の立ち上がりを確認した。確認面はⅥ層上面だが、本来の掘りこみ面はⅤ層と考えられる。覆土は4層からなり、Ⅴ層を主体とした黒褐色の土層(1層)と、灰白色粘土を主体とした層(2層)、Ⅴ層とⅦ層を主体とした暗褐色の土層(3層)に分かれる。

坑底・壁：坑底はⅦ層を10cm程度掘り込んで構築されている。坑底面はやや凹凸があり、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物出土状況：覆土中から礫が1点出土している。

時期・性格：正確な時期は不明だが、検出層位や周辺包含層出土の遺物から縄文時代と考えられる。性格は不明である。

(広田)

(15) 土坑23・24・26・27〔LPI - 23・24・26・27〕

位置：S - 131・132 標高12.4m～12.5m

規模：LPI - 23 0.45m / 0.34m × 0.42m / 0.34m × 0.16m

LPI - 24 0.45m / 0.36m × 0.38m / 0.31m × 0.09m

LPI - 26 0.51m / 0.42m × 0.49m / (0.42m) × 0.09m

LPI - 27 0.51m / 0.42m × 0.46m / 0.37m × 0.20m

平面形：ほぼ円形

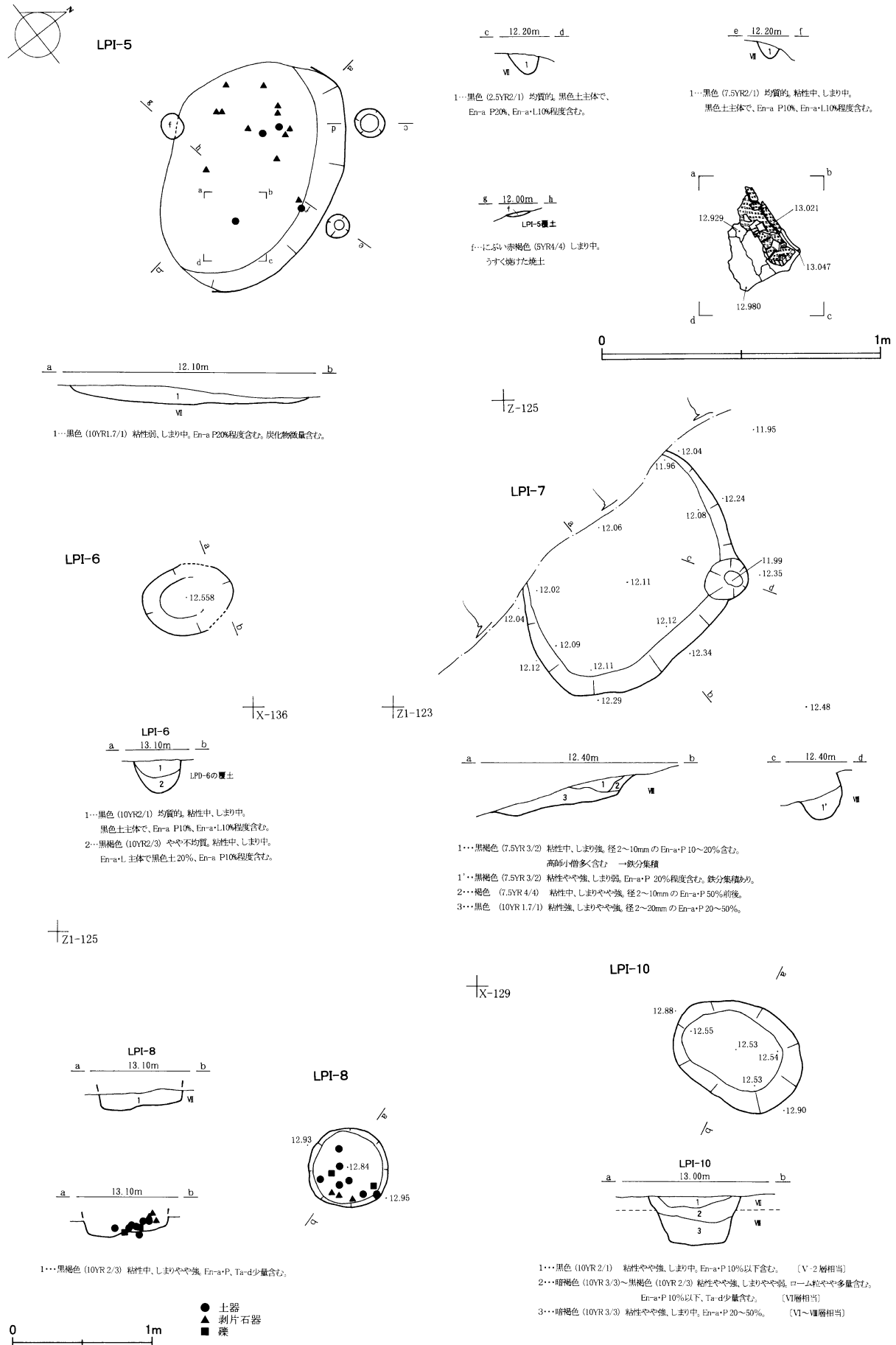
確認・調査・土層：包含層調査中、Ⅶ層上面において列を成すように小型で円形の黒色土の落ち込みを複数検出した。それぞれ半截し掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、一部の根穴と考えられるものを除き土坑と判断した。小型の土坑群である。覆土はすべて黒色土が主体となっている。掘り込み面はⅤ層下位～Ⅵ層と考えられる。

坑底・壁：坑底はⅦ層下位～Ⅷ層で、底面はやや凹凸があるものが多い。壁の立ち上がりは土坑26（LPI - 26）を除いてやや急である。

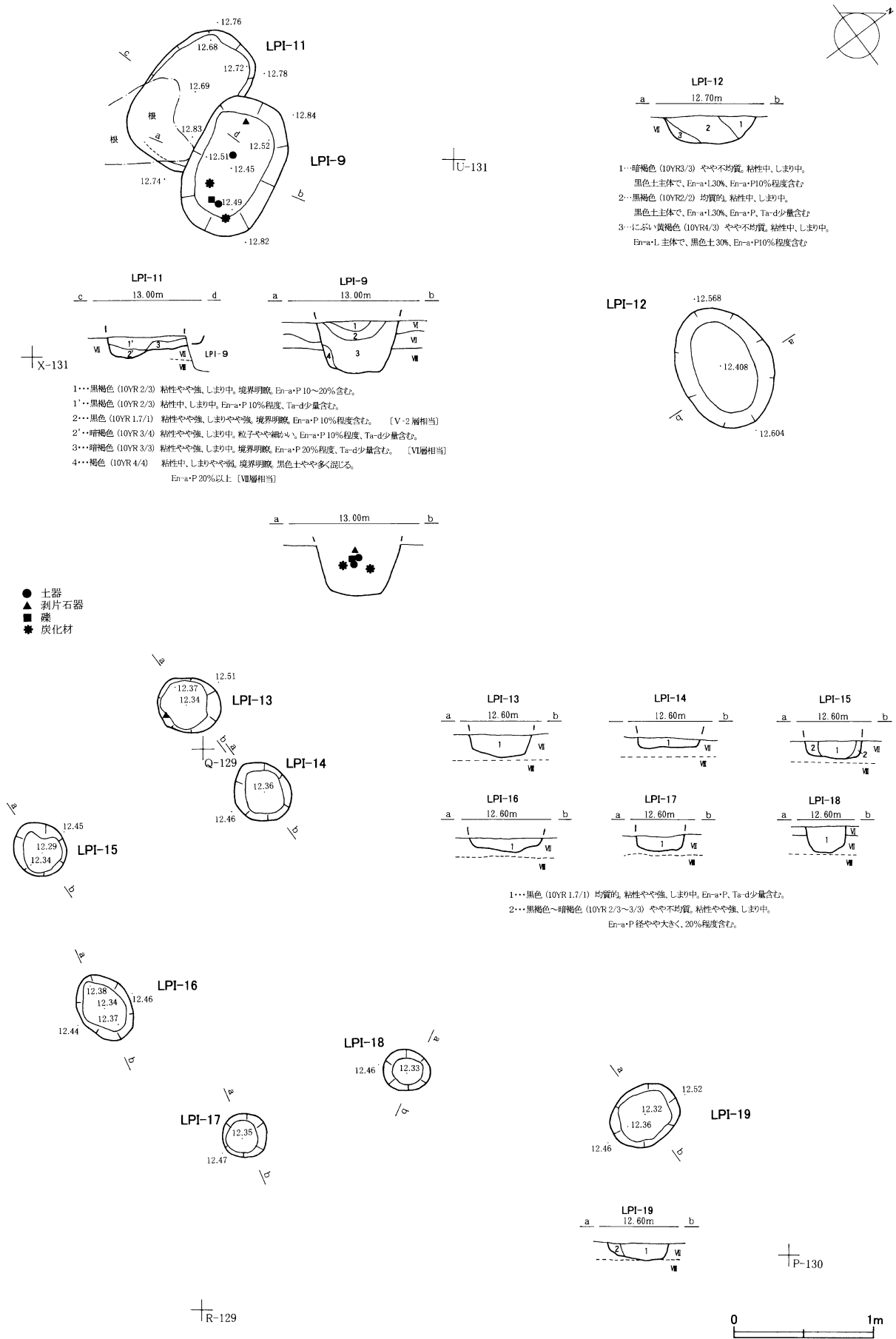
遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期・性格：縄文時代早期または中期のいずれかと考えられるが、明確な根拠に乏しい。時期不明である。用途は不明である。

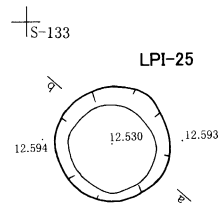
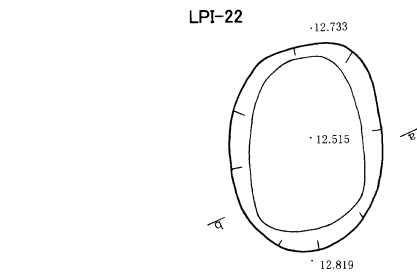
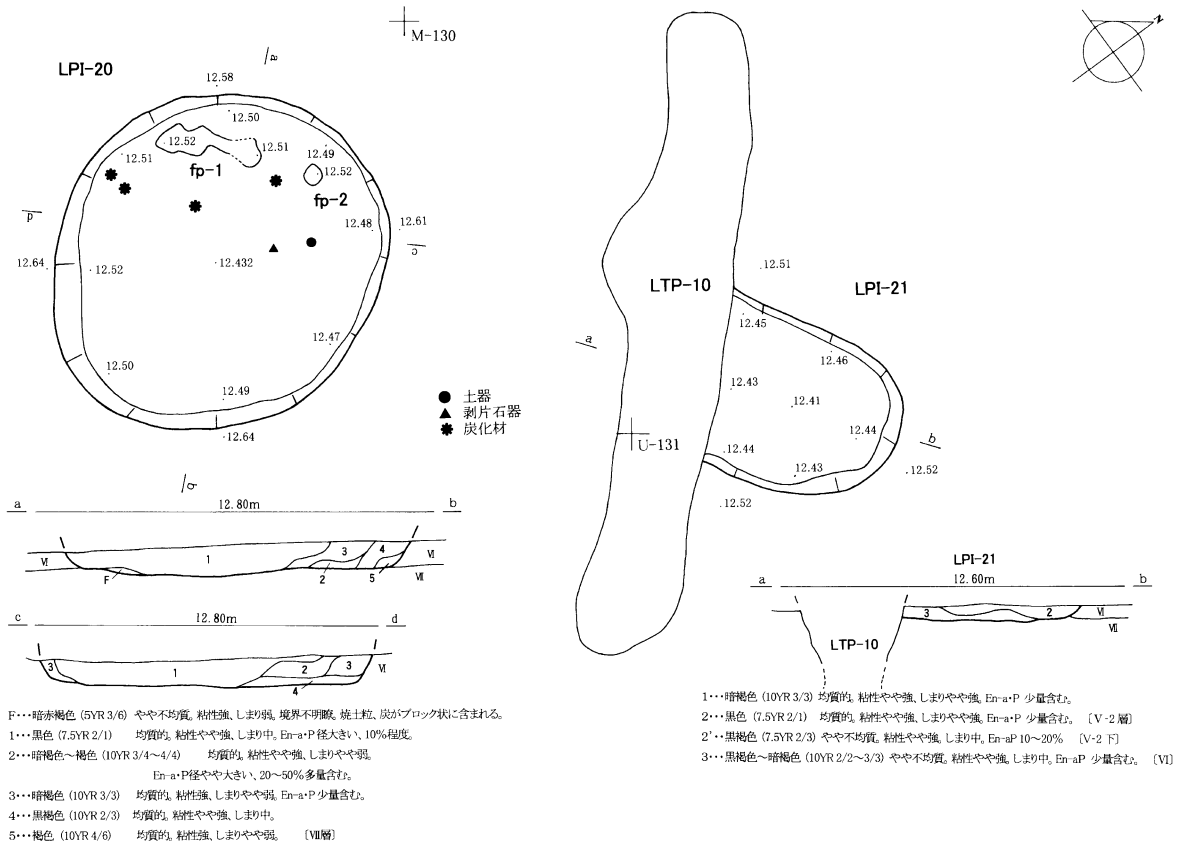
（阿部）



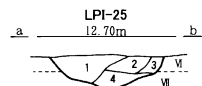
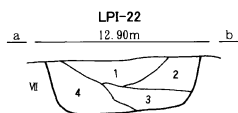
図V - 15 土坑(1)〔LPI - 5 ~ 8・10〕



図V-16 土坑(2)〔LPI-9・11~19〕



X-135



- 1...黒色 (10YR2/1) やや不均質, 粘性やや強, しまりやや強, 黒色土主体で, En-a-L10%, En-a-P10%程度含む。
 2...黒褐色 (10YR2/2) 均質的, 粘性やや強, しまりやや強, 黒色土主体で, En-a-L30%, En-a-P 少量含む。
 3...暗褐色 (10YR2/3) やや不均質, 粘性やや強, しまりやや強, 黒色土と En-a-L が主体で, En-a-P 少量含む。
 4...暗褐色 (10YR3/3) やや不均質, 粘性やや強, しまりやや強, En-a-L が主体で, 黒色土30%程度, En-a-P 少量含む。

- 1...黒褐色 (10YR3/2) やや不均質, 粘性中, しまり中, 黒色土主体で, En-a-L10%, En-a-P10%程度含む。
 2...にぶい黄褐色 (10YR6/4) やや不均質, 粘性中, しまり中, 灰白色粘土主体で, 黒色土30%, En-a-L10%程度含む。
 3...暗褐色 (10YR3/4) やや不均質, 粘性中, しまり中, 黒色土と En-a-L が主体で, En-a-P10%程度含む。

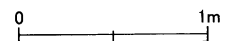
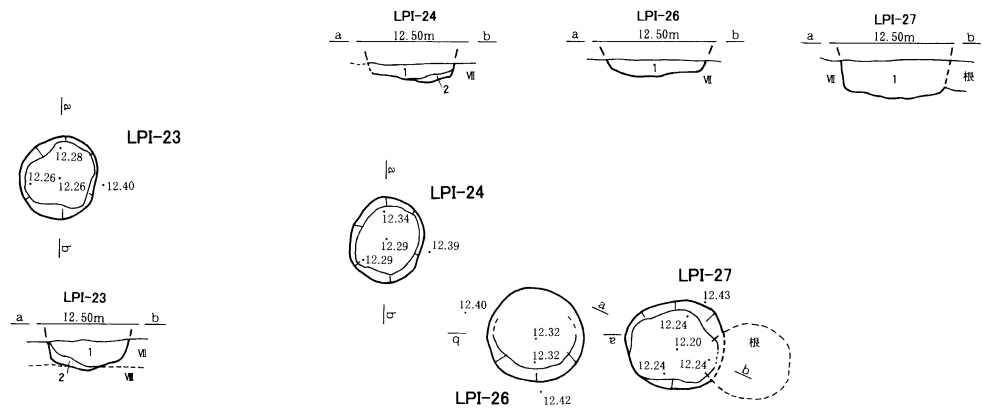
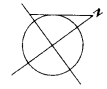


図 V - 17 土坑(3) [LPI - 20 ~ 22・25]

†S-131

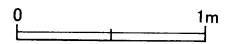
†S-132



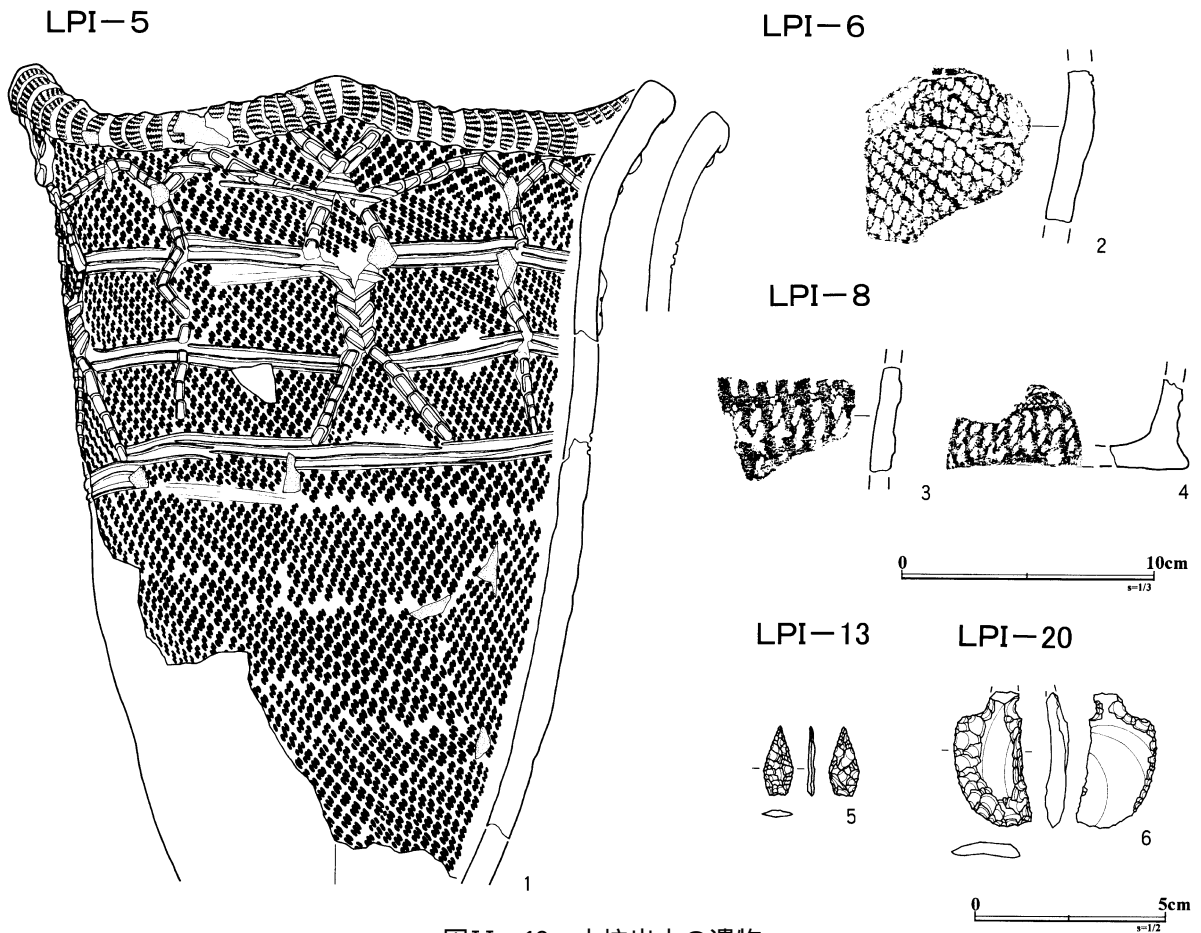
1...黒色 (10VR2/1) 均質的、粘性やや強、しまり中、En-a・P、Tand少量含む。
 2...黒色 (10VR2/1) 粘性やや強、しまりやや強、En-a・P 径大きい、20%程度含む。

†T-131

†T-132



図V - 18 土坑(4) [LPI - 23・24・26・27]



図V - 19 土坑出土の遺物

4. Tピット (図V-20~23、表V-8・9、図版31・64)

(1) Tピット9〔LTP-9〕

位置：S-128 T-128 標高12.50m付近

規模：3.49m / 3.36m × 0.62m / 0.29m × 1.40m

平面形：長楕円形（溝状） 長軸方向：N-45° W

確認・調査・土層：包含層調査中、VI層付近で長楕円形の黒色土部分を検出した。長軸に若干ずれがあったため2基の遺構が重複していることも想定して、土層観察用のベルトを2ヵ所設定して掘り下げた。約50cm掘り進んだところで非常に硬質な軽石層に達し（Ⅷ層②）、壁面も同様であるため坑底と思われた。しかし小範囲の溝を掘削したところさらに下位に続き、結果1基のやや大型のTピットと確認された。なお、Tピット10・11と列を成しており、Tピット9-10間は約11m、Tピット10-11間は約16mである。

覆土は①上位～中位が軟質な黒色～暗褐色土、②中位に非常に硬くしまったEn-a軽石、③中位～下位がしまりの弱いEn-a軽石が堆積している。①はV～Ⅶ層の流入および自然堆積と考えられる。上位から焼土（LFP-85）が検出され、暗赤褐色の土壌が中央部に落ち込むように堆積していることから、Tピットの当時のくぼみの上で焼成されたものであることが考えられる。②は赤褐色の非常に硬質な層で、鉄分が集積したものと思われる。③は壁面の崩落などによるものと考えられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層中にあり、長軸の両端から中央部に向かって30cmほど下降している。全体的に凹凸は小さい。杭穴などは確認できなかった。壁の立ち上がりは、長軸側はほぼ垂直で、短軸側は下位が膨らみ上位でオーバーハングしている。

遺物出土状況：坑口部付近からたたき石1点、覆土中からⅢ群b-1類土器1点が出土している。

掲載遺物：〔土器〕1はⅢ群b-1類天神山式。複節RLR縄文がみられる。

〔石器〕4はたたき石である。上部を欠失しているが、下端部及び表面右側縁の一部にたたき痕が認められる。石材は砂岩である。

時期：出土遺物や焼土との関係、他のTピットの状況などを考慮して、縄文時代中期以前と考えられる。構造・配列からTピット10・11と同時期とみられる。

(2) Tピット10〔LTP-10〕

位置：P-139 Q-139 標高12.53m付近

規模：3.45m / 2.91m × 0.69m / 0.28m × 1.34m

平面形：長楕円形（溝状） 長軸方向：N-45° - W

確認・調査・土層：包含層調査中、VI層付近で小型の焼土を複数検出した。それらを残して周辺をⅧ層上面まで掘り下げたところ、長楕円形の黒色土部分とそれに重複する黒褐色の楕円形部分を検出した。両者にわたる土層観察用のベルトを設定して掘り下げた。深さ1.3mを超える長楕円形の遺構となり、Tピットであることが確認された。なお、Tピット9・Tピット11と列を成している（前述）。

覆土はTピット9と同様で、①上位～中位が軟質な黒色～暗褐色土、②中位に非常に硬くしまったEn-a軽石、③中位～下位がしまりの弱いEn-a軽石が堆積している。上位から焼土（LFP-95～100・118・119）が検出され、これらの焼土、特にTピットの坑口部から検出されたLFP-100は赤褐色の土壌が落ち込むように堆積していることから、Tピットの当時のくぼみの上で焼成されたと考えられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層中にあり、長軸の両端から中央部（北西寄り）に向かって30cm以上下降している。壁の立ち上がりは、長軸側はほぼ垂直で、短軸側は中位が膨らんでおり崩落した跡と考えられる。遺物出土状況：覆土中から土器10点、石器等2点が出土している。土器はⅠ群b類2点、Ⅰ群b-3類2点、Ⅰ群b-4類1点、Ⅲ群b-1類1点、不明4点。石器等は研磨石材1点、フレイク1点である。

掲載遺物：〔土器〕2はⅠ群b-1類東釧路Ⅲ式。短縄文と絡条体圧痕が施されている。赤褐色を呈し器壁が薄い。3はⅢ群b-1類天神山式。半截竹管状施文具により平行沈線が引かれている。

〔石器〕5は研磨石材である。石斧の素材と考えられ、側縁部を中心に敲打痕があり、平坦面には擦痕が認められる。石材は蛇紋岩と考えられる。

時期：出土遺物や焼土との関係、他のTピットの状況などを考慮して、縄文時代中期以前と考えられる。構造・配列からTピット9・11と同時期とみられる。

(3) Tピット11〔LTP-11〕

位置：U-135 V-134・135 標高12.7m～12.8m

規模：3.08m / 2.56m × 0.46m / 0.10m × 1.33m

平面形：長楕円形（溝状） 長軸方向：N-20° - W

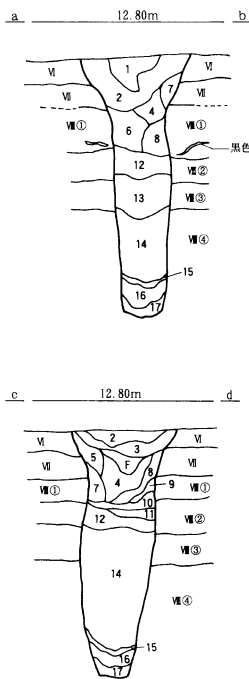
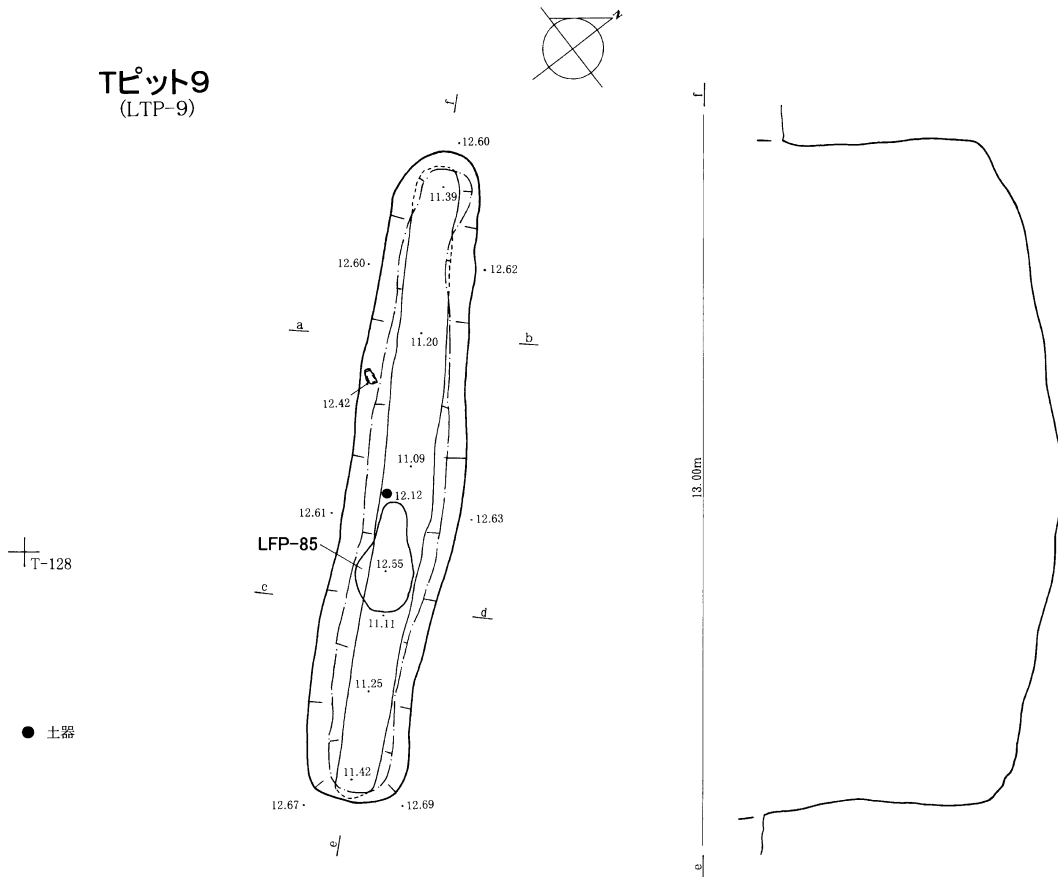
確認・調査・土層：Ⅲ層の遺構である平地住居跡8の柱穴の半截により、Ⅶ層上面に黒色土の部分を確認した。Ⅴ層中の竪穴住居跡6の調査が進んだところでこの付近をⅥ層まで掘り下げたところ、小型の焼土（LFP-50）を含む長楕円形の黒色土部分を検出した。深さ1.3mを超える長楕円形の遺構となり、Tピットであることが確認された。なお、Tピット10・Tピット11とやや距離を置いて列を成している（前述）。

覆土は①上位～中位が軟質な黒色～暗褐色土、②中位～下位がしまりの弱いEn-a軽石が堆積している。上位から焼土（LFP-50）が検出され、暗赤褐色の土壌が落ち込むように堆積していることから、Tピットの当時のくぼみの上で焼成されたものであることが考えられる。

坑底・壁：坑底はⅧ層中で中央部南寄りがややくぼむ。非常にせまい。壁の立ち上がりは垂直に近い。遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：Tピット10・11と同様、縄文時代中期以前と考えられる。

（阿部）



- 1... 極暗褐色 (7.5YR 2/3) 不均質、粘性やや強、しまり中。En-a・P 10%程度、Ta-d少量含む。
 - 2... 黒色 (7.5YR 1.7/1) 均質的、粘性やや強、しまり中。En-a・P 少量含む。〔V-2層〕
 - 3... 黒褐色 (10YR 2/2) 均質的、粘性やや強、しまり中。En-a・P 10%程度含む。
 - 4... 黒褐色 (7.5YR 3/2) やや不均質、粘性やや強、しまりやや弱。En-a・P 10%程度
 - 5... 黒色 (10YR 2/1) 均質的、粘性やや強、しまり中。En-a・P 少量含む。
 - 6... 黒褐色～暗褐色 (10YR 2/3～3/4) 不均質、粘性やや強、しまり弱。En-a・P 20%以上含む。〔VI層〕
 - 7... 褐色 (10YR 4/4) やや均質的、しまり強。En-a・P 20%以上含む。
 - 8... 褐色 (10YR 4/4) やや均質的、粘性強、しまり弱。En-a・P 10～20%含む。〔VII層〕
 - 9... 暗褐色 (10YR 3/3) やや不均質、粘性強、しまりやや弱。En-a・P 10%程度、径小さい。
 - 10... 黄褐色 (10YR 5/6) やや均質的、粘性やや強、しまり弱。En-a・P 20%程度、径大きい。
 - 11... 暗褐色 (10YR 3/3) やや不均質、粘性強、しまりやや弱。En-a・P 10%程度、径小さい。
 - 12... 赤褐色 (2.5YR 4/6) やや不均質、非常に堅。En-a・P 径大きい(2cm前後) →鉄分集積か
 - 13... 黄褐色 (10YR 5/6) 主体で、暗褐色土 (10YR 3/3) と赤褐色 (2.5YR 4/6) 混じる
粘性やや強、部分あり。しまりやや強。En-a・P の径は中程度(0.5～1cm)。
 - 14... 赤褐色 (5YR 4/8) やや不均質、しまりやや弱、黒色土入る。En-a・P 径小さい(1～5mm前後)
→鉄分集積か
 - 15... 黒色土 (10YR 1.7/1) 粘性強、しまりやや弱、径小さいEn-a・P やや多量に含まれる。
 - 16... 黄褐色 (10YR 5/6) やや均質的、しまり弱。En-a・P 径小さい(1～5mm)。
 - 17... 黒褐色 (10YR 2/2) 粘性やや強、しまり弱。En-a・P 径小さい(1～5mm)、多量に含まれる。
- ※12～14、16...VII層相当

F... 暗赤褐色 (5YR 3/6) 粘性やや強、しまり弱。En-a・P 少量含む。根 多く入る。

- VIII①... 黄褐色 (10YR 5/8) 非常に堅い、径10mm程度主体。
- VIII②... 赤褐色 (2.5YR 4/6) 非常に堅い、径1～10mm。
- VIII③... 明黄褐色 (10YR 6/6) 非常に堅い、径1～5mm。
- VIII④... 明赤褐色 (5YR 5/8) + 明黄褐色 (10YR 6/6) 均質的に混じる、しまりやや弱、径1～5mm。

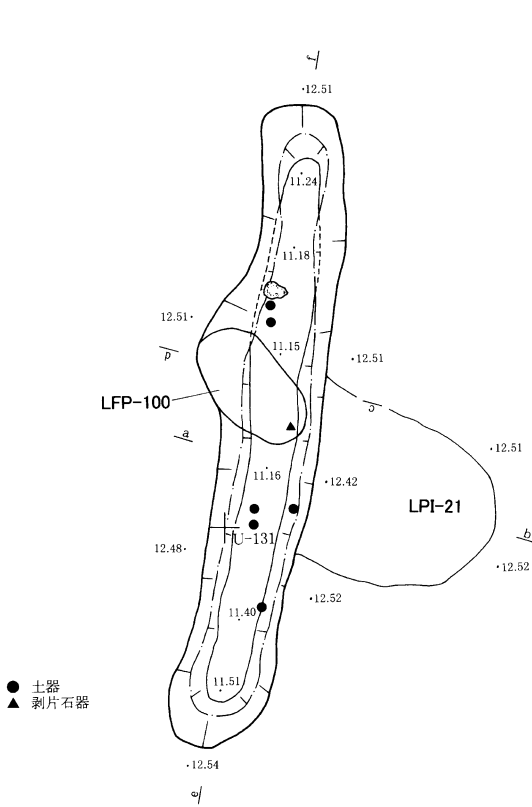


図 V - 20 Tピット9〔LTP - 9〕

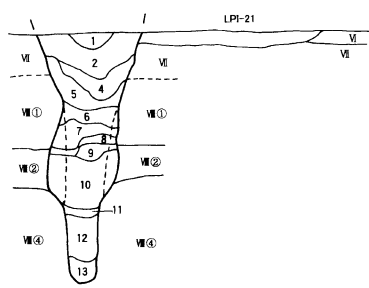
T-131



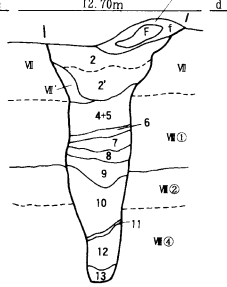
Tピット10
(LTP-10)



a. 12.70m b.

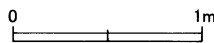


c. 12.70m d.

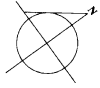


- 1...暗褐色 (10YR 3/3) 均質的。粘性やや強。しまりやや強。En-a-P 少量含む。
- 2...黒色 (7.5YR 2/1) 均質的。粘性やや強。しまりやや強。En-a-P 少量含む。〔V-2層〕
- 2'...黒褐色 (7.5YR 2/3) やや不均質。粘性やや強。しまり中。En-a-P 10~20%含む。〔V-2層下位〕
- 3...黒褐色~暗褐色 (10YR 2/2~3/3) やや不均質。粘性やや強。しまり中。En-a-P 少量含む。〔VI層〕
- 4...暗褐色~こげい黄褐色 (10YR 3/3~4/3) 非常に不均質。粘性強。しまり弱。黒色土・ローム・軽石多量含む。〔VI層〕
- 5...褐色 (10YR 4/4) やや不均質。粘性強。しまり弱。VII層を基本とするが黒色土が混じる。〔VII層〕
- 6...黒色 (7.5YR 2/1) > 褐色 (7.5YR 4/4) 均質的。粘性やや強。しまり中。En-a-P 10%程度含む。
- 7...赤褐色 (2.5YR 4/6) + 明褐色 (7.5YR 5/6) 粘性弱。しまり強。径不均質な En-a-P。一鉄分集積〔VII層②〕
- 8...黒色 (10YR 2/1) 均質的。粘性中。しまり中。En-a-P 10%程度含む。
- 9...明褐色 (7.5YR 5/6) しまり強。径やや大きい。密。〔VII層①〕
- 10...赤褐色 (2.5YR 4/6) > 明褐色 (7.5YR 5/6) しまり弱。径1~5mmの En-a-P。一鉄分集積〔VII層②〕
- 11...黒褐色 (10YR 3/1) 不均質。粘性強。しまり中。径小さい En-a-P 20%程度含む。
- 12...黄褐色 (10YR 5/6) > 赤褐色 (2.5YR 4/6) しまり弱。径1~5mm程度の En-a-P。〔VII層③〕
- 13...黒色 (2.5Y 2/1) 粘性強。しまり中。径小さい En-a-P 20%以上混じる。

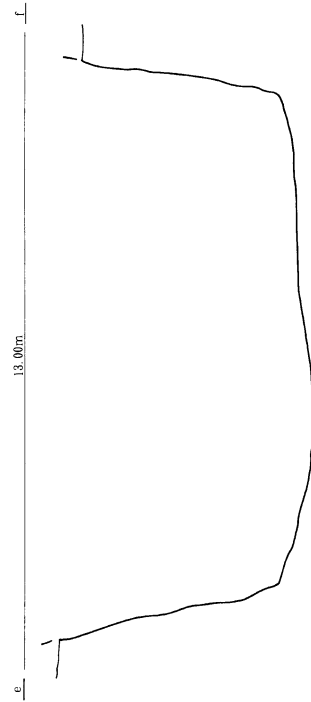
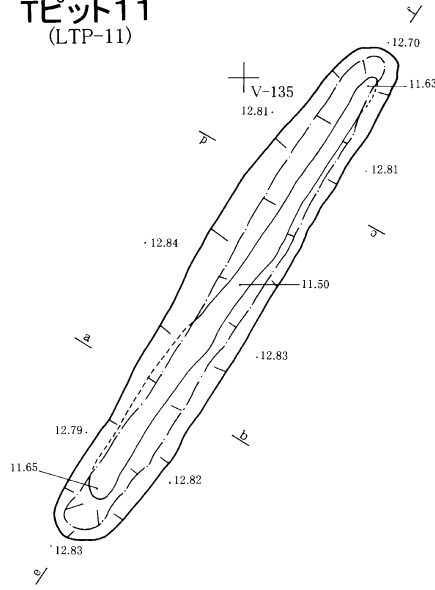
- VII①...黄褐色 (10YR 5/8) 非常に堅い。径10mm程度主体。
- VII②...赤褐色 (2.5YR 4/6) 非常に堅い。径1~10mm。
- VII③...明赤褐色 (5YR 5/8) + 明黄褐色 (10YR 6/6) 均質的に混じる。しまりやや弱。径1~5mm。



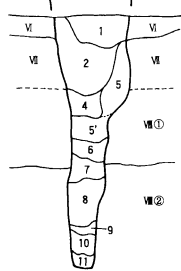
図V-21 Tピット10〔LTP-10〕



Tピット11
(LTP-11)



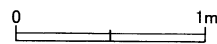
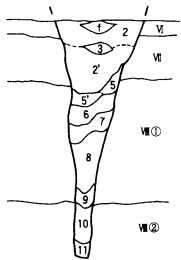
a 13.00m b



- f...暗褐色 (7.5YR 3/3) しまり中, 被熱弱い焼土, 境界不明瞭
- 1...黒褐色 (10YR 2/3) やや不均質, 粘性やや強, しまりやや強, En-a+P 少量含む。
- 2...黒色 (7.5YR 2/1) 均質的, 粘性やや強, しまりやや強, En-a+P 10%以下含む。 [V-2層相当]
- 2'...黒色 (7.5YR 2/2) 均質的, 粘性やや強, しまりやや強, En-a+P 10%以下含む。
- 3...黄褐色~暗褐色 (10YR 5/6~3/4) 不均質, 粘性強, しまり中, En-a+P 多量。 [ローム(軽石ブロック)]
- 4...暗褐色~黒褐色 (10YR 3/4~2/3) 不均質, 粘性やや強, しまり中, 黒色土, En-a+P 多量 [VI層相当]
- 5...黄褐色 (10YR 5/6) 粘性強, しまりやや強, 純度高い, En-a+P 50%以上, 密。 [VII層相当]
- 5'...黄褐色 (10YR 5/6) やや不均質, 粘性強, しまり弱, 黒色土少量入る, 粗。 [VI層相当]
- 6...黒色 (7.5YR 2/1) 均質的, 粘性強, しまり中, En-a+L, En-a+P 10%程度含む。
- 7...褐色 (10YR 5/6) しまりやや強, 純度高い, En-a+P 径小さい, 密。
- 8...赤褐色 (2.5YR 4/6)+明褐色 (7.5YR 5/8) しまり弱, En-a+P 径小へ中, ガラガラ。 [VII②相当]
- 9...黒色 (10YR 2/1) やや不均質, 粘性強, しまり弱, 黒色土主体だが, En-a+P 多量に含む。
- 10...明褐色 (7.5YR 5/8)+明黄褐色 (10YR 6/8) しまり中, En-a+P 径径 小へ中, やや密。 [VII②相当]
- 11...黒色 (10YR 2/1) やや不均質, 粘性強, しまりやや弱, 黒色土主体だが, En-a+P 多量に含む。

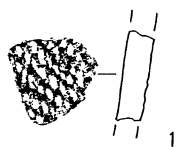
- VII...黄褐色 (10YR 5/1)
- VII①...明黄褐色 (10YR 6/8) 非常に堅い。
- VII②...赤褐色 (2.5YR 4/6)+明褐色 (7.5YR 3/8) ガラガラ。

c 13.00m d

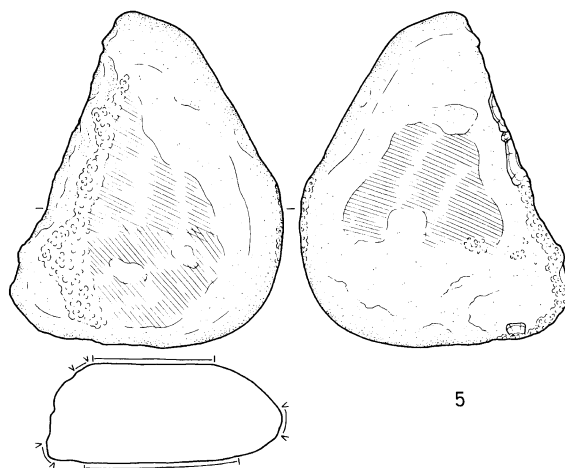
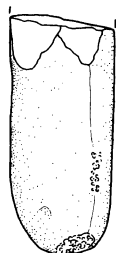
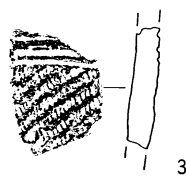
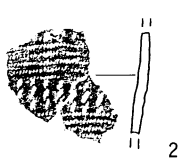


図V-22 Tピット11 [LTP-11]

LTP-9



LTP-10



図V - 23 Tピット出土の遺物

5. 焼土 (図V-24~33、表V-1~6・9~11、図版32~35・65、口絵5)

V層中で検出された、縄文時代に属する焼土の総数は133カ所である。またⅢ層下位で検出された、縄文時代(または続縄文時代)の焼土が1カ所ある。地区別ではA地区で120カ所、C地区で13カ所である。焼土の分布にはやや偏りがあり、やや大型で被熱層の厚い焼土が列を成す焼土群2カ所を「焼土列1」・「焼土列2」とし、小規模で被熱層の薄い焼土が集中する焼土群1カ所を「V層焼土群1」とした(平成14年度調査範囲を含む)。それ以外の焼土もA地区の南東側にやや偏って分布している。

(1) 焼土列1

全体の構成・分布：V層中の焼土16カ所(LFP-54~64・68~78・80~82・85)。A地区南西部、標高12.6~13.2mの平坦地上にあり、低地への崖線に沿うように分布している。2列並行で、端部(LFP-54・77)は閉じている。特に北側の端部の焼土(LFP-76)はほぼ1mと大型で被熱層も厚い。全長34.5m、列の幅は3.8~5.5mを測り、各焼土間は約1~5mであるが約2~3mの間隔をもつものが多い。北側はほぼ2列対称になっており、中央付近は両側とも焼土の間隔があいている。なお、焼土列1を構成する焼土のうちLFP-85はTピット9の覆土上位に形成されたものである。

各焼土の構造：平面形はおおむね円形・楕円形もしくはそれらがつながったもので、輪郭が明瞭なものが多い。規模は長径51~106cmまで種々あるが、60~80cmのものが多いようである。断面形はレンズ状のものも多く、中には波状・椀状のものも見られる。層厚は最大18cm(LFP-68ほか)で10cm以上の厚い被熱層をもつ焼土がほとんどである。色調は非常に明度の高い赤褐色を呈するものが多い。中央部付近は混在物が少なく均質的で、周縁部は漸移的に暗色になる。径がやや大きいEn-aの軽石が少量含まれている状況は周辺の土層と変化がないものの、焼土中のものはこれらの軽石の表面が被熱している場合が多い。

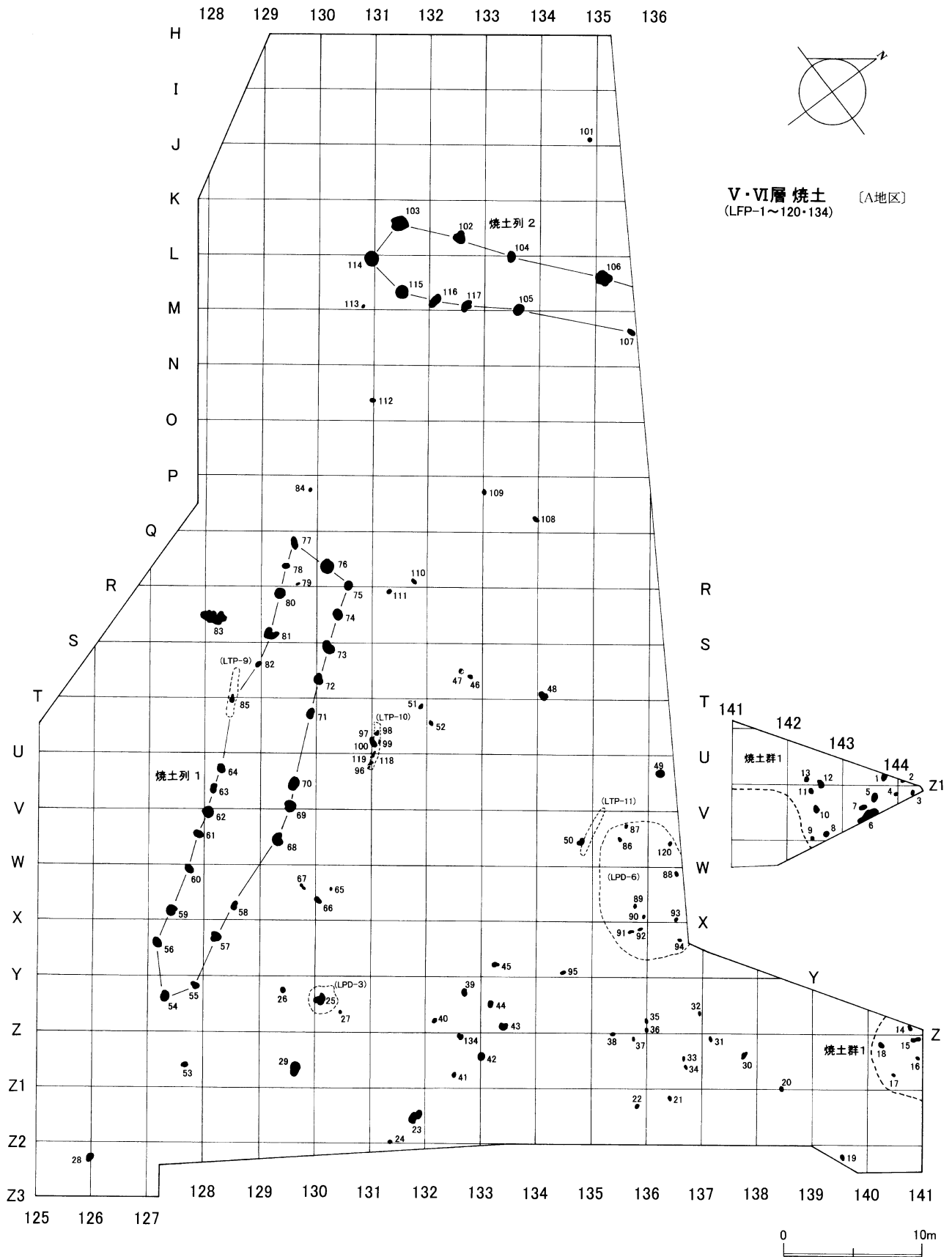
遺物出土状況：焼土中あるいは焼土直上付近から遺物は出土しているが、まとまった出土状態ではない。周囲の遺物も焼土出土の遺物として取り上げた。土器の主体はⅢ群b-1類で、全体で155点出土している。LFP-54・56・57・60~64・68~77・85の各焼土から出土しており、特にLFP-63で21点、LFP-69で33点、LFP-77で26点出土した。次いで多いのはⅠ群b類で56点である。LFP-54・55・61・68~74・76・77・81の各焼土で出土し、特にLFP-71で39点出土している。そのほか、Ⅲ群b-3類(LFP-68)・V群c類(LFP-62)がわずかに出土している。土製品は三角形土製品が計5点(LFP-62・69・71・74)のほか、土器片再生円盤がLFP-62で4点出土している。

石器は全体的に少なく、計79点のうちフレイクが計70点各焼土から出土している。そのほか石鏃3点(LFP-62・69)、スクレイパー1点(LFP-74)、石斧片1点(LFP-76)、砥石2点(LFP-70)がわずかに出土している。

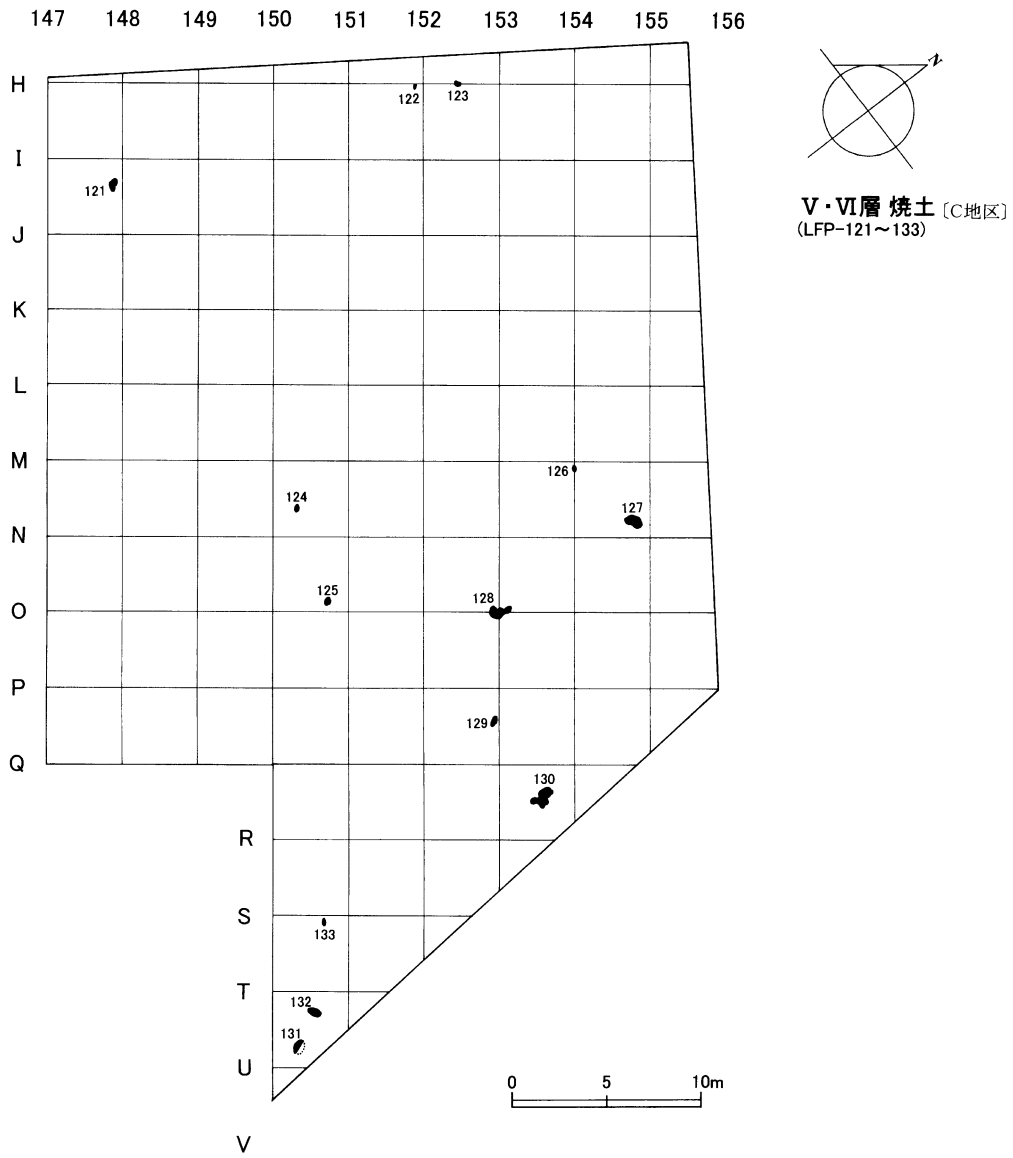
掲載遺物：〔土器等〕1~3・5・7~9はⅢ群b-1類、4はⅢ群b-3類、6はⅠ群b類に属する。10は土器片再生円盤。Ⅰ群b-1類の土器片が丁寧に加工されている。11・12は三角形土製品。表面の文様を残さないまでに三角錐になるように磨り込まれている。

〔石器〕13はLFP-69出土の石鏃である。有茎のもので、断面は裏面がほぼ平坦で、表面がやや張り出す形状である。石材は黒曜石7でやや被熱し光沢は鈍い。14はLFP-74出土のスクレイパー。縦長剥片を素材とし下部に急角度の刃部が作り出される搔器である。石材は黒曜石7である。

時期：遺物の出土状況や検出層位から、縄文時代中期後半天神山式土器を伴う時期と判断される。またすべての焼土が比較的短期間に形成されたと推定される。

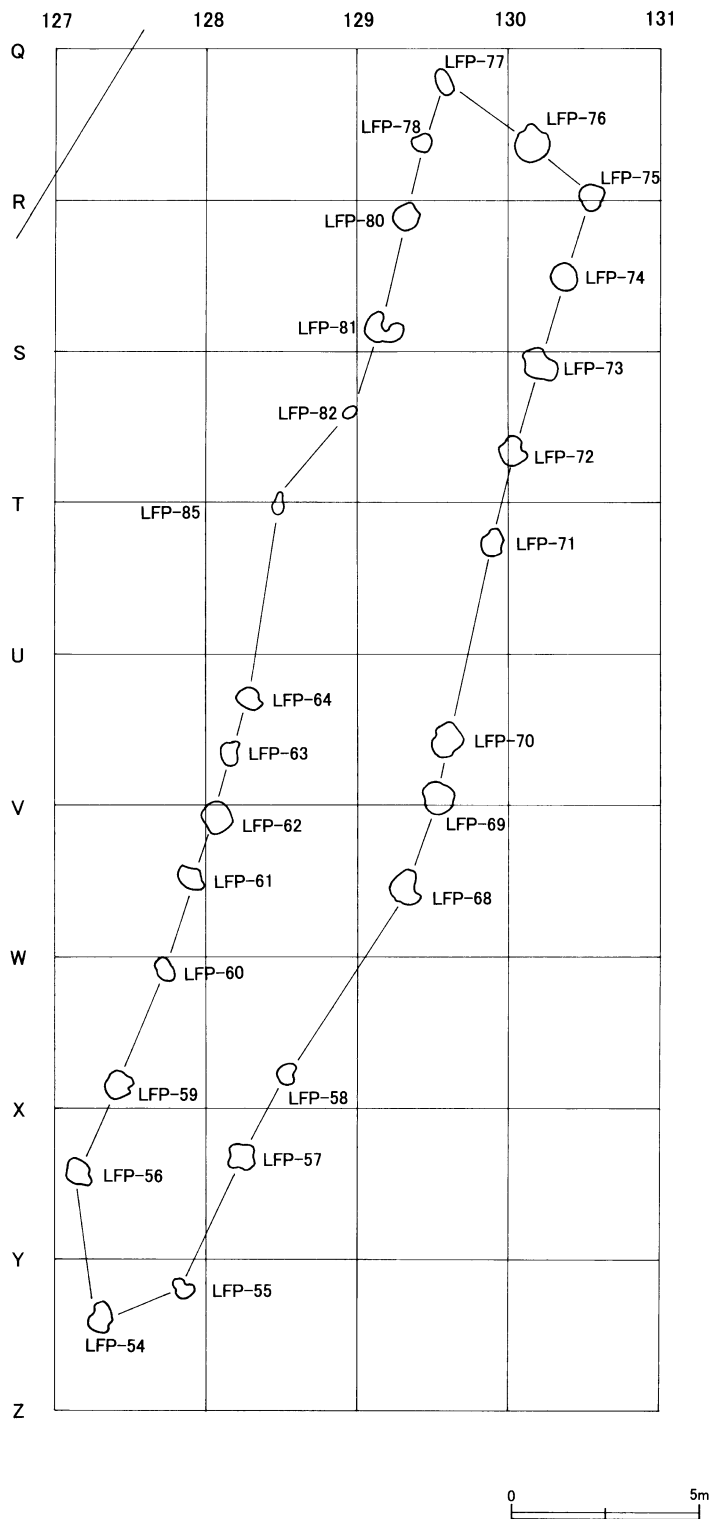
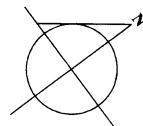


図V - 24 V・VI層焼土全体図(1)



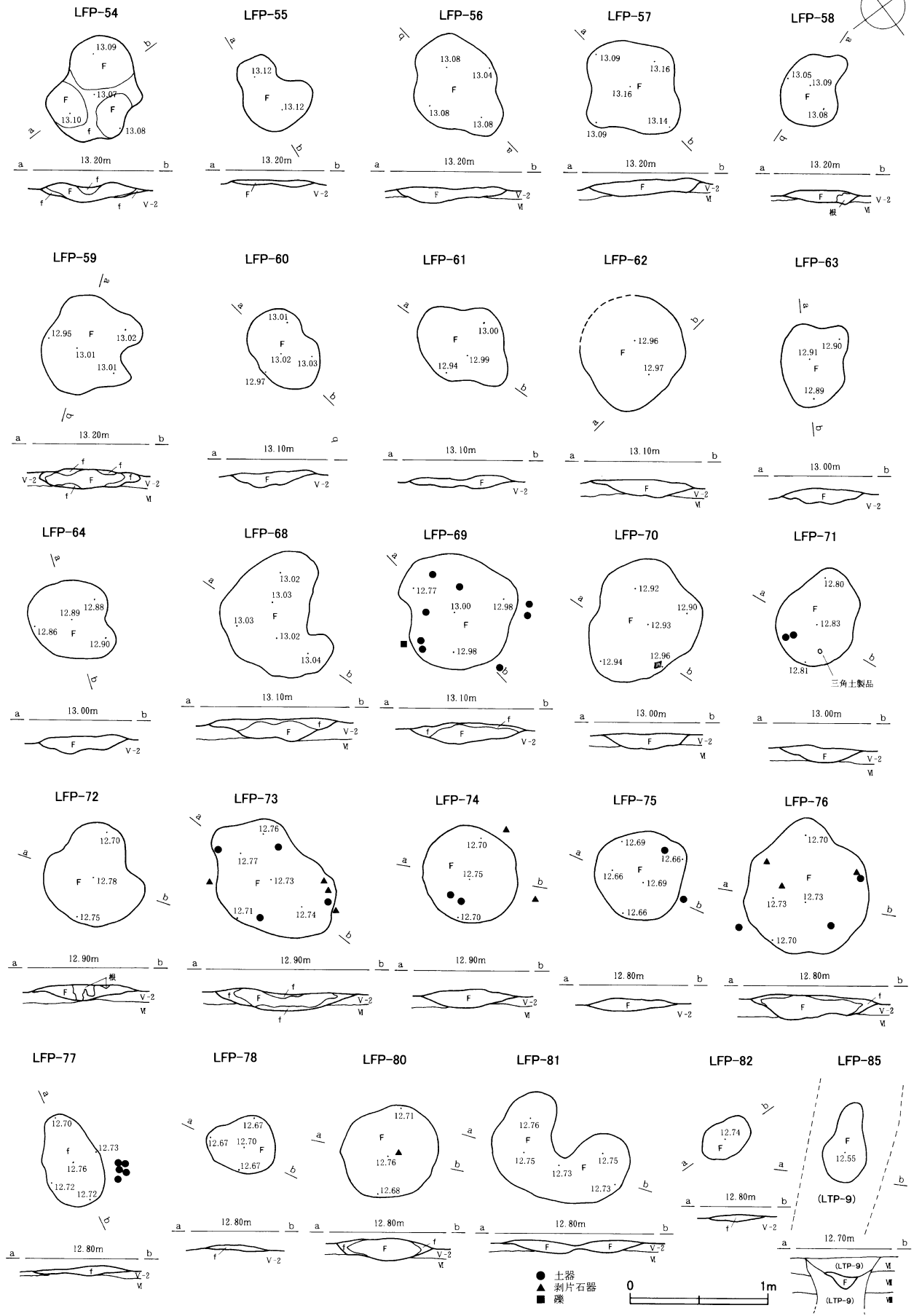
図V - 25 V・VI層焼土全体図(2)

焼土列 1



図V - 26 焼土列 1(1)

焼土列1



図V-27 焼土列1(2)

表V-1 焼土列1 一覽

遺構 番号	位置 (発掘区)	検出層位	規模 (cm)		平面形	層界	記号	各土層注記		備考
			長径	短径 層厚				色調	土質・混入物ほか	
LFP-54	Y-127	V-2層	78	61	不整楕円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-55	Y-127	V-2層	58	48	不整双円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4) やや不均質	En-a・P少量	
LFP-56	X-127	V-2層	82	63	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) 均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-57	X-128	V-2層	80	76	不整楕円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) やや均質	しまりやや弱、En-a・P20%程度	
LFP-58	W-127	V-2層	59	46	不整楕円形	明瞭	F	褐色(7.5YR4/4) やや均質	しまり中、径やや大きいEn-a・P10-20%、根(黒色土)多い	
LFP-59	W-127	V-2層	74	68	不整楕円形	やや不明瞭 (漸遷)	F	赤褐色(5YR4/8) 均質	しまり中、En-a・P10-20%被熱	
LFP-60	W-127	V-2層	63	44	不整双円形	漸遷	f	暗褐色(7.5YR3/4) 均質	しまり中、En-a・P10-20%	
LFP-61	V-127	V-2層	76	59	不整楕円形	やや明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) やや不均質	しまり中、En-a・P10-20%、根(炭)	
LFP-62	V-128	V-2層	84	80	ほぼ円形	明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) やや不均質	しまり中、En-a・P10-20%、根(炭)	
LFP-63	U-128	V-2層	60	50	不整楕円形	明瞭 (下端波状)	F	明褐色(7.5YR5/8) 均質	しまり中、En-a・P10%程度、根	
LFP-64	U-128	V-2層	70	59	ほぼ楕円形	明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) やや不均質	しまり中、径大きいEn-a・P10%程度、根多い	
LFP-68	V-129	V-2層	88	88	不整形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/6) やや不均質	しまり中、En-a・P10%程度・被熱、根(黒色土)多い	
LFP-69	U・V-129	V-2層	90	84	不整楕円形	やや明瞭	f	極暗赤褐色(5YR2/3) 均質	しまり中、En-a・P10%程度	
LFP-70	U-129	V-2層	94	78	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) やや均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-71	T-129	V-2層	72	58	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/4) 均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量	
LFP-72	S-129・130	V-2層	76	74	不整円形	やや不明瞭	F	赤褐色(5YR4/6) やや均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、太い根	
LFP-73	S-130	V-2層	106	75	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	明赤褐色(5YR5/8) 均質	しまり中、径大きいEn-a・P少量	
LFP-74	R-130	V-2層	70	70	円形	やや明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3) 均質	しまり中、En-a・P少量、根	
LFP-75	Q・R-130	V-2層	68	64	ほぼ円形	やや明瞭	F	明赤褐色(5YR5/8) 均質	しまり中、En-a・P極少量、根(黒色土)	
LFP-76	Q-130	V-2層	99	93	不整円形	明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) 均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-77	Q-129	V-2層	68	44	ほぼ楕円形	不明瞭	f	明赤褐色(5YR5/8) 均質	しまりやや弱、En-a・P、Ta-d少量	
LFP-78	Q-129	V-2層	51	43	不整楕円形	不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4) やや均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-80	R-129	V-2層	70	69	ほぼ円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/4) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-81	R-129	V-2層	101	69	不整双円形	やや不明瞭	f	赤褐色(5YR4/8) 均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-82	S-128	V-2層	40	27	楕円形	不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/3) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-85	T-128	LTP-9覆土	58	32	不整楕円形	明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根	
							F	暗褐色(7.5YR3/3) 均質	しまり中、En-a・P少量、根	
							F	暗赤褐色(5YR3/6) やや不均質	しまり弱、En-a・P少量、根多い	

(2) 焼土列 2

全体の構成・分布：V層中の焼土16ヵ所（LFP - 102～107・114～117・平成14年度調査区FP - 88～93）で構成される。A地区北部から平成14年度B地区に東西またがって、標高12.3～12.7mの平坦地上に分布している。焼土群1とはおよそ90度方位が異なる。調査の過程上、現場では列の一部が確認できた。その後図上で検討したところ、2列並行で、端部（LFP - 114・FP - 93）は閉じる焼土列であることがわかった。特に西側の端部の焼土（LFP - 114）はほぼ1mと大型で被熱層も厚い。全長29.2m、列の幅は3.0～5.5mを測り、各焼土間は約2～8mであるが約2～3mの間隔をもつものが多い。中央付近は両側とも焼土の間隔があいている。

各焼土の構造：平面形はおおむね円形・楕円形で、輪郭が明瞭なものが多い。規模は長径46～119cmまで種々あるが、80～100cmのものが多い。断面形はレンズ状のものが多い。層厚は最大14cm（LFP - 103ほか）で10cm以上の厚い被熱層をもつ焼土がほとんどである。色調は明度の高い赤褐色を呈するものが多い。中央部付近は混在物が少なく均質的で、周縁部は漸移的に暗色になる。径がやや大きいEn - aの軽石が少量含まれている状況は周辺の土層と変化はない。

遺物出土状況：焼土中あるいは焼土直上付近から遺物は出土しているが、まとまった出土状態ではない。検出面で出土した周囲の遺物も焼土出土の遺物として取り上げた。土器の主体はⅢ群b - 1類で、全体で109点出土している。各焼土から出土しており、特にLFP - 102で44点、LFP - 103で32点などとなっている。そのほかLFP - 115でⅠ群b類1点が出土している。

石器は少なく、計13点のうちフレイクが6点出土している。そのほか石鏃1点（LFP - 115）、石斧片3点（LFP - 103・116）、礫3点（LFP - 105・116）がわずかに出土している。

掲載遺物：〔土器等〕15～18はⅢ群b - 1類に属する。16の口唇は比較的弱い肥厚である。

時期：遺物の出土状況や検出層位から、縄文時代中期後半天神山式土器を伴う時期と判断される。またすべての焼土が比較的短期間に形成されたと推定される。

(3) V層焼土群 1

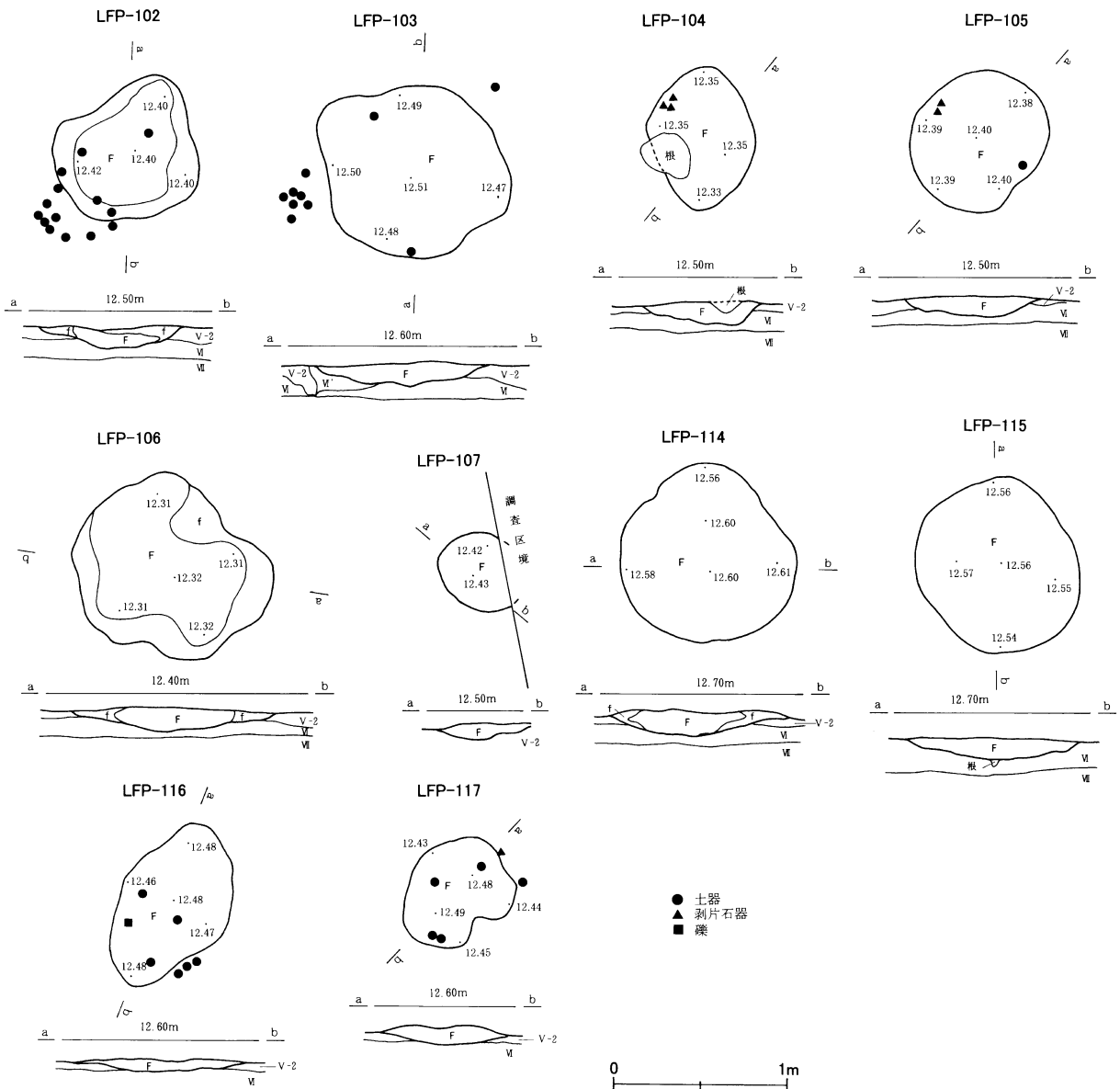
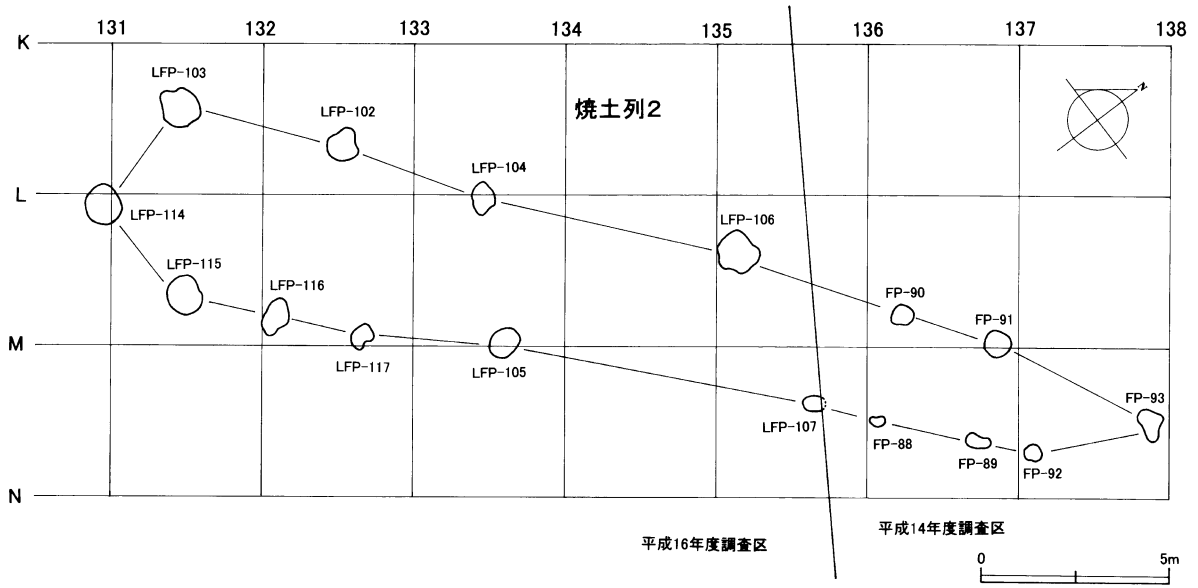
全体の構成・分布：A地区のV層中の焼土18ヵ所（LFP - 1～18）と平成14年度B地区のV層中の焼土35ヵ所（FP - 15～46・60～62）の計53ヵ所で構成される。分布範囲は約17m×約12mである。A地区東部（B地区南東部）標高13.8～14.4mの平坦もしくは非常に緩やかな斜面上にあり、さらに東側の調査区外へ続いている。分布に濃淡があり、B地区Z - 143区付近に集中するほかはやや密度が小さい。また検出レベルにもそれぞれ若干の差がある。

各焼土の構造：平面形は円形・楕円形のものが多い。規模は長径51～106cmまで種々あるが、60～80cmのものが多いようである。断面形はレンズ状のものも多く、中には波状・椀状のものも見られる。層厚は最大でも10cm（LFP - 2ほか）で、5cm前後の被熱層をもつ焼土が多い。色調は明度の低い暗褐色を呈し焼土の輪郭が不明瞭なものが多い。混在物が少なく均質的であるが、中には焼土粒や炭化物が不均質に含まれるものがある（LFP - 7）。

遺物出土状況：焼土中あるいは焼土直上付近から遺物は出土しているが、まとまった出土状態ではない。検出面で出土した周囲の遺物も焼土出土の遺物として取り上げた。土器の出土点数は10点で少なく、内訳はⅢ群b - 1類6点（LFP - 4・12・13・17・18）、V群c類2点（LFP - 6）、不明2点（LFP - 14）である。石器は石鏃1点（LFP - 6）、礫1点（LFP - 10）がわずかに出土している。

掲載遺物：〔土器等〕19・21・22はⅢ群b - 1類、20はV群c類に属する。

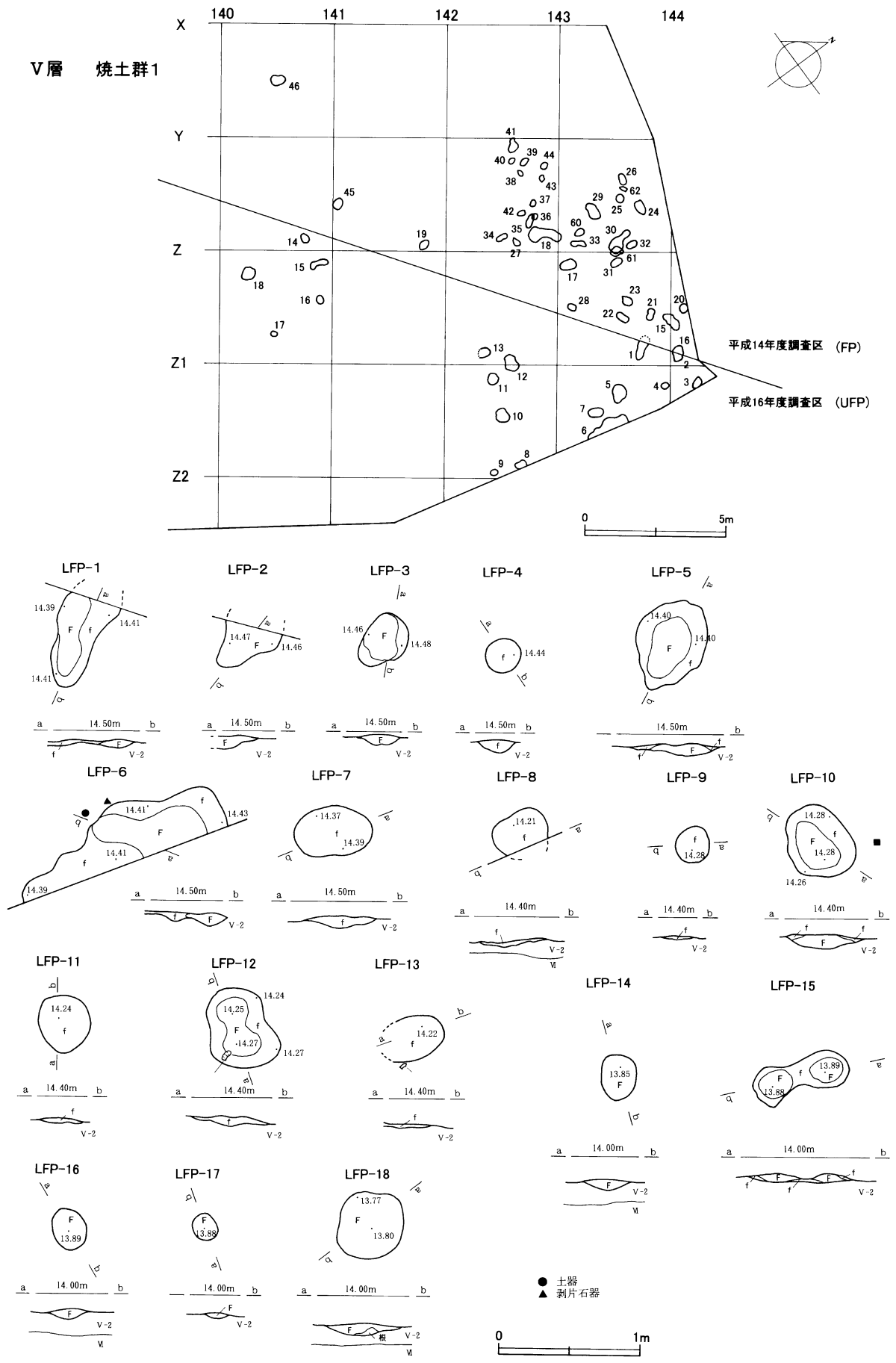
〔石器〕23はLFP - 6出土の石鏃である。石材は黒曜石7である。



図V - 28 焼土列2

表V - 2 焼土列2 一覽

遺構 番号	位置 (発掘区)	検出層位	規模 (cm)		平面形	層界	各土層注記			備考
			長径	短径 層厚			記号	色調	土質・混入物ほか	
LFP - 102	K - 132	V - 2層下位	90	88	不整楕円形	明瞭	F	赤褐色(5YR4/6) 均質	しまり中、根多い	
LFP - 103	K - 131	V - 2層下位	119	100	不整楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3) やや不均質	しまり中	
LFP - 104	K・L - 133	VI層	83	62	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	明赤褐色～赤褐色 (5YR5/8～4/8) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根が多い	
LFP - 105	L・M - 133	VI層	83	73	ほぼ楕円形	やや不明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) 均質	しまり中、Ta-c、En-a・P少量、根(黒色土)多い	
LFP - 106	L - 135	VI層	116	104	不整楕円形	やや不明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) 均質	Ta-c、En-a・P少量、根(黒色土)多い	
LFP - 107	M - 135	V - 2層下位	(50)	42	楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色～黒色(7.5YR3/3～2/2) やや不均質	Ta-c、En-a・P少量、根(黒色土)多い	
LFP - 114	L - 130・131	V - 2層下位	104	103	不整楕円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) 均質	しまりやや弱、En-a・P少量、根(黒色土)多い	
LFP - 115	L - 131	V - 2層下位	102	90	楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3) 均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)多い	
LFP - 116	L - 132	V - 2層下位	100	64	不整楕円形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/4) やや均質	しまり中、En-a・P10%程度、根(黒色土)多い	
LFP - 117	L - 132	V - 2層下位	70	58	不整楕円形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/4) 均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)多い	



図V-29 V層焼土群1

表V-3 V層焼土群1 一覽

遺構 番号	位置 (発掘区)	検出層位	規模 (cm)		平面形	層界	各土層注記			備考	
			長径	短径			記号	色調	土質・混入物ほか		
LFP-1	Z-143	V-2層上位	(67)	37	長楕円形	やや不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中	
				5			f	極暗赤褐色(5YR2/4)	やや不均質		
LFP-2	Z-144	V-2層上位	(32)	41	不整形	やや明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質的	しまり中	
LFP-3	Z1-144	V-2層上位	41	32	楕円形	やや明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質的	しまり中	
LFP-4	Z1-143	V-2層上位	26	24	円形	やや不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中	
LFP-5	Z1-143	V-2層上位	69	51	ほぼ楕円形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/4)	均質	しまりやや強、焼土粒やや多量	
				9			f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中	
LFP-6	Z1-143	V-2層上位	55	(41)	不整形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/6)	やや不均質	しまり中、焼土粒やや多量	
				9			f	暗褐色(7.5YR3/3)	均質	しまりやや強、焼土粒少量	
LFP-7	Z1-143	V-2層上位	55	36	楕円形	やや明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4)~褐色(7.5YR4/3)	やや不均質	焼土粒多量、炭化物少量	
LFP-8	Z1-142	V-2層上位	40	(27)	楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3)	不均質	黒色土混じる、En-a・P少量	
LFP-9	Z1-142	V-2層上位	26	24	円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	やや不均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-10	Z1-142	V-2層上位	56	47	楕円形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/6)	漸遷	しまり中	
				10			f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中	
LFP-11	Z1-142	V-2層上位	41	38	楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3)	やや均質	しまり中	
LFP-12	Z-142	V-2層上位	60	48	双円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質	焼土粒含む	
LFP-13	Z-142	V-2層上位	(44)	31	楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中	
LFP-14	Y-140	V-2層上位	32	25	楕円形	やや不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中	
LFP-15	Z-140	V-2層上位	68	28	双円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/4)	均質		
				6			f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中	
LFP-16	Z-140	V-2層上位	29	24	楕円形	やや明瞭	F	明褐色(7.5YR5/6)	漸遷	しまり中、焼土粒やや多量	
LFP-17	Z-140	V-2層上位	19	17	円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/4)	均質	しまり中	
LFP-18	Z-140	V-2層上位	52	49	ほぼ円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/4)	均質	しまり中	

時期：遺物の出土状況や検出層位から明確には判断できないが、縄文時代中期後半天神山式土器を伴う時期または縄文時代晩期後葉タンネトウL式を伴う時期と推定される。すべての焼土が同時期に形成されたかは不明である。

(4) その他のV層焼土

縄文時代の焼土134カ所のうち、「焼土列1」「焼土列2」「V層焼土群1」計44カ所を除いた90カ所の焼土についてまとめて掲載する（LFP - 19・53・65・67・79・83・84・86・101・108・113・118・133・UFP - 31）。

分布：A地区77カ所、C地区13カ所が検出され、A地区では東側から南側にかけて多く、C地区では点在している。

検出位置について、大きく分けて以下のとおりの特徴がある。

- ① 竪穴住居やTピットなど遺構の覆土上位で検出されるもの
- ② 列や群をなさないが、比較的まとまって検出されるもの
- ③ 単独で検出されるもの

①について、竪穴住居跡3で1カ所（LFP - 25）、竪穴住居跡6で10カ所（LFP - 86・94・120）、Tピット10で7カ所（LFP - 96・100・118・119）、Tピット11で1カ所（LFP - 50）が検出されている。②について、A地区南東部で焼土列に近い配置をもつ複数の焼土がある（LFP - 23・24・39・44）。また群とはいえませんが比較的まとまった分布を示す複数の焼土がある（LFP - 20・22・30・38）。③はそれ以外のものである。

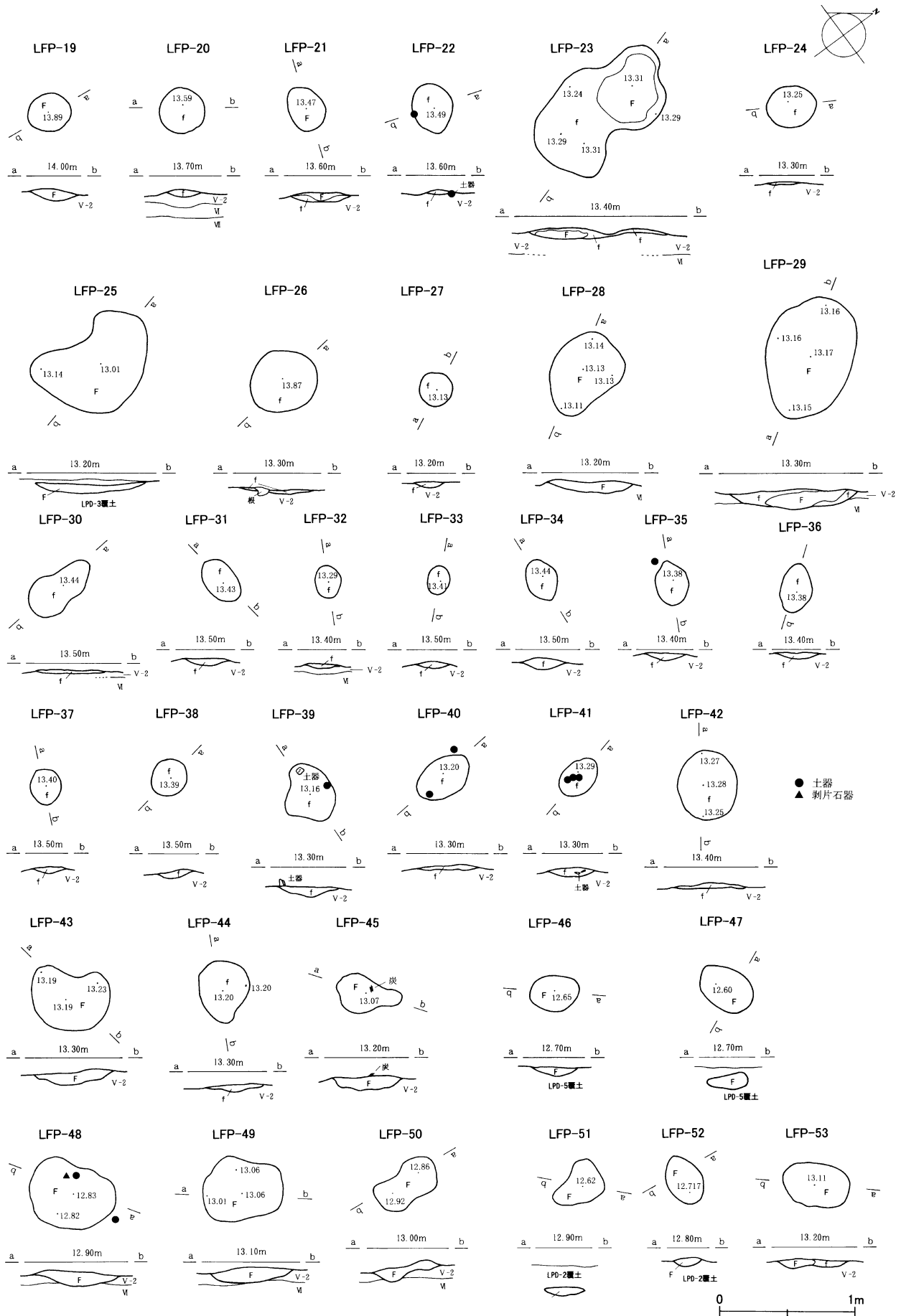
また検出層位について、V - 2層の上位から下位のほか、VI層で検出される焼土も多い（特にC地区LFP - 123・129など）。

各焼土の構造：平面形は円形・楕円形・もしくはそれらがつながったもののほか、不整形な焼土が目立つ。規模は長径51～106cmまで種々あるが、60～80cmのものが多いようである。断面形はレンズ状のものほか、波状・椀状のものも多数見られ不均一である。特に乱れた形状を示すものは、風倒木の影響によるものが多いとみられる。層厚は2～20cmとさまざまで、色調も非常に明度の高い赤褐色を呈するものから極暗褐色で境界が不明瞭なものまでさまざまである。個々の焼土の状況について、表V - 4～6にまとめた。

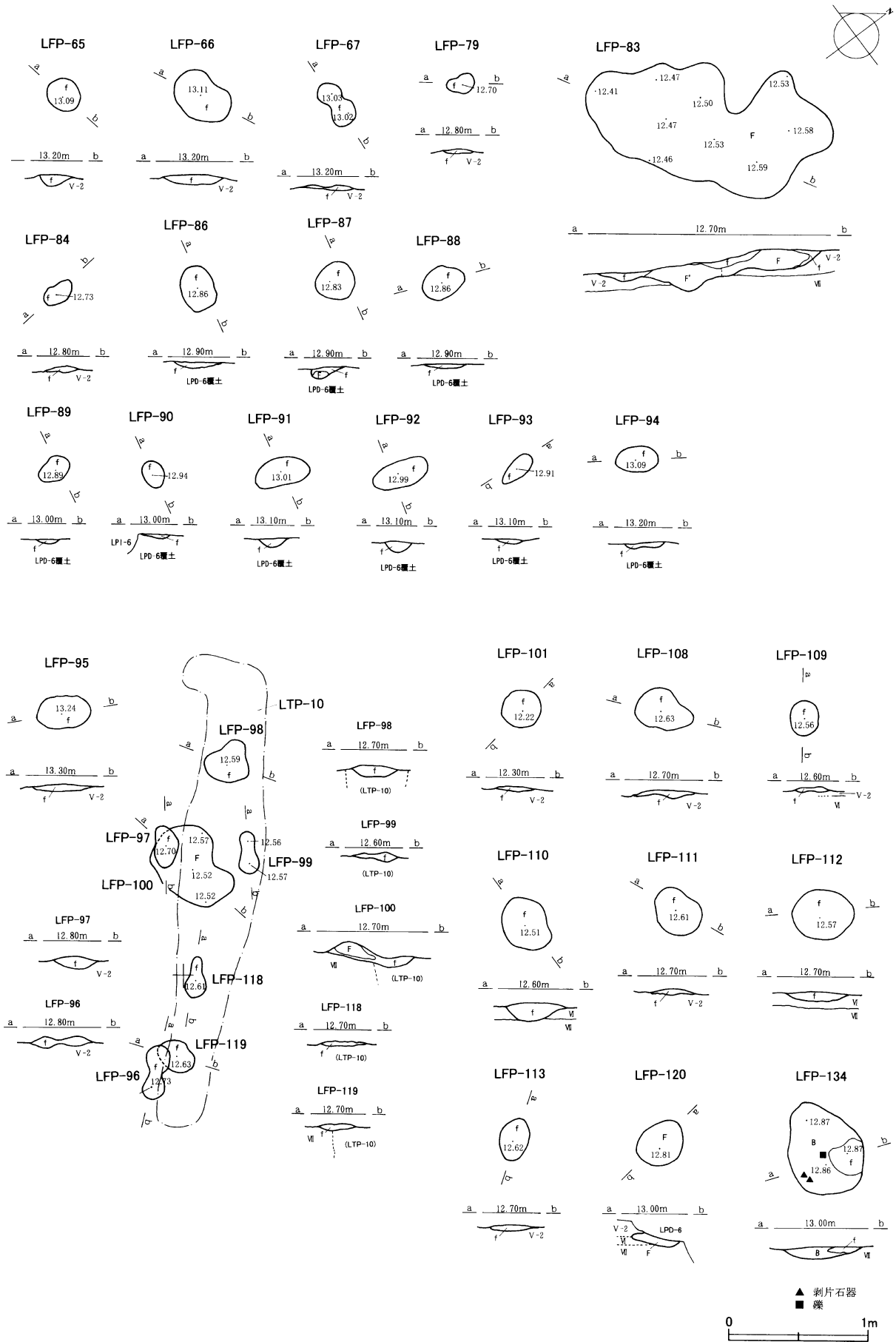
遺物出土状況：まとまった出土状態ではない。検出面で出土した周囲の遺物も焼土出土の遺物として取り上げた。土器の出土点数は90点で、内訳はⅢ群b - 1類43点（LFP - 23・35・37・41・44・45・83・95・108・113・133）、Ⅰ群b類41点（LFP - 22・23・39・41・43・44・45・48・49・83・95・111・134）、Ⅰ群b - 3類6点（LFP - 35・36）である。石器は石斧片2点（LFP - 41・44）が出土しているほかは、フレイク計31点、礫2点となっている。

掲載遺物：〔土器等〕24はLFP - 22出土のⅠ群b - 4類土器である。燃糸文が施文された器厚の薄い土器。25～27はLFP - 35から出土した。このうち25はⅢ群b - 1類、26はⅠ群b - 3類、27はⅠ群b - 1類に属する。27の底部の張り出しは比較的弱い。28～31はⅢ群b類土器、29・30・32はⅠ群b - 1類土器である。

時期：個々の焼土について、遺物の出土状況や検出層位から明確に判断できるものは少ない。縄文時代早期後半、中期後半、晩期後葉の各時期の焼土が存在するものと思われる。（阿部）

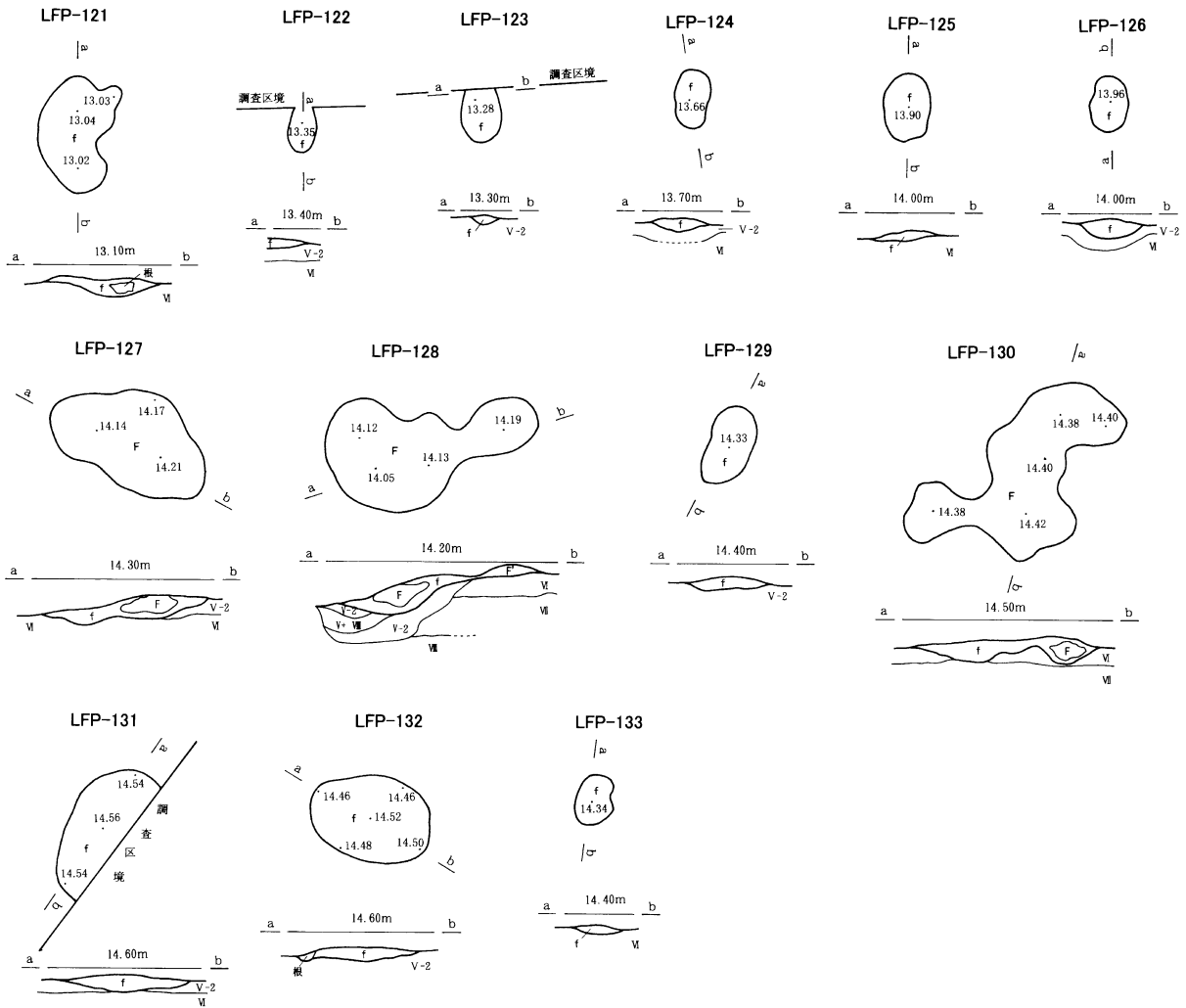
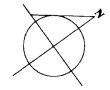


図V-30 V・VI層焼土(1)〔LFP-19~53〕

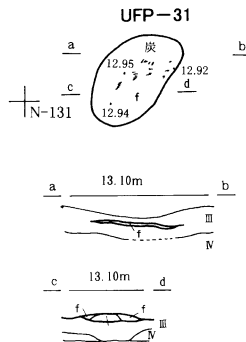


図V-31 V・VI層焼土(2)〔LFP-65~120・134焼土列除く〕

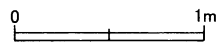
V・VI層 焼土 [C地区]



III層焼土



F……暗赤褐色(5YR 3/6)。層界やや不明瞭。しまり中。ブロック状で不均質。炭化物やや多量含む。
f……極暗褐色(7.5YR 3/4~2/2)。層界不明瞭。しまり中。色調不均質。炭化物多量含む。



図V - 32 V・VI層焼土(3) [LFP - 121 ~ 133], III層焼土 [UFP - 31]

表V-4 V層その他の焼土一覽(1)

遺構 番号	位置 (発掘区)	検出層位	規模 (cm)		平面形	層界	記号	各土層注記		備考
			長径	短径				色調	土質・混入物ほか	
LFP-19	Z2-139	V-2層下位	31	29	ほぼ円形	やや不明瞭	F	褐色(7.5YR4/4)	均質	しまり中
LFP-20	Z-138	V-2層下位	35	34	ほぼ円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-21	Z1-136	V-2層上位	34	27	楕円形	明瞭	F	赤褐色(5YR4/6)	やや不均質	焼土粒多い、黒色ブロック
							f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中
LFP-22	Z1-135	V-2層上位	37	30	ほぼ楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中、En-a・Pやや多量
LFP-23	Z1-131	V-2層	111	64	不整形	やや明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/3)	均質	En-a・P少量・被熱
							f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中
LFP-24	Z1-131	V-2層	37	31	ほぼ楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中
LFP-25	Y-130	LPD-3覆土	84	54	不整形	不明瞭	F	赤褐色(5YR4/6)	やや不均質	しまり中
LFP-26	Y-129	V-2層	54	46	ほぼ楕円形	不明瞭	f	褐色(7.5YR4/4)	やや不均質	しまり中
LFP-27	Y-130	V-2層	24	24	ほぼ円形	やや不明瞭	f	暗褐色(10YR3/4)	均質	しまり中、焼土粒少量
LFP-28	Z2-125	VI層	66	52	不整形楕円形	やや不明瞭	F	明褐色~褐色(7.5YR5/6~4/4)		しまりややや強、En-a・Pやや多量、根(黒色土)多い
LFP-29	Z1-129	V-2層	92	65	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8)	やや均質	しまり中、En-a・P少量、根多い
							f	暗褐色(7.5YR3/4)	不均質	しまり中、根やや多い
LFP-30	Z-137	V-2層下位	54	30	不整形楕円形	やや不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	不均質	しまり中、En-a・P少量、焼土粒
LFP-31	Z-137	V-2層下位	36	24	楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-32	Y-136	V-2層下位	24	19	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	不均質	しまりややや強、En-a・P、Ta-d少量
LFP-33	Z-136	V-2層下位	21	16	楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3)	均質	しまり中
LFP-34	Z-136	V-2層下位	32	22	ほぼ楕円形	やや明瞭	f	褐色(7.5YR4/4)	やや均質	しまり中、焼土粒少量、根
LFP-35	Y-135	V-2層	32	24	不整形楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量
LFP-36	Y-135	V-2層	35	23	楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量
LFP-37	Z-135	V-2層	25	24	ほぼ円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-38	Y・Z-135	V-2層	29	27	ほぼ円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根多い
LFP-39	Y-132	V-2層	46	29	不整形楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)
LFP-40	Y-132	V-2層	43	30	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量
LFP-41	Z-132	V-2層	33	23	ほぼ楕円形	やや明瞭	f	褐色~暗褐色(7.5YR4/4~3/4)		しまり中、En-a・P少量、黒色土、焼土粒 やや不均質
LFP-42	Z-132・133	V-2層	50	44	楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、黒色土
LFP-43	Y-133	V-2層	60	54	不整形楕円形	やや不明瞭	F	暗赤褐色(5YR3/6)	やや不均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、根(黒色土)多い
LFP-44	Y-133	V-2層	46	38	不整形楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量
LFP-45	X-133	V-2層	48	29	不整形楕円形	やや明瞭	F	暗赤褐色(5YR3/6)	やや均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、根(黒色土)多 い、炭化物少量
LFP-46	S-132	LPD-5覆土	38	26	不整形楕円形	やや明瞭	F	褐色(7.5YR4/3)	やや均質	しまり中
LFP-47	S-132	LPD-5覆土	44	31	不整形楕円形	やや明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4)	やや均質	しまり中
LFP-48	S-134	V-2層	64	50	ほぼ楕円形	不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)

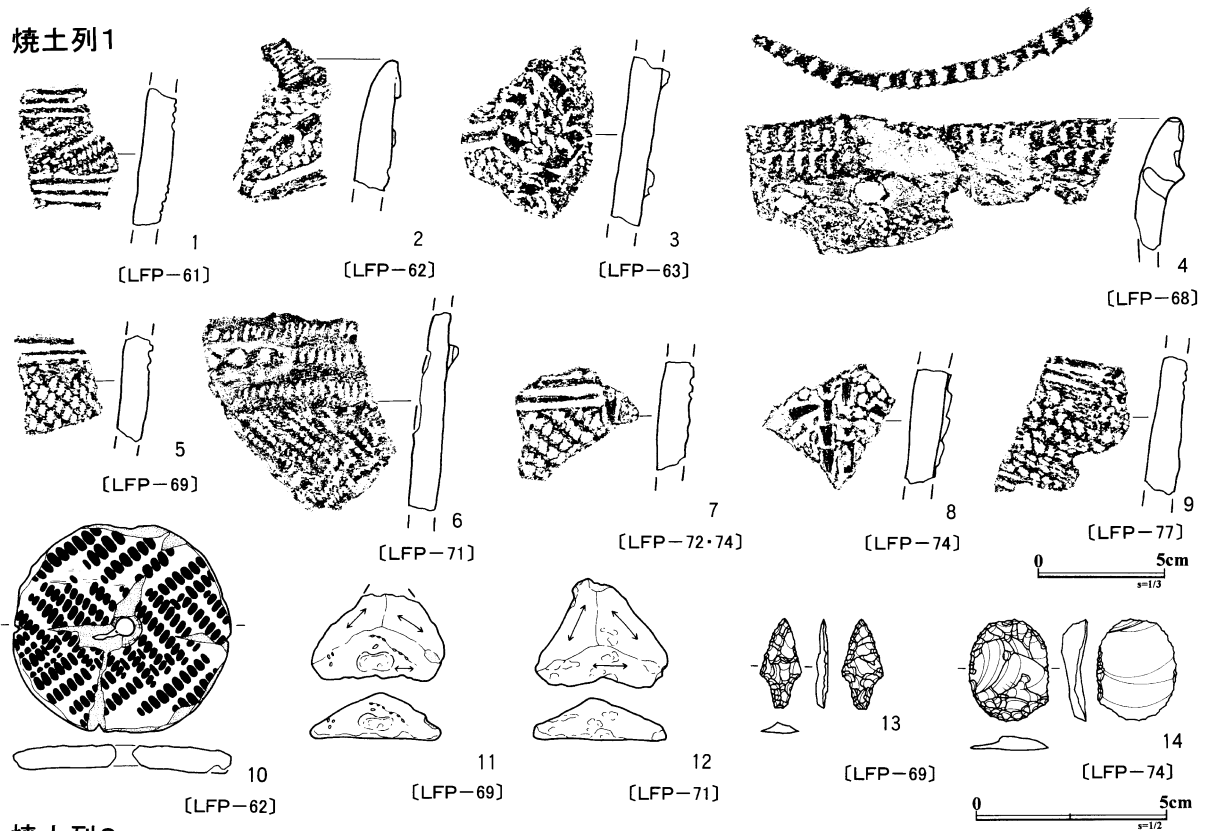
表V-5 V層その他の焼土一覽(2)

遺構番号	位置(発掘区)	検出層位	規模 (cm)		平面形	層界	記号	各土層注記		備考
			長径	短径				色調	土質・混入物ほか	
LFP-49	U-136	V-2層	59	47	ほぼ楕円形	やや明瞭	F	にぶい赤褐色(5YR4/4)	均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)やや多い
LFP-50	V-134	V-2層下位	50	28	不整双円形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8)	やや均質	しまりやや弱、En-a・P少量、根(黒色土)
LFP-51	T-131	LPD-2覆土	40	30	不整形	不明瞭	F	暗赤褐色(5YR3/2)	やや均質	しまり中
LFP-52	T-131	LPD-2覆土	38	26	楕円形	不明瞭	f	暗赤褐色(5YR3/3)	やや均質	しまり中
LFP-53	Z-127	V-2層下位	51	33	楕円形	やや明瞭	f	褐色(7.5YR4/6)	均質	しまり中
							f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中
LFP-65	W-130	V-2層	26	24	ほぼ円形	やや不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中
LFP-66	W-130	V-2層	43	31	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色~極暗褐色(7.5YR3/3~2/3)	やや均質	しまり中、En-a・P少量・被熱
LFP-67	W-129	V-2層	35	18	双円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中
LFP-79	Q-129	V-2層	20	14	ほぼ楕円形	やや不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、
LFP-83	R-127・128	VI層	180	94	不整形	やや明瞭	F'	赤褐色(5YR4/8)	均質	しまりやや弱、En-a・P10%以下
							f	暗赤褐色(5YR3/6)	やや不均質	しまり中、En-a・P20%程度、Ta-d少量、根(黒色土)
LFP-84	P-129	V-2層	25	13	不整楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	やや不均質	しまり中、En-a・P10%以下、根(黒色土)
LFP-86	V-135	LPD-6覆土	32	34	不整楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/4)	均質	しまり中
LFP-87	V-135	LPD-6覆土	28	27	不整円形	やや明瞭	f	暗赤褐色(5YR3/3)	やや均質	しまり中、炭1%
							f	黒褐色(5YR2/2)	やや均質	しまり中、焼土粒
							F	暗赤褐色(5YR3/4)	やや不均質	しまり中
LFP-88	W-136	LPD-6覆土	31	24	不整楕円形	不明瞭	f	黒褐色(7.5YR3/2)	やや不均質	しまり中、焼土粒10%
LFP-89	W-135	LPD-6覆土	24	18	不整楕円形	不明瞭	f	黒褐色(7.5YR3/2)	やや不均質	しまり中、焼土粒40%
LFP-90	W-135	LPD-6覆土	21	16	不整楕円形	不明瞭	f	黒褐色(7.5YR2/2)	やや均質	しまり中、焼土粒30%
LFP-91	X-135	LPD-6覆土	40	20	不整楕円形	不明瞭	f	極暗赤褐色(5YR2/2)	やや不均質	しまり中
LFP-92	X-135	LPD-6覆土	41	18	不整楕円形	やや明瞭	f	暗赤褐色(5YR3/4)	やや不均質	しまり中
LFP-93	W-136	LPD-6覆土	28	13	不整楕円形	不明瞭	f	黒褐色(7.5YR2/2)	均質的	しまり中、焼土粒30%
LFP-94	X-136	LPD-6覆土	31	19	不整楕円形	不明瞭	f	暗赤褐色(5YR3/2)	やや不均質	しまり中、焼土粒50%
LFP-95	X-134	V-2層	38	24	楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-96	U-130	LTP-10覆土	40	16	双円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-97	T-130	LTP-10覆土	30	19	不整楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-98	T-131	LTP-10覆土	36	33	不整楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中、En-a・P10~20%
LFP-99	T-131	LTP-10覆土	31	15	ほぼ双円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3)	均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-100	T-131	LTP-10覆土	64	48	不整楕円形	やや明瞭	F	明赤褐色(5YR5/8)	均質	しまり中、En-a・P少量
							f	褐色(7.5YR3/4)	やや不均質	しまり中、En-a・P、Ta-dやや多量
LFP-101	I-134	V-2層	29	28	ほぼ円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	やや均質	しまり中、En-a・P少量
LFP-108	P-133	V-2層	43	29	不整楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3)	不均質	しまり中、根(黒色土)多い
LFP-109	P-133	VI層	25	20	楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)	不均質	しまり中、En-a・P少量、根

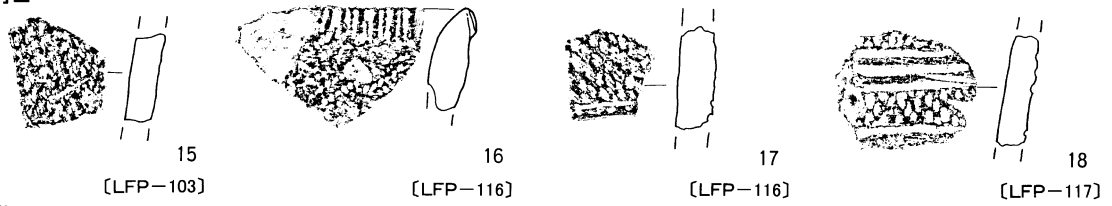
表V - 6 V層その他の焼土一覧(3)

遺構番号	位置(発掘区)	検出層位	規模(cm)		平面形	層界	記号	各土層注記		備考
			長径	短径				色調	土質・混入物ほか	
LFP-110	Q-131	VI層	41	34	ほぼ楕円形	やや明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)、焼土粒多い	
LFP-111	R-131	V-2層下位	36	30	ほぼ楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/3) 均質	しまり中、En-a・P少量、根	
LFP-112	N-130	VI層	44	36	楕円形	不明瞭	f	褐色(7.5YR4/6) やや不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)多い	鉄分集積か?
LFP-113	L-130	V-2層	30	21	楕円形	やや明瞭	f	暗赤褐色(5YR3/6) 均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-118	U-131	LTP-10覆土	30	15	ほぼ双円形	やや不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3) やや均質	しまりやや弱、En-a・P、Ta-d少量	
LFP-119	U-131	LTP-10覆土	28	21	ほぼ楕円形	やや明瞭	f	にぶい赤褐色(5YR4/4) やや不均質	しまり中、En-a・P10-20%	
LFP-120	X-136	LPD-6覆土	33	29	不整楕円形	不明瞭	F	赤褐色(5YR4/6) 均質	しまり中、炭1%	
LFP-121	I-147	VI層	62	42	不整形	やや明瞭	F	赤褐色(5YR4/8)~暗褐色(7.5YR3/4) 不均質	しまり弱~中、En-a・P、Ta-d少量、根	
LFP-122	H-151	V-2層下位	(24)	16	楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3) やや均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-123	H-152	VI層	(29)	24	楕円形	不明瞭	f	極暗褐色(7.5YR2/3) やや均質	しまり中、En-a・P少量	
LFP-124	M-150	VI層	33	21	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4)~暗赤褐色(5YR3/4) 不均質	しまりやや、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-125	N-150	VI層	37	25	ほぼ楕円形	不明瞭	f	暗褐色(7.5YR3/4) やや不均質	根(黒色土)	
LFP-126	M-153・154	VI層	30	21	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	赤褐色~極暗褐色(5YR4/8~2/4) 不均質	しまりやや弱、En-a・P、Ta-d少量	
LFP-127	M-154	VI層	91	53	不整楕円形	明瞭	F	赤褐色(5YR4/8) やや不均質	しまりやや弱	
LFP-128	N・O-152・153	VI層	115	65	不整形	やや不明瞭	F	暗褐色(7.5YR3/3) 均質 明赤褐色(5YR5/8)~暗赤褐色(5YR3/4) 不均質	しまり中、En-a・P少量 しまりやや弱、ブロック状の焼土塊	
LFP-129	P-152	VI層	45	25	ほぼ楕円形	明瞭	F	暗赤褐色(5YR3/5) 均質	しまり中、根(黒色土)	
LFP-130	Q-153	V-2層下位	132	70	不整形	明瞭	F	明赤褐色(2.5YR5/8) やや不均質	しまり中、En-a・P10-20%の塊・被熱	ブロック状の焼土
LFP-131	T-150	V-2層下位	77	(30)	楕円形	やや明瞭	f	にぶい赤褐色(5YR4/4)~暗褐色(7.5YR3/3) 非常に不均質	しまり中、En-a・P少量、根(黒色土)	
LFP-132	T-150	V-2層下位	68	48	楕円形	不明瞭	f	褐色(7.5YR4/4) 均質	しまり中	
LFP-133	S-150	VI層	27	21	ほぼ楕円形	やや不明瞭	f	暗褐色(7.5YR4/4) やや均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量	
LFP-134	Z-132	VI層	29	26	不整楕円形	不明瞭	f	暗褐色(10YR3/3)+明赤褐色(5YR5/8) 不均質	しまりやや弱、径大きいEn-a・P少量	ブロック状の焼土
							B	暗褐色(7.5YR3/4) やや均質	しまり中、En-a・P、Ta-d少量、炭化物やや多量	

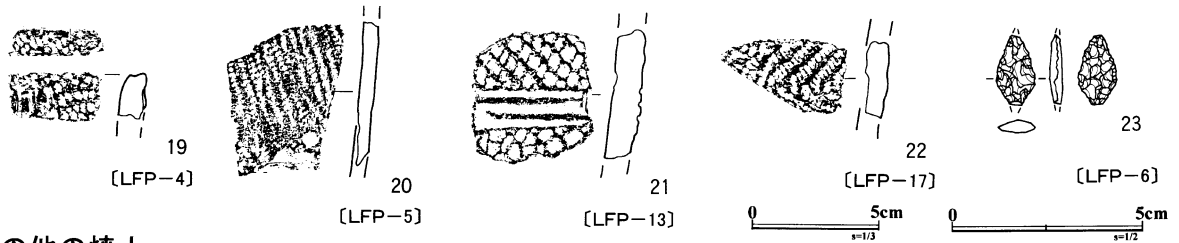
焼土列1



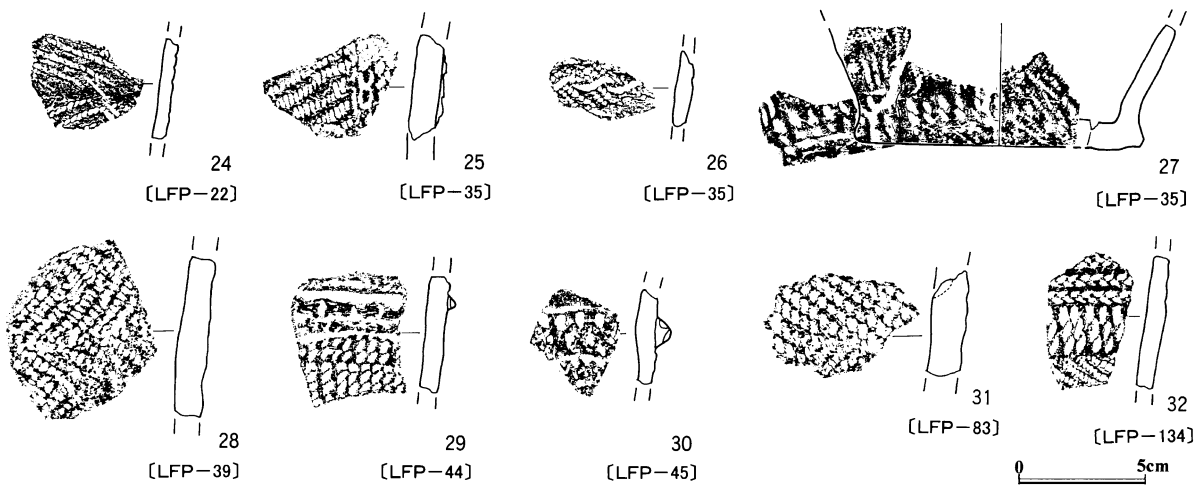
焼土列2



焼土群1



その他の焼土



図V - 33 焼土出土の遺物

6. 遺物集中 (図V - 34~39、表V - 8・10、図版36・59・64)

(1) 土器集中

①(Ⅲ層)土器集中2〔UCP - 2〕

位置：Z - 131 標高13.5m~13.6m 規模：1.56m×0.80m

確認・調査・遺物出土状況：Ⅲ層調査中、下位で不整楕円形状に広がる土器片の集中域が検出された。土器破片は比較的大きく、同一個体と思われる破片が多く見られた。検出レベルは平面的で、比較的好くまとまった状態で出土した。破片出土状況を図化して取り上げた。

出土土器の総数は125点である。土器はすべてV群c類で、同一個体の破片が多い。

掲載遺物：〔土器〕1はV群c類タンネットウL式またはママチ3類。口縁~胴部中ほどまで87点が接合し、復元した。器壁は薄く、焼成良好である。平縁で、口唇は指頭押捺・棒状施文具の押捺・縄文押捺が行われている。地文はやや斜方向に施文されたRL縄文。文様は口縁部に集約され、4本の横走沈線とその上下に波状の沈線、それに沿って連続刺突が施されている。また横位の沈線に重ねて、数本一組で八の字状に開く縦位の沈線が多数施文されている。土器内面の調整は丁寧である。

②(Ⅲ層)土器集中3〔UCP - 3〕

位置：M - 149 標高13.9m付近 規模：1.17m×0.83m

確認・調査・遺物出土状況：C地区のⅢ層調査中、下位で不整形に広がる土器片の集中域が検出された。土器はそのほとんど全てが細かく破碎された状態で出土した。そのため、遺物集中範囲のみを記録してまとめてとり上げた。集中域はいくつかの小さな塊が集合したものである。検出レベルは平面的だが、一部Ⅳ層付近にまで深く入り込んでいる。

出土土器の総数は459点である。土器はほとんどが細片で、すべてV群c類である。

③(V層)土器集中3〔LCP - 3〕

位置：P - 135 標高12.8m~12.9m 規模：2.05m×1.82m

確認・調査・遺物出土状況：V層上面の検出中、土器片がやや多く出土する範囲があった。その周囲を少し掘り下げたところ、土器が不整形に広がる範囲を確認した。土器片はやや大型の破片があるもののその多くは小片であり、地点のみを記録して取り上げた。

出土土器の総数は176点である。土器はすべてV群c類で、同一個体の破片が多い。

掲載遺物：〔土器〕2はV群c類タンネットウL式。口縁~底部付近まで85点が接合し、復元した。器壁は薄く、焼成良好である。平縁に4単位の突起があり、刻み・刺突が施されている。口縁部に2本の太沈線、その間に5~6本の細沈線が横走し、八の字状に太沈線が縦断する。太沈線に沿って両側に刺突列が施されている。胴部はややゆがみがあり、器厚が微妙に変化している。やや斜方向にRL縄文が施文されている。底部との境は屈曲している。

④(V層)土器集中4〔LCP - 4〕

位置：K - 151・152 標高13.6m~13.8m 規模：2.71m×2.23m

確認・調査・遺物出土状況：C地区のV層調査中、土器片の集中域が検出された。土器は一部を除いてほとんどが細かく破碎された状態で出土した。そのため、一部の土器片の出土状況を実測し、残りは遺物集中範囲を記録してまとめてとり上げた。検出レベルはおおむね平面的である。

出土遺物総数は330点である。Ⅱ群 a 類土器が328点で、それ以外に礫が2点含まれていた。

掲載遺物：〔土器〕3～5はⅡ群 a 類網文式の同一個体と思われる破片。繊維を多量に含み、剥離が多く残存状況は良くない。太い原体が押捺され、節の磨り消しが行われているものの、完全に平滑にするのではなく、いくらか残存させている。

⑤ (V層) 土器集中5〔LCP - 5〕

位置：Y - 130 標高13.3m付近 規模：1.39m × 1.02m

確認・調査・遺物出土状況：V層上面の検出中、土器片がやや多く出土する範囲があった。その周囲を少し掘り下げたところ、土器が不整形に広がる範囲を確認した。土器片はやや大型の破片があるもののその多くは小片であり、一部の土器片を実測し残りは地点のみを記録して取り上げた。

出土土器の総点数は180点である。ほとんどが細片で、すべてV群 c 類である。

掲載遺物：〔土器〕6はV群 c 類タンネットウ L 式。口縁～底部まで139点が接合し、復元した。うち16点は周辺包含層の Z1 - 130区から出土した15点と、約20m離れた W - 126区出土の1点が接合している。器壁はやや薄く、焼成良好である。緩やかな波状口縁に4単位の突起があり、突起と口唇に間隔を置いて刻みが施されている。突起下に縄線が施された縦位の貼付帯がある。口縁部は無文地に3本の縄線が横走する。その下の広く浅い凹線により口縁部と胴部が分かれている。胴部はやや斜方向に RL 縄文が施文されている。底部との境は屈曲し、底部はやや丸底ぎみである。

⑥ (V層) 土器集中6〔LCP - 6〕

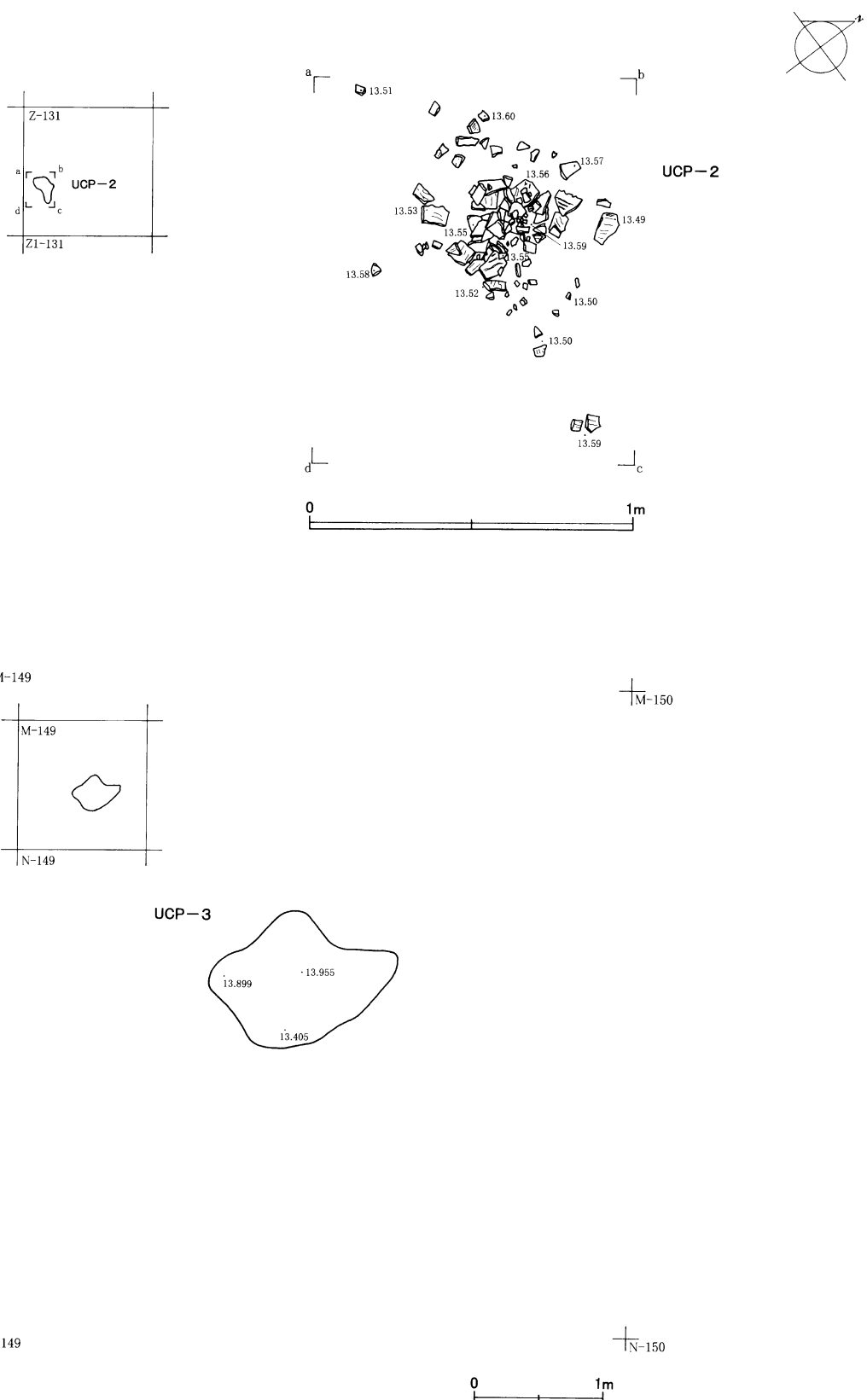
位置：S - 132 標高12.7m付近 規模：1.80m × 1.61m

確認・調査・遺物出土状況：V層調査中、V - 1層を掘り下げたところで不整形に広がる土器片の集中域が検出された。土器はそのほとんど全てが破砕された状態で出土した。そのため、遺物集中範囲のみを記録してまとめてとり上げた。集中域はいくつかの小さな塊が集合したもので、北側がやや密であり、南側の2つの塊はやや粗である。この後、直下から竪穴住居跡5が検出されたが、直接の関係はないものと考えられる。

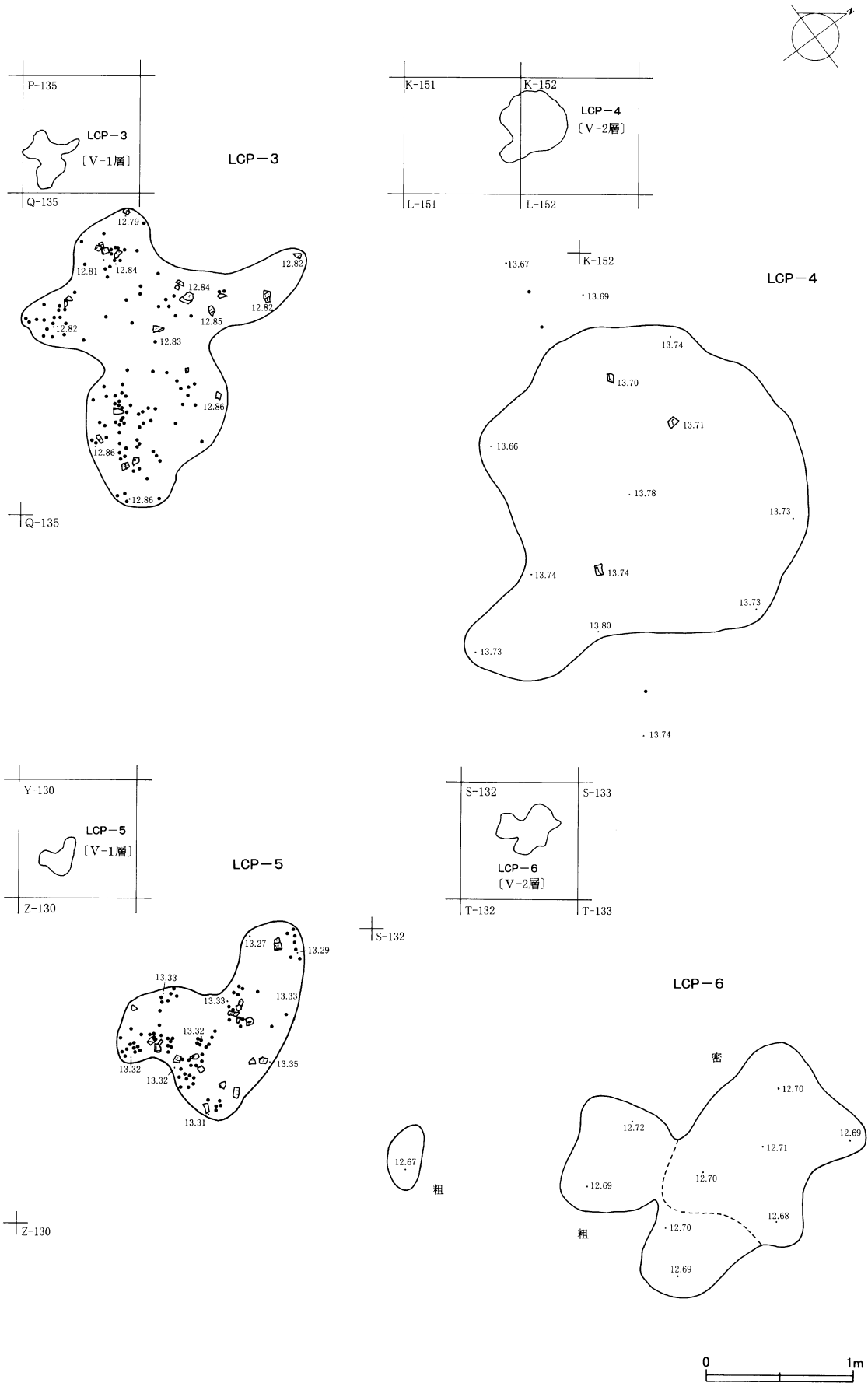
出土遺物総数は843点である。この内訳は土器758点、石器85点である。土器はⅠ群 b 類が1点、Ⅰ群 b - 4 類が7点、Ⅲ群 b - 1 類が60点、Ⅲ群 b - 3 類が516点、V群 c 類が2点、不明の破片が172点である。石器等はすり石1点、石皿(片)3点、フレイク79点、礫2点である。

掲載遺物：〔土器〕7はやや乱れた羽状縄文が施されたもの。Ⅰ群 b 類と思われる。8～10はⅢ群 b - 1 類天神山式。8・9は複節 RLR、10は単節 LR が地文である。8・10は押引文が施されている。11はⅢ群 b - 3 類。口縁部が肥厚し、2段の刻み列が施されている。円形刺突がみられる。色調が淡色である。 (阿部)

〔石器〕12はすり石である。断面三角形で、大部分を欠失している。石材は砂岩である。

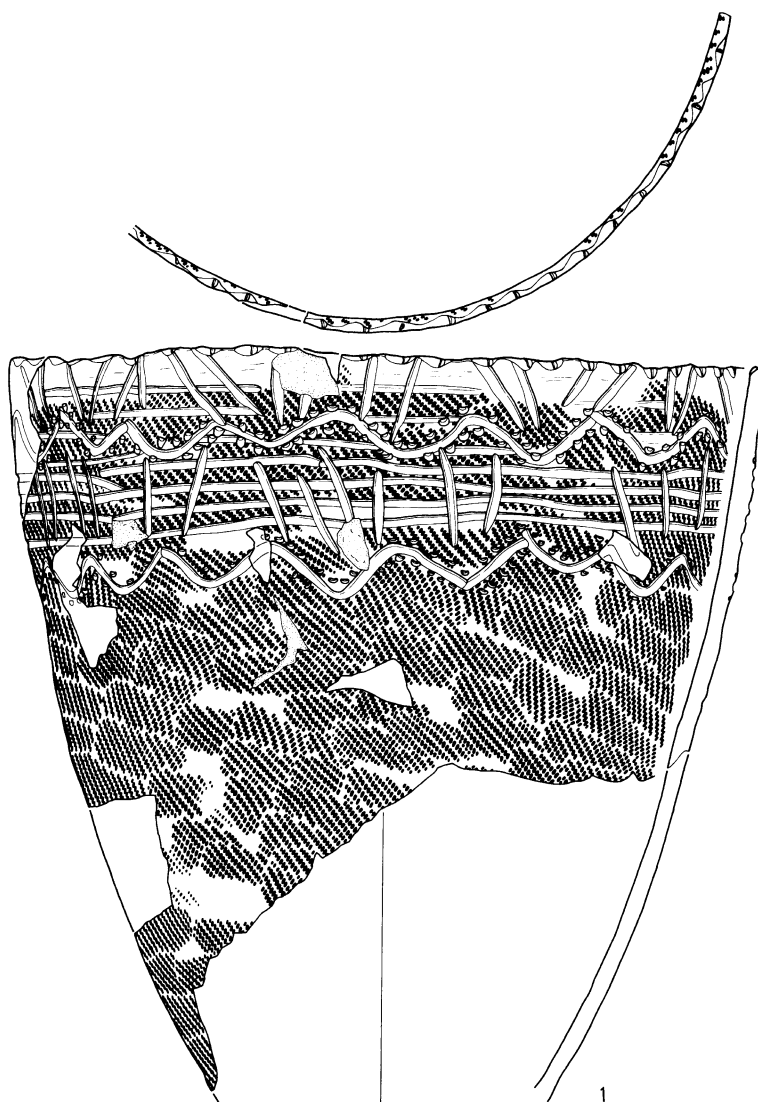


図V - 34 土器集中(1) [UCP - 2 ・ 3]

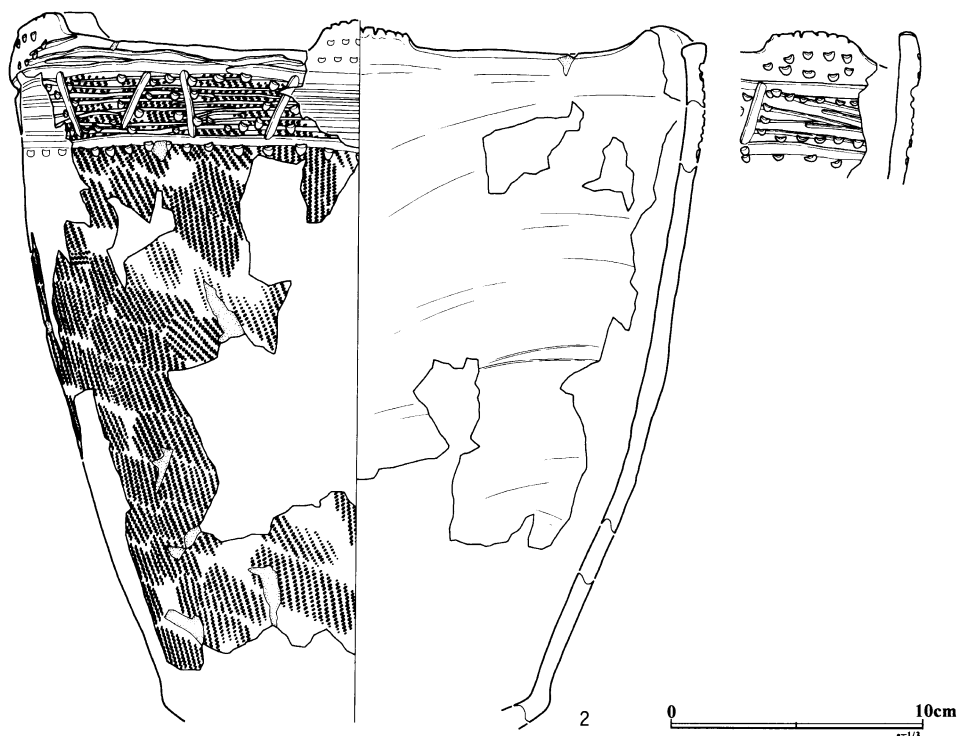


図V - 35 土器集中(2) [LCP - 3 ~ 6]

UCP-2

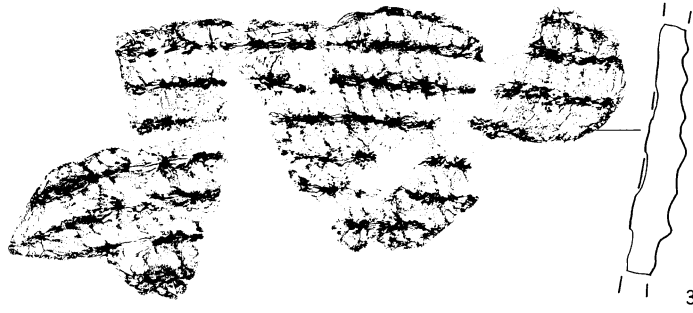


LCP-3

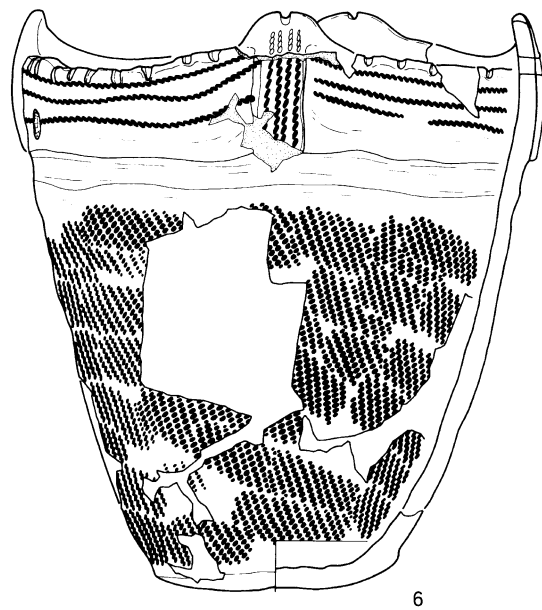


図V - 36 土器集中出土の遺物(1)

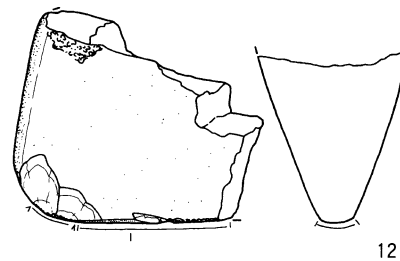
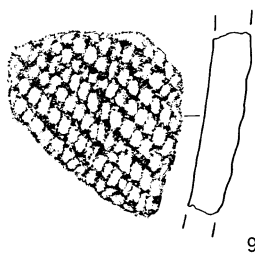
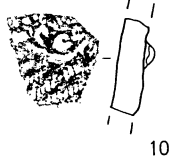
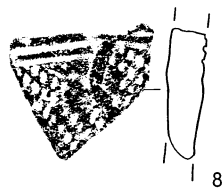
LCP-4



LCP-5



LCP-6



図V - 37 土器集中出土の遺物(2)

(2) フレイク・チップ集中

V層調査中、フレイクがまとまって出土した7ヵ所をフレイク集中と認定し、調査を行った。フレイク集中は小形のフレイクが多く認められたため、土壌ごとに取り上げ水洗を行い微細遺物の検出に努めた。分布は竪穴住居跡の周辺で検出されるものが多い。また、竪穴住居跡の覆土や床面からもフレイクが多く検出されているため、竪穴住居跡と近い時期の可能性が高い。出土点数はLFC - 5・7・8・10の1,000点以下のものと、LFC - 6・9・11の1,000点を大きく越えるものに分かれる。フレイクは小形のものが多く、主に二次加工の場であったと考えられる。石材は黒曜石が最も多く、わずかに頁岩が認められる。黒曜石は赤井川産と考えられる黒曜石7・8が主体で、わずかに黒曜石1・6がみられる。黒曜石7・8について原産地分析を行ったものは赤井川産という結果が出ている。

①フレイク集中5〔LFC - 5〕

位置：U・V - 132

検出・調査：U・V - 132区のV - 2層調査中、南北約0.7m、東西約0.6mの範囲でフレイクのまとまりを検出した。北東側約2mにLFC - 9がある。

遺物出土状況：出土遺物総数は85点である。全て石器等で内訳は両面調整石器5点、Rフレイク1点、フレイクが77点、たたき石1点、礫1点である。石材はたたき石、礫以外は全て黒曜石7、8で赤井川産と考えられる。

出土遺物：〔石器〕1はたたき石である。両端及び側縁部にたたき痕が認められる。それ以外に3面に擦痕がみられ、砥石を転用したと考えられる。石材は砂岩である。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、たたき石、両面調整石器が出土していることから石器の二次加工の場ないし二次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は層位と周辺出土の遺物から縄文時代中期～後期と考えられる。

②フレイク集中6〔LFC - 6〕

位置：Z - 137

検出・調査：Z - 137区のV - 1層調査中、南北約2.2m、東西約2.2mの範囲でフレイクのまとまりを検出した。石器はV - 2層中位まで出土した。LFC - 6の下部からはLFP - 30が検出されている。西側約1mにLFP - 31、南側約3mにLS - 1がある。

遺物出土状況：出土遺物総数は14,335点と今回検出されたフレイク集中の中では最も多い。全て石器等で内訳は石槍2点、両面調整石器16点、フレイク14,316点、礫1点である。石材は、礫以外は赤井川産と考えられる黒曜石7、8がほとんどで他に黒曜石1、黒曜石6、黒曜石10が少量ある。

出土遺物：〔石器〕2は両面調整石器で下部を欠失している。石材は流紋岩を多く含む黒曜石8で赤井川産と考えられる。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、石槍、両面調整石器が出土していることから石器の二次加工の場ないし二次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は層位と周辺出土の遺物から縄文時代中期と考えられる。

③フレイク集中7〔LFC - 7〕

位置：T - 131・132

検出・調査：LPD - 2の調査中、覆土内から南北約0.9m、東西約0.6mの範囲でフレイクのまとま

りを検出した。覆土内からはLFP - 51・52が検出されている。

遺物出土状況：出土遺物総数は926点である。全て石器等で内訳は石鏃1点、石槍1点、フレイク924点である。石材は、赤井川産と考えられる黒曜石7、8がほとんどで他に黒曜石1、黒曜石6、黒曜石10が少量ある。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、石槍、両面調整石器が出土していることから石器の二次加工の場ないし二次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は縄文時代で、LPD - 2より新しいと考えられる。

④フレイク集中8〔LFC - 8〕

位置：S・T - 133

検出・調査：S・T - 133区のV - 2層調査中、南北約0.7m、東西約0.8mの範囲でフレイクのまとまりを検出した。北東側に近接してLFP - 48が検出されている。

遺物出土状況：出土遺物総数は214点で全てフレイクである。石材は、赤井川産と考えられる黒曜石7、8がほとんどで他に黒曜石1が少量ある。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、石器の二次加工の場ないし二次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は層位と周辺出土の遺物から縄文時代中期と考えられる。

⑤フレイク集中9〔LFC - 9〕

位置：U - 132・133、V - 132・133

検出・調査：U・V - 132・133区のV - 2層調査中、南北2.6m、東西約2.4mのやや広い範囲でフレイクのまとまりを検出した。また、南西側をわずかに風倒木痕で壊されている。南西側約2mにLFC - 5がある。

遺物出土状況：出土遺物総数は3,411点である。内訳は土器が467点で、Ⅰ群b - 1類土器1点、Ⅲ群b - 1類土器435点、Ⅲ群b類土器31点である。石器は2,944点で、両面調整石器1点、Rフレイク1点、フレイク2,940点、焼け礫1点、礫1点である。石材は、被熱している黒曜石10が最も多く、次いで赤井川産と考えられる黒曜石7、8がある。他には黒曜石1、頁岩が少量ある。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、両面調整石器が出土していることから石器の二次加工の場ないし二次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は層位と周辺出土の遺物から縄文時代中期～後期と考えられる。

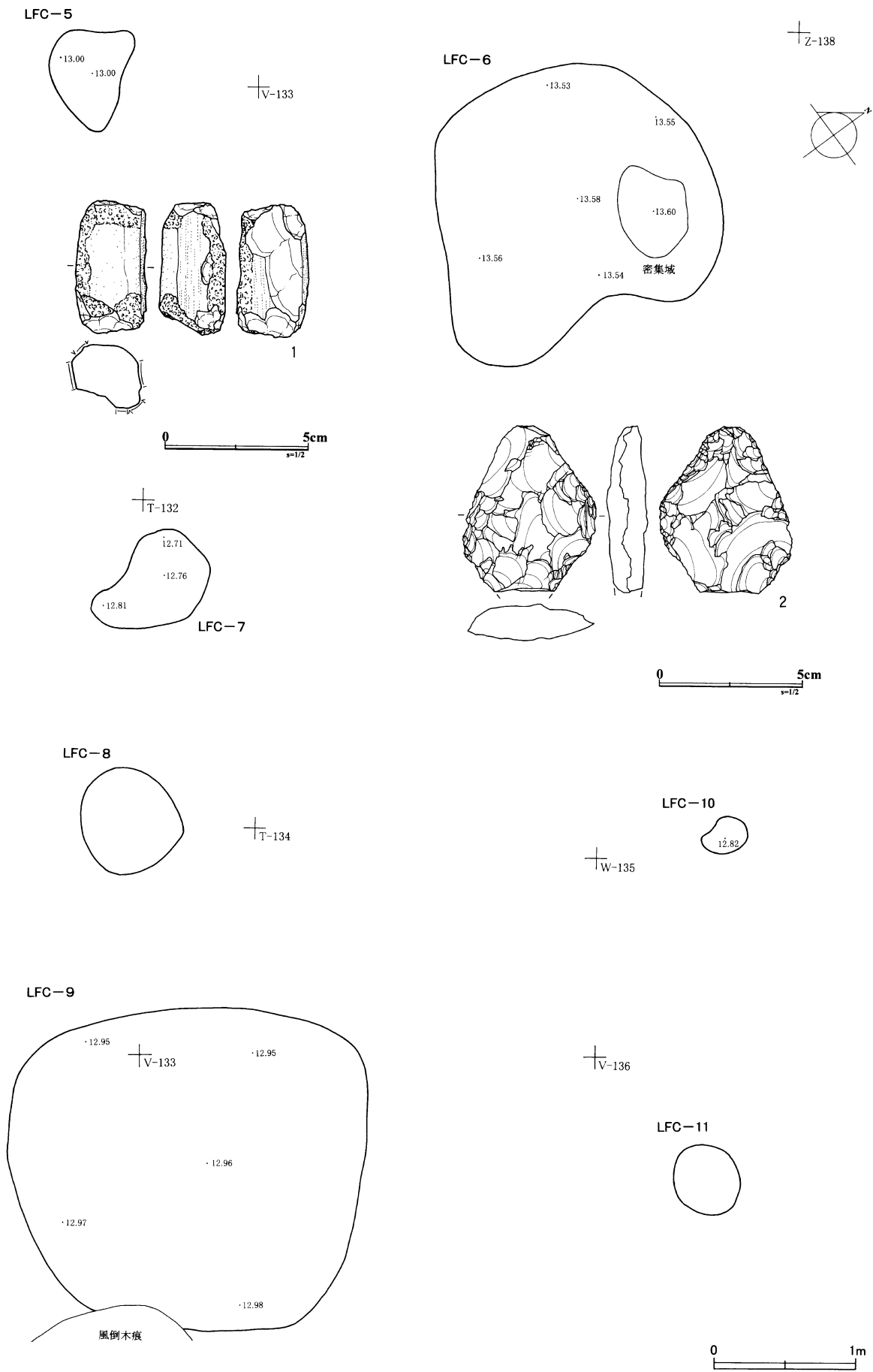
⑥フレイク集中10〔LFC - 10〕

位置：V - 135

検出・調査：LPD - 6の調査中、覆土下部からやや大形のフレイクのまとまりを検出した。位置はLPD - 6の西側壁付近で、南北約0.4m、東西約0.3mの狭い範囲に分布している。

遺物出土状況：出土遺物総数は10点である。全て石器等で内訳はスクレイパー2点、Rフレイク1点、フレイク7点である。石材は、全て赤井川産と考えられる黒曜石7、8である。

性格・時期：フレイクはいずれもやや大形で、石器の一次次加工の場ないし一次加工で出た石器の廃棄場と考えられる。時期は縄文時代で、LPD - 6の覆土下部で検出されたことからLPD - 6より新しい。



図V-38 フレイク・チップ集中〔LFC-5~11〕

⑤フレイク集中11〔LFC - 11〕

位置：V - 136

検出・調査：V - 136区のV - 2層調査中、南北約0.5m、東西約0.5mの範囲でフレイクのまとまりを検出した。北西側に近接してLPD - 6がある。

遺物出土状況：出土遺物総数は12,791点で、LFC - 6に次いで多い。全てフレイクである。石材は、全て黒曜石である。

性格・時期：フレイクはいずれも小形で、分布範囲に比べて非常に多量に出土しているため、二次加工で出た石器の廃棄場の可能性が高い。時期は層位と周辺出土の遺構、遺物から縄文時代中期～後期と考えられる。 (広田)

(3) 礫集中

①礫集中1〔LS - 1〕

位置：Z - 136 標高13.5m付近 規模：1.70m × 1.46m

確認・調査：IV層(Ta - c)を除去中、礫がややまとまって出土する範囲があり、V層上面まで掘り下げたところ集中域が現れ、礫集中とした。径約60cmの集中範囲がありさらに周囲に散在している。個々の礫はさまざまな形状であるが丸みをもち、長径3～5cm程度のものが多い。

また集中域周辺でTa - cが落ち込む範囲が検出され、土坑墓を想定して掘り下げたが、礫集中1の下位に遺構は検出されなかった。

遺物出土状況：たたき石3点、礫127点が出土している。

掲載遺物：〔石器〕1はたたき石である。やや小形で楕円体の礫の下端部にたたき痕が認められる。石材は砂岩である。

(4) 粘土集中

①粘土集中1〔LN - 1〕

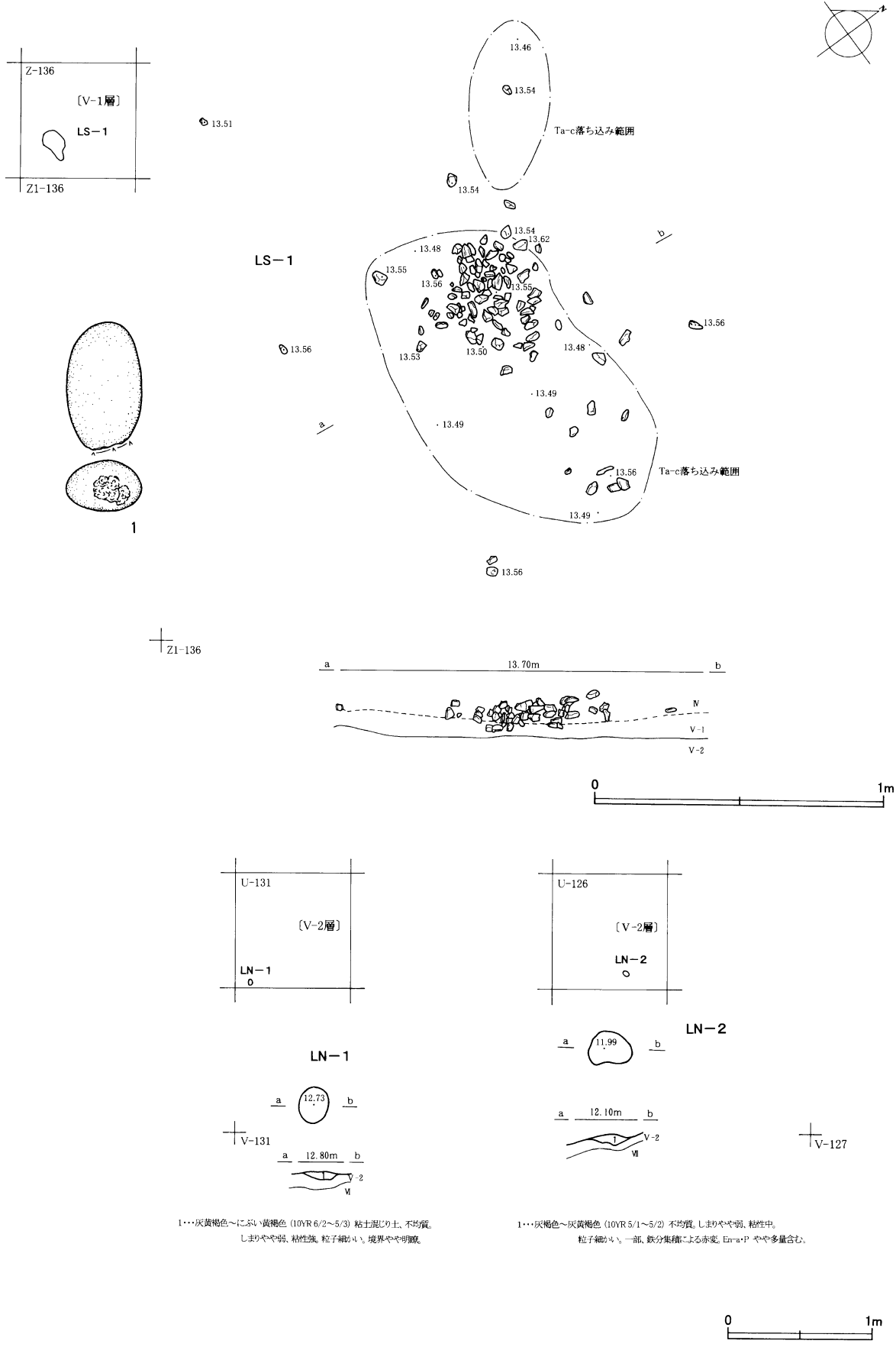
位置：U - 131 標高12.7m付近 規模：0.45m × 0.40m

確認・調査：V層の掘り下げ中、灰褐色の細かい粒子がまとまって検出された。精査したところ、粘質土塊の塊が検出され、粘土集中とした。厚みは5cmほどあり、中央部は比較的純度の高い粘土があり周囲は黒色土が混じりやや不均質である。

②粘土集中2〔LN - 2〕

位置：U - 126 標高12.0m付近 規模：0.50m × 0.43m

確認・調査：V層の掘り下げ中、灰褐色の細かい粒子がまとまって検出された。精査したところ、粘質土塊の塊が検出され、粘土集中とした。厚みは7cmほどあるが範囲は狭い。緩斜面上にあり斜面下側に一部薄く広がる部分がある。全体的に不均質で、一部赤色がかっている部分があり、鉄分による影響と考えられる。 (阿部)



1...灰黄褐色～にぶい黄褐色 (10YR 6/2～5/3) 粘土混じり土、不均質。しまりやや弱、粘性強。粒子細かい。境界やや明瞭。

1...灰褐色～灰黄褐色 (10YR 5/1～5/2) 不均質。しまりやや弱、粘性中。粒子細かい。一部、数分集積による赤変。En+P やや多量含む。

図V-39 礫集中〔LS-1〕, 粘土集中〔LN-1・2〕

7. 包含層出土の遺物 (図V - 40~66、表V - 12~20、図版59・60・66~72・74・75・78~81)

(1) 土器等

①分布状況

包含層からは、土器・土製品合わせて21,090点が出土した。A地区中央部付近から南東部付近にかけて多く分布しており、北西部は少ない。C地区では全体的に少なく、北部ではまったく遺物が出土していない発掘区が少なからずある。やや層位別では、Ⅲ層から4,793点、V - 1層から4,324点、V - 2層から11,677点、Ⅵ層から121点、攪乱その他が175点である。分類別では、I群全体で5,658点、II群が137点、III群全体で7,139点、IV群が1,355点、V群が6,687点、Ⅵ群34点、不明24点である。土製品は合わせて56点出土した。特に中期後半の天神山式と晩期後葉タンネットウL式が多くを占める。土製品は三角形土製品が多い。以下、分類ごとの分布傾向を記す。

I群a類は図示していないが、C地区のO - 147などに11点が分布するのみである。

I群b - 1類~b - 2類は、その細分類を行うことが困難な破片が多いため、「I群b類」としたのも含めて図示した。全体で1,480点である。A地区中央部から南部にかけて多く分布し、低地部からも少数出土している。分布の濃淡が見られるものの、全体的に散在している。C地区はわずかに30点が分布する。

I群b - 3類~b - 4類は、b - 3類が541点、b - 4類が1,954点出土している。分布に大きな偏りがみられ、特にA地区北西部の台地から低地への肩口(K~P - 128区)と、東部のY・Z - 135・136区付近に小破片が集中している。

II群a類は、A地区南東部とC地区中央部に局所的に分布する。後者はV層土器集中4(LCP - 4)付近である。ちなみにB地区(平成14年度調査区)では1点が出土するのみであった。

III群a類は図示していないが、A地区南東部から32点が出土している。

III群b - 1類は包含層から5,999点が出土し、主体時期の一つとなっている。最大値はS - 131区の356点であり、全体的に散在している。土器全体の分布傾向と大きくは異ならず、A地区の中央部から北東部にかけてやや多く分布している。C地区では北部を除き広く分布しているが、各発掘区とも少ない。

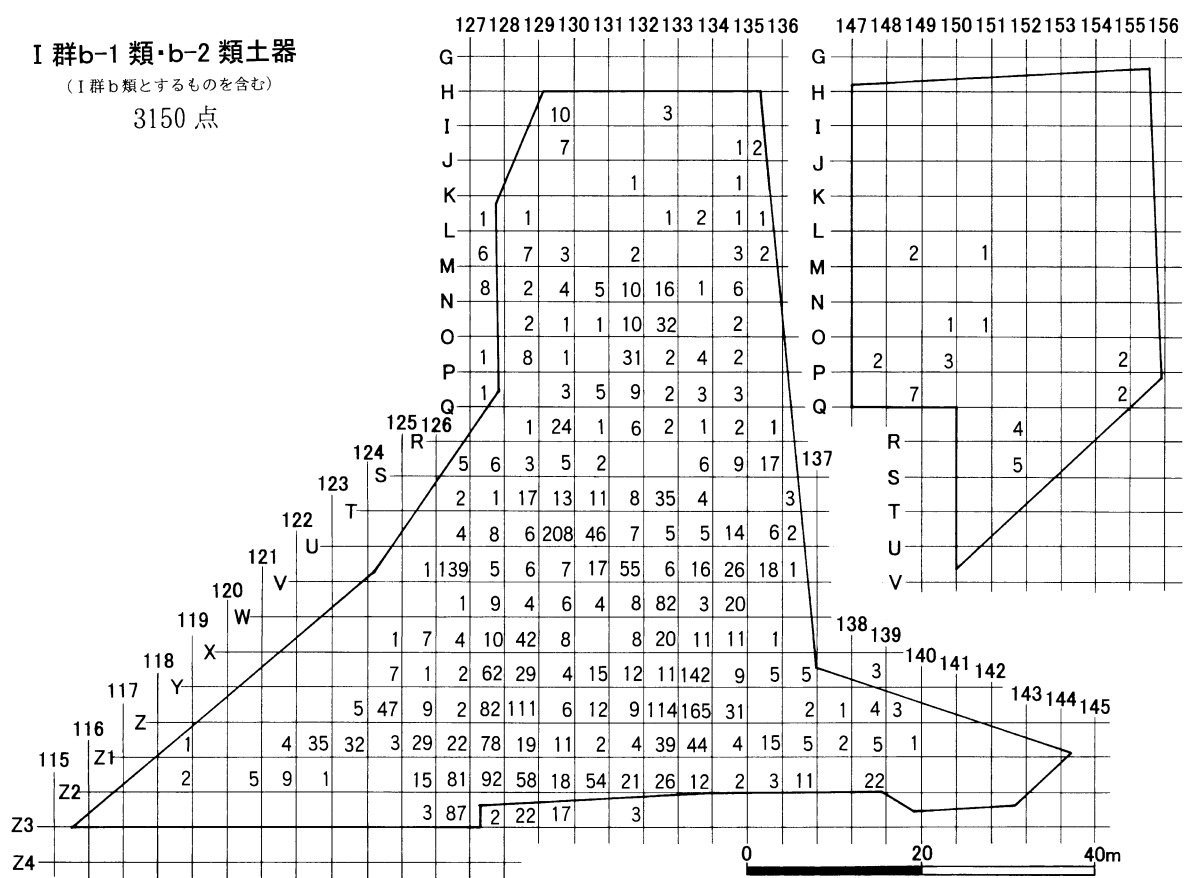
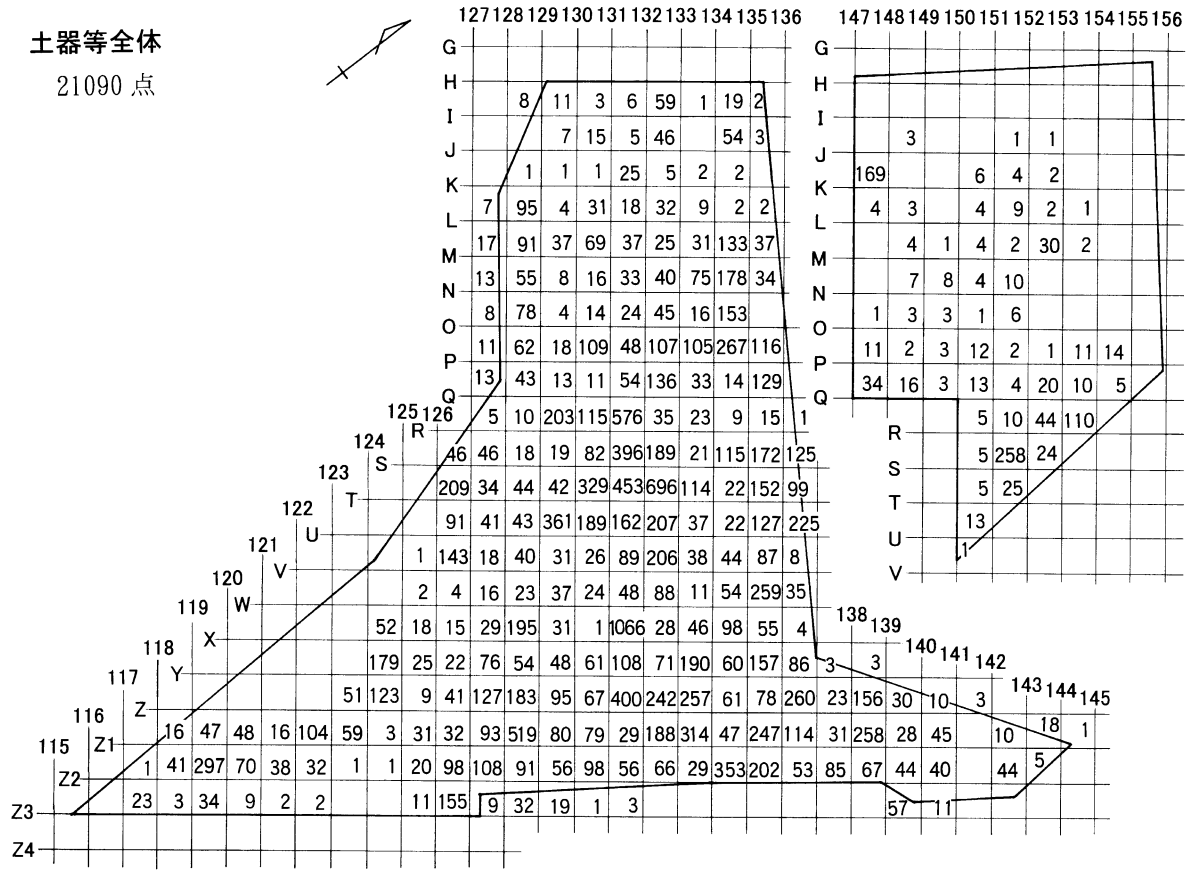
III群b - 3類は1,108点が出土している。S - 132区で401点、T - 136区で199点などにややまとまって出土している。

IV群a類は、A地区中央部から南東部に多く分布しC地区にもわずかに散在する。W - 131区に1,040点、U - 132区に175点が集中しているが、いずれも小片である。IV群b類は、A地区中央部にわずかに分布するのみである。

V群c類はTa - cの上下に分けて分布図を示した。いずれも分布に大きく偏りが見られ、濃淡が明瞭である。Ⅲ層ではA地区中央部、南東部、南部の低地、C地区の東部に1発掘区あたり200点を超える発掘区がある。V~Ⅵ層ではA地区南東部に数ヵ所、同様の箇所が見られる。いずれもほとんどが小破片である。

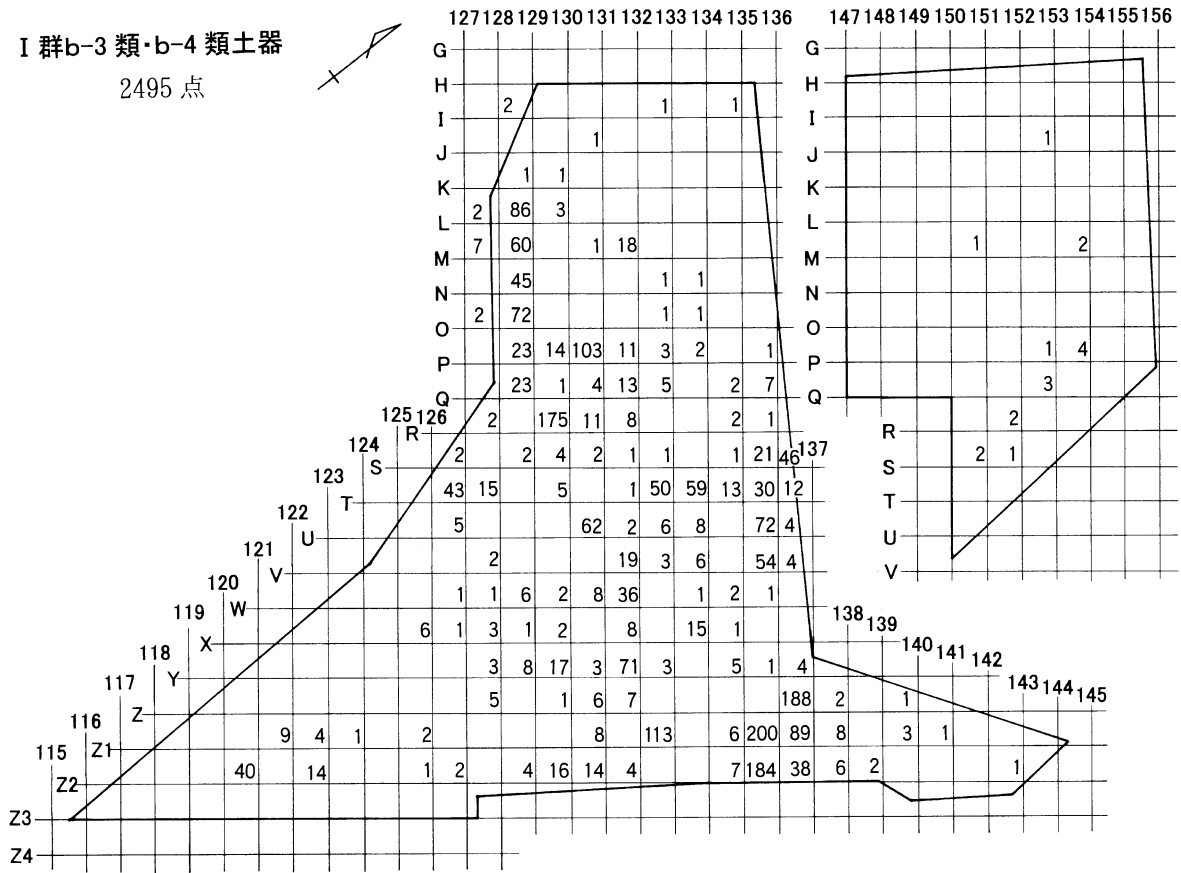
Ⅵ群はA地区西部、L - 129区付近に30点ほどが分布する。小片であるが、文様等は明瞭に観察できる。

土製品は包含層出土56点のうち、三角形土製品33点、土器片再生円盤が8点、焼成粘土塊ほか15点出土している。主にA地区に散在している。

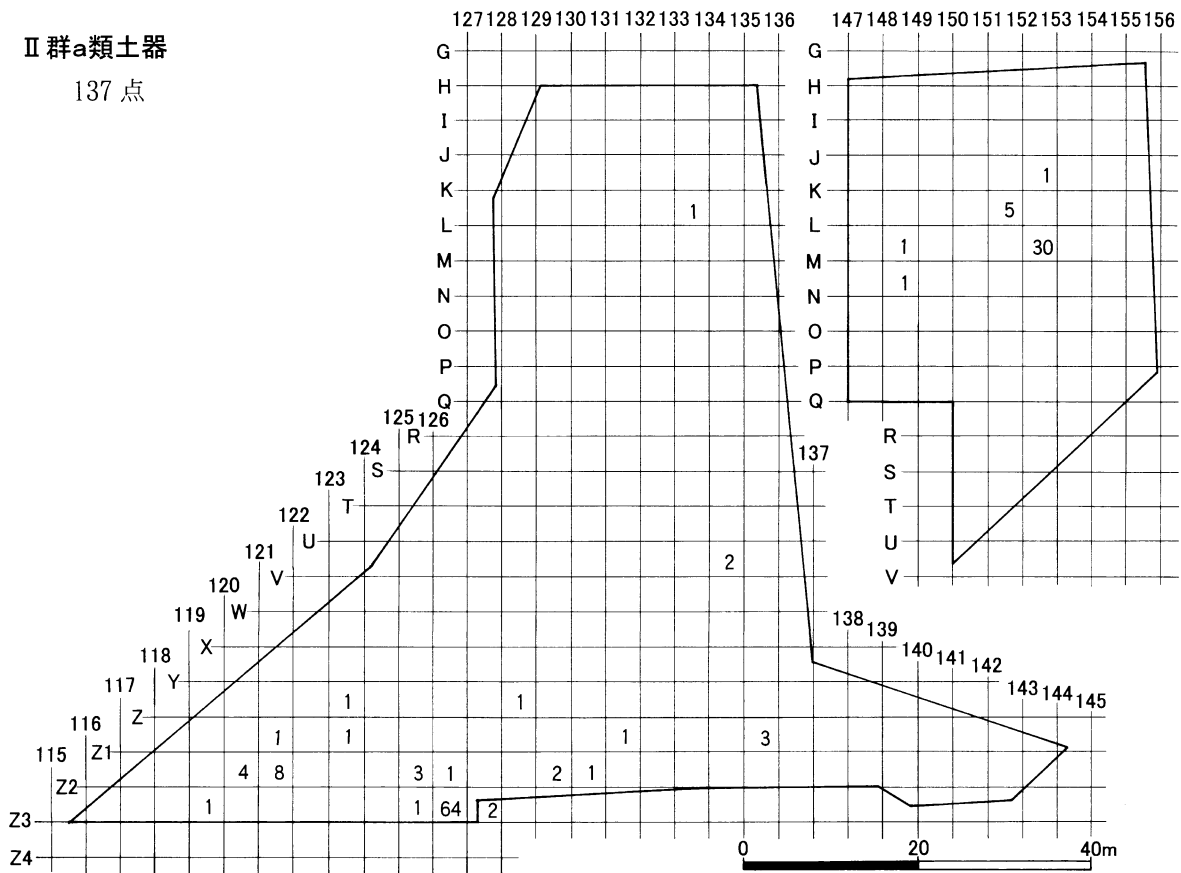


図V-40 包含層土器分布図(1)

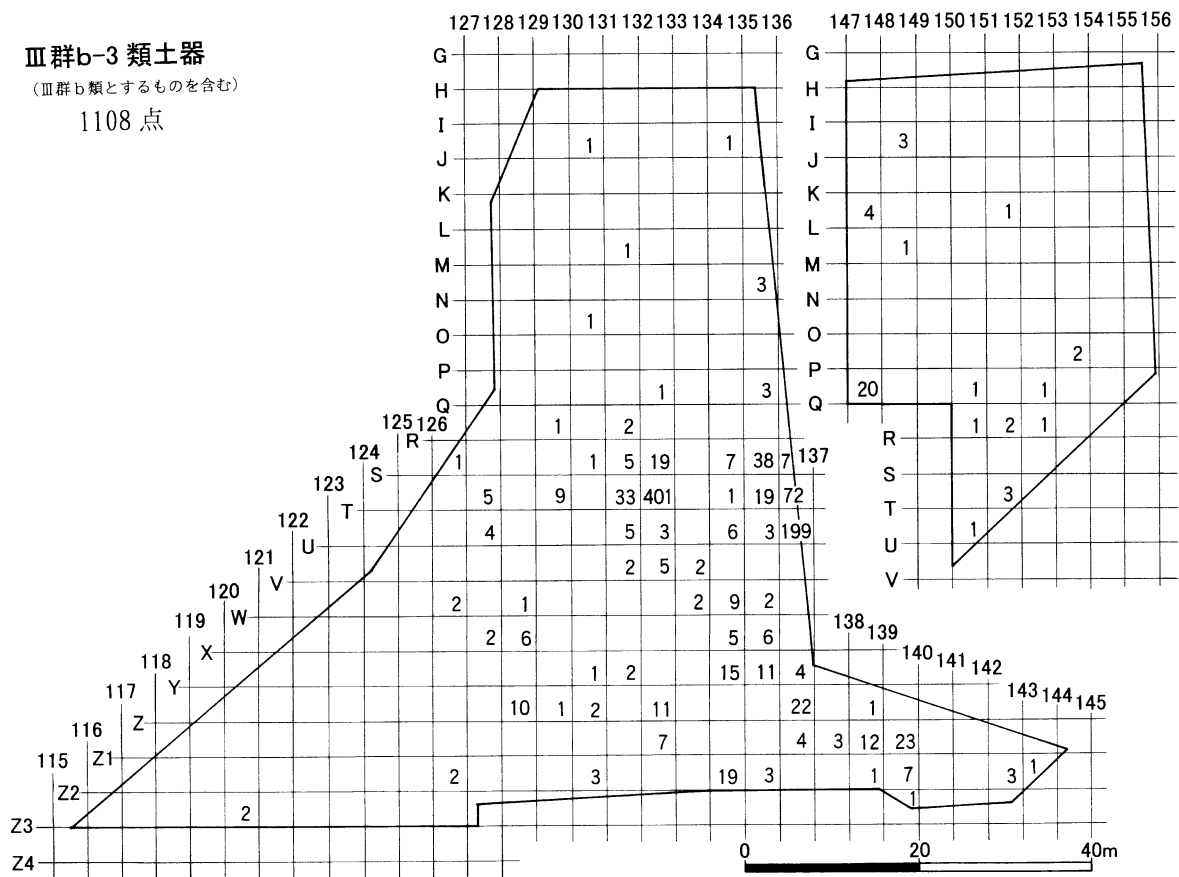
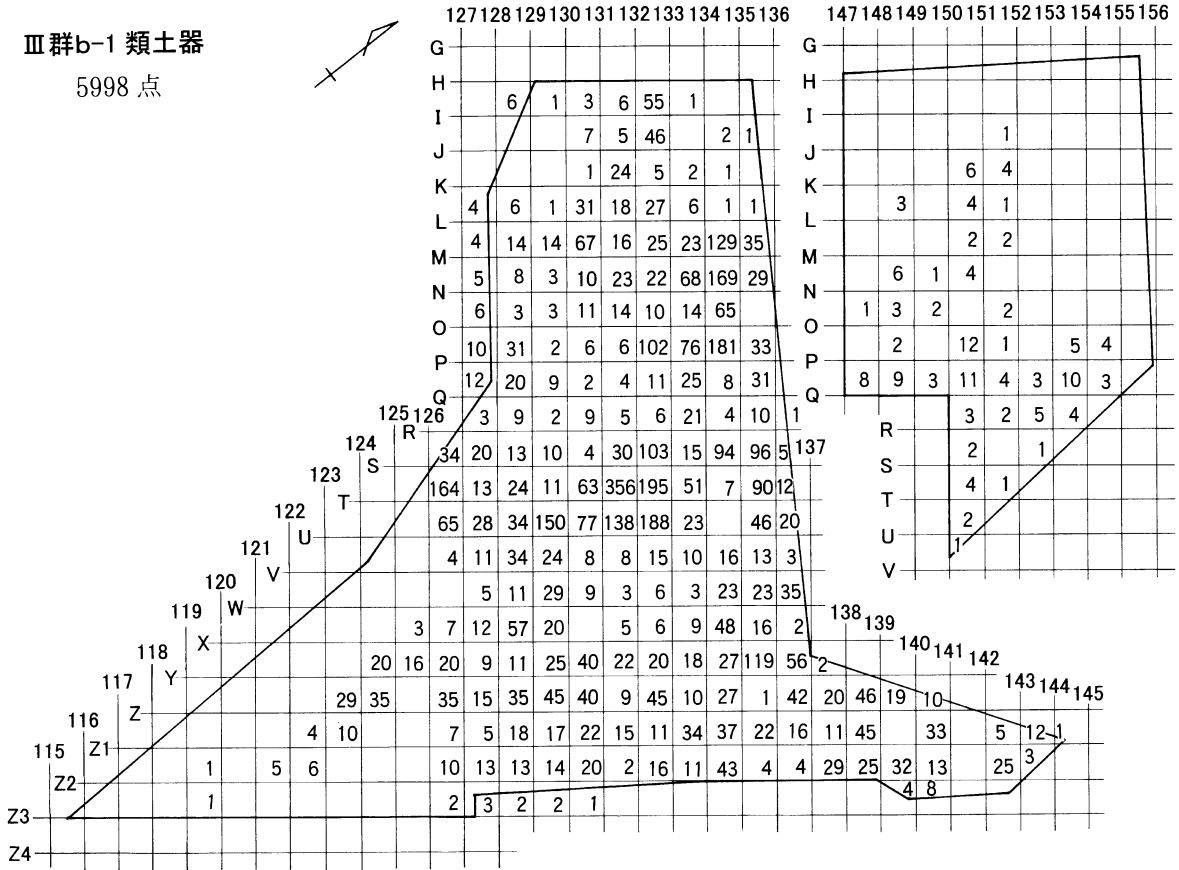
I 群b-3 類・b-4 類土器
2495 点



II 群a類土器
137 点



図V - 41 包含層土器分布図(2)



図V-42 包含層土器分布図(3)

②Ⅲ層出土の土器・土製品

【縄文時代早期～後期の土器】

Ⅲ層は本来的には縄文時代晩期以降の遺物が出土する層位であるが、Ta - c の薄い範囲など一部の発掘区でそれ以前の土器が出土している。1は東釧路Ⅲ式、2は網文式、3は天神山式、4は余市式に属するものと思われる。

【縄文時代晩期の土器】

5～23はV群c類タンネトウⅠ式(またはママチⅢ群)に属するもの。5～13は深鉢を主体に比較的文様が複雑でないものを掲載した。14～16は浅鉢、17～23は台付や舟形・壺形など器形や文様がやや複雑なものを掲載した。

5は大型深鉢の胴上部の破片。やや不規則な波状の太く浅い横走沈線がめぐり、刺突列が施されている。6・7は口唇上に指先のような表現の連続押捺が行われている。また9・10は内傾する口唇内側に縄文を強く押捺している。11は口唇上に縄文が回転施文されている。6・8・9・11の口縁部には横走沈線がめぐり、8は横U字状の沈線が見られる。11の口縁部はほとんど無文になっている。9・12・13は丸底気味になっており、底面にも施文されている。12はやや小型の深鉢と思われる。6・8・9・12・13の地文は斜方向に回転され、条が縦位になっている。13の内面には多量のススが付着している。

14～16の浅鉢は、すべて外面が地文のみである。14・15は口唇上に細かい撚りの縄文が密に押捺され、棒状工具を押し当てたような沈線(刻み)がやや間隔を置いて施されている。15は長軸38.6cm短軸約32cmを計る大型の浅鉢。W - 124区にややまとまって分布していた。突起および装飾が長軸片側に偏っている。全体的には細かい撚りの縄文の原体押捺による装飾が豊かである。特に突起下には渦文をえがき中心部に刺突を設けている。内面は丁寧に調整されている。16は内面上位に縄文の原体を連続押捺し、その上に太く浅い沈線で弧線文がえがかれている。

17は台付深鉢。H・I - 134区42点とL - 133区4点が接合した。4単位の口縁波頂部から垂下する貼付隆帯上には刻みが施され、貫通孔が1ヵ所穿たれている。台部には鋸歯状の沈線が施文され、下端は細かい波状になっている。18は突起下に貫通孔が2ヵ所穿たれている。横走る沈線がやや不規則である。19・20は同一個体と思われ、形状から17のような4単位の波状口縁の台付鉢になるものと思われる。19は短軸端の突起、20は長軸端の突起とみられ強く湾曲している。貼付隆帯に貫通孔が1ヵ所穿たれている。21は胴部が屈曲しており、湾曲のあり方や文様の特徴から舟形の深鉢と思われる。胴部の屈曲以下に回転縄文が施され、上部は細かい撚りの縄文の原体が地文として押捺されている。上部には太い沈線で弧線文などがえがかれている。22は小型の鉢の底部で、底面は丸みを帯びている。弧線文や鋸歯文がある。23は壺形を呈し、肩部には弱い突起がある。弧線文や山形の沈線で文様が密に施されている。

【続縄文時代の土器】

第V章は縄文時代の章であるが、Ⅲ層包含層の遺物として続縄文時代の土器をここに掲載する。

24・25は後北C₂ - D式。微隆起線による弧線文などの区画内に細かい刺突列が施されている。口唇上に刺突列(刻み)がある。

【土製品】

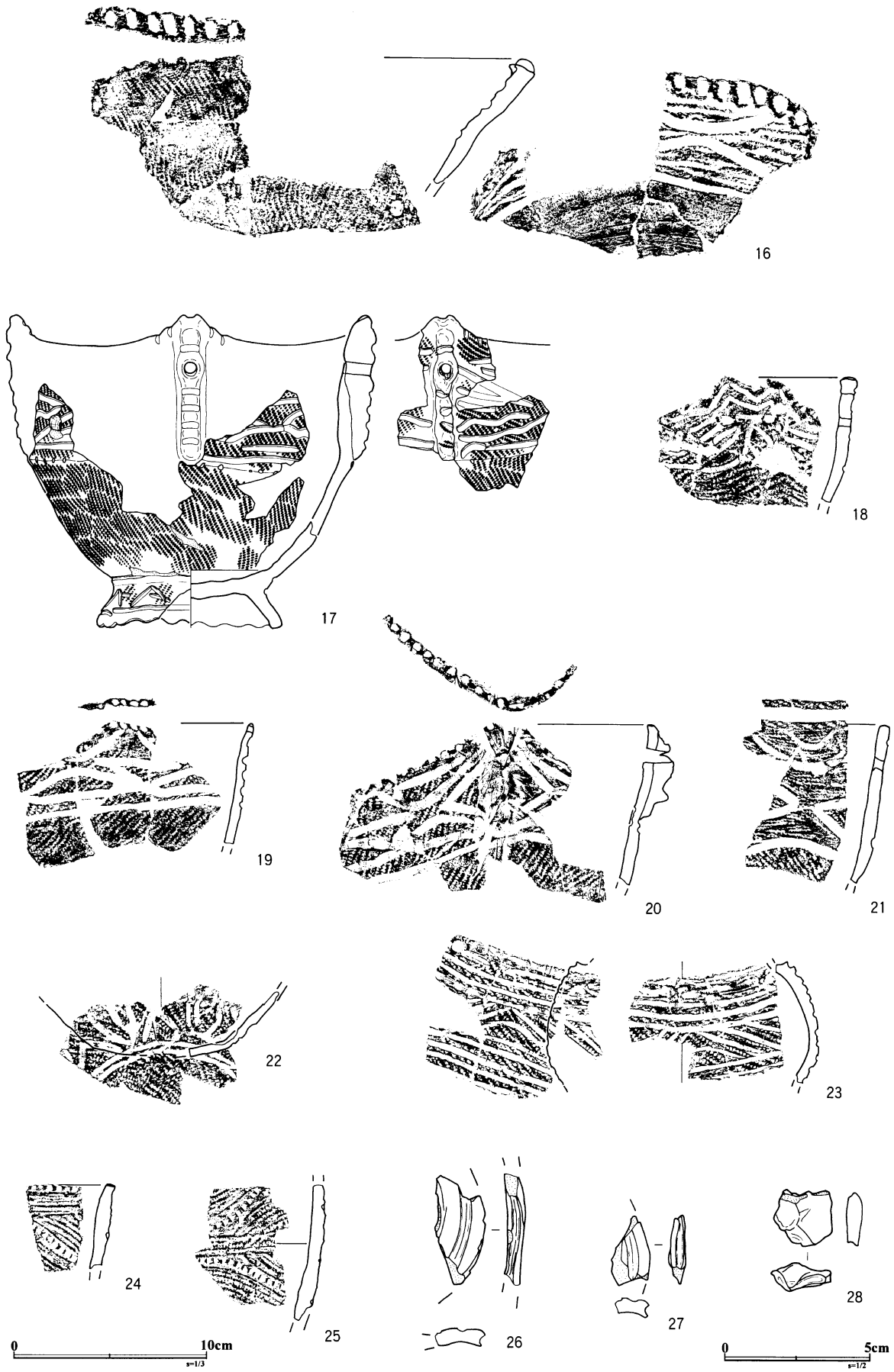
26・27は平板で三日月形または環状になると考えられる土製品。太い沈線がめぐり、一部赤彩が残っている。28は焼成粘土塊。指先による押捺の跡が残っている。



図V - 46 Ⅲ層出土の土器(1)



図V - 47 Ⅲ層出土の土器(2)



図V - 48 Ⅲ層出土の土器(3)

③V層～VI層出土の土器・土製品

【縄文時代早期の土器】

29はI群a類に属する。また30～40はI群b-1類東釧路Ⅲ式(細分困難な「I群b類」を含む)、41～44はI群b-2類コッタロ式、45～48はI群b-3類中茶路式、49～58はI群b-4類東釧路Ⅳ式に属するものと思われる。

29は貝殻腹縁文が鋸歯状に密に施されている。焼成良好である。

30～40について、器種はやや小型の深鉢形がほとんどである。深鉢形の器形は口縁部がわずかに外反し(31～35・40)、胴部がわずかにふくらみ、底部で屈曲し張り出す(39・40)。内外面は調整されているものの器厚は一定でなく、内面に指頭による成形・調整の跡が多数残っているものがほとんどである。焼成は良好である。文様は32～35・37・39は短縄文の連続押捺、31・34～37は絡条体圧痕、40は組紐圧痕により構成されている。また33・38・39は地文に回転縄文が施され、33・38には貼付隆帯の装飾も見られる。37は3cmほどの長さの縄文原体を連続押捺し、平行および弧状に帯文様をえがいている。40はV-132区を中心に10mほどの範囲で散在していた深鉢で、同一個体破片が多数ある。胴部の接点が明瞭ではないため、図上復元した。組紐圧痕が3～4本の単位で横位・縦位・弧状に器面全面に施されている。底部の張り出し部には細かい突出部が波状に設けられている。

41～44はやや細めの貼付隆帯などからコッタロ式と判断したものである。器厚はやや薄い。短縄文・組紐圧痕など東釧路Ⅲ式にもみられる文様が整然と施文されている。

45～48は微隆起線状の隆帯を多段に平行させている。45は隆帯間に結束縄文が施文されている。断面を含め器面全体が赤褐色を呈している。接合残片が多量ある。A地区東部にやや広域に分布していた。46～48は隆帯間に細かい撚りの短縄文が丁寧に連続押捺されている。

49～58は横位の連続した鋸歯状の撚糸文が施文されるもの。器形は口径がやや大きく、ゆるやかに外反し、口唇が薄くなる(56など)。底部はすぼまり、径が小さい、または尖底になる。49・50には短縄文、50～52には縄端圧痕、55～58には綾線文がそれぞれみられる。56・57は同一個体。58はA地区東部にやや広域に散在していた破片47点が接合した。残片も多数ある。残存する胴部の最大径は37cmを超える大型の土器であるが、器厚は7mm程度である。

【縄文時代前期の土器】

59～64はII群a類に属する。59・60は前期初頭、61～64は綱文式に属する。

59は口唇直下に縄端圧痕、その下に撚りの方向の異なる縄文原体を4条押捺している。口縁下は羽状縄文が施されている。角形の口唇で平縁、黒褐色を呈し焼成はやや良好である。当遺跡から2kmほど北のキウス4遺跡で出土した花積下層式併行の土器に類似している。60は口縁部に横位と斜位の縄文原体押捺が行われ、それ以下には太い綱文が施されている。節の磨り消しが丁寧である。61～64は綱文が施された胴部片。節の磨り消しがやや丁寧に行われている。繊維を多量含み、ややもろい。61は平縁に弱い連続刺突が施されている。64は比較的細い原体で施文されている。

【縄文時代中期の土器】

65～68はIII群a類に属する。円筒土器上層式に影響を受けた土器などが含まれる。69～97はIII群b-1類天神山式に属するもの、98～101はIII群b-2類柏木川式の可能性のあるもの、102～110はIII群b-3類北筒式に属するものと思われる。

65は大型突起。頂部に小さな平坦部をもつ。縄文原体が密に押捺されている。66は外傾する口唇に刻みに近い沈線が施されている。67は窓枠状の隆帯間に刺突が施されている。68は細かい撚りの縄文が施されている。緩やかな口縁にやや簡素な突起がある。見晴町式に類する。

69～77は口唇部のうち、肥厚のやや弱いもの（69～74）と断面が三角形を示し主に口唇上に文様が施文されるものを掲載した。69は丸みを帯びた口唇上および内面口唇下にまで縄文が施文されている。斜位にのびる隆帯上に押引文が施されている。70は半截竹管状施文具による沈線がみられる。71・72は口唇上に押引文が細かく施されている。73～75は隆帯＋押引文の装飾が見られる。75～77は肥厚する口唇上に縄文原体押捺がある。76・77は波頂部にも隆帯＋押引文の装飾が見られる。

78～81は胴部片。地文はLR縄文またはRLR複節縄文で1の撚りから始まる原体である。隆帯＋押引文が施され、半截竹管状施文具による横走沈線が施されている（78・79）。

82～94は肥厚する口唇部が台形状を呈するもので、口唇上から口縁部側へ連続した施文が行われるものである。82は半截竹管状施文具により鋸歯文を肥厚帯状に刻んでいる。83は横位に連続して押引文が施されている。84・86～91は肥厚帯に口唇上から口縁部側にまたがって刻み（沈線）が施されている。89は横位にも沈線が引かれている。87～91は隆帯＋押引文により口縁下の装飾が行われている。88・91は隆帯上に左右に押引文が施され、隆帯が山形になっている。92～94は肥厚帯に横位に半截竹管状施文具により整然と沈線が施されているもの。93・94にはそれに交差する沈線が引かれている。92は口縁下にも斜位に沈線が引かれている。94・95は同一個体。P-127区からZ-128区まで40mにわたって広範囲に出土していたものが接合した。口縁～胴部に隆帯＋押引文により鋸歯文などが施され、胴中央部付近は半截竹管状施文具による浅い沈線が横位に引かれている。

96・97は底部で、ややざらついている。張り出しはほとんどない。97は底面にも縄文が施文されている。

98～101について、98は肥厚する口唇部は角状になっており、回転縄文が施文されている。99は口唇下に8の字状の細い隆帯が貼り付けられている。口縁部の横位の隆帯上には縄文原体が押捺されている。100は胴上部の括れ部に太い隆帯が貼り付けられ、刻みが施されている。101は縦位の低い隆帯上に原体押捺が行われている。

102～110について、全体的に黄褐色を呈しややもろい土器が多い。102～108の口縁部には円形刺突が連続して深く穿たれている。102・105～108の口縁は断面三角形を呈する。102は縄文が弱く施文されている。103・105・107・108は内面に縄文がやや強く施文されている。104・106は結束縄文が明瞭であり、107は内面にもみられる。109は結節羽状縄文が底部付近まで施文されている。器厚がやや薄く硬質である。103・106・107には口唇上に刺突などの装飾がある。110は器壁が厚くややもろい。比較的縄文の撚りが細かい。

【縄文時代後期の土器】

111・112はIV群a類余市式に属する。器壁が厚くややもろい。111は内外面および口唇上に縄文が密に施文されている。113はIV群b-2類手稻式で、114はIV群b-3類鮎潤式に属する。内面がよく調整されている。

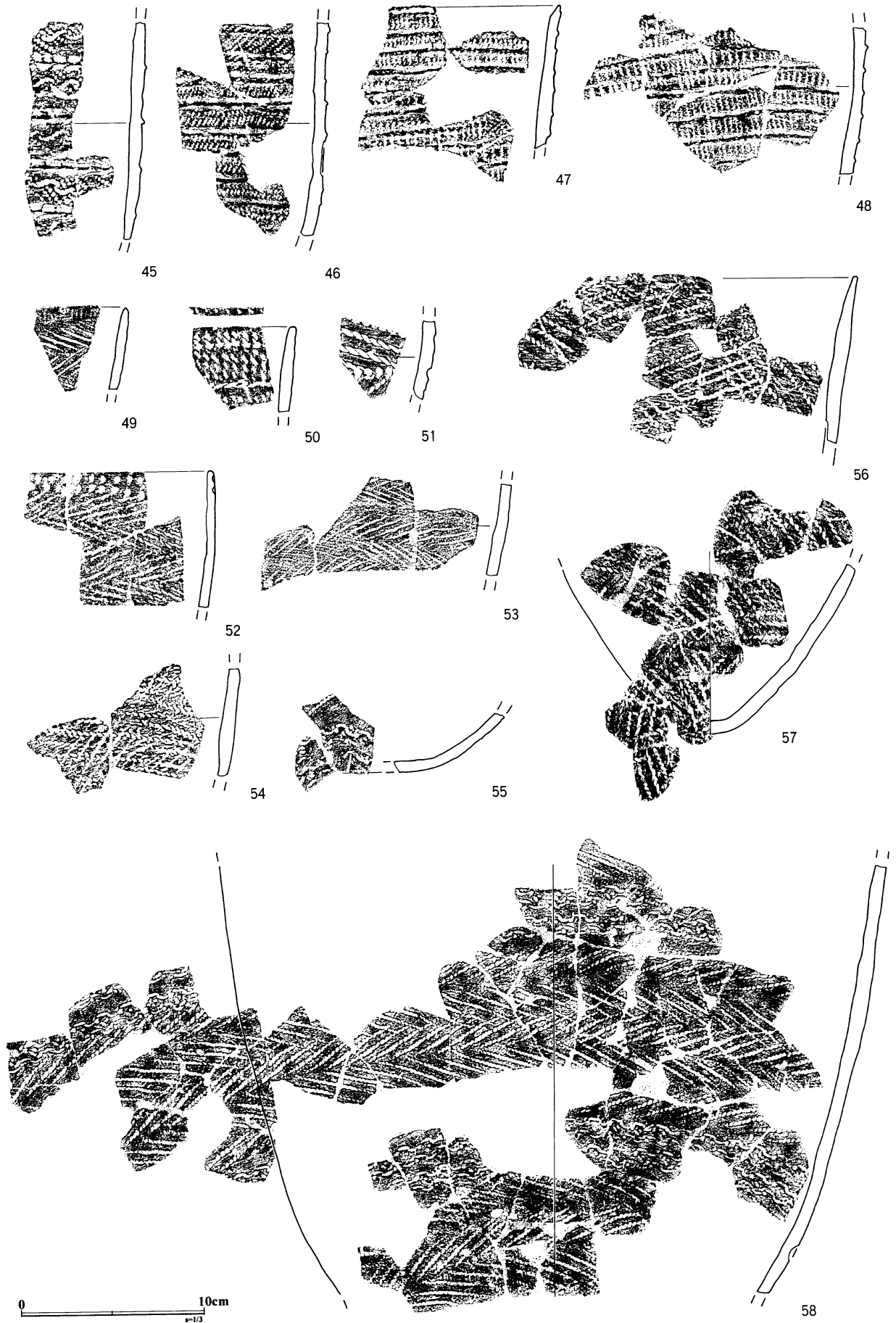
【縄文時代晩期の土器】

115～126はV群c類タンネットウL式（またはママチⅢ類）に属する。

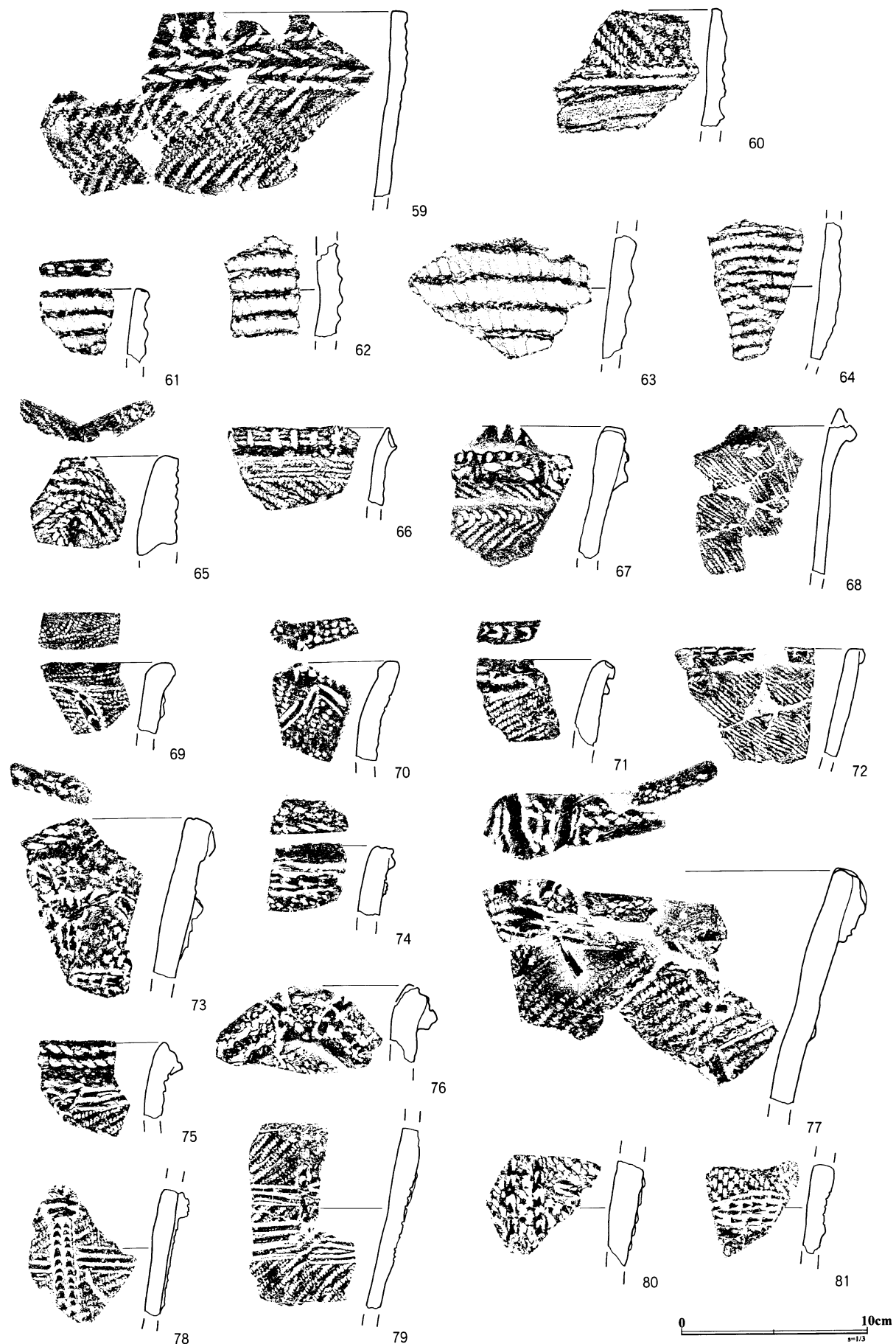
115は浅鉢。口唇上に平行する3条の原体押捺と刻みが施され、突起部には縦位に原体押捺が施されている。116はやや太く浅い沈線で蛇行する沈線がひかれている。117は口縁下に4条の縄線文が施されている。118は口唇上に細かい撚りの縄文原体が押捺されている。119は舟形を呈する深鉢の口縁突起と思われる。波頂部は大きく屈曲し、その左側面は剥離面ではなく焼成前から欠落させているものである。縄文原体押捺による渦文・弧線文が突起外面と波頂部上に施され、波頂部の渦文中央に刺突がある。



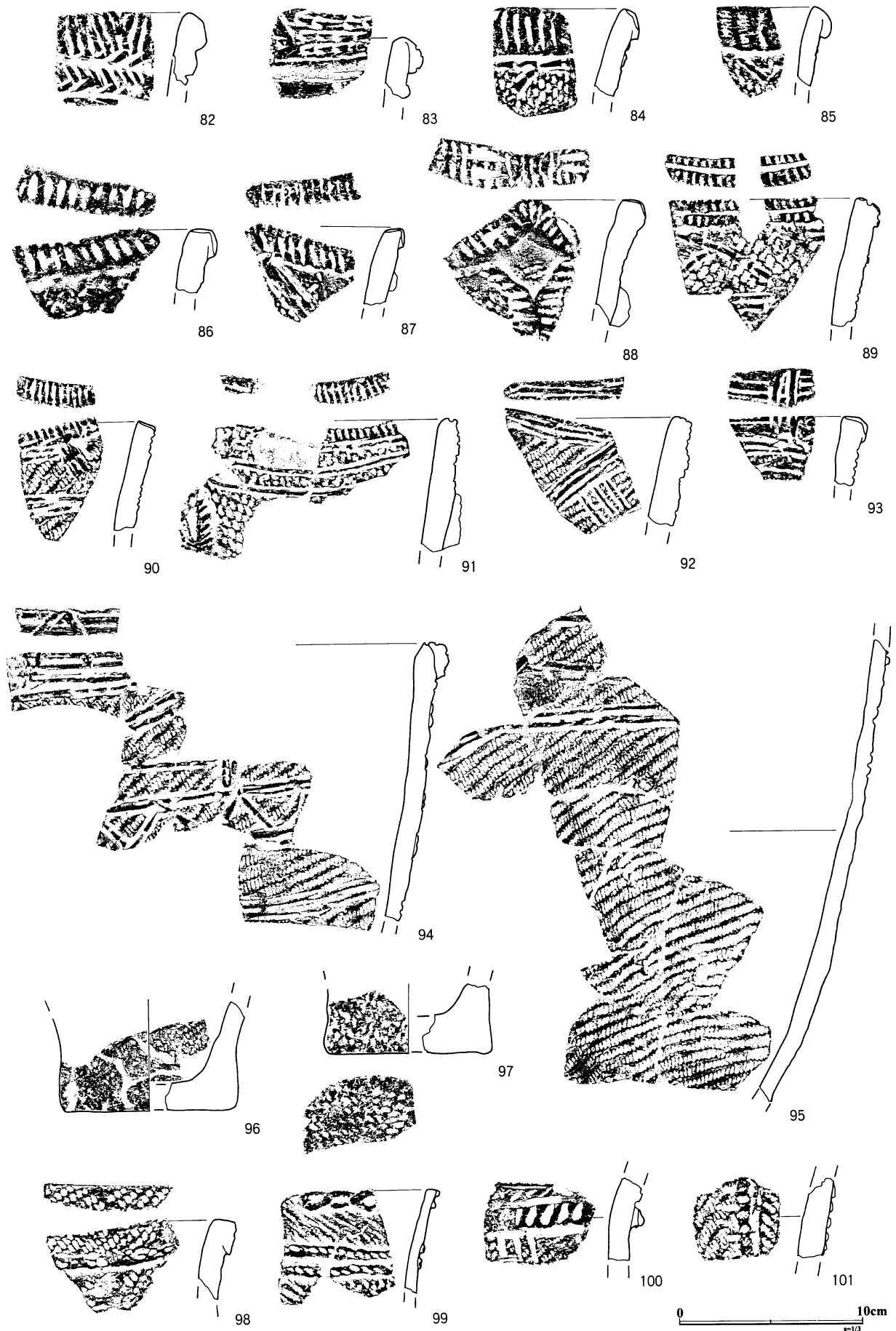
図V - 49 V・VI層出土の土器(1)



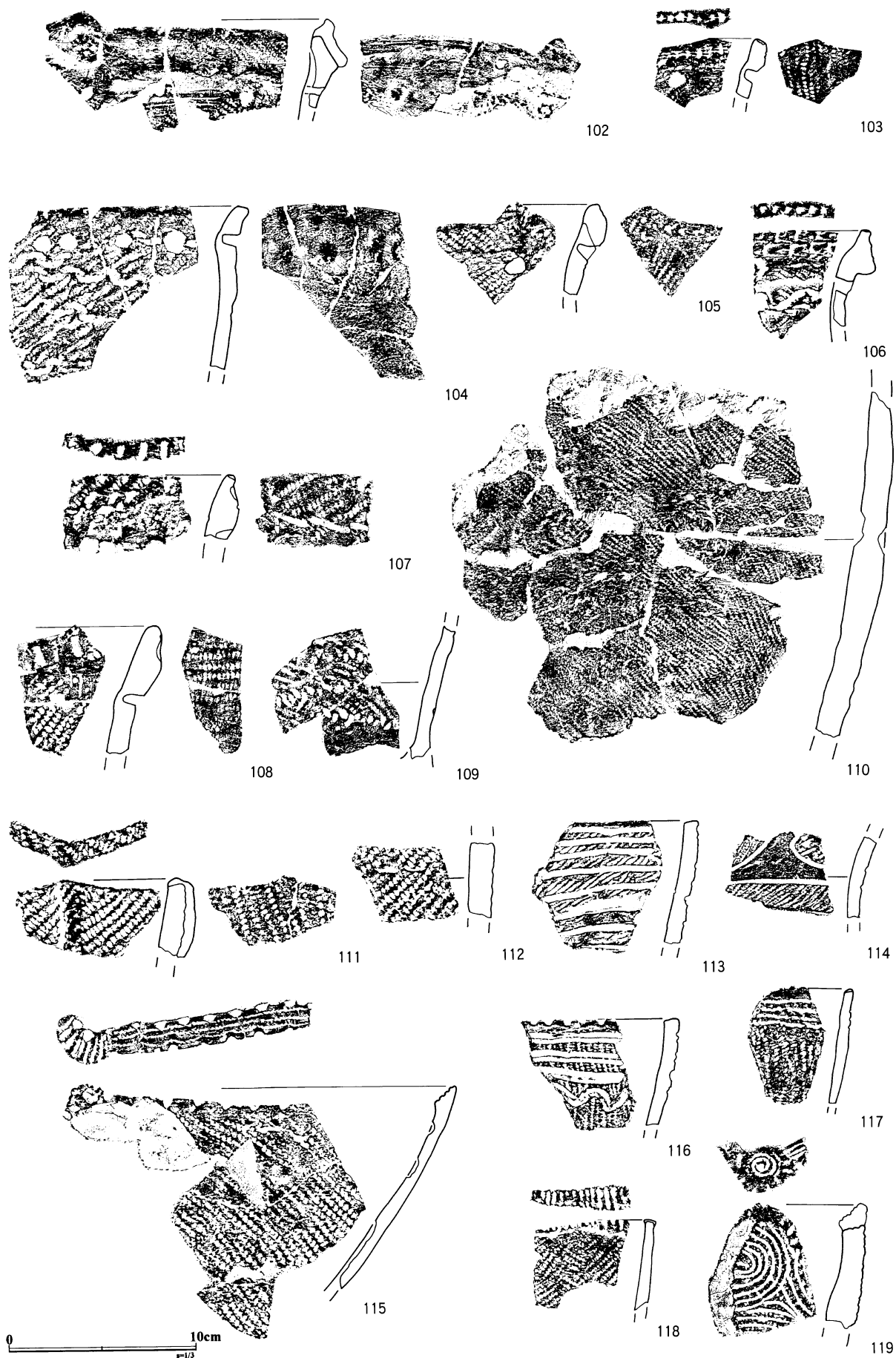
図V - 50 V・VI層出土の土器(2)



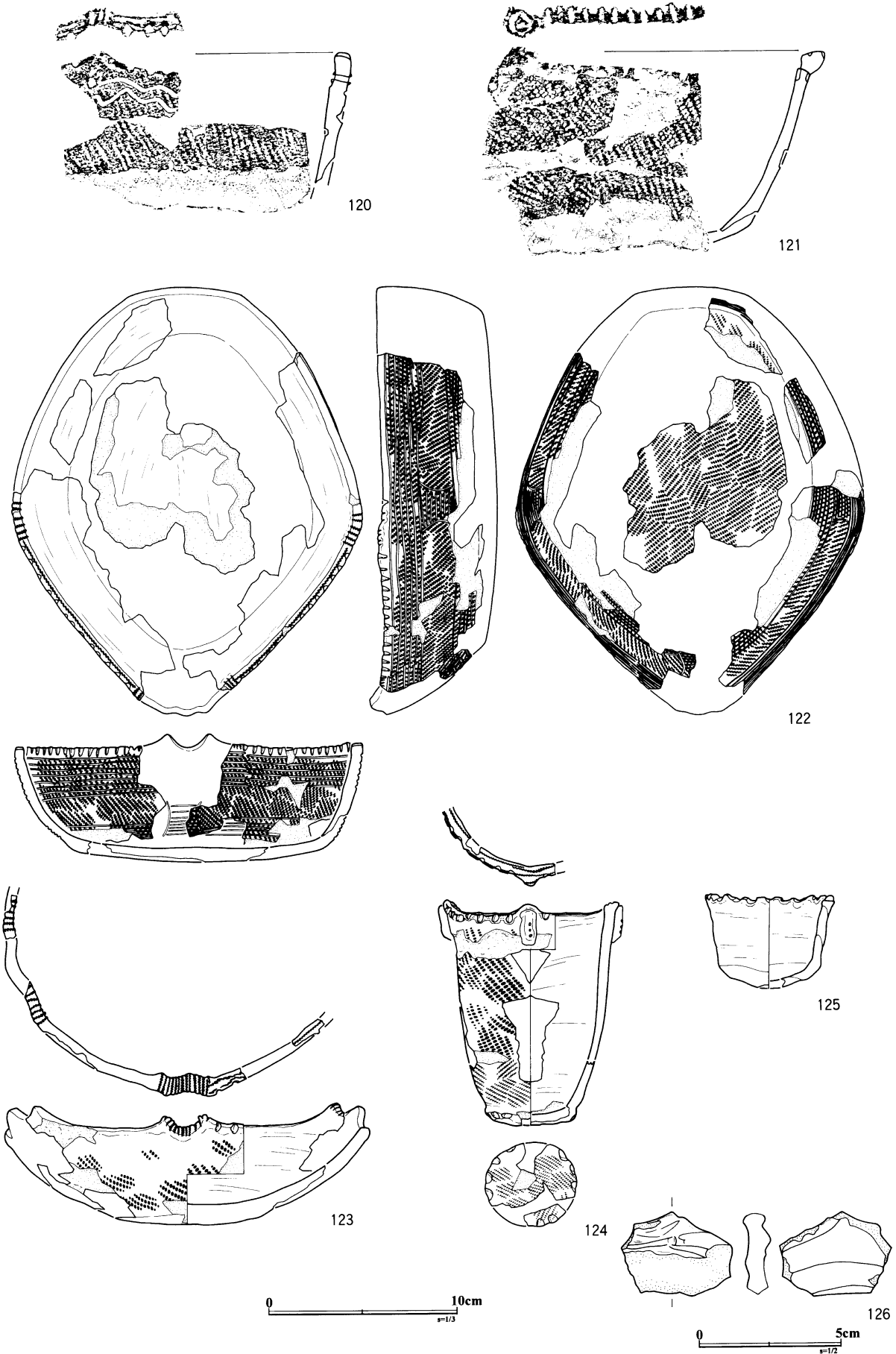
図V - 51 V・VI層出土の土器(3)



図V - 52 V・VI層出土の土器(4)



図V - 53 V・VI層出土の土器(5)



図V - 54 V・VI層出土の土器(6)

120・121は形状の類似した鉢。口唇上に平行する縄文押捺後、刻みが施されている。120の口縁下には貫通孔がうがたれており、蛇行する沈線がえがかれている。122は浅鉢。残存する破片から接点のない部分を含めて復元した。全体的には菱形に近い舟形であると考えられる。短軸側の口縁突起は残存していたが、長軸側は不明である。装飾のある大型突起の可能性がある。口唇上は縄文原体押捺と刻みが施されているが、途中からまったく施文されない部分がある。外面には口縁部および底部付近に細い平行沈線が密に施文され、口縁突起下部にそれらを連絡する弧線文と平行沈線が引かれている。底部は平坦である。123はやや不整形な浅鉢。6単位と考えられる口縁突起は2つ山の間に縄文原体押捺が行われている。底部はやや厚く丸みを帯びている。124は小型の長胴な深鉢。やはり口唇上に原体押捺と刻みがある。4単位の突起下に縦位の隆帯が貼り付けられている。底部は丸みを帯び、周縁に刺突が施されている。125はミニチュアの鉢。無文で口唇部に刻みが施されている。

126は壺の口縁波頂部。小型の瘤の玉抱三叉文がみられる。内面に段が明瞭に見られる。内外面・口唇上全面に赤彩されている。

【土製品】

127～159は三角形土製品、160～166は土器片再生円盤、167・168は土偶または動物意匠の土製品と考えられるもの、169～172は焼成粘土塊である。

三角形土製品について、以下の形状がみられた。

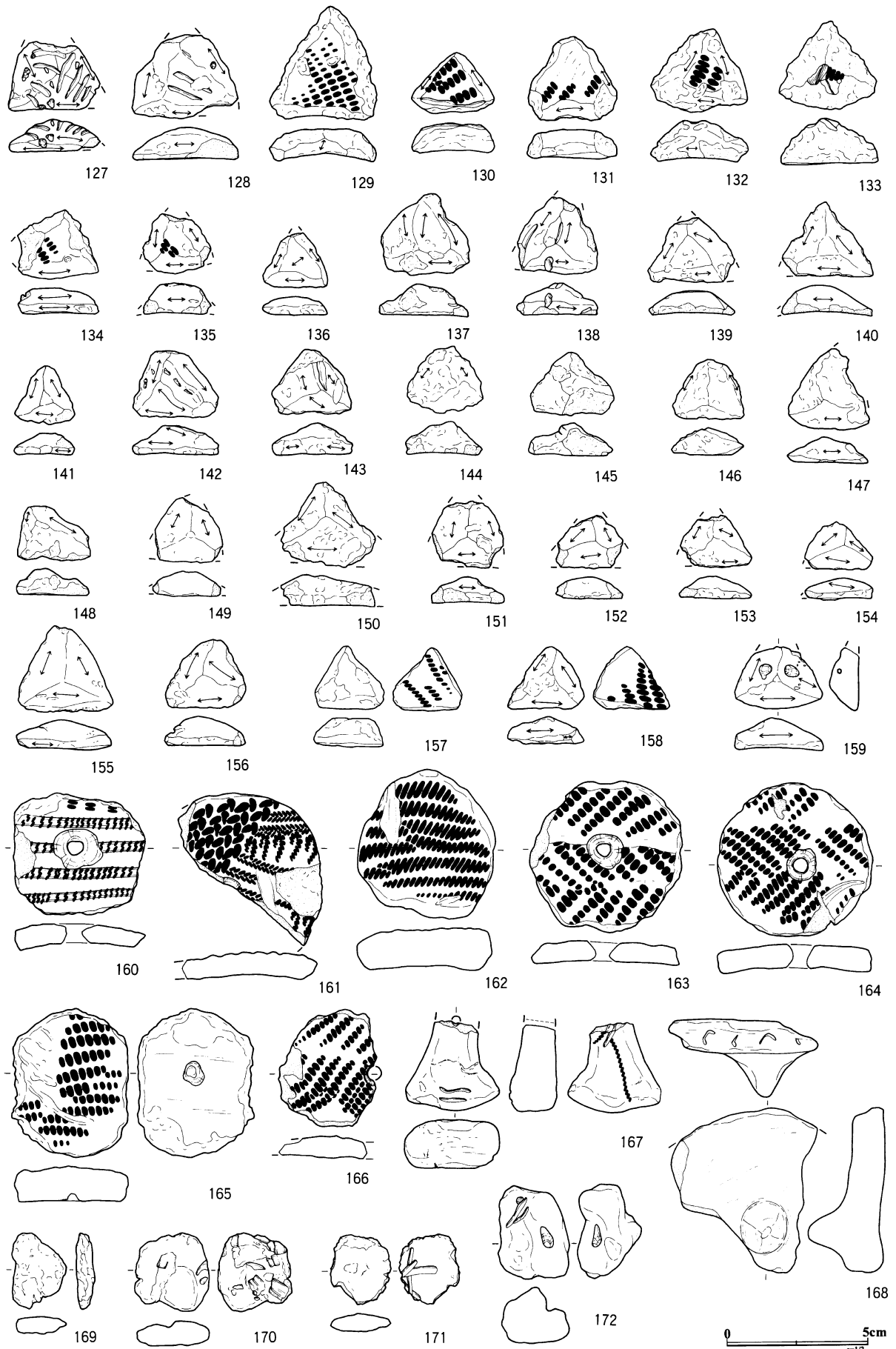
- ①三角錐状に磨り込み、稜に刻みを加えたもの(127)
- ②三角錐にまでは至らず、断面が台形で、土器片の外面の文様が残存するもの(128～135)
- ③三角錐にまでは至らず、断面が台形で、上面も磨り外面の文様が残存しないもの(136～142)
- ④三角錐状に磨り込み、頂部がとがるもの(143～156)
- ⑤その他の形状(157～159)

①について、127は三角錐になるように土器片の外面側を斜方向に3面磨り込んだ後、各稜に2～4本の刻みを設けたもの。丁寧に調整されている。④について、149・151～156は比較的丁寧に成形・調整されているが、そのほか粗雑なものも多い。⑤について、157・158は他の三角形土製品と異なり土器片の内面側を三角錐状に磨り、外面側の縄文がそのまま残存しているものであり、159は三角錐状に磨られた2面に貫通孔が施されたものである。

160～166の円盤について、すべてⅠ群b類土器の破片を加工して成形されている。160は絡条体圧痕の並列する破片で、やや方形に近い。中央内外面両方から大きく穿孔している。161は組紐圧痕・縄端圧痕のみられる破片で、厚さがやや薄い。中央の穿孔部から半分が破損している。周縁の調整は丁寧である。162・165は厚い土器片が加工されており、162は穿孔がなく165は内面側から5mmほど穿孔を試みた跡がある。163・164はやや太い原体で羽状縄文が施文された土器片が用いられている。周縁がよく調整されていて、164は極めて円形に近い。

167は土偶または動物形土製品の足部と考えられるもの。左側面に1条の縄文圧痕がみられる。底面は平坦だがやや丸みを帯びている。上位の欠損部に貫通孔がみられる。168は不明土製品。平板に乳房状の突起が貼り付けられているもの。

169～172について、169～171は小型でやや扁平なもの、172は不整形な団子状の焼成粘土塊。170～172には半截竹管状施文具などを刺したとみられる跡が見られる。(阿部)



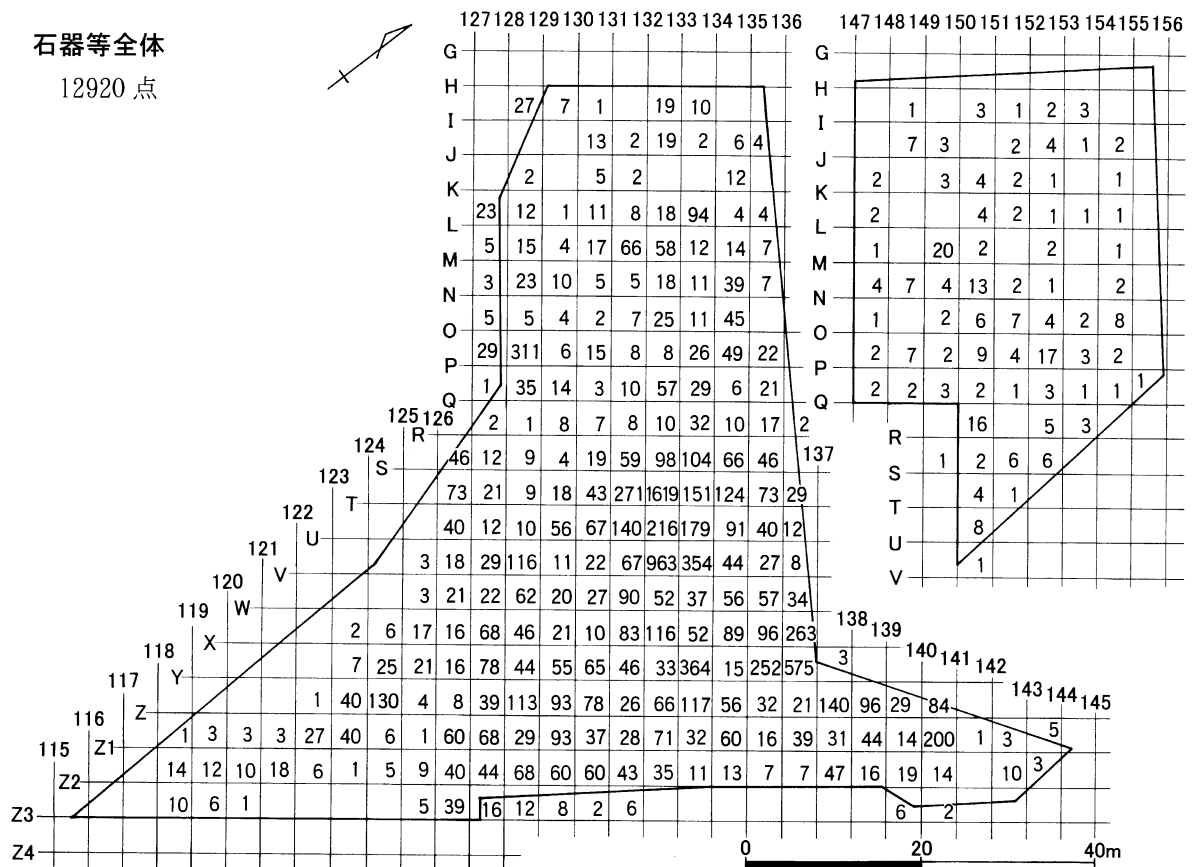
図V - 55 V・VI層出土の土製品

(2) 石器等

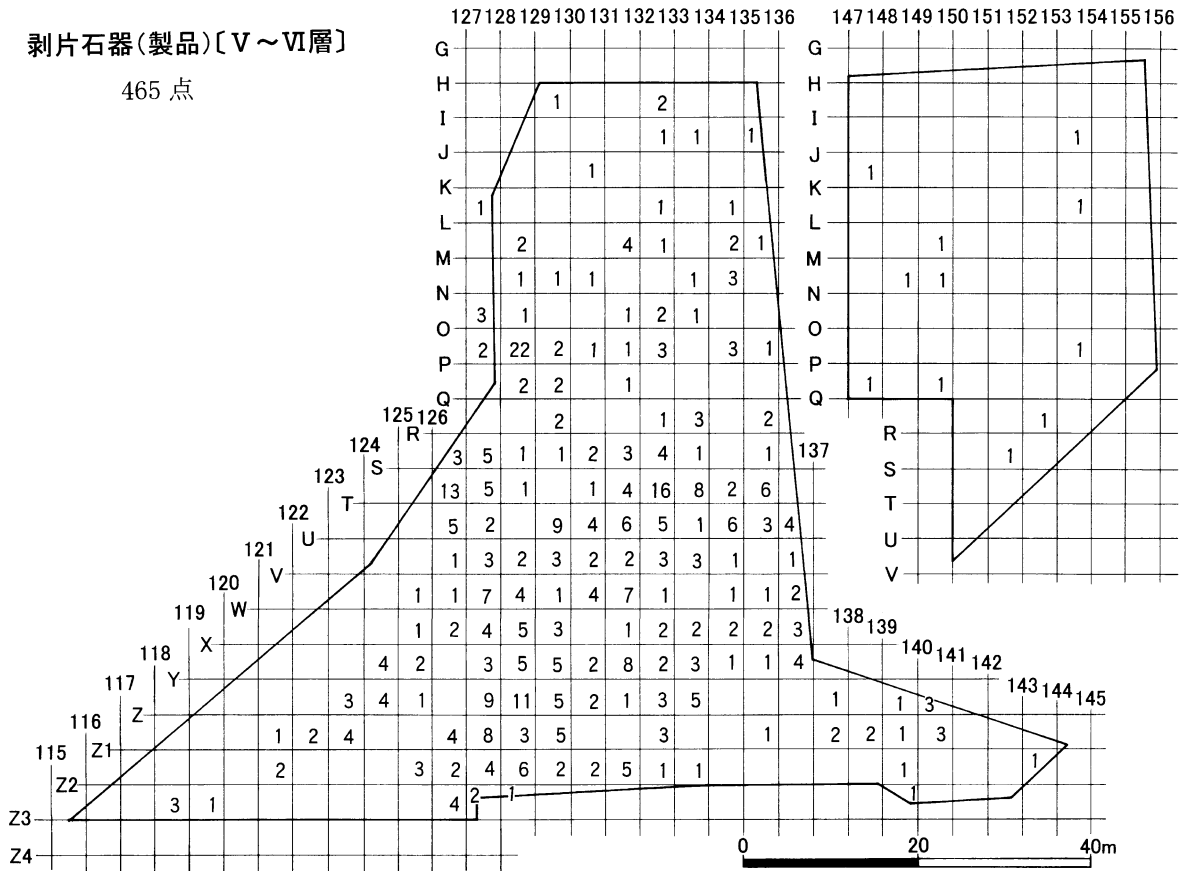
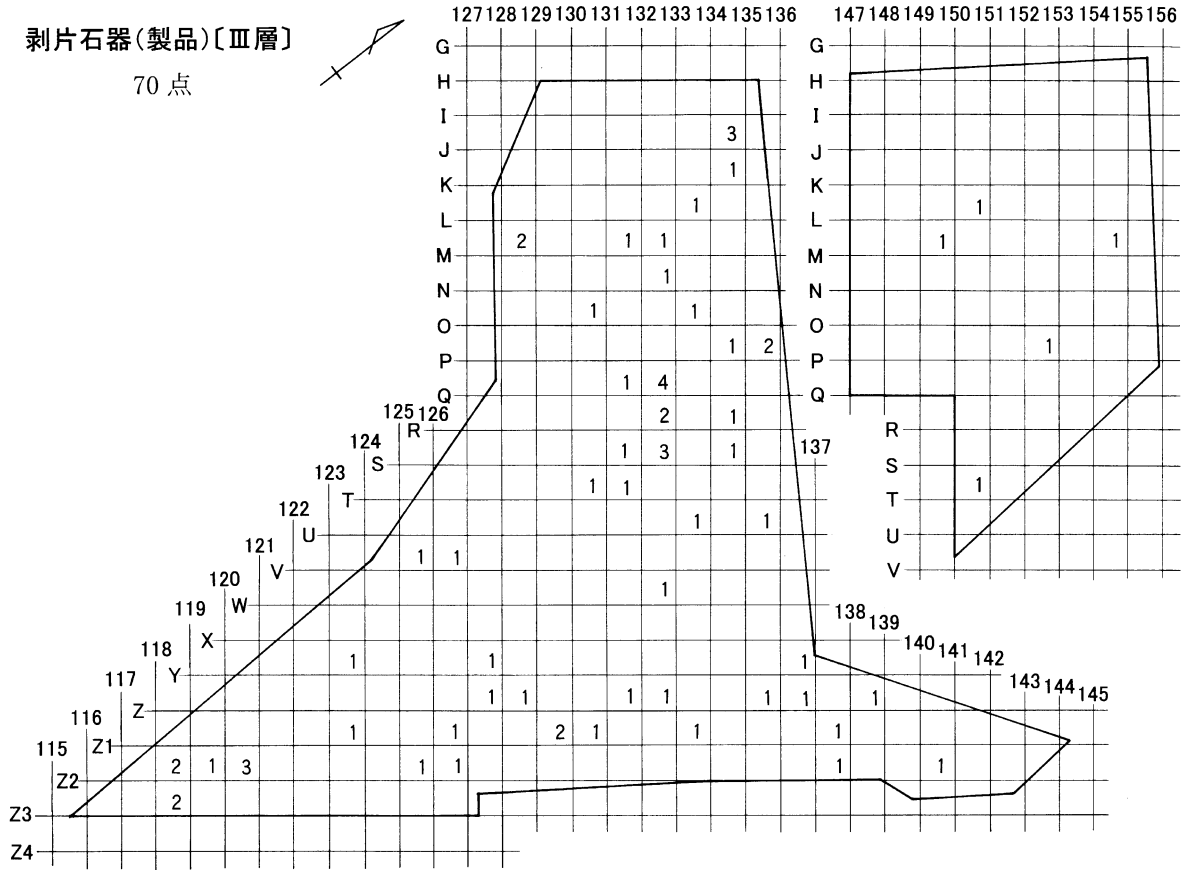
アイヌ文化期、旧石器を除いた包含層出土石器等の点数は12,920点である。層位別の内訳はⅢ層642点(5%)、Ⅴ-1層5,303点(41%)、Ⅴ-2層6,678点(52%)、Ⅵ~Ⅶ層155点(1%)である。他にⅠ層から142点(1%)出土している。層位別ではⅤ-1及びⅤ-2層出土で90%以上になり、他の層位の出土は少ない。

石器群ごとの内訳は剥片石器群11,338点(88%)、磨製石器群330点(3%)、礫石器群1,104点(9%)、石製品3点であり、剥片石器群がほとんどを占める。また、旧石器の可能性があるが、断定できなかったものが145点ある。剥片石器群11,338点の器種別の内訳は、石鏃155点、石槍13点、石錐18点、つまみ付きナイフ27点、スクレイパー63点、両面調整石器56点、Uフレイク24点、Rフレイク146点、フレイク10,814点、石核22点で、フレイクが約95%を占めている。道具類では石鏃が最も多く、次いでスクレイパーが多く出土している。磨製石器群330点の器種別の内訳は石斧325点、石斧原材(研磨石材)5点である。石斧は破片が多く、石斧と分類した中には製作時に生じた剥片も含めている。礫石器群1,104点の器種別の内訳はすり石18点、たたき石29点、砥石44点、台石・石皿30点、焼け礫80点、礫902点、軽石1点である。礫が約82%を占め、全体的に道具類は少ない。また、石製品としては玉が3点出土している。

石材は、剥片石器群では黒曜石が主体で、頁岩も少量認められる。黒曜石は赤井川産と考えられる黒曜石7・8がほとんどで、黒曜石1・3・6・9・10が少量認められた。また、近文産を想定した緑がかった黒曜石9は原産地分析では所山産という結果が得られており、予想とは異なった結果となっている。磨製石器群の石材は緑色泥岩が多く、片岩や蛇紋岩ないし泥岩が少量認められる。

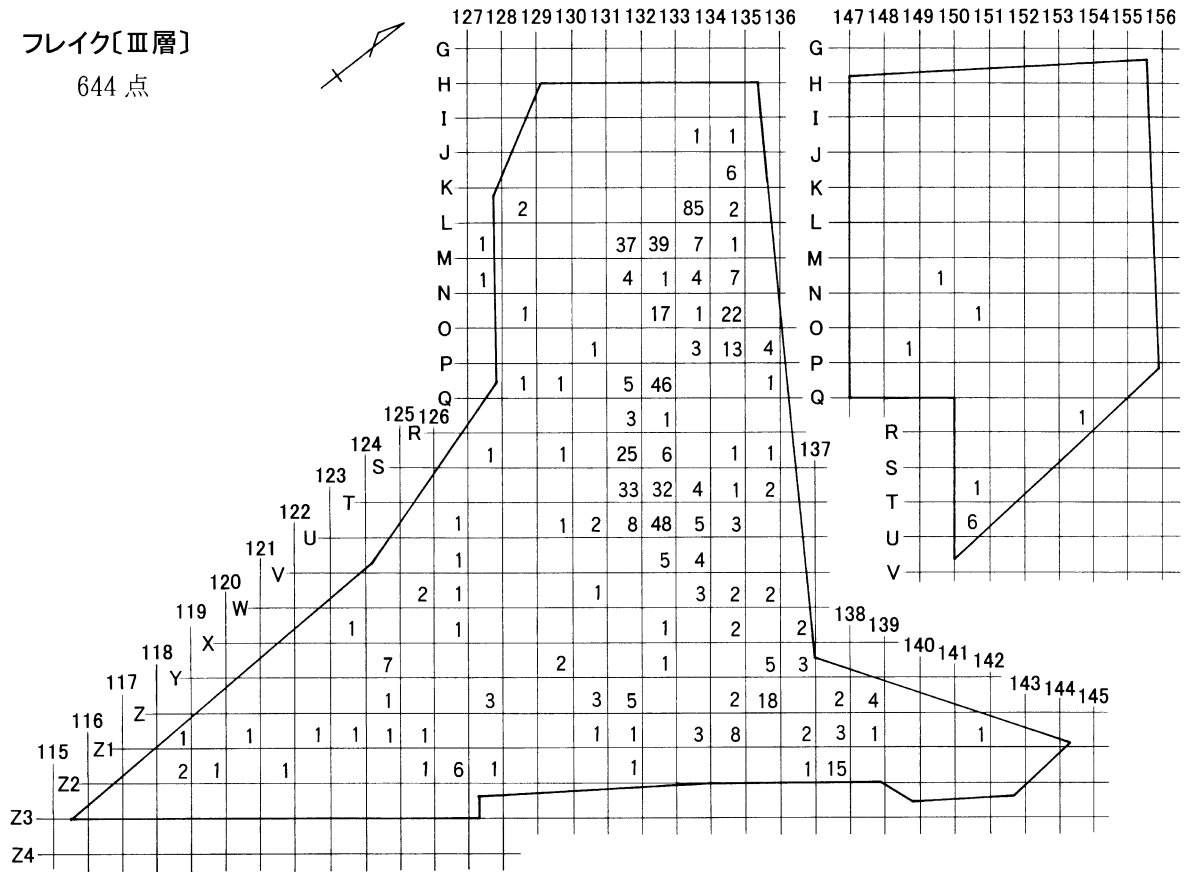


図V - 56 包含層出土石器分布図(1)

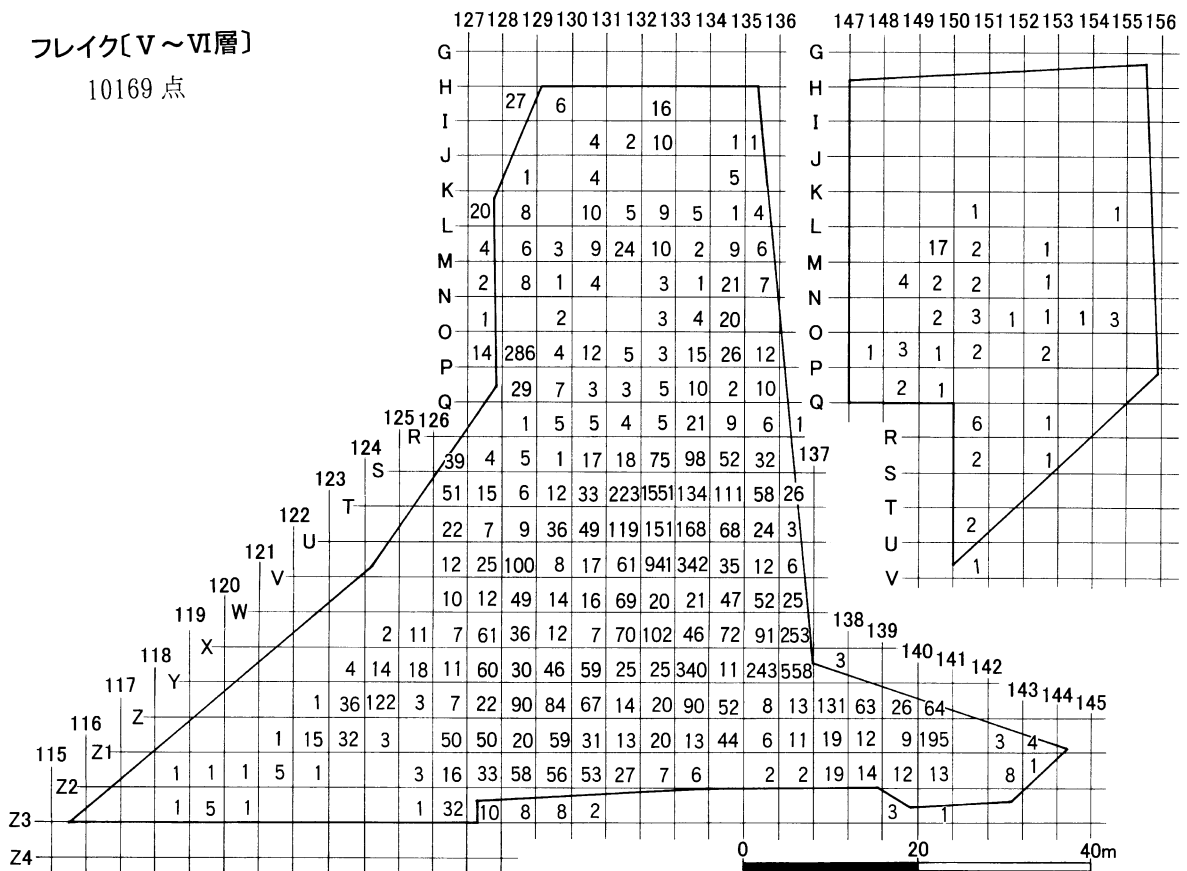


図V - 57 包含層出土石器分布図(2)

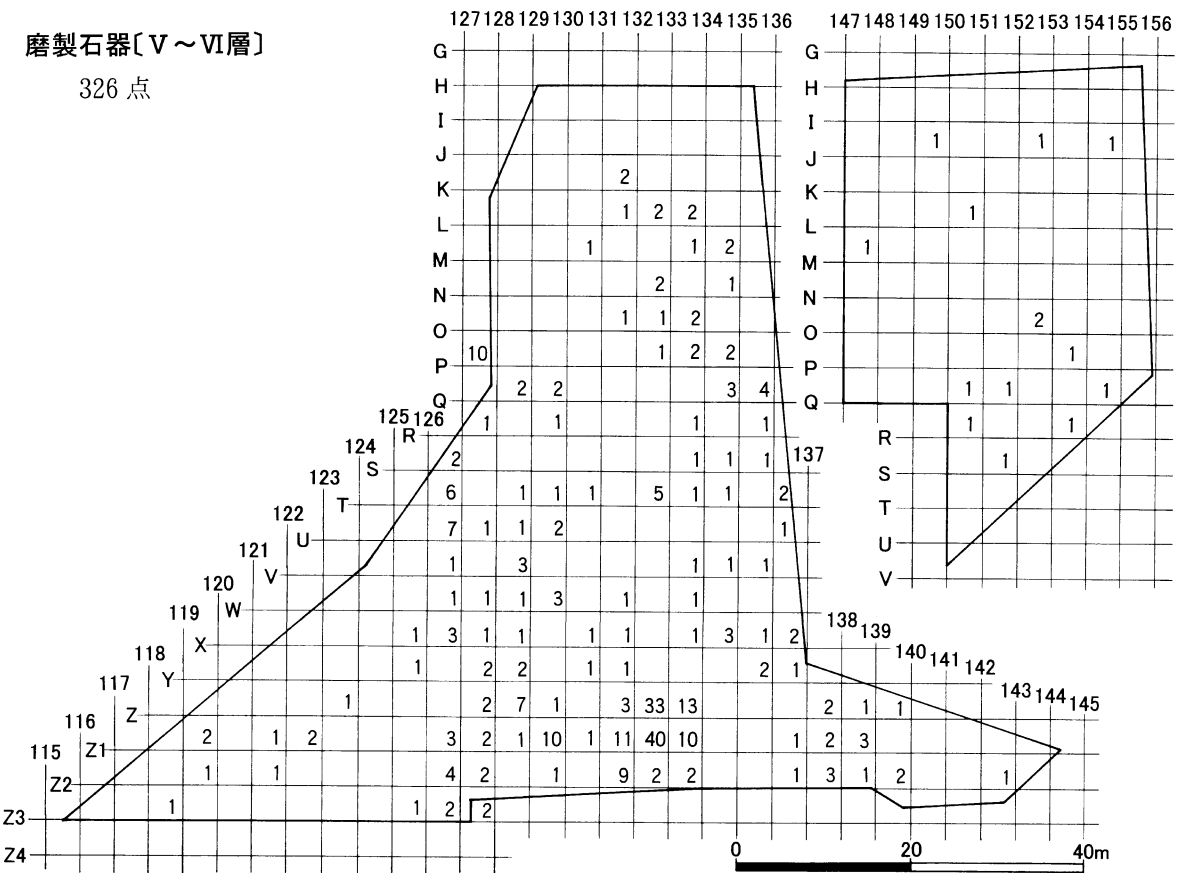
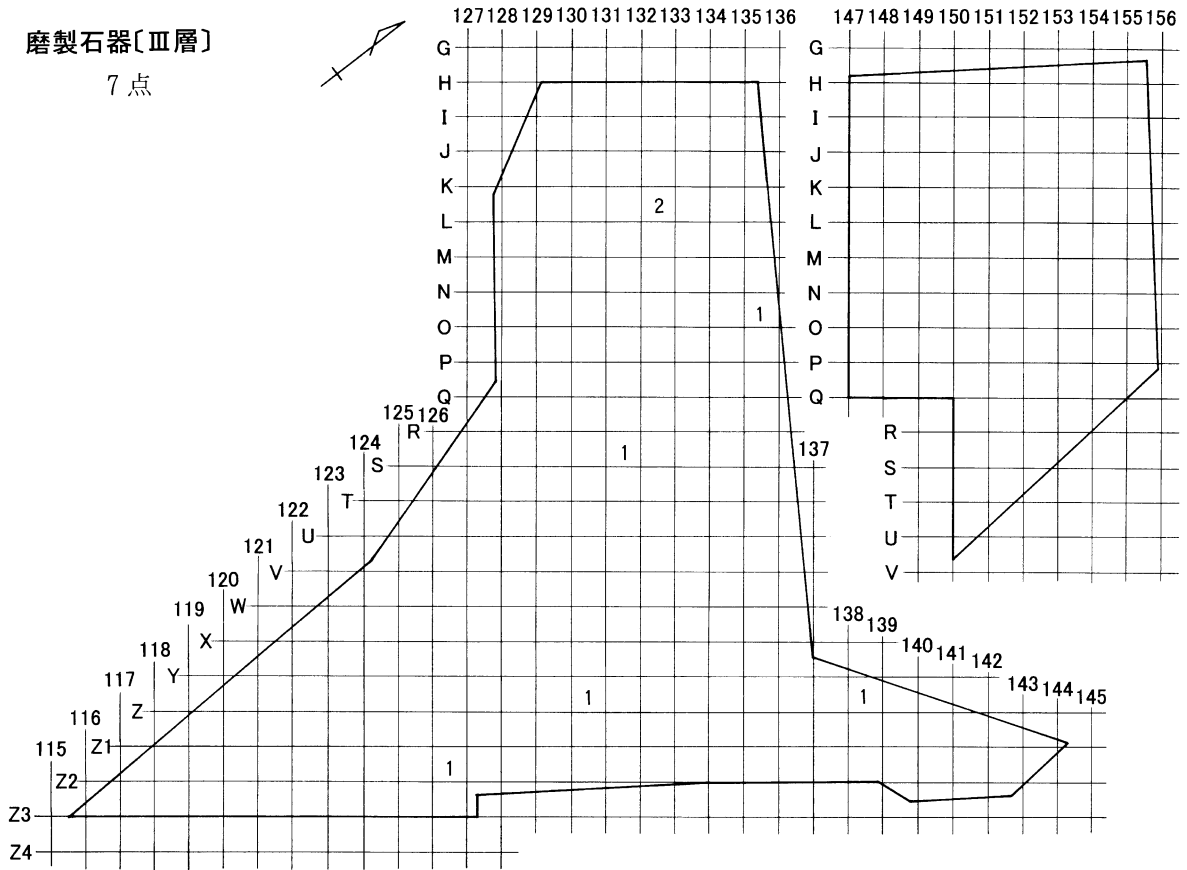
フレイク[Ⅲ層]
644点



フレイク[V~Ⅵ層]
10169点



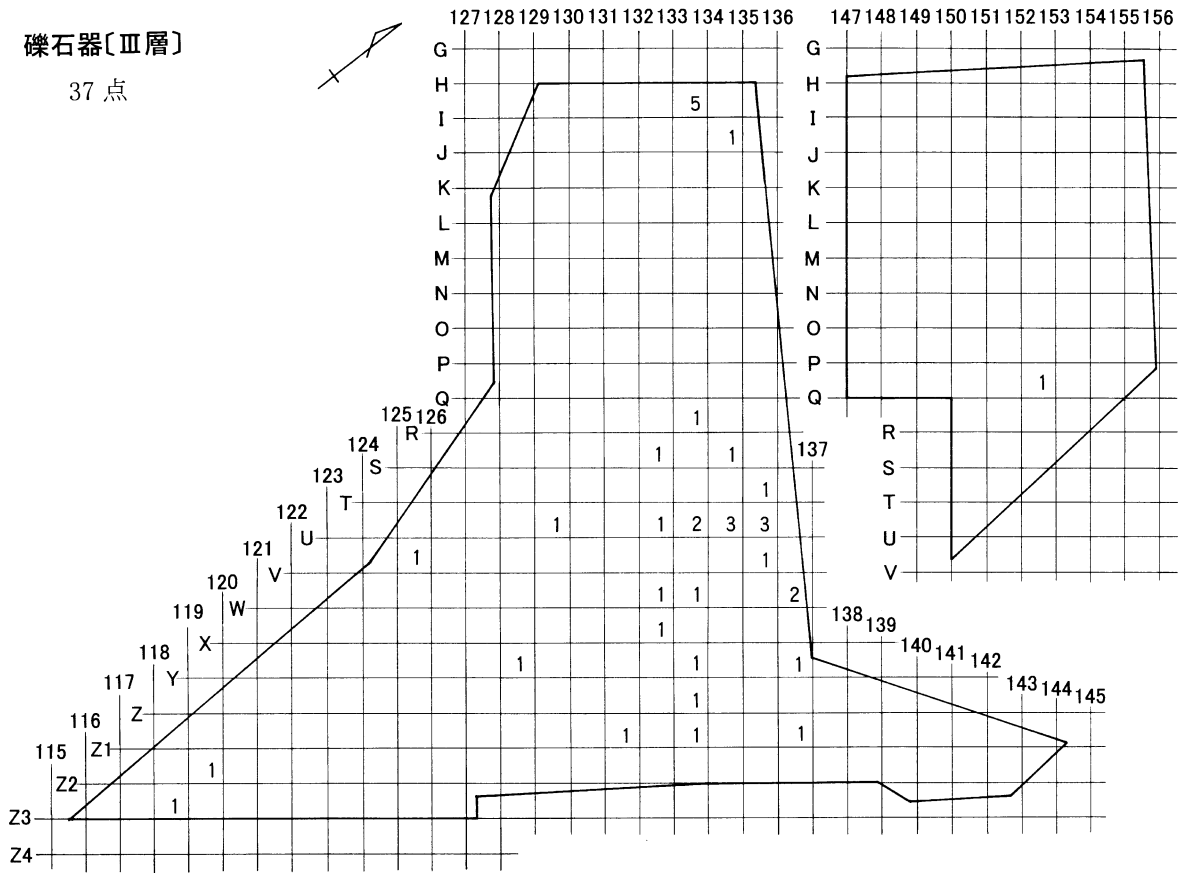
図V - 58 包含層出土石器分布図(3)



図V - 59 包含層出土石器分布図(4)

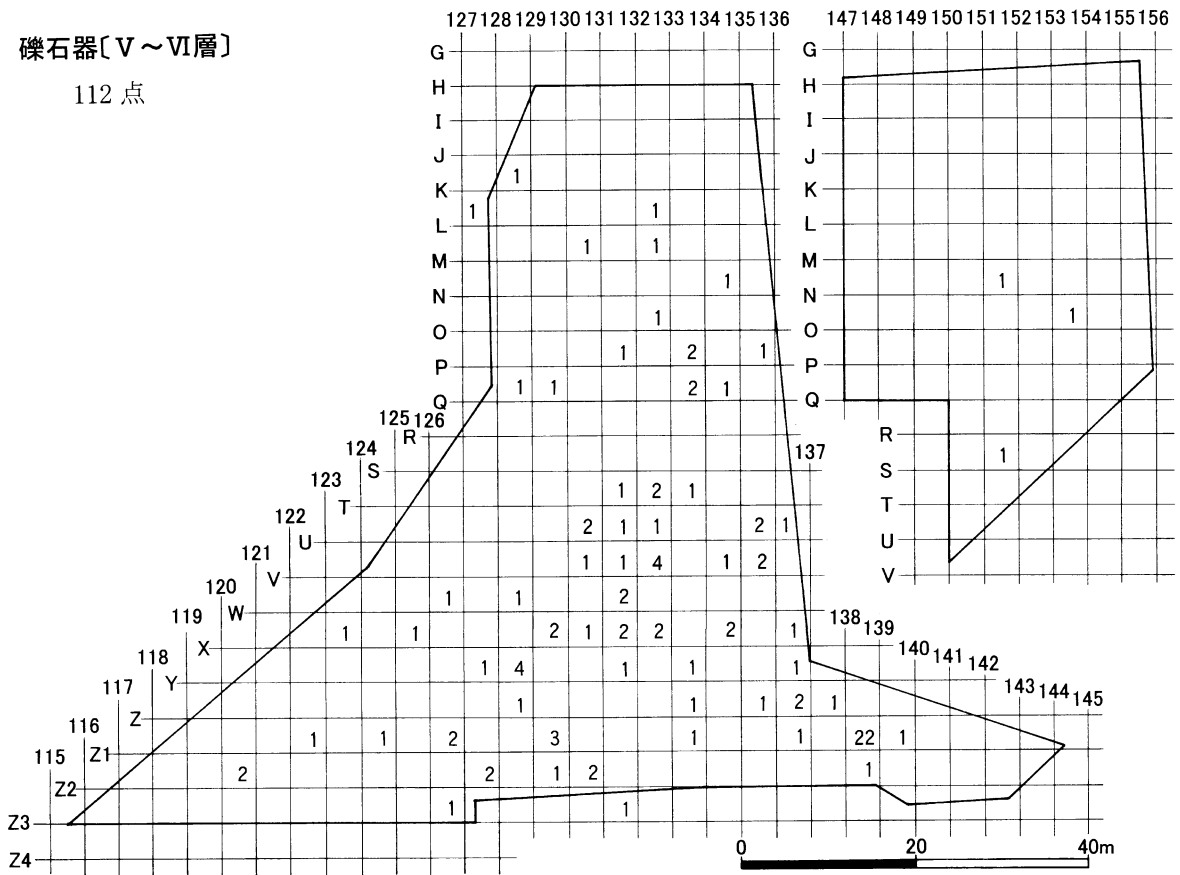
礫石器〔Ⅲ層〕

37点

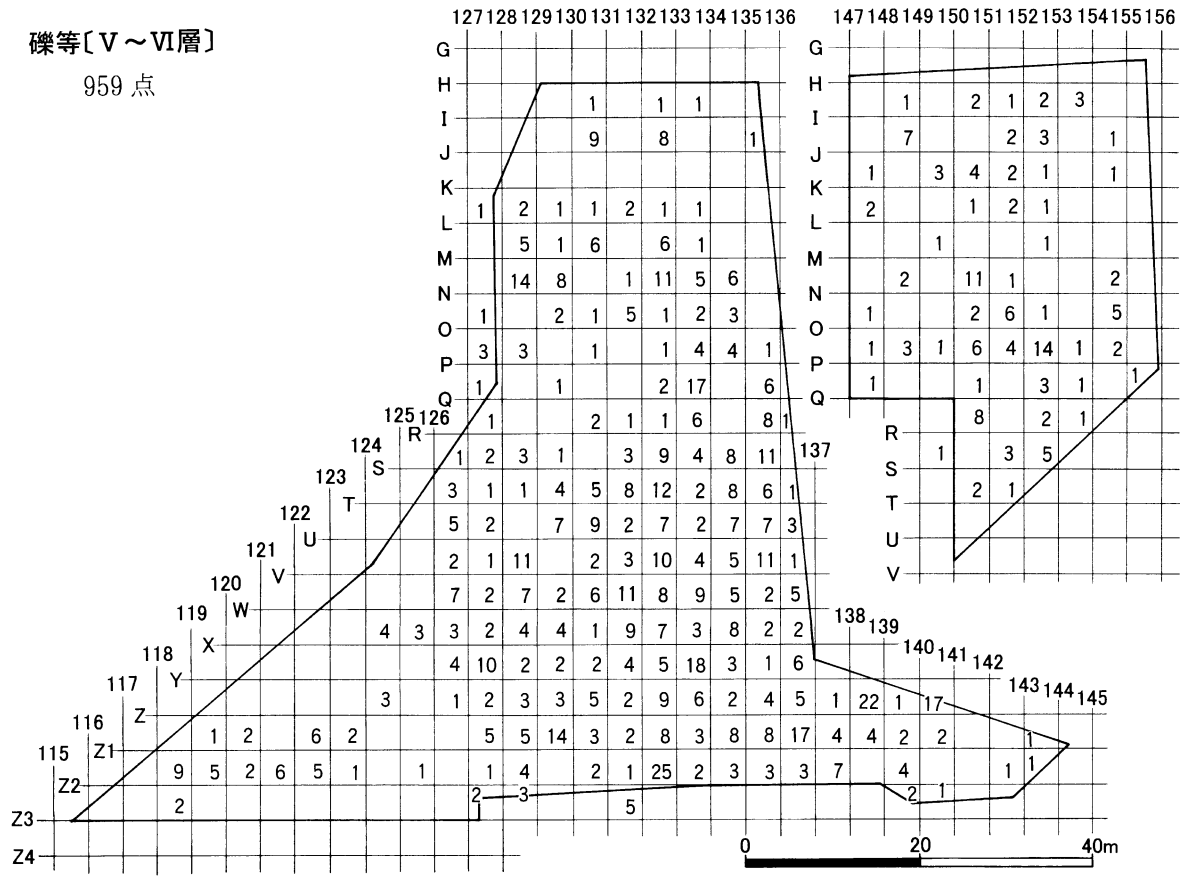
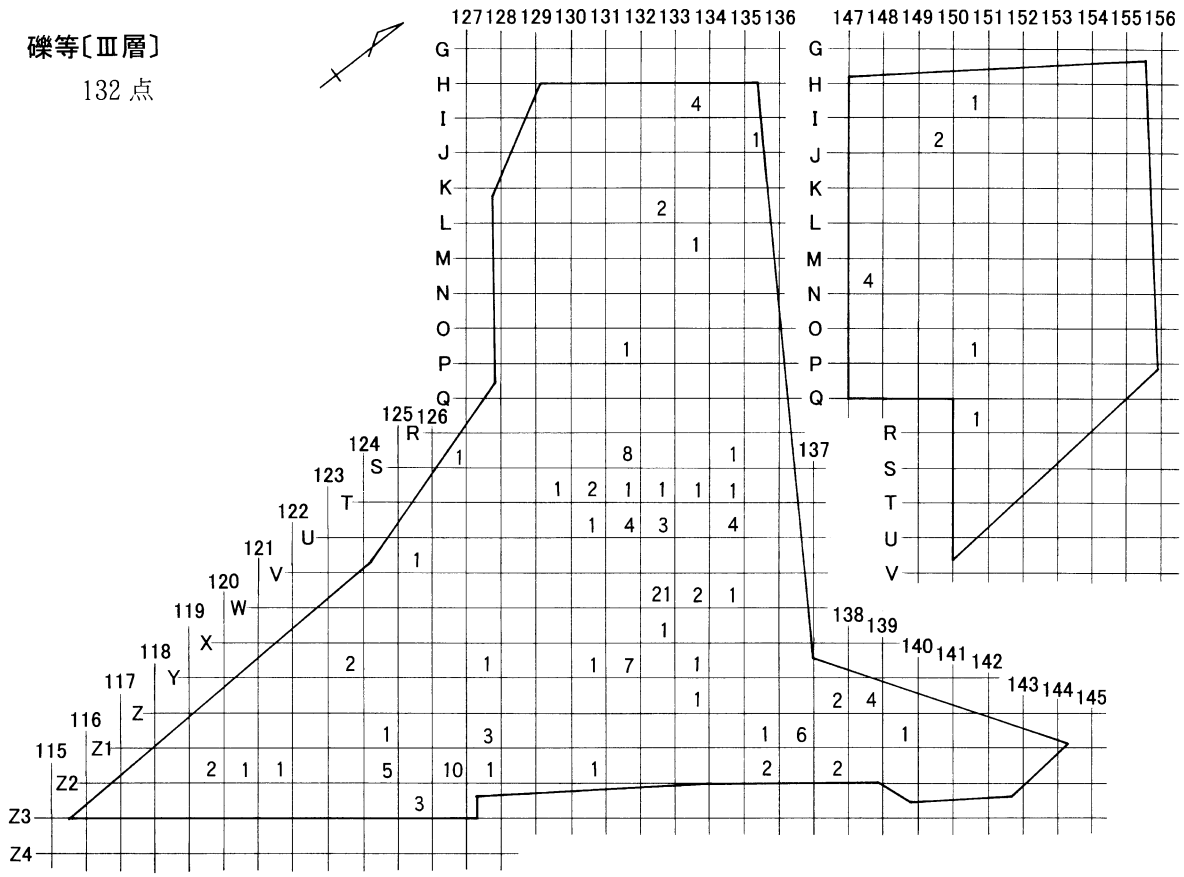


礫石器〔Ⅴ～Ⅵ層〕

112点



図V - 60 包含層出土石器分布図(5)



図V - 61 包含層出土石器分布図(6)

地区ごとにみた分布では、A地区はほぼ全体的に石器等が出土しているが、中央付近から南東側の遺構周辺は特に多い傾向がみられる。C地区は全体的に石器等の出土点数が少なく、分布も散漫な傾向にある。

①Ⅲ層出土の石器(図V-62)

Ⅲ層出土の石器等の点数は642点である。器種別の内訳は、剥片石器群では石鏃23点、両面調整石器2点、石錐2点、スクレイパー16点、Uフレイク3点、Rフレイク6点、フレイク577点、石核1点、磨製石器群は石斧5点、礫石器群は、すり石1点、たたき石1点、砥石5点である。また、石製品として玉が1点出土している。石器等の分布をみると、製品はA地区全体に薄く広がっており、C地区は散漫である。フレイクはA地区中央から北西側にかけて多い。全体の分布はほぼV群c類土器の分布と重なるため、時期は縄文時代晩期後葉のものと考えられる。

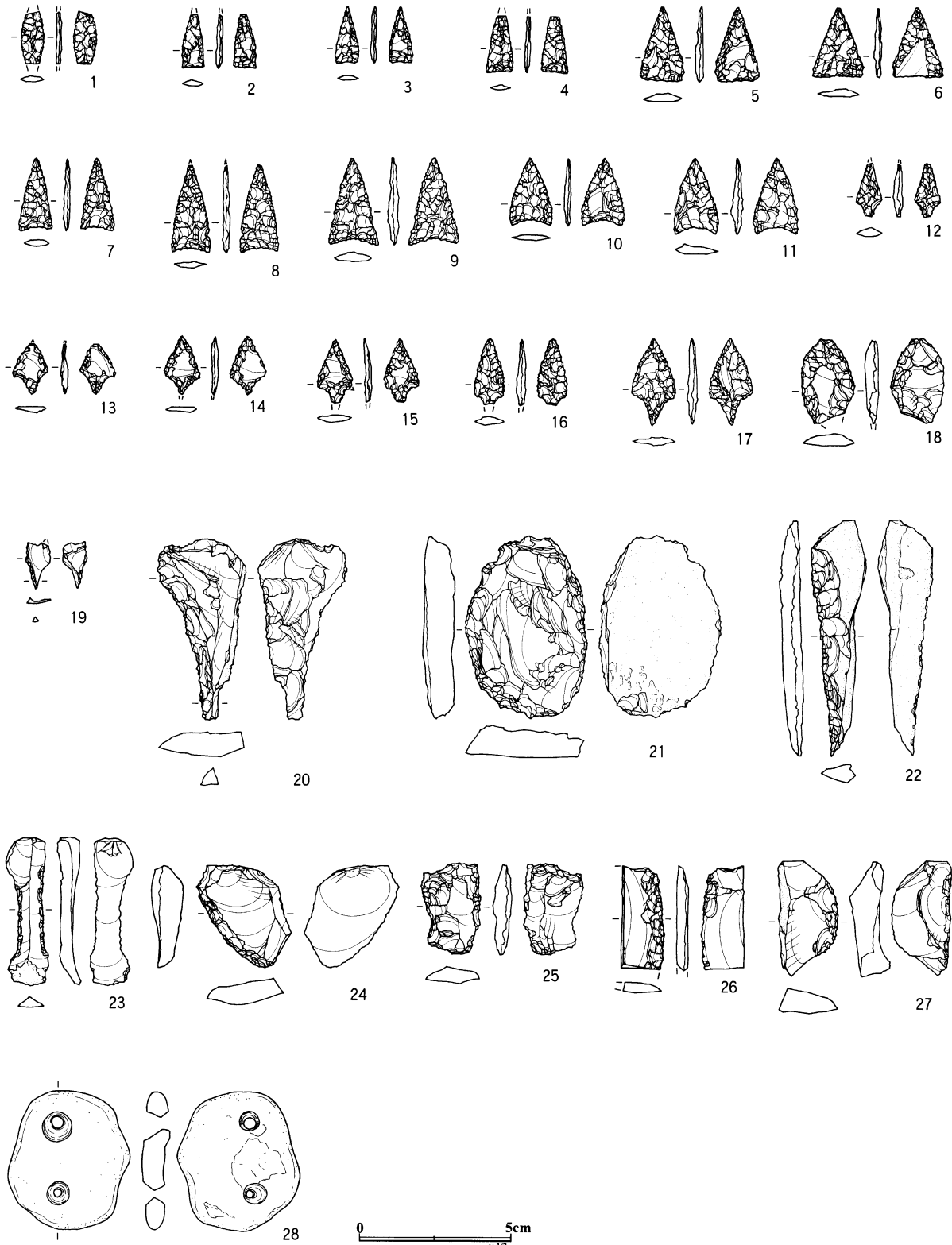
石鏃は23点出土しており、この内17点を図示した(1~17)。石材は全て黒曜石である。黒曜石の種類は黒曜石1が多く、少量黒曜石3・6・7がある。1は柳葉形のものである。丁寧な二次加工で薄身に作られているが、先端と基部を欠失している。2~11は無茎のもので形状は三角形に近い。2・3・5・6・10は素材面が残っており、5以外は縦長剥片を素材としている。2~4は幅に比べて長さのある狭長な形態で、2・4は先端部を欠失する。4は原産地分析により十勝三股産という結果を得た。5・6はやや幅があり基部が直線的なものである。5は縦長剥片、6は横長剥片を素材としている。7~11は基部がやや内湾するものである。7~9はやや狭長な形態で側縁が直線的なものである。10・11はやや幅広で側縁が張り出す形態のものである。12~17は有茎のものである。小形のもので多く基部を部分的に欠失するものが多い。12は厚みがあり、先端部を欠失している。13・14・15・17は素材の形状を生かし周辺部のみ二次加工を施している。素材は薄身の縦長剥片が多い。17は基部が逆三角形で先端が尖っている。

両面調整石器は2点出土しており、その内1点を図示した(18)。石材は黒曜石1である。18は下端部を欠失している。縦長剥片を素材とし、両面の周縁部に二次加工が施される。

石錐は2点出土しており、2点とも図示した(19・20)。石材はどちらも黒曜石1である。19は小形のもので、素材となる横長剥片の側縁に二次加工を施して、錐部を作り出している。20は縦長剥片を素材とし、表側右側に原礫面を残す。表面と裏面の左側縁に二次加工が施されている。

スクレイパーは16点出土しており、その内7点を図示した(21~27)。石材は全て黒曜石である。21はエンドスクレイパーで、下端部に急角度の刃部が作り出されている。裏面は原礫面である。22~27は側縁に刃部が作り出されるサイドスクレイパーである。22は棒状原石を素材とする。23は両側縁に細かい二次加工が施される。石材は黒曜石3である。下部に円礫の一部と考えられる原礫面を残す。V-1層出土である。24は横長剥片の末端部にやや外湾する刃部を作り出している。25は半両面加工で表面の両側縁に刃部が作り出されている。26は大部分を欠失している。27は表面の左側に角礫の一部と考えられる原礫面を残す。また裏面には主要剥離面を切る大きな剥離が認められることから、石核を転用した可能性がある。

玉は1点出土している(28)。28は扁平な礫の平坦面に穴が2ヵ所認められる。穿孔は両面から行っている。石材は泥岩である。



図V - 62 III層出土の石器

②V～VII層出土の石器(図V-63～66)

V～VII層出土の石器等の点数は12,136点である。器種別の内訳は、剥片石器群では石鏃130点、石槍13点、両面調整石器53点、石錐16点、つまみ付きナイフ27点、スクレイパー46点、Uフレイク21点、Rフレイク137点、フレイク10,135点、石核21点、磨製石器群は石斧318点、石斧原材(研磨石材)5点である。礫石器群は、すり石17点、たたき石28点、砥石37点、台石・石皿30点、焼け礫80点、礫880点、軽石1点である。また、石製品として玉が2点出土している。石器等の分布をみると、製品は調査区全体に薄く広がっており、C地区は散漫である。フレイクはA地区中央から南東側にかけて多く、遺構の分布とほぼ重なる。石器等全体の分布は土器の分布とほぼ重なるが、土器は縄文早期～晩期のものが混在した分布状況を示すため、どの時期のものかは判断しがたい。

石鏃は130点出土しており、この内12点図示した(1～12)。完形もしくは完形に近いものが多い。また、素材面を残すものは少ない。石材は黒曜石がほとんどで、2点のみ頁岩がある。黒曜石の種類は赤井川産と考えられる黒曜石7・8が主体で次いで黒曜石1が多い。また、黒曜石3・4・6・10も少量認められる。1は柳葉形に近いが基部は平坦である。細かい丁寧な平坦剥離で作られている。石材は黒曜石1である。2はやや幅の広い柳葉形である。左右は非対称で石材は黒曜石6である。3は五角形に近い形状で基部は浅く内湾する。27は無茎で形態は三角形を呈する。基部はごく浅く内湾する。5～11は有茎のものである。茎部の下端は細くなるものが多い。いずれも細身で比較的厚みがある。5～7は長さ比べて比較的幅のあるものである。5は縦長剥片を素材とし、両面に素材面を残している。石材は黒曜石6である。7は比較的茎部が太めで長い。8～11は長さ比べてやや幅が狭いものである。8は小形のもので横長剥片を素材とする。9は茎部がやや太く、下端も幅の広いものである。10は横長剥片が素材で、両面に素材面を残し、周辺に二次加工を施している。やや厚手のものである。11は茎部が大きく菱形に近い形状をしている。縦長剥片を素材としている。12は石鏃の未製品である。非常に厚みがあるためか、先端部を作り出す途中で放棄したと考えられる。裏面にわずかに原礫面を残している。

石槍は13点出土しており、その内6点図示した(13～18)。完形に近いものが多く、破片は少ない。形状は多様で、石材は黒曜石7・8が多く黒曜石1や頁岩が少量認められる。13は木葉形に近い形状で、裏面に原礫面を残す。左右非対称で厚みがあるため、未製品の可能性もある。14は先端がやや丸みを帯び、裏面にやや風化した古い剥離面がみられる。未製品の可能性がある。15は大形のもの。菱形に近い形状を呈し、左右非対称である。16・17は茎部が太いもので、茎部下端は細くなる。17は先端を欠失している。18は細身のもので、下部を欠失する。石材は黒曜石1だが、やや梨肌気味で全体に緑がかった石質である。原産地分析ではケショマップ産という結果が出ている。

石錐は16点出土しており、その内4点図示した(19～22)。完形のものが多い。棒状のものは少なく、素材の形状を生かし、先端部のみ二次加工で作られるものが多い。石材は黒曜石7・8が主体で頁岩が2点ある。19は表面右側縁に細かい二次加工が施される。20は先端部に二次加工を施し、錐部を作り出している。表面と右側面に原礫面を残す。21は横長剥片を素材とし、表面両側縁と裏面左側縁に二次加工が施される。22は錐部がやや曲がる形状である。石材は頁岩である。

つまみ付きナイフは27点出土しており、その内12点図示した(23～34)。完形のものが多いが、下部を欠失するものもある。二次加工は表面と裏面の側縁部に施されるもの(23～29・31・34)、両面に施されるもの(30)、両面の周辺部に施されるもの(33)の三つに大きく分けられる。縦長剥片を素材とするものも多く、石材は頁岩が主体で、黒曜石1・3・7・8・10が少量ある。23～29は表面全体と裏面の右側縁に二次加工が施されるものである。裏面右側縁の加工はやや急角度である。石材

は頁岩である。24・25・29は下部を欠失する。24は裏面左側縁にも細かい剥離がみられるが、剥離の角度は右側縁に比べて緩やかである。26はつまみ部の抉りが浅い。27・28は下部がやや細くなっている。28は縦長剥片の末端部側をつまみ部にしている。30～34の石材は黒曜石である。30・31が黒曜石1、33が黒曜石3で、それ以外は黒曜石7ないし8である。31・32は小形のものである。32は裏面右側縁に平坦な二次加工が施される。32は幅が狭く下部が尖る形状をしている。素材は縦長剥片で、末端部側をつまみ部にしている。34はつまみ部が不明瞭で、スクレイパーの可能性もある。両面には原礫面を残す。

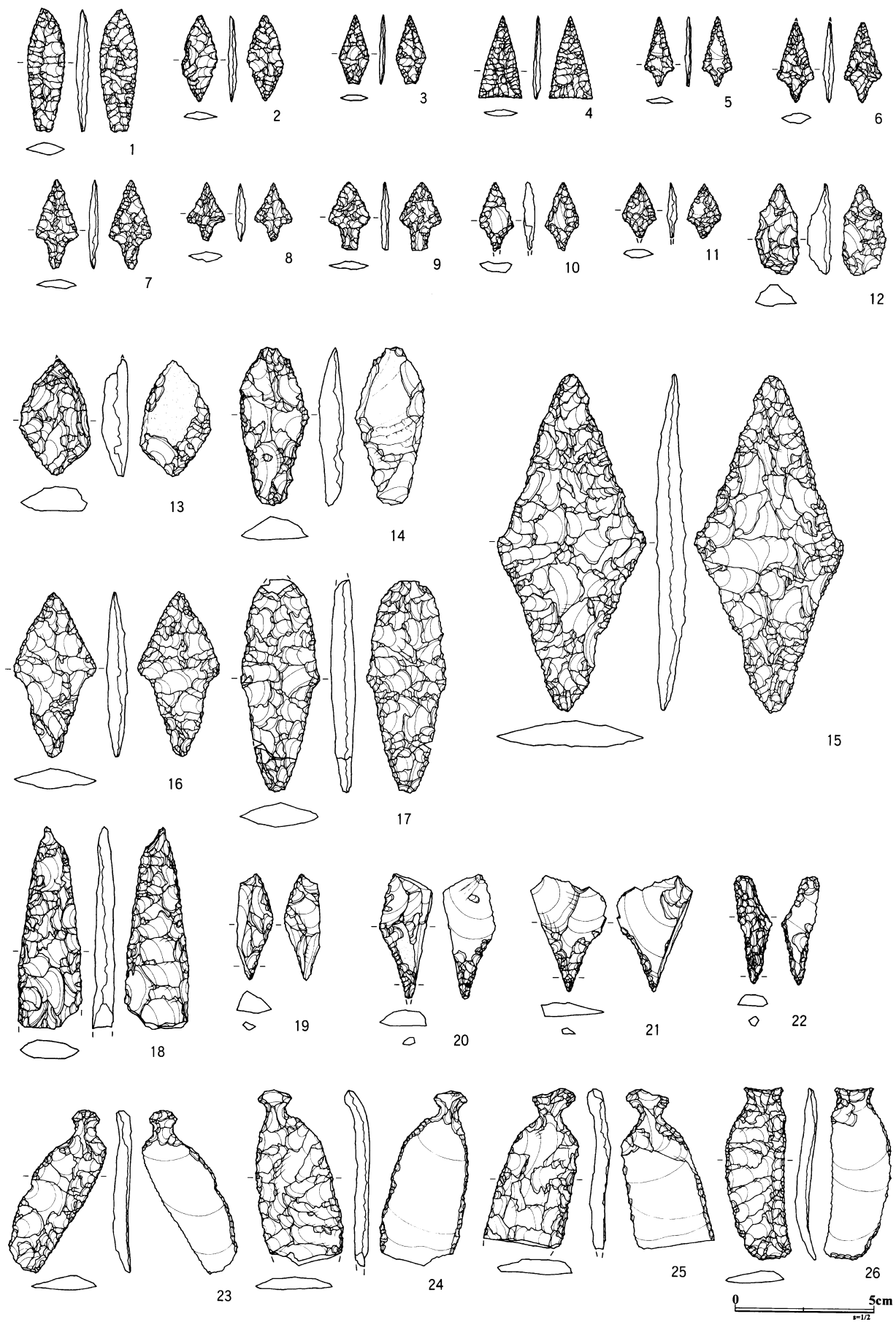
スクレイパーは46点出土しており、その内12点図示した(35～46)。石材は黒曜石が多く、頁岩が少量ある。黒曜石は黒曜石7・8が主体で、次いで黒曜石1が多い。35～38はエンドスクレイパーである。35は厚みのある縦長剥片の末端部に分厚い急角度の刃部を作り出している。左側面に原礫面を大きく残す。36は下部に両面加工により刃部が作られている。37は撥状の形状をしている。38は左側縁に傾斜した急角度の刃部が作られている。39～46はサイドスクレイパーである。39は流紋岩が非常に多い黒曜石8を素材とする。40は表面右側縁に細かい連続した剥離により刃部が作られている。41・42は表面右側縁に直線的な刃部が作り出される。43・45は側縁の一部に二次加工が施されている。44は横長剥片を素材とする。46は頁岩製で下部を欠失する。

磨製石斧は318点出土しており、その内10点図示した(47～56)。破片もしくは石斧製作時に生じたと考えられる剥片が多く、製品類は未製品を含め少量であり、図示したものでほとんどである。石材は緑色泥岩が最も多く、次いで片岩、蛇紋岩等がみられる。47～53は製品である。47～50はほぼ全面研磨されているものである。部分的に製作時の剥離面を残しており、敲打痕を残すものは少ない。石材は、47・49・50は緑色泥岩で、48は片岩である。47は裏面の一部に敲打痕を残し、刃部を部分的に欠失する。48は薄身で片刃のものである。49・50は小形のものである。49は両刃、50は片刃である。51・52は素材面を大きく残すもので、石材は緑色泥岩である。51の裏面はほぼ原礫面で刃部のみ研磨されている。52は左右非対称で中央付近から刃部にかけて部分的に研磨されている。53は刃部を欠失している。石材は片岩である。54・56は未製品である。石材は、54は緑色泥岩、56は泥岩である。54は右側面に原礫面を残す。部分的に二次加工が施されているが研磨は認められない。56は裏面の一部が研磨されているが、刃部は作り出されていない。55は石斧原材でいわゆる研磨石材である。表面が研磨され、上部には擦切痕を残す。石材は蛇紋岩である。

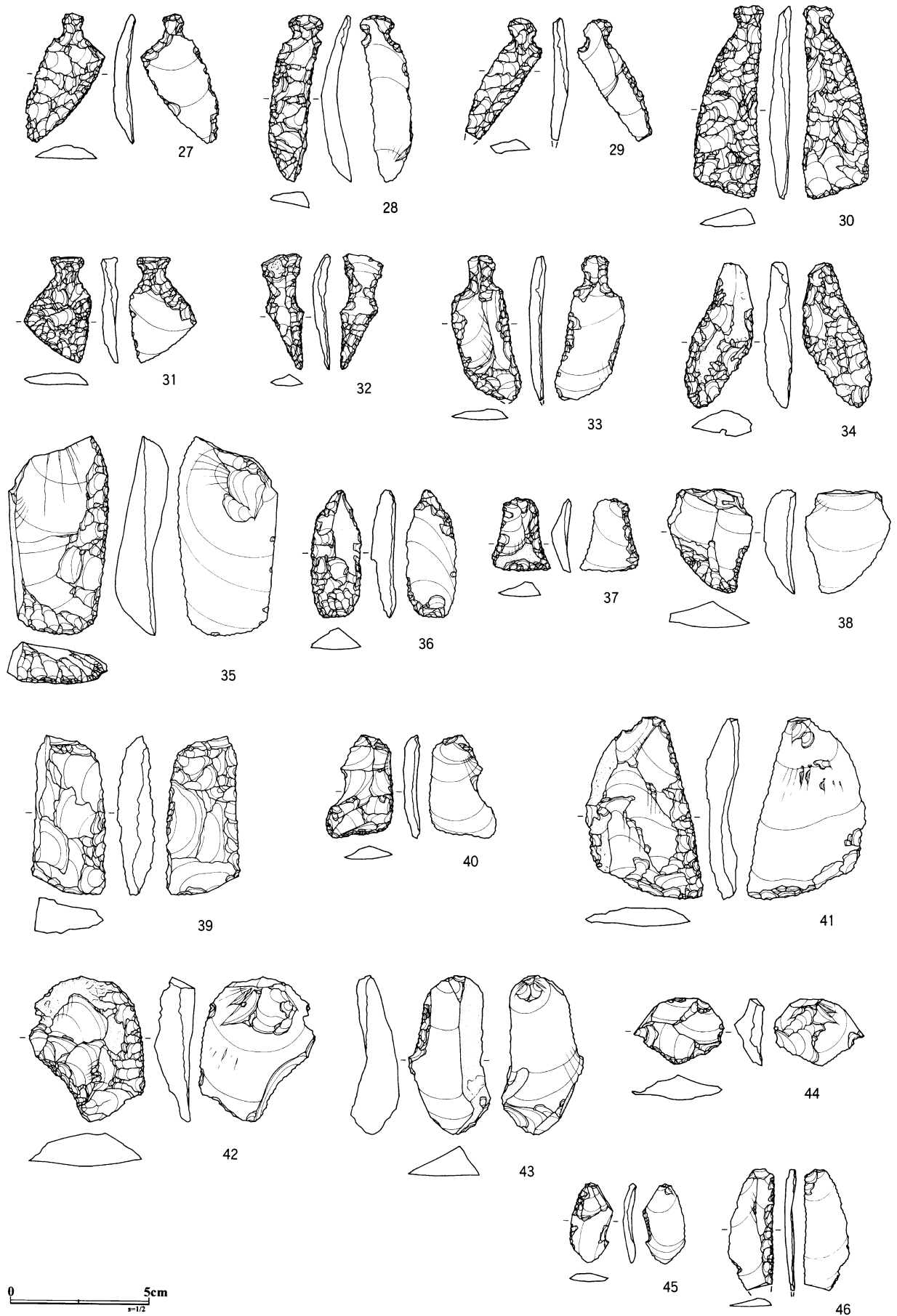
たたき石は28点出土しており、その内3点図示した(57～59)。破片が多く、完形に近いものは図示したものでほとんどである。素材となる礫は棒状のものが多く、石材は砂岩が多く、安山岩が少量ある。57・58は側面にすり痕がみられ、すり石としても使用されたと考えられる。石材は砂岩である。57はやや扁平な棒状の礫を素材としている。右側面下部にたたき痕がみられる。下端部と左側面にはすり痕が認められる。58は表面と裏面にたたき痕がみられる。右側面にはたたき痕とすり痕が認められる。59は下端部に大きな剥離と細かいたたき痕がみられる。石材は不明である。

すり石は17点出土しており、その内5点図示した(60～64)。たたき石同様、破片のものがほとんどで、やや残りの良いものは、図示したものでほとんどである。石材は砂岩が多く、安山岩が少量ある。60～63は断面が三角形に近いものである。石材は全て砂岩である。60・61はすり面付近に剥離がみられるものである。61は部分的にたたき痕がみられ、たたき石としても使用されたと考えられる。62は礫の平坦面にもすり痕がみられるものである。63は半分近くを欠失する。64は表裏面にすり痕がみられる。また左側面にはたたき痕が認められ、たたき石としても使用されたと考えられる。

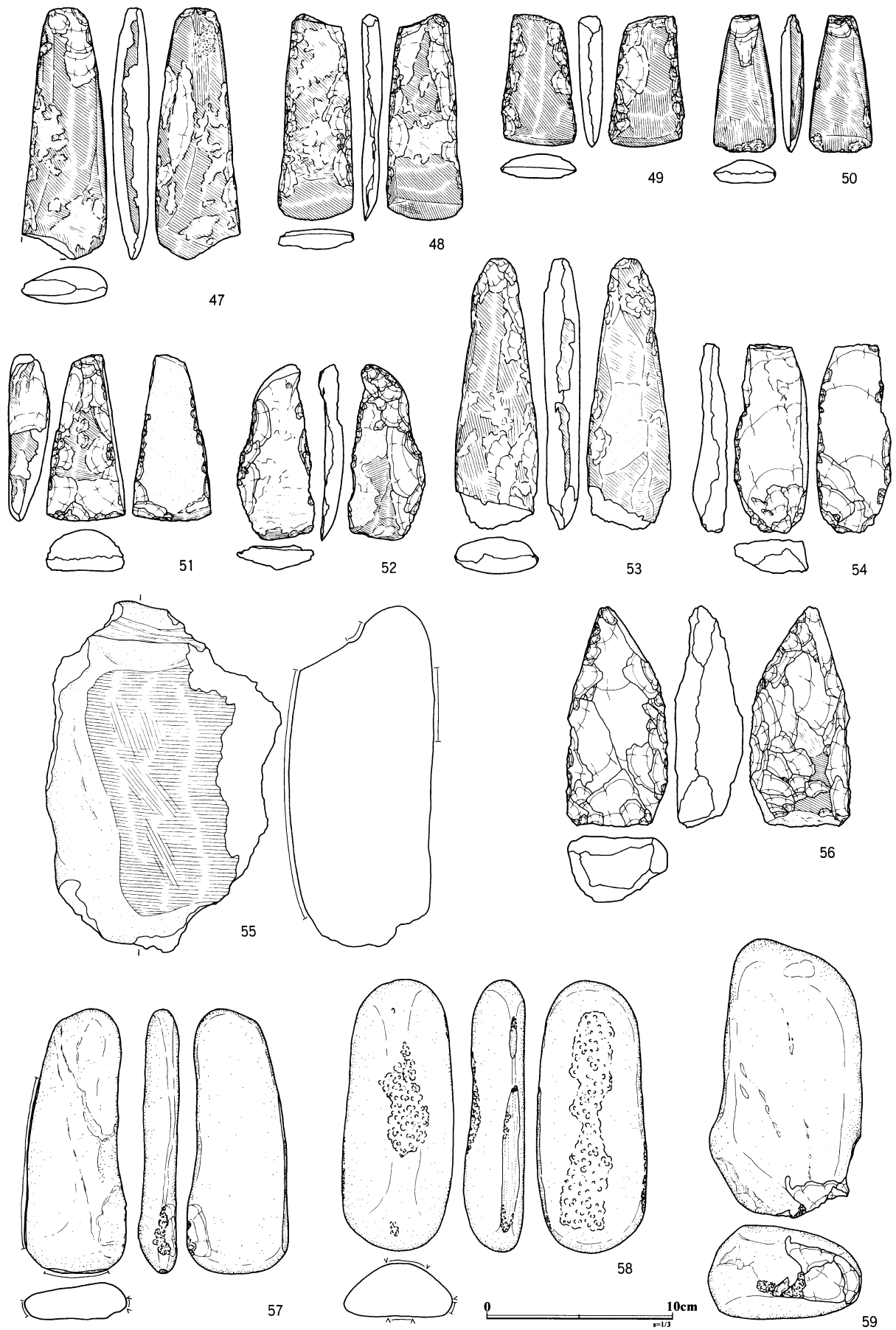
砥石は37点出土しており、その内1点図示した(65)。破片がほとんどである。石材は砂岩が多い。



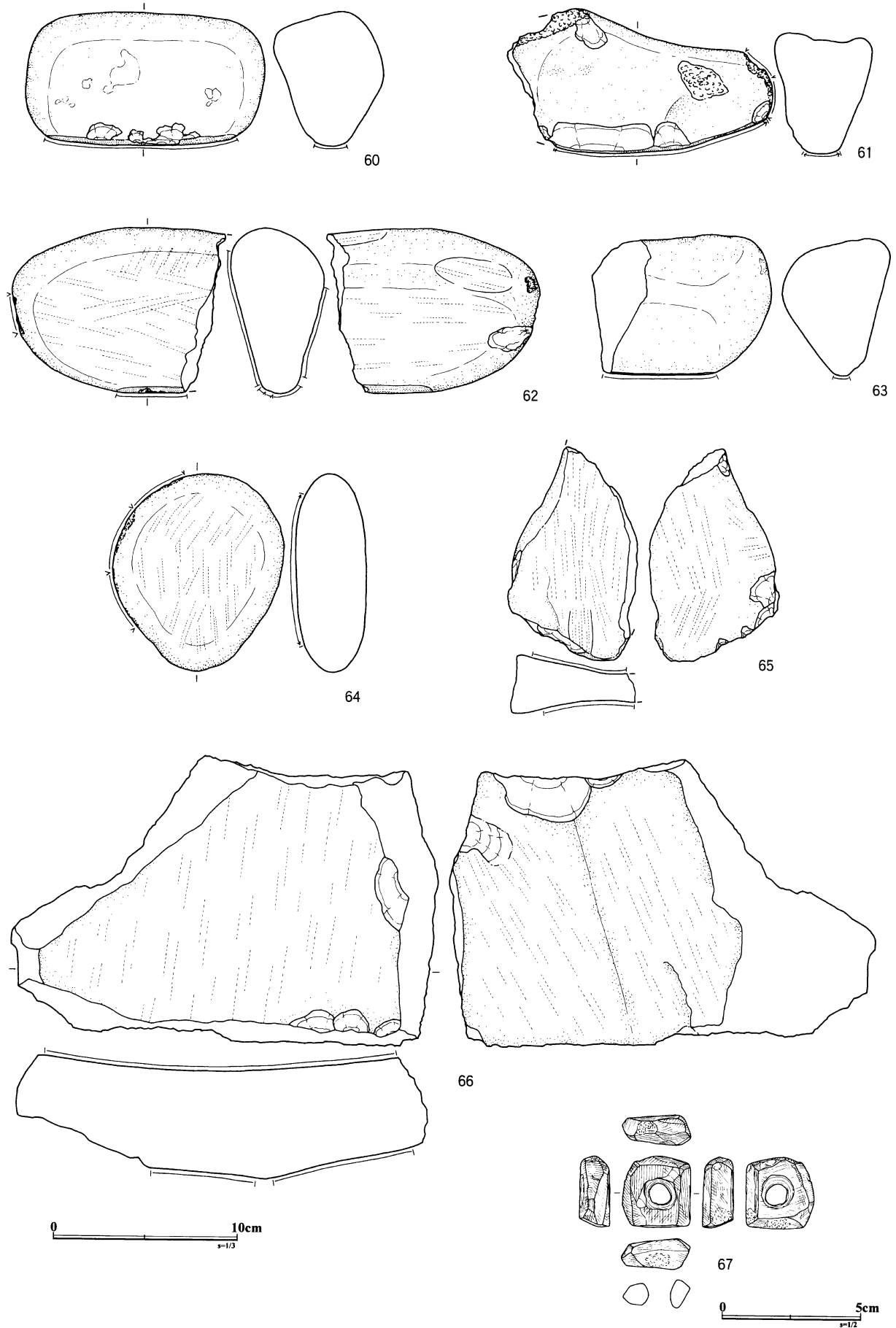
図V - 63 V・VI層出土の石器(1)



図V-64 V・VI層出土の石器(2)



図V - 65 V・VI層出土の石器(3)



図V - 66 V・VI層出土の石器(4)

65は表裏面が使用されており、断面は外側から内側に向かって薄くなっている。

台石・石皿は30点出土しており、その内1点図示した(66)。砥石同様破片がほとんどである。石材は砂岩ないし安山岩である。66は周辺部を欠失している。表裏面が使用されており、断面は内側が薄くなっている。石材は砂岩である。

玉は3点出土しており、その内1点図示した(67)。67はほぼ全面が研磨され、中央に大きな穿孔がみられる。全体的に研磨時の稜を残しており未製品と考えられる。石材はチャート?である。

(広田)

8. フローテーション法による微細遺物の調査 (表V-7)

目的と採取試料

微細な人工遺物の回収とともに、縄文時代各時期の動物・植物利用の一端を探るため、焼土や遺構の覆土の土壌をサンプリングし、フローテーション処理した。対象とした土壌の採取箇所は、竪穴住居跡の炉が13カ所、炭化材を多く含む覆土が1カ所、土坑中の焼土1カ所、V層中で検出されたやや大型の焼土が9カ所である。なお土壌は141^{kg}・約112kgに及んだ。

選別・同定結果

土壌水洗により得られた浮遊物900gあまりと残渣約2,500gから、種子・骨片などの微細遺物の回収を行った。全体的に、対象土壌の量の割に検出された遺物は少なかった。

石器フレイク等の微細な遺物がわずかに検出された。特に竪穴住居跡3の炉からは、ベンガラと見られる粒子が検出された。自然遺物では、骨片がわずかに検出されたが、同定は不能である。また炭化物は約22g検出されたが、種子は検出されなかった(Ⅶ章-3)。

(阿部)

表V-7 フローテーション結果(V・VI層)

試料番号	遺構	層位	乾燥重量 (g)	体積 (l)	残渣重量 (g)	浮遊物 (g)	土器 (g)	フレイク (g)	礫 (g)	骨片 (g)	炭化物 (g)	種子	備考
オ2-238	LPD2-fp1	焼土	2,940	5.4	33.7	35.5		0.0			2.1		
オ2-239	LPD3-fp1	焼土	4,020	4.5	190.7	90.1		0.3	0.5		0.4		ベンガラ0.0g
オ2-240	LPD5-fp1	焼土	5,530	9.4	174.2	114.2		0.2			0.8		
オ2-241	LPD6-fp1	焼土	7,080	8.7	79.6	45.5		0.0					
オ2-242	LPD6-fp2	焼土	1,300	1.2	22.8	6.5							
オ2-243	LPD6-fp3	焼土	2,560	3.0	41.8	20.9		0.0	0.5				
オ2-244	LPD6-fp4	焼土	1,320	2.3	24.5	9.7		0.0					
オ2-245	LPD6-fp6	焼土	6,250	7.4	129.2	47.4		0.0	0.0				
オ2-246	LPD6-fp7	焼土	2,680	3.8	125.8	30.6		0.0					
オ2-247	LPD6-fp8	焼土	1,620	1.8	45.1	12.5		0.0			0.3		
オ2-248	LPD6-fp9	焼土	3,470	4.0	78.4	25.1		0.0			0.4		
オ2-249	LPD6-fp10	焼土	4,070	4.3	55.9	23.1		0.1	0.0				
オ2-250	LPD-7	覆土3	11,570	16.9	269.8	201.3		0.1	0.2	0.0	16.2		
オ2-251	LPD7-fp1	焼土	1,040	1.1	18.1	12.9		0.0			0.3		
オ2-252	LPI-20	焼土	480	1.1	5.3	5.2		0.0			0.3		
オ2-253	LFP-18	焼土	970	1.5	14.1	7.6					0.3		
オ2-254	LFP-62	焼土	12,780	14.6	372.7	58.8		0.0					
オ2-255	LFP-74	焼土上面	2,650	3.8	27.2	5.5		0.0					
オ2-256	LFP-76	焼土上面	6,370	6.0	97.5	24.6		0.0		0.0			
オ2-257	LFP-76	焼土	12,420	12.7	273.2	54.8							
オ2-258	LFP-80	焼土上面	4,150	4.9	61.4	5.8		0.0			0.1		
オ2-259	LFP-103	焼土上位	3,630	5.0	84.6	11.4		0.0					
オ2-260	LFP-103	焼土中	5,750	8.6	78.8	33.0							
オ2-261	LFP-114	焼土	7,830	9.1	132.8	40.5		0.0					

表V - 8 遺構規模一覧

遺構名	位置 (発掘区)	標高 (m)	上場の長軸 (m)	下場の長軸 (m)	上場の短軸 (m)	下場の短軸 (m)	深さ (m)		
竪穴住居跡	LPD - 2	S・T - 131・132	12.61 ~ 12.83	3.02	2.51	(1.96)	(1.73)	0.40	
	LPD - 3	Y - 129・130	12.96 ~ 13.16	2.39	1.79	2.02	1.47	0.29	
	LPD - 4	H・I - 132	12.19 ~ 12.25		(2.18)		(2.07)	0.05	
	LPD - 5	S - 132・133	12.61 ~ 12.63	2.55	2.23	(2.18)	2.01	0.29	
	LPD - 6	V・W・X - 135・136	12.91 ~ 13.27	8.08	7.82	5.25	5.05	0.39	
	LPD - 7	Z - 126・127	13.03 ~ 13.10	2.82	2.48	2.65	2.36	0.31	
	土坑	LPI - 5	Y - 124			1.67	(1.26)	1.04	0.14
LPI - 6		W - 135		0.65	(0.53)	0.51	0.28	0.23	
LPI - 7		Y - 123	12.04 ~ 12.35	1.88	1.68	1.18	0.96	0.33	
LPI - 8		Z1 - 125	12.93 ~ 12.95	0.60	0.51	0.59	0.50	0.16	
LPI - 9		W - 131	12.82 ~ 12.84	1.01	0.75	0.61	0.46	0.37	
LPI - 10		X - 129	12.88 ~ 12.90	0.97	0.70	0.72	0.48	0.35	
LPI - 11		W - 131	12.74 ~ 12.78	1.04	(0.92)	0.62	0.53	0.16	
LPI - 12		U - 131	12.57 ~ 12.60	0.89	0.67	0.68	0.43	0.19	
LPI - 13		P - 128・129	12.51 ~ 12.52	0.46	0.33	0.40	0.34	0.16	
LPI - 14		Q - 129	12.46	0.42	0.31	0.41	0.27	0.08	
LPI - 15		Q - 128	12.45	0.41	0.31	0.36	0.22	0.13	
LPI - 16		Q - 128	12.44 ~ 12.46	0.51	0.40	0.38	0.27	0.12	
LPI - 17		Q - 129	12.47	0.32	0.22	0.31	0.21	0.11	
LPI - 18		Q - 129	12.46	0.34	0.22	0.29	0.17	0.18	
LPI - 19		O - 129	12.46 ~ 12.52	0.51	0.37	0.41	0.32	0.13	
LPI - 20		N - 129	12.58 ~ 12.64	1.91	1.76	1.70	1.57	0.18	
LPI - 21		T・U - 131	12.51 ~ 12.52	(0.99)	(0.91)	0.90	0.80	0.09	
LPI - 22		W - 135	12.73 ~ 12.82	1.07	0.91	0.80	0.60	0.30	
LPI - 23		S - 131	12.40	0.45	0.34	0.42	0.34	0.16	
LPI - 24		S - 131	12.39	0.45	0.36	0.38	0.31	0.09	
LPI - 25		S - 133	12.59	0.59	0.46	0.59	0.42	0.18	
LPI - 26		S - 131	12.40 ~ 12.42	0.51	0.42	0.49	(0.42)	0.09	
LPI - 27		S - 132	12.43	0.51	0.42	0.46	0.37	0.20	
Tピット		LTP - 9	S・T - 128	12.60 ~ 12.69	3.49	3.36	0.62	0.29	1.40
		LTP - 10	T・U - 130・131	12.42 ~ 12.54	3.45	2.91	0.69	0.28	1.34
		LTP - 11	V - 134・UV - 135	12.70 ~ 12.84	3.08	2.56	0.46	0.10	1.33
土器集中		UCP - 2	Z - 131	13.49 ~ 13.60					
	UCP - 3	M - 149	13.41 ~ 13.96		1.17		0.83		
	LCP - 3	P - 135	12.79 ~ 12.86		2.05		1.82		
	LCP - 4	K - 151・152	13.66 ~ 13.80		2.71		2.23		
	LCP - 5	Y - 130	13.27 ~ 13.35		1.39		1.02		
	LCP - 6	S - 132	12.67 ~ 12.72		1.80		1.61		
フレイクチップ集中	LFC - 5	U・V - 132	13.00		0.74		0.64		
	LFC - 6	Z - 137	13.53 ~ 13.60		2.29		2.15		
	LFC - 7	T - 131・132	12.71 ~ 12.81		0.87		0.64		
	LFC - 8	S・T - 133			0.75		0.73		
	LFC - 9	T・U - 132・133	12.95 ~ 12.98		2.66		2.47		
	LFC - 10	V - 135	12.82		0.33		0.25		
	LFC - 11	V - 136			0.52		0.47		

表V-9 遺構出土掲載土器一覧(1)

挿図番号	掲載番号	写真図版	遺構 / (発掘区)	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等; 地文等 / 特徴	整理番号	備考
図V-3	1	図版61	LPD-2	覆土2	91	2	I b - 1	深鉢	胴	短縄文・LR縄文	オ-151	
	2	図版61	LPD-2	覆土	211・227・234・242	4	III b	深鉢	口縁	刻み(沈線); LR縄文 / 肥厚する口唇	オ-101①	4と同一個体
図V-3	3	図版61	LPD-2	覆土	125・213	2	III b - 1	深鉢	口縁	刻み(沈線)・沈線; LR縄文 / 肥厚する口唇	オ-152	
図V-3	4	図版61	LPD-2	覆土	201・240	2	III b	深鉢	口縁	沈線; LR縄文	オ-101②	2と同一個体
図V-3	5	図版61	LPD-2	覆土	126・189	2	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-102②	6と同一個体
			LPD-2	覆土1	104	1						
			LPD-2	覆土2	110・111	2						
			LFP-70	焼土		1						
図V-3	6	図版61	LFP-61	焼土		1	III b - 1	深鉢	口~胴	口唇上刻み・沈線・隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文 / 波状口縁・肥厚する口唇	オ-102	5と同一個体
			(S-130)	V-2		4						
			(T-128)	V-2		1						
			(T-130)	V-2		12						
			(R-126)	V-2		1						
図V-5	1	図版61	LPD-3	床	57	2	III b - 1	深鉢	口~胴	口唇上刻み・沈線・隆帯上押引文・平行沈線; LR縄文 / 波状口縁・突起・肥厚する口唇	オ-103	
			LPD-3	覆土		51						
図V-5	2	図版61	LPD-3	床	37	1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文; RLR縄文	オ-153	
図V-5	3	図版61	LPD-3	床	49	1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文; LR縄文	オ-154	
図V-7	1	図版62	LPD-4	覆土	84・85	2	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上刻み(沈線); RLR縄文	オ-105	
			LPD-4	床面	97	4						
図V-7	2	図版62	LPD-4	床面	92・98・104・105	6	III b - 1	深鉢	口縁	口唇上刻み(沈線)・隆帯上刻み(沈線)押引文; RLR縄文	オ-104①	3と同一個体
図V-7	3	図版62	LPD-4	床直	152	1	III b - 1	深鉢	口縁	押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-104②	2と同一個体
図V-7	4	図版62	LPD-4	床面	101	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み(沈線); RLR縄文	オ-155	
図V-7	5	図版62	LPD-4	床面	96	1	III b - 1	深鉢	胴	押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-156	
図V-7	6	図版62	LPD-4	覆土	17	1	III b - 2?	深鉢	口縁	隆帯上端圧痕; LR縄文(多糸)	オ-157	
図V-9	1	図版62	LPD-5	覆土	22	1	I b - 1	深鉢	胴	短縄文	オ-158	
図V-9	2	図版62	LPD-5	覆土	71	2	I b - 4	深鉢	胴	燃糸文	オ-159	
			(S-133)	V-2		2						
図V-9	3	図版62	LPD-5	覆土	116	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み(沈線)・押引文; LR縄文	オ-160	
			LPD-5	床直	134	1						
図V-9	4	図版62	LPD-5	覆土	70	1	III b - 1	深鉢	口縁	口唇上沈線・隆帯上押引文; LR縄文	オ-161	LPD-6の3と同一
図V-9	5	図版62	LPD-5	覆土	37	1	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR縄文	オ-162	
図V-9	6	図版62	LPD-5	覆土	74	1	III b - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤); LR縄文	オ-163	
図V-13	1	図版63	LPD-6	覆土	39	1	I b - 1	深鉢	胴	組紐圧痕	オ-164	
図V-13	2	図版63	LPD-6	覆土	92	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上縄文圧痕・刺突	オ-165	
図V-13	3	図版63	LPD-6	覆土	127	1	III b - 1	深鉢	口縁	口唇上沈線・隆帯上押引文; LR縄文	オ-166	LPD-5の4と同一
図V-13	4	図版63	LPD-6	覆土	54	1	III b - 1	深鉢	胴	沈線・隆帯上押引文; RLR縄文	オ-167	
図V-13	5	図版63	LPD-6-fp9	焼土中		1	III b - 1	深鉢	胴	沈線・隆帯上刻み・押引文; LR縄文	オ-172	
図V-13	6	図版63	LPD-6	覆土	9・138	2	III b - 1	深鉢	口縁	口唇および隆帯上刻み・押引文; RLR縄文 / 波状口縁	オ-108	
			(W-135)	V-2		1						
図V-13	7	図版63	LPD-6	覆土	40・41・42・50・55・56・57・62・63	9	III b - 1	深鉢	口~胴	平行沈線・隆帯上刻み・押引文; LR縄文 / 肥厚する口唇・波状口縁	オ-106	
			LPD-6	覆土		1						
図V-13	8	図版63	LPD-6	床面	160・180	3	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線・隆帯上刻み・押引文; RLR縄文	オ-107	
			LPD-6	覆土		15						
図V-13	9	図版63	LPD-6	覆土	4	1	III b - 3	深鉢	胴	結束羽状縄文	オ-168	
図V-13	10	図版63	LPD-6	覆土		2	III b - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤); RL縄文 / 肥厚する口唇	オ-169	
図V-13	11	図版63	LPD-6	覆土	89	1	III b - 3	深鉢	口縁	肥厚する口唇上連続刺突・刺突(突瘤); RL縄文 / スス多量	オ-170	
図V-13	12	図版63	LPD-6	覆土		1	IV b - 1	深鉢	口縁	鋸歯状沈線 / LR縄文(口唇上含む)	オ-171	
図V-19	1	図版59	LPI-5	覆土		40	III b - 1	深鉢	口~胴	肥厚する口唇上絡糸体圧痕・隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文 / 4単位波状口縁・復元率約50% 口径26.2cm・残存高32.0cm	オ-10	
図V-19	2	図版64	LPI-6	覆土		2	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR縄文	オ-173	
図V-19	3	図版64	LPI-8	覆土	3	2	I b - 1	深鉢	胴	短縄文	オ-174	
図V-19	4	図版64	LPI-8	覆土	6	1	I b - 1	深鉢	底	短縄文・組紐圧痕	オ-175	
図V-23	1	図版64	LTP-9	坑底	2	1	III b - 1	深鉢	胴	RLR縄文	オ-176	
図V-23	2	図版64	LTP-10	覆土	2・3	2	I b - 1	深鉢	胴	短縄文・LR縄文	オ-177	
図V-23	3	図版64	LTP-10	覆土	6	1	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線; LR縄文	オ-178	
図V-33	1	図版65	LFP-61	焼土		1	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線; LR縄文	オ-180	
図V-33	2	図版65	LFP-62	焼土中		1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上絡糸体圧痕・隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-181	
図V-33	3	図版65	LFP-63	焼土		1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-182	
図V-33	4	図版65	LFP-68	焼土		1	III b - 3	深鉢	口縁	肥厚する口唇上押引文・刺突(突瘤); RL縄文	オ-183	
			(U-132)	V-1		1						
図V-33	5	図版65	LFP-69	焼土		1	III b - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR縄文	オ-184	
図V-33	6	図版65	LFP-71	焼土		1	I b - 1	深鉢	胴	隆帯上刺突; 絡糸体圧痕・羽状縄文	オ-185	
図V-33	7	図版65	LFP-72	焼土		1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-186	
			LFP-74	焼土		1						
図V-33	8	図版65	LFP-74	焼土		1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文; RLR縄文	オ-187	
			(S-129)	V-2		1						
図V-33	9	図版65	LFP-77	焼土中		2	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・平行沈線; RLR縄文	オ-189	

表V - 10 遺構出土掲載土器一覽(2)

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構 / (発掘区)	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等; 地文等 / 特徴	整理 番号	備考
図V - 33	15	図版65	LFP - 103	焼土上面		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	RLR 縄文	オ - 190	
図V - 33	16	図版65	LFP - 116	焼土		2	Ⅲb - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み(沈線); LR 縄文	オ - 191	
図V - 33	17	図版65	LFP - 116	焼土		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR 縄文	オ - 192	
図V - 33	18	図版65	LFP - 117	焼土		3	Ⅲb - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR 縄文	オ - 193	
図V - 33	19	図版65	LFP - 4	焼土		1	Ⅲb - 1?	深鉢	口縁	沈線; LR 縄文	オ - 194	
図V - 33	20	図版65	LFP - 6	焼土		1	Vc	深鉢	胴	RL 縄文	オ - 195	
図V - 33	21	図版65	LFP - 13 (Z1 - 139)	焼土 V - 2		1 1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	平行沈線; RLR 縄文	オ - 196	
図V - 33	22	図版65	LFP - 17	焼土		1	Ⅲb?	深鉢	胴	結節羽状縄文	オ - 197	
図V - 33	24	図版65	LFP - 22	焼土		1	I b - 4	深鉢	胴	捺糸文	オ - 198	
図V - 33	25	図版65	LFP - 35	焼土		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文; LR 縄文	オ - 199	
図V - 33	26	図版65	LFP - 35	焼土		1	I b - 3	深鉢	胴	結束羽状縄文	オ - 200	
図V - 33	27	図版65	LFP - 39 (Y - 132)	焼土 V - 2		2 2	I b - 1	深鉢	底	RL 縄文・短縄文	オ - 109	
図V - 33	28	図版65	LFP - 39	焼土		1	Ⅲb	深鉢	胴	結節羽状縄文	オ - 201	
図V - 33	29	図版65	LFP - 44	焼土		2	I b - 1	深鉢	胴	隆帯上刻み; 短縄文	オ - 202	
図V - 33	30	図版65	LFP - 45	焼土		1	I b - 1	深鉢	胴	隆帯上縄端圧痕; 縄文圧痕	オ - 203	
図V - 33	31	図版65	LFP - 83	焼土中		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	RLR 縄文	オ - 204	
図V - 33	32	図版65	LFP - 134	黒色土下		1	I b - 1	深鉢	胴	組紐圧痕・短縄文・RL 縄文	オ - 205	
図V - 36	1	図版59	UCP - 2 (Z - 129) (Z - 131)	Ⅲ Ⅲ Ⅲ		82 1 4	Vc	深鉢	口~胴	口唇指頭押捺・縄文押捺・ 平行沈線・波状沈線・縦位の沈線 連続刺突; RL 縄文 / 平縁 口径29.8cm・残存高29.9cm	オ - 3	
図V - 36	2	図版59	LCP - 3 (O - 133) (P - 133) (P - 135)	V - 1 V - 1 V - 1 V - 2		70 12 2 1	Vc	深鉢	口~底	口縁突起上捺糸圧痕・ 横走沈線(細・太)・斜沈線・連続刺突 ; RL 縄文 / 平縁 + 6単位?突起 口径27.2cm底径15.4cm器高27.8cm	オ - 5	
図V - 37	3	図版64	LCP - 4	V - 2		10	Ⅲa - 1	深鉢	胴	網文(RL)	オ - 110①	
図V - 37	4	図版64	LCP - 4	V - 2		4	Ⅲa - 1	深鉢	胴	網文(RL)	オ - 110②	
図V - 37	5	図版64	LCP - 4	V - 2		3	Ⅲa - 1	深鉢	胴	網文(RL)	オ - 110③	
図V - 37	6	図版59	LCP - 5 (W - 126) (Z1 - 130)	V - 1 V - 1 V - 1		123 1 15	Vc	深鉢	口~底	口唇上刻み・口縁貼付隆帯・捺糸圧痕 ; RL 縄文 / 平縁 + 突起・丸底ぎみ 口径19.0cm底径9.6cm器高22.8cm	オ - 4	
図V - 37	7	図版64	LCP - 6	V - 2		4	I b?	深鉢	胴	結節羽状縄文	オ - 206	
図V - 37	8	図版64	LCP - 6	V - 2		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・平行沈線; RLR 縄文	オ - 209	
図V - 37	9	図版64	LCP - 6	V - 2		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	RLR 縄文	オ - 210	
図V - 37	10	図版64	LCP - 6	V - 2		1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文; LR 縄文	オ - 208	
図V - 37	11	図版64	LCP - 6	V - 2		1	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	肥厚する口縁上押引文・刺突(突瘤)	オ - 207	

表V - 11 遺構出土掲載土製品一覽

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構	層位	遺物 番号	点数	分類	大きさ (cm)			重さ (g)	整理 番号	備考
								長さ	幅	厚さ			
図V - 3	7	図版73	LPD - 2	覆土	191	1	三角形土製品	2.5	2.8	1.0	4.4	オ - 21	
図V - 3	8	図版73	LPD - 2	覆土	223	1	三角形土製品	2.5	2.8	1.2	5.0	オ - 22	
図V - 3	9	図版73	LPD - 2	覆土2	81	1	三角形土製品	(1.9)	2.1	0.8	2.0	オ - 24	
図V - 3	10	図版73	LPD - 2	覆土1	4	1	三角形土製品	1.9	2.2	0.6	1.8	オ - 23	
図V - 3	11	図版73	LPD - 2	覆土	119	1	三角形土製品	1.7	2.2	0.5	1.4	オ - 25	
図V - 3	12	図版73	LPD - 2	覆土	192	1	焼成粘土塊	3.3	2.5	1.7	6.9	オ - 26	
図V - 3	13	図版73	LPD - 2	覆土	182	1	焼成粘土塊	2.4	2.6	1.5	4.8	オ - 27	
図V - 5	4	図版73	LPD - 3	床面	43	1	三角形土製品	2.0	2.0	0.8	1.9	オ - 29	
図V - 5	5	図版73	LPD - 3	床面	50	1	三角形土製品	2.0	2.4	0.7	2.3	オ - 30	
図V - 5	6	図版73	LPD - 3	床面	46	1	三角形土製品	2.9	3.0	0.8	4.5	オ - 31	
図V - 5	7	図版73	LPD - 3	覆土	26	1	三角形土製品	3.0	3.4	0.8	4.3	オ - 28	
図V - 5	8	図版73	LPD - 3	覆土	-	1	三角形土製品	2.3	2.7	0.7	2.4	オ - 32	
図V - 7	7	図版73	LPD - 4	覆土	22	1	三角形土製品	(1.9)	(2.5)	0.8	2.0	オ - 37	刻み有り
図V - 7	8	図版73	LPD - 4	覆土	71	1	三角形土製品	3.3	3.5	1.1	8.6	オ - 33	表面押引文残る
図V - 7	9	図版73	LPD - 4	覆土	62	1	三角形土製品	1.9	2.4	0.8	2.7	オ - 36	
図V - 7	10	図版73	LPD - 4	覆土	63	1	三角形土製品	1.9	2.1	1.0	2.2	オ - 34	
図V - 7	11	図版73	LPD - 4	床面	103	1	三角形土製品	(2.3)	3.1	0.7	3.9	オ - 35	
図V - 7	12	図版73	LPD - 4	床面	137	1	三角形土製品	1.9	2.4	0.9	3.0	オ - 38	
図V - 9	7	図版73	LPD - 5	床面	144	1	三角形土製品	2.4	2.8	0.8	3.5	オ - 39	刻み有り
図V - 9	8	図版73	LPD - 5	覆土	100	1	三角形土製品	2.7	2.9	0.8	3.5	オ - 40	刻み有り
図V - 13	13	図版73	LPD - 6	覆土	-	1	三角形土製品	2.4	(2.4)	1.1	3.5	オ - 41	刻み有り
図V - 13	14	図版73	LPD - 6	覆土	-	1	三角形土製品	3.1	3.6	1.2	9.6	オ - 42	
図V - 13	15	図版73	LPD 6 - fp 9	焼土中	-	1	三角形土製品	2.3	(2.2)	0.8	3.2	オ - 43	
図V - 33	10	図版73	LFP - 62	焼土	-	1	三角形土製品	3.0	(3.0)	1.1	6.5	オ - 44	
図V - 33	11	図版73	LFP - 69	焼土	-	1	三角形土製品	(2.3)	3.5	1.2	5.8	オ - 46	
図V - 33	12	図版73	LFP - 71	焼土	-	1	三角形土製品	2.9	3.5	1.1	5.7	オ - 47	

表V - 12 縄文時代遺構出土掲載石器等一覧

挿図番号	掲載 番号	図版 番号	遺構名・ 発掘区	取上 げNo	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存 状態	備考
図V - 3	14	76	LPD - 2	191	覆土	石鏃	黒曜石 8	(2.5)	1.5	0.5	(1.2)	完形	
図V - 3	15	76	LPD - 2	236	覆土	石錐	黒曜石 7	3.0	1.8	0.8	2.5	完形	
図V - 3	16	76	LPD - 2	190	覆土	スクレイパー	黒曜石 7	2.5	1.8	0.6	2.3	完形	
図V - 3	17	76	LPD - 2	317	床面	石核	黒曜石 8	2.1	2.9	1.0	5.5	-	
図V - 3	18	76	LPD - 2	174	覆土	石斧	蛇紋岩	(7.2)	(4.3)	2.1	(73.7)	片	
図V - 3	19	76	LPD - 2	166	覆土	たたき石	砂岩	21.5	8.8	7.0	1650.0	完形	
図V - 5	9	76	LPD - 3	20	覆土	石鏃	黒曜石 7	(2.6)	1.7	0.4	(1.4)	準完形	
図V - 5	10	76	LPD - 3	5	覆土	両面調整石器	黒曜石 7	2.3	1.9	0.6	2.6	完形	
図V - 7	13	76	LPD - 4	141	床面	スクレイパー	黒曜石 8	2.4	2.1	0.8	3.7	片	
図V - 9	9	76	LPD - 5	3	覆土	石鏃	黒曜石 7	1.7	0.7	0.2	0.1	完形	
図V - 9	10	76	LPD - 5	67	覆土	両面調整石器	黒曜石 7	(2.6)	2.0	0.6	(2.2)	片	
図V - 9	11	76	LPD - 5	12	覆土	スクレイパー	頁岩	4.2	1.9	0.6	2.7	半形	
図V - 13	16	76	LPD - 6		覆土	石鏃	黒曜石 7	(1.9)	0.8	0.2	(0.2)	準完形	
図V - 13	17	76	LPD - 6	67	覆土	石槍	黒曜石 8	(5.6)	2.7	0.8	8.1	完形	
図V - 13	18	76	LPD - 6	28	覆土	スクレイパー	チャート?	6.3	2.3	1.3	15.7	完形	
図V - 14	1	76	LPD - 7	64	覆土 1	スクレイパー	黒曜石 8	4.6	2.8	1.0	7.0	完形	
図V - 19	5	77	LPI - 13		覆土	石鏃	黒曜石 7	1.9	0.8	0.2	0.1	完形	
図V - 19	6	77	LPI - 20		覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	(3.6)	2.1	0.6	(3.3)	完形	
図V - 23	4	77	LTP - 9	1	覆土	たたき石	砂岩	(9.4)	4.2	2.8	(139.5)	準完形	
図V - 23	5	77	LTP - 10	1	覆土	研磨石材	蛇紋岩	13.2	10.8	3.9	815.0	-	
図V - 33	13	77	LFP - 69		焼土中	石鏃	黒曜石 7	2.4	1.1	0.3	0.6	完形	
図V - 33	14	77	LFP - 74		焼土	スクレイパー	黒曜石 8	2.7	2.1	0.7	2.9	完形	
図V - 33	23	77	LFP - 6		焼土	石鏃	黒曜石 7	(1.9)	1.1	0.4	(0.6)	完形	
図V - 37	10	77	LCP - 6		V - 2	すり石	砂岩	(8.3)	(9.8)	6.0	(490.0)	片	断面三角形
図V - 38	1	77	LFC - 5		V - 1	たたき石	砂岩	7.0	3.8	3.4	115.6	完形	すり面あり
図V - 38	2	77	LFC - 6		V - 2	両面調整石器	黒曜石 8	5.9	4.7	1.5	34.7	完形	
図V - 39	1	77	LS - 1		V - 1	たたき石	砂岩	6.5	3.9	2.6	97.7	完形	

表V - 13 包含層出土掲載土器一覧(1)

挿図番号	掲載番号	写真図版	層位	発掘区	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等 / 特徴	整理番号	備考
図V - 46	1	図版66	I	Z1 - 125	1	I b - 1	深鉢	胴	短縄文	オ - 211	
図V - 46	2	図版66	III	Z2 - 119	1	II a	深鉢	胴	縄文 / 節の磨り消し	オ - 212	
図V - 46	3	図版66	III	X - 124	1	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯・押引文；LR 縄文	オ - 213	
図V - 46	4	図版66	III	X - 136	1	IV a	深鉢	胴	RL 縄文	オ - 214	
図V - 46	5	図版66	III	Z - 119	1	V c	深鉢	胴	波状の沈線文・連続刺突；RL 縄文	オ - 215	
図V - 46	6	図版66	III	R - 131	11	V c	深鉢	口～胴	横走沈線・口唇上連続指頭圧痕および縄端圧痕；RL 縄文 / 平縁	オ - 118	
			III	S - 131	2						
図V - 46	7	図版66	III	O - 134	15	V c	深鉢	口～胴	横走沈線・口唇上連続指頭圧痕；LR 縄文 / 補修孔あり・平縁	オ - 120	
			III	O - 135	2						
図V - 46	8	図版66	III	Y - 123	7	V c	深鉢	口～胴	横走沈線・連絡する沈線；LR 縄文 / 平縁	オ - 113	
図V - 46	9	図版66	III	Z1 - 134	13	V c	深鉢	口～底	横走沈線・口唇上縄端圧痕；RL 縄文	オ - 117	
図V - 46	10	図版66	III	X - 124	25	V c	深鉢	口～胴	口唇上縄端圧痕・RL 縄文 / 平縁・横位の調整痕・外面スス付着	オ - 112	
図V - 46	11	図版66	III	T - 150	9	V c	深鉢	口縁	横走沈線・連続刺突・口唇連続指頭圧痕；LR 縄文（口唇上含む） / 平縁	オ - 121	
			III	S - 150	1						
図V - 46	12	図版66	III	T - 126	8	V c	深鉢	底	LR 縄文（底面含む） / 丸底ぎみ	オ - 114	
図V - 46	13	図版66	III	P - 132	8	V c	深鉢	胴～底	LR 縄文（底面含む） / 丸底ぎみ	オ - 115	
			III	Q - 131	2						
			III	Q - 132	1						
図V - 47	14	図版67	III	M - 151	8	V c	大型浅鉢	口～胴	口唇上擦糸圧痕・沈線；RL 縄文	オ - 116	
図V - 47	15	図版67	III	W - 124	54	V c	大型浅鉢	口～胴	口唇上擦糸圧痕・沈線、円形刺突・連続刺突；LR 縄文 / 内面調整ていねい・補修孔口径38.6cm・残存器高8.7cm、復元率約30%	オ - 2	
図V - 48	16	図版67	III	R - 130	4	V c	大型浅鉢	口～胴	横走沈線・弧線文・口唇上刻み；擦糸圧痕・RL 縄文 / 内面調整ていねい	オ - 122	
			III	S - 130	1						
			III	S - 131	2						
図V - 48	17	図版67	III	H - 134	22	V c	台付鉢	口～底	横走沈線・菱目文・山形沈線・貼付隆帯 + 刺突 + 貫通孔・口唇縄文圧痕・台部連続指頭押捺；RL 縄文 / 波頂部突起・補修孔有り・口径18.6cm・底径9.5cm・器高15.1cm、復元率約70%	オ - 1	
			III	I - 134	20						
			III	L - 133	4						
図V - 48	18	図版67	III	Y - 132	7	V c	(舟形深鉢)	口縁	横走沈線・曲沈線・貫通孔・口唇上縄文圧痕および沈線；LR 縄文 / 口縁突起	オ - 123	
図V - 48	19	図版67	III	R - 131	6	V c	(舟形深鉢)	口縁	横走沈線・菱目文・弧線文・貼付隆帯 + 刺突・口唇上連続刺突；LR 縄文 / 波頂部突起	オ - 111②	20と同一個体
図V - 48	20	図版67	III	R - 131	11	V c	(舟形深鉢)	口縁	横走沈線・菱目文・口唇突起上連続刺突；LR 縄文	オ - 111①	19と同一個体
図V - 48	21	図版67	III	O - 135	6	V c	(異形深鉢)	口～胴	菱目文・弧線文；RL 縄文・擦糸圧痕 / 補修孔	オ - 124	
図V - 48	22	図版67	III	Y - 132	7	V c	鉢	底	横走沈線・山形沈線・弧線文；RL 縄文（底面含む） / 丸底	オ - 125	
図V - 48	23	図版67	III	W - 134	7	V c	(壺)	胴	横走沈線・山形沈線・弧線文；RL 縄文 / くびれ強い	オ - 119	
			III	X - 135	7						
図V - 48	24	図版67	III	M - 129	1	VI	鉢	口縁	微隆起線による帯状文・連続刺突；RL 縄文	オ - 217	
図V - 48	25	図版67	III	L - 128	2	VI	鉢	胴	微隆起線による帯状文・連続刺突；RL 縄文	オ - 216	
図V - 49	29	図版68	V - 2	O - 147	2	I a	深鉢	胴	貝殻腹縁文	オ - 221	
図V - 49	30	図版68	V - 1	Z - 128	1	I b	深鉢	口縁	縄文圧痕	オ - 222	
図V - 49	31	図版68	V - 2	Y - 134	1	I b - 1	深鉢	口縁	絡糸体圧痕	オ - 229	
図V - 49	32	図版68	V - 2	Z1 - 126	1	I b	深鉢	口縁	短縄文・縄文圧痕	オ - 224	
図V - 49	33	図版68	V - 2	X - 124	1	I b - 1	深鉢	口縁	隆帯上指頭押捺；短縄文；LR 縄文	オ - 230	
図V - 49	34	図版68	V - 2	T - 133	1	I b - 1	深鉢	口縁	口唇上縄文押捺・短縄文・絡糸体圧痕	オ - 232	
			V - 2	T - 136	2						
図V - 49	35	図版68	V - 2	Y - 133	3	I b - 1	深鉢	口縁	口唇上縄文押捺・短縄文・絡糸体圧痕	オ - 233	
図V - 49	36	図版68	V - 2	Z1 - 138	3	I b	深鉢	胴	絡糸体圧痕	オ - 225	
図V - 49	37	図版68	V - 2	U - 126	18	I b - 1	深鉢	胴	短縄文・絡糸体圧痕	オ - 132	
図V - 49	38	図版68	V - 2	Y - 132	8	I b	深鉢	胴	隆帯上指頭押捺；LR 縄文・RL 縄文	オ - 135	
図V - 49	39	図版68	V - 2	Y - 133	13	I b	深鉢	胴～底	短縄文・RL 縄文	オ - 133	
図V - 49	40	図版68	V - 2	T - 134	1	I b - 1	深鉢	口～胴	組紐圧痕・底部刻み / 平縁・平底・底部張り出し強・内面凹凸多い 図上復元数値 口径27.0cm底径11.8cm器高29.2cm	オ - 131	
			V - 2	T - 135	1						
			V - 2	U - 134	4						
			V - 2	U - 135	5						
			V - 2	V - 131	1						
			V - 2	V - 132	20						
V - 2	W - 132	3									

表V - 14 包含層出土掲載土器一覧(2)

挿図番号	掲載番号	写真図版	層位	発掘区	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等 / 特徴	整理番号	備考
図V - 49	41	図版68	V - 2	T - 129	2	I b	深鉢	胴	隆帯上刻み；短縄文	オ - 231	
図V - 49	42	図版68	V - 1	N - 132	1	I b	深鉢	胴	隆帯上刻み；RL 縄文	オ - 223	
図V - 49	43	図版68	V - 2	Z - 133	1	I b	深鉢	胴	隆帯上刻み；組紐圧痕・短縄文	オ - 134	
			V - 2	Z1 - 133	2						
			V - 2	Z1 - 135	1						
図V - 49	44	図版68	V - 2	H - 132	1	I b	深鉢	底	短縄文・RL 縄文	オ - 227	
図V - 50	45	図版69	V - 2	Y - 136	10	I b - 3	深鉢	胴	細い隆帯；結束羽状縄文	オ - 136	
図V - 50	46	図版69	V - 2	Z - 121	4	I b - 3	深鉢	胴	細い隆帯；短縄文・LR 縄文	オ - 137	
図V - 50	47	図版69	V - 2	Z - 135	4	I b - 3	深鉢	口縁	細い隆帯；短縄文・LR 縄文	オ - 138	
			V - 2	Z - 136	1						
図V - 50	48	図版69	V - 2	Z - 135	1	I b - 3	深鉢	胴	細い隆帯；短縄文	オ - 138	
			V - 2	Z - 136	6						
図V - 50	49	図版69	V - 2	T - 135	1	I b - 4	深鉢	口縁	縄文圧痕・捺糸文	オ - 236	
図V - 50	50	図版69	V - 2	K - 128	1	I b - 4	深鉢	口縁	縄端圧痕・短縄文	オ - 235	
図V - 50	51	図版69	V - 2	J - 129	1	I b - 4	深鉢	胴	縄端圧痕・捺糸文	オ - 237	
図V - 50	52	図版69	V - 2	O - 136	1	I b - 4	深鉢	口縁	縄端圧痕・捺糸文	オ - 238	
			V - 2	W - 125	4						
図V - 50	53	図版69	V - 2	Z - 135	3	I b - 4	深鉢	胴	捺糸文	オ - 240	
図V - 50	54	図版69	V - 2	O - 130	2	I b - 4	深鉢	胴	捺糸文	オ - 239	
図V - 50	55	図版69	V - 2	Z1 - 135	2	I b - 4	深鉢	底	捺糸文・綾絡文	オ - 241	
図V - 50	56	図版69	V - 2	P - 129	10	I b - 4	深鉢	口縁	捺糸文	オ - 139	
図V - 50	57	図版69	V - 2	P - 129	14	I b - 4	深鉢	胴～底	捺糸文	オ - 139	
図V - 50	58	図版69	V - 2	X - 136	3	I b - 4	深鉢	胴	捺糸文・綾絡文	オ - 141	
			V - 2	Y - 135	3						
			V - 1	Z - 130	1						
			V - 2	Z1 - 135	35						
図V - 50	58	図版69	V - 2	Z1 - 136	8						
			V - 2	Z1 - 136	8						
図V - 51	59	図版70	V - 2	Z2 - 126	12	II a	深鉢	口～胴	縄端圧痕・縄文圧痕・羽状縄文	オ - 142	
図V - 51	60	図版70	V - 2	Z1 - 130	1	II a	深鉢	口縁	縄文圧痕・刺突・網文と節の磨り消し	オ - 246	
図V - 51	61	図版70	V - 2	Z1 - 125	1	II a	深鉢	口縁	口唇上刺突・網文と節の磨り消し	オ - 244	
図V - 51	62	図版70	V - 2	Y - 123	1	II a	深鉢	口縁	網文と節の磨り消し	オ - 245	
図V - 51	63	図版70	I	Z2 - 125	1	II a	深鉢	胴	網文と節の磨り消し	オ - 242	
図V - 51	64	図版70	V - 2	Z1 - 126	1	II a	深鉢	胴	網文と節の磨り消し	オ - 243	
			V - 2	Z2 - 126	1						
図V - 51	65	図版70	V - 2	W - 134	1	III a	深鉢	口縁	隆帯；縄文圧痕	オ - 249	
図V - 51	66	図版70	V - 2	Y - 133	1	III a	深鉢	口縁	隆帯；縄文圧痕・RL 縄文	オ - 248	
図V - 51	67	図版70	V - 2	Z1 - 130	3	III a	深鉢	口縁	隆帯；刺突；縄文圧痕・結節羽状縄文	オ - 250	
図V - 51	68	図版70	V - 2	Z1 - 137	6	III a	深鉢	口縁	突起・口唇上沈線；RL 縄文	オ - 143	
図V - 51	69	図版70	V - 2	O - 134	1	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯上押引文；LR 縄文	オ - 252	
図V - 51	70	図版70	V - 2	O - 134	1	III b - 1	深鉢	口縁	沈線・口唇上絡条体圧痕；LR 縄文	オ - 256	
図V - 51	71	図版70	V - 2	Z2 - 139	1	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯・口唇上押引文；LR 縄文	オ - 251	
図V - 51	72	図版70	V - 2	Z - 140	4	III b	深鉢	口縁	隆帯上押引文；R 縄文	オ - 270	
図V - 51	73	図版70	V - 2	M - 134	2	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯上押引文・口唇上縄文圧痕；RLR 縄文	オ - 265	
図V - 51	74	図版70	V - 2	L - 134	1	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯上押引文・口唇上縄文圧痕；RLR 縄文	オ - 269	
図V - 51	75	図版70	V - 2	Z - 136	1	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯上押引文・口唇上縄文圧痕・沈線；LR 縄文	オ - 268	
図V - 51	76	図版70	V - 2	S - 126	2	III b - 1	深鉢	口縁	口唇上縄文圧痕・押引文；RLR 縄文	オ - 266	
図V - 51	77	図版70	V - 2	V - 131	6	III b - 1	深鉢	口縁	隆帯上押引文・口唇上縄文圧痕・沈線；LR 縄文	オ - 145	
図V - 51	78	図版70	V - 2	P - 126	1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・沈線；LR 縄文	オ - 273	
図V - 51	79	図版70	V - 2	S - 133	2	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・刻み・沈線；LR 縄文	オ - 274	
図V - 51	80	図版70	V - 2	Z - 128	1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文；RLR 縄文	オ - 272	
図V - 51	81	図版70	V - 2	W - 128	1	III b - 1	深鉢	胴	隆帯・押引文；RLR 縄文	オ - 271	
図V - 52	82	図版71	V - 1	V - 139	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み（沈線）	オ - 259	
図V - 52	83	図版71	V - 2	X - 127	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇および隆帯上押引文	オ - 267	
図V - 52	84	図版71	V - 2	X - 131	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み（沈線）押引文；RLR 縄文	オ - 260	
図V - 52	85	図版71	V - 2	S - 126	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上絡条体圧痕・押引文；RLR 縄文	オ - 263	
図V - 52	86	図版71	V - 2	Q - 130	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み（沈線）・押引文	オ - 258	
図V - 52	87	図版71	V - 2	S - 126	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み（沈線）押引文；RLR 縄文	オ - 261	
図V - 52	88	図版71	V - 2	S - 126	1	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇および隆帯上刻み（沈線）；LR 縄文	オ - 257	
図V - 52	89	図版71	V - 2	X - 136	2	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻みおよび沈線・押引文・沈線；RLR 縄文	オ - 264	
図V - 52	90	図版71	V - 2	Y - 132	2	III b - 1	深鉢	口縁	肥厚する口唇上刻み（沈線）・押引文；LR 縄文	オ - 262	

表V - 15 包含層出土掲載土器一覧(3)

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	層位	発掘区	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等 / 特徴	整理 番号	備考
図V - 52	91	図版71	V - 2	T - 127	1	Ⅲb - 1	深鉢	口縁	口唇および隆帯上刻み(沈線)・沈線 ;RLR 縄文	オ - 146	
			V - 2	U - 127	1						
			V - 2	W - 126	1						
図V - 52	92	図版71	V - 2	Y - 136	1	Ⅲb - 1	深鉢	口縁	口唇および隆帯上沈線・沈線;LR 縄文	オ - 253	
図V - 52	93	図版71	V - 2	M - 150	1	Ⅲb - 1	深鉢	口縁	口唇および隆帯上沈線・沈線;LR 縄文	オ - 254	
図V - 52	94	図版71	V - 2	P - 127	1	Ⅲb - 1	深鉢	口~胴	肥厚する口唇上沈線・隆帯上押引文・ 沈線;LR 縄文	オ - 144①	95と同一個体
			V - 2	S - 126	3						
			V - 2	T - 126	2						
			V - 2	V - 137	1						
図V - 52	95	図版71	V - 2	V - 128	1	Ⅲb - 1	深鉢	胴	隆帯上押引文・沈線;LR 縄文	オ - 144②	94と同一個体
			V - 2	W - 129	1						
			V - 2	Y - 127	2						
			V - 2	Y - 128	6						
			V - 2	Z - 128	1						
図V - 52	96	図版71	V - 2	M - 134	6	Ⅲb	深鉢	底	LR 縄文 / 平底	オ - 283	
図V - 52	97	図版71	V - 2	O - 134	1	Ⅲb	深鉢	底	RLR 縄文 / 平底	オ - 282	
図V - 52	98	図版71	V - 2	P - 133	1	Ⅲb	深鉢	口縁	LR 縄文 / 肥厚する口唇	オ - 277	
図V - 52	99	図版71	V - 2	Z1 - 130	3	Ⅲb	深鉢	口縁	錐状貼付帯・隆帯上縄文圧痕;RL 縄文	オ - 276	
図V - 52	100	図版71	V - 2	Z - 137	1	Ⅲb - 2	深鉢	胴	隆帯上刻み・沈線;LR 縄文	オ - 279	
図V - 52	101	図版71	V - 2	S - 126	1	Ⅲb	深鉢	胴	隆帯上縄文圧痕;LR 縄文	オ - 278	
図V - 53	102	図版72	V - 2	W - 136	4	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤) / 肥厚する口縁+突起	オ - 290	
図V - 53	103	図版72	V - 2	Z1 - 135	1	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤)押引文;LR 縄文(内外面)	オ - 288	
図V - 53	104	図版72	V - 1	R - 135	2	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤);結束LR 縄文	オ - 291	
			V - 2	R - 135	1						
			V - 2	S - 134	1						
図V - 53	105	図版72	V - 2	W - 134	1	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤);LR 縄文(内外面)	オ - 289	
図V - 53	106	図版72	V - 2	W - 135	2	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤)・押引文;結束羽状縄文	オ - 285	
図V - 53	107	図版72	V - 2	Y - 136	1	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤)刻み;LR 縄文(内外面)	オ - 284	
図V - 53	108	図版72	V - 1	O - 153	2	Ⅲb - 3	深鉢	口縁	刺突(突瘤)押引文;LR 縄文(内外面)	オ - 287	
図V - 53	109	図版72	V - 2	Z1 - 130	3	Ⅲb - 3	深鉢	胴	結節羽状縄文	オ - 292	
図V - 53	110	図版72	V - 1	S - 135	4	Ⅲb - 3	深鉢	胴	RL 縄文 / 内面凹凸多い	オ - 147	
			V - 2	S - 135	10						
図V - 53	111	図版72	V - 1	Z1 - 128	1	Ⅳa	深鉢	口縁	LR 縄文(口唇上・内外面) / 肥厚帯	オ - 293	
V - 2	Z1 - 128	1									
図V - 53	112	図版72	V - 2	Z1 - 128	1	Ⅳa	深鉢	口縁	LR 縄文	オ - 294	
図V - 53	113	図版72	V - 2	V - 130	2	Ⅳb	深鉢	口縁	平行沈線;L 縄文	オ - 295	
図V - 53	114	図版72	V - 1	Y - 127	1	Ⅳb	深鉢	胴	直線・曲線帯状文;LR 縄文	オ - 300	
図V - 53	115	図版72	V - 1	V - 135	8	Ⅴc	浅鉢	口~胴	口唇上縄文圧痕・連続刺突;RL 縄文	オ - 126	
			V - 2	W - 135	1						
			V - 1	X - 133	2						
図V - 53	116	図版72	V - 1	Y - 127	1	Ⅴc	深鉢	口縁	口唇上刻み・平行沈線・蛇行沈線;LR 縄文	オ - 297	
図V - 53	117	図版72	V - 1	X - 128	1	Ⅴc	深鉢	口縁	口唇上刻み・縄文圧痕;RL 縄文	オ - 298	
図V - 53	118	図版72	V - 1	Z1 - 120	1	Ⅴc	鉢	口縁	口唇上刻み;LR 縄文	オ - 296	
図V - 53	119	図版72	V - 1	Z1 - 121	1	Ⅴc	深鉢	口縁	縄文圧痕・刺突 / 突起	オ - 299	
図V - 54	120	図版72	V - 1	Z - 123	3	Ⅴc	鉢	口~胴	口唇上刻みおよび縄文圧痕・蛇行沈線 ・貫通孔;RL 縄文 / 平縁+突起	オ - 129	
			V - 2	Z - 123	1						
図V - 54	121	図版72	V - 1	Z - 122	5	Ⅴc	鉢	口~底	口唇上縄文圧痕及び刺突;RL 縄文 / 平縁+突起	オ - 128	
			V - 2	Z - 122	3						
図V - 54	122	図版72	V - 1	W - 128	1	Ⅴc	浅鉢	口~底	口唇上刻みおよび縄文圧痕・平行沈線 ;RL 縄文 / 舟形・平縁+平底 口径22.5cm・底径17.2cm・器高6.8cm	オ - 7	
			V - 2	W - 128	29						
			排土		1						
図V - 54	123	図版72	V - 1	Z - 142	28	Ⅴc	深鉢	口~底	口唇上刻みおよび縄文圧痕;RL 縄文 / 平縁+6?単位突起・丸底気味 口径19.2cm・底径7.6cm・器高6.3cm	オ - 8	
			V - 2	Z1 - 130	1						
図V - 54	124	図版72	V - 1	Y - 138	1	Ⅴc	小型深鉢	口~底	口唇上刻みおよび縄文圧痕;RL 縄文 / 平縁+4単位突起・丸底気味 口径9.2cm・底径4.8cm・器高11.9cm	オ - 9	
図V - 54	125	図版72	V - 1	T - 130	2	Ⅴc	(ミニチュア) 小型鉢	口~底	口唇上刻み;無文 / 丸底 口径6.8cm・底径5.4cm・器高4.9cm	オ - 6	
			V - 1	T - 131	4						
図V - 54	126	図版72	V - 1	P - 147	1	Ⅴc	壺	口縁	浅い太沈線 / 瘤・突起・内面段あり	オ - 100	赤彩

表V - 16 包含層出土掲載土製品一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	発掘区	層位	遺物 番号	点数	分類	大きさ (cm)			重さ (g)	整理 番号	備考
								長さ	幅	厚さ			
図V - 48	26	図版67	Q - 135	Ⅲ	-	1	土製品	(3.8)	1.7	0.7	3.6	オ - 51	一部赤彩
図V - 48	27	図版67	Q - 135	Ⅲ	-	1	土製品	(2.4)	1.4	0.6	1.6	オ - 52	一部赤彩
図V - 48	28	図版67	L - 133	Ⅲ	-	1	焼成粘土塊	1.9	2.0	1.0	2.3	オ - 53	
図V - 55	127	図版74	P - 147	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.5)	(3.3)	1.2	6.8	オ - 59	刻み有り
図V - 55	128	図版74	T - 133	V - 2	-	1	三角形土製品	(3.0)	3.4	1.2	9.4	オ - 73	
図V - 55	129	図版74	Z1 - 138	V - 2	-	1	三角形土製品	4.0	3.8	1.1	11.3	オ - 86	
図V - 55	130	図版74	X - 135	V - 2	-	1	三角形土製品	2.2	3.0	1.1	4.3	オ - 79	
図V - 55	131	図版74	Z1 - 138	V - 1	-	1	三角形土製品	3.0	3.2	1.1	7.4	オ - 85	
図V - 55	132	図版74	T - 128	V - 2	-	1	三角形土製品	3.0	3.5	1.4	9.4	オ - 71	表面縄文残る
図V - 55	133	図版74	Y - 136	V - 2	-	1	三角形土製品	3.2	3.5	1.6	10.9	オ - 80	表面押引文残る
図V - 55	134	図版74	S - 131	V - 2	-	1	三角形土製品	2.5	(2.9)	0.9	5.2	オ - 67	
図V - 55	135	図版74	X - 134	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.2)	2.5	1.1	4.3	オ - 78	
図V - 55	136	図版74	Z2 - 126	V - 2	-	1	三角形土製品	(1.9)	2.4	0.7	2.2	オ - 84	
図V - 55	137	図版74	S - 131	V - 2	-	1	三角形土製品	3.0	3.2	1.1	6.5	オ - 65	
図V - 55	138	図版74	N - 134	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.8)	(2.9)	1.2	6.2	オ - 58	
図V - 55	139	図版74	P - 147	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.3)	(3.0)	0.8	3.9	オ - 61	
図V - 55	140	図版74	V - 135	V - 2	-	1	三角形土製品	2.7	(3.3)	1.0	4.9	オ - 75	
図V - 55	141	図版74	P - 147	V - 2	-	1	三角形土製品	2.1	2.2	0.8	2.2	オ - 60	
図V - 55	142	図版74	S - 132	V - 1	-	1	三角形土製品	2.4	3.1	1.0	4.9	オ - 68	
図V - 55	143	図版74	S - 132	V - 2	-	1	三角形土製品	2.4	(2.9)	1.2	4.7	オ - 64	
図V - 55	144	図版74	T - 129	V - 2	-	1	三角形土製品	2.4	2.7	1.2	4.2	オ - 72	
図V - 55	145	図版74	N - 132	V - 2	-	1	三角形土製品	2.3	3.0	1.2	4.3	オ - 57	
図V - 55	146	図版74	Y - 127	V - 1	-	1	三角形土製品	2.2	2.5	1.0	3.6	オ - 81	
図V - 55	147	図版74	T - 129	V - 2	-	1	三角形土製品	2.9	(2.9)	0.9	4.3	オ - 70	
図V - 55	148	図版74	R - 126	V - 2	-	1	三角形土製品	1.9	2.6	0.9	2.9	オ - 62	
図V - 55	149	図版74	W - 128	V - 2	-	1	三角形土製品	2.3	(2.4)	0.9	3.4	オ - 76	
図V - 55	150	図版74	L - 130	V - 2	-	1	三角形土製品	3.0	3.4	1.1	6.4	オ - 55	
図V - 55	151	図版74	X - 129	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.4)	(2.6)	0.9	3.2	オ - 77	
図V - 55	152	図版74	Z1 - 126	I	-	1	三角形土製品	(1.9)	(2.4)	0.7	2.5	オ - 83	
図V - 55	153	図版74	L - 134	V - 2	-	1	三角形土製品	(1.9)	(2.6)	0.8	2.7	オ - 54	
図V - 55	154	図版74	Y - 135	V - 2	-	1	三角形土製品	1.7	2.4	0.7	2.1	オ - 82	
図V - 55	155	図版74	U - 130	V - 1	-	1	三角形土製品	3.1	3.4	1.0	6.9	オ - 74	
図V - 55	156	図版74	T - 133	V - 2	-	1	三角形土製品	2.4	2.9	1.0	4.8	オ - 69	
図V - 55	157	図版74	N - 134	V - 2	-	1	三角形土製品	2.3	2.5	1.0	4.1	オ - 56	裏面縄文
図V - 55	158	図版74	S - 131	V - 2	-	1	三角形土製品	2.2	2.8	0.9	3.8	オ - 66	裏面縄文
図V - 55	159	図版74	R - 130	V - 2	-	1	三角形土製品	(2.2)	3.1	1.1	4.7	オ - 63	
図V - 55	160	図版75	T - 132	V - 2	-	1	土器片再生円盤	4.4	4.7	0.8	18.5	オ - 90	
図V - 55	161	図版75	Z - 128	V - 2	-	1	土器片再生円盤	(5.4)	(5.1)	0.9	17.8	オ - 92	
図V - 55	162	図版75	X - 135	V - 2	-	1	土器片再生円盤	5.3	5.0	1.5	31.3	オ - 93	貫通孔なし
図V - 55	163	図版75	Z1 - 128	V - 2	-	1	土器片再生円盤	5.5	5.5	0.8	22.2	オ - 89	
図V - 55	164	図版75	U - 132	V - 2	-	2	土器片再生円盤	5.5	5.5	0.9	23.7	オ - 88	
図V - 55	165	図版75	Z - 128	V - 2	-	1	土器片再生円盤	5.3	4.1	1.3	27.7	オ - 91	貫通孔なし
図V - 55	166	図版75	Z1 - 130	V - 2	-	1	土器片再生円盤	4.2	(3.5)	0.8	9.8	オ - 87	
図V - 55	167	図版75	T - 134	V - 2	-	1	土製品	(3.2)	3.4	2.2	12.6	オ - 94	足?
図V - 55	168	図版75	Y - 136	V - 1	-	1	土製品	(6.0)	(5.2)	2.7	37.3	オ - 99	土偶?
図V - 55	169	図版75	W - 128	V - 2	-	1	焼成粘土塊	2.7	1.9	0.6	2.6	オ - 95	
図V - 55	170	図版75	Z1 - 121	V - 2	-	1	焼成粘土塊	2.8	2.7	0.9	6.0	オ - 96	
図V - 55	171	図版75	Z1 - 143	V - 2	-	1	焼成粘土塊	2.5	2.2	0.7	2.7	オ - 97	
図V - 55	172	図版75	T - 129	V - 2	-	1	焼成粘土塊	3.3	2.5	2.0	9.2	オ - 98	

表V - 17 包含層出土掲載石器等一覧(1)

挿図番号	掲載 番号	図版 番号	遺構名・ 発掘区	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存 状態	備考
図V - 62	1	78	J - 134	Ⅲ	石鏃	黒曜石7	(1.8)	0.8	0.2	(0.4)	準完形	
図V - 62	2	78	K - 150	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(1.8)	0.7	0.3	(0.4)	完形	
図V - 62	3	78	S - 130	Ⅲ	石鏃	黒曜石7	1.9	0.8	0.2	0.3	完形	
図V - 62	4	78	Z - 137	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(1.9)	0.9	0.2	0.3	完形	十勝三股産
図V - 62	5	78	M - 132	Ⅲ	石鏃	黒曜石6	2.5	1.5	2.6	0.8	完形	
図V - 62	6	78	Z2 - 118	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	2.3	1.7	0.3	0.6	完形	
図V - 62	7	78	Z - 123	Ⅲ	石鏃	黒曜石3	2.4	1.1	0.3	0.5	完形	
図V - 62	8	78	X - 136	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(3.0)	1.2	0.3	(0.9)	完形	
図V - 62	9	78	U - 126	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	2.9	1.7	0.4	1.1	完形	
図V - 62	10	78	O - 152	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	2.3	1.4	0.2	0.7	完形	
図V - 62	11	78	X - 127	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	2.6	1.5	0.4	0.9	完形	
図V - 62	12	78	O - 135	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(1.8)	0.9	0.3	(0.4)	完形	
図V - 62	13	78	Z1 - 140	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(1.7)	1.2	0.2	(0.4)	完形	
図V - 62	14	78	Z1 - 118	Ⅲ	石鏃	黒曜石3	(2.0)	1.2	0.2	(0.4)	完形	
図V - 62	15	78	Y - 128	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(2.1)	1.2	0.2	(0.4)	完形	
図V - 62	16	78	Z - 128	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	(2.2)	1.0	0.3	(0.6)	完形	
図V - 62	17	78	Y - 131	Ⅲ	石鏃	黒曜石1	2.9	1.5	0.3	1.1	完形	
図V - 62	18	78	Z1 - 118	Ⅲ	両面調整石器	黒曜石1	(2.9)	1.8	0.5	(2.3)	完形	
図V - 62	19	78	Q - 132	Ⅲ	石錐	黒曜石1	1.6	0.8	0.3	0.1	完形	
図V - 62	20	78	O - 134	Ⅲ	石錐	黒曜石1	6.0	2.9	1.0	12.8	完形	
図V - 62	21	78	P - 131	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石1	6.1	4.1	1.1	30.2	準完形	
図V - 62	22	78	P - 132	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石1	7.9	1.8	0.8	6.9	完形	
図V - 62	23	78	Z1 - 121	V - 1	スクレイパー	黒曜石1	4.9	1.4	0.8	2.8	完形	
図V - 62	24	78	N - 133	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石1	3.4	3.2	1.1	7.7	完形	
図V - 62	25	78	Z - 129	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石7	3.1	2.0	0.7	3.0	半形	
図V - 62	26	78	O - 135	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石1	(3.5)	(1.5)	0.4	(2.5)	準完形	
図V - 62	27	78	I - 134	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石1	3.8	2.0	1.4	7.5	完形	
図V - 62	28	78	Y - 137	Ⅲ	玉	泥岩	4.6	4.1	1.0	18.1	完形	
図V - 63	1	78	Q - 129	V - 2	石鏃	黒曜石1	4.4	1.4	0.5	2.3	準完形	
図V - 63	2	78	M - 128	V - 2	石鏃	黒曜石6	3.1	1.3	0.3	0.9	完形	
図V - 63	3	78	U - 130	V - 1	石鏃	黒曜石7	2.5	1.1	0.2	0.5	完形	
図V - 63	4	78	Z - 140	V - 2	石鏃	黒曜石7	3.0	1.6	0.3	0.8	完形	
図V - 63	5	78	U - 126	V - 1	石鏃	黒曜石6	2.5	1.1	0.2	0.4	完形	
図V - 63	6	78	S - 131	V - 1	石鏃	黒曜石7	(2.9)	1.4	0.4	(0.9)	完形	
図V - 63	7	78	M - 134	V - 1	石鏃	黒曜石7	3.3	1.6	0.3	1.2	完形	
図V - 63	8	78	K - 153	V - 1	石鏃	黒曜石7	2.1	1.4	0.4	0.6	完形	
図V - 63	9	78	Z1 - 130	V - 2	石鏃	黒曜石7	(2.5)	1.5	0.3	(0.7)	完形	
図V - 63	10	78	Z1 - 132	V - 1	石鏃	黒曜石1	(2.5)	1.2	0.4	(1.0)	完形	
図V - 63	11	78	Z2 - 119	V - 2	石鏃	黒曜石7	(2.0)	1.3	0.4	(0.6)	完形	
図V - 63	12	78	Y - 128	V - 2	石鏃	黒曜石8	3.3	1.6	0.9	3.2	完形	未製品
図V - 63	13	78	Z1 - 128	V - 2	石槍	黒曜石7	(4.2)	2.6	1.0	(9.6)	完形	
図V - 63	14	78	V - 136	V - 1	石槍	黒曜石8	5.8	2.5	0.9	11.2	完形	未製品
図V - 63	15	78	T - 136	V - 1	石槍	黒曜石8	12.2	5.4	1.1	45.6	完形	
図V - 63	16	78	Z2 - 139	V - 2	石槍	黒曜石7	6.0	3.0	0.8	8.4	完形	
図V - 63	17	78	Z - 140	V - 2	石槍	黒曜石8	(7.7)	2.9	0.9	(16.9)	準完形	
図V - 63	18	78	X - 127	V - 2	石槍	黒曜石1	(7.3)	2.3	0.8	12.7	完形	ケシヨマップ産
図V - 63	19	78	O - 132	V - 1	石錐	黒曜石7	3.8	1.3	0.8	2.8	完形	
図V - 63	20	78	Q - 129	V - 1	石錐	黒曜石8	(4.5)	1.9	0.8	(4.1)	完形	
図V - 63	21	78	Z - 127	V - 2	石錐	黒曜石1	4.2	2.8	0.7	4.3	完形	

表V - 18 包含層出土掲載石器等一覧(2)

挿図番号	掲載 番号	図版 番号	遺構名・ 発掘区	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存 状態	備考
図V - 63	22	78	Z2 - 126	VI	石錐	頁岩	3.9	1.4	0.5	2.3	完形	
図V - 63	23	79	Z - 137	V - 2	つまみ付きナイフ	頁岩	5.9	3.5	0.6	7.3	完形	
図V - 63	24	79	Y - 128	V - 1	つまみ付きナイフ	頁岩	(6.4)	3.2	0.9	(10.6)	完形	
図V - 63	25	79	S - 135	V - 1	つまみ付きナイフ	頁岩	(5.8)	3.4	0.9	(10.2)	準完形	
図V - 63	26	79	I - 153	V - 2	つまみ付きナイフ	頁岩	6.3	2.4	0.8	7.7	完形	
図V - 64	27	79	J - 130	V - 1	つまみ付きナイフ	頁岩	4.7	2.9	0.8	5.4	完形	
図V - 64	28	79	Z2 - 118	V - 2	つまみ付きナイフ	頁岩	6.1	1.9	1.1	5.8	完形	
図V - 64	29	79	L - 128	V - 2	つまみ付きナイフ	頁岩	(4.4)	2.7	0.6	(3.2)	完形	
図V - 64	30	79	Z - 127	V - 1	つまみ付きナイフ	黒曜石1	7.0	2.5	0.7	9.7	完形	
図V - 64	31	79	Z2 - 126	V - 2	つまみ付きナイフ	黒曜石1	3.9	2.4	0.6	3.9	完形	
図V - 64	32	79	Y - 130	V - 2	つまみ付きナイフ	黒曜石7	4.2	1.6	0.5	2.1	完形	
図V - 64	33	79	Z1 - 130	V - 2	つまみ付きナイフ	黒曜石3	(5.3)	2.6	0.7	(5.4)	完形	
図V - 64	34	79	Z1 - 131	V	つまみ付きナイフ	黒曜石8	5.3	2.5	1.0	9.8	完形	
図V - 64	35	79	I - 135	V - 2	スクレイパー	黒曜石8	7.3	3.6	1.9	42.2	完形	
図V - 64	36	79	O - 132	V - 1	スクレイパー	黒曜石8	4.7	1.8	0.9	6.5	完形	
図V - 64	37	79	T - 131	V - 2	スクレイパー	黒曜石1	2.7	2.1	0.7	2.3	完形	
図V - 64	38	79	Q - 152	V - 1	スクレイパー	黒曜石8	3.8	3.1	1.1	10.1	完形	
図V - 64	39	79	U - 136	V - 1	スクレイパー	黒曜石8	5.7	(2.7)	1.4	(19.0)	完形	
図V - 64	40	79	Y - 128	V - 2	スクレイパー	黒曜石7	3.8	2.4	0.6	4.2	完形	
図V - 64	41	79	Z - 126	V - 2	スクレイパー	黒曜石8	6.6	4.3	1.2	24.3	完形	
図V - 64	42	79	Z1 - 131	V - 2	スクレイパー	黒曜石8	5.3	4.2	1.5	25.3	完形	
図V - 64	43	79	Z - 127	V - 2	スクレイパー	黒曜石8	5.8	3.0	1.8	17.2	完形	
図V - 64	44	79	Z2 - 128	V - 1	スクレイパー	黒曜石1	2.4	3.3	1.0	5.5	完形	
図V - 64	45	79	Z - 127	V - 2	スクレイパー	黒曜石7	2.9	1.5	0.5	1.2	完形	
図V - 64	46	79	Y - 123	V - 1	スクレイパー	頁岩	(4.4)	1.7	0.4	(2.3)	完形	
図V - 65	47	80	V - 129	V - 1	石斧	緑色泥岩	13.5	4.6	1.9	170.0	完形	
図V - 65	48	80	S - 133	V - 1	石斧	片岩	11.0	4.1	1.1	76.0	完形	
図V - 65	49	80	S - 128	V - 2	石斧	緑色泥岩	7.0	4.1	1.3	55.1	準完形	
図V - 65	50	80	S - 126	V - 2	石斧	緑色泥岩	7.3	3.3	1.3	49.0	完形	
図V - 65	51	80	X - 128	V - 2	石斧	緑色泥岩	8.9	4.2	2.3	112.3	完形	
図V - 65	52	80	S - 126	V - 1	石斧	緑色泥岩	9.4	4.1	1.3	44.5	完形	
図V - 65	53	80	Z - 119	V - 2	石斧	片岩	14.6	4.5	2.0	189.6	完形	
図V - 65	54	80	X - 127	V - 2	石斧	緑色泥岩	10.1	4.0	1.8	90.2	完形	
図V - 65	55	80	T - 126	V - 2	研磨石材	緑色泥岩	(18.7)	(12.5)	8.0	(3000.0)	-	
図V - 65	56	81	Z - 137	V - 2	石斧	泥岩	11.8	5.4	3.6	290.0	完形	未製品
図V - 66	57	81	M - 134	V - 2	たたき石	砂岩	14.1	5.4	2.1	228.9	完形	
図V - 66	58	81	Z1 - 120	V - 2	たたき石	安山岩	14.4	5.9	3.3	410.0	完形	
図V - 66	59	81	Z1 - 130	V - 1	たたき石	?	14.8	8.1	5.0	990.0	完形	
図V - 66	60	81	J - 128	V - 2	すり石	砂岩	7.2	12.9	5.9	880.0	完形	
図V - 66	61	81	Z - 133	V - 1	すり石	砂岩	7.7	(14.3)	6.0	(690.0)	準完形	
図V - 66	62	81	Z1 - 130	V - 2	すり石	砂岩	8.9	(11.5)	5.0	(730.0)	半形	
図V - 66	63	81	P - 128	V - 2	すり石	砂岩	7.6	(9.7)	5.8	(500.0)	半形	
図V - 66	64	81	Z1 - 138	V - 2	すり石	砂岩	10.6	9.2	3.8	550.0	完形	
図V - 66	65	81	L - 130	V - 2	砥石	砂岩	(11.5)	(7.0)	3.3	(180.0)	片	
図V - 66	66	81	K - 127	V - 1	石皿	砂岩	(15.5)	(23.1)	6.6	(3500.0)	片	
図V - 66	67	80	Z - 126	V - 2	玉	チャート?	2.6	2.5	1.1	11.5	完形	

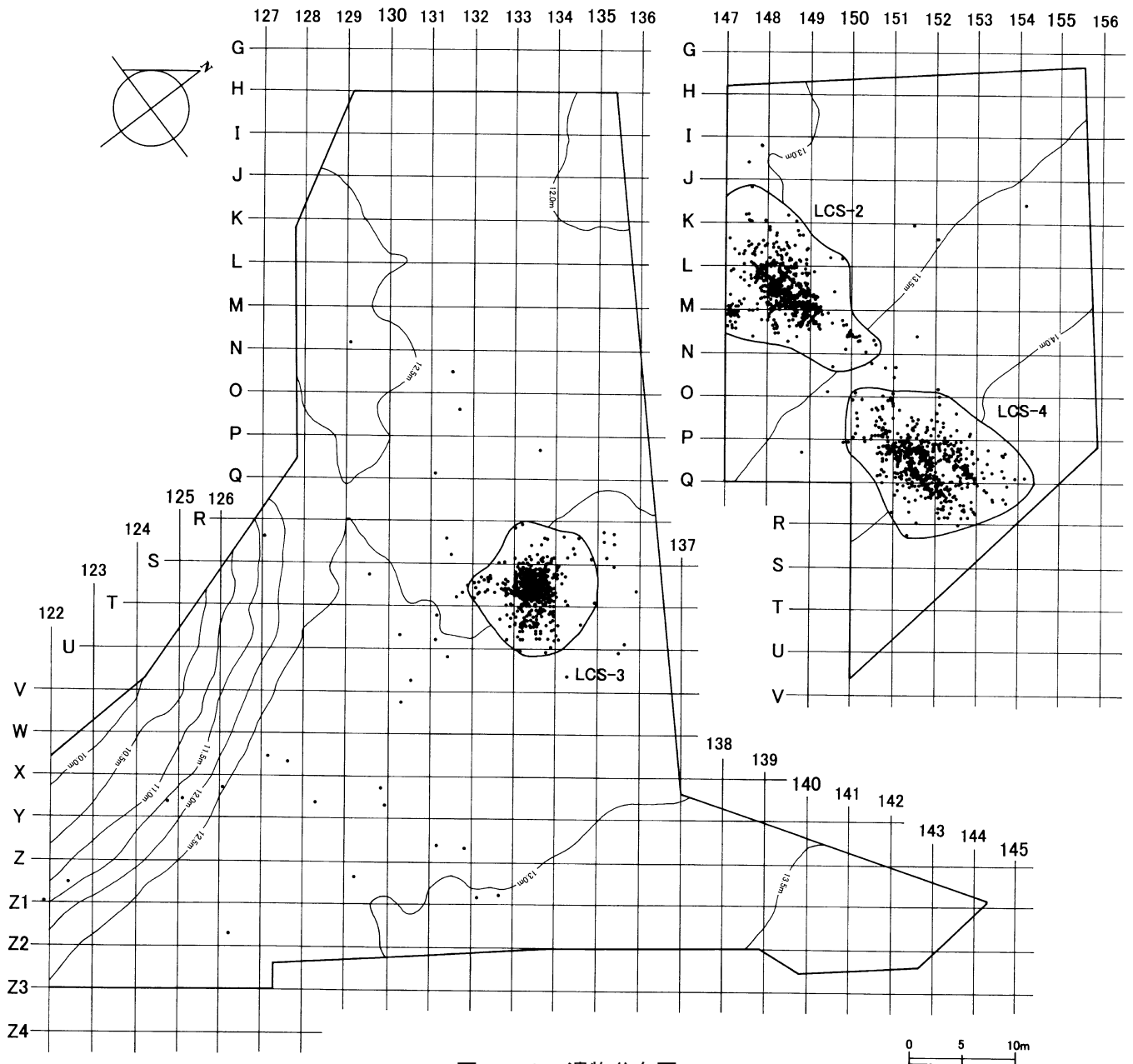
VI 旧石器の調査とその遺物

VI章 旧石器の調査とその遺物

1 概要

今回の調査では、石器の分布範囲から3カ所の石器集中(ブロック)を確認した。地区別で見ると、A地区で1カ所(LCS-3)、C地区で2カ所(LCS-2・4)である。平成14年度の調査(B地区)では2カ所(LCS-1とLCS-2の一部)確認されており、全部で4カ所となる。この内LCS-2はB地区とC地区にまたがっているため、2カ年に分けて調査を行っている。地形的にはいずれも平坦面に位置し、LCS-1・2・4はC地区の標高13.0~14.0mの範囲で比較的近接して分布しているが、LCS-3はA地区ほぼ中央の標高約12.5mの場所にあり、他のブロックとはやや離れている。

本来的な旧石器時代の遺物包含層は恵庭a降下軽石が風化した黄褐色ローム層であるⅦ層だが、



図VI - 1 遺物分布図

旧石器は縄文時代の遺物の包含層であるⅤ層からⅦ層にかけて出土した。これは凍上現象等の自然の営力によって移動したためと考えられる。そのため、一部の旧石器は縄文時代の遺物と混在した状況で出土しており、それらに関しては形態的な特徴や石材の観察、表面の風化の度合いにより旧石器と判断した。

ブロックはいずれも湧別技法札滑型細石刃核を含む細石刃石器群である。各ブロック間で接合関係が認められることから、同一集団の石器製作址と考えられる。

今年度調査分の遺物の総数は、2,259点で重量は4,664.0gである。その内出土位置を計測して取上げた遺物(以下点取り遺物)は2,135点で重量は4,506.6g、一括ほかの遺物は124点で重量は157.4gである。平成14年度調査の遺物総数は772点で、重量は3,023.5gであり、2ヵ年度の遺物の総点数は3,031点で総重量は7,687.5gとなる。

なお、平成14年度報告分のLCS-1の石器については、今回改めて再分類を行ったところ、前回黒曜石1としたものの中にⅤ層出土の黒曜石7・8が混じっており、それらは縄文時代の石器の可能性があるため今回の集計では除外した。また礫と分類した中にも剥片と自然遺物と考えられる礫の両者があったため、後者は今回の集計では除外し、訂正した一覧表と分布図を再掲載した。

出土した遺物は全て石器類で、器種としては、細石刃、細石刃核、細石刃核削片、彫器、彫器削片、両面調整石器、搔器、削器、尖頭器、石刃、二次加工ある剥片、剥片、石核、石斧がある(表Ⅵ-1・2)。

石器の石材は黒曜石が主体で、わずかに頁岩、珪岩、泥岩、砂岩等がある。黒曜石の多くは肉眼観察や原材産地分析の結果、白滝産の黒曜石と考えられるが、細石刃については、原産地分析の結果、置戸産や十勝三股産と判定されたものが少量認められる。

遺構は検出されなかったが、LCS-3の分布範囲にほぼ重なる状況でⅦ層中に細かい炭化物の分布が認められた。LCS-3に関連する可能性があるため、炭化物2点のAMS年代測定を行ったところ、補正C14年代で14,690±70yrBP、12,740±60yrBPという結果が出ている(Ⅶ章-1)。

(広田)

2 遺物分布とブロック・石器群

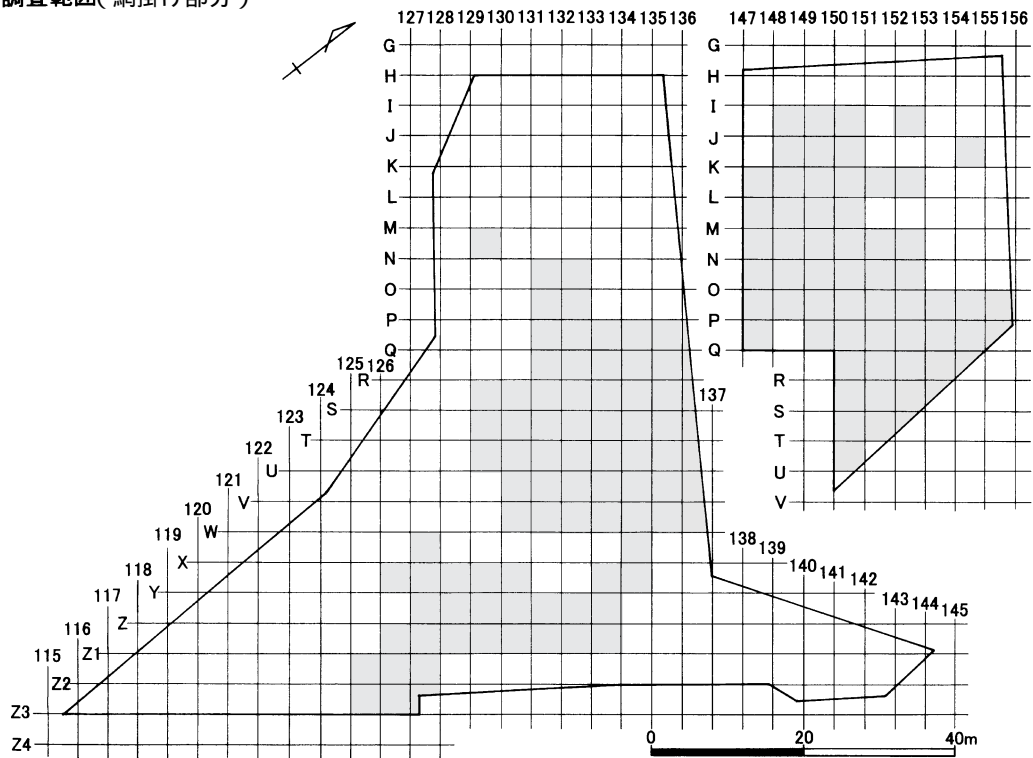
(1) 概要

確認された遺物は全て石器類であり、主に分布状況から3つのブロック(LCS-2~4)を設定した。点取り遺物の点数は2,073点、グリッド一括で取上げた遺物点数は8点である。またLCS-2に関しては平成14年度調査で21点出土しているため、それを加えるとLCS-2~4の全遺物点数は2,094点となる。現場の調査段階では、旧石器と判断した遺物はブロック外のものも含めて基本的に全点計測を行った。ただし、縄文時代の遺物包含層であるⅤ-1・2層のものやブロック外出土のものについては、グリッド一括で取上げ後、一次整理段階で旧石器と判断したものがあるため、これらについては地点計測を行っていない。

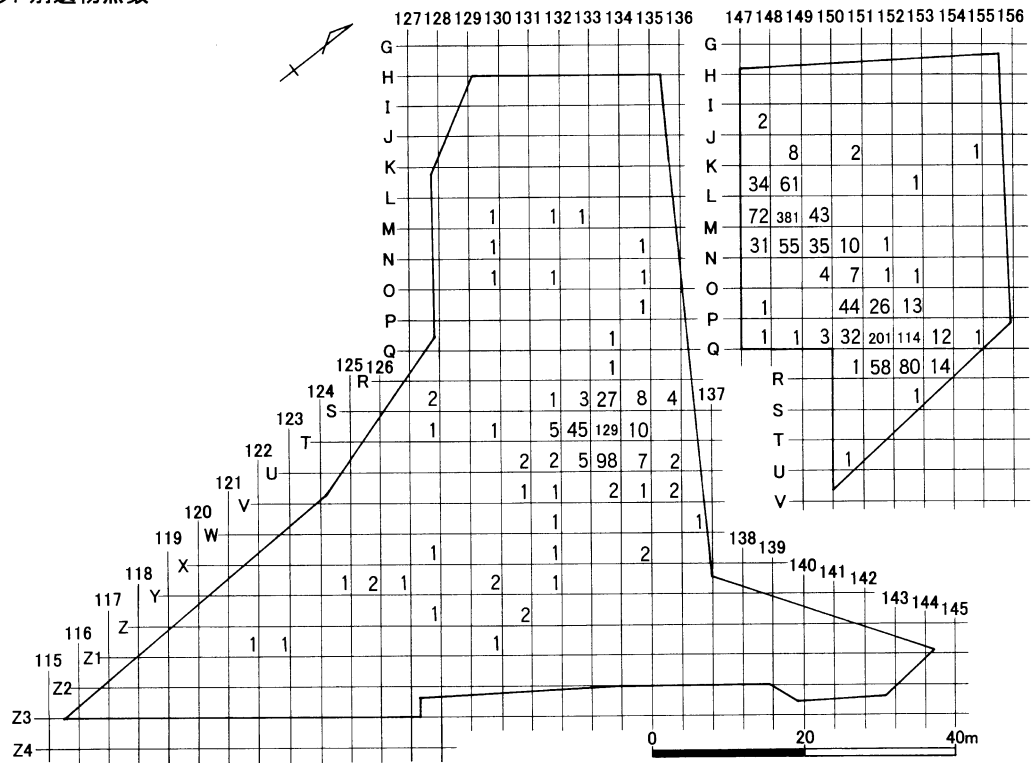
今回の調査で確認したLCS-2~4は、いずれも湧別技法関連資料を主体とする石器群である。また、前回の調査で報告したLCS-1も他のブロックとの接合関係があり、同一の石器群と考えられる。

LCS-1~4の接合状況は各集中部を中心に接合し、折れ面接合1例を含むブロック間接合も確認されている。

VII層調査範囲(網掛け部分)

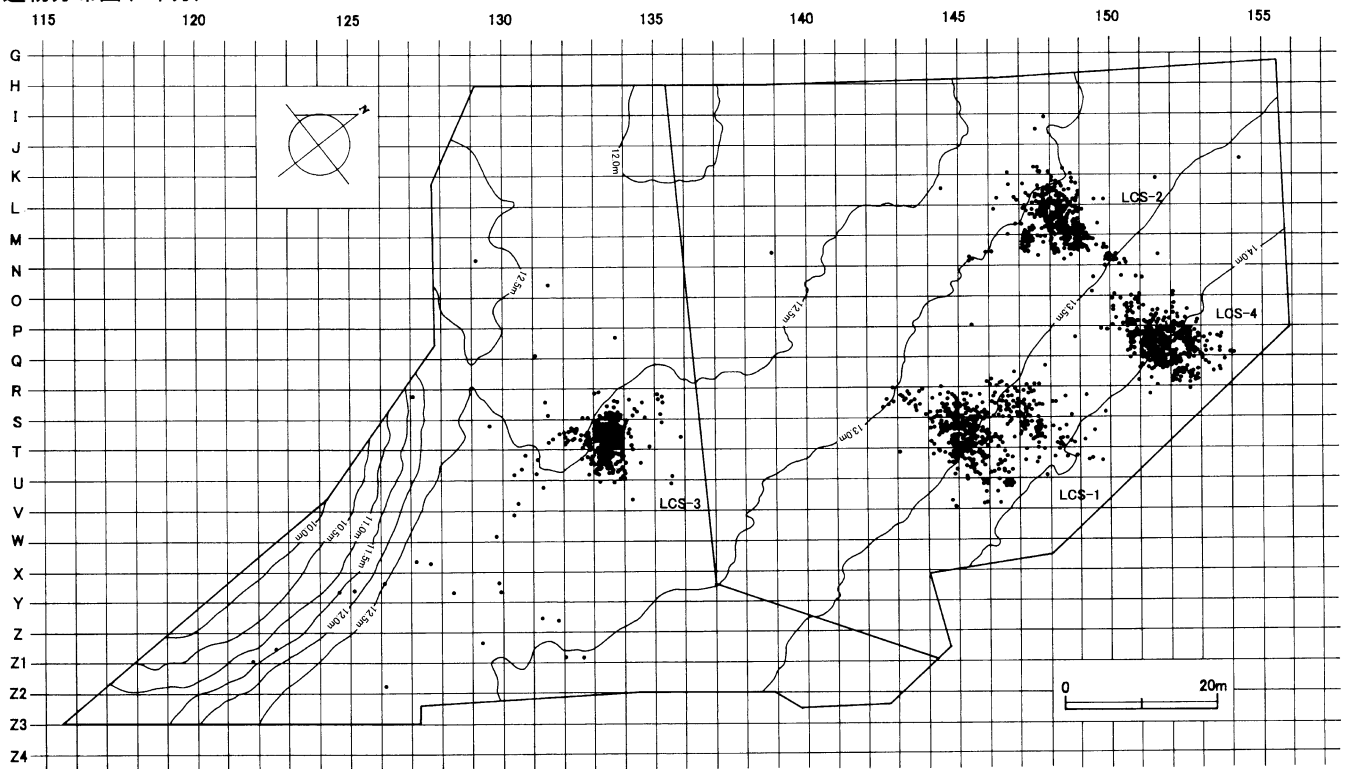


グリッド別遺物点数

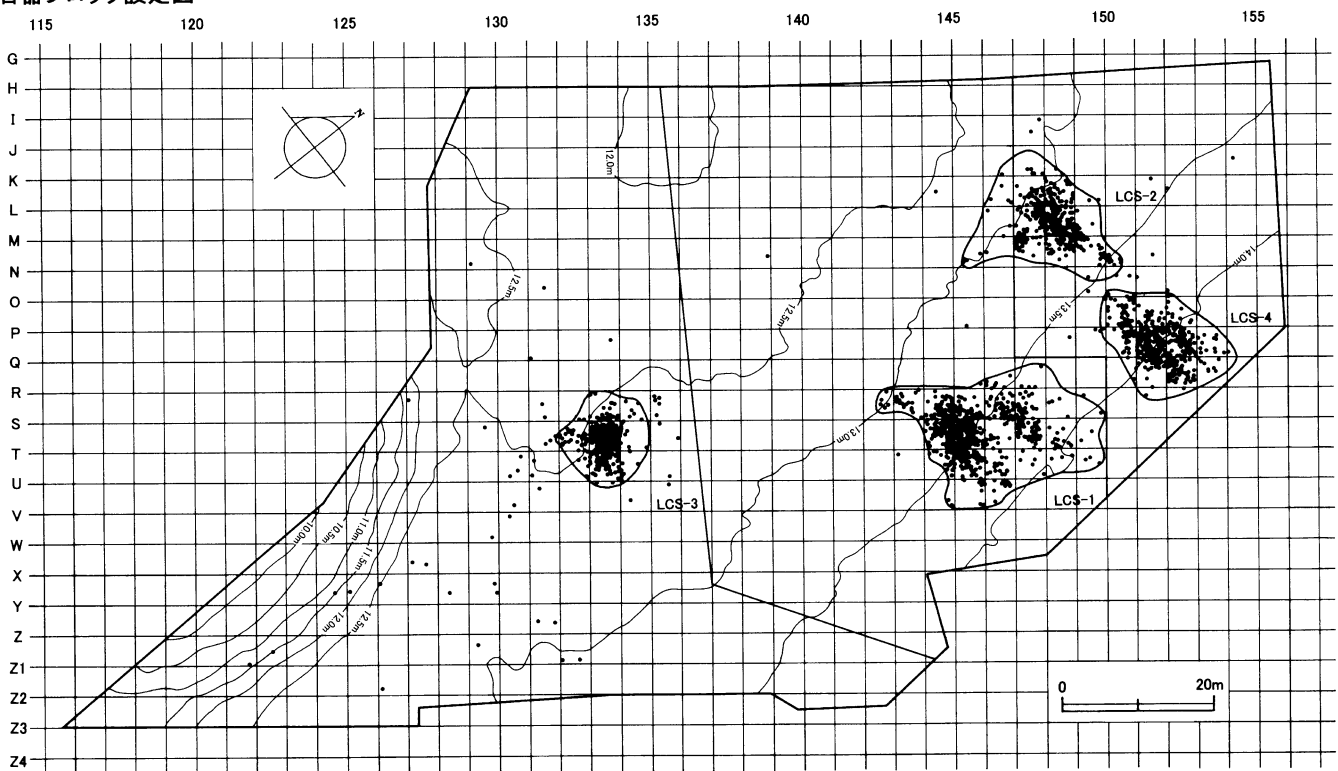


図VI - 2 VII層調査範囲図・グリッド別遺物点数

遺物分布図(2年分)

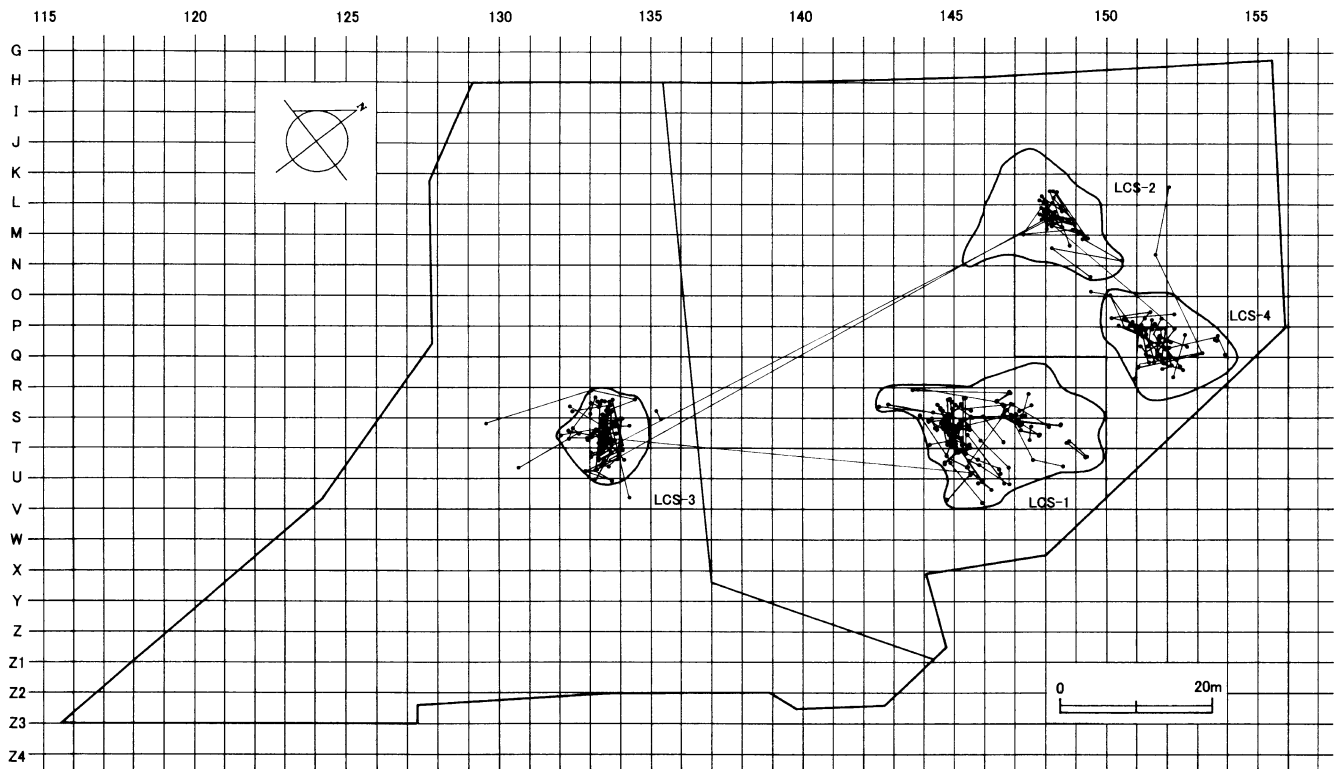


石器ブロック設定図

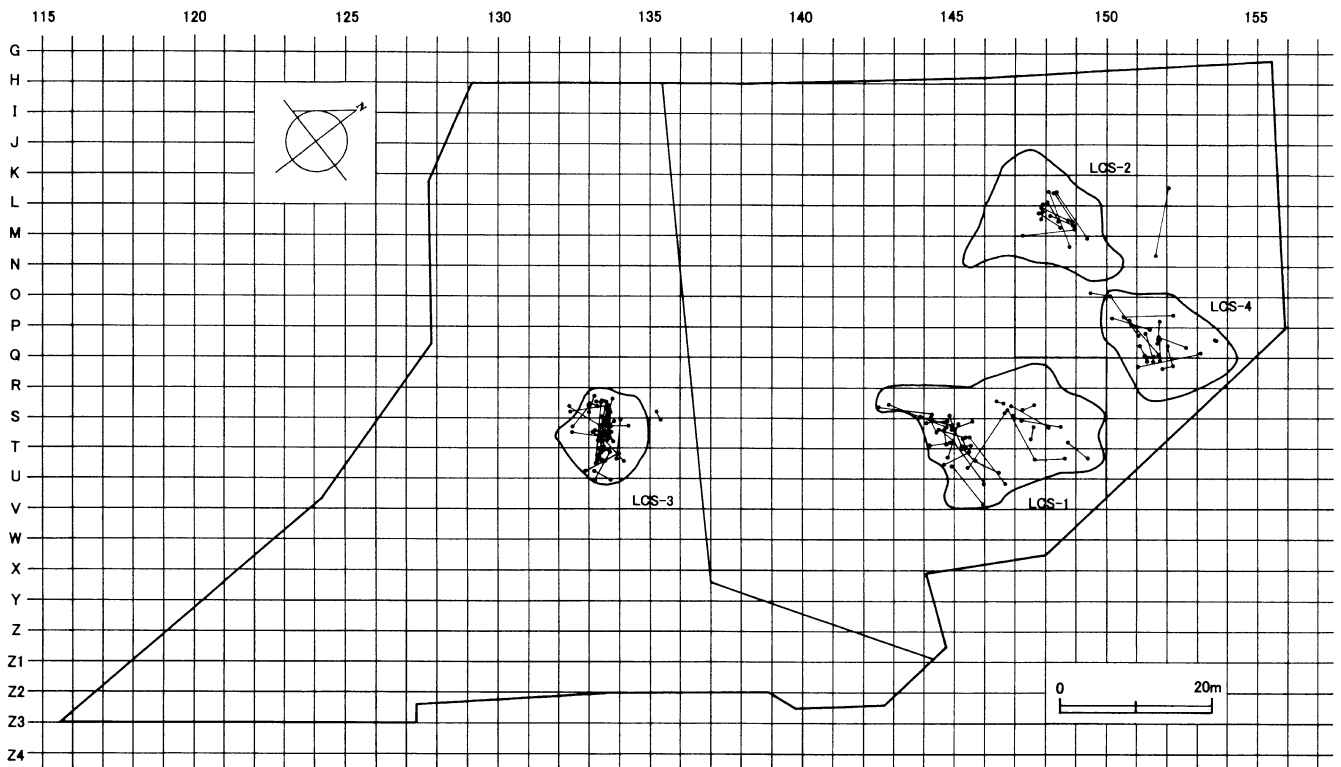


図VI - 3 遺物分布図(2年分)・石器ブロック設定図

全接合分布図

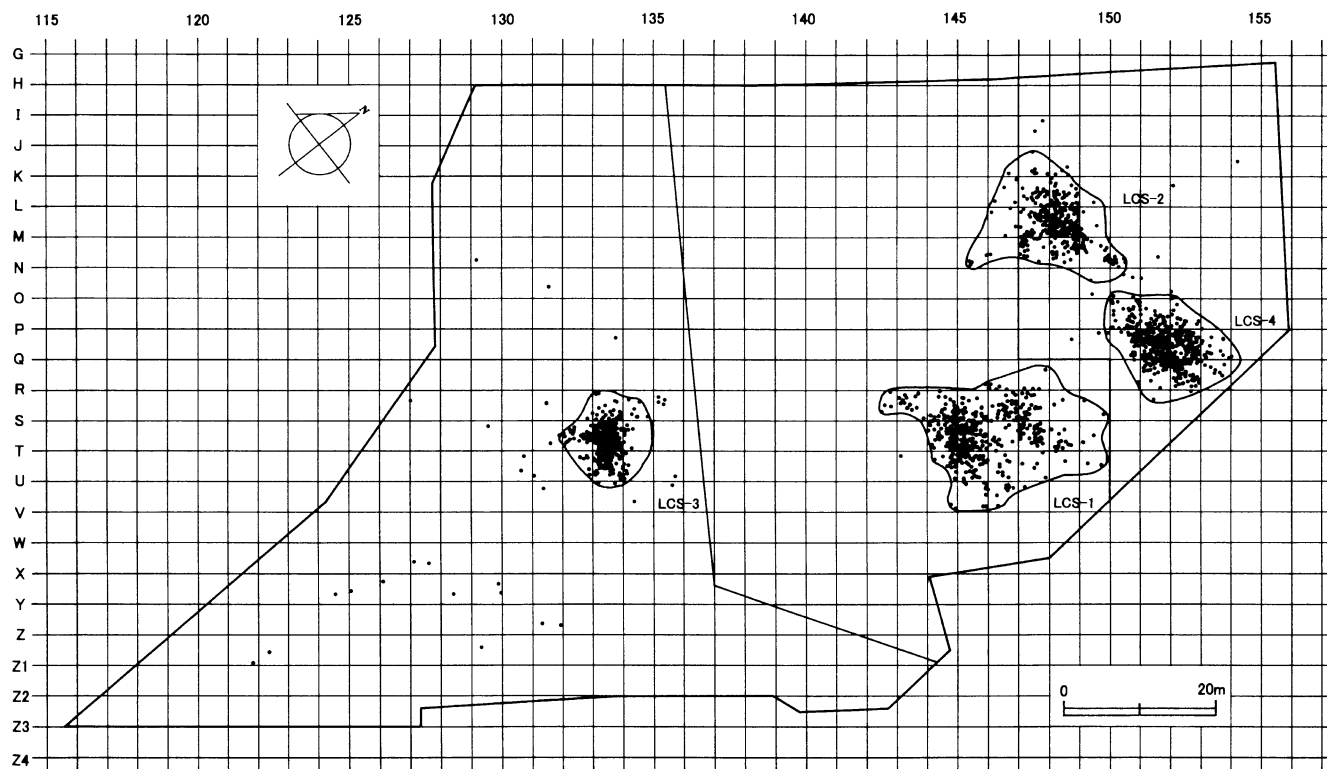


折れ面接合分布図

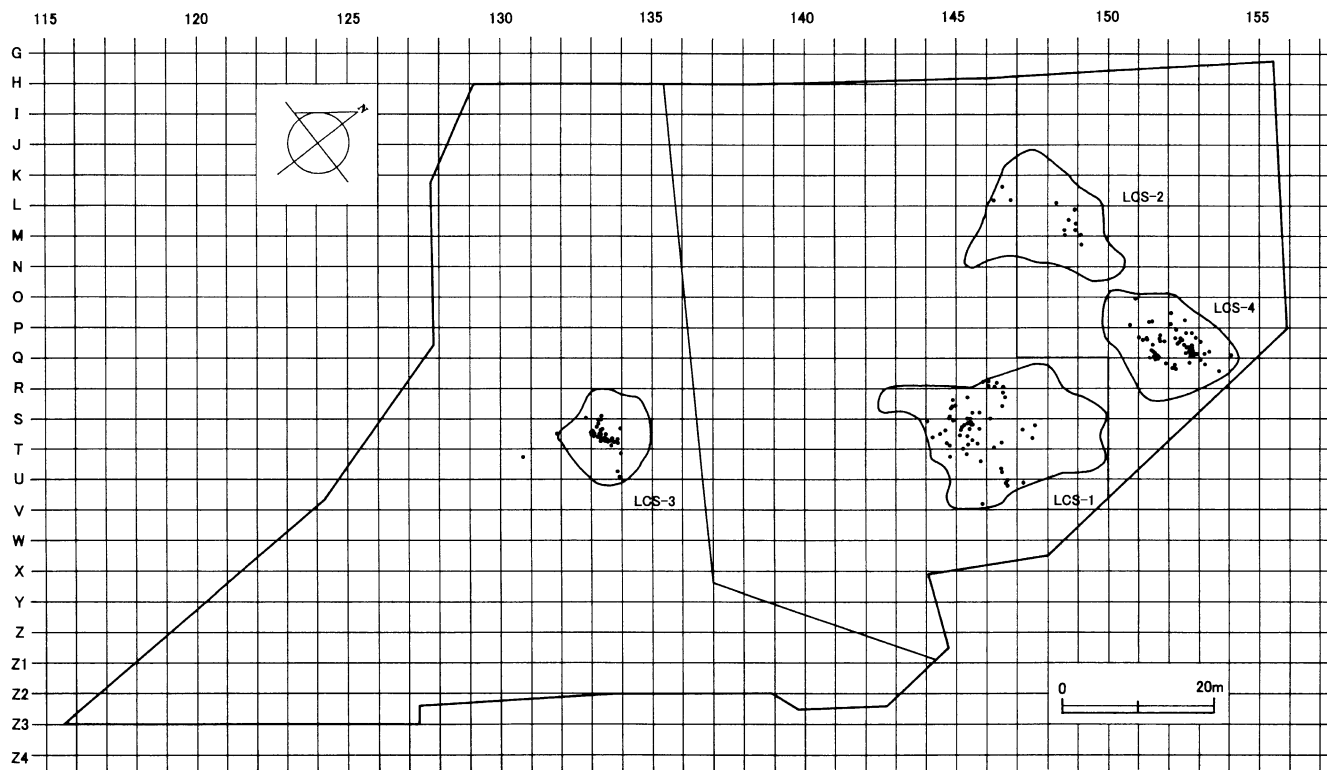


図VI - 4 全接合分布図・折れ面接合分布図

黒曜石1~5

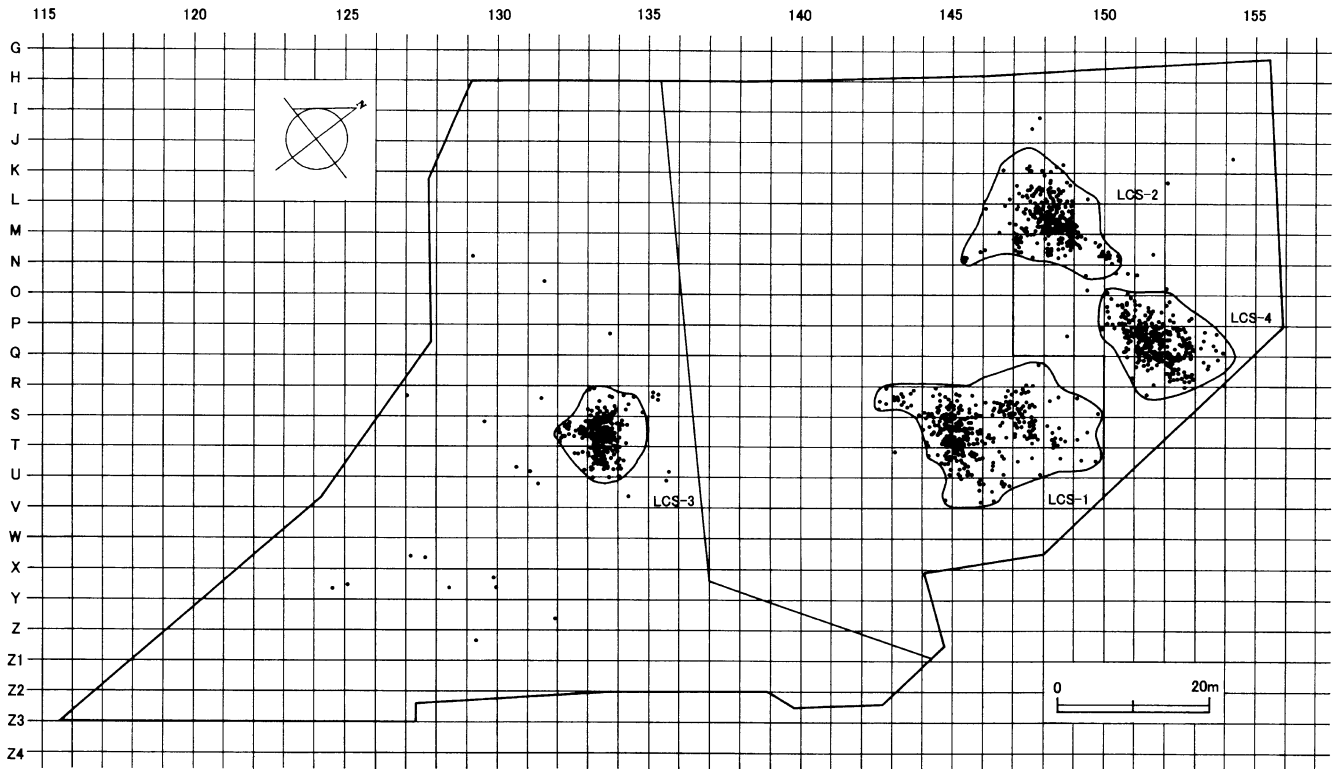


黒曜石1

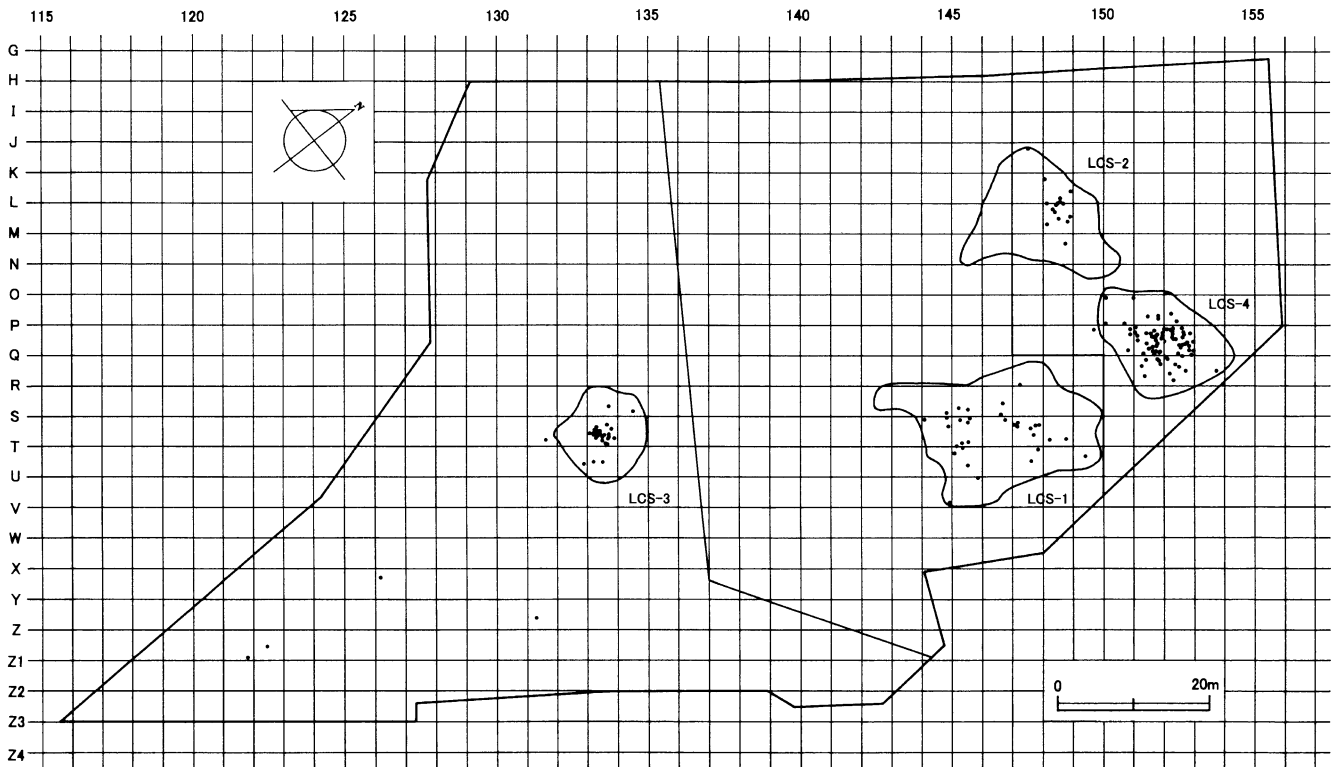


図VI - 5 石材別分布図(1)

黒曜石3・4



黒曜石5



図VI - 6 石材別分布図(2)

表VI - 3 原礫面残存・被熱石器点数一覧

ブロック	遺物点数	原礫面残存石器		被熱石器	
		点数	%	点数	%
LCS - 1	716	52	7.3%	78	10.9%
LCS - 2	734	13	1.8%	82	11.2%
LCS - 3	737	10	1.4%	100	13.6%
LCS - 4	623	4	0.6%	130	20.9%
ブロック外	221	20	9.0%	14	6.3%
合計	3,031	99	3.3%	404	13.3%

(2) 石材別・器種別分布状況

概要で述べたように、平成14年度調査分のLCS - 1と今回調査を行ったLCS - 2～4は同一集団の石器製作址と考えられるため、ここでは2ヵ年度の調査分について合わせて報告を行う。

1) 石材別分布状況

黒曜石製の石器(図VI - 5・6・8)

3,031点、の内2,867点(94.6%)が黒曜石製で、重量は5,374.8gである。黒曜石全体の中では黒曜石3(黒>茶)が最も多く、1,554点(54.2%)出土している。以下、黒曜石4(茶>黒)の891点(31.1%)、黒曜石1(黒色)の202点(7.0%)、黒曜石5(黒>紫・茶)の185点(6.5%)の順となっている。赤井川産と考えられる黒曜石7・8(黒色:流紋岩混じり)は8点(0.3%)あるが、全てブロック外からの出土で、ブロックとの関連は不明である。黒曜石10(不明)は27点(0.9%)である。黒曜石10としたものは被熱が著しいものや小片で分類できなかったものである。

なお、黒曜石3(黒>茶)と黒曜石4(茶>黒)に関しては、黒曜石3・4の間で接合するものが多くあったため、分布図は合わせて掲載している。また、黒曜石2(黒色・梨肌)は出土していない。

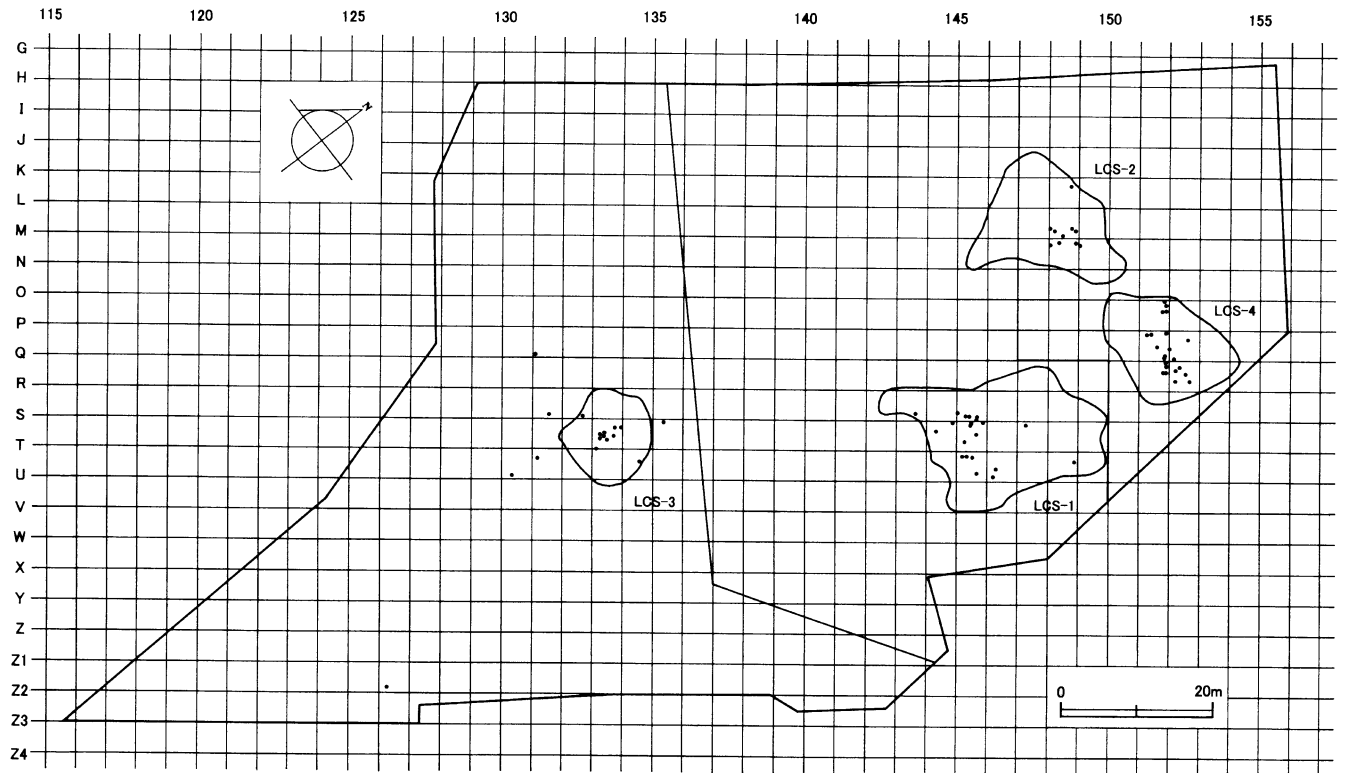
重量では黒曜石3が最も重く2,566.9g(47.6%)で、以下、黒曜石4が1,924.5g(35.3%)、黒曜石5が766.7g(14.3%)、黒曜石1が112.5g(2.1%)、黒曜石7・8が23.3g(0.4%)、黒曜石10が7.2g(0.1%)である。点数の割合に比べて、黒曜石1は重量の割合が低く、黒曜石5は点数に比べて重量の割合が高い。

黒曜石全体の分布は各ブロックを中心に出土し、ブロック周辺及び調査区南側においても散漫な分布が見られる。石質別では、黒曜石1はLCS - 1で61点、LCS - 2で14点、LCS - 3で36点、LCS - 4で66点、ブロック外で25点出土している。黒曜石3・4はほぼ全体から出土し、ブロック内での偏りも見られない。ブロック別ではLCS - 1で536点、LCS - 2で687点、LCS - 3で651点、LCS - 4で422点、ブロック外で149点出土している。黒曜石5はLCS - 1で38点、LCS - 2で16点、LCS - 3で33点、LCS - 4で84点、ブロック外で14点出土している。また、LCS - 2では北西側に分布が偏っている。

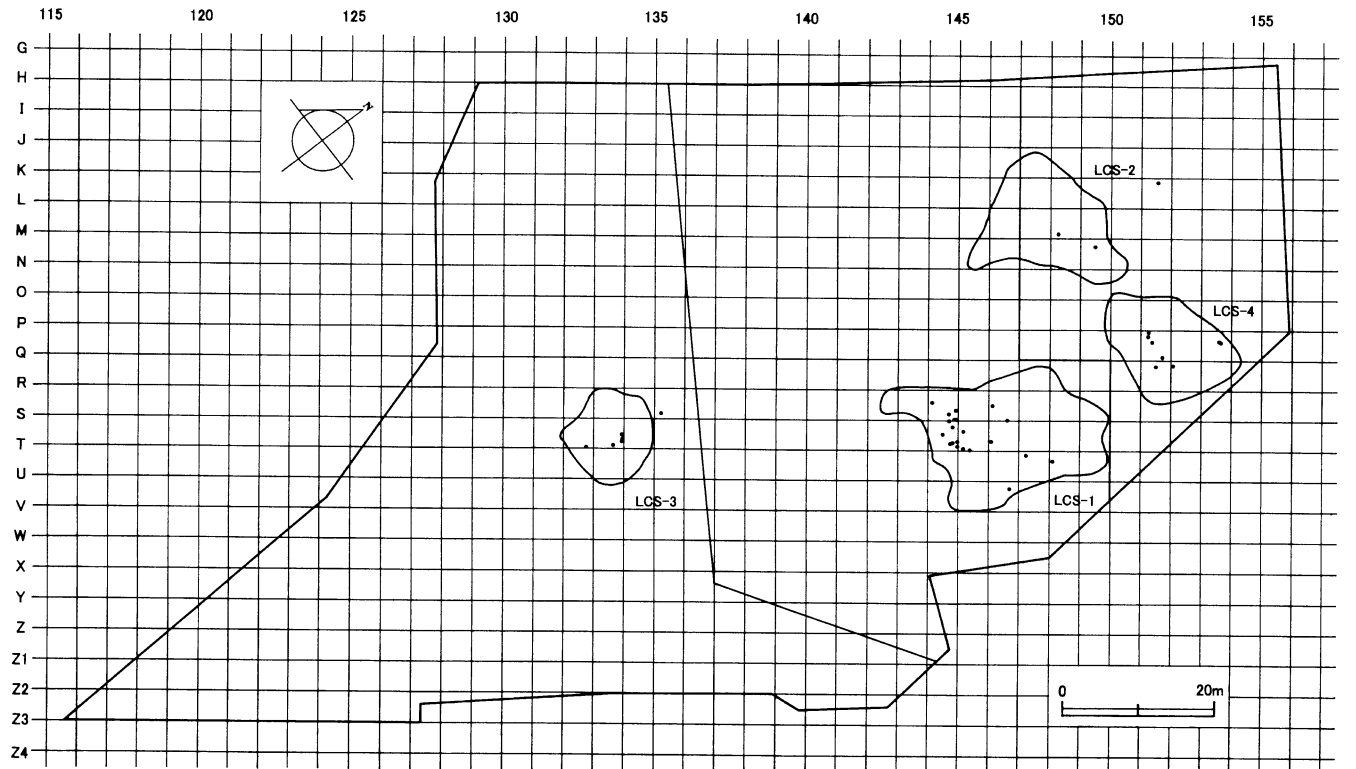
被熱している黒曜石の総点数は399点である。ブロック別では、LCS - 1が76点、LCS - 2が82点、LCS - 3が98点、LCS - 4が129点、ブロック外では14点である。ブロックごとの黒曜石製石器の点数に対する割合は、LCS - 1が11.9%、LCS - 2が11.4%、LCS - 3が13.6%、LCS - 4が21.8%、ブロック外は7.1%である。ブロック内の分布は石器全体の分布にほぼ重なる。LCS - 3はブロックにほぼ重なって細かい炭化物の広がりが見られたが、被熱石器の割合は他のブロックと比べて特には高くない。また、LCS - 4は被熱石器の割合が最も高いが、炭化物の広がりは見られなかった。

原礫面を残す黒曜石の総点数は66点である。ブロック別では、LCS - 1が29点、LCS - 2が12点、LCS - 3が9点、LCS - 4が1点、ブロック外では15点で、ブロック内の分布は石器全体の分布に

頁岩

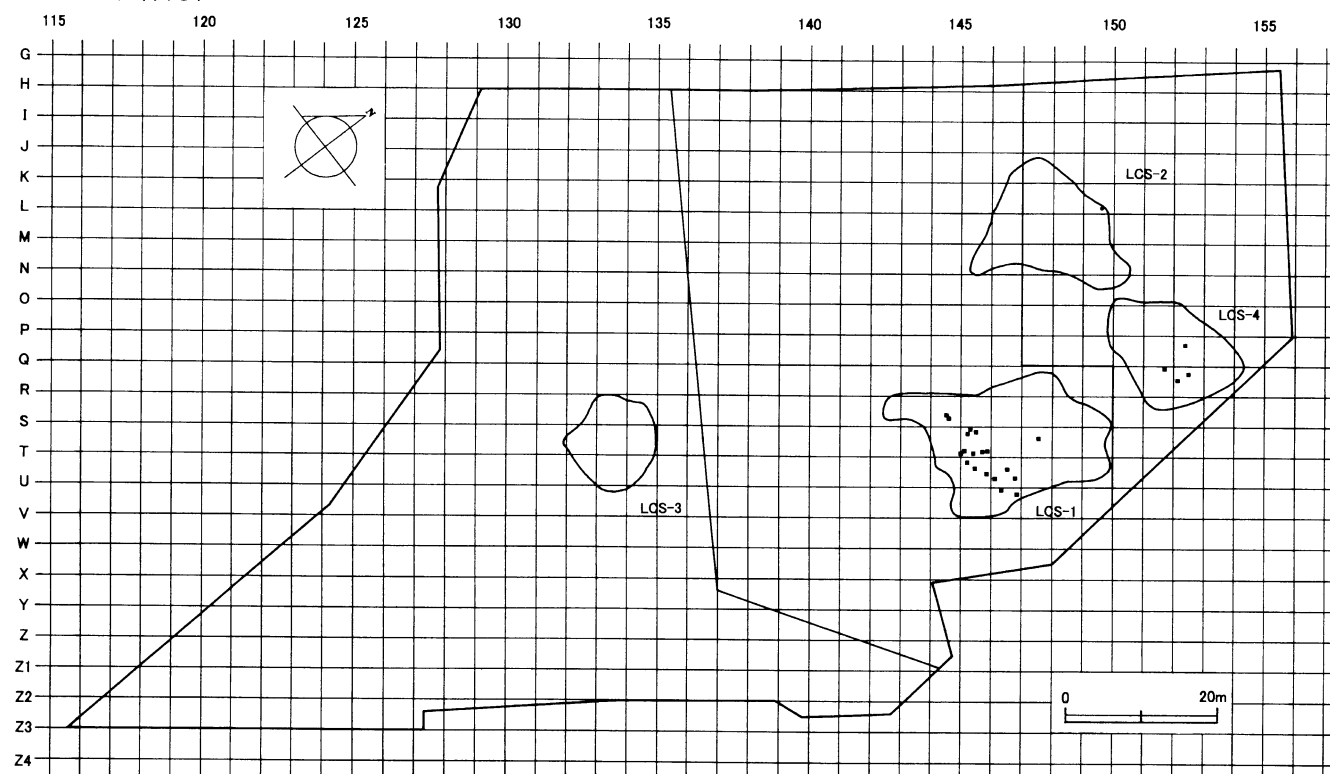


珪岩

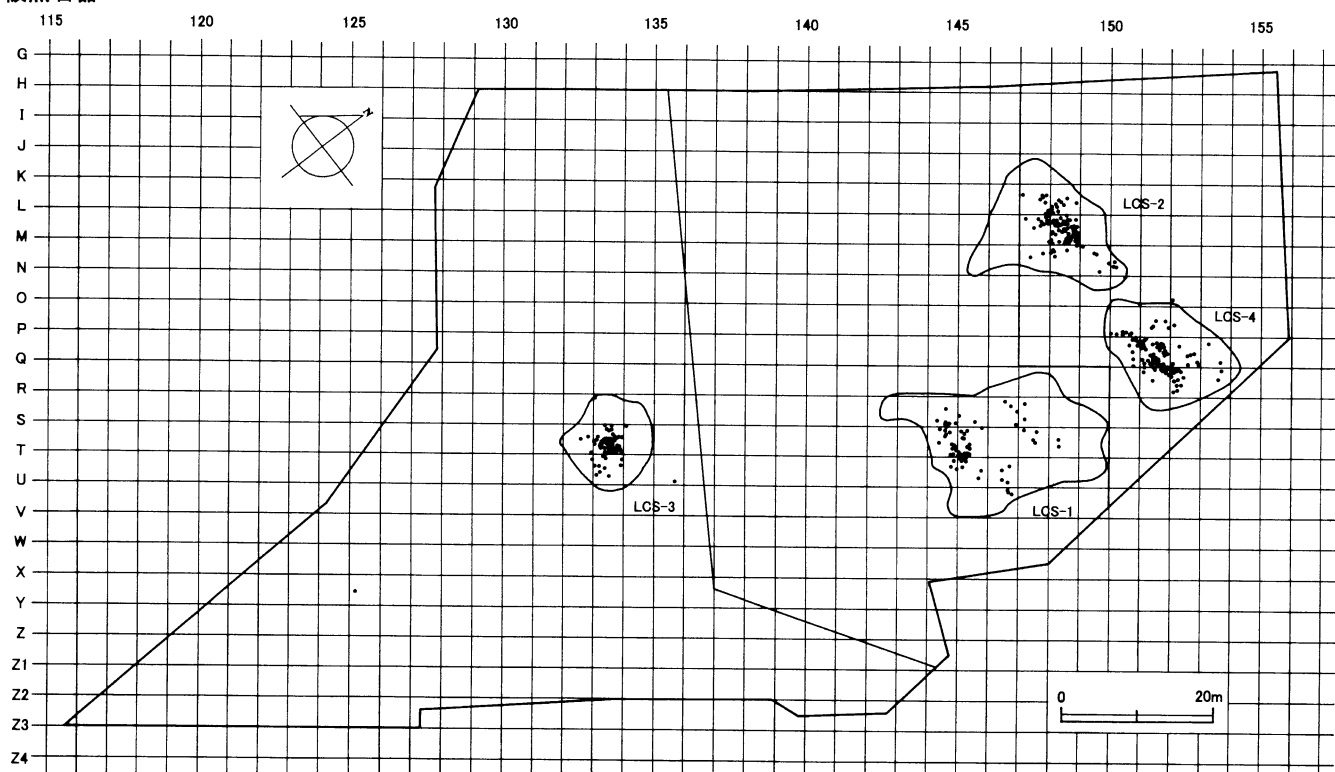


図VI - 7 石材別分布図(3)

砂岩(■)・泥岩(●)



被熱石器



図VI - 8 石材別分布図(4)・被熱石器分布図

ほぼ重なる。ブロックごとの黒曜石製石器の総点数に対する割合は、LCS - 1が4.5%、LCS - 2が1.7%、LCS - 3が1.2%、LCS - 4が0.2%、ブロック外は7.7%である。いずれのブロックも原礫面を大きく除去した状態で黒曜石が搬入されている。

黒曜石以外の石器（図VI - 7・8）

3,031点の内164点（5.4%）が黒曜石以外の石材で、重量は2,312.7gである。その内訳は頁岩81点（49.4%）、珪岩44点（26.8%）、泥岩31点（18.9%）、緑色泥岩3点（1.8%）、砂岩1点（0.6%）、不明4点（2.4%）である。

頁岩はいわゆる珪質頁岩が多い。珪岩はブロック別でみた黒曜石以外の石器の総点数に対する割合は、LCS - 1が29.9%、LCS - 2が6.7%、LCS - 3が6.3%、LCS - 4が9.7%、ブロック外が20.0%である。

重量では頁岩が最も重く、1,058.5g（45.8%）で、以下泥岩1,034.3g（44.7%）、珪岩174.4g（7.5%）、緑色泥岩5.2g（0.2%）、砂岩1.0g（0.1%以下）、不明39.3g（1.7%）である。点数の割合と比べて、珪岩は重量の割合が低く、泥岩は重量の割合が高い。

分布を見ると頁岩、珪岩は各ブロックから出土し、ブロック外ではLCS - 3周辺から散漫に出土している。頁岩はLCS - 1で22点、LCS - 2で12点、LCS - 3で12点、LCS - 4で18点、ブロック外で17点出土している。珪岩はLCS - 1で26点、LCS - 2で2点、LCS - 3で4点、LCS - 4で9点、ブロック外で3点出土している。泥岩はLCS - 1で26点、LCS - 4で4点、ブロック外で1点出土している。緑色泥岩はLCS - 1で3点出土している。砂岩はLCS - 2内の北側から1点出土している。

被熱している石器の総点数は5点で、石材の内訳は頁岩4点、泥岩1点である。頁岩はLCS - 1で1点、LCS - 3で2点、LCS - 4で1点である。泥岩はLCS - 1で1点出土している。

原礫面を残す石器の総点数は33点で、石材の内訳は頁岩5点、珪岩1点、泥岩23点、不明ほか4点である。頁岩はLCS - 2で1点、LCS - 3で1点、LCS - 4で3点出土している。珪岩はLCS - 1で1点出土している。泥岩はLCS - 1で22点、ブロック外で1点出土している。不明ほかはブロック外で4点出土している。

2) 器種別分布状況

細石刃（図VI - 9）

460点出土している。LCS - 1〔102点〕、LCS - 2〔72点〕、LCS - 3〔113点〕、LCS - 4〔149点〕で見られる。ブロック外から24点出土している。石材は全て黒曜石である。

細石刃核（図VI - 9）

11点出土している。LCS - 1〔3点〕、LCS - 2〔1点〕、LCS - 3〔2点〕、LCS - 4〔5点〕で見られる。LCS - 3は2点とも未製品で、LCS - 4は未製品を1点含む。石材は全て黒曜石である。

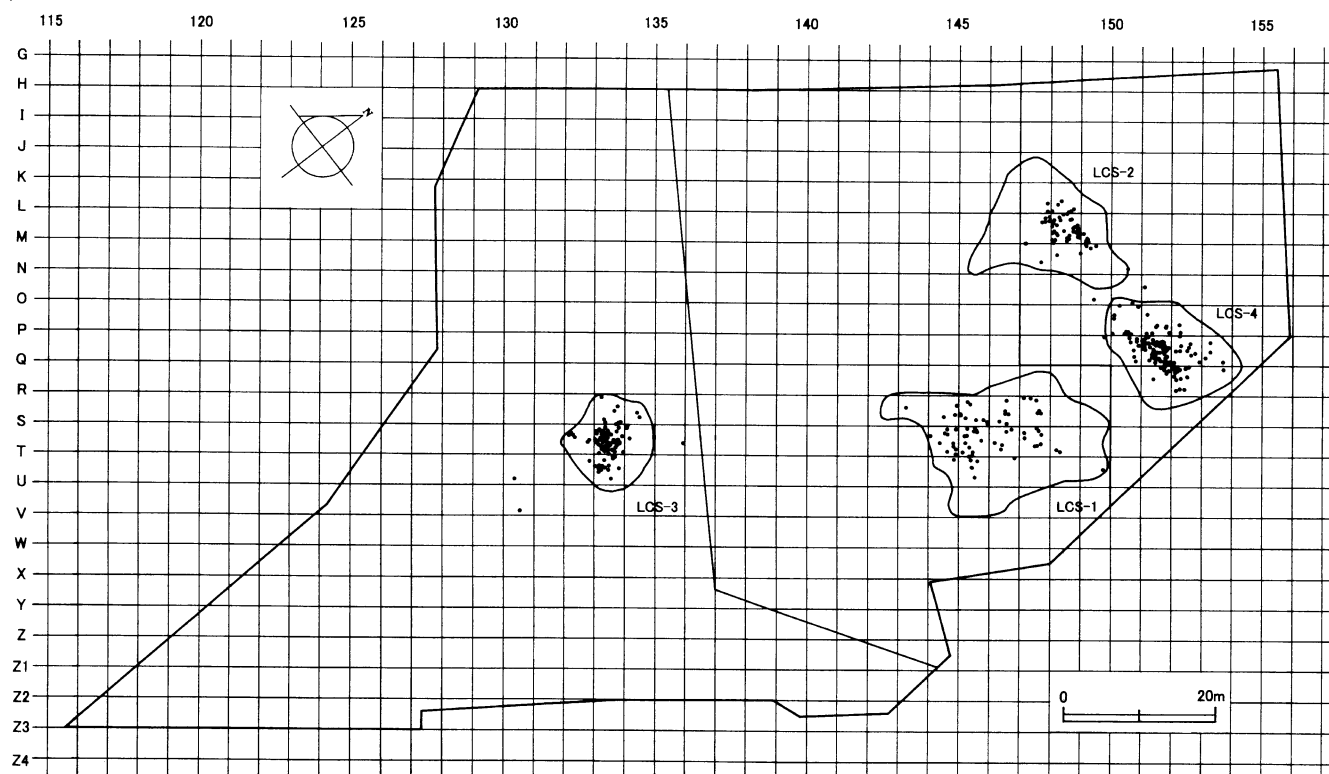
細石刃核削片（図VI - 10）

14点出土している。LCS - 1〔1点〕、LCS - 3〔6点〕、LCS - 4〔6点〕で出土し、ブロック外では1点出土している。LCS - 2では出土していない。石材は全て黒曜石である。

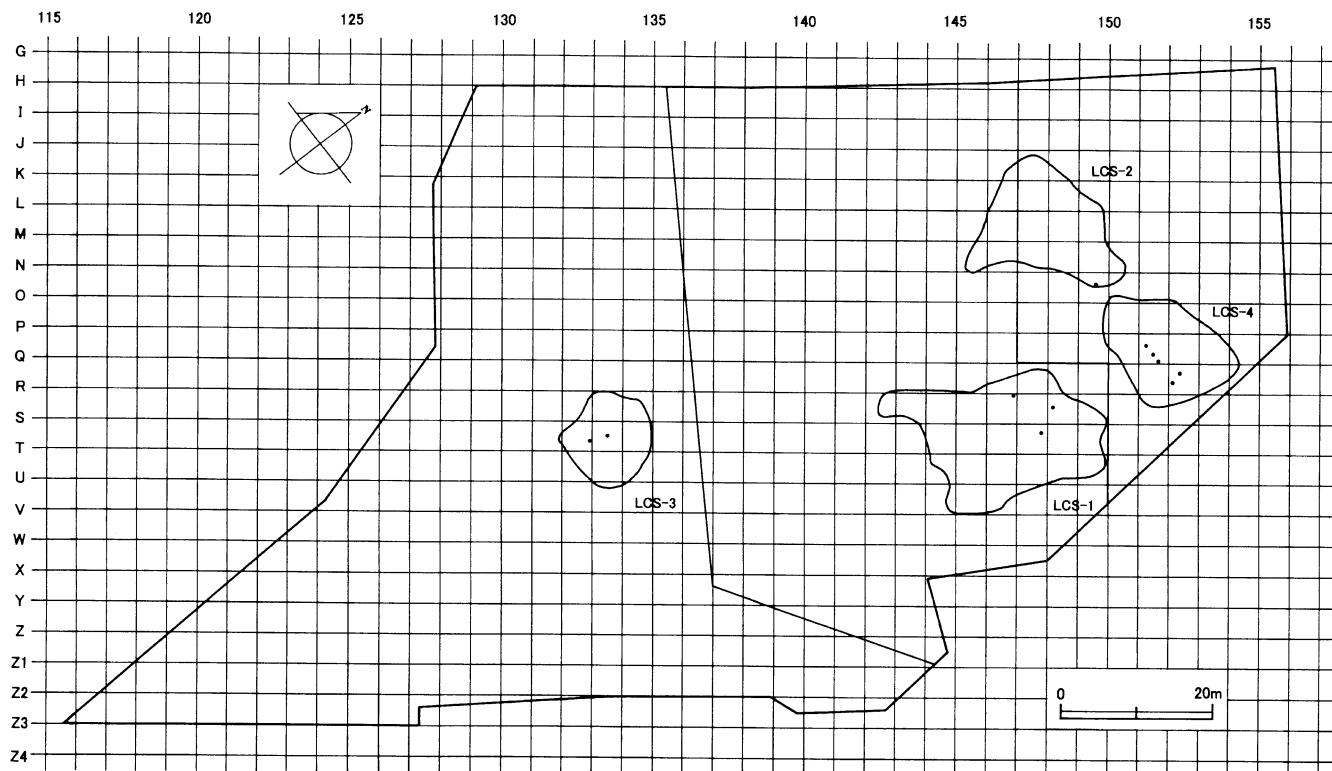
彫器削片（図VI - 10）

10点出土している。LCS - 1〔3点〕、LCS - 2〔2点〕、LCS - 3〔3点〕、LCS - 4〔2点〕で見られる。石材は、LCS - 1・2は黒曜石、LCS - 3は黒曜石〔1点〕・珪岩〔2点〕、LCS - 4は頁岩でブロックごとに傾向が異なる。

細石刃

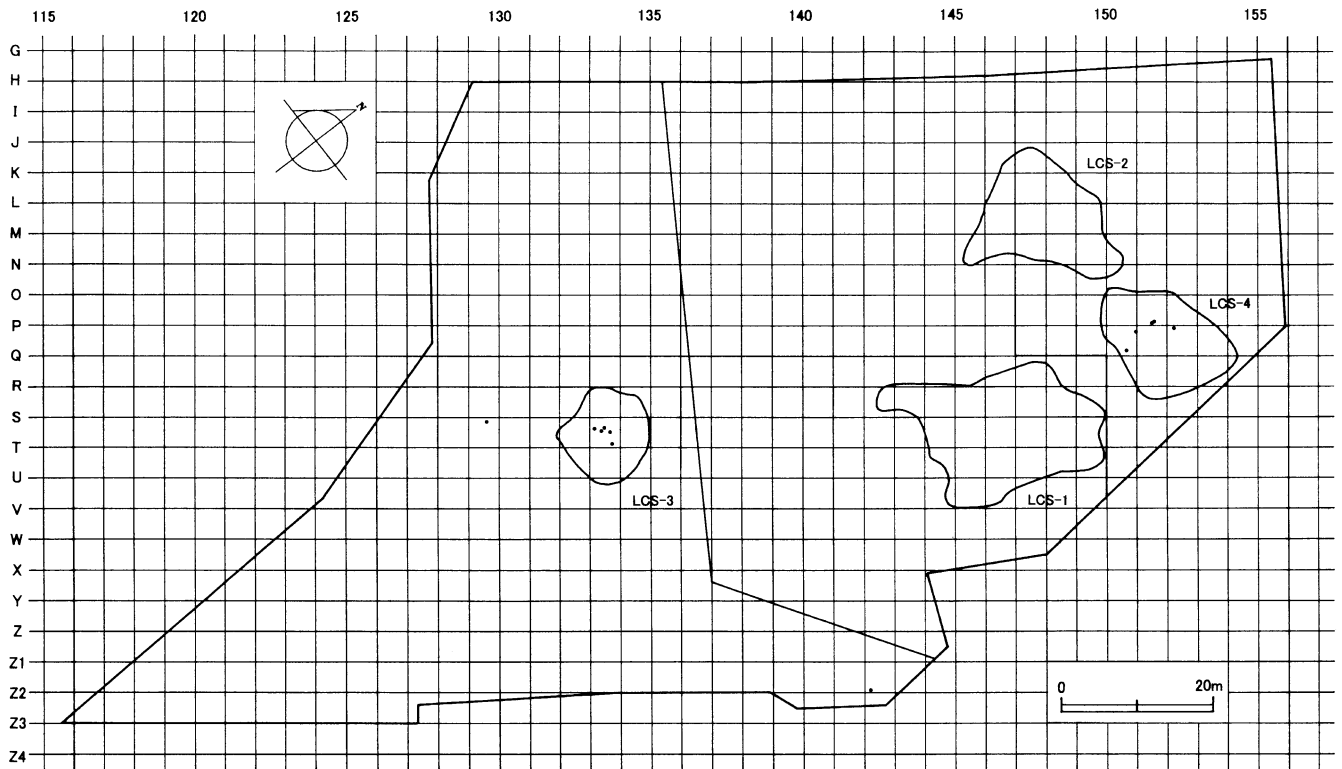


細石刃核

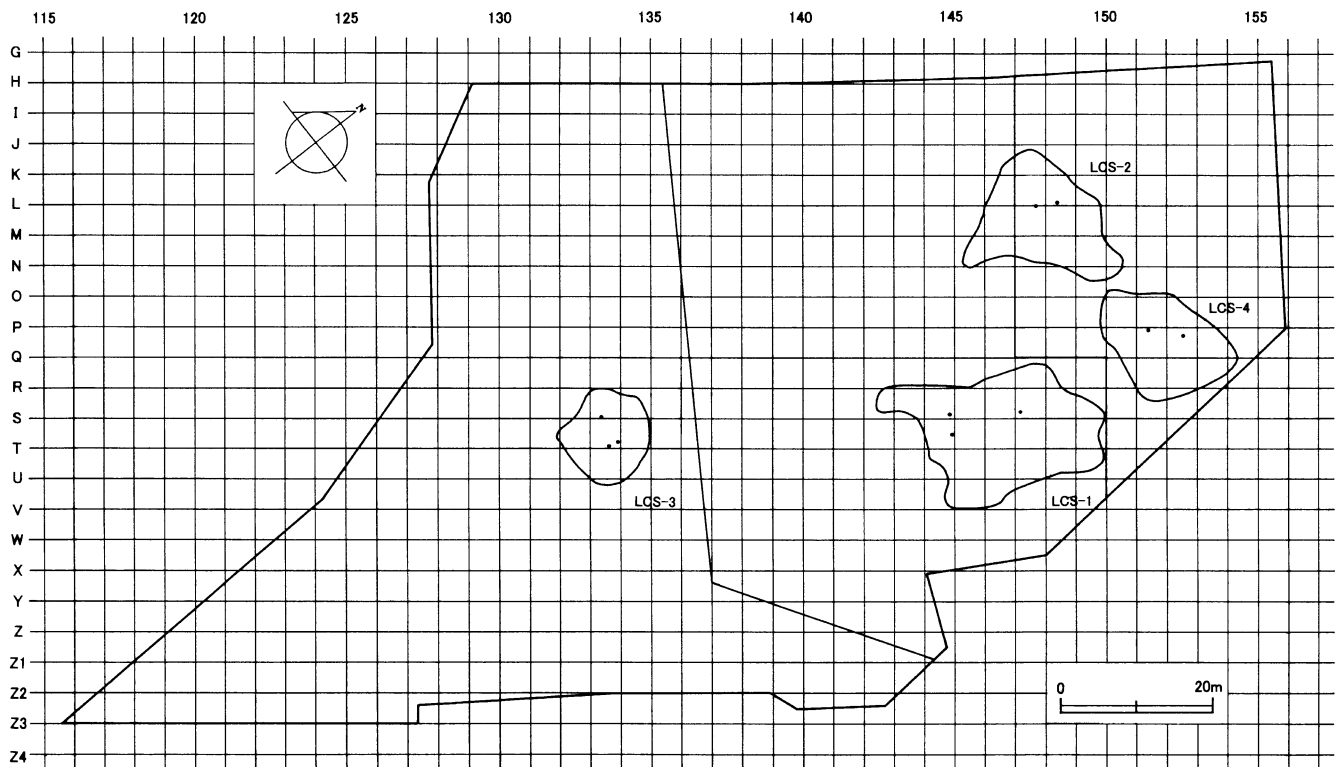


図VI - 9 器種別分布図(1)

細石刃核削片

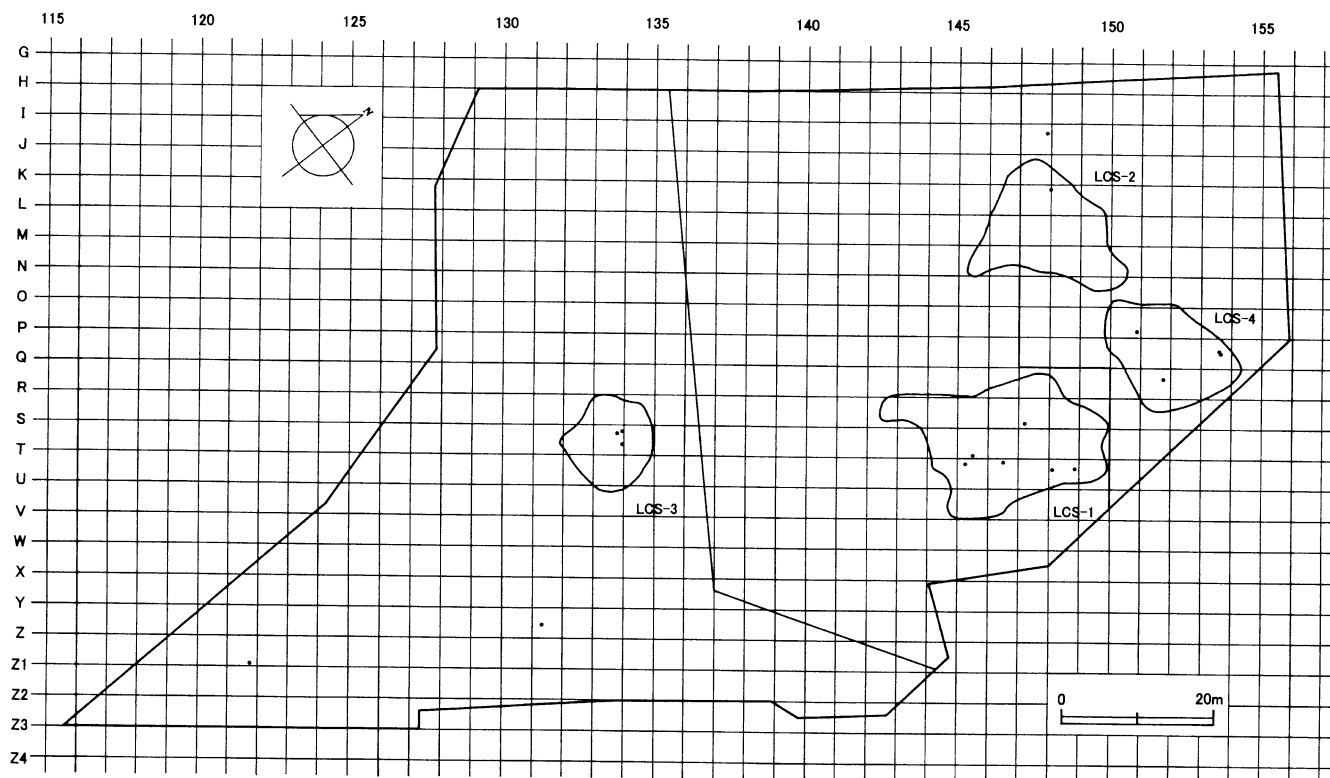


彫器削片

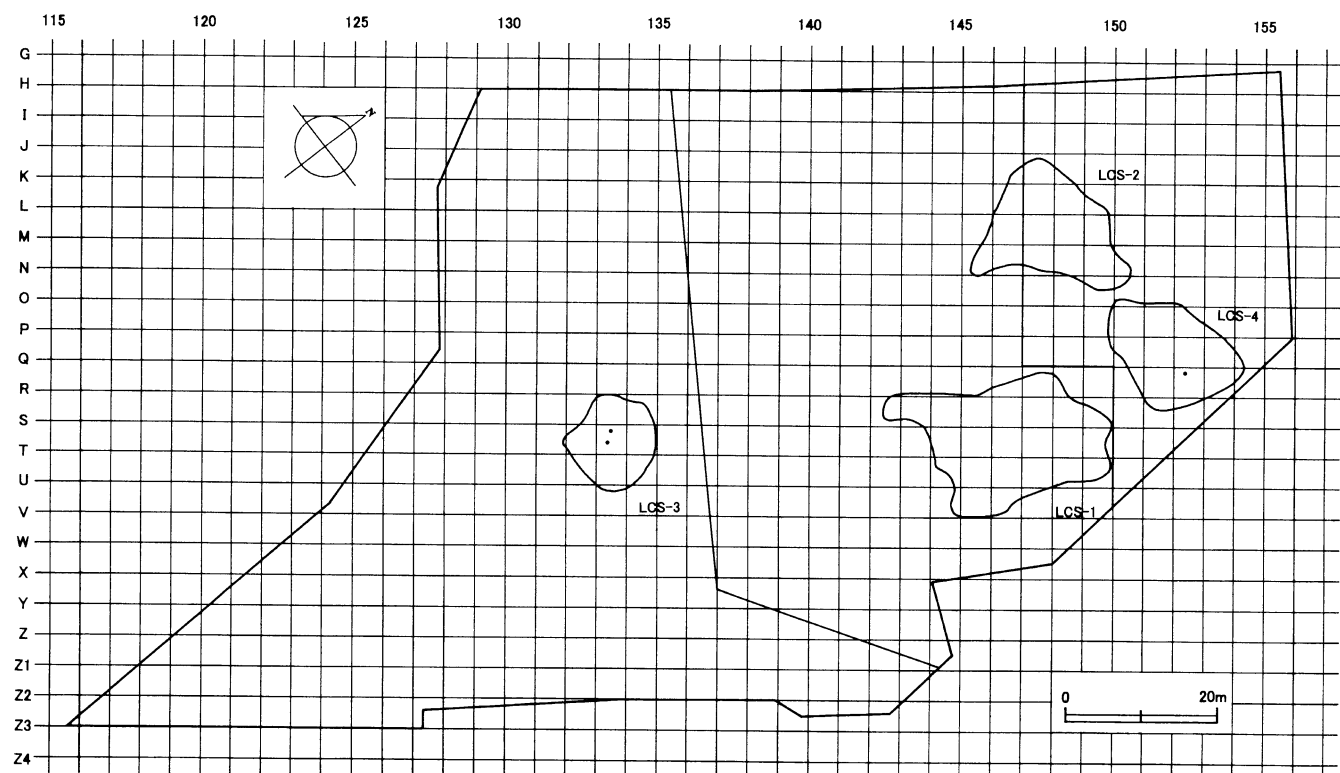


図VI - 10 器種別分布図(2)

彫器

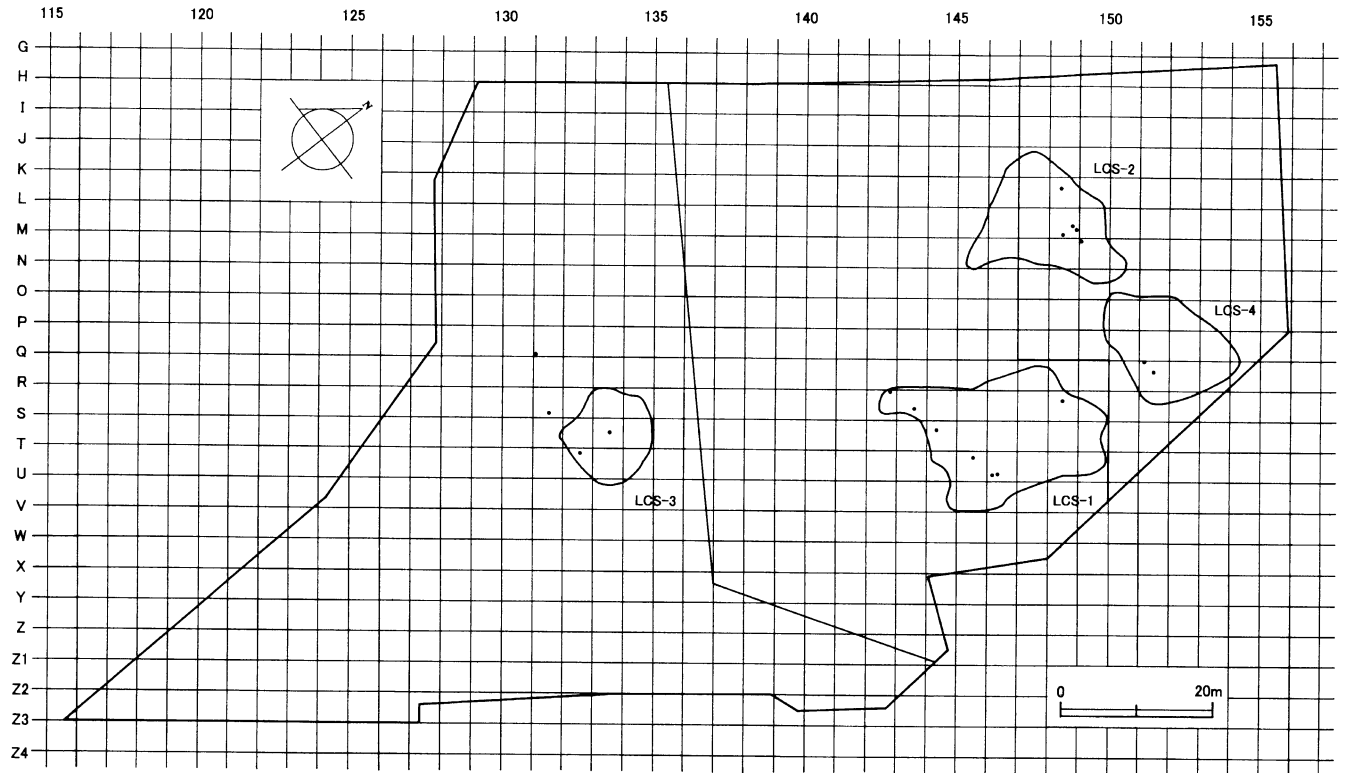


両面調整石器

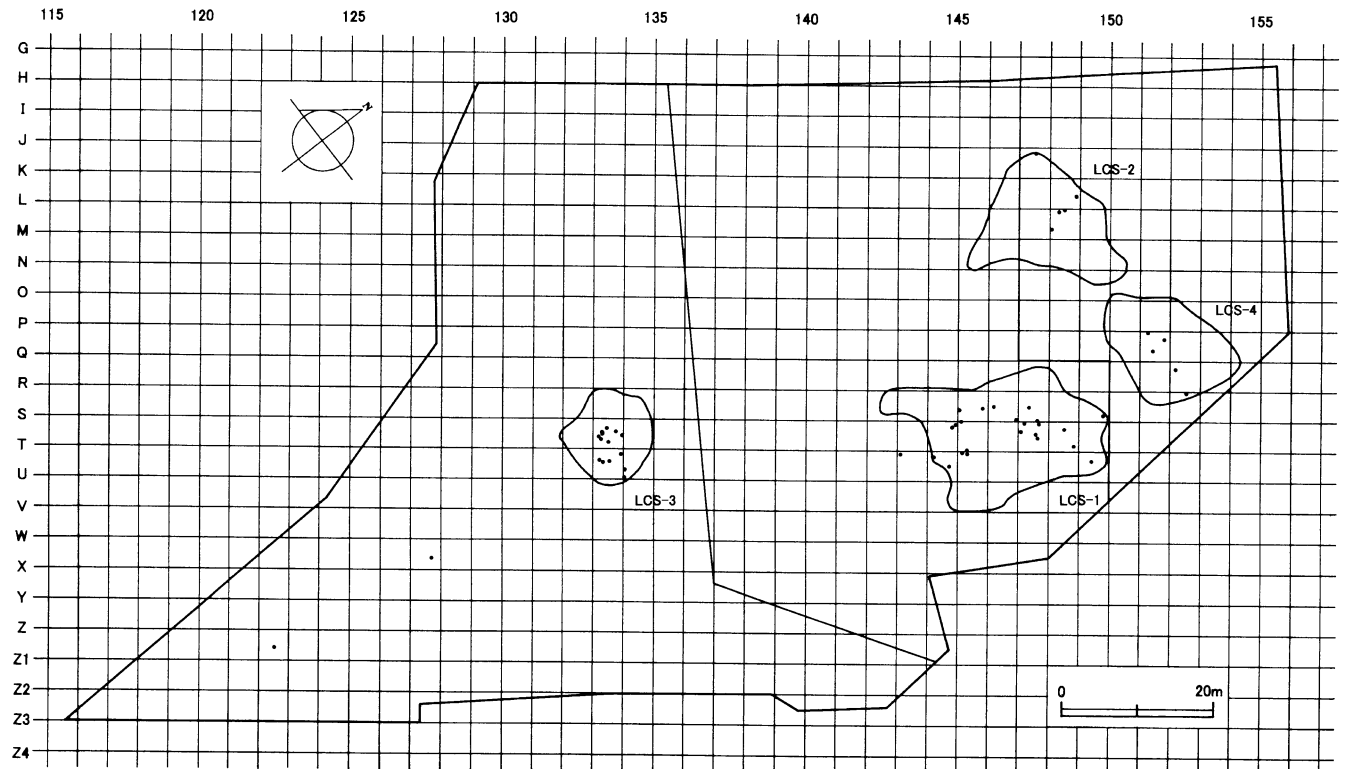


図VI - 11 器種別分布図(3)

掻器

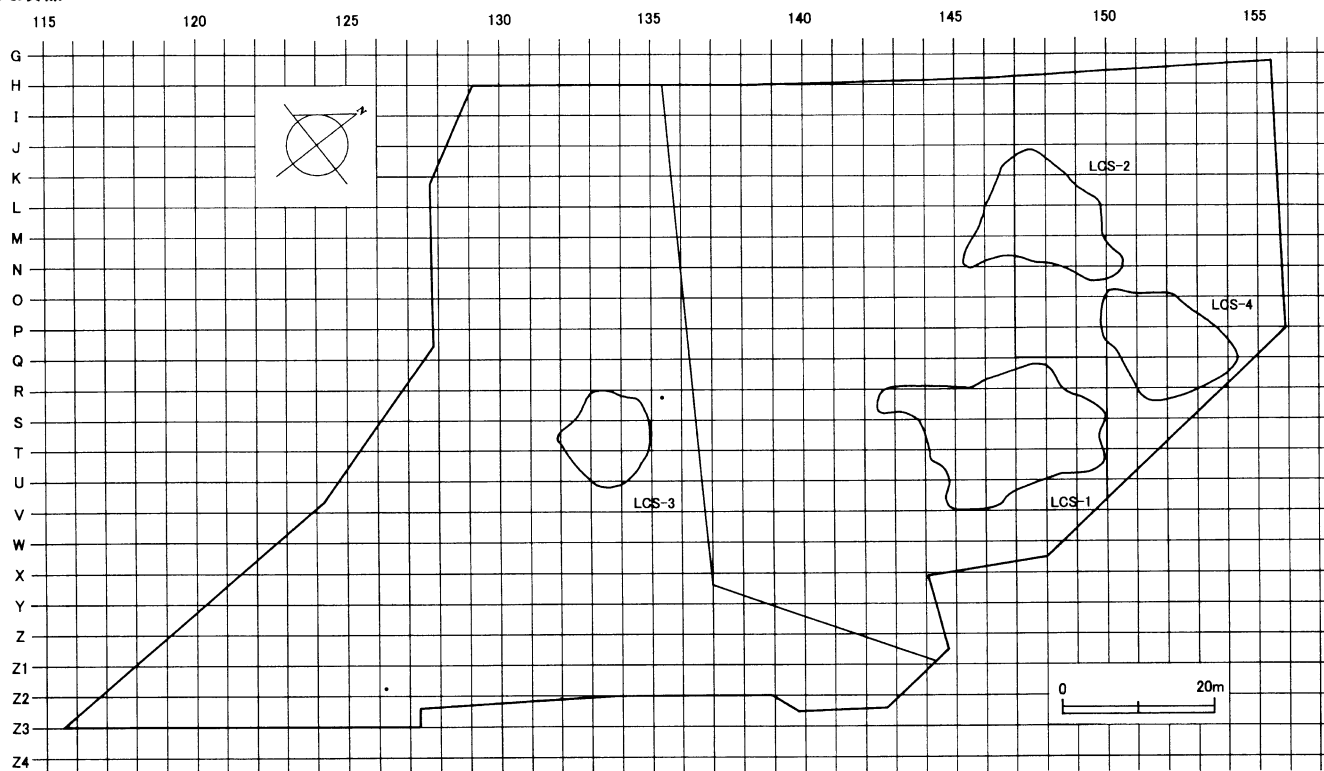


削器

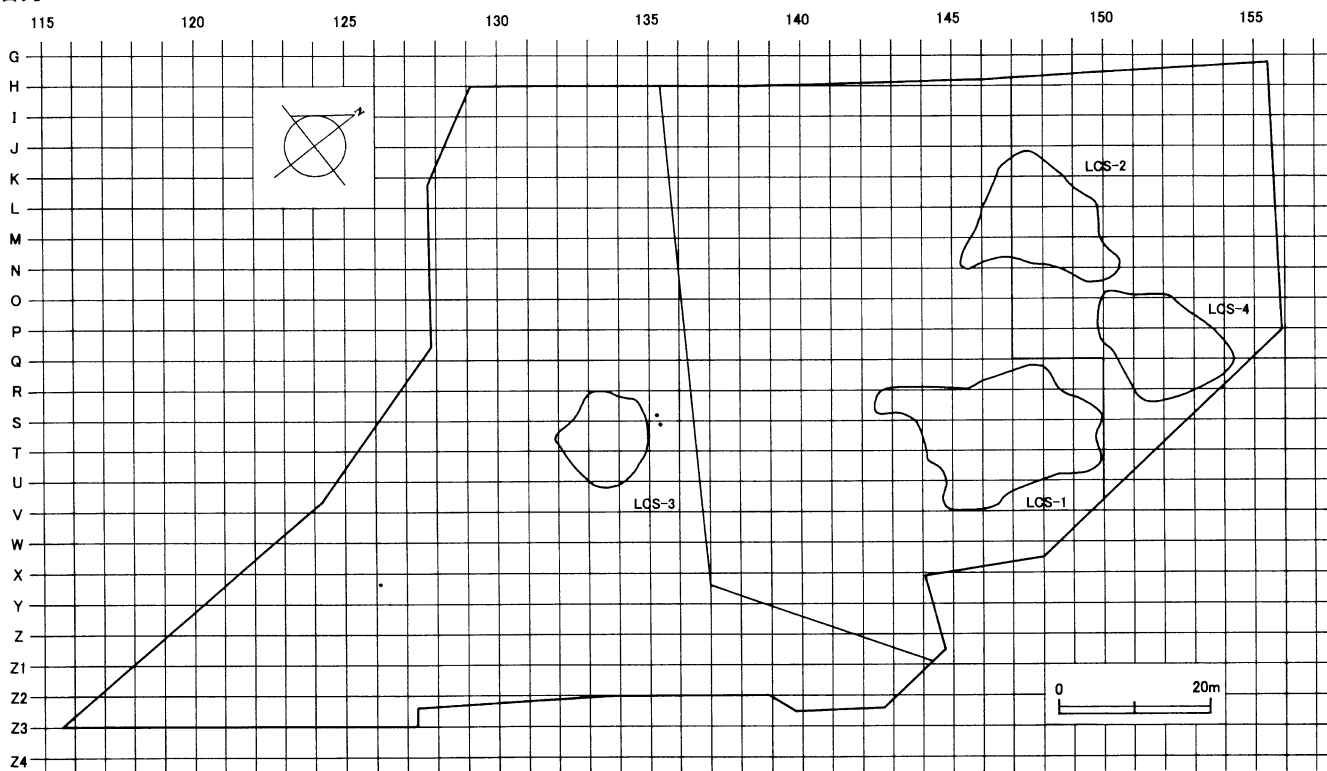


図VI - 12 器種別分布図(4)

尖頭器

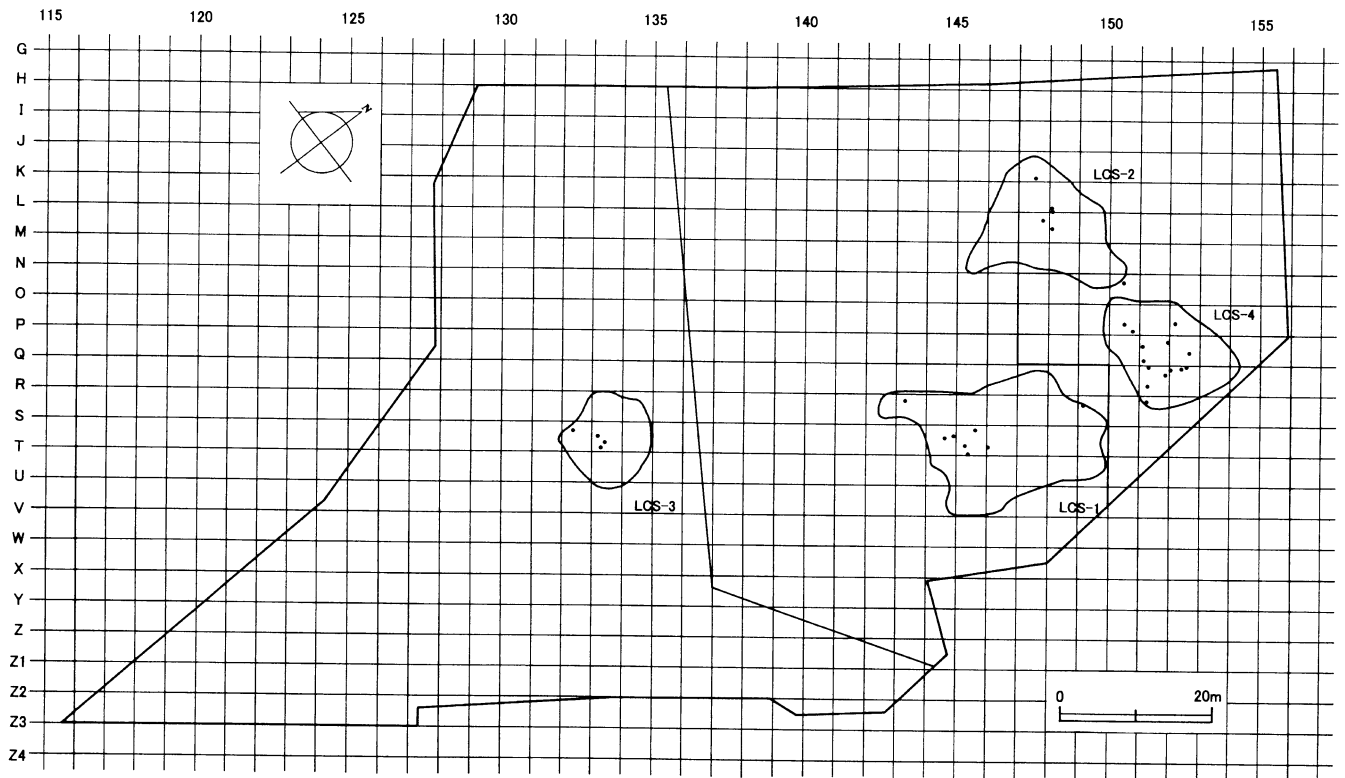


石刃

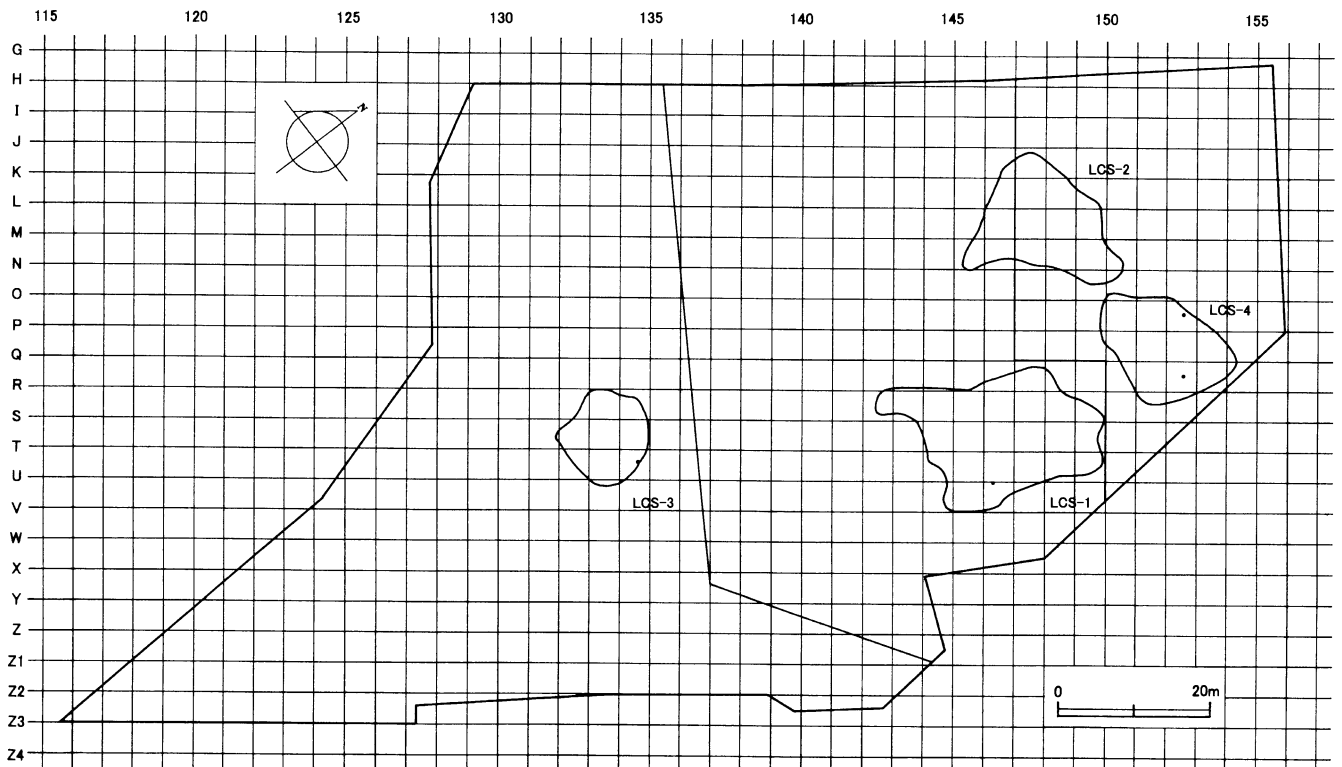


図VI - 13 器種別分布図(5)

二次加工ある剥片

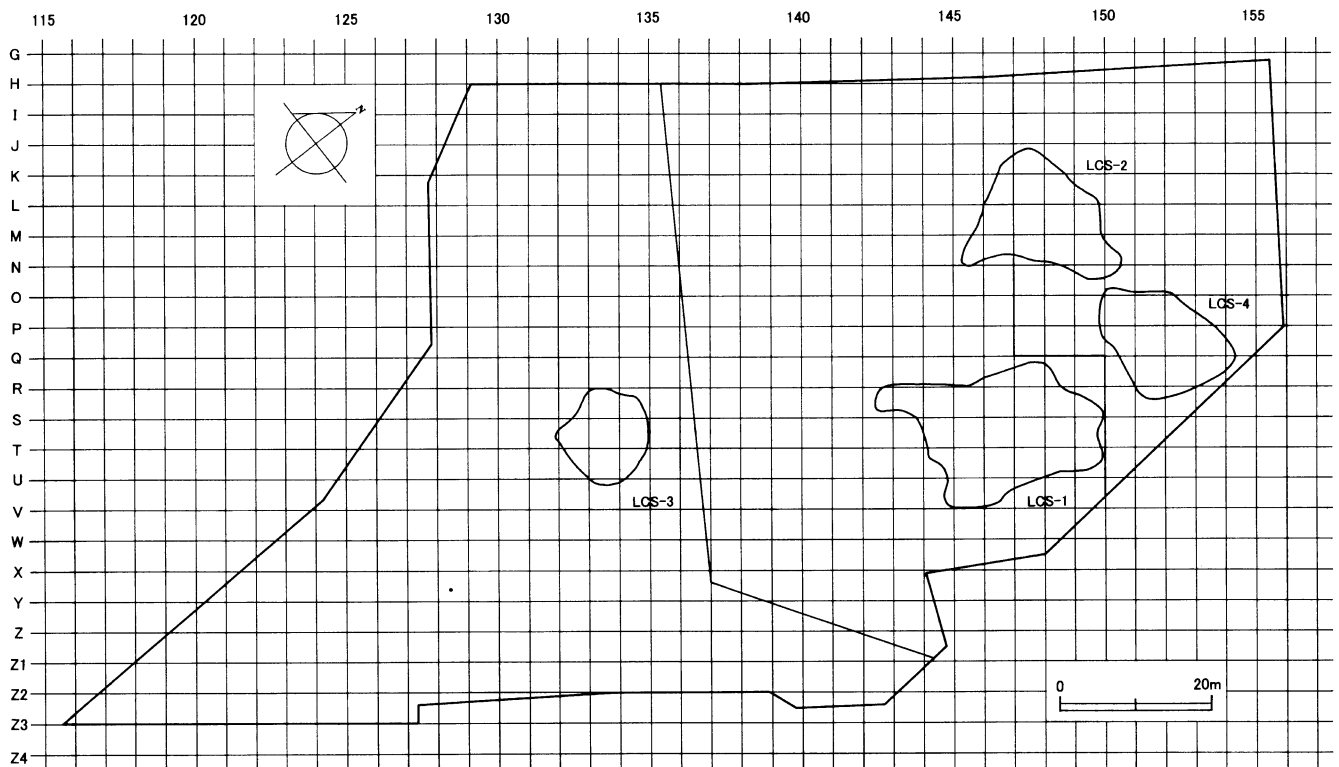


石核



図VI - 14 器種別分布図(6)

石斧



図VI - 15 器種別分布図(7)

彫器 (図VI - 11)

18点出土している。LCS - 1〔6点〕、LCS - 2〔1点〕、LCS - 3〔3点〕、LCS - 4〔5点〕で見られる。ブロック外からは3点出土している。石材は18点中黒曜石が7点(38.9%)で、珪岩6点(33.3%)、頁岩5点(27.8%)である。ブロック別では、LCS - 1が黒曜石〔2点〕、頁岩〔2点〕、珪岩〔2点〕、LCS - 2が黒曜石〔1点〕、LCS - 3が頁岩〔2点〕・珪岩〔1点〕、LCS - 4が黒曜石〔2点〕・頁岩〔1点〕・珪岩〔2点〕で、ブロックごとに複数の石材が見られる。

両面調整石器 (図VI - 11)

5点出土している。LCS - 1〔2点〕、LCS - 3〔2点〕、LCS - 4〔1点〕で見られ、石材は黒曜石〔2点〕と頁岩〔3点〕である。頁岩製は小形で薄身のもので、LCS - 2以外の各ブロックから出土している。

搔器 (図VI - 12)

21点出土している。LCS - 1〔7点〕、LCS - 2〔5点〕、LCS - 3〔2点〕、LCS - 4〔2点〕で、各ブロックで見られる。ブロック外からは5点出土している。石材は21点中10点(47.6%)が頁岩で、以下黒曜石9点(42.8%)、珪岩1点(4.8%)、不明1点(4.8%)である。ブロック別にみると、LCS - 1が頁岩〔4点〕・黒曜石〔2点〕・珪岩〔1点〕、LCS - 2が頁岩〔4点〕・黒曜石〔1点〕、LCS - 3が黒曜石〔2点〕、LCS - 4が黒曜石〔2点〕、ブロック外では黒曜石〔2点〕・頁岩〔2点〕・不明〔1点〕である。出土点数の多いブロックでは石材の種類が複数見られる傾向がある。

削器 (図VI - 12)

55点出土している。LCS - 1〔25点〕、LCS - 2〔6点〕、LCS - 3〔13点〕、LCS - 4〔7点〕で、各ブロックで見られる。ブロック外からは4点出土している。石材は55点中49点(89.1%)が黒曜石

で、頁岩4点(7.3%)、珪岩2点(3.6%)である。ブロック別では、LCS - 2・3は全て黒曜石で、LCS - 1は黒曜石〔23点〕・頁岩〔1点〕・珪岩〔1点〕、LCS - 4では黒曜石〔3点〕・頁岩〔3点〕・珪岩〔1点〕である。

尖頭器(図VI - 13)

2点出土している。2点ともブロック外出土で、石材は黒曜石〔1点〕と頁岩〔1点〕である。

石刃(図VI - 13)

7点出土している。全てブロック外出土で、石材は頁岩〔5点〕・黒曜石〔2点〕である。

二次加工ある剥片(図VI - 14)

44点出土している。LCS - 1〔11点〕、LCS - 2〔5点〕、LCS - 3〔5点〕、LCS - 4〔14点〕で、各ブロックで見られる。ブロック外からは9点出土している。石材は44点中41点(93.2%)が黒曜石で、3点(6.8%)が珪岩である。珪岩製は全てLCS - 1から出土している。

石核(図VI - 14)

5点出土している。LCS - 1〔2点〕、LCS - 3〔1点〕、LCS - 4〔1点〕で見られる。ブロック外で1点出土している。石材は黒曜石〔1点〕、頁岩〔2点〕と、泥岩〔2点〕である。

石斧(図VI - 15)

1点出土している。ブロック外出土で、石材は泥岩である。

(3) ブロック2～4(LCS - 2～4)出土の石器(図VI - 16～24、図版82～89)

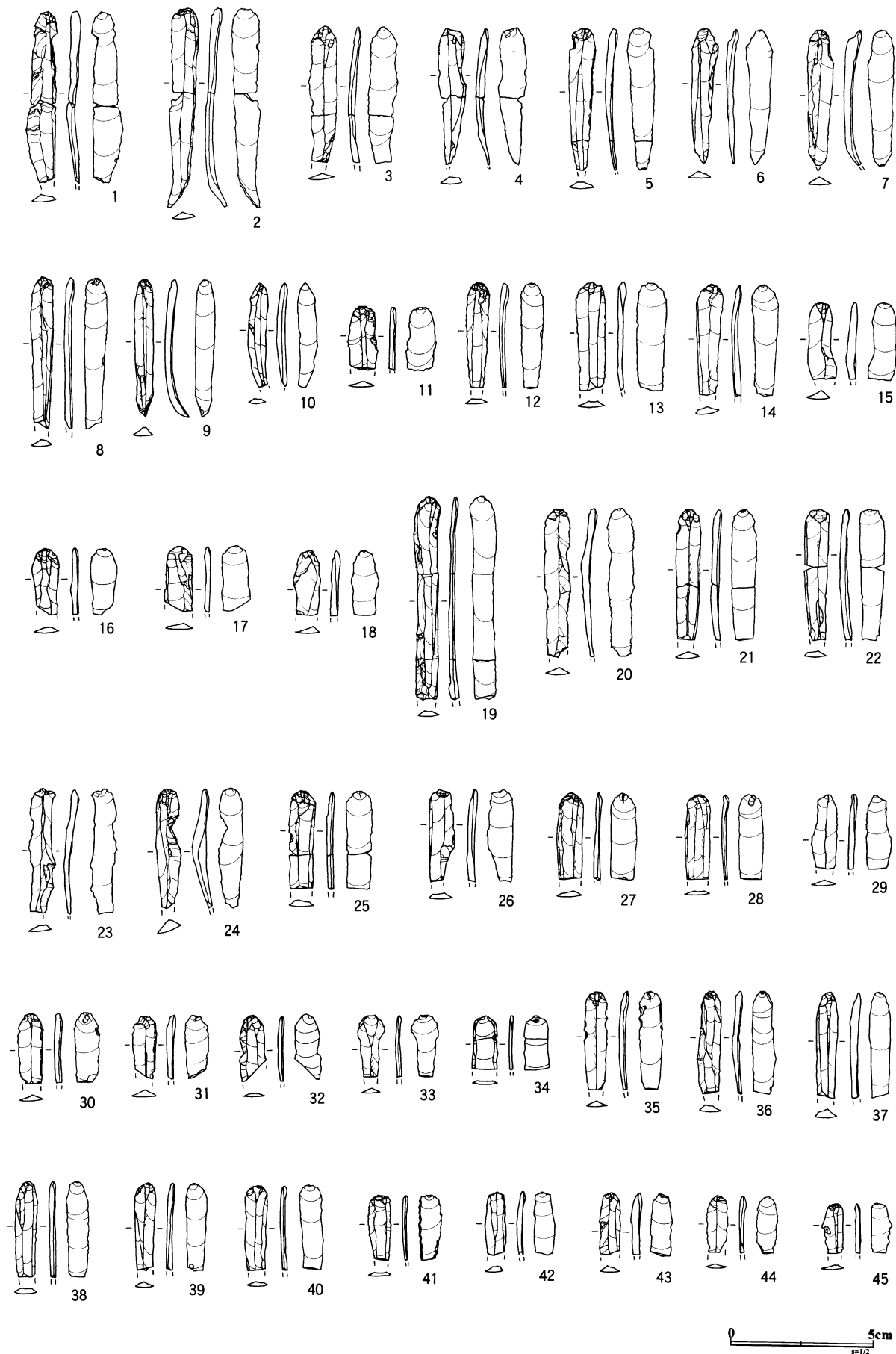
細石刃334点、細石刃核8点、細石刃核削片12点、彫器削片7点、彫器9点、両面調整石器3点、搔器9点、削器26点、二次加工ある剥片24点、剥片1,660点、石核2点の計2,094点、重量4,186.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石が最も多い。内訳は、黒曜石3・4が1,760点(84%)で最も多く、以下黒曜石5が133点(6.4%)、黒曜石1が116点(5.5%)、黒曜石10が23点(1.1%)である。黒曜石以外では頁岩42点(2.0%)、珪岩15点(0.7%)、泥岩4点(0.2%)、砂岩1点(0.1%以下)である。

なお、ここではLCS - 2～4以外のLCS - 1未報告の石器や、ブロック付近から出土した同一の石器群と考えられる石器も一部掲載している。

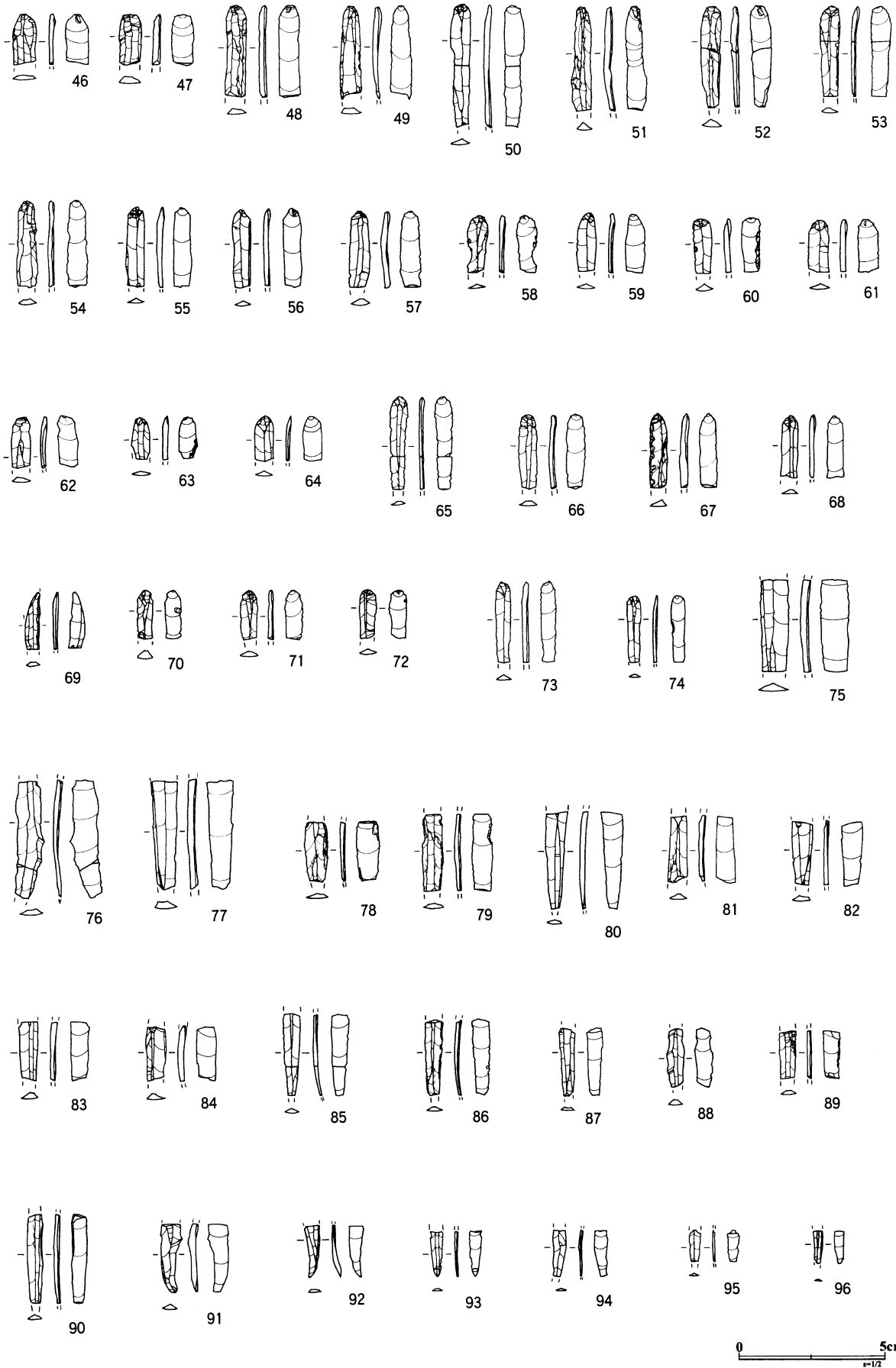
細石刃(図VI - 16 - 1～図VI - 17 - 96、図版82・83)

334点(折れ面接合の結果316個体)出土しており、その内93点を図示している。9(LCS - 1出土・再掲載)、41・78(ブロック外出土)は原産地分析を行ったためここで掲載している。全体的に完形のもの少なく、折れたものがほとんどである。1～10は完形ないし完形に近いもので、11～74は打面部、75～90は中間部、91～96は先端部である。部位ごとのまとまりの中では幅のあるものから並べている。打面は点状のものが多い。1～4・6・9・10・15～20・22～24・26・32・34・36・42・43・47～49・51・54・56・57・61・67・76・84・86～88・91・92・94は背面に細石刃核の側面を持っている。31・53・69・78・79・89は背面右側縁に二次加工が見られるものである。63・78・93の背面には側縁に平行して線状の傷がみられる。

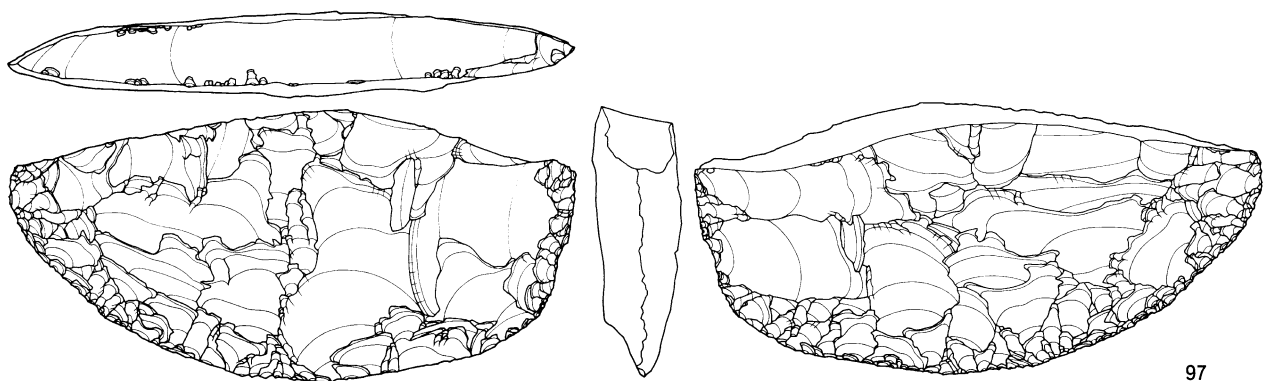
欠損品が多いため、長さが不明のものが多いが、完形のもので最も長いものは71mm(2)、折損品では72mmのもの(19)が含まれている。また、先端部は腹面側にやや湾曲するものが多い。幅は3～11mmまでである。石材は全て黒曜石である。41・78は比較的透明度の高い黒曜石1を石材とする。原産地分析の結果、11・27・30・39・67・71は赤石山産、41・78は所山産、58・81は十勝産、9は札幌K19遺物群と判定されている。



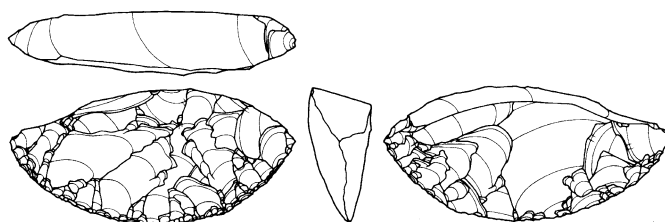
図VI - 16 LCS - 2 ~ 4の石器(1) 細石刃



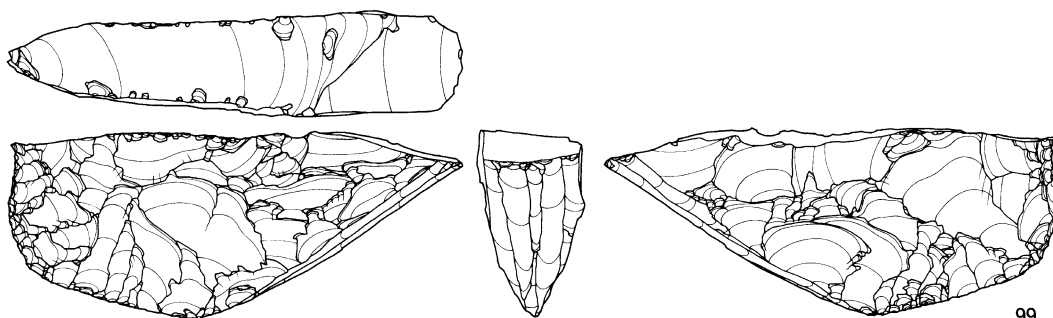
図VI - 17 LCS - 2 ~ 4の石器(2) 細石刃



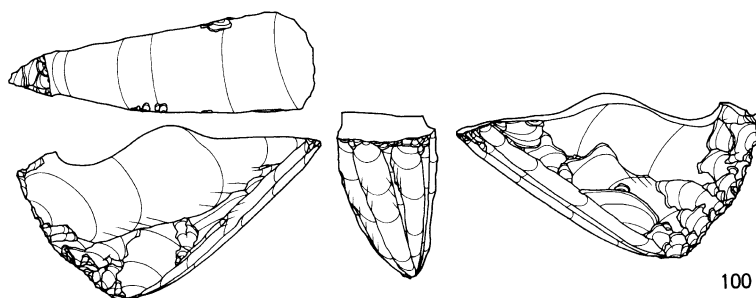
97



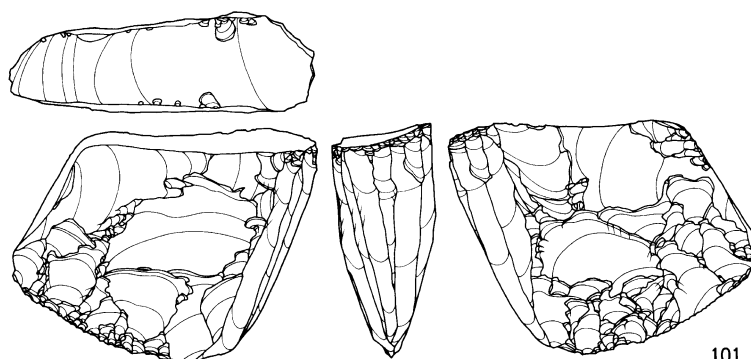
98



99



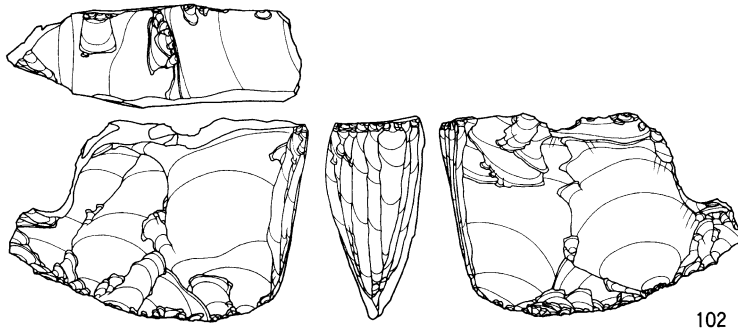
100



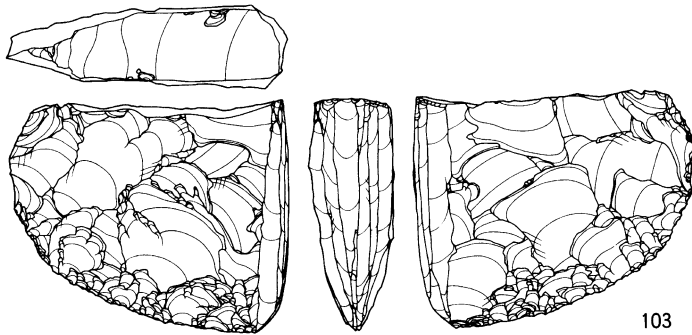
101



図VI - 18 LCS - 2 ~ 4の石器(3) 細石刃核



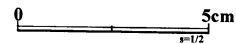
102



103



104



図VI - 19 LCS - 2 ~ 4の石器(4) 細石刃核

細石刃核 (図VI - 18 - 97 ~ 図VI - 19 - 104、図版84・85)

8点(8個体)出土しており、全点図示している。97・98・104は細石刃剥離痕のないもの(未製品)、99~103は細石刃剥離痕のあるものである。全て原礫面を残さないため素材は不明だが、整った形状であるため石核素材の可能性もある。97は左右両面ともに平坦剥離と縁辺部の細かな加工で構成されている。甲板面には二回削片を剥離した痕跡があり、一回目の剥離は右側面にねじれ、削片剥離後、剥離痕の両側縁に側面から細かな加工が行われている。二回目の剥離は左側面にねじれ、打点近くで左側面に抜けている。二回目の削片剥離後、剥離痕の打点部付近に左側面から細かい加工が行われている。98は、左側面は平坦剥離と縁辺部の細かな加工で構成され、右側面は下縁からの加工とそれを切る縁辺部周辺の細かい加工で整形されている。甲板面に三回の削片剥離痕があり、一回目の剥離は右側面にねじれ、二、三回目の剥離は打点近くで止まっている。99は左右両面ともに平坦剥離と

縁辺部の細かな加工で母型を作成した後、削片を剥離している。甲板面には二回削片を剥離した痕跡があり、一回目の削片剥離の後に細石刃を剥離している。次に一回目の削片剥離の打点と逆側にノッチ状の打面を作り出した後、二回目の削片剥離を行っている。その後甲板面から細かな側面調整が行われ、さらに側面から甲板面にも細かな加工が行われるが、細石刃剥離は行われていない。100は左右両面ともに、側縁及び下縁からの大きな加工と側縁からの細かな加工によって構成されている。甲板面には二回の削片剥離痕がある。二回目の削片剥離で末端部がヒンジになり、突出部について打点側から加工を行っている。101は左右両面ともに平坦剥離と縁辺部の細かな加工で構成されている。甲板面には一回削片を剥離した痕跡がある。削片剥離後細石刃を剥離し、最終的に廃棄されている。102は、左側面は全て下縁部から、右側面は上縁部と下縁部から加工が行われている。甲板面には二回削片を剥離した痕跡があり、一回目の削片剥離後、甲板面から右側面に、また、右側面から甲板面に調整が行われている。二回目の削片剥離後、細石刃を剥離している。また、全面に細かな傷が見られる。103は両側面を平坦剥離で加工した後、縁辺部に細かな加工が行われている。甲板面には一回の削片剥離痕があり、削片剥離後に細石刃を剥離している。104は左右両面ともに平坦剥離と縁辺部の細かな加工で構成される。甲板面には一回削片を剥離した痕跡があり、剥離は右側面に大きくねじれている。接合資料(母岩13・接合46)から削片剥離時に折れていることがわかり、その後、甲板面から左側面に加工を行った後、廃棄されている。

石材は全て黒曜石である。同一母岩の資料等の原産地分析を行った結果、98・101・102・104が赤石山産と判定されている。

細石刃核削片(図VI - 20 - 105~図VI - 21 - 112、図版86)

12点(9個体)出土しており、8点を図示している。105・106は断面三角形の一次削片である。どちらも側面の上縁がやや丸みを帯びる。105の断面形はほぼ二等辺三角形で、末端部側を欠失する。打面形状からノッチ状の打面から剥離されていたと考えられる。106は3点が折れ面接合したもので、末端部側を欠失する。断面形は、腹面が大きく傾いて左側面が長くなっている。106は104に接合する削片である。

107~112は二次削片である。107は先行の削片剥離後、甲板面から左側面に調整を加えた後に剥離されている。108は上面に4本の削片剥離痕が残る。先行の削片剥離後、調整は行われずに剥離されるが中央付近で折損し下部に抜けている。109は先行の削片剥離後、調整は行われずに剥離されている。腹面はやや右に傾いている。上面には2本の削片剥離痕が残り、先行する剥離痕は次の削片剥離とは逆方向から剥離を行っている。110は先行の削片剥離後、甲板面から両側面の一部に調整を加えた後、逆方向から剥離を行っている。111・112は先行の削片剥離後、打点付近の調整を行った後に剥離されている。110~112は97の削片である。

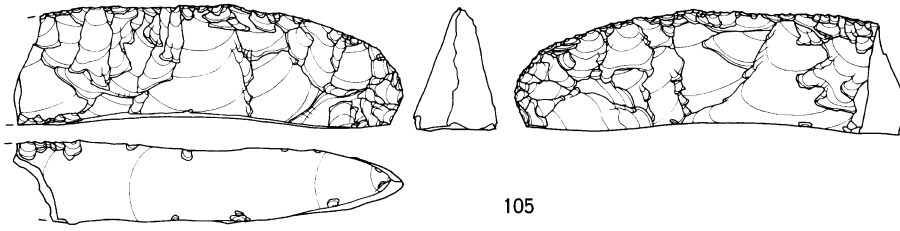
石材は全て黒曜石製である。原産地分析を行った結果、109が赤石山産と判定されている。

彫器削片(図VI - 21 - 113~118、図版86)

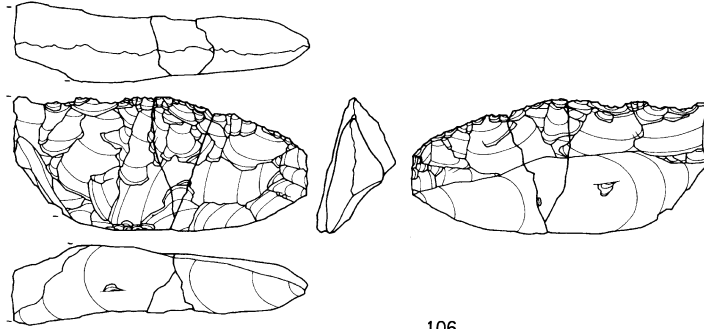
7点(7個体)出土しており、6点を図示している。113は打面調整が行われず、背面には旧彫刀面が2面見られる。114は背面に旧彫刀面が2面見られる。115は背面に旧彫刀面が1面見られる。116の腹面は末端側でヒンジを起こしている。117は背面に旧彫刀面が1面見られる。旧彫刀面の左側縁には細かい加工が行われ、旧彫刀面から側面に細かな調整が行われている。石材は113・116が黒曜石、114・115は珪岩、117・118は頁岩である。

彫器(図VI - 22 - 119~126、図版87)

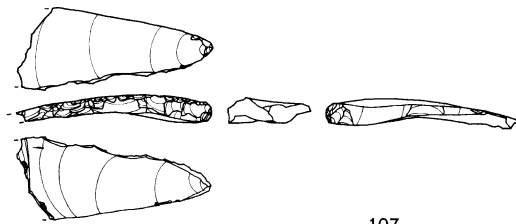
9点(7個体)出土しており、6点を図示している。また、LCS - 1の未報告のもの1点(123)と、



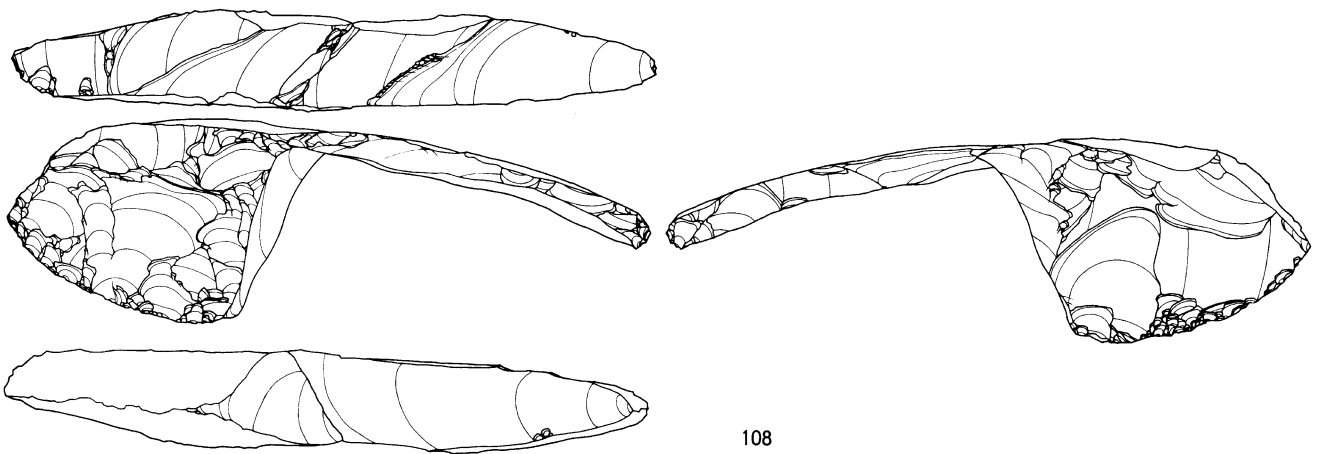
105



106



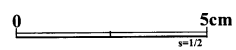
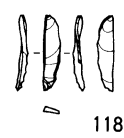
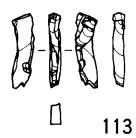
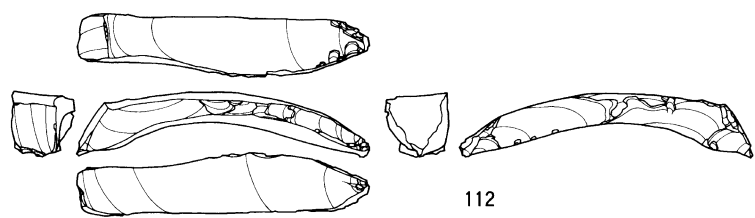
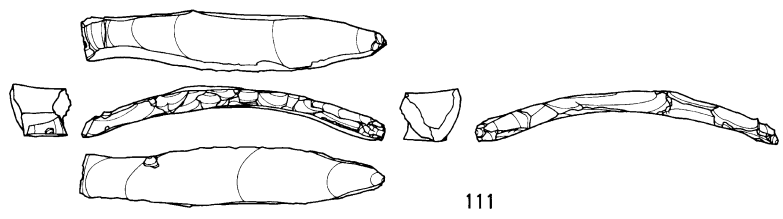
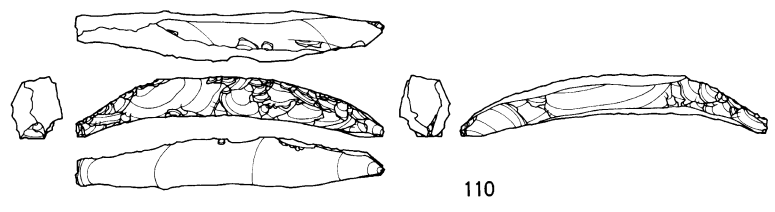
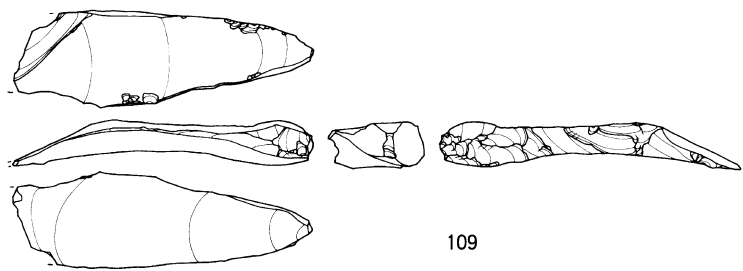
107



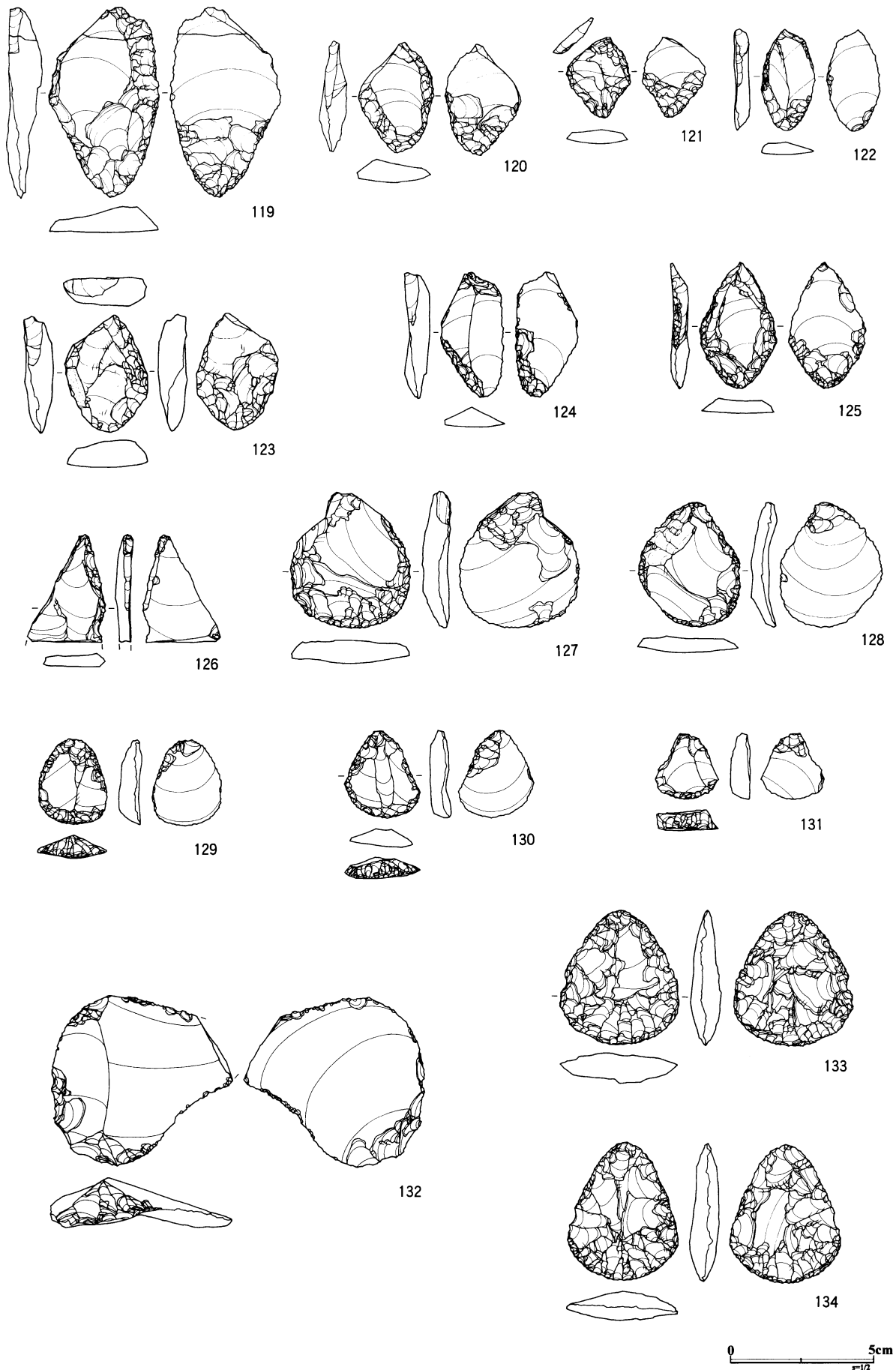
108



図VI - 20 LCS - 2 ~ 4 の石器(5) 細石刃核削片



図VI - 21 LCS - 2 ~ 4の石器(6) 細石刃核削片・彫器削片



図VI - 22 LCS - 2 ~ 4 の石器(7) 彫器・搔器・両面調整石器

同一の石器群と考えられるブロック外出土の1点(122)も合わせて掲載しているため、全部で8点図示している。119~122は縦長剥片を素材とし、背面両側縁に急斜度の、腹面基部側には平坦な調整が施されている。素材の末端側に左刃の彫刀面を作り出している。119~122は背面先端右側にノッチ状の調整を施し彫刀面の打面とし、最低1回の彫刀面再生が行われている。119・121は彫刀面から背面に細かい調整が行われる。122は背面右側縁の調整は細かく、腹面左側縁にもわずかに調整が行われる。123は縦長剥片を素材とし、素材の打面側に左刃の彫刀面を作出するもので、背面左側縁に原礫面を残す。右肩の彫刀面は先端部調整と考えられる。124は縦長剥片を素材とし、素材の末端側に左刃の彫刀面を作り出している。背面左側縁に急斜度調整、腹面左側縁から基部にかけて平坦剥離が見られる。背面先端右側にノッチ状の調整を施し彫刀面の打面とし、最低1回の彫刀面再生が行われている。125は縦長剥片を素材とし、背面両側縁に急斜度の、腹面基部側には平坦な調整が行われている。腹面と彫刀面の角度は鋭角で、腹面側から彫刀面に細かな加工が行われる。右肩の彫刀面を打面として、左肩に彫刀面打撃を加えている。126は縦長剥片を素材とし、腹面側に彫刀面が作出される。背面の両側縁に細かい加工が行われている。石材は119・122・123が薄い茶色がかったやや透明感のある珪岩で、120・121・124が頁岩、125・126は黒曜石である。

搔器(図VI-22-127~132、図版87)

9点(8個体)出土しており、6点を図示している。素材は全て縦長剥片である。127・128は刃部が薄手のものである。平面形は丸みを帯びる撥形で、基部側がやや細くなっている。刃部は素材の末端部に作出され、背面の側縁には細かい二次加工が施されている。腹面基部側には平坦な剥離が見られる。127は基部が折れ、折れ面から加工を行っている。128は薄手の縦長剥片を素材とし、背面に原礫面を残す。縦断面は刃部側がやや腹面側に湾曲する。129~132は刃部が厚手のもので、基部側がやや細くなる。129・130は刃部を素材の末端部に作出し、背面の周縁部には細かい二次加工が施される。腹面の左側縁から基部にかけて平坦剥離が施される。131・132は素材の打面側に刃部を作出するものである。131は背面左側に原礫面を残し、背面両側縁にはほとんど二次加工が行われない。腹面基部側には平坦な二次加工が施される。刃部の角度は直角に近い。132は素材の打面側に刃部を作出している。背面の側縁には二次加工がほとんど行われず、腹面の刃部付近に平坦剥離が施される。

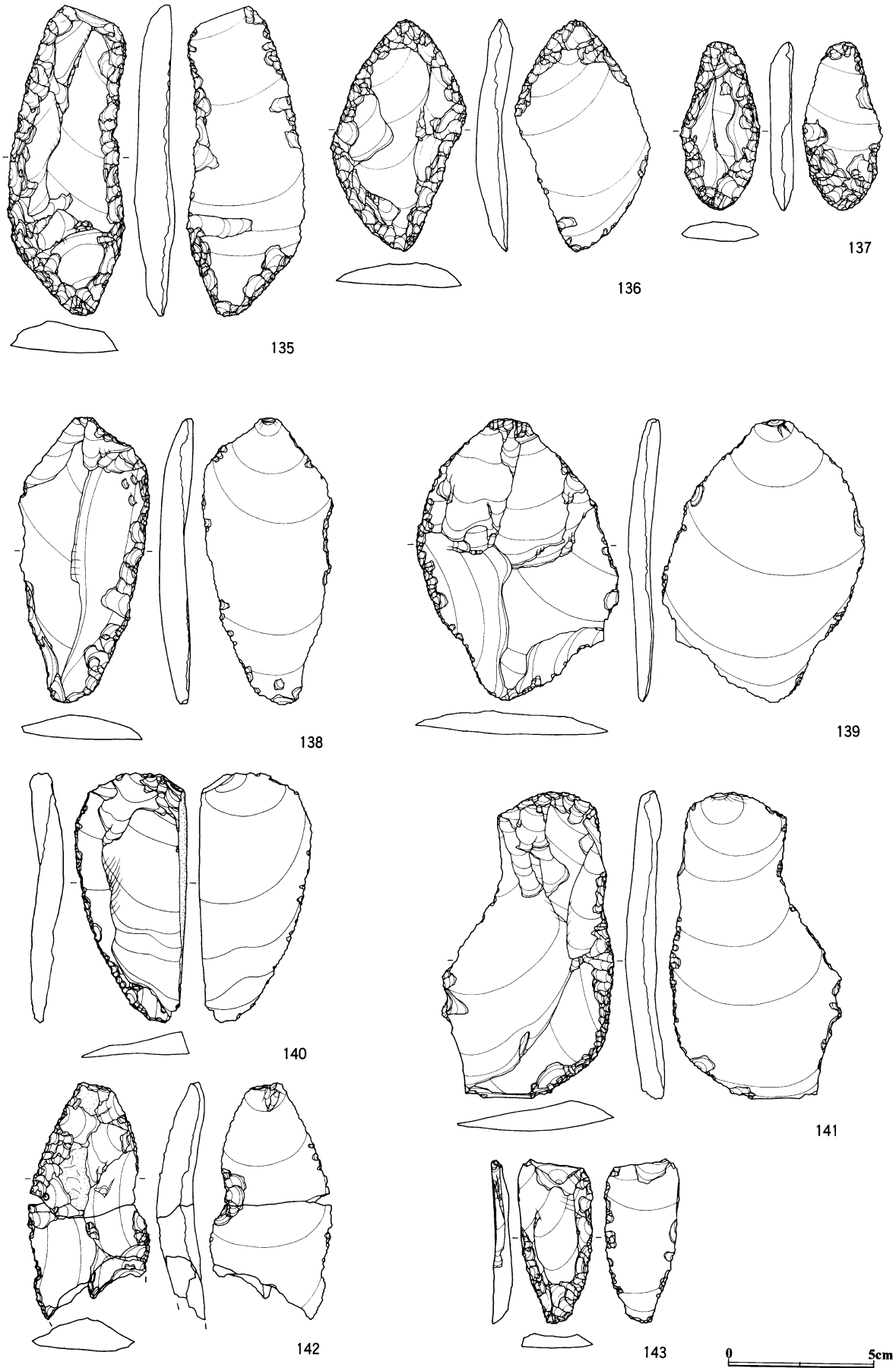
石材は127・132が黒曜石で、128~131は頁岩である。頁岩の色は、128は褐色に部分的に白色が混ざり、129・130は灰色、131は暗褐色に茶色が混ざっている。

両面調整石器(図VI-22-133・134、図版87)

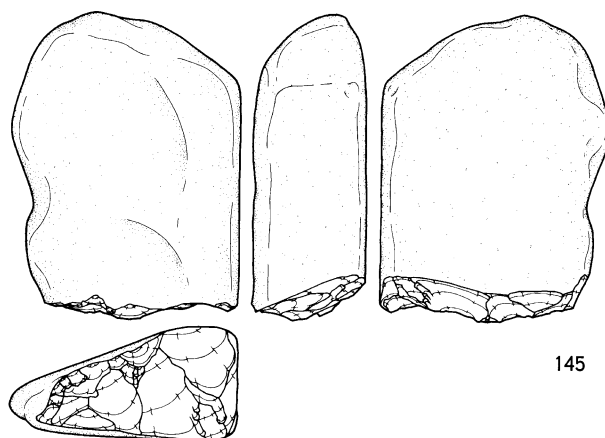
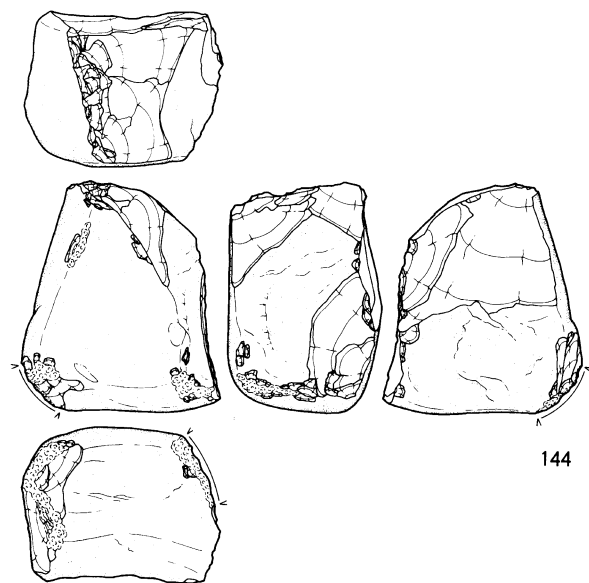
3点(3個体)出土しており、2点を図示している。分類上両面調整石器としたが、両面調整の搔器と考えられる。133・134ともに剥片素材で、平面形は全体的に丸みを帯び上部がやや張り出す。両面とも周縁部全体からの平坦剥離によって整形され、下部に細かい加工による刃部が作り出されている。石材はともに黒味の強い頁岩である。

削器(図VI-23-135~143、図版88)

26点(23個体)出土しており、9点を図示している。素材は全て縦長剥片である。135~137は刃部が急斜度の加工により作出されるものである。135は背面の両側縁から末端部にかけて連続的な二次加工が施されている。腹面の両側縁と末端部には不連続な平坦剥離が施されている。136・137は背面周縁部に連続的に二次加工が行われている。136は腹面の打点側の縁辺部にも二次加工が施される。137は腹面の末端部縁辺に平坦剥離が行われ、それ以外の部分には不連続な細かい剥離が見られる。138は刃部が平坦剥離により作出されるものである。背面の右側縁に連続的に二次加工が施されている。139~141は細かい加工により刃部が作出されるものである。139・140は背面の左側縁に、141は



図VI - 23 LCS - 2 ~ 4の石器(8) 削器



図VI - 24 LCS - 2 ~ 4の石器(9) 石核

背面の右側縁に調整が見られる。142は背面の左側縁に平坦な剥離が、右側縁に細かい急斜度の剥離が見られる。143は背面の周縁部に急斜度の二次加工が施されている。上部が折れており、側面に折れ面を打面とした槌状剥離が見られるため、彫器の可能性もある。

石材は全て黒曜石である。135・138・139・141は全体に細かい傷が多く、光沢がやや鈍くなっている。石核（図VI - 24 - 144・145）

2点（2個体）出土しており、2点とも図示した。144・145ともに頁岩の垂角礫を素材とする。144は複設打面で、いずれも原礫の平坦面を打面としている。原石形状の断面は四角形である。分類上では石核としたが、礫器の可能性もある。縁辺部にはたたき痕がみられることから、たたき石としても使用していたと考えられる。145は単設打面で、原礫の平坦面を打面としている。原石の断面形状は三角形に近く、剥片剥離は長軸方向に進む。144同様、分類上では石核としたが、礫器の可能性もある。

(4) ブロック（LCS - 1 ~ 4）

4ヵ所の石器ブロックはいずれも細石刃・細石刃核が見られ、湧別技法関連資料を含む石器群である。遺物分布図では以下の記号を用いている。

：剥片 ：細石刃 *：細石刃核 ：細石刃核削片 ：彫器 ：彫器削片
 ✱：両面調整石器 ：搔器 ：削器 ：二次加工ある剥片 ：石核

①LCS - 2（図版VI - 25 ~ 30、図版38・39）

位置 B・C地区 J - 146 ~ 148、K - 146 ~ 149、L - 145 ~ 149、M - 145 ~ 150、N - 149・150

地形 東から西に緩やかに下る斜面に位置している。

分布 平面は南北約18m、東西約21mの範囲で、東西の斜面方向にやや長く広がる。石器はL - 148区周辺にややまとまって分布している。垂直分布では東側が低く、西側にいくにつれて高くなる傾向がある。層位的にはV層上面 ~ VII層中位にかけて出土し、層別別の点数はV - 1層が13点、V - 2層が246点、VI層が238点、VII層が234点、不明ほか3点である。

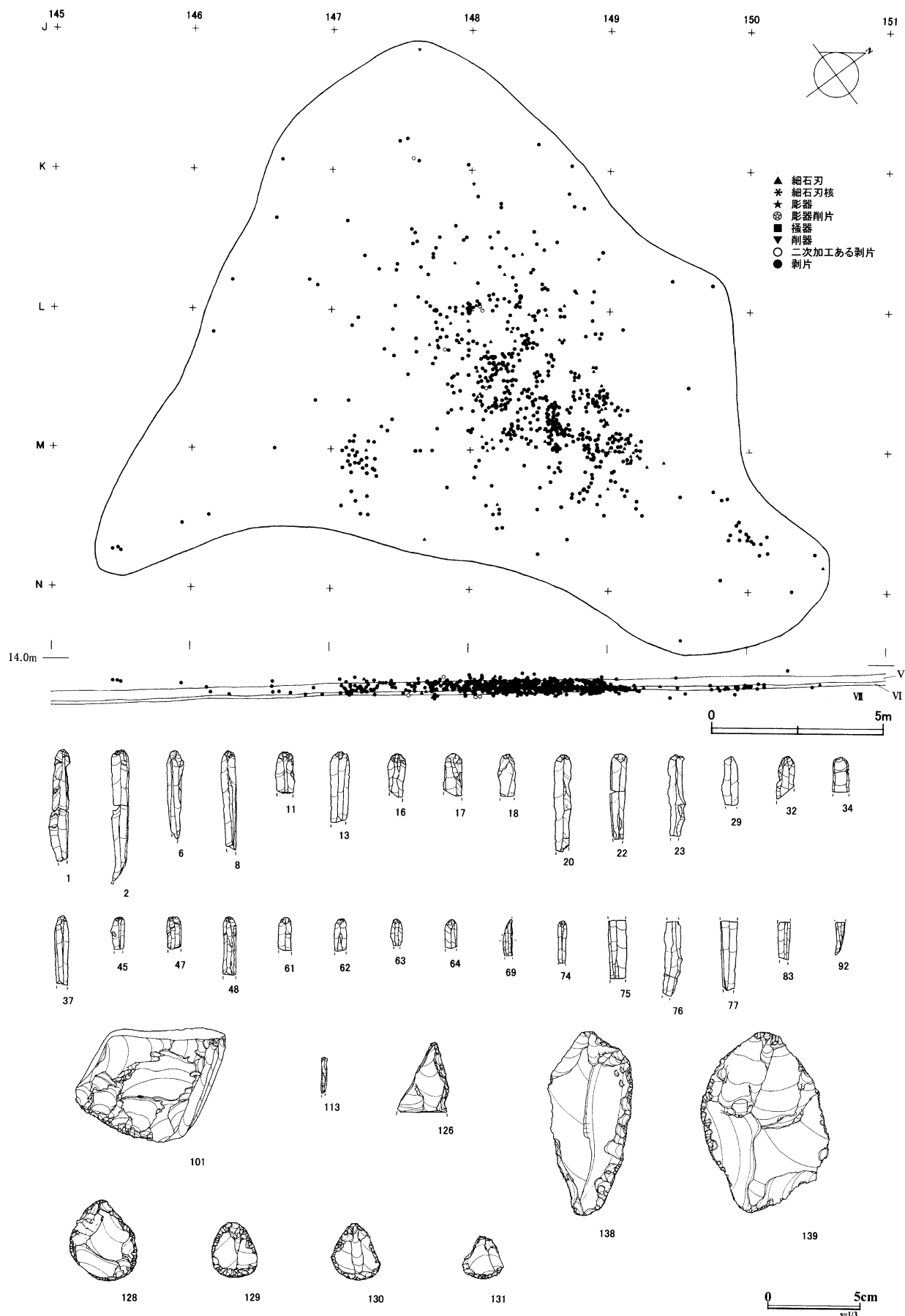
石器・石材組成 合計734点、重量975.8gの石器類が出土した。内訳は細石刃72点、細石刃核1点、彫器1点、彫器削片2点、搔器5点、削器6点、二次加工ある剥片5点、剥片642点、細石刃関連の石器の平面分布を見ると、細石刃はL - 148区の密度が濃く、細石刃核はブロック東端に位置する。垂直分布は、全体の分布同様西側にいくにつれてやや高い位置から出土している。細石刃関連以外のツールはブロック北側に散漫に分布するが、搔器はL - 148区からM - 149区にかけてやや近接して分布している。垂直分布はV ~ VII層にかけて点在している。

石材は黒曜石が719点（98.0%）で最も多く、次いで頁岩12点（1.6%）である。他には珪岩2点（0.3%）、砂岩1点（0.1%）である。黒曜石の中では黒曜石3・4が687点（95.6%）で最も多く、他は黒曜石5が16点（2.2%）、黒曜石1が14点（1.9%）、黒曜石10が2点（0.3%）である。平面分布を見ると、黒曜石1・5はL - 148区を中心に分布している。黒曜石3・4はほぼ全体に広がり、ツールはL - 148区付近にまとまる。頁岩はL ~ M - 148区にかけて、搔器、剥片がややまとまって分布している。珪岩は剥片がブロック東側に、砂岩はブロック北端で1点出土している。

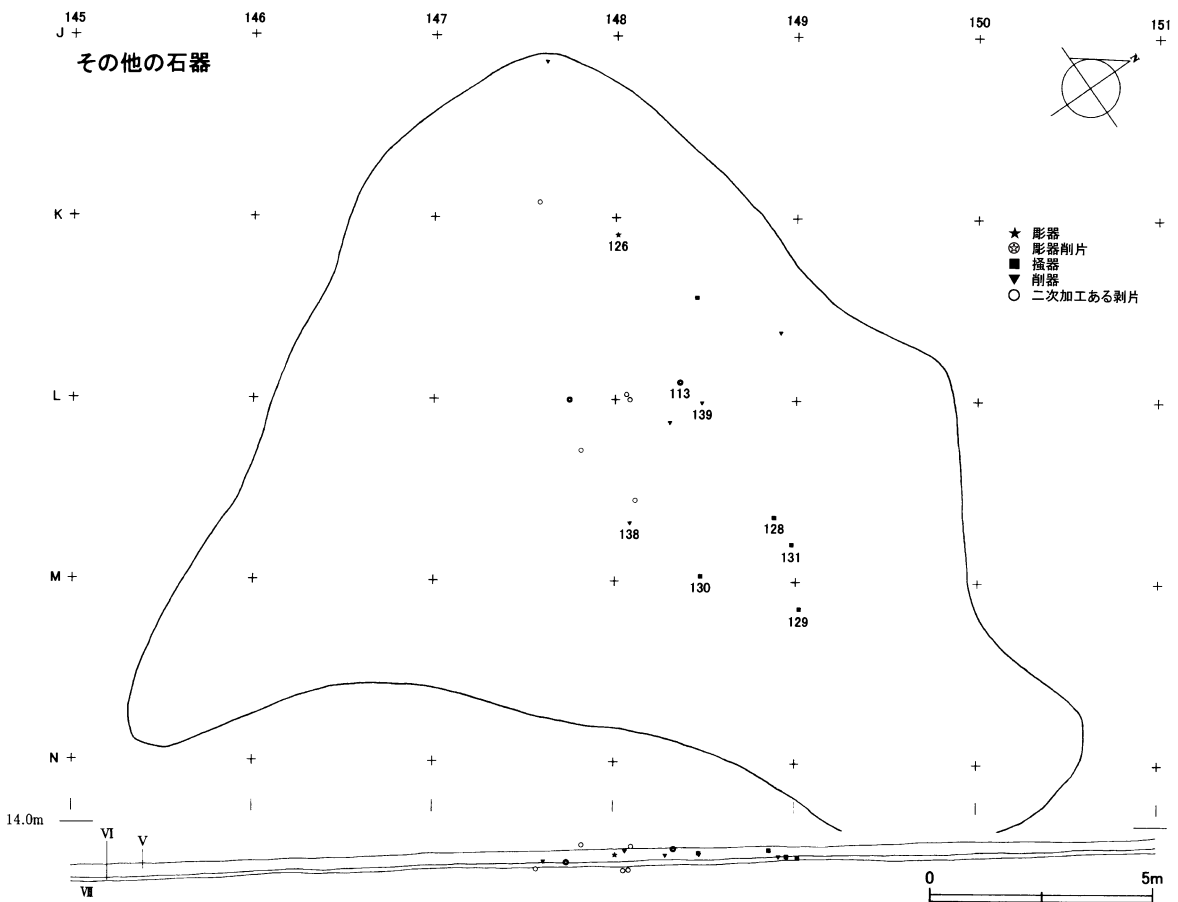
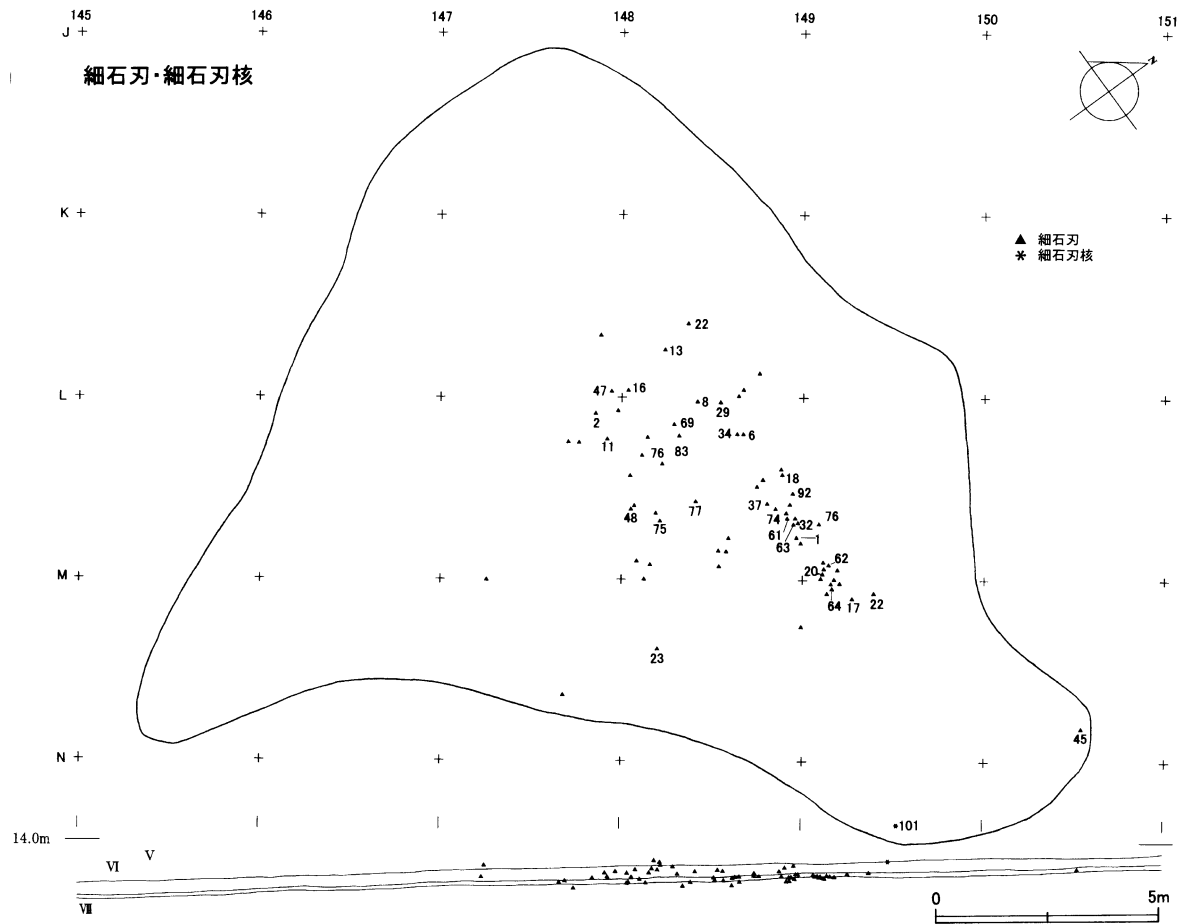
接合関係 ブロック内では石器の集中するL - 148区を中心とした接合関係が見られ、ブロック間ではLCS - 1・3・4と接合関係が確認された。

②LCS - 3（図VI - 31 ~ 36、図版40・41）

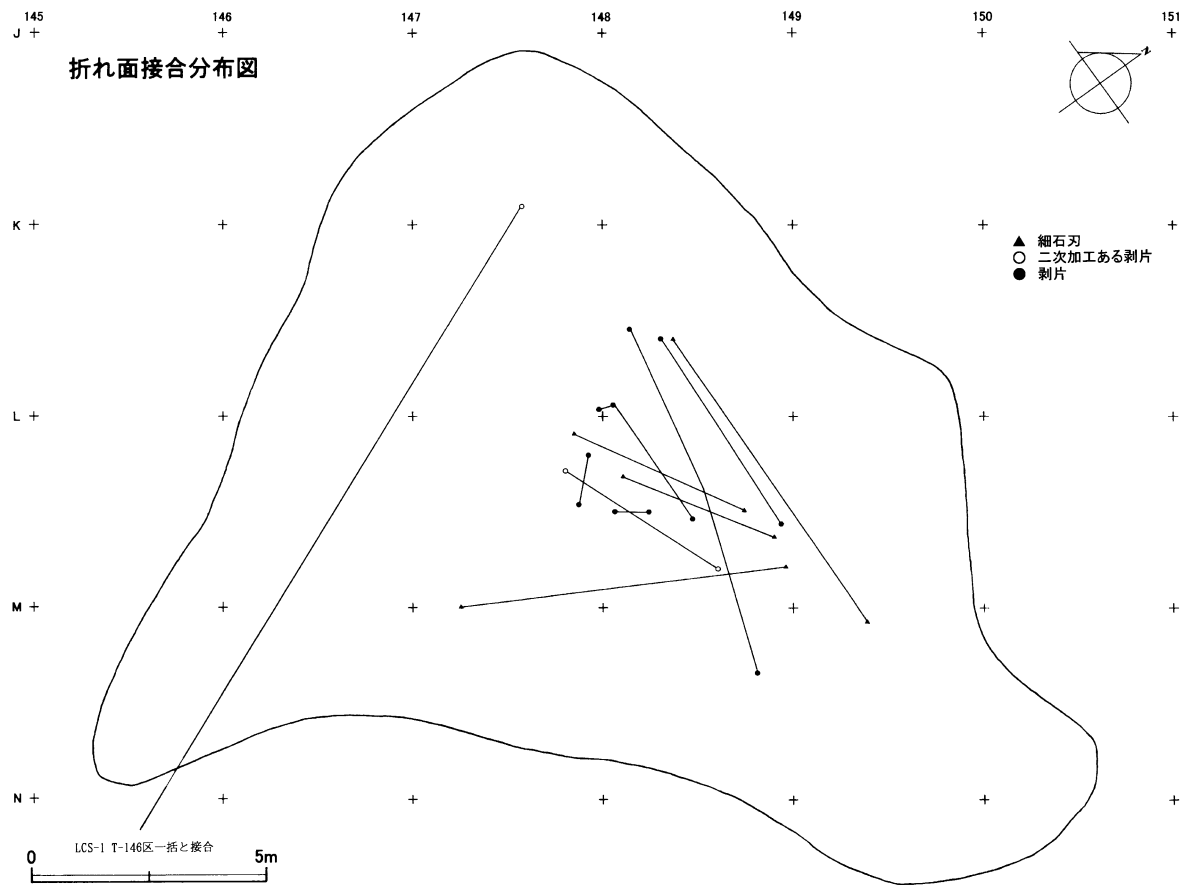
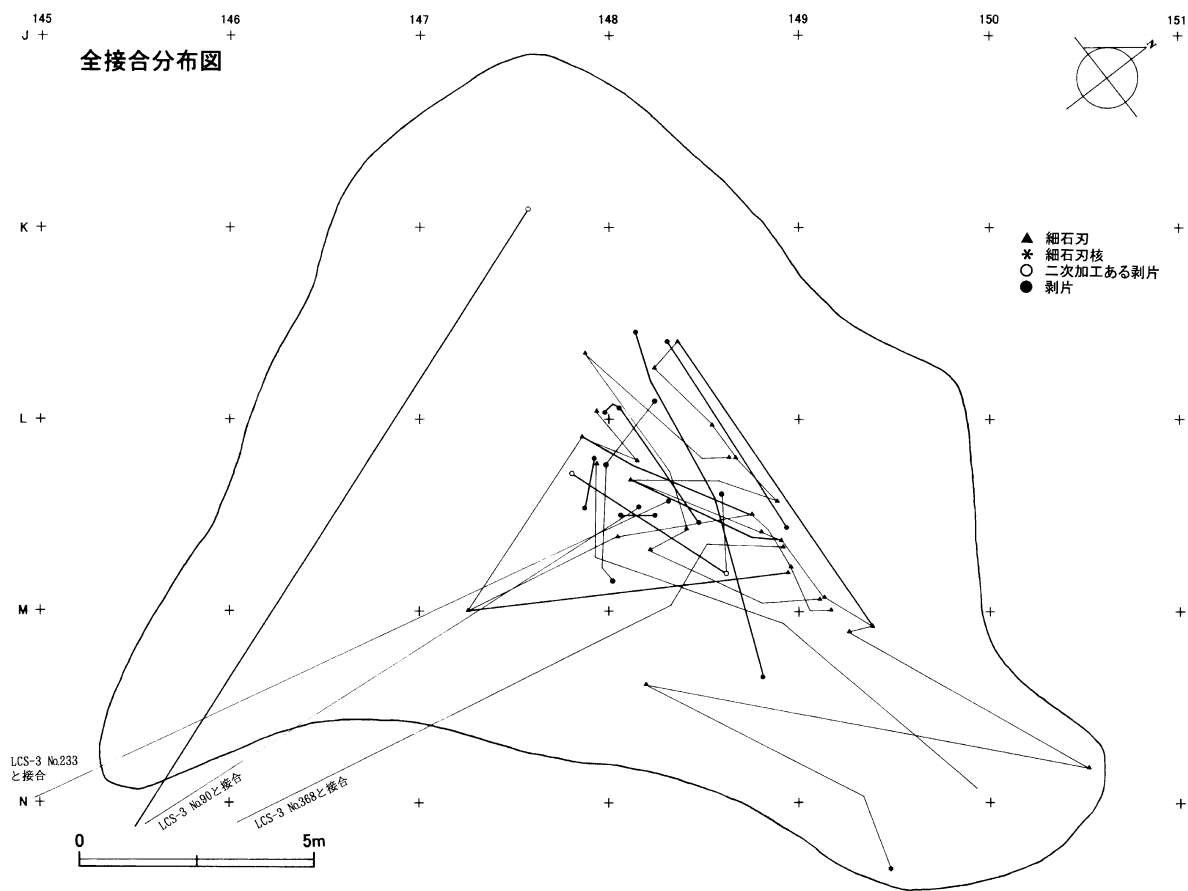
位置 A地区 R - 133・134、S - 132 ~ 134、T - 132 ~ 134



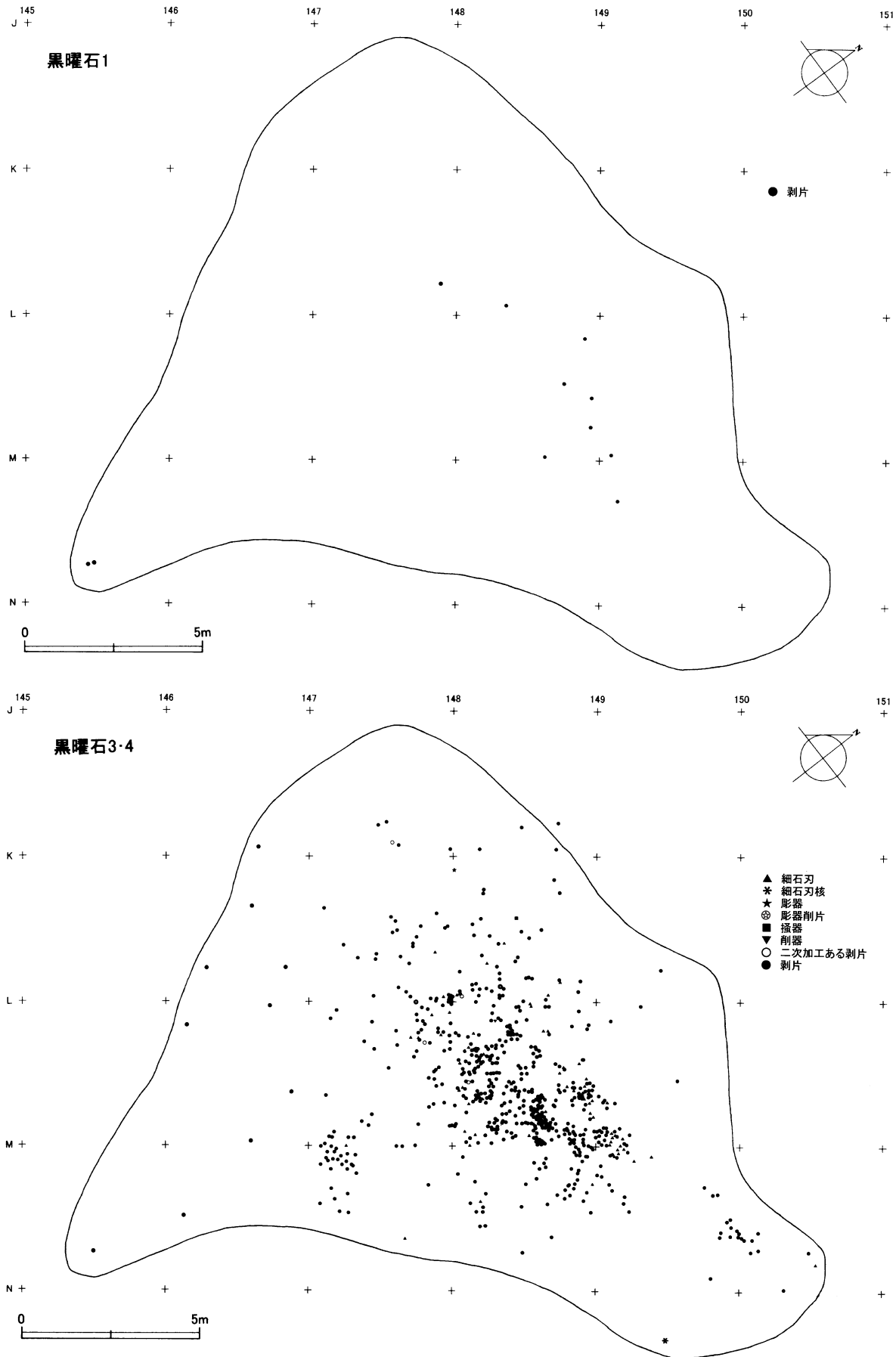
図VI - 25 LCS - 2の分布図(1)・遺物



図VI - 26 LCS - 2 の分布図(2)

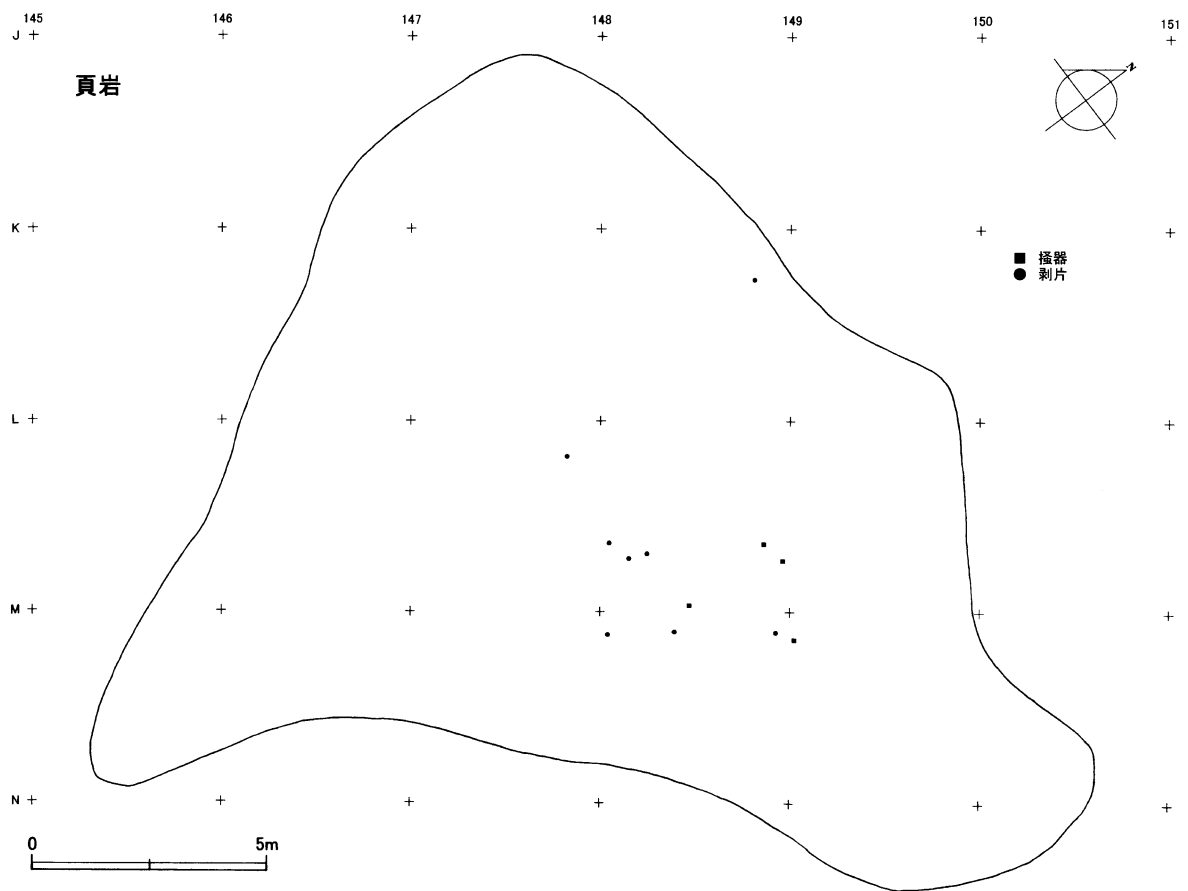
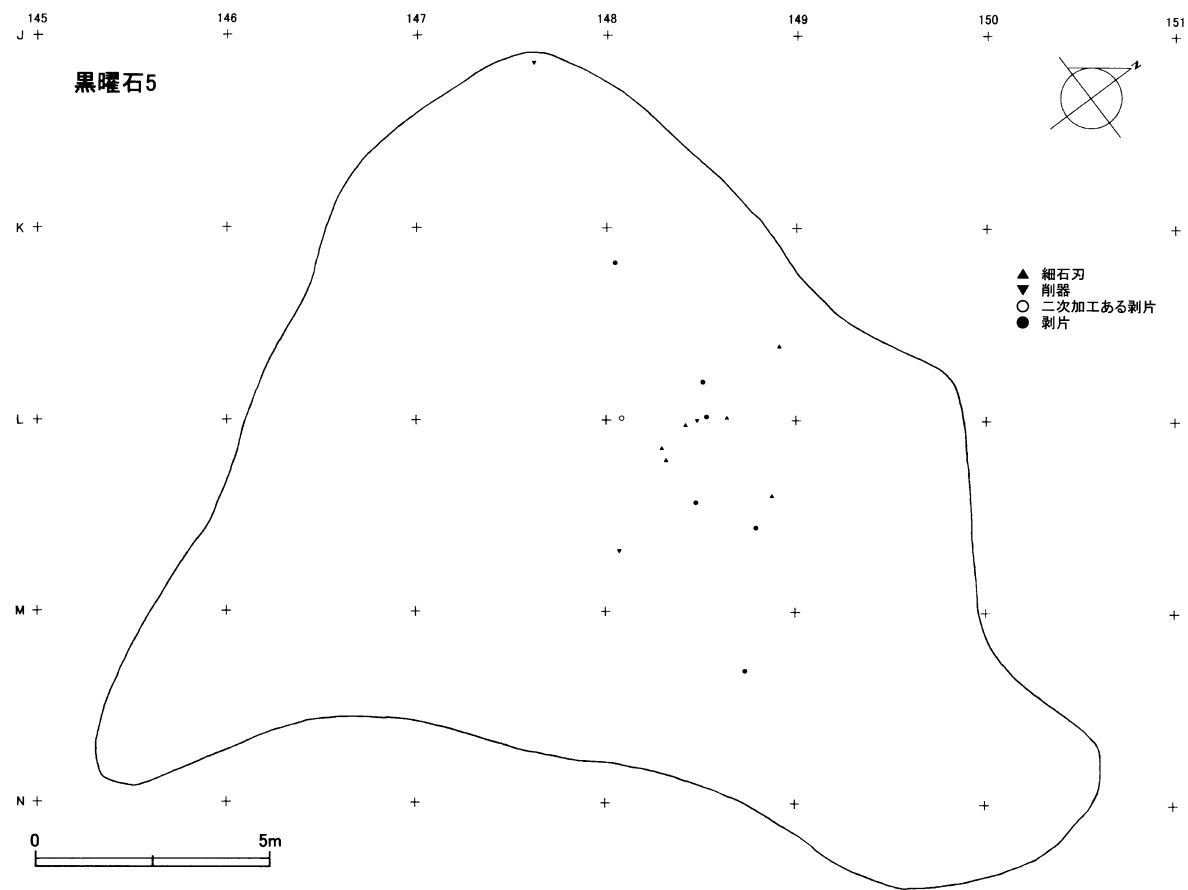


図VI - 27 LCS - 2の接合分布図

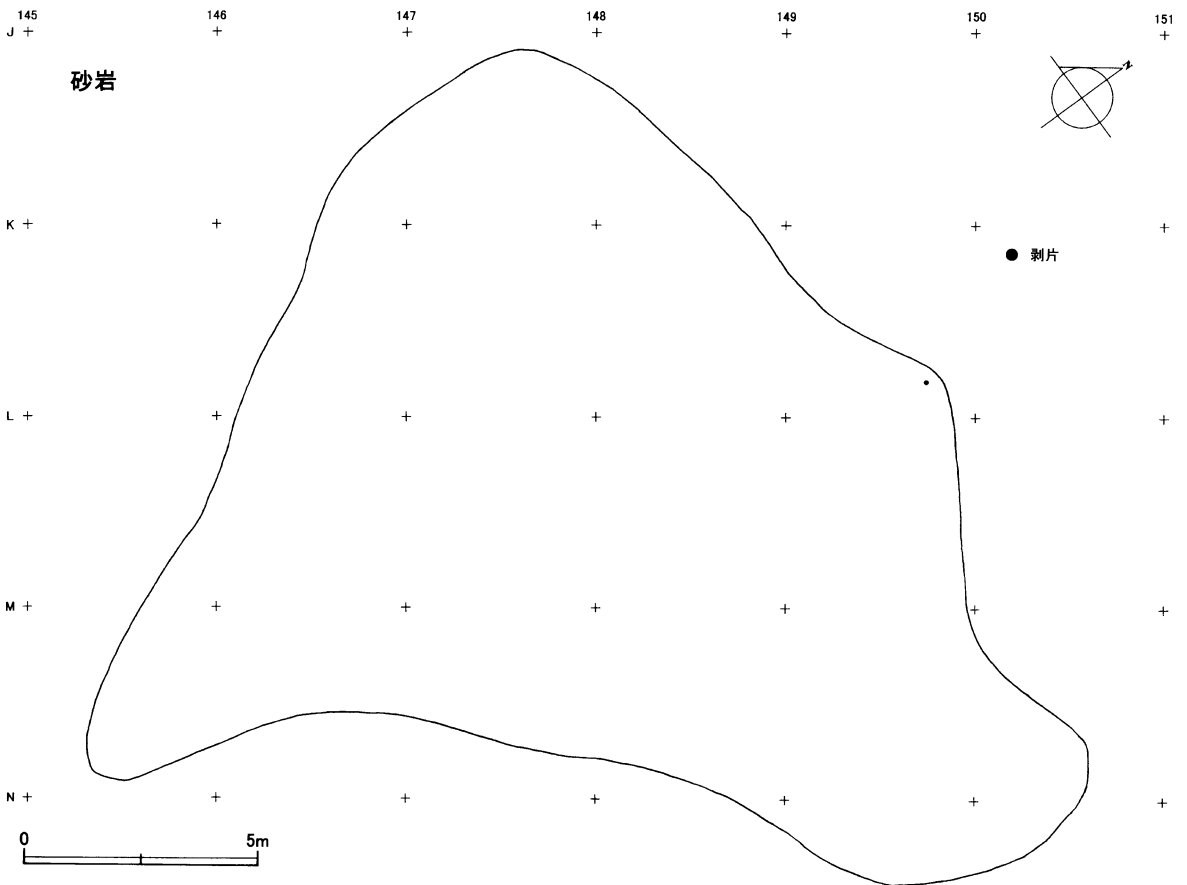
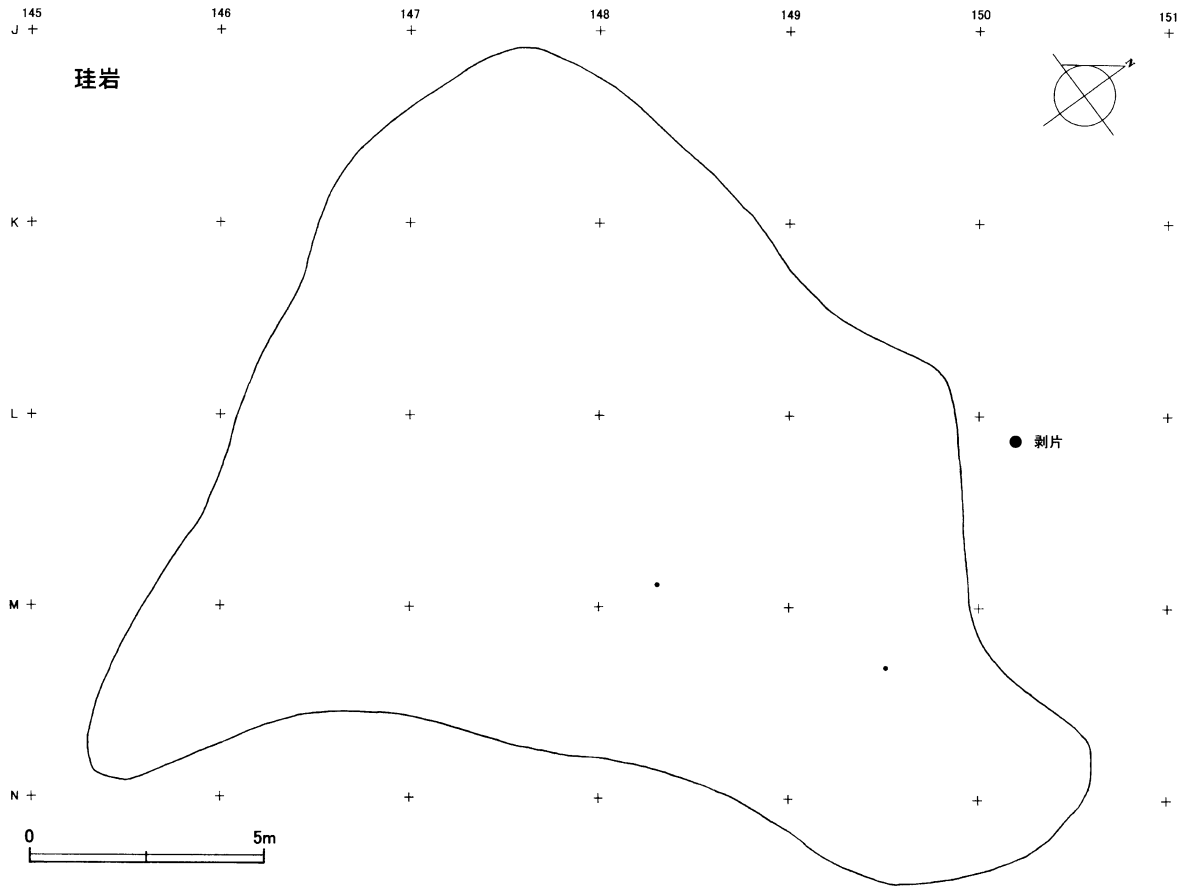


図VI - 28 LCS - 2 の石材別分布図(1)

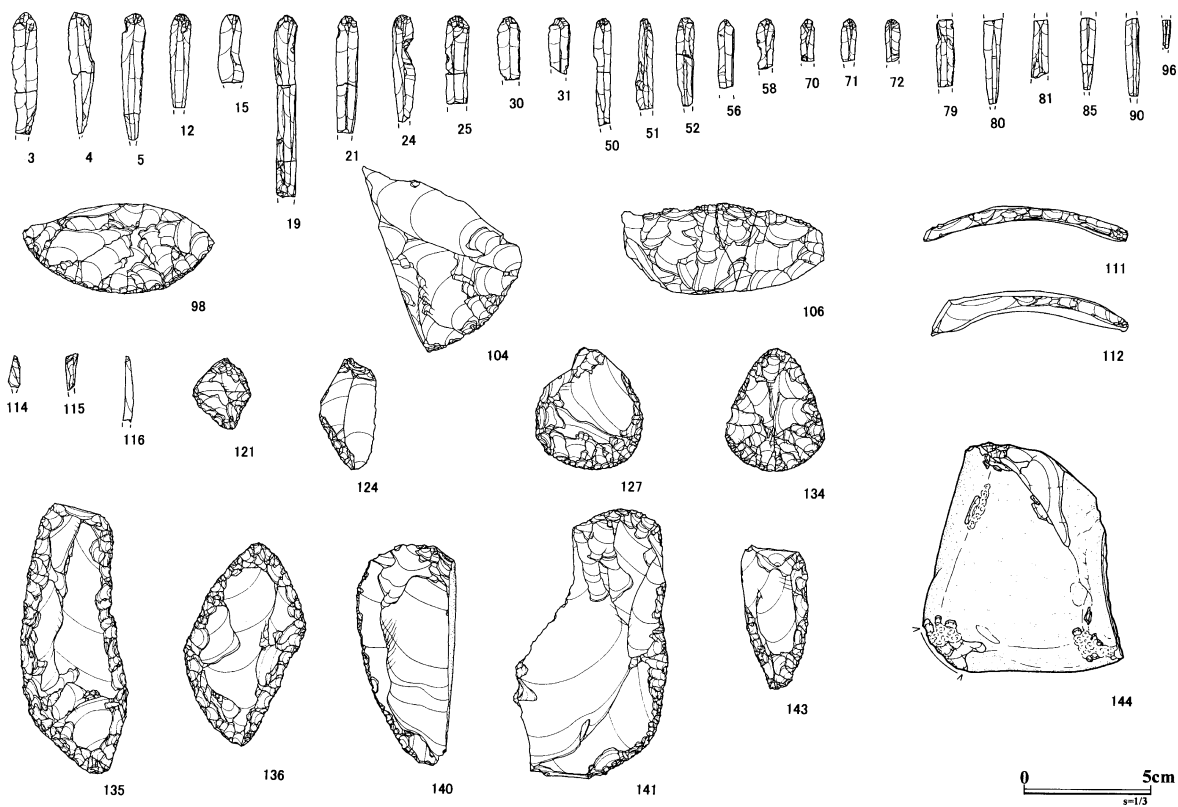
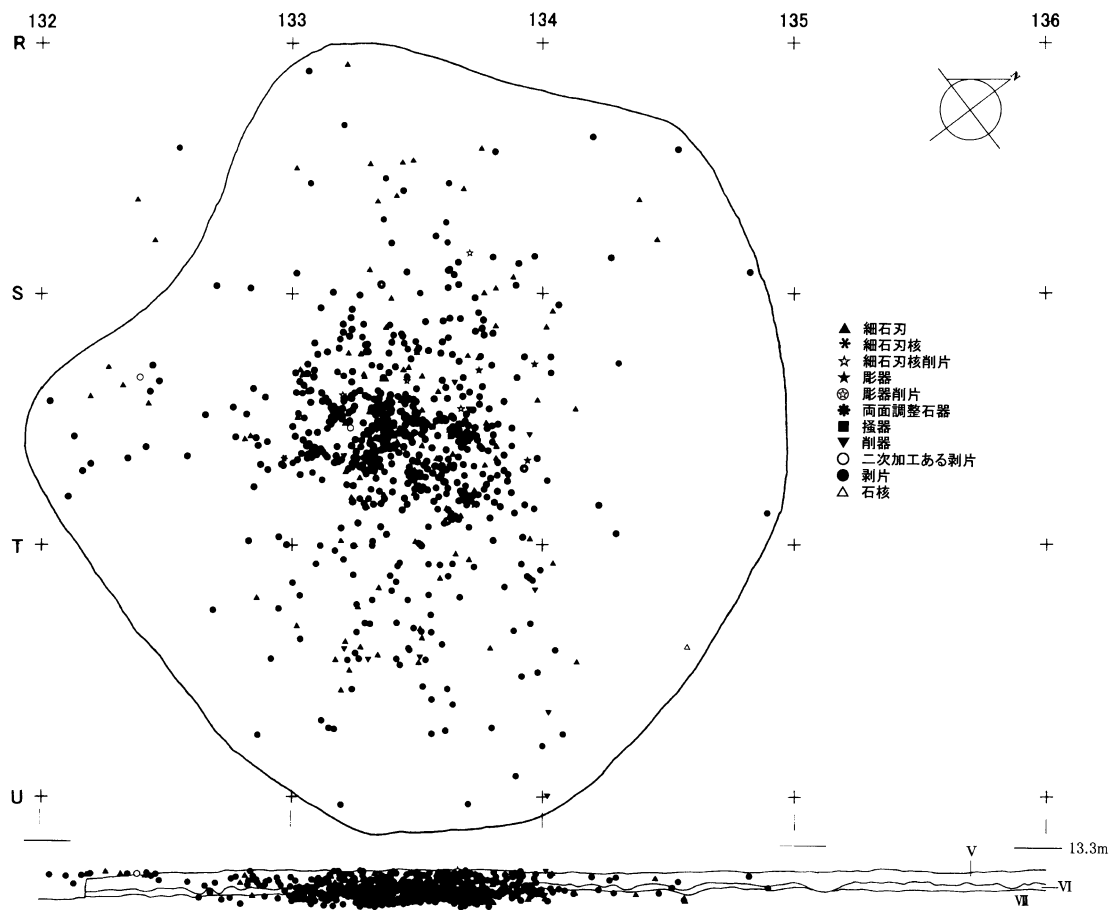
平成17年度 千歳市オルイカ2遺跡(2)



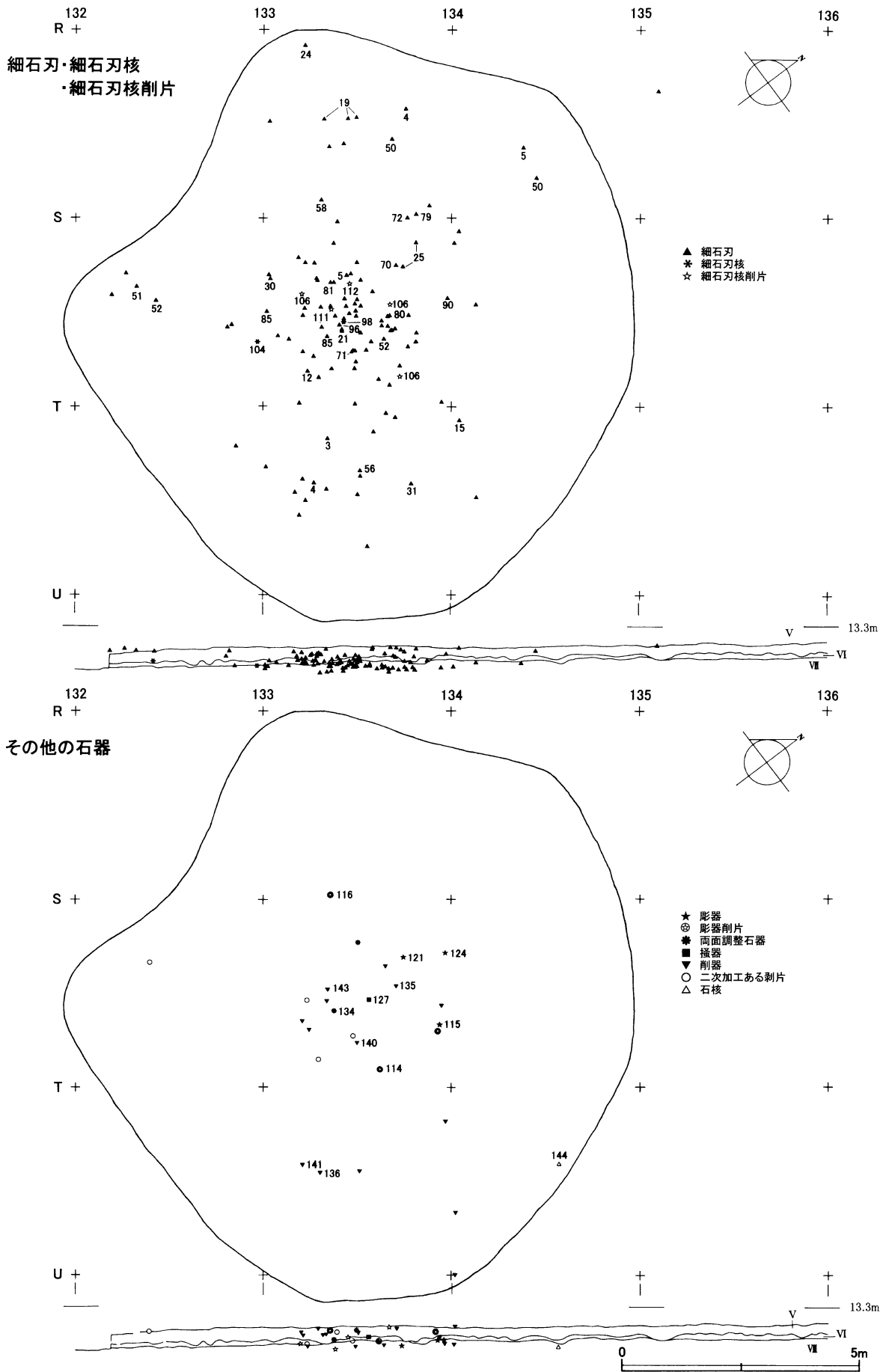
図VI - 29 LCS - 2 の石材別分布図(2)



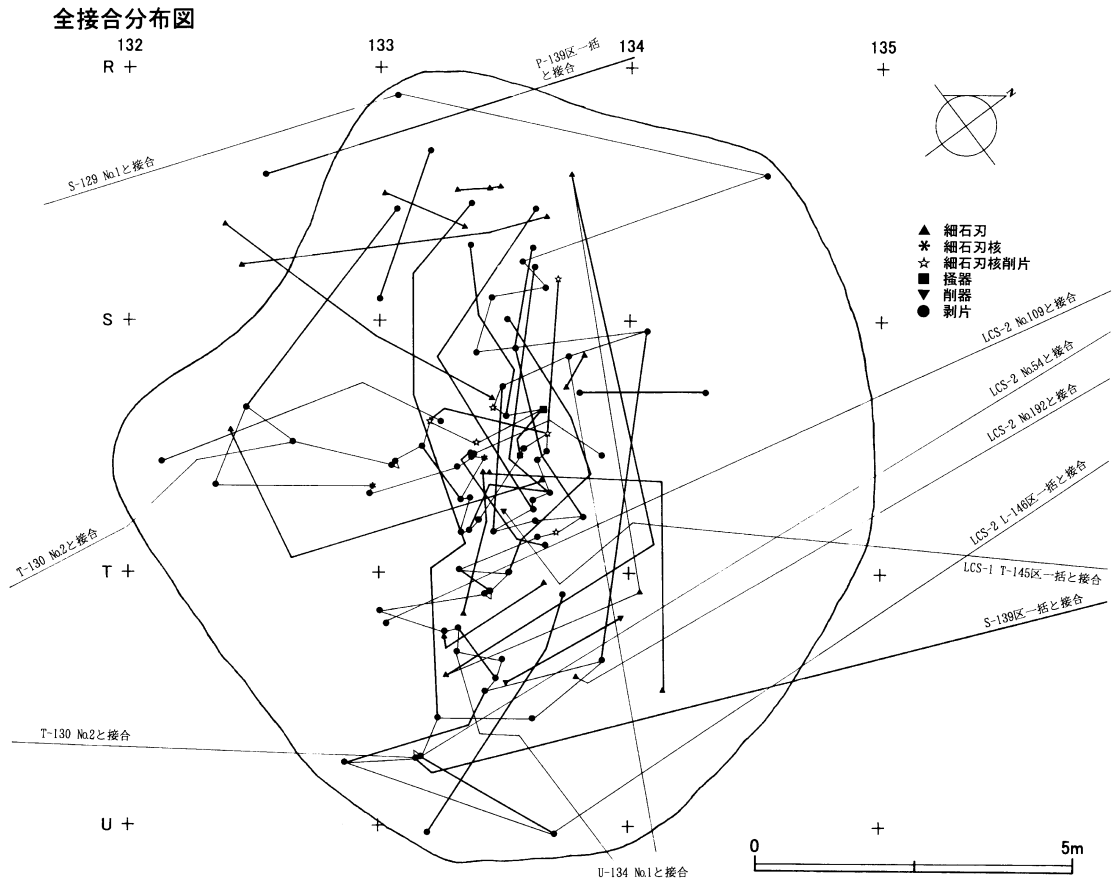
図VI - 30 LCS - 2 の石材別分布図(3)



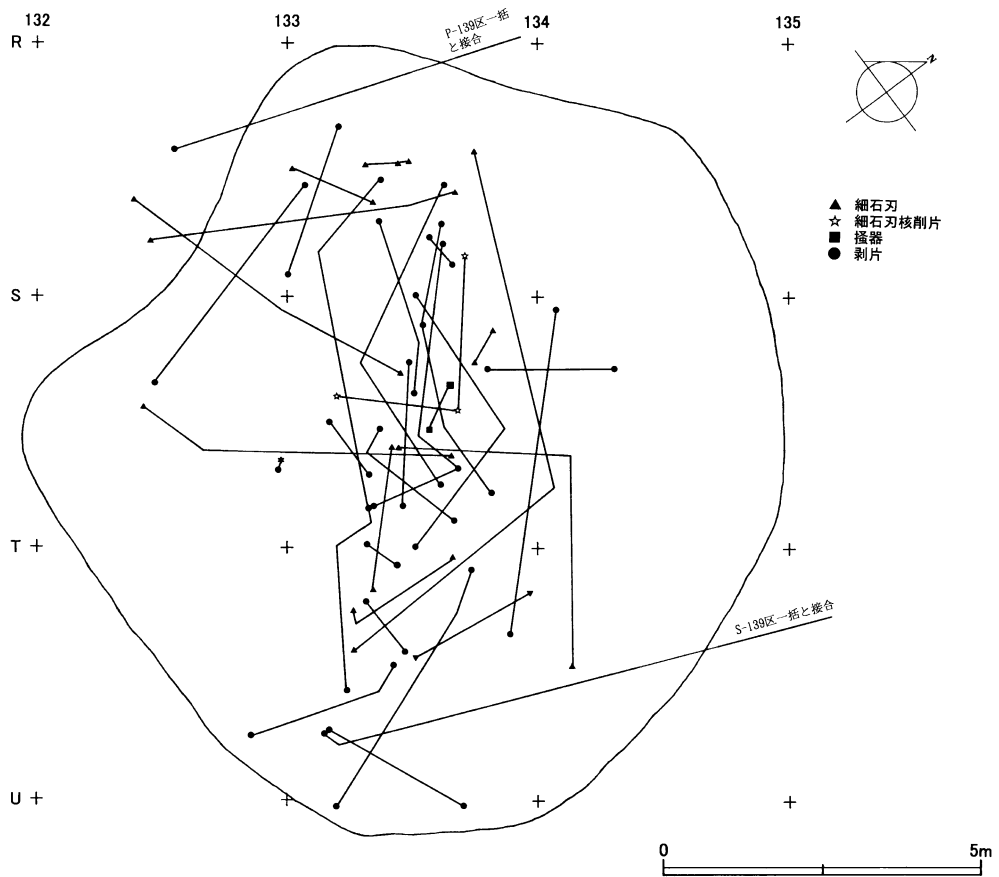
図VI - 31 LCS - 3の分布図(1)・遺物



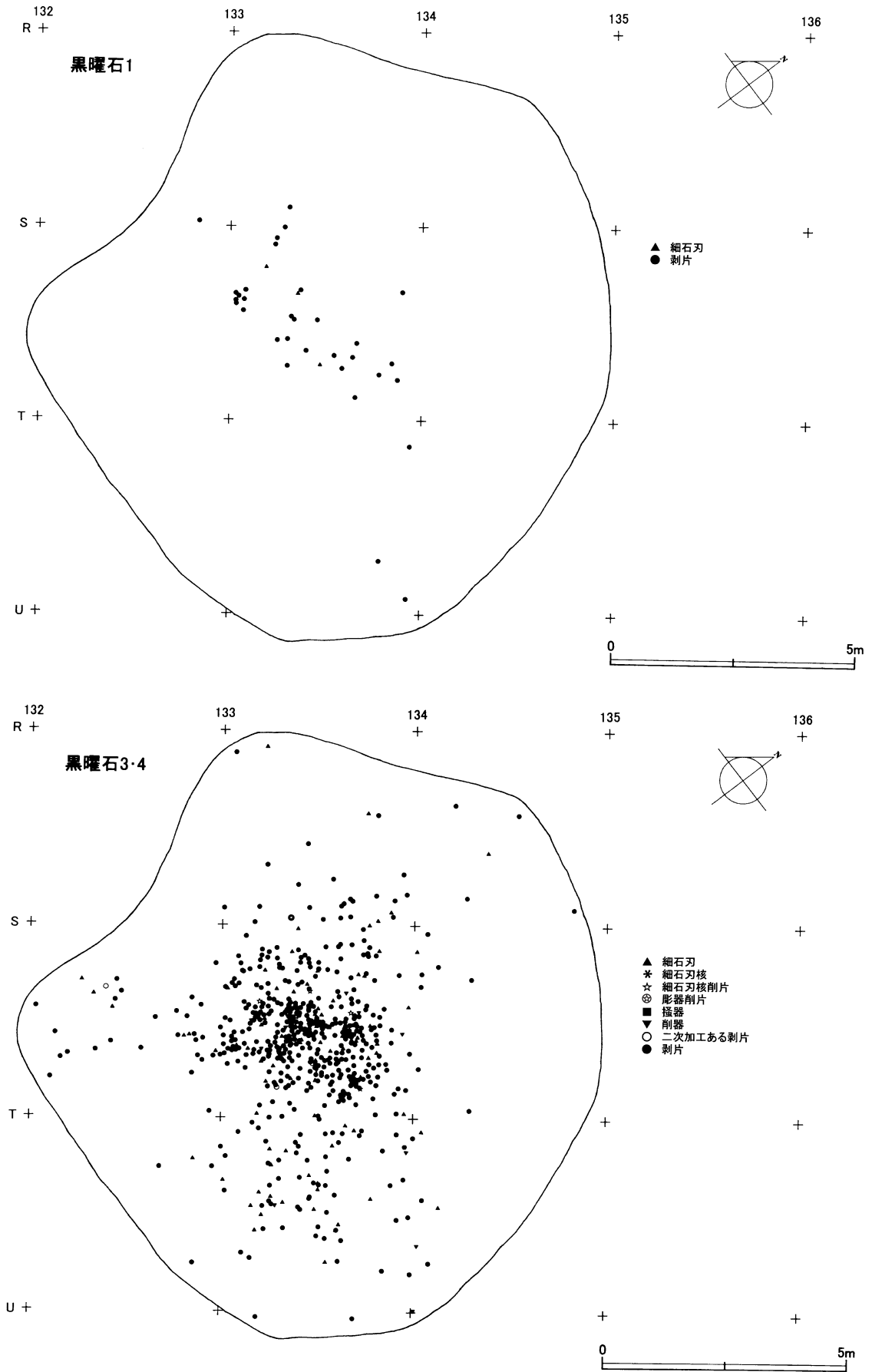
図VI - 32 LCS - 3の分布図(2)



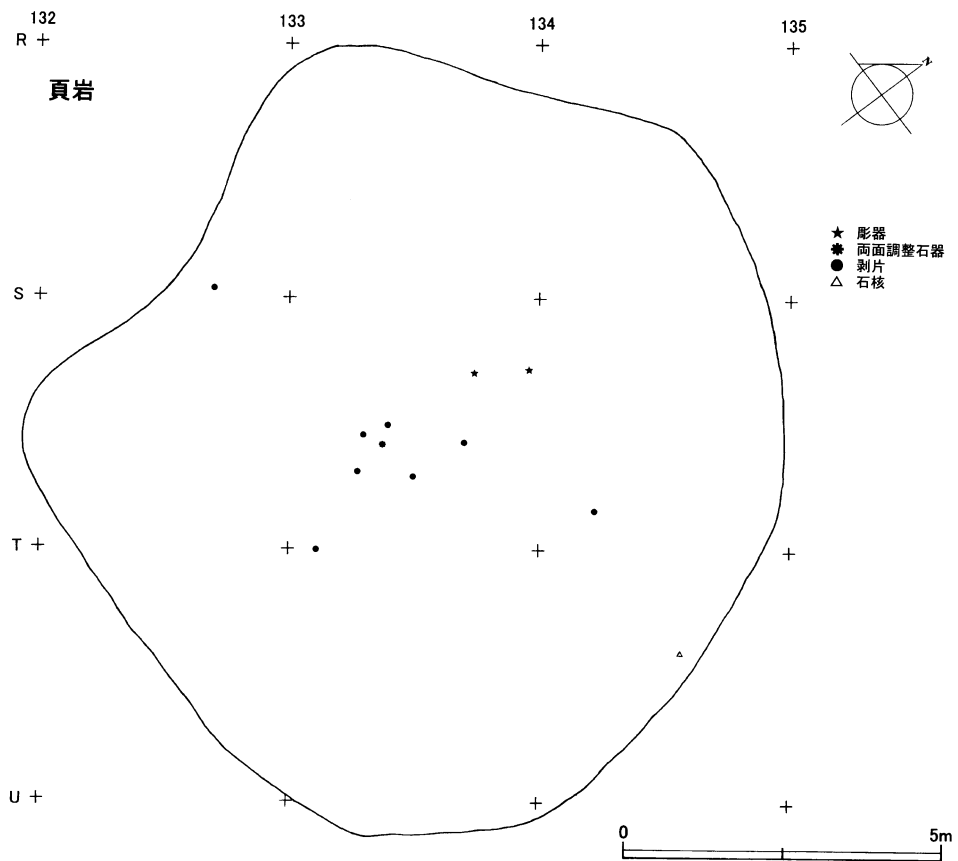
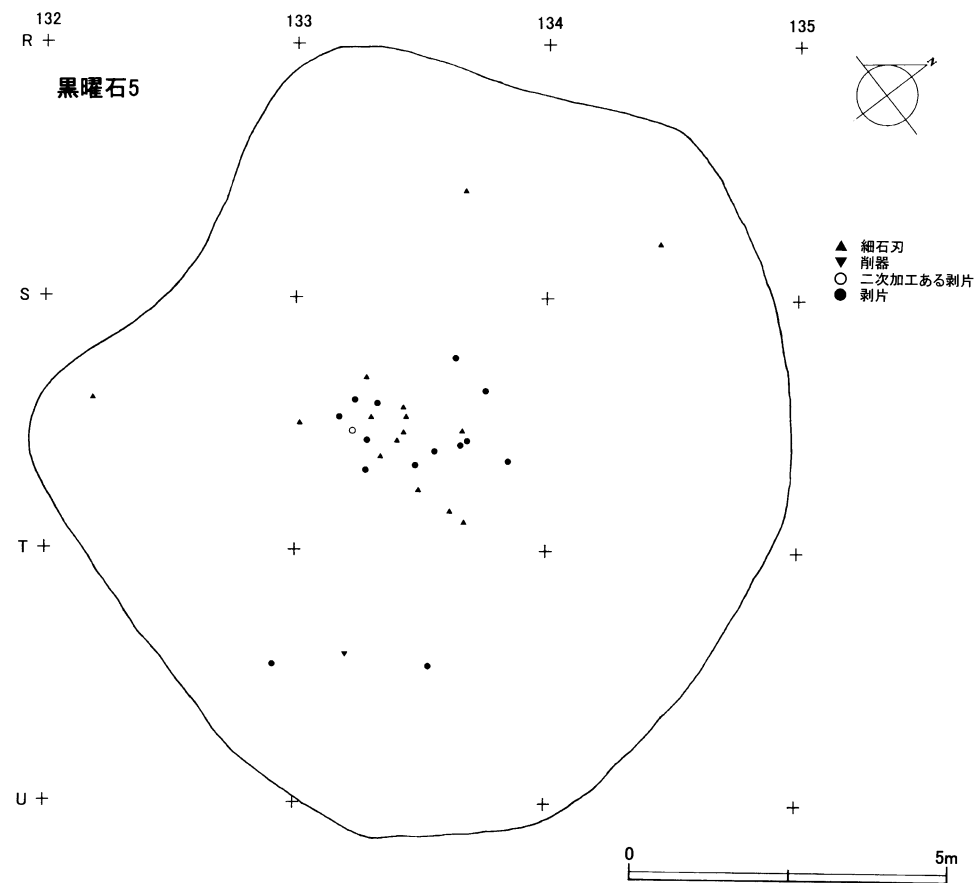
折れ面接合分布図



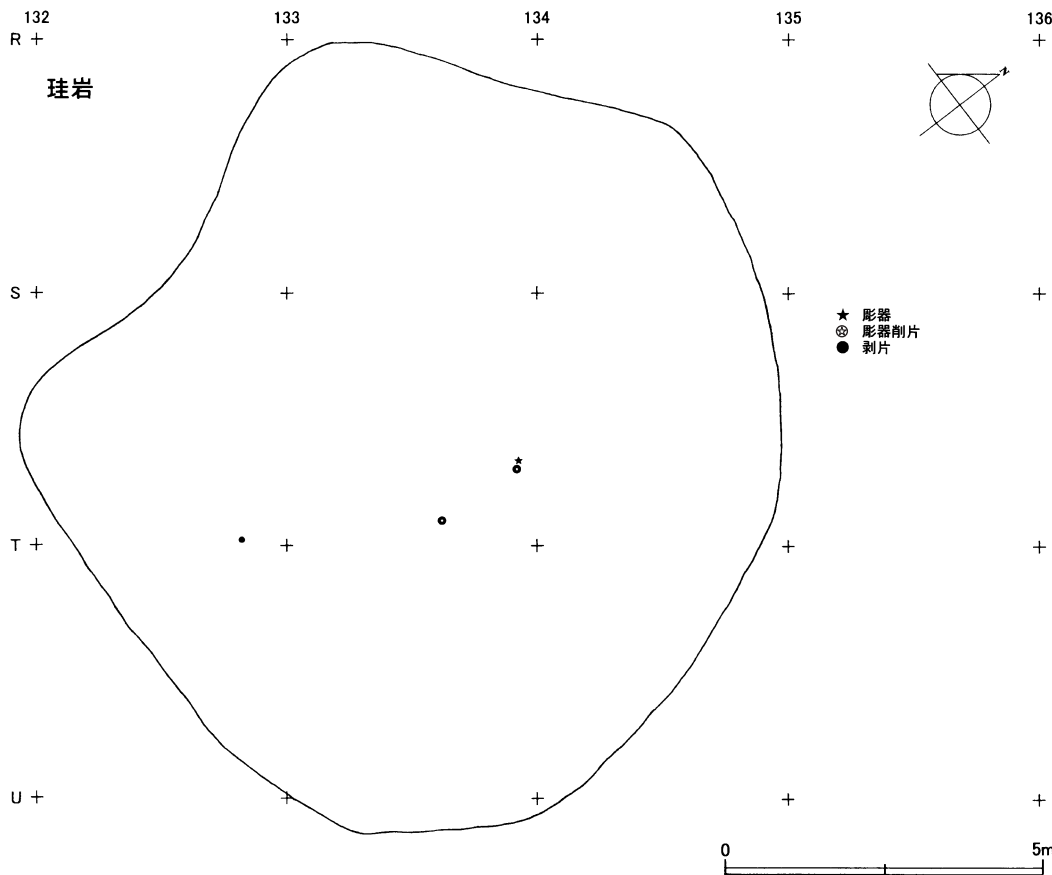
図VI - 33 LCS - 3の接合分布図



図VI - 34 LCS - 3の石材別分布図(1)



図VI - 35 LCS - 3の石材別分布図(2)



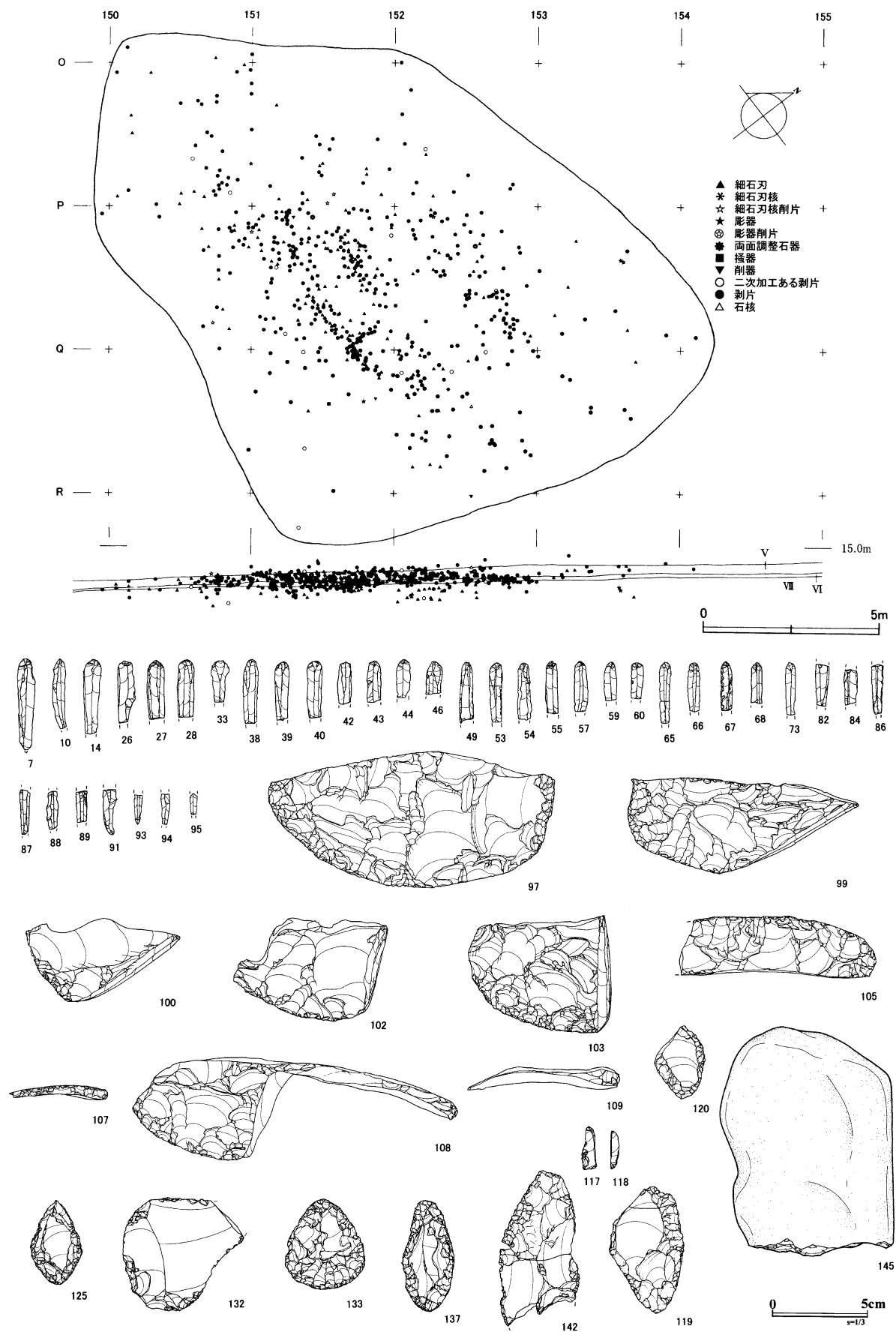
図VI - 36 LCS - 3の石材別分布図(3)

地形 南東から北西にごく緩やかに下る斜面に位置している。

分布 平面は南北約12m、東西約11mの範囲で、南東から北西の斜面方向にやや長く広がっている。南西側のブロック外には縄文時代の竪穴住居跡（LPD - 5）があり覆土から旧石器が38点出土しているため、本来的には南西側に若干広がっていた可能性がある。平面分布はS - 133区の密度が濃く、周辺は散漫である。垂直分布は、S - 133区付近はV層上面～VII層下位まで全体的に密度が濃いが、周辺はV～VII層にかけて散漫に広がっている。層位別の点数はV - 1層47点、V - 2層182点、VI層93点、VII層が414点、不明ほか1点である。またVII層でブロックの範囲内に微小な炭化物片の分布が見られた。焼土は伴っていない。炭化物片に関しては2ヵ所サンプルを採取し、AMS法を用いた放射性炭素年代測定を行った。その結果、それぞれ補正C14年代で $14,690 \pm 70\text{yrBP}$ （較正暦年代16,200BC～15,100BC）、 $12,740 \pm 60\text{yrBP}$ （較正暦年代13,800BC～12,400BC）という結果が出ている（VII章 - 1）。

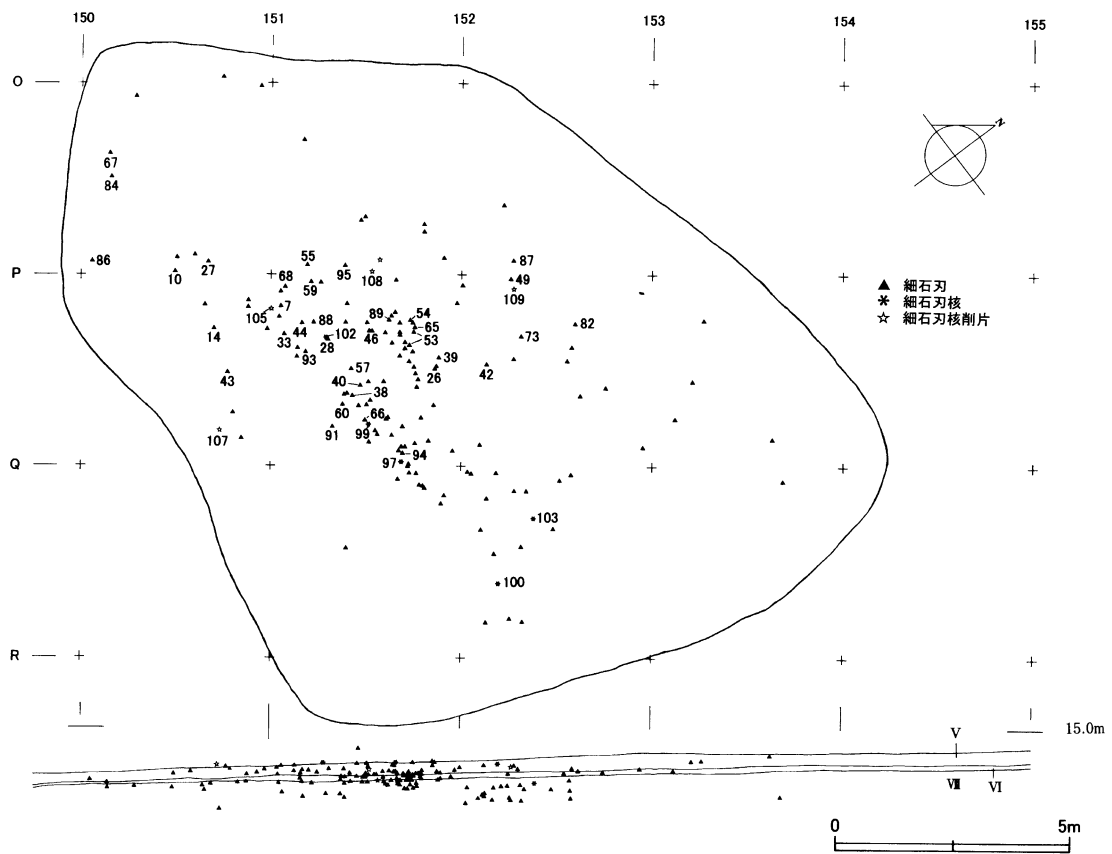
石器・石材組成 合計737点、重量1,510.8gの石器類が出土した。内訳は細石刃113点、細石刃核2点、細石刃核削片6点、彫器3点、彫器削片3点、両面調整石器2点、搔器2点、削器13点、二次加工ある剥片5点、剥片587点、石核1点である。細石刃関連の石器の平面分布は、いずれもS - 133区を中心とする。垂直分布は、細石刃はV層上面～VII層下位にわたるが、VI層下位～VII層下位の分布が濃い。細石刃核は2点ともVII層出土である。細石刃核削片はV～VII層にかけて幅をもって分布している。細石刃関連以外のツールの平面分布もS - 133区を中心とし、垂直分布はV～VII層にかけて上下にわたって出土している。

石材は黒曜石が721点（97.8%）で最も多く、次いで頁岩12点（1.6%）、珪岩が4点（0.6%）であ

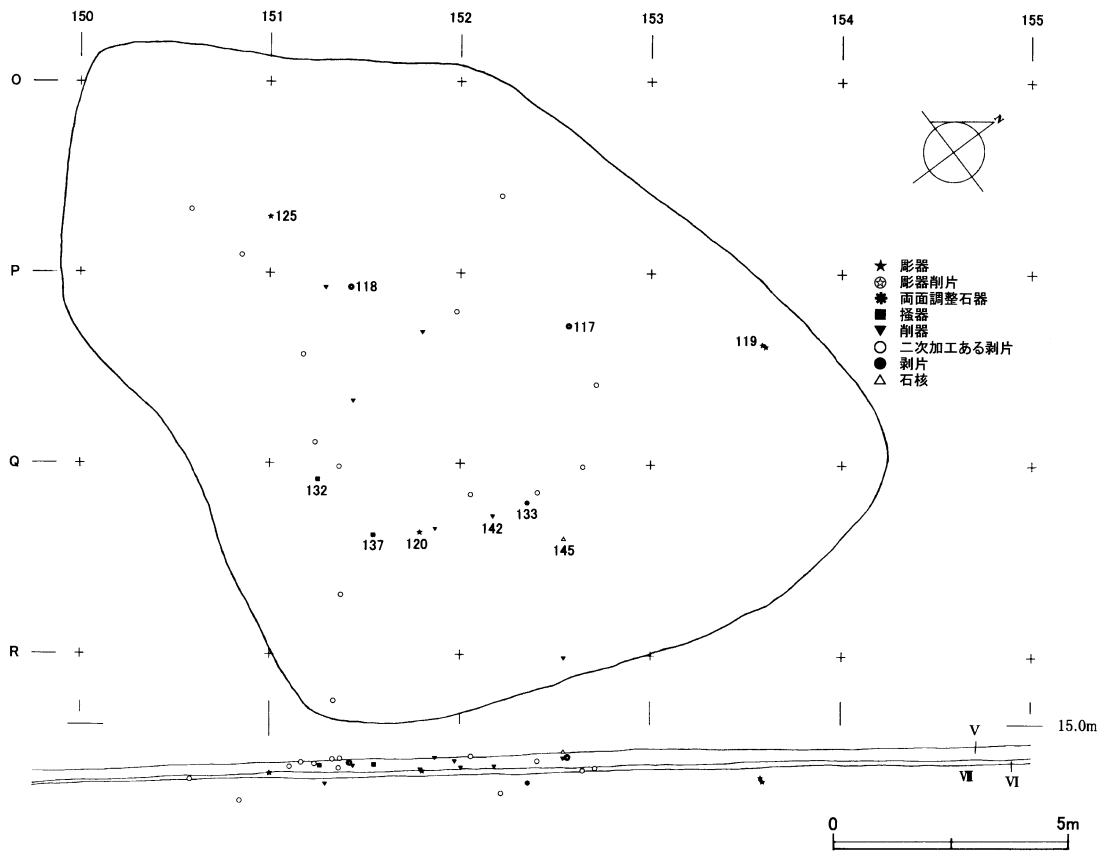


図VI - 37 LCS - 4 の分布図(1)・遺物

細石刃・細石刃核・細石刃核削片



その他の石器



図VI - 38 LCS - 4の分布図(2)

る。黒曜石の中では黒曜石3・4が651点(90.3%)で最も多く、以下黒曜石1が36点(5.0%)、黒曜石5が33点(4.6%)、黒曜石10が1点(0.1%)である。平面分布を見ると、黒曜石1・3・4・5いずれもS-133区を中心とする。頁岩はS-133区に搔器、両面調整石器、剥片がややまとまって分布し、石核はブロック東端から出土している。珪岩は彫器、彫器削片がS-133区東側に近接して見られる。

接合関係 ブロック内では集中区を中心として全体的に接合関係があり、ブロック間ではLCS-1、LCS-2と接合関係が確認された。ブロック外ではS-129、T-130区出土の石器と接合している。

③LCS-4(図VI-37~42、図版42~44)

位置 C地区N-150・151、O-150~152、P-149~154、Q-150~153、R-151・152

地形 東から西にごく緩やかに下る斜面に位置している。

分布 平面は南北約18m、東西約13mの範囲で、東から西の斜面方向にやや長く広がっている。平面分布はP-151・152、Q-152区の密度が濃く、周辺にいくに従い密度が薄くなる。垂直分布は、V層~VII層にかけて見られ、西側に行くに連れてやや高い位置に分布する。また、風倒木痕等の影響でVII層下部やIII層から出土しているものがある。層別別の点数は、V-1層3点、V-2層221点、VI層165点、VII層が234点である。

石器・石材組成 合計623点、重量1,699.5gの石器類が出土した。内訳は細石刃149点、細石刃核5点、細石刃核削片6点、彫器5点、彫器削片2点、両面調整石器1点、搔器2点、削器7点、二次加工ある剥片14点、剥片431点、石核1点である。細石刃関連の石器の平面分布は、細石刃はP-151区が中心で、細石刃核はP-151、Q-152区、細石刃核削片は細石刃の分布の周辺に点在する。垂直分布は、細石刃はV層上面~VII層下位にわたるが、北東側ではVII層下位からの出土がやや多い。細石刃核、細石刃核削片はV~VI層にかけて分布している。細石刃関連以外のツールは細石刃関連の石器の分布を取り巻くように点在し、垂直分布では比較的高い位置から出土している。

石材は黒曜石が592点(95.0%)で最も多く、次いで頁岩が18点(2.9%)、以下珪岩9点(1.4%)、泥岩4点(0.7%)である。黒曜石の中では黒曜石3・4が422点(71.3%)で最も多く、以下黒曜石5が84点(14.2%)、黒曜石1が66点(11.1%)、黒曜石10が20点(3.4%)である。平面分布を見ると、黒曜石1・3・4・5はいずれもP-151~152区を中心に出土している。頁岩はブロック中央から東側にかけて散漫に広がり、珪岩はP-151・153、Q-152区に分布し、彫器はブロック北東端近くで出土している。泥岩は剥片がブロック東側に点在している。

接合関係 ブロック内ではP-151区を中心として全体的に接合関係があり、ブロック間ではLCS-1、LCS-2と接合関係が確認された。ブロック外ではK-152、M-151、N-149区出土の石器と接合している。

④LCS-1(図VI-43~47)

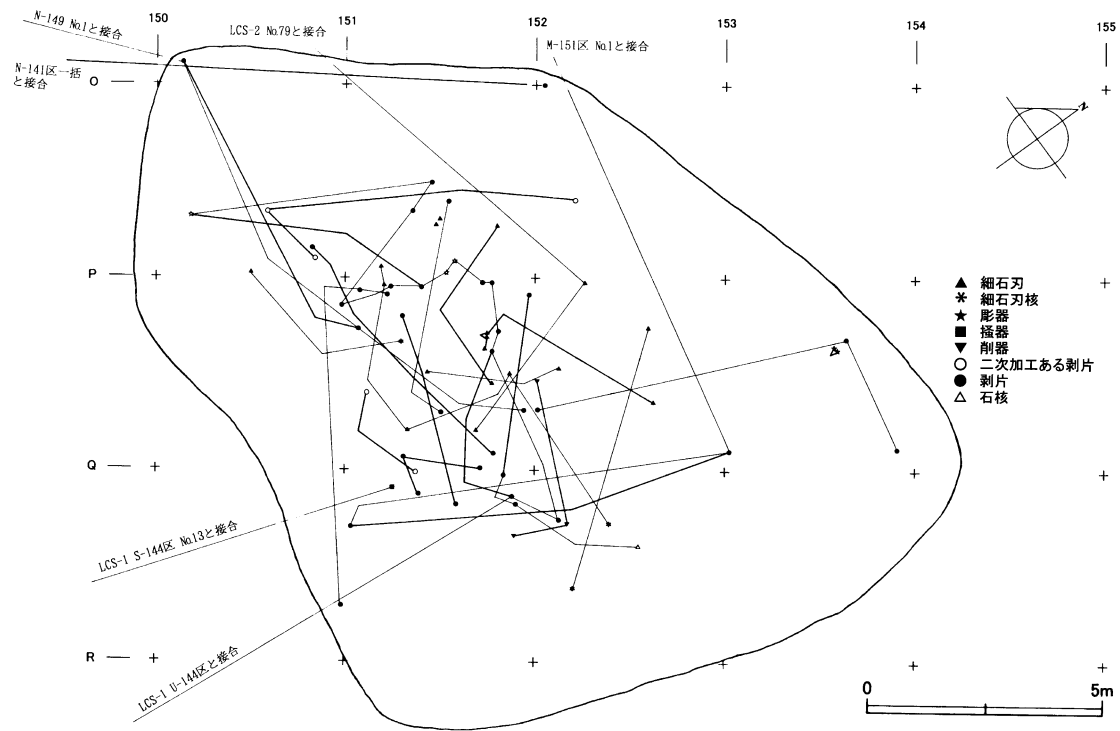
位置 B地区Q-146・147、R-142~149、S-144~149、T-144~149、U-144~146

地形 東から西にごく緩やかに下る斜面に位置している。

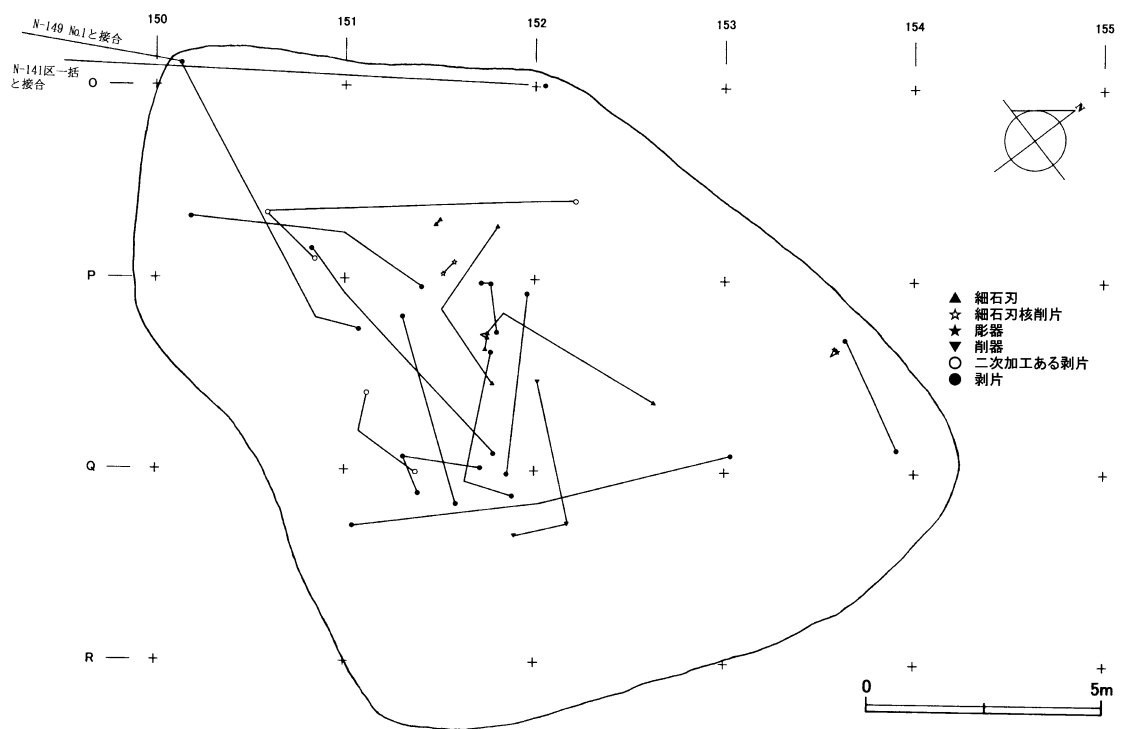
分布 平面は南北約24m、東西約16mの範囲に広がり、南北方向にやや長くなっている。平面分布は密度から、S-144・145区とその周辺部(南側)、R-146、S-147区とその周辺部(北側)の二つの集中部に分かれる。層別別の点数は、V層375点、VI層197点、VII層143点、排土ほか1点である。

石器・石材組成 合計716点、重量2,886.7gの石器類が出土した。内訳は細石刃102点、細石刃核3

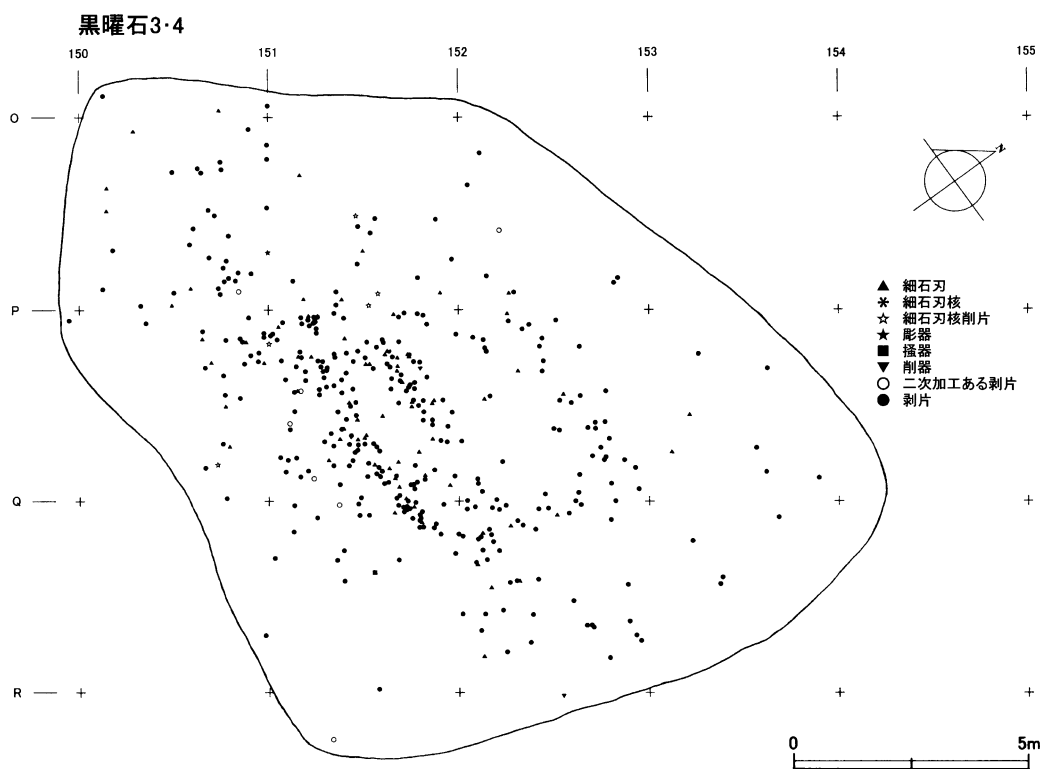
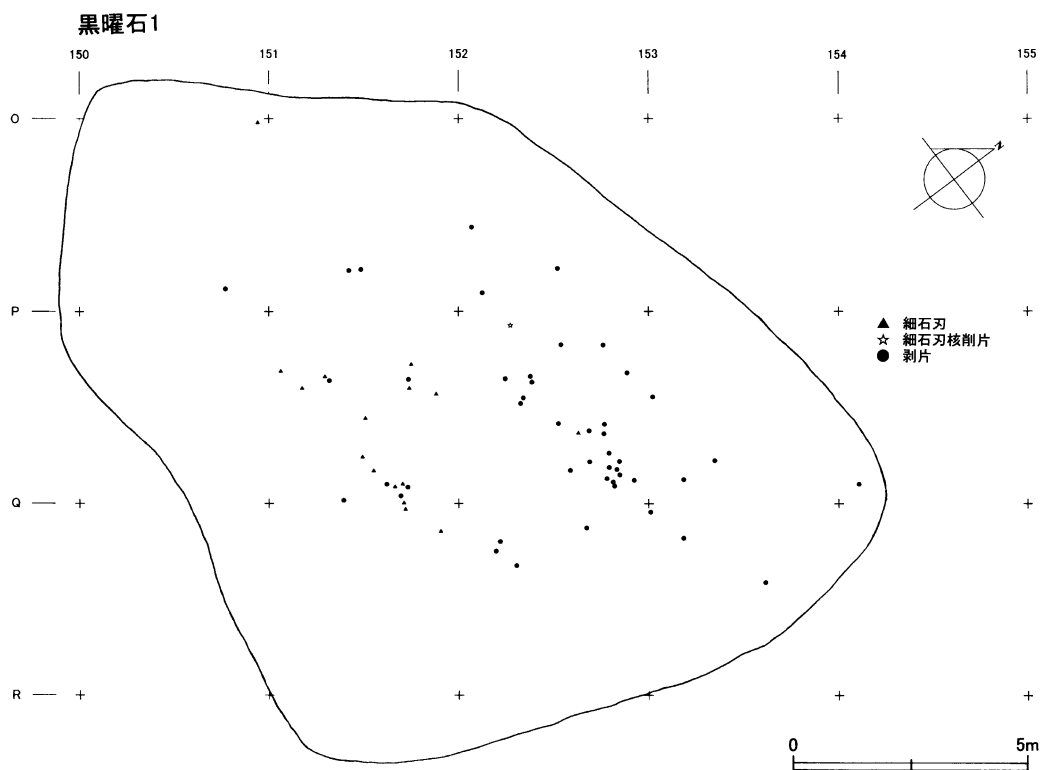
全接合分布図



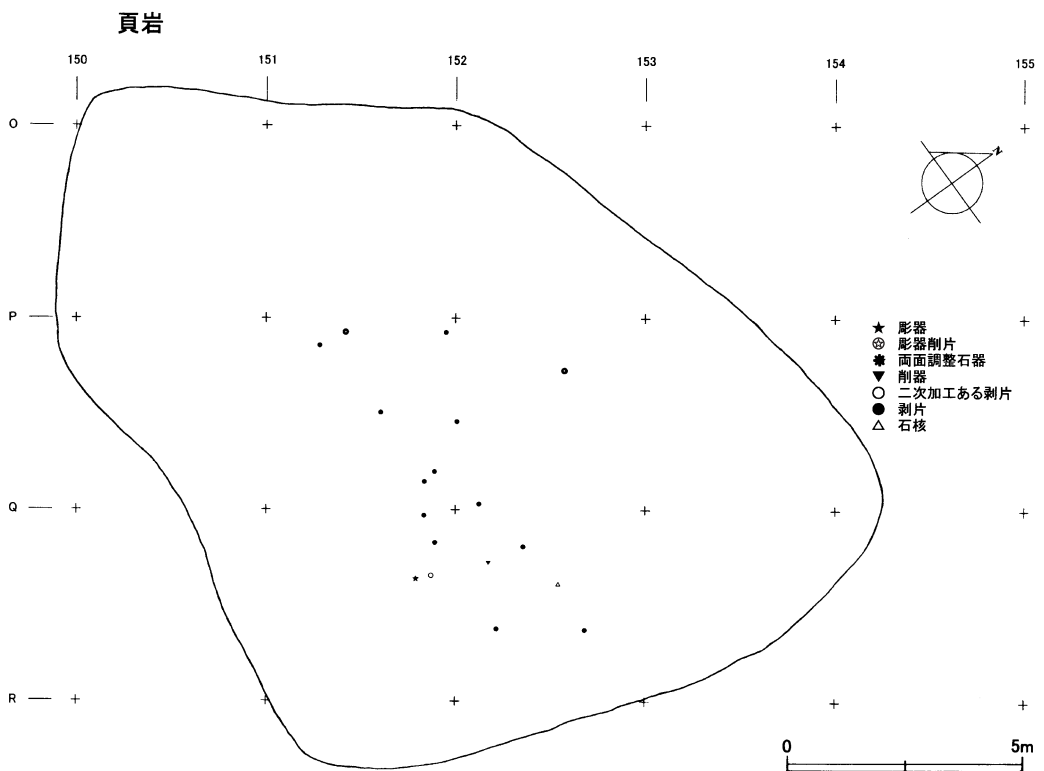
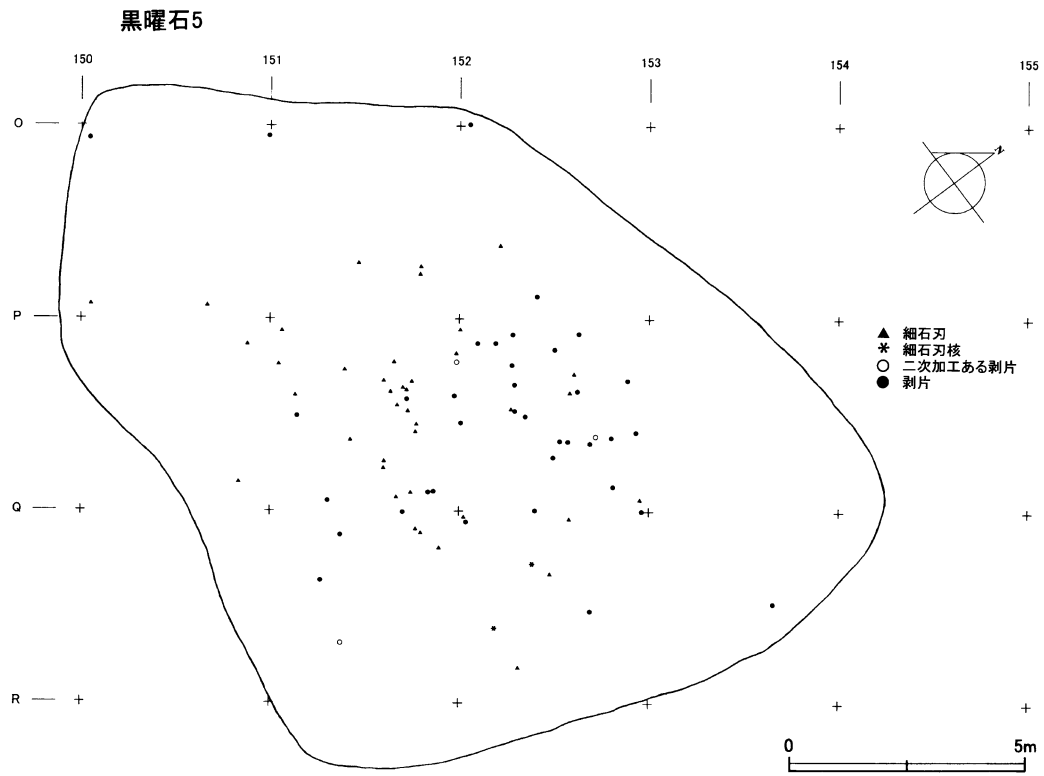
折れ面接合分布図



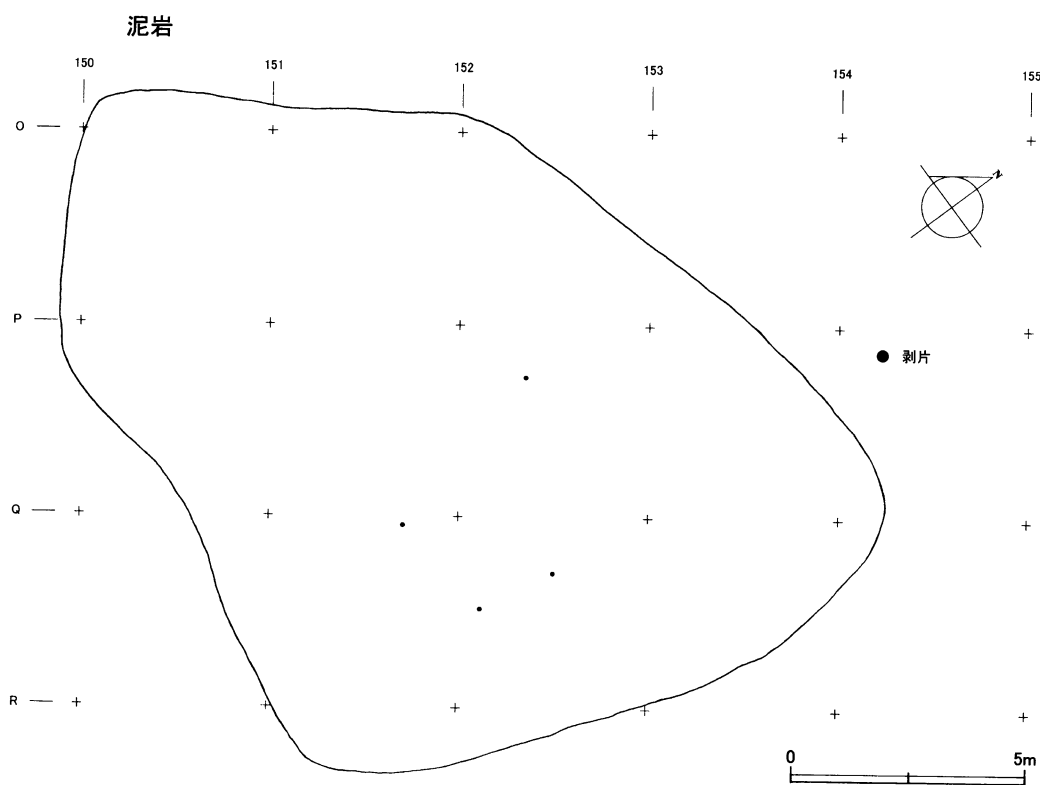
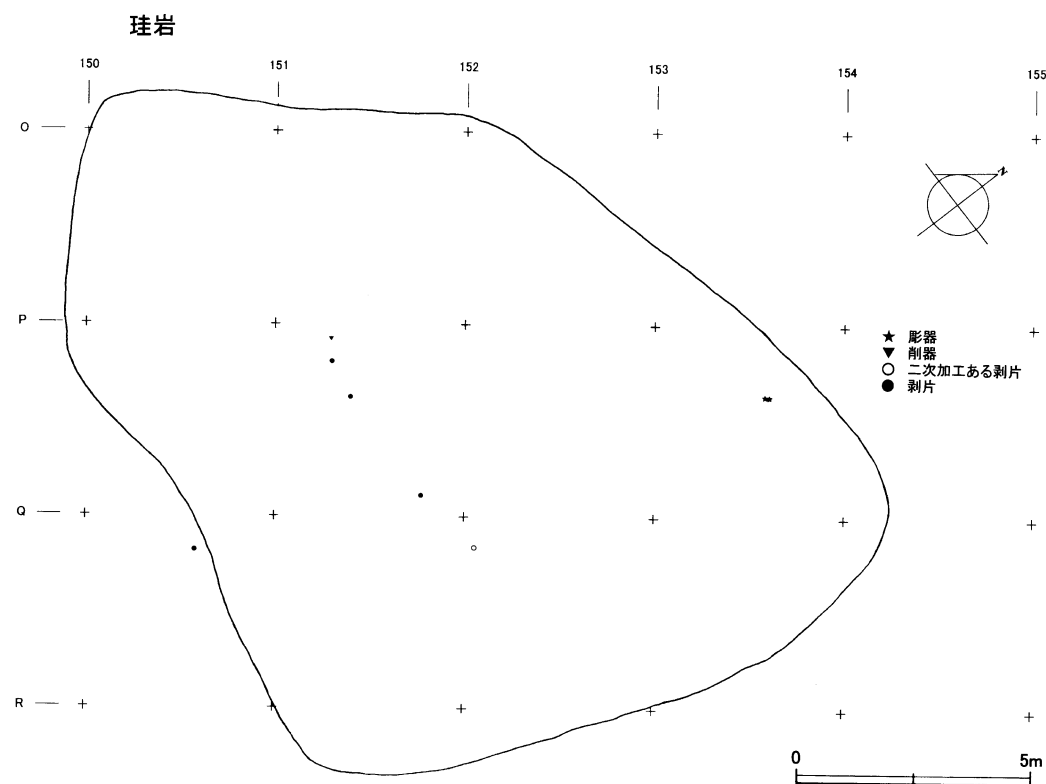
図VI - 39 LCS - 4の接合分布図



図VI - 40 LCS - 4 の石材別分布図(1)



図VI - 41 LCS - 4の石材別分布図(2)



図VI - 42 LCS - 4の石材別分布図(3)

点、細石刃核削片1点、彫器6点、彫器削片3点、両面調整石器2点、搔器7点、削器25点、二次加工ある剥片11点、剥片554点、石核2点である。細石刃関連の石器の平面分布は、細石刃は西側の密度が濃く、細石刃核は北側集中部のR - 147、S - 147、R - 148区に点在する。グリッド一括で取上げたため分布図にはないが、U - 144区から細石刃核削片が1点出土している。細石刃関連以外のツールは北側と南側の集中部に大きく二つに分かれ、搔器は南側に多く、彫器・削器等はどちらにも見られる。

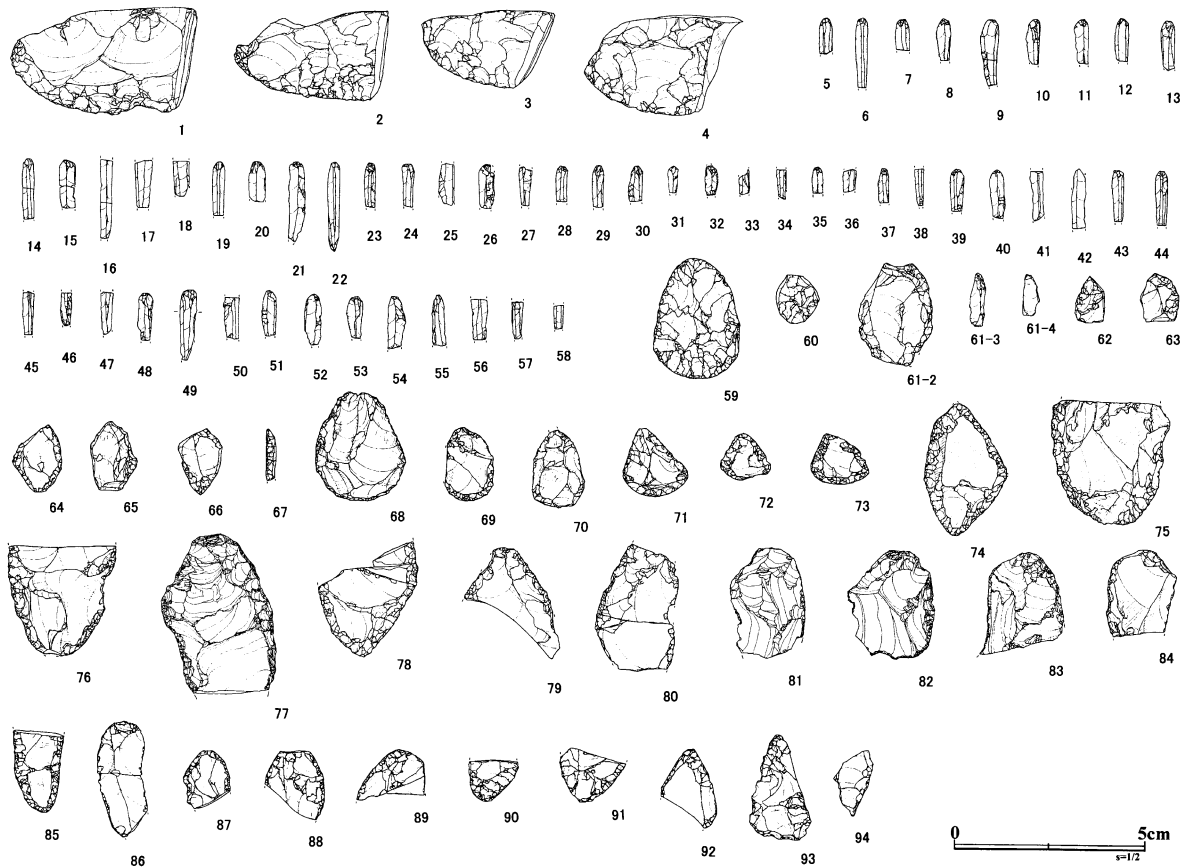
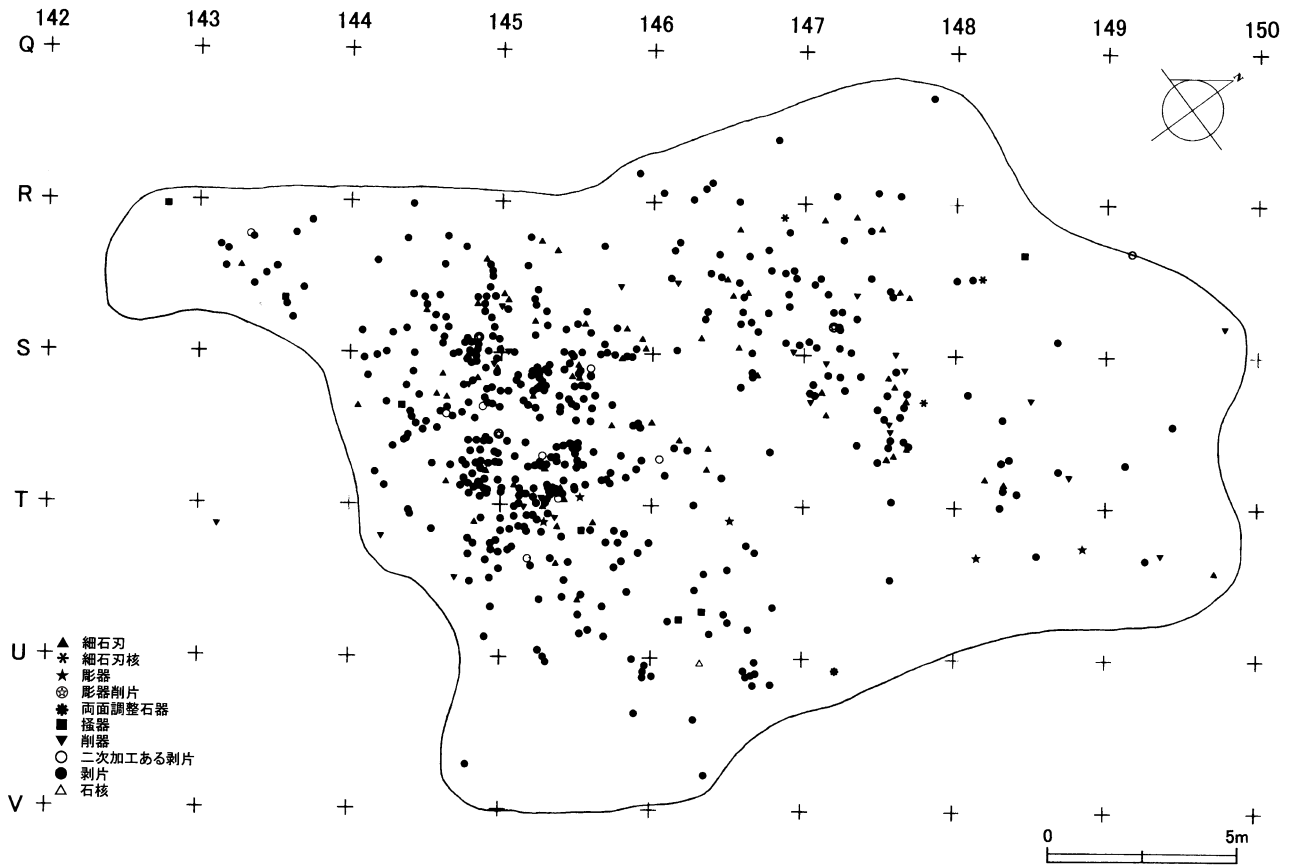
石材は黒曜石が639点(89.3%)で最も多く、次いで珪岩、泥岩がともに26点(3.6%)、以下頁岩22点(3.1%)、緑色泥岩3点(0.4%)である。黒曜石の中では黒曜石3・4が536点(83.9%)で最も多く、以下黒曜石5が38点(5.9%)、黒曜石1が61点(9.5%)、黒曜石10が4点(0.6%)である。平面分布を見ると、黒曜石1は細石刃、剥片が北側の集中部にやや多く広がり、南側は少ない。黒曜石3・4・5は南北の集中部どちらも全体的に分布している。頁岩・珪岩・泥岩は南側の集中部に多く見られ、北側は少ない。

接合関係 ブロック内では南側、北側の集中部を中心として全体的に接合関係があり、ブロック間ではLCS - 2、LCS - 3、LCS - 4と接合関係が確認された。ブロック外ではT - 143、X - 137、N - 149区出土の石器と接合している。

(5) ブロック外の石器(図VI - 48、図版89)

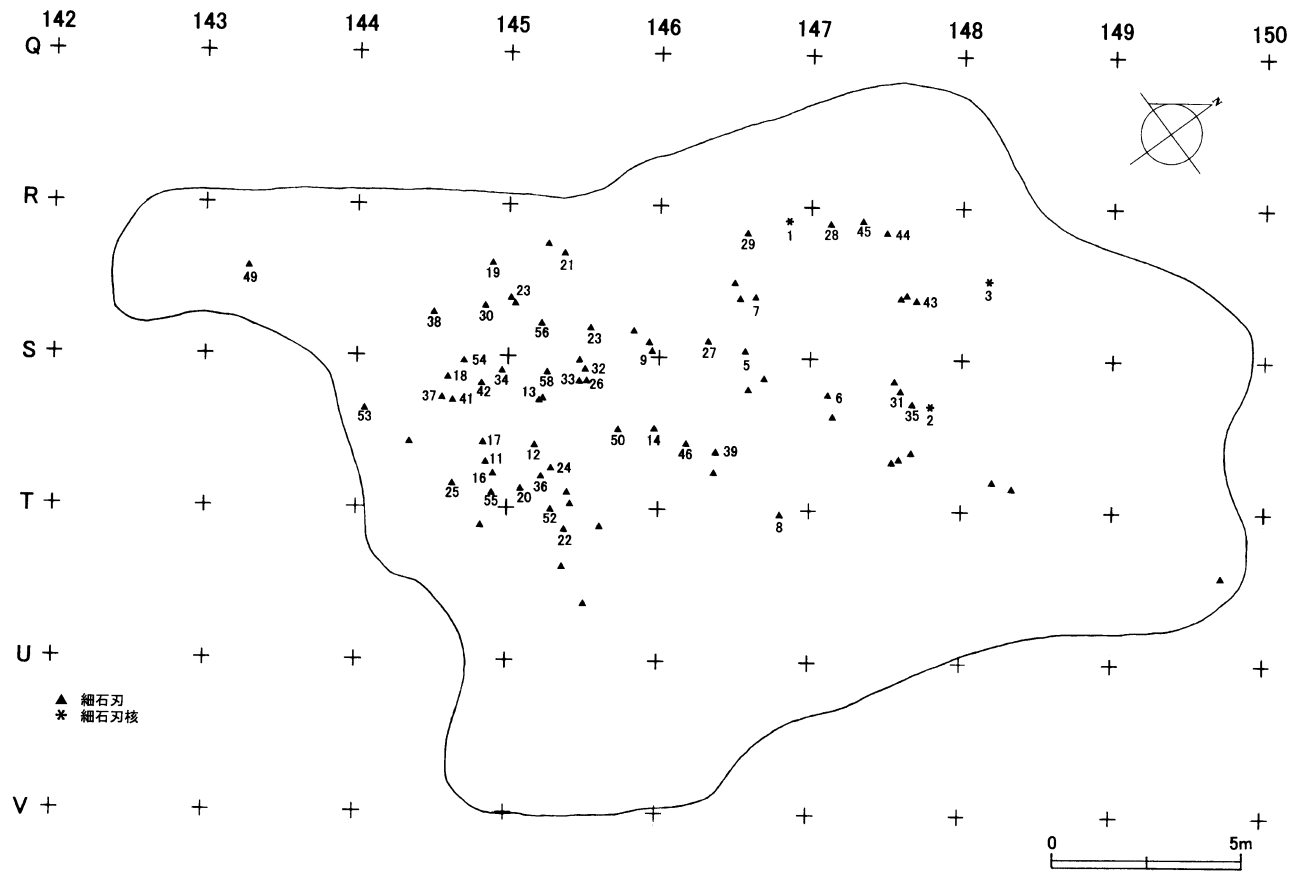
ブロック外からは合計221点、重量614.7gの石器類が出土した。内訳は細石刃24点、細石刃核削片1点、彫器3点、搔器5点、削器4点、尖頭器2点、石刃7点、二次加工ある剥片9点、剥片164点、石核1点、斧形石器1点である。層位別の点数は、V - 1層が30点、V - 2層122点、VI層13点、VII層7点、III層ほか49点である。

1は剥片である。正面に細石刃様の剥離痕が連続的に見られ、細石刃核の破片の可能性はある。上面は平坦である。石材は透明度の高い黒曜石である。2は剥片素材の彫器で基部側を欠失する。背面両側縁に加工が行われ、左肩に彫刀面が作り出されている。彫刀面は腹面側に傾く。石材は黒曜石である。3は尖頭器である。先端部と基部を欠失する。両面ともに平坦な剥離で加工され、石材は頁岩である。4～6は石刃である。4は打面調整が見られる。5・6は打面側と末端部側を欠失する。4は黒曜石製、5・6は頁岩製である。7は斧形石器である。素材となる棒状の礫を側縁からの加工で整形した後、ほぼ全面を研磨している。上端には敲打痕が見られ、下端にわずかに刃部の作り出しと考えられる鑄がある。石材は泥岩である。

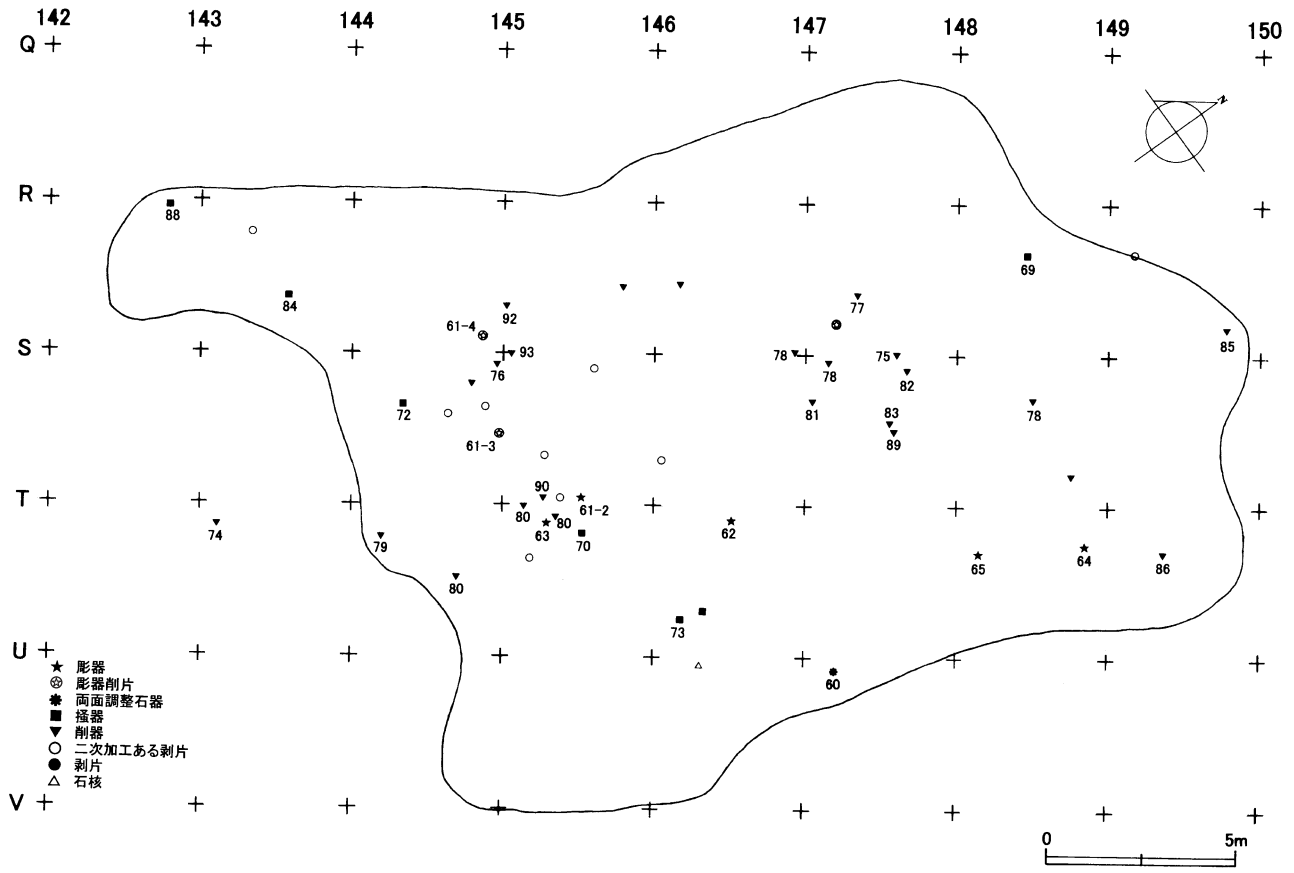


図VI - 43 LCS - 1 の分布図(1)・遺物

細石刃・細石刃核

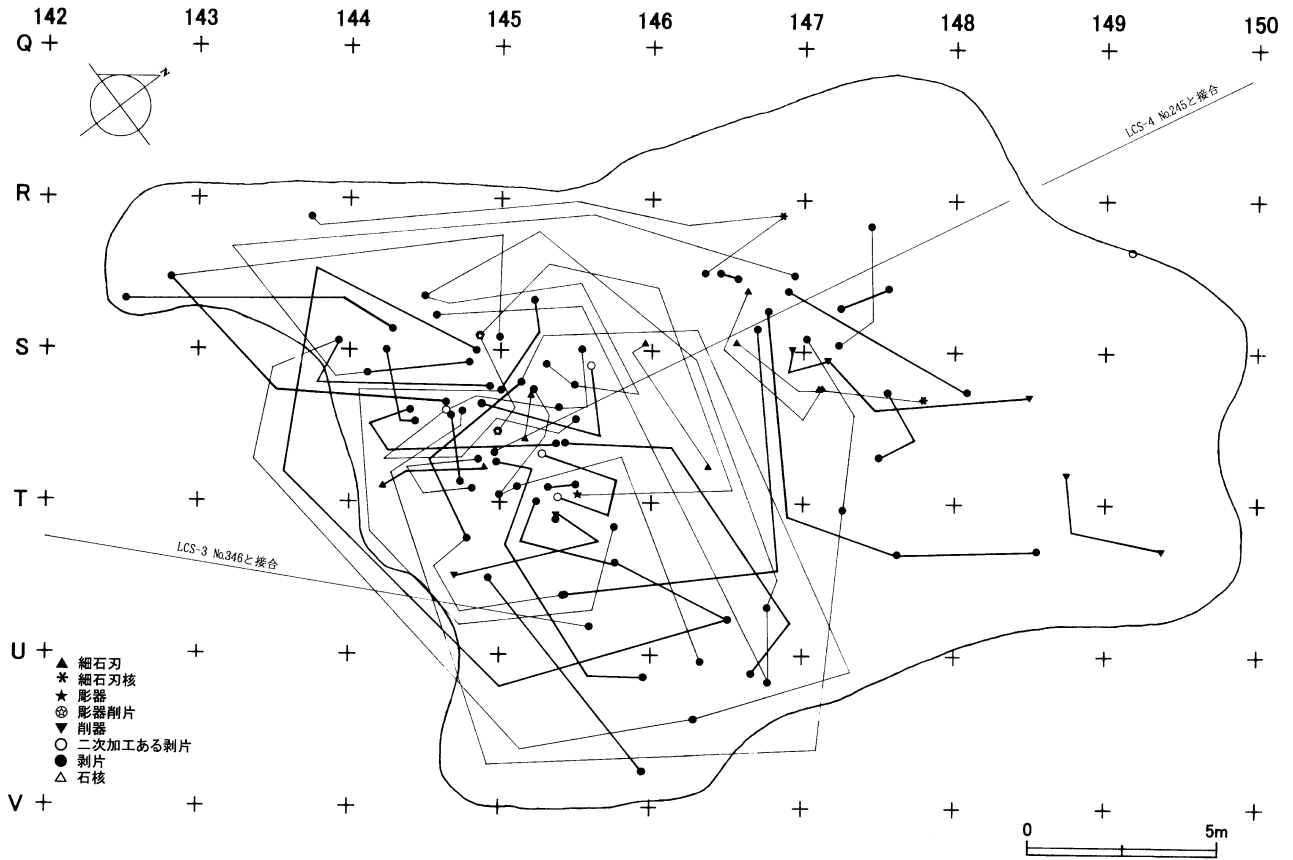


その他の石器

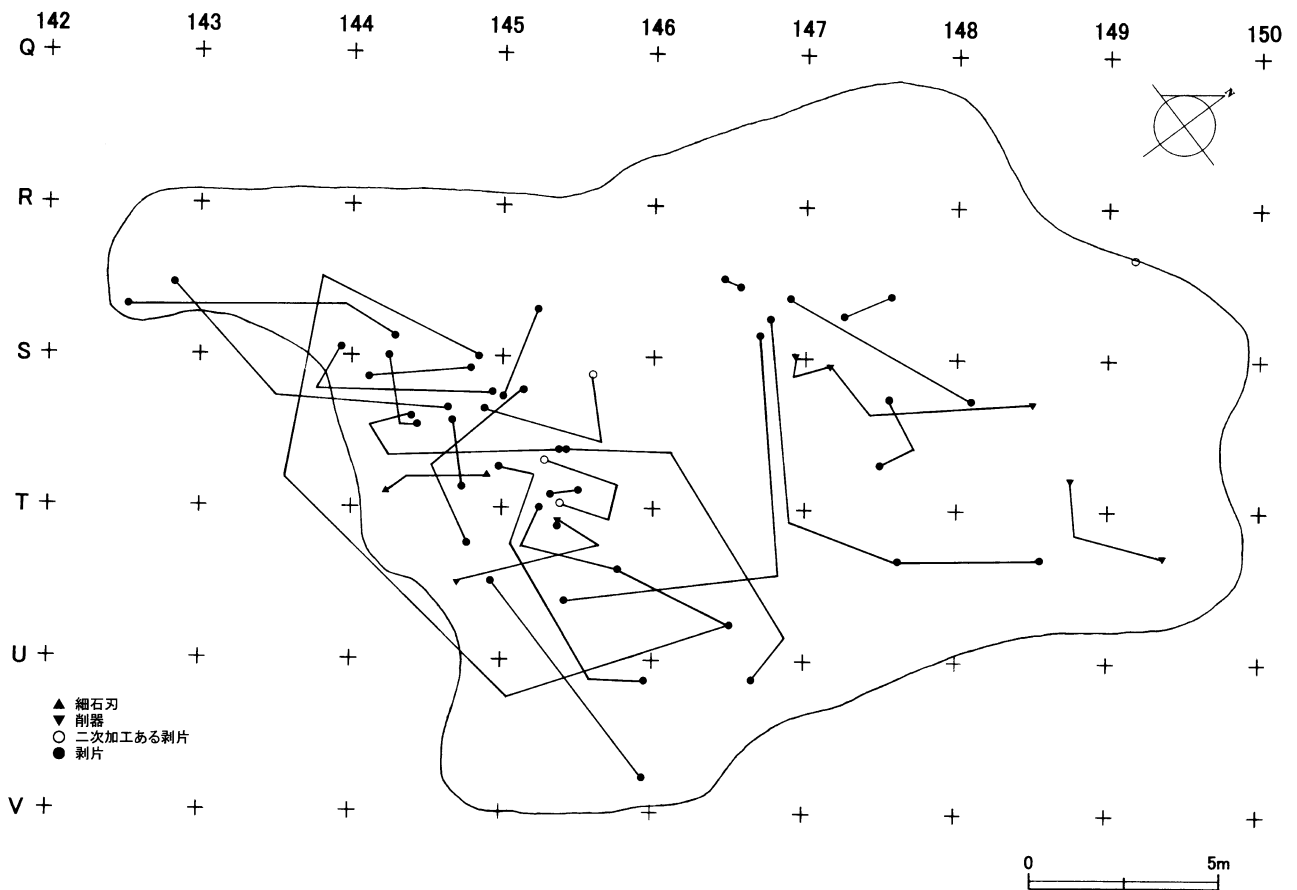


図VI - 44 LCS - 1の分布図(2)

全接合分布図

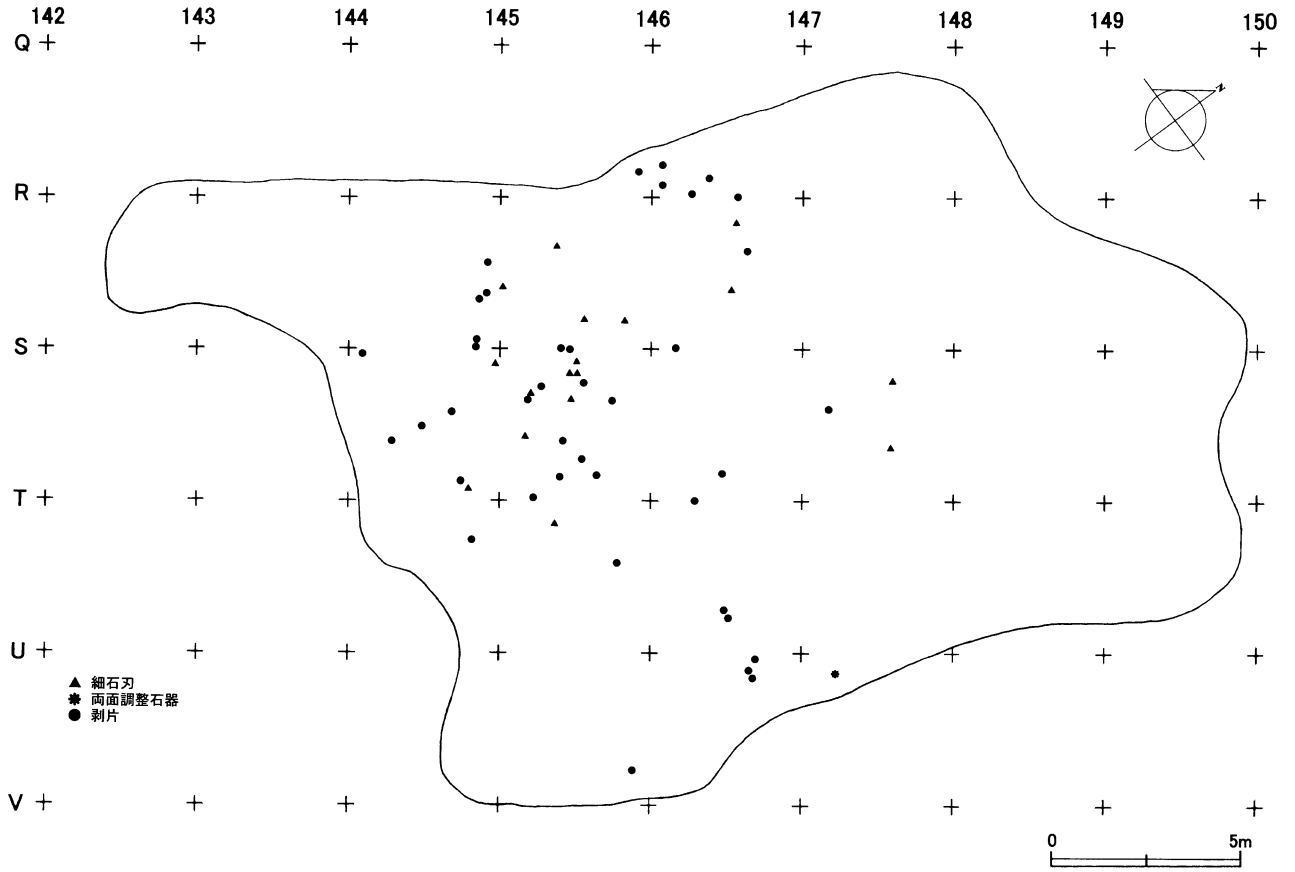


折れ面接合分布図

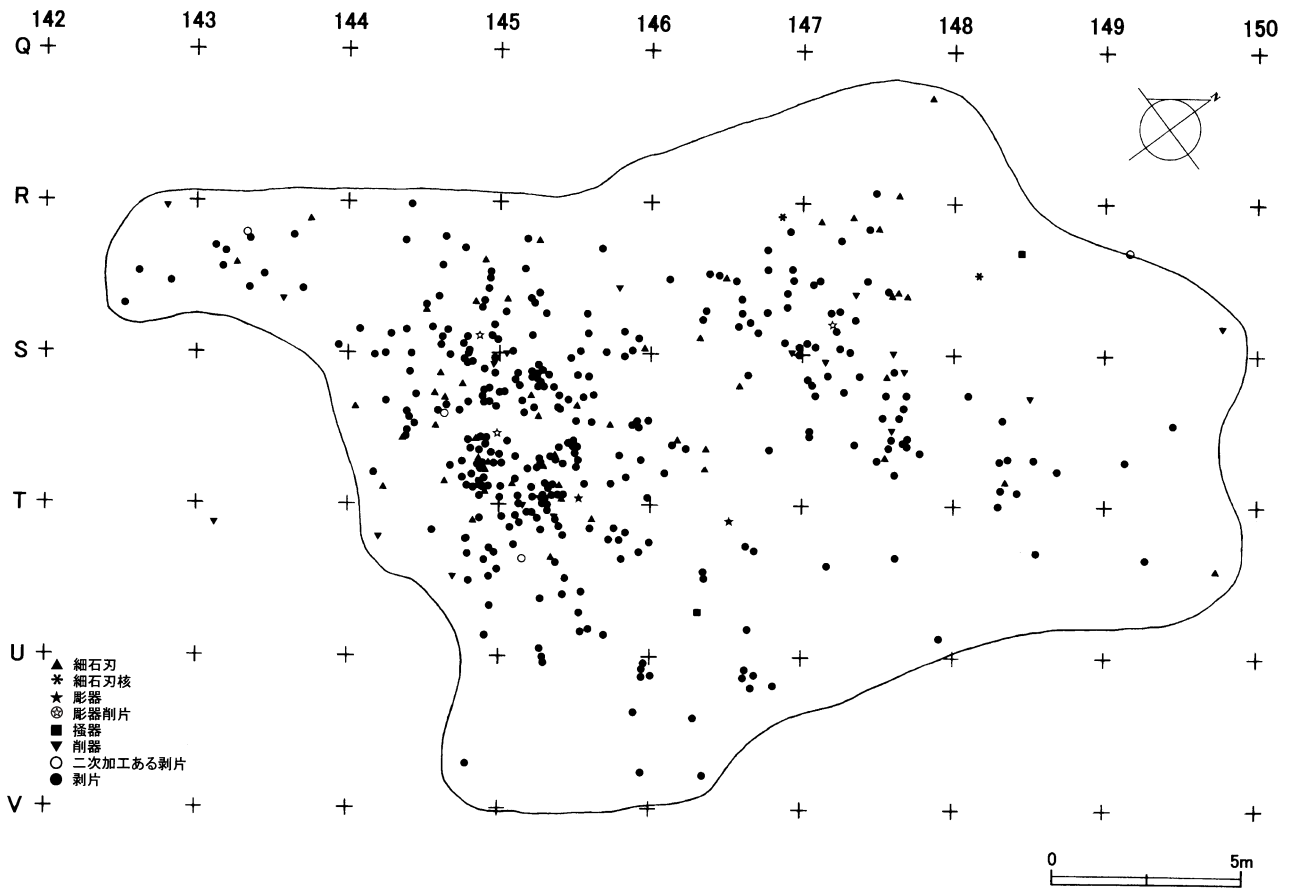


図VI - 45 LCS - 1の接合分布図

黒曜石1

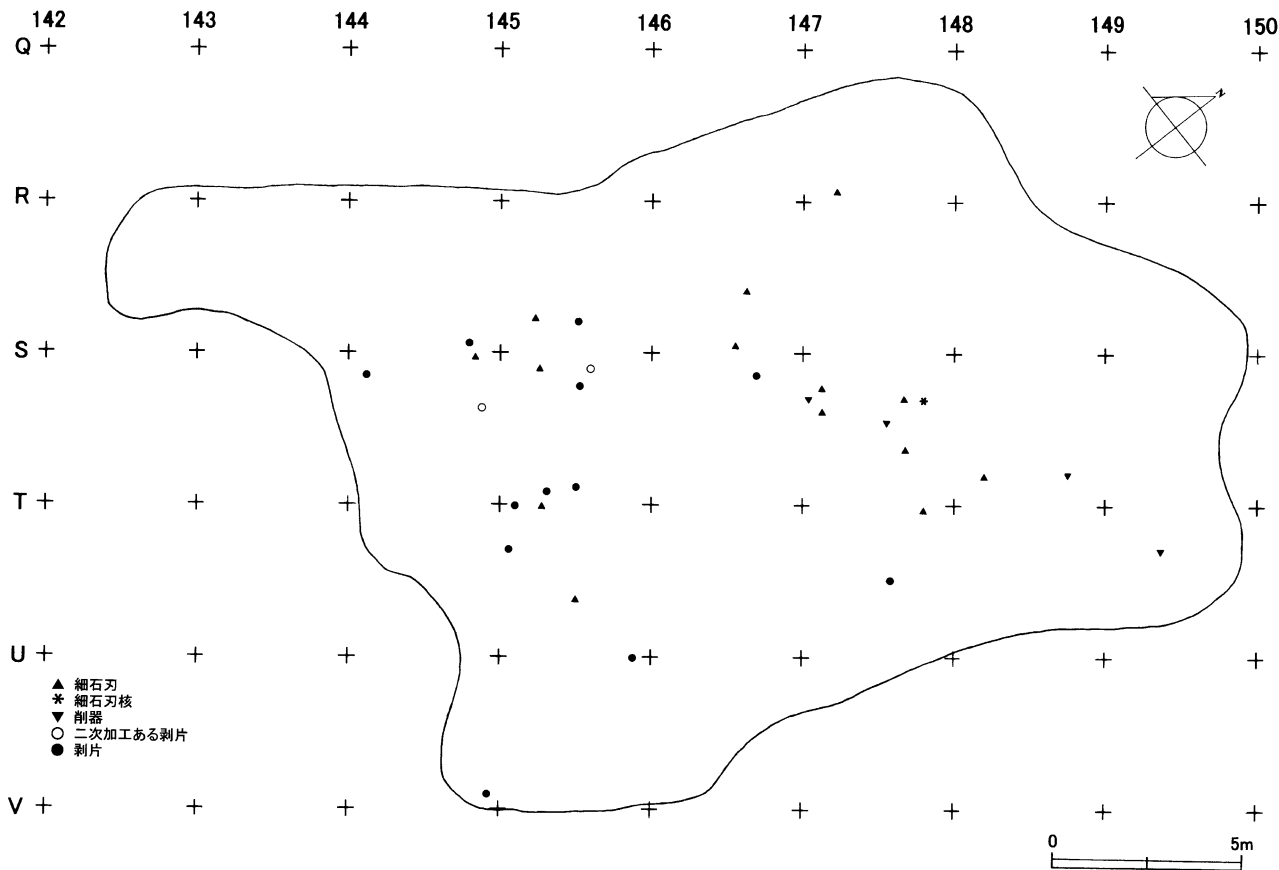


黒曜石3・4

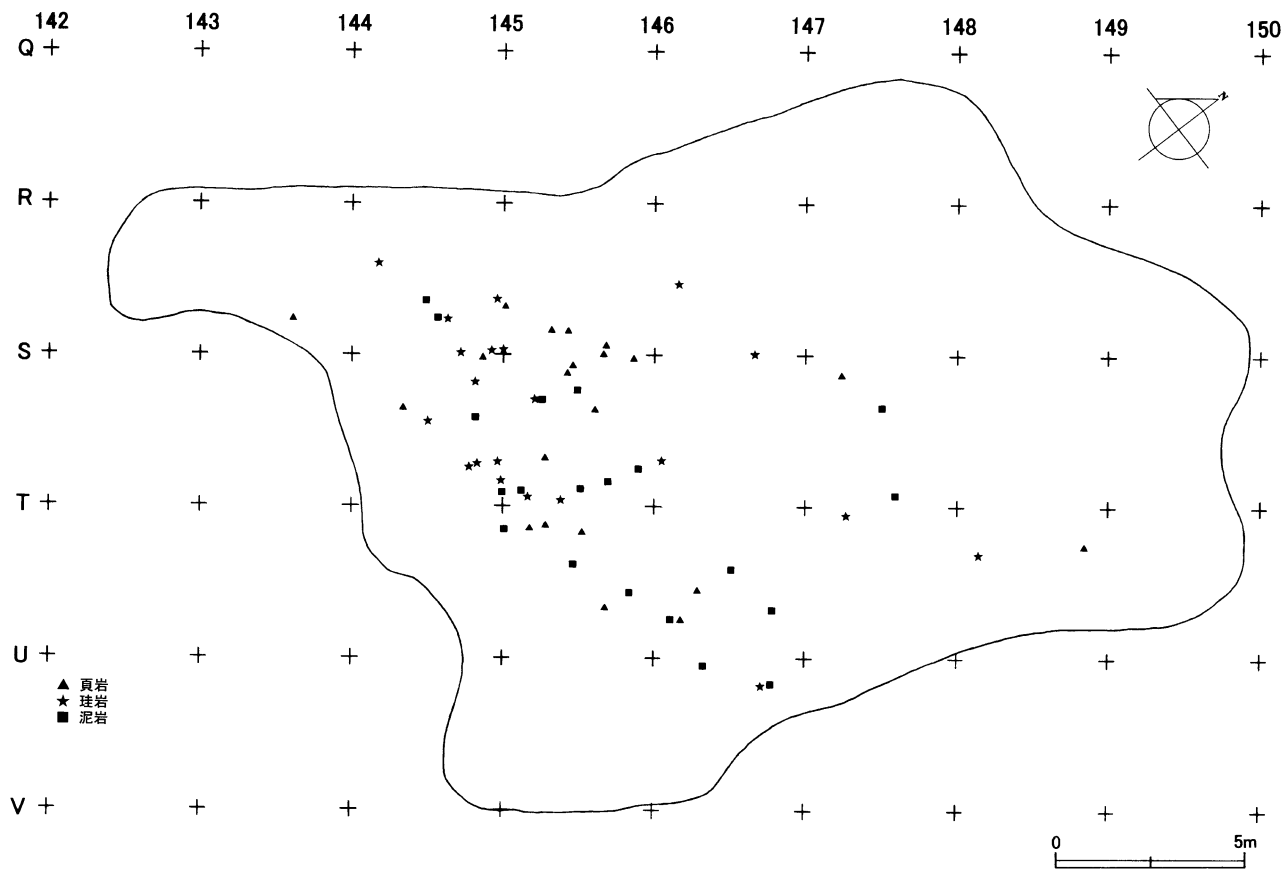


図VI - 46 LCS - 1の石材別分布図(1)

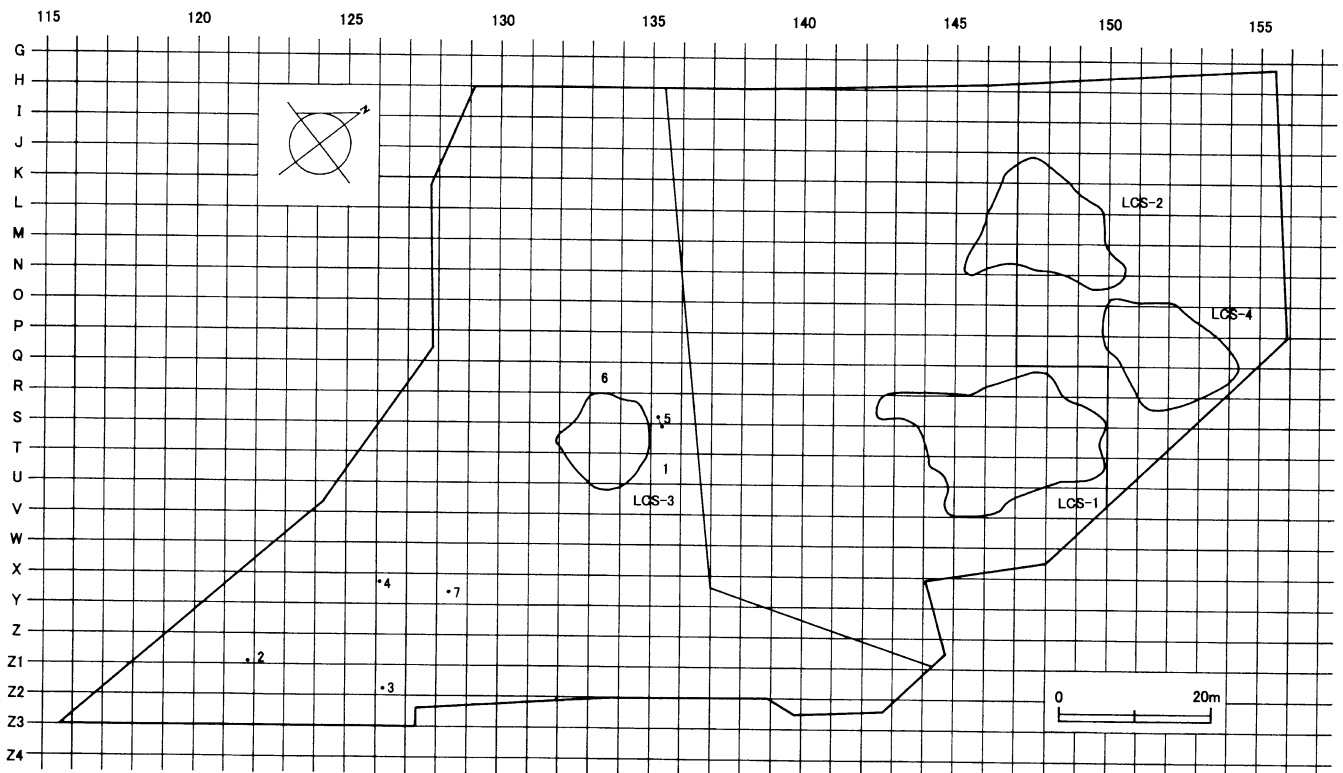
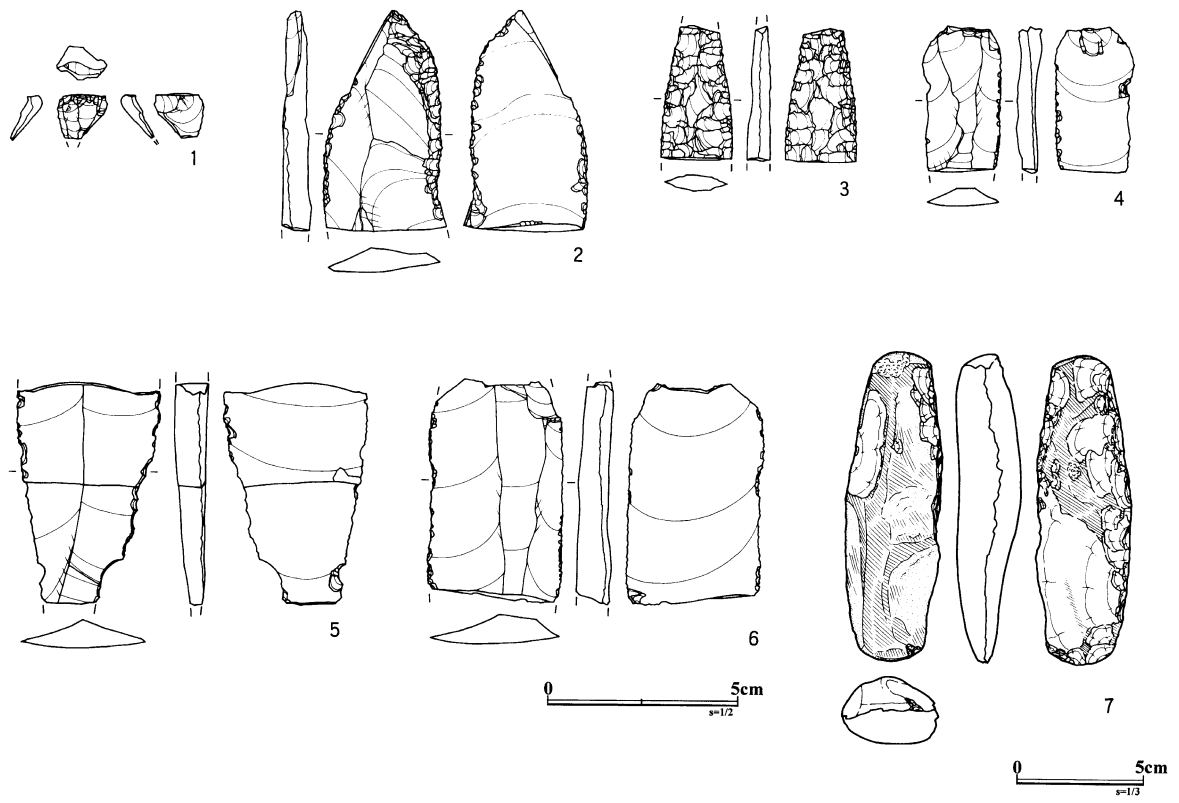
黒曜石5



その他の石材



図VI - 47 LCS - 1の石材別分布図(2)



図VI - 48 ブロック外出土の石器

(6) 母岩別接合資料 (図VI - 49~69、図版90~94)

接合作業の結果、折れ面接合118例、剥離面接合52例が確認された。接合番号は、折れ面接合は「1001」から、剥離面接合は「1」からそれぞれ接合順に番号を付した。全接合点数は365点で、内訳は折れ面接合のみは143点、折れ面接合を含む剥離面接合は242点である。遺物総数3,031点に対しては12%の接合率である。また、平成14年度の調査で報告書に掲載した接合資料に関しても、今回改めて接合番号を付けている。接合資料を基に母岩別の分類を行い、21個体を母岩別資料とした(母岩別資料1~22)。21個体の母岩別資料の点数は965点で遺物総数3,031点に対して31.8%の母岩抽出率である(表VI - 4)。また、石器の実測図は(3)項で掲載したものはその掲載番号を使い、未掲載のものは1から番号を付けている。

表VI - 4 旧石器母岩別資料一覧

ブロック名 母岩番号	LCS - 1		LCS - 2		LCS - 3		LCS - 4		ブロック外		小計	備考	
	点取り	一括	点取り	一括	点取り	一括	点取り	一括	点取り	一括			
1	点数		42		1						43	細石刃・細石刃核接合資料	
	重量(g)		27.5		0.5						28.0		
2	点数	6	1	216	1			1		1	2	228	調整剥片・彫器接合資料
	重量(g)	10.1	1.3	254.3	16.2			5.3		1.6	3.1	291.9	
3	点数			2								2	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)			8.7								8.7	
4	点数			38								38	剥片接合資料 分布図のみ掲載
	重量(g)			46.7								46.7	
5	点数			1		75						76	細石刃接合資料
	重量(g)			0.4		23.4						23.8	
6	点数					94		1				95	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)					32.8		0.2				33.0	
7	点数					19						19	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)					12.5						12.5	
8	点数							7				7	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)							0.9				0.9	
9	点数			1				62				63	細石刃・細石刃核接合資料
	重量(g)			0.5				124.7				125.2	
10	点数	16	2			7				1		26	剥片接合資料 分布図のみ掲載
	重量(g)	64.6	9.4			7				5.2		86.2	
11	点数	53	18	2		1		1		4		79	調整剥片・搔器・削器接合資料
	重量(g)	111.2	92.7	16.3		24.2		40.1		14.2		298.7	
12	点数	9	3			1				1		14	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)	82.7	27.1			0.9				3		113.7	
13	点数			13	1	152	1			3	28	198	細石刃核・搔器接合資料
	重量(g)			39.8	2.7	379.1	0.4			17.1	15.3	454.4	
14	点数					3		5			1	9	剥片接合資料 未掲載
	重量(g)					61.0		26.7				87.7	
15	点数	1				1		35				37	細石刃核削片接合資料
	重量(g)	100.3				0.3		67.8				168.4	
16	点数							2				2	細石刃・細石刃核接合資料
	重量(g)							75.0				75.0	
17	点数							2				2	細石刃・細石刃核接合資料
	重量(g)							112.5				112.5	
18	点数	4	3									7	石核接合資料
	重量(g)	445.9	20.9									466.8	
19	点数	8	4									12	石核接合資料
	重量(g)	241.7	107.8									349.5	
20	点数							4				4	石核接合資料
	重量(g)							68.4				68.4	
21	点数	3	1									4	細石刃核接合資料
	重量(g)	158.8	2.2									161.0	
合計										点数	965		
										重量(g)	3013.0		

1) 母岩別資料13 (図VI - 49 ~ 53)

母岩別資料は接合46・48の他、剥片119点で構成され、総点数198点、重量454.4gである。

①接合資料46 (図VI - 49 ~ 53、図版90)

素材 77点(48個体)が接合し、重量は406.6g、大きさは17.8×12.0×3.9cmである。

剥離工程 段階1 母型作成：左側面は周縁から、右側面は下縁から加工が行われる。左右両側面の周縁部には細かな加工が施される。右側面を加工した際に生じた剥片を素材として搔器が作られている(1085)。

段階2 削片剥離：長軸方向に断面三角形の一次削片が剥離されるが(106) その際に母型中央付近で折れてしまっている。

母型作成：折れた母型を素材とし、左右両側面に周縁から加工を行い、周縁部には細かな調整が施される。

段階3 削片剥離：長軸方向に三回の剥離が行われるが(110~112) 細石刃を剥離せず、廃棄している。

半両面調整で遺跡に搬入され、側面調整の後に一次削片が剥離される。その際に母型が折れてしまいが、さらに側面調整を行い小形の母型を作成している。その後削片剥離を3回行うが、最終的に細石刃を剥離せずに廃棄されている。

分布 LCS - 3のS - 133区を中心に広がっているが、他にLCS - 2、ブロック外からも出土している。

②接合資料48 (図VI - 50・53)

素材 剥片2点が接合し、重量は15.9g、大きさは6.4×4.2×1.0cmである。

剥離工程 上面から剥片を剥離した(1)後、右から剥片を剥離している(2)。

分布 1はLCS - 2のL - 148区出土で、2はLCS - 3のT - 133区出土である。

2) 母岩別資料1 (図VI - 54 ~ 57、図版91)

母岩別資料は接合12・14・13の他、細石刃13点、二次加工ある剥片1点で構成され、総点数43点、重量28.0gである。

①接合資料12

14点(12個体)が接合し、重量は147.0g、大きさは9.8×6.0×2.8cmである。細石刃13点(12個体)と細石刃核1点で構成され、主に細石刃核右側面側が接合している。

②接合資料14

細石刃8点(6個体)が接合し、重量は4.5g、大きさは7.2×1.8×1.3cmである。細石刃核の左右両側面を取り込んだ細石刃が接合している。

③接合資料13

細石刃5点(5個体)が接合し、重量は2.0g、大きさは5.6×2.0×0.8cmである。細石刃核右側面を取り込んだ細石刃が接合している。

④接合資料17

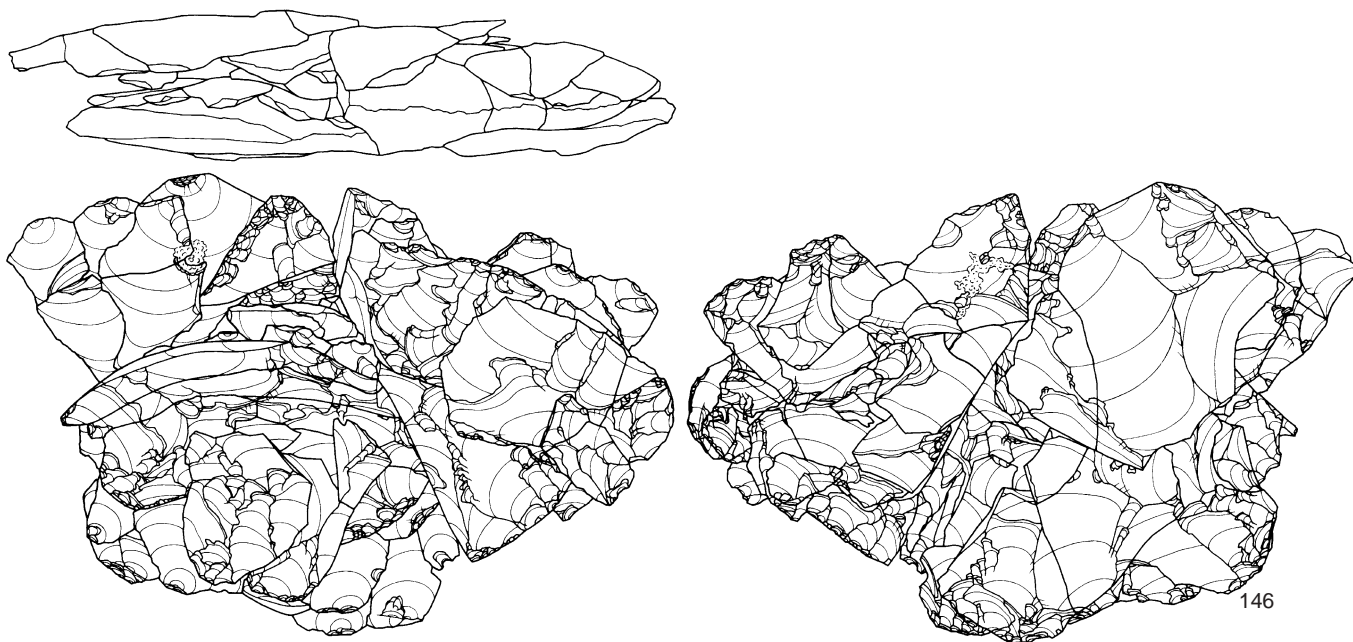
細石刃2点(2個体)が接合し、重量は0.8g、大きさは2.4×1.2×0.4cmである。

剥離工程 細石刃核の平坦な甲板面から接合資料12の11点、接合資料14の6点、接合資料13の5点、接合資料17の2点を含む細石刃を連続的に剥離している。

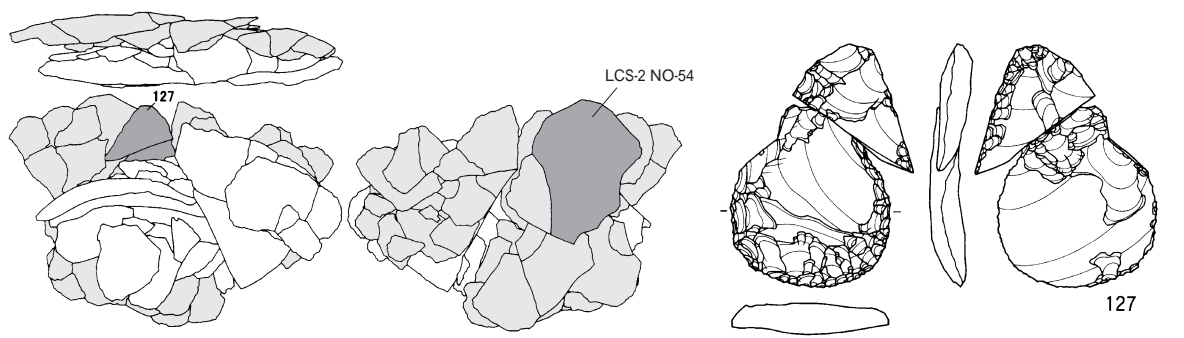
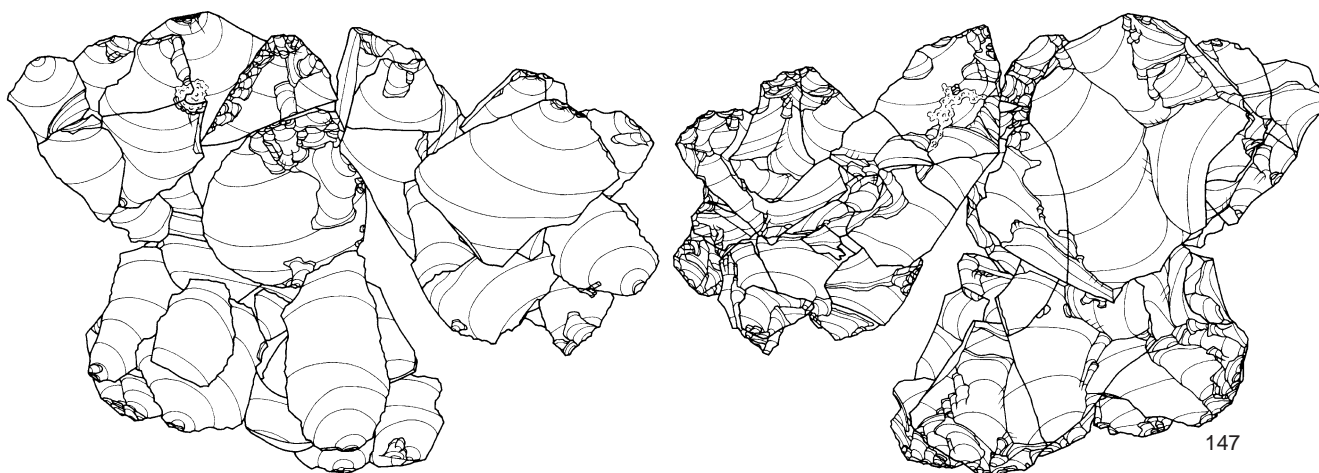
削片を剥離し、細石刃をある程度剥離した細石刃核の状態に遺跡内に搬入され、細石刃剥離が行われた後、廃棄されている。

分布 細石刃の多くはLCS - 2の北東側のL - 148区を中心に分布し、細石刃核はLCS - 2東端のN

母岩13・接合46



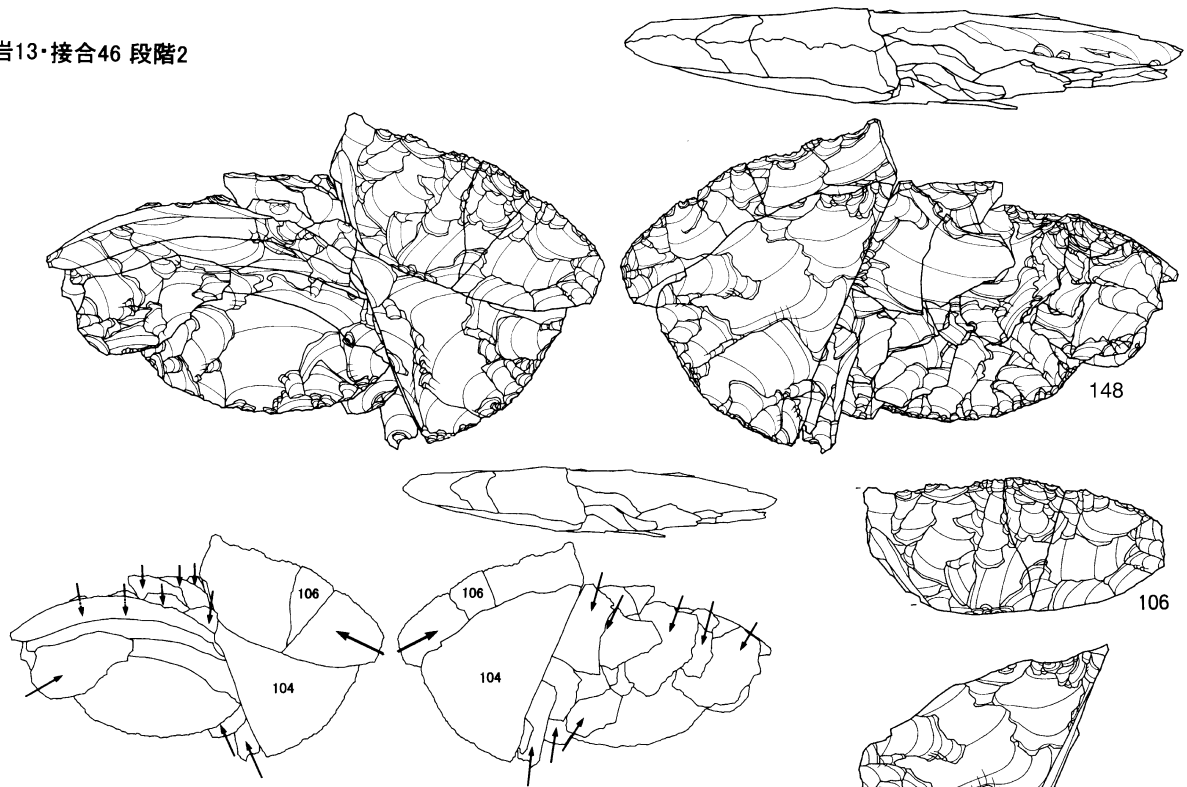
母岩13・接合46 段階1



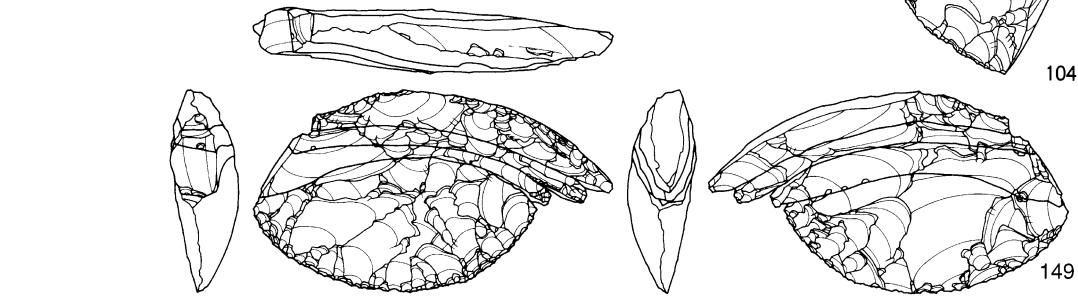
0 5cm
S=1/2

図VI - 49 母岩13・接合46(1)

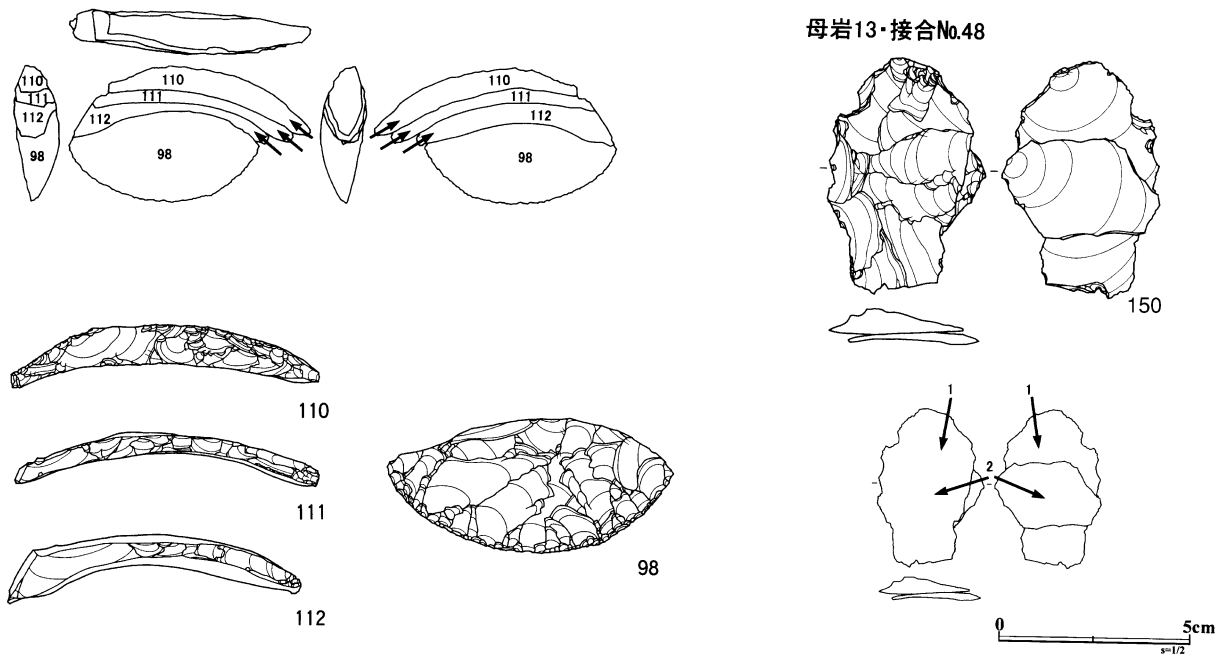
母岩13・接合46 段階2



母岩13・接合46 段階3

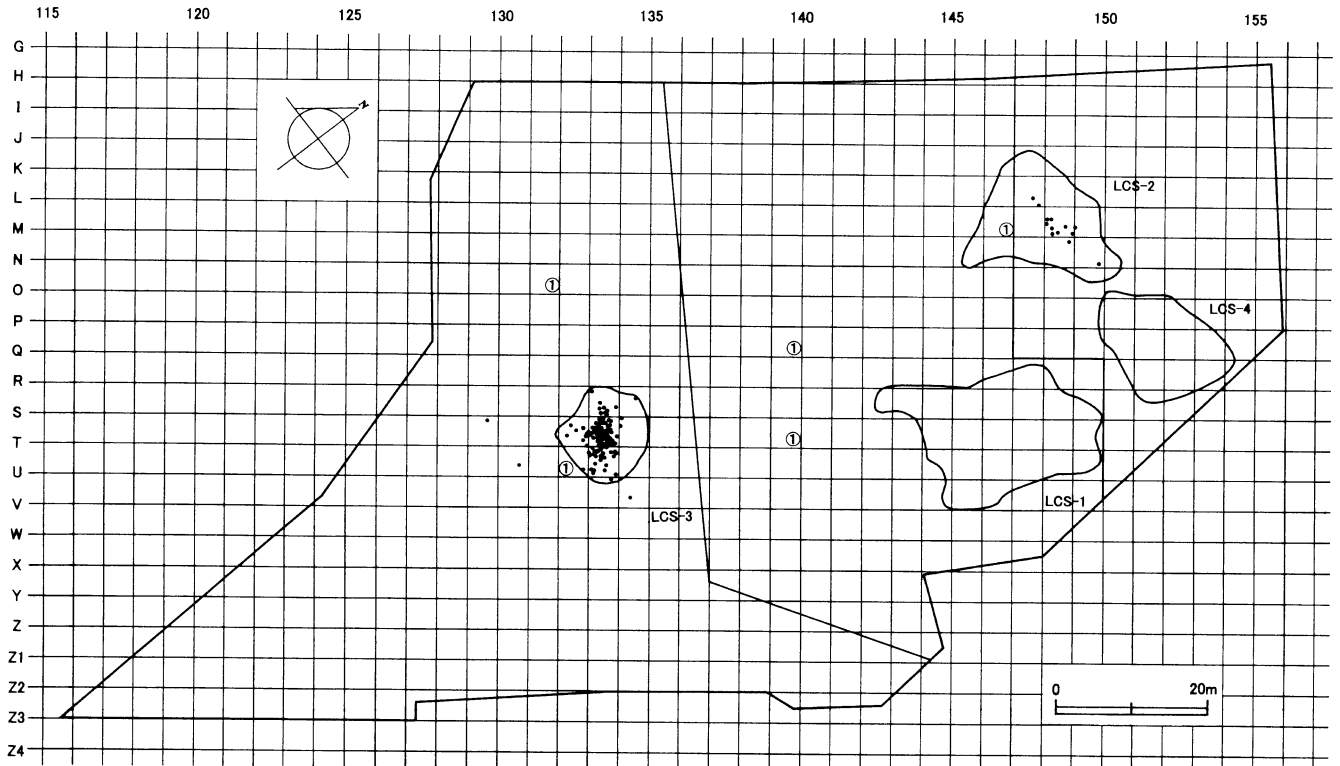


母岩13・接合No.48



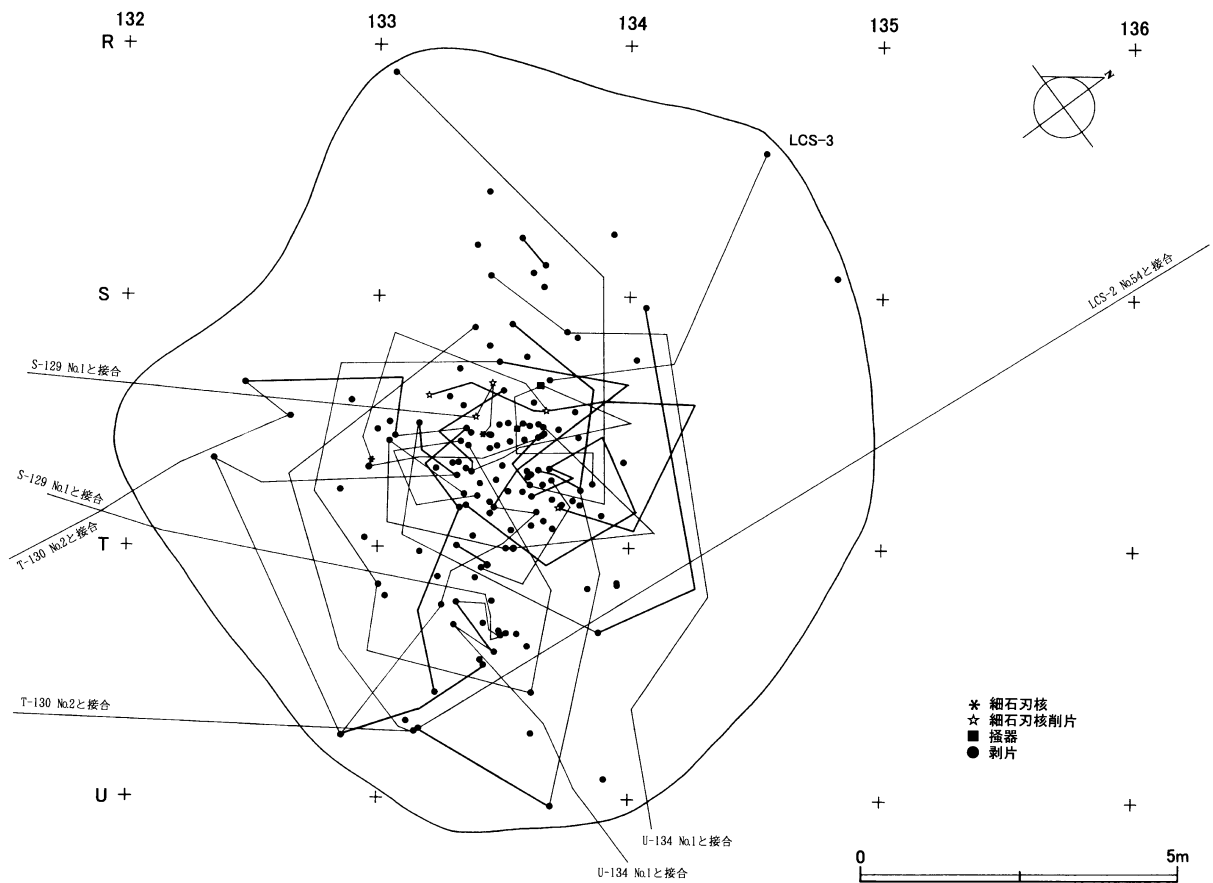
図VI - 50 母岩13・接合46(2)、接合48(1)

母岩13分布図



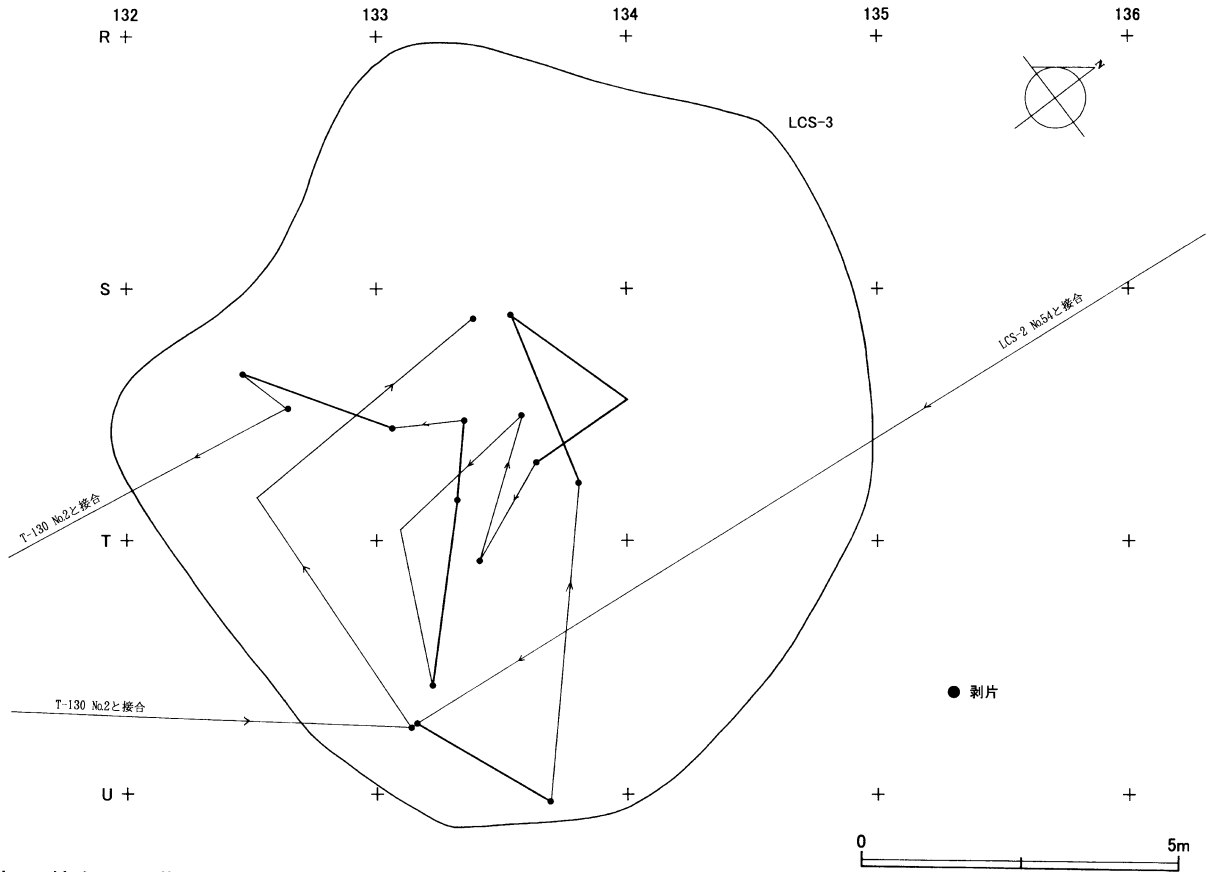
○数字はグリッド一括遺物の点数

母岩13 全接合分布図

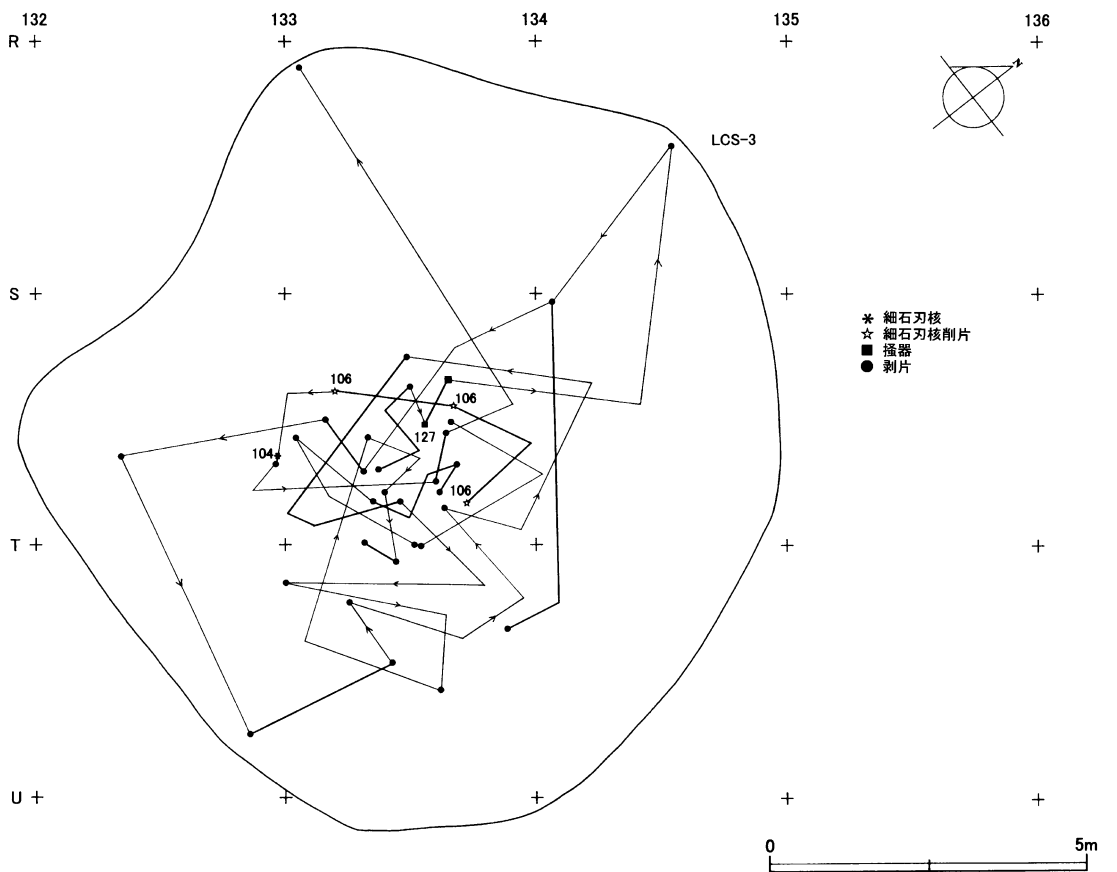


図VI - 51 母岩13・接合46(3)

母岩13・接合46 段階1

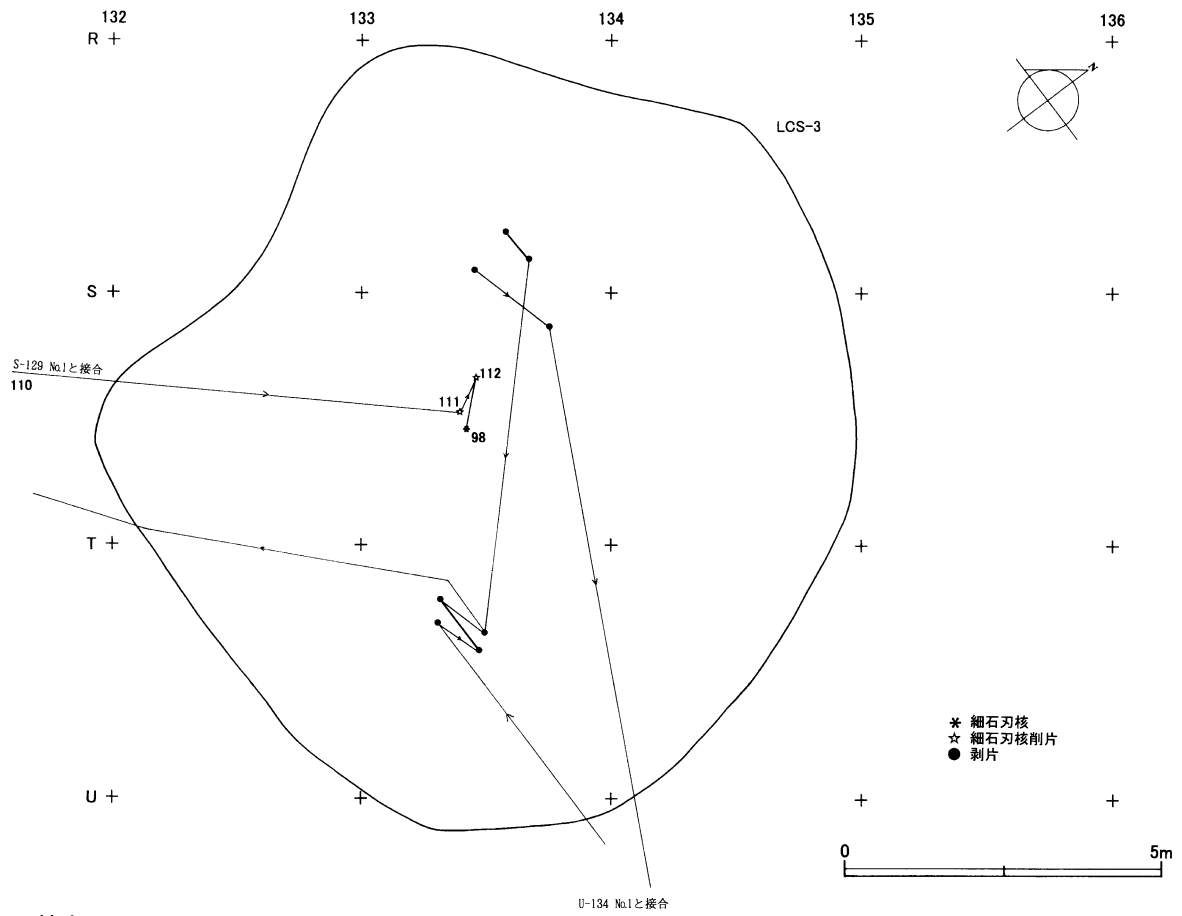


母岩13・接合46 段階2

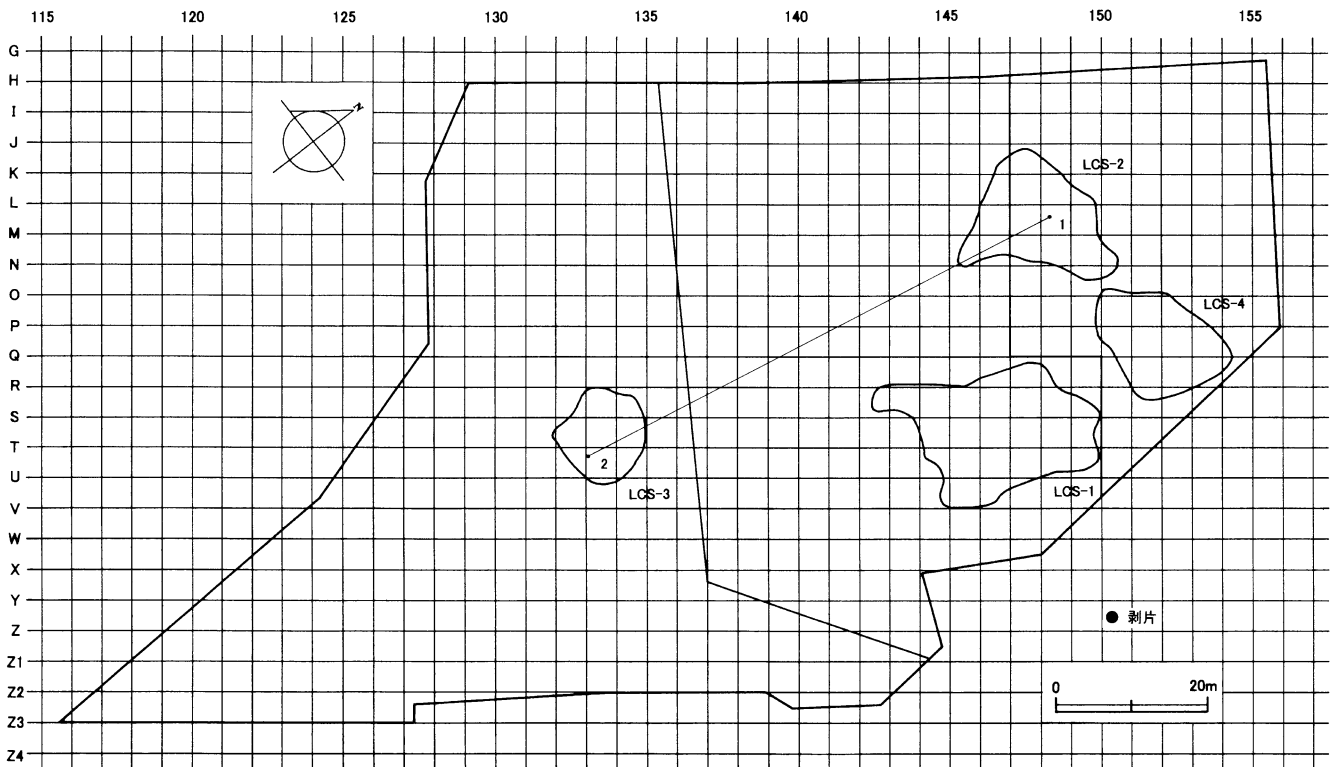


図VI - 52 母岩13・接合46(4)

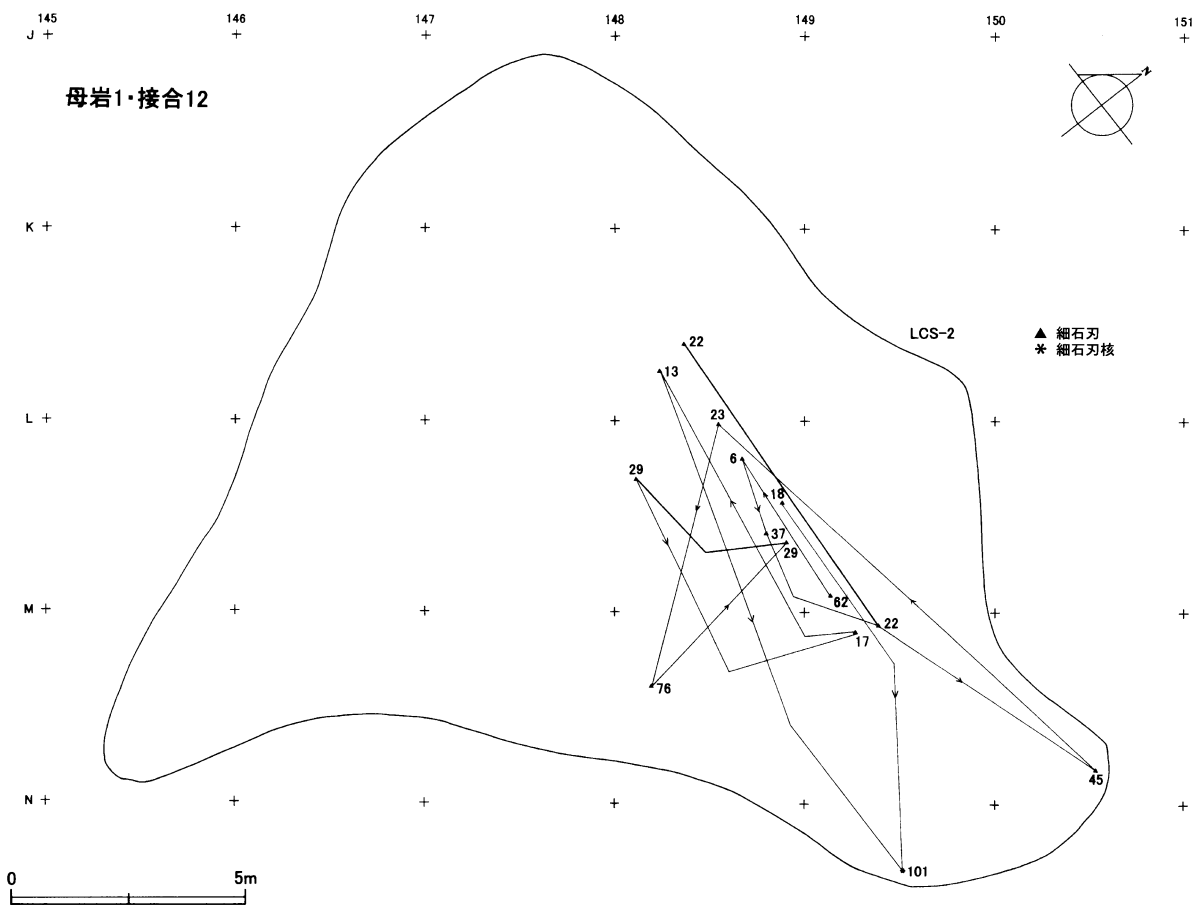
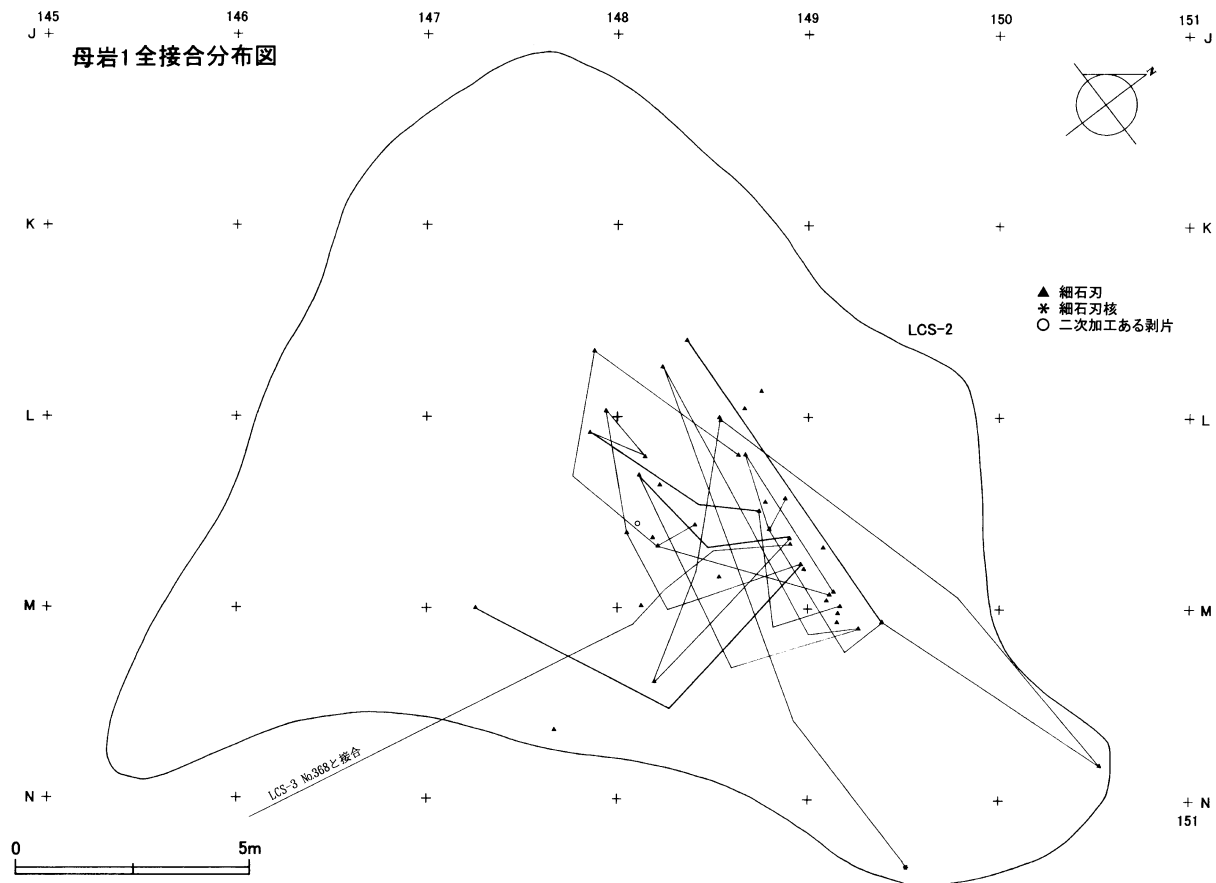
母岩13・接合46 段階3



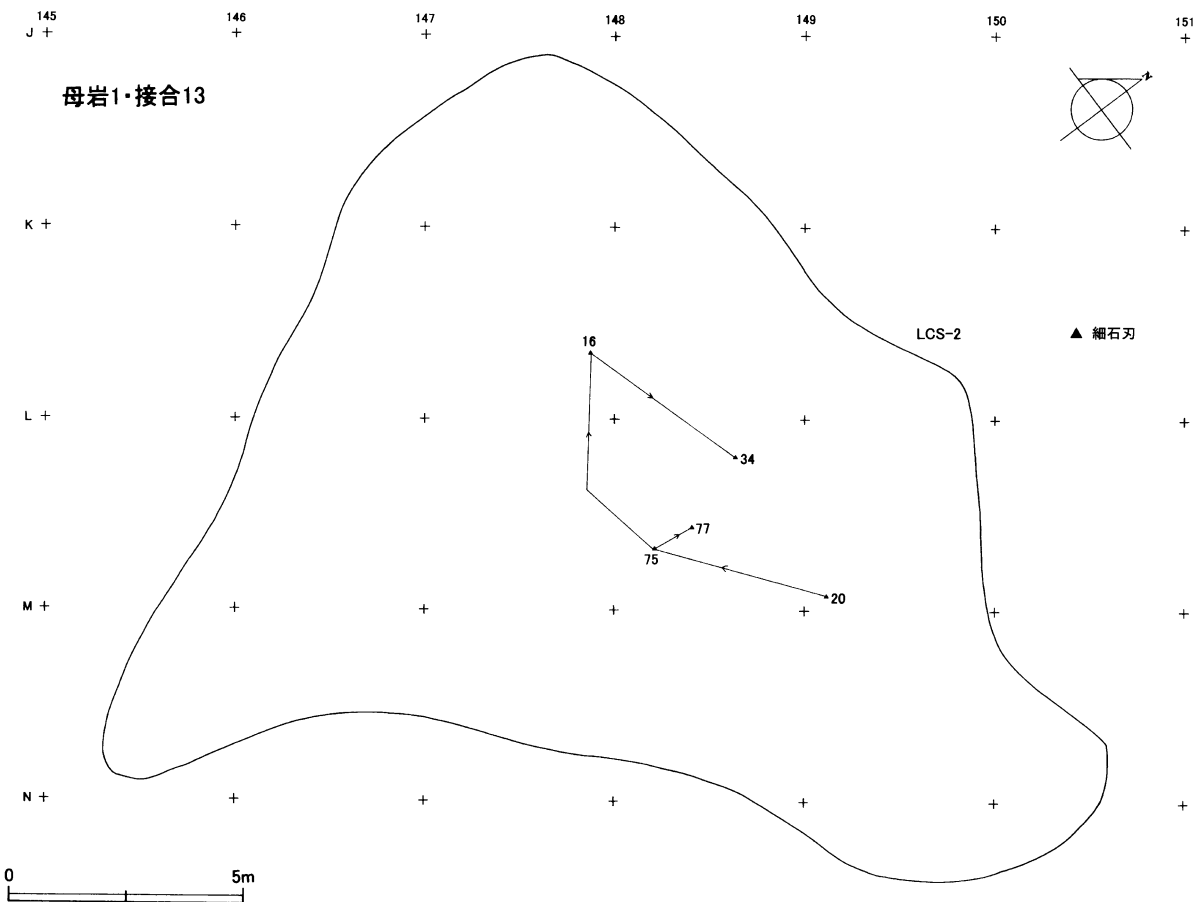
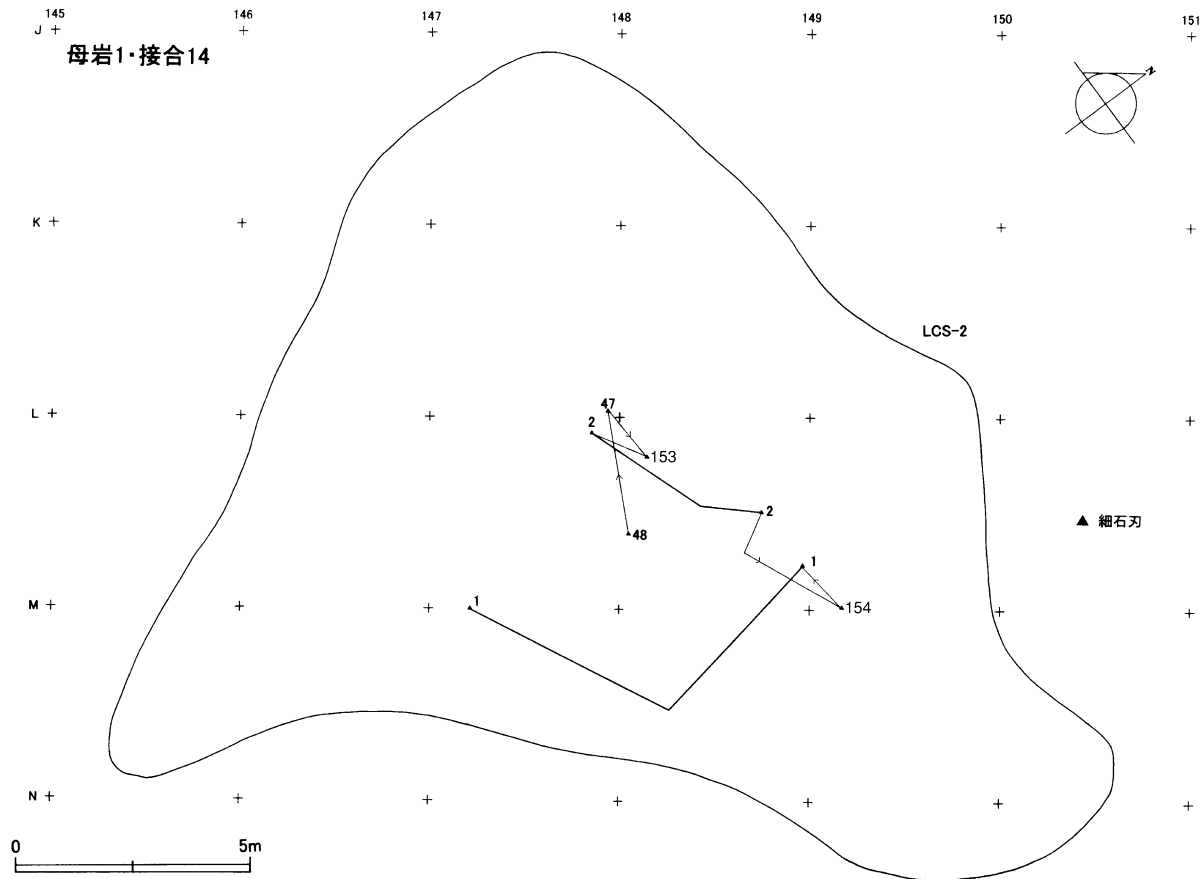
母岩13・接合48



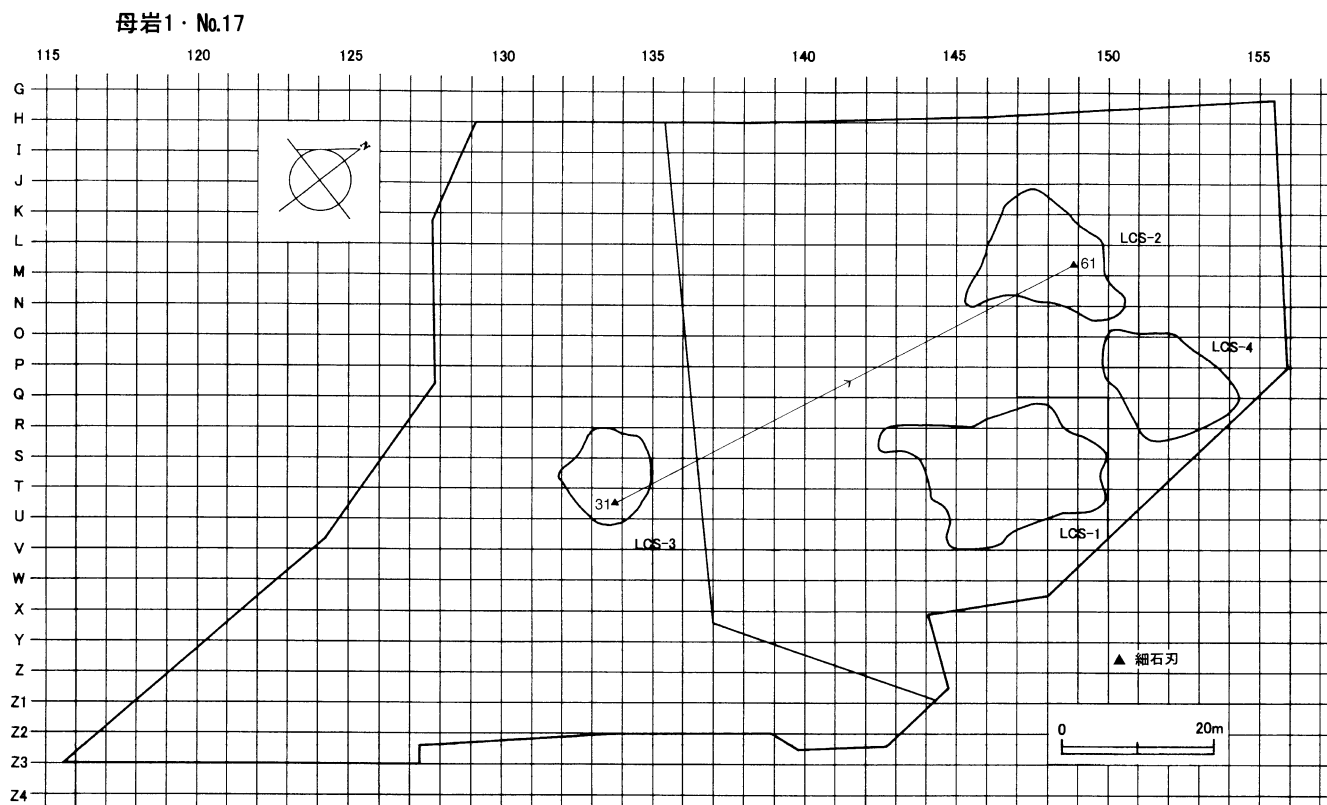
図VI - 53 母岩13・接合46(5)、接合48(2)



図VI - 55 母岩1(2)



図VI - 56 母岩1(3)



図VI - 57 母岩1(4)

- 149区から出土している。接合資料17 - 31の細石刃はLCS - 3から出土している。

3) 母岩別資料9 (図VI - 58、図版92)

母岩別資料は接合7・6・15の他、細石刃53点で構成され、総点数63点、重量125.2gである。

①接合資料7

5点(5個体)が接合し、重量は113.5g、大きさは7.6×6.2×2.2cmである。細石刃4点と細石刃核1点で構成される。

②接合資料6

細石刃3点(3個体)が接合し、重量は1.1g、大きさは3.4×1.1×0.7cmである。細石刃核左側面を取り込んだ細石刃が接合している。

③接合資料15

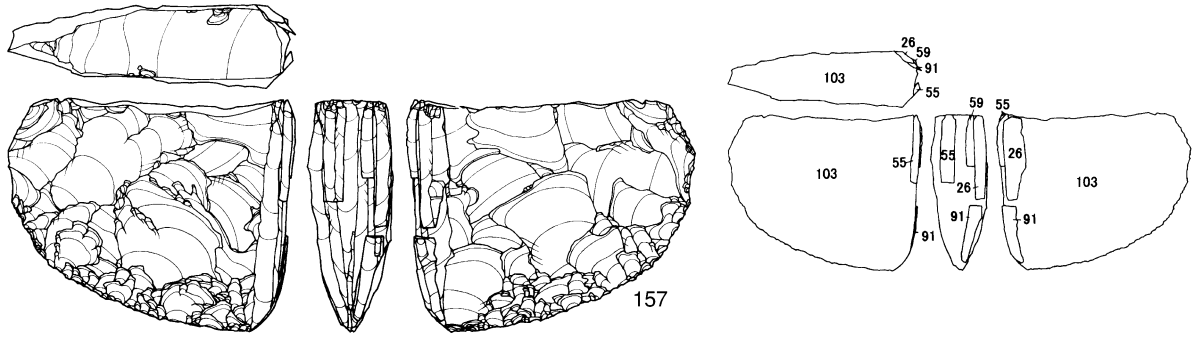
細石刃2点(2個体)が接合し、重量は0.9g、大きさは2.8×1.0×0.4cmである。

剥離工程 細石刃核の平坦な甲板面から接合資料7の4点、接合資料6の3点、接合資料15の2点を含む細石刃を連続的に剥離している。

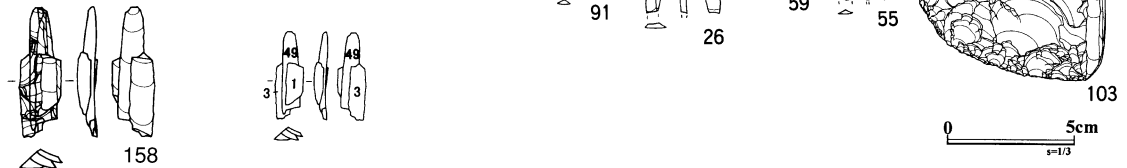
削片を剥離し、細石刃をある程度剥離した細石刃核の状態で見跡内に搬入され、細石刃剥離が行われた後、廃棄されている。

分布 細石刃の多くはLCS - 4中央のP - 151区を中心に分布し、細石刃核はQ - 152区から出土している。接合資料6 - 3の細石刃はLCS - 2から出土している。

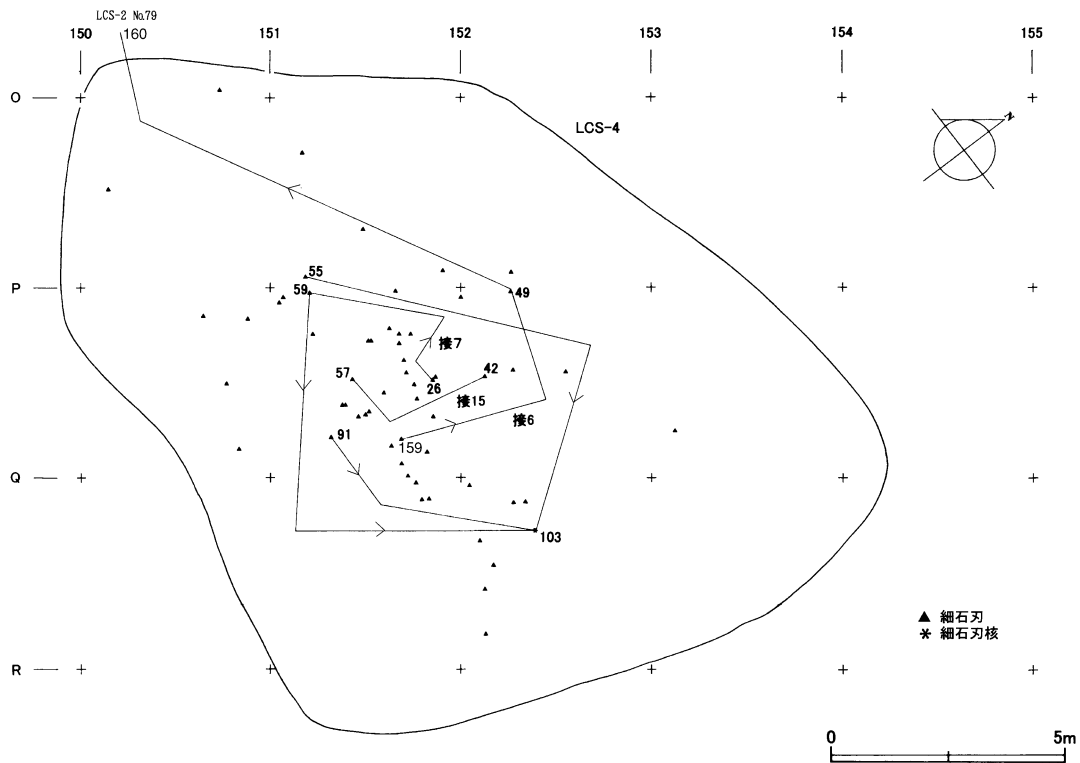
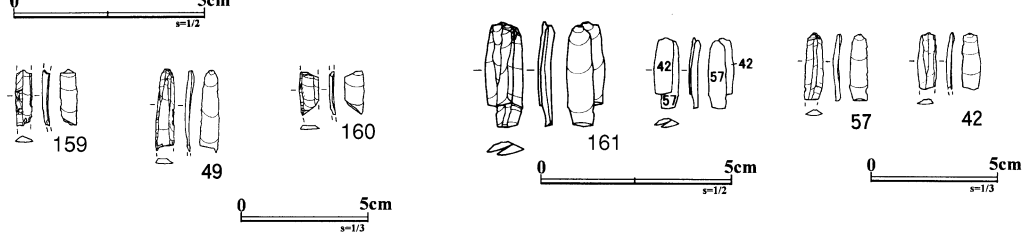
母岩9・接合7



母岩9・接合6

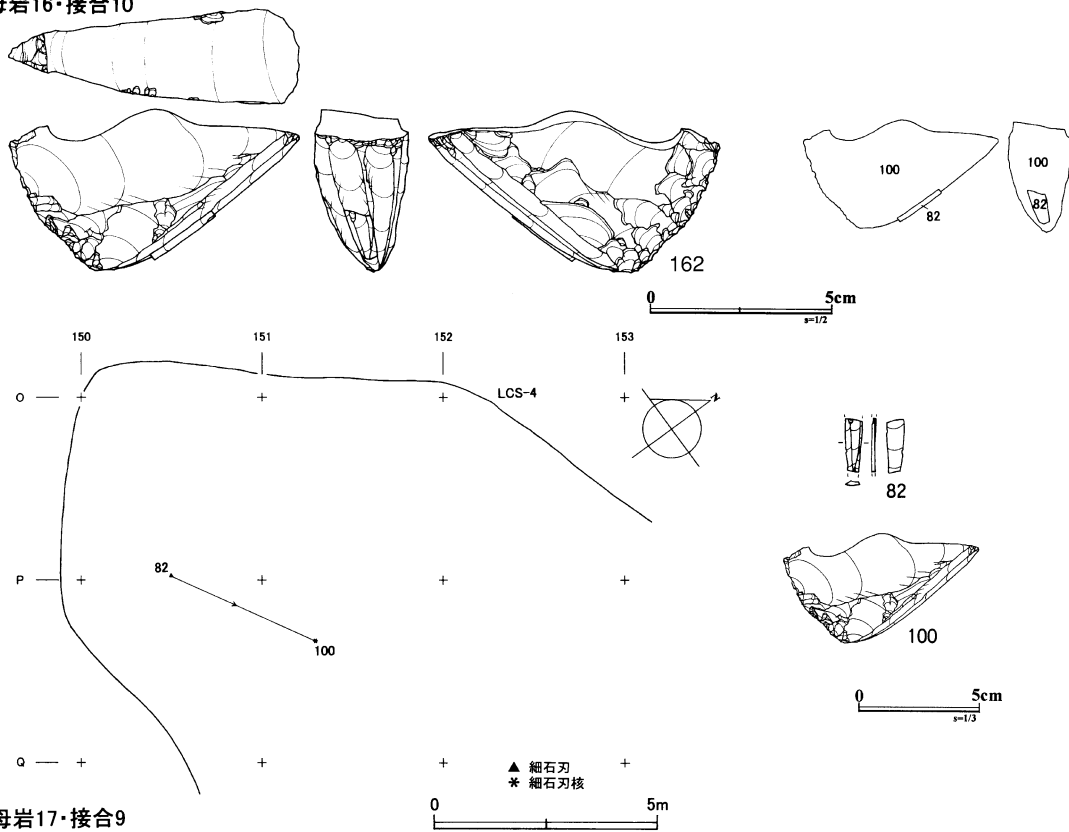


母岩9・接合15

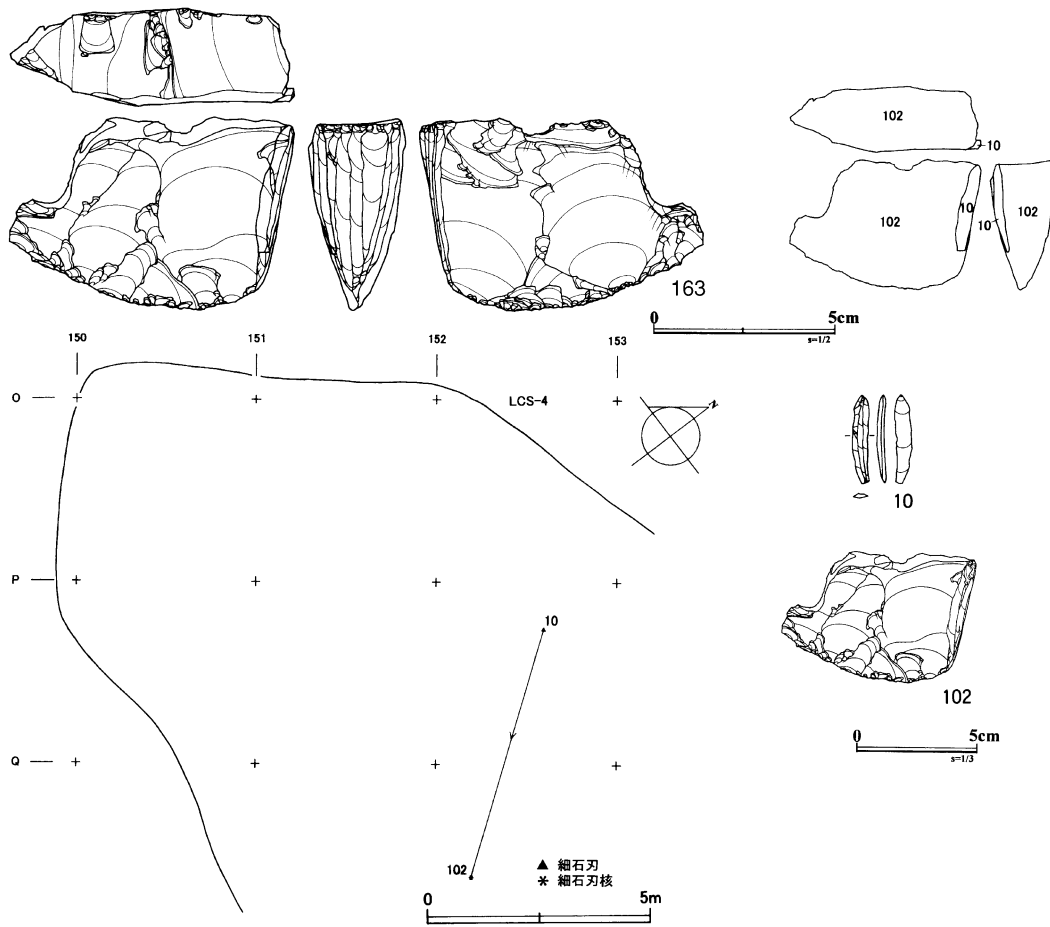


図VI - 58 母岩9・接合7、接合6、接合15

母岩16・接合10



母岩17・接合9



図VI - 59 母岩16・接合10、母岩17・接合9

4) 母岩別資料16 (図VI - 59、図版92)

母岩別資料は接合10のみである。

①接合資料10

細石刃 1点と細石刃核 1点の計 2点 が接合し、重量は75.0g、大きさは8.0×4.4×2.6cmである。

剥離工程 細石刃核の平坦な甲板面から細石刃(82)を剥離している。

削片を剥離し、細石刃をある程度剥離した細石刃核の状態 で遺跡内に搬入され、細石刃剥離が行われた後、廃棄されている。

分布 LCS - 4 に分布し、細石刃(82)は O - 150区、細石刃核(100)は P - 151区から出土している。

5) 母岩別資料17 (図VI - 59、図版92)

母岩別資料は接合 9のみである。

①接合資料 9

細石刃 1点と細石刃核 1点の計 2点 が接合し、重量は112.5g、大きさは7.8×6.3×2.7cmである。

剥離工程 細石刃核の平坦な甲板面から細石刃(10)を剥離している。

削片を剥離し、細石刃をある程度剥離した細石刃核の状態 で遺跡内に搬入され、細石刃剥離が行われた後、廃棄されている。

分布 LCS - 4 に分布し、細石刃(10)は P - 152区、細石刃核(102)は Q - 152区から出土している。

6) 母岩別資料21 (図VI - 60、図版93)

母岩別資料は接合56のみである。

①接合資料56

細石刃核 1点と剥片 3点の計 4点 が接合し、重量161.0g、大きさは10.5×5.9×2.9cmである。

剥離工程 削片剥離後、細石刃核(4)右側面に下縁部から甲板面に抜ける平坦剥離(1・2)が行われ、その後、下縁部に細かい調整が施されるが、作業面付近では下縁部を大きく取り込む剥離(3)になっている。左側面にもは甲板面から加工が行われている。

削片を剥離し、細石刃を剥離した細石刃核の状態 で遺跡内に搬入され、細石刃核を一回り小形にするような側面調整を行ったが、最終的に廃棄されている。

分布 LCS - 1 内の北西側から出土している。

7) 母岩別資料 5 (図VI - 61、図版93)

母岩別資料は接合 5 の他、細石刃69点、剥片 4点 で構成され、総点数76点、重量23.8gである。分布は LCS - 3 の S・T - 133区を中心とし、LCS - 2 の L - 147区からも 1点出土している。

①接合資料 5

細石刃 3点 (2個体) が接合し、重量は2.0g、大きさは4.8×1.4×0.6cmである。

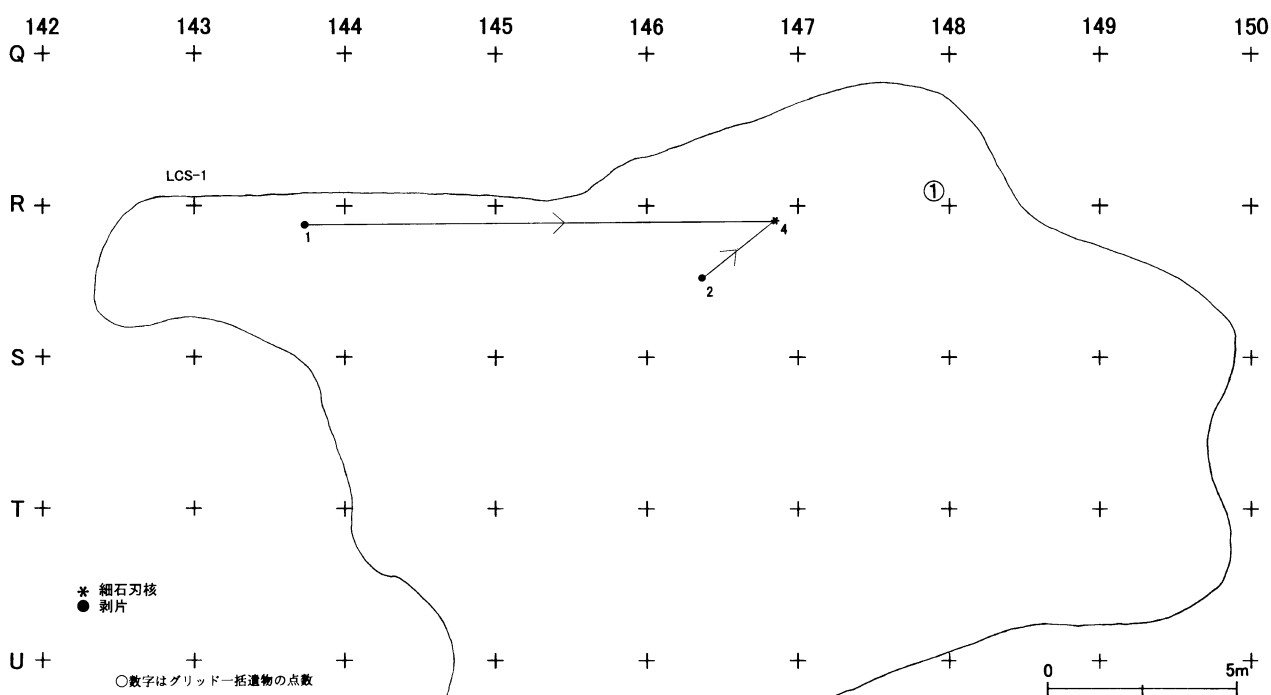
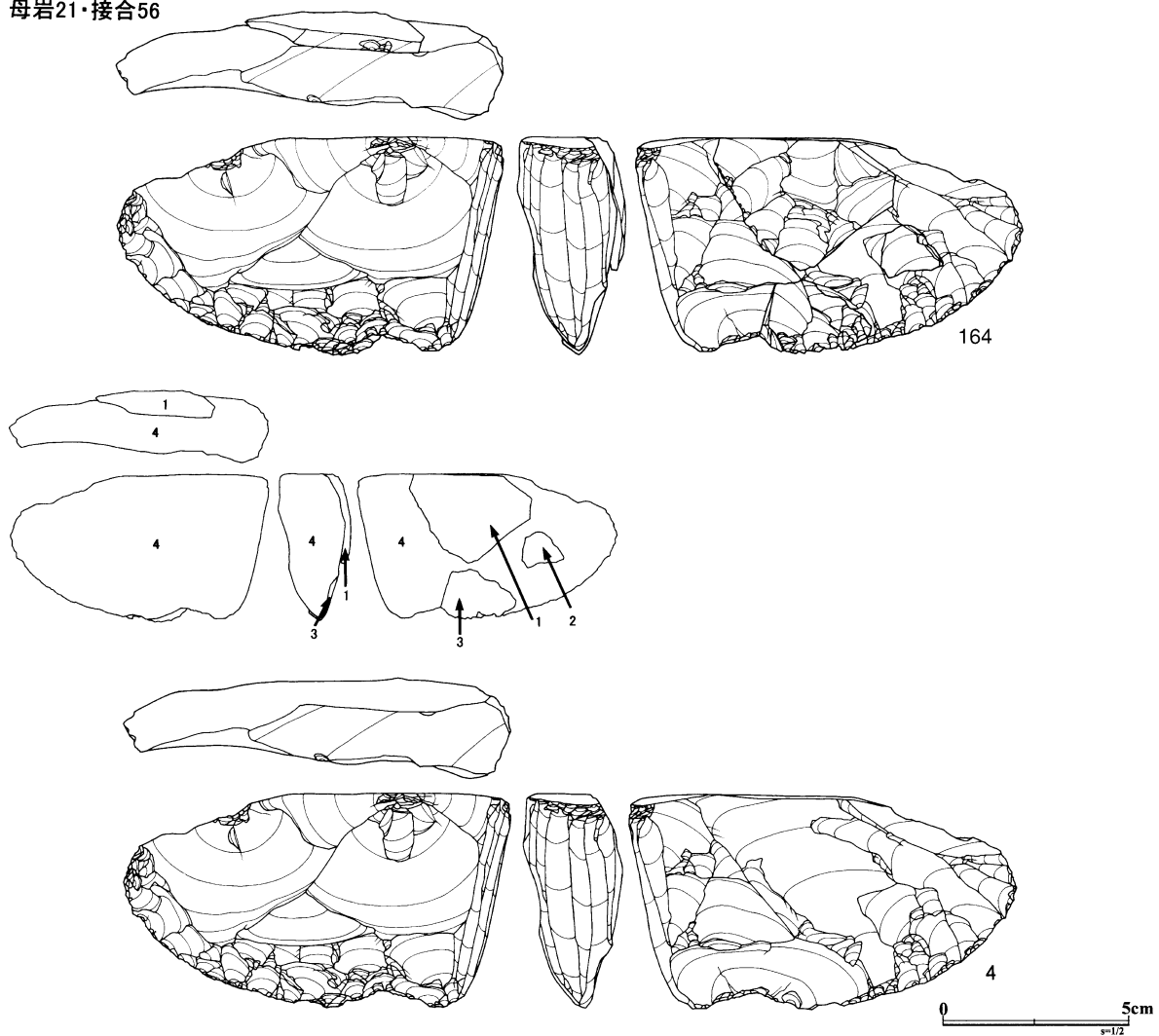
剥離工程 細石刃をある程度剥離した細石刃核の状態 で遺跡内に搬入され、連続的に細石刃剥離が行われた後、細石刃核は遺跡外に持ち出されている。

分布 LCS - 3 の R~T - 133区から出土している。

8) 母岩別資料15 (図VI - 62、図版93)

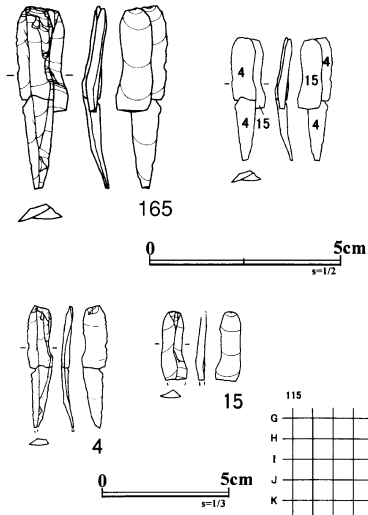
母岩別資料は接合11・45・50の他、削片 1点、剥片15点 で構成され、総点数37点、重量168.4gで

母岩21・接合56

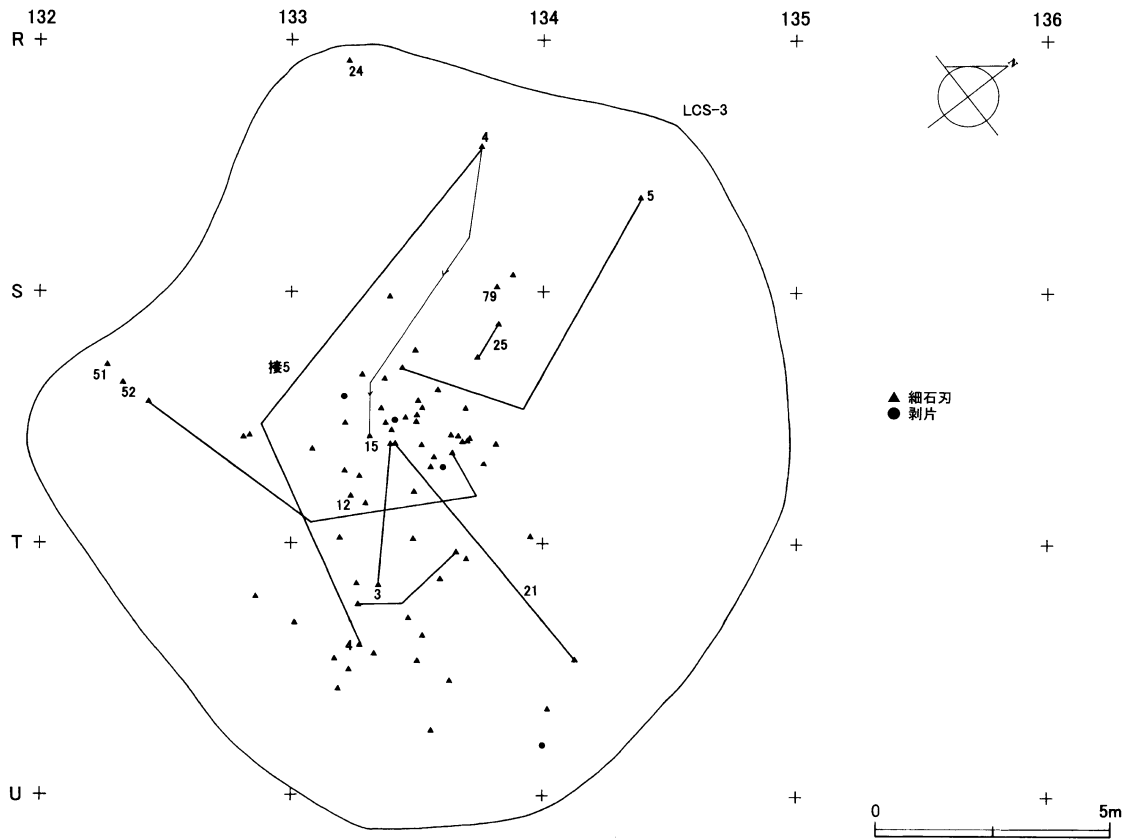
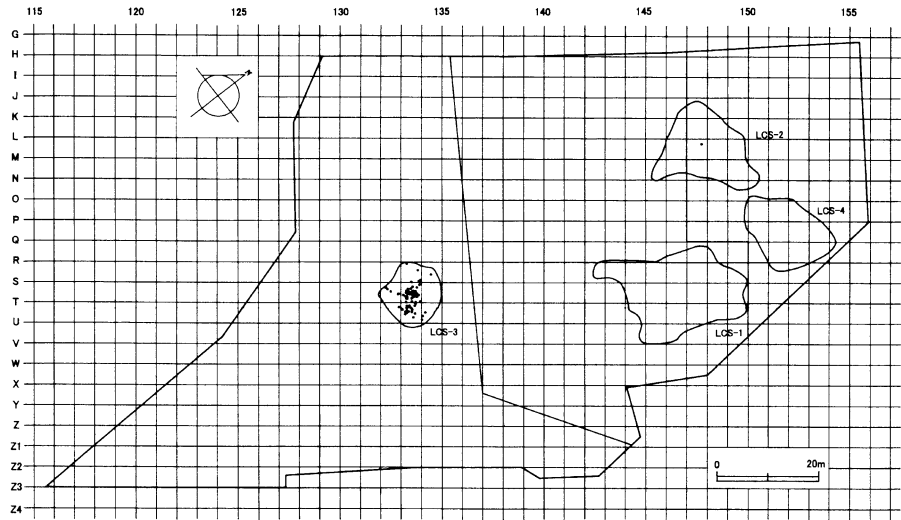
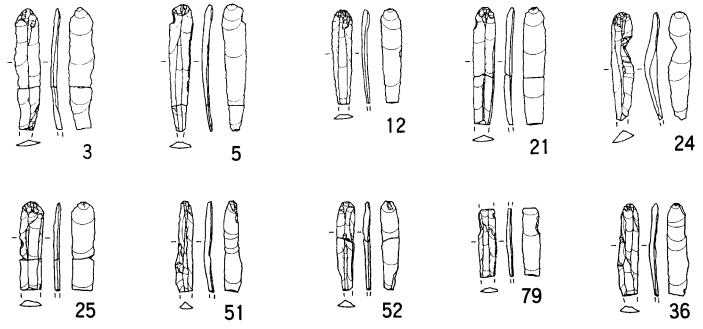


図VI - 60 母岩21・接合56

母岩5・接合5



母岩5・非接合資料



図VI - 61 母岩5・接合5

ある。分布はLCS - 4のP - 151区を中心に出土し、LCS - 1のU - 144区からも1点出土している。接合45(剥片2点接合)・50(剥片4点接合)は分布図のみ掲載している。

①接合資料11

15点(8個体)が接合し、重量は148.0g、大きさは17.0×5.6×2.8cmである。削片4点(1個体)と剥片11点(7個体)で構成される。

剥離工程 母型作成：左側面に下縁部からの平坦剥離(1~4)が行われ、さらに細かい加工で整形している。その後最低二回の削片剥離を行い、さらに三回の削片剥離(10・5・7)を行っている。10は非接合だが、6の削片剥離に先行する削片である。2回目の削片剥離(5)の後、下縁から右側面への加工(6)が行われる。3回目の削片剥離(7)はほぼ中央から下縁部に抜け、折れている。その後折れた母型の左側面に下縁から加工を行っている(8・9)。

両面調整体もしくは削片剥離後の状態で遺跡内に持ち込まれ、側面調整の後に削片剥離が行われるが、最終的に母型は折れている。折れた母型は側面調整を行った後、遺跡外に搬出されている。

分布 LCS - 4のO・P - 151区を中心に分布し、削片1点がLCS - 1のU - 144区から出土している。

9) 母岩別資料11(図VI - 63・64、図版94)

母岩別資料は接合21~23・25・36・37・41の他、二次加工ある剥片1点、剥片44点で構成され、総点数79点、重量298.7gである。分布はLCS - 1の南西側を中心に広がり、LCS - 2~4でも少量出土している。接合23(2点接合) 接合25(2点接合) 接合41(4点接合)は剥片接合資料で未掲載である。

①接合資料21

剥片15点(10個体)が接合し、重量は80.5g、大きさは10.2×5.1×5.2cmで角礫素材と考えられる。グリッド一括で取上げたものがほとんどのため、接合線は示していない。

剥離工程 両面調整体作成時の剥片の接合資料と考えられる。正面は左からの剥離(1)と下面の平坦な原礫面を打面とする剥離(2~5)が行われている。裏面は右からの剥離の後、下面の原礫面を打面とする剥離(5~9)が連続的に行われている。剥離される剥片は幅広である。

グリッド一括で取上げたものがほとんどのため、接合線は示していない。原礫面を残す素材を遺跡内に搬入し、原礫面を打面とする粗い加工を行っている。同一母岩の両面調整体は出土していないため、遺跡外へと搬出されたと考えられる。

分布 LCS - 1のT - 144・145区を中心に出土している。

②接合資料22

剥片6点(5個体)が接合し、重量は82.5g、大きさは14.8×6.0×2.5cmである。グリッド一括で取上げたものがあるため、接合線は示していない。

剥離工程 表面右側からの剥離(1・2)後、上面の平坦な原礫面を打面とする剥離が行われている。剥離される剥片は幅広である。接合資料21同様、両面調整体作成時の剥片の接合資料と考えられる。

分布 LCS - 1のS - 144・145、T - 145、U - 145区から出土している。

③接合資料36

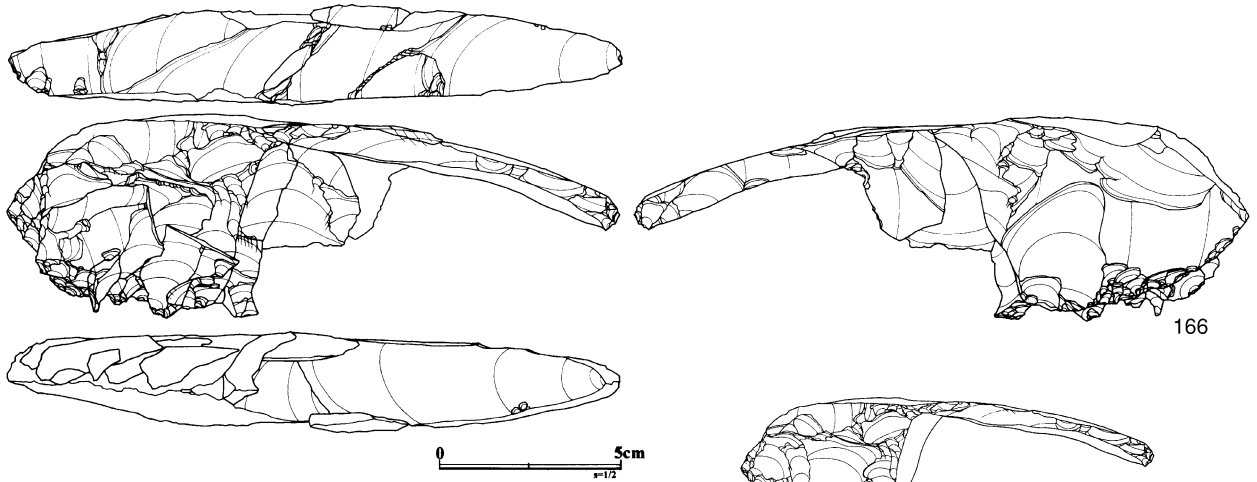
搔器1点(132)と剥片2点の計3点が接合し、重量は45.1g、大きさは7.4×6.6×1.8cmである。

分布 搔器(132)はLCS - 4のQ - 151区、剥片はLCS - 1のS - 144、T - 145区から出土している。

④接合資料37

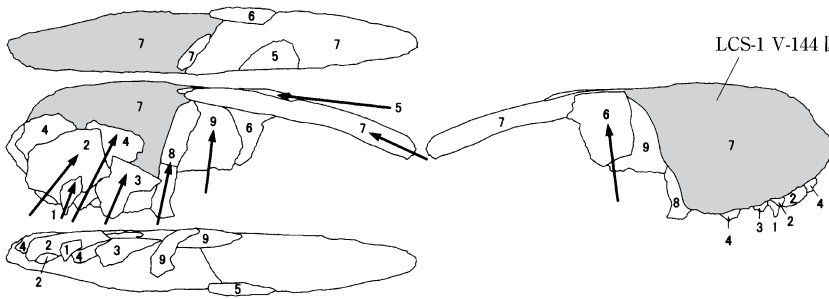
削器1点(140)と剥片2点(1個体)の計3点(2個体)が接合し、重量は25.6g、大きさは8.6×3.9×2.3cmである。右側面に原礫面を残す。

母岩15・接合11



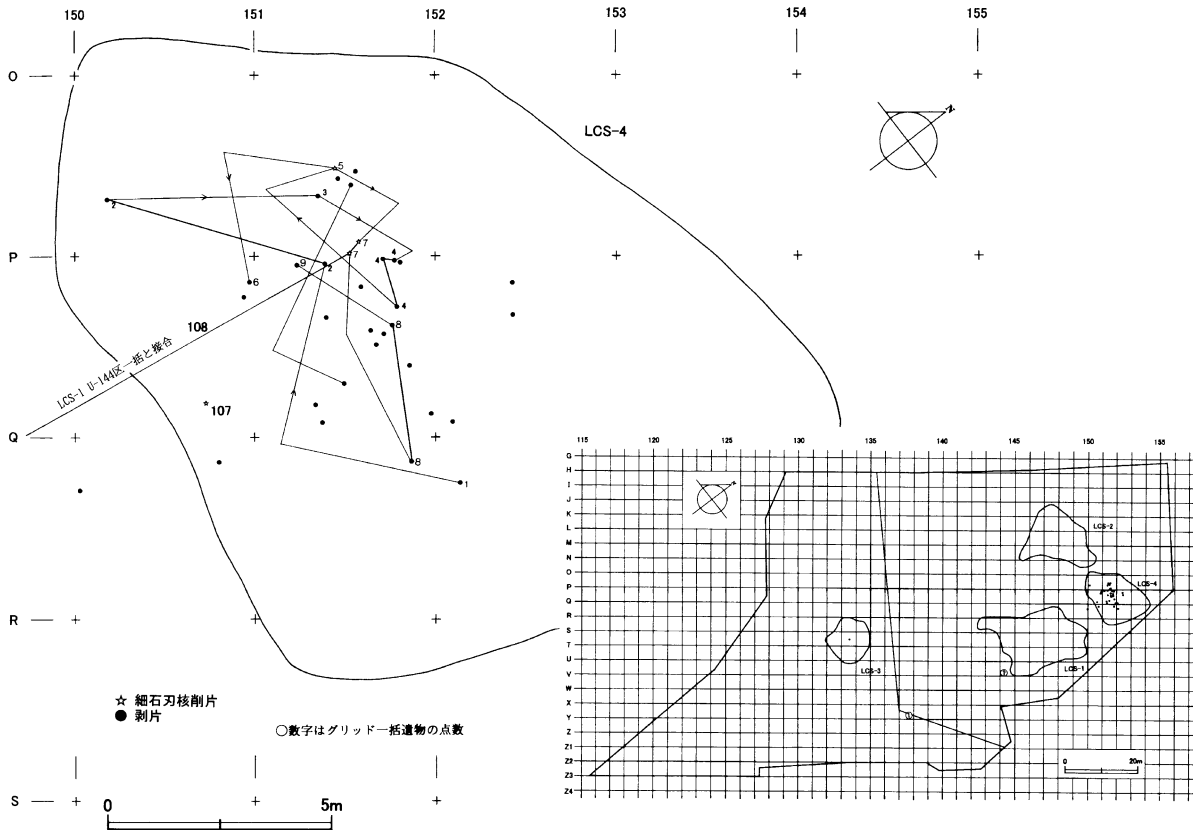
166

108
(模式図の7)



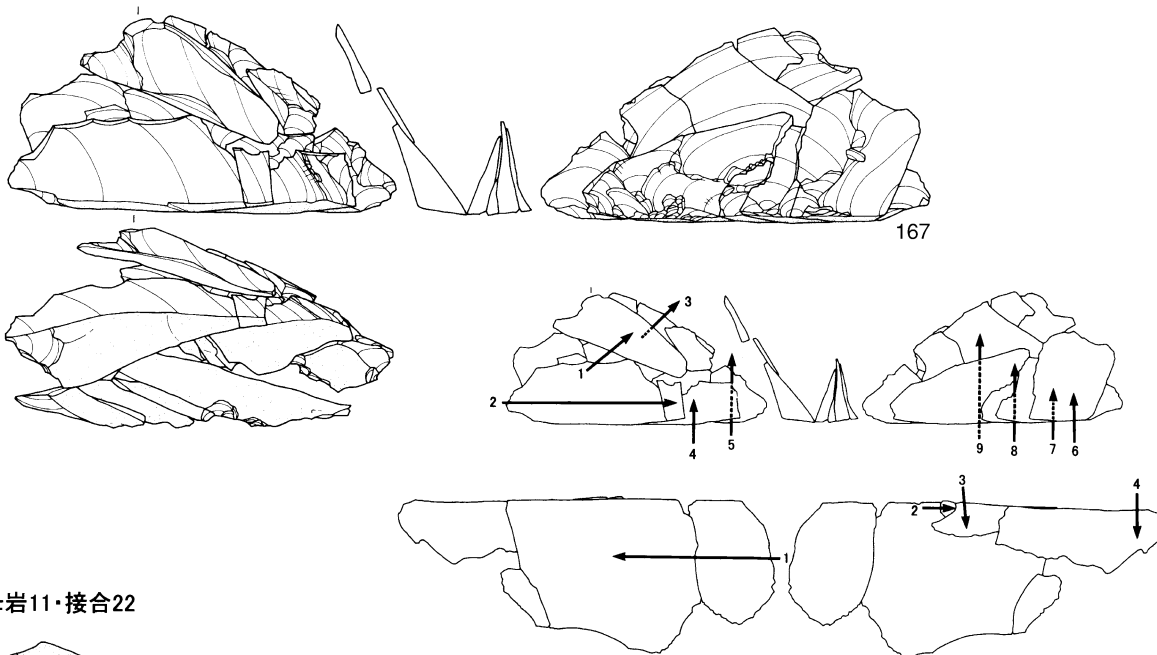
母岩15・非接合資料

107

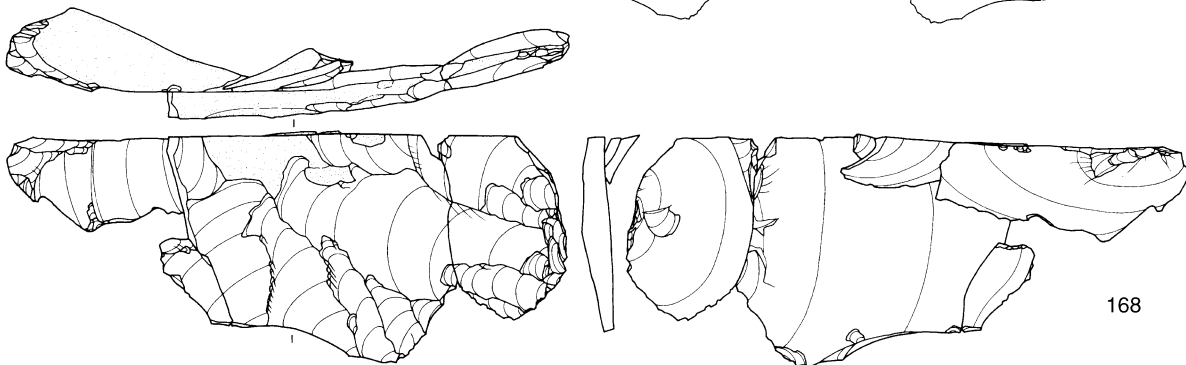


図VI - 62 母岩15・接合11

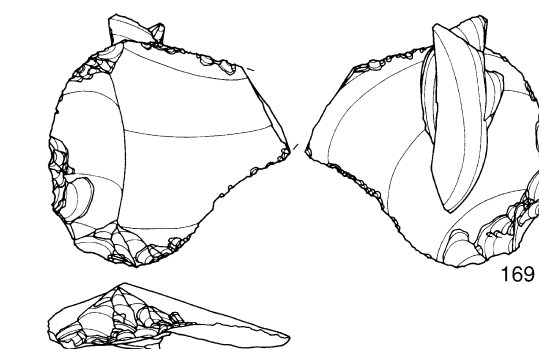
母岩11・接合21



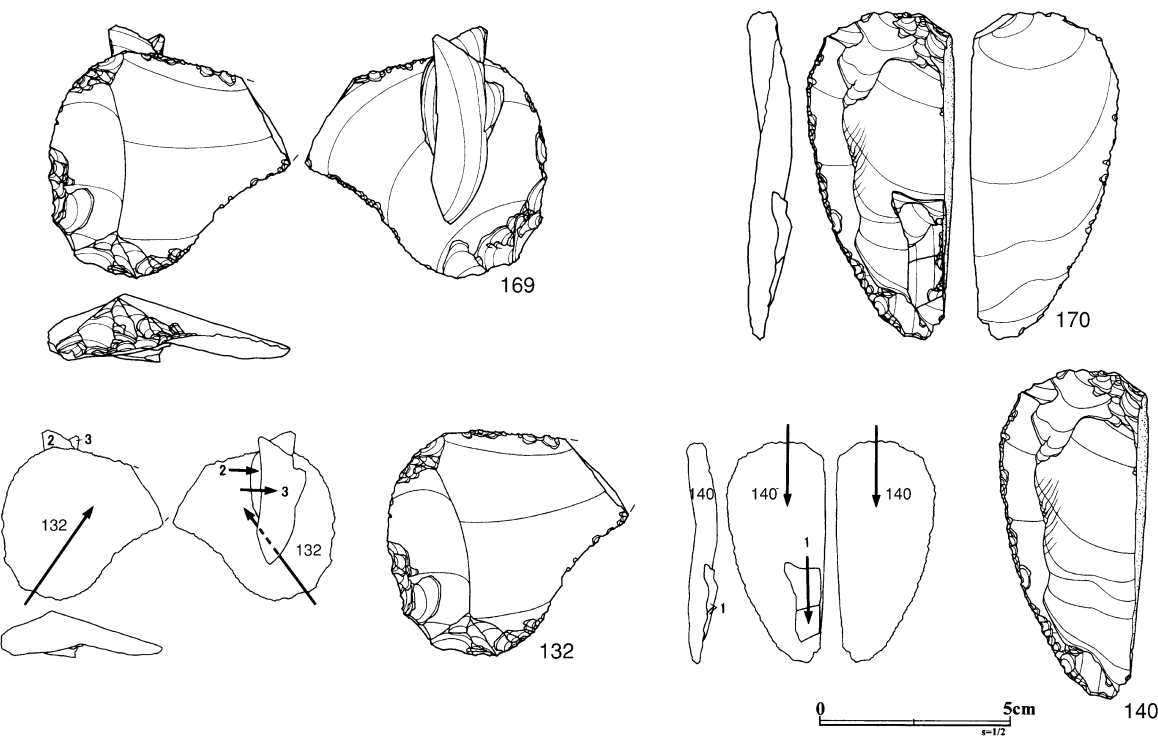
母岩11・接合22



母岩11・接合36

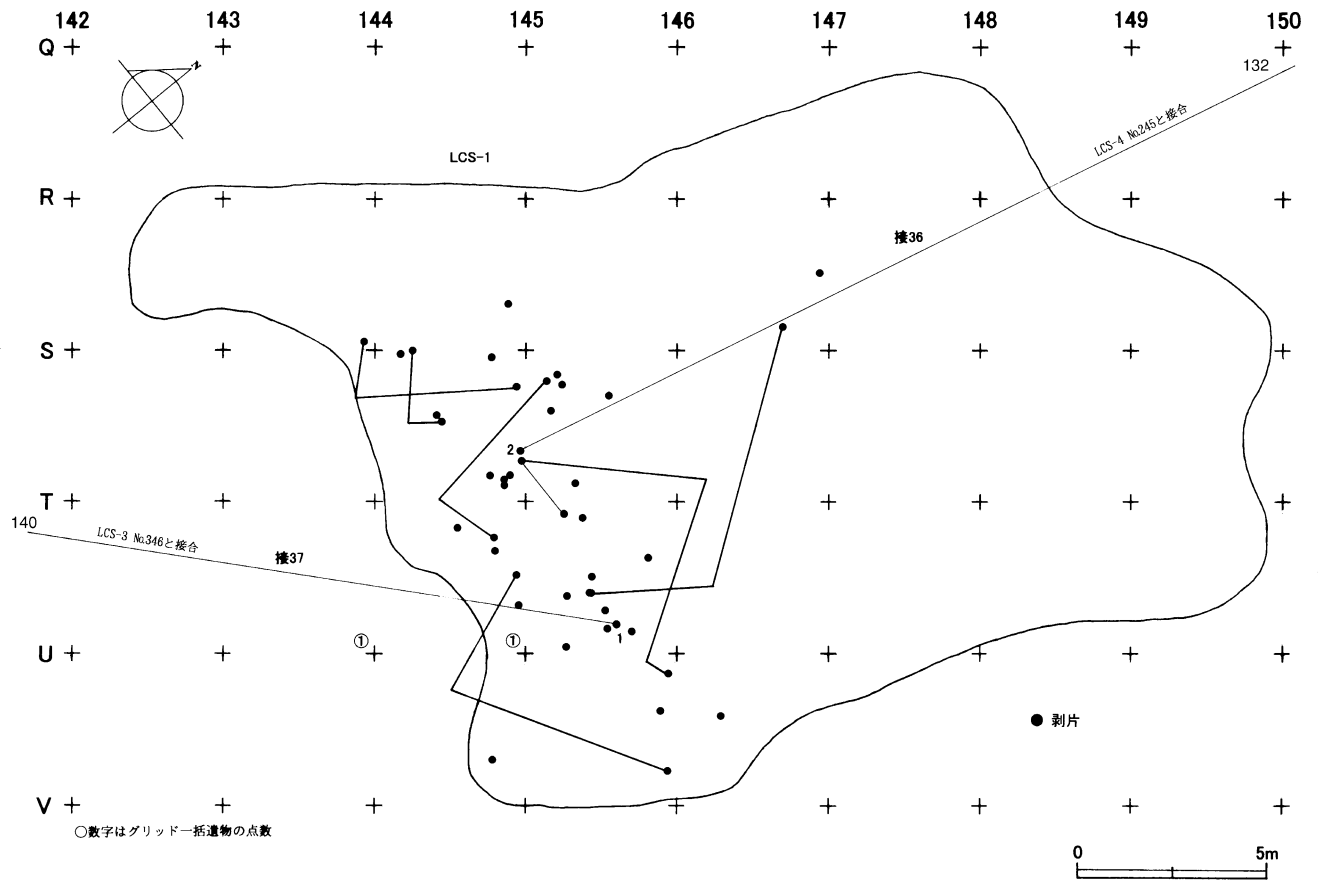
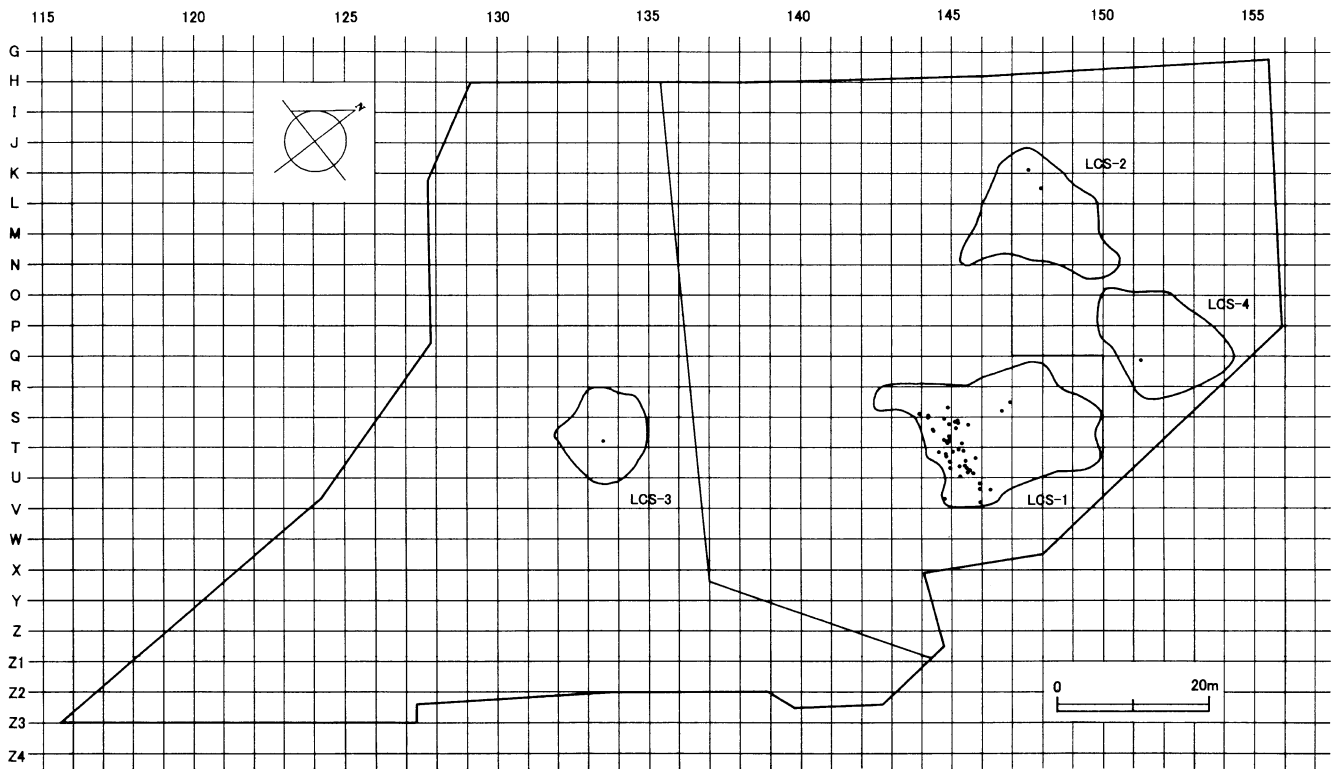


母岩11・接合37



図VI - 63 母岩11(1)・接合21、接合22、接合36、接合37

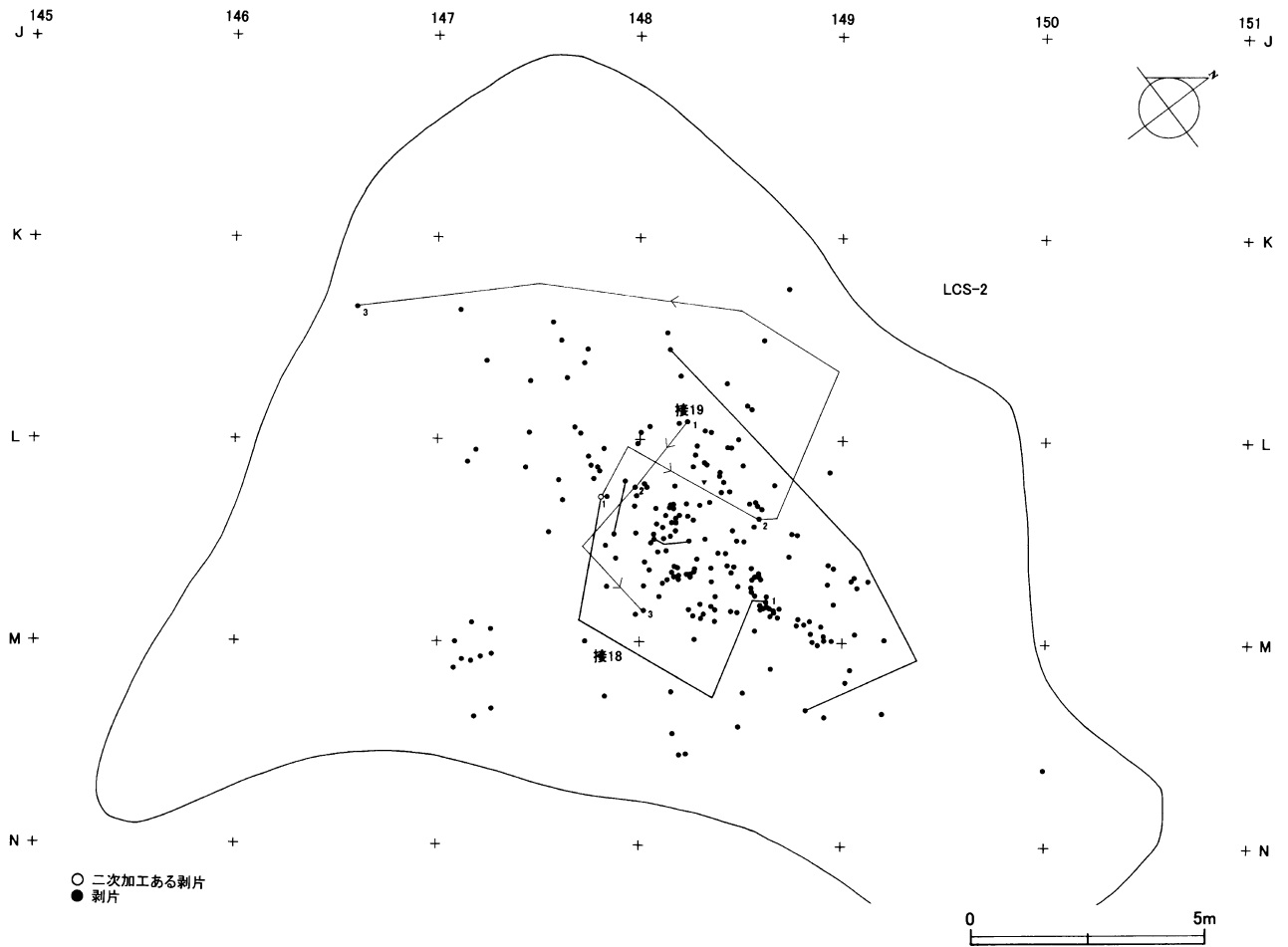
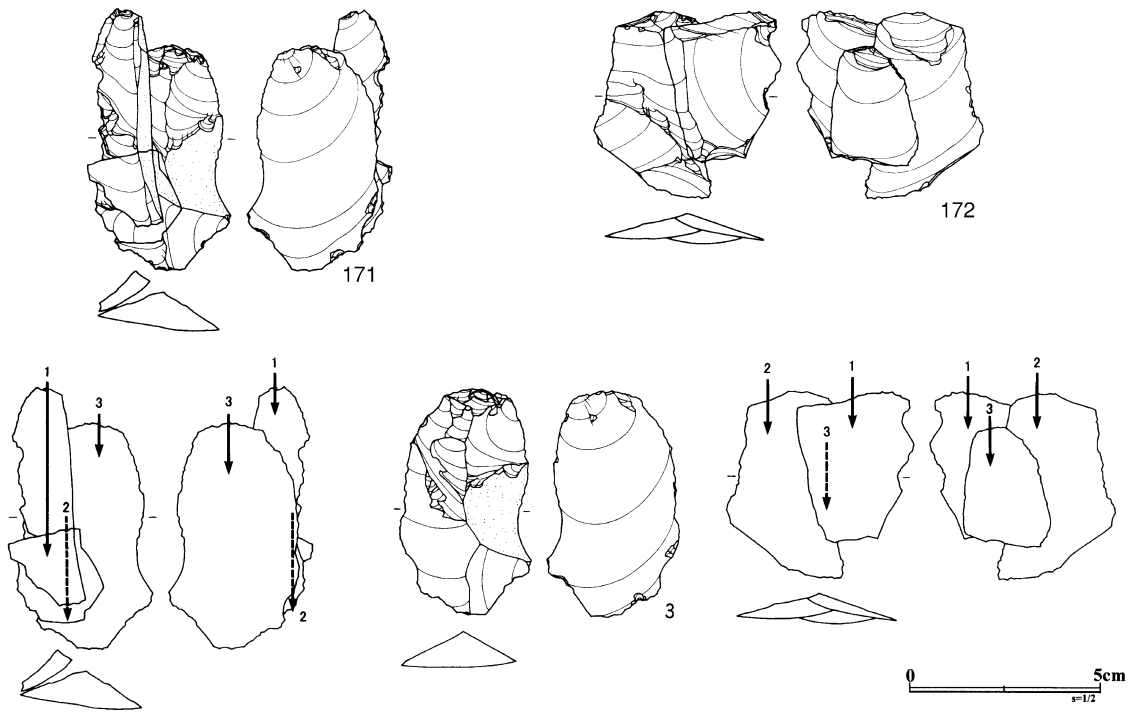
母岩11



図VI - 64 母岩11(2)

母岩2・接合18

母岩2・接合19



図VI - 65 母岩2・接合18、接合19

分布 削器は(140) LCS - 3のS - 133区、剥片はLCS - 1のT - 145区から出土している。

10) 母岩別資料2 (図VI - 65、図版95)

母岩別資料は接合18・19の他、二次加工ある剥片1点、剥片220点で構成され、総点数228点、重量291.9gである。分布はLCS - 2のL - 148区を中心に周辺に広がり、LCS - 1・4、ブロック外でも少量出土している。

①接合資料18

二次加工ある剥片2点(1個体)、剥片2点の計4点(3個体)が接合し、重量は22.7g、大きさは6.8×3.8×2.6cmである。素材は不明だが、表面に原礫面を残し、転礫素材の可能性がある。

剥離工程 上面からの加工(1) 表面右からの加工 上面からの加工(2・3)が行われる。

分布 二次加工ある剥片はLCS - 2のL - 147・148区(1)から、剥片はK - 146、L - 148区から出土している。

②接合資料19

剥片3点(3個体)が接合し、重量は11.3g、大きさは4.9×4.7×0.8cmである。

剥離工程 上面から連続的に剥片を剥離(1 2 3)している。

分布 LCS - 2のK - 148区(1)、L - 147区(2)、L - 148区(3)から出土している。

11) 母岩別資料12 (図VI - 66、図版95)

母岩別資料は接合34・27の他、搔器1点、剥片5点で構成され、総点数14点、重量113.7gである。分布はLCS - 3の南側集中部のS - 144区が多く、他にLCS - 3から剥片1点、ブロック外のX - 137区から剥片1点が出土している。

①接合資料34

彫器1点(3)と彫器削片2点(2個体)の計3点が接合し、重量は30.8g、大きさは6.0×4.0×1.4cmである。

剥離工程 縦長剥片の素材で背面両側縁に急斜度の、腹面左側縁に平坦な二次加工を行った後、背面先端にノッチ状の調整を行い、彫刀面の打面を作り出している。その後、左肩に打撃を加え、彫器削片(1・2)を剥離している。1の背面には旧彫刀面が2面見られる。1の削片剥離による彫刀面は背面側にやや傾き、2の削片剥離による彫刀面と腹面は急角度をなす。

分布 LCS - 1のS - 144区(1)、R - 144区(2)、S - 145区(3)から出土している。

②接合資料27

剥片5点(3個体)が接合し、重量は49.9g、大きさは9.8×8.1×1.8cmである。

剥離工程 様々な方向からの加工の後、上面から連続的に剥片を剥離(1 2 3)している。両面調整体作成時の剥片の接合資料の可能性がある。

分布 LCS - 1の南側集中部を中心に出土している。

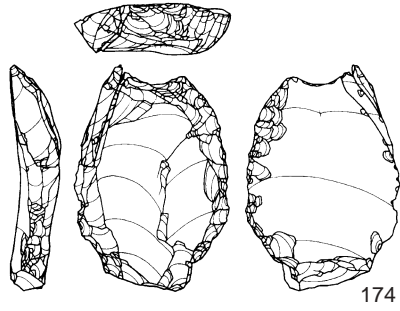
非接合資料 4は搔器で、S - 144区から出土している。

12) 母岩別資料10 (図VI - 67)

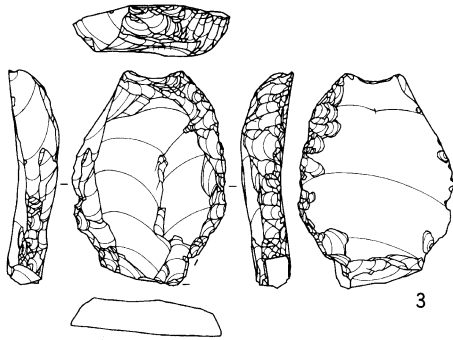
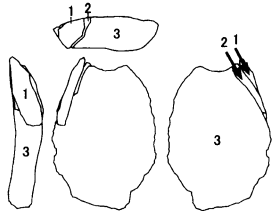
母岩別資料は接合30・41の他、削器2点、剥片16点で構成され、総点数26点、重量86.2gである。

分布はLCS - 1の南側と北側の集中部を中心に広がり、他にLCS - 3から剥片1点、M - 137区から剥片1点が出土している。接合30・41は分布図のみ掲載している。

母岩12・接合34

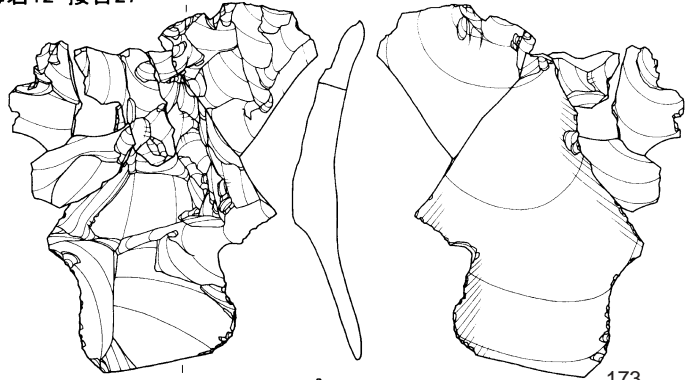


174

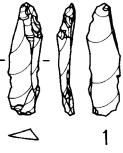
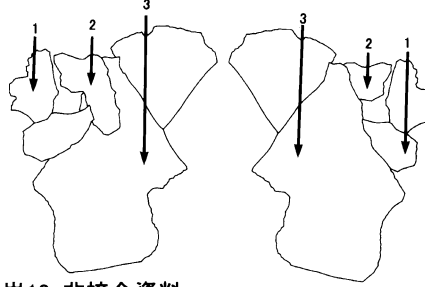


3

母岩12・接合27

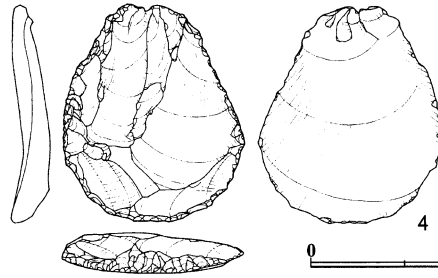


173



1

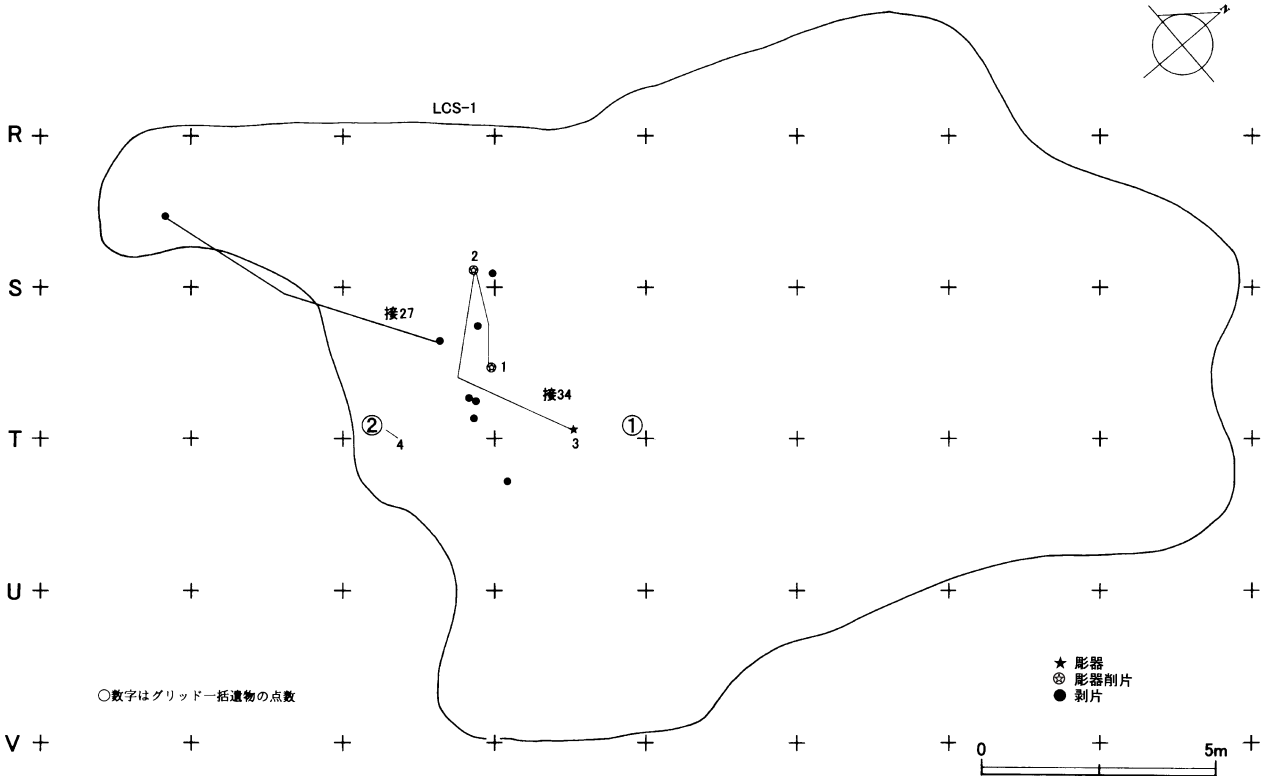
母岩12・非接合資料



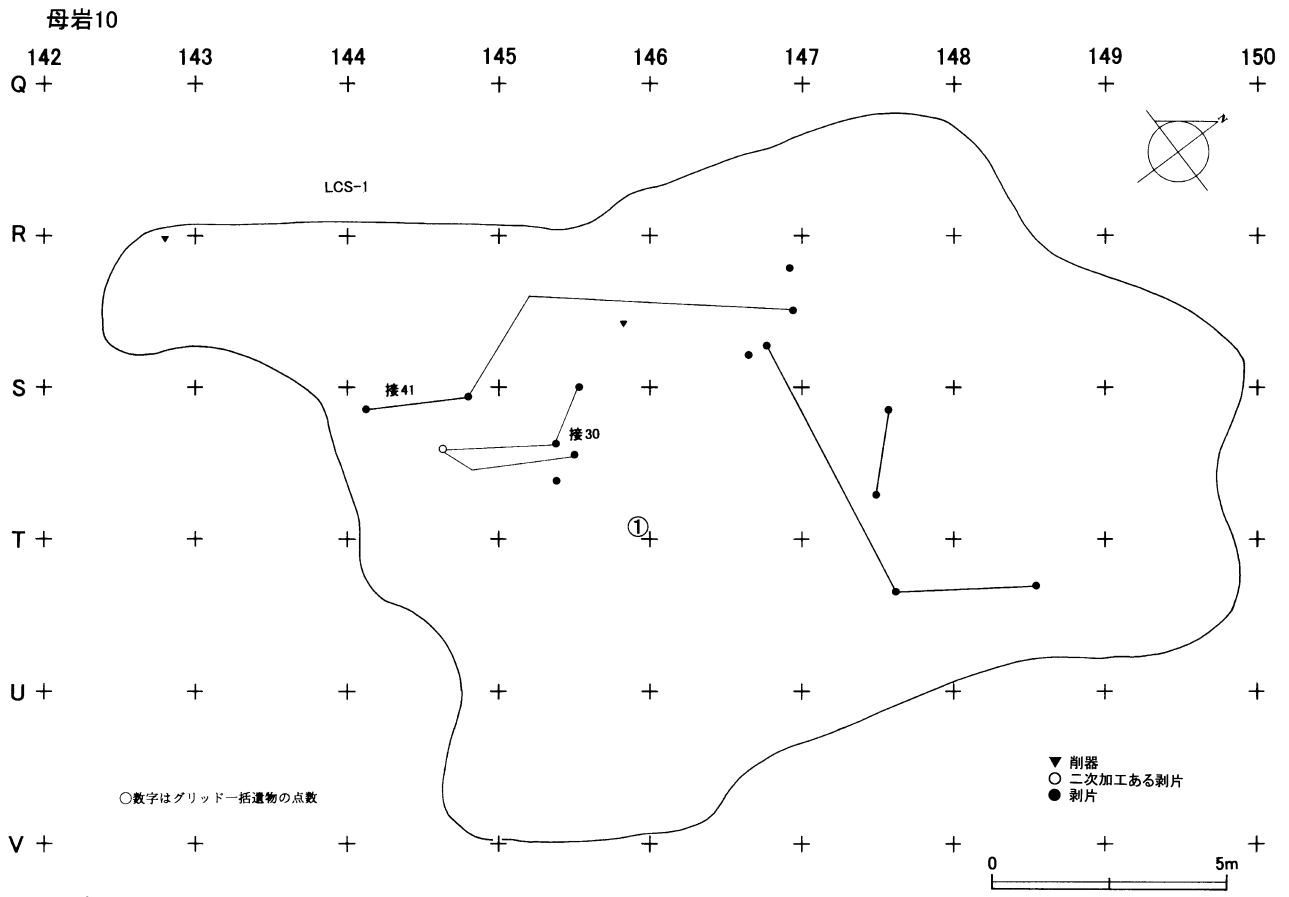
2

0 5cm
s=1/2

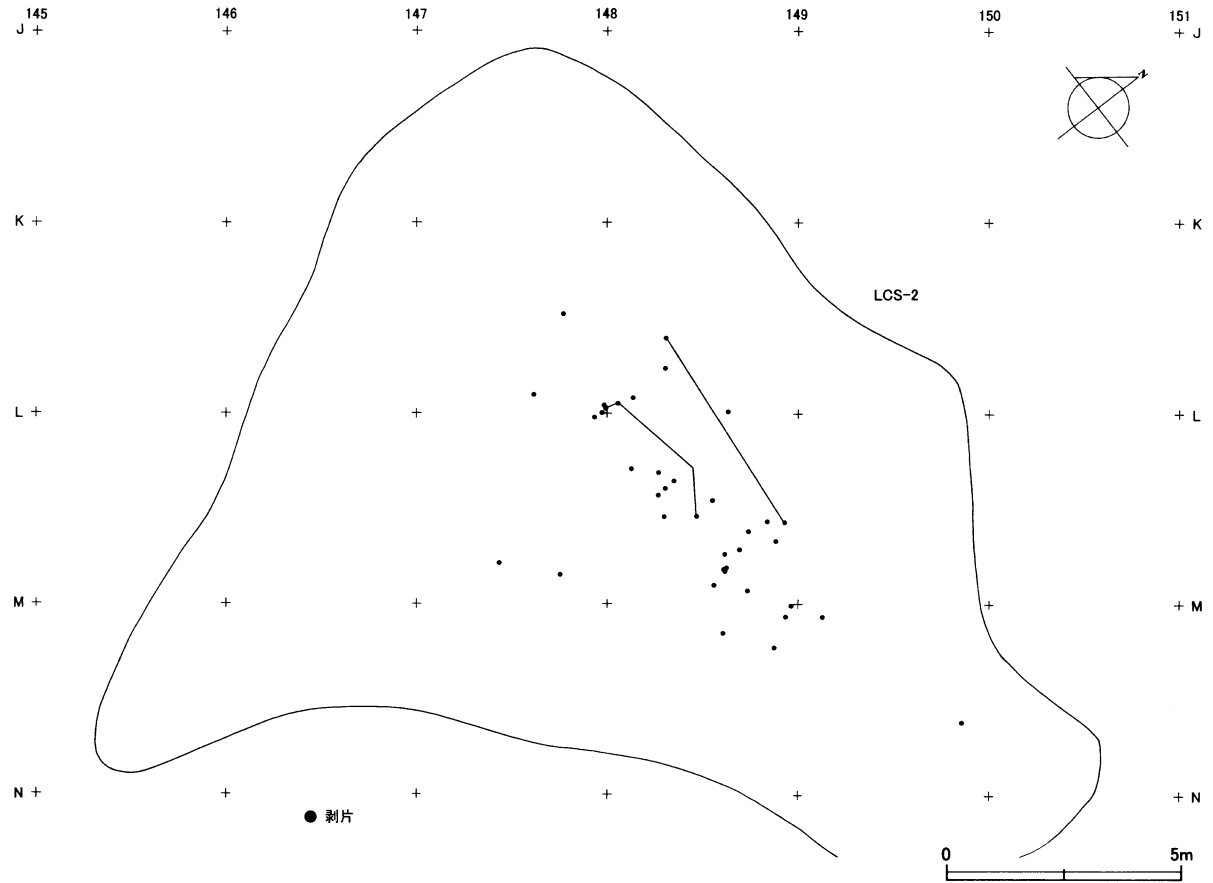
142 Q+ 143 + 144 + 145 + 146 + 147 + 148 + 149 + 150 +



図VI - 66 母岩12・接合34、接合27

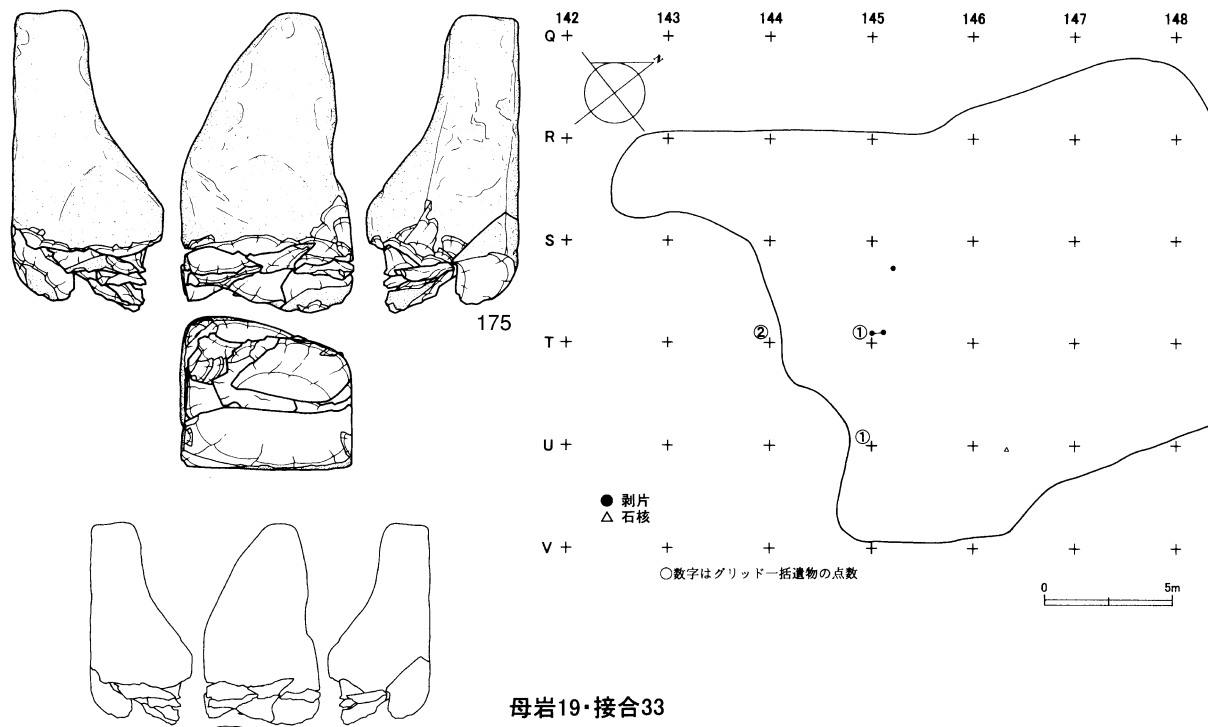


母岩4

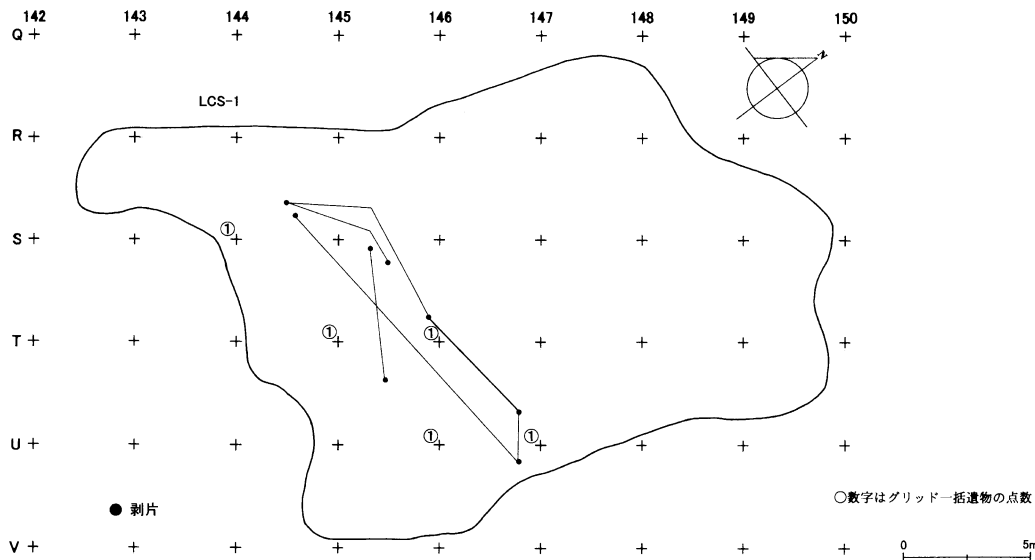
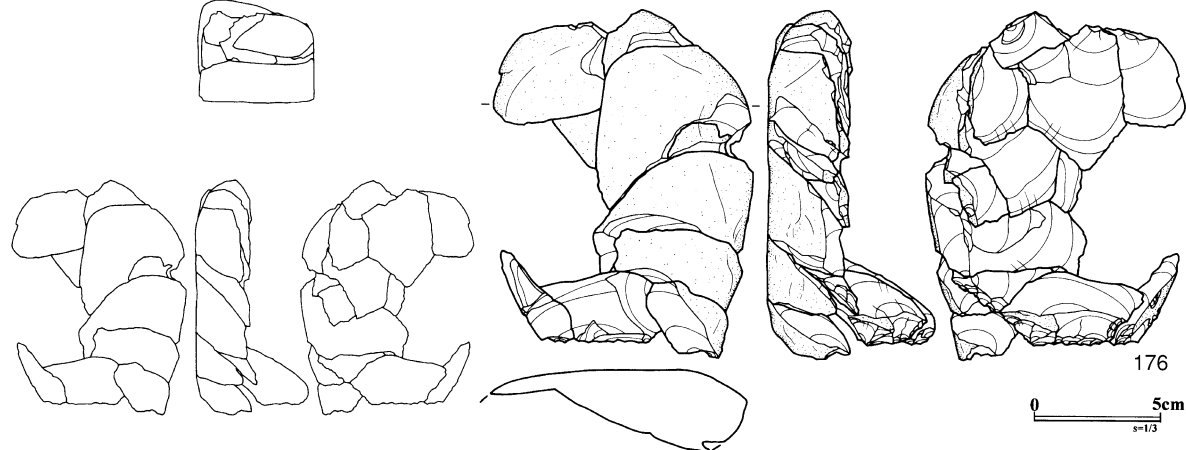


図VI - 67 母岩10、母岩4

母岩18・接合32

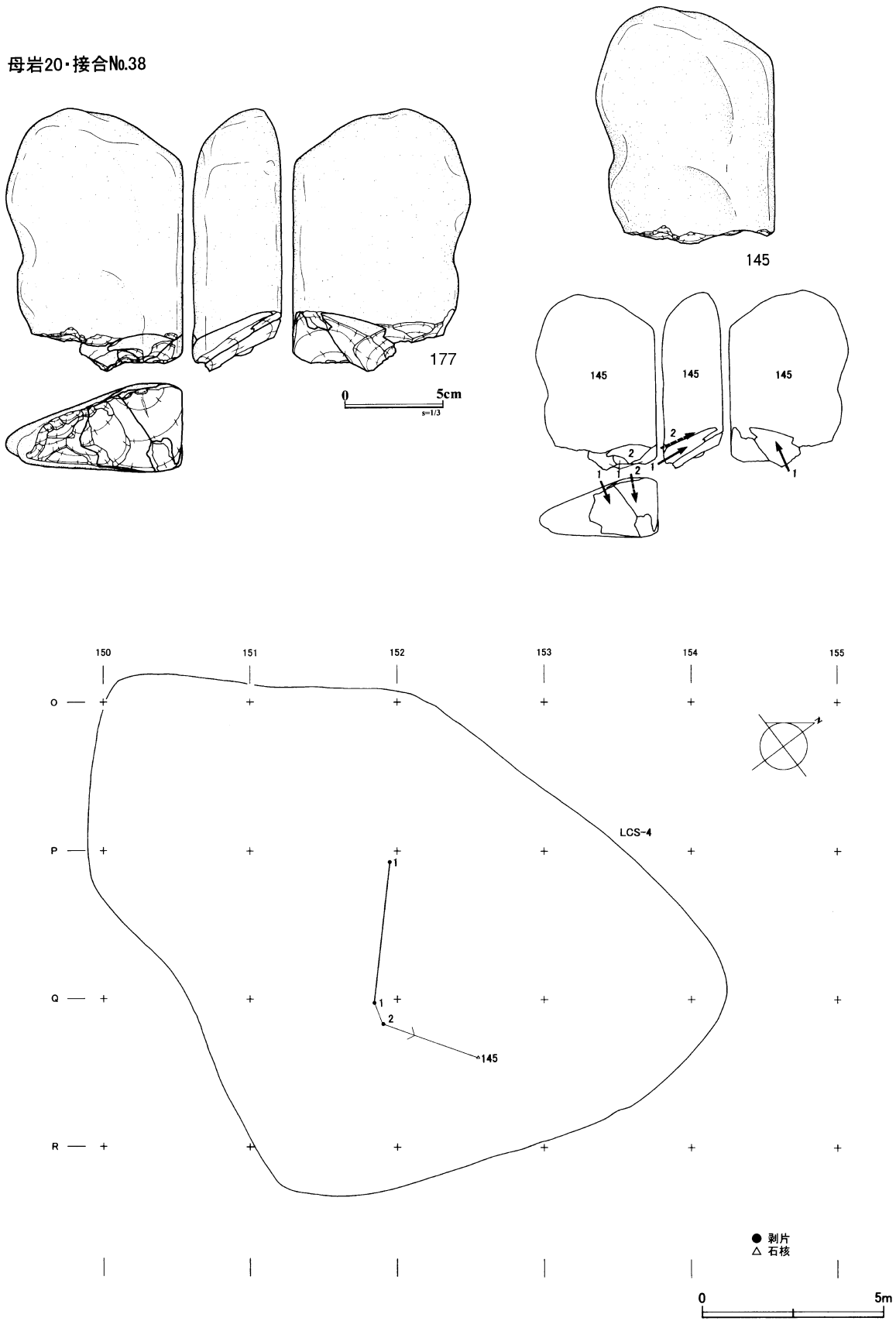


母岩19・接合33



図VI - 68 母岩18・接合32、母岩19・接合33

母岩20・接合No.38



図VI - 69 母岩20・接合38

①接合資料30

二次加工ある剥片1点、剥片4点(3個体)計5点が接合し、重量は16.3gである。分布はLCS-1南側集中部のS-144区に見られる。

②接合資料41

剥片4点(2個体)が接合し、重量は13.2gである。分布はLCS-1のR-146、S-144、T-145区に見られる。

13) 母岩別資料4(図VI-67)

母岩別資料は剥片38点で構成され、総点数38点、総重量46.7gである。折れ面接合のみで、剥離面接合資料はない。分布はLCS-2のL-148区を中心に見られる。分布図のみ掲載している。

14) 母岩別資料18(図VI-68、図版95)

母岩別資料は接合32のみである。

①接合資料32

素材 石核1点、剥片6点の計7点(7個体)が接合し、総重量は466.8g、大きさは11.8×6.8×6.0cmである。原石形状は垂角礫で、横断面は四角形に近い。

剥離工程 下部に作業面を設定し、正面・右側面・左側面を打面として、打面転移を繰り返しながら連続的に剥片を剥離している。打面は全て原礫面で、打面調整は行われない。

原礫に近い形状で遺跡内に持ち込まれ剥片を剥離した後、最終的に残核を廃棄している。

分布 LCS-1の南側集中部に分布し、石核はU-146区から出土している。

15) 母岩別資料19(図VI-68、図版96)

母岩別資料は接合33のみである。

①接合資料33

素材 剥片12点が接合し、重量は349.5g、大きさは13.8×10.3×6.6cmである。垂角礫を素材とする。

剥離工程 打面を裏面・右側面・上面と転移しながら連続的に剥片を剥離している。打面は全て原礫面で、打面調整は行われない。ある程度剥片を剥離した状態で遺跡内に持ち込まれ、剥片を剥離した後、石核を遺跡外に持ち出している。石核石器の製作を目的としている可能性もある。

分布 LCS-1南側の集中部に点在している。

16) 母岩別資料20(図VI-69、図版96)

母岩別資料は接合38のみである。

①接合資料38

素材 石核1点、剥片3点(2個体)の計4点が接合し、重量は68.4g、大きさは13.2×9.0×4.8cmで、垂角礫を素材とする。

剥離工程 打面を正面に設定し、剥片を連続的に剥離している。打面は全て原礫面で、打面調整は行われない。ある程度剥片を剥離した状態で遺跡内に持ち込まれ、剥片を剥離した後、残核を廃棄している。石核石器の製作を目的としている可能性もある。

分布 LCS-4の中央付近に分布している。石核(145)はQ-153区から出土している。

(広田)

表VI - 5 掲載旧石器一覧(1)

挿図	No	図版	器種名	遺構・発掘区	層位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	母岩番号	接合番号	石質	備考
VI - 16	1	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	14 214	(6.1)	1.1	0.5	1.7	1	14 1105	黒曜石 3・4	
VI - 16	2	82	細石刃	LCS - 2	VI	144 240	7.1	1.0	0.8	1.9	1	14 1020	黒曜石3	被熱
VI - 16	3	82	細石刃	LCS - 3	V - 2 VII	91 267	(4.8)	1.05	0.4	1.0	5	1005	黒曜石3	
VI - 16	4	82	細石刃	LCS - 3	V - 2	165 175	4.8	1.0	0.4	1.2	5	5 1007	黒曜石3	
VI - 16	5	82	細石刃	LCS - 3	VI	34 241	5.1	0.9	0.4	1.1	1	4 1004	黒曜石4 または3	
VI - 16	6	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	228	4.8	0.9	0.4	0.9	1	12	黒曜石3	
VI - 16	7	82	細石刃	LCS - 4	VI	285	(4.8)	0.9	0.6	1.4			黒曜石10	被熱
VI - 16	8	82	細石刃	LCS - 2	VI	52	(5.4)	0.8	0.3	1.1			黒曜石5	
VI - 16	9	82	細石刃	LCS - 1	VII	T - 145-36	4.9	0.7	0.3	1.0			黒曜石1	札幌 K19遺物群(分析No16)
VI - 16	10	82	細石刃	LCS - 4	VII	494	3.7	0.7	0.3	0.6	17	9	黒曜石3	被熱
VI - 16	11	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	79	(2.3)	1.1	0.2	0.5	9	6	黒曜石3	赤石山産(分析No5)
VI - 16	12	82	細石刃	LCS - 3	VII	517	(3.7)	0.8	0.4	0.6	5		黒曜石4	被熱
VI - 16	13	82	細石刃	LCS - 2	V - 1	1	(3.8)	1.1	0.3	1.1	1	12	黒曜石3	
VI - 16	14	82	細石刃	LCS - 4	VI	334	(4.0)	1.0	0.3	0.8			黒曜石3	
VI - 16	15	82	細石刃	LCS - 3	VI	32	(2.7)	1.0	0.4	0.8	5	5	黒曜石3	
VI - 16	16	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	327	(2.4)	1.0	0.3	0.6	1	13	黒曜石3	
VI - 16	17	82	細石刃	LCS - 2	VII	591	(2.3)	1.0	0.2	0.5	1	12	黒曜石3	
VI - 16	18	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	173	(2.3)	1.0	0.3	0.6	1	12	黒曜石4	被熱
VI - 16	19	82	細石刃	LCS - 3	VI VII VII	442 723 780	(7.2)	0.9	0.4	1.7		1008	黒曜石 3・5	
VI - 16	20	82	細石刃	LCS - 2	VII	583	(5.2)	0.9	0.4	1.2	1	13	黒曜石3	
VI - 16	21	82	細石刃	LCS - 3	VII VII	369 445	(4.6)	0.9	0.4	1.1	5	1002	黒曜石 3・4	
VI - 16	22	82	細石刃	LCS - 2	VII VII	375 592	(4.6)	0.9	0.3	1.1	1	12.1019	黒曜石3	
VI - 16	23	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	43	(4.4)	0.9	0.3	0.8	1	12	黒曜石3	被熱
VI - 16	24	82	細石刃	LCS - 3	V - 2	191	(4.2)	0.9	0.7	1.1	5		黒曜石3	
VI - 16	25	82	細石刃	LCS - 3	V - 2 V - 2	72 81	(3.5)	0.9	0.3	0.8	5	1003	黒曜石 3・4	
VI - 16	26	82	細石刃	LCS - 4	V - 2	358	(3.3)	0.9	0.3	0.7	9	7	黒曜石4	被熱
VI - 16	27	82	細石刃	LCS - 4	VII	612	(3.1)	0.9	0.3	0.7			黒曜石5	赤石山産(分析No14)
VI - 16	28	82	細石刃	LCS - 4	V - 2	636	(3.0)	0.9	0.2	0.5			黒曜石1	
VI - 16	29	82	細石刃	LCS - 2	V - 2	91	(2.6)	0.9	0.2	0.4	1	12	黒曜石3	被熱
VI - 16	30	82	細石刃	LCS - 3	V - 2	413	(2.5)	0.9	0.3	0.5	5		黒曜石4	赤石山産(分析No10)
VI - 16	31	82	細石刃	LCS - 3	VII	368	(2.3)	0.9	0.3	0.5	1	17	黒曜石3	側縁二次加工あり
VI - 16	32	82	細石刃	LCS - 2	VII	543	(2.3)	0.9	0.2	0.4			黒曜石3	
VI - 16	33	82	細石刃	LCS - 4	VI	258	(2.2)	0.9	0.2	0.3			黒曜石5	
VI - 16	34	82	細石刃	LCS - 2	VI	607	(1.9)	0.9	0.1	0.3	1	13	黒曜石3	被熱
VI - 16	35	82	細石刃	LPD - 5	覆土	78	(3.5)	0.9	0.3	0.7	5	4	黒曜石4	
VI - 16	36	82	細石刃	LPD - 5	覆土	111	(3.7)	0.9	0.4	0.8	5	3	黒曜石4	
VI - 16	37	82	細石刃	LCS - 2	VII	472	(3.8)	0.8	0.3	0.9	1	12	黒曜石3	被熱
VI - 16	38	82	細石刃	LCS - 4	VII	482	(3.4)	0.8	0.2	0.7			黒曜石5	被熱
VI - 16	39	82	細石刃	LCS - 4	VI	251	(3.1)	0.8	0.3	0.5			黒曜石1	赤石山産(分析No17)
VI - 16	40	82	細石刃	LCS - 4	V - 2	227	(3.0)	0.8	0.2	0.4			黒曜石3	被熱
VI - 16	41	82	細石刃	J - 150	V - 2		(2.3)	0.8	0.2	0.3			黒曜石1	所山産(分析No20)
VI - 16	42	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	91	(2.2)	0.8	0.2	0.4	9	15	黒曜石3	
VI - 16	43	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	317	(2.2)	0.8	0.3	0.5	9		黒曜石3	被熱
VI - 16	44	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	86	(2.0)	0.8	0.3	0.2			黒曜石3	被熱
VI - 16	45	83	細石刃	LCS - 2	VII	663	(1.8)	0.8	0.2	0.2	1	12	黒曜石3	
VI - 17	46	83	細石刃	LCS - 4	VI	368	(1.7)	0.8	0.2	0.3	9		黒曜石4	
VI - 17	47	83	細石刃	LCS - 2	V - 2	347	(1.8)	0.8	0.3	0.4	1	14	黒曜石3	被熱
VI - 17	48	83	細石刃	LCS - 2	VII	71	(3.2)	0.8	0.3	0.7	1	14	黒曜石3	
VI - 17	49	83	細石刃	LCS - 4	VI	136	(3.2)	0.8	0.3	0.6	9	6	黒曜石3	
VI - 17	50	83	細石刃	LCS - 3	V - 2	29 167	(4.2)	0.7	0.2	0.5		1009	黒曜石5	
VI - 17	51	83	細石刃	LCS - 3	V - 2	57	(3.6)	0.7	0.4	0.7	5	3	黒曜石3	
VI - 17	52	83	細石刃	LCS - 3	V - 2 VI	59 224	(3.5)	0.7	0.3	0.6	5	1001	黒曜石3	
VI - 17	53	83	細石刃	LCS - 4	V - 2 VI	269 620	(3.2)	0.7	0.2	0.4		1013	黒曜石5	側縁に二次加工あり
VI - 17	54	83	細石刃	LCS - 4	VI	268	(3.0)	0.7	0.2	0.4			黒曜石3	被熱
VI - 17	55	83	細石刃	LCS - 4	VI	632	(2.7)	0.7	0.2	0.3	9	7	黒曜石3	
VI - 17	56	83	細石刃	LCS - 3	VI	488	(2.7)	0.7	0.2	0.4			黒曜石3	
VI - 17	57	83	細石刃	LCS - 4	VI	276	(2.6)	0.7	0.3	0.5	9	15	黒曜石3	
VI - 17	58	83	細石刃	LCS - 3	V - 2	164	(2.0)	0.7	0.2	0.2			黒曜石1	十勝産(分析No8)
VI - 17	59	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	234	(2.0)	0.7	0.1	0.2	9	7	黒曜石3	
VI - 17	60	83	細石刃	LCS - 4	VI	504	(1.9)	0.7	0.3	0.3	9		黒曜石3	
VI - 17	61	83	細石刃	LCS - 2	V - 2	192	(1.8)	0.7	0.2	0.3	1	17	黒曜石4	
VI - 17	62	83	細石刃	LCS - 2	VII	660	(1.7)	0.7	0.2	0.2	1	12	黒曜石4	

表Ⅵ - 6 掲載旧石器一覧(2)

挿図	No	図版	器種名	遺構・発掘区	層位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	母岩番号	接合番号	石質	備考
Ⅵ - 17	63	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	544	(1.5)	0.7	0.2	0.2			黒曜石 3	線状痕あり
Ⅵ - 17	64	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	589	(1.6)	0.7	0.2	0.2			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	65	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ Ⅶ	152 411	(3.2)	0.6	0.2	0.3		1015	黒曜石 1	被熱
Ⅵ - 17	66	83	細石刃	LCS - 4	Ⅶ	549	(2.6)	0.6	0.2	0.4			黒曜石 1	被熱
Ⅵ - 17	67	83	細石刃	LCS - 4	Ⅶ	492	(2.6)	0.6	0.3	0.4			黒曜石 4	赤石山産(分析No18)
Ⅵ - 17	68	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ	608	(2.2)	0.6	0.2	0.2	9		黒曜石 5	
Ⅵ - 17	69	83	細石刃	LCS - 2	V - 2	50	(2.0)	0.6	0.2	0.2			黒曜石 5	側縁二次加工あり
Ⅵ - 17	70	83	細石刃	LCS - 3	Ⅵ	214	(1.7)	0.6	0.3	0.3			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	71	83	細石刃	LCS - 3	Ⅶ	552	(1.7)	0.6	0.2	0.1			黒曜石 1	赤石山産(分析No11)
Ⅵ - 17	72	83	細石刃	LCS - 3	Ⅶ	318	(1.7)	0.6	0.2	0.2			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	73	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	119	(2.8)	0.5	0.2	0.3			黒曜石 3	被熱
Ⅵ - 17	74	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	470	(2.3)	0.4	0.2	0.2			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	75	83	細石刃	LCS - 2	V - 2	206	(3.2)	1.0	0.3	1.0	1	13	黒曜石 3	
Ⅵ - 17	76	83	細石刃	LCS - 2	V - 2 Ⅶ	184 650	(4.0)	0.9	0.3	0.8	1	12.1106	黒曜石 4	被熱
Ⅵ - 17	77	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	473	(3.8)	0.9	0.3	1.0	1	13	黒曜石 3	
Ⅵ - 17	78	83	細石刃	I - 150	Ⅵ		(2.1)	0.8	0.2	0.3			黒曜石 1	所山産(分析No19),側縁二次加工,線状痕あり
Ⅵ - 17	79	83	細石刃	LCS - 3	V - 2	384	(2.7)	0.7	0.2	0.4	5		黒曜石 3	側縁二次加工あり
Ⅵ - 17	80	83	細石刃	LCS - 3	Ⅶ	745	(3.4)	0.8	0.2	0.5			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	81	83	細石刃	LCS - 3	Ⅶ	301	(2.3)	0.7	0.3	0.3			黒曜石 1	十勝産(分析No9)
Ⅵ - 17	82	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ	147	(2.2)	0.7	0.2	0.3	16	10	黒曜石 5	
Ⅵ - 17	83	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	657	(2.0)	0.7	0.2	0.3			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	84	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	29	(1.9)	0.7	0.2	0.3	9		黒曜石 3	
Ⅵ - 17	85	83	細石刃	LCS - 3	Ⅵ Ⅶ	656 783	(2.8)	0.6	0.2	0.1		1010	黒曜石 5	
Ⅵ - 17	86	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	44	(2.7)	0.6	0.3	0.2			黒曜石 5	
Ⅵ - 17	87	83	細石刃	LCS - 4	V - 2	17	(2.4)	0.6	0.1	0.2	9		黒曜石 3	
Ⅵ - 17	88	83	細石刃	LCS - 4	Ⅶ	395	(2.1)	0.6	0.2	0.3	9		黒曜石 3	
Ⅵ - 17	89	83	細石刃	LCS - 4	Ⅶ	547	(1.7)	0.6	0.2	0.2			黒曜石 3	側縁二次加工あり
Ⅵ - 17	90	83	細石刃	LCS - 3	V - 2	158	(3.1)	0.5	0.2	0.3			黒曜石 3	
Ⅵ - 17	91	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ	280	(2.3)	0.8	0.3	0.4	9	7	黒曜石 3	被熱
Ⅵ - 17	92	83	細石刃	LCS - 2	Ⅶ	539	(1.8)	0.5	0.2	0.1			黒曜石 3	被熱
Ⅵ - 17	93	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ	370	(1.6)	0.5	0.1				黒曜石 1	線状痕あり
Ⅵ - 17	94	83	細石刃	LCS - 4	Ⅶ	476	(1.6)	0.5	0.1		9		黒曜石 3	
Ⅵ - 17	95	83	細石刃	LCS - 4	Ⅵ	633	(1.1)	0.4	0.1				黒曜石 3	
Ⅵ - 17	96	83	細石刃	LCS - 3	Ⅶ	524	(1.1)	0.3	0.1				黒曜石 5	
Ⅵ - 18	97	84	細石刃核	LCS - 4	V - 2	183	7.2	15.0	2.2	246.2			黒曜石 3	
Ⅵ - 18	98	84	細石刃核	LCS - 3	Ⅶ	303	3.5	7.5	1.7	38.7	13	46	黒曜石 4	
Ⅵ - 18	99	84	細石刃核	LCS - 4	Ⅵ	184	5.0	12.0	2.7	155.5			黒曜石 5	
Ⅵ - 18	100	84	細石刃核	LCS - 4	Ⅵ	118	4.6	8.1	2.6	74.7	16	10	黒曜石 5	
Ⅵ - 18	101	84	細石刃核	LCS - 2	Ⅵ	727	6.2	8.1	2.7	140.5			黒曜石 4	
Ⅵ - 19	102	85	細石刃核	LCS - 4	Ⅵ	8	5.4	7.8	2.7	111.9	17	9	黒曜石 3	
Ⅵ - 19	103	85	細石刃核	LCS - 4	V - 2	626	6.2	7.4	2.3	112.0	9	7	黒曜石 5	
Ⅵ - 19	104	85	細石刃核	LCS - 3	Ⅶ	554	7.3	6.3	2.5	68.0	13	46.1104	黒曜石 3	
Ⅵ - 19	105	85	細石刃核削片	LCS - 4	Ⅵ	331	3.2	10.3	2.2	70.5			黒曜石 3	
Ⅵ - 20	106	85	細石刃核削片	LCS - 3	V - 1 Ⅶ	37 284 759	5.2	7.2	2.5	40.1	13	46.1103	黒曜石 3・4	
Ⅵ - 20	107	86	細石刃核削片	LCS - 4	V - 2	321	0.7	5.15	1.2	5.5	15		黒曜石 3	
Ⅵ - 20	108	86	細石刃核削片	LCS - 4	Ⅵ V - 2 V - 2	82 83	5.4	17.0	2.6	126.6	15	11.1097	黒曜石 5	
Ⅵ - 21	109	86	細石刃核削片	LCS - 4	V - 2	96	1.3	8.0	2.6	14.8			黒曜石 1	赤石山産(分析No1)
Ⅵ - 21	110	86	細石刃核削片	S - 129	V - 2	1	1.6	8.2	1.4	10.8	13	46	黒曜石 4	
Ⅵ - 21	111	86	細石刃核削片	LCS - 3	V - 2	726	1.4	8.0	1.6	10.7	13	46	黒曜石 4	
Ⅵ - 21	112	86	細石刃核削片	LCS - 3	V - 2	111	1.7	7.8	1.7	14.9	13	46	黒曜石 4	
Ⅵ - 21	113	86	彫器削片	LCS - 2	V - 2	51	2.0	0.3	0.6	0.5			黒曜石 3	
Ⅵ - 21	114	86	彫器削片	LCS - 3	Ⅵ	227	1.3	0.5	0.2				珪岩	
Ⅵ - 21	115	86	彫器削片	LCS - 3	Ⅶ	277	1.5	0.5	0.2	0.2			珪岩	
Ⅵ - 21	116	86	彫器削片	LCS - 3	V - 2	381	2.6	0.4	0.3	0.2			黒曜石 3	
Ⅵ - 21	117	86	彫器削片	LCS - 4	V - 2	104	2.3	0.8	0.4	0.4			頁岩	
Ⅵ - 21	118	86	彫器削片	LCS - 4	V - 2	217	2.0	0.4	0.3	0.2			頁岩	
Ⅵ - 22	119	87	彫器	LCS - 4	V - 2	59 338	6.7	3.9	1.3	24.5		1107	珪岩	
Ⅵ - 22	120	87	彫器	LCS - 4	Ⅶ	443	3.9	2.7	0.9	8.2			珪岩	
Ⅵ - 22	121	87	彫器	LCS - 3	Ⅶ	611	2.9	2.3	0.6	3.7			珪岩	
Ⅵ - 22	122	87	彫器	T - 150	Ⅵ	1	3.6	1.9	0.6	3.8			珪岩	
Ⅵ - 22	123	87	彫器	LCS - 1	Ⅶ	R - 146No 36	4.1	2.9	1.0	12.8			珪岩	
Ⅵ - 22	124	87	彫器	LCS - 3	V - 2	211	4.4	2.2	0.9	7.2			頁岩	
Ⅵ - 22	125	87	彫器	LCS - 4	V - 2	43	4.5	2.2	5.2	7.4			黒曜石 3	
Ⅵ - 22	126	87	彫器	LCS - 2	V - 2	313	(3.8)	2.8	0.6	5.1			黒曜石 3	
Ⅵ - 22	127	87	撻器	LCS - 3	V - 2	154	4.8	4.2	0.9	20.7	13	46.1085	黒曜石 3	
Ⅵ - 22	128	87	撻器	LCS - 2	V - 2	420	4.4	3.6	0.7	10.2			頁岩	
Ⅵ - 22	129	87	撻器	LCS - 2	Ⅶ	568	3.0	2.4	0.8	5.6			頁岩	

表VI - 7 掲載旧石器一覧(3)

挿図	No	図版	器種名	遺構・発掘区	層位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	母岩番号	接合番号	石質	備考
VI - 22	130	87	搔器	LCS - 2	VI	297	3.1	2.7	1.2	5.4			頁岩	
VI - 22	131	87	搔器	LCS - 2	VI	259	2.3	2.2	0.7	3.8			頁岩	
VI - 22	132	87	搔器	LCS - 4	V - 2	245	5.9	6.4	1.7	40.1	11	36	黒曜石 4	
VI - 22	133	87	両面調整石器	LCS - 4	V - 2	643	4.8	4.2	1.1	19.3			頁岩	
VI - 22	134	87	両面調整石器	LCS - 3	VI	250	4.9	3.9	1.0	17.7			頁岩	
VI - 23	135	88	削器	LCS - 3	V - 1	1	10.8	3.8	1.4	58.5	14		黒曜石 3	
VI - 23	136	88	削器	LCS - 3	V - 1	46	8.1	4.3	1.0	32.8			黒曜石 3	
VI - 23	137	88	搔器	LCS - 4	VI	266	5.9	2.8	0.9	13.7			黒曜石 4	
VI - 23	138	88	削器	LCS - 2	VI	55	9.9	4.2	1.0	43.3			黒曜石 5	
VI - 23	139	88	削器	LCS - 2	V - 2	496	9.8	7.0	1.1	45.2			黒曜石 5	
VI - 23	140	88	削器	LCS - 3	VII	346	8.7	3.9	1.0	24.2	11	37	黒曜石 4	
VI - 23	141	88	削器	LCS - 3	V - 2	102	10.7	6.0	1.4	57.0			黒曜石 5	
VI - 23	142	88	削器	LCS - 4	V - 2 VII	200 454	(8.3)	4.3	1.7	40.2		1039	頁岩	
VI - 23	143	88	削器	LCS - 3	V - 2	108	5.7	2.6	0.7	10.8			黒曜石 3	
VI - 24	144	89	石核	LCS - 3	VII	703	9.0	7.9	6.0	615.0			頁岩	
VI - 24	145	89	石核	LCS - 4	V - 2	126	12.0	9.0	4.5	38.7		38	頁岩	
VI - 48	1	89	剥片	T - 135	V - 2		(1.2)	1.3	1.9	0.6			黒曜石 1	
VI - 48	2	89	彫器	Z - 121	VI	1	(5.9)	3.3	0.8	12.9			黒曜石 5	
VI - 48	3	89	尖頭器	Z1 - 126	VI	1	(3.6)	1.9	0.6	4.5			頁岩	
VI - 48	4	89	石刃	X - 126	V - 1	1	(3.9)	2.1	0.6	4.7			黒曜石 3	
VI - 48	5	89	石刃	S - 135	V - 1	1	(5.9)	3.8	0.9	16.0		1073	黒曜石 3	
VI - 48		89		R - 135	V - 2	5								
VI - 48	6	89	石刃	Q - 133	V - 1		(5.9)	3.6	0.9	21.8			頁岩	
VI - 48	7	89	斧形石器	X - 128	VII	2	12.1	3.8	2.6	139.1			泥岩	

表VI - 8 掲載旧石器接合資料一覧(1)

挿図	図版	母岩No	接合No	掲載No	器種等	ブロック名	発掘区ほか	層位	遺物番号	重量(g)	石質	折接合No				
VI - 49	90	13	46	146	接合資料	LCS-2,3ブロック外		V-1,V-2,VI,VII,層土		406.6	黒曜石3・4					
				147	剥片	LCS - 2 ブロック外	L - 146	VI	54	23.6 2.7	黒曜石 3 黒曜石 3	1092				
					剥片	LCS - 3 LCS - 3		V - 2 VII	90 388	3.9 0.6	黒曜石 3 黒曜石 3	1091				
					剥片	LCS - 3 LCS - 3 LCS - 3		V - 2 V - 2 VII	87 152 621	7.3 1.2 8.8	黒曜石 3 黒曜石 3 黒曜石 4	1089				
					剥片	LCS - 3		VI	200	1.5	黒曜石 4					
					剥片	LCS - 3		VII	355	9.5	黒曜石 4					
					剥片	LCS - 3 LCS - 3 LCS - 3		VII V - 2 VII	300 122 525	1.2 1.3 0.3	黒曜石 3 黒曜石 3 黒曜石 3	1083				
					剥片	LCS - 3 LCS - 3 ブロック外		V - 2 VII	403 11 93	2.6 0.8 6.9	黒曜石 4 黒曜石 3 黒曜石 4	1079				
					剥片	LCS - 3	LPD - 5	V - 1	21	1.6	黒曜石 3					
					剥片	ブロック外	T - 130	V - 2	2	2.2	黒曜石 3					
					剥片	ブロック外	S - 139			3.7	黒曜石 3	1078				
					剥片	LCS - 3		VI	440	0.4	黒曜石 4					
					剥片	LCS - 3		VII	711	1.6	黒曜石 4					
				VI - 50			(段階 2)	148	剥片	LCS - 3 LCS - 3		V - 2 VII	112 741	7.2 1.0	黒曜石 4 黒曜石 3	1084
									剥片	LCS - 3		VI	249	1.8	黒曜石 4	
								127	搔器	LCS - 3 LCS - 3		VII V - 2	351 154	5.2 20.7	黒曜石 3 黒曜石 3	1085
									剥片	LCS - 3 ブロック外	P - 139	VI VI	27	1.9 1.9	黒曜石 3 黒曜石 3	1077
	剥片	LCS - 3						V - 2	190	4.4	黒曜石 3	1090				
	剥片	LCS - 3						V - 2	160	2.2	黒曜石 3					
	剥片	LCS - 3						V - 2	400	1.7	黒曜石 4	1100				
	剥片	LCS - 3						VI	253	2.2	黒曜石 3					
	剥片	LCS - 3						V - 2	61	5.2	黒曜石 3					
	剥片	LCS - 3						V - 2	189	2.9	黒曜石 4	1111				
	剥片	LCS - 3						VI	203	2.2	黒曜石 4					
	剥片	LCS - 3						V - 2	124	4.5	黒曜石 4					
	剥片	LCS - 3						VII	363	0.2	黒曜石 3					
	剥片	LCS - 3						VI	63	0.4	黒曜石 3	1098				
	剥片	LCS - 3		V - 2	147		黒曜石 3									
	剥片	LPD - 5 LCS - 3		VII	49 574	2.6 1.2	黒曜石 4 黒曜石 4	1099								
	剥片	LCS - 3		V - 2	94	2.5	黒曜石 3									
	剥片	LCS - 3		VI	444	7.6	黒曜石 4									

表VI - 9 掲載旧石器接合資料一覧(2)

挿図	図版	母岩No	接合No	掲載No	器種等	ブロック名	発掘区ほか	層位	遺物番号	重量 (g)	石質	折接合No
					剥片	ブロック外	S - 133	V - 1		1.1	黒曜石 3	1102
					剥片	LCS - 3		V - 2	62	0.3	黒曜石 3	
					剥片 二次加工ある剥片	LCS - 3		V - 2	123	8.4	黒曜石 4	1082
					剥片	LCS - 3		VI	199	3.7	黒曜石 4	
				106	細石刃核削片	LPD - 5			103	1.6	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		VII	759	12.9	黒曜石 4	1103
					剥片	LCS - 3		VII	284	5.8	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		VII	37	21.4	黒曜石 3	
				104	細石刃核	LCS - 3		VII	554	68.0	黒曜石 3	1104
					剥片	LCS - 3		V - 2	187		黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		VII	532		黒曜石 3	1080
					剥片	LCS - 3		V - 2	209	4.1	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		V - 2	161	1.0	黒曜石 3	
					剥片	ブロック外	N - 131	V - 2		1.5	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		VII	625	0.7	黒曜石 3	1081
					剥片	LCS - 3		V	208	0.8	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		VII	313	2.1	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		VII	289	0.9	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		V - 2	79	0.8	黒曜石 3	1087
					剥片	LCS - 3		V - 2	421	2.7	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		VI	220	4.1	黒曜石 3	
			(段階3)	149	剥片	LCS - 3		VII	330	3.9	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		V - 2	80	1.2	黒曜石 4	
					剥片	ブロック外	U - 134	V - 2	1	4.1	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		VI	195	4.4	黒曜石 4	1101
					剥片	LCS - 3		V - 2	171	0.5	黒曜石 3	
					剥片	ブロック外	T - 133	V - 1		2.4	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		V - 1	45	4.8	黒曜石 3	
					剥片	LCS - 3		V - 2	178	3.4	黒曜石 4	1088
					剥片	LCS - 3		V - 2	125	0.6	黒曜石 4	
					剥片	ブロック外	LPD - 5	覆土	104	0.2	黒曜石 4	
					剥片	LCS - 3		VII	607	2.9	黒曜石 4	
				110	細石刃核削片	ブロック外	S - 129	V - 2	1	10.8	黒曜石 4	
				111	細石刃核削片	LCS - 3		VII	726	10.7	黒曜石 4	
				112	細石刃核削片	LCS - 3		V - 2	111	14.9	黒曜石 4	
				98	細石刃核	LCS - 3		VII	303	38.7	黒曜石 4	
VI - 50	-	13	48 接合点数 2点	150	接合資料	LCS - 2, 3		V - 2, VI		15.9	黒曜石 3-4	
				1	剥片	LCS - 2		V - 2	109	13.0	黒曜石 4	
				2	剥片	LCS - 3		VI	233	2.9	黒曜石 3	
VI - 54	91	1	12 接合点数 13点	151	接合資料	LCS - 2		V - 1, V - 2, VI, VII		147.0	黒曜石 3-4	
				62	細石刃	LCS - 2		VII	660	0.2	黒曜石 4	
				6	細石刃	LCS - 2		V - 2	228	0.9	黒曜石 3	
				37	細石刃	LCS - 2		VII	472	1.0	黒曜石 3	1019
				22	細石刃	LCS - 2		VII	592	0.5	黒曜石 3	
					細石刃	LCS - 2		VII	375	0.6	黒曜石 3	
				45	細石刃	LCS - 2		VII	663	0.2	黒曜石 3	
				23	細石刃	LCS - 2		V - 2	43	0.8	黒曜石 3	
				76	細石刃	LCS - 2		VII	650	0.6	黒曜石 4	1106
					細石刃	LCS - 2		V - 2	184	0.1	黒曜石 4	
				29	細石刃	LCS - 2		V - 2	91	0.4	黒曜石 3	
				17	細石刃	LCS - 2		VII	591	0.5	黒曜石 3	
				13	細石刃	LCS - 2		V - 1	1	1.1	黒曜石 3	
				18	細石刃	LCS - 2		V - 2	173	0.6	黒曜石 4	
				101	細石刃核	LCS - 2		VI	727	140.5	黒曜石 4	
VI - 54	91	1	14 接合点数 8点	152	接合資料	LCS - 2		V - 2, VI, VII		3.8	黒曜石 3-4	
				48	細石刃	LCS - 2		VII	71	0.7	黒曜石 3	
				47	細石刃	LCS - 2		V - 2	347	0.4	黒曜石 3	
				153	細石刃	LCS - 2		VII	305	1.1	黒曜石 4	
				2	細石刃	LCS - 2		VI	144	0.9	黒曜石 3	1020
					細石刃	LCS - 2		VI	240	1.0	黒曜石 4	
				154	細石刃	LCS - 2		VII	585	0.7	黒曜石 3	
				1	細石刃	LCS - 2		V - 2	14	1.0	黒曜石 3	1105
					細石刃	LCS - 2		V - 2	214	0.7	黒曜石 4	
VI - 54	91	1	13	155	接合資料	LCS - 2		V - 2, VI, VII		2.0	黒曜石 3	
				20	細石刃	LCS - 2		VII	583	1.2	黒曜石 3	
				75	細石刃	LCS - 2		V - 2	206	1.0	黒曜石 3	
				16	細石刃	LCS - 2		V - 2	327	0.6	黒曜石 3	
				77	細石刃	LCS - 2		VII	473	1.0	黒曜石 3	
				34	細石刃	LCS - 2		VI	607	0.2	黒曜石 3	
VI - 54	91	1	17 接合点数 2点	156	接合資料	LCS - 2, 3		V - 2, VII		0.8	黒曜石 3-4	
				31	細石刃	LCS - 3		VII	368	0.5	黒曜石 3	
				61	細石刃	LCS - 2		V - 2	192	0.3	黒曜石 4	
VI - 58	92	9	7 接合点数 5点	157	接合資料	LCS - 4		V - 2, VI		113.5	黒曜石 3-4	
				26	細石刃	LCS - 4		V - 2	358	0.7	黒曜石 4	
				59	細石刃	LCS - 4		V - 2	234	0.2	黒曜石 3	
				91	細石刃	LCS - 4		VI	280	0.3	黒曜石 3	

表VI - 10 掲載旧石器接合資料一覧(3)

挿図	図版	母岩No	接合No	掲載No	器種等	ブロック名	発掘区ほか	層位	遺物番号	重量 (g)	石質	折接合No
				55	細石刃	LCS - 4		VI	632	0.3	黒曜石3	
				103	細石刃核	LCS - 4		V - 2	626	112.0	黒曜石4	
VI - 58	92	9	6	158	接合資料	LCS - 4 2		V - 2, VI, VII		1.1	黒曜石3・4	
				159	細石刃	LCS - 4		VII	606	0.3	黒曜石4	
				49	細石刃	LCS - 4		VI	136	0.6	黒曜石3	
				160	細石刃	LCS - 2		V - 2	79	0.2	黒曜石3	
VI - 58	92	9	15	161	接合資料	LCS - 4		V - 2, VI		0.9	黒曜石3	
				42	細石刃	LCS - 4		V - 2	91	0.4	黒曜石3	
				57	細石刃	LCS - 4		VI	276	0.5	黒曜石3	
VI - 59	92	16	10	162	接合資料	LCS - 4		VI		75.0	黒曜石5	
				82	細石刃	LCS - 4		VI	147	0.3	黒曜石5	
				100	細石刃核	LCS - 4		VI	118	74.7	黒曜石5	
VI - 59	92	17	9	163	接合資料	LCS - 4		VI, VII		112.5	黒曜石3	
				10	細石刃	LCS - 4		VII	494	0.6	黒曜石3	
				102	細石刃核	LCS - 4		VI	8	111.9	黒曜石3	
VI - 60	93	21	56	164	接合資料	LCS - 1		V - 1, V - 2, M		161.0	黒曜石3	
				1	剥片	LCS - 1	R - 143	V - 2	9	8.0	黒曜石3	
				2	剥片	LCS - 1	R - 146	V - 2	16	0.3	黒曜石3	
				3	剥片	LCS - 1	Q - 147	V - 1		2.2	黒曜石3	
				4	細石刃核	LCS - 1	R - 146	V - 2	1	150.5	黒曜石3	
VI - 61	93	5	5	165	接合資料	LCS - 3		V - 2, VI		2.0	黒曜石3	
				4	細石刃	LCS - 3		V - 2	175	0.4	黒曜石3	1007
						LCS - 3		V - 2	165	0.8	黒曜石3	
				15	細石刃	LCS - 3		VI	32	0.8	黒曜石3	
VI - 62	93	15	11	166	接合資料	LCS - 4, ブロック外		V - 2, VI, VII		148.0	黒曜石3・4	
				1	剥片	LCS - 4		VI	450	0.2	黒曜石3	
				2	剥片	LCS - 4		VI	371	0.3	黒曜石4	1017
						LCS - 4		V - 2	37	4.1	黒曜石3	
				3	剥片	LCS - 4		VI	68	1.4	黒曜石3	
				4	剥片	LCS - 4		V - 2	202	0.9	黒曜石3	1016
						LCS - 4		V - 2	203	1.2	黒曜石3	
						LCS - 4		VII	544	0.8	黒曜石4	
				5	細石刃削片	LCS - 4		V - 2	73	0.7	黒曜石3	
				6	剥片	LCS - 4		VI	326	4.0	黒曜石3	
				7	剥片	LCS - 4		V - 2	83	26.2	黒曜石3	1096
				8	剥片	LCS - 4		VI	82	0.1	黒曜石4	
				9	剥片	LCS - 1	U - 144	V - 2		100.7	黒曜石4	
				10	剥片	LCS - 4		VII	439	1.2	黒曜石3	1032
				11	剥片	LCS - 4		VI	472	0.9	黒曜石4	
				12	剥片	LCS - 4		VI	386	5.3	黒曜石4	
VI - 63	94	11	21	167	接合資料	LCS - 1, ブロック外		V - 1, V - 2, M, VI		71.6	黒曜石4	
				1	剥片	ブロック外	T - 143	V - 1		1.4	黒曜石4	
				2	剥片	LCS - 1	T - 145	V - 2		6.6	黒曜石4	
				3	剥片	LCS - 1	T - 145	V - 2		0.9	黒曜石4	
				4	剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2	31	16.9	黒曜石4	1108
						LCS - 1	T - 144	VI	20	0.5	黒曜石4	
				5	剥片	LCS - 1	U - 146	VII	11	1.1	黒曜石4	1109
						LCS - 1	T - 144	V - 1		1.4	黒曜石4	
						LCS - 1	T - 145	V - 2		4.5	黒曜石4	
				6	剥片	LCS - 1	R - 143	V - 2	1	2.0	黒曜石4	1110
						ブロック外	X - 137	V - 2		7.4	黒曜石4	
						LCS - 1	S - 144	V - 2	21	4.8	黒曜石4	
				7	剥片	LCS - 1	T - 146	V - 2		6.8	黒曜石4	
				8	剥片	LCS - 1	U - 145	V - 1		3.2	黒曜石4	
				9	剥片	ブロック外	T - 143	V - 2		4.9	黒曜石4	
				10	剥片	LCS - 1	T - 145	VI	16	18.1	黒曜石4	
VI - 63	94	11	22	168	接合資料	LCS - 1		V - 2, VI, VII		82.5	黒曜石3・4	
				1	剥片	LCS - 1	U - 145	VI	3	1.3	黒曜石3	1034
						LCS - 1	T - 145	V - 2		45.9	黒曜石4	
						LCS - 1	S - 144	V - 2	11	15.8	黒曜石4	
				2	剥片	LCS - 1	T - 145	V - 2	2	0.7	黒曜石4	
				3	剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2		1.6	黒曜石4	
				4	剥片	LCS - 1	S - 144	VII	78	17.2	黒曜石4	
VI - 63	94	11	36	169	接合資料	LCS - 1 4		V - 1, V - 2		5.0	黒曜石4	
				1	搔器	LCS - 4		V - 2	245	40.1	黒曜石4	
				2	剥片	LCS - 1	S - 144	V - 2	13	0.9	黒曜石4	
				3	剥片	LCS - 1	T - 145	V - 1		4.1	黒曜石4	
VI - 63	94	11	37	170	接合資料	LCS - 1 3		V - 2, VI, VII		25.6	黒曜石4	
				1	剥片	LCS - 1	T - 145	V - 2		1.0	黒曜石4	1036
						LCS - 1	T - 145	VI	13	0.4	黒曜石4	
				2	削器	LCS - 3		VII	346	24.2	黒曜石4	
VI - 65	95	2	18	171	接合資料	LCS - 2		V - 1, V - 2, VI		22.7	黒曜石4	
				1	二次加工ある剥片	LCS - 2		VI	447	1.3	黒曜石4	1024
						LCS - 2		V - 1	6	2.9	黒曜石4	
				2	剥片	LCS - 2		V - 2	175	2.3	黒曜石4	
				3	剥片	LCS - 2	K - 146	V - 2	2	16.2	黒曜石4	

表VI - 11 掲載旧石器接合資料一覧(4)

挿図	図版	母岩No	接合No	掲載No	器種等	ブロック名	発掘区ほか	層位	遺物番号	重量 (g)	石質	折接合No
VI - 65	95	2	19 接合点数 3点	172	接合資料	LCS - 2		V - 1, V - 2		11.3	黒曜石 4	
				1	剥片	LCS - 2		V - 2	344	4.5	黒曜石 4	
				2	剥片	LCS - 2		V - 2	82	6.8	黒曜石 4	
				3	剥片	LCS - 2		V - 1	11	3.0	黒曜石 4	
VI - 66	95	12	27 接合点数 5点	173	接合資料	LCS - 1, ブロック外		V - 1, V - 2		49.9	黒曜石 4	
				1	剥片	LCS - 1 ブロック外	R - 144 S - 144	V - 2 V - 2	2	1.5 1.8	黒曜石 4 黒曜石 4	1022
				2	剥片	ブロック外	S - 145	V - 1		1.9	黒曜石 4	
				3	剥片	LCS - 1	R - 142	V - 2	2	35.0	黒曜石 4	1072
					剥片	LCS - 1	S - 144	V - 2	41	9.7	黒曜石 4	
VI - 66	95	12	34 接合点数 3点	174	接合資料	LCS - 1				30.8	黒曜石 4	
				1	彫器削片	LCS - 1	S - 144	V - 2	15	0.5	黒曜石 4	
				2	彫器削片	LCS - 1	R - 144	V - 2	9	0.7	黒曜石 4	
				3	彫器	LCS - 1	S - 145	V - 2	8	29.6	黒曜石 4	
VI - 68	96	18	32 接合点数 8点	175	接合資料	LCS - 1		V - 1, V - 2, VII		469.4	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2	30	32.1	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 143	V - 2		9.6	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 144	V - 2	1	7.3	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	VII	121	2.5	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 143	V - 1		2.7	泥岩	
					剥片	LCS - 1	T - 144	V - 2		2.6	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 144	V - 2		8.6	泥岩	
					石核	LCS - 1	U - 146	VII	1	404.0	泥岩	
VI - 68	96	19	33 接合点数 13点	176	接合資料	LCS - 1		V - 2, VI, VII		370.7	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2		12.5	泥岩	
					剥片	LCS - 1	R - 144	VI	37	26.8	泥岩	
					剥片	LCS - 1	U - 146	VII	2	67.5	泥岩	
					剥片	LCS - 1	T - 146	VII	5	8.0	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	VI	40	7.7	泥岩	
					剥片	LCS - 1	R - 144	VI	39	75.7	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2	20	14.5	泥岩	
					剥片	LCS - 1	T - 145	V - 2		21.2	泥岩	
					剥片	LCS - 1	T - 146	V - 2		56.2	泥岩	
					剥片	LCS - 1	R - 143	V - 2		20.2	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 144	V - 2		18.9	泥岩	
					剥片	LCS - 1	S - 145	V - 2	35	33.7	泥岩	
					剥片	LCS - 1	T - 145	VII	40	7.8	泥岩	
VI - 69	96	20	38 接合点数 4点	177	接合資料	LCS - 4		V - 2, VI, VII		68.4	頁岩	
				1	剥片	LCS - 4		V - 2	384	9.2	頁岩	1018
				2	剥片	LCS - 4		VI	260	12.9	頁岩	
				3	石核	LCS - 4		VII	441	7.6	頁岩	
							V - 2	126	38.7	頁岩		

Ⅶ 自然科学的手法による分析・鑑定

VII 自然科学的手法による分析・鑑定

1 . 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ*

1 . はじめに

オリイカ 2 遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

2 . 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表 VII - 1・3・5 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1 5SDH) を用いて測定した。得られた¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

3 . 結果

表 VII - 2・4・6 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C 年代、¹⁴C 年代を暦年代に較正した年代を、図 VII - 2 ~ 5 に暦年代較正結果をそれぞれ示す。

¹⁴C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C 年代 (yrBP) の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した¹⁴C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C 年代がその¹⁴C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。

なお、暦年代較正の詳細は以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された¹⁴C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C 濃度の変動、及び半減期の違い (¹⁴C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正することである。

¹⁴C 年代の暦年代較正には OxCal 3.9 を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された¹⁴C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4 . 考察

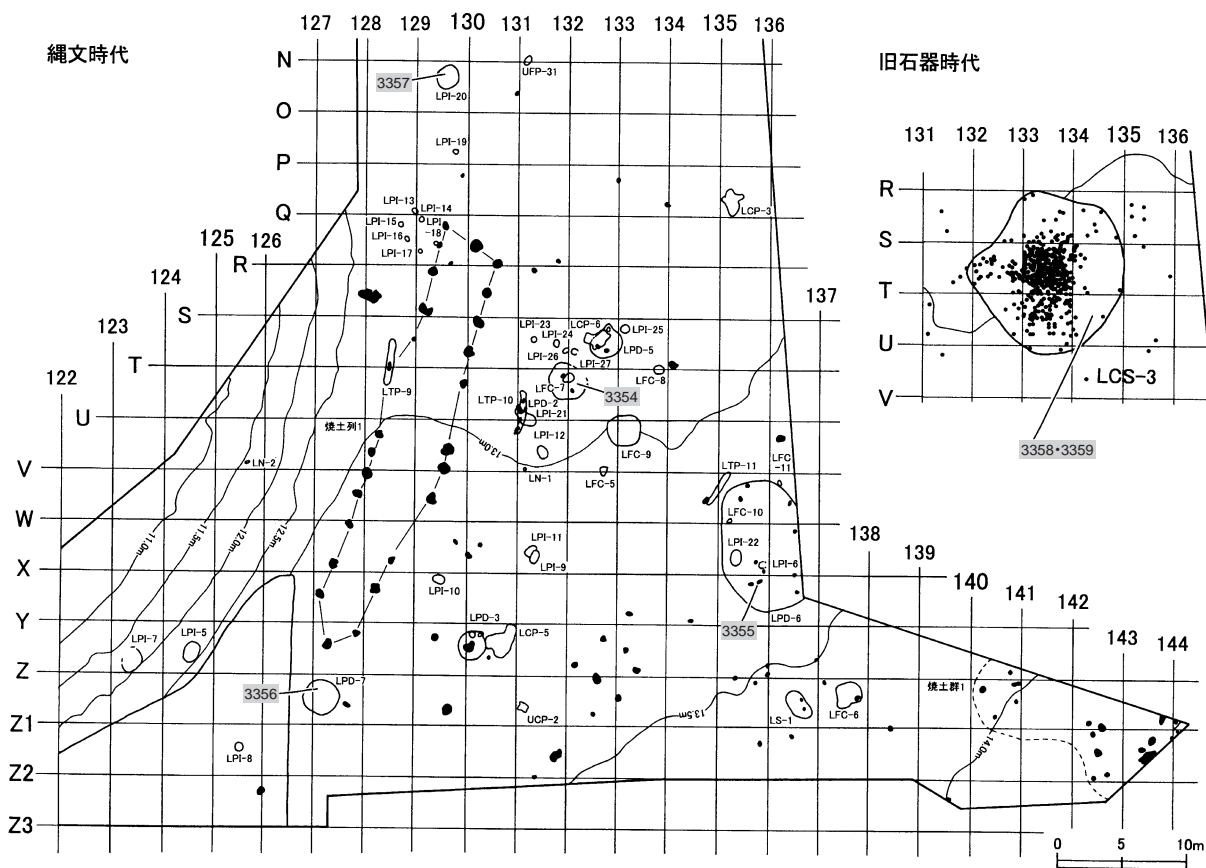
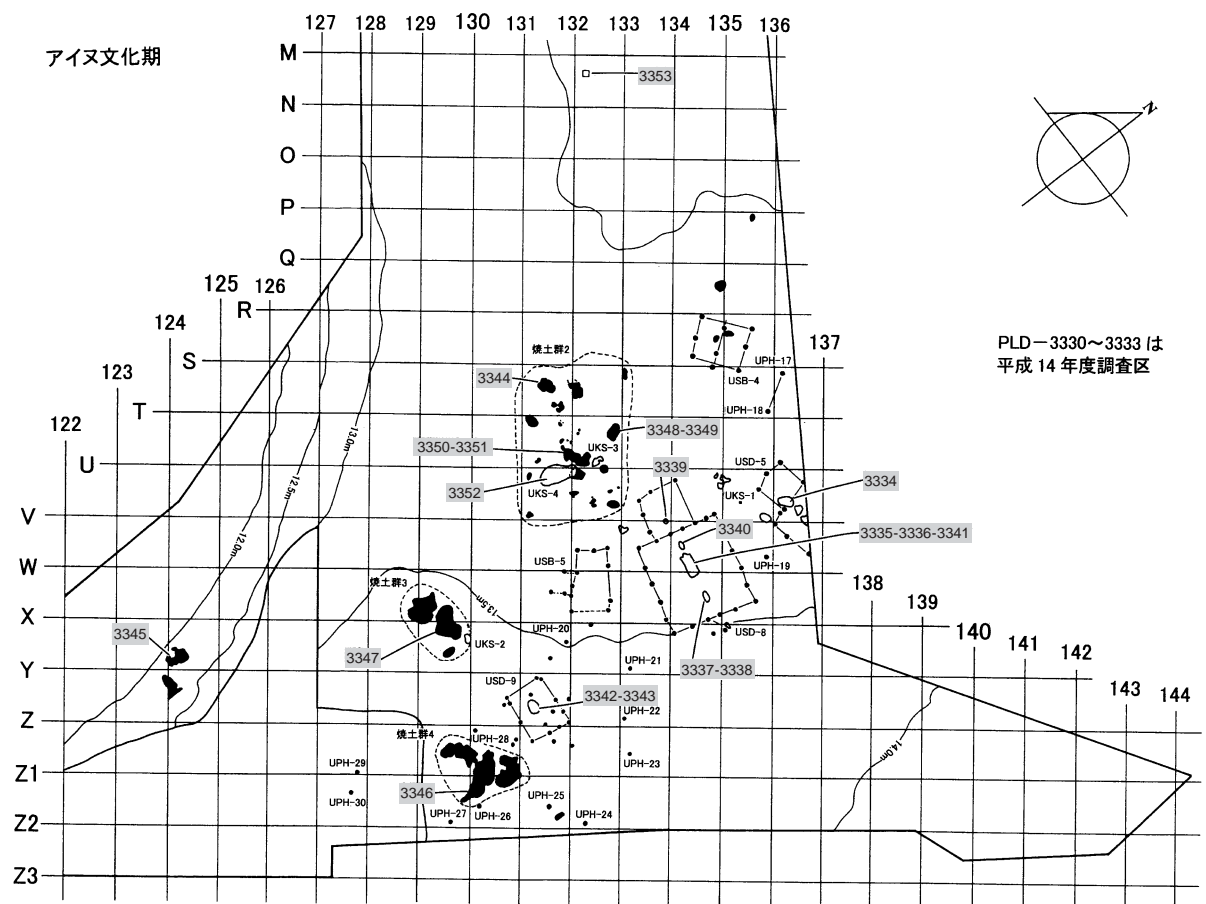
試料について、同位体分別効果の補正及び暦年代較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

* パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

参考文献

- ・中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の¹⁴C年代、p 3 - 20
- ・Stuiver M., P.J. Reimer, E. Bard, J.W. Beck, G.S. Burr, K.A. Hughen, B. Kromer, G. McCormac, J. van der Plicht and M. Spurk 1998 INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration 24000 - 0 cal BP *Radiocarbon* 40 (3) 1041 - 1083
- ・Bronk Ramsey C .1995Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy : The OxCal Program *Radiocarbon* 37(2) 425 - 430
- ・Bronk Ramsey C . 2001 ,Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 2A 355 - 363



図Ⅶ-1 年代測定試料採取位置

表Ⅶ - 1 測定試料および処理(1)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD - 3330	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 1 - fp 1 層位：灰+黒 その他：ORK 2 - 8	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3331	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 4 - fp 1 層位：灰 その他：ORK 2 - 9	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3332	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 7 - fp 1 層位：灰 その他：ORK 2 - 10	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3333	北海道 オリイカ2遺跡 地点：FP - 6 層位：灰+焼土 その他：ORK 2 - 11	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3334	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 5 - fp 4 層位：上面 その他：ORK 2 - 12	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3335	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 1 層位：上面 その他：ORK 2 - 13	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3336	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 1 層位：灰 その他：ORK 2 - 14	試料の種類：炭化物・種子 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3337	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 2 層位：上面 その他：ORK 2 - 15	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3338	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 2 層位：焼土下 その他：ORK 2 - 16	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3339	北海道 オリイカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 3 層位：上面 その他：ORK 2 - 17	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH

表VII - 2 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果(1)

測定番号	年代値 (yrBP ± 1σ : 同位体補正無)	δ ¹³ C (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP ± 1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD - 3330	310 ± 25	- 24.1	325 ± 25	1510AD (56.0%) 1600AD、 1620AD (12.2%) 1640AD	1480AD (95.4%) 1650AD
PLD - 3331	270 ± 25	- 25.0	270 ± 25	1520AD (20.5%) 1550AD、 1630AD (47.7%) 1670AD	1520AD (36.9%) 1600AD、 1620AD (54.1%) 1670AD、 1780AD (4.4%) 1800AD
PLD - 3332	315 ± 25	- 26.2	295 ± 25	1520AD (48.6%) 1580AD、 1620AD (19.6%) 1650AD	1490AD (95.4%) 1660AD
PLD - 3333	270 ± 25	- 27.5	230 ± 25	1640AD (40.5%) 1670AD、 1780AD (27.7%) 1800AD	1630AD (49.4%) 1680AD、 1740AD (38.8%) 1810AD、 1930AD (7.2%) 1950AD
PLD - 3334	315 ± 25	- 30.0	230 ± 25	1640AD (41.2%) 1670AD、 1780AD (27.0%) 1800AD	1630AD (50.5%) 1680AD、 1740AD (38.0%) 1810AD、 1930AD (6.9%) 1950AD
PLD - 3335	370 ± 25	- 27.8	350 ± 25	1480AD (25.5%) 1530AD、 1560AD (42.7%) 1630AD	1470AD (95.4%) 1640AD
PLD - 3336	- 120 ± 30	- 8.4	150 ± 30	1670AD (11.2%) 1700AD、 1720AD (29.4%) 1780AD、 1800AD (6.7%) 1820AD、 1840AD (7.4%) 1880AD、 1910AD (13.5%) 1950AD	1660AD (78.1%) 1890AD、 1910AD (17.3%) 1960AD
PLD - 3337	365 ± 30	- 25.7	355 ± 30	1480AD (28.3%) 1530AD、 1560AD (39.9%) 1630AD	1450AD (95.4%) 1640AD
PLD - 3338	295 ± 30	- 28.3	240 ± 30	1640AD (47.5%) 1670AD、 1780AD (20.7%) 1800AD	1520AD (5.9%) 1560AD、 1630AD (54.9%) 1680AD、 1740AD (29.5%) 1810AD、 1930AD (5.1%) 1950AD
PLD - 3339	375 ± 30	- 30.4	285 ± 30	1520AD (41.7%) 1570AD、 1620AD (26.5%) 1660AD	1490AD (95.4%) 1670AD

表Ⅶ - 3 測定試料および処理(2)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD - 3340	北海道 オリカ2遺跡 地点：USD 8 - fp 4 層位：焼土 その他：ORK 2 - 18	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3341	北海道 オリカ2遺跡 地点：USD 8 - ph24 層位：覆土 その他：ORK 2 - 19	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：樹皮 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N) 処理時の知見： with many sand	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3342	北海道 オリカ2遺跡 地点：USD 9 - fp 1 層位：上面 その他：ORK 2 - 20	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3343	北海道 オリカ2遺跡 地点：USD 9 - fp 1 層位：F + B その他：ORK 2 - 21	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3344	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 3 層位：F 1 その他：ORK 2 - 22	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N) 処理時の知見： from the beginning charcoal - dust	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3345	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 4 層位：灰 その他：ORK 2 - 23	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3346	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 7 層位：A 2 その他：ORK 2 - 24	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3347	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 9 層位：F + A その他：ORK 2 - 25	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3348	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 33 層位：上面 その他：ORK 2 - 26	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH
PLD - 3349	北海道 オリカ2遺跡 地点：UFP - 33 層位：底面 その他：ORK 2 - 27	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC 製 コン パクト AMS ・1 5SDH

表VII - 4 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果(2)

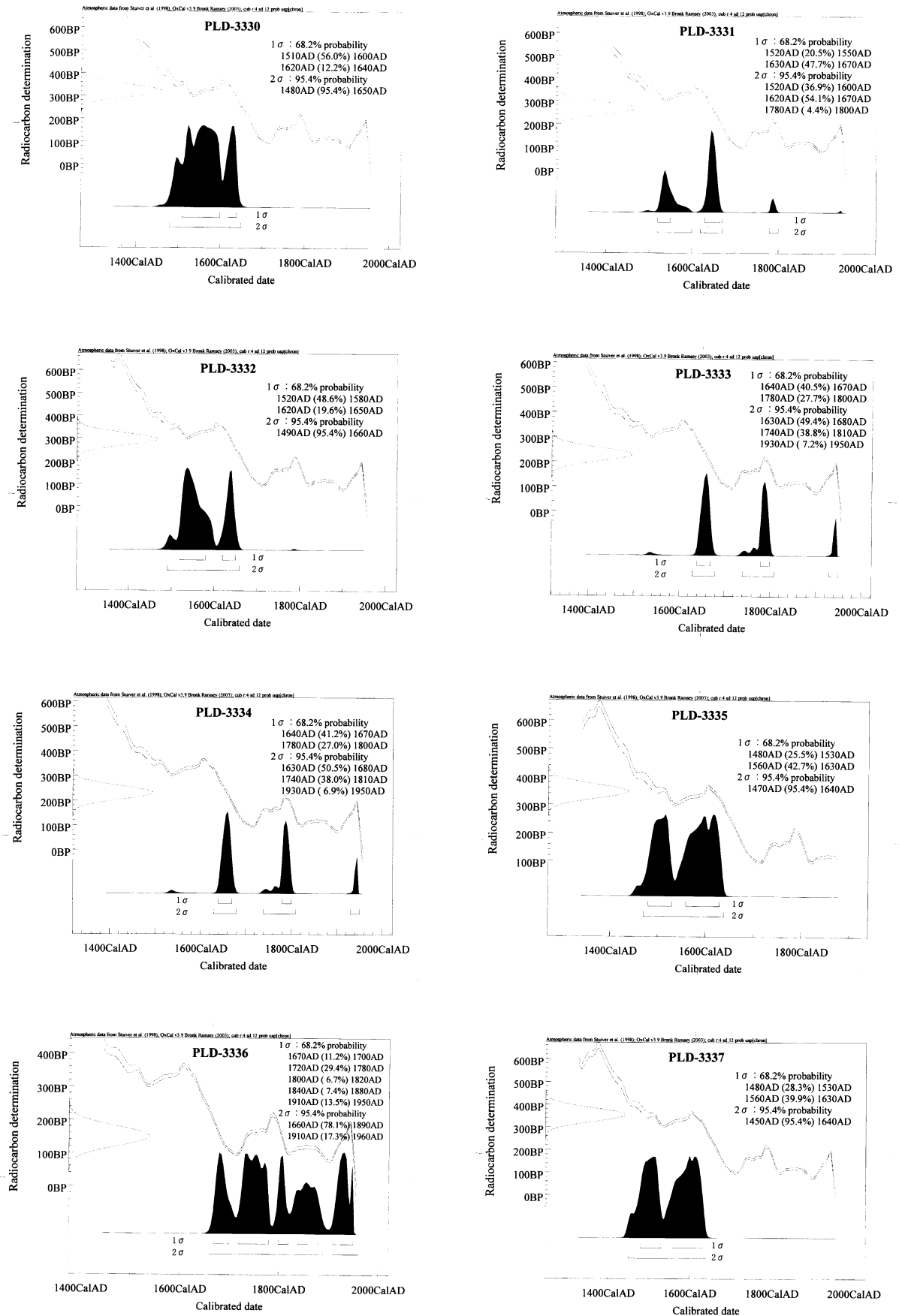
測定番号	年代値 (yrBP ± 1σ : 同位体補正無)	δ ¹³ C (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP ± 1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD - 3340	330 ± 30	- 26.4	310 ± 30	<u>1520AD (54.9%) 1600AD、</u> <u>1620AD (13.3%) 1650AD</u>	<u>1480AD (95.4%) 1650AD</u>
PLD - 3341	325 ± 30	- 30.1	240 ± 30	<u>1640AD (47.5%) 1670AD、</u> <u>1780AD (20.7%) 1800AD</u>	<u>1520AD (5.9%) 1560AD、</u> <u>1630AD (54.9%) 1680AD、</u> <u>1740AD (29.5%) 1810AD、</u> <u>1930AD (5.1%) 1950AD</u>
PLD - 3342	335 ± 30	- 28.6	265 ± 35	<u>1520AD (23.6%) 1560AD、</u> <u>1630AD (40.6%) 1670AD、</u> <u>1780AD (4.0%) 1800AD</u>	<u>1490AD (39.4%) 1600AD、</u> <u>1610AD (46.3%) 1680AD、</u> <u>1770AD (8.5%) 1810AD、</u> <u>1930AD (1.2%) 1950AD</u>
PLD - 3343	380 ± 30	- 26.3	360 ± 30	<u>1470AD (32.3%) 1530AD、</u> <u>1570AD (35.9%) 1630AD</u>	<u>1450AD (44.9%) 1530AD、</u> <u>1540AD (50.5%) 1640AD</u>
PLD - 3344	205 ± 30	- 25.7	190 ± 30	<u>1660AD (14.1%) 1680AD、</u> <u>1740AD (45.2%) 1810AD、</u> <u>1930AD (8.9%) 1950AD</u>	<u>1640AD (22.2%) 1700AD、</u> <u>1720AD (57.6%) 1820AD、</u> <u>1910AD (15.7%) 1960AD</u>
PLD - 3345	335 ± 30	- 24.9	335 ± 30	<u>1490AD (21.7%) 1530AD、</u> <u>1550AD (46.5%) 1640AD</u>	<u>1470AD (95.4%) 1640AD</u>
PLD - 3346	310 ± 30	- 26.0	295 ± 30	<u>1520AD (46.4%) 1580AD、</u> <u>1620AD (21.8%) 1660AD</u>	<u>1490AD (95.4%) 1660AD</u>
PLD - 3347	255 ± 30	- 27.0	225 ± 35	<u>1640AD (33.4%) 1680AD、</u> <u>1770AD (28.7%) 1810AD、</u> <u>1930AD (6.2%) 1950AD</u>	<u>1630AD (40.0%) 1690AD、</u> <u>1730AD (45.5%) 1810AD、</u> <u>1920AD (9.9%) 1950AD</u>
PLD - 3348	335 ± 30	- 25.6	325 ± 30	<u>1510AD (54.1%) 1600AD、</u> <u>1610AD (14.1%) 1640AD</u>	<u>1480AD (95.4%) 1650AD</u>
PLD - 3349	255 ± 30	- 28.5	200 ± 30	<u>1650AD (19.1%) 1680AD、</u> <u>1760AD (39.7%) 1810AD、</u> <u>1930AD (9.5%) 1950AD</u>	<u>1640AD (25.4%) 1690AD、</u> <u>1730AD (56.1%) 1810AD、</u> <u>1920AD (13.9%) 1950AD</u>

表Ⅶ - 5 測定試料および処理(3)

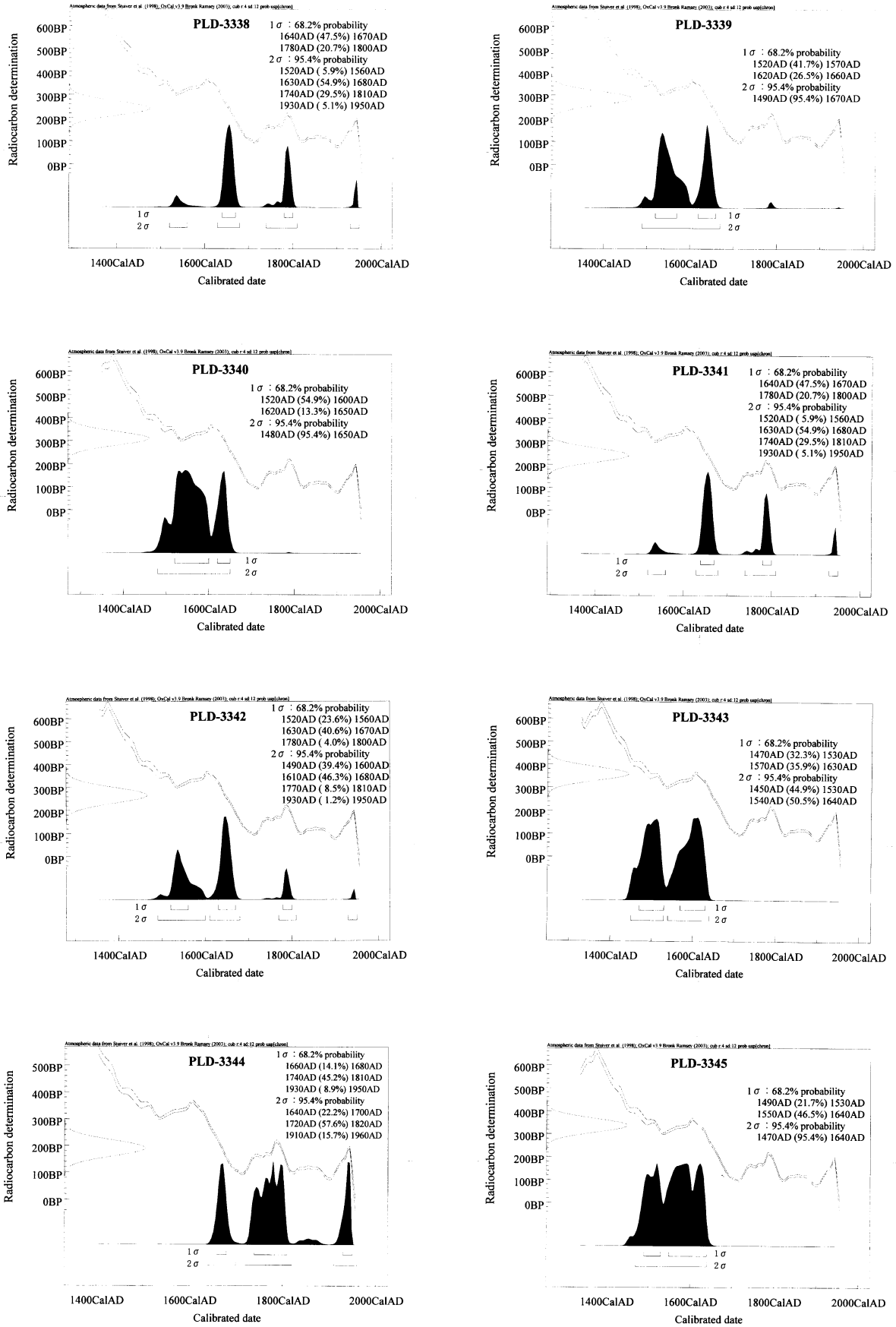
測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD - 3350	北海道 オルイカ2遺跡 地点：UFP - 34 層位：A + B その他：ORK2 - 28	試料の種類：堅果 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3351	北海道 オルイカ2遺跡 地点：UFP - 34 層位：A4層 その他：ORK2 - 29	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3352	北海道 オルイカ2遺跡 地点：UKS - 4 層位：III層 その他：ORK2 - 30	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3353	北海道 オルイカ2遺跡 地点：M - 132区 層位：III層上面 その他：ORK2 - 31	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3354	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LPD - 2 層位：床面 その他：ORK2 - 32	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N) 処理時の知見： from the beginning many sand and soil and very few	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3355	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LPD6 - fp9 層位：焼土 その他：ORK2 - 33	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3356	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LPD - 7 層位：覆土2 その他：ORK2 - 34	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3357	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LPI - 20 層位：覆土 その他：ORK2 - 35	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3358	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LCS - 3 層位：VII層 その他：ORK2 - 36	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH
PLD - 3359	北海道 オルイカ2遺跡 地点：LCS - 3 層位：VII層 その他：ORK2 - 37	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1 2N、水酸化ナトリウム1 N、 塩酸1 2N)	PaleoLabo : NEC製コン パクトAMS ・1 5SDH

表VII - 6 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果(3)

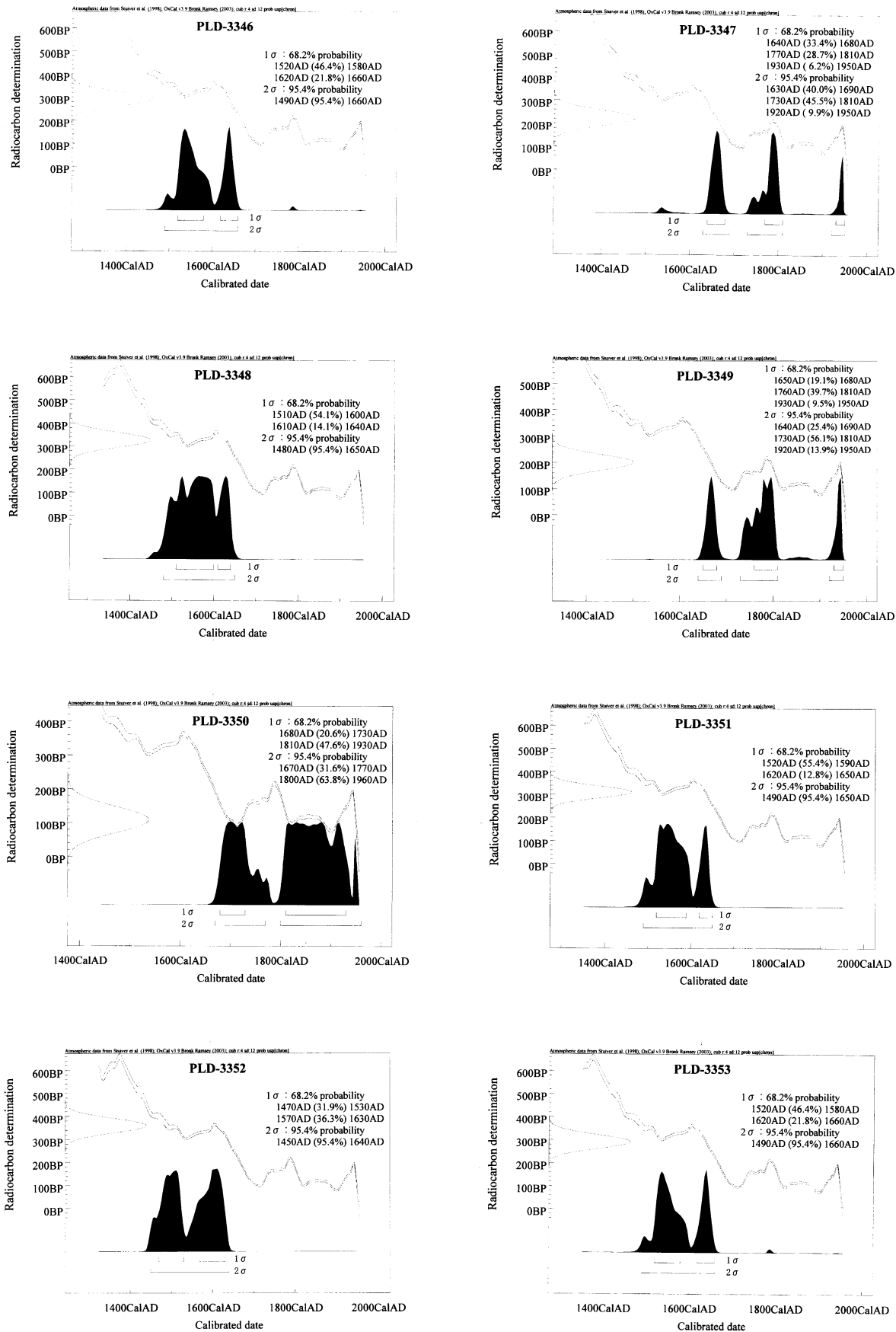
測定番号	年代値 (yrBP ± 1σ : 同位体補正無)	δ ¹³ C (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP ± 1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD - 3350	175 ± 35	- 28.5	110 ± 40	1680AD (20.6%) 1730AD、 1810AD (47.6%) 1930AD	1670AD (31.6%) 1770AD、 1800AD (63.8%) 1960AD
PLD - 3351	315 ± 25	- 25.1	310 ± 25	1520AD (55.4%) 1590AD、 1620AD (12.8%) 1650AD	1490AD (95.4%) 1650AD
PLD - 3352	390 ± 30	- 27.0	360 ± 30	1470AD (31.9%) 1530AD、 1570AD (36.3%) 1630AD	1450AD (95.4%) 1640AD
PLD - 3353	330 ± 30	- 27.1	295 ± 30	1520AD (46.4%) 1580AD、 1620AD (21.8%) 1660AD	1490AD (95.4%) 1660AD
PLD - 3354	4450 ± 40	- 27.1	4415 ± 40	3100BC (41.9%) 3010BC、 2990BC (26.3%) 2920BC	3330BC (14.3%) 3220BC、 3180BC (2.0%) 3150BC、 3120BC (79.0%) 2910BC
PLD - 3355	4280 ± 40	- 26.9	4250 ± 40	2910BC (45.7%) 2870BC、 2810BC (16.4%) 2780BC、 2770BC (3.4%) 2760BC、 2720BC (2.8%) 2710BC	2920BC (54.4%) 2850BC、 2820BC (41.0%) 2690BC
PLD - 3356	4145 ± 35	- 25.1	4145 ± 35	2870BC (13.4%) 2830BC、 2820BC (5.0%) 2800BC、 2780BC (2.2%) 2770BC、 2760BC (37.0%) 2660BC、 2650BC (10.6%) 2620BC	2880BC (95.4%) 2580BC
PLD - 3357	6265 ± 40	- 27.3	6225 ± 40	5290BC (31.3%) 5200BC、 5180BC (18.4%) 5140BC、 5130BC (18.6%) 5070BC	5300BC (95.4%) 5050BC
PLD - 3358	14690 ± 70	- 24.9	14690 ± 70	15900BC (68.2%) 15350BC	16200BC (95.4%) 15100BC
PLD - 3359	12740 ± 60	- 25.4	12740 ± 60	13700BC (33.7%) 13200BC、 12900BC (34.5%) 12400BC	13800BC (95.4%) 12400BC



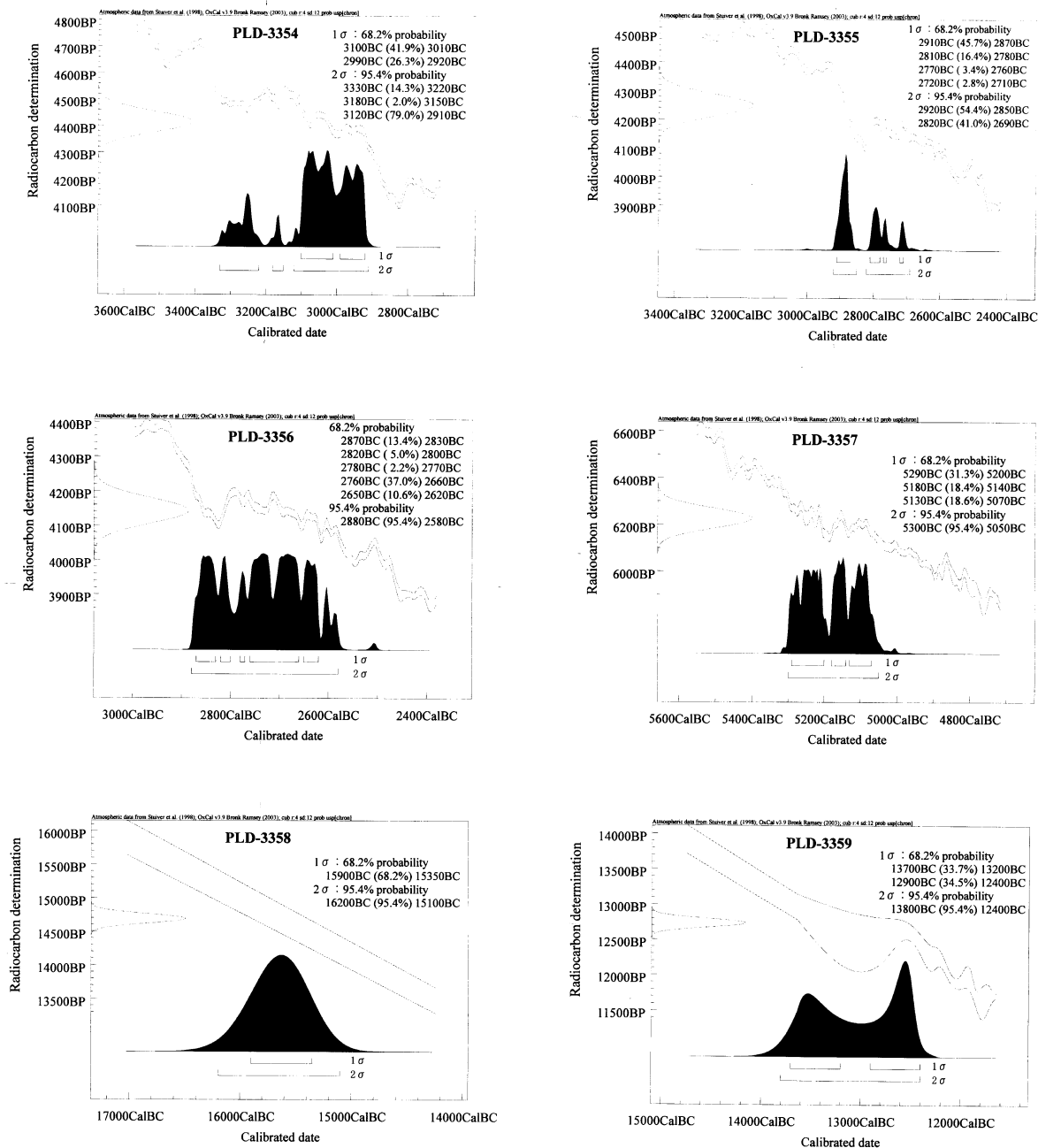
図Ⅶ-2 暦年代較正結果(1)



図Ⅶ - 3 暦年代較正結果(2)



図VII-4 暦年代較正結果(3)



図Ⅶ - 5 暦年代較正結果(4)

表Ⅶ - 7 年代測定結果の参考表 (編者作成)

測定番号	測定試料		暦年代に較正した年代範囲 (1σ)		備考
	遺構	層位	17世紀にかかる範囲	最も確率密度の高い範囲	
PLD - 3330	USD 1 - fp 1	灰 + 黒	1620AD (12.2%) 1640AD	1510AD (56.0%) 1600AD	
PLD - 3331	USD 4 - fp 1	灰	1630AD (47.7%) 1670AD	同左	
PLD - 3332	USD 7 - fp 1	灰	1620AD (19.6%) 1650AD	1520AD (48.6%) 1580AD	
PLD - 3333	FP - 6	灰 + 焼土	1640AD (40.5%) 1670AD	同左	
PLD - 3334	USD 5 - fp 4	上面	1640AD (41.2%) 1670AD	同左	
PLD - 3335	USD 8 - fp 1	上面	1560AD (42.7%) 1630AD	同左	
PLD - 3336	USD 8 - fp 1	灰	1670AD (11.2%) 1700AD	1720AD (29.4%) 1780AD	種子
PLD - 3337	USD 8 - fp 2	上面	1560AD (39.9%) 1630AD	同左	
PLD - 3338	USD 8 - fp 2	焼土下	1640AD (47.5%) 1670AD	同左	
PLD - 3339	USD 8 - fp 3	上面	1620AD (26.5%) 1660AD	1520AD (41.7%) 1570AD	
PLD - 3340	USD 8 - fp 4	焼土	1620AD (13.3%) 1650AD	1520AD (54.9%) 1600AD	
PLD - 3341	USD 8 - ph24	覆土	1640AD (47.5%) 1670AD	同左	
PLD - 3342	USD 9 - fp 1	上面	1630AD (40.6%) 1670AD	同左	
PLD - 3343	USD 9 - fp 1	F + B	1570AD (35.9%) 1630AD	同左	
PLD - 3344	UFP - 3	F 1	1660AD (14.1%) 1680AD	1740AD (45.2%) 1810AD	
PLD - 3345	UFP - 4	灰	1550AD (46.5%) 1640AD	同左	
PLD - 3346	UFP - 7	A 2 層	1620AD (21.8%) 1660AD	1520AD (46.4%) 1580AD	
PLD - 3347	UFP - 9	F + A	1640AD (33.4%) 1680AD	同左	
PLD - 3348	UFP - 33	上面	1610AD (14.1%) 1640AD	1510AD (54.1%) 1600AD	
PLD - 3349	UFP - 33	底面	1650AD (19.1%) 1680AD	1760AD (39.7%) 1810AD	
PLD - 3350	UFP - 34	A + B	1680AD (20.6%) 1730AD	1810AD (47.6%) 1930AD	堅果
PLD - 3351	UFP - 34	A 4 層	1620AD (12.8%) 1650AD	1520AD (55.4%) 1590AD	
PLD - 3352	UKS - 4	Ⅲ層	1570AD (36.3%) 1630AD	同左	

註：この表は放射性炭素年代測定結果を受けて、アイヌ文化期の試料の年代測定結果について、以下の点から編者（阿部）が抽出作成したものである。

年代測定の結果から、1σの範囲内ですべての試料において17世紀を含む範囲にピークの一部があり、最も測定結果の集中する年代範囲であることがわかった。また発掘調査において各遺構・層位間で大幅な時間差を示す状況は明瞭には確認できなかった。そこで17世紀にかかる範囲を抽出し、同時に最も確率の高いとされた年代範囲も併記することで、個々のデータの検討を行いやすくしようとしたものである。

2. 千歳市オリカ 2 遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、出土した炭化材11点の樹種同定結果を報告する。炭化材は、アイヌ文化期の住居4 試料、焼土2 試料、Ⅲ層上面1 試料、縄文時代の竪穴住居2 試料、旧石器時代の旧石器ブロック2 試料である。

当遺跡は標高12~15mの馬追丘陵裾部の平坦部で、約300m先にオリカ川が西流する地点に立地する。旧石器時代からアイヌ文化期に至る遺構が検出されたことから、この地が人間活動の場として好適地であったことが伺える。各遺構から出土した炭化材の樹種を明らかにし資料化することは、各時代の人々が暮らしの中で利用してきた樹木を知り、その樹種構成から当時の森林環境を知る基礎資料ともなる。

2. 試料と方法

同定は、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を片刃の剃刀で弾くように割り、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子^(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、財団法人北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を、表Ⅶ-8に示した。

アイヌ文化期の炭化材樹種

平地住居跡4 試料からは、それぞれ異なる落葉広葉樹の材が検出され、サクラ属・アサダ・トネリコ属・ブドウ科であった。サクラ属・アサダ・トネリコ属は、有用材で建築材への利用も知られている樹種であり、炭化材破片は建築材の一部とも考えられる。ブドウ科は直径1.7cmの丸木材で、中心部は偏在していた。ブドウ科は蔓性であることから、住居構築材を縛り固定するのに利用されていた可能性が類推される。しかし、縛る用材としては直径がやや太いようでもあり、枝・幹材の中心部にある髓が潰れていたか無いようでもあり、根材である可能性がある。従ってブドウ科は、住居壁に這って繁茂していたか、住居周辺部に生育していたことも想定される。

焼土2 試料からは、クリ・モクレン属・トネリコ属・コナラ節が検出された。

建築材か燃料材か住居地に生育していたものか、特定できない炭化材もあるが、全体的には複数の落葉広葉樹の材を利用して住居生活が営まれていた事が判った。特に優占的に利用されていた樹種は見られなかった。

Ⅲ層上面

この1 試料1 点は、落葉広葉樹のキハダであった。

縄文時代

竪穴住居2件(LPD - 7とLPD - 20)2試料は、LPD - 7からはコナラ節、LPD - 20からはトネリコ属が検出された。この2分類群も、建築材として有用であり、また多様な利用が知られている樹種であった。

旧石器時代

旧石器ブロックLCS - 3の2試料は冷温帯～亜寒帯に分布する針葉樹であり、試料オ2 - 15はトウヒ属と特定できたが、試料オ2 - 16はトウヒ属またはカラマツ属であった。いずれの炭化材も、年輪幅は0.5mm以下で非常に年輪幅は狭く、肥大成長が遅い材であった。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) トウヒ属 *Picea* マツ科 図版1 1a - 1c(オ2 - 15)

主な軸方向要素は仮道管の針葉樹材である。早材から晩材への移行は急で、晩材部の量は少ない。垂直樹脂道は不明、水平樹脂道は確認された。放射断面において、小型でトウヒ型またはヒノキ型の分野壁孔が1分野に3～6個ある。放射仮道管が認められ、有縁壁孔対や壁内には細かく複雑な突起状の肥厚がある。仮道管や放射仮道管にらせん肥厚は無い。

トウヒ属は、温帯～亜寒帯に分布する常緑高木針葉樹で、トウヒ・ハリモミ・アカエゾマツなど約5種が属する。現在道内に分布しているのは、アカエゾマツとエゾマツである。

(2) トウヒ属 *Picea* またはカラマツ属 *Larix* マツ科 図版1 2a - 2c(オ2 - 16)

主な軸方向要素は仮道管の針葉樹材である。横断面において垂直樹脂道が認められるが、接線断面は保存が悪い事もあり水平樹脂道は不明である。放射断面の保存も悪く、分野壁孔の特徴は観察できなかった。ただし、一部で放射柔細胞の壁に数珠状肥厚が見られた。放射仮道管は不明、仮道管にらせん肥厚は無い。

垂直樹脂道があること、分野壁孔の形態は不明であるがマツ属とは異なり放射柔細胞壁に数珠状肥厚があることから、トウヒ属またはカラマツ属と思われる。この2属は、放射仮道管の有縁壁孔の形態により、平滑なものが多いカラマツ属と、突起状肥厚が多いトウヒ属に識別される。しかし、この試料は放射仮道管が不明瞭であり、分類群は特定できなかった。

(3) アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 図版1 3a - 3c(オ2 - 8)

小型の管孔が単独または2～数個が複合して分布し、年輪界では径を減じる散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～2細胞幅、道管との壁孔は交互状である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木で材質は堅く丈夫である。

(4) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版2 4a - 4c(オ2 - 11)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、その後は薄壁・角形で極めて小型の管孔が火炎状・放射状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロ - スが発達している。放射組織はほぼ同性、単列のものと大型の広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は堅く丈夫である。

(5) クリ *Castanea-crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 5a - 5c(オ2 - 10)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、その後は非常に小型から極めて小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロ - スが発達している。放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は狂いは少なく粘りがあり耐朽性・耐水性にすぐれている。

(6) モクレン属 *Magnolia* モクレン属 図版2 6a - 6c (オ2 - 11)

小型の管孔が単独または2～数個が複合して分布する散孔材である。道管の壁孔は階段状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、1～2細胞幅、道管との壁孔は交互状である。

モクレン属は暖帯～温帯に分布する落葉高木または小高木である。北海道以南の山地にはホオノキとコブシが生育する。材組織は類似性が高く、材から種を識別出来ない。

(7) サクラ属 *Prunus* バラ科 図版2 7a - 7c (オ2 - 6)

小型の管孔が放射状・接線状・斜状に複合し分布している散孔材である。非常に小さな破片であり、年輪界は不明である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはうねり走行するらせん肥厚がある。放射組織は異性、主に3～5細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の山地に生育する落葉高木で、多くの種がある。材は粘り気があり強く、保存性も高い。

(8) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 図版3 8a - 8c (オ2 - 12)

年輪の始めに非常に大型の管孔が1～3層配列し、孔圏外では多数の小型の管孔が放射状や塊状に複合し、年輪界では接線状・雲状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にらせん肥厚がある。放射組織は同性、主に3細胞幅、整った紡錘形、細胞高も15細胞高前後でほぼ同じ高さである。

キハダは北海道以南の温帯の山地に生育する落葉高木である。材質はやや軽軟であるが耐水性は広葉樹材の中ではクリに次いで高い。

(9) ブドウ科 *Vitaceae* ブドウ科 図版3 9a - 9c (オ2 - 7)

年輪の始めに非常に大型の管孔が1層配列し、その大型管孔の間や晩材部には孔口の大きさが不揃いな小型から非常に小型の管孔が単独や接線状・塊状に複合して分布している環孔材である。道管の壁孔は交互状、一部で階段状への移行が見られ、穿孔は単穿孔、小型の道管配列には層階性が見られる。放射組織は潰れており不明瞭であるが、主に2～5細胞幅、細胞高は極めて高く、道管との壁孔は交互状である。

横断面の中心部に潰れているのか円形の髄は無く、中心部分は偏在していた。道管も非常に大きいことから、根材の可能性もある。

ブドウ科で道内に現在分布する主な木本の種は、ブドウ属のヤマブドウとツタ属のツタである。材は潰れて圧縮しており、放射組織や晩材部の管孔配列の詳細が不明瞭なこともあり、分類群は特定できなかった。

(10) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版4 10a - 10c (オ2 - 9)

大型の管孔が1～2層配列し、単独または複合した2個の小型で厚壁の管孔が散在する環孔材である。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、1～2細胞幅である。オ2 - 14は、年輪始めの管孔は中型で、やや間隔を空けて配列している。

トネリコ属は温帯に生育する落葉高木で現在道内には、ヤチダモ・マルバアオダモがある。材組織は類似性が高く、種類は特定できない。

4. 考察

アイヌ文化期の住居跡炭化材からは落葉広葉樹のサクラ属・アサダ・トネリコ属・ブドウ科・クリ・モクレン属・コナラ節が検出され、縄文時代の竪穴住居からはコナラ節・トネリコ属が検出された。今回の調査では、アイヌ文化期と縄文時代では共に、多くの落葉広葉樹を利用していた様子を伺い知る事ができた。また検討試料数が少ないので断定はできないが、この2時期で、樹種利用に明瞭な違いはみられなかった。山田(1993)の集成においても、道内のアイヌ文化期や縄文時代の住居跡炭化材からは、複数種類の主に落葉広葉樹が検出されている。今回の調査でも、同様な傾向が確認されたと言える。トネリコ属は、道内では多用される主要樹種であり、当遺跡でもアイヌ文化期と縄文時代から共に検出された。

本州の中部以北では、縄文時代の住居址出土炭化材はクリが主体である。北海道では、クリの自然分布は西南部に限定されることも要因であるが、クリは少なく優占出土することは無い。北海道のクリ材の利用度は、本州の中部以北とは明瞭に異なる。当遺跡においてもクリは、アイヌ文化期から1点だけ検出されたが、縄文時代から検出されなかった。

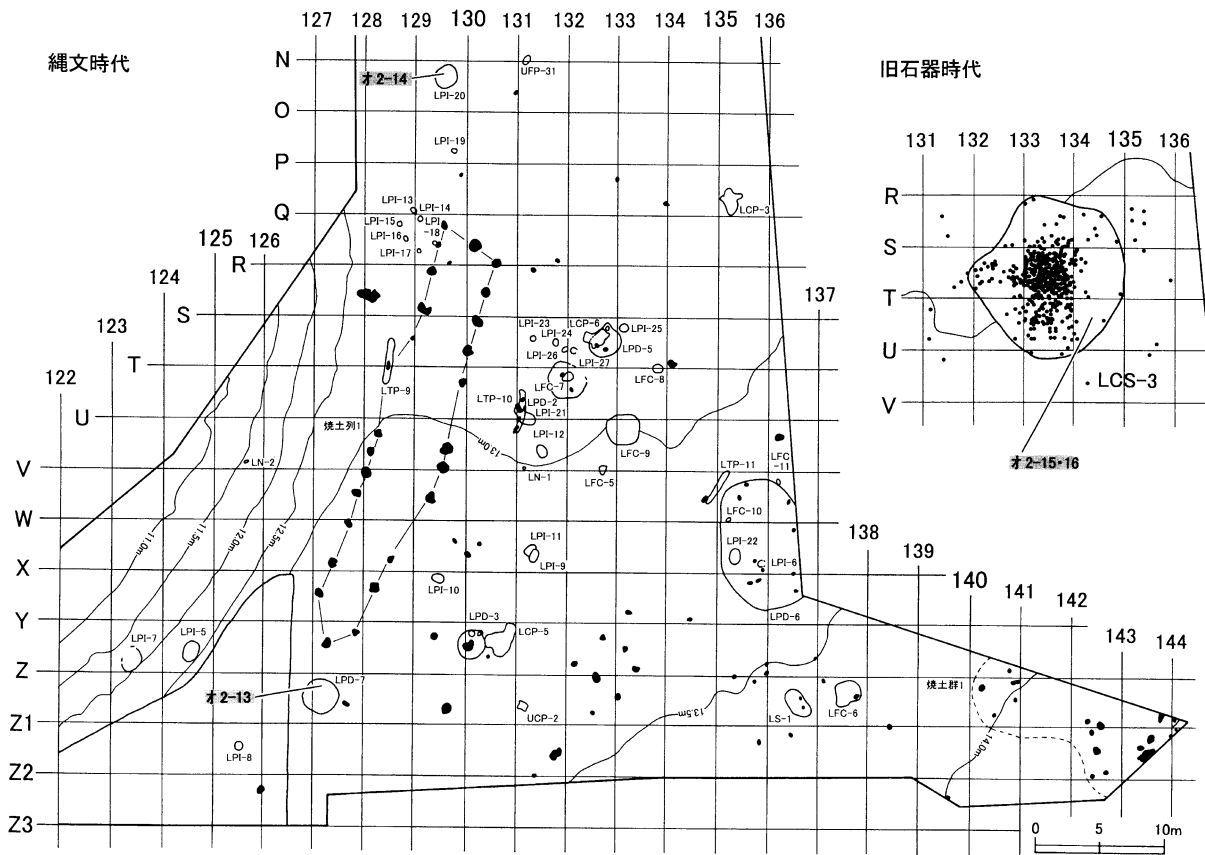
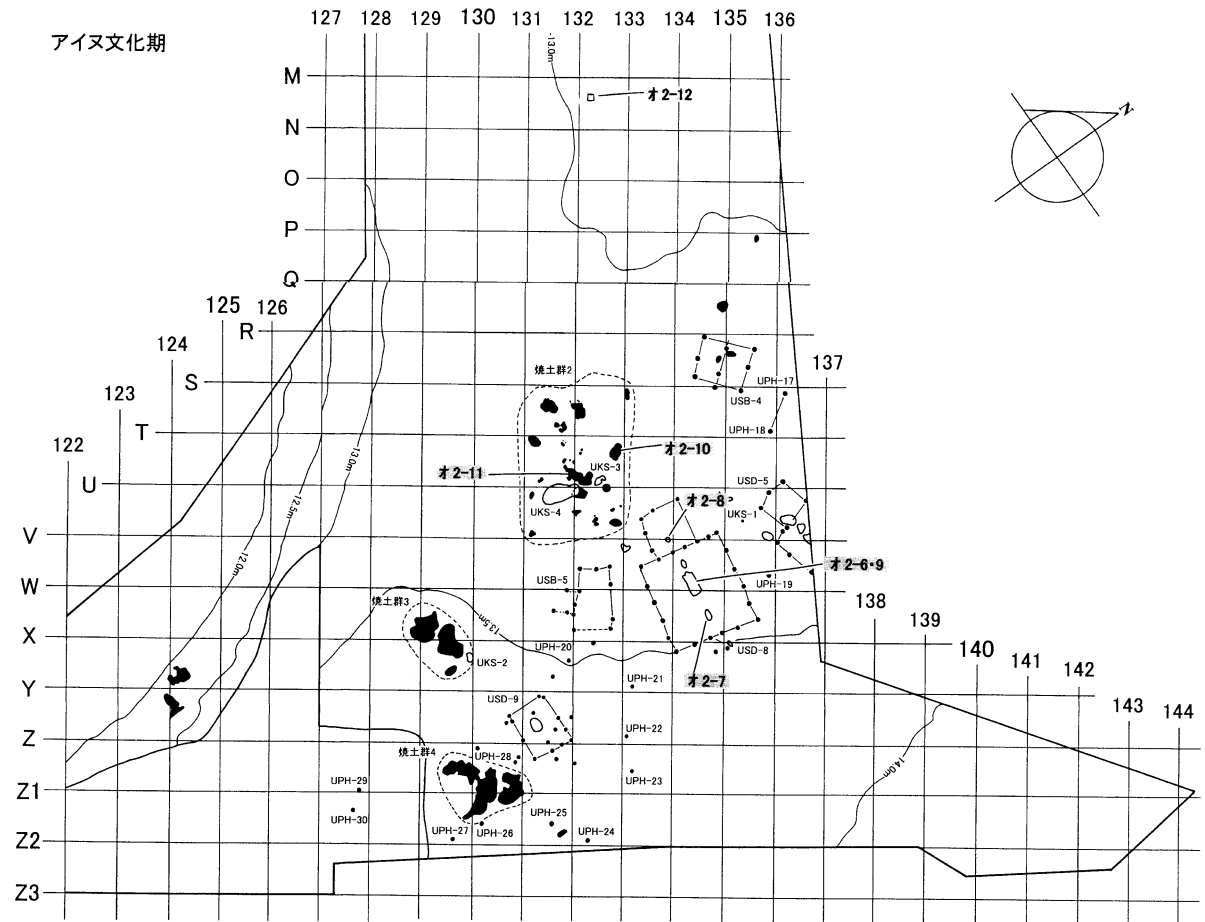
現在とは気候が冷涼で大きく環境が異なる旧石器時代の炭化材2試料は、主に冷温帯～亜寒帯に多く分布する針葉樹のトウヒ属と、トウヒ属またはカラマツ属であった。いずれの炭化材も、年輪幅は0.5mm以下で非常に狭く、気候が冷涼で1年間の肥大成長速度が遅かったことの現れと思われる。

引用文献

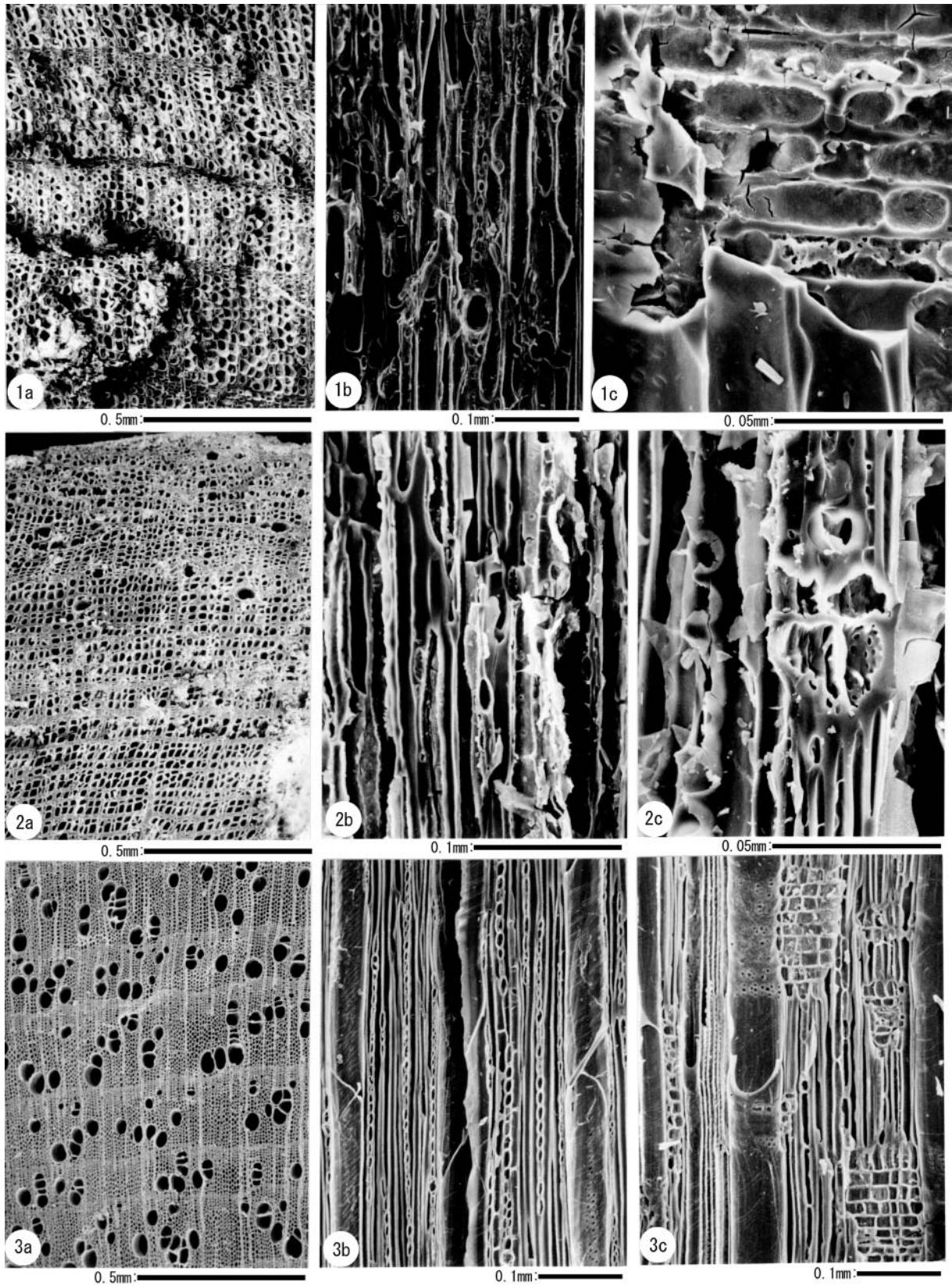
山田昌久1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史 1 - 242 植生史研究 特別第1号。

表Ⅶ-8 オルレイカ2遺跡出土炭化材樹種同定結果

試料番号	試料の種類	採取遺構 / (発掘区)		層位	樹種	備考	時期
オ2-6	炭化材	USD 8 - fp 1	平地住居跡炉	上面	サクラ属		アイヌ文化期
オ2-7	炭化材	USD 8 - fp 2	平地住居跡炉	焼土下	ブドウ科	φ1.7cm芯持ち丸木	アイヌ文化期
オ2-8	炭化材	USD 8 - fp 3	平地住居跡	上面	アサダ		アイヌ文化期
オ2-9	炭化材	USD 8 - ph38	平地住居跡柱穴	覆土	トネリコ属		アイヌ文化期
オ2-10	炭化材	UFP - 33	焼土(灰集中)	F+B層	クリ		アイヌ文化期
オ2-11	炭化材	UFP - 34	焼土(灰集中)	灰層	モクレン属		アイヌ文化期
					トネリコ属		
					コナラ節		
オ2-12	炭化材	(M - 132区)		Ⅲ層上面	キハダ		アイヌ文化期
オ2-13	炭化材	LPD - 7	竪穴住居跡	覆土2層	コナラ節	No82	縄文時代
オ2-14	炭化材	LPD - 20	竪穴住居跡	覆土	トネリコ属	No 4、φ1.3cm芯持ち丸木	縄文時代
オ2-15	炭化材	LCS - 3	旧石器ブロック	(Ⅶ層)	トウヒ属	No651	旧石器時代
オ2-16	炭化材	LCS - 3	旧石器ブロック	(Ⅶ層)	トウヒ属またはカラマツ属		旧石器時代

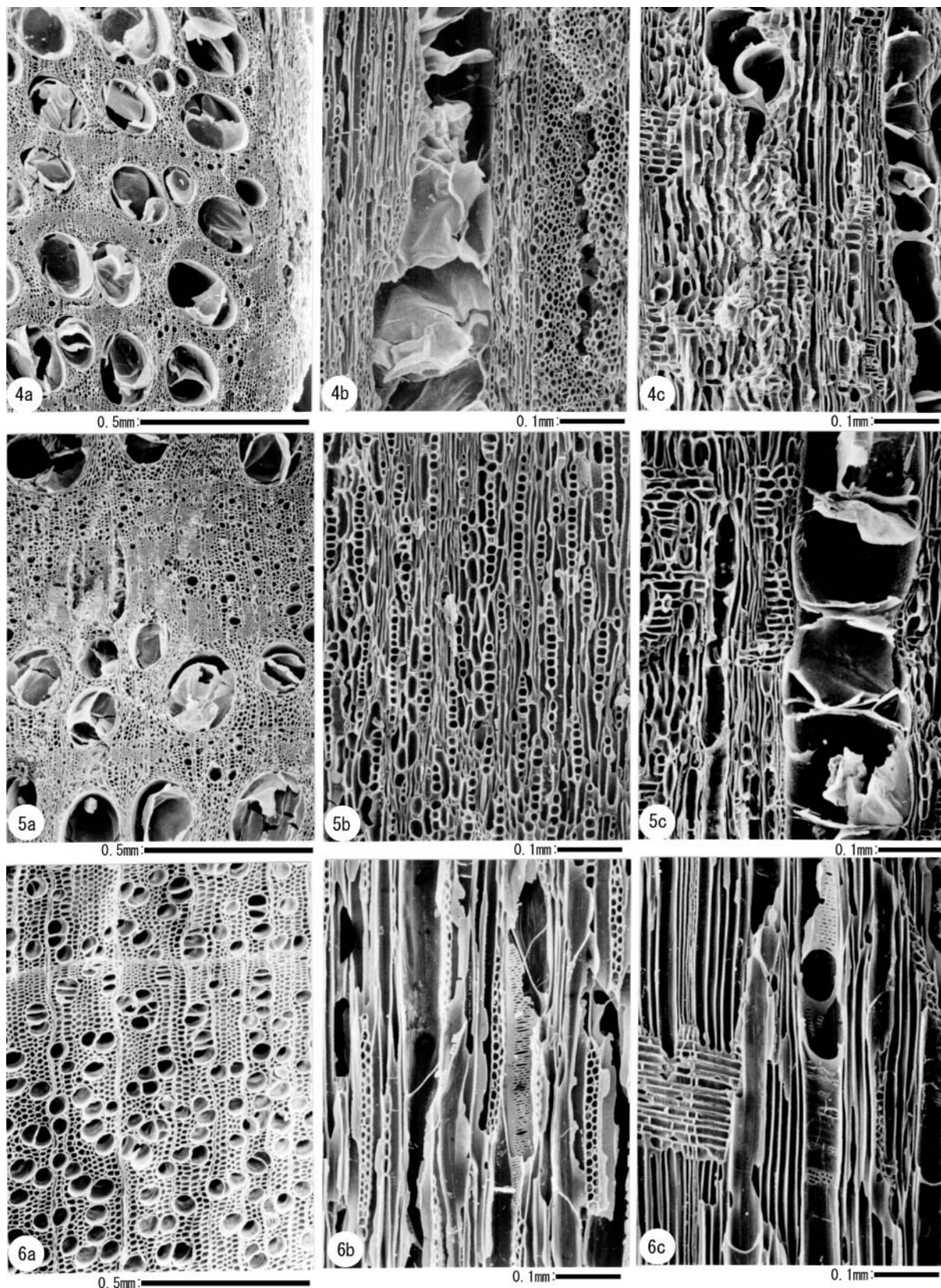


図Ⅶ - 6 炭化材樹種同定試料採取地点



図版1 千歳市オルイカ2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(1)

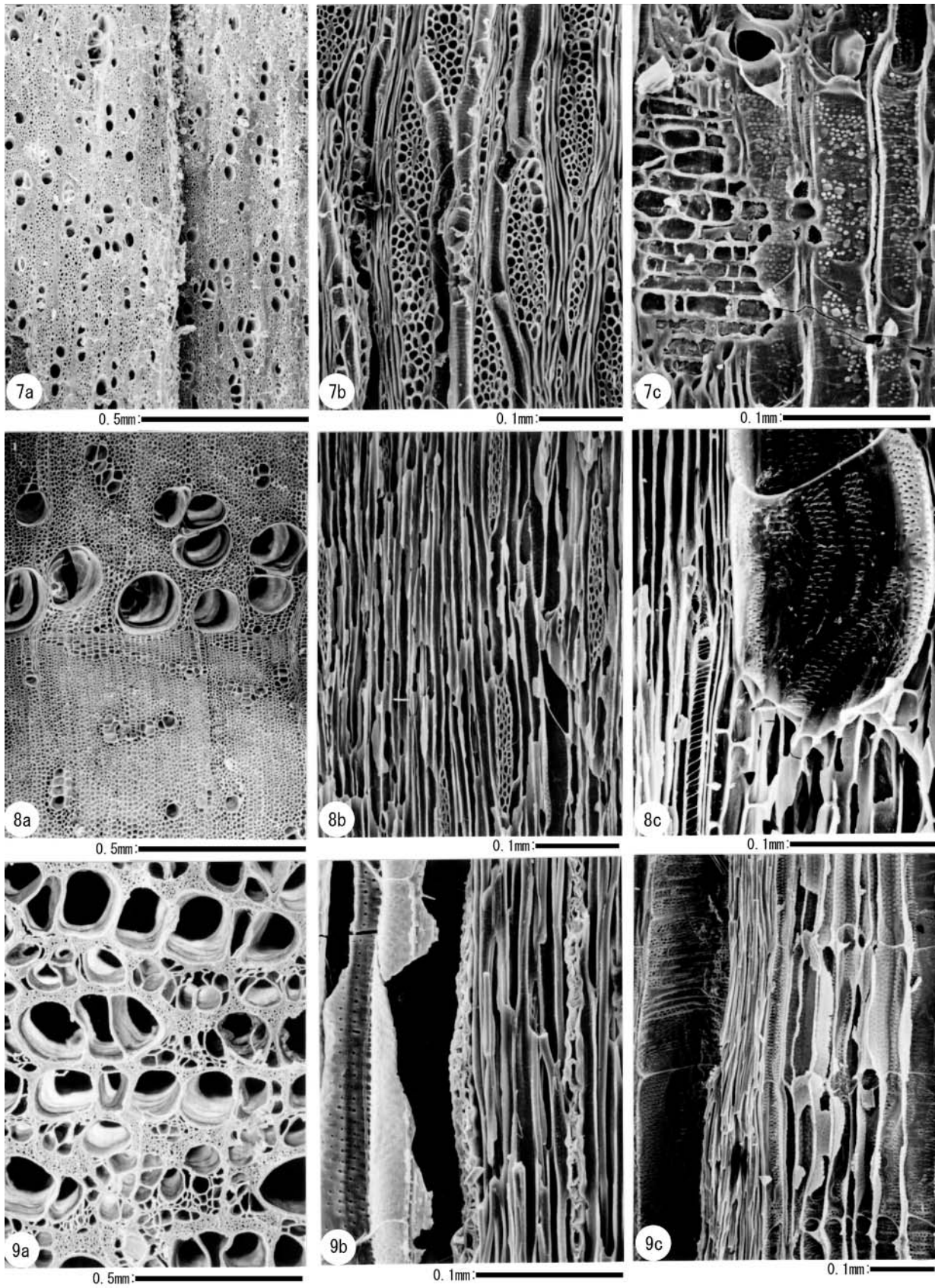
1a - 1c: トウヒ属 (オ2 - 15) 2a - 2c: トウヒ属またはカラマツ属 (オ2 - 16) 3a - 3c: アサダ (オ2 - 8)
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版2 千歳市オリイカ2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(2)

4a - 4c: コナラ節(オ2 - 11) 5a - 5c: クリ(オ2 - 10) 6a - 6c: モクレン属(オ2 - 11)

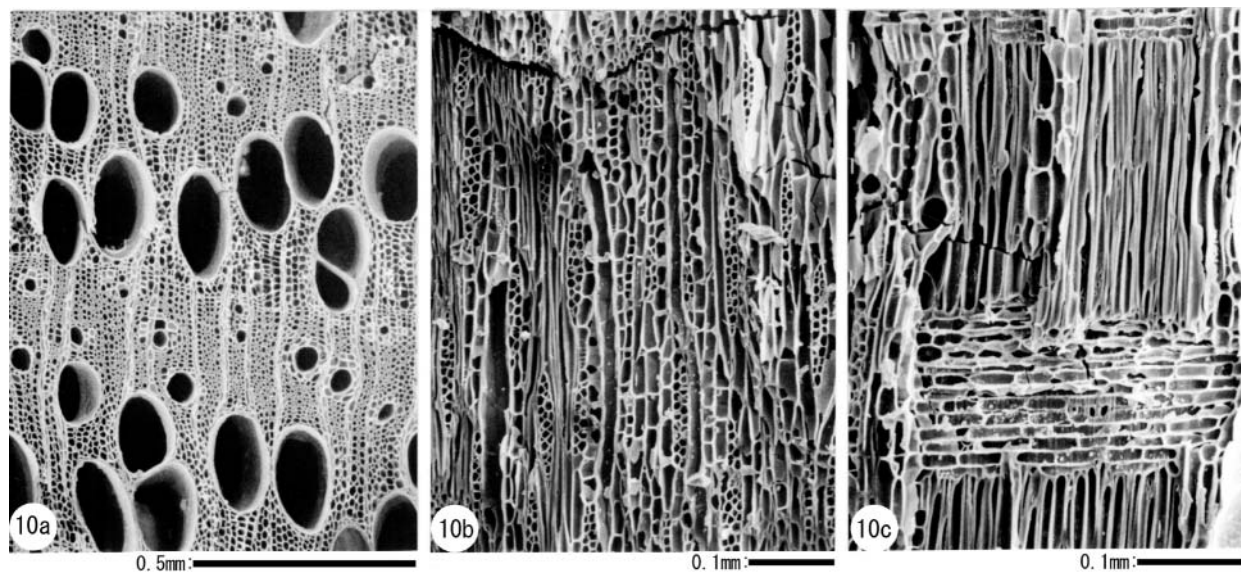
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版3 千歳市オルイカ2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(3)

7a - 7c: サクラ属 (オ2 - 6) 8a - 8c: キハダ (オ2 - 12) 9a - 9c: ブドウ科 (オ2 - 7)

a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版4 千歳市オルイカ2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(4)

10a - 10c : トネリコ属 (オ2 - 9)

a : 横断面 b : 接線断面 c : 放射断面

3. オルイカ2遺跡から出土した炭化植物種子

よしざきまさかず つばさかやすよ
吉崎昌一*・椿坂恭代**

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：オルイカ2遺跡 (A - 03 - 280)

遺跡の所在：北海道千歳市中央2536ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査面積：5,500m²

調査担当者：阿部明義・広田良成ほか

調査期間：平成16年(2004年)5月6日～10月31日

遺跡の立地：オルイカ2遺跡は千歳市街から北東に約6km、標高12～15mの馬追丘陵裾部にある。

年代と検出遺構：旧石器時代の石器集中4カ所

縄文時代の竪穴住居跡7軒、土坑27基、焼土217カ所、Tピット11基

アイヌ文化期の平地住居跡9軒、建物跡5棟、灰送り場、杭列

これらの詳細については本文を参照されたい。また、本分析に関連ある資料の年代測定が実施されているので、Ⅶ章1を参照のこと。

2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、アイヌ文化期の平地住居跡、灰送り場遺構の焼土群、カワシンジュ貝集中などから土壌が採取され、フローテーション法で処理された後、回収された植物遺体の中から第一次選別された種子が送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡で観察ならびに撮影を行った。検出された植物種子の出土表は表Ⅶ-9～11に示しておいた。

3) アイヌ文化期の遺構から検出された種子

イネ *Oryza sativa* L. (図版1-1a: USD 8 - FP 1から出土。2a、3a: UFP - 34から出土。4: UFP - 2から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4、USD 8 - fp 1) からと灰送り場の焼土群 2 (UFP - 2、UFP - 34、UKS - 4) の遺構から合わせて12粒出土。UFP - 2の遺構から酸化状態で籾の破片が1片出土した以外はすべて玄米の状態出土。玄米は長楕円形で腹面の下端に胚がみられる。側面にはやや隆起した縦稜線がある。資料は被熱による変形が著しい。その中には3aに示すように未熟の種子も混じる。計測値は1a:長さ4.10mm、幅2.45mm、厚さ1.50mm 2a:長さ4.20mm、幅2.55mm、厚さ1.90mm 3a:長さ3.80mm、幅1.80mm、厚さ1.20mm。4:破片のため計測していない。

アワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv. (図版1-5a、6a、7a: USD 8 - fp 1から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4・USD 8 - fp 1、2、4・USD 9 - fp 1) 建物跡4範囲内の焼土 (UFP - 16、17) 灰送り場の焼土群 2 (UFP - 11、24、33、34・UKS - 3、4) 焼土群 3 (UFP - 14) 焼土群 4 (UFP - 8) その他の焼土 (UFP - 4、5、16、18) から合わせて325粒出土。穎果はやや球形。背面には果長の2/3ほどの胚があり、その反対側の腹面には、小さなへら型のヘソがある (1993 椿坂)。出土資料は、5a、6aに示すように内・外穎の付着した状態で出土しているものが

ほとんどであった。中には内穎・外穎が取れた状態のものも少量混じる(資料7a)。計測値は5a:長さ1.50mm、幅1.40mm、厚さ1.20mm 6a:長さ1.80mm、幅1.50mm、厚さ1.25mm 7a:長さ1.20mm、幅1.10mm、厚さ0.90mm

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1 - 8a、9a、12a:UFP - 34から出土。10a、11a:USD 8 - fp 1から出土)

平地住居跡(USD 5 - fp 3、4・USD 8 - fp 1、3、4、35・USD 9 - fp 1)、建物跡4範囲内の焼土(UFP - 16) 灰送り場の焼土群2(UFP - 2、3、10、11、13、24、33、34・UKS - 3、4) 焼土群3(UFP - 9、14) 焼土群4(UFP - 6、7、8) その他の焼土(UFP - 1、4、5、18)から合計1,678粒出土。穎果は広楕円形。背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはヘラ形状のヘソがある(1993 椿坂)。穎果の胴部はふくらみ、粒形が大きくなる。つまり栽培型のヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno の形態を示す。出土資料の大部分は穎果(内・外穎のとれた状態)で出土している(8a、11a、12a)。中には写真9a、10aに示した穎の残存して出土したものも混在していた。被熱による変形が著しいためまとまった計測値を取ることができなかった。計測値は8a:長さ2.00mm、幅1.70mm、厚さ1.00mm 9a:長さ2.50mm、幅1.90mm、厚さ1.00mm 10a:長さ2.75mm、幅1.90mm、厚さ1.10 11a:長さ1.90mm、幅1.55mm、厚さ0.80mm 12a:長さ1.50mm、幅1.15mm、厚さ0.80mm

アサ *Cannabis sativa* L. (図版2 - 13:USD 5 - fp 4から出土)

平地住居跡(USD 5 - fp 4)から合計5粒と14片出土。種子は広楕円形。腹面に縦に2条の稜角がある。種皮の表面は被熱により斑状の模様ができる。アサは、純粹に栽培したものか、集落や耕地周辺に半野生状態にあったのかの判断はつかない。しかし、アサの若葉や種子は食用になるし、油脂植物としても利用され、繊維植物としてもよく知られている。計測値は長さ3.80mm、幅3.10mm、厚さ2.80mm

シソ属 *Perilla* L. (図版2 - 14a:UFP - 33から出土)

灰送り場の焼土群2(UFP - 25、33)から酸化した状態で2粒出土。種子は扁平球形で種子の表面に大きな網目状の模様がある。出土資料の種子表面の網目状の模様は被熱で大部分は焼け消えていたが、わずかに組織が観察出来た。これがエゴマ *Perilla frutescens* var. *japonica* かシソ *Perilla frutescens* var. *japonica* のいずれであるかは、両者とも形態と表皮の構造が類似している部分が多く、保存が良好でないと分類は困難である。計測値は長さ2.05mm、幅1.40mm、厚さ1.20mm。

ササ属 *Sasa* Makino et Shibata (図版2 - 15a:UFP - 6から出土)

灰送り場の焼土群2(UFP - 3、13、33) 焼土群3(UFP - 9) 焼土群4(UFP - 6)から合計5粒出土。果実は狭卵形でやや扁平で先端は細く尖っている。背面はわずかに曲線をなし、果実下部に半円形の小さな胚がある。腹面はよく湾曲する。これらの特徴はササ属 *Sasa* Makino et Shibata の種子と判断される。計測値は長さ4.25mm、幅1.90mm、厚さ1.70mm

エノコログサ属 *Setaria* Beauv. (図版2 - 16a:USD 8 - fp 3から出土)

平地住居跡(USD 5 - fp 3)からと灰送り場の焼土群4(UFP - 7)から酸化した状態で2粒出土。穎果は卵形で先が尖る。その内・外穎は革質で表面には乳頭状の突起が波状に並ぶ。これらの特徴から

エノコログサ *Setaria viridis* P. Beauv. と判断される。計測値は長さ2.40mm、幅1.25mm、厚さ0.75mm

イネ科 GRAMINEAE (図版2 - 17a: USD 8 - fp 3 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 2、3、4) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 34) から合計5粒出土。種子は広線形で背面には小さな胚があり、腹面には細い縦溝がある。これらの特徴からイネ科と判断される。しかし、イネ科種子は形態の類似するものが多いため詳細な分類は出来なかった。計測値は長さ6.30mm、幅1.70mm、厚さ1.30mm

アカザ属 *Chenopodium* L. (図版2 - 18: USD 8 - fp 1 から出土)

平地住居跡 (USD 8 - fp 1、2、3・USD 9 - fp 1、2) 建物跡4範囲内の焼土 (UFP - 16、17) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 3、13、19、20、21、23、24、25、26、27、33、34・UKS - 3、4) 焼土群3 (UFP - 9、14) 焼土群4 (UFP - 6、7、8) からすべて酸化した状態で出土。種子は扁平球形。側面には嘴状に突出したヘソがある (資料の左上)。北海道にはアカザ *Chenopodium album* var. *centrorubrum* Makino とシロザ *Chenopodium album* L. が分布しているが種子の形態からは種までの分類は不可能である。計測値は長さ1.20mm、幅1.05mm、厚さ0.55mm。

タデ科 POLYGONACEAE (図版2 - 19: USD 8 - fp 1 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4・USD 8 - fp 1) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 23、34) その他の焼土 (UFP - 1) から出土。瘦果は三角状紡錘形で稜は鋭くギシギシ属 *Rumex* L. の特徴を示す。これらの特徴を持つ種子にはスイバ *Rumex acetosa* L. があるが詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.30mm、幅1.40mm

カヤツリグサ科 CYPERACEAE (図版2 - 20: USD 8 - fp 1 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 3、4・USD 8 - fp 1、2、3、4・USD 9 - fp 1) 建物跡4範囲内の焼土 (UFP - 16) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 2、3、12、19、20、21、22、24、25、26、27、29、33、34・UKS - 3、4) 焼土群3 (UFP - 9) 焼土群4 (UFP - 7) その他の焼土 (UFP - 4、18) からすべて酸化した状態で出土。種子は楕円状三稜形。カヤツリグサ科の種子は類似する形態が多く詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.80mm、幅1.10mm

ホタルイ属 *Scirpus* L. (図版2 - 21: USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 3、4・USD 8 - fp 1) から出土。種子は広楕円形でフトイ *Scirpus tabernaemontani* Gmel. の形態に似る。ホタルイ属の種子は形態の類似するものが多いので詳細な分類は困難である。計測値は長さ2.00mm、幅1.10mm、厚さ0.60mm

ケシ科 PAPAVERACEAE (図版2 - 22a: USD 5 - fp 3 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 3) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 13) 焼土群3 (UFP - 14) 焼土群4 (UFP - 7、8) その他の焼土 (UFP - 1) から出土。種子は狭倒卵形で基部のほうに細くなる。背面は内側に湾曲する。種皮表面には網目模様があり、ケシ属 *Papaver* L. の特徴を示すが、形態と表面模様の類似したものが多いので、詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.65mm、幅1.00mm、厚さ0.80mm

ヒシ属 *Trapa* L. (図版2 - 23 : USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4 ・ USD 8 - fp 1) から出土。出土資料は子葉の破片と資料23に示した長刺の一部分が混在していた。破片のため計測はしていない。

ニワトコ属 *Sambucus* L. (図版2 - 24a : USD 8 - fp 1 から出土)

各平地住居跡と灰送り場の各焼土群から酸化した状態で出土している。種子は狭楕円形。背面は円みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L. と判断される。ただし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S.buergeriana* var. *miquelii* (Nakai) Hara が分布するという。計測値は長さ2 .10mm、幅1 20 mm、厚さ0 .70mm

タラノキ属 *Aralia* L. (図版2 - 25 : USD 8 - fp 1 から出土)

各平地住居跡と灰送り場の各焼土群からすべて酸化した状態で出土している。種子は半円形で左端には二本の縦溝があり、種皮は凹凸で粗面である。これらの特徴からタラノキ *Aralia elata* (Miq .) Seemann と判断される。計測値は長さ2 20mm、幅1 50mm、厚さ0 .70mm。

マタタビ属 *Actinidia* Lindl. (図版2 - 26 : USD 8 - fp 1 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4 ・ USD 8 - fp 1、 3 ・ USD 9 - fp 1)、建物跡4 範囲内の焼土 (UFP - 16) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 2、 3、 19、 2023、 25、 26、 27、 33、 34 ・ UKS - 3、 4)、焼土群3 (UFP - 9、 14)、焼土群4 (UFP - 6、 8)、その他の焼土 (UFP - 1、 4、 5、 17、 18、 28) から酸化した状態の種子と被熱された種子が混在する。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ *Actinidia polygama* Planch. et Maxim. とサルナシ *Actinidia arguta* Planch. があるが、両者の種子は形態と表面組織がきわめて良く似ている。しかし粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia arguta* Planch. と判断される。計測値は長さ2 40mm、幅1 20mm、厚さ1 .15mm

キイチゴ属 *Rubus* L. (図版2 - 27 : USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4) からと灰送り場の焼土群3 (UFP - 9)、その他の焼土 (UFP - 18) から酸化した状態の種子と被熱された種子が混在する。種子は半横広卵形。種子の全面に大きな網状の凹凸がある。しかし、キイチゴ属種子は形態と種子表面の構造の類似したものが多いため種までの分類は困難である。計測値は長さ1 95mm、幅1 30mm、厚さ0 90mm

ハリギリ属 *Kalopanax* Miq. (図版2 - 28a : UFP - 34から出土)

灰送り場の焼土群2 (UFP - 33、 34) から出土。種子の側面から見ると半広楕円形。ハリギリ *Kalopanax pictus* Nakai の形態を示す。計測値は長さ2 90mm、幅1 80mm、厚さ1 70mm

ウルシ属 *Rhus* L. (図版2 - 29 : USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 33、 34) から出土。種子は扁球形で背腹面の中央がそれぞれ凹み、^{まゆ} 繭状である。北海道ではこれらと類似した形態を持つ種子としてヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. 、ツタウルシ *Rhus ambigua* Lavallee ex Dippel、ヌルデ *Rhus*

javanica L. がある。形態の特徴からヌルデ *Rhus javanica* L. に似るが詳細な分類は困難である。計測値は長さ2.70mm、幅3.25mm、厚さ1.70mm

キハダ属 *Phellodendron* Rupr. (図版3 - 30a、31 : UFP - 3 から出土)

平地住居跡 (USD 8 - fp 3、4) からと灰送り場の焼土群 2 (UFP - 3、19、21、26、33、34・UKS - 3、4) 焼土群 3 (UFP - 9、14) 焼土群 4 (UFP - 8) その他の焼土 (UFP - 5) から出土。果実は球形で中に 5 の小核があり、各 1 個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断された。計測値は30a : 長さ6.50mm 31 : 長さ4.00mm、幅2.30mm、厚さ1.50mm

ブドウ科 VITIDACEAE (図版3 - 32a : UFP - 1 から出土)

平地住居跡 (USD 8 - fp 3・USD 9 - fp 1) からと灰送り場の焼土群 2 (UFP - 2、3、19、20、21、23、25、33、34・USK - 3) 焼土群 3 (UFP - 9、14) 焼土群 4 (UFP - 6、7) その他の焼土 (UFP - 1、4、17) から酸化した状態で出土。中には被熱された種子も少量混じる。堅果は広倒卵形、背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央は稜をなし、稜の両側に針形の凹みがある。北海道に分布するブドウ属にはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat とエビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata* があるが、後者は分布域が北海道の南部に限られているという。形態の特徴からはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat と判断される。計測値は長さ4.60mm、幅3.50mm

モクレン属 *Magnolia* L. (図版3 - 33a : UFP - 7 - f7 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4・USD 8 - fp 3) からと灰送り場の焼土群 2 (UFP - 10、11、33、34・USK - 4) 焼土群 3 (UFP - 9、14) 焼土群 4 (UFP - 7) から出土。種子は三角状円形。背面には浅く細い縦溝が一面にある。腹面の中央に深い縦溝がある。これらの特徴からホオノキ *Magnolia obovata* Thunberg. と判断される。計測値は長さ7.10mm、幅6.30mm

マツブサ属 *Schisandra* Michx. (図版3 - 34a : USD 8 - fp 1 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4・USD 8 - fp 1) からと灰送り場の焼土群 2 (UKS - 4) その他の焼土 (UFP - 4) から出土。種子は腎臓形。腹面の中央部にヘソがありその周辺は凹む。これらの特徴からチョウセンゴミシ *Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill. と判断される。計測値は長さ3.90mm、幅3.00mm、厚さ2.25mm

サクラ属 *Prunus* L. (図版3 - 35a : USD 8 - fp 4 から出土。36a、37a : UKS - 4 から出土)

35a、36a 資料 : 平地住居跡 (USD 5 - fp 3、4・USD - 9 fp 1) からと灰送り場の焼土群 2 (ufp - 2、3、12、33・UKS - 3、4) から出土。核は広楕円形。腹面には縦の溝があり、サクラ属の特徴を示す。両資料とも保存状態が悪いため詳細な分類は出来なかった。計測値は35a : 長さ6.90mm、幅5.00mm、厚さ3.70mm 36a : 長さ3.10mm、幅2.50mm、厚さ2.00mm

37a 資料 : 平地住居跡 (USD 5 - fp 4) からと灰送り場の焼土群 2 (UFP - 3、11、31、34・UKS - 4) 焼土群 3 (UFP - 9) からすべて核片で出土。核片の先は丸いが尖り一側に溝がある。これらの特徴からスモモ *Prunus salicina* Lindl と判断される。破片のため計測はしていない。

コナラ属 *Quercus* L. (図版4 - 38a : USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4) から子葉の破片が出土。今回はわずか2片の出土のため、詳細な分類はできなかった。コナラ属にはミズナラ *Quercus crispula* Blume、コナラ *Quercus serrata* Thunb.、カシワ *Quercus dentata* Thunb. などがあるが子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である(吉崎・椿坂2000)。細片のため計測はしていない。

クルミ属 *Juglans* L. (図版4 - 39a : USD 5 - fp 4 から出土)

平地住居跡 (USD 5 - fp 4、USD 8 - fp 1、3) からと灰送り場の焼土群2 (UFP - 3、13、21、26、31、34・UKS - 3、4) 焼土群3 (UFP - 14)、その他の焼土 (UFP - 5) から内果皮の破片で出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。細片のため計測はしていない。

冬芽 (図版4 - 40・41 : USD 8 - fp 3 から出土)

各平地住居跡と灰送り場の焼土群から出土。比較資料がないので詳細な分類が出来なかった。計測値は40 : 長さ6.80mm、幅3.80mm 40 : 長さ4.30mm、幅2.60mm

不明1 (図版4 - 42a : USK - 4 から出土。43a : USK - 3 から出土)

42a 資料 : 灰送り場の焼土群2 (UFP - 2、3、11、33・UKS - 3、4) 焼土群3 (UFP - 9、14) 焼土群4 (UFP - 6、7) その他の焼土 (UFP - 1) から出土。木本種子と考えられるが現生の比較資料がないので同定が出来なかった。計測値は長さ4.90mm、幅3.00mm、厚さ2.50mm

43a 資料 : 灰送り場の焼土群2 (UFP - 21、33・UKS - 3) 焼土群3 (UFP - 9) から出土。種子ではないと考えている。計測値は長さ5.00mm、幅5.70mm

その他に不明2として扱った資料は、保存状態が悪いため全く分類できなかったものである。また、アワかヒエ属と思われるものがあるが、被熱による変形が激しく分類することができなかった資料を不明ミレットとして扱った。

4) まとめ

扱った資料はアイヌ文化期の平地住居跡、灰送り場遺構などから検出されたもので、栽培植物ではイネ、アワ、ヒエ、アサ、シソ属の組成であった。その中でヒエが最も多く、次にアワでキビ、オオムギ、コムギは検出されなかった。イネは僅かであったが形態的に変異幅が大きく未熟なものと完熟したものが混在していた。

野生植物では草本類のイネ科、カヤツリグサ科、アカザ属、タデ科、ケシ科、ヒシ属で野原、畑地、湿地などに生育するものばかりである。

木本類ではニワトコ属、タラノキ属、マタタビ属、キイチゴ属、ハリギリ属、ウルシ属、キハダ属、ブドウ科、バラ科、モクレン科、コナラ属、クルミ属で、縄文時代から近世にかけての遺跡でごく普遍的に見られるもので可食性あるいは利用可能のものが多い。

検出された種子の中で酸化した状態のタラノキ属の種子が最も多かった。出土状況をみる限り、果実部分を特別に利用された痕跡は見られない。アイヌ民族例では若芽は食し、胃痛の時には根を取って煎じて飲んだという(1993 知里)。また、モクレン科のチョウセンゴミシの種子が少量検出され

ている。この種のもはこれまでに報告例は少ない。知里によると果実は生食し、蔓は薬用として、その他に歩くかんじきなどに利用する。蔓も果実も秋に採集して乾燥させ貯え冬の用に供えた（1993 知里）。

今回の調査で得られた資料は、平成14年度の調査で検出された植物種子の組成とほぼ同様の結果である（2002 吉崎・椿坂）。

ここ数年、千歳市、恵庭市周辺に分布する近世アイヌ文化の遺跡から栽培植物の良好な資料が得られている。イネ、アワ、ヒエ、キビ、アズキ、アサ、シソ属のセットで確認され、その中でヒエ、アワの出土数が多く、イネ、キビは極端に少ない。アズキ、アサ、シソ属も少量である。イネについては形態的に変異幅が大きく狭長で未熟の様相をもつものが多い。ヒエについては縄文時代早期末ころからイヌビエ *Echinochloa crus-galli* Beauv. に近い形態を持つ縄文ヒエを初源的なものとして始まり、近世まで連続して検出されていることが知られる。擦文文化後期、中・近世にかけて検出されるヒエは近代に栽培されていたヒエの形態になる。近世の出土栽培植物の組成を見ると、オオムギ、コムギ以外は擦文文化にみられるものほとんど差はない。しかしながら、出土雑穀の多寡を比較してみると、擦文文化からはヒエ属種子の検出は窮めて少ない。アワ、キビが主で地域によってはオオムギ、コムギが加わる。例えば札幌市北大構内のサクシュコトニ川遺跡では大量のオオムギ、コムギが検出されたが（1990：吉崎・椿坂）、千歳市、恵庭周辺の遺跡からはコムギが1粒検出されたのみである（1995 吉崎・椿坂）。近世アイヌ文化からはヒエの出土が最も多く、次いでアワ、キビとイネは少量で、オオムギ、コムギが検出されないという現象である。

このように、時期、集落の立地や性格によって栽培植物の組成と品種など異なることがわかってきた。今後の課題としてこの地域で検出されているイネの存在（2002 吉崎・椿坂）また、オオムギ、コムギ（2001・2004 吉崎・椿坂）の問題など出土資料の増加を待って検討したいと考えている。

引用文献

知里真志保

1993：分類アイヌ語辞典 植物編・動物編 p 69 - 70、138 - 139 知里真志保著作集 別巻、平凡社
椿坂恭代

1993：アワ・ヒエ・キビの同定 吉崎昌一先生還暦記念論文集「先史時代と関連科学」261 - 281

吉崎昌一・椿坂恭代

1990：サクシュコトニ川遺跡に見られる食糧獲得戦略 「北大構内の遺跡」8、23 - 25、北海道大学

1995：千歳市オサツ2遺跡から出土した植物遺体（種子）「オサツ2遺跡(2)」237 - 248、北埋調報103（財北海道埋蔵文化財センター）

2000：北海道キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子「千歳市キウス4遺跡(7)」347-352、北埋調報152、（財北海道埋蔵文化財センター）

2001：北海道勇払郡厚幌1遺跡の植物種子「厚幌1遺跡」241 - 256、北海道厚真町教育委員会

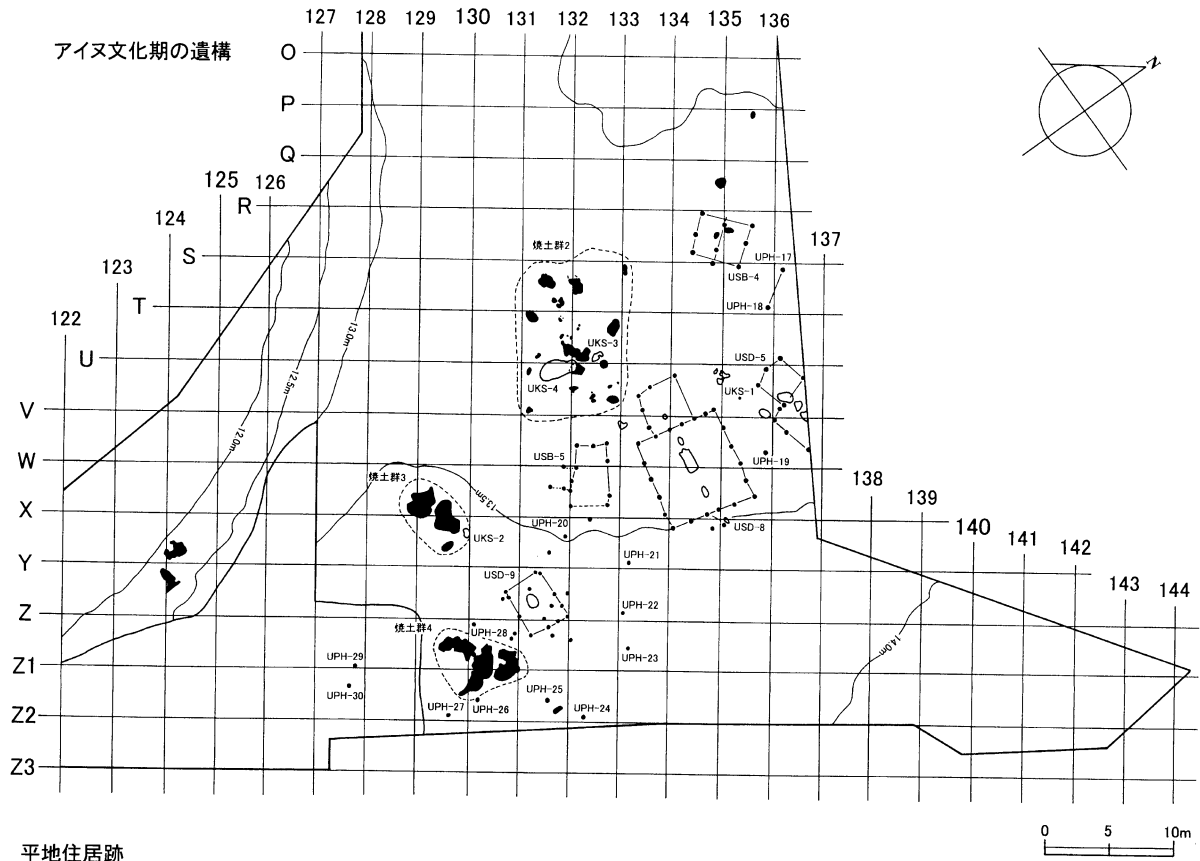
2002：北海道オサツ2遺跡・ユカンボシC2遺跡の擦文文化期と近世の炭化植物種子「ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査」163 - 205、434 - 442 千歳市文化財調査報告書 千歳市教育委員会

2002：オルイカ2遺跡から出土した炭化植物種子「オルイカ2遺跡」159 - 167、北埋調報189（財北海道埋蔵文化財センター）

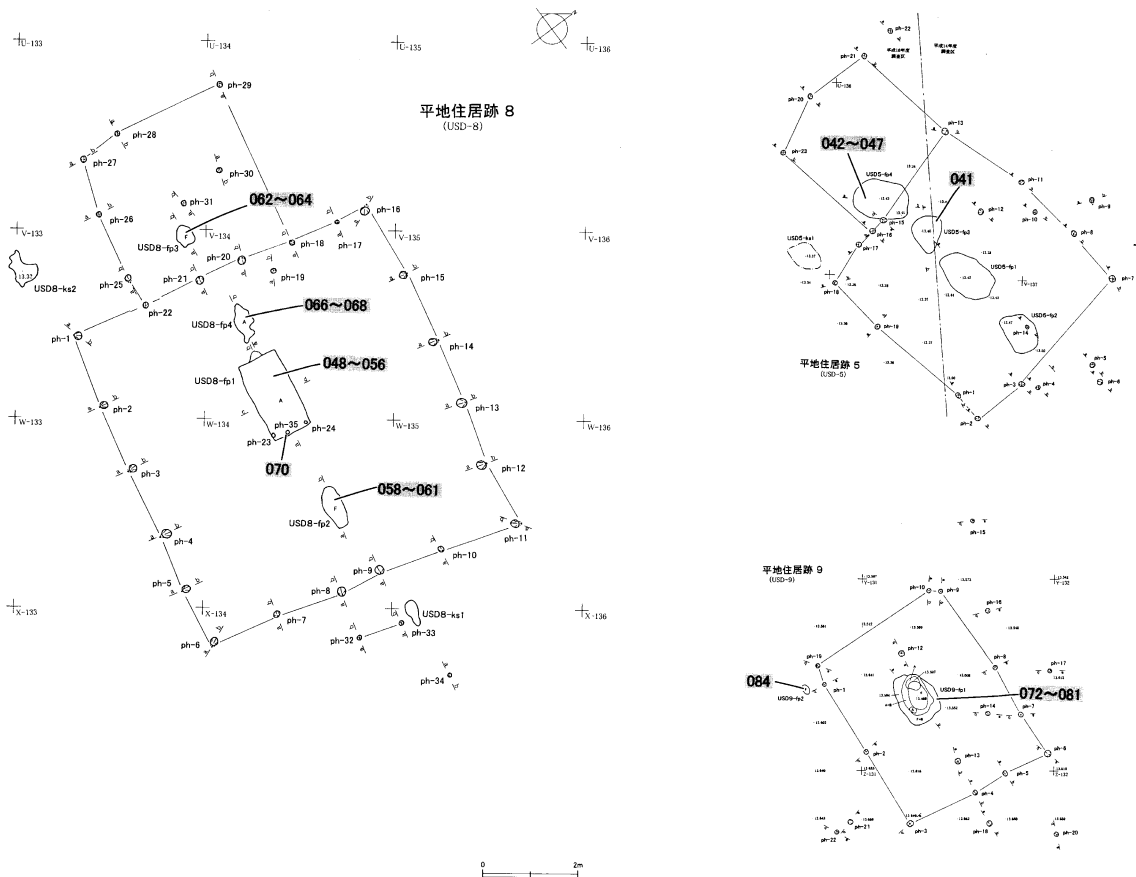
2004：北海道堀株1遺跡から出土した炭化植物種子について「堀株1遺跡」231 - 237、北海道泊村教育委員会

* 元北海道大学文学部教授

* * 札幌国際大学博物館客員研究員

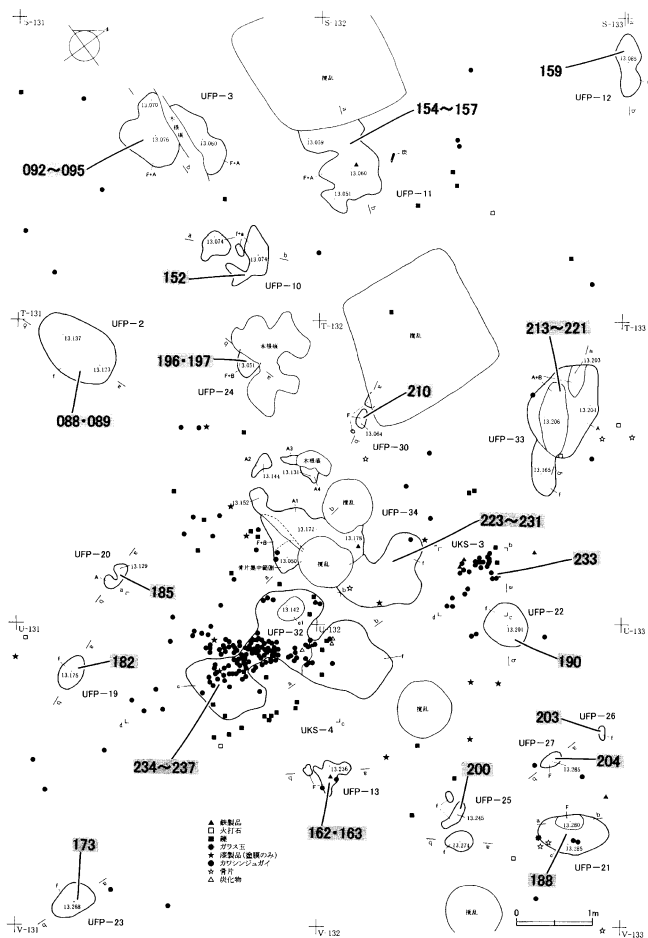


平地住居跡

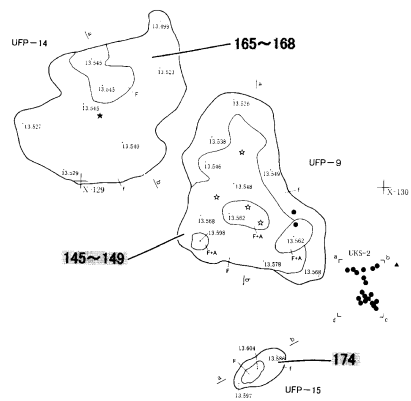


図Ⅶ - 7 種子同定試料採取地点(1)

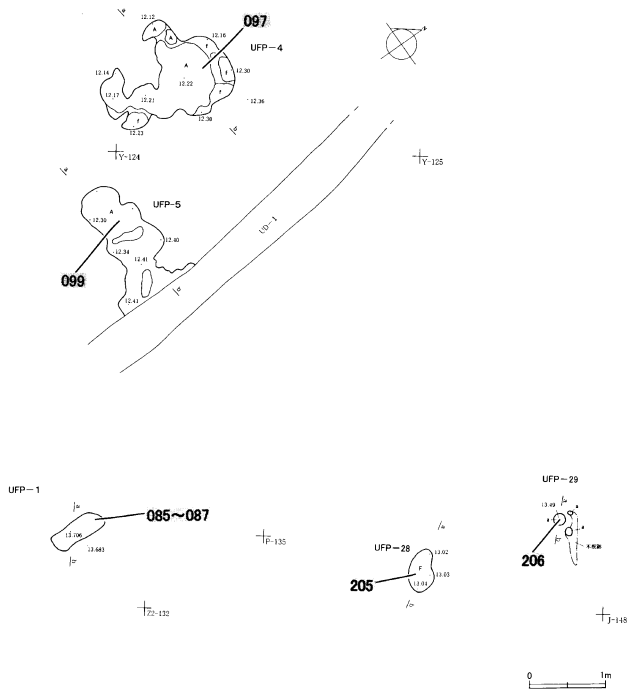
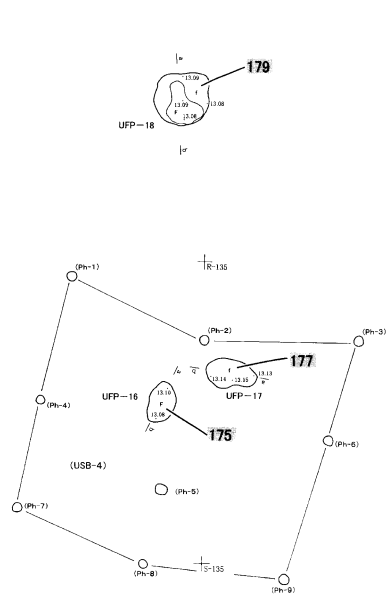
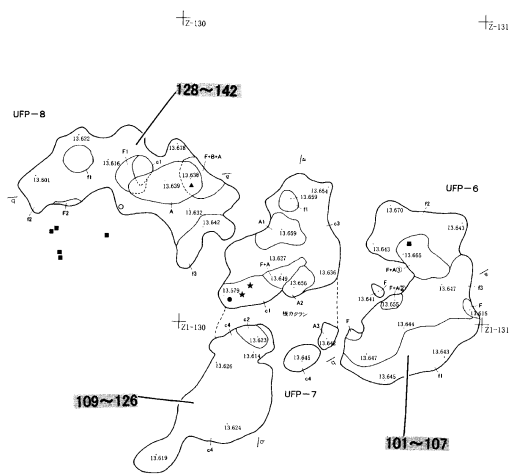
焼土群2



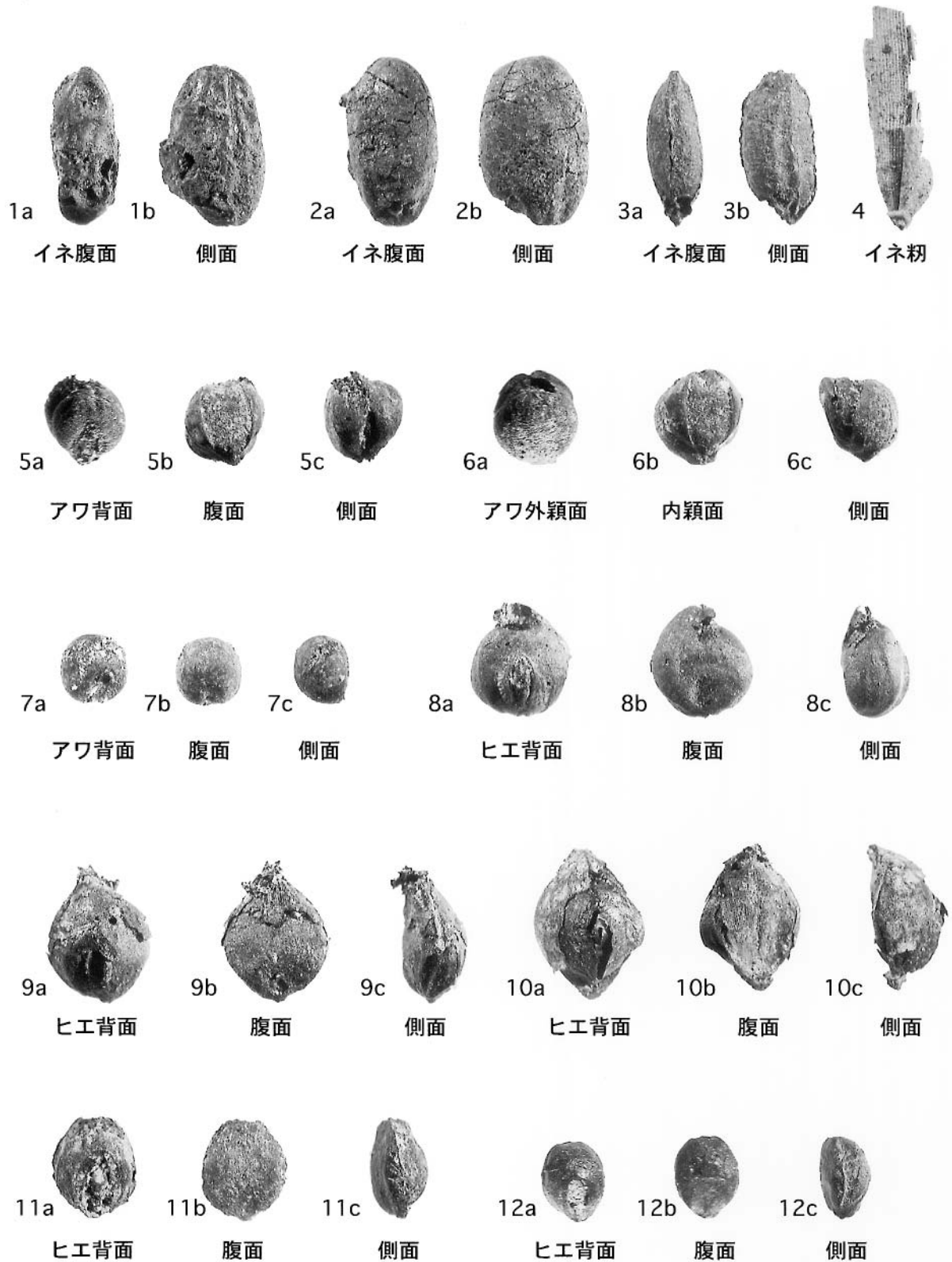
焼土群3



焼土群4



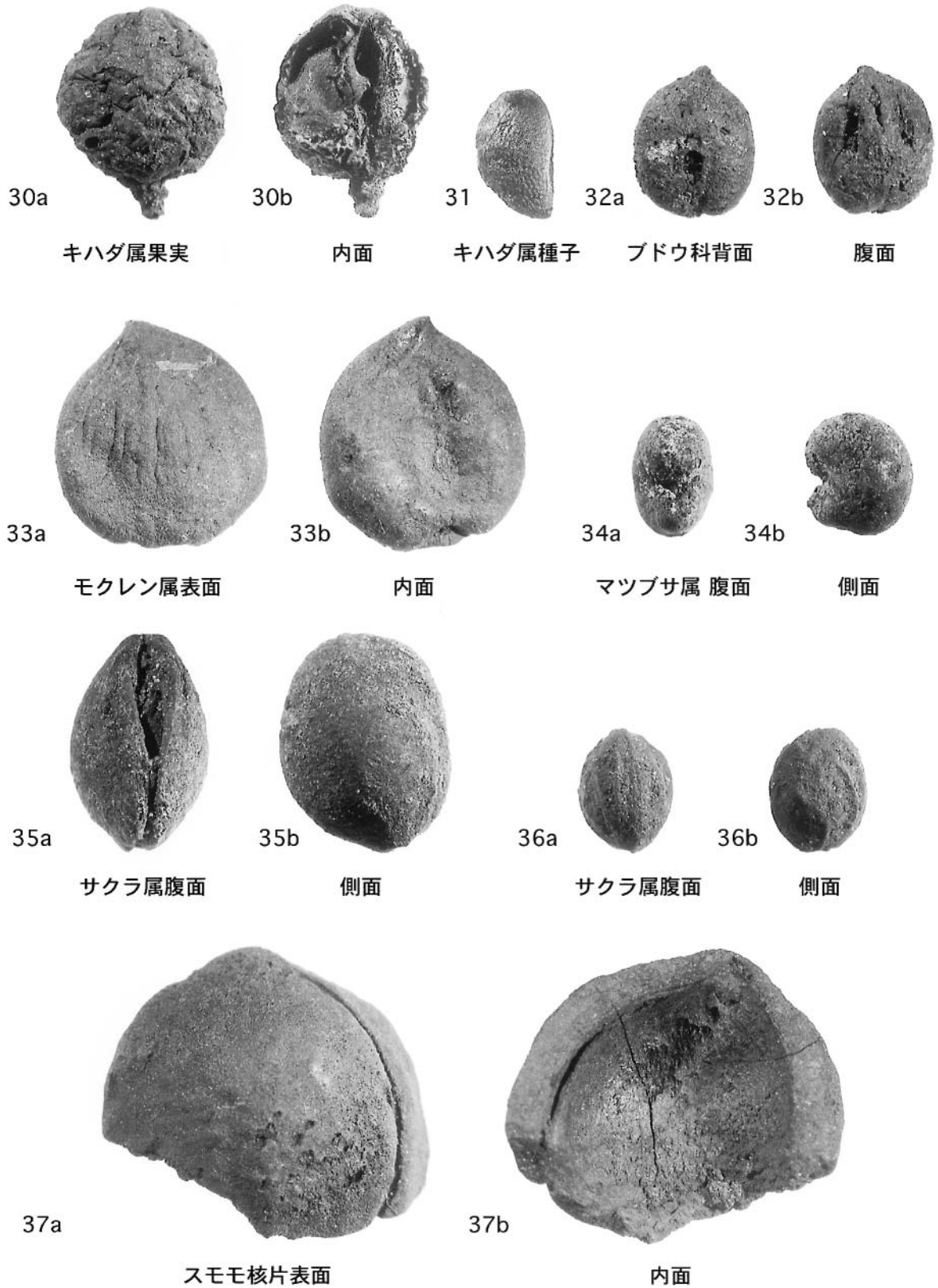
図Ⅶ-8 種子同定試料採取地点(2)



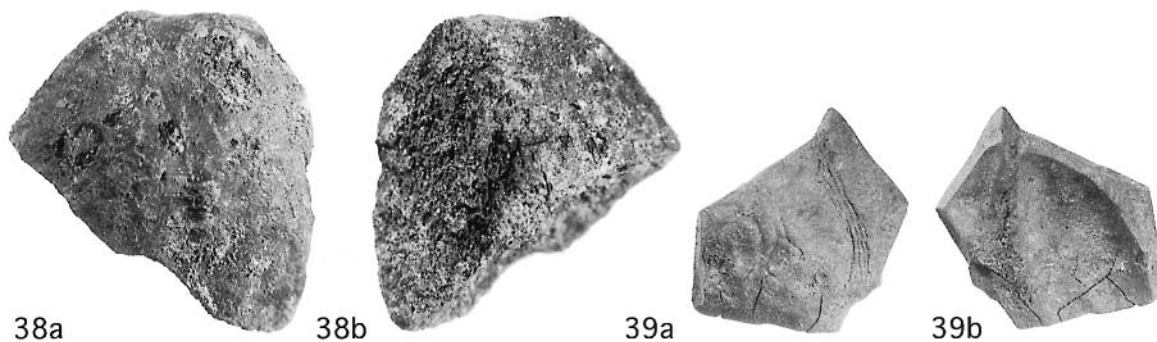
図版 1 炭化植物種子(1)



図版2 炭化植物種子(2)



図版3 炭化植物種子(3)



38a

38b

39a

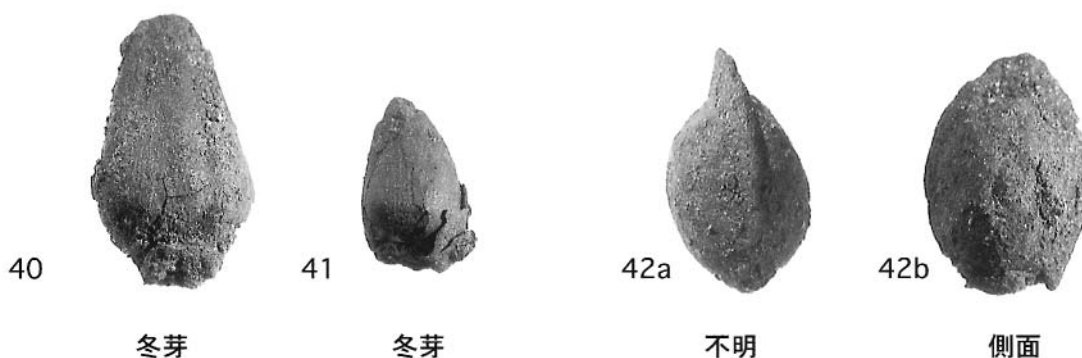
39b

コナラ属子葉表面

内面

クルミ属内果皮表面

内面



40

41

42a

42b

冬芽

冬芽

不明

側面



43a

43b

不明表面

内面

図版4 炭化植物種子(4)

4. オルイカ 2 遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の原産地分析・水和層測定

有限会社 遺物分析研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光 X 線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6 千キロメートルを推測する学者もでてきている。正確に産地を判定と言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にいる石器の原産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されていると言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として、理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行う、ホテルリングの T2 乗検定がある。ホテルリングの T2 乗検定法の同定とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較する。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、A 原石製の遺物と A、B、C 産地の原石でクラスターを作ったとき遺物は A 原石とクラスターを作るが、A 原石を抜いて、D、E 産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物が E 産地とクラスターを作ると、A 産地が調査されていないと、遺物は E 原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。A 原石製遺物と分かっていれば、E 原石とクラスターを作らないようにできる。これには、クラスター分析を行う遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があり、主観的な判定になる。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布の中に遺物の結果が入るか図示した方法で、原石の含有元素の違いを絶対定量値を求めて地球科学的に議論するには、地質学では最も適した方法であるが、産地分析からみると、クラスター法より、さらに後退した方法で、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現されているのか不明で、分析する原石の数で、原石数の少ないときには、A 産地と B 産地が区別できていたのに、原石数を増やすと、A 産地、B 産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）判定結果に疑問が残る。産地分析としては、地質学の常識的な知識さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要なく、分析では非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら、同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定を行うかである。クラスター法、元素散布図法の欠点を解決できる方法が、理論的に証明された判定法でホテルリングの T2 乗検定法である。ある産地の原石組成と遺物

組成が一致すれば、その産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然(産地分析法が不完全なために)に一致した可能性も大きくB、C、D……の産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地(A、B、C、D……)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT²乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では……一個と各産地ごとに求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は千歳市中央2536に位置するオリイカ2遺跡出土の黒曜石製遺物30個で産地分析、そして15個について非破壊分析による水和層の厚さの結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地

は分布する。調査を終えた原産地を図Ⅶ - 9に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表Ⅶ - 12・13に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると279個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2 kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2 kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の組成分類結果を表Ⅶ - 14に示し、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した37個の円礫の中には、独特の組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表Ⅶ - 15に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類され、台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第1、2群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第1群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が

少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町泉民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5 cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計279個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽく表面が風化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。今回分析したオリイカ2遺跡出土黒曜石製遺物の各元素比を表Ⅶ-16に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表Ⅶ-16の試料番号95288番の遺物ではRb/Zrの値は1.369で、赤石山群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 1.340 ± 0.059 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.49σ 離れている。ところで赤石山原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.49\sigma$ のずれより大きいものが62個ある。すなわち、この遺物が、赤石山群の原石から作られていたと仮定しても、 0.49σ 以上離れる確率は62%であると言える。だから、赤石山群の平均値から 0.49σ しか離れていないときには、この遺物が赤石山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤井川第1群と比較すると、赤井川第1群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 0.969 ± 0.060 であるので遺物と原石群の差を上記と同様に標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群からの隔たりは、 6.67σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤井川第1群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6.67σ 以上離れている確率は、百億分の一であると言える。このように、百億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤井川第1群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤石山群に62%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤石山産原石が使用されていると同定され、さらに赤井川第1群に1億分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから赤

井川第1群の原石でないと同定される。遺物が一ヶ所の産地（赤石山産地）と一致したからと言って、例え赤石山群と赤井川第1群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（赤石山産地）に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表Ⅶ-12、13の279個すべての原石群について行い十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて赤石山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯1つの変数だけでなく、前述した8つの変数で取り扱うので変数間の相関を考慮しなければならない。例えば、A原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変数統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4,5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では279個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち白滝・赤石山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみを結果を表Ⅶ-17に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行ったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いながらもその原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、ガラス光沢かを指標に加えた。また、赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群（50%）と第2群（50%）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。

今回分析した遺物の中に全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された

可能性は低いと思われる。また、赤井川第1または2群に高確率で同定され、大釈迦、戸門と十勝産地に同定された確率は赤井川に比べて十分の一～百分の一がほとんどで、オリイカ2遺跡では赤井川、十勝産原石が使用されていたと判定した。

今回分析したオリイカ2遺跡出土黒曜石遺物30個の中で、赤石山産が47%(14個)、赤井川産が20%(6個)、所山産と十勝産がそれぞれ13%(4個)、そして札幌K19遺物群とケショマップ産がそれぞれ3%(1個)と判定した。所山産と同定された4個が常呂川流域から採取された可能性は否定できないが、30個の遺物の中に常呂川流域でのみ見られる常呂川第1、2、3群が見られないことから、常呂川流域から採取した証拠はなかった。

赤石山、八号沢群に一致する組成の原石は白滝地域の赤石山、八号沢地区以外に湧別川下流域でも原石が採取される。オリイカ2遺跡に、白滝地域産か、湧別川下流域産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定される。今回分析した遺物は30個で少なく正確な頻度分布ではないが、八号沢群に一致するものはなく赤石山群に一致するものだけであり、湧別川の表Ⅶ-14では逆になっていることから、湧別川が使用された可能性は低いと推測され、白滝地域の赤石山産地から伝播した黒曜石と判定した。遺跡で使用頻度高い原石産地と交流・交易が活発であったと推測すると、今回の分析で、赤石山産原石の使用頻度が高いことから、本遺跡は白滝地域との交流が活発に行われていた可能性が推測された。

非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

今回分析した遺物はオリイカ2遺跡出土の黒曜石製石器、剥片15個について非破壊分析による水和層の厚さの結果が得られたので報告する。分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光りで生じる干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光りの反射を利用するため、遺物の表面にできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。石器について3ヶ所を分析し、代表的な水和層の干渉波スペクトルを図Ⅶ-10・11に示した。また測定した3ヶ所の分析値、そしてそこから算出された3ヶ所の経過年代、その3ヶ所の経過年代の平均、標準偏差を表Ⅶ-18に記した。水和層厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中に受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。従って、遺物が経過した年代の間に受けた温度が旧石器時代では約75°Cを平均効果温度として水和速度6)を推定したとき、赤石山産原石は1.48(μ²/1000年)、十勝産原石は1.56(μ²/1000年)として下記の式により水和層厚さを経過年代に換算した。

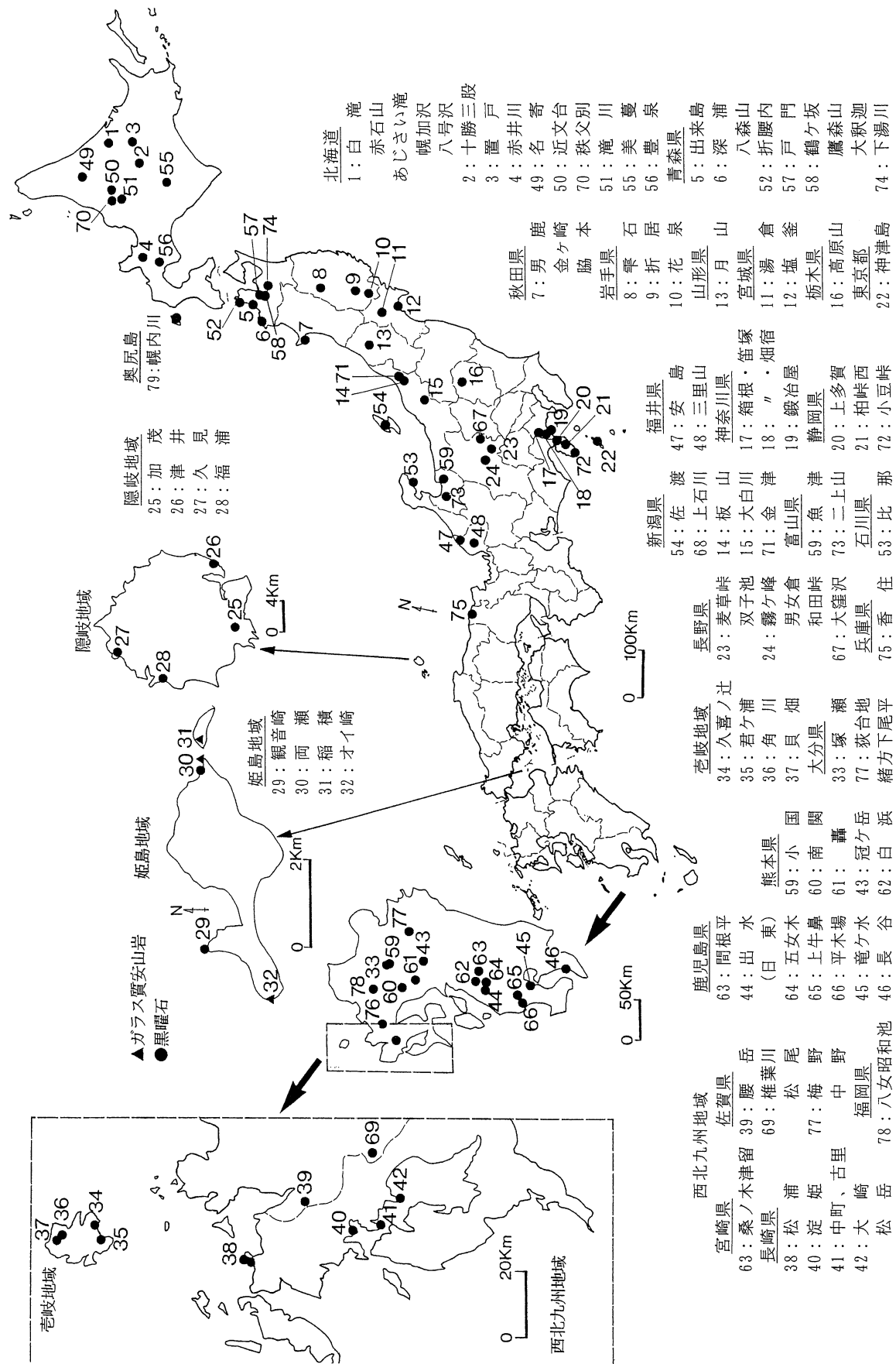
$$\text{推定換算年代(千年)} = \frac{\text{測定水和層厚}(\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚}(\mu\text{m})}{\text{水和速度}(\mu^2/1000\text{年})}$$

今回分析非破壊で水和層が測定できた遺物の経過年代の結果を表Ⅶ-18に示した。今回測定した遺物の中で、分析番号95279番、95280番、95282番、95283番のものが測定不能であったが、これらの遺

物は、干渉波が全く見られなかったり、干渉波の波長が測定箇所により変化し真の値が分からなかったものである。また、分析番号95288番と95290番の測定した3ヵ所の干渉波の波長が非常にばらついているが、波長そのものは、真の値と思われるものであったので表に記載した。水和層の厚さを経過年代に換算するときの重要な係数である水和速度を決める重要な要因は、黒曜石の化学組成と温度であるため、自然科学者の実験室で水和実験によって水和速度を決定できるが、国内産黒曜石に関して研究はそこまで進んでいないのが現状である。現在は水和速度の決定については考古学者の協力なしでは決定できない。実験室での水和層生成が困難である限り、水和速度の決定の舞台は遺跡になる。今回の年代が炭素-14年代に比べて古すぎる場合は、温泉地とか温度の高い地下水などで埋土中の遺物温度が異常に高かったことが推測され、水和層は非常に厚くなり推定換算年代は古くなる。これは遺物の埋土位置の地温測定で推測できるが、しかし、過去の地温の測定はできない。炭素-14年代などで年代の分かる層から出土する黒曜石の水和層から水和速度を決定するため、発掘が重要な鍵を握ることは言うまでもない。石器の組成（原産地）さえ分かれば、考古学者が炭素-14年代と水和層のデータを集積し整理するだけで、正確な水和層年代が得られるようになる。これら考古学的作業により求められた水和速度は、水和機構（理論）が証明されていないが、考古学試料として実用するには問題ないと推測できる。したがって、水和層年代は考古学者が企画するだけで実用的な年代が得られるため、将来、水和層年代が石器における土器編年のように身近な存在になると推測できる。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)、考古学と自然科学、8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977)(1978)、蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)、(Ⅳ)、考古学と自然科学、10、11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16:59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、9:77-90
- 5) 東村武信(1990)、考古学と物理化学。学生社
- 6) 近堂祐弘(1986)、北海道における黒曜石年代測定法について。北海道考古学、22:1~15



図VI - 9 黒曜石原産地

表Ⅶ-12 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

原産地原石群名	分析 個数	元素比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
北海道	白糠地区	名寄第一群	114	0.478 ± 0.011	0.121 ± 0.005	0.035 ± 0.007	2.011 ± 0.063	0.614 ± 0.032	0.574 ± 0.022	0.120 ± 0.017	0.024 ± 0.016	0.033 ± 0.002	0.451 ± 0.010
		名寄第二群	35	0.309 ± 0.015	0.103 ± 0.005	0.021 ± 0.006	1.774 ± 0.055	0.696 ± 0.044	0.265 ± 0.011	0.301 ± 0.022	0.026 ± 0.020	0.028 ± 0.007	0.394 ± 0.010
		赤石山	130	0.173 ± 0.014	0.061 ± 0.003	0.079 ± 0.013	2.714 ± 0.142	1.340 ± 0.059	0.283 ± 0.019	0.341 ± 0.030	0.073 ± 0.026	0.028 ± 0.002	0.374 ± 0.010
		白土沢	27	0.138 ± 0.004	0.021 ± 0.002	0.102 ± 0.015	3.049 ± 0.181	1.855 ± 0.088	0.097 ± 0.016	0.492 ± 0.039	0.107 ± 0.019	0.027 ± 0.002	0.368 ± 0.006
		八号沢	30	0.138 ± 0.010	0.022 ± 0.002	0.105 ± 0.017	3.123 ± 0.127	1.846 ± 0.065	0.105 ± 0.019	0.475 ± 0.045	0.076 ± 0.046	0.027 ± 0.008	0.359 ± 0.042
		機加沢	50	0.140 ± 0.003	0.024 ± 0.007	0.101 ± 0.009	3.021 ± 0.183	1.835 ± 0.152	0.109 ± 0.047	0.480 ± 0.042	0.104 ± 0.044	0.027 ± 0.001	0.364 ± 0.009
		あじさい滝	34	0.139 ± 0.003	0.023 ± 0.003	0.099 ± 0.007	2.970 ± 0.179	1.792 ± 0.103	0.102 ± 0.036	0.472 ± 0.028	0.098 ± 0.046	0.027 ± 0.001	0.361 ± 0.008
		近文台第一群	30	0.819 ± 0.013	0.165 ± 0.006	0.081 ± 0.010	3.266 ± 0.117	0.604 ± 0.031	0.941 ± 0.030	0.165 ± 0.020	0.039 ± 0.016	0.039 ± 0.002	0.457 ± 0.008
		近文台第二群	107	0.517 ± 0.011	0.099 ± 0.005	0.067 ± 0.090	2.773 ± 0.097	0.812 ± 0.037	0.818 ± 0.034	0.197 ± 0.024	0.041 ± 0.019	0.035 ± 0.002	0.442 ± 0.009
		近文台第三群	47	0.529 ± 0.014	0.096 ± 0.008	0.068 ± 0.018	2.746 ± 0.262	0.838 ± 0.100	0.796 ± 0.081	0.220 ± 0.043	0.035 ± 0.021	0.036 ± 0.004	0.413 ± 0.014
	十勝	台場第一群	50	1.076 ± 0.052	0.142 ± 0.005	0.072 ± 0.011	2.912 ± 0.117	0.291 ± 0.020	0.678 ± 0.035	0.126 ± 0.022	0.022 ± 0.012	0.049 ± 0.005	0.517 ± 0.014
		台場第二群	42	0.670 ± 0.030	0.126 ± 0.006	0.074 ± 0.017	3.046 ± 0.163	0.759 ± 0.044	0.849 ± 0.045	0.204 ± 0.032	0.038 ± 0.018	0.038 ± 0.004	0.414 ± 0.019
		秩父別第一群	51	0.249 ± 0.017	0.122 ± 0.006	0.078 ± 0.011	1.614 ± 0.068	0.995 ± 0.037	0.458 ± 0.023	0.235 ± 0.024	0.023 ± 0.021	0.022 ± 0.004	0.334 ± 0.013
		秩父別第二群	48	0.519 ± 0.016	0.097 ± 0.005	0.065 ± 0.016	2.705 ± 0.125	0.814 ± 0.034	0.789 ± 0.043	0.204 ± 0.025	0.032 ± 0.016	0.037 ± 0.003	0.417 ± 0.016
		滝川第一群	31	0.253 ± 0.018	0.123 ± 0.006	0.077 ± 0.009	1.613 ± 0.090	1.017 ± 0.040	0.459 ± 0.023	0.233 ± 0.029	0.038 ± 0.018	0.025 ± 0.003	0.370 ± 0.023
		滝川第二群	40	0.522 ± 0.016	0.101 ± 0.010	0.068 ± 0.019	2.751 ± 0.140	0.809 ± 0.055	0.783 ± 0.044	0.201 ± 0.030	0.040 ± 0.019	0.036 ± 0.003	0.419 ± 0.014
		置戸・所山	65	0.326 ± 0.008	0.128 ± 0.005	0.045 ± 0.008	1.813 ± 0.062	0.824 ± 0.034	0.454 ± 0.020	0.179 ± 0.023	0.044 ± 0.020	0.030 ± 0.002	0.412 ± 0.010
		置戸・置戸山	58	0.464 ± 0.016	0.138 ± 0.005	0.049 ± 0.008	1.726 ± 0.072	0.449 ± 0.024	0.407 ± 0.023	0.133 ± 0.019	0.026 ± 0.014	0.032 ± 0.003	0.456 ± 0.010
		北見・常呂川第2群	48	0.548 ± 0.025	0.145 ± 0.007	0.037 ± 0.007	1.691 ± 0.134	0.380 ± 0.024	0.409 ± 0.020	0.120 ± 0.015	0.031 ± 0.012	0.039 ± 0.004	0.477 ± 0.019
		北見・常呂川第3群	48	0.390 ± 0.011	0.137 ± 0.006	0.030 ± 0.006	1.510 ± 0.059	0.372 ± 0.018	0.238 ± 0.014	0.179 ± 0.019	0.029 ± 0.015	0.033 ± 0.004	0.414 ± 0.011
	十勝	北見・常呂川第4群	50	0.291 ± 0.017	0.109 ± 0.008	0.046 ± 0.012	1.812 ± 0.098	0.807 ± 0.041	0.445 ± 0.029	0.192 ± 0.033	0.034 ± 0.015	0.031 ± 0.003	0.362 ± 0.023
		クソマップ第一群	68	0.575 ± 0.056	0.110 ± 0.011	0.051 ± 0.011	2.555 ± 0.086	0.595 ± 0.058	0.636 ± 0.027	0.167 ± 0.027	0.037 ± 0.020	0.030 ± 0.003	0.397 ± 0.013
		クソマップ第二群	65	0.676 ± 0.011	0.145 ± 0.005	0.056 ± 0.014	2.631 ± 0.126	0.606 ± 0.030	0.712 ± 0.032	0.170 ± 0.028	0.030 ± 0.013	0.030 ± 0.003	0.392 ± 0.010
		十勝三股	60	0.256 ± 0.018	0.074 ± 0.005	0.068 ± 0.010	2.281 ± 0.087	1.097 ± 0.055	0.434 ± 0.023	0.334 ± 0.029	0.064 ± 0.025	0.029 ± 0.002	0.396 ± 0.013
		美瑛第一群	41	0.499 ± 0.020	0.124 ± 0.007	0.052 ± 0.010	2.635 ± 0.181	0.802 ± 0.061	0.707 ± 0.044	0.199 ± 0.029	0.039 ± 0.023	0.033 ± 0.002	0.442 ± 0.015
		美瑛第二群	28	0.593 ± 0.036	0.144 ± 0.012	0.056 ± 0.010	3.028 ± 0.251	0.762 ± 0.040	0.764 ± 0.051	0.197 ± 0.026	0.038 ± 0.022	0.034 ± 0.002	0.449 ± 0.009
		赤井川第一群	50	0.254 ± 0.029	0.070 ± 0.004	0.086 ± 0.010	2.213 ± 0.104	0.969 ± 0.060	0.428 ± 0.021	0.249 ± 0.024	0.058 ± 0.023	0.027 ± 0.002	0.371 ± 0.009
		赤井川第二群	30	0.258 ± 0.065	0.072 ± 0.002	0.080 ± 0.010	2.207 ± 0.083	0.970 ± 0.045	0.436 ± 0.026	0.245 ± 0.021	0.021 ± 0.029	0.021 ± 0.007	0.371 ± 0.007
		豊泉第一群	75	0.473 ± 0.019	0.148 ± 0.007	0.060 ± 0.015	1.764 ± 0.072	0.438 ± 0.027	0.607 ± 0.028	0.157 ± 0.020	0.025 ± 0.017	0.032 ± 0.002	0.469 ± 0.013
		豊泉第二群	40	0.377 ± 0.009	0.133 ± 0.006	0.055 ± 0.008	1.723 ± 0.066	0.516 ± 0.019	0.513 ± 0.018	0.177 ± 0.016	0.007 ± 0.015	0.030 ± 0.005	0.431 ± 0.010
青森県	深浦	奥尻島・幌内川	58	0.285 ± 0.026	0.087 ± 0.005	0.193 ± 0.032	1.834 ± 0.182	2.043 ± 0.224	1.475 ± 0.207	0.269 ± 0.068	0.085 ± 0.031	0.031 ± 0.004	0.347 ± 0.011
		折原内	35	0.190 ± 0.015	0.075 ± 0.003	0.040 ± 0.008	1.575 ± 0.066	1.241 ± 0.046	0.318 ± 0.014	0.141 ± 0.033	0.076 ± 0.021	0.024 ± 0.002	0.348 ± 0.010
		出来島	27	0.346 ± 0.022	0.132 ± 0.007	0.231 ± 0.019	2.268 ± 0.085	0.865 ± 0.044	1.106 ± 0.056	0.399 ± 0.038	0.179 ± 0.031	0.038 ± 0.003	0.499 ± 0.013
		六角沢	36	0.080 ± 0.008	0.097 ± 0.011	0.013 ± 0.002	0.697 ± 0.021	0.128 ± 0.008	0.002 ± 0.002	0.064 ± 0.007	0.026 ± 0.002	0.035 ± 0.002	0.379 ± 0.010
		八森山	41	0.077 ± 0.005	0.098 ± 0.003	0.013 ± 0.002	0.701 ± 0.023	0.134 ± 0.005	0.002 ± 0.002	0.070 ± 0.005	0.034 ± 0.006	0.027 ± 0.005	0.384 ± 0.009
		戸門第一群	28	0.250 ± 0.024	0.069 ± 0.003	0.068 ± 0.012	2.358 ± 0.257	1.168 ± 0.062	0.521 ± 0.063	0.277 ± 0.065	0.076 ± 0.026	0.026 ± 0.002	0.362 ± 0.015
		戸門第二群	28	0.084 ± 0.006	0.104 ± 0.004	0.013 ± 0.002	0.691 ± 0.021	0.123 ± 0.006	0.002 ± 0.002	0.069 ± 0.010	0.033 ± 0.005	0.025 ± 0.002	0.369 ± 0.007
		鶴ヶ坂	33	0.344 ± 0.017	0.132 ± 0.007	0.232 ± 0.023	2.261 ± 0.143	0.861 ± 0.052	1.081 ± 0.060	0.390 ± 0.039	0.186 ± 0.037	0.037 ± 0.002	0.496 ± 0.018
		鷹森山	45	0.250 ± 0.009	0.066 ± 0.003	0.074 ± 0.009	2.547 ± 0.131	1.153 ± 0.061	0.551 ± 0.031	0.284 ± 0.031	0.049 ± 0.037	0.028 ± 0.005	0.381 ± 0.010
		下海川	36	9.673 ± 0.479	2.703 ± 0.149	3.267 ± 0.217	21.648 ± 1.500	0.090 ± 0.021	1.708 ± 0.102	0.155 ± 0.015	0.169 ± 0.031	0.053 ± 0.042	0.858 ± 0.088
秋田県	男鹿	大釈迦	64	0.252 ± 0.012	0.066 ± 0.003	0.074 ± 0.012	2.516 ± 0.148	1.149 ± 0.063	0.548 ± 0.035	0.284 ± 0.032	0.044 ± 0.035	0.028 ± 0.002	0.383 ± 0.010
		黒石	41	8.905 ± 0.243	2.484 ± 0.055	0.161 ± 0.018	7.570 ± 0.336	0.068 ± 0.014	1.621 ± 0.063	0.244 ± 0.042	0.124 ± 0.014	0.124 ± 0.014	1.409 ± 0.040
		金ヶ崎	43	0.294 ± 0.009	0.087 ± 0.004	0.220 ± 0.018	1.644 ± 0.081	1.493 ± 0.081	0.930 ± 0.043	0.287 ± 0.039	0.098 ± 0.040	0.029 ± 0.002	0.368 ± 0.008
		脇本	45	0.295 ± 0.008	0.087 ± 0.004	0.219 ± 0.017	1.671 ± 0.077	1.503 ± 0.072	0.939 ± 0.054	0.286 ± 0.045	0.108 ± 0.034	0.029 ± 0.006	0.367 ± 0.009
		月山	44	0.285 ± 0.021	0.123 ± 0.007	0.182 ± 0.016	1.906 ± 0.096	0.966 ± 0.069	1.022 ± 0.071	0.276 ± 0.036	0.119 ± 0.033	0.033 ± 0.002	0.443 ± 0.014
		寒河江	48	0.385 ± 0.008	0.116 ± 0.005	0.049 ± 0.017	1.806 ± 0.054	0.580 ± 0.025	0.441 ± 0.023	0.212 ± 0.020	0.056 ± 0.015	0.033 ± 0.003	0.460 ± 0.010
		雫石	25	0.636 ± 0.033	0.187 ± 0.012	0.052 ± 0.007	1.764 ± 0.061	0.305 ± 0.016	0.431 ± 0.021	0.209 ± 0.016	0.045 ± 0.014	0.041 ± 0.003	0.594 ± 0.014
		折居第一群	37	0.632 ± 0.033	0.185 ± 0.013	0.052 ± 0.002	1.766 ± 0.048	0.307 ± 0.017	0.420 ± 0.026	0.205 ± 0.015	0.039 ± 0.016	0.040 ± 0.001	0.579 ± 0.019
		折居第二群	54	0.708 ± 0.033	0.143 ± 0.008	0.061 ± 0.002	1.826 ± 0.048	0.179 ± 0.010	0.246 ± 0.022	0.416 ± 0.012	0.112 ± 0.014	0.057 ± 0.001	0.805 ± 0.012
		花泉	29	0.602 ± 0.044	0.175 ± 0.015	0.053 ± 0.003	1.781 ± 0.068	0.313 ± 0.020	0.416 ± 0.027	0.214 ± 0.013	0.036 ± 0.016	0.040 ± 0.002	0.576 ± 0.037
宮城県	岩手県	湯倉	21	2.174 ± 0.068	0.349 ± 0.017	0.057 ± 0.005	2.544 ± 0.149	0.116 ± 0.009	0.658 ± 0.024	0.138 ± 0.015	0.020 ± 0.013	0.073 ± 0.003	0.956 ± 0.040
		塩釜	37	4.828 ± 0.395	1.630 ± 0.104	0.178 ± 0.017	11.362 ± 1.150	0.168 ± 0.018	1.298 ± 0.063	0.155 ± 0.016	0.037 ± 0.018	0.077 ± 0.002	0.720 ± 0.032
		高原山	40	0.738 ± 0.067	0.200 ± 0.010	0.044 ± 0.007	2.016 ± 0.110	0.381 ± 0.025	0.502 ± 0.028	0.190 ± 0.017	0.023 ± 0.014	0.036 ± 0.002	0.516 ± 0.012
		神津島第一群	56	0.381 ± 0.014	0.136 ± 0.005	0.102 ± 0.011	1.729 ± 0.079	0.471 ± 0.027	0.689 ± 0.037	0.247 ± 0.021	0.090 ± 0.026	0.036 ± 0.003	0.504 ± 0.012
		神津島第二群	46	0.317 ± 0.021	0.120 ± 0.007	0.114 ± 0.005	1.833 ± 0.089	0.615 ± 0.044	0.656 ± 0.064	0.303 ± 0.029	0.107 ± 0.057	0.033 ± 0.001	0.471 ± 0.022
		長根	40	0.318 ± 0.020	0.120 ± 0.005	0.118 ± 0.014	1.805 ± 0.096	0.614 ± 0.036	0.664 ± 0.045	0.291 ± 0.029	0.093 ± 0.039	0.034 ± 0.006	0.476 ± 0.012
		楯根・笹塚	30	6.765 ± 0.254	2.219 ± 0.057	0.228 ± 0.019	9.282 ± 0.622	0.048 ± 0.017	1.757 ± 0.061	0.252 ± 0.017	0.025 ± 0.019	0.140 ± 0.008	1.528 ± 0.046
		神村・畑宿	41	2.056 ± 0.064	0.669 ± 0.019	0.076 ± 0.007	2.912 ± 0.104	0.062 ± 0.007	0.680 ± 0.029	0.202 ± 0.011	0.111 ± 0.010	0.011 ± 0.001	1.126 ± 0.031
		鍛冶屋	31	1.663 ± 0.071	0.381 ± 0.019	0							

表Ⅶ - 13 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

原産地原石群名		分析 個数	元素比									
			Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
新潟県	佐渡第一群	34	0.228 ± 0.013	0.078 ± 0.006	0.020 ± 0.005	1.492 ± 0.079	0.821 ± 0.047	0.288 ± 0.018	0.142 ± 0.018	0.049 ± 0.017	0.024 ± 0.004	0.338 ± 0.013
	佐渡第二群	12	0.263 ± 0.032	0.097 ± 0.018	0.020 ± 0.006	1.501 ± 0.053	0.717 ± 0.106	0.326 ± 0.029	0.091 ± 0.022	0.046 ± 0.015	0.026 ± 0.002	0.338 ± 0.009
	上石川	45	0.321 ± 0.007	0.070 ± 0.003	0.069 ± 0.011	2.051 ± 0.070	0.981 ± 0.042	0.773 ± 0.034	0.182 ± 0.023	0.038 ± 0.027	0.026 ± 0.007	0.359 ± 0.009
	坂山	44	0.232 ± 0.011	0.068 ± 0.003	0.169 ± 0.017	2.178 ± 0.110	1.772 ± 0.098	0.772 ± 0.046	0.374 ± 0.047	0.154 ± 0.034	0.027 ± 0.002	0.359 ± 0.009
	大白川	47	0.569 ± 0.006	0.142 ± 0.005	0.033 ± 0.001	1.608 ± 0.034	0.261 ± 0.009	0.332 ± 0.009	0.150 ± 0.008	0.033 ± 0.009	0.036 ± 0.001	0.491 ± 0.014
	金津	46	0.331 ± 0.011	0.097 ± 0.037	0.030 ± 0.007	1.711 ± 0.066	0.618 ± 0.027	0.283 ± 0.012	0.181 ± 0.016	0.035 ± 0.018	0.027 ± 0.009	0.402 ± 0.012
石川県	羽根川	55	0.163 ± 0.019	0.053 ± 0.005	0.099 ± 0.011	1.354 ± 0.058	1.615 ± 0.063	0.084 ± 0.012	0.309 ± 0.036	0.100 ± 0.028	0.023 ± 0.007	0.340 ± 0.030
	比那	48	0.370 ± 0.009	0.087 ± 0.005	0.060 ± 0.003	2.699 ± 0.088	0.639 ± 0.021	0.534 ± 0.026	0.172 ± 0.011	0.052 ± 0.025	0.032 ± 0.002	0.396 ± 0.016
福井県	安島	42	0.407 ± 0.006	0.123 ± 0.006	0.038 ± 0.002	1.628 ± 0.048	0.643 ± 0.026	0.675 ± 0.023	0.113 ± 0.018	0.061 ± 0.022	0.032 ± 0.001	0.450 ± 0.010
	三里山	37	0.295 ± 0.020	0.127 ± 0.008	0.035 ± 0.002	1.411 ± 0.095	0.597 ± 0.021	0.740 ± 0.053	0.114 ± 0.010	0.027 ± 0.012	0.024 ± 0.001	0.324 ± 0.007
兵庫県	香住第一群	30	0.216 ± 0.005	0.062 ± 0.002	0.045 ± 0.007	1.828 ± 0.056	0.883 ± 0.034	0.265 ± 0.012	0.097 ± 0.021	0.139 ± 0.018	0.024 ± 0.007	0.365 ± 0.008
	香住第二群	40	0.274 ± 0.012	0.100 ± 0.004	0.048 ± 0.009	1.764 ± 0.066	0.813 ± 0.045	0.397 ± 0.020	0.112 ± 0.026	0.138 ± 0.024	0.026 ± 0.012	0.446 ± 0.012
	南滝(微粒集)	48	0.123 ± 0.004	0.056 ± 0.002	0.083 ± 0.012	1.967 ± 0.061	1.171 ± 0.040	0.157 ± 0.013	0.183 ± 0.044	0.221 ± 0.021	0.026 ± 0.025	0.316 ± 0.006
鳥根県	加茂	20	0.166 ± 0.006	0.093 ± 0.008	0.014 ± 0.003	0.899 ± 0.031	0.278 ± 0.017	0.009 ± 0.003	0.061 ± 0.015	0.154 ± 0.018	0.020 ± 0.001	0.249 ± 0.016
	津井	30	0.161 ± 0.008	0.132 ± 0.182	0.015 ± 0.003	0.940 ± 0.041	0.301 ± 0.014	0.015 ± 0.003	0.060 ± 0.013	0.144 ± 0.008	0.020 ± 0.002	0.244 ± 0.008
	久見	31	0.145 ± 0.006	0.061 ± 0.003	0.021 ± 0.004	0.980 ± 0.023	0.386 ± 0.011	0.007 ± 0.003	0.109 ± 0.013	0.238 ± 0.011	0.023 ± 0.002	0.315 ± 0.006
岡山県	津	48	0.268 ± 0.009	0.078 ± 0.003	0.077 ± 0.018	1.927 ± 0.150	1.721 ± 0.113	0.808 ± 0.060	0.244 ± 0.051	0.083 ± 0.019	0.031 ± 0.004	0.367 ± 0.009
	奥池第一群	51	1.202 ± 0.077	0.141 ± 0.010	0.032 ± 0.008	3.126 ± 0.170	0.686 ± 0.065	1.350 ± 0.082	0.026 ± 0.026	0.065 ± 0.019	0.041 ± 0.004	0.507 ± 0.011
香川県	奥池第二群	50	1.585 ± 0.126	0.194 ± 0.018	0.035 ± 0.007	2.860 ± 0.160	0.423 ± 0.058	1.044 ± 0.077	0.024 ± 0.019	0.042 ± 0.013	0.045 ± 0.004	0.507 ± 0.013
	雄山	50	1.224 ± 0.081	0.144 ± 0.011	0.035 ± 0.012	3.138 ± 0.163	0.669 ± 0.078	1.335 ± 0.091	0.023 ± 0.027	0.061 ± 0.020	0.041 ± 0.003	0.500 ± 0.012
	神谷・南山	51	1.186 ± 0.057	0.143 ± 0.008	0.038 ± 0.012	3.202 ± 0.163	0.707 ± 0.061	1.386 ± 0.088	0.029 ± 0.025	0.073 ± 0.021	0.041 ± 0.005	0.500 ± 0.014
	大南山南第一群	39	1.467 ± 0.120	0.203 ± 0.023	0.042 ± 0.009	3.125 ± 0.179	0.494 ± 0.080	1.010 ± 0.073	0.038 ± 0.023	0.047 ± 0.013	0.041 ± 0.003	0.487 ± 0.016
福岡県	大南山南第二群	34	1.614 ± 0.043	0.116 ± 0.012	0.043 ± 0.014	3.305 ± 0.199	0.895 ± 0.048	1.256 ± 0.050	0.029 ± 0.030	0.072 ± 0.018	0.033 ± 0.004	0.476 ± 0.012
	八女昭和溜池	68	0.261 ± 0.010	0.211 ± 0.007	0.033 ± 0.003	0.798 ± 0.027	0.326 ± 0.013	0.283 ± 0.015	0.071 ± 0.009	0.034 ± 0.008	0.024 ± 0.006	0.279 ± 0.009
佐賀県	中野第一群	39	0.267 ± 0.007	0.087 ± 0.003	0.027 ± 0.005	1.619 ± 0.083	0.628 ± 0.028	0.348 ± 0.015	0.103 ± 0.018	0.075 ± 0.018	0.023 ± 0.007	0.321 ± 0.011
	中野第二群	40	0.345 ± 0.007	0.104 ± 0.003	0.027 ± 0.005	1.535 ± 0.039	0.455 ± 0.017	0.397 ± 0.014	0.069 ± 0.016	0.059 ± 0.014	0.026 ± 0.008	0.328 ± 0.008
	梅野	39	0.657 ± 0.014	0.202 ± 0.006	0.071 ± 0.013	4.239 ± 0.205	1.046 ± 0.065	1.269 ± 0.058	0.104 ± 0.032	0.380 ± 0.047	0.028 ± 0.005	0.345 ± 0.009
	藤原	44	0.211 ± 0.009	0.031 ± 0.005	0.075 ± 0.019	2.572 ± 0.212	1.600 ± 0.066	0.414 ± 0.042	0.311 ± 0.046	0.256 ± 0.043	0.025 ± 0.002	0.335 ± 0.008
	椎葉川	59	0.414 ± 0.009	0.071 ± 0.003	0.101 ± 0.017	2.947 ± 0.142	1.253 ± 0.081	2.015 ± 0.099	0.147 ± 0.035	0.255 ± 0.040	0.030 ± 0.007	0.388 ± 0.009
	松尾第一群	40	0.600 ± 0.067	0.153 ± 0.029	0.125 ± 0.018	4.692 ± 0.369	1.170 ± 0.114	2.023 ± 0.122	0.171 ± 0.032	0.255 ± 0.037	0.032 ± 0.003	0.376 ± 0.008
大分県	松尾第二群	40	0.953 ± 0.027	0.307 ± 0.010	0.126 ± 0.013	6.666 ± 0.342	0.856 ± 0.070	1.907 ± 0.119	0.147 ± 0.029	0.190 ± 0.028	0.033 ± 0.008	0.383 ± 0.010
	観音崎	42	0.223 ± 0.010	0.046 ± 0.005	0.409 ± 0.086	6.691 ± 0.878	1.805 ± 0.257	1.562 ± 0.230	0.344 ± 0.087	0.579 ± 0.126	0.039 ± 0.003	0.400 ± 0.011
	両瀬第一群	51	0.226 ± 0.011	0.045 ± 0.003	0.411 ± 0.066	6.743 ± 0.900	1.845 ± 0.286	1.553 ± 0.230	0.318 ± 0.087	0.560 ± 0.144	0.038 ± 0.004	0.401 ± 0.012
	* 両瀬第二群	50	0.648 ± 0.044	0.141 ± 0.010	0.186 ± 0.046	4.355 ± 0.683	0.610 ± 0.095	3.017 ± 0.459	0.142 ± 0.050	0.188 ± 0.056	0.041 ± 0.004	0.427 ± 0.014
	* 両瀬第三群	46	1.038 ± 0.131	0.211 ± 0.024	0.110 ± 0.027	3.367 ± 0.617	0.311 ± 0.056	3.756 ± 0.668	0.105 ± 0.030	0.094 ± 0.037	0.042 ± 0.007	0.442 ± 0.021
	* オイ崎	51	0.059 ± 0.143	0.120 ± 0.030	0.120 ± 0.043	3.598 ± 1.035	0.335 ± 0.108	4.000 ± 1.162	0.118 ± 0.048	0.092 ± 0.036	0.044 ± 0.004	0.449 ± 0.018
	* 稲穂	45	0.680 ± 0.061	0.145 ± 0.013	0.168 ± 0.037	4.397 ± 0.776	0.612 ± 0.095	3.080 ± 0.476	0.147 ± 0.046	0.194 ± 0.060	0.041 ± 0.005	0.431 ± 0.015
	瀬瀬	30	0.312 ± 0.023	0.127 ± 0.009	0.065 ± 0.010	1.489 ± 0.124	0.600 ± 0.051	0.686 ± 0.082	0.175 ± 0.018	0.102 ± 0.020	0.028 ± 0.002	0.371 ± 0.009
	玖台地	50	1.615 ± 0.042	0.670 ± 0.013	0.096 ± 0.008	5.509 ± 0.269	0.284 ± 0.031	1.526 ± 0.053	0.097 ± 0.016	0.032 ± 0.018	0.032 ± 0.005	0.310 ± 0.011
	緒方下尾平	64	0.482 ± 0.036	0.286 ± 0.015	0.051 ± 0.008	1.361 ± 0.095	0.303 ± 0.019	0.712 ± 0.043	0.089 ± 0.018	0.055 ± 0.021	0.012 ± 0.010	0.288 ± 0.016
長崎県	久喜ノ辻	37	0.172 ± 0.009	0.066 ± 0.002	0.030 ± 0.005	1.176 ± 0.043	0.385 ± 0.012	0.011 ± 0.004	0.135 ± 0.018	0.354 ± 0.014	0.023 ± 0.002	0.276 ± 0.007
	君ヶ浦	28	0.174 ± 0.007	0.065 ± 0.002	0.033 ± 0.006	1.174 ± 0.035	0.389 ± 0.012	0.013 ± 0.005	0.129 ± 0.014	0.356 ± 0.012	0.023 ± 0.003	0.275 ± 0.008
	角川	28	0.146 ± 0.009	0.038 ± 0.002	0.059 ± 0.009	1.691 ± 0.100	1.726 ± 0.085	0.035 ± 0.008	0.344 ± 0.040	0.717 ± 0.047	0.023 ± 0.002	0.338 ± 0.010
	貝畑	49	0.135 ± 0.010	0.037 ± 0.002	0.056 ± 0.009	1.746 ± 0.073	1.834 ± 0.064	0.022 ± 0.013	0.334 ± 0.046	0.714 ± 0.040	0.021 ± 0.009	0.339 ± 0.015
	松浦第一群	42	0.213 ± 0.005	0.031 ± 0.004	0.073 ± 0.006	2.545 ± 0.134	1.579 ± 0.079	0.420 ± 0.034	0.292 ± 0.019	0.258 ± 0.037	0.027 ± 0.003	0.341 ± 0.011
	松浦第二群	42	0.190 ± 0.012	0.032 ± 0.006	0.068 ± 0.011	2.371 ± 0.223	1.582 ± 0.199	0.315 ± 0.069	0.276 ± 0.055	0.210 ± 0.050	0.026 ± 0.003	0.336 ± 0.010
	松浦第三群	42	0.244 ± 0.016	0.063 ± 0.010	0.046 ± 0.007	1.880 ± 0.200	0.836 ± 0.121	0.368 ± 0.098	0.145 ± 0.019	0.127 ± 0.030	0.026 ± 0.003	0.329 ± 0.020
	松浦第四群	41	0.288 ± 0.014	0.070 ± 0.006	0.042 ± 0.003	1.833 ± 0.086	0.717 ± 0.179	0.451 ± 0.040	0.111 ± 0.010	0.123 ± 0.022	0.027 ± 0.003	0.341 ± 0.012
	淀塚	44	0.334 ± 0.014	0.080 ± 0.004	0.044 ± 0.009	1.744 ± 0.069	0.533 ± 0.030	0.485 ± 0.039	0.094 ± 0.022	0.119 ± 0.017	0.027 ± 0.002	0.353 ± 0.011
	中町第一群	42	0.244 ± 0.011	0.060 ± 0.010	0.057 ± 0.004	1.866 ± 0.089	0.810 ± 0.087	0.398 ± 0.039	0.135 ± 0.027	0.146 ± 0.026	0.023 ± 0.001	0.342 ± 0.007
熊本県	中町第二群	42	0.319 ± 0.042	0.079 ± 0.023	0.046 ± 0.003	1.793 ± 0.089	0.666 ± 0.091	0.482 ± 0.044	0.118 ± 0.018	0.101 ± 0.024	0.025 ± 0.001	0.333 ± 0.015
	吉里第一群	50	0.202 ± 0.012	0.029 ± 0.004	0.076 ± 0.018	2.628 ± 0.214	1.695 ± 0.146	0.403 ± 0.060	0.319 ± 0.073	0.233 ± 0.074	0.030 ± 0.003	0.342 ± 0.011
	吉里第二群	40	0.423 ± 0.016	0.075 ± 0.007	0.089 ± 0.017	2.797 ± 0.274	1.148 ± 0.133	1.814 ± 0.192	0.103 ± 0.060	0.208 ± 0.053	0.034 ± 0.003	0.367 ± 0.009
	吉里第三群	41	0.265 ± 0.032	0.064 ± 0.009	0.046 ± 0.010	1.931 ± 0.143	0.799 ± 0.110	0.433 ± 0.049	0.122 ± 0.041	0.119 ± 0.044	0.031 ± 0.003	0.347 ± 0.010
	松岳	43	0.194 ± 0.009	0.054 ± 0.005	0.040 ± 0.008	1.686 ± 0.114	0.833 ± 0.058	0.251 ± 0.025	0.192 ± 0.032	0.124 ± 0.039	0.018 ± 0.011	0.331 ± 0.017
	大崎	74	0.176 ± 0.012	0.053 ± 0.002	0.041 ± 0.012	1.710 ± 0.081	0.912 ± 0.036	0.181 ± 0.022	0.202 ± 0.029	0.133 ± 0.024	0.023 ± 0.002	0.319 ± 0.010
	小園	30	0.317 ± 0.023	0.127 ± 0.005	0.063 ± 0.007	1.441 ± 0.070	0.611 ± 0.032	0.703 ± 0.044	0.175 ± 0.233	0.097 ± 0.017	0.023 ± 0.002	0.320 ± 0.007
	南園	30	0.261 ± 0.016	0.214 ± 0.007	0.034 ± 0.003	0.788 ± 0.030	0.326 ± 0.012	0.278 ± 0.015	0.069 ± 0.012	0.278 ± 0.015	0.021 ± 0.002	0.243 ± 0.008
	轟	44	0.258 ± 0.009	0.214 ± 0.006	0.033 ± 0.005	0.794 ± 0.0						

表Ⅶ - 14 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分析結果

原石群名	個数	百分率	備考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群・幌加沢	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケシヨマップ第2群	5個	2%	
KS3遺物群	1個	0.04%	

注：八号沢・白土沢・あじさい滝・幌加沢の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌が否かで区別した。

表Ⅶ - 15 常呂川(中ノ島～北見大橋)の河床から採取した37個の黒曜石円礫の分析結果

原石群名	個数	百分率	備考
所山群	21個	57%	
置戸山群	8個	22%	HS2遺物群に似る
ケシヨマップ第2群	1個	3%	FR1・FR2遺物群に似る
八号沢群	1個	3%	割れ面梨肌
常呂第1群	1個	3%	
常呂第2群	2個	5%	
常呂第3群	1個	3%	
常呂第4群	2個	5%	

注：常呂川第1・2群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

表Ⅶ - 16 オルイカ2遺跡出土黒曜石製石器・剥片の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
95148	0.196	0.051	0.063	2.011	1.033	0.456	0.326	0.059	0.018	0.245
95149	0.174	0.065	0.087	2.980	1.389	0.309	0.357	0.097	0.026	0.368
95150	0.180	0.062	0.092	3.222	1.469	0.267	0.358	0.074	0.026	0.362
95151	0.333	0.135	0.052	1.966	0.856	0.461	0.195	0.060	0.028	0.399
95152	0.327	0.133	0.055	2.195	0.901	0.512	0.208	0.030	0.027	0.395
95153	0.665	0.139	0.057	2.541	0.645	0.732	0.162	0.045	0.029	0.378
95154	0.260	0.074	0.075	2.408	1.089	0.428	0.345	0.081	0.026	0.370
95155	0.249	0.072	0.106	2.644	1.061	0.401	0.253	0.014	0.023	0.334
95156	0.261	0.073	0.090	2.273	0.969	0.424	0.262	0.078	0.024	0.349
95157	0.257	0.074	0.084	2.345	0.986	0.439	0.227	0.004	0.024	0.370
95158	0.253	0.071	0.073	1.840	0.827	0.343	0.215	0.088	0.026	0.352
95159	0.252	0.069	0.087	2.268	0.987	0.459	0.278	0.000	0.027	0.374
95160	0.255	0.071	0.084	2.198	0.989	0.411	0.260	0.037	0.026	0.361
95161	0.324	0.127	0.050	1.955	0.869	0.498	0.193	0.016	0.028	0.391
95162	0.332	0.130	0.047	1.857	0.833	0.460	0.202	0.104	0.027	0.393
95277	0.177	0.062	0.080	2.848	1.391	0.283	0.359	0.081	0.027	0.357
95278	0.178	0.067	0.080	2.641	1.311	0.289	0.347	0.014	0.024	0.334
95279	0.177	0.066	0.090	3.041	1.374	0.302	0.335	0.045	0.025	0.353
95280	0.272	0.084	0.071	2.385	1.163	0.444	0.336	0.039	0.027	0.377
95281	0.179	0.067	0.086	2.976	1.383	0.321	0.365	0.074	0.026	0.360
95282	0.180	0.062	0.084	2.820	1.351	0.314	0.336	0.081	0.026	0.360
95283	0.148	0.051	0.086	2.813	1.326	0.259	0.302	0.024	0.019	0.269
95284	0.268	0.084	0.068	2.506	1.154	0.468	0.347	0.013	0.027	0.386
95285	0.264	0.077	0.075	2.361	1.133	0.442	0.332	0.085	0.027	0.390
95286	0.177	0.058	0.083	2.776	1.393	0.305	0.331	0.083	0.025	0.356
95287	0.174	0.062	0.091	3.428	1.421	0.294	0.380	0.085	0.025	0.363
95288	0.175	0.063	0.086	3.165	1.369	0.298	0.359	0.050	0.025	0.362
95289	0.175	0.060	0.082	2.776	1.348	0.275	0.344	0.073	0.026	0.361
95290	0.156	0.051	0.086	2.992	1.394	0.296	0.343	0.037	0.021	0.292
95291	0.172	0.065	0.075	2.721	1.295	0.288	0.345	0.048	0.026	0.354
JG - 1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG - 1：標準試料 - Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG - 1 granodiorite and JB - 1 basalt. Geochemical Journal, Vol 8 175 - 192 (1974)

表VII - 17 オルイカ2遺跡出土黒曜石製遺物産地同定結果

分析番号	試料名	遺跡名	出土位置	遺物番号	層位	遺物名	時期	ホテリングのT ⁺ 検定結果(確率)	判定結果	備考
95148	OR2 - 16	オルイカ2	LCS - 1 T - 145	36	VII	細石刃	後期旧石器時代	札幌 K19 遺物群 (24%)	札幌 K19 遺物群	前回報告分、MB - 22
95149	OR2 - 17	オルイカ2	LCS - 4	251	VI	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (84%)、幌加沢 (0.6%)	赤石山	Obs 1
95150	OR2 - 18	オルイカ2	LCS - 4	492	VII	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (7%)、幌加沢 (0.2%)	赤石山	Obs 4
95151	OR2 - 19	オルイカ2	I - 150	2	VI	細石刃	後期旧石器時代	所山 (11%)、常呂川第4群 (0.3%)	所山	Obs 1
95152	OR2 - 20	オルイカ2	J - 150	2	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	《所山 (34%)、常呂川第4群 (2%)》	所山	Obs 1
95153	OR2 - 21	オルイカ2	X - 127	-	V - 2	石槍	縄文時代?	ケシヨマップ第2群 (22%)、台場第2群 (17%)、東麓郷 PR 2 遺物群 (4%)	ケシヨマップ	Obs 1
95154	OR2 - 22	オルイカ2	Z - 137	-	III	石鏃	縄文時代晩期?	十勝三股 (49%)、戸門第1群 (0.8%)、鷹森山 (0.3%)	十勝	Obs 1
95155	OR2 - 23	オルイカ2	LPD - 3 fp 1	-	株土中	フレイク	縄文時代中期	《赤井川第1群 (55%)、赤井川第2群 (32%)》	赤井川	Obs 7
95156	OR2 - 24	オルイカ2	LPD - 5 fc 2	-	床面	フレイク	縄文時代中期	赤井川第1群 (62%)、赤井川第2群 (22%)	赤井川	Obs 8
95157	OR2 - 25	オルイカ2	LPD - 6 fc 1	-	床直	フレイク	縄文時代中期	赤井川第2群 (53%)、赤井川第1群 (20%)	赤井川	Obs 8
95158	OR2 - 26	オルイカ2	LPI - 5	22	坑底	フレイク	縄文時代中期	赤井川第1群 (41%)	赤井川	Obs 7
95159	OR2 - 27	オルイカ2	LFC - 6	-	V - 2	両面調整石器	縄文時代中期?	赤井川第1群 (70%)、赤井川第2群 (39%)	赤井川	Obs 8
95160	OR2 - 28	オルイカ2	LFC - 11	-	V - 2	フレイク	縄文時代中期?	赤井川第1群 (95%)、赤井川第2群 (86%)	赤井川	Obs 7?
95161	OR2 - 29	オルイカ2	O - 128	-	V - 2	フレイク	縄文時代中期?	所山 (47%)、常呂川第4群 (2%)	所山	Obs 9?
95162	OR2 - 30	オルイカ2	X - 133	-	V - 2	フレイク	縄文時代中期?	所山 (31%)、常呂川第4群 (0.3%)、キウス KS 1 遺物群 (0.2%)	所山	Obs 6
95277	OR2 - 1	オルイカ2	LCS - 4	96	V - 2	細石刃核削片	後期旧石器時代	赤石山 (99%)、幌加沢 (2%)	赤石山	Obs 1
95278	OR2 - 2	オルイカ2	LCS - 1 S - 147	4	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (84%)、上白滝 5 ST139 (1%)、幌加沢 (0.1%)	赤石山	前回報告分、MC - 2 と接合
95279	OR2 - 3	オルイカ2	LCS - 1 R - 144	30	VI	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (57%)、幌加沢 (0.2%)	赤石山	前回報告分、MB - 17
95280	OR2 - 4	オルイカ2	LCS - 1 R - 145	9	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	十勝三股 (20%)	十勝	前回報告分、MB - 21
95281	OR2 - 5	オルイカ2	LCS - 2	79	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (80%)、幌加沢 (0.4%)	赤石山	Obs 3
95282	OR2 - 6	オルイカ2	LCS - 2	96	V - 2	フレイク	後期旧石器時代	赤石山 (93%)、幌加沢 (0.7%)	赤石山	母岩 1
95283	OR2 - 7	オルイカ2	LCS - 3	100	V - 2	フレイク	後期旧石器時代	赤石山 (2%)	赤石山	母岩 13
95284	OR2 - 8	オルイカ2	LCS - 3	164	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	十勝三股 (10%)、大釈迦 (0.9%)、鷹森山 (0.3%)	十勝	Obs 1
95285	OR2 - 9	オルイカ2	LCS - 3	301	VII	細石刃	後期旧石器時代	十勝三股 (59%)、戸門第1群 (0.6%)	十勝	Obs 1
95286	OR2 - 10	オルイカ2	LCS - 3	413	V - 2	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (88%)、幌加沢 (2%)	赤石山	Obs 4
95287	OR2 - 11	オルイカ2	LCS - 3	552	VII	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (2%)	赤石山	Obs 1
95288	OR2 - 12	オルイカ2	LCS - 4	8	V - 1	細石刃核	後期旧石器時代	赤石山 (53%)、幌加沢 (0.1%)	赤石山	obs 1、破片
95289	OR2 - 13	オルイカ2	LCS - 4	219	V - 2	フレイク	後期旧石器時代	赤石山 (99%)、幌加沢 (4%)	赤石山	Obs - 3、前回報告 MC 1 と同一母岩
95290	OR2 - 14	オルイカ2	LCS - 4	612	VII	細石刃	後期旧石器時代	赤石山 (25%)	赤石山	Obs 5
95291	OR2 - 15	オルイカ2	LCS - 4	309	VII	フレイク	後期旧石器時代	赤石山 (89%)、幌加沢 (0.6%)	赤石山	母岩 17

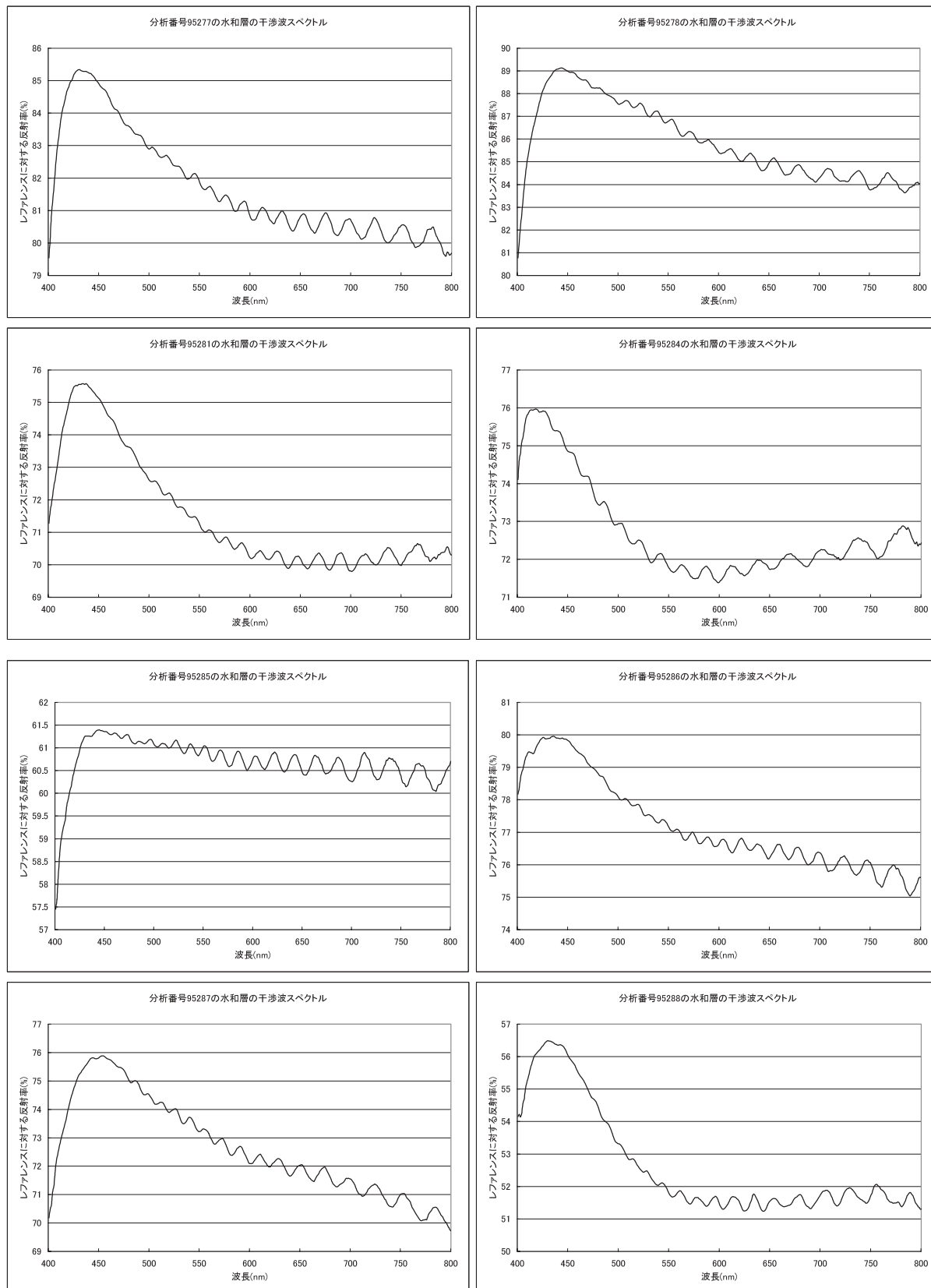
《 》は、ホテリングのT⁺検定結果(確率)を算出するとき0.7mmの厚さ補正をして得られた結果。

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(土器模式的基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要で、本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察する必要があります。

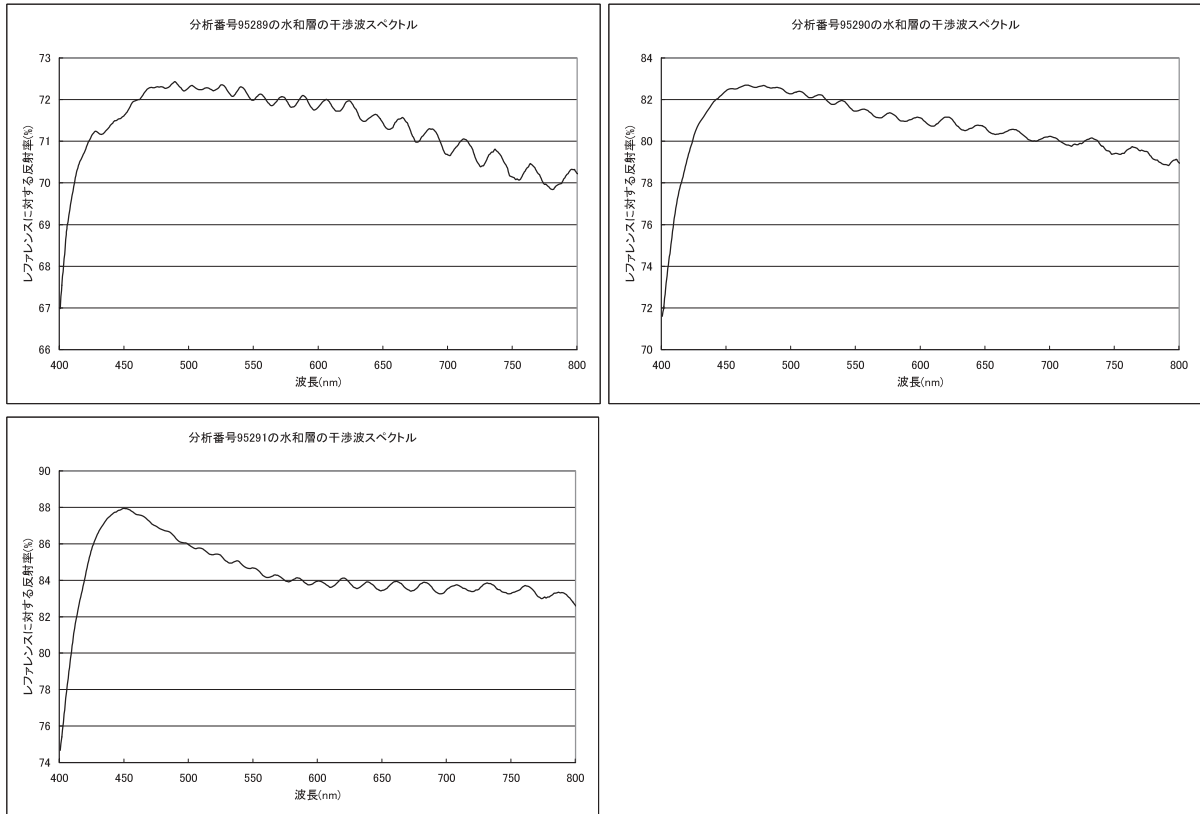
表Ⅶ-18 オルライカ2遺跡出土黒曜石製遺物の水和層年代測定結果

分析 番号	番号	試料名	出土位置	遺物 番号	層位	判定	水和速度 ($\mu\text{m}^2/1000\text{年}$)	水和層の厚さ 3カ所 (μm)	経過年代 (B.P.) (年)			遺物器種名	出土遺物の時代時期	備考									
									各測定箇所	平均値	±標準偏差												
95277	130	OR2 - 1	LCS - 4	96	V - 2	赤石山	1.48	1	6.1329	25,359	25,666	3,298	後期旧石器時代	Obs 1									
								2	6.6528	29,850													
								3	5.6859	21,789													
95278	131	OR2 - 2	LCS - 1 S - 147	4	V - 2	赤石山	1.48	1	5.7917	22,610	25,435	2,611	後期旧石器時代	前回報告分、MC - 2 と接合									
								2	6.0636	24,788													
								3	6.5471	28,908													
95279	132	OR2 - 3	LCS - 1 R - 144	30	Ⅵ	赤石山	1.48	測定不能			細石刃	後期旧石器時代	前回報告分、MB - 17										
								95280	133	OR2 - 4				LCS - 1 R - 145	9	V - 2	十勝	1.56	測定不能			細石刃	前回報告分、MB - 21
																			95281	134	OR2 - 5		
2	7.1174	34,173																					
								3	7.0502	33,530													
95282	135	OR2 - 6	LCS - 2	96	V - 2	赤石山	1.48	測定不能			フレイク	後期旧石器時代	母岩 1										
								95283	136	OR2 - 7				LCS - 3	100	V - 2	赤石山	1.48	測定不能			フレイク	母岩13
																			95284	137	OR2 - 8		
2	4.7987	14,706																					
								3	4.5732	13,352													
95285	138	OR2 - 9	LCS - 3	301	Ⅶ	十勝	1.56	1	6.5387	27,352	27,380	124	後期旧石器時代	Obs 1									
								2	6.5616	27,544													
								3	6.5259	27,245													
95286	139	OR2 - 10	LCS - 3	413	V - 2	赤石山	1.48	1	7.2957	35,909	35,735	1,568	後期旧石器時代	Obs 4									
								2	7.0716	33,734													
								3	7.4614	37,562													
95287	140	OR2 - 11	LCS - 3	552	Ⅶ	赤石山	1.48	1	6.5687	29,099	28,753	660	後期旧石器時代	Obs 1									
								2	6.4241	27,830													
								3	6.5948	29,331													
95288	141	OR2 - 12	LCS - 4	8	V - 1	赤石山	1.48	1	7.8681	41,774	39,427	7,551	後期旧石器時代	obs 1、破片									
								2	8.3695	47,275													
								3	6.5835	29,230													
95289	142	OR2 - 13	LCS - 4	219	V - 2	赤石山	1.48	1	6.8962	32,078	31,248	684	後期旧石器時代	Obs - 3、前回報告 MC 1 と同一母岩									
								2	6.8081	31,263													
								3	6.7140	30,403													
95290	143	OR2 - 14	LCS - 4	612	Ⅶ	赤石山	1.48	1	5.4219	19,808	23,090	5,833	後期旧石器時代	Obs 5									
								2	5.1946	18,177													
								3	6.8106	31,286													
95291	144	OR2 - 15	LCS - 4	309	Ⅶ	赤石山	1.48	1	6.7768	30,975	29,638	1,039	後期旧石器時代	母岩17									
								2	6.6133	29,496													
								3	6.4943	28,442													

表形式の一部を改変 (編者)



図Ⅶ - 10 水和層干渉波スペクトル(1)



図Ⅶ - 11 水和層干渉波スペクトル(2)

VIII まとめ

VIII ま と め

千歳市オリカ2遺跡は、千歳市街地から北東に約6km、馬追丘陵の裾部の標高12~15m付近に位置する。平成14年度に3,230m²、16年度に5,500m²を調査した。その結果、特にアイヌ文化期の住居群（コタン）の跡であることが確認された。また、札滑型細石刃核を含む白滝産黒曜石の旧石器ブロックが検出され、原産地から遠く離れた「消費地遺跡」としての様相を呈している。

第I章-4や各章の概要と記述が重複するが、各時期の遺構と遺物について整理し、まとめとする。

1. アイヌ文化期の遺構と遺物について

(1) 「オリカコタン」の特徴

a. 地理的環境

当時のオリカ2遺跡付近は、東側の丘陵部を背景に、西側にはオリカ川の氾濫原が広がり、北西側には古砂丘の丸子山をはさんで湖沼（オサッター）が広がる光景であったと推察される。

18~19世紀の記録類には、「イザリ」から「シコツ」にかけて、つまり現在の恵庭・千歳市街地側はコタンの様子や数など比較的細かく記されたものがある。オサッターをはさんだ馬追丘陵側は記録類から当時の様相を探るのは困難であるが、近年の発掘調査により馬追丘陵側でも少なくとも樽前a降灰期以前の活動の跡が検出されるようになった。北約1kmにあるチブニー2遺跡、さらに北約1kmにあるキウス4遺跡でも平地住居や建物の跡が検出されており、これらのコタンが同時に存在したわけではないであろうが、「オリカ」（川尻の橋）をわたり馬追丘陵裾部に沿うコタン付近を通る道がある時期から存在した可能性がある。

b. 全体配置の特徴

検出された遺構の内容は、柱穴283基、焼土・灰集中62カ所、カワシンジュガイ集中7カ所である。それらの組み合わせにより平地住居跡9軒、建物跡5棟、杭列4カ所、焼土群4カ所を確認し、単独の柱穴は30基、焼土・灰集中19カ所、カワシンジュガイ集中は1カ所となった。重複遺構がほとんどないことや、単独の柱穴や焼土が少ないことから、比較的明瞭に検出できたものが多い。

平地住居跡や建物跡は、東から西にゆるやかに傾斜する調査区内に広範囲に分布している。全体的には等高線に沿うように帯状に分布しており、西寄りの標高13.0m付近（USD-1・2）、南寄りの標高13.5m付近（USD-3・4・5・8・9、USB-1・2・4・5）、東寄りの14.5m付近（USD-6・7）にある程度まとまっている。炉の検出面にわずかに差があるものがあり各平地住居や建物の構築時期に差があると考えられるが、同時存在の件数は不明である。

杭列について、平地住居跡2の北側および南側にそれぞれ二列が住居の長軸方向に平行して存在する。周囲との境界や干し場などの生活用の施設、儀礼のための施設などが考えられるが、他の平地住居跡周辺からは検出されなかった。

また屋外の焼土や灰堆積層の集中域について、灰送り場を想定して焼土群としてまとめた。これらは平地住居跡の西側にあるものが多く、平地住居跡の規模におおむね比例する傾向にある。平地住居跡1とFP-1・2、平地住居跡2と焼土群1（FP-5・6）、平地住居跡8と焼土群2、平地住居跡9と焼土群3、という組み合わせである。このことから焼土群4の東側、UPH-24・25（柱穴）から調査区外にまたがって対応の平地住居跡が存在することが推測される。

一方、オリイカ2遺跡調査区内では居住域が確認されたものの、墓域が検出されなかった。墓域はやや離れた位置にあるものと思われる。

c. 年代

平地住居跡などの構築面は、住居跡に伴う炉跡や柱穴、棒状礫などの遺物の大部分がⅢ層上面の直下付近で検出されたことから、Ⅲ層上面よりわずかに掘り下げた面と思われる。ただし Ta - a 除去後すぐに現れた灰集みがあることから、Ta - a 降下年代に近い遺構がある可能性がある。発掘調査の結果から、全体としては年代にある程度幅はあるものの、Ta - a 降下年代の1739年より大きくさかのぼる年代ではないと推察した。

第Ⅶ章 - 1 に放射性炭素¹⁴C年代測定値結果を掲載した。アイヌ文化期の遺構出土資料では、補正年代(1σ範囲)で390~120yrBP、暦年代較正(1σ範囲)で1470~1950ADの数値が得られた。確率密度の最も高い年代幅は、補正值で250~350yrBP、暦年代較正で1640年前後の範囲が多い。そこで17世紀にかかる範囲を抽出し表Ⅶ - 7 (p338)にまとめた。同じ遺構で大きな年代差があるもの、Ta - a 降下期以後の年代のもの、分析試料による差など個々に検討を加える必要があるが、全体的には確率密度の高い範囲はすべての試料で17世紀にかかる時期を含んでおり、一部16世紀に時期をもとめられそうな試料もある(USD - 1・7および焼土群2・3の一部の資料)。

年代測定結果によれば、オリイカのコタンは16世紀中ころには営まれており、連続するかどうかは不明であるが、17世紀前半から中葉にかけて主体時期があったことが推定できるようである。

(2) 遺構の特徴

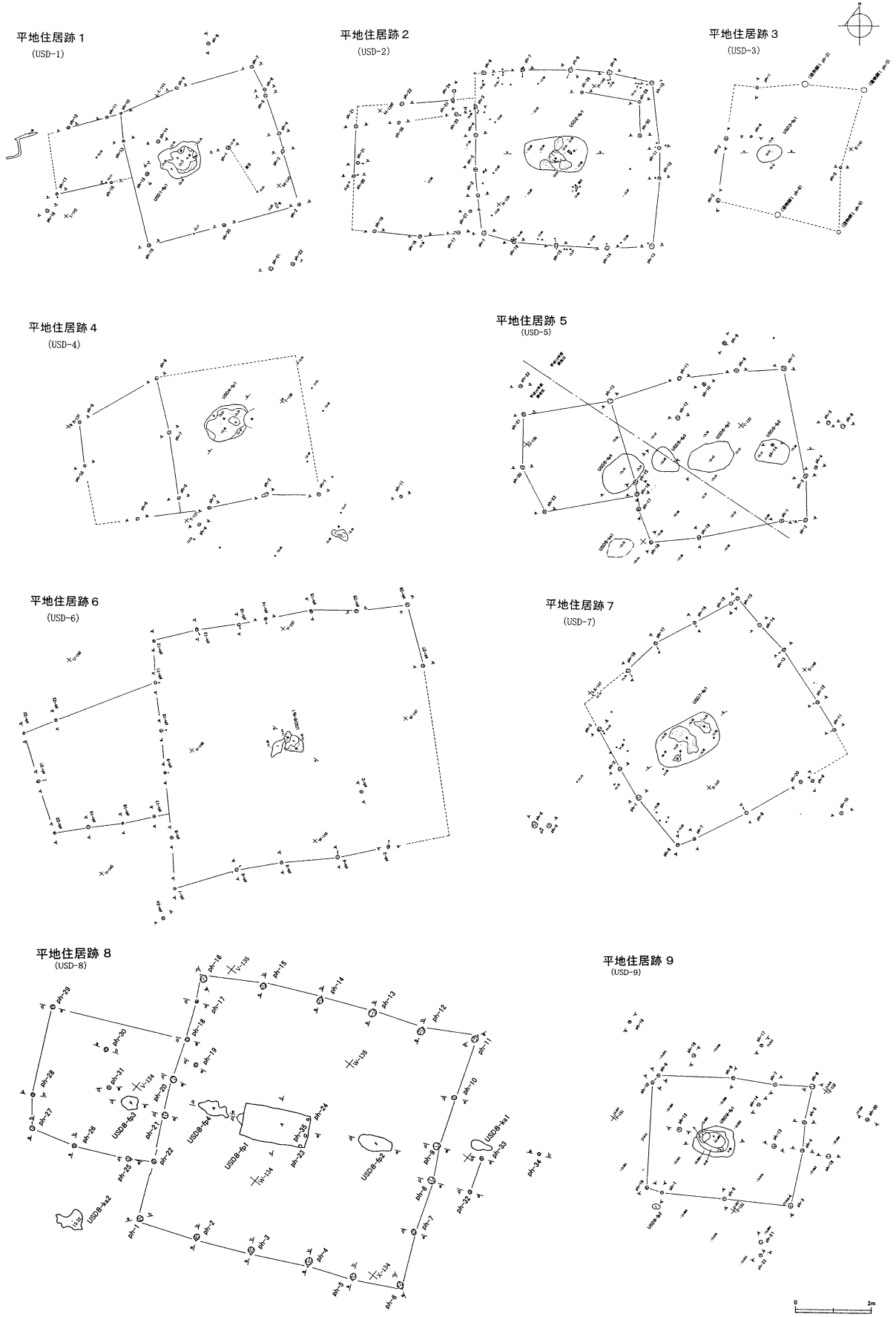
a. 平地住居跡(図Ⅷ - 1)

アイヌ文化に関する記録(『蝦夷島奇観』・『蝦夷生計図説』・『蝦夷紀行』ほか)や住居に関する研究などによれば、住居(母屋)「チセ」は東西を長軸とし、出入り口を兼ねた納屋「セム」が西側にあり、母屋の西寄りに炉「アペオイ」を設け、東側に上座、そして神が宿る窓「ロルンブヤル」があり、その屋外には祭壇「イナウサン」がある、という例が示されている。しかしこれはあくまでも典型的な例であり、実際の発掘調査事例では炉や柱穴の配置、納屋や棚などに相当する付属施設の存在など多様性があることが確認されている(小林2000・2002ほか)。オリイカ2遺跡の平地住居も、前述の資料に非常によく類似するものと異なるものがある。

表Ⅷ - 1 オリイカ2遺跡平地住居跡・建物跡一覧

遺構名	検出層位 (構築面)	標高 (m)	規模			長軸方位	柱穴				炉		備考	
			長辺 (m)	短辺 (m)	面積 (㎡)		本数	径平均 (cm)	深さ平均 (cm)	内傾平均 (°)	数	最大厚 (cm)		被熱層
USD - 1	Ta - a下	13.1	6.4	3.9	19.4	N - 74° E	18	8.1	37.2	*	1	17	Ⅲ層上位下位	
USD - 2	Ta - a下	13.0	8.1	4.7	32.3	N - 90° E	31	7.5	46.2	*	1	22	Ⅲ層~Ⅴ層上面	
USD - 3	Ta - a下	13.4	3.8	3.3	10.9	N - 83° W	5	7.4	39.5	*	1	11	Ⅲ層~Ⅳ層上面	USB - 1と重複
USD - 4	Ta - a下	13.4	6.0	3.7	20.1	N - 80° E	11	7.5	32.5	*	1	11	Ⅲ層~Ⅳ層上面	
USD - 5	Ta - a下	13.4	7.5	4.3	25.0	N - 85° E	19	7.7	34.5	1.5	4	15	Ⅲ層上位~下位	
USD - 6	Ta - a下	14.4	10.6	6.6	56.0	N - 80° E	25	7.2	41.6	*	1	7	(Ⅲ層)~Ⅴ層上面	
USD - 7	Ta - a下	14.2	5.2	5.1	25.5	N - 58° E	17	9.1	36.8	*	1	23	Ⅲ層~Ⅳ層中	セム有り?
USD - 8	Ta - a下	13.3	11.0	7.0	61.2	N - 79° W	31	10.0	52.3	6.6	4	21	Ⅲ層~Ⅴ層上面	
USD - 9	Ta - a下	13.6	4.0	3.3	12.4	N - 86° W	21	6.6	31.1	1.2	1	13	Ⅲ層上位~下位	
USB - 1	Ta - a下	13.5	3.9	3.1	11.4	N - 9° E	9	11.3	62.6	*				USD - 3と重複
USB - 2	Ta - a下	13.6	2.7	2.5	6.6	N - 48° E	6	*	45.3	0.3				
USB - 3	Ta - a下	13.2	4.5	2.0	*	N - 21° W	3	*	40.7	0.0				
USB - 4	Ta - a下	13.1	4.0	3.3	12.0	N - 49° E	9	11.9	57.0	1.1				
USB - 5	Ta - a下	13.3	4.8	3.4	12.9	N - 53° W	12	7.4	40.5	2.3				

*計測値不明または困難なもの



図VIII - 1 オルイカ2 遺跡平地住居跡集成

・付属施設について、母屋のみのももの(平地住居跡3・7?・9)と「セム」が付属するもの(平地住居跡1・2・4・5・6・8)がある。平地住居跡2・5には壁を構成する柱穴のラインに平行して内側に小規模な柱穴が並んでいる部分がある。これは祭壇や寝床などを設けるための補助的な柱穴に相当するものと思われる。なお平地住居跡3は建物跡1と重複すると考えたが、建物跡1の周囲の補助的な柱穴であることも否定できない点を付け加えておく。

・方位について(表Ⅷ-1) おおむね東西を長軸とし正方位から15°前後の範囲におさまる。しかし、平地住居跡7は北東-南西方向に長軸をもち大きく異なる。立地状の制約は他の住居付近と大差ないと考えられ、植生などの環境や東方向へのこだわり方、時期の違いなどが考えられる。

・規模について(表Ⅷ-1・2) ①母屋の長軸4m前後(平地住居跡1~5・9) ②母屋の長軸5m前後(平地住居跡7) ③母屋の長軸7m以上(平地住居跡6・8)のものがある。必ずしも同様ではなく居住人数などにより異なると考えられるが、大小を区別するならば①・②は小型の住居「ポンチセ」、③は大型の住居「ポロチセ」に相当する。また母屋の長軸と短軸の長さの比は平均100:93で、正方形に近い長方形になっている。一方「セム」はおおむね母屋の規模に依っているが、多様である。

・柱穴について(表Ⅷ-1) 各平地住居跡から10~30基程度検出されている。「ポンチセ」の母屋を構成する柱穴が11~16基、「ポロチセ」が17~22基である。また母屋「チセ」に加えて、「セム」を構成する柱穴が3~8基検出されている。「ポンチセ」の径は平均7~8cm、構築面からの深さは平均30~40cmのものが多い。「ポロチセ」の平地住居跡8の径は平均10.0cm、母屋に限れば平均11.6cm(検出面で15.3cm)で、深さは平均52.3cm、母屋で平均60cmを超える。おおむね規模に応じた柱穴になっているが、中には平地住居跡6のように大型でありながら柱穴の径が小さいものもみられる。

柱穴の形状は、検出面(平地住居の構築面)から10cm程度(Ⅲ層からTa-cにかけて)は椀状あるいはろうと状、中間部はほぼ均一な円筒形で、先端が尖るものが多い。下部側面には材を面取りした跡が観察されるものもある(平地住居跡2・8ほか)。また柱穴は住居内側に傾いているものが多く、「ポンチセ」で平均1~2°、「ポロチセ」の平地住居跡8で平均6.6°、母屋では平均9°に達しており、特に住居の角にあたる柱穴では20°以上になっているものがある。ある程度の掘り方を設け、打ち込み杭により「外ふんばり」で上屋構造を支えていたことがうかがえる。

・炉について、すべての平地住居跡において母屋の中央やや西寄りにある。ただし平地住居跡5・8は母屋東寄りにも炉をもち、「セム」の側にも灰混じりの薄い焼土がある。中心となる炉は灰が厚く堆積し、もう一方の炉は焼土主体である。何らかの役割・用途の違いがあるものと思われる。炉は厚さ10~20cmで、①炭化物や動植物遺存体を多く含む薄層、②厚い灰層、③被熱層があり、被熱層はTa-cに達しているものが多い。炉は楕円形を呈するが、上面において灰や焼土が長方形に広がっているものは、木枠などで囲んでいたと思われる。さらに明瞭な例として、千歳市トメト川3遺跡5号平地住居跡の炉があり、長方形で周囲に溝がある。炉の縁辺部には棒状の小さな穴が多数検出されており、食生活や儀礼の際に差し込まれた棒の跡と考えられる(平地住居跡8・9ほか)。また炉の東側の角に、作業台の跡や灯明台とみられる杭状の材が残っているものがある(平地住居跡1・5・8)。

b. 建物跡

建物跡としたものは、①田の字を呈する9本配列が2棟(USB-1・4) ②6本配列が2棟(USB-2・3、ただしUSB-3は推定) ③やや不規則な配列のもの(USB-5)がある。①の柱穴の径は平均11~12cm、深さ平均60cm前後で、②・③の柱穴の径は平均7~8cm、深さ40~45cmである。長軸方位は多様である。①は柱穴が太く深いうえ、中央部にも太い柱穴があることから、高床の倉庫などの施設が想定される。それに対し②・③は細い材でも耐えうる小型の建築物が想定される。

c. 灰送り場

平地住居の炉以外の個々の焼土・灰集中45ヵ所について、被熱層と堆積物から①灰が主体のもの（灰集中）②灰と焼土が主体のもの、③焼土が主体のものに分けられる。これらが集中する範囲4ヵ所を焼土群としてまとめた。すべての焼土群において大木の根がはったような跡があり、樹木付近に選地したモノ送り場と考えられる遺構である。焼土群1・3・4は2～3ヵ所の焼土（灰集中）で構成され、径が2mを超える②が主体である。一方焼土群2は③径50cm程度で被熱層が2cm前後の焼土が多いものの、主体は①灰集中で、UFP-33・34は径1m以上・厚さ10cm以上の灰が堆積している。灰の中からは多量の動物遺存体が含まれるほか、鉄片・火打石片・漆の塗膜など平地住居跡の炉や周辺と同様の遺物が出土しており、密接な関係がある。また焼土群2・3の範囲にはカワシンジュガイの集中箇所がある。内側を上にしてまとめて捨てた（置いた）ように観察できるものが多い。

(3) 出土遺物の特徴

礫（棒状礫・焼礫含む）約450点、火皿1点、金属製品80点（破片で160点）、ガラス玉7点、漆器（塗膜のみ）が出土した。またカワシンジュガイをはじめ、多量の動物遺存体が含まれていた。

・礫はその多くが平地住居跡、特に壁際付近から出土している。棒状礫は200点以上出土している。長さ5～6cm・幅3cm前後に大きさが整っているものが多い。意図的に大きさをそろえて集められており、編物の錘石などの用途が考えられる。またチャートや珪酸分の多い石材の礫片は火打石とみられるものが多く、それらを打ち欠いたと思われる細かい礫片が平地住居跡の炉から多数検出された。

・石製品として、火皿が1点出土した。千歳市トメト川3遺跡で完形品が出土している。

・鉄製品は、刀子や鉄鍋・鎌などの製品（の一部）が少数出土し、中には銅や木質を含んだ複雑な構造をもつものが見られた。しかし大部分は曲がったり折れたりした釘など小型のものである。本州からもたらされたであろうこれらの鉄片を利用して、小規模な製鉄作業が行われたことが考えられるが、調査区内でそのことを示す鍛冶遺構などの施設は検出されなかった。

このほか、刀装具や装飾的な留め金と推察される銅製品、古銭が2点（北宋銭1点・明銭1点）、ガラス玉9点、漆器の一部など、装飾品とみられる遺物がわずかに出土している。

・動物遺存体は、平地住居跡の炉や焼土群、特にその上面や灰層から2kgに及ぶ量が出土した（フローテーション回収含む）。哺乳類・鳥類・魚類・甲殻類・貝類など多様である。哺乳類のうちシカの角や四肢骨が平地住居の東側から出土しており、屋外での儀礼をうかがわせる。魚類は特にサケ科・コイ科（主にウグイ）が多く、椎骨がつながった状態で検出されたものもあった。頭部から尾部まで各部位がみられ、盛んに消費していたことが伺える。貝はカワシンジュガイ（殻皮）が多量に出土している。またエゾバイ科やタマキガイ科、チシマフジツボといった、淡水産以外の貝や甲殻類が含まれており、千歳川やオサツトーなど周辺で捕獲できうる魚介類以外のものも少量得られている。

・植物遺存体について、フローテーション法により多量の炭化種子を回収し、同定を樁坂泰氏に依頼した（Ⅶ章-3）。その結果、栽培植物ではイネのほかアワ・ヒエ・シソ・アサが検出され、擦文期にはよくみられたオオムギ・コムギが検出されなかったということである。このことは、近年周辺遺跡での発掘調査によって得られたアイヌ文化期の資料と同様の組み合わせであるという（ただしオルイカ2遺跡ではキビは検出されていない）。イネは主な平地住居跡（2・5・8）の炉や焼土群2の灰集中（UFP-34）などからわずかに出土しているが、形態的に変異幅が大きく、多種のものが少量ずつ得られていたようである。また穀物がデンプン化したとみられる炭化物がやや多量に同定されている。これらは乾燥作業やカムイノミなどの儀礼的行為において炉に入ったと推察される。

表Ⅷ - 2 アイヌ文化期平地住居跡検出例(炉あり)

市町村	遺跡名	遺構名	構築面	規模						長軸方位	柱穴		炉			備考	
				主体部			付属部				本数	構築方法	数	形状	堆積層		
				長軸(m)	短軸(m)	単位	長軸側(m)	短軸側(m)	主体部								付属部
千歳市	オルイカ2遺跡 (2003・2005)	平地住居跡1	Ta-a下	4.1	3.9	4×2	2.2	1.7	N-74°E	11	4	打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土	炉炭325±25yBP	
		平地住居跡2	Ta-a下	4.8	4.7	4×3	3.3	3.6	N-90°E	16	8	打ち込み	1	隅丸長方形	炭・灰・焼土	炉炭380±40yBP	
		平地住居跡3	Ta-a下	3.8	3.3	3×			N-83°W	5		打ち込み	1	楕円形	焼土	炉炭320±40yBP	
		平地住居跡4	Ta-a下	3.7	3.7	3×	2.3	3.6	N-80°E	6	3	打ち込み	1	楕円形	灰・焼土	炉炭270±25yBP	
		平地住居跡5	Ta-a下	4.6	4.2	3×3	2.8	2.6	N-85°E	11	4	打ち込み	2+2	楕円形	炭・灰・焼土	炉炭380±40yBP	
		平地住居跡6	Ta-a下	7.3	6.6	6×5	3.6	3.4	N-80°E	17	7	打ち込み	1	(不整形)	灰・焼土		
		平地住居跡7	Ta-a下	5.2	5.1	4×5	(3.7)		N-58°E	16	(2)	打ち込み	1	隅丸長方形	炭・灰・焼土	炉炭315±25yBP	
		平地住居跡8	Ta-a下	7.4	7.0	5×5	3.6	3.4	N-79°W	22	5	打ち込み	2+2	長方形・楕円形	炭・灰・焼土	炉炭350±25yBP	
		平地住居跡9	Ta-a下	3.3	2.6	3×3			N-86°W	11		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土		
	オルイカ1遺跡	USD-1	Ta-a下	4.4	3.4				N-62°E	5			2	楕円形	灰・焼土		
	チブニー2遺跡 (2004)	UH-1	Ta-a下	3.3	2.9				N-10°E	5		打ち込み	1	楕円形	焼土	青磁碗	
		UH-2	Ta-a下	4.5	3.3				N-50°E	6		打ち込み	1	楕円形	焼土		
	梅川4遺跡 (2002)	建物跡2	Ta-a下	4.0	3.8	3×3			N-57°W	13		打ち込み	1	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土		
		建物跡3	Ta-a下	4.0	3.5	3×3			N-58°W	11		打ち込み	1	楕円形	炭・焼土	建物跡4より古い	
		建物跡4	Ta-a下	4.4	3.9	3×3			N-57°W	11		打ち込み	1	楕円形	炭・焼土	建物跡3より新しい	
		建物跡5	Ta-a下	5.6	5.1	6×6			N-80°E	21		打ち込み	1	楕円形	炭・焼土・灰		
	トメト川3遺跡 (2004)	1号平地住居跡	Ta-a下	8.5	6.3	6×5	4.2	3.2	N-73°W	20	10	打ち込み	2	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土	唐津播鉢	
		2号平地住居跡	Ta-a下	9.0	6.3	7×5	2.7	4.0	N-88°E	21	5	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土	炉炭510±40yBP	
		3号平地住居跡	Ta-a下	6.0	5.4	5×5	3.1	2.7	N-87°E	18	9	打ち込み	2(3)	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土	1号より古い	
		4号平地住居跡	Ta-a下	6.0	6.4	4×5	3.2	4.0	N-84°E	17	9	打ち込み	2(2)	楕円形	炭・灰・焼土	2号より新しい	
		5号平地住居跡	Ta-a下	4.0	4.2	4×5	2.5	2.5	N-68°W	16	7	打ち込み	3	長方形	炭・灰・焼土	炉の周囲に溝	
	オサツ2遺跡 (2002)	1号平地住居跡	Ta-a下	8.2	(5.3)	6×5	3.9	3.3	N-80°W	11	7	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土	炉種300±30yBP	
		2号平地住居跡	Ta-a下	7.3	5.8	4×5	3.4	3.2	N-22°W	18	7	打ち込み	2	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土	炉種370±30yBP	
		3号平地住居跡	Ta-a下	6.7	6.0	5×5	3.4	2.9	N-87°W	18	7	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土		
	4号平地住居跡	Ta-a下	6.8	5.8	5×5	3.2	3.4	N-72°E	19	7	打ち込み	2(2)	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土	炉種290±30yBP		
	5号平地住居跡	Ta-a下	5.4	(3.7)	5×5	3.5	(2.3)	N-70°W	11	5	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土			
	6A号平地住居跡	Ta-a下	8.0	5.8	6×5	(2.8)	(2.8)	N-80°W	15	1	打ち込み	1+1	楕円形	炭・灰・焼土			
	6B号平地住居跡	Ta-a下	(3.5)	3.6	(3)×3			N-29°E	7		打ち込み	1	おおむね楕円形	灰・焼土			
	7号平地住居跡	Ta-a下	4.8	4.6	3×3	2.7	2.5	N-48°E	12	6	打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土			
ユカンボシC2遺跡 (2002)	51号平地住居跡	Ta-a下	4.2	4.0	3×3			N-72°E	10		2(2)	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土	炭化材多量			
	52号平地住居跡	Ta-a下	4.7	(3.3)				N-75°W	11		2(2)	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土				
	53号平地住居跡	Ta-a下	6.3	4.8		2.8	(1.9)	N-79°W	12	5	2(2)	おおむね隅丸長方形	炭・灰・焼土				
	55号平地住居跡	Ta-a下	5.9	(4.1)	×5	3.1	(3.1)	N-60°W	12	5	2(7)	隅丸長方形	炭・灰・焼土	長大な炉			
ユカンボシC15遺跡	H-1	Ta-a下	12.0	6.5	3×2			N-78°E	10		2	楕円形	灰・焼土				
未広遺跡 (1985・1996)	掘立列-8	Ta-a下	(3.4)	4.0	×4			N-29°W	10		1	楕円形	灰・焼土				
	掘立列-9	Ta-a下									(3)	楕円形	灰・焼土				
	建物-12	Ta-a下	(6.2)	(3.6)				N-88°W	8		2	長楕円形	灰・焼土				
恵庭市	カリンバ1遺跡 B地点 (2005)	1号建物跡	Ta-a下	6.6	5.3	4×5	3.3	2.7	N-60°W	18	8	打ち込み	1	ほぼ円形	灰・焼土		
		2号建物跡	Ta-a下	5.8	5.0	4×5	2.9		N-73°W	18	4	打ち込み	1	ほぼ円形	焼土		
		3号建物跡	Ta-a下	5.4	4.9	4×5	3.3	3.1	N-58°W	21	9	打ち込み	1	不整形楕円形	焼土		
	カリンバ1遺跡 C・B地点 (2005)	AH-1	Ta-a下	8.0	5.7	×5			N-61°W	14		3	楕円形	灰・焼土	焼土広範囲		
		AH-3	Ta-a下	(6.0)	5.5	4×5			N-60°W	9		打ち込み	3	ほぼ楕円形	焼土	内部柱穴多数	
		AH-4	Ta-a下	6.5	5.2	4×4			N-84°W	18		打ち込み	4	楕円形・不整形	灰・焼土	焼土多数	
		AH-5	Ta-a下	8.6	6.0	6×5	6.1		N-50°W	23	10以上	打ち込み	2	不整形楕円形	焼土	付属柱穴多数	
		AH-5	Ta-a下	6.6	4.9	6×5			N-37°E	21		打ち込み	3+1	不整形楕円形	炭・焼土	炭化材多量	
	カリンバ2遺跡 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ地点 (1998)	AH-9	Ta-a下	5.7	4.5	3×3			N-86°E	10		打ち込み	1	楕円形	炭・焼土		
		AH-20	Ta-a下	4.8	4.2	3×			N-12°W	8		打ち込み	1	不整形楕円形	焼土		
		AH-37	Ta-a下	5.6	4.7	4×5			N-78°W	21		打ち込み	1	楕円形	灰・焼土	建て替え	
		AH-45	Ta-a下	7.7	6.1	8×5			N-60°W	27		打ち込み	1	楕円形	焼土		
		AH-47	Ta-a下	9.5	6.8	7×5			N-9°W	19		打ち込み	2	不整形	灰・焼土		
		AH-47	Ta-a下	9.5	6.8	7×5			N-9°W	19		打ち込み	2	不整形	灰・焼土		
	カリンバ2遺跡 Ⅶ地点 (2005)	1号建物跡	Ta-a下	5.7	4.5	3×2			N-12°W	10		打ち込み	2	不整形楕円形	焼土		
		2号建物跡	Ta-a下	8.8	7.5	7×7			N-55°W	30		打ち込み	1	不整形楕円形	灰・焼土	4号より新しい	
		4号建物跡	Ta-a下	4.5	3.6	3×3			N-87°W	12		打ち込み	1	不整形楕円形	焼土	2号より古い	
		5号建物跡	Ta-a下	6.1	5.1	4×5			N-81°W	19		打ち込み	1	楕円形	灰・焼土		
		6号建物跡	Ta-a下	8.9	6.4	5×5			N-24°W	21		打ち込み	1	ほぼ円形	灰・焼土		
		8号建物跡	Ta-a下	6.9	5.6	4×5	4.2	4.0	N-76°E	18	9	打ち込み	1	不整形楕円形	灰・焼土		
		9号建物跡	Ta-a下	5.9	4.8	4×3			N-78°E	14		打ち込み	2	楕円形	灰・焼土		
		10号建物跡	Ta-a下	8.1	6.3	5×5			N-72°E	20		打ち込み	3	不整形楕円形	灰・焼土		
		カリンバ4遺跡	10号建物跡	Ta-a下	5.3	4.1	5×			N-46°W	14		打ち込み	1	不整形楕円形	灰・焼土	炉炭380±40yBP
		恵庭公園遺跡	1号建物跡	Ta-a下	8.2	6.2	6×5			N-81°W	19		打ち込み	3	楕円形	焼土	
平取町	二風谷遺跡 (1986)	ⅢH-1	Ta-b下	2.9	3.1	2×2	3.8	1.8	N-46°E	8	5	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土		
		ⅢH-2	Ta-b下	6.3	4.0	3×3			N-58°E	10		打ち込み	2	楕円形	灰・焼土		
		ⅢH-3	Ta-b下	5.1	3.5	4×			N-45°E	12		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土		
		ⅢH-4	Ta-b下	5.4	3.6	4×2			N-34°E	11		打ち込み	1+5	楕円形	焼土		
		ⅢH-10	Ta-b下	4.4	4.2	4×3	2.7	2.7	N-54°E	14	7	打ち込み	2	楕円形	炭・灰・焼土		
	イルエカシ遺跡 (1989)	1号址	Ta-b下	6.5	5.6	5×5			N-89°E	20		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土	重複遺構有り	
		3号址	Ta-b下	5.0	4.0	5×5			N-89°W	19		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土		
		5号址	Ta-b下	9.5	7.5	5×			N-89°W	19		打ち込み	3	楕円形	炭・灰・焼土		
		6号址	Ta-b下	7.5	6.0	7×6			N-10°E	20		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土		
		7号址	Ta-b下	7.5	7.0	6×5			N-69°E	23		打ち込み	1	隅丸長方形	炭・灰・焼土	16号址より新しい	
		9号址	Ta-b下	4.6	3.6	3×3			N-69°E	12		打ち込み	1	楕円形	炭・灰		
		10号址	Ta-b下	4.7	4.2	3×3	1.5		N-79°E	10	3	打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土		
		16号址	Ta-b下	6.6	5.1	4×5			N-5°E	18		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土	7号址より古い	
		17号址	Ta-b下	3.8	3.3	3×			N-80°E	8		打ち込み	1	楕円形	炭・灰・焼土	隅に土坑・集石	
18号址	Ta-b下	10.2	7.3	7×5			N-66°E	30		打ち込み	4	楕円形	炭・灰・焼土	付属施設有?			
亜別遺跡	H-1	Ta-b下	6.5	6.4	5×6			N-46°E	20		打ち込み	1	隅丸長方形	炭・灰・焼土			

そのほか野生種ではイネ科・カヤツリグサ科・アカザ属など野原・畑地・湿地の環境に生育する草本類、タラノキ属・ニワトコ属・キハダ属・ブドウ科といった落葉性の低木～小高木を主体とする木本類など、「オルイカコタン」の周辺環境がうかがえる種子が検出されている。

・平地住居跡の炉や焼土群から出土した炭化材の樹種同定を依頼した。サクラ属・ブドウ科・コナラ節・トネリコ属・クリ・モクレン属・ニレ属といった、多種の落葉広葉樹が使用されたという結果である。遺跡周辺に繁茂する比較的硬質な樹木を燃料材や建材として利用したことが推察される。

(4) 周辺遺跡での平地住居跡の検出例と分類・検討例

発掘調査により検出された平地住居跡や建物跡についての言及は、まず平取町二風谷遺跡の報告がある。立地や遺物とあわせて建物跡の構造を詳細に検討している（三浦正人・1986北埋調報26）。そして同町イルエカシ遺跡の調査に基づく考察があり、アイヌ文化に関する記録を十分に用いて立地や建物の構造、集落の廃絶などについて検討している（豊原熙司・1989平取町遺跡調査会）。さらに恵庭市カリンバ2遺跡では40軒をこえる建物の跡が検出され、分類を行った上で用途が検討されている。「打ち込みの柱穴による建物」と「掘立柱建物跡」に大別し、柱穴の数の違いからA・B・C群に分類し、さらに細分を行っている（上屋眞一・1998恵庭市教育委員会）。一方小林孝二氏は、近世～近代資料を用い、建築学的な面から住居に関する検証と成立過程を考察している（小林2000・2002）。多くの「地上柱穴列遺構」をa.4本柱列型・b.6本柱穴列型・c.9本柱穴列型、d.側柱穴型、e.内柱穴型に分類したうえで検討し、住居・建物の配置や構造に多様性があることを強調している。

表Ⅷ-2は、千歳市・恵庭市・平取町における近年の発掘調査によって検出されたTa-a（またはTa-b）降下以前のアイヌ文化期の遺構のうち、炉（焼土）が確認された建物の跡、つまり住居跡の可能性が高い遺構を集成した表である（「側柱穴列」であっても、削平等により炉が検出されなかったものも除外してある）。述べるべき点は多々あるが、ここでは上記のように限定された範囲での一覧表を掲載し、特徴を例示するにとどめておく。

- ・柱穴の配列はそのほとんどが打ち込み杭による「側柱穴型」（小林2000）である。
- ・規模は母屋の長軸が2.9～12.0mとさまざまであるが、4～6mと7～9mが多い。
- ・「セム」はほとんどの平地住居跡にある遺跡と少数ある遺跡、ない遺跡があり、多様である。
- ・方位について、遺跡内でおおむね東西を長軸とする平地住居が多い中、異方向が少数含まれる遺跡が目立つ。また東西正方位から大きく外れる住居跡ばかりの遺跡もある。これらは立地・時期・全体配置など個々の遺跡について検討する必要がある。

・表において「単位」としたものは、補助的な柱穴を除いた上での柱間の数である（一部推定）。長軸側は3～7単位で必ずしも規模相応ではない。一方短軸は柱間距離が短く（特に中央部）3単位あるいは5単位が多い。上屋構造建築の手順や「神窓」の設置に大きくかわるものと思われる。

・炉は厚い灰を蓄えた焼土が多いが、焼土のみのもも少数見受けられる。また平地住居内に1ヶ所に限らず、複数存在するものも多い。その場合、規模・形状・堆積層が異なるものがほとんどで、何らかの役割の違いがあることが考えられる。

擦文時代以来の住居の変遷過程を考慮するならば、4本柱穴をはじめ、他の配列や炉のない（残存していない）建物の跡についても住居としての検討を行う必要がある。ここでは炉のある住居としての建物跡に限定した資料についてのみ掲載したが、多様である平地住居にもその構造や配置にある程度の類似点があり、技術的・精神的共通性をうかがい知ることができるとともに、厳格に規定されるわけではない環境を考察することが課題である。

（阿部）

2. 縄文時代の遺構と遺物について

(1) 遺構の特徴

2ヵ年度の調査で、縄文時代の遺構は竪穴住居跡7軒、土坑27基、Tピット11基、焼土217ヵ所、土器集中9ヵ所、フレイク集中11ヵ所、礫集中1ヵ所、粘土集中2ヵ所が検出されている。その内、焼土に関しては列状に配置された「焼土列」が2ヵ所、不整形な焼土が密集して検出された「焼土群」1ヵ所を含む。分布はA・B地区が中心でC地区は密度が薄い。

・竪穴住居跡の時期は全て縄文時代中期中葉天神山式(Ⅲ群b-1類)期である。平面形は円形ないし楕円形を基調とし、大きさは長軸2~3mのものが多く、LPD-6は大形で長軸が約8mある。付属施設では、炉と考えられる焼土を伴うもの(LP D-1・6・7)と明瞭な焼土を伴わないもの(LP D-2~5)に分けられ、前者は床面中央よりややずれた場所に焼土が位置する。柱穴は全体的に不明瞭で上屋構造を推定できるものは少ないが、LPD-7では竪穴外で柱穴が検出されている。遺物は全般的に床面出土のものは少ないが、床面で黒曜石のフレイク集中が検出された竪穴住居跡(LP D-1・2・3・5・6)があり、住居内で石器製作を行っていた可能性がある。

・土坑の時期は、大きく縄文時代中期・早期に分けられる。LPI-1・5・6・は中期中葉の天神山式(Ⅲ群b-1類)期で、LPI-2~4・7は中期と考えられる。LPI-8・20は早期である。他の土坑は時期不明が多いが、検出層位や周辺の遺物出土の状況から縄文時代早期~中期の可能性が高い。形状は円形・楕円形のものが多く、規模は比較的大形のもの(LPI-1~5・7・9~12・20~22)と小形のもの(LPI-6・8・13~19・23~27)に分けられる。小形のものは近接するもの(LPI-13~18、LPI-23・24・26・27)がある。性格は不明なものほとんどだが、LPI-5は坑底付近の遺物出土状況から墓の可能性があり、立地・形状が類似するLPI-7も同様である。

・Tピットは小型の8基は間隔が狭く曲線状に並び、一方、長さ3m以上で深さ1.5m以上の大型の3基は広い間隔で直線状に並んでいた。

・焼土のうち焼土列としたものは、赤褐色に厚く被熱している(10~20cm)焼土が二列並列するもので、端部は閉じている。千歳市オサツ16遺構の報告書で「二列並列焼土」(大島秀俊・1998文化財保護協会)と呼称されたものである。近隣の遺跡では、キウス4遺跡で縄文時代早期後半~前期とみられる二列の焼土と柱穴列が検出されており、大量の焼骨片が出土していることから、「動物質食料加工を行う「作業場」として使用」したことが推察されている。また縄文時代中期中葉とみられるものでは、千歳市オサツ16遺跡・オサツ18遺跡でそれぞれ1ヵ所、恵庭市カリンバ1遺跡C・E地点では6ヵ所もの「二列並列焼土」が検出されており、オリイカ2遺跡検出の2ヵ所の「二列並列焼土」はこれらに酷似する。三角形土製品が多出する点や、大型の住居が検出される点などの類似点もある。オサツ16遺跡の報告では、祭祀的な性格や効率性などが考察されている。

・土器集中は、縄文時代前期前半(Ⅱ群a類)1ヵ所(LCP-4)、中期中葉(Ⅲ群b-1類)2ヵ所(LCP-2・6)、後期初頭(Ⅳ群a類)1ヵ所(LCP-1)、縄文時代晩期後葉(Ⅴ群c類)3ヵ所(UCP-1~3、LCP-3・5)がある。フレイク集中は検出層位や周辺出土の遺物から縄文時代中期~後期と考えられるが、竪穴住居跡床面からもフレイク集中が検出されるものがあるため、竪穴住居と同時期の可能性もある。礫集中、粘土集中は時期不明である。

・遺構の年代について、出土炭化材の¹⁴C年代測定を依頼した。縄文時代中期中葉と考えられるLPD-2・6・7は、補正年代で4,375~4,140yrBP(較正暦年代3,120~2,580BC)、縄文時代早期と考えられるLPI-20は補正年代で6,265±40yrBP(較正暦年代5,300~5,050BC)という結果が出た(Ⅶ章-1)。

(2) 出土遺物の特徴

2カ年度の調査で出土した縄文時代の遺物の総点数は102,000点で、内訳は土器等36,701点、石器等65,299点である。ただし石器等は平成14年度調査におけるⅢ層出土のアイヌ文化期の棒状礫等を含んだ点数であり、実数は少し減る。その内遺構出土の遺物総点数は58,893点で、内訳は土器等7,041点、石器等48,852点である。包含層出土の遺物総点数は46,107点で、内訳は土器等29,660点、石器等16,447点である。土器等の内訳は、縄文時代早期6,296点、前期466点、中期15,527点、後期2,334点、晩期11,649点、続縄文時代42点、不明237点である。また土製品が150点出土している。石器等の内訳は石鏃などの道具類が1,181点、フレイクが62,272点、礫が1,892点である。また、石製品が10点出土している。

・土器は、縄文時代早期から続縄文時代のものが出土しており、主体は縄文時代中期と晩期である。早期は東釧路Ⅲ・Ⅳ式が多く出土している。中期では天神山式が大部分を占めている。口唇が肥厚し断面三角形になるものが多く、口縁部から胴部にかけて貼付隆帯+押引文で装飾されるものが多い。また北筒式が多く出土している。天神山式の胎土や色調と類似するものも多いことから、あまり時期をおかないものと考えられる。晩期ではタンネトウⅠ式（あるいはママチⅢ類）が目立つが、赤彩土器片も含めて大洞A式の影響を受けた土器も見られる。また樽前c降下軽石層をはさんで上下から出土しているが、型的に大きな差はなかった。

土製品について、三角形土製品が110点出土している。各竪穴住居跡および包含層から出土しているが、特に竪穴住居跡1では、柱穴周辺と壁際でかたまると合計34点出土した。これらは大きさ3cm前後の画一的なもので、すべて縄文時代中期天神山式の土器片を用い、外面を低い円錐にすりおろしている。また、縄文時代早期東釧路Ⅲ式の土器片を用いた土器片再生円盤が12点のほか、土偶または動物形土製品のの一部や焼成粘土塊が少数出土している。

・石器はフレイクが石器等全体の95%以上を占め、いわゆる製品（定形的石器）は少数である。剥片石器群では石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器などがあり、石鏃が236点と最も多く、次いでスクレイパー93点、両面調整石器91点となる。磨製石器群では石斧（破片・フレイクを含む）が534点出土しているが、その多くが石斧製作時のフレイクと考えられる。礫石器群はたたき石、すり石、砥石、石皿・台石などがあるが、全体的に少数である。以上のように、製品よりも石器製作時に生じたと考えられるフレイク類が大多数を占めており、遺跡内で石器製作や石器の二次調整が行われていたことが伺える。

石材について、剥片石器は黒曜石がほとんどで、頁岩が少量認められる。黒曜石の種類では黒曜石7・8（流紋岩を含むもの）が多く、次いで黒曜石1（黒色）がある。黒曜石3・4・9はわずかで黒曜石2・5は見られなかった。原産地分析の結果、黒曜石7・8はいずれも赤井川産という結果が出ている。また、黒曜石1（黒色）は十勝三股産という結果が出ている。一方黒曜石9（緑がかっているもの）は近文台産を想定していたが、所山産という結果が出た（Ⅶ章-4）。

・特徴的な遺物として、平成14年度調査で長さ30cmを超える黒曜石の大型角柱状原石が出土した。形状や原石面などの観察からは、白滝赤石山の路頭から得られる棒状原石と同様のものである。縄文晩期の土坑墓やその周辺から棒状原石が出土する例が各地に見られるが、オリカ2遺跡では遺構に伴うものではなかった。漆塗りの椀（塗膜と木胎の一部が残る）や蛇紋岩製の垂飾など、縄文時代晩期の土器に伴うと思われるこれらの遺物は、それぞれ単独で出土している。（広田・阿部）

3. 旧石器時代の遺物について

オリイカ2遺跡では2ヵ年度の調査の結果、細石刃石器群の遺物がまとまって検出された。

遺跡は馬追丘陵の裾部分にあたるオリイカ川の河岸段丘上に立地しており、標高は約13mである。周辺の恵庭降下軽石層上位ローム層出土の細石刃石器群の遺跡としてはメボシ川2遺跡(標高13m)、丸子山遺跡(標高22m)、キウス5遺跡(標高25m)、キウス7遺跡(標高43m)、オサツ16遺跡(標高48m)があるが、これらと比較するとメボシ川2遺跡と並んで最も低い立地となる。

遺物の本来の包含層はⅦ層(恵庭降下軽石層上位のローム層)であるが、縄文時代早期～晩期の遺物包含層であるⅤ～Ⅵ層からも出土している。異なる層での石器の接合もみられ、本来Ⅶ層に包含されていた遺物が凍上現象等の自然の営力により移動したものと考えられる。

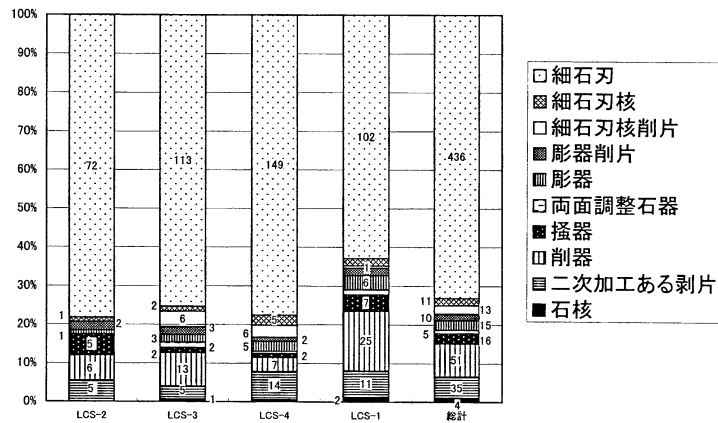
今回の調査では、旧石器時代の遺物が2,259点、4,664.0g(点取り遺物2,135点、重量4,506.6g)出土し、点取り遺物の分布をもとに3ヵ所のブロック(LCS-2～4)を設定した。LCS-2は平成14年度の調査の続きとなる。前回の調査分と合わせた総点数は3,031点、7,687.5g(点取り遺物2,765点、重量6,940.3g)である。ブロックは前回の調査で2ヵ所(LCS-1・2)を設定しているため、合計4ヶ所となる。ブロック出土の石器総点数は2,810点、7,072.8gである。また、ブロック間での接合関係も見られる。

LCS-1～4はいずれも湧別技法による札滑型細石刃核を含む細石刃石器群で、定形的な石器は細石刃・細石刃核・細石刃核削片・彫器・彫器削片・両面調整石器・搔器・削器が出土している。ただし、LCS-2は細石刃核削片・両面調整石器が組成されない。ブロック別の石器ごとの比率は細石刃が最も多く60%以上を占め、他のツールは少ない。この傾向はブロック間で大きな違いは見られない(表Ⅷ-3)。

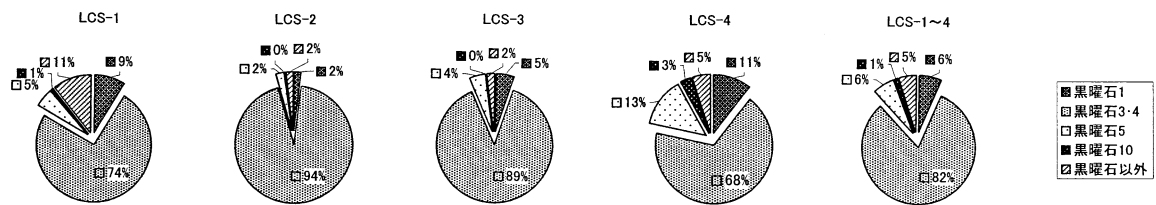
ブロック出土の石器の石材は約90%以上を黒曜石が占め、中でも黒曜石3・4が多い。ブロック別に見るとLCS-1は84%、LCS-2が96%、LCS-3が90%、LCS-4は71%となり、ブロックごとでやや割合は異なるが約70%以上は黒曜石3・4で、黒曜石1・5はLCS-1・4でやや比率が高い。他の石材は頁岩・珪岩・砂岩・泥岩があるが、全部で5%以下である(表Ⅷ-4)。ツールの石材を見ると、細石刃をはじめ多くのものが黒曜石3・4で、次いで黒曜石5、黒曜石1となり、全体の傾向と同様である。彫器・彫器削片・搔器の石材は頁岩・珪岩が多く、黒曜石3・4も見られる。両面調整石器は頁岩製が多く、器種によって利用する石材の傾向が異なっている(表Ⅷ-5)。黒曜石の原産地分析を行ったものは、ほとんどが赤石山産と判定されており、肉眼観察でも細石刃関連の石器のほとんどが白滝産の黒曜石とみられ、分析結果と矛盾しない。ただし、LCS-1出土の細石刃1点とLCS-3出土の細石刃2点が十勝三股産、LCS-2北側のブロック外(I-150区、J-150区)出土の細石刃2点が所山産、LCS-1出土の細石刃1点が札幌K19遺物群という結果が出ている(Ⅶ章-4)。彫器や両面調整石器の素材となる頁岩はいわゆる珪質頁岩であるが、石核の石材となる頁岩は珪酸分が低くやや質が悪い。

細石刃は、全体的に大形のものが多く、完形では7.1cmのものが最大で、折損しているものでは7.2cmのものがある。幅は0.5～1cm程度で、幅広のものが主体である。また側縁に二次加工が行われるものも少量ある。彫器は縦長剥片(石刃素材ではない)を素材とし、背面の周縁部と腹面の基部が加工される左刃の荒屋型彫器が主体で、各ブロックから出土している。両面調整石器は両面加工の搔器と考えられ、平面形は卵形で、両面ともに平坦な剥離により丁寧に加工されている。搔器は丸みを帯びた三角形に近い形状のものが多い。

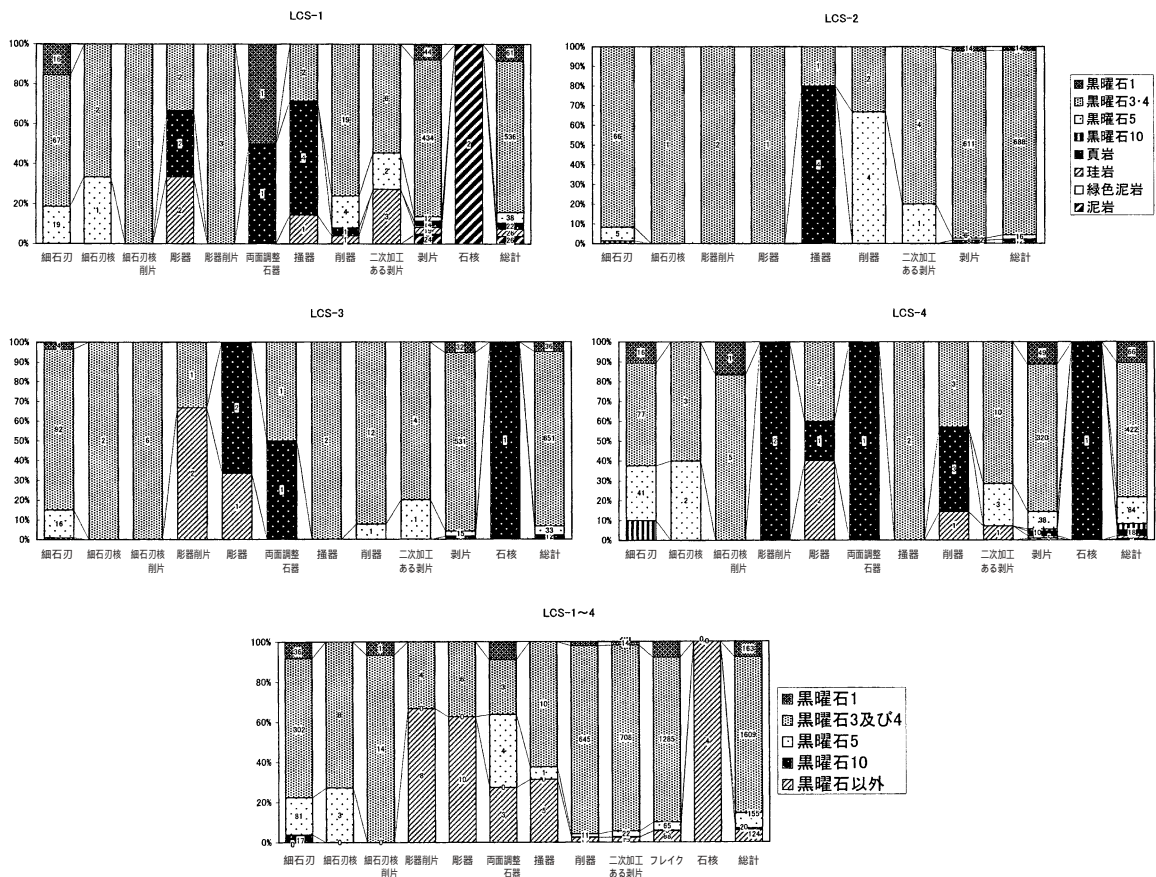
表Ⅷ - 3 ブロック別石器組成 (剥片を除く)



表Ⅷ - 4 ブロック別石材組成



表Ⅷ - 5 石器器種別石材組成



	LCS - 1	LCS - 2
細石刃		
細石刃核		
彫器・彫器削片		
両面調整石器・搔器		
削器		
石核		

図Ⅷ - 2 ブロック別石器組成図(1)

	LCS - 3	LCS - 4
細石刃		
細石刃核		
細石刃削片		
彫器・彫器削片		
両面調整石器・掻器		
削器		
石核		

図Ⅷ - 3 ブロック別石器組成図(2)

細石刃剥離技術は、ブロック出土のものに関しては全て両面調整体を母型とし、長軸方向の削片剥離によって細石刃剥離打面を作出する湧別技法の特徴が見られ、細石刃核の大きさや甲板面に擦痕が無いことから札滑型に分類される。母型の形状は左右非対称の不整楕円形で、断面は凸レンズ状を呈する。削片はノッチ状の打面を作出して剥離されるものが多い。一次削片の断面形は三角形、二次削片の断面形は四角形である。二次削片の剥離は、一次削片の剥離や先行する二次削片剥離と同一の剥離方向で行われるものが多いが、逆方向のものも見られる(図VI-18-99、図VI-21-110)。その際に甲板面や側面に加工が施されるものもある。打面再生剥片や作業面再生剥片が見られないことから、一度打面を設定し細石刃剥離を行った後は、甲板面や側面に部分的に調整が行われることがあるが、打面再生や作業面再生を行うことなく最終的に廃棄している可能性が高い。

ブロック別に見ると、LCS-1では、細石刃核の母型となる両面調整体作成(母岩11)、細石刃剥離、石核の剥片剥離(母岩18・19)が主に行われている。なお、両面調整体作成時の剥片(母岩11)の一部が搔器・削器の素材として利用され、LCS-3・4に持ち込まれている(接合36の132、接合37の140)。LCS-2では細石刃剥離(母岩1)が主に行われている。LCS-3は細石刃核の両面調整体作成(母岩13)、細石刃核削片剥離(母岩13)、細石刃剥離(母岩5)が主に行われている。なお、母型作成時(母岩13・接合46段階1)の剥片を搔器(127)の素材として利用している。LCS-4では細石刃核削片剥離(母岩15)・細石刃剥離(母岩9・16・17)、石核の剥片剥離(母岩20)が行われている。また、剥離された細石刃核削片の一部がLCS-1に持ち込まれている(母岩15・接合11模式図網掛け部分)。

以上のように、遺跡内では白滝産黒曜石を石材とした細石刃製作工程の諸段階が行われている。母岩単位では、両面調整体を遺跡内に持ち込み、加工を行って母型を作成した後、削片を剥離する工程(母岩13)、母型の削片を剥離した状態で遺跡内に持ち込み、細石刃剥離を行い、細石刃核を廃棄する工程(母岩1・9・16・17)、母型の削片を剥離した状態で遺跡内に持ち込み、細石刃を剥離した後、細石刃核を遺跡外に搬出する工程(母岩5)、両面調整体の作成を行い、両面調整体自体は遺跡外に搬出する工程(母岩11)等が挙げられる。接合資料が少ないため断定できないが、母岩2・4・10・12も両面調整体作成に関わる可能性がある。また、両面調整体作成時の剥片を利用してツールを作成している例(母岩13・接合1085、母岩11・接合36・37)がある。母岩12・非接合資料の搔器もその可能性がある。以上の様に1つの母岩について、細石刃製作工程の最初(両面調整体作成)から最後(細石刃剥離)まで1遺跡内で連続して行うのではなく、細石刃製作工程の異なる段階の母岩を複数遺跡内に持ち込んで、細石刃剥離が終わったものは細石刃核を廃棄し、製作工程が途中のものは遺跡外に持ち出している。細石刃核削片の非接合資料(LCS-4出土の105・109)は削片のみ遺跡内で剥離し、細石刃核は持ち出されている可能性がある。

細石刃関連以外の接合資料は頁岩製の石核接合資料(母岩18・20)、泥岩製の剥片接合資料(母岩19)がある。いずれも原石に近い形状で遺跡内に持ち込み、剥片が剥離されている。これらの石核から剥がされた剥片は遺跡内ではツールの素材としては利用されていない。母岩別資料以外の頁岩、珪岩製の石器に関しては、ツールを除くと小形の剥片が多く接合関係も認められなかったため、遺跡内では二次加工等の小規模な作業のみ行われていた可能性が高い。また、頁岩や珪岩の彫器、両面調整や搔器は同一母岩と考えられる資料がなく、製品として遺跡内に持ち込まれた可能性が高い。

遺跡の性格は上述したような石器群の特色から、細石刃の製作に関わる石器製作址と言える。遺跡全体の様相としては母型の作成、細石刃核削片の剥離、細石刃剥離という一連の工程が見られるが、一つの母岩で全ての工程を行うのではなく、両面調整体ないし細石刃核母型を作成して遺跡外に搬出

するもの、細石刃核削片を剥離して遺跡外に搬出するもの、細石刃を剥離して細石刃核を持ち出すもの、細石刃を取り尽くして遺跡内に廃棄するもの等があり、細石刃製作工程の一部を母岩ごとに分けて行っている。これらは剥片石器の素材に適した石材が見られない千歳周辺地域で、石材を使い尽くさないように計画的に消費するという、石材の「消費地」での様相をあらわしている可能性が高い。また、十勝三股産や所山産の黒曜石製細石刃の存在や、頁岩や珪岩製の彫器、両面調整石器の存在、泥岩・頁岩製の石核が見られることから白滝以外の地域からも石材を獲得していたと考えられる。

測定年代に関しては LCS - 3 のⅦ層出土の炭化物 2 点による補正 C14年代は $14,690 \pm 70$ yrBP (較正暦年代 $16,200 \sim 15,100$ BC)、 $12,740 \pm 60$ yrBP (較正暦年代 $13,800 \sim 12,400$ BC) である。また、前回の調査の LCS - 1 におけるⅦ層出土の炭化物 1 点による C14年代は $14,630 \pm 50$ yrBP である (Ⅶ章 - 1)。黒曜石製石器の細石刃 9 点、細石刃核 1 点、細石刃核削片 1 点、剥片 4 点の水和層年代測定の結果は、最も古い年代で $39,427 \pm 7,551$ yrBP で、最も新しい年代は $16,368 \pm 3,354$ yrBP である。15 点中 3 点が計測不能であったが、全体的には $20,000 \sim 30,000$ yrBP にかけてのものが多く、LCS - 1 ~ 4 は層位的に恵庭降下軽石層 (約 $17,000$ 年前降下) 上位のロームから出土しているため、水和層年代測定結果は全般的に層位的所見より古い年代が出ている (Ⅶ章 - 4)。理由は不明だが、水和層の形成には土中における石器の環境によるため、その影響が考えられる。 (広田)

引用・参考文献 (第 I 章 ~ 第Ⅷ章)

(1) 報告書

- 千歳市教育委員会 (1979) 『千歳市における埋蔵文化財 (上)』千歳市文化財調査報告書 V
 千歳市教育委員会 (1981) 『末広遺跡における考古学的調査 (上)』千歳市文化財調査報告書 VII
 千歳市教育委員会 (1982) 『末広遺跡における考古学的調査 (下)』千歳市文化財調査報告書 VIII
 江別市教育委員会 (1982) 『萩ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書 XV
 千歳市教育委員会 (1983) 『メボシ川 2 遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書 IX
 千歳市教育委員会 (1984) 『末広遺跡における考古学的調査 (続)』千歳市文化財調査報告書 XI
 千歳市教育委員会 (1986) 『梅川 3 遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書 XII
 (財)北海道埋蔵文化財センター (1986) 『平取町ユオイチャシ・ポロモイチャシ・二風谷遺跡』北埋調報26
 帯広市教育委員会 (1988) 『帯広・暁遺跡 3』帯広市埋蔵文化財調査報告書 第7冊
 恵庭市教育委員会 (1988) 『中島松 6・7 遺跡』
 (財)北海道埋蔵文化財センター (1988) 『函館市石川 1 遺跡』北埋調報45
 平取町遺跡調査会 (1989) 『イルエカシ遺跡』
 千歳市教育委員会 (1989) 『ユカンボシ 2 遺跡発掘調査概要』
 千歳市教育委員会 (1994) 『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書 XIX
 (財)北海道埋蔵文化財センター (1994) 『オサットー 1 遺跡・キウス 7 遺跡』北埋調報90
 (財)北海道埋蔵文化財センター (1995) 『千歳市オサツ 2 遺跡⁽²⁾』北埋調報103

- 千歳市教育委員会(1996)『末広遺跡における考古学的調査 IV』千歳市文化財調査報告 X X I
北海道文化財保護協会(1996)『千歳市オサツ16遺跡(2)』
(財)北海道埋蔵文化財センター(1996)『千歳市キウス7遺跡(3)』北埋調報105
(財)北海道埋蔵文化財センター(1997)『千歳市キウス5遺跡(3)』北埋調報115
(財)北海道埋蔵文化財センター(1997)『千歳市キウス7遺跡(5)』北埋調報127
(財)北海道埋蔵文化財センター(1997)『千歳市ユカンボシ C15遺跡』北埋調報128
(財)北海道埋蔵文化財センター(1997)『恵庭市ユカンボシ E10遺跡』北埋調報129
北海道文化財保護協会(1997)『千歳市オサツ16遺跡(3)』
恵庭市教育委員会(1998)『カリンバ2遺跡第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ地点』
苫小牧市埋蔵文化財センター(1998)『柏原27・ニナルカ・静川5・6遺跡』
恵庭市教育委員会(1999)『カリンバ4遺跡』
平取町教育委員会(2000)『亜別遺跡』
(財)北海道埋蔵文化財センター(2000)『千歳市柏台1遺跡』北埋調報138
(財)北海道埋蔵文化財センター(2001)『白滝遺跡群 II』北埋調報154
(財)北海道埋蔵文化財センター(2001)『千歳市キウス4遺跡(8)』北埋調報157
恵庭市教育委員会(2001)『カリンバ4遺跡Ⅲ』
(財)北海道埋蔵文化財センター(2002)『千歳市チブニー1遺跡・チブニー2遺跡』北埋調報173
千歳市教育委員会(2002)『ユカンボシ C2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告 X X VII
千歳市教育委員会(2002)『梅川4遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告 X X VIII
(財)北海道埋蔵文化財センター(2003)『千歳市キウス4遺跡(10)』北埋調報180
(財)北海道埋蔵文化財センター(2003)『千歳市オルイカ1遺跡』北埋調報188
(財)北海道埋蔵文化財センター(2003)『千歳市オルイカ2遺跡』北埋調報189
(財)北海道埋蔵文化財センター(2003)『白滝遺跡 IV』北埋調報195
千歳市教育委員会(2003)『トメト川3遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告 X X VI
(財)北海道埋蔵文化財センター(2004)『千歳市チブニー2遺跡(2)』北埋調報207
(財)北海道埋蔵文化財センター(2004)『白滝遺跡群 V』北埋調報210
恵庭市教育委員会(2004)『恵庭公園遺跡』
恵庭市教育委員会(2005)『カリンバ1遺跡 B 地点』
恵庭市教育委員会(2005)『カリンバ1遺跡 C・E 地点』
恵庭市教育委員会(2005)『カリンバ2遺跡 第Ⅶ地点』
- (2) 論文・報文
大場利夫・石川徹(1967)『千歳遺跡』千歳市教育委員会
野村崇(1977)『長沼町幌内タンネトウ遺跡の発掘調査』
金箱文夫(1984)「近世の釘 - 川口市赤山陣屋跡の事例を中心に - 」『物質文化』43
千葉英一・吉崎昌一・横山英介(1984)「湧別技法」『考古学ジャーナル』229 ニューサイエンス社
豊原熙司(1989)「第12節 イルエカシ遺跡検出の集落址について」『イルエカシ遺跡』平取町遺跡調査会
安田益穂(1998)「ポンチセ建築速報 - チセブニ初挑戦」アイヌ民族博物館だよりNo40
寺崎康史(1999)「北海道細石刃石器群理解への一試論」『先史考古学論集』8
小林孝二(2000)「アイヌ民族の住居(チセ)に関する研究 - 近世・近代アイヌ民族の住居に関する検証とその成立過程に関する考察 - 」『北の文化交流史研究事業』研究報告』
小林孝二(2002)「アイヌ民族の住居(チセ)に関する研究 - 2 北海道における民家研究史の検討と竪穴住居から平地住居への変容過程についての考察 - 」『北海道開拓記念館研究紀要』第30号
鈴木宏行(2004)「旧石器時代」『北海道考古学』第40輯
- (3) 単行本・その他
吉良哲明(1954)『原色日本貝類図鑑』保育社
蒲原稔治(1961)『続原色日本魚類図鑑』保育社
(1982)『素檜磨自筆 蝦夷島奇観』雄峰社
永田方正(1984)『北海道蝦夷語地名解』草風館
小林達雄編(1989)『縄文土器大観4 後期 晩期 続縄文』小学館
アイヌ民族博物館(1993)『アイヌ文化の基礎知識』草風館
落合 明(1994)『魚類解剖大図鑑』緑書房
(財)北海道埋蔵文化財センター(1997)『美々・美沢 - 新千歳空港の遺構と遺物 - 』
ハヶ岳旧石器研究グループ(2003)『シンポジウム 日本の細石刃文化 I 日本列島における細石刃文化 』

写真图版



1 調査区全景 W

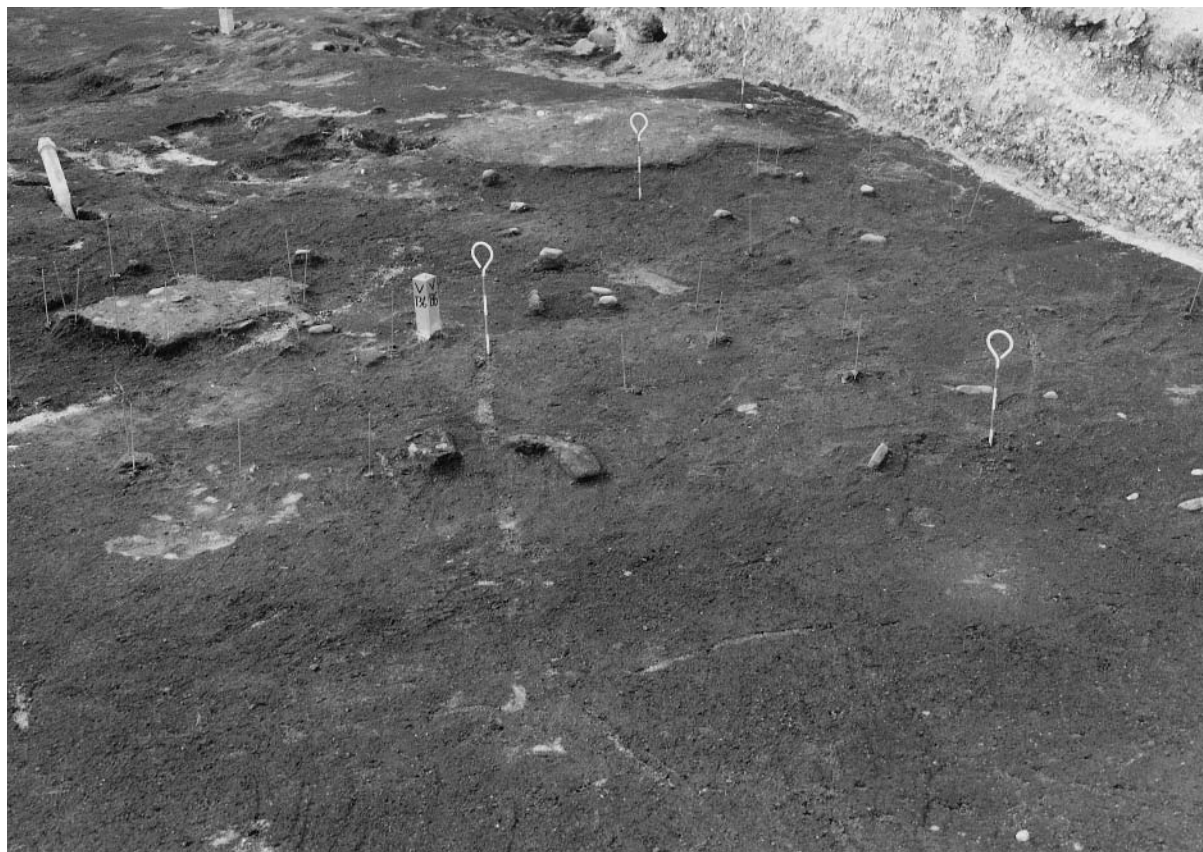


2 A地区Ⅲ層25%調査 S



3 C地区Ⅲ層25%調査 S

Ⅲ層調査状況



1 遺物出土状況 S



2 fp 3・4 検出状況 N



3 ks 1 検出状況 E



4 刀子出土状況 N



5 火皿出土状況 N

USD - 5(1)



1 漆製品片出土状況 N



3 ph20・21・22断面 S



2 ph16断面 S



4 完掘 SE

图版 4



1 全景 NE

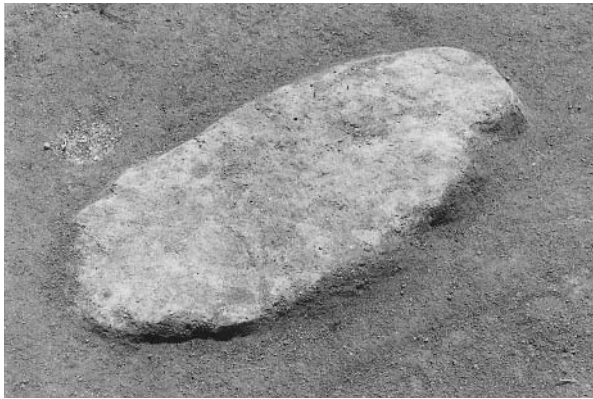


2 fp1断面 E

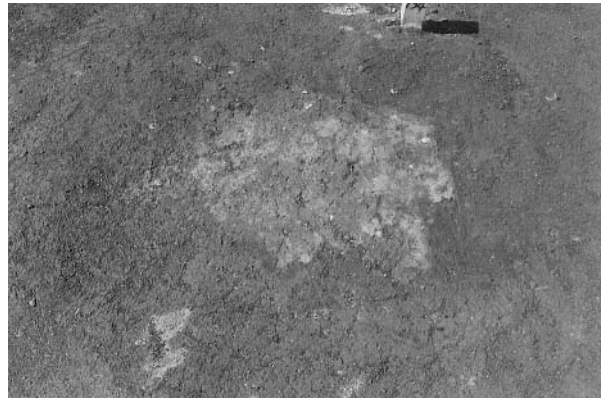


3 ph23断面 S

USD - 8(1)



1 fp 2 検出状況 E



2 fp 3 検出状況 S



3 ks 1 検出状況 S



4 鹿角出土状況 S



5 遺物出土状況 N

图版 6



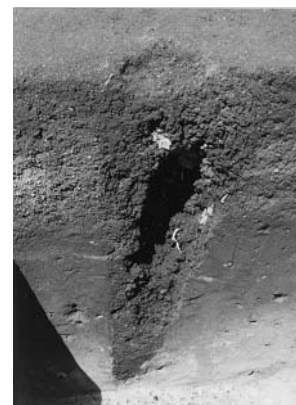
1 ph 1 断面 E



2 ph 2 断面 E



3 ph 3 断面 E



4 ph 4 断面 E



5 ph 9 断面 N



6 ph 11 断面 N



7 ph 12 ~ 16 断面 E



8 ph 16 ~ 22 断面 N



9 ph 25 断面 N

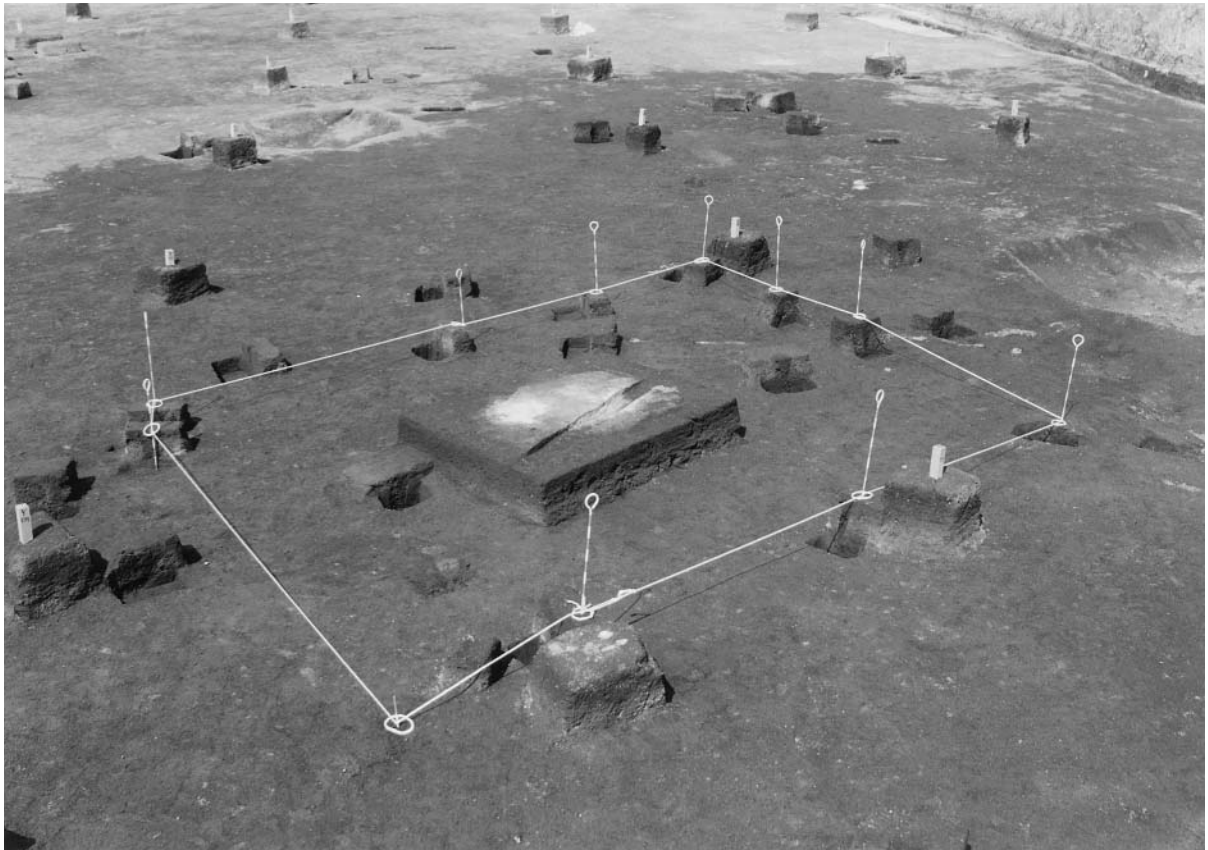


10 ph 29 断面 N



11 ph 32 · 33 断面 N

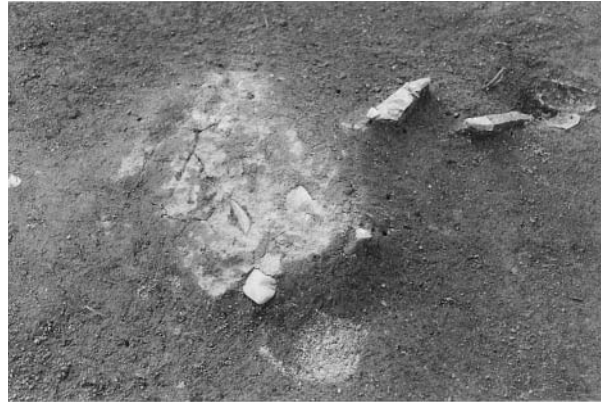
USD - 8(3)



1 全景 SW



2 fp1 断面 S



3 fp2 検出状況 SE



4 ks1 検出状況 E



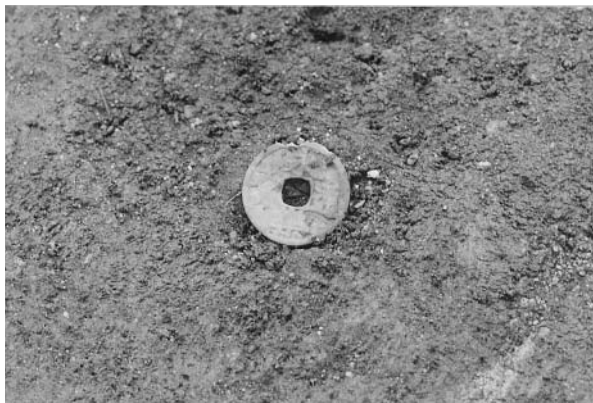
5 骨片出土状況 NE

USD - 9(1)

図版 8



1 礫出土状況 SE



2 古銭出土状況 N



3 ph 1 断面 W



4 ph 4 断面断面 S



5 ph 6 断面 N



6 ph 8 断面 NW



7 ph 13 断面 S



8 ph 14 断面 N



9 ph 17 断面 NW



10 ph 21 断面 W



11 北側柱穴列完掘 W



12 東側柱穴列完掘 S

USD - 9(2)



1 検出状況 SW



2 ph 1 断面 S



3 ph 3 断面 S



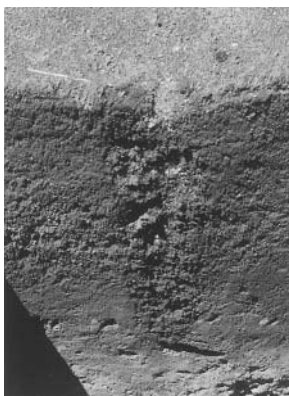
4 ph 5 断面 S



5 ph 6 断面 S



6 ph 7 断面 S

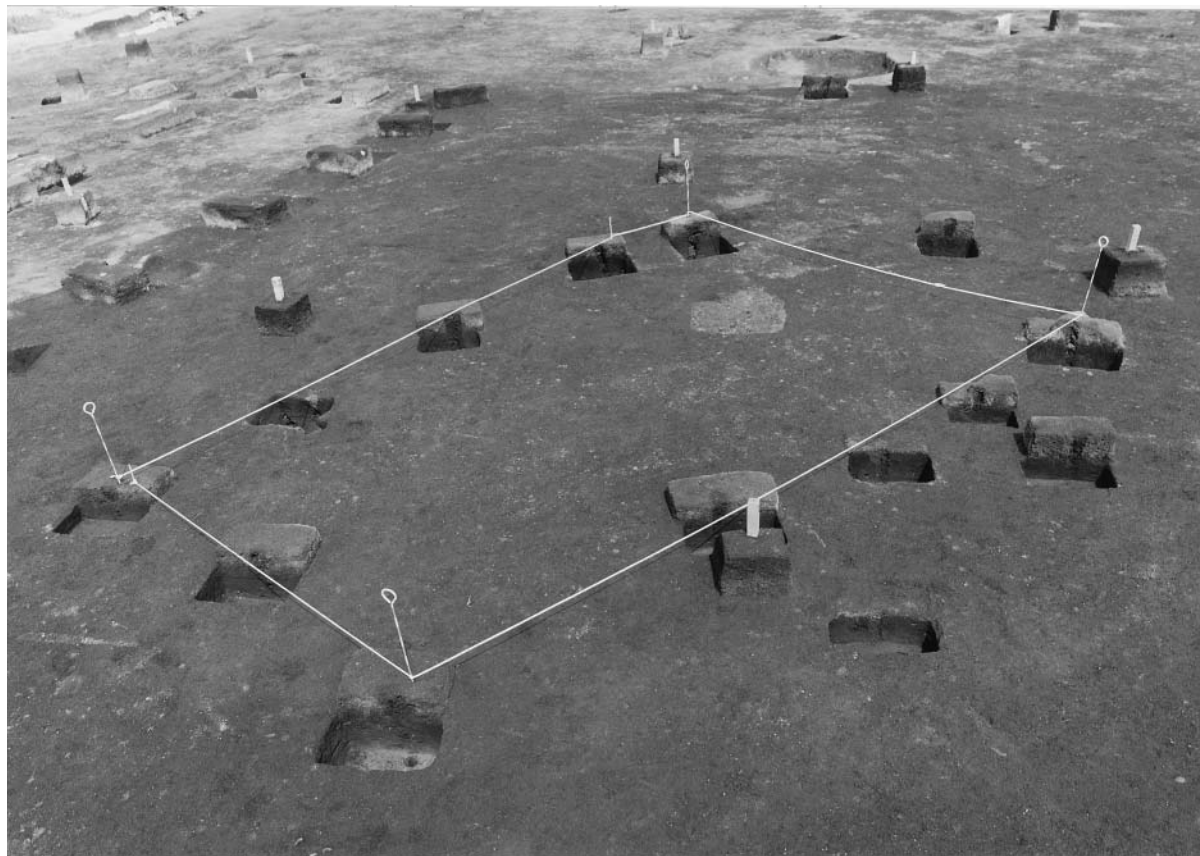


7 ph 8 断面 SE



8 完掘 S

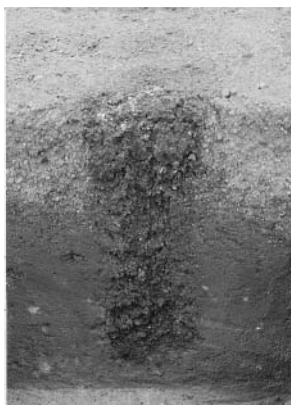
USB - 4



1 検出状況 W



2 ph 2 断面 S



3 ph 5 断面 S



4 ph 6 断面 S



5 ph 7 断面 S



6 ph 9・10・14 断面 S



7 完掘 W

USB - 5



1 UPH - 17·18断面 SE



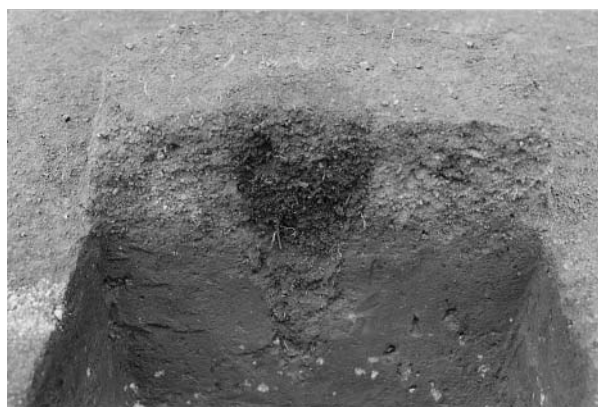
2 UPH - 20断面 W



3 UPH - 21断面 W



4 UPH - 22断面 SW



5 UPH - 26断面 W



6 UPH - 27断面 W



7 UPH - 28断面 SW



8 UPH - 29断面 NW
UPH



1 調査状況 NW



2 UFP - 2 検出状況 NE



3 UFP - 3 検出状況 N



4 UFP - 10検出状況 SE



5 UFP - 11検出状況 SE

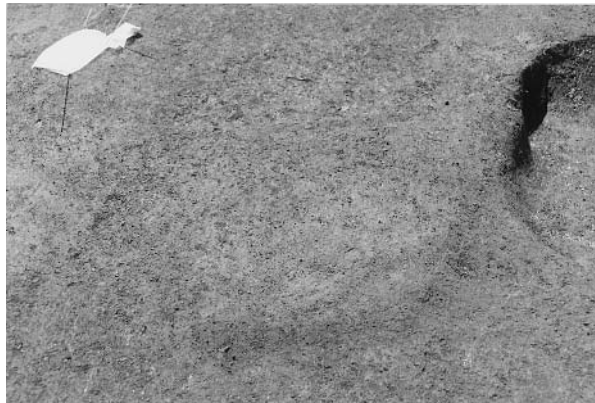
焼土群 2(1)



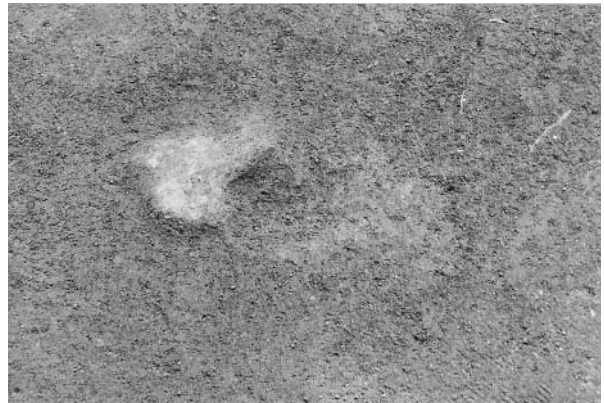
1 UFP - 12検出状況 E



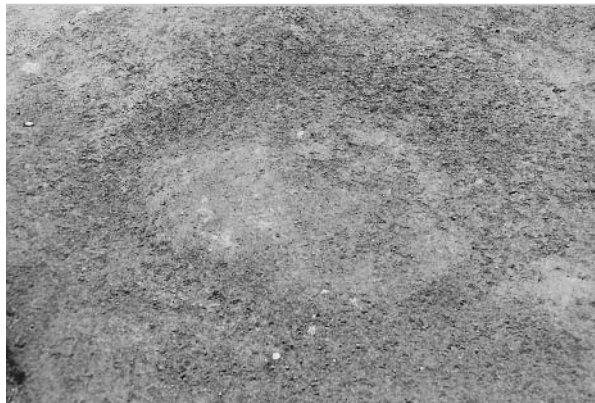
2 UFP - 13検出状況 E



3 UFP - 19検出状況 E



4 UFP - 20検出状況 SE



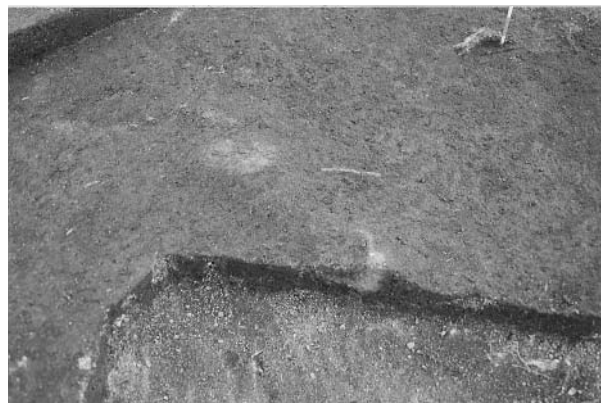
5 UFP - 23検出状況 E



6 UFP - 24検出状況 SE



7 UFP - 21・25・27検出状況 SE



8 UFP - 30検出状況 N

焼土群2(2)



1 UFP - 33断面 E



2 UFP - 33骨片出土状况 S



3 UFP - 33底面骨片出土状况 NE



4 UFP - 34检出状况 W



5 UFP - 34断面 E



6 UFP - 34骨片出土状况 E

烧土群2(3)



1 UKS - 3 検出状況 N



2 UKS - 4 検出状況 N

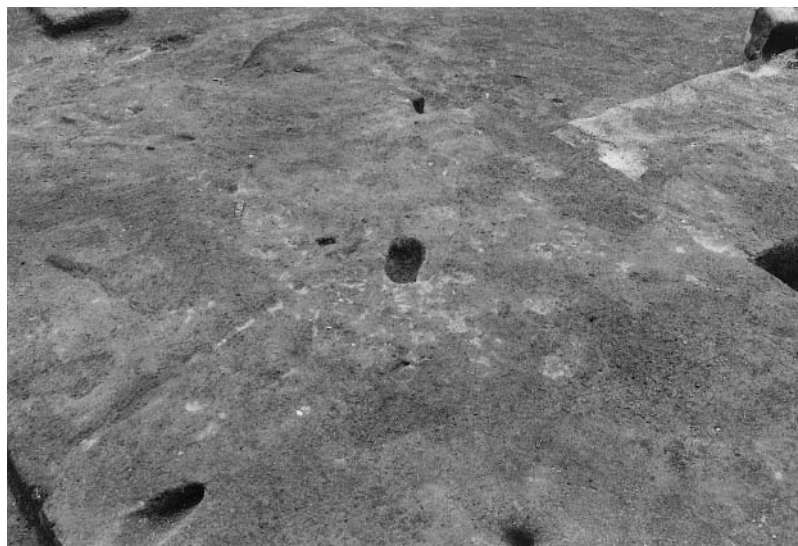
焼土群 2(4)



1 UFP - 9 検出状況 NW



2 UFP - 9 鉄製品 NE



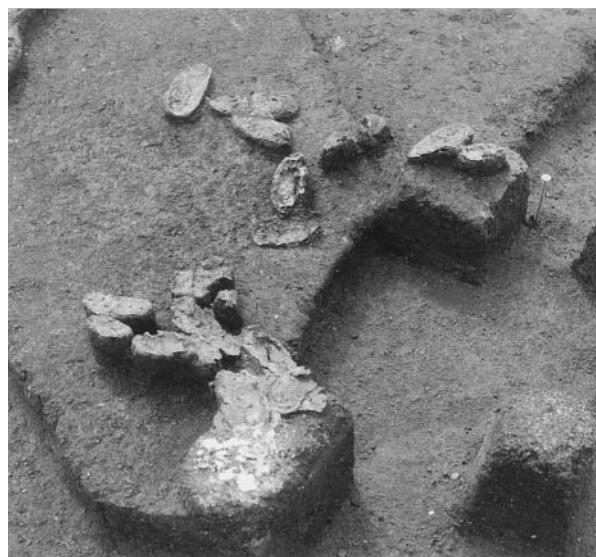
3 UFP - 14 検出状況 E



4 UFP - 14 漆製品片 SE



5 UFP - 15 検出状況 E



6 UKS - 2 検出状況 E

焼土群 3



1 UFP - 6・7・8 検出状況 S



2 UFP - 6 検出状況 E



3 UFP - 6 断面 W



4 UFP - 6 骨片出土状況 SE

焼土群 4(1)



1 UFP - 7 検出状況 N



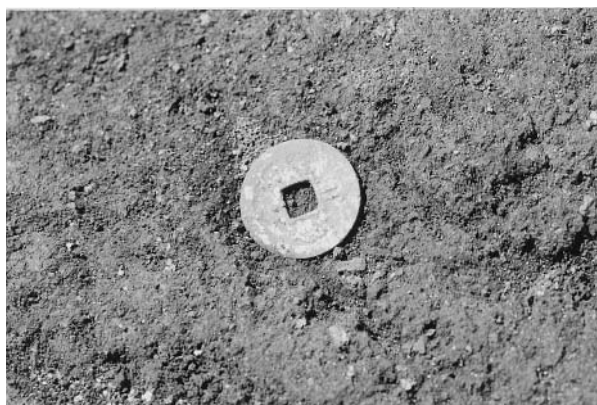
3 UFP - 7 骨片出土状況 E



2 UFP - 7 カワシンジュガイ・漆製品片 N



4 UFP - 8 断面 NW



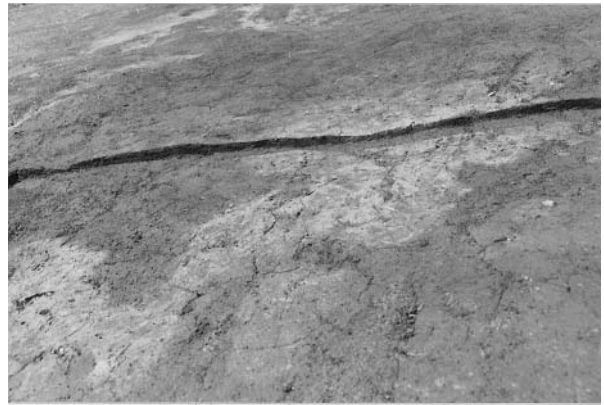
5 UFP - 8 古銭出土状況 E



6 UFP - 8 骨片出土状況 N
焼土群 4(2)



1 UFP - 1 断面 SW



2 UFP - 4 断面 S



3 UFP - 5 断面 S



4 UFP - 16・17 検出状況 S



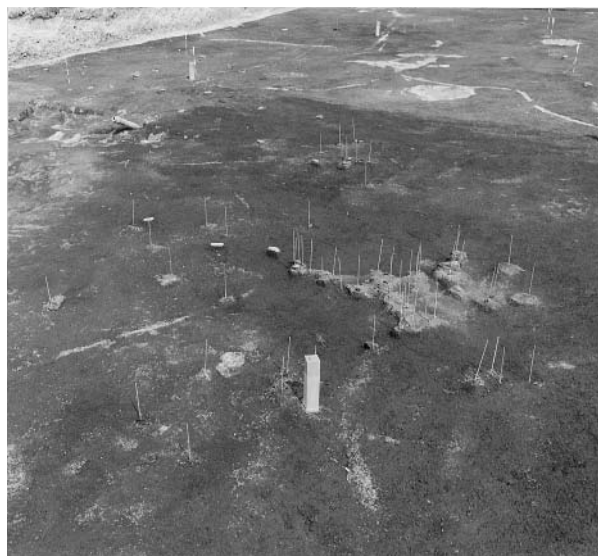
5 UFP - 18 検出状況 E



6 UFP - 28 検出状況 E



7 UFP - 31 検出状況 N
UFP



1 UKS - 1 検出状況 W



2 UCP - 2 検出状況 NE



3 アイヌ文化期遺構検出状況 NE

Ⅲ層の遺構



1 V層上面検出状況 W



2 A地区V層25%調査 SW



3 C地区V層25%調査 S

V層調査状況



1 床面遺物出土状況 NE



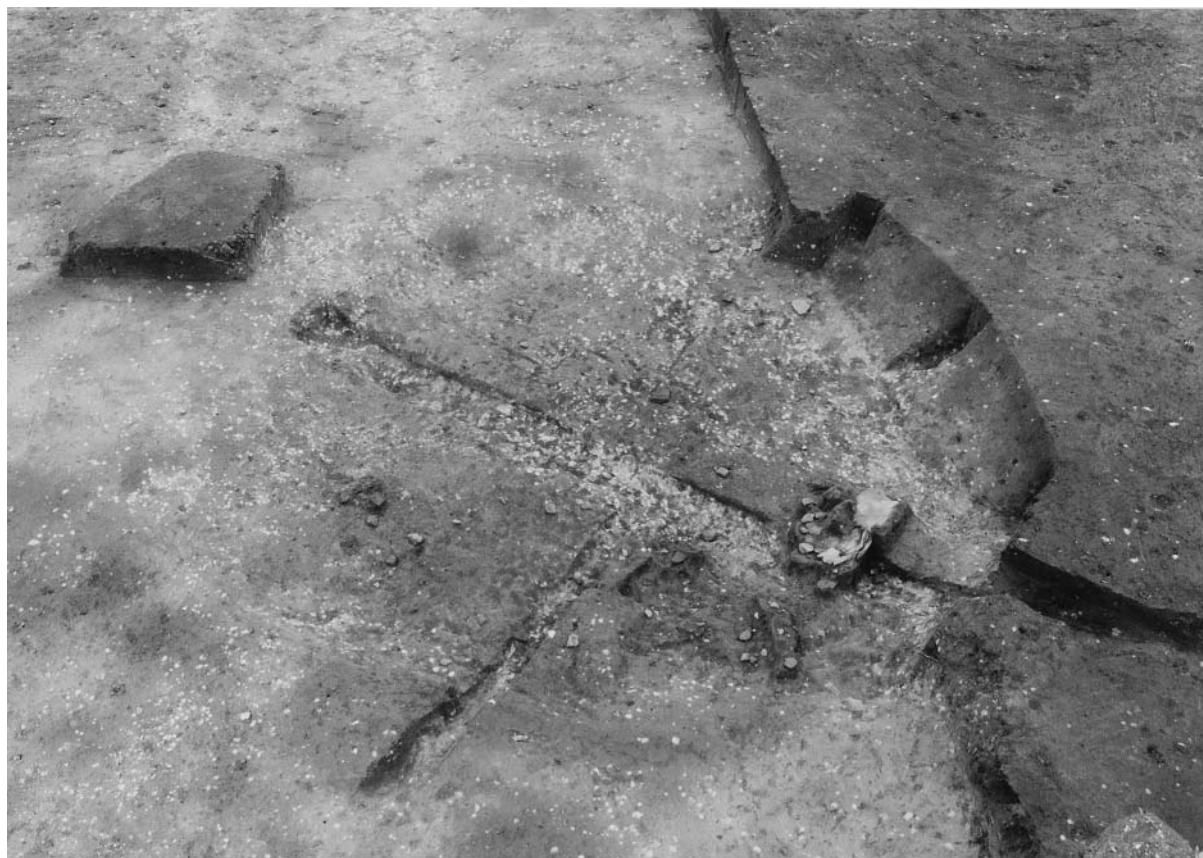
2 土層断面 SW



3 fp1断面 NW



4 完掘 NE
LPD - 2



1 遺物出土状況 NW



2 土層断面 SW



3 fp 1断面 SW



4 土器出土状況 N

LPD - 3



1 遺物出土状況 NE



2 土層断面 W

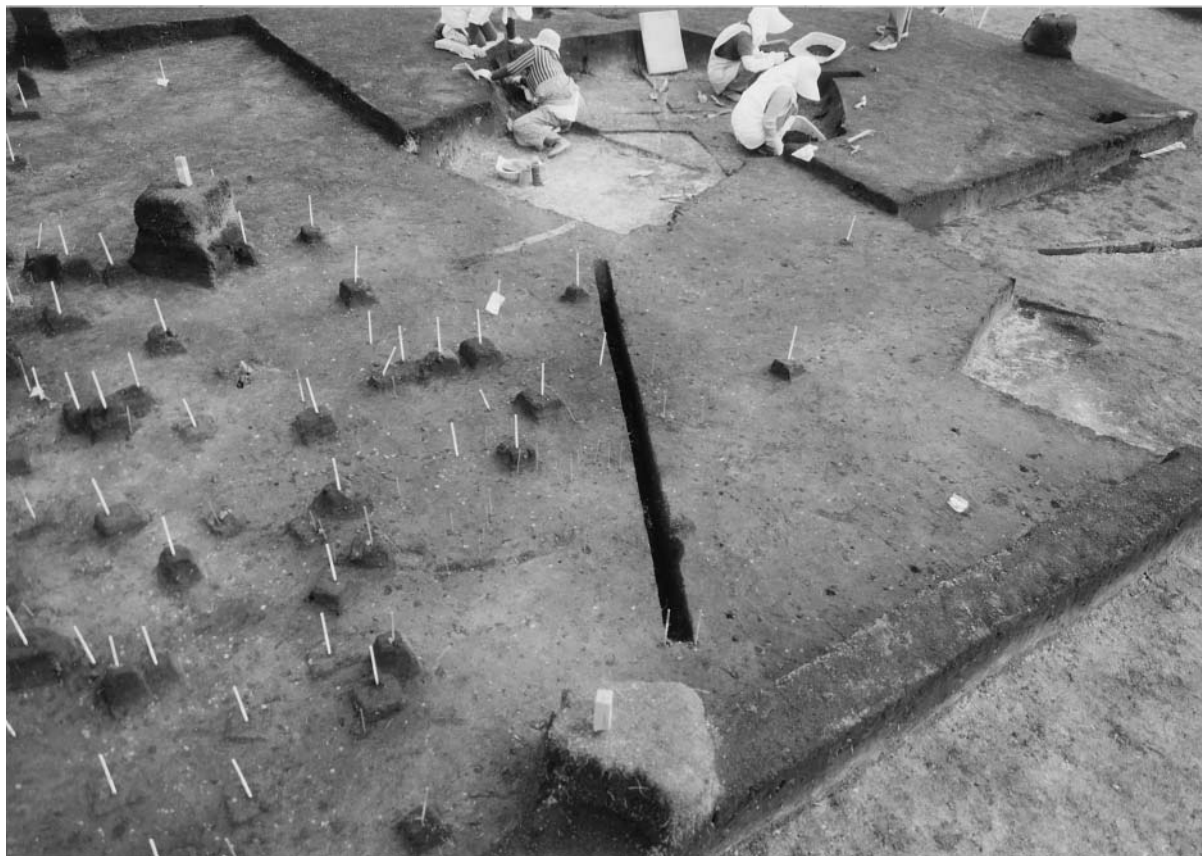


3 fp1断面 S



4 三角形土製品出土状況 SE

LPD - 4



1 確認面検出状況 N

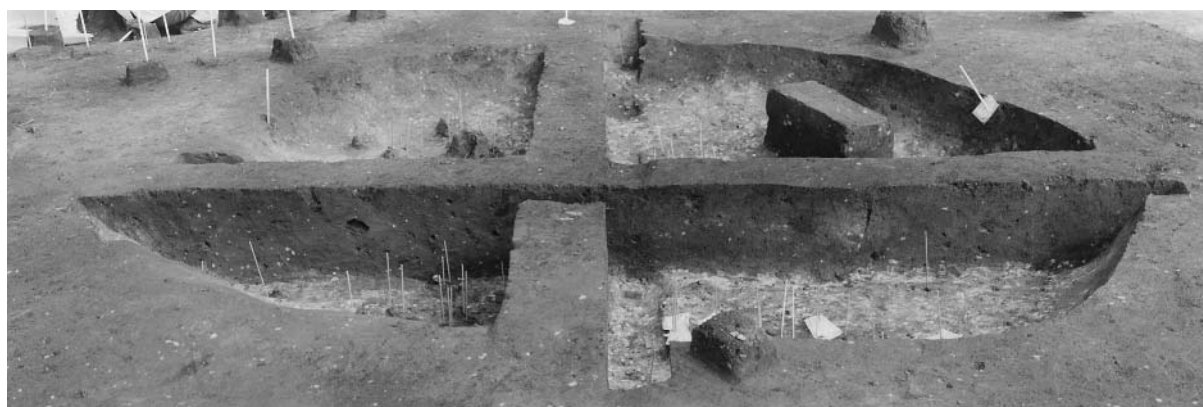


2 床面検出状況（後はLPD - 2） N

LPD - 5(1)



1 土層断面 S



2 土層断面 W



3 fp 1 検出状況 N



4 ph 4 断面 W



5 三角形土製品出土状況 E



6 完掘 E

LPD - 5(2)



1 調査状況 NW



2 確認面検出状況 E



3 完掘 S

LPD - 6(1)



1 土层断面 S



2 土层断面 E



3 fp1断面 NE



4 fp8断面 W



5 fp10断面 W

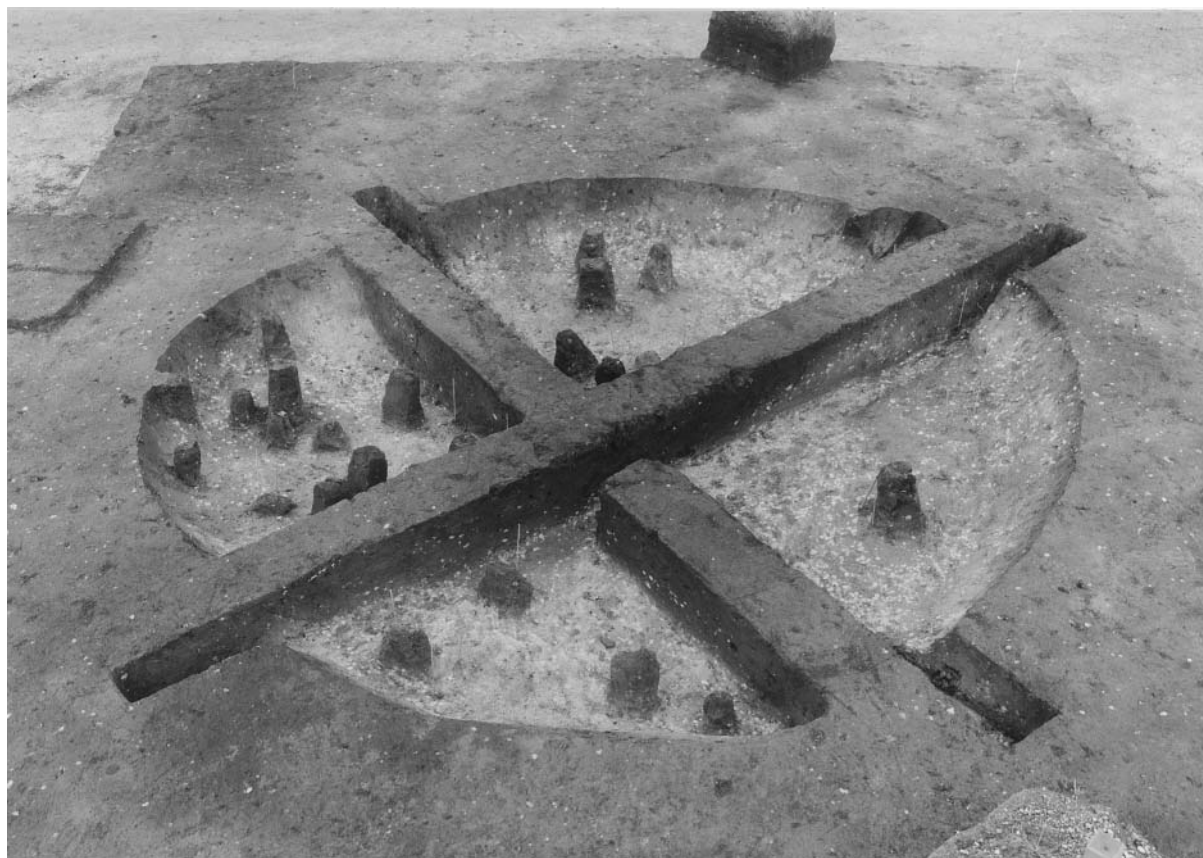


6 ph16断面 W



7 ph19断面 SW

LPD - 6(2)



1 遺物出土状況 NW



2 土層断面 S



3 fp1断面 W



4 ph1断面 SW

LPD - 7



1 LPI - 5 土层断面 W



2 LPI - 5 土器出土状况 SW



3 LPI - 6 完掘 NE



4 LPI - 7 完掘 W



5 LPI - 8 土层断面 SW



6 LPI - 9 土层断面 SE

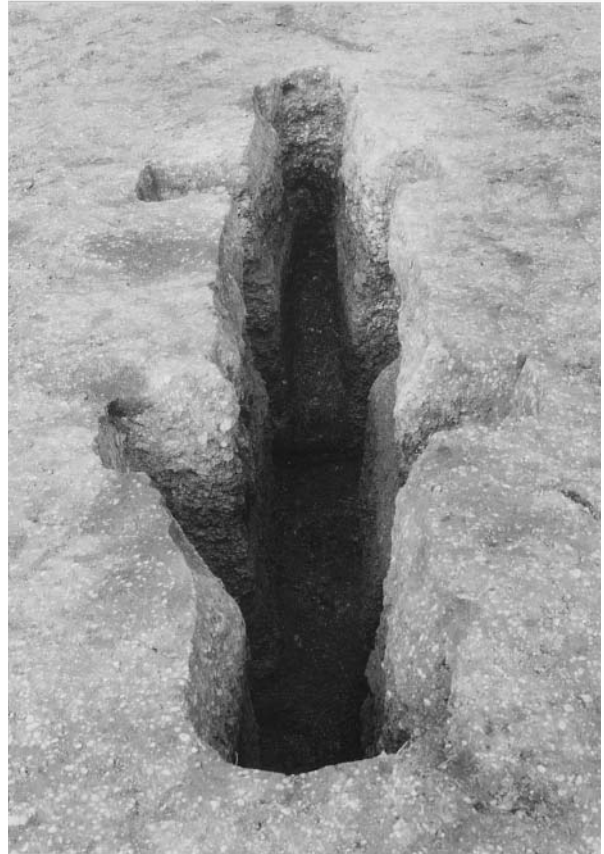
LPI(1)



1 LPI - 20坑底検出状況 SW



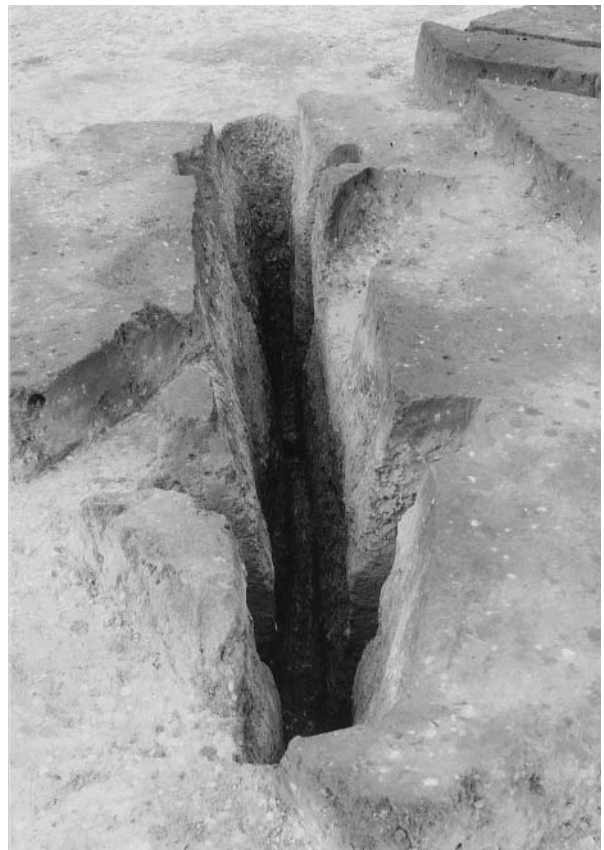
2 LPI - 22土層断面 NW



3 LTP - 9完掘 SE



4 LTP - 10完掘 NW



5 LTP - 11完掘 S

LPI(2)・LTP



1 V層焼土群1 (LFP 1 ~ 13) S



2 V層焼土群1 (LFP14 ~ 18) SW



3 焼土列1 検出状況 N

V層焼土群1・焼土列1(1)



1 LFP - 60~64断面 S



2 LFP - 73断面 S



3 LFP - 74断面 SE



4 LFP - 75断面 S



5 LFP - 76断面 SE

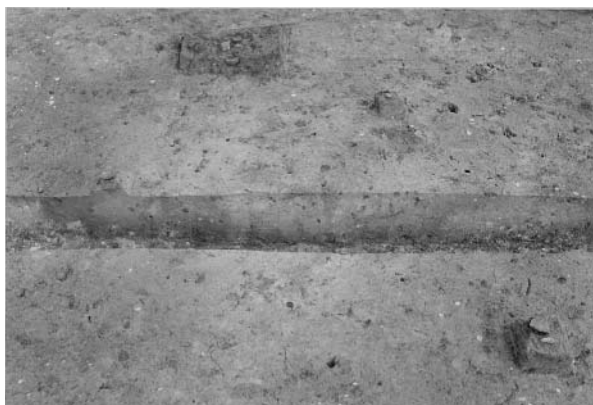


6 LFP - 77~81検出状況 W

焼土列 1(2)



1 LFP - 102断面 S



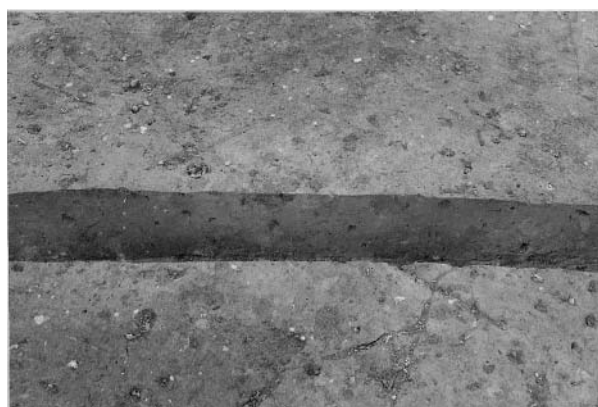
2 LFP - 103断面 NE



3 LFP - 104断面 NW



4 LFP - 105断面 SW



5 LFP - 106断面 NW



6 LFP - 114断面 SE



7 LFP - 116断面 W



8 LFP - 117断面 W

烧土列2



1 LFP - 23断面 W



2 LFP - 28断面 W



3 LFP - 29断面 W



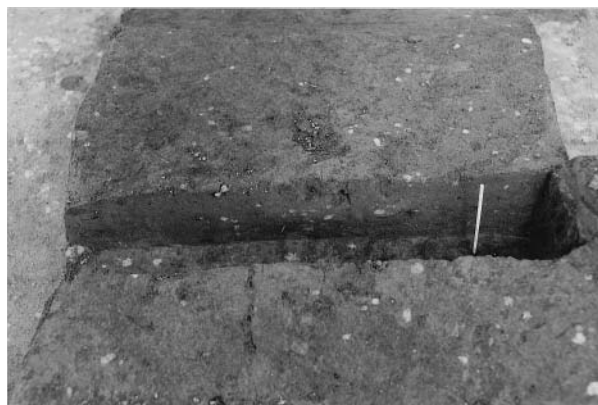
4 LFP - 49断面 W



5 LFP - 83断面 W



6 LFP - 86断面 W



7 LFP - 91断面 W



8 LFP - 97 ~ 100断面 W
LFP



1 LCP - 3 検出状況 S



2 LCP - 4 検出状況 NW



3 LCP - 5 検出状況 N



4 LFC - 5 検出状況 E



5 LFC - 6 検出状況 E



6 LFC - 10 検出状況 N

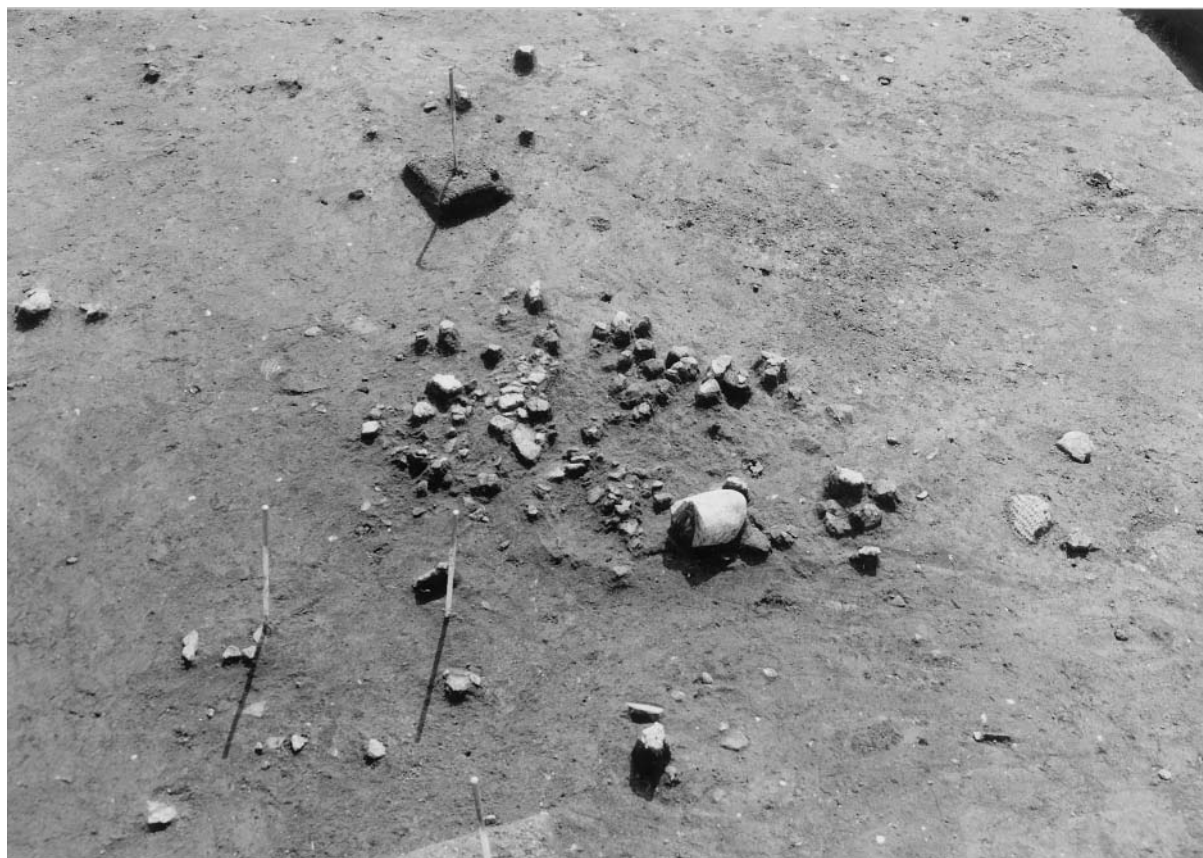


7 LS - 1 断面 E



8 LN - 1 断面 SE

V層の遺構



1 遺物出土状況 E



2 石槍出土状況 E



3 土製品出土状況 SW



4 玉出土状況 W

V層遺物出土状況



1 遺物出土状況 SW



2 細石刃核出土状況 N



3 細石刃核出土状況 N



4 細石刃出土状況 E



5 細石刃出土状況 W

LCS - 2(1)



1 調査状況 N



2 細石刃出土状況 E



3 削器出土状況 E



4 搔器出土状況 E



5 剥片出土状況 E

LCS - 2(2)



1 遺物出土状況 NE



2 細石刃核出土状況 E



3 細石刃核出土状況 E



4 細石刃出土状況 S



5 細石刃核削片出土状況 W

LCS - 3(1)



1 調査状況 E



2 削器出土状況 W



3 搔器出土状況 W



4 彫器出土状況 NE



5 両面調整石器出土状況 SE

LCS - 3(2)



1 LCS - 2・4 検出状況 S



2 LCS - 4 検出状況 NW

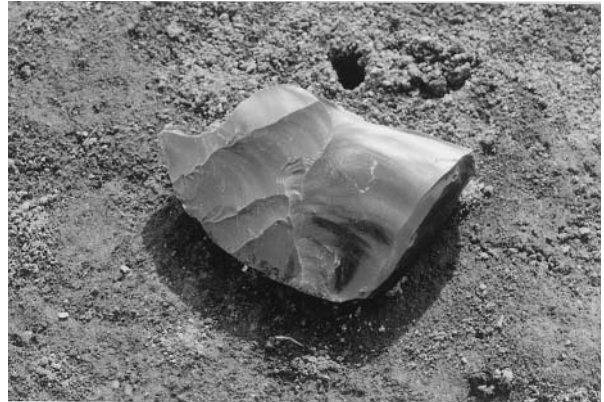
LCS - 4(1)



1 細石刃核出土状況 SE



2 細石刃核出土状況 NW



3 細石刃核出土状況 NE



4 細石刃核出土状況 SE



5 細石刃核出土状況 SW

LCS - 4(2)



1 石核出土状況 NE



2 細石刃核削片出土状況 W



3 細石刃核削片出土状況 NW



4 細石刃核削片出土状況 S



5 細石刃出土状況 E



6 削器出土状況 SE



7 削器出土状況 NW

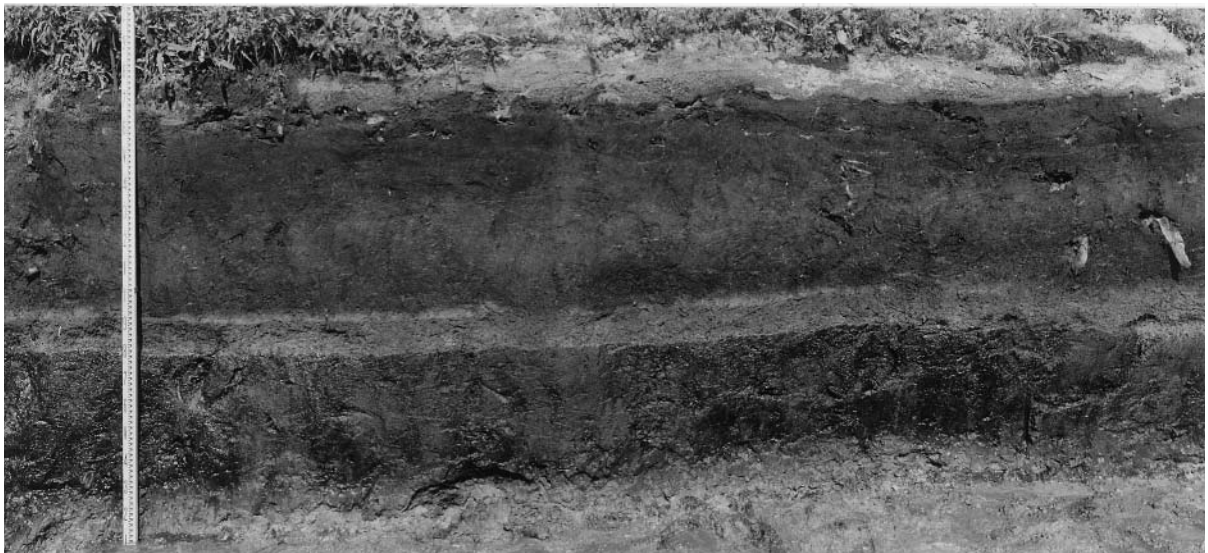


8 両面調整石器出土状況 N

LCS - 4(3)



1 A地区Wライン土層断面 SE



2 A地区低位部土層断面 SE



3 C地区北壁土層断面 E

土層



1 A地区Ⅶ層検出状況 SW



2 A地区Ⅶ層検出状況 NW



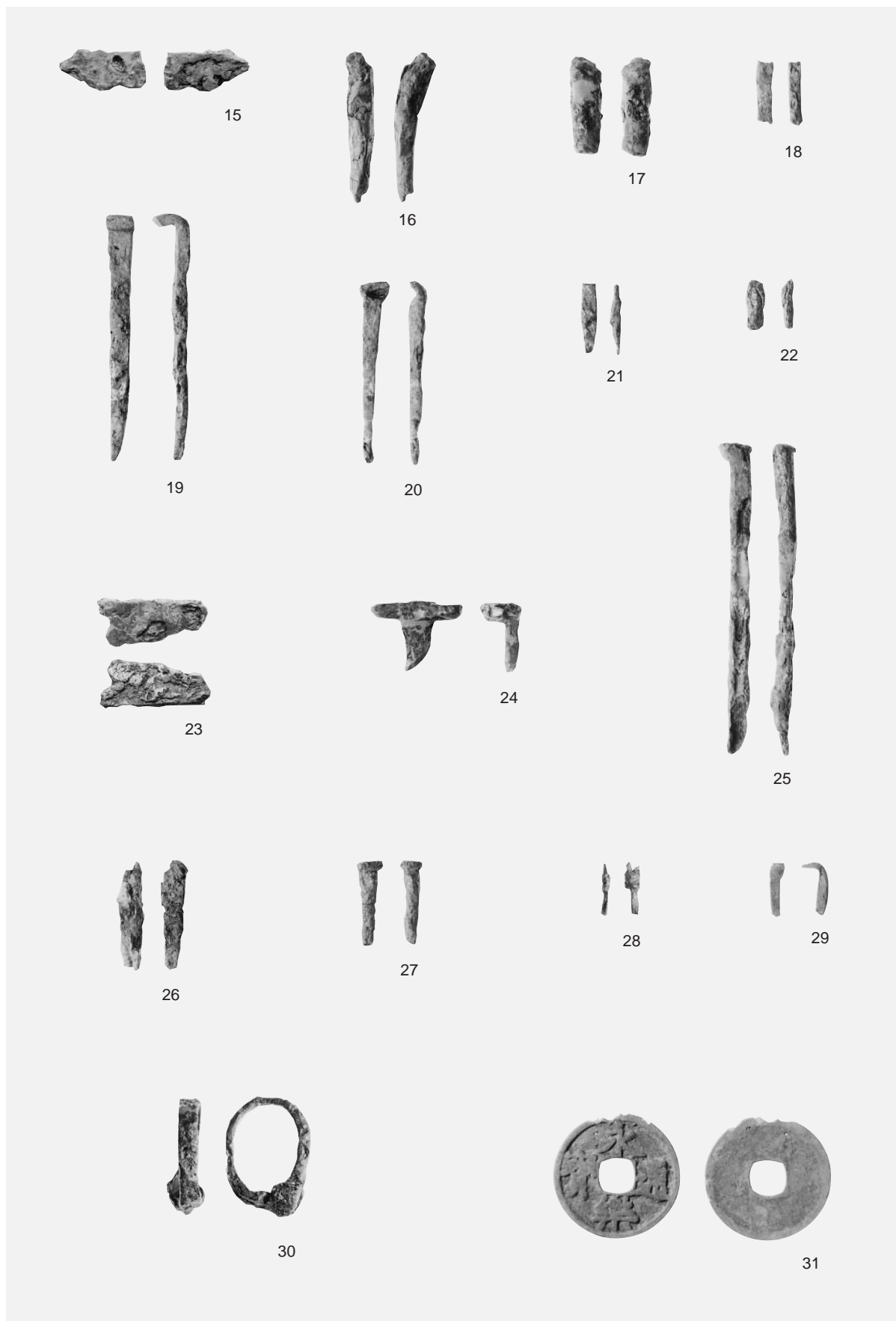
3 C地区Ⅶ層検出状況 S

Ⅶ層検出状況



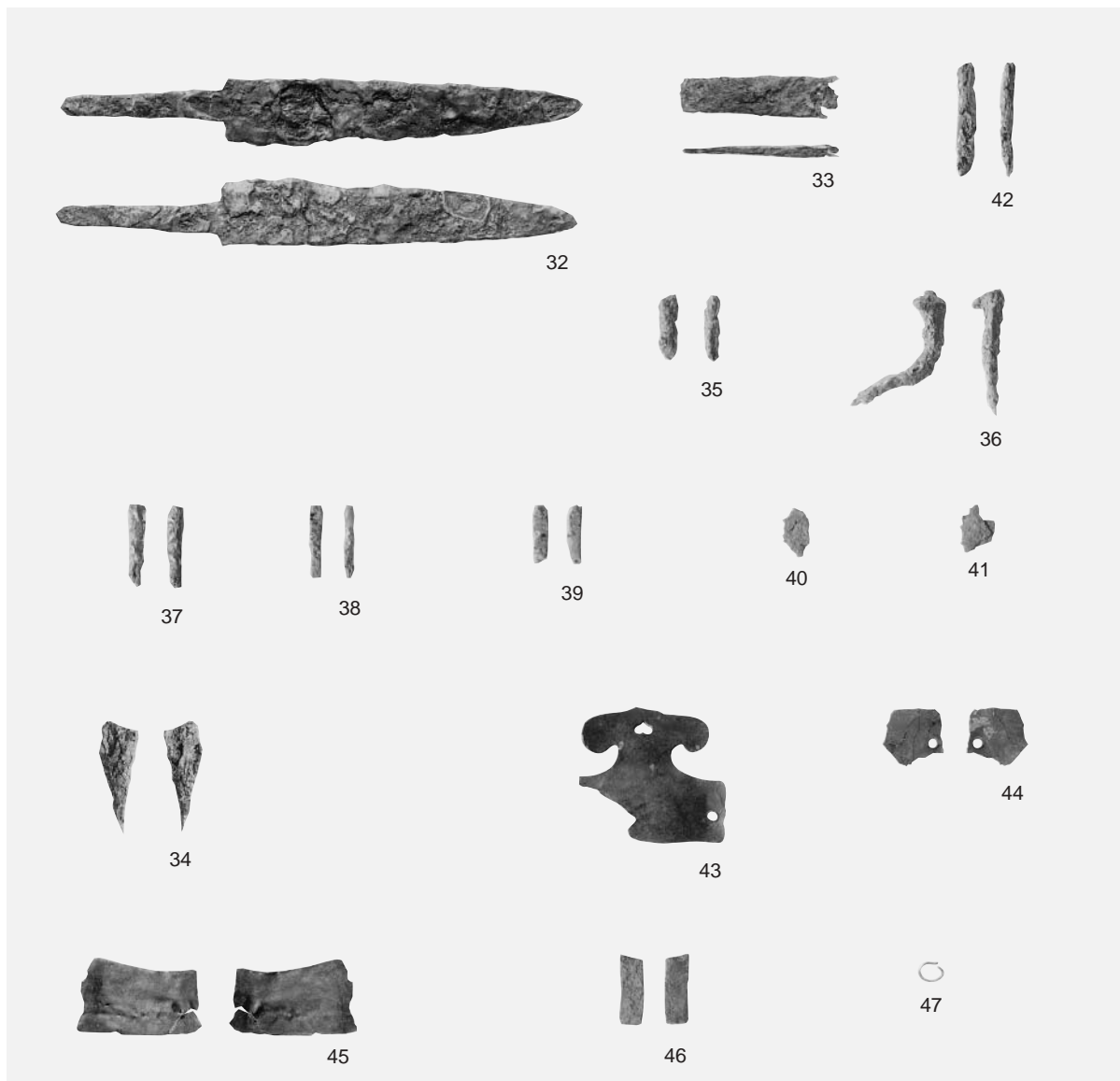
1 USD - 5

鉄製品(1)

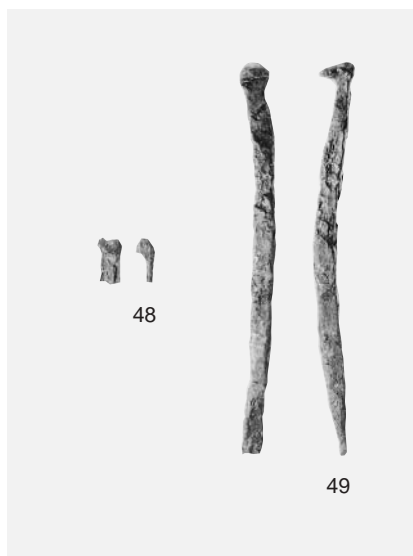


1 USD - 8

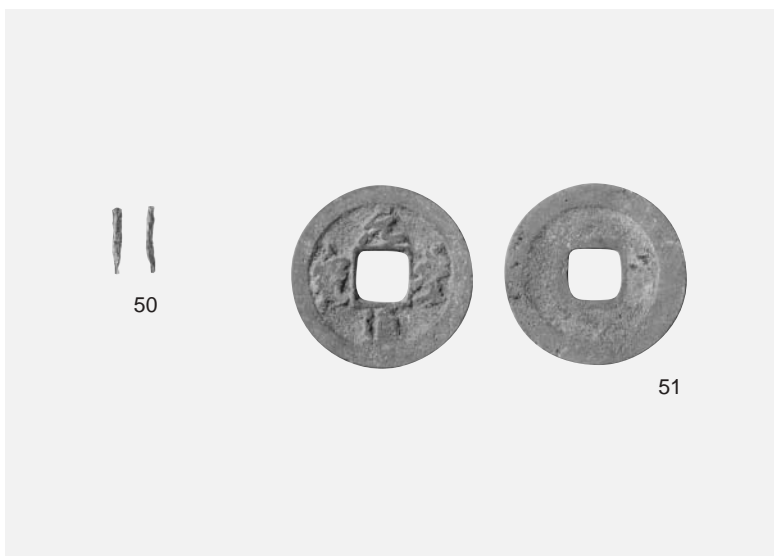
鉄製品(2)



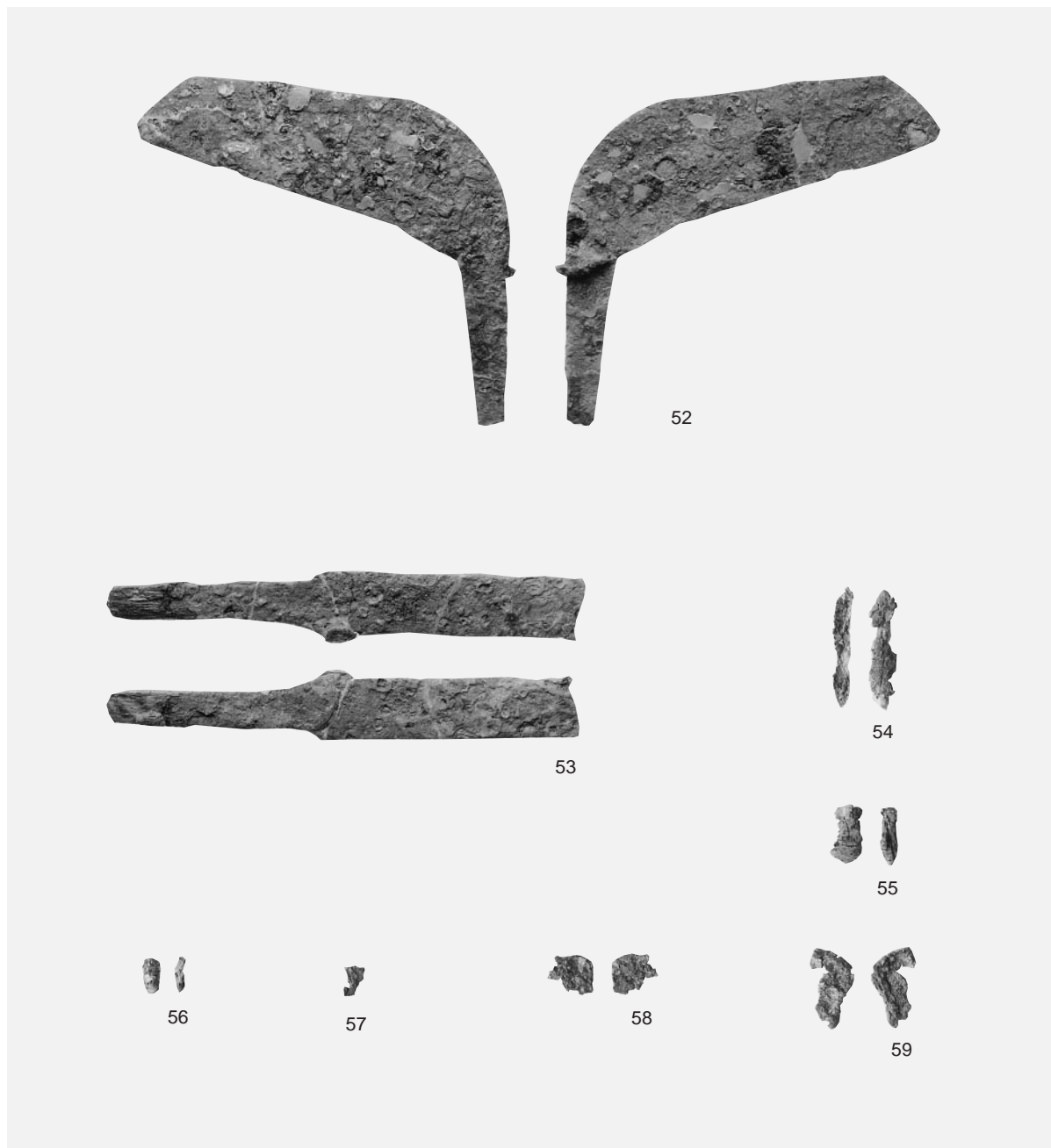
1 焼土群 2



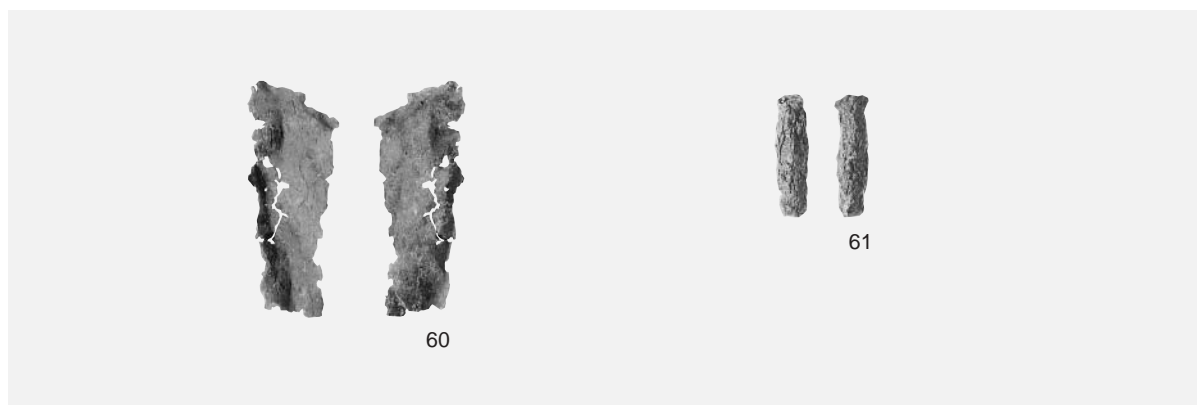
2 焼土群 3



3 焼土群 4
鉄製品(3)

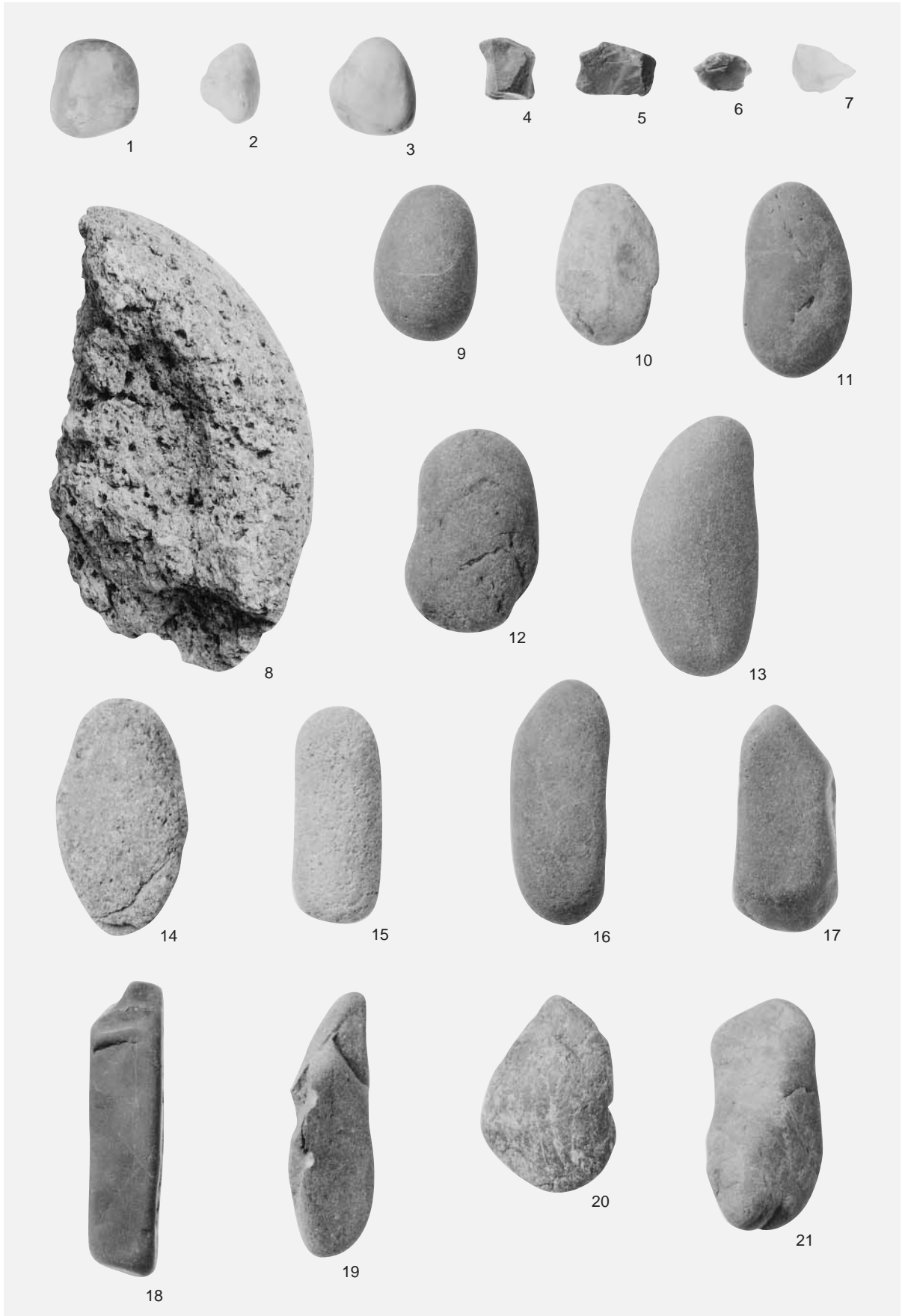


1 包含層



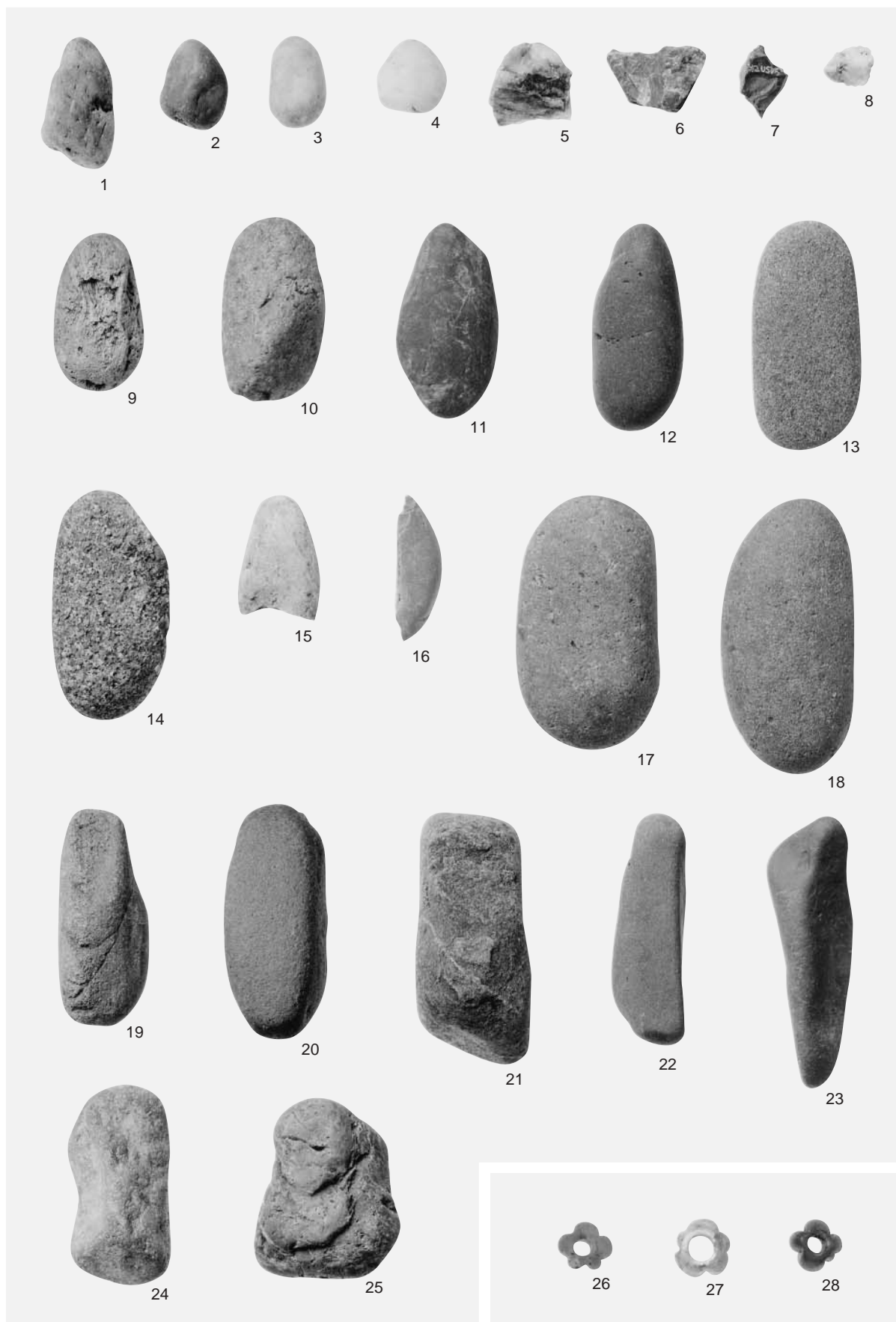
2 平成14年調査分

鉄製品(4)



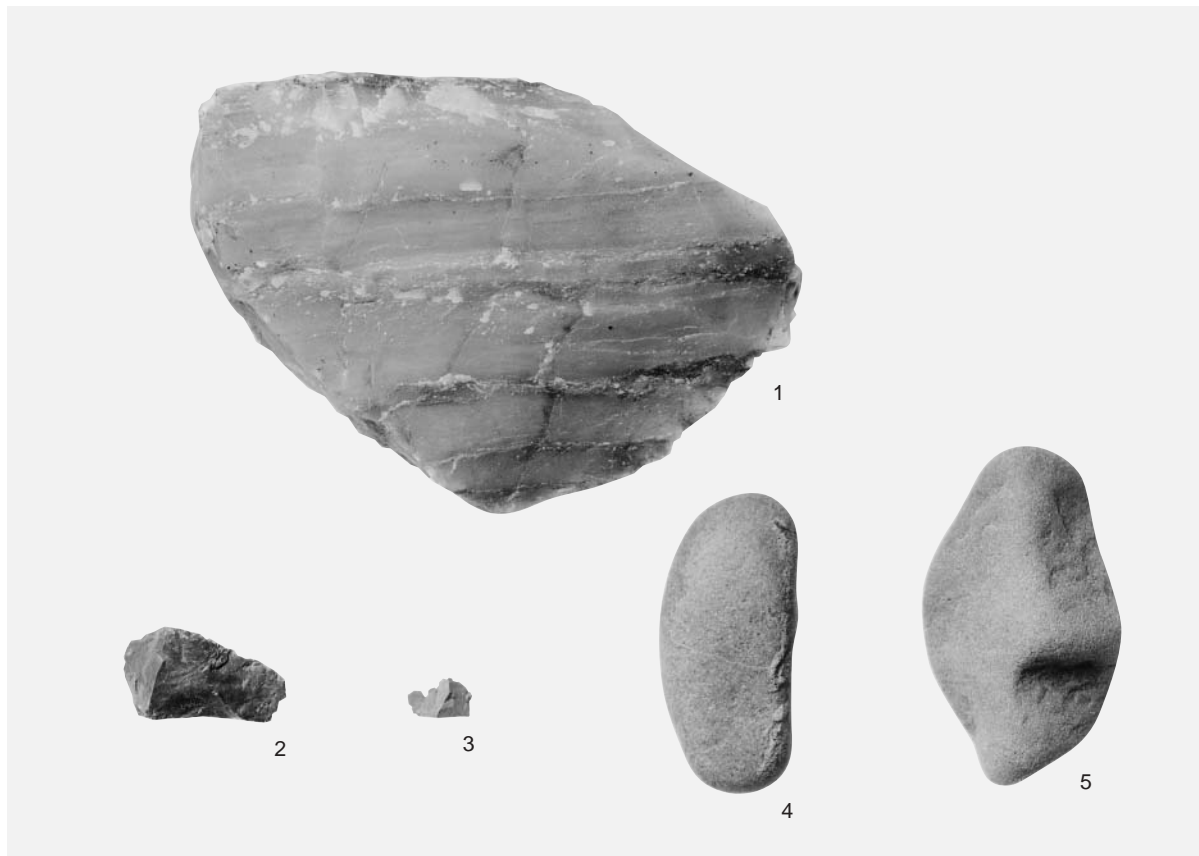
1 USD - 5

遺構出土の石器(1)

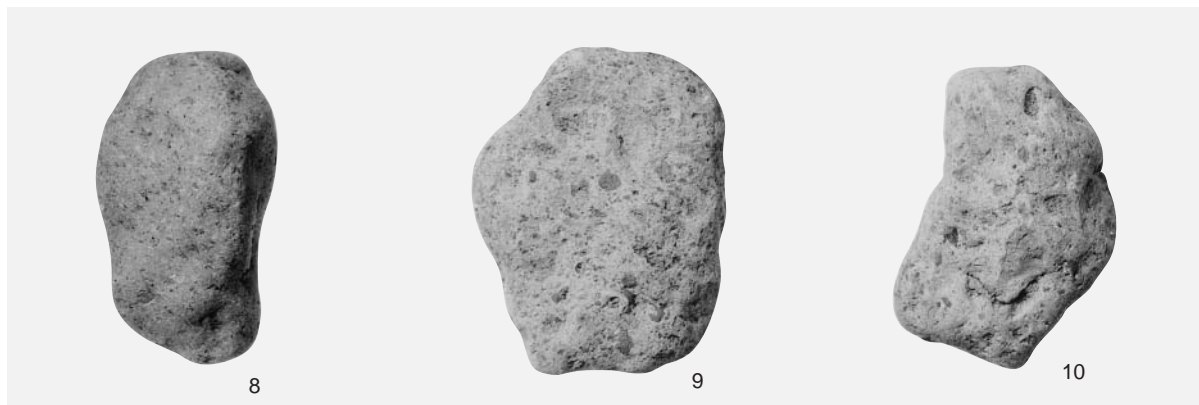


1 USD - 8

遺構出土の石器(2)



1 USD - 9



2 UFP - 8



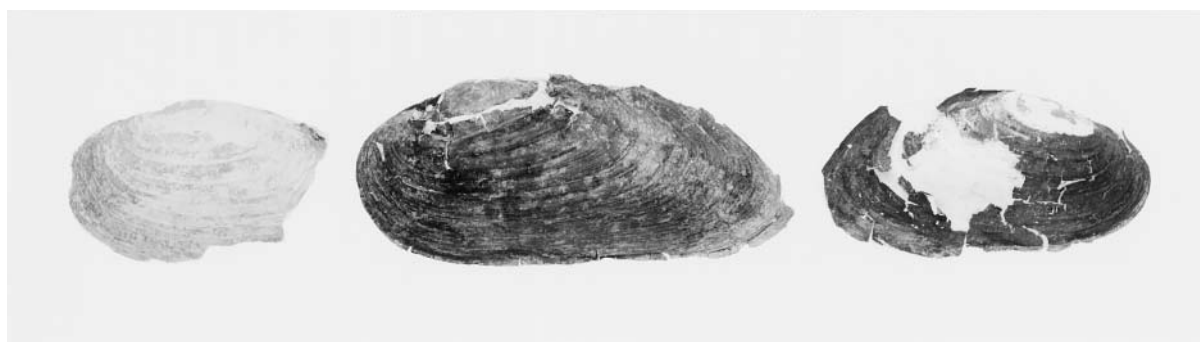
3 UFP - 4

4 UFP - 6
遺構出土の石器(3)

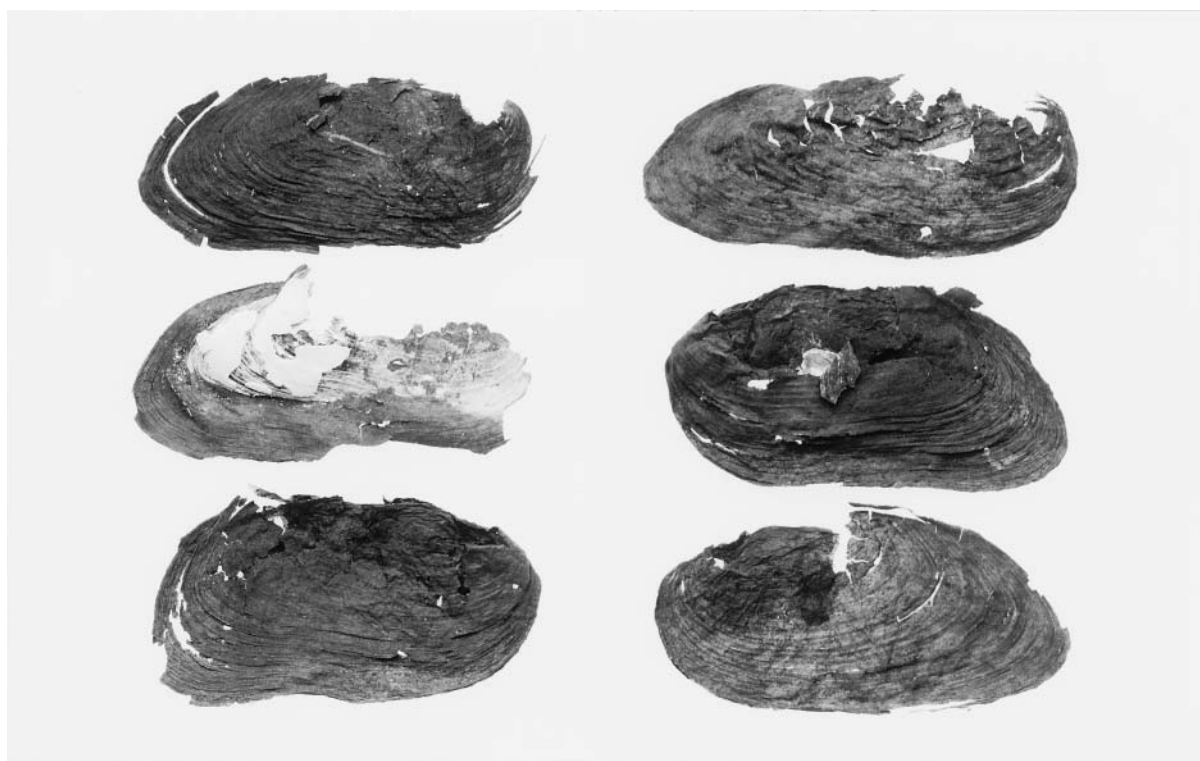
5 Ⅲ層出土のガラス玉



1 カワシンジュガイ (現生)

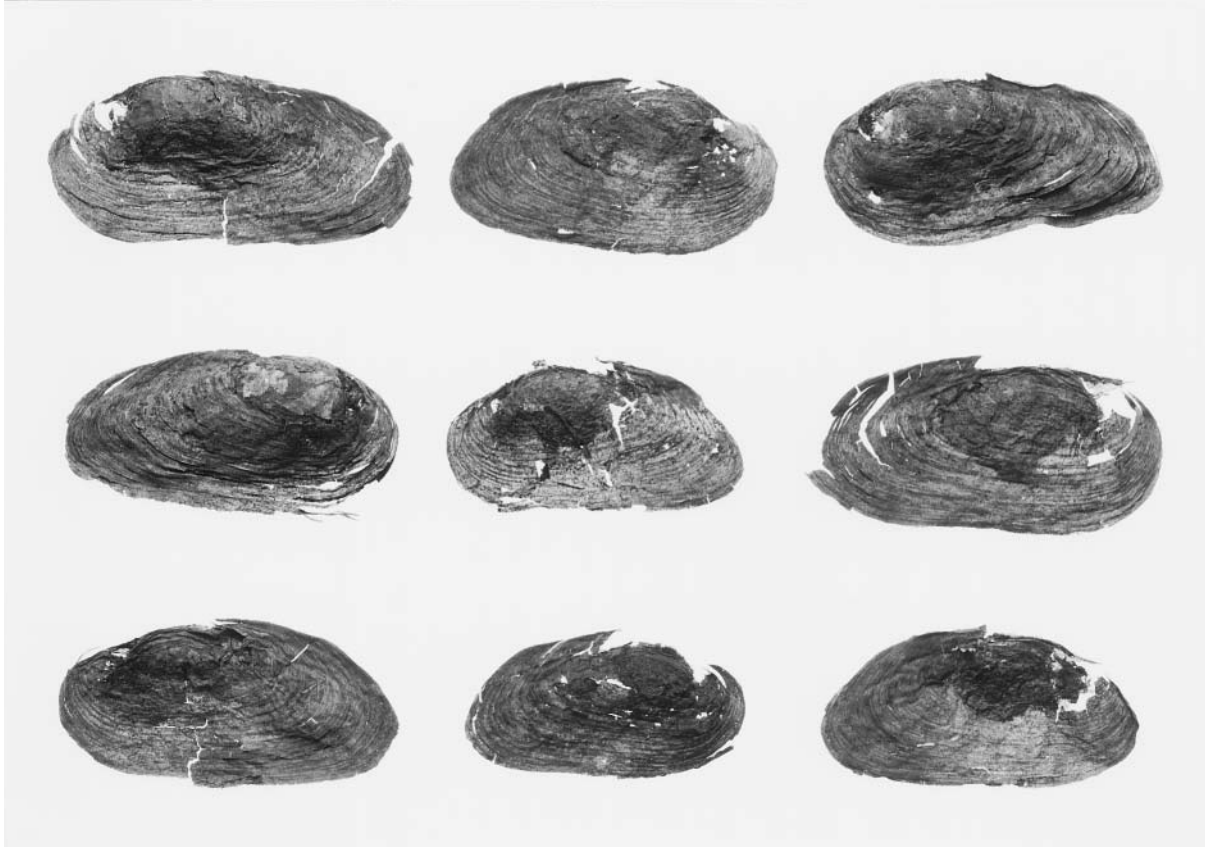


2 カワシンジュガイ (殻残存・USP - 33ほか)



3 カワシンジュガイ殻皮 (焼土群2出土)

動物遺存体(1)

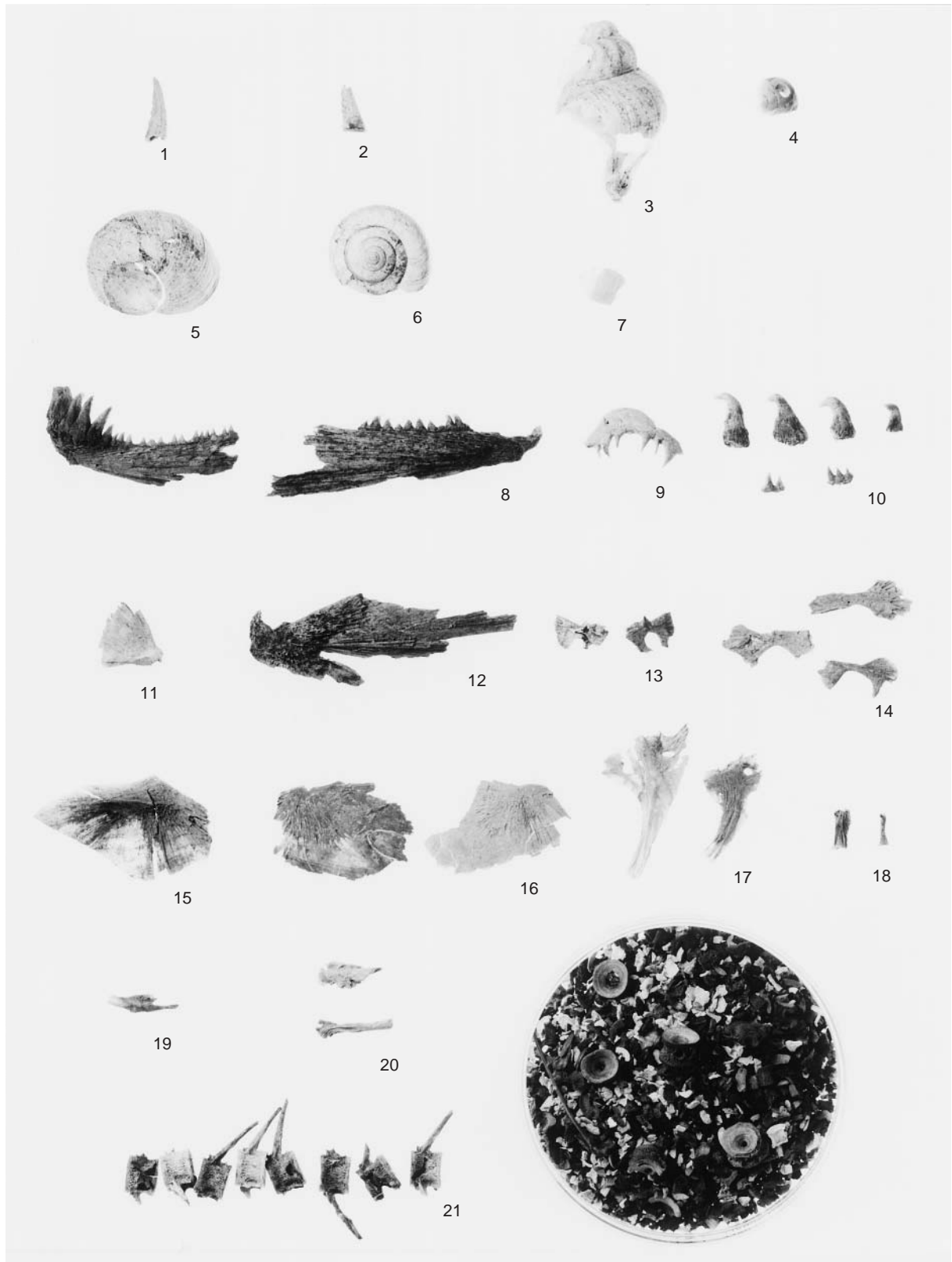


1 カワシンジュガイ殻皮 (UKS - 4 出土)



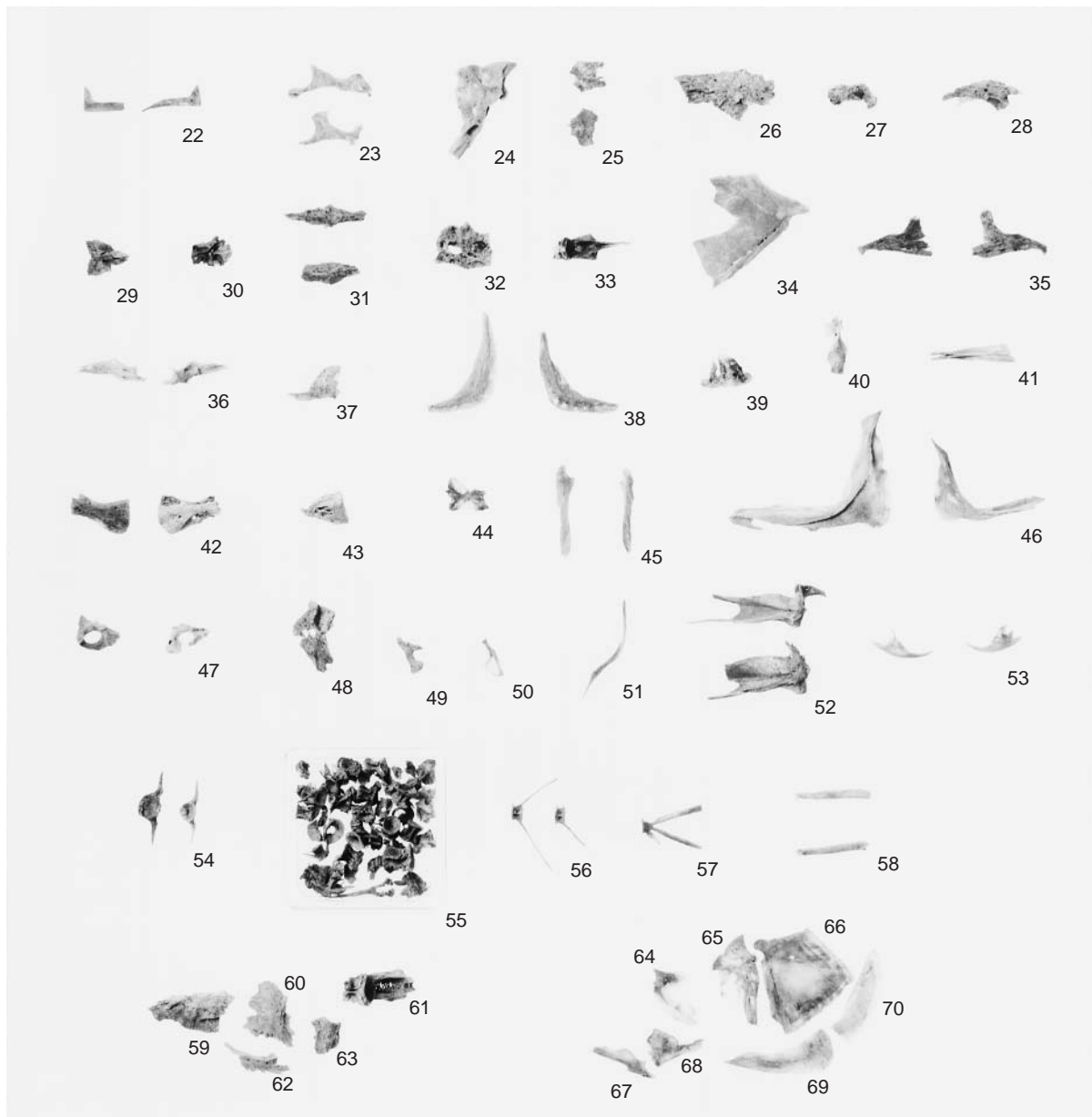
2 カワシンジュガイ殻皮 (USK - 4 出土)

動物遺存体(2)

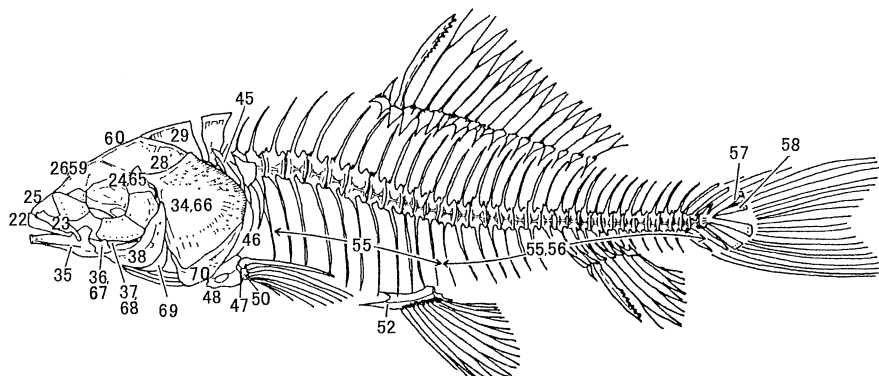


1 2 クモガニ科(指節)、3 エゾバイ科、4 エゾタマキビガイ、5 エゾマイマイ、6 マイマイ
 7 タマキガイ科、
 8 ~ 21 サケ科(8 歯骨 LR、9 前上顎骨 L、10 歯、11、方骨 R、12 角骨 R、13 肩甲骨 LR、
 14 中鳥骨 LR、15 擬鎖骨 R、16 間鰓蓋骨 LR、17 烏口骨 L、18 射出骨、
 19 第1番目の尾神経骨、20 尾骨、21 椎骨)

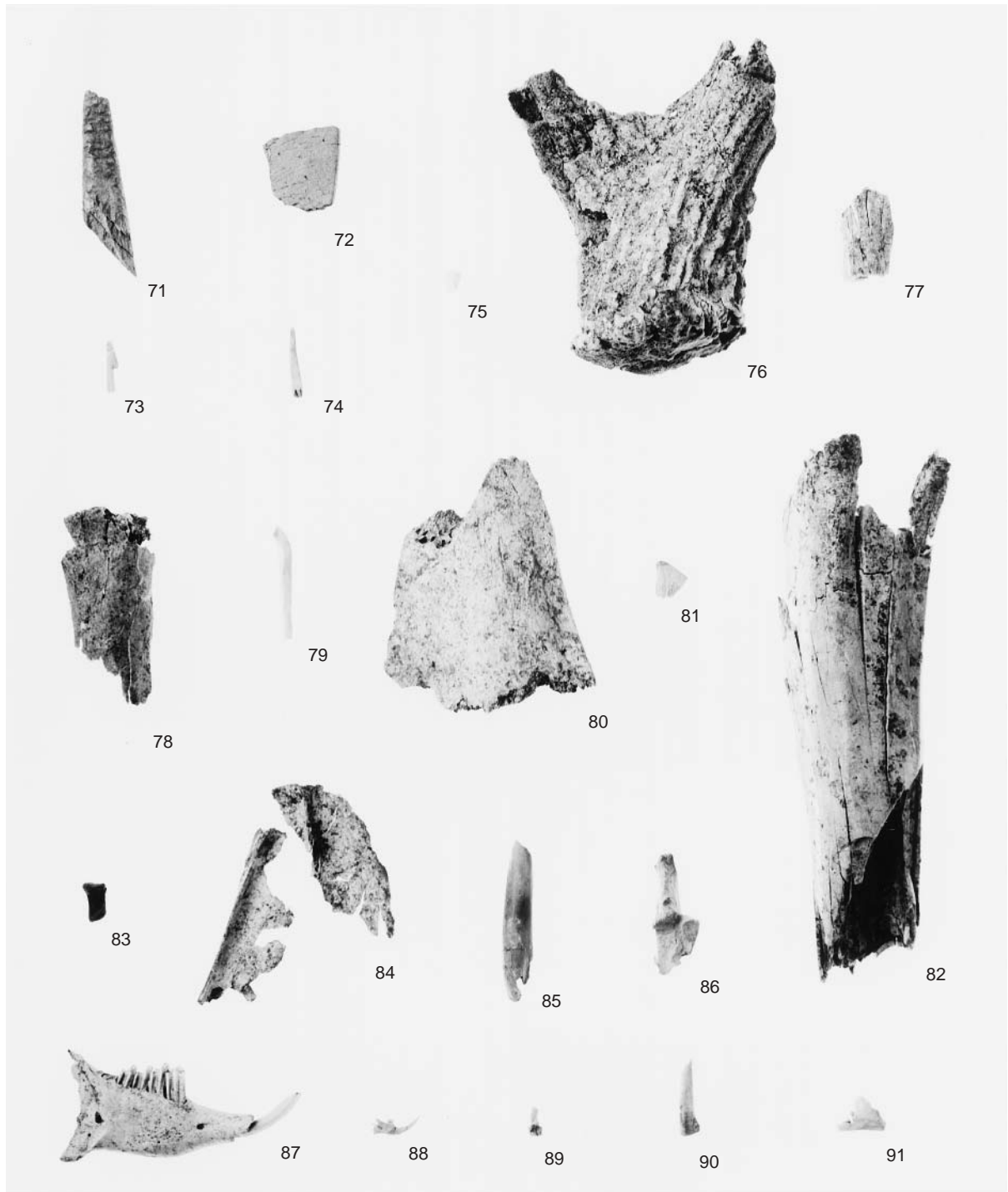
動物遺存体(3)



22~58 コイ科、59~63 コイ科頭部 L、64~70 コイ科顔部 L
 (22 前上顎骨 LR、23 主上顎骨 R、24 舌顎骨 L、25 上篩骨、26 前頭骨 L、27 蝶耳骨 R、28 上側頭骨 R、29 上後頭骨、30 翼蝶形骨 R、31 副蝶形骨、32 前耳骨 L、33 基後頭骨、34 主鰓蓋骨 R、35 齒骨 LR、36 角骨 LR、37 方骨 R、38 前鰓蓋骨 LR、39 咽頭骨、40 口蓋骨、41 尾舌骨、42 角舌骨、43 上舌骨 L、後翼狀骨、45 上擬鎖骨 LR、46 擬鎖骨 LR、47 肩甲骨 LR、48 烏口骨 L、49 中烏口骨 R、50 射出骨、51 後擬鎖骨、52 基鰓骨 L、53 三脚骨 LR、54 第1椎骨、55 椎骨、56 尾椎、57 尾棒骨、58 下尾骨、59 前頭骨、60 頭頂骨、61 基後頭骨、62 上側頭骨、63 上耳骨、64 内翼狀骨、65 舌顎骨、66 主鰓蓋骨、67 角骨、68 方骨、69 間鰓蓋骨、70 下鰓蓋骨)



動物遺存体(4)



71~74 骨角器 (71.72 骨角器、73 釣針、74 骨針) 75 ヒト (下顎切歯)
 76~82 シカ (76.77 角、78 中手骨 R pro、79 第2 or 第5中手 (足) 骨 pro、80 寛骨 R
 81 第1下顎切歯、82 脛骨 L pro)
 83~86 イヌ科 (83 副手根骨 L、84 肩甲骨 R、85 タヌキ上腕骨 R dis、86 キツネ踵骨 R)
 87 ウサギ下顎骨 R、88.89 ネズミ類 (88 クマネズミ下顎骨 R、89 踵骨 L)
 90.91 鳥類 (90 橈骨 L dis、91 鳥口骨 L dis)

動物遺存体(5)



1 LPI - 5(1)



3 LCP - 3(2)



4 LCP - 5(6)



2 LPI - 2(1)



5 Ⅲ層(17)

復元土器(1)



1 Ⅲ層(15)



2 V·VI層(40)



3 V·VI層(122)



4 V·VI層(123)

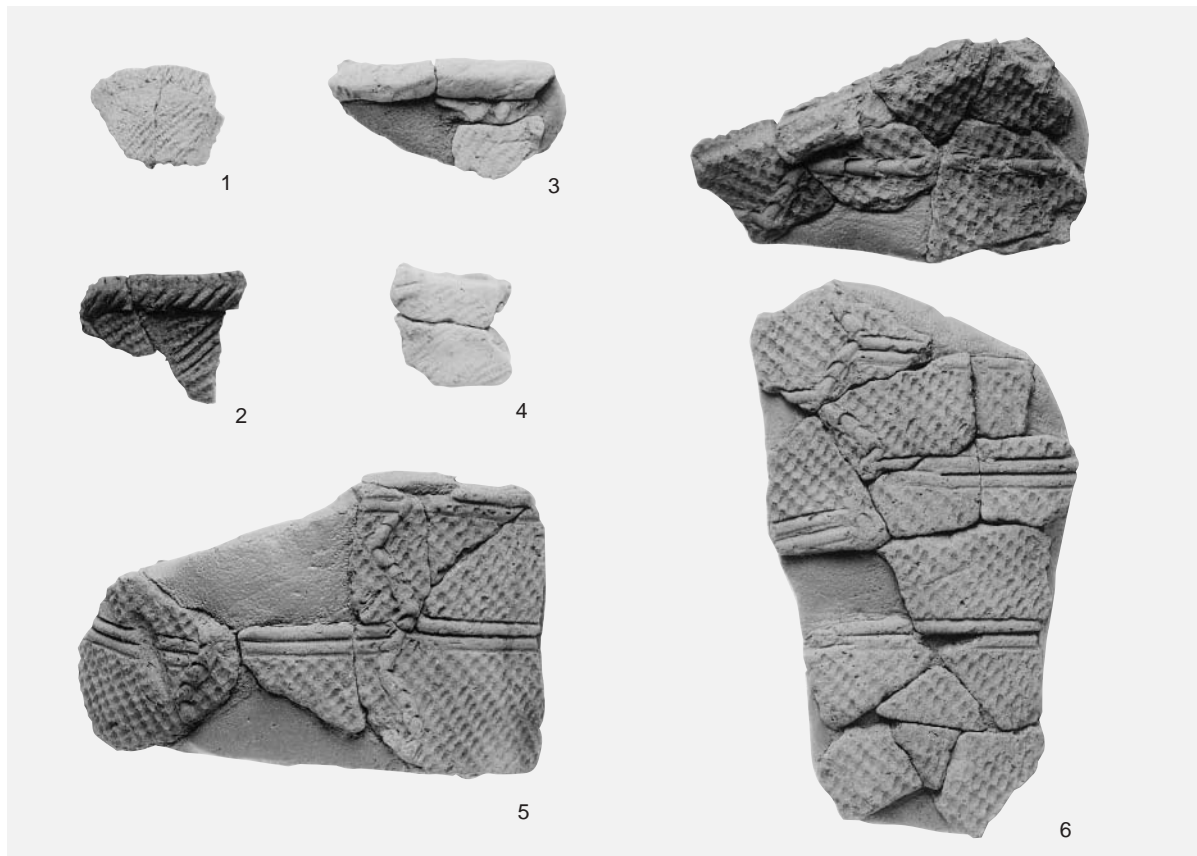


5 V·VI層(125)

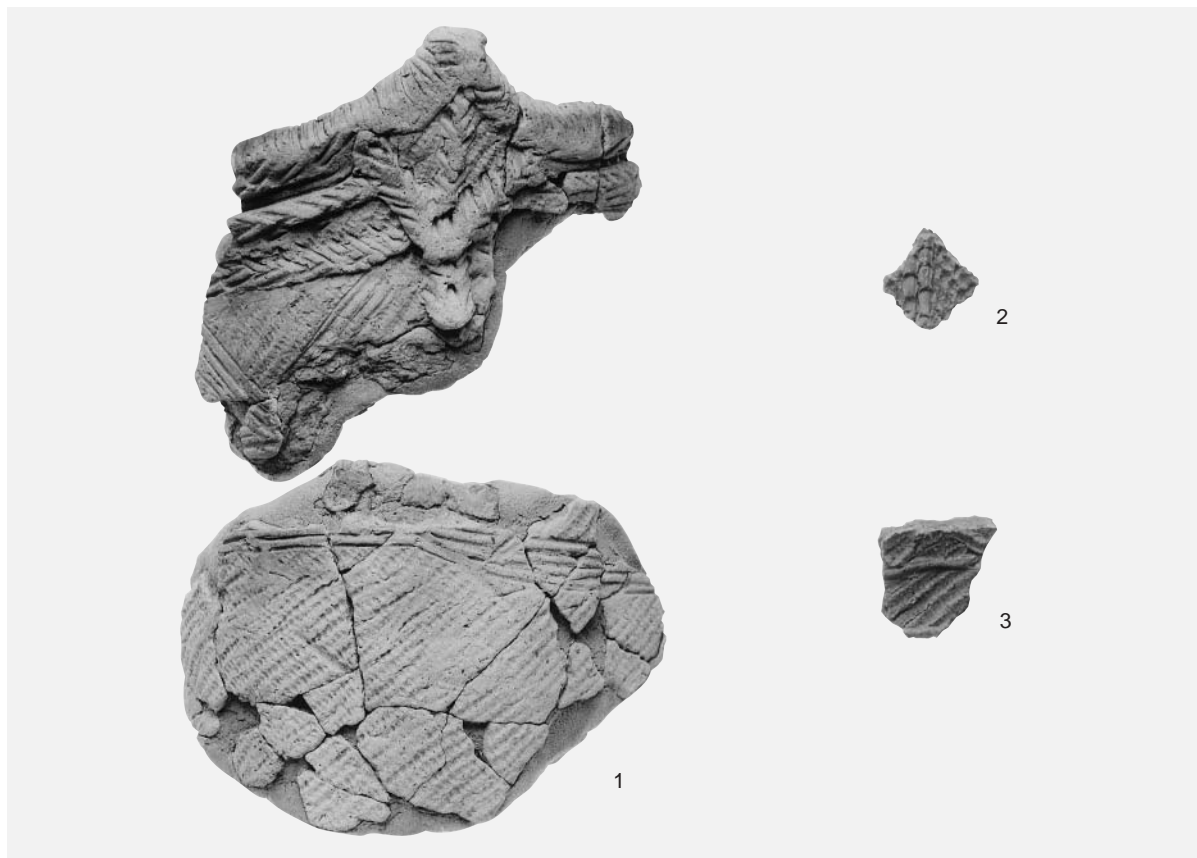


6 V·VI層(124)

復元土器(2)

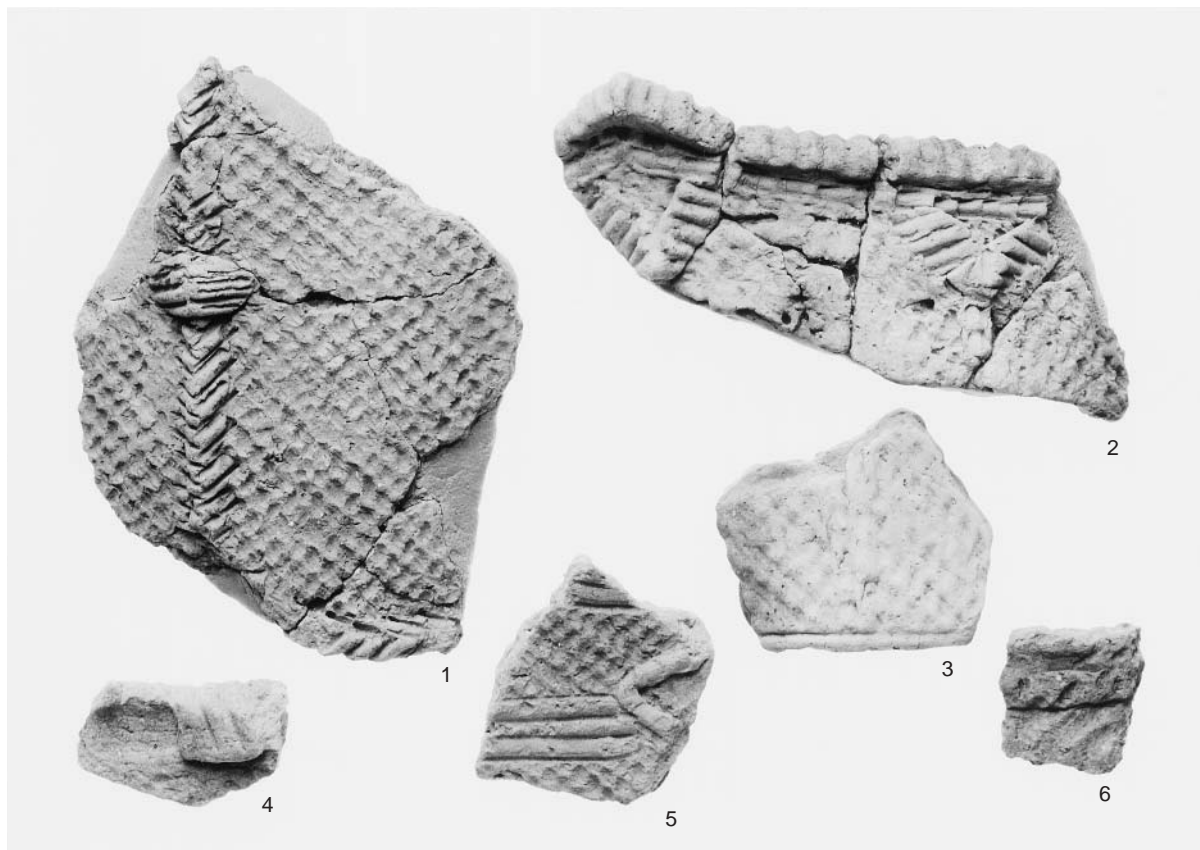


1 LPD - 2

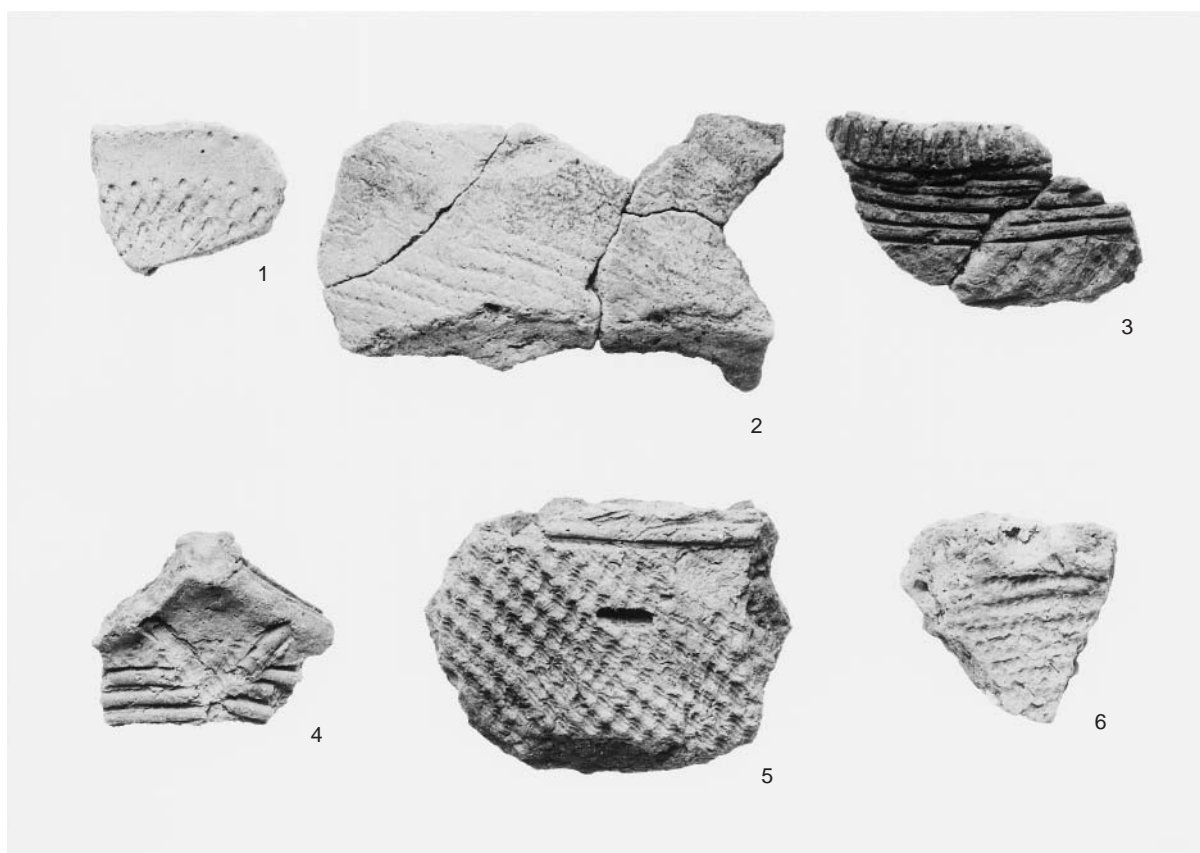


2 LPD - 3

遺構出土の土器(1)

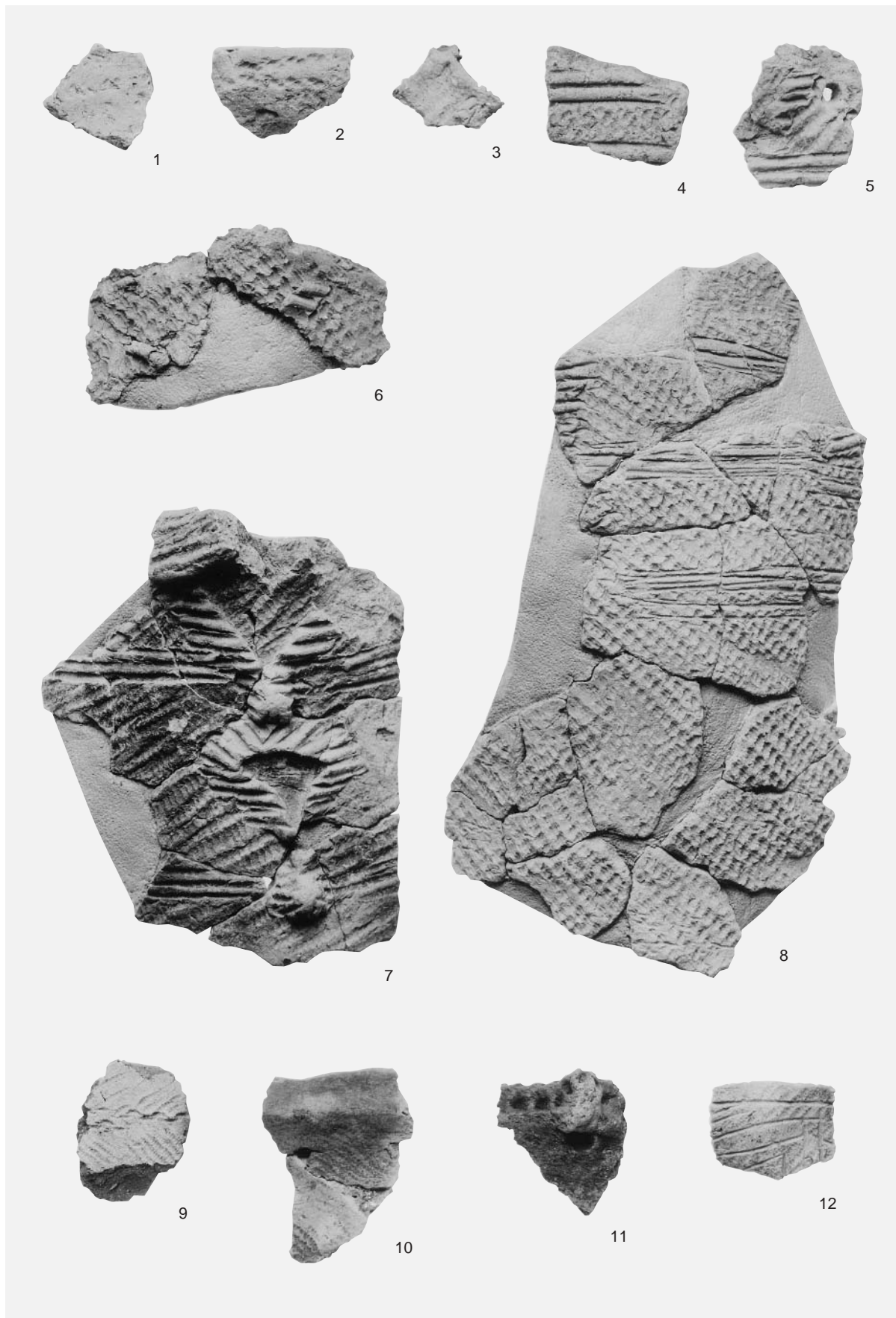


1 LPD - 4



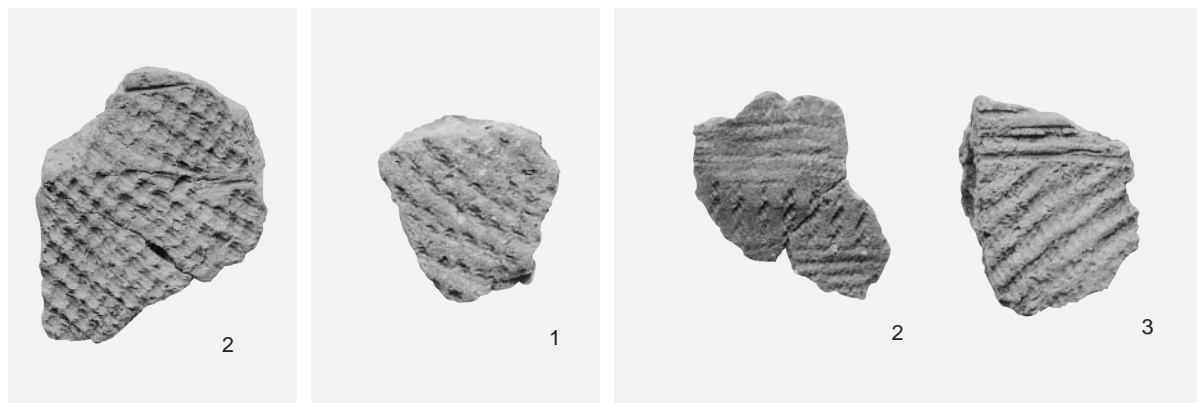
2 LPD - 5

遺構出土の土器(2)



1 LPD - 6

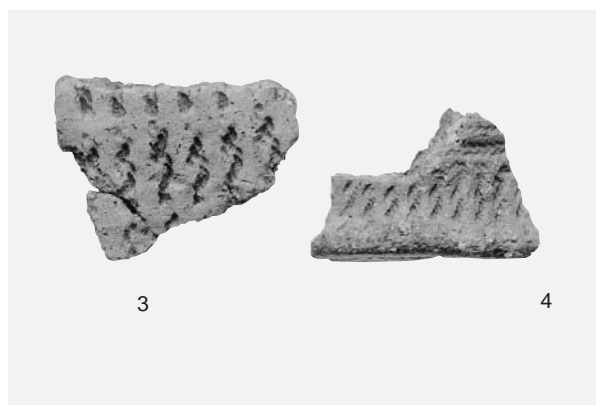
遺構出土の土器(3)



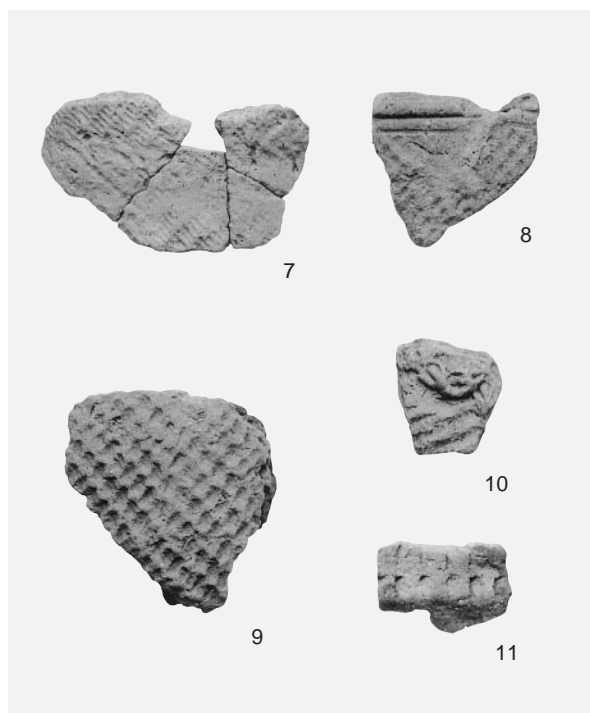
1 LPI - 6

3 LTP - 9

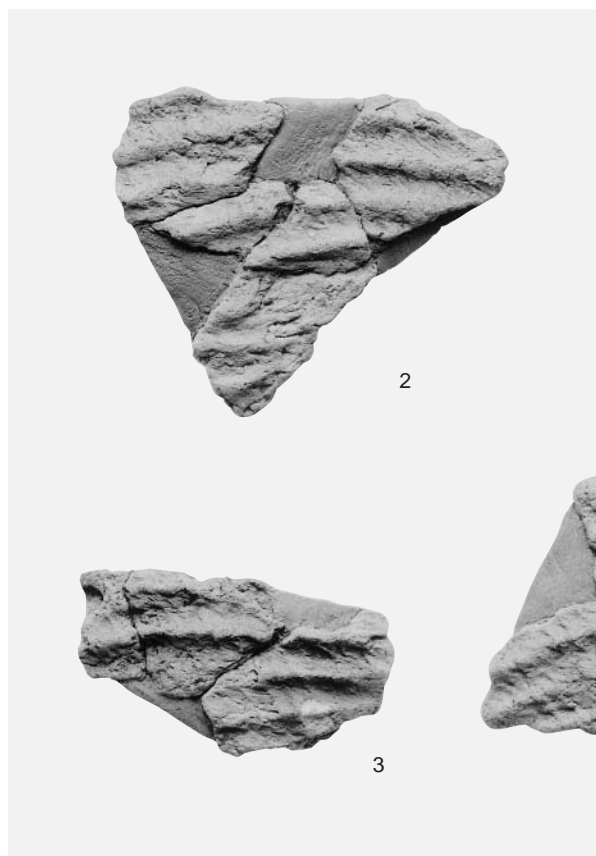
4 LTP - 10



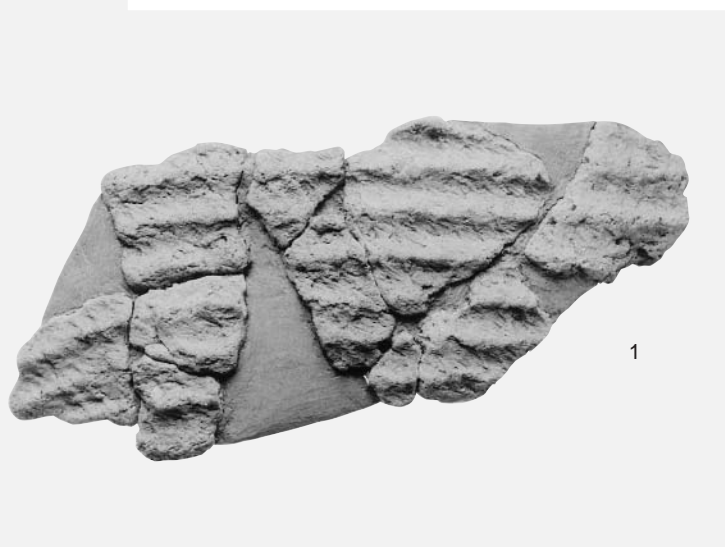
2 LTP - 8



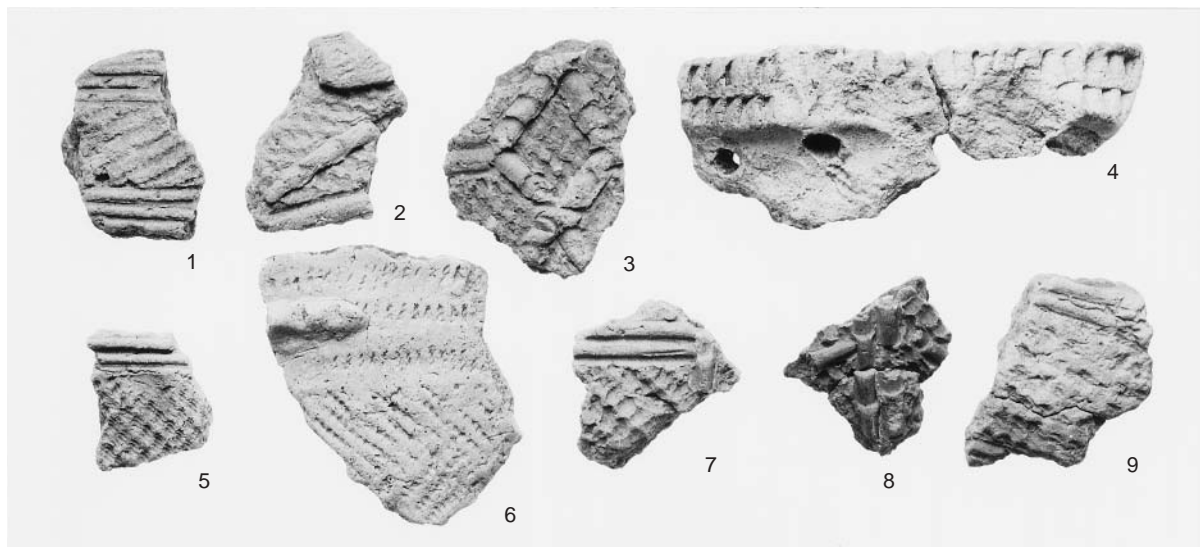
6 LCP - 6



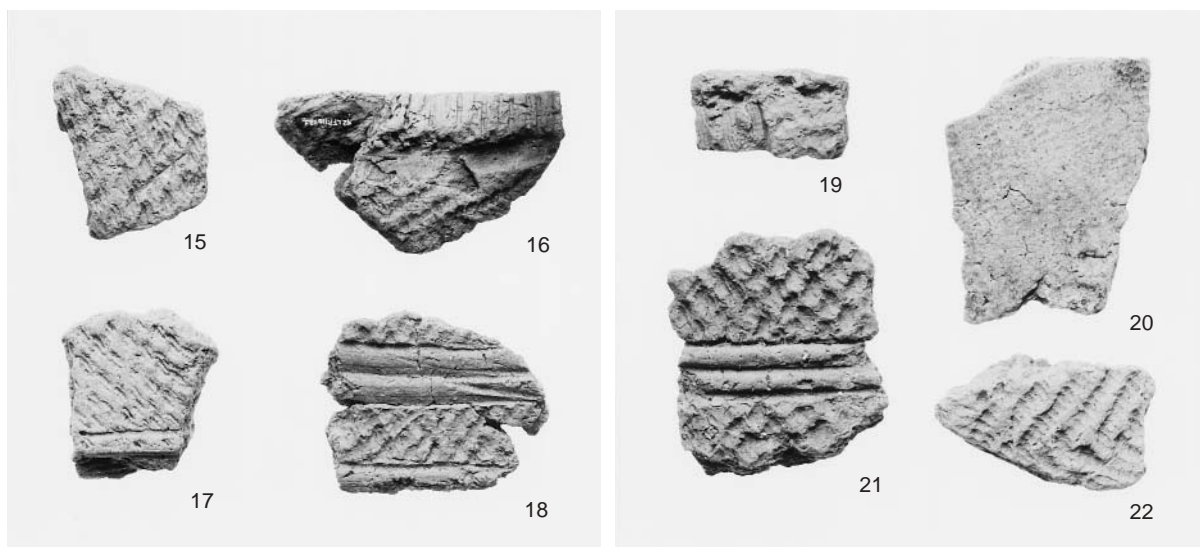
5 LCP - 4



遺構出土の土器(4)

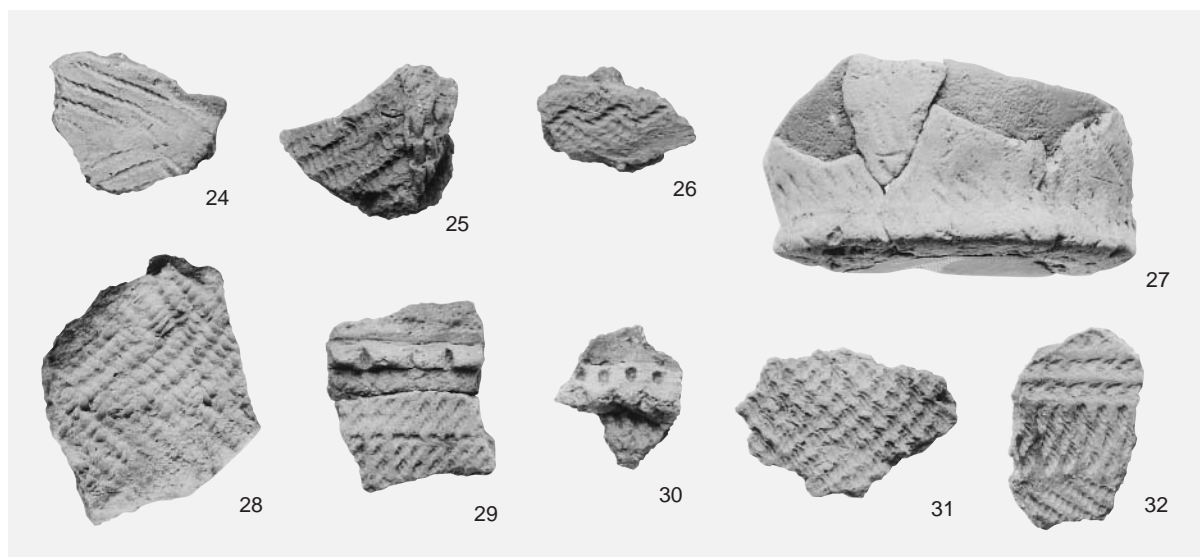


1 焼土列 1



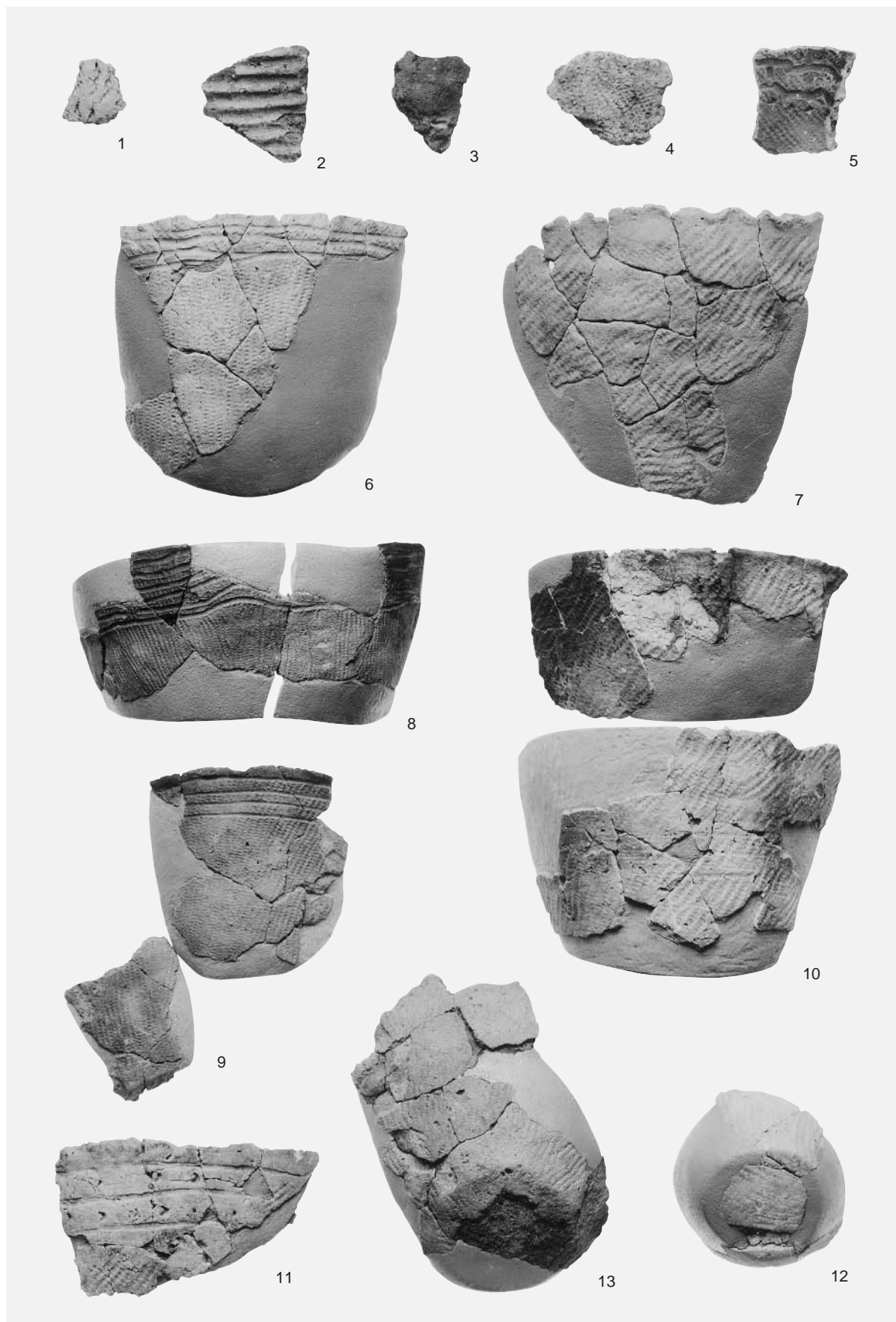
2 焼土列 2

3 焼土群 1



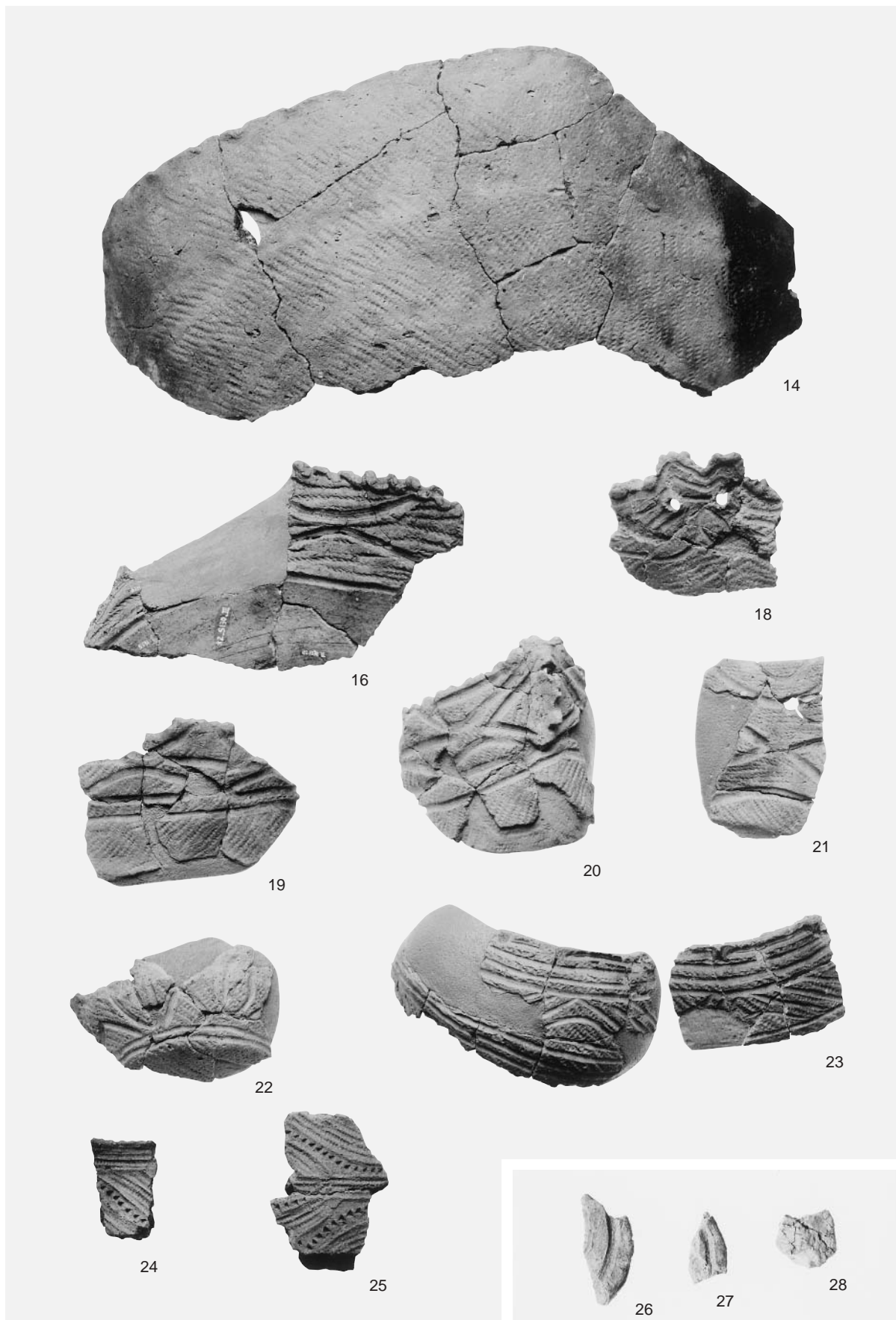
4 LFP

遺構出土の土器(5)



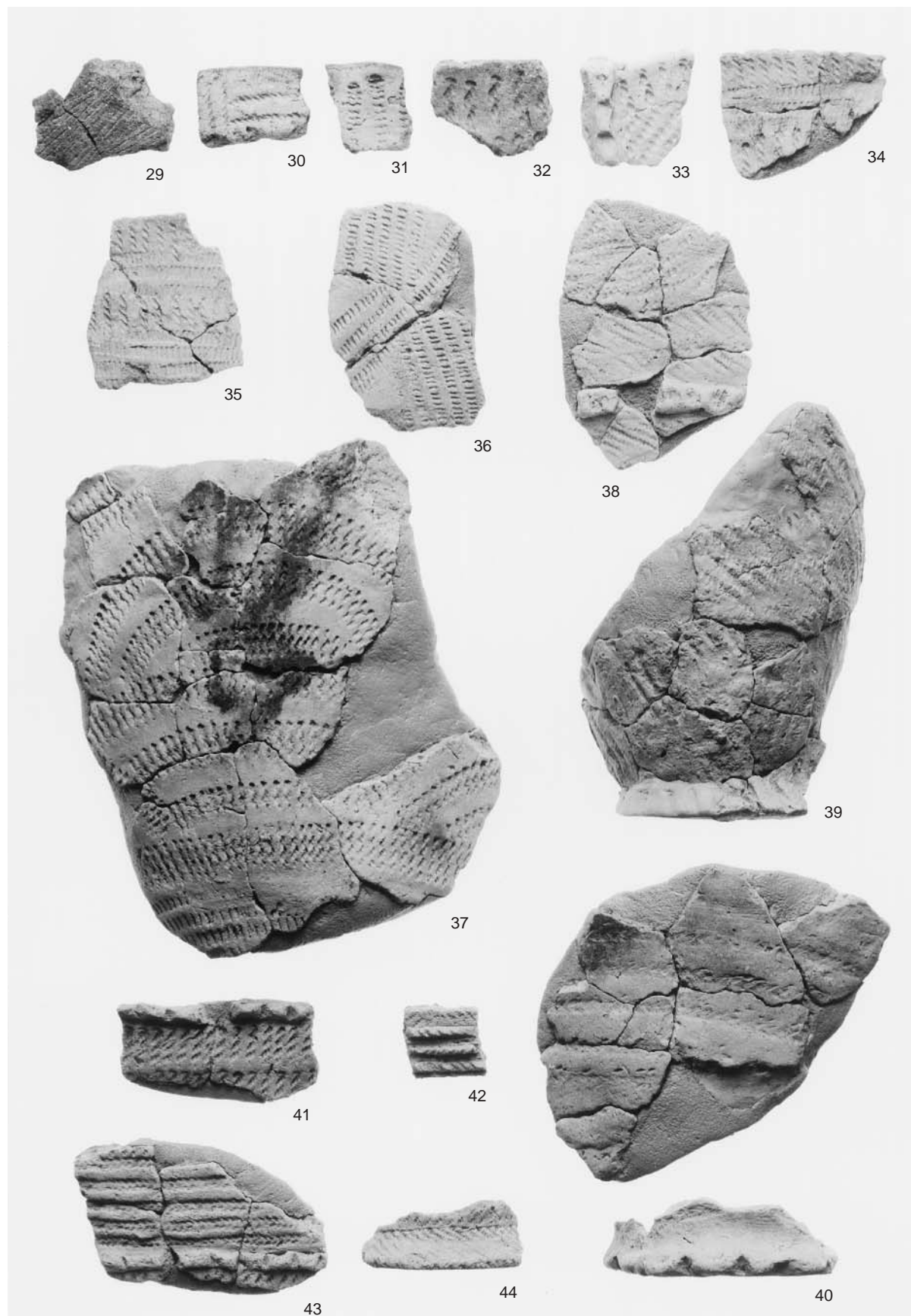
1 Ⅲ層(1)

包含層出土の土器(1)



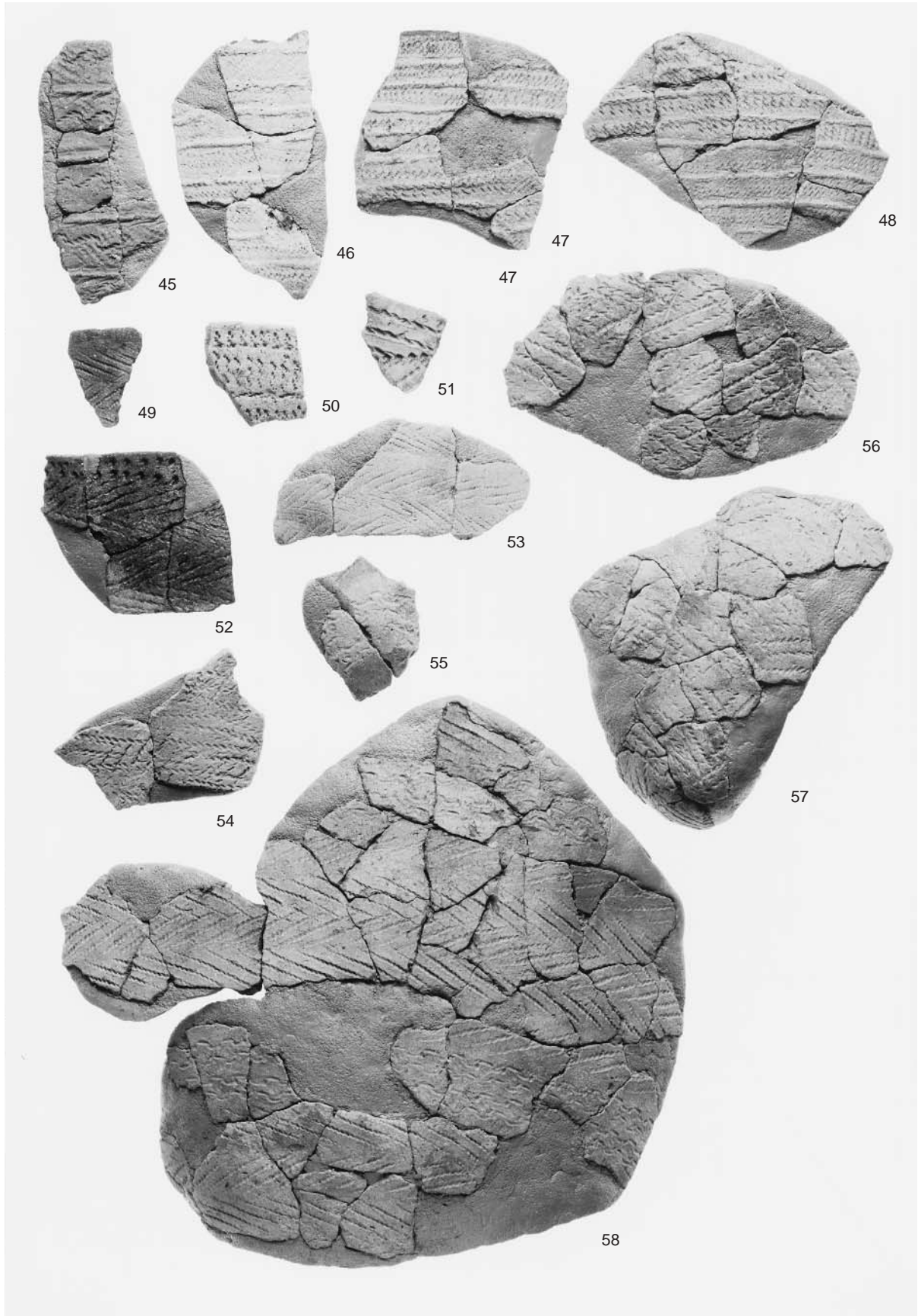
1 Ⅲ層(2)

包含層出土の土器(2)



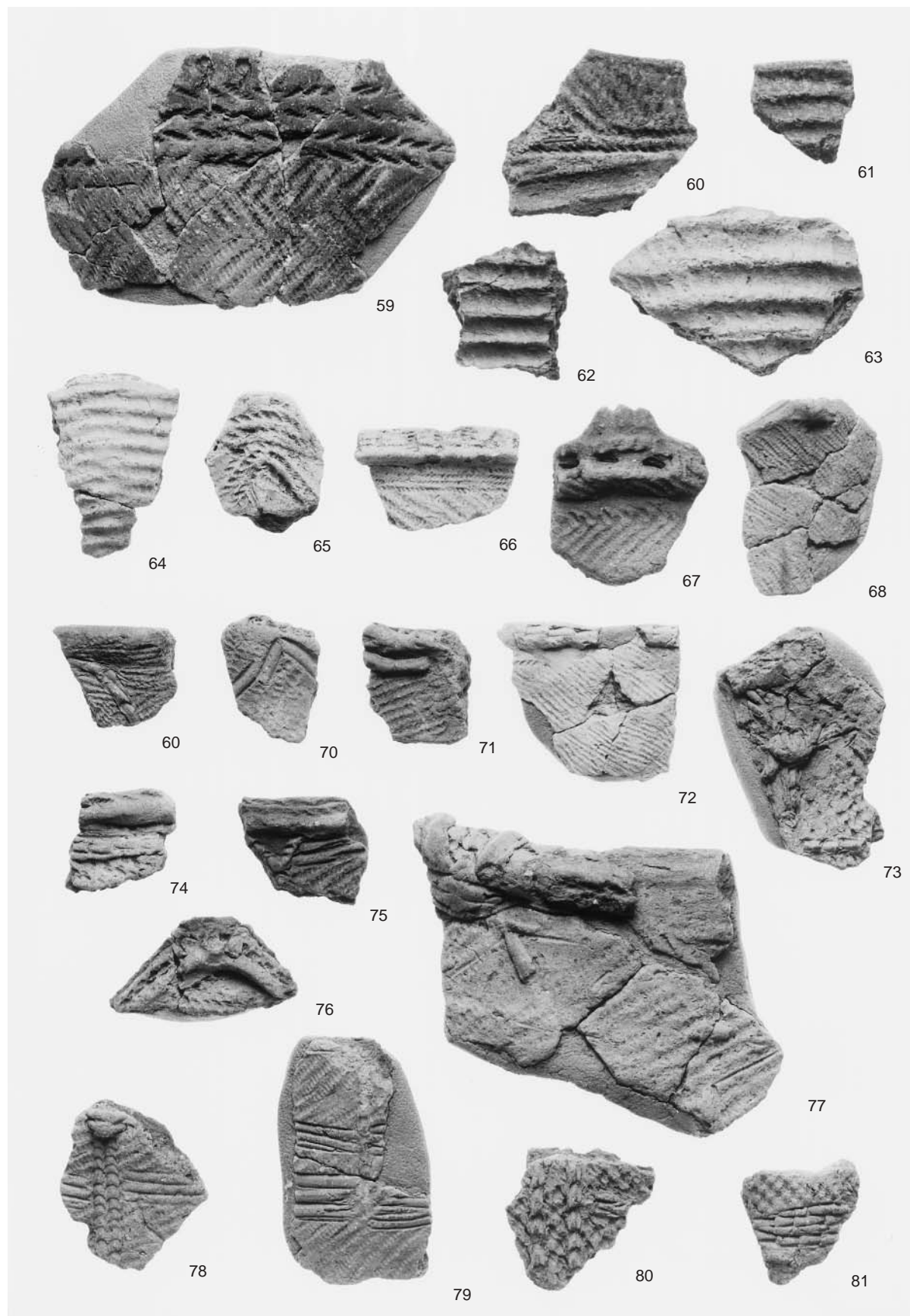
1 V・VI層(1)

包含層出土の土器(3)



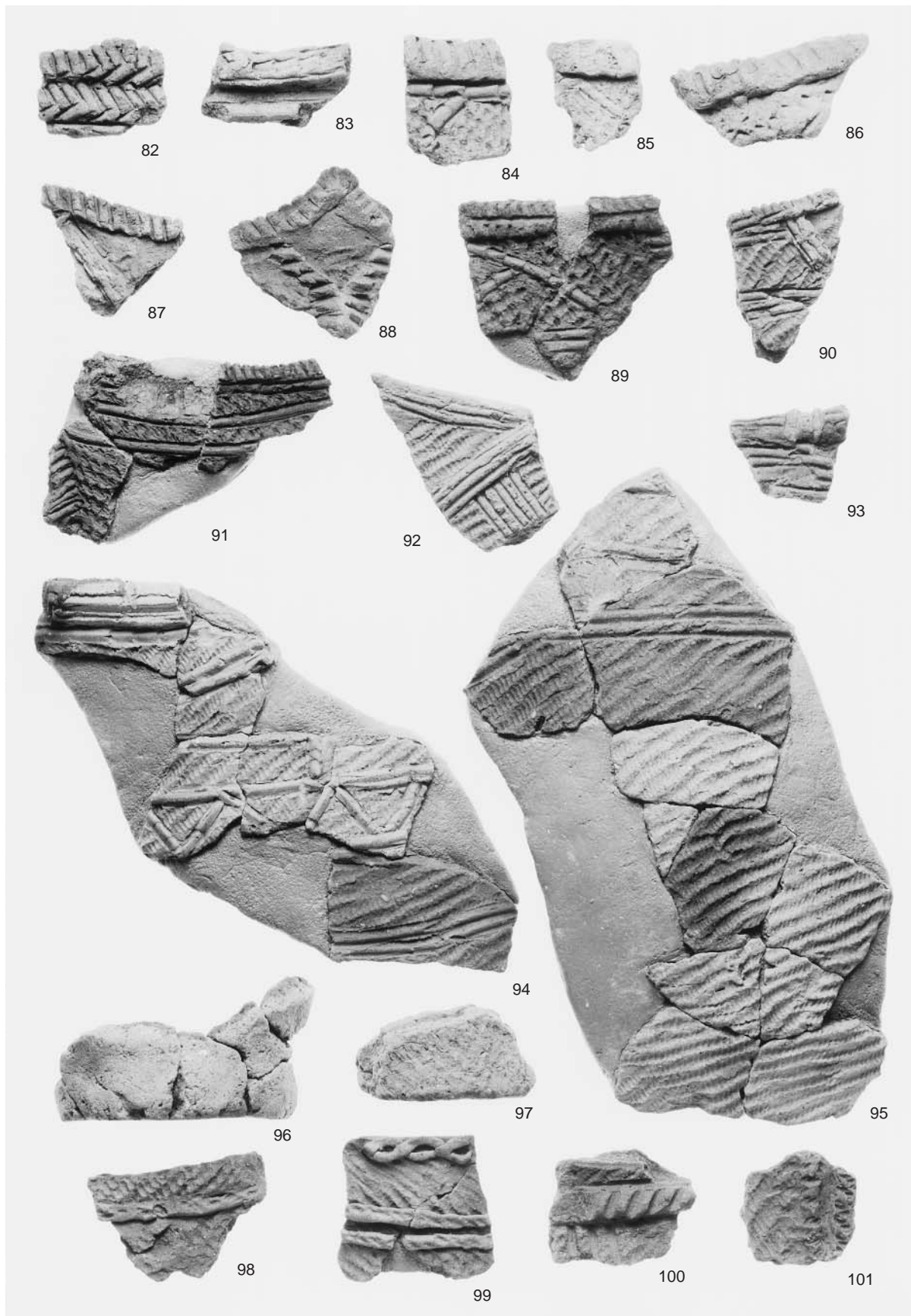
1 V・VI層(2)

包含層出土の土器(4)



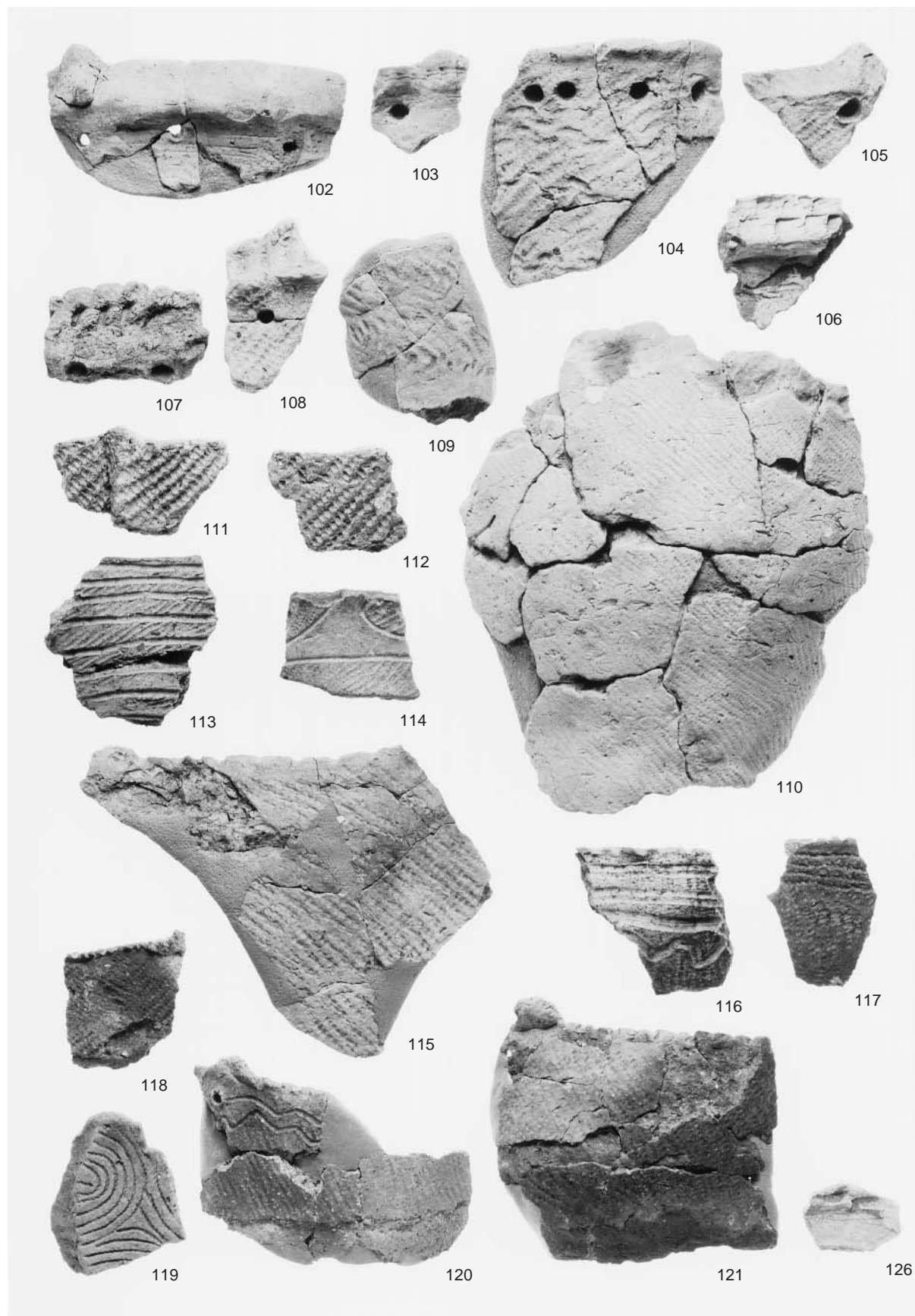
1 V・VI層(3)

包含層出土の土器(5)



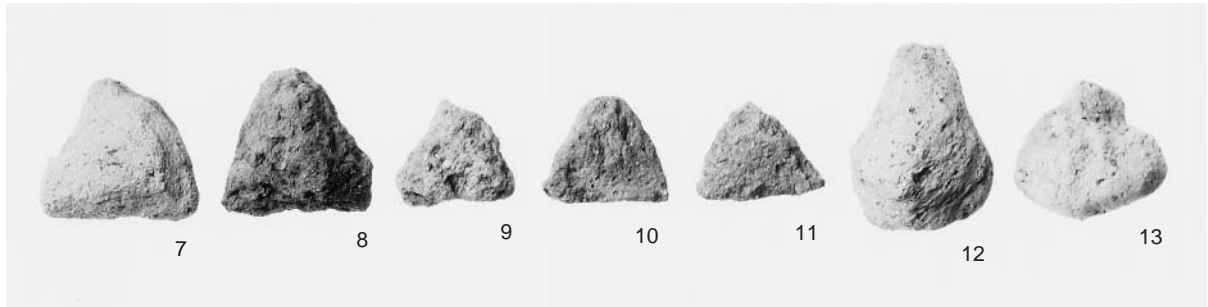
1 V・VI層(4)

包含層出土の土器(6)



1 V・VI層(5)

包含層出土の土器(7)



1 LPD - 2



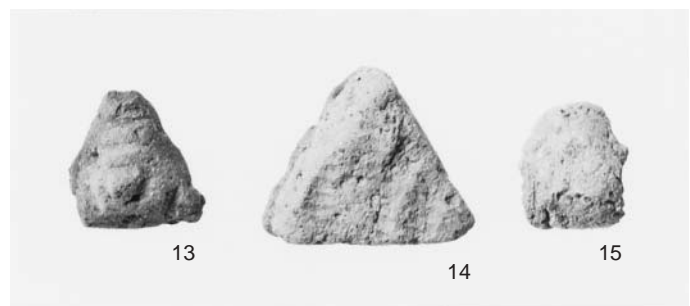
2 LPD - 3



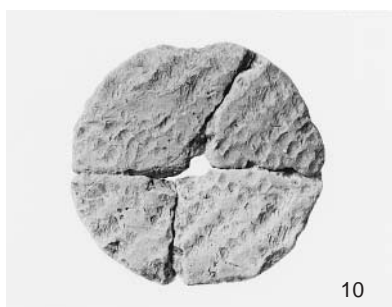
3 LPD - 4



4 LPD - 5



5 LPD - 6



6 LFP - 62

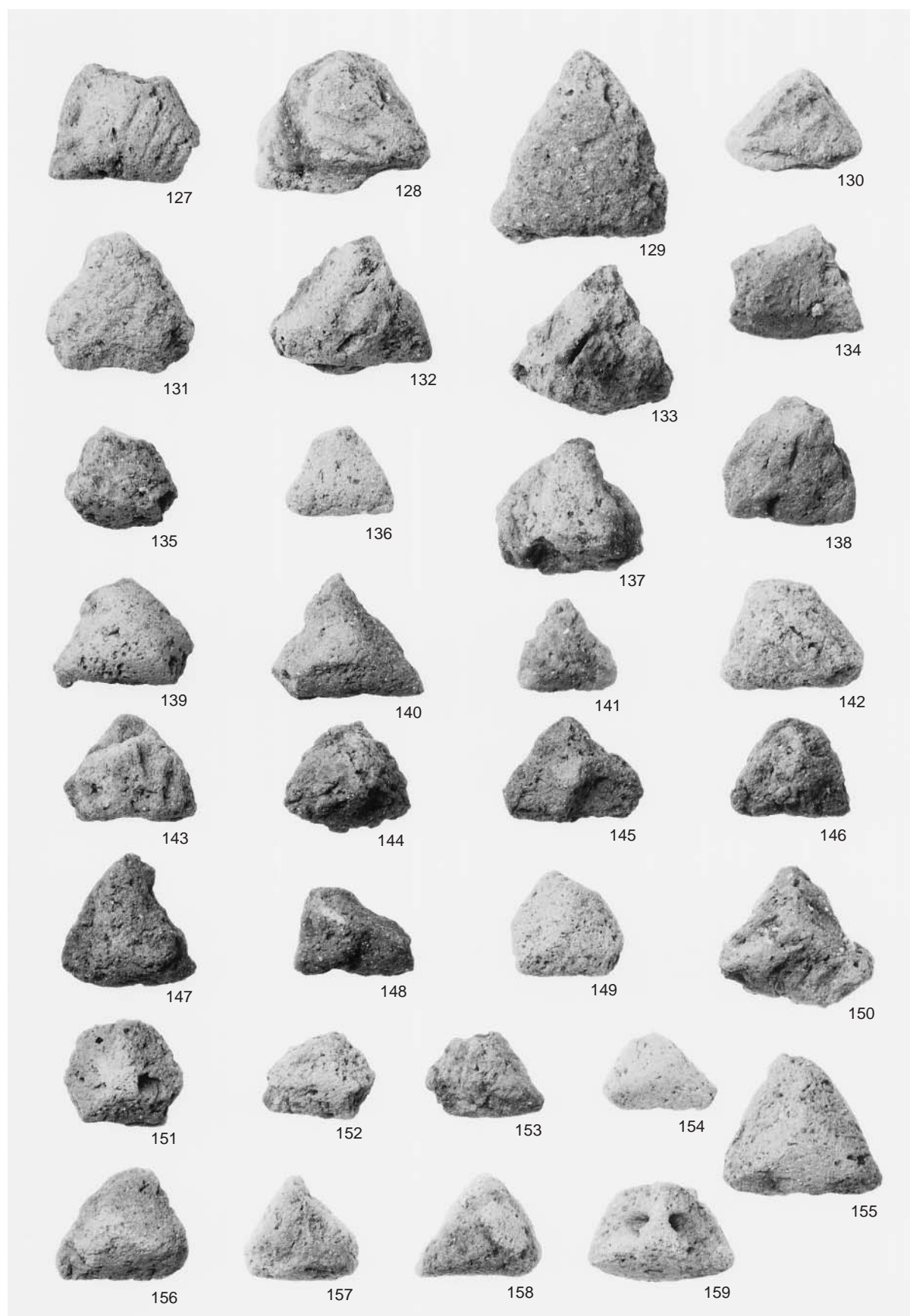


7 LFP - 69



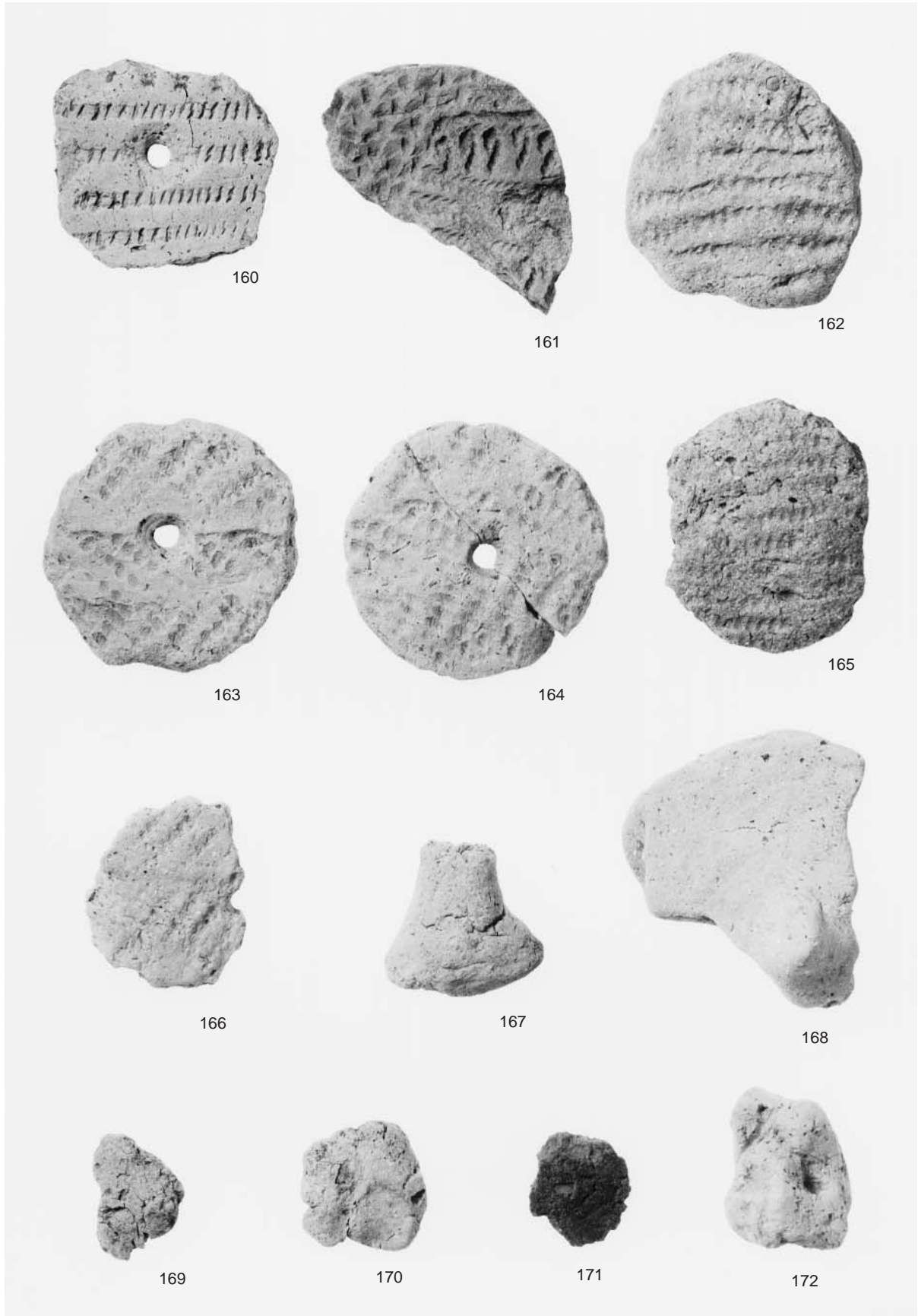
8 LFP - 71

遺構出土の土製品



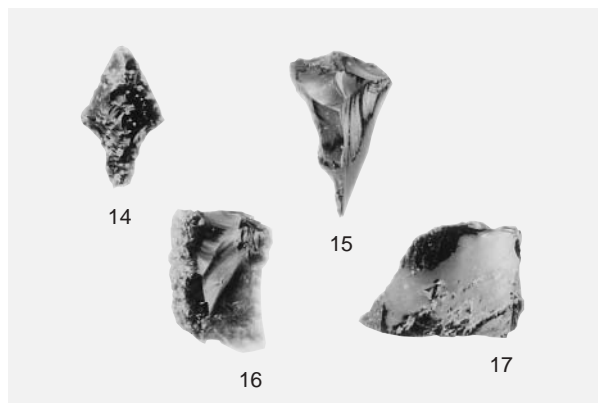
1 V・VI層(1)

包含層出土の土製品(1)

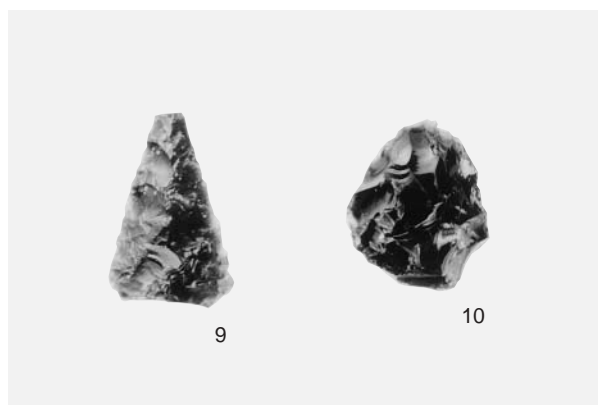


1 V・VI層(2)

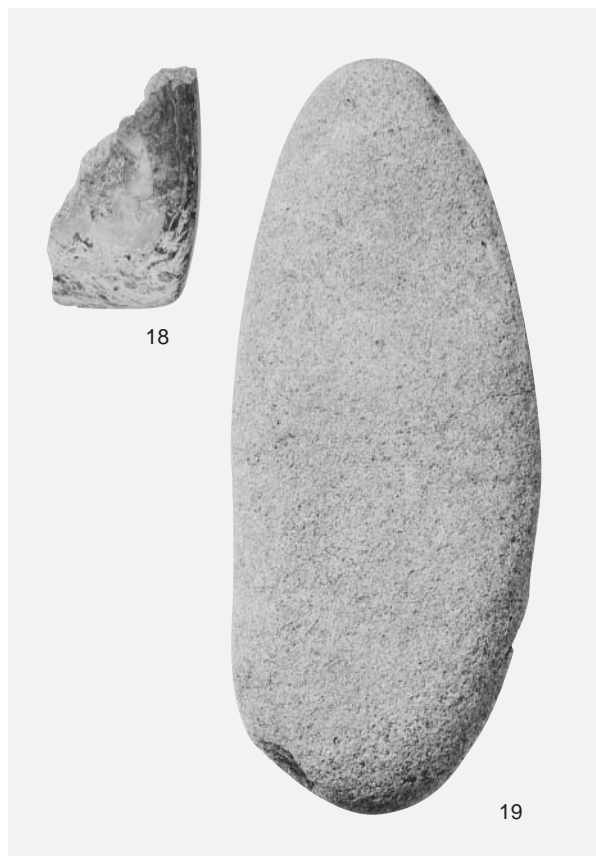
包含層出土の土製品(2)



1 LPD - 2(1)



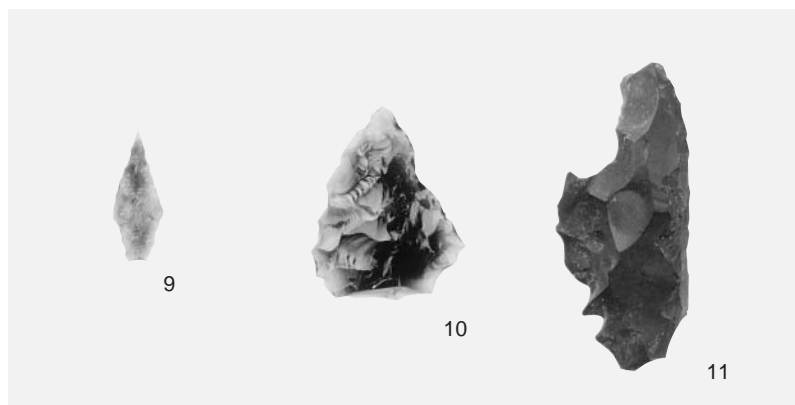
3 LPD - 3



2 LPD - 2(2)



4 LPD - 4



5 LPD - 5

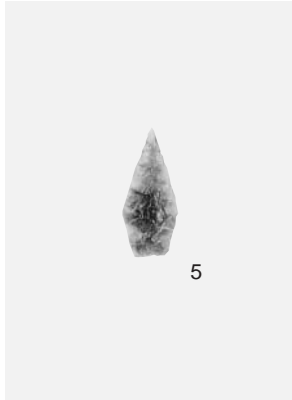


6 LPD - 6



7 LPD - 7

遺構出土の石器(4)



1 LPI - 13



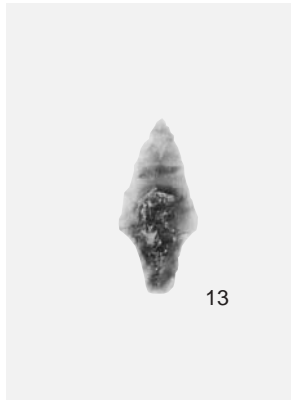
2 LPI - 20



3 LTP - 9



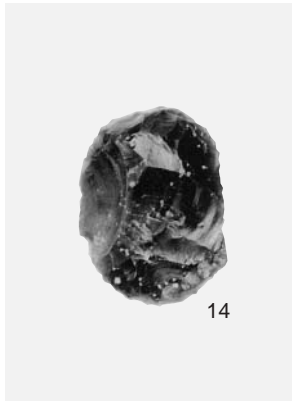
6 LFP - 6



7 LFP - 69



4 LTP - 10



8 LFP - 74



9 LFC - 5



10 LFC - 6

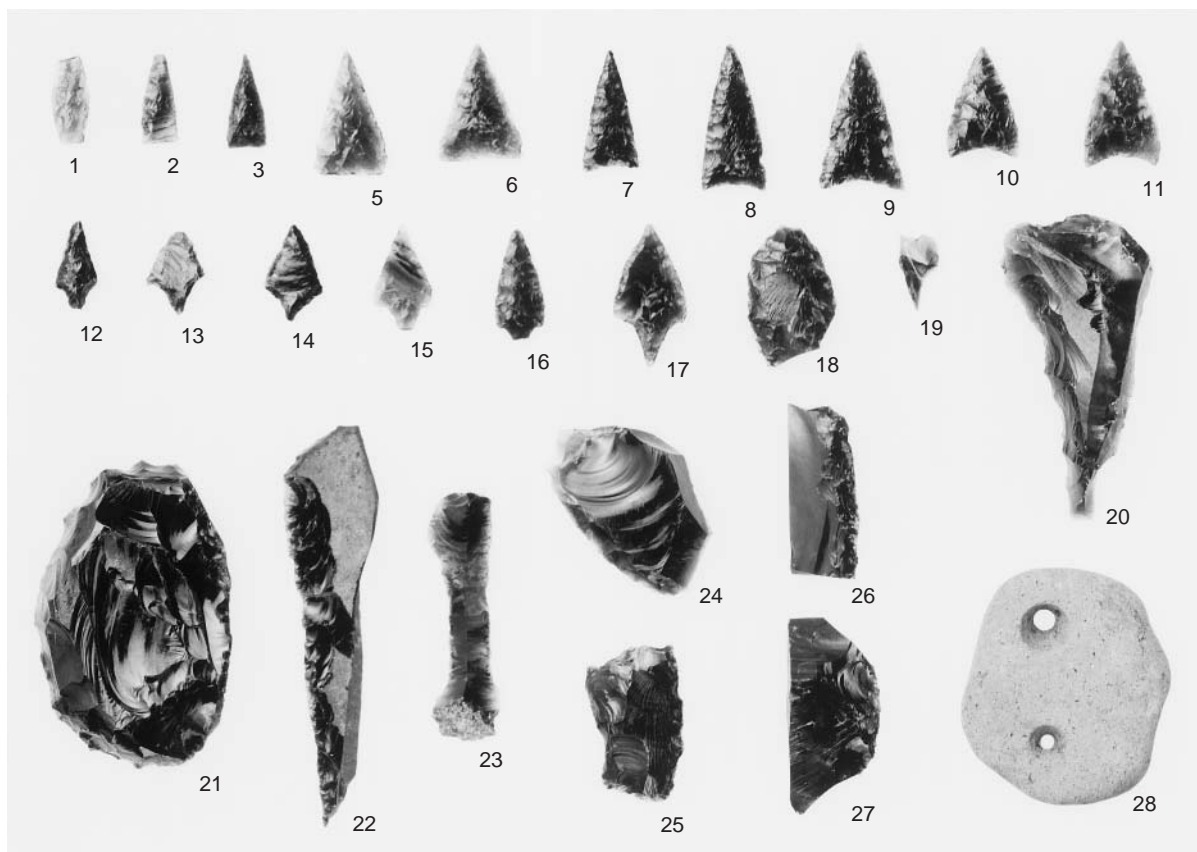


11 LS - 1

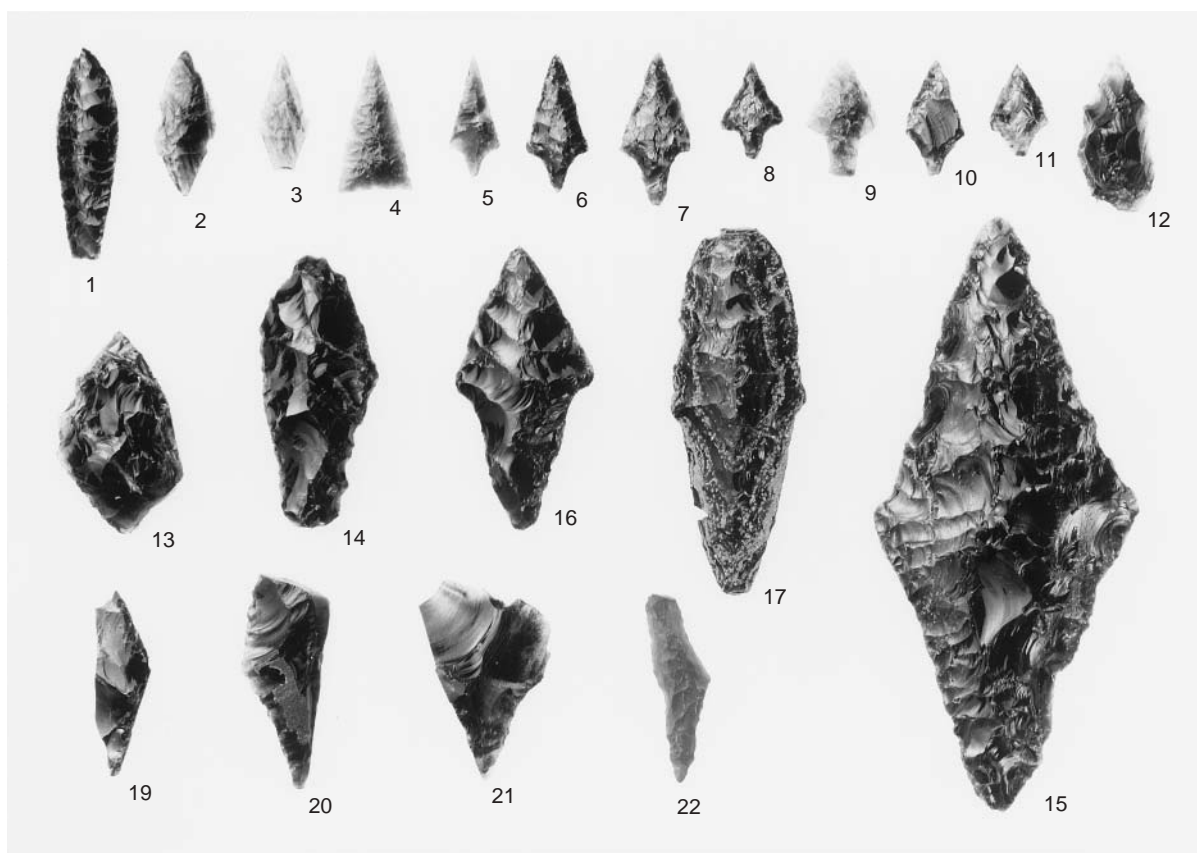


5 LCP - 6

遺構出土の石器(5)

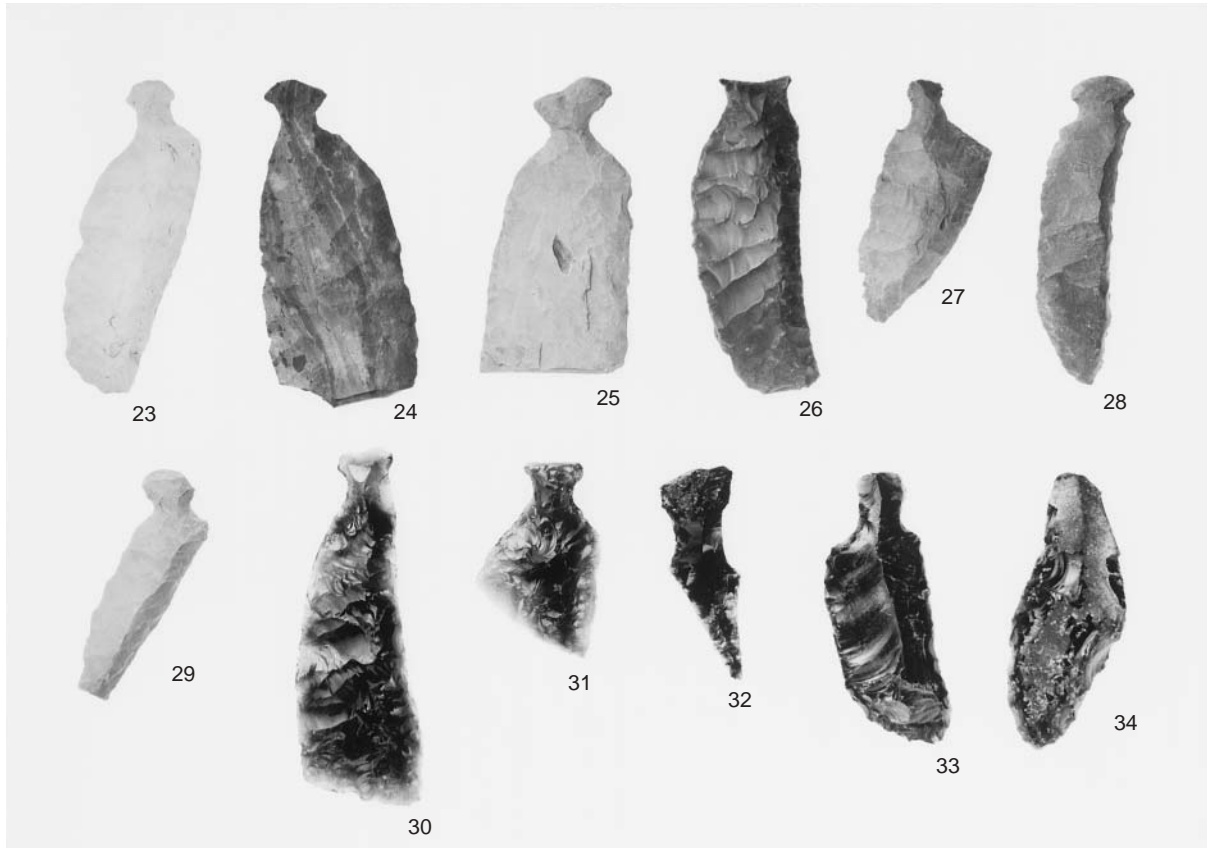


1 Ⅲ層出土の石鏃・両面調整石器・石錐・スクレイパー・玉

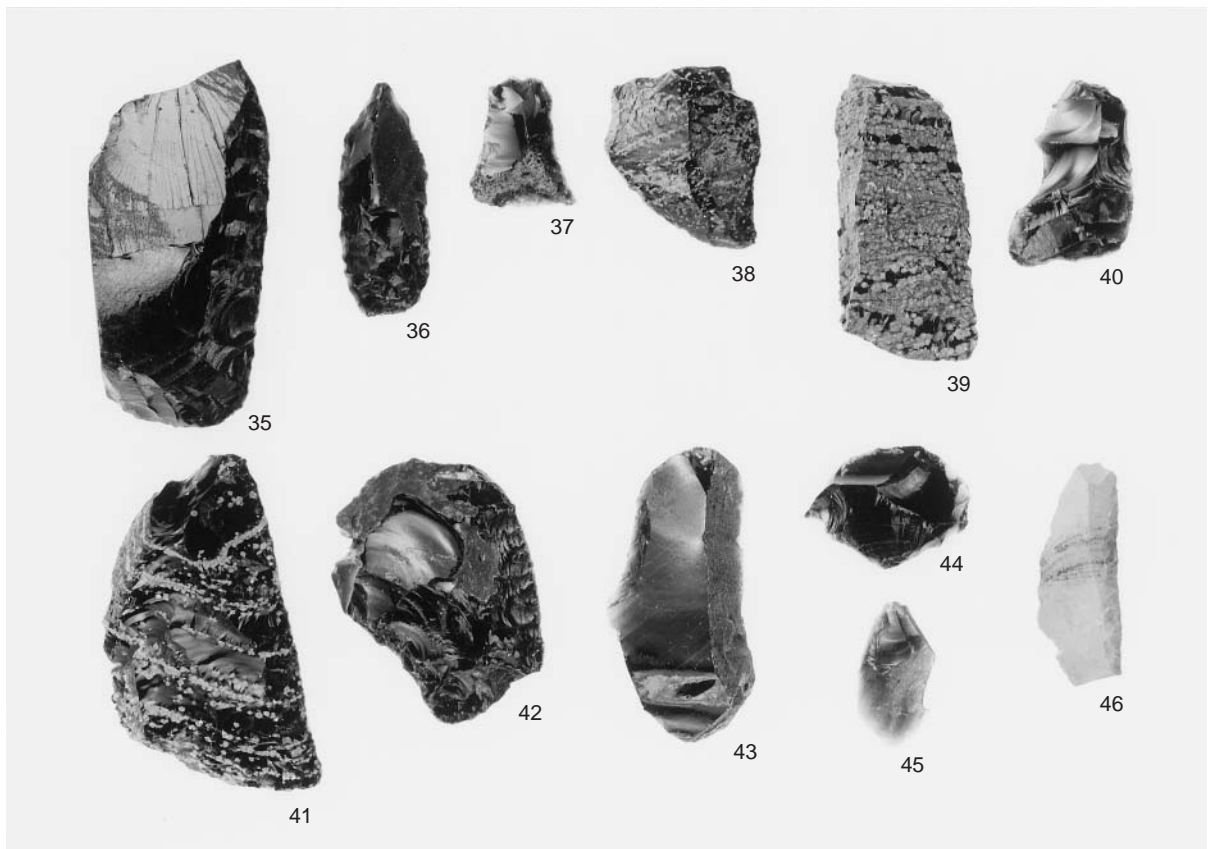


2 Ⅴ層出土の石鏃・石槍・石錐

包含層出土の石器(1)

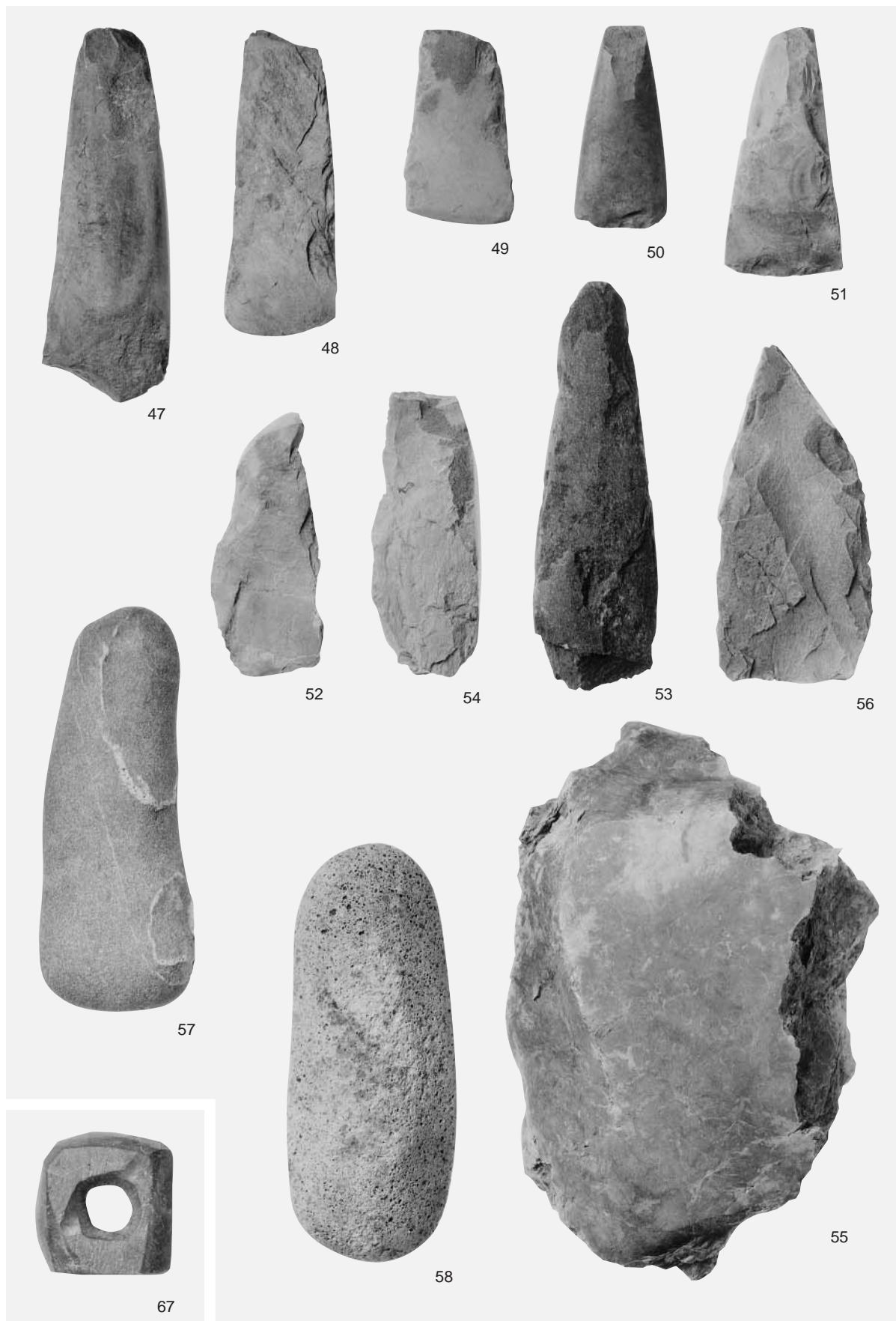


1 V層出土のつまみ付ナイフ

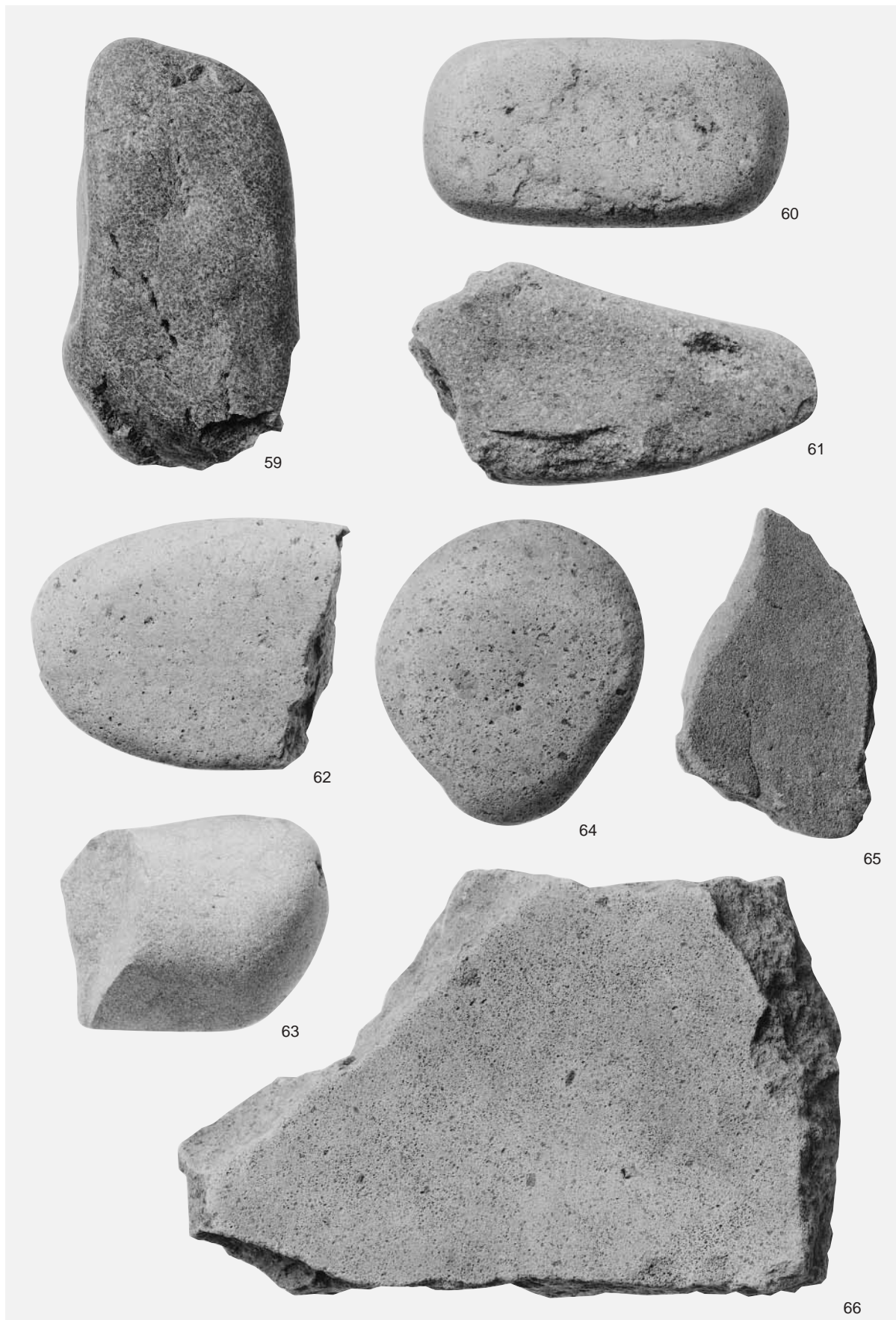


2 V層出土のスクレイパー

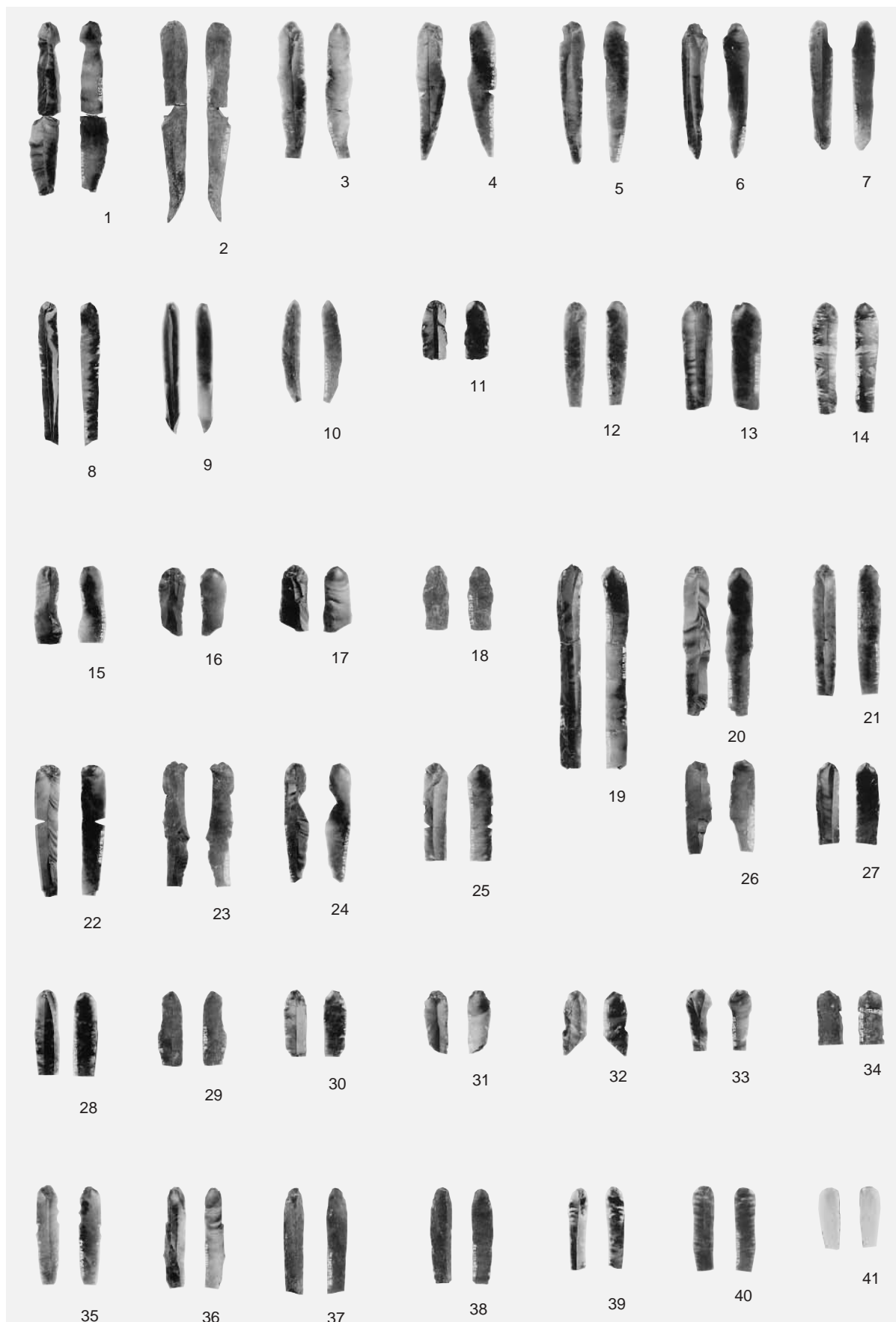
包含層出土の石器(2)



1 V層出土の石斧・研磨石材・玉・たたき石
包含層出土の石器(3)

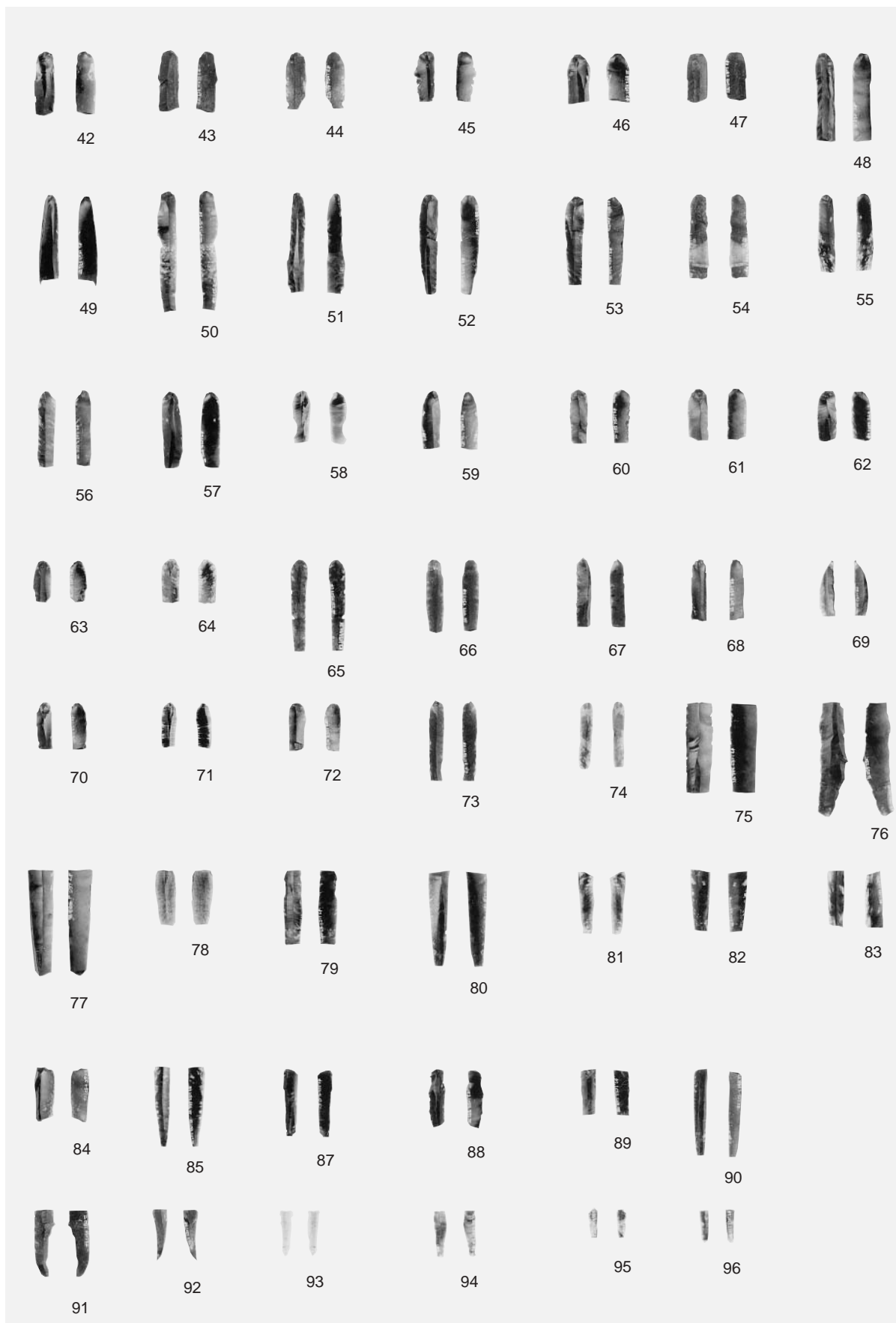


1 V層出土のたたき石・すり石・砥石
包含層出土の石器(4)



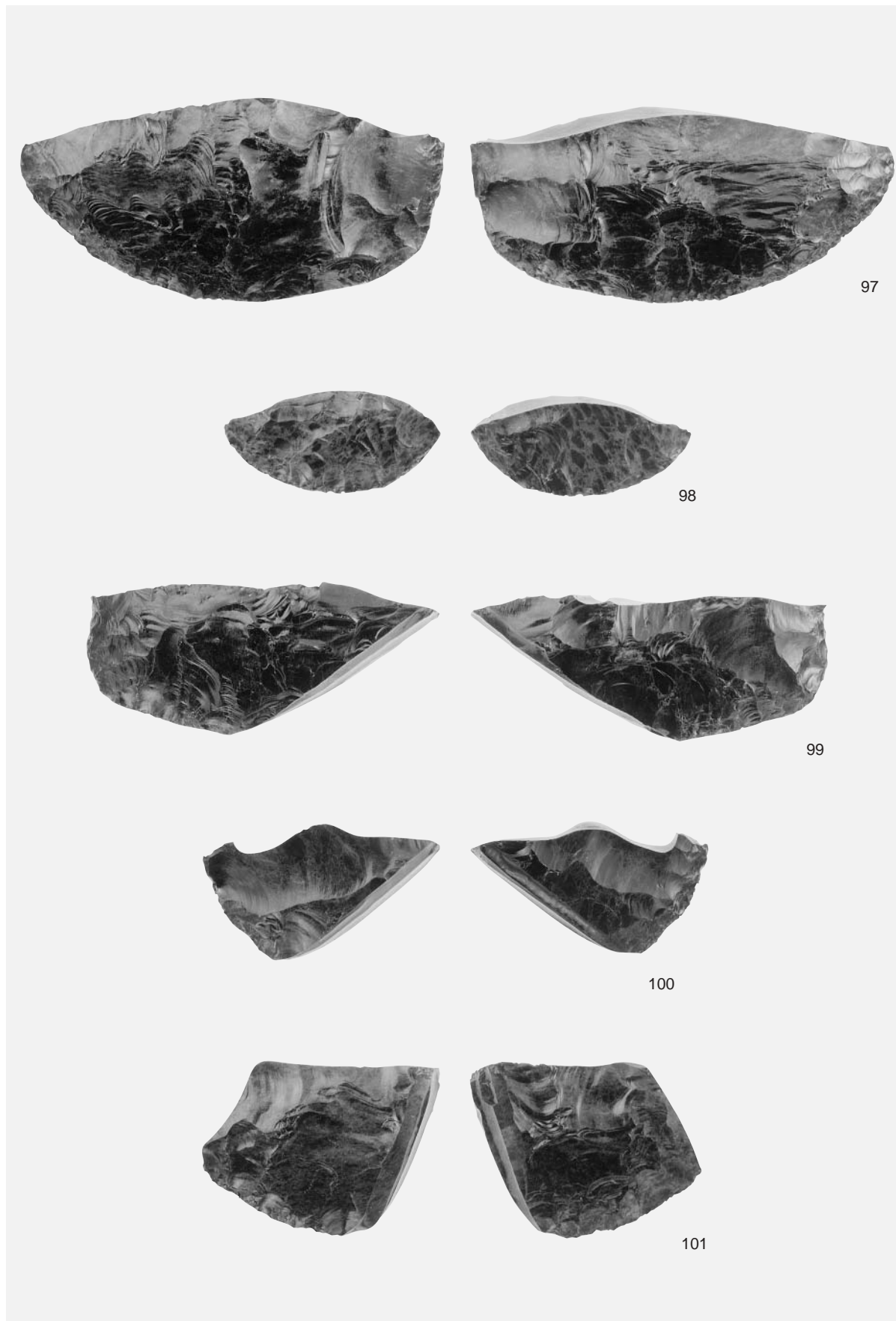
1 LCS 2 ~ 4 の石器(1) 細石刃

旧石器(1)



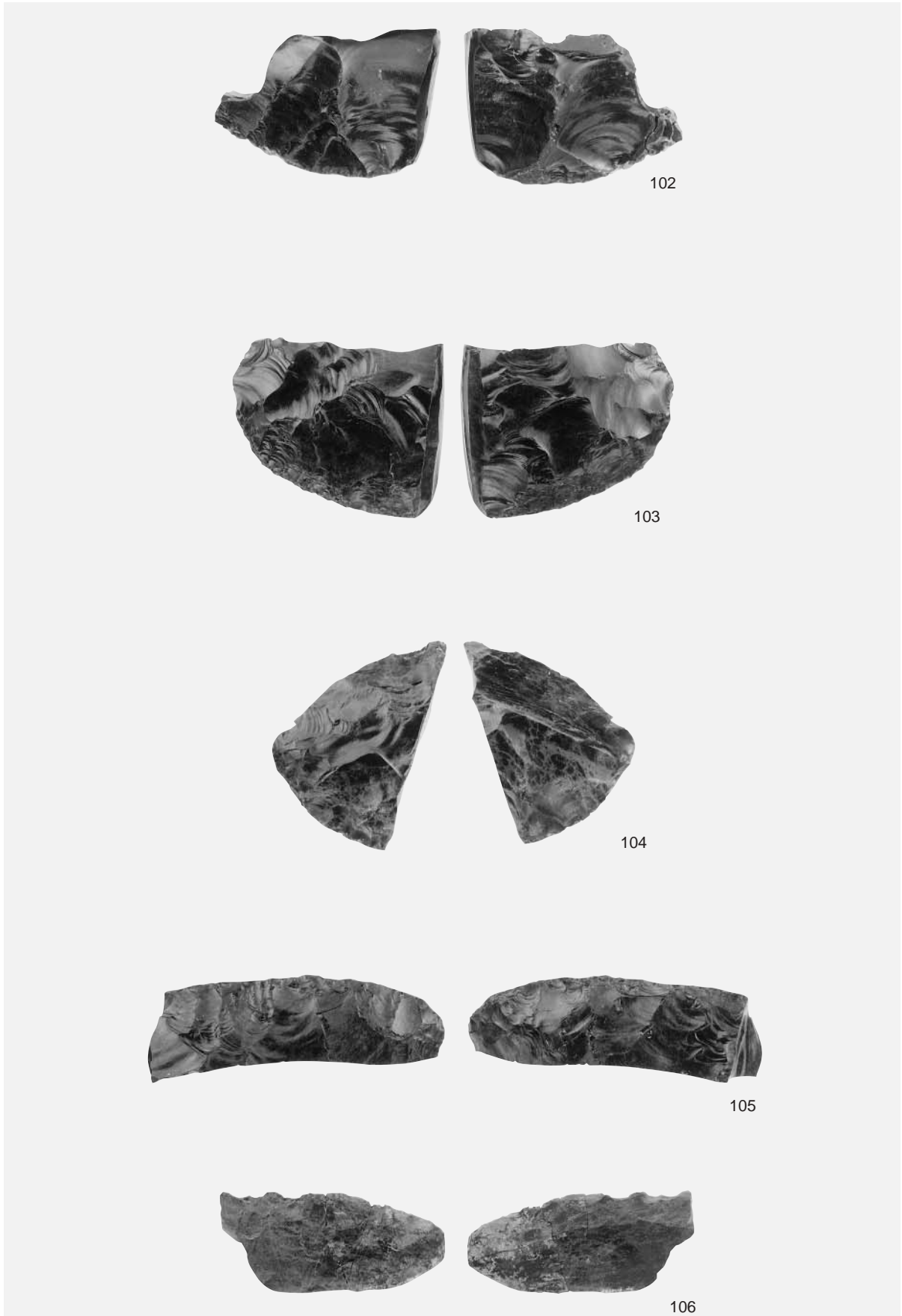
1 LCS 2 ~ 4 の石器(2) 細石刃

旧石器(2)

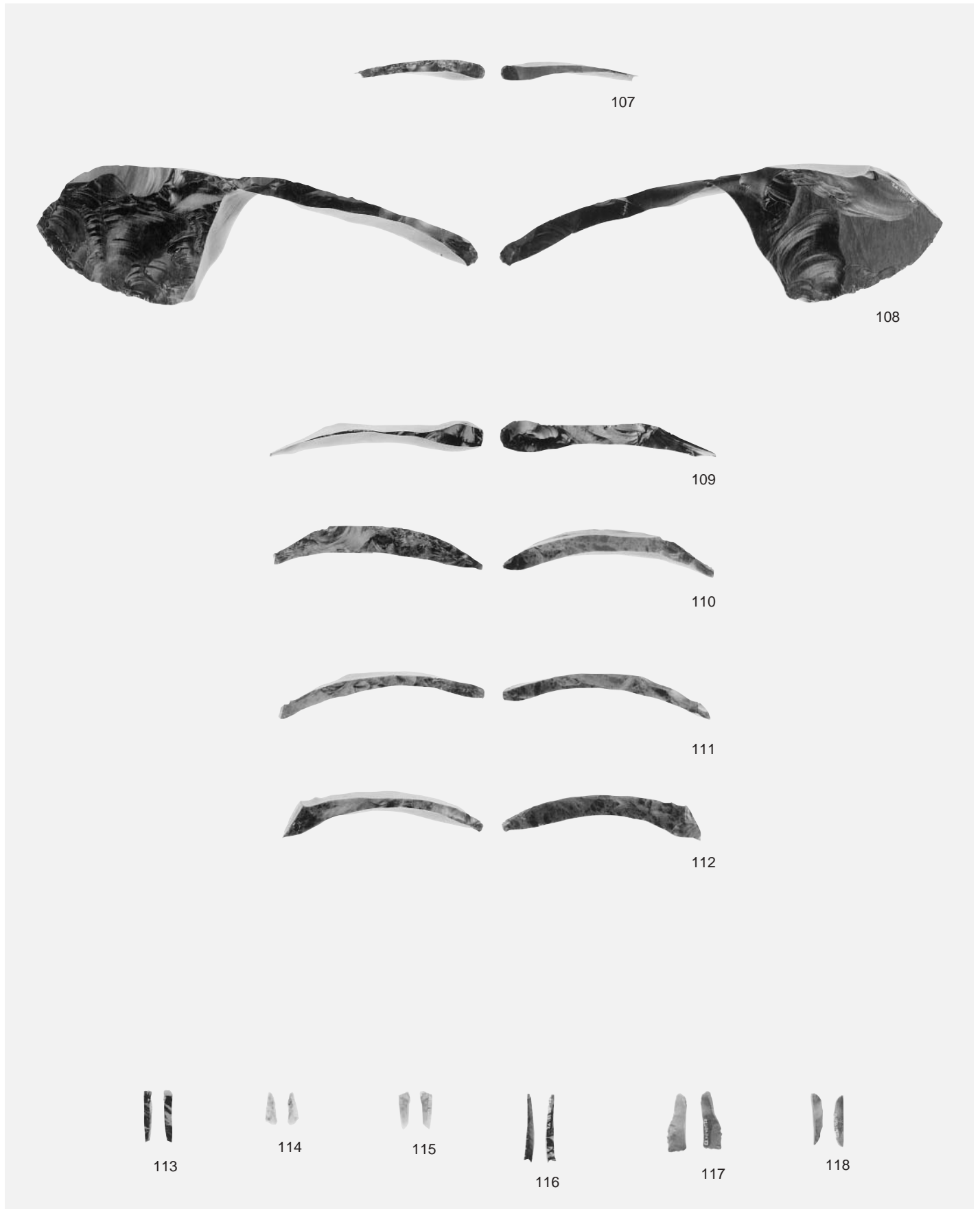


1 LCS 2 ~ 4 の石器(3) 細石刃核

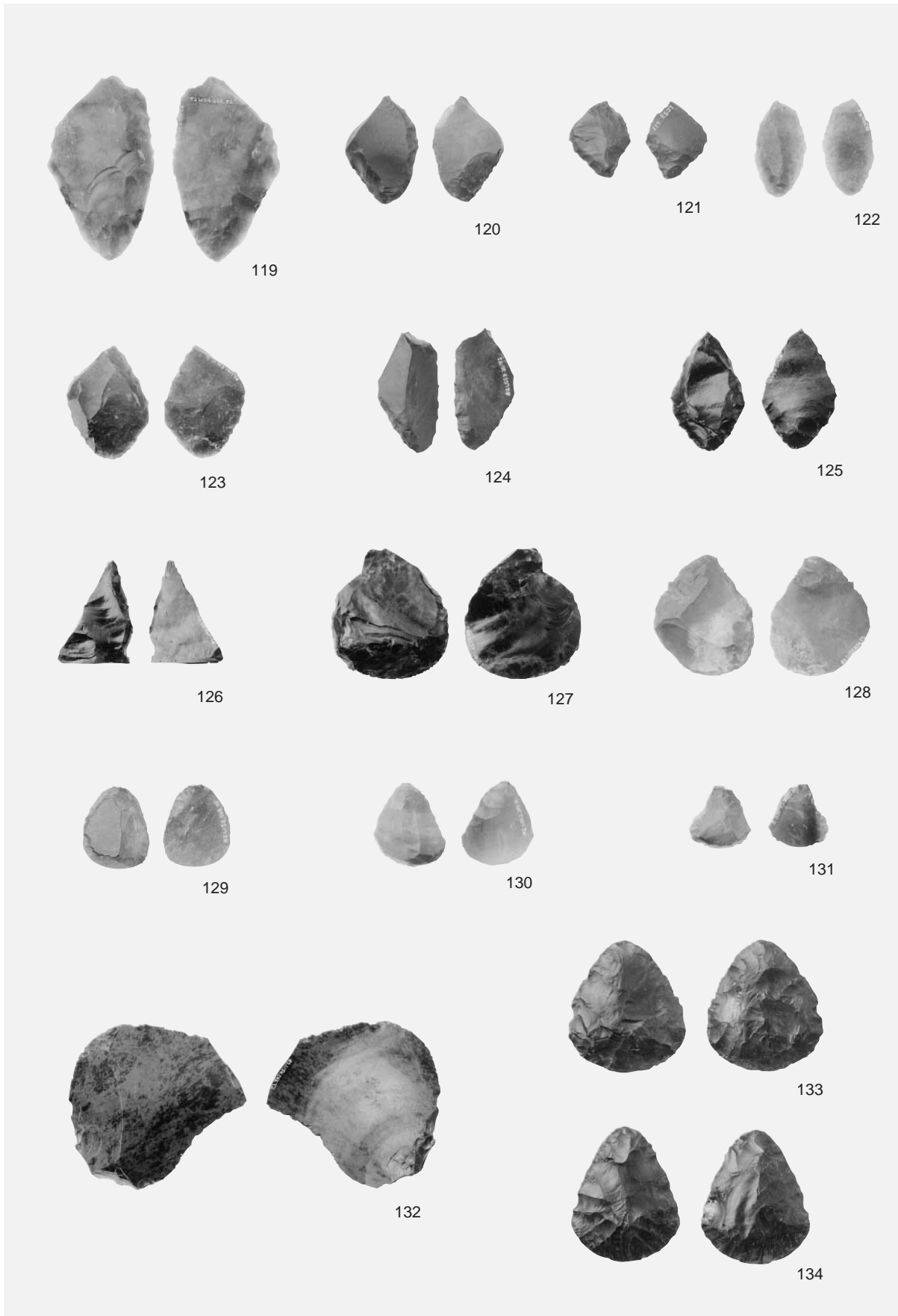
旧石器(3)



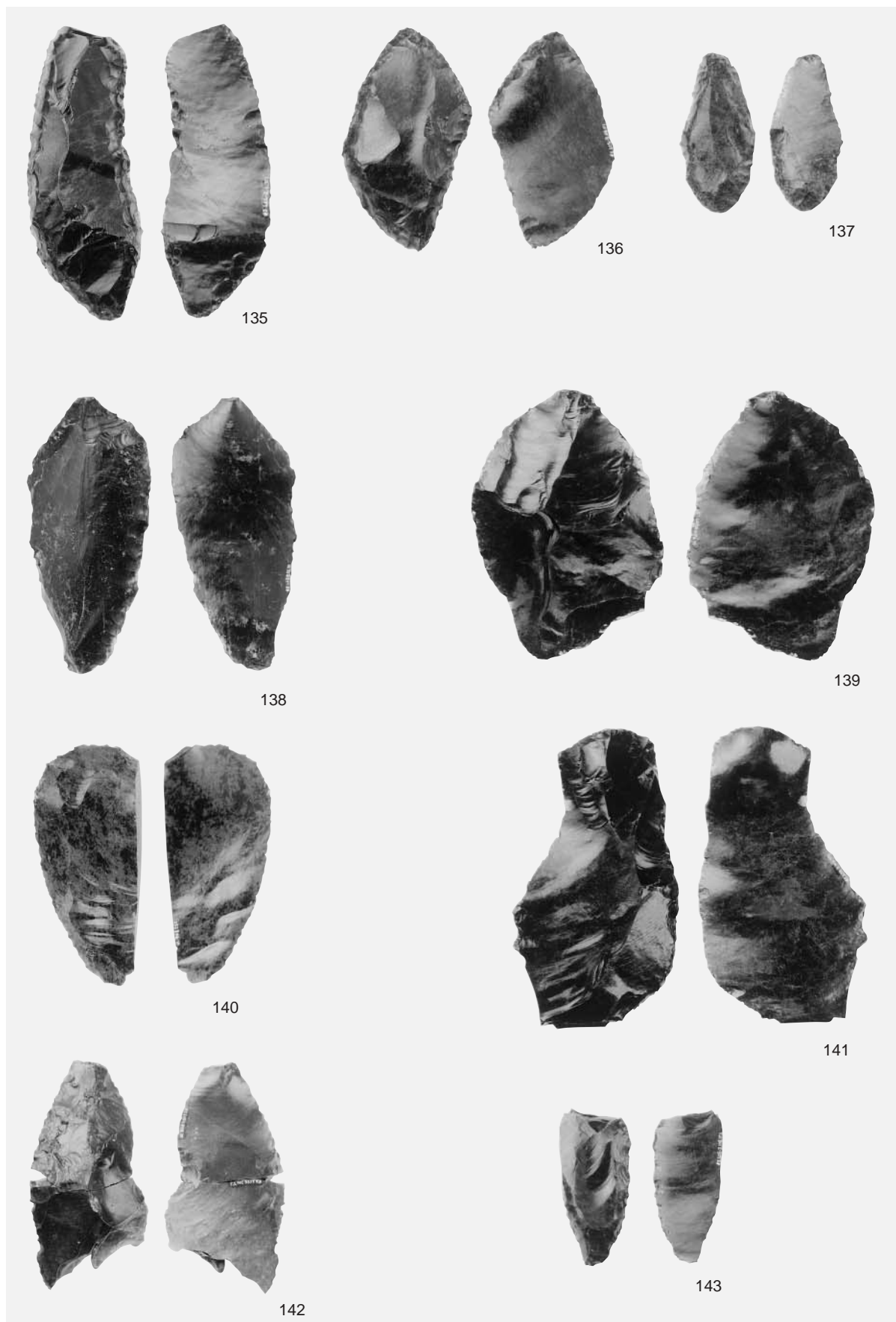
1 LCS 2 ~ 4 の石器(4) 細石刃核・細石刃削片
旧石器(4)



1 LCS 2 ~ 4 の石器(5) 細石刃核削片・彫器削片
旧石器(5)

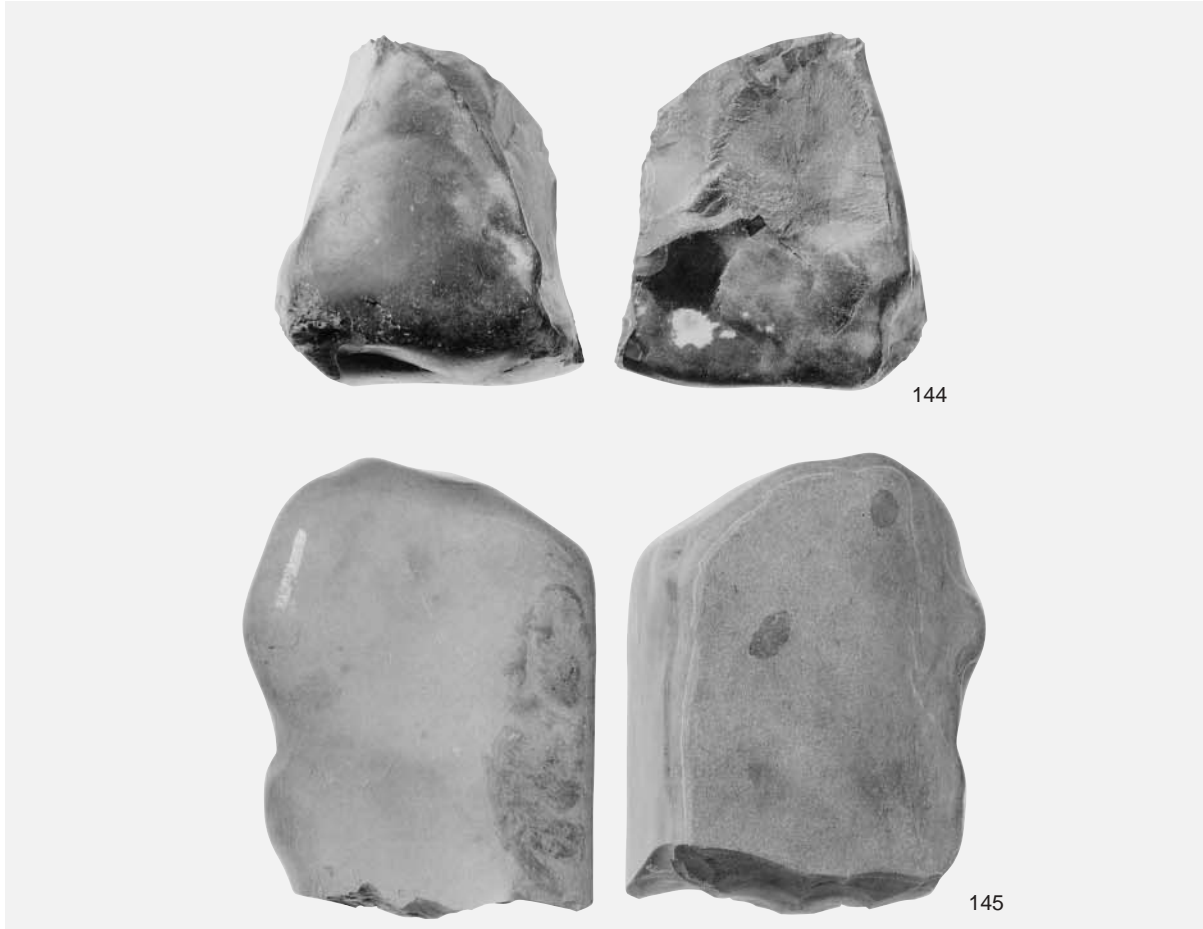


1 LCS 2 ~ 4 の石器(6) 彫器・搔器・両面調整石器
旧石器(6)

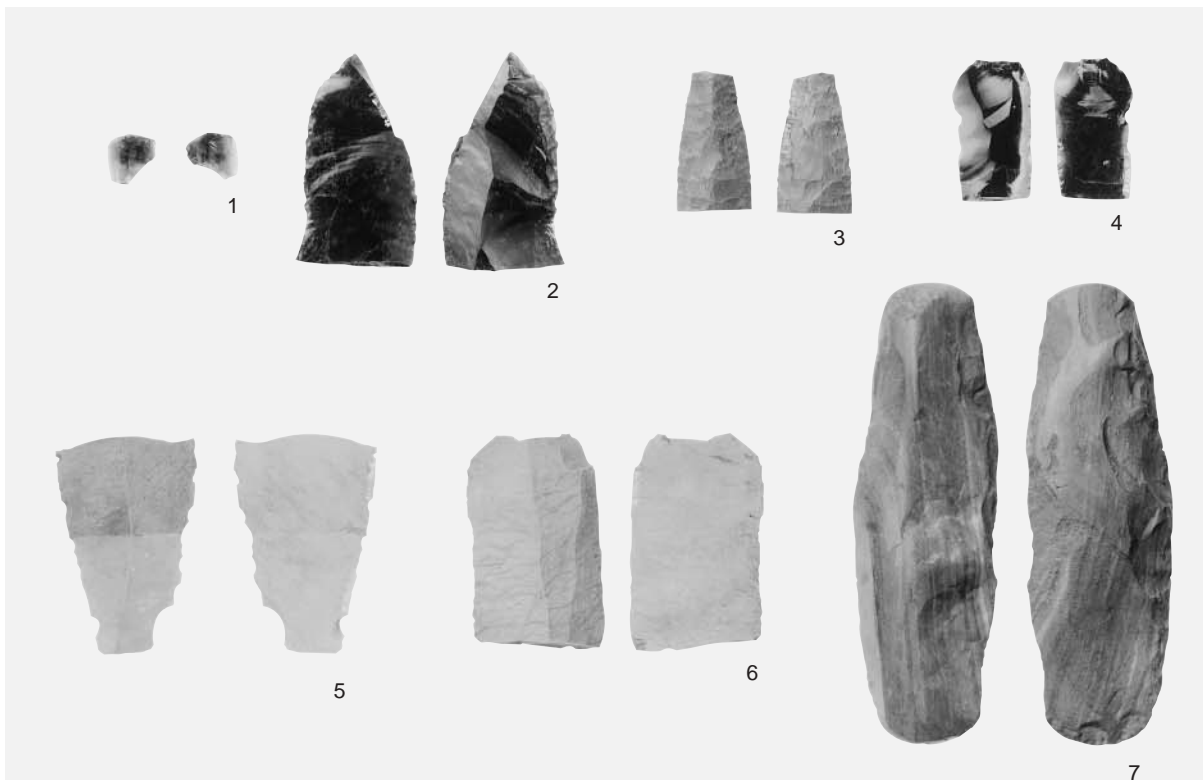


1 LCS 2 ~ 4 の石器(7) 削器

旧石器(7)

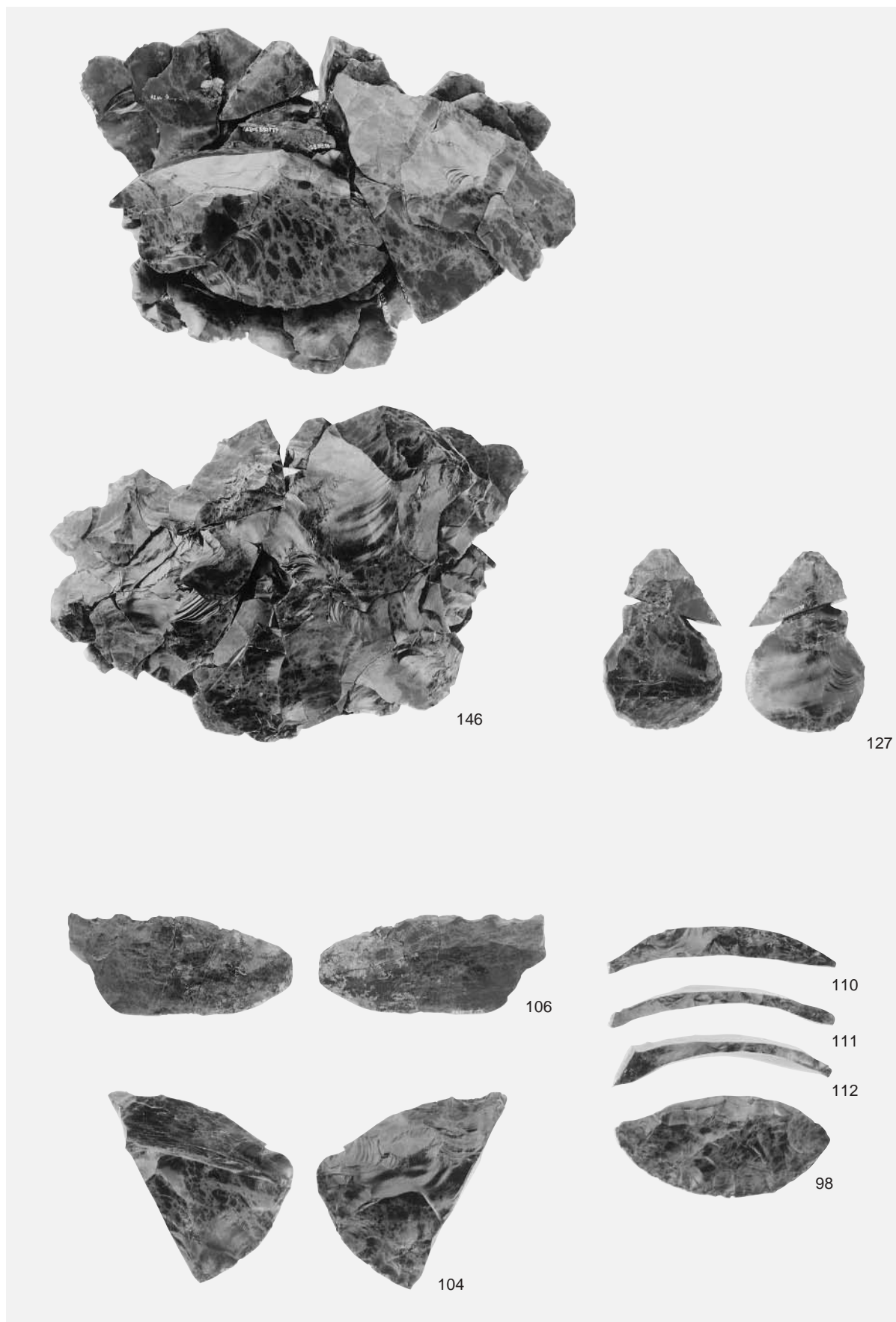


1 LCS 2 ~ 4の石器(8) 石核



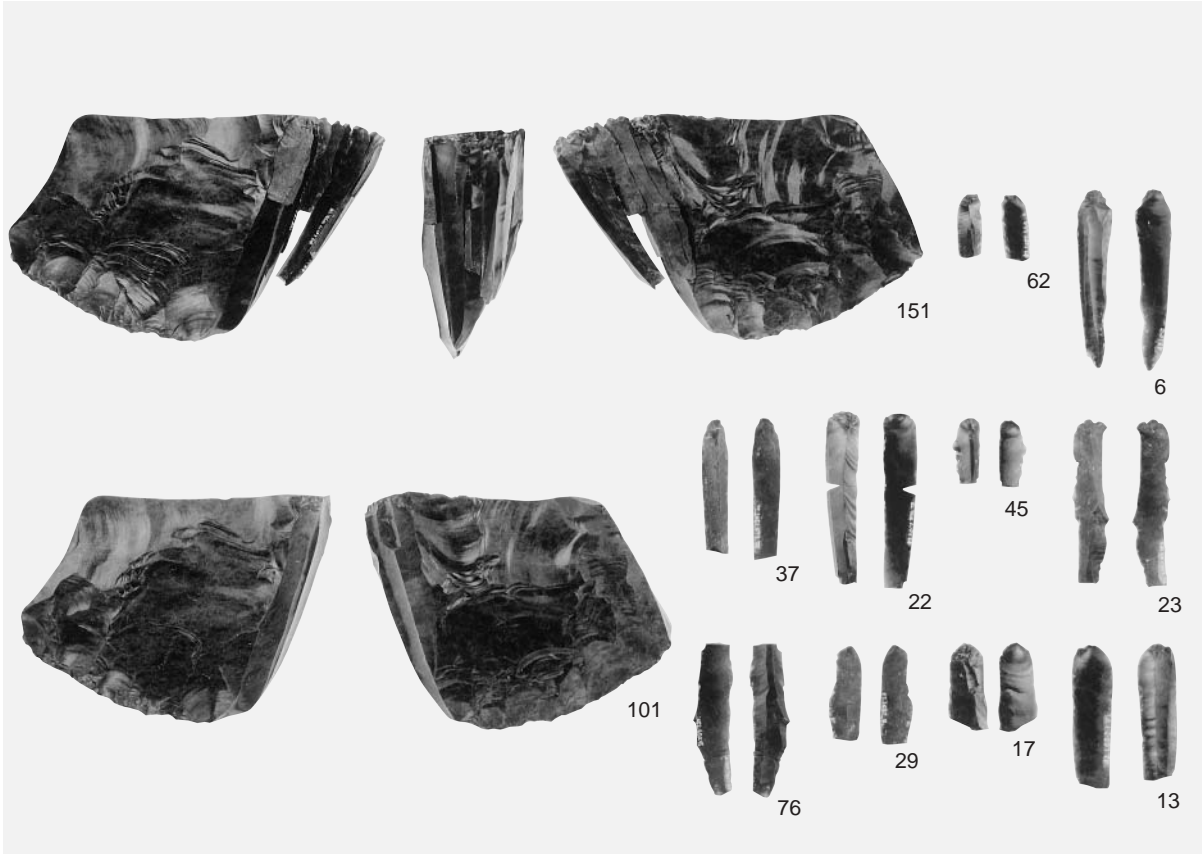
2 ブロック外の石器

旧石器(8)

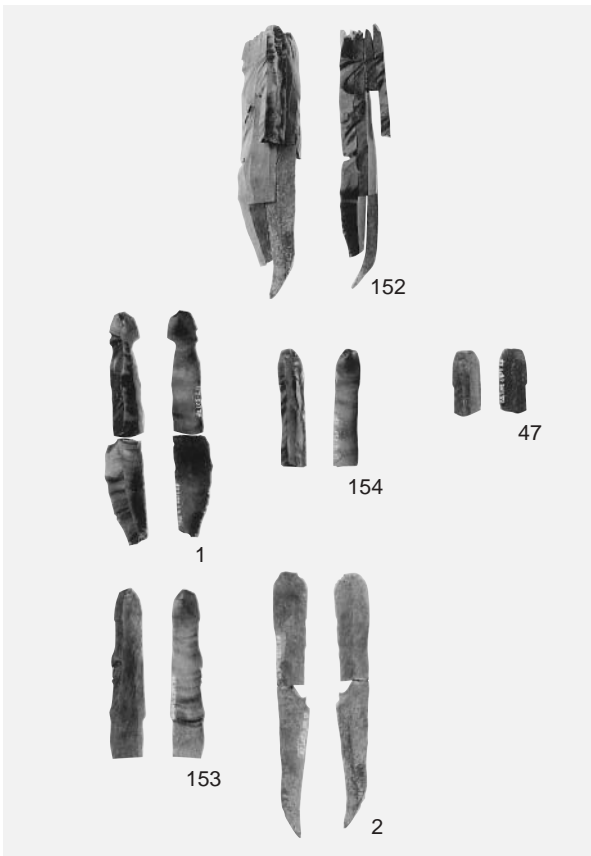


1 母岩13・接合46

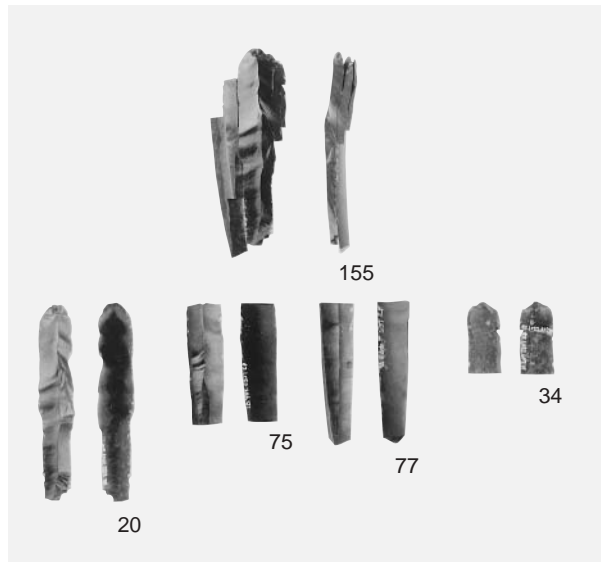
旧石器(9)



1 母岩 1 · 接合12



2 母岩 1 · 接合14



3 母岩 1 · 接合13



4 母岩 1 · 接合17
旧石器(10)



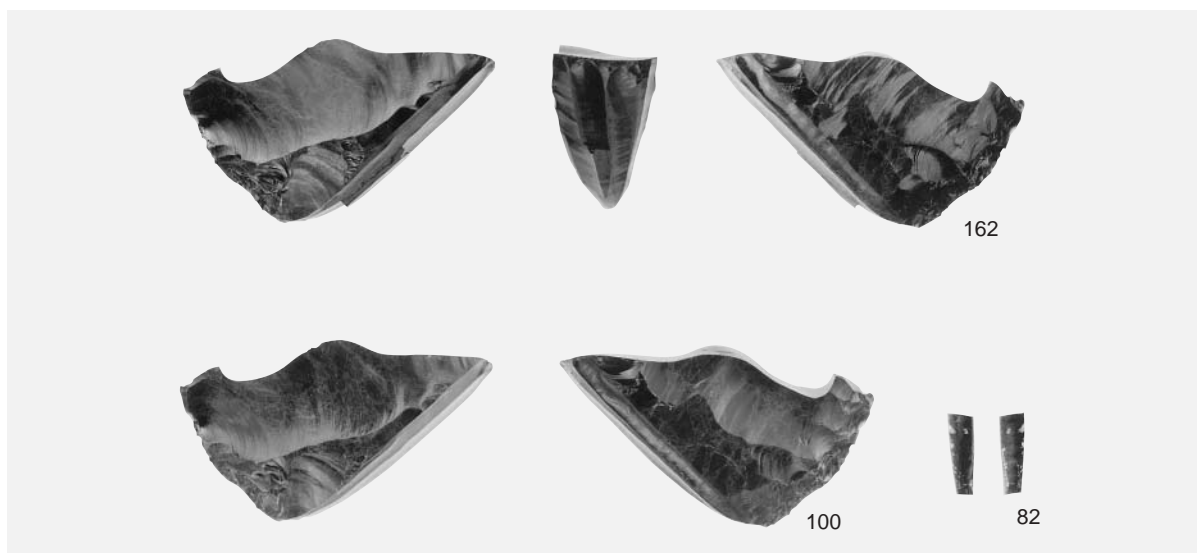
1 母岩9·接合7



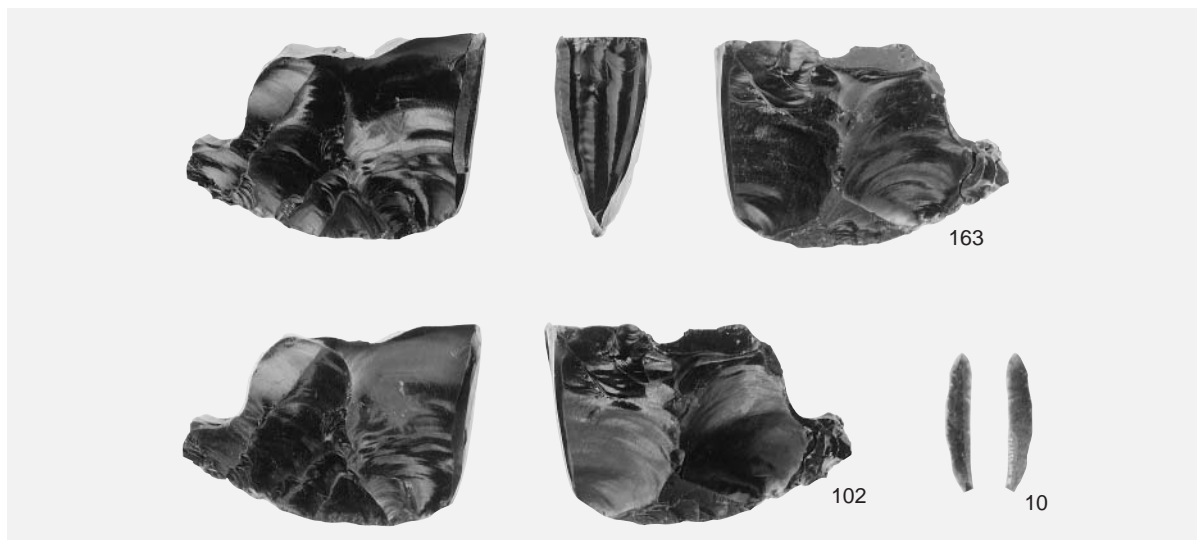
2 母岩9·接合6



3 母岩9·接合15



4 母岩16·接合10

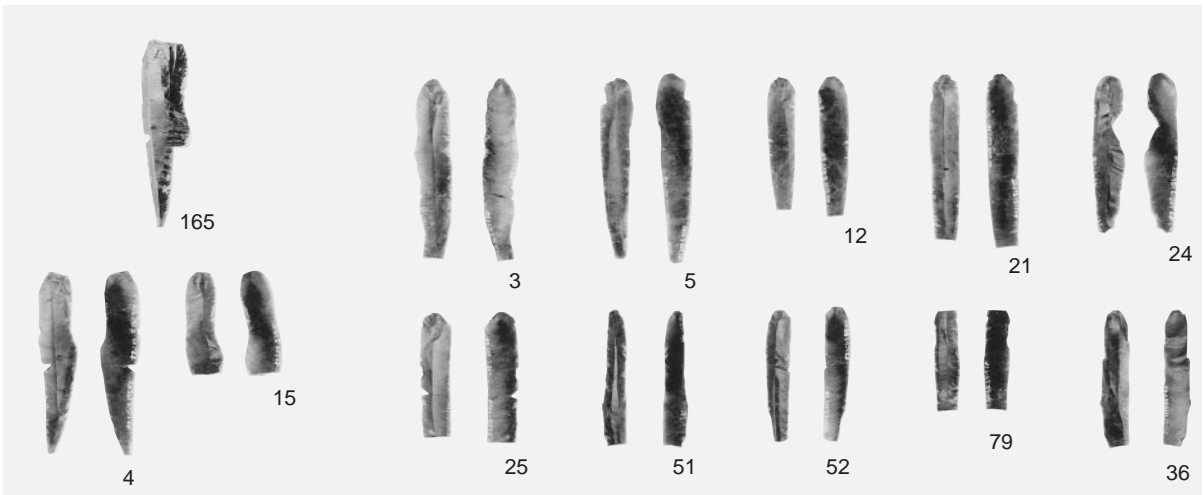


5 母岩17·接合9

旧石器(11)



1 母岩21·接合56



2 母岩5·接合5

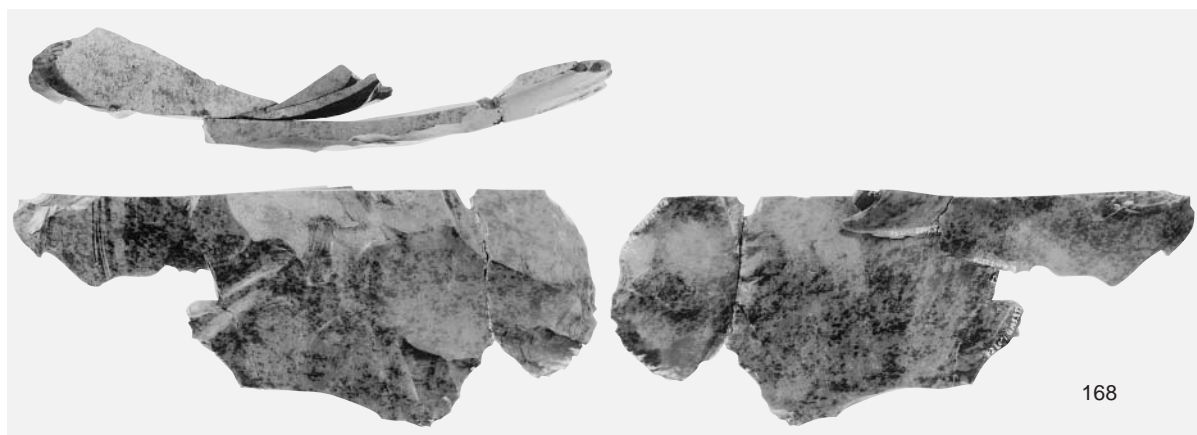


3 母岩15·接合11

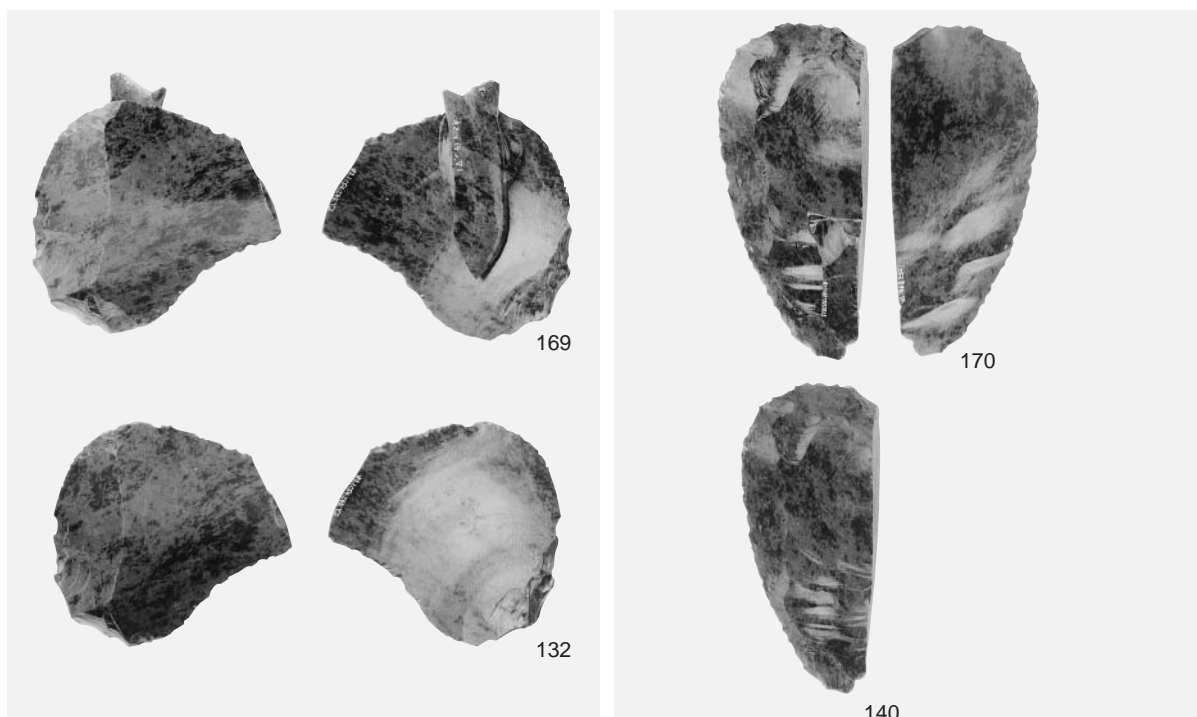
旧石器(12)



1 母岩11·接合21



2 母岩11·接合22



3 母岩11·接合36

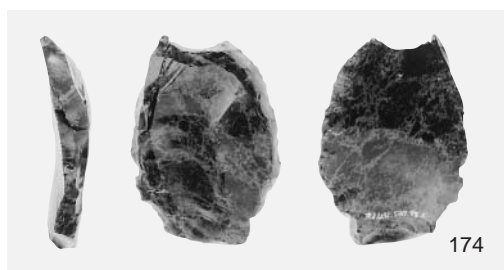
4 母岩11·接合37
旧石器(13)



1 母岩 2・接合18



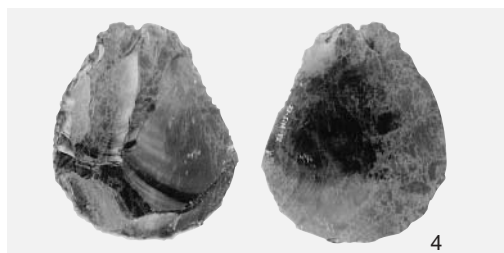
2 母岩 2・接合19



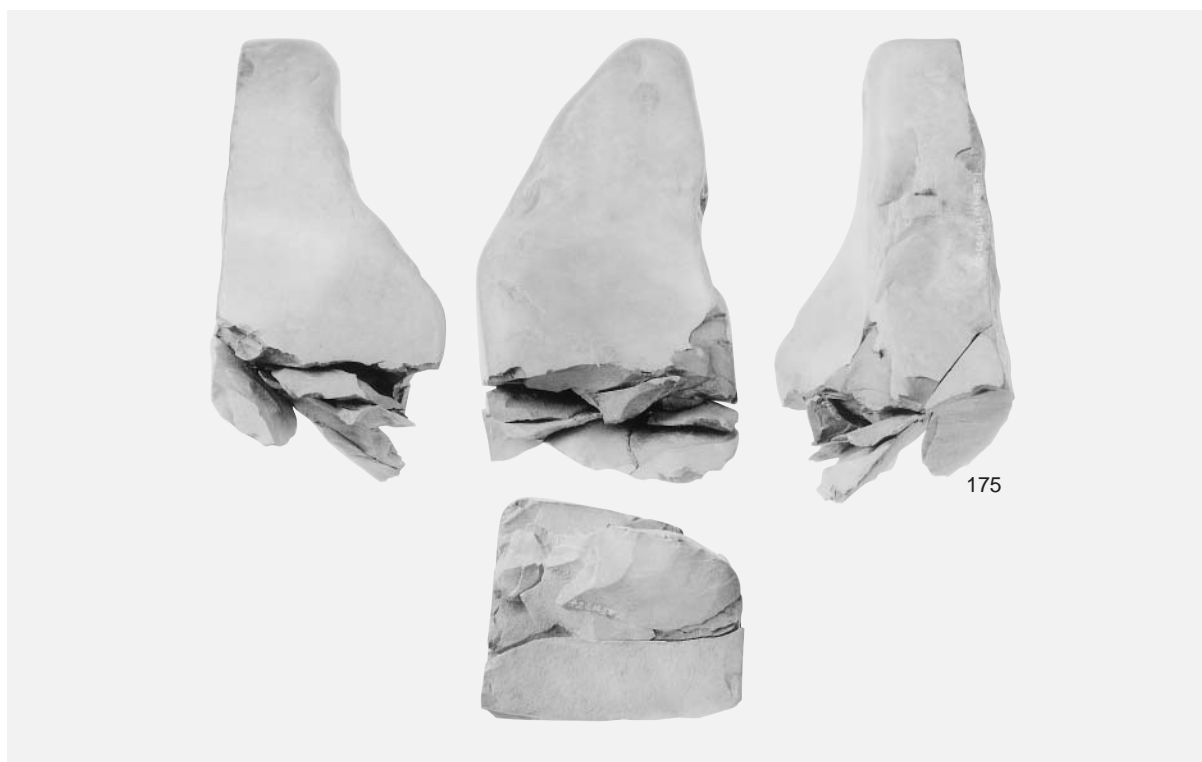
3 母岩12・接合34



5 母岩12・接合27

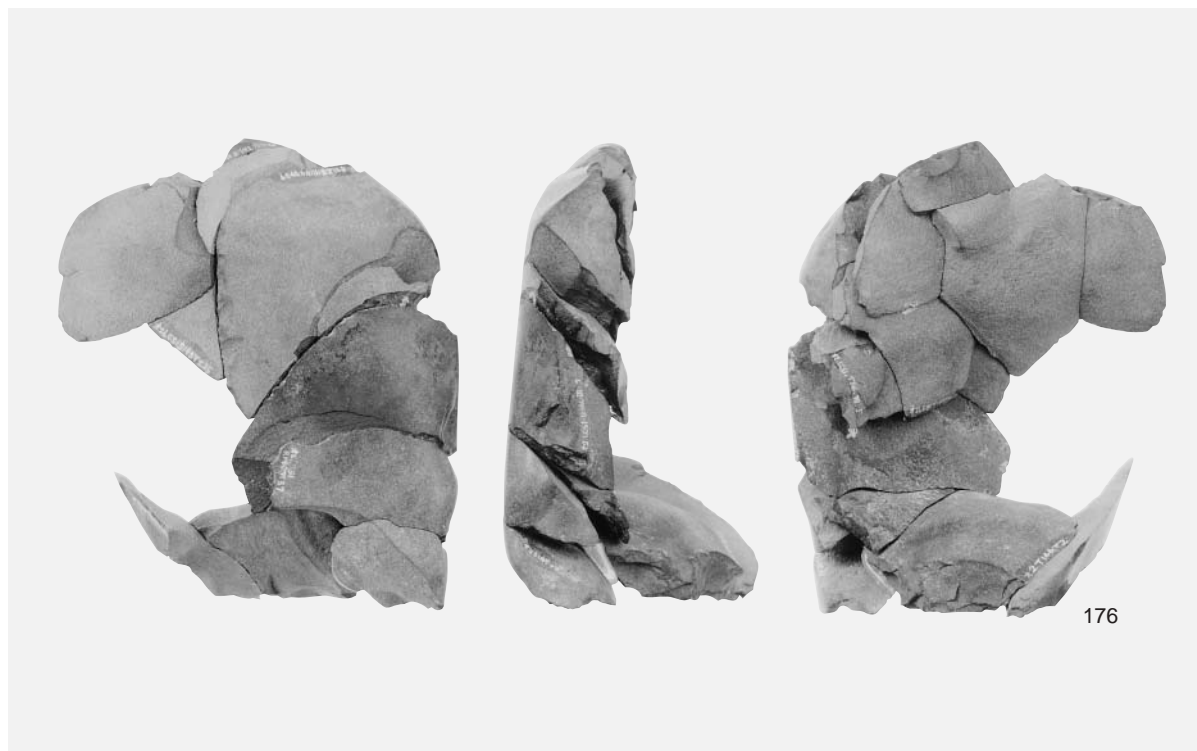


4 母岩12・非接合資料



6 母岩18・接合32

旧石器(14)



1 母岩19・接合33



2 母岩20・接合38

旧石器(15)

報告書抄録

ふりがな	ちとせしおるいかにいせきかっこに							
書名	千歳市オリカ2遺跡 ⁽²⁾							
副書名	国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第221集							
編著者名	三浦正人、菊池慈人、阿部明義、広田良成							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦 2005年12月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号					
おるいかにいせき オリカ2遺跡	ほっかいどう 北海道 ちとせし 千歳市 ちゅうおう 中央 2536ほか	01224	A 03 280	42° 51 43	141° 42 40	20040506 ~ 20041031	5,500m ²	国道337号 新千歳空港 関連道路建 設工事に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
オリカ2遺跡	集落跡	アイヌ文化期 縄文時代 主に中期・晩期 旧石器時代	平地住居跡 建物跡 焼土(灰) 貝集中	3 2 31 4	土器 特に縄文早期・中期・晩期 土製品 三角形土製品・円盤 石器 石鏃・石錐・スクレイパー・つまみ付き ナイフ・石斧・たたき石・すり石・砥石・ 台石・石皿・火打石・火皿 旧石器 細石刃核・細石刃・彫器・搔器・ 削器・石核ほか 金属製品 鉄製品・銅製品・古銭 ガラス製品 骨角器 自然遺物 カワシンジュガイ・魚骨・獣骨ほか	樽前a降下 軽石層の下か らアイヌ文化 期の集落跡を 検出 恵庭a上位 ローム層より 白滝産黒曜石 を用いた細石 刃石器群のブ ロックを検出		

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第221集

千歳市 オルイカ2遺跡(2)

国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成17年12月27日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069 0832 江別市西野幌685番地 1

TEL 011 386 3231

印刷 富士プリント株式会社

〒064 0916 札幌市中央区南16条西9丁目2 10

TEL 011 531 4711